東上秋間遺跡群発掘調査報告書

ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社安中榛名駅周辺住宅
開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００３

群馬県安中市教育委員会

東上秋間遺跡群発掘調査報告書

ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社安中榛名駅周辺住宅
開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００３

群馬県安中市教育委員会

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。市の中央部には東西に碓氷川と九十九川が流れ、この九十九川の北岸に分布する秋間丘陵のほぼ中央に本遺跡は立地します。

秋間丘陵は、九十九川の支流の秋間川と烏川に挟まれた東西に長い丘陵で、多くの支流が秋間川に流れ込み、その浸食によりいくつもの舌状地形が形成されています。本遺跡の立地する丘陵は、その中でもなだらかな平坦面が広がっている舌状台地です。

発掘調査は、ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社が行った北陸新幹線安中榛名駅駅前開発に伴うもので、安中市教育委員会が平成８年度から平成11年度にかけて行いました。

本遺跡からは縄文時代前期の集落跡、縄文時代中期後半の環状列石、列石、集落跡、平安時代の集落跡、古墳、古代石棺を確認しました。

なかでも、縄文時代前期の集落は34軒にのぼる住居址が検出され、群馬県内でも最も古い段階の大きな環状集落である事が確認されました。また、縄文時代中期の環状列石は直径が30㍍を越える大きなもので、周りには敷石住居址が検出されました。また環状列石中央からは、冬至の日に妙義山の右の鞍部に日が沈むことが確認されるなど、環状列石を中心とした遺跡の構造が明確となる、全国的に見ても類例の少ない重要な遺跡である事がわかりました。

発掘調査は、この様な貴重な文化財を後世に残すことを目的とし、記録保存の措置を講ずるものです。

こうした埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であり、市民のみなさまに郷土の歴史を学習していただけるよう広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めていく所存です。

終わりに、長期に渡る発掘調査に御協力いただいたＪＲ東日本株式会社、地元の皆様や、安中市の文化財行政の一端を担い、発掘調査に従事していただいた方々には、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

平成15年２月

安中市教育委員会

教育長　高　橋　重　治

例　　言

1　本書は平成８年度から平成14年度にＪＲ東日本旅客鉄道株式会社による北陸新幹線安中榛名駅周辺住宅開発事業に伴い、安中市教育委員会が発掘調査・遺物整理を実施した東上秋間遺跡群【野村遺跡（Ｂ－５）．野村II遺跡（Ｂ－11）．北川古墳（Ｂ－６）．北原II遺跡（Ｂ－７）．内出城遺跡（Ｂ－８）．北原古墳（Ｂ－９）】の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び遺物整理は平成８年度から平成14年度にかけＪＲ東日本旅客鉄道株式会社からの委託金により実施した。

3　調査主体は安中市教育委員会であり、文化振興課文化財係主任（文化財保護主事）千田茂雄が試掘調査、野村・野村II遺跡を、井上慎也（主事）が北原II遺跡、内出城遺跡、北原・北川古墳を担当した。

4　本書の執筆は千田のほか井上、津金沢吉茂（㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団）、関根慎二（㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団）、小野和之（㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団）、高沢周示（筑波大学考古学専攻卒）、角張淳一（㈱アルカ）　鬼形敦子、伊藤佳奈子が行い、執筆者名は文末に記した。編集は千田、鬼形が行った。

5　縄文土器の分類・選別は関根、小野の指導のもと鬼形が行い、土器台帳作成・計測も鬼形が行った。縄文時代前期の土器の観察は関根が、縄文時代中期の土器の観察は小野の指導のもと鬼形が行った。

6　土器の実測・トレースは、通常の方法以外に写真実測法を用い、鬼形、伊藤、廣上良枝が行った。

7　石器は㈱アルカに委託して行い、付編として掲載した。委託以外の分類・選別は井上の指導のもと伊藤が行い、石器台帳作成・計測・実測・トレースも伊藤が行った。㈱アルカへの委託部分と同様に付編に掲載した。

8　土器の組成表は鬼形が作成し、石器の組成表は伊藤が作成した。

9　遺構の版組、写真図版の作成は、千田、鬼形、伊藤、廣上、田口明子、横山美千代、柳沢真由美が行った。

10　遺物実測用写真・遺物写真の撮影は写真家小川忠博に委託して行った。

11　遺構の写真撮影は千田、井上が行った。航空写真は、有限会社青高館、アジア航測株式会社、㈱アイシーに委託して行った。

12　調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は㈱大成測量が実施した。

13　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

14　調査及び遺物整理の期間中多くの方々に有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

（指導・助言　敬称略）

相京建史　㈱アイシー　赤石慎三　赤熊浩一　赤山容造　㈱秋間建設　浅野晴樹　麻生敏隆
新井和良　荒川正夫　飯島義雄　飯田陽一　井川達雄　石井克己　石井　寛　石坂　茂
石原道知　石守　晃　磯貝基一　伊都一夫　井上　太　井上雅孝　岩越宏典　上野隆博
氏家信行　梅沢重昭　江原　英　遠藤正夫　追川佳子　大江正行　大賀　健　大木紳一郎
大塚昌彦　岡沼明美　岡本めぐみ　小川忠博　小野貴之　小野正敏　小俣　悟　折舘伸二
角張淳一　金山正一　壁　伸明　加部二生　神谷佳明　唐澤史朗　苅谷史穂　苅谷俊介
大工原豊　谷藤保彦　田村晃一　田村　孝　津金澤吉茂　塚本師也　津野　仁　角田真也
角田芳昭　鶴間政昭　徳江秀夫　戸田哲也　殿生康子　富田和夫　友廣哲也　外山和夫
外山政子　長井正欣　中沢　悟　中島　誠　長島充臣　中束耕志　西方豊子　西田健彦
西本正憲　根本　靖　能登　健　納富敏雄　長谷川福次　畑　大介　巾　隆之　服部久美
林　克彦　原　雅信　日沖剛史　比毛君男　平田禎文　平野進一　平山明寿　福田裕二
藤巻幸男　藤本　肇　真下高幸　松澤浩一　松田　猛　三浦京子　三浦孝一　三浦茂三郎
右島和夫　森田秀策　神戸聖語　岸田治男　木津博明　木村淳一　國定　均　熊崎純也
黒澤春彦　小池浩平　河野雄次　小杉　康　小菅将夫　児玉大成　小林達雄　小宮俊久
斎藤説成　齋藤慎一　齋藤英敏　酒井清治　坂井　隆　坂爪久純　坂本英一　坂本真弓
桜岡正信　佐藤明人　佐藤智雄　佐藤正俊　佐藤元彦　沢田福宏　島津康行　清水久男
清水　豊　志村　哲　鋤柄俊夫　須永一弘　㈲青高舘　関口　修　関　邦一　関　敏明
早田　勉　㈱大成測量　高島英之　高濱信行　田口一郎　田口　修　田澤淳逸　田之倉武男
水田　稔　未栖　稔　宮瀧由紀子　宮田　毅　村上　昇　森田秀策　矢島博文　柳川英司
山口逸弘　吉田　格　若狭　徹　綿田弘実　渡辺　健　綿貫鋭次郎　綿貫邦男

（調査従事者　敬称略）

赤見　護　秋山達雄　秋山幸彦　浅川たけ子　新井直美　安藤達哉　飯塚礼子　生駒キミ子
生駒敏明　石井　靖　磯貝多加夫　伊田百合子　一場則子　伊藤佳奈子　伊藤寅雄
稲葉恵美子　伊与久宏子　宇佐美璋一　氏家伸介　氏家芳子　漆原高司　大塚和夫
大塚フク　岡田全志　小川久美子　鬼形敦子　金井武司　轡田紀義　小井土幸太郎
小島友子　桜井明子　桜井綾子　佐藤和三　佐藤すみ子　佐藤由美子　清水かつよ
清水茂男　(故)清水　正　清水又三郎　下マスエ　神宮永次郎　神宮幸四郎　神宮修一
神宮百代　鈴木はる江　鈴木よし子　須藤明子　須藤ダイ　須藤久子　須藤雅則　関井けさ
反町良一　高沢周示　高瀬敦子　高橋佳子　高橋仁太郎　高橋とく子　高橋トシ江

高林次子　田口明子　竹田昭子　多胡　静　多胡わぐり　田島一雄　田島かつ子
田島せい子　田島せつ子　田島元治　田中晶子　田中利策　田村美佐江　築井美佐子
鶴岡祐貴　戸塚里子　中嶋公正　中島多万惠　中島秀雄　中島　芳　中曽根弘子　中村光雄
庭山美子　萩原今朝治　萩原真里子　萩原みつ江　橋爪玲子　原田雲司　原田加代
原田せつ子　原田三千代　春田正美　半田あい　平出紀子　廣上良枝　古立真理子
堀口修一　本間幸子　真下順一　真下　昇　儘田宏子　丸岡民子　村井田岩夫　村井田英樹
茂木良江　森　由一　森田和之　森田洋子　矢島柳子　柳沢昌子　柳沢真由美　山内一夫
山田一夫　湯浅信行　湯川光子　湯本志づ子　横山美千代　吉沢栄子　吉澤千広　吉田和雄
吉田とし美　吉田由美子

調査組織

平成８年度

教育委員会事務局

教育長		山中誠次
教育部長		真下　仁
社会教育課長		多胡泰宏
文化財係長		杉山　弘
主任		大工原　豊
主事		千田茂雄(調査担当)
同		深町　真
調査員		井上慎也(調査担当)

平成９年度

教育委員会事務局

教育長		山中誠次
教育部長		阿久津浩司
社会教育課長		横田道夫
文化財係長		佐藤輝男
主任		大工原　豊
主事		千田茂雄(調査担当)
同		深町　真
主事	補	井上慎也(調査担当)

平成10年度

教育委員会事務局

教育長		山中誠次
教育部長		阿久津浩司
社会教育課長		横田道夫
文化財係長		佐藤輝男
主任		大工原　豊
同		千田茂雄(調査担当)
主事		深町　真
同		井上慎也(調査担当)

平成11年度

教育委員会事務局

教育長		山中誠次
教育部長		鈴木　勝
社会教育課長		横田道夫
文化財係長		佐藤輝男
主任		大工原　豊
同		千田茂雄(調査担当)
同		清水芳秋
主事		深町　真
同		井上慎也(調査担当)

平成12年度

教育委員会事務局

教育長		高橋重治
教育部長		鈴木　勝
社会教育課長		横田道夫
文化財係長		佐藤輝男
主任		大工原豊
同		千田茂雄(調査担当)
同		清水芳秋
主事		深町　真
同		井上慎也(調査担当)

平成13年度

教育委員会事務局

教育長		高橋重治
教育部長		鈴木　勝
文化振興課長		大野孝一
文化財係長		佐藤輝男
主査		萩原由子
主任		千田茂雄(調査担当)
同		深町　真
主事		井上慎也(調査担当)

平成14年度

教育委員会事務局

教育長		高橋重治
教育部長		鈴木　勝
文化振興課長		大野孝一
文化財係長		赤見義昭
主査		萩原由子
主任		千田茂雄(調査担当)
同		深町　真
主事		井上慎也(調査担当)

凡　　例

1．野村遺跡縄文時代全体図の縮尺は1/400である。

野村・野村II遺跡平安時代全体図の縮尺は1/300である。

北原II遺跡全体図の縮尺は1/400である。

北川古墳全体図の縮尺は1/120である。

北原古墳全体図の縮尺は1/120である。

内出城遺跡全体図の縮尺は1/500である。

2．住居址等遺構の縮尺は1/40・1/80である。

3．遺物の縮尺は次のとおりである。

土　器　1/2・1/4・1/8・2/3

石　器　1/3・1/4・1/6・1/8・3/5

鉄製品　1/2・1/4

4．土層説明中での記号、略称は次の通りである。

色調＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）

しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし

混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし、ＷＰ：白色粒子、

ＹＰ（As-YP）：板鼻黄色軽石層、ＲＰ：ローム粒子、ＲＢ：ロームブロック、

Ｂ（As-B）：浅間Ｂ軽石、ＢＰ：板鼻褐色軽石層

6．住居址実測図の○は16分割のポイントを示す。

7．柱穴のスクリントーンは

20～39cm　

40cm～　

8．石器石材の凡例

石器実測図中、属性表等における石材の略号は以下のとおりである。

Ob：黒曜石　Ch：チャート　Sh：頁岩　HSh：硬質頁岩　BAn：黒色安山岩

An：安山岩　SS：砂岩（牛伏）　Sc：結晶片岩　GrR：緑色岩類　Se：蛇紋岩

Ho：ホルンフェルス　HSS：硬質砂岩　Tf：凝灰岩　GTf：緑色凝灰岩　Ja：鉄石英

実測図中において礫石器の磨り面は白抜きで示している。磨り面と自然面の境界線が明瞭であるものは破線、不明瞭であるものは点描で表現している。また、使用痕、研磨痕の顕著なものは、その範囲と方向を細密条線で示した。

石器及び石材分類表

石器種別	器　種	技術的特徴	石材種別	石　材	石材の特徴
A類	石鏃 石錐 石匙A類 スクレイパーA類 リタッチドフレイクA類 楔形石器	押圧剥離を多用	Ⅰ類	黒曜石 チャート 硬質頁岩 黒色安山岩 メノウ	硬質で粘度が少ない 剥片剥離に最も適し鋭利
B類	打製石斧 石匙B類 スクレイパーB類 リタッチドフレイクB類	直接打撃を多用	Ⅱ類	頁岩	多少軟質でやや粘度がある 剥離に適するが鋭利さは劣る
C1類	磨石 石皿 凹石	使用痕跡により石器と認識される	Ⅲa類	安山岩	軟質で粘度がある 剥離に不適で剥離面は粗面 耐火性に富む
C2類	台石 敲石 土器磨き石 砥石	使用痕跡により石器と認識される	Ⅲb類	(牛伏)砂岩	軟質で粘度がない 剥離に不適でボロボロと崩れる
D類	石棒 棒状礫 多孔石 丸石	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅳ類	結晶片岩	節理が発達している
E類	磨製石斧	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅴ類	緑色岩類	重量があり比較的軟質で粘度がある剥離にあまり適さず剥離面は粗面
F類	石製品（耳飾り） （垂飾） （石刀）	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅵ類	その他	多種多様な希少石材

石器器種分類表

種別	器　種	形態	分類基準・特徴
A類	石鏃	Ⅰ	凹基無茎
		Ⅱ	平基無茎
	石錐	Ⅰa	摘み無し・小形
		Ⅰb	摘み無し・大形
		Ⅱa	摘み有り・小形
		Ⅱb	摘み有り・大形
		Ⅱc	先端部作出・大形
	石匙A類	Ⅰa	縦形・押圧剝離による精緻な調整
		Ⅱa	横型・押圧剝離による精緻な調整
	スクレイパーA類	Ⅰa	押圧剝離による精緻な調整
		Ⅰb	押圧剝離・直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による粗雑な調整
		Ⅲ	縁辺微細剝離(一辺の1/2以上)
	リタッチドフレイクA類		縁辺微細剝離(一辺の1/2以下)
	楔形石器		両極技法により両端部が潰れている
B類	打製石斧	Ⅰ	撥形・急角度調整・断面蒲鉾形・片刃
		Ⅱ	撥形～短冊形・両面調整・断面レンズ状・両刃
		Ⅲ	分銅形
	石匙B類	Ⅰa	縦形・押圧剝離と直接打撃を併用した調整
		Ⅰb	縦形・大形で直接打撃による調整
		Ⅱa	横形・押圧剝離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱb	横形・大形で直接打撃による調整
	スクレイパーB類	Ⅰa	押圧剝離を主体とした精緻な調整
		Ⅰb	粗雑な押圧剝離と細かい直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による調整
		Ⅲ	縁辺微細剝離(一辺の1/2以上)
	リタッチドフレイクB類		縁辺微細剝離(一辺の1/2以下)
C１類	磨石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	石皿	Ⅰa	円形・作業面は凹面
		Ⅰb	円形・作業面は平坦

種別	器　種	形態	分類基準・特徴
C１類	石皿	Ⅱa	楕円形・作業面は凹面
		Ⅱb	楕円形・作業面は平坦
		Ⅲa	不定形・作業面は凹面
		Ⅲb	不定形・作業面は平坦
		Ⅳa	四角形・作業面は凹面
		Ⅳb	四角形・作業面は平坦
	凹石	Ⅰa	円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅰb	円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅰc	円形・凹のみ
		Ⅱa	楕円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅱb	楕円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅱc	楕円形・凹のみ
		Ⅲa	棒状・切り合い関係は磨→凹
		Ⅲb	棒状・切り合い関係は凹→磨
		Ⅲc	棒状・凹のみ
		Ⅳa	四角形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅳb	四角形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅳc	四角形・凹のみ
		Ⅴa	不定形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅴb	不定形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴc	不定形・凹のみ
C２類	台石		
	敲石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	砥石	Ⅰ	荒砥
		Ⅱ	中砥
		Ⅲ	仕上砥
	土器磨き石		
D類	石棒		加工痕有り
	棒状礫		加工痕無し
	多孔石		凹有り
	丸石		凹無し
E類	磨製石斧	Ⅰa	小形・断面楕円形
		Ⅰb	小形・定角式
		Ⅱa	中形・断面楕円形
		Ⅱb	中形・定角式
		Ⅲa	大形・断面楕円形
		Ⅲb	大形・定角式
F類	石製品		
	(耳飾り)		
	(垂飾)		
	(石刀)		

本文目次

序
例　言
凡　例
本文目次
挿図目次

Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　調査の方法と経過……2
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境……3
　1　地理的環境……3
　2　歴史的環境……4
Ⅳ　層　序……7
Ⅴ　遺跡各説……8
　1　野村遺跡・野村Ⅱ遺跡……8
　　(1)　遺跡の概要……8
　　(2)　縄文時代前期の遺構と遺物……8
　　(3)　縄文時代中期の遺構と遺物……125
　　(4)　平安時代の遺構と遺物……261
　2　北原Ⅱ遺跡……352
　　(1)　遺跡の概要……352
　　(2)　縄文時代の遺構と遺物……352
　　(3)　奈良・平安時代の遺構と遺物……370
　3　北原古墳……409
　　(1)　古墳概要……409
　　(2)　墳丘及び外部施設……409
　　(3)　主 体 部……409
　　(4)　遺　　物……410
　　(5)　小　　結……410
　4　北川古墳……414

(1) 古墳概要 ……414
(2) 墳丘及び外部施設 ……414
(3) 主 体 部 ……414
(4) 遺　　物 ……414
(5) 小　　結 ……417
5 内出城遺跡 ……429
(1) 遺跡の概要 ……429
(2) 縄文時代の遺構と遺物 ……429
(3) 弥生時代の遺構と遺物 ……431
(4) 平安時代の遺構と遺物 ……431
(5) 中世の遺構と遺物 ……432
(6) 近世の遺構 ……445
(7) 内出城について ……445
6 馬舟さま ……449
(1) 概　　要 ……449
(2) 石　　棺 ……449
(3) 小　　結 ……450
VI 成果と問題点 ……454
1 野村遺跡調査所見 ……454
(1) 縄文前期 ……454
(2) 縄文中期 ……456
2 縄文時代前期出土土器所見 ……460
3 環状列石構築に費やされた作業量について
～野村遺跡をモデルとしての一試論～ ……462

付 編
野村遺跡の石器(1) ……479
野村遺跡の石器(2) ……544

CD－ROM
○写真
○縄文前期遺構出土土器重量データ

○縄文中期遺構出土土器重量データ

○グリッド出土縄文土器重量データ

○野村遺跡の石器(1)属性表

○縄文前期住居出土礫石器・住居外出土石器属性表

○遺構出土石器データ

○グリッド（旧石器）出土石器データ

○縄文住居出土礫データ

○野村遺跡の石器組成表

挿図目次

第 1 図　東上秋間遺跡群と周辺遺跡 …… 5
第 2 図　遺跡群位置図（1：1,000） …… 6
第 3 図　基本層序柱状図 …… 7
第 4 図　J－1 号住居址実測図 ……24
第 5 図　J－2 号住居址実測図 ……25
第 6 図　J－3 号住居址実測図 ……26
第 7 図　J－4 号住居址実測図 ……27
第 8 図　J－5 号住居址実測図 ……28
第 9 図　J－6 号住居址実測図 ……29
第 10 図　J－7 号住居址実測図 ……30
第 11 図　J－8 号住居址実測図 ……31
第 12 図　J－8 号住居址実測図 ……32
第 13 図　J－9 号住居址実測図 ……33
第 14 図　J－30号住居址実測図 ……34
第 15 図　J－35号住居址実測図 ……35
第 16 図　J－36号住居址実測図 ……36
第 17 図　J－37B号住居址実測図 ……37
第 18 図　J－38号住居址実測図 ……38
第 19 図　J－39号住居址実測図 ……39
第 20 図　J－40号住居址実測図 ……40
第 21 図　J－41号住居址実測図 ……41
第 22 図　J－42号住居址実測図 ……42
第 23 図　J－43号住居址実測図 ……43
第 24 図　J－44号住居址実測図 ……44
第 25 図　J－45号住居址実測図 ……45
第 26 図　J－46号住居址実測図 ……46
第 27 図　J－47号住居址実測図 ……47
第 28 図　J－48・50号住居址実測図 ……48
第 29 図　J－51号住居址実測図 ……49
第 30 図　J－52号住居址実測図 ……50
第 31 図　J－54・55号住居址実測図 ……51
第 32 図　J－56号住居址実測図 ……52
第 33 図　J－1 号住居址・出土遺物 ……53
第 34 図　J－2 号住居址・出土遺物 ……54
第 35 図　J－3 号住居址・出土遺物(1) ……54
第 36 図　J－3 号住居址・出土遺物(2) ……55
第 37 図　J－4 号住居址・出土遺物(1) ……55
第 38 図　J－4 号住居址・出土遺物(2) ……56
第 39 図　J－4 号住居址・出土遺物(3) ……57
第 40 図　J－4 号住居址・出土遺物(4) ……58
第 41 図　J－5 号住居址・出土遺物(1) ……58
第 42 図　J－5 号住居址・出土遺物(2) ……59
第 43 図　J－5 号住居址・出土遺物(3) ……60
第 44 図　J－6 号住居址・出土遺物(1) ……60
第 45 図　J－6 号住居址・出土遺物(2) ……61
第 46 図　J－6 号住居址・出土遺物(3) ……62
第 47 図　J－6 号住居址・出土遺物(4) ……63
第 48 図　J－7 号住居址・出土遺物(1) ……63
第 49 図　J－7 号住居址・出土遺物(2) ……64
第 50 図　J－8 号住居址・出土遺物 ……65
第 51 図　J－9 号住居址・出土遺物(1) ……65
第 52 図　J－9 号住居址・出土遺物(2) ……66
第 53 図　J－9 号住居址・出土遺物(3) ……67
第 54 図　J－30号住居址・出土遺物(1) ……68
第 55 図　J－30号住居址・出土遺物(2) ……69
第 56 図　J－35号住居址・出土遺物(1) ……70
第 57 図　J－35号住居址・出土遺物(2) ……71
第 58 図　J－35号住居址・出土遺物(3) ……72
第 59 図　J－35号住居址・出土遺物(4) ……73
第 60 図　J－35号住居址・出土遺物(5) ……74
第 61 図　J－36号住居址・出土遺物 ……75
第 62 図　J－37B号住居址・出土遺物 ……75
第 63 図　J－38号住居址・出土遺物 ……76
第 64 図　J－39号住居址・出土遺物(1) ……77
第 65 図　J－39号住居址・出土遺物(2) ……78
第 66 図　J－40号住居址・出土遺物(1) ……78
第 67 図　J－40号住居址・出土遺物(2) ……79
第 68 図　J－41号住居址・出土遺物 ……79
第 69 図　J－42号住居址・出土遺物 ……80
第 70 図　J－43号住居址・出土遺物 ……80
第 71 図　J－44号住居址・出土遺物(1) ……80
第 72 図　J－44号住居址・出土遺物(2) ……81
第 73 図　J－45号住居址・出土遺物 ……82
第 74 図　J－46号住居址・出土遺物 ……83
第 75 図　J－47号住居址・出土遺物(1) ……83
第 76 図　J－47号住居址・出土遺物(2) ……84

第77図　Ｊ－48号住居址・出土遺物 ……85
第78図　Ｊ－50号住居址・出土遺物(1) ……86
第79図　Ｊ－50号住居址・出土遺物(2) ……87
第80図　Ｊ－51号住居址・出土遺物 ……88
第81図　Ｊ－52号住居址・出土遺物(1) ……89
第82図　Ｊ－52号住居址・出土遺物(2) ……90
第83図　Ｊ－54号住居址・出土遺物 ……90
第84図　Ｊ－55号住居址・出土遺物 ……90
第85図　Ｊ－56号住居址・出土遺物 ……91
第86図　グリッド出土遺物 ……92
第87図　グリッド出土遺物 ……93
第88図　グリッド出土遺物 ……94
第89図　グリッド出土遺物 ……95
第90図　グリッド出土遺物 ……96
第91図　グリッド出土遺物 ……97
第92図　グリッド出土遺物 ……98
第93図　グリッド出土遺物 ……99
第94図　グリッド出土遺物……100
第95図　グリッド出土遺物……101
第96図　グリッド出土遺物……102
第97図　グリッド出土遺物……103
第98図　グリッド出土遺物……104
第99図　グリッド出土遺物……105
第100図　グリッド出土遺物……106
第101図　グリッド出土遺物……107
第102図　グリッド出土遺物……108
第103図　グリッド出土遺物……109
第104図　グリッド出土遺物……110
第105図　グリッド出土遺物……111
第106図　グリッド出土遺物……112
第107図　グリッド出土遺物……113
第108図　グリッド出土遺物……114
第109図　グリッド出土遺物……115
第110図　グリッド出土遺物……116
第111図　グリッド出土遺物……117
第112図　グリッド出土遺物……118
第113図　グリッド出土遺物……119
第114図　グリッド出土遺物……120
第115図　グリッド出土遺物……121
第116図　グリッド出土遺物……122
第117図　グリッド出土遺物……123
第118図　グリッド出土遺物……124
第119図　環状列石詳細図(1)……128
第120図　環状列石詳細図(2)……129
第121図　環状列石詳細図(3)……130
第122図　環状列石詳細図(4)……131
第123図　環状列石直下の遺物出土状態……132
第124図　列石直下の出土遺物実測図……133
第125図　環状列石　セクション図・
エレベーション図(1)……134
第126図　環状列石　セクション図・
エレベーション図(2)……135
第127図　ＨＴ－１号掘立柱建物址・
柱穴列実測図……137
第128図　ＨＴ－２号掘立柱建物址実測図……138
第129図　環状列石を構成する礫の分布概要図……139
第130図　環状列石を構成する礫の分布(1)……141
第131図　環状列石を構成する礫の分布(2)……142
第132図　環状列石を構成する礫の分布(3)……143
第133図　環状列石を構成する礫の分布(4)……144
第134図　環状列石を構成する礫の分布(5)……145
第135図　環状列石を構成する礫の分布(6)……146
第136図　環状列石を構成する礫の分布(7)……147
第137図　環状列石を構成する礫の分布(8)……148
第138図　環状列石を構成する礫の分布(9)……149
第139図　環状列石を構成する礫の分布(10)……150
第140図　環状列石を構成する礫の分布(11)……151
第141図　環状列石を構成する礫の分布(12)……152
第142図　環状列石を構成する礫の分布(13)……153
第143図　環状列石を構成する礫の分布(14)……154
第144図　環状列石を構成する礫の分布(15)……155
第145図　環状列石を構成する礫の分布(16)……156
第146図　環状列石を構成する礫の分布(17)……157
第147図　環状列石を構成する礫の分布(18)……158
第148図　Ｊ－10号住居址実測図……208
第149図　Ｊ－10号住居址・出土遺物……208
第150図　Ｊ－11号住居址実測図……209
第151図　Ｊ－11号住居址・出土遺物……209
第152図　Ｊ－12号住居址実測図……210
第153図　Ｊ－12号住居址・出土遺物(1)……210
第154図　Ｊ－12号住居址・出土遺物(2)……211
第155図　Ｊ－13号住居址実測図……212

第156図　J—13号住居址・出土遺物(1)……213
第157図　J—13号住居址・出土遺物(2)……214
第158図　J—14号住居址実測図……215
第159図　J—14号住居址・出土遺物(1)……216
第160図　J—14号住居址・出土遺物(2)……217
第161図　J—15号住居址実測図……218
第162図　J—15号住居址・出土遺物(1)……218
第163図　J—15号住居址・出土遺物(2)……219
第164図　J—16号住居址実測図……220
第165図　J—16号住居址・出土遺物……220
第166図　J—17号住居址実測図……221
第167図　J—18号住居址実測図……222
第168図　J—18号住居址・出土遺物(1)……223
第169図　J—18号住居址・出土遺物(2)……224
第170図　J—18号住居址・出土遺物(3)……225
第171図　J—19号住居址実測図……226
第172図　J—19号住居址・出土遺物……226
第173図　J—21号住居址実測図……227
第174図　J—21号住居址・出土遺物(1)……227
第175図　J—21号住居址・出土遺物(2)……228
第176図　J—22号住居址実測図……229
第177図　J—22号住居址・出土遺物……229
第178図　J—28号住居址実測図……230
第179図　J—28号住居址・出土遺物……230
第180図　J—34号住居址実測図……231
第181図　J—34号住居址・出土遺物……231
第182図　J—37A号住居址実測図……232
第183図　J—37A号住居址・出土遺物……232
第184図　縄文時代住居址・グリッド分割図……233
第185図　1・2・3・4・5・6・10号炉址
　　実測図……234
第186図　8・9号炉址実測図……235
第187図　7・11・12・14号炉址実測図……236
第188図　7号炉址・出土遺物……237
第189図　8号炉址・出土遺物(1)……237
第190図　8号炉址・出土遺物(2)……238
第191図　9号炉址・出土遺物……238
第192図　埋設土器(1)……239
第193図　埋設土器(2)……240
第194図　埋設土器実測図……241
第195図　グリッド出土遺物……244
第196図　グリッド出土遺物……245
第197図　グリッド出土遺物……246
第198図　グリッド出土遺物……247
第199図　グリッド出土遺物……248
第200図　グリッド出土遺物……249
第201図　グリッド出土遺物……250
第202図　グリッド出土遺物……251
第203図　グリッド出土遺物……252
第204図　グリッド出土遺物……253
第205図　グリッド出土遺物……254
第206図　グリッド出土遺物……255
第207図　グリッド出土遺物……256
第208図　グリッド出土遺物……257
第209図　グリッド出土遺物……258
第210図　グリッド出土遺物……259
第211図　グリッド出土遺物……260
第212図　H—1・2号住居址実測図……262
第213図　H—3・4号住居址実測図……263
第214図　H—5・6号住居址実測図……264
第215図　H—7・8号住居址実測図……265
第216図　H—10号住居址実測図……266
第217図　H—1号住居址・出土遺物実測図……267
第218図　H—2号住居址・出土遺物実測図……267
第219図　H—3号住居址・出土遺物実測図……267
第220図　H—4号住居址・出土遺物実測図(1)……268
第221図　H—4号住居址・出土遺物実測図(2)……269
第222図　H—5号住居址・出土遺物実測図……269
第223図　H—6号住居址・出土遺物実測図(1)……270
第224図　H—6号住居址・出土遺物実測図(2)……271
第225図　H—6号住居址・出土遺物実測図(3)……272
第226図　H—7号住居址・出土遺物実測図……273
第227図　H—8号住居址・出土遺物実測図(1)……274
第228図　H—8号住居址・出土遺物実測図(2)……275
第229図　H—9号住居址・出土遺物実測図(1)……276
第230図　H—9号住居址・出土遺物実測図(2)……277
第231図　H—9号住居址・出土遺物実測図(3)……278
第232図　H—10号住居址・出土遺物実測図(1)……279
第233図　H—10号住居址・出土遺物実測図(2)……280
第234図　グリッド出土遺物実測図(1)……281
第235図　グリッド出土遺物実測図(2)……282
第236図　グリッド出土遺物実測図(3)……283

第237図　H－1・2号住居址実測図……294
第238図　H－3・4号住居址実測図……295
第239図　H－5A・5B号住居址実測図……296
第240図　H－6・7号住居址実測図……297
第241図　H－8・9号住居址実測図……298
第242図　H－10・11号住居址実測図……299
第243図　H－12号住居址実測図……300
第244図　H－13・14号住居址実測図……301
第245図　H－15号住居址実測図……302
第246図　H－16号住居址実測図……303
第247図　H－17号住居址実測図……304
第248図　H－18・19号住居址実測図……305
第249図　H－20・21号住居址実測図……306
第250図　H－22号住居址実測図……307
第251図　H－23号住居址実測図……308
第252図　H－1号住居址・出土遺物実測図……310
第253図　H－2号住居址・出土遺物実測図……310
第254図　H－3号住居址・出土遺物実測図……310
第255図　H－4号住居址・出土遺物実測図……311
第256図　H－5A号住居址・出土遺物実測図……311
第257図　H－5B号住居址・出土遺物実測図……312
第258図　H－6号住居址・出土遺物実測図……313
第259図　H－7号住居址・出土遺物実測図(1)……314
第260図　H－7号住居址・出土遺物実測図(2)……315
第261図　H－8号住居址・出土遺物実測図(1)……315
第262図　H－8号住居址・出土遺物実測図(2)……316
第263図　H－9号住居址・出土遺物実測図……317
第264図　H－10号住居址・出土遺物実測図(1)……317
第265図　H－10号住居址・出土遺物実測図(2)……318
第266図　H－10号住居址・出土遺物実測図(3)……319
第267図　H－11号住居址・出土遺物実測図……320
第268図　H－12号住居址・出土遺物実測図……320
第269図　H－13号住居址・出土遺物実測図……321
第270図　H－14号住居址・出土遺物実測図……321
第271図　H－15号住居址・出土遺物実測図……322
第272図　H－16号住居址・出土遺物実測図……322
第273図　H－17号住居址・出土遺物実測図……323
第274図　H－18号住居址・出土遺物実測図……323
第275図　H－19号住居址・出土遺物実測図……323
第276図　H－20号住居址・出土遺物実測図……324
第277図　H－21号住居址・出土遺物実測図……324
第278図　H－22号住居址・出土遺物実測図(1)……325
第279図　H－22号住居址・出土遺物実測図(2)……326
第280図　H－23号住居址・出土遺物実測図(1)……327
第281図　H－23号住居址・出土遺物実測図(2)……328
第282図　グリッド出土遺物実測図(1)……329
第283図　グリッド出土遺物実測図(2)……330
第284図　土坑出土遺物実測図……330
第285図　野村遺跡住居址16分割遺物出土状況(1)…346
第286図　野村遺跡住居址16分割遺物出土状況(2)…347
第287図　野村II遺跡住居址16分割遺物
出土状況(1)……347
第288図　野村II遺跡住居址16分割遺物
出土状況(2)……348
第289図　野村II遺跡住居址16分割遺物
出土状況(3)……349
第290図　野村II遺跡住居址16分割遺物
出土状況(4)……350
第291図　グリッド遺物出土状況……351
第292図　J－1号住居址実測図……353
第293図　2B－12Grid周辺・
HT－1号掘立柱状建物址実測図……354
第294図　J－1号住居址出土遺物(1)……355
第295図　J－1号住居址出土遺物(2)……356
第296図　グリッド出土遺物……357
第297図　グリッド出土遺物……358
第298図　グリッド出土遺物……359
第299図　グリッド出土遺物……360
第300図　グリッド出土遺物……361
第301図　グリッド出土遺物……362
第302図　グリッド出土遺物……363
第303図　H－1号住居址実測図……371
第304図　H－2号住居址実測図……372
第305図　H－3号住居址実測図……373
第306図　H－4号住居址実測図……374
第307図　H－5・7号住居址実測図……375
第308図　H－8号住居址実測図……376
第309図　H－9号住居址実測図……377
第310図　H－11・12号住居址実測図……378
第311図　H－13・14号住居址実測図……379
第312図　H－15号住居址実測図……380
第313図　H－17・18号住居址実測図……381

第314図　H－1号住居址出土遺物実測図(1)……382
第315図　H－1号住居址出土遺物実測図(2)……383
第316図　H－2号住居址出土遺物実測図(1)……383
第317図　H－2号住居址出土遺物実測図(2)……384
第318図　H－2号住居址出土遺物実測図(3)……385
第319図　H－3号住居址出土遺物実測図……386
第320図　H－4号住居址出土遺物実測図……387
第321図　H－5号住居址出土遺物実測図(1)……387
第322図　H－5号住居址出土遺物実測図(2)……388
第323図　H－7号住居址出土遺物実測図……388
第324図　H－8号住居址出土遺物実測図……389
第325図　H－9号住居址出土遺物実測図……390
第326図　H－11号住居址出土遺物実測図……390
第327図　H－12号住居址出土遺物実測図……391
第328図　H－13号住居址出土遺物実測図……391
第329図　H－14号住居址出土遺物実測図……392
第330図　H－15号住居址出土遺物実測図……392
第331図　H－15号住居址出土遺物実測図……393
第332図　H－17号住居址出土遺物実測図……393
第333図　H－18号住居址出土遺物実測図……394
第334図　グリッド出土遺物実測図……395
第335図　住居址16分割遺物出土状況(1)……405
第336図　住居址16分割遺物出土状況(2)……406
第337図　住居址16分割遺物出土状況(3)……407
第338図　グリッド遺物出土状況……408
第339図　北原古墳全体図……411
第340図　北原古墳　石室展開図……413
第341図　北川古墳全体図……415
第342図　北川古墳　石室展開図……418
第343図　北川古墳　石室内遺物出土状況……419
第344図　北川古墳出土の遺物(1)……420
第345図　北川古墳出土の遺物(2)……421
第346図　北川古墳出土の遺物(3)……422
第347図　北川古墳出土の遺物(4)……423
第348図　北川古墳出土の遺物(5)……424
第349図　北原・北川古墳出土土器……426
第350図　北原古墳出土土器……427
第351図　内出城遺跡調査区位置図……430
第352図　土坑実測図（縄文・弥生）……432
第353図　土器実測図（縄文・弥生）……433
第354図　集石実測図（縄文）……434
第355図　住居址・溝実測図（平安）……435
第356図　土器実測図（平安）……436
第357図　内出城縦横断面位置図……437
第358図　縦横断面図……439
第359図　中世遺構全体図……440
第360図　矢倉遺構土層断面図・堀切断面図……441
第361図　堀切・堀土層断面図……442
第362図　堀土層断面図……443
第363図　中世遺構実測図……444
第364図　遺物実測図（中世）……445
第365図　内出城概念図・縄張図(山崎一氏作成)…447
第366図　馬舟さま実測図……451
第367図　馬舟さま展開図……453
第368図　縄文時代前期時期別住居全体図……455
第369図　縄文時代中期時期別遺構配置図……457
第370図　夏至と秋分の日の太陽との関係……459
第371図　J－1号住石器実測図……492
第372図　J－4号住石器実測図……493
第373図　J－5号住石器実測図(1)……494
第374図　J－5号住石器実測図(2)……495
第375図　J－6号住石器実測図(1)……496
第376図　J－6号住石器実測図(2)……497
第377図　J－6号住石器実測図(3)……498
第378図　J－9号住石器実測図(1)……499
第379図　J－9号住石器実測図(2)……500
第380図　J－35号住石器実測図(1)……501
第381図　J－35号住石器実測図(2)……502
第382図　J－35号住石器実測図(3)……503
第383図　J－35号住石器実測図(4)……504
第384図　J－36号住石器実測図……505
第385図　J－38号住石器実測図……506
第386図　J－39号住石器実測図……506
第387図　J－40号住石器実測図……507
第388図　J－42号住石器実測図……508
第389図　J－43号住石器実測図……509
第390図　J－45号住石器実測図(1)……510
第391図　J－45号住石器実測図(2)……511
第392図　J－46号住石器実測図……511
第393図　J－47号住石器実測図……512
第394図　J－50号住石器実測図……513
第395図　J－52号住石器実測図……514

第396図　J－56号住石器実測図……515
第397図　J－8号住石器実測図……516
第398図　J－41号住石器実測図……516
第399図　J－48号住石器実測図……516
第400図　J－54号住石器実測図……516
第401図　J－2号住石器実測図(1)……517
第402図　J－2号住石器実測図(2)……518
第403図　J－3号住石器実測図……519
第404図　J－7号住石器実測図(1)……520
第405図　J－7号住石器実測図(2)……521
第406図　J－30号住石器実測図(1)……522
第407図　J－30号住石器実測図(2)……523
第408図　J－55号住石器実測図……523
第409図　J－10号住石器実測図……524
第410図　J－12号住石器実測図……524
第411図　J－11号住石器実測図(1)……525
第412図　J－11号住石器実測図(2)……526
第413図　J－13号住石器実測図(1)……527
第414図　J－13号住石器実測図(2)……528
第415図　J－14号住石器実測図……529
第416図　J－15号住石器実測図……530
第417図　J－18号住石器実測図(1)……531
第418図　J－18号住石器実測図(2)……532
第419図　J－18号住石器実測図(3)……533
第420図　J－19号住石器実測図……534
第421図　J－21号住石器実測図……534
第422図　J－22号住石器実測図……535
第423図　炉8・炉9（住居の残痕）石器実測図…536
第424図　J－28号住・炉7（住居の残痕）
石器実測図……537
第425図　炉4（住居の残痕）石器実測図……538
第426図　J－34号住石器実測図……538
第427図　時期不明住居出土の石器実測図(1)……539
第428図　時期不明住居出土の石器実測図(2)……540
第429図　遺構外出土の石器実測図(1)……541
第430図　遺構外出土の石器実測図(2)……542
第431図　遺構外出土の石器実測図(3)……543
第432図　関山期住居出土の礫石器(1)……549
第433図　関山期住居出土の礫石器(2)……550
第434図　関山期住居出土の礫石器(3)……551
第435図　関山期住居出土の礫石器(4)……552
第436図　関山期住居出土の礫石器(5)……553
第437図　諸磯期住居出土の礫石器……554
第438図　時期不明・中期住居出土の礫石器……555
第439図　ピット・列石・グリッド出土の石器……556

付図1　野村遺跡縄文時代前期全体図
付図2　野村遺跡縄文時代中期全体図
付図3　野村・野村II遺跡平安時代全体図
付図4　北原II遺跡全体図
付図5　内出城址全体図
付図6　内出城遺跡全体図1（縄文・弥生・平安・近世）
付図7　内出城遺跡全体図2

Ⅰ　調査に至る経過

平成４年安中市地域開発対策委員会より、ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社が行う（仮称）新安中駅周辺住宅開発に係る埋蔵文化財の取り扱いに関して、協議の申し出が市教育委員会にあった。開発面積は51㌶に及ぶ大規模なもので、該当地区内には市内遺跡詳細分布調査による21箇所の周知の遺跡地が存在した。開発は大規模な切り盛り造成を行うもので、遺跡地全体が調査対象となるため、埋蔵文化財保護についての協議の申し入れを行った。

その後、当該事業そのものの見直しも含め再三にわたり協議を行ったが、埋蔵文化財包蔵地を除外あるいは避けることは困難であるとの結論に至り、発掘調査による記録保存の措置を講ずる方針が固まった。

平成５年から平成６年にかけ埋蔵文化財調査に係る方法・期間・経費について、県教育委員会の指導も仰ぎながら、ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社上信越工事事務所と市教委の間で協議が行われた。該当地区内の21箇所の遺跡地は市内遺跡詳細分布調査によって範囲確定をしているもので、実際の遺跡地の広がりとの誤差は否めない。そのため試掘調査を実施し、遺跡の有無も含め遺跡地の広がりを確認することとなった。

試掘調査とは言え、開発面積51㌶内に存在する21箇所の遺跡地が対象の大規模なものであるため、平成７年にＪＲ東日本旅客鉄道株式会社からの委託金により、安中市埋蔵文化財発掘調査団が試掘調査を行った。試掘の結果、周知の遺跡地内に遺構が確認されなかったり、遺跡の範囲が狭くなったりと、当初考えていた範囲より面積的にはかなり狭くなることが確認された。検出された遺構は、縄文時代前期・中期の住居址、古墳、平安時代の住居址、城館址で、予想される遺跡の全体規模は約68,000㎡となった。

試掘調査後、その結果に基づき調査に掛かる期間・経費を算出し、ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社上信越工事事務所との間で協議を重ねた。平成８年、調査期間と経費の調整が整い、『埋蔵文化財調査基本協定』を締結し、平成８年度より発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査は平成８年度、平成９年度、平成11年度の３年間行われた。遺物整理は調査と平行して平成14年度まで断続的に行われた。　（千田）

II　調査の方法と経過

調査はまず、各遺跡ごとにグリッドの設定を行った。グリッドは、1グリッドが4m×4mで北西隅を基点とし、西から東へA、B、C…北から南へ1、2、3…と呼称するようにした。また、グリッドをさらに四分した2m×2mの細グリッドを設定し、北西、北東、南西、南東の順にアルファベットの小文字でa、b、c、dと呼称することにした。そして、座標値は国家座標に取り付けた。国家座標値は、野村遺跡A—21グリッドがX＝39724.675、Y＝－87612.637、Y—30グリッドがX＝39693.959、Y＝－87514.818である。北原II遺跡B—1グリッドがX＝39812.000、Y＝－88144.000、D—2グリッドがX＝39804.000、Y＝－88140.000である。内出城遺跡B—1グリッドがX＝39640.000、Y＝－88072.000、D—2グリッドがX＝39624.000、Y＝－88064.000である。北原古墳E—2グリッドがX＝39852.000、Y＝－88124.000、F—4グリッドがX＝39848.000、Y＝－88116.000である。北川古墳B—4グリッドがX＝39884.000、Y＝－87872.000、E—4グリッドがX＝39872.000、Y＝－87872.000である。

調査は野村・野村II遺跡、北原II遺跡についてはバックホーによりIV層（暗褐色土）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。内出城遺跡については堆積土が薄く、堀切以外は表土直下がすぐに遺構面であり、バックホーと人力により慎重に掘削を行った。

確認された遺構は順次精査を行い、野村・野村II遺跡、北原II遺跡は確認された遺構を有限会社青高館に委託し、気球により空中から写真撮影を行い、そのプリントを元にデジタルコピーにより左右のひずみを補正。それを元に現地で細部の確認を行う、といった方法で平面図の作成を行った。北原古墳・北川古墳は、株式会社アイシーに委託し、リモコンヘリコプターによる空中写真撮影と地上撮影を併用し、解析図化機による図面作成を行った。内出城遺跡はアジア航測株式会社に委託し、航空写真撮影により平面図の作成を行った。また土層断面図はそれぞれ必要に応じ作成した。

遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址についてはセクションのラインを基準に16に分割し、各層位ごとに分層して取り上げる16分割分層方式にて行った。この他、遺構以外の部分については、グリッドを四分した2m×2mの細グリッドで層位毎に取り上げた。また、必要に応じて、遺構・遺物の写真撮影を行った。

遺物整理は、発掘調査と平行しながら平成14年度までの間断続的に実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。整理作業の省力化を行うため、遺物の注記はジェットマーカーを使用した。遺物の実測・トレース・属性分析等の一部を業務委

託した。また、土器は写真家小川忠博に委託し、超焦点撮影法による実測用写真を撮影し、それを基に図面化を行った。遺物は客観的に時期や特徴を示すものを優先し掲載した。掲載できなかった遺物に関しては、分析結果データーをCD—ROMに納めた。写真に関してもコスト軽減のためCD—ROMに収納した。（千田）

III　遺跡の地理的・歴史的環境

1　地理的環境

安中市は群馬県西部、西毛地域に存在する。古代には東山道、近世には中山道が通じ関東と長野を結ぶ交通の要衝にあたる。市の東には西毛地域中核都市の高崎市、西には碓氷郡松井田町、南には富岡市、そして北には群馬郡榛名町と接している。

群馬県西部は関東平野の北西端部にあたり、台地（河岸段丘）が発達している。碓氷峠付近を水源とする碓氷川が西から東へ流れ、市域を南北に分断している。碓氷川の北側には、松井田町細野の千ヶ滝を源とする九十九川が流れ、安中市東部で碓氷川に合流する。これらの河川流域には台地（河岸段丘）が発達し、最下位段丘（磯部地区）、下位段丘（安中地区）、中位段丘（原市地区）、上位段丘（中野谷地区）、最上位段丘（間仁田地区）が存在する。市域の南東にあたる岩野谷地区（岩野谷丘陵）と北西にあたる後閑（後閑丘陵）・秋間地区（秋間丘陵）は山地・丘陵地帯である。岩野谷丘陵は水境・岩井川によって、後閑丘陵は後閑川によって、また秋間丘陵は秋間川により開析された谷地形である。

本遺跡はこの秋間地区に存在する。秋間地区は安中市の北部榛名火山の南に位置し、九十九川の支流の秋間川と、東流する烏川とに挟まれた秋間丘陵の南面にある。秋間丘陵は西北西から東南東にのびる長い丘陵で、丘陵の中をいくつもの稜線が東西に連なり、丘陵の南を秋間川が支流の般若沢川、久保川、神水川、苅稲川、日向川などを集めて東流している。支流の多くは秋間川の左岸にあって、秋間丘陵を浸食していくつもの舌状地形を形成している。秋間川流域には、小規模な砂礫堆積物からなる沖積低地が河川にへばりつくように分布し、主に水田として耕作されている。現集落の多くは標高150m～300mのところにあって、秋間川流域近くに分布している。本遺跡は秋間川の左岸にあり、秋間地域のほぼ中央に位置している。

2　歴史的環境

東上秋間遺跡群の周辺の遺跡を概観してみたい。本遺跡の周辺には北陸新幹線建設に伴い群馬県埋蔵文化財調査事業団が神水遺跡、笹田遺跡、稲貝戸遺跡、中島遺跡、中秋間甲木ノ巣谷津Ⅰ遺跡の5遺跡の発掘調査を行っている。これらの遺跡からは、近世前半から後半の水田と思われる遺構や炭窯が検出されている。そして、市教委では安中榛名駅へアクセスするための県道建設に伴い、北原遺跡・上久保遺跡の調査を行った。北原遺跡・上久保遺跡は今回の北原Ⅱ遺跡に隣接しており、一遺跡としてとらえられる。つぎに秋間地区の集落遺跡としては、下受地・十二遺跡がある。下受地・十二遺跡からは、縄文時代前期、中期、後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構と遺物が確認され、東上秋間遺跡群とは谷を1つ隔てた西に位置する。

このほか、秋間地区は県下須恵器一大生産地として、秋間古窯跡群の存在が著名である。秋間古窯跡群は東西約7㌔、南北約3㌔にかけて分布し、約50の支群を持ち、県下須恵器生産地の中で面積において最大規模を誇っている。操業は7世紀初頭と推定され、9世紀後半には終息し、最も量産された時期は8世紀前半から9世紀中葉にかけて、と考えられている。秋間古窯跡群関連の調査は、二反田遺跡・雉子ヶ尾遺跡・戸谷遺跡・八重巻遺跡・苅稲遺跡がある。

二反田遺跡は秋間古窯跡群の一支群にあたり、窯体は6基確認された。出土須恵器より秋間古窯跡の拡大期にあたる、8世紀前半から9世紀中葉にかけての操業と考えられる。

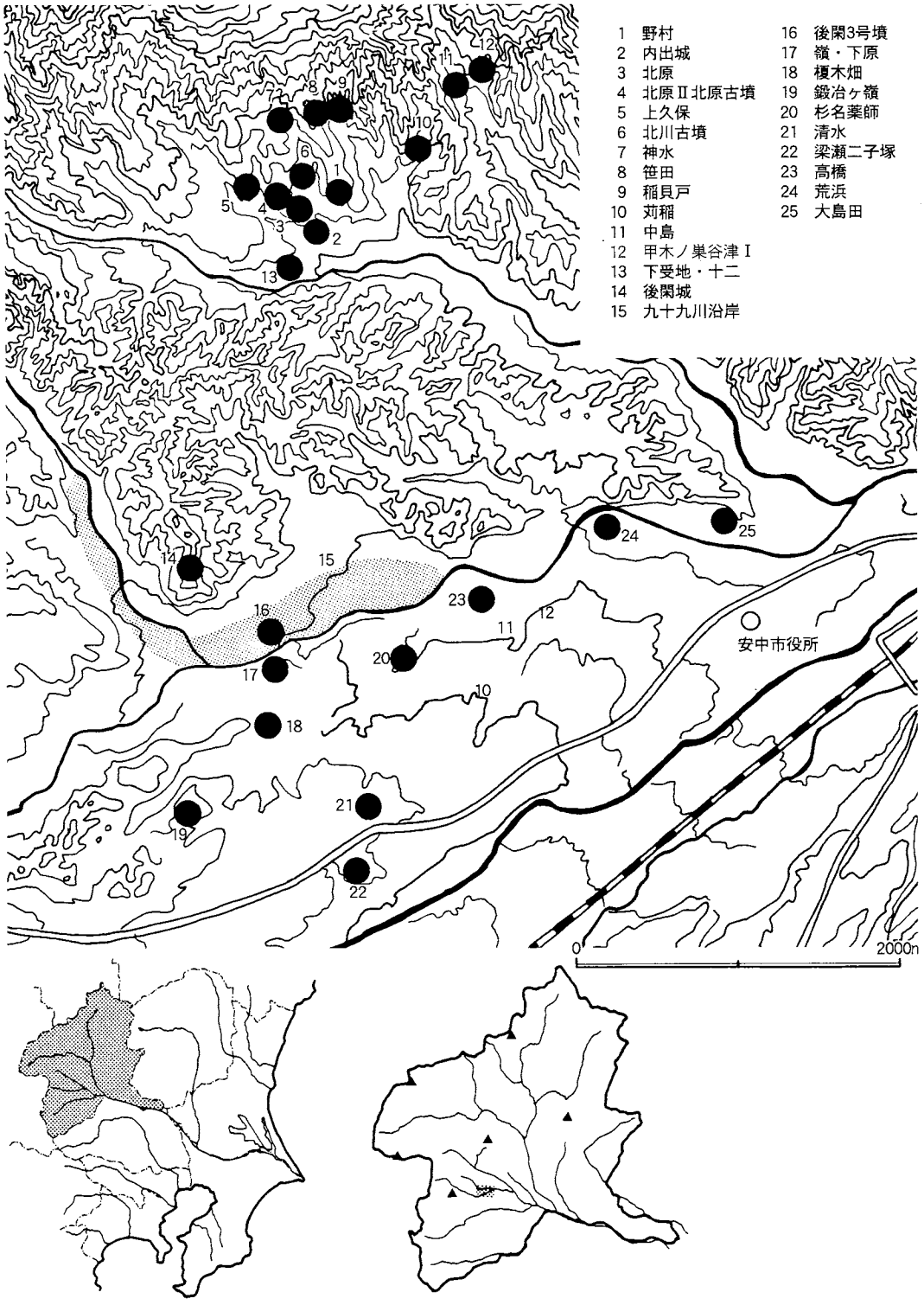
雉子ヶ尾遺跡は、市道拡幅時に窯体の一部が露出し記録調査を行ったもので、数基の窯跡があるものと思われる。出土遺物は、七世紀後半から八世紀初頭のものである。

戸谷遺跡は、2基の製鉄炉、配石遺構と炭窯が確認された。羽口や鉄滓などのほか、8世紀後半から9世紀初頭にかけての土師器・須恵器も出土しており、秋間古窯跡群の窯業技術との関係が注目されている。

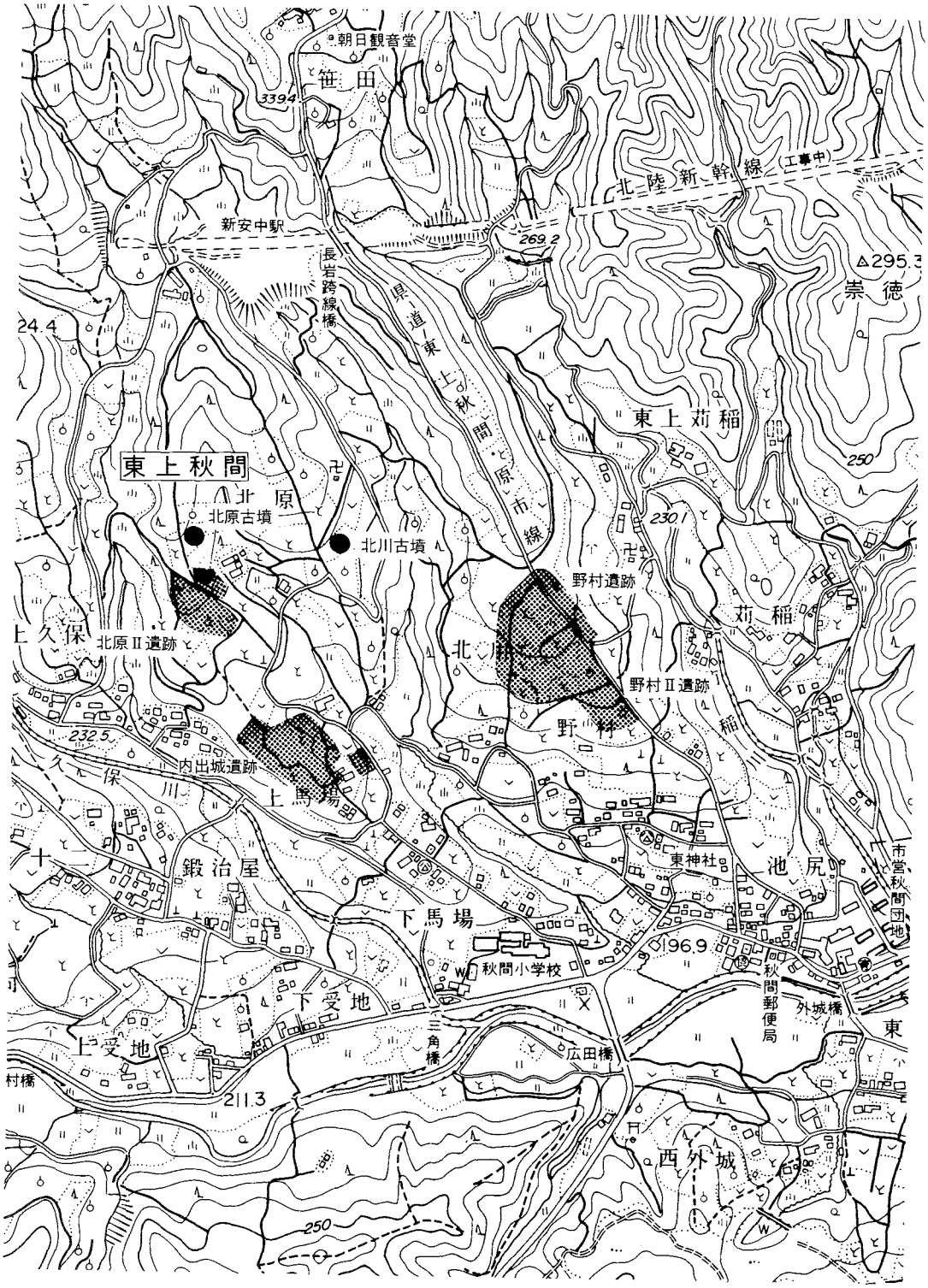
八重巻遺跡は、7世紀後半の建立とされる前橋市山王廃寺の創建期の瓦を供給した瓦窯で、山王廃寺と秋間の一帯との関連を示すものとして重要な意味を持つている。戦前より須恵器や瓦が多数採取されており、1957年には群馬大学により、窯体1基が調査され、須恵器坏・軒平瓦などが多数出土している。1983年には、市道工事中に窯体を壊し、大量の瓦が出土している。また周辺から7世紀後半の須恵器も採取されていることから、瓦陶兼業窯の時期があったと考えられている。

苅稲遺跡は、1965年に群馬大学によって2基の窯跡が調査された。また、周辺にはこれ以外に3、4基ほどの窯跡の存在が確認されている。八重巻遺跡と同様、7世紀後半まで操業時期が遡る可能性が考えられている。

このほか、秋間丘陵内には二軒茶屋古墳、磯貝塚古墳、旧秋間村7号墳、万福原古墳など、7世紀から8世紀にかけての古墳が多く存在している。　（千田）



第１図　東上秋間遺跡群と周辺遺跡

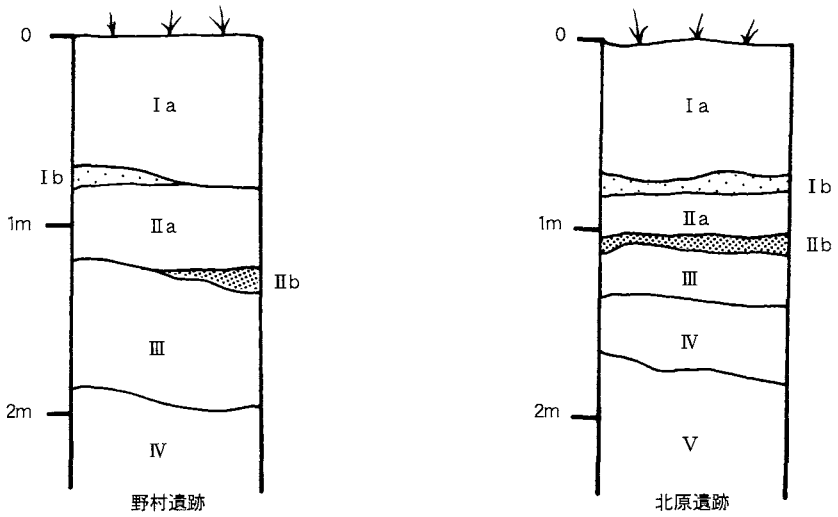


第２図　遺跡群位置図（１：1,000）

IV 層　　序

野村・野村II遺跡の基本層序は第3図のとおりである。指標テフラは浅間A軽石（As-A：1783年降下）、浅間B軽石（As-B：1108年降下）が確認される。しかし両テフラとも、後世の耕作などによりほとんど除去されており、調査区内に部分的に確認される。

なお、北原II遺跡の基本層序は、調査時のデータに不備があるため、隣接する北原遺跡の基本層序を掲載する。（千田）



第3図　基本層序柱状図

第3表　基本土層説明

	層　名	色調	しまり	粘性	混入物					備　考
					RP	RB	YP	As-A	As-B	
Ia 層	黒褐色土層		△	△				◎		
Ib 層	灰白色軽石層	Ia＜Ib	×	×				◎		As-A 純層
IIa 層	黒色土層	Ib＞IIa	△	△					◎	
IIb 層	灰褐色土層	IIa＜IIb	×	×					◎	As-B 純層
III 層	暗褐色土層	IIa＜III	△	○						
IV 層	暗褐色土層	III＜IV	○	○	※		※			
V 層	黄褐色粘質土層		◎	◎	◎	○	※			

V　遺跡各説

1　野村遺跡・野村II遺跡

(1)　遺跡の概要

野村遺跡・野村II遺跡は、秋間丘陵のほぼ中央に位置している。秋間丘陵には、秋間川に流れ込む多くの支流による浸食で、いくつもの舌状地形が形成されているが、本遺跡の立地する舌状台地はその中でもなだらかな平坦面が広がる丘陵地である。

発掘調査によって、縄文時代前期（関山式期・諸磯式期）の大規模な集落、縄文時代中期後葉（加曽利E式期）の環状列石及び集落、平安時代の集落が検出された。調査は遺構の分布する丘陵全体に及んだため、集落のほぼ全域を調査することができた。

縄文時代前期の住居址は32軒検出され、内訳は関山II式期24軒、諸磯式期９軒である。

縄文時代中期の遺構は環状列石、列石２列、敷石住居址14軒、埋設土器10基、屋外炉址13基、掘立柱状建物址２棟、柱穴列１条が検出された。縄文時代前期の遺構は、縄文時代中期の環状列石および集落の検出された下層より検出されたため、２面に渡る調査を行った。

平安時代の住居址は、９世紀から10世紀にかけて33軒が検出された。平安時代の集落は、縄文時代の遺構が確認された広い平坦面ではなく、その南東側に形成されている特徴を持つ。

（千田）

(2)　縄文時代前期の遺構と遺物

住居址（第４～32図）

住居址諸元

住居址	時期	平面形態	壁溝	炉址				長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	主軸方向
				石囲	埋設	地床	枕石				
J－1	関　山	長方形	三辺			○	○	(5.20)	3.84	56	N－3°－E
J－2	諸　磯	隅丸方形	三辺					6.16	(4.56)	60	N－101°－E
J－3	諸　磯	隅丸方形	全周					4.64	4.64	60	N－114°－E
J－4	関　山	長方形	全周			○	○	4.32	3.20	76	N－13°－E
J－5	関　山	長方形	全周			○		4.24	3.36	28	N－30°－E
J－6	関・諸	長方形	全周		○	○	○	7.04	5.04	64	N－27°－E
J－7	諸　磯	円形	三辺		○			4.32	(3.60)	40	N－105°－E
J－8	関　山	長方形	三辺					(5.04)	3.36	20	N－26°－E
J－8集石	関　山	台形	三辺					(7.84)	(5.60)	40	N－26°－E
J－9	関　山	長方形	全周			○		4.16	3.68	24	N－26°－E
J－30	諸　磯	長方形	全周		○			3.36	2.40	12	N－63°－E
J－35	関・諸	長方形	全周			○	○	(5.68)	4.88	28	N－4°－E
J－36	関　山	正方形	全周			○	○	4.64	4.16	12	N－140°－E
J－37b	諸　磯	—	—					—	—	20	—

住居址	時期	平面形態	壁溝	炉址				長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	主軸方向
				石囲	埋設	地床	枕石				
J—38	関山	長方形	全周	○				(5.20)	4.64	20	N—17°—E
J—39	関山	長方形	全周	○				4.32	3.60	32	N—18°—E
J—40	関山	長方形	全周					5.04	3.20	12	N—21°—E
J—41	関山	長方形	三辺			○	○	(6.24)	4.56	16	N—26°—E
J—42	関山	長方形	全周	○				6.48	4.48	16	N—0°—E
J—43	関山	長方形	全周			○	○	5.68	3.76	20	N—154°—E
J—44	関・諸	長方形	二辺					5.12	4.40	32	N—172°—E
J—45	関山	長方形	全周			○	○	5.12	3.84	24	N—3°—E
J—46	関山	長方形	全周			○	○	5.04	3.44	24	N—19°—E
J—47	関山	長方形	全周	○				5.36	4.40	32	N—24°—E
J—48	関山	長方形	全周			○		3.28	2.80	24	N—10°—E
J—50	関山	長方形	全周			○	○	4.08	3.52	20	N—12°—E
J—51	関・諸	長方形	三辺			○		5.76	4.72	12	N—41°—E
J—52	関山	長方形	全周	○				5.68	4.96	8	N—49°—E
J—54	関山	正方形	全周			○	○	4.56	4.24	8	N—11°—E
J—55	諸磯	円形	二辺					—	—	28	—
J—56	関山	長方形	全周					4.56	3.84	32	N—26°—E

前期の住居址は、中期の環状列石および住居址の検出された下層より検出された。調査区北側は堆積層が薄く、注記の住居址とのレベル差があまり無い状態であったが、南側、特に環状列石から南に関しては堆積層が厚く、中期と前期の確認面の比高差が1㍍に達する部分もあった。

関山式期

関山II式期の住居址配置を見ると、直径約90㍍の環状に住居址が配置されることがわかり、環状集落が構成されていたことが確認された（付図1）。

環状に構成される住居址群は、南西部分と北東部分が途切れており、大きく二群（南群・北群）に分かれている事がわかる。南群はJ—6号住居址が大形である他は、小形・中形の住居址が多い傾向を持つ。これに対し北群では大形・中形の住居址が多い傾向が認められる。後述するが、出土土器の中に中部系の神ノ木式土器が検出された。出土した住居はJ—4・5・6・35・40・44・45・47・48・56号住で、南群に多く集中する傾向が確認された。また各住居址は、J—6・35・44・51号住の様に諸磯式期の住居址と重複しているもの以外は重複する事例は無い。

そして、環状集落の中央部分からは土坑やピットが多数検出された。しかし攪乱によるものが多く、確実に当期のものと確認される遺構はなかった。また、環状集落の外周部でも土坑などの遺構は検出されなかったことから、住居址以外にはほとんど遺構が存在しない、単純な集落構造であったものと推測される。

さてこの環状集落の中央部分は遺構の存在しない集落の中央広場的性格を持つものと考えられるわけだが、後述する中期の環状列石の中央平坦部分とこの中央部分が合致する事が確認された。

諸磯式期

諸磯b式期の住居址は、約70㍍の間隔を開けて調査区北側・東側・南側に2～3軒ずつ散在し

ている。関山式期に比べ小規模な集落である。なお、前述した関山式期と重複しているJ－6・35・44・51号住は、互いの時期の住居の深い部分だけが残って確認された状況で、切り合い関係は確認することが出来なかった。

住居址は、隅丸方形ないし不正方形を呈している。調査区南に位置する住居は、その南壁に攪乱を受け立ち上がりがはっきりとは確認されなかったが、北壁は比較的深い壁の立ち上がりが確認された。主柱穴は四カ所を基本とし、炉は地床炉、埋甕炉であるが掘込みが浅く不明確である。

（千田・鬼形）

土器

J－1号住居址（第33図）

出土遺物　本住居址からは、前期中葉の関山II式土器である。1は、無節Lrを横位に斜行施文する。2は、斜めにLrを施文することで羽状縄文風に表現している。3は、口縁部文様帯を持つ土器。波状口縁の土器で、口縁に沿って平行沈線で鋸歯状に文様を施文している。口縁部下にも同様の文様を施文して、文様帯を区画する。鋸歯文の間に渦巻き状の文様を施文している。地文は組紐を施文している。4は、縦長のコンパス文施文の土器である。口縁に平行に施文し、同じ施文工具により、頸部に縦長のコンパス文を施文することで口縁部と胴部を意識している。5から10は縄文施文の土器である。5、8は、LR。6は、前々段反撚。7、9はRLの縄文施文の土器。10は、RL縄文で、ループを作り多段に施文している。9、10とも底部片で関山式の特徴である上げ底になっている。

J－2号住居址（第34図）

出土遺物　本住居址からは、前期後葉の諸磯b式終末段階から諸磯c式土器古段階が出土している。1は、靴先状に屈曲する波状口縁部片である。口縁屈曲部上の文様に平行沈線で渦巻文を施文。口縁部屈曲部下に対弧文を施文している。2も1と同様の文様モチーフを持つ。3は、口縁部から胴部文様帯部片で口縁部に横矢羽根状の文様を施文し、口縁部と胴部を区画するために頸部に横位の集合沈線を施文している。4は、平行沈線で横位に胴部文様帯を区画。区画内を弧線や渦巻き文が充填される。5は、口縁部に器面を摘み上げるようにして、棒状の列点を作る。半截竹管による集合沈線で縦位の区画をしている。区画間を対弧文と縦方向の矢羽根文が施文される。底部付近は集合沈線による横位施文。6～9は、この時期の底部片である。いずれも集合沈線により間隔を開けて横位施文している。8は、横位施文の間に斜位に沈線を充填している。2、5は地文にRLの斜行縄文が施文される。

J－3号住居址（第35・36図）

出土遺物　本住居址からは、前期後葉の諸磯b式終末段階から諸磯c式古段階の土器が出土している。1は、半截竹管を差し込んで、摘み上げるように列点状に施文している。2から4は、横位の胴部文様区画を集合沈線により施文している。区画間を横矢羽根状や入り組み状渦巻き文で充填している。2は、地文にRLの斜行縄文。6は入り組み状渦巻き文。7は、集合沈線による横位区画。地文にLRの斜行縄文。8、9は対弧状の文様施文。5はLrを施文しているが、かなり摩滅している。

J－4号住居址（第37・38・39・40図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式土器を主体として神ノ木式土器が混在している。1は、波状口縁の深鉢。波頂部は二股に分かれる。頸部に半截竹管による平行沈線で縦長のコンパス文が施文される。地文は、組紐が施文されている。2は、口縁部と胴部に半截竹管の平行沈線により縦長のコンパス文が施文される。口縁部に補修口が認められる。地文は、組紐が施文されている。3は、平口縁で直立気味に立ち上がり、胴部が膨らむ。0段多条の斜行縄文が施文されている。4は、平口縁の土器で、外反し頸部がくびれ胴部が膨らむ。地文は、組紐施文の土器。5、6は注口土器である。5は半截竹管による平行沈線が口縁に沿って巡る。地文は、前々段合撚の縄文を施文している。6は、半截竹管による縦長のコンパス文が施文される。地文は、組紐。7は、口縁部と頸部に短めに縦位の沈線を施文し文様帯を区画している。地文は、直前段合撚の縄文で異条斜縄文を作り、羽状に施文し菱形を構成する。8は、平行沈線による幾何学文。9、10は、組紐施文の土器。10は、半截竹管による縦長のコンパス文が施文される。11、13は、斜行縄文施文。12は、羽状縄文で菱形を構成する。14から16は、底部片。縄文が施文される。14、15は上げ底になる。16は、神ノ木式土器で縄の束が施文されている。

J－5号住居址（第41・42・43図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式土器を主体として神ノ木式土器が混在している。1は、注口土器で組紐施文の土器。2、3、8は、平行沈線による幾何学文と縦長のコンパス文が施文される。地文は、組紐。5から7は関山式に伴う神ノ木土器。櫛状工具による刺突。6は、櫛状工具による押し引きと条線で異条斜縄文風に表現する。4、10、14は、半截竹管による縦長のコンパス文。地文は、組紐施文。9は、注口土器で、短いコンパス文が施文される。地文は、直前段合撚の異条斜縄文を施文する。12は、前々段合撚。11は、組紐施文。13は、縦長のコンパス文施文。地文は、羽状縄文による菱形を構成する縄文帯とコンパス文で区画された下部の文様帯には、組紐が施文される。15から17は、底部片。いずれも上げ底になる。15は、附加条文。17は、

組紐。16は、縄文施文。

Ｊ－６号住居址（第44・45・46・47図）

出土遺物　本住居址からは、前期中葉の関山II式土器・神ノ木式土器・有尾式土器と前期後葉の諸磯式土器が混在している。１から３は地文組紐で、平行沈線による幾何学文を持つ土器。４は、コンパス文が施文される。６は、ループ文施文の土器。７は、４単位の波状口縁になる注口土器。波頂部は二股に分かれる。波底部に注ぎ部を持つ。口縁部文様帯は、平行沈線で幾何学文を描き、地文に組紐を持つ。胴部地文は、ループ文を持つ縄文を施文する。８、９、10、11、12は、神ノ木式土器で櫛状工具による刺突文。15は、櫛状工具によりさらに緩やかな鋸歯状の条線を引き菱形を構成する。神ノ木式土器。５は、半截竹管による縦長のコンパス文が施文される。直前段合撚の異条斜縄文で菱形を構成。16は、横位の平行沈線と組紐施文の土器。24は、有尾式土器で半截竹管による平行沈線と爪形文で菱形を施文する。13、14の文様施文方法は、神ノ木式に似るが、胎土に繊維を多く含む事から、早期末の条痕施文の土器とも考えられる。以上は関山II式・神ノ木式土器・有尾式土器。

17は浮線による施文と小さな円形の刺突を施文。18、19、20は、浮線による施文。入り組み状渦巻き文が横位の文様区画帯の中に施文される。23は、縄文の土器。25、26は半截竹管による爪形文の土器。22は、平行沈線で文様を描く。地文は、RL の斜行縄文。27から29は有孔浅鉢片。半截竹管による爪形文施文の土器で、木の葉文が退化して、崩れた状態。21は、底部片で浮線による横位の区画。以上は、諸磯ｂ式土器の中段階の土器である。

Ｊ－７号住居址（第48・49図）

出土遺物　本住居址からは、前期中葉の関山II式、前期後葉の諸磯ｂ式、諸磯ｃ式土器が混在して出土している。１は、波状口縁の土器で、波頂部は二股になる。平行沈線による幾何学文が口縁部文様帯に施文される。関山II式土器。２は、RL の斜行縄文施文の土器。３は、靴先状の大形波状口縁の土器。集合沈線で、入り組み状の渦巻き文が施文される。諸磯ｂ式土器。４、５、10は、集合沈線で、縦位の区画と対弧状の文様が施文される。７は、口唇部に器面を摘み上げるようにして小突起を作る。６、11は、縄文施文の土器である。口唇部に棒状の貼付文や、器面を摘み上げる小突起が見られる。９は、ミニチュア土器で、集合沈線による横位の区画と、区画間に横位の矢羽根状の文様が施文される。諸磯ｃ式土器。

Ｊ－８号住居址（第50図）

出土遺物　本住居址からは、前期中葉の関山式土器、前期後葉の諸磯ｃ式土器が混在して出土

している。1から3は、関山II式土器。1は、平行沈線で鋸歯状を描く。2、3は、縦長のコンパス文が施文される。いずれも地文は組紐。4、5は、諸磯c式土器。4は、口縁部文様帯に集合沈線で斜線を引く。5は、縦位の区画の中を対弧文が充填される。

J－9号住居址（第51・52・53図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式土器が出土している。1はコンパス文が、口唇部、頸のくびれ部、胴張り出し部に3段に施文される。地文は組紐。2から5は、半截竹管による平行沈線で幾何学文や鋸歯文が施文される。地文は組紐。6は、口縁部に方形の突起を持つ。地文は組紐で、縦長のコンパス文が施文される。7も同様にコンパス文に地文は、組紐。8から11は、底部片で上げ底になる。9は、直前段合撚と組紐。8、10は、コンパス文に組紐。11は羽状に縄文を施文し菱形を構成する。

J－30号住居址（第54・55図）

出土遺物　本住居址からは、前期後葉の諸磯b式土器と諸磯c式土器が出土している。1から4は、諸磯b式土器である。浮線により文様を描く。1は、4単位の波状口縁になるキャリパー形の土器である。波頂部に粘土瘤が貼付される。口縁部文様帯には、浮線で横位に区画された中を入り組み状の渦巻き文が施文される。胴部には、横位に区画された中を縦位やX字状の文様が施文される。2は、口縁部片で粘土瘤で獣面の突起が付けられる。

5から11は、諸磯c式土器である。10は、平行沈線を集合化させた沈線で、口縁上部を横位に施文。胴部を縦位区画し、対弧状の文様とX字状の文様を描く。8は、口縁部に棒状の貼付文と、円形の貼付文が施文される。横位に施文された棒状の貼付文と円形の貼付文には、半截竹管の刺突痕が残る。貼付文の下は、集合沈線が横位、矢羽根状に施文されている。7は、小さい円形の貼付文が、集合沈線による横位の矢羽根状に施文された交点に貼付される。9も7と同様の沈線による文様を描く。貼付文はやや細めで半截竹管の刺突痕を持つ。5、6は、集合沈線による横矢羽根状の文様。11は、集合沈線により胴部文様帯を縦位に区画し、その間を鋸歯や対弧状に文様を描く。器面には、棒状や刺突痕のある円形貼付文が施文される。14は、RLの斜行縄文施文の土器。15は、無節Lrの斜行縄文施文の土器。12、13は、口唇部の器面を摘み上げたように施文している。口縁部文様帯には、横矢羽根状の文様が描かれている。16は、有孔浅鉢である。口縁の屈曲部に円形の小孔が巡る。胴部には屈曲部が見られない。無文の土器である。

J－35住居址（第56・57・58・59・60図）

出土遺物　本住居址からは、前期中葉の関山II式・神ノ木式土器、前期後葉の諸磯b式・浮島

式土器・諸磯ｃ式土器が混在して出土している。１は、神ノ木式土器である。４単位の波状口縁の土器である。波頂部は、小突起が二対ある。波底部にも、台形の突起を持つ。口縁に沿って櫛状工具を押し引きした縦位の施文。胴部下半にも同じ縦位の押し引き文を施文して、口縁部文様帯を作り出している。口縁部文様帯には、同じ工具により平行沈線で鋸歯状に施文し、その間に押し引きの施文を施している。これは、異条斜縄文を工具の転換により表現していると考えられる。８、９は関山II式土器。８は、注口土器である。口縁に沿って縦長のコンパス文を施文。地文は、胴部に施文方法を変えて組紐を施している。９は、平行沈線で口縁部文様帯に幾何学文を描く。12は、ループ文施文の土器で18、19は、組紐。関山II式土器である。17から20は、関山II式土器の底部片。

21から29は、諸磯ｂ式土器。21から23、25から29は、浮線文の土器。浮線文により横位に口縁部文様帯、胴部文様帯を区画する。区画の中を入り組み状渦巻き文や矢羽根状の文様を施文する。口縁は、波状口縁になるものが多く、波頂部に粘土瘤が貼付される。24は、平行沈線による施文。口縁部文様帯を横位の区画線で広くとり斜線と弧線を連結する。口縁には、小突起が貼付される。７は、浮島III式土器に比定される。平行沈線で横位区画と鋸歯文を持つ。地文に半截竹管の刺突痕を持ち、浮島III式土器の三角文風に表現している。40は、諸磯ｂ式土器で、単節RLの斜行縄文施文の土器である。器面がやや摩滅している。10、11は、組紐施文の土器。13は、LR施文。14、15、16は、Lr施文で関山II式土器。32は、直前段反撚の土器で器面全体にまばらに施文している。35、36、38、39、41はRLの斜行縄文施文の諸磯ｂ式土器。３、４は神ノ木式土器で、櫛状工具による縦位の押し引きの施文に条線が施文される。30、31は、Lrの斜行縄文。33、34は、Rlの斜行縄文を施文する。37は、諸磯ｂ式土器の底部片、RLの縄文施文。

Ｊ－36号住居址（第61図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式土器と黒浜式土器が出土している。１は、半截竹管による沈線で鋸歯文施文。２は、口縁に沿って沈線が施文される。３は、組紐施文の土器。４は、コンパス文施文の土器。５は、RLの斜行縄文。６は、前々段反撚。７は、直前段反撚施文の土器。８は、黒浜式土器。９、10の土器は、縦位の沈線を条線状に施文している。直前段合撚の異条斜縄文を羽状に施文し菱形を構成する。

Ｊ－37Ｂ号住居址（第62図）

出土遺物　本住居址からは、諸磯ｃ式土器が出土している。１、２は、斜線で格子目状に乱雑な線を引く。３は、諸磯ｃ式土器で集合沈線による縦位の区画と対弧状の文様を描く。４は、ミニチュア土器で、沈線を縦位に乱雑に引いている。前期末葉のものと思われる。

Ｊ－38号住居址（第63図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器が出土している。１は、口縁部片で、口縁部と頸部に短めに縦位の沈線が施文される。２は、組紐施文。３は、前々段合撚。４は、組紐地文で、縦長のコンパス文が施文される。胴の膨らみ部には、条線を交互に交差するように波状に施文している。５、６は地文組紐で、平行沈線による幾何学文。７は、地文組紐で、縦長のコンパス文を施文している。８は、直前段合撚の異条斜縄文。９は、底部片。

Ｊ－39号住居址（第64・65図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器が出土している。１は、４単位の波状口縁の土器。波長部は、二つの突起になり、二股になる。文様帯は、縦長のコンパス文で口縁部、胴部、胴部下半に区画している。口縁部文様帯は、半截竹管による平行沈線で、鋸歯状や弧線などにより幾何学的に施文されている。地文は、組紐施文。２は、上げ底の土器。３は、ループ文。４、５は、口縁部文様帯の破片で平行沈線により幾何学紋様を描く。６は、ループ文により鋸歯文を描いている。７は、組紐地文に縦長のコンパス文が施文される。８は、組紐地文に平行沈線で鋸歯文を描く。９、10は、底部片で上げ底になる。地文の縄文は、組紐を施文している。

Ｊ－40号住居址（第66・67図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器と神ノ木式土器が出土している。１、２は、組紐地文の土器で口縁部に縦長のコンパス文が施文される。４は、コンパス文が施文される。地文は０段多条ＲＬと０段多条ＬＲの羽状縄文。５は、平行沈線による渦巻き文。６は、地文組紐。口縁に沿って押し引きによる平行沈線が施文される。７、８は、櫛状の工具により施文される神ノ木式土器。９、11は、ループを持つ縄文で、胴部を区画するように施文している。器面全体は、直前段合撚の縄文による異条斜縄文で菱形を構成している。10は、ＲＬの斜行縄文施文の土器。

Ｊ－41号住居址（第68図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器・有尾式土器・前期後葉の諸磯式土器が出土している。１は、口縁部片で、地文組紐に平行沈線で渦巻き状の文様を施文している。２は、有尾式土器で、半截竹管による平行沈線で菱形を構成している。３は、羽状縄文。４は、諸磯式土器で直前段反撚。５は、器面に擦痕が見られる。６は、底部片で上げ底になる。直前段合撚。

Ｊ－42号住居址（第69図）

出土遺物　本住居址からは、時期の特定できる土器は少なく小破片が多い。前期中葉の土器群

が出土している。1は、RlとLrの羽状縄文。2は、黒浜式土器で平行沈線が横位に施文される。地文は、RL。3は、Lrが施文される。4は、組紐。5は、有尾式土器。6は、直前段合撚の異条斜縄文。

J－43号住居址（第70図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式土器が出土している。1は、組紐で、縦長のコンパス文が施文される。2は、LRの斜行縄文。3は、地文組紐で施文方向を変え羽状風にしている。4は、平行沈線で、交互に鋸歯状に描き菱形文を構成する。6は、平行沈線による鋸歯文。7は、底部片で上げ底になる。地文組紐。

J－44号住居址（第71・72図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式・神ノ木式土器・前期後葉の諸磯b式土器が出土している。1は、組紐地文に縦長のコンパス文が施文される。2、5は縄文施文。8は、直前段合撚の異条斜縄文。関山II式土器。3、4、6、7は神ノ木式土器である。櫛状の工具により縦に少し押し引いたものと条線を施文している。

9以下は、諸磯式土器である。9、11、12は、平行沈線で口縁部文様帯、胴部文様帯を横位に区画している。口縁部文様帯には、弧線を上下に対に施文している。9の地文は、RLの斜行縄文。10は、浮線により文様を描く。口縁部文様帯を浮線により区画し、渦巻き状の文様を描く。波状口縁の波頂部には、獣面をモチーフにした小突起が付けられる。13は、浮線施文の胴部片である。14、15は、有孔浅鉢片。爪形文による木の葉文が施文される。16は、底部片で、単節RLの斜行縄文が施文される。

J－45号住居址（第73図）

出土遺物　本住居址からは、関山II式・神ノ木式土器に混じり有尾式土器が出土している。1は、神ノ木式土器で、口縁部文様帯に櫛状工具による押し引きで菱形を構成している。胴部は縄の束が施文される。2は、RLを施文方向を変え羽状縄文風にしている。3は、地文羽状縄文の胴部にコンパス文が施文される。4、5は縄文施文。6は、ループ文。7は、直前段合撚の異条斜縄文。8は、ループ文にコンパス文が施文される。9は、平行沈線で菱形を構成する有尾式土器。10は組紐。11は、注口土器でRLの斜行縄文にコンパス文が施文される。

J－46号住居址（第74図）

出土遺物　本住居址からは、時期の特定できる土器は少なく小破片が多い。1は沈線による波

状文。２、３は、ループ文と組紐を施文。

Ｊ－47号住居址（第75・76図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式・神ノ木式土器が出土している。１は直前段合撚の異条斜縄文に縦長のコンパス文が施文される。３から５は底部片で上げ底になる。４は、RL と LR の羽状縄文を施文。６は、注口土器。ループ文を施文方向をずらせて鋸歯状に施文している。間に平行沈線によりＶ字状の文様を描く。２、７、８は、縄文施文。羽状縄文にしているものもある。９は、大形の深鉢で、RL の斜行縄文を施文している。口縁部に平行沈線で波状に文様を描く。以上が関山Ⅱ式土器。10は、神ノ木式土器で LR の斜行縄文を施文している。11は、櫛状工具による押し引きの施文と平行沈線により鋸歯状の文様を描く。神ノ木式土器。

Ｊ－48号住居址（第77図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式と神ノ木式土器が出土している。３は、注口土器で組紐施文。２は、押し引きによる平行沈線を、鋸歯状に施文し菱形を構成する。間にコンパス文が施文される。４は、横位の平行沈線で口縁部文様帯を２段に区画し鋸歯状の文様を描く。鋸歯が崩れて波状になる部分もある。５は、組紐地文でコンパス文が施文される。８は、神ノ木式土器で、櫛状工具による押し引きの施文間に条線が施文される。７は、直前段合撚の異条斜縄文。１、６、９、10は、縄文施文。

Ｊ－50号住居址（第78・79図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式にともない東海系の土器が出土している。１、５、13、14は、平行沈線により口縁部文様帯を区画し鋸歯文を施文。胴部にはコンパス文が施文される。１、13の地文は、口縁部文様帯に組紐、胴部は直前段合撚の異条斜縄文。２は、組紐地文に平行沈線で鋸歯状に施文される。口縁部にはコンパス文が施文される。４は東海系の土器で、波状口縁の口縁部を肥厚させ、波頂部から口縁部文様帯に細い隆帯を持つ。細い竹管を貝殻復縁状に施文している。３、７、８は、４に伴う東海系の土器で、細い沈線を格子目状に施文。９から12、15は大形の深鉢。９、10は、RL と LR の羽状縄文。11は、Lr の斜行縄文。12、15は、RL の斜行縄文。16は、組紐施文の土器。

Ｊ－51号住居址（第80図）

出土遺物　本住居址からは、前期後葉の諸磯ｂ式土器に混じり前期中葉の関山Ⅱ式が出土している。１は、関山Ⅱ式土器で組紐地文にコンパス文が施文される。２は LR の斜行縄文。

以下は諸磯ｂ式土器である。３は、平行沈線で文様帯を区画している。口縁部文様帯には、弧線が充填される。５は、浮線施文の土器。４、６は沈線により胴部が横位区画される土器。８は、RL の斜行縄文。10から13は、底部片である。13には、浮線が横位に施文されている。

Ｊ―52号住居址（第81・82図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器が出土している。１、６、10は、直前段合撚の異条斜縄文を地文に持つ。口縁部や胴部の区画にコンパス文が施文される。２、３、５、７は組紐施文。３、５は口縁部文様帯と胴部文様帯を区画するように短い沈線が縦位に連続して施文される。12は、底部片で上げ底になる。

Ｊ―54号住居址（第83図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式土器が出土している。１は、平行沈線による鋸歯文。２は、地文に直前段合撚の異条斜縄文で、縦長のコンパス文が施文される。３は地文組紐で、平行沈線により鋸歯文が施文される。４は、組紐施文の土器。

Ｊ―55号住居址（第84図）

出土遺物　本住居址からは、前期後葉の諸磯ｂ式、諸磯ｃ式土器が出土している。３から５は、浮線施文の土器。１は、口縁直下に刺突を持つ。２は、集合沈線により横矢羽根状に施文。９は、底部片で浮線文が施文されている。以上は、諸磯ｂ式土器。６は、口縁部片で棒状や円形の貼付文を持つ。諸磯ｃ式土器である。

Ｊ―56号住居址（第85図）

出土遺物　本住居址からは、関山Ⅱ式・神ノ木式土器・黒浜式土器・有尾式土器が出土している。１は、RL の斜行縄文に乱雑な沈線による波状文を多段に施文。２は、神ノ木式土器である。櫛状工具により縦位の押し引きの施文と条線により菱形を構成する。３はループ文。５は、黒浜式土器で平行沈線を横位に施す。地文は、RL と LR の羽状縄文。６は、有尾式土器で、平行沈線で格子目文を施文する。７は、組紐地文に平行沈線を円形に施文。９は、組紐。８、10は、RL と LR で羽状に施文し、菱形を構成している。　（関根）

グリッド出土の土器

遺構外からは、縄文土器包含層として前期中葉から後葉の土器、中期後葉の土器が出土している。以下、その概略を記す。

前期中葉の土器（第86～104図）

関山II式に平行する神ノ木式土器が出土している。群馬県では、関山II式と神ノ木式土器が伴って出土する遺跡は、数例知られている。本遺跡では、格段に神ノ木式土器の出土数が多く、今後の編年研究に期待したい。後続する型式として、有尾式と黒浜式土器が少量ではあるが、出土している。

関山II式土器

3は、口縁部文様帯に平行沈線による波状文を幾重にも施文する。胴部は、羽状縄文で菱形を構成する。前期中葉の土器。

4は、4単位の波状口縁になる深鉢。口縁部文様帯は、平行沈線で鋸歯状や幾何学文様を描く。頸部の区画には縦長のコンパス文が施文される。胴部文様帯にも平行沈線で鋸歯状や幾何学文を描く。地文は組紐。5、9、10も4に同様。6は、地文をループの縄文で鋸歯状に文様を描く。8は、注口土器である。口縁部文様帯に平行沈線で鋸歯状や渦巻き状の文様を描く。胴部には鋸歯状の文様を描く。

11から13、196、207は、注口土器である。関山式に特有の片口注口土器である。平行沈線で鋸歯状に文様を描く。地文に組紐を持つものが多い。

7、14から28、31から39、41から49、97、122、132、133、167、170、173、197、241、243、244、264、272、274、281、282、283、317から323、438は、平行沈線で鋸歯状や幾何学文様を描く。口縁部文様帯を横位の平行沈線で区画し、区画内に鋸歯文を交互に施文し、菱形を作るもの（15）。鋸歯文の交点に円形の刺突を加えるもの（19）。規矩状に文様を施文するもの（25、28）等、様々な文様モチーフを描く。地文は、組紐や直前段合撚の異条斜縄文を持つもの、ループの縄文で鋸歯状に文様を表現するものがある。

120、121は、平行沈線で渦巻き状の文様を描く。文様モチーフが前述の土器に比べ粗雑化している。120は、地文にRL、LRで羽状に施文し、菱形を構成している。

50から96、98、114から119、184、242、269、270、299、302、306は、コンパス文が施文される土器。縦長のコンパス文や短く交互に支点をずらすものがある。コンパス文が波状化しているものも見られる。224は、附加条の地文に波状化したコンパス文が口縁に沿って施文される。地文に組紐や直前段合撚の異条斜縄文などを持つもの、242は、ループの縄文で鋸歯状に文様を表現する。いずれの縄文も関山II式土器に特徴的に見られる縄文である。

神ノ木式土器

1は、4単位の波状口縁を持つ深鉢。波状口縁に沿って、口縁部文様帯に櫛状工具による縦位の押し引きと条線を施文する。2は、口縁部文様帯を平行沈線で区画する。区画内を交互に鋸歯状に施文することで格子目状に描いている。格子目の中に渦巻き文を入れる。地文は、縄の束。

40、99から113、260、262、277は櫛状工具による押し引きの縦位刺突文とその間に細い条線により三角や菱形を構成する。これにより直前段合撚の異条斜縄文に似せた文様効果を表している。101、105、107は、口縁部が波状口縁になり波頂部から隆帯が垂下するものもある。104、106、109、113、260、277は、地文に縄の束を使い組紐風にしている。

有尾式土器

123、126から129、131、341から347。口縁部が、丸みを帯びた波状口縁になり、口縁部文様帯に平行沈線で菱形に文様を描く。339、340は、平行沈線と爪形文を並用して菱形を構成する。

黒浜式土器

124、125、130、135、326、327、331、335から338は、平行沈線により格子目状に文様を描いている。124はLrの斜行縄文を乱雑に施文している。142は、平行沈線により鋸歯状に文様を描いている。324、325、328から330、332から334は、平行沈線を横位・斜位に施す。

前期中葉の縄文施文の土器

縄文施文の土器を一括した。

RL撚りの斜行縄文。本来なら羽状縄文になるもので、小破片のためRLに認定したものも含む。

137から138、139、143、145、147、155、157、161、168、180、190、213、229、233、236、239、251、252、254、259、261、265、284、285、286、287、292、295、316。

LR撚りの斜行縄文。本来なら羽状縄文になるもので、小破片のためLRに認定したものも含む。

156、158、163、179、181、183、187、192、196、198、228、238、240、250、257、264、298、300、303、305、311、312。

RLとLRで羽状に施文し菱形を構成する。

140、149、153、154、160、164、165、166、174、186、194、195、227、230、232、235、237、255、256、258、263、266、267、279、280、291、304、307、309、313、534。

直前段合撚の異条斜縄文を羽状に施文し菱形を構成。

30、146、177、221、222、223、225、226、268、271、273、275、276、294、297、308、315。

組紐施文の土器。

144、148、150、151、152、159、162、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、214、215、216、217、218、219、220、234、246、247、248、249、253、289、290、296、301、310。

ループの縄文施文の土器。

199、200、231、245、278、282、283。

169、171、172、188は、ループの縄文を方向を変えて施文し、鋸歯状の文様効果を表現している。

無文・不明。

136、175、176、178、182、185、293、314。

前期後葉の土器（第105～118図）

出土している前期後葉の土器は、諸磯ｂ式の幅広の爪形文土器、浮線文段階以降から集合沈線文の段階の土器。集合沈線施文の諸磯ｂ式終末段階の土器から、諸磯ｃ式土器に連続する資料が見られる。また諸磯ｂ式、諸磯ｃ式土器に伴う同時期の大木系土器も出土している。後続する型式の十三菩提式土器も少量であるが出土している。

諸磯ｂ式土器

文様施文方法から幅広爪形文、浮線文、沈線文に分けた。

幅広爪形文の土器　362から388。

器形は、底部から直に外反する深鉢を呈するものが多い。波状口縁になるものもある。爪形文の文様モチーフは、口縁部文様帯を幅広の爪形文で横位に区画し、弧線文を充填している。363、367、368、372、381、382、384では、横位の爪形文施文の間を隆線状に残し、斜位の刻みを施す。浮線文上に斜位の刻みを持つものがあるが、これに繋がるものと考えられる。

浮線文の土器　348、352、353、389から430。

本類の土器は、口縁部が靴先状になるキャリパー形を呈し、波状口縁になる。389、391、394、397、399、402、406、407、410では、波状口縁の頂部直下に粘土瘤を貼り付けている。浮線による文様モチーフは、口縁部を横位に区画し、区画内を渦巻きや入り組み状弧線文、渦巻き文、対弧文などで充填する。胴部文様帯は、横位の区画内にＸ字状や弧線、斜線が充填される。地文には、RL、LR、Lr の斜行縄文が施文される。浮線の種類は、器面にやや太めの浮線を貼付し断面に丸みを持つものと、粘土紐をなでつけるようにして貼り付け、断面の扁平なタイプがある。

348は、４単位の小波状口縁を持つ、キャリパー形になる浮線施文の深鉢土器。口縁部文様帯、胴部文様帯を浮線で区画し、弧線を間に充填している。地文は RL の斜行縄文。

352は、浮線施文の土器。器面全体を横位に浮線文で文様区画をする。区画内をＸ字状や縦線に文様を充填する。

353は、浮線施文の土器。胴部下半を横位に浮線で文様区画し、斜線や弧線で入り組み状の文様を描いている。

沈線文の土器　350、351、431から437、439から467。

本類の土器は、浮線施文の土器と同様に口縁部が屈曲したキャリパー形を呈した波状口縁になる。432、439では、波状口縁の頂部下に粘土瘤を貼り付けている。文様モチーフは、口縁部文様帯を横位に平行沈線で区画し、入り組み状の弧線や渦巻き、風車状入り組み文等を充填する。地文は、RL の斜行縄文が多く施文されている。

350は、やや太めの平行沈線で口縁部文様帯と胴部文様帯を区画する。口縁部文様帯には、斜線で鋸歯状に文様を描く。地文は、RL の斜行縄文がまばらに残っている。

351は、胴部下半が若干膨らむ深鉢。集合沈線で胴部文様帯を横位に区画する。区画内に風車状入り組み文や横矢羽根状の文様を充填する。

467は、胴部文様帯は、横位の沈線で区画し、その中に横位の矢羽根文を充填している。

諸磯ｃ式土器

468から494。496から520。

諸磯ｃ式土器の特徴は、口縁部文様帯に、棒状・耳朶状・円形の貼付文を持つ。胴部にも同様に棒状や円形の貼付文を持つ。貼付文の下は、集合沈線で口縁部文様帯を横位に区画する。胴部文様帯は、さらに集合沈線により縦位に区画され、その中を対弧文や斜線、矢羽根状、格子目状に文様を充填する。地文に縄文が施文されるが、文様を描く沈線により消される場合が多い。477、478は、集合沈線により口縁部文様帯と胴部文様帯を区画している。胴部文様は、さらに縦位の区画と対弧や矢羽根状施文で充填している。482は、口縁部の棒状貼付が細長くなる例。490、514は、さらに細長くなる棒状貼付に、竹管による押圧が加えられる。483は、ヘラ状の工具により口縁部に沿って器面を掘り起こすように爪形文を施文している。520は、縄文地文の上に棒状の貼付文が施された例。

その他の土器

諸磯ｂ式終末から諸磯ｃ式土器に伴う土器　535から544。

本類の土器は、興津式土器や大木５式土器の影響下にある土器群。535から540は口縁部にヘラ状工具による器面を掘り起こしたような爪形文を持つ。興津式土器の口縁部に同様な施文が見られる。541から544は、粘土紐を鋸歯状に貼り付けたもので大木５式に見られる。

縄文施文の土器

諸磯ｂ式土器から諸磯ｃ式土器に伴う縄文施文の土器　349、532、533。

349は、単節 RL の斜行縄文を施文する。全体に摩滅が多い。533は、LR の縄文が施文される。器面は摩滅が多く縄文の残りは良くない。532は、口縁部が屈曲する深鉢。横位の平行沈線と Lr の縄文が施文される。波状口縁の頂部直下に粘土瘤を貼り付けている。

有孔浅鉢

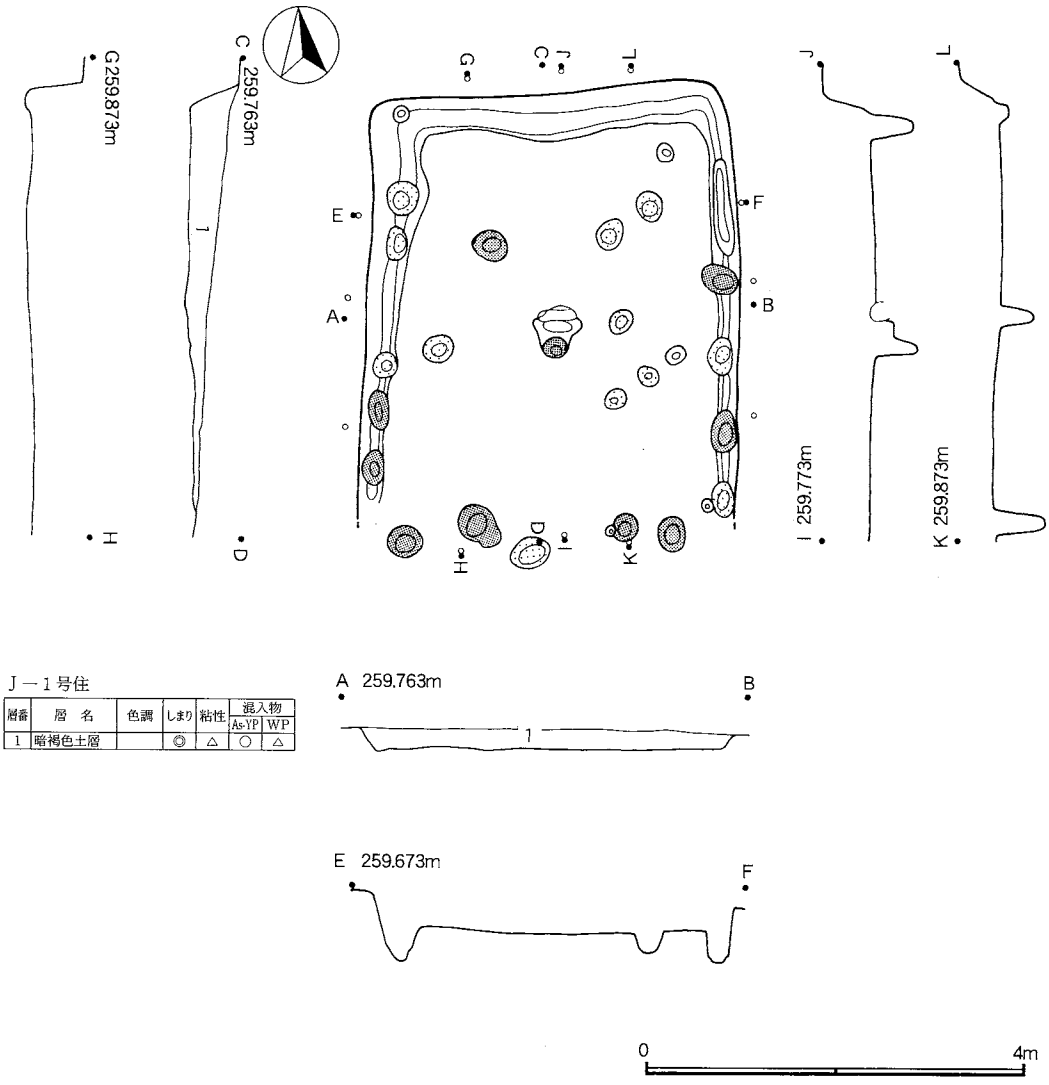
354から361、521から531。

354から356、522から529は、半截竹管による爪形文で、入り組み状の弧線や渦巻き三角文を描く。357から361、521、530、531は、無文である。361は、底部内面に漆状の樹液が付着している。

前期末葉の土器

諸磯ｃ式土器に後続する前期末葉の土器群をまとめた。495、545から573。

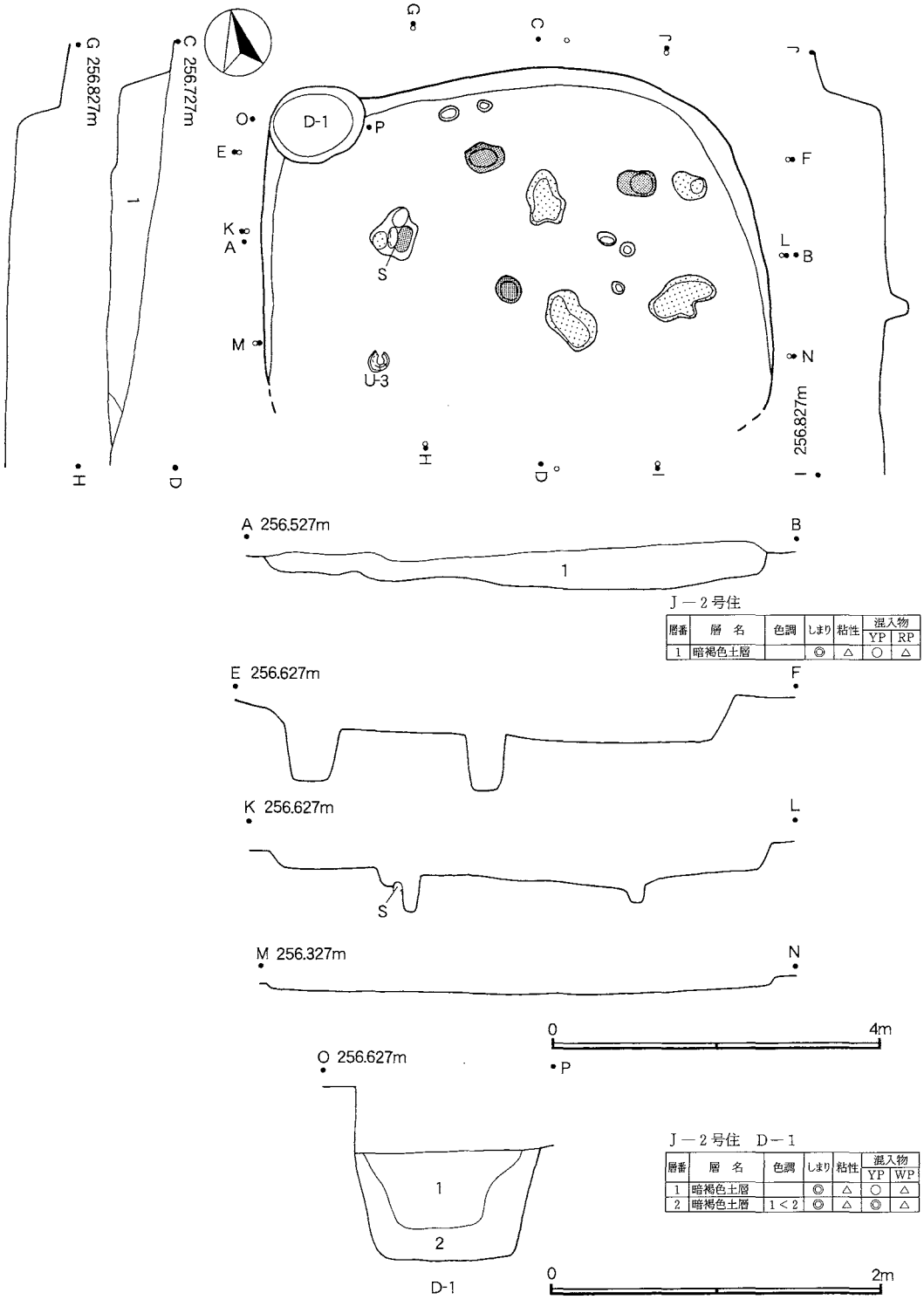
545から555、568では、集合沈線で文様を描き、文様の空白部の器面に三角形の印刻を持つ。また、粘土紐を貼り付けその肥厚した部分に三角形の印刻を施すものもある。558から561では、集合沈線で矢羽根状に施文し、三角の無文部を作っている。495、562から567、569から573では、結節浮線や結節沈線で文様を描く。（関根）



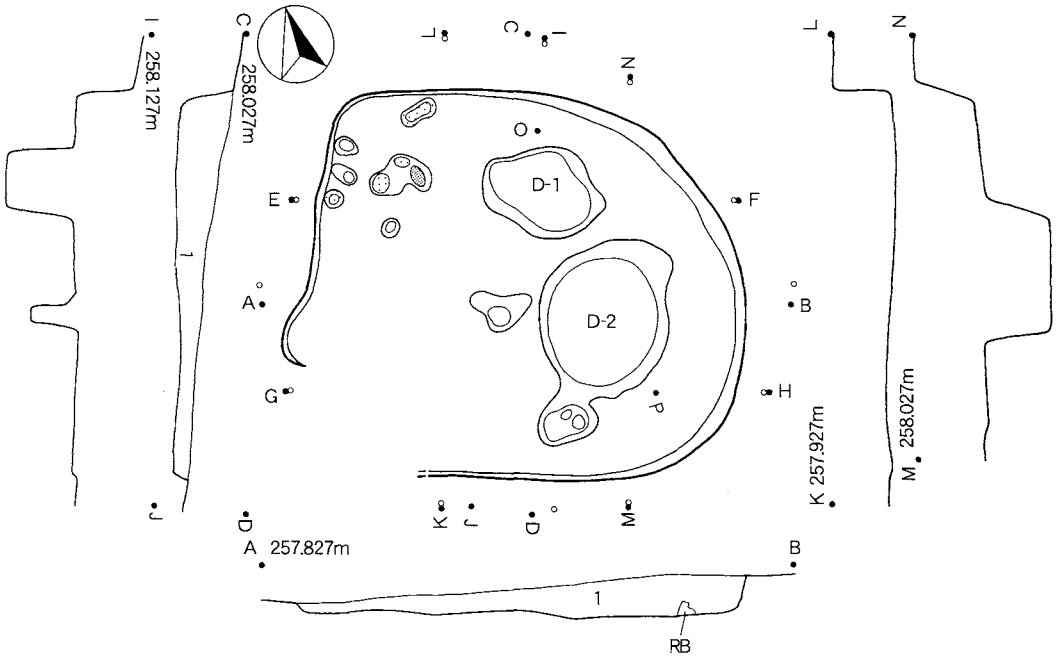
J－1号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					As-YP	WP
1	暗褐色土層		◎	△	○	△

第4図　J－1号住居址実測図



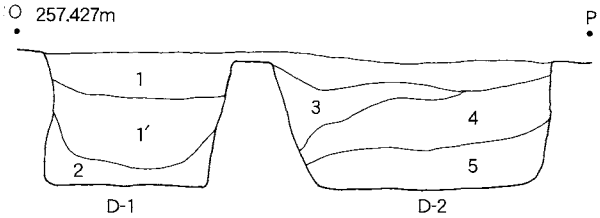
第5図　J－2号住居址実測図



J－3号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	RP
1	暗褐色土層		◎	△	○	○

0　2m

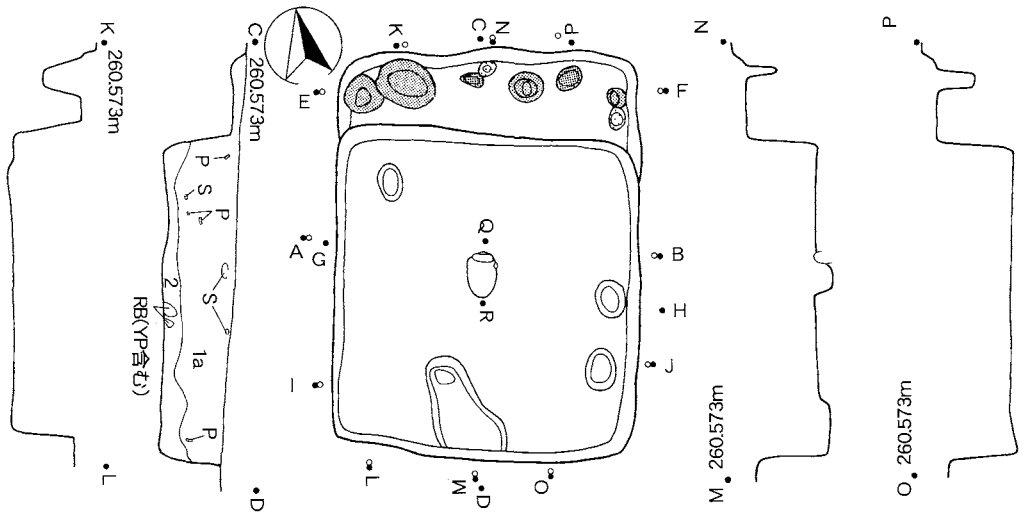


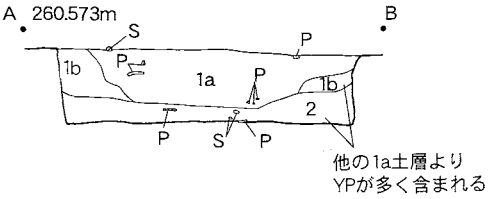
J－3号住　D－1・D－2

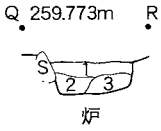
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物			
					YP	WP	RP	RB
1	暗褐色土層		○	△	△	×		
1′	暗褐色土層	1＜1′	○	△	○	△	×	
2	暗褐色土層	1′＜2	○	○	○	△	△	
3	暗黄褐色土層		○	△	○	△	△	
4	暗黄褐色土層	3＜4	○	○	◎	△	○	
5	暗黄褐色土層	4＞5	◎	○	△	△	○	○

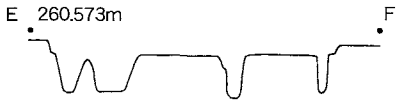
0　2m

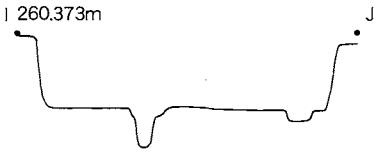
第6図　J－3号住居址実測図









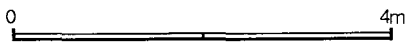


Ｊ－４号住　炉

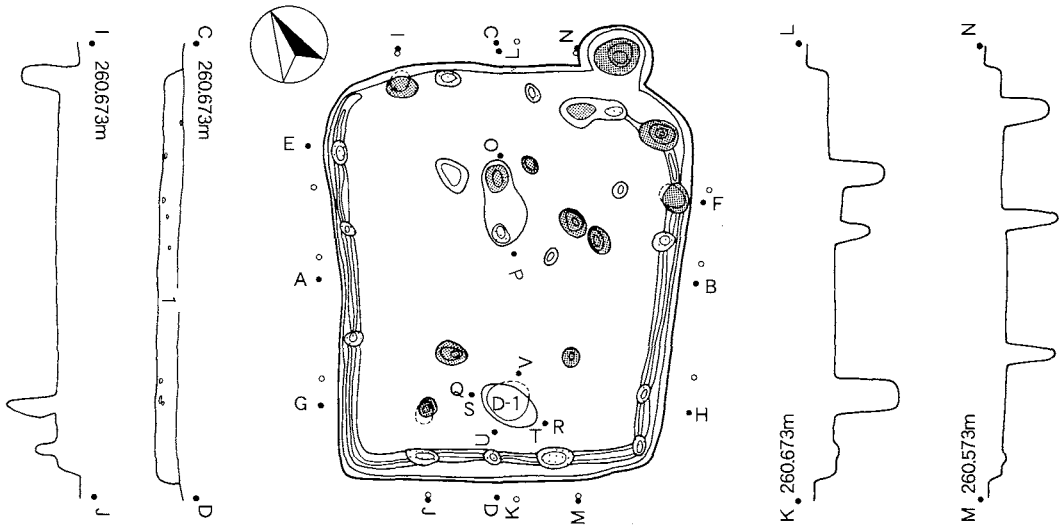
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RP
1	暗黄褐色土層		△	○	△
2	暗黄褐色土層	1<2	△	○	○
3	黄褐色土層		△	◎	○

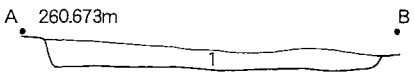
Ｊ－４号住

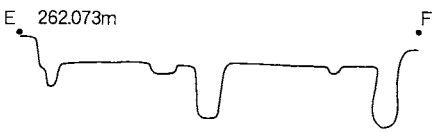
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 RP	混入物 炭化物	備　考
1a	暗褐色土層		◎	△	△	×		×	
1b	暗褐色土層	1a<1b	◎	△	○	×		×	他の1a、2層よりYPが多く含まれる
2	暗黄褐色土層		◎	○	△	×	△	×	他の1a、2層よりYPが多く含まれる

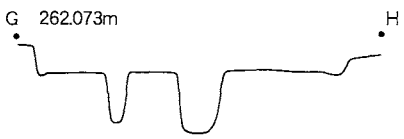


第７図　Ｊ－４号住居址実測図



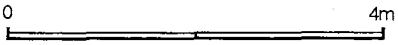


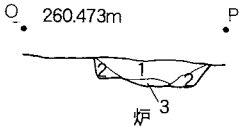




J－5号住

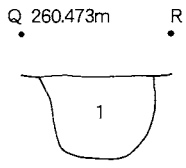
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

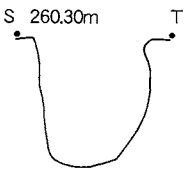


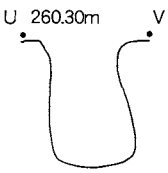


J－5号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物			
					YP	RP	WP	焼土
1	暗褐色土層		○	△	×			
2	暗黄褐色土層		○	△	△	○	△	
3	赤褐色土層		○	×				◎



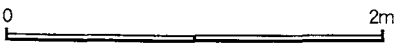




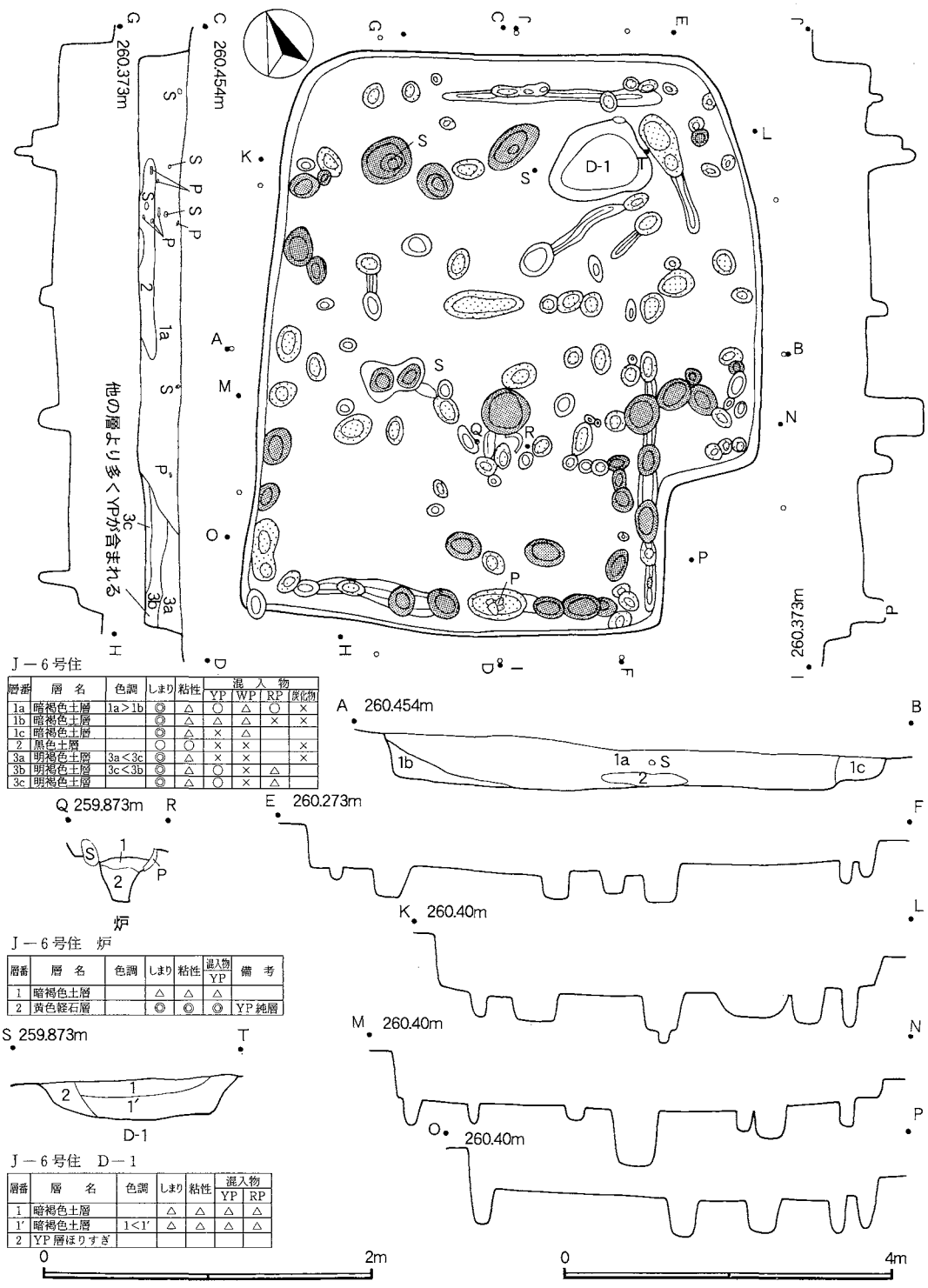
J－5号住　D－1

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物
					RP
1	暗褐色土層		○	○	◎

D-1



第8図　J－5号住居址実測図



J－6号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 RP	炭化物
1a	暗褐色土層	1a＞1b	◎	△	○	△	○	×
1b	暗褐色土層		◎	△	△	△	×	×
1c	暗褐色土層		◎	△	×	△		
2	黒色土層		○	○	×	×		×
3a	明褐色土層	3a＜3c	◎	△	×	×		×
3b	明褐色土層	3c＜3b	◎	△	○	×	△	
3c	明褐色土層		◎	△	○	×	△	

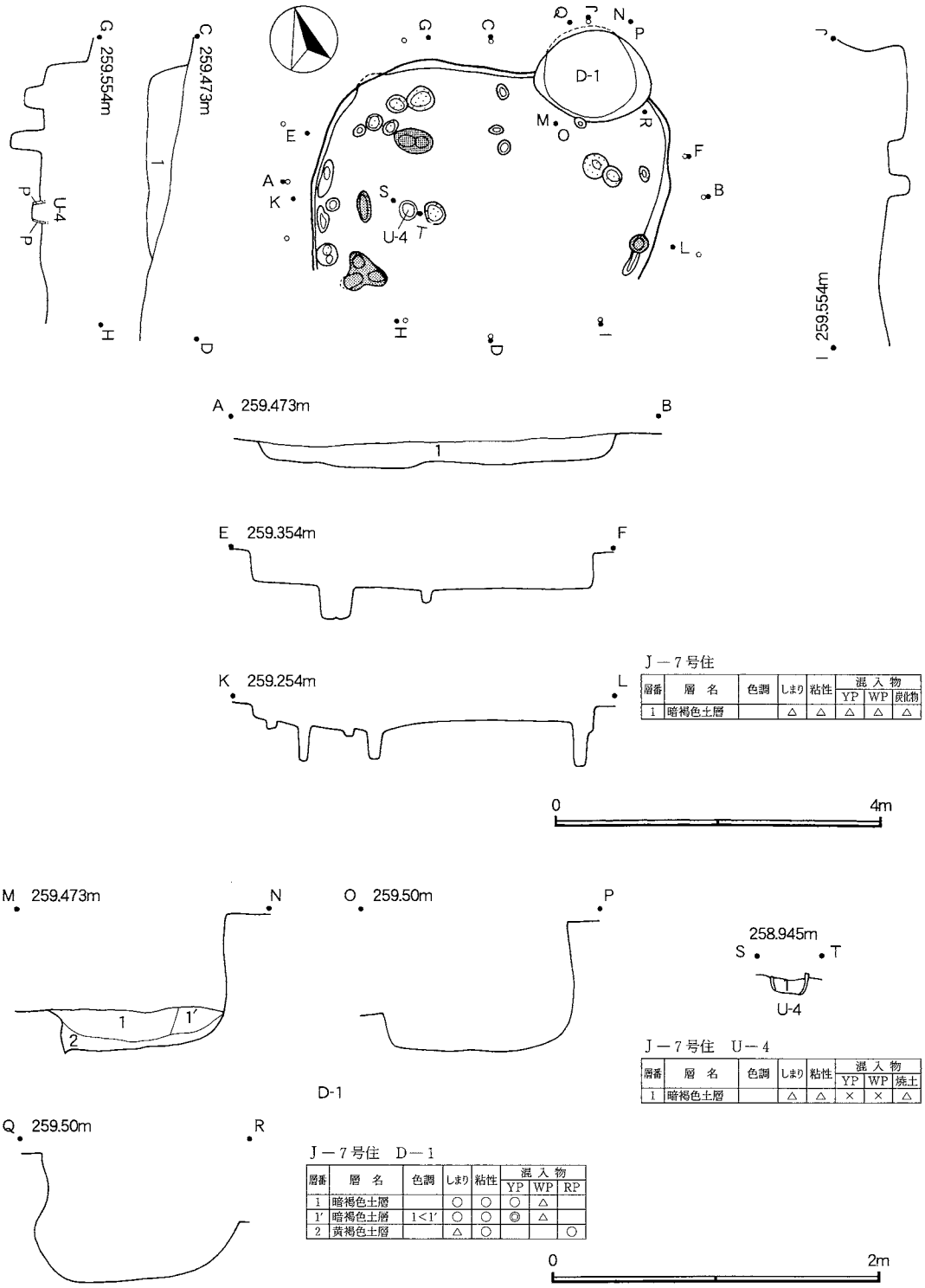
J－6号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	備考
1	暗褐色土層		△	△	△	
2	黄色粒石層		◎	◎	◎	YP純層

J－6号住　D－1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		△	△	△	△
1′	暗褐色土層	1＜1′	△	△	△	△
2	YP層ほりすぎ					

第9図　J－6号住居址実測図



J－7号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 炭化物
1	暗褐色土層		△	△	△	△	△

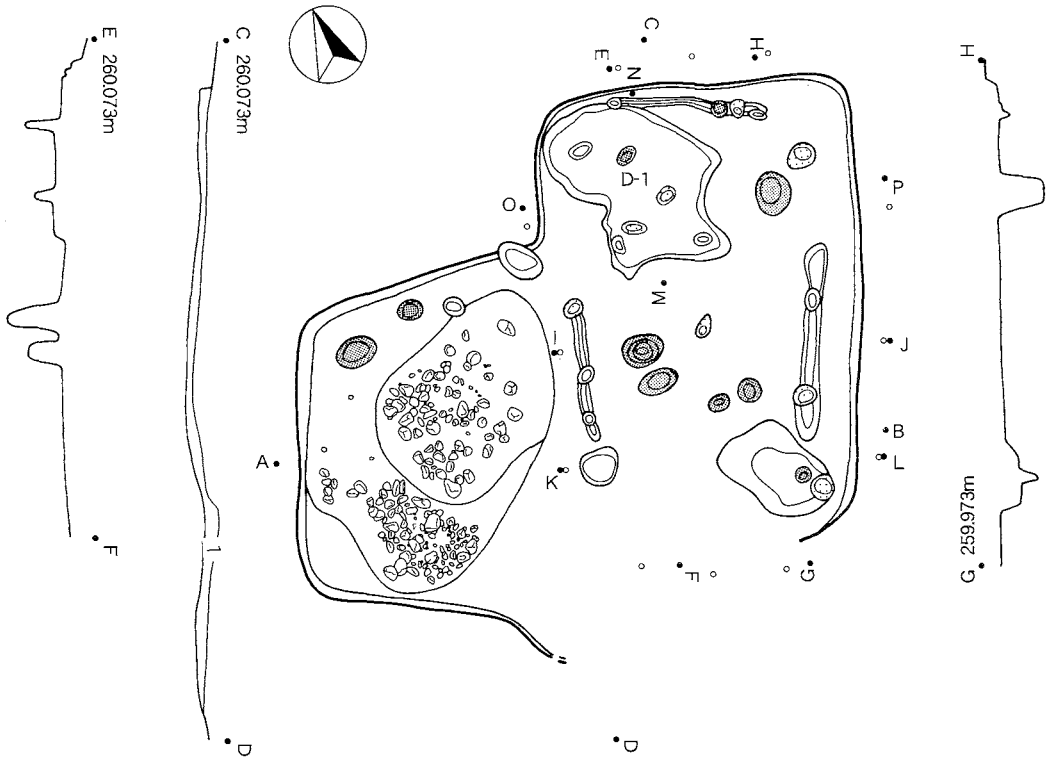
J－7号住　U－4

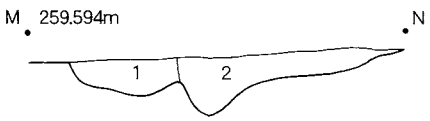
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 焼土
1	暗褐色土層		△	△	×	×	△

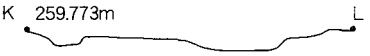
J－7号住　D－1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	○	○	△	
1′	暗褐色土層	1<1′	○	○	◎	△	
2	黄褐色土層		△	○			○

第10図　J－7号住居址実測図







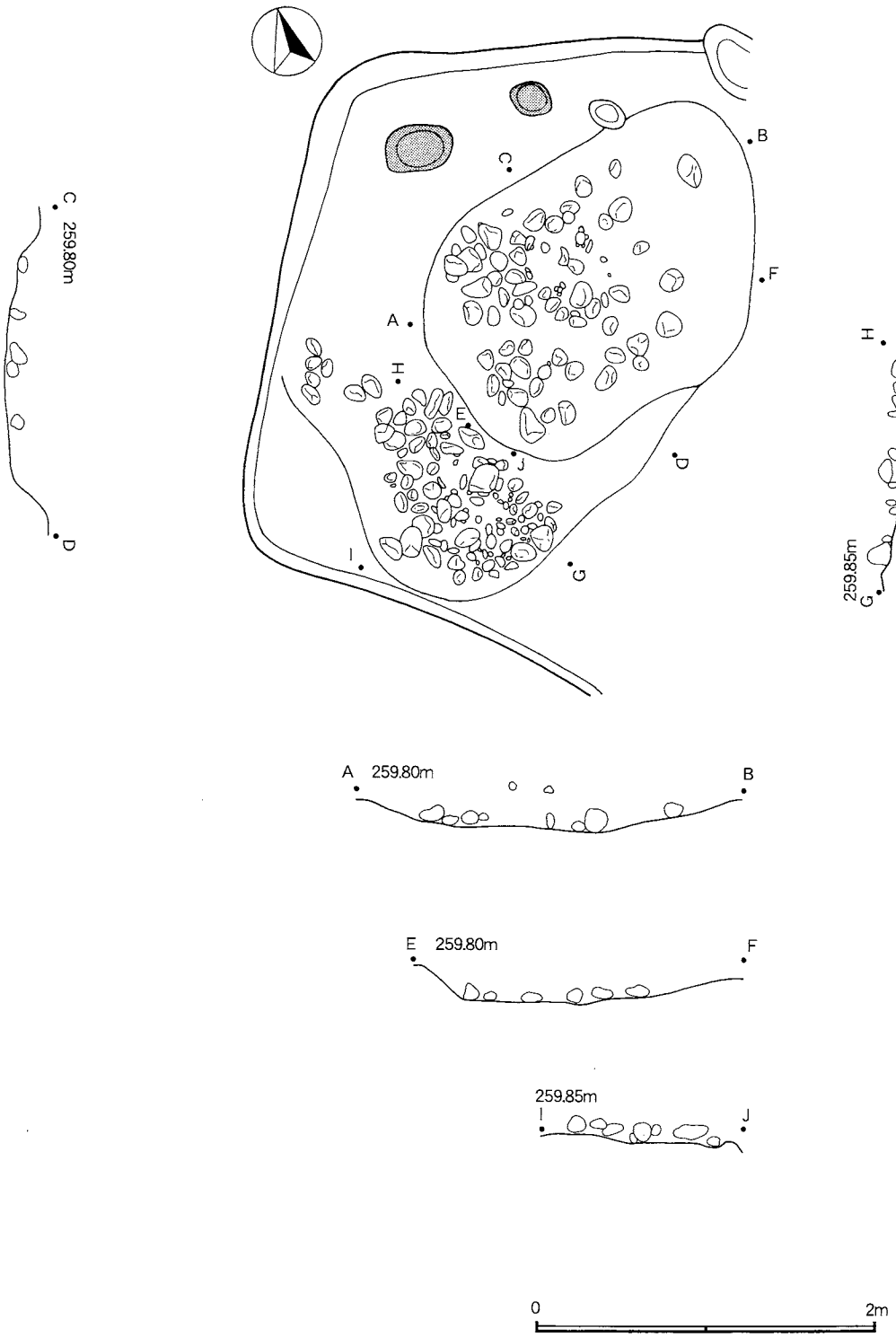
J－8号住　D－1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	混入物 RP
1	暗褐色土層		△	△	△	△	△
2	暗褐色土層	1＞2	△	△	△	△	

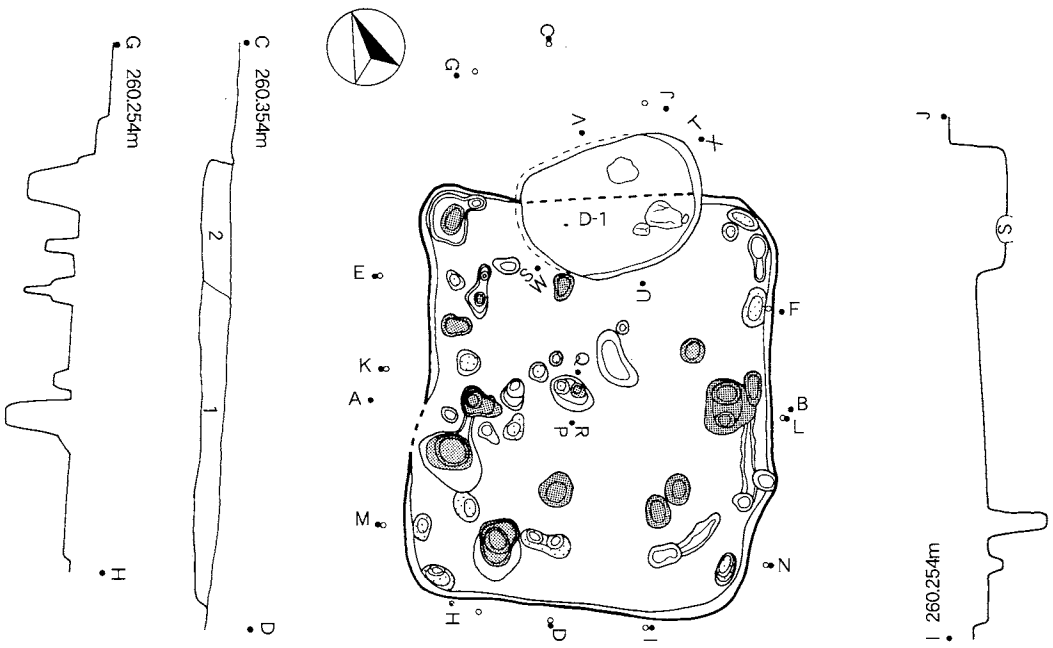
J－8号住

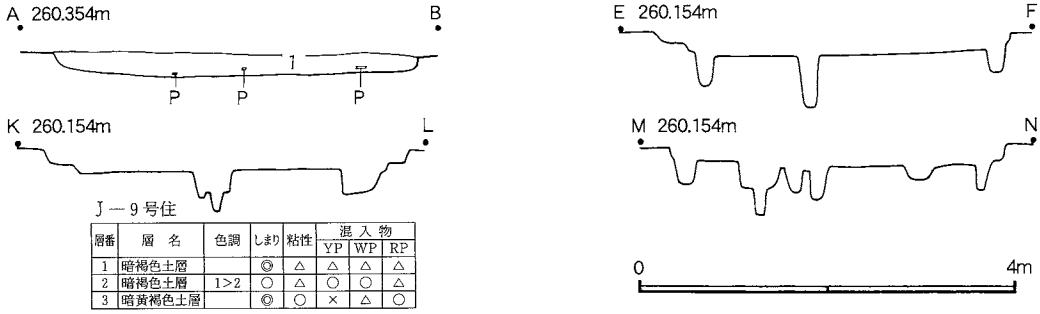
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

第11図　J－8号住居址実測図



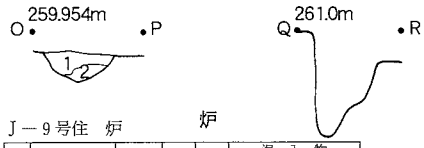
第12図　J－8号住居址実測図





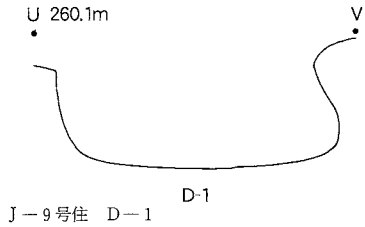
J－9号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	WP	RP
1	暗褐色土層		◎	△	△	△	△
2	暗褐色土層	1>2	○	△	○	○	△
3	暗黄褐色土層		◎	○	×	△	○



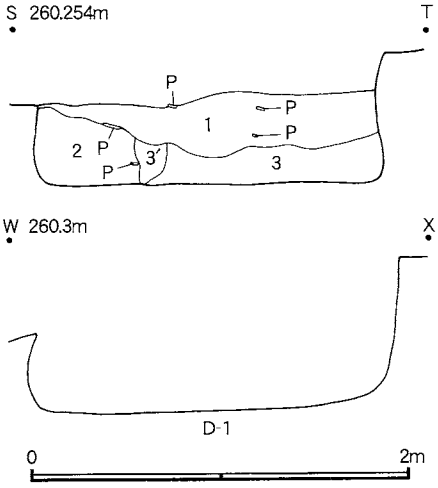
J－9号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	WP	RP	焼土
1	暗褐色土層		△	△	△	△		△
2	暗黄褐色土層		○	○			○	

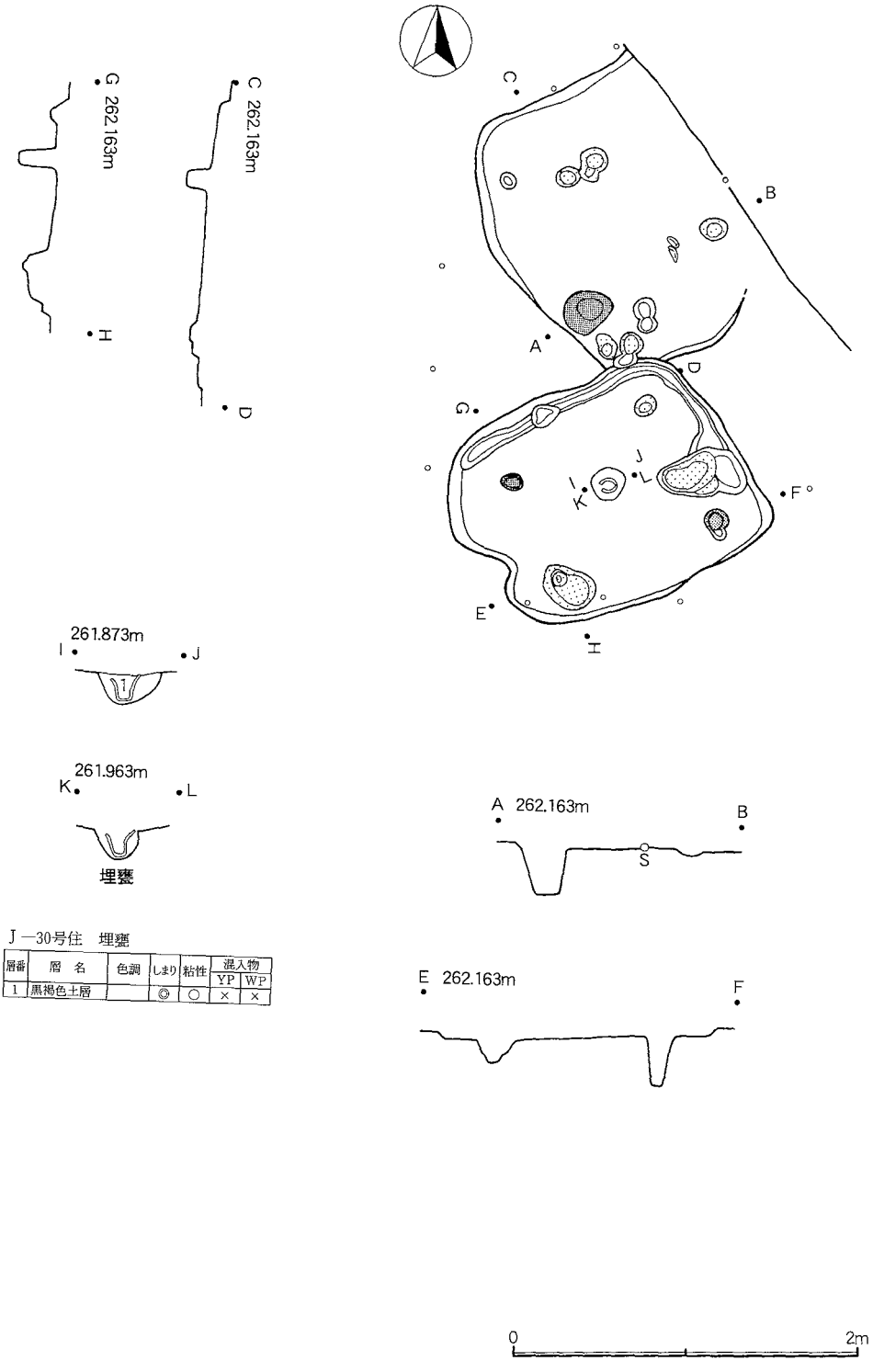


J－9号住　D－1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	WP	炭化物	スリップ
1	暗褐色土層		△	△	△	△	△	
2	暗褐色土層	1<2	△	△	○	△	△	
3	暗褐色土層	2<3	△	△	○	△		○
3′	暗褐色土層	3<3′	○	△	○	△		◎



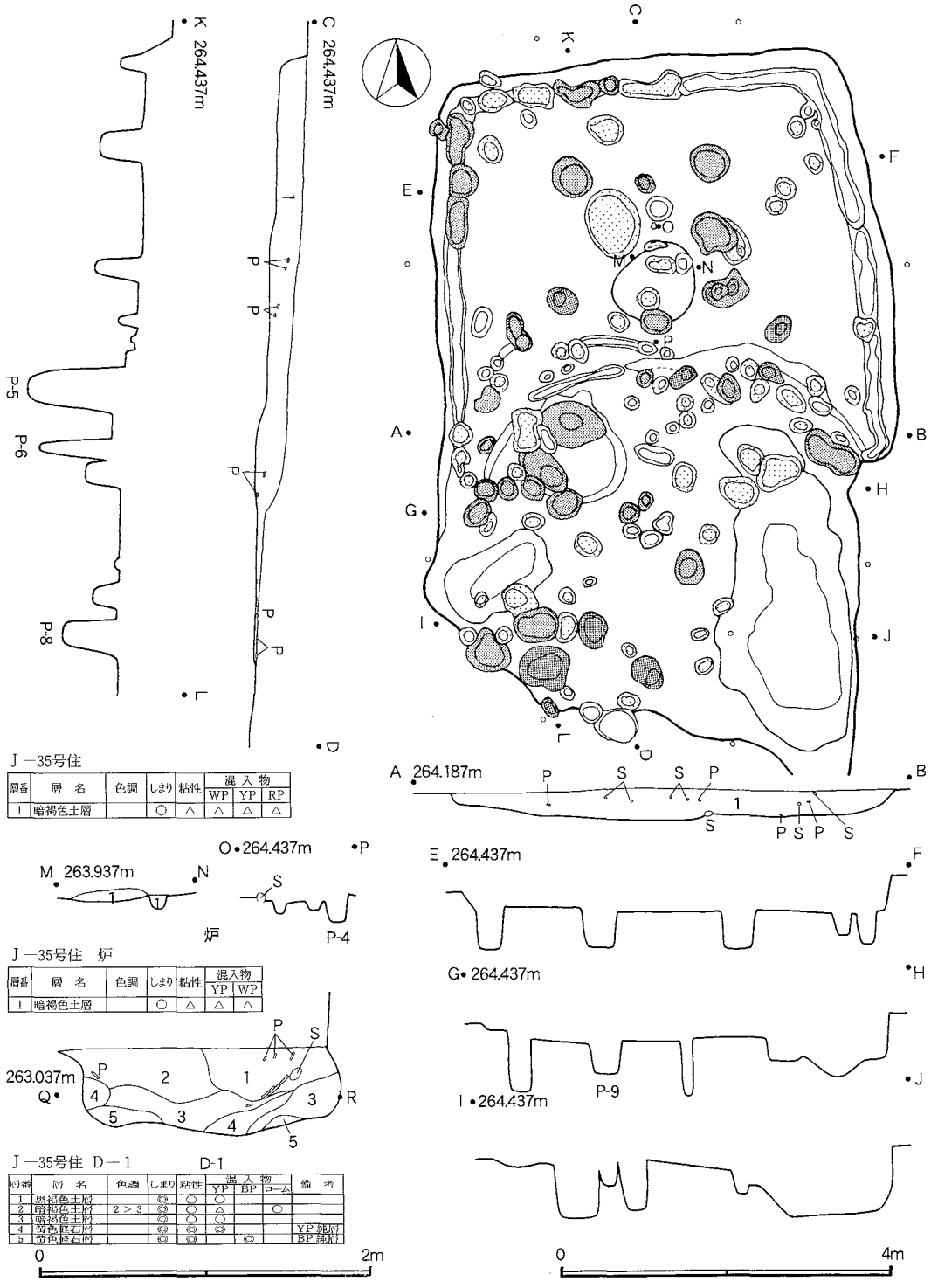
第13図　J－9号住居址実測図



J—30号住　埋甕

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	黒褐色土層		◎	○	×	×

第14図　J—30号住居址実測図



J－35号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

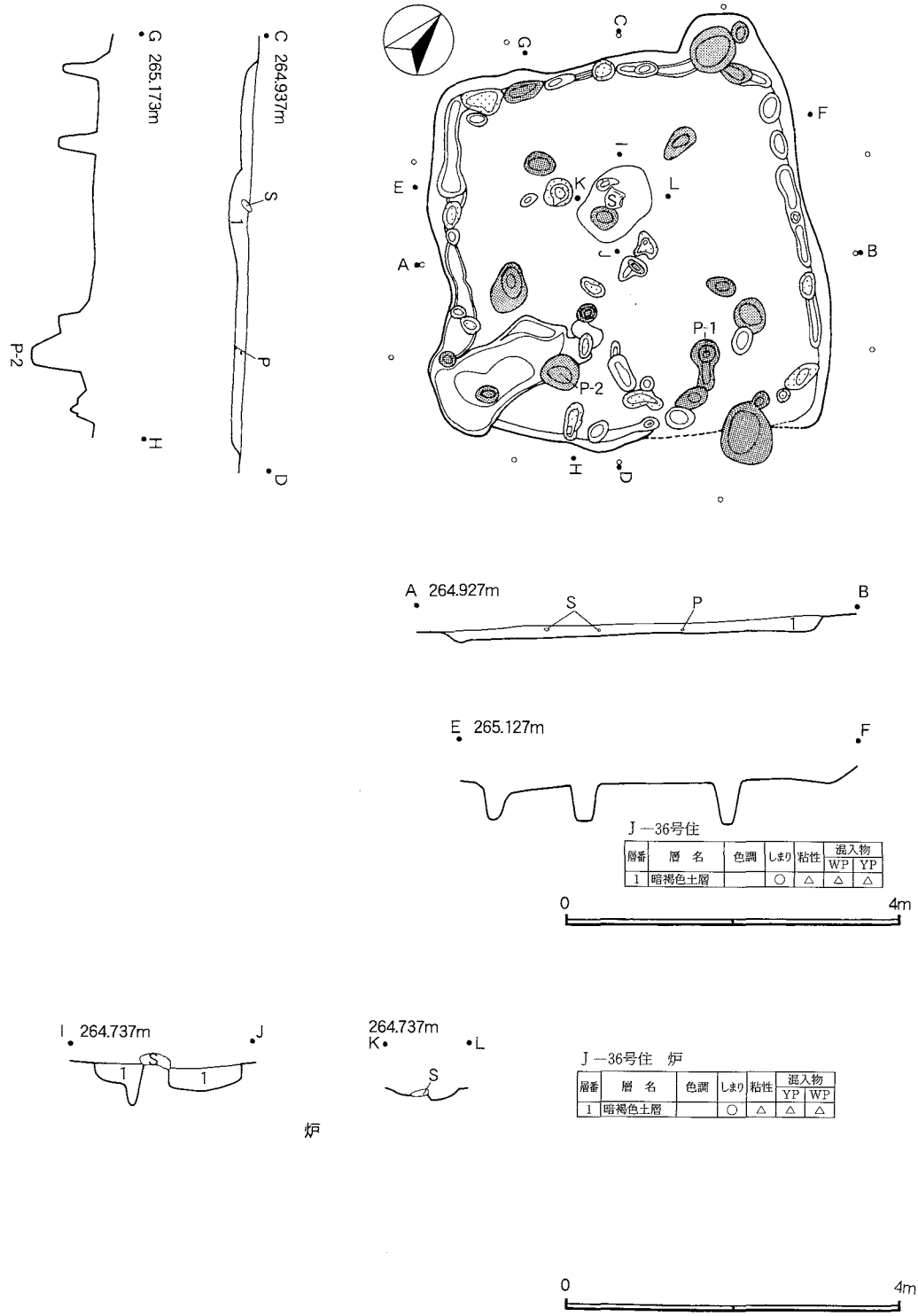
J－35号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

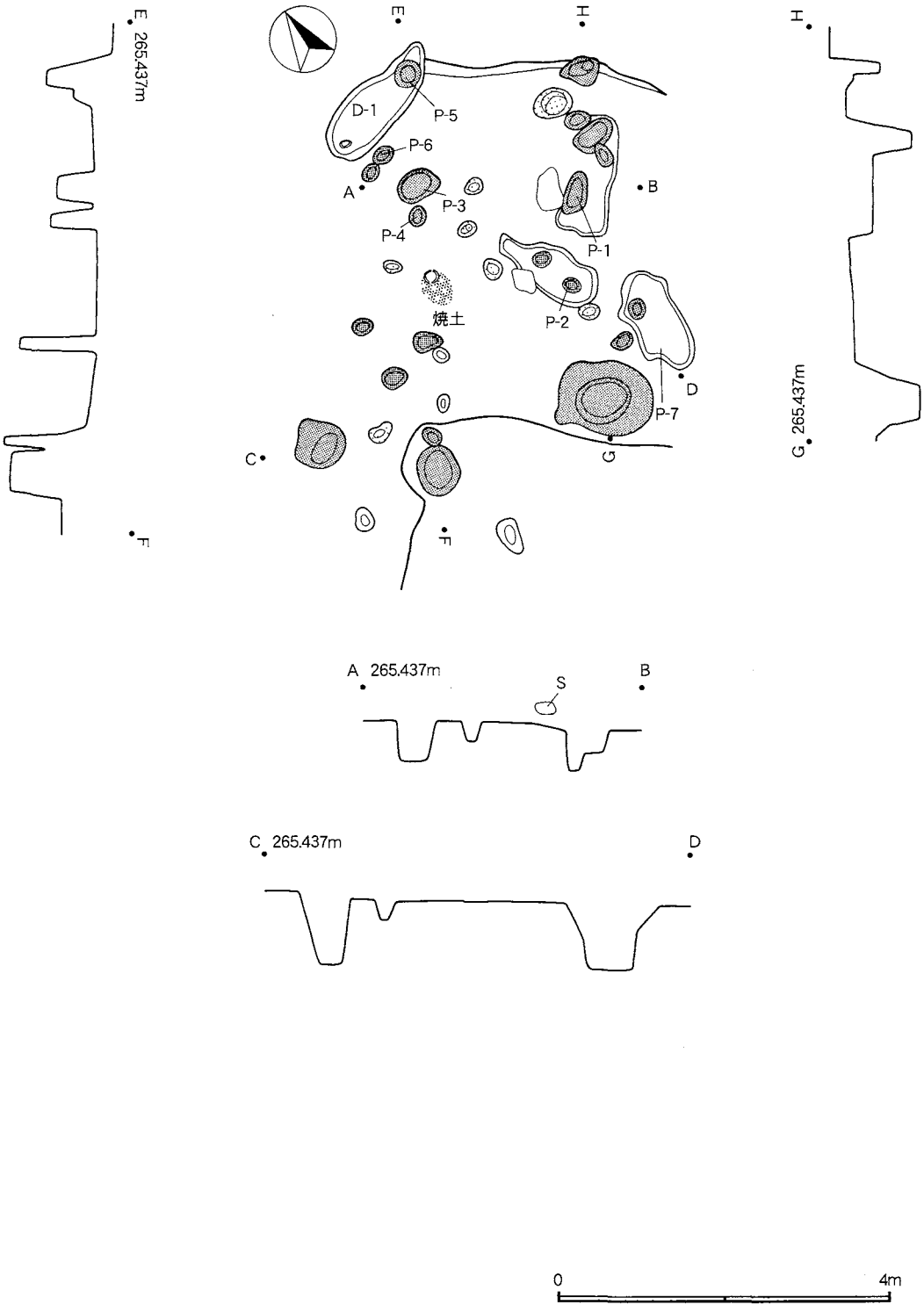
J－35号住　D－1　　D-1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
					YP	BP	ローム	
1	黒褐色土層		◎	○	○			
2	暗褐色土層	2＞3	◎	○	△		○	
3	暗褐色土層		◎	○	○			
4	茶色軽石層		◎	◎	◎			YP純層
5	茶色軽石層		◎	◎		◎		BP純層

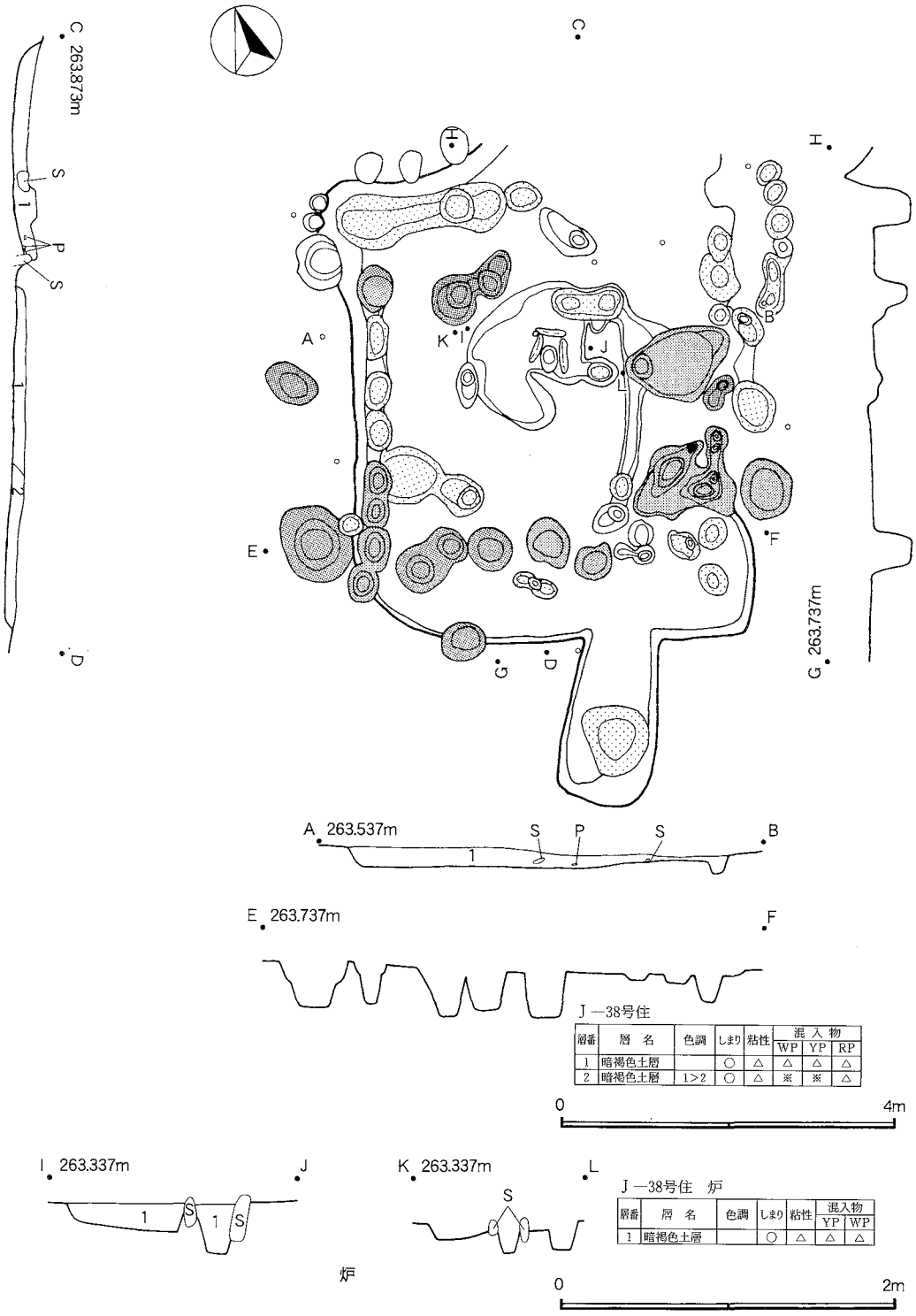
第15図　J－35号住居址実測図



第16図　J－36号住居址実測図



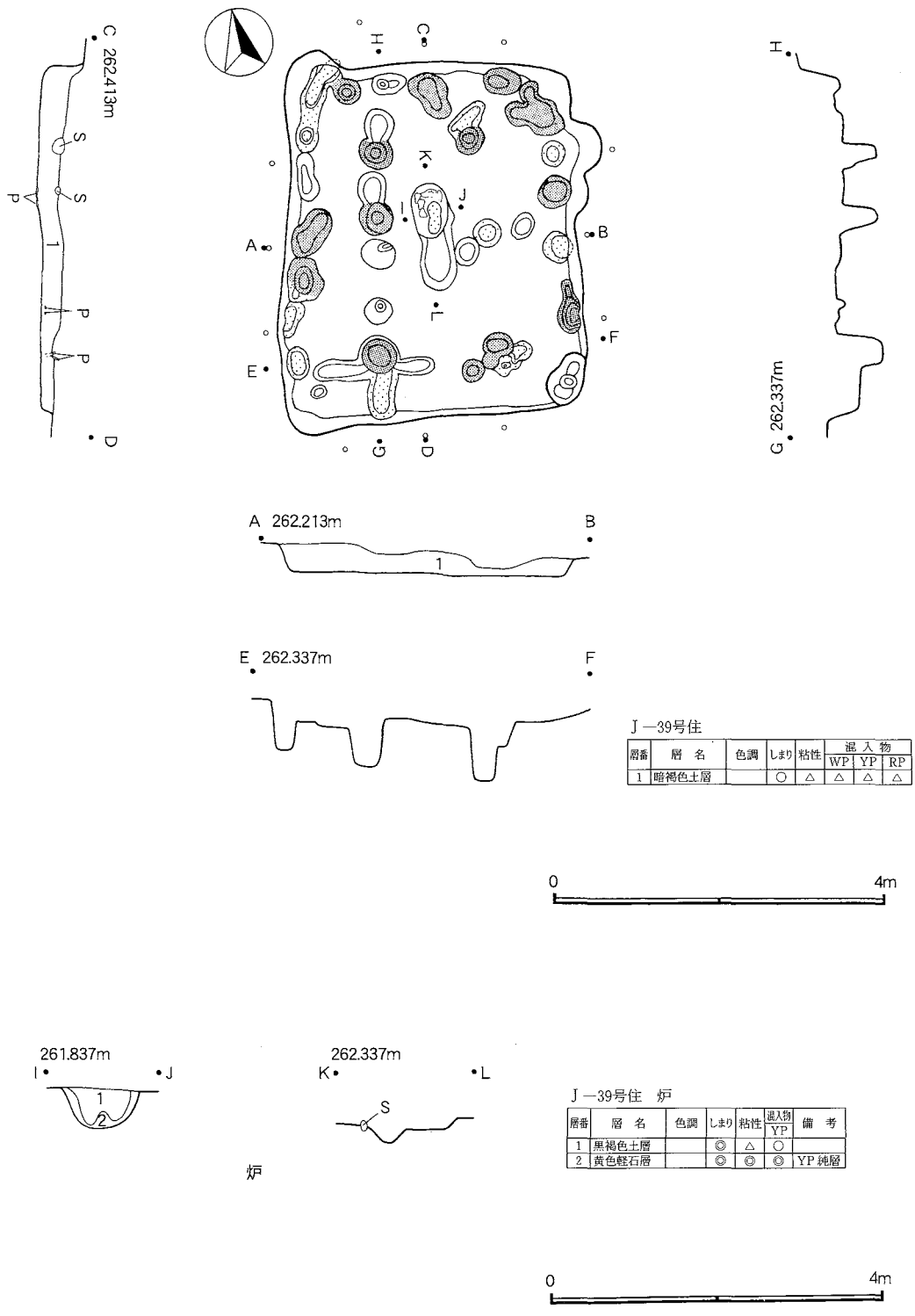
第17図　J—37B号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△
2	暗褐色土層	1>2	○	△	※	※	△

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

第18図　J—38号住居址実測図



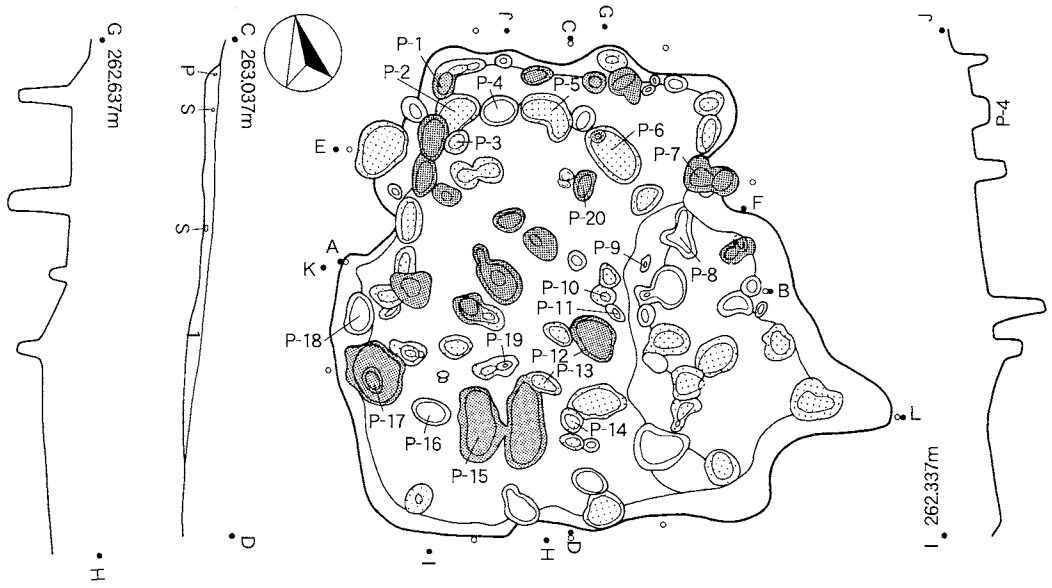
J－39号住

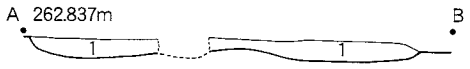
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

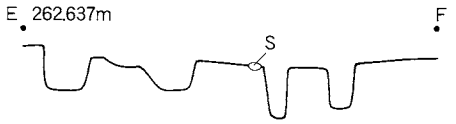
J－39号住　炉

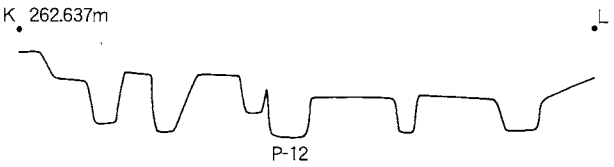
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	備考
1	黒褐色土層		◎	△	○	
2	黄色軽石層		◎	◎	◎	YP 純層

第19図　J－39号住居址実測図





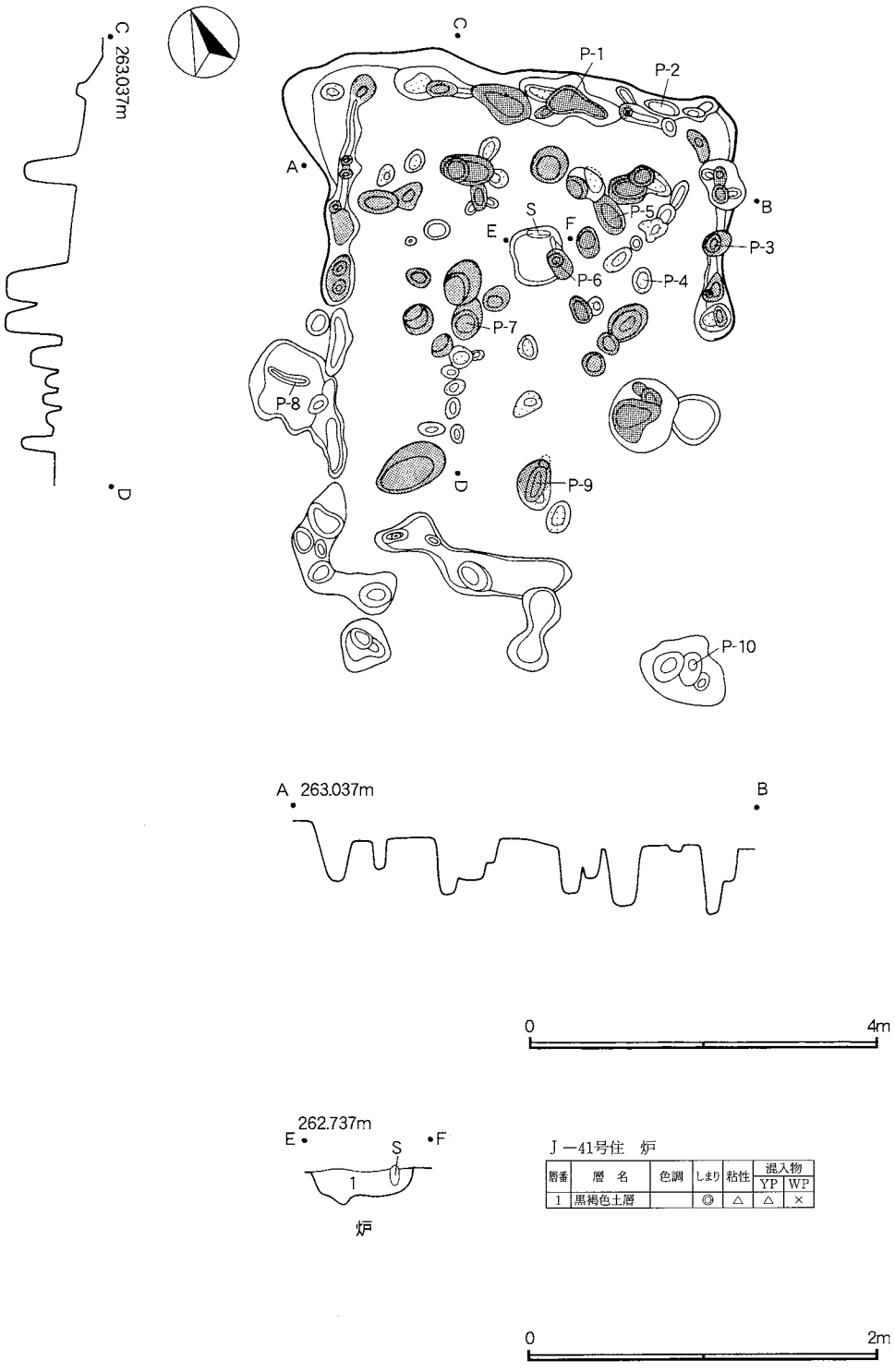




J—40号住

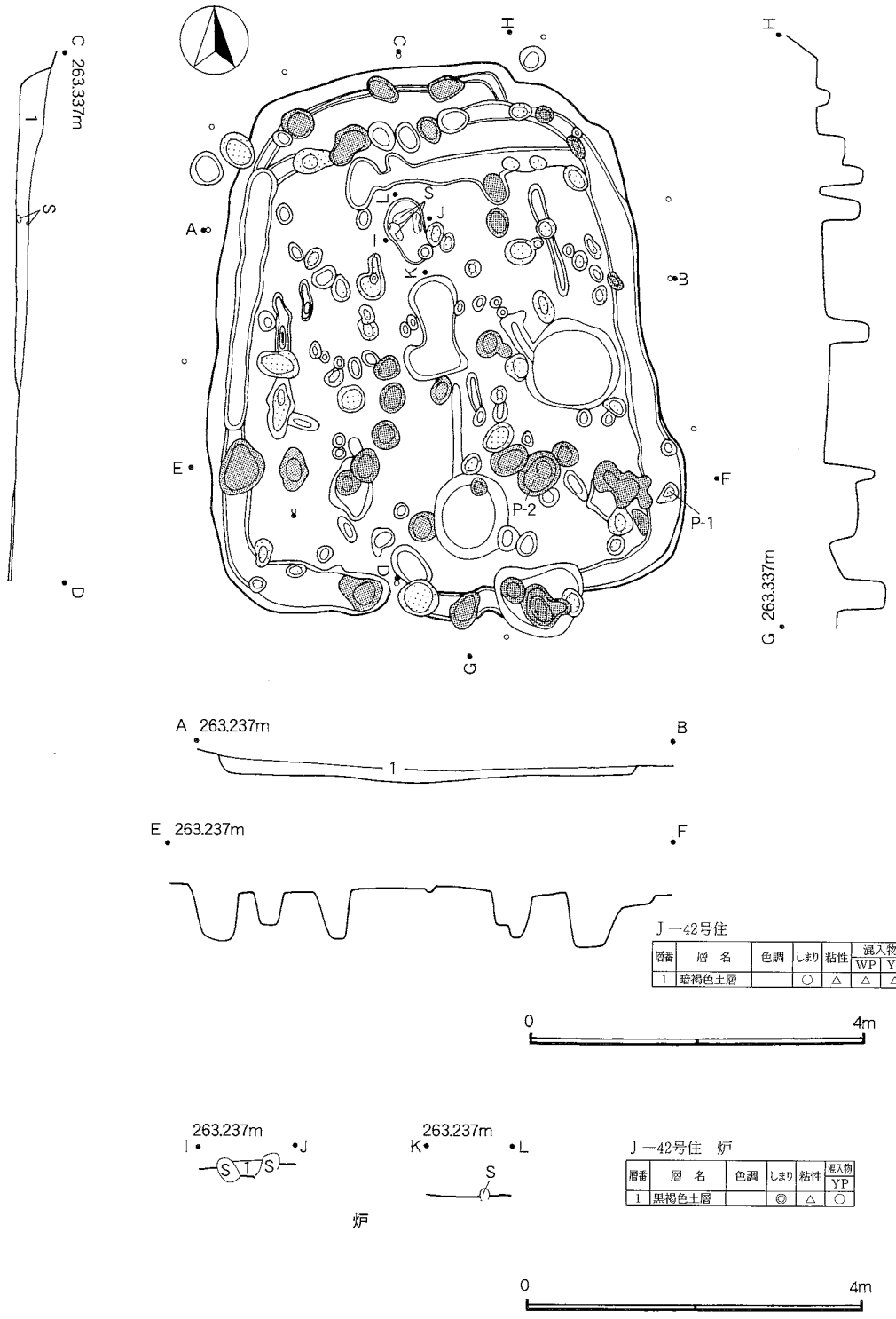
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RB
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

第20図　J—40号住居址実測図



層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	黒褐色土層		◎	△	△	×

第21図　J－41号住居址実測図



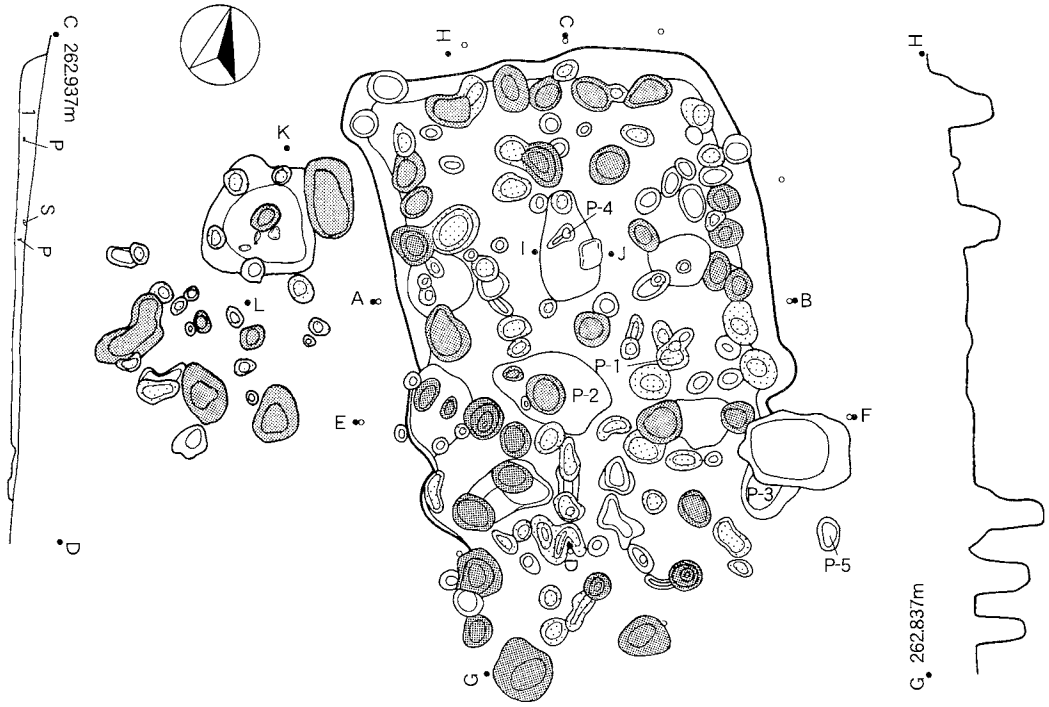
J－42号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

J－42号住　炉

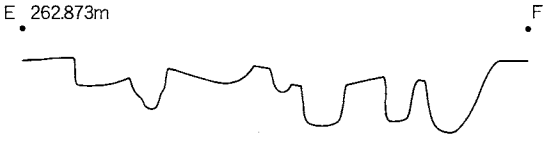
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP
1	黒褐色土層		◎	△	○

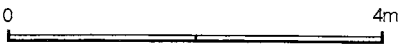
第22図　J－42号住居址実測図

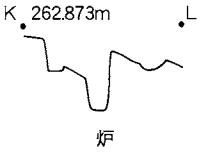


J－43号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△



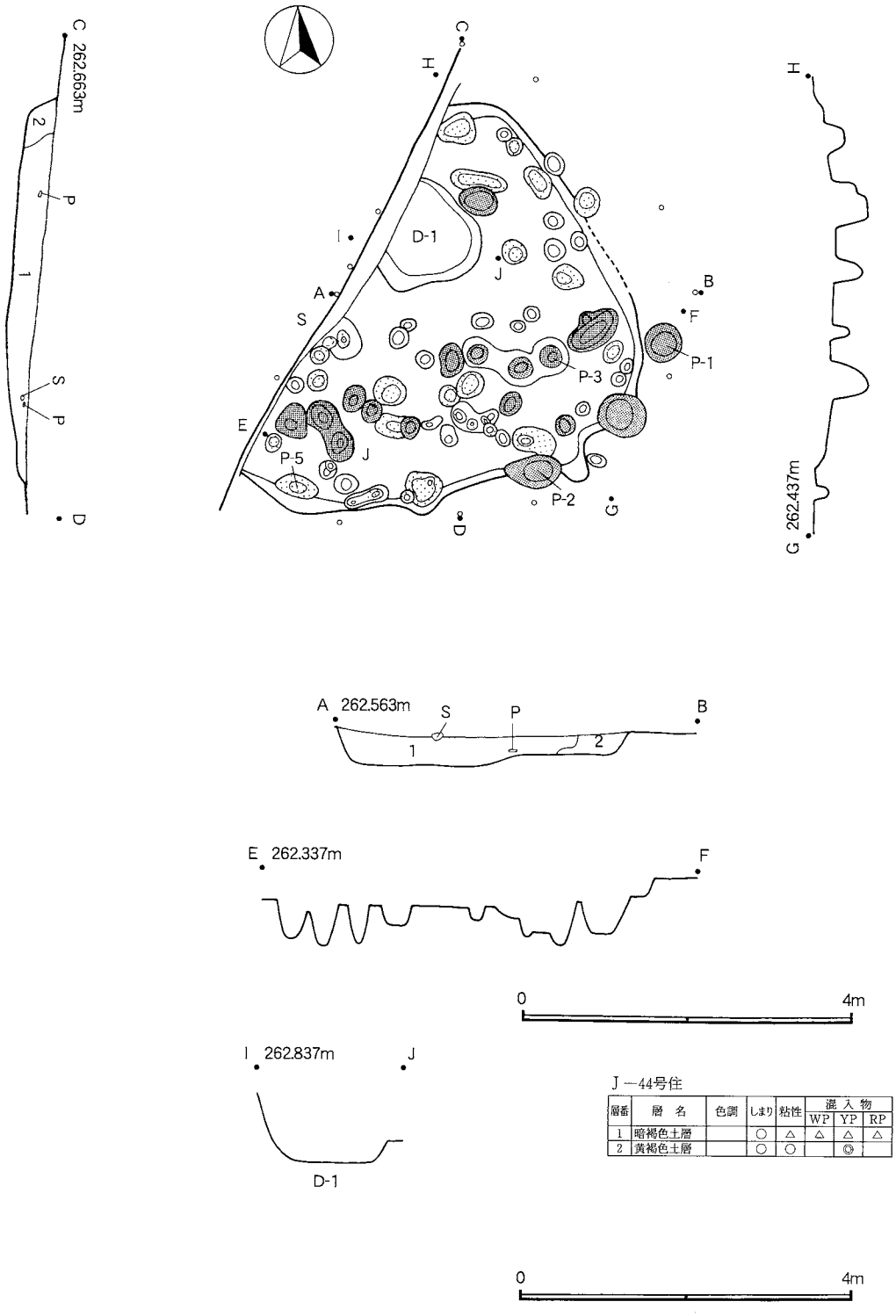




J－43号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

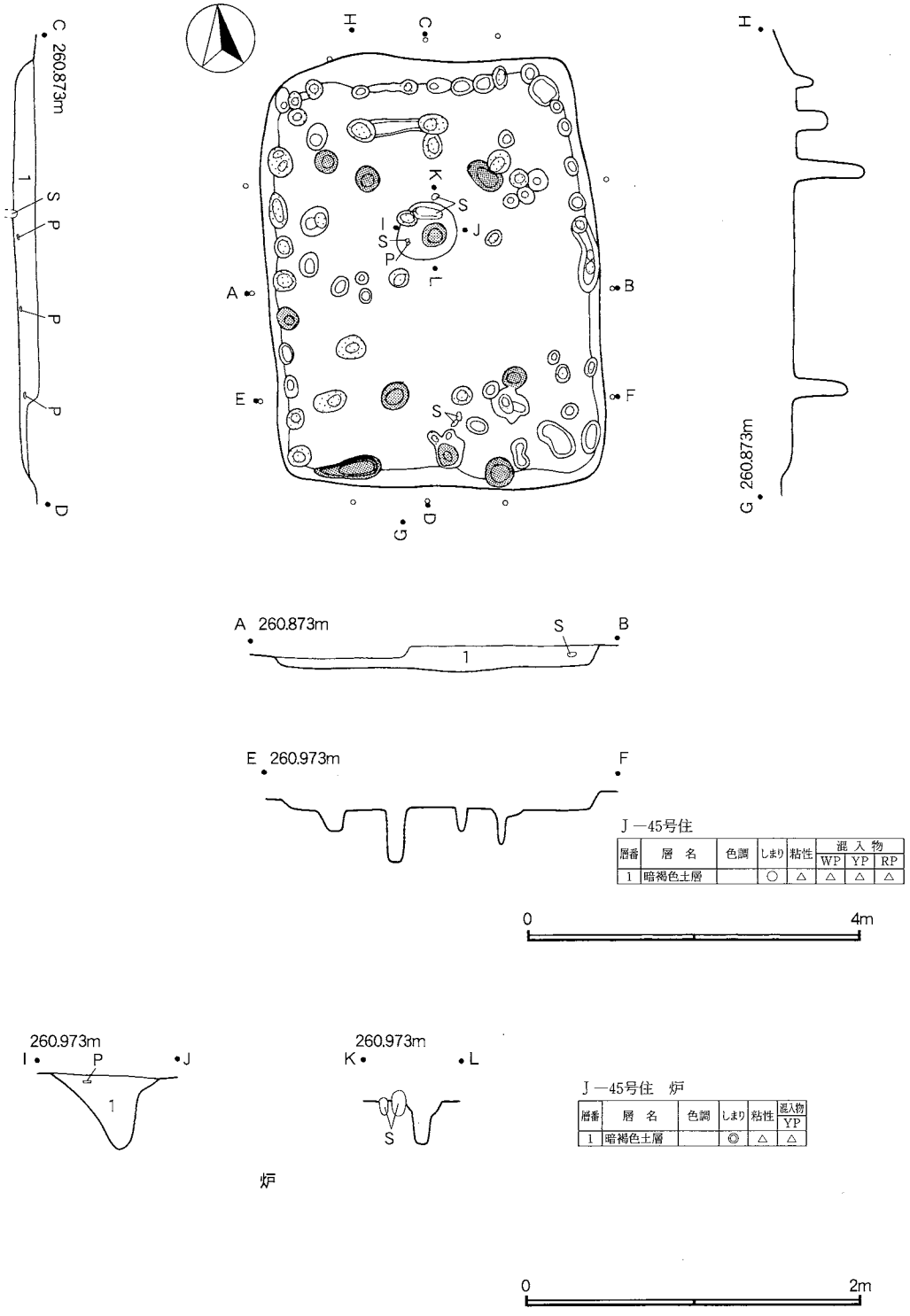
第23図　J－43号住居址実測図



J—44号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△
2	黄褐色土層		○	○		◎	

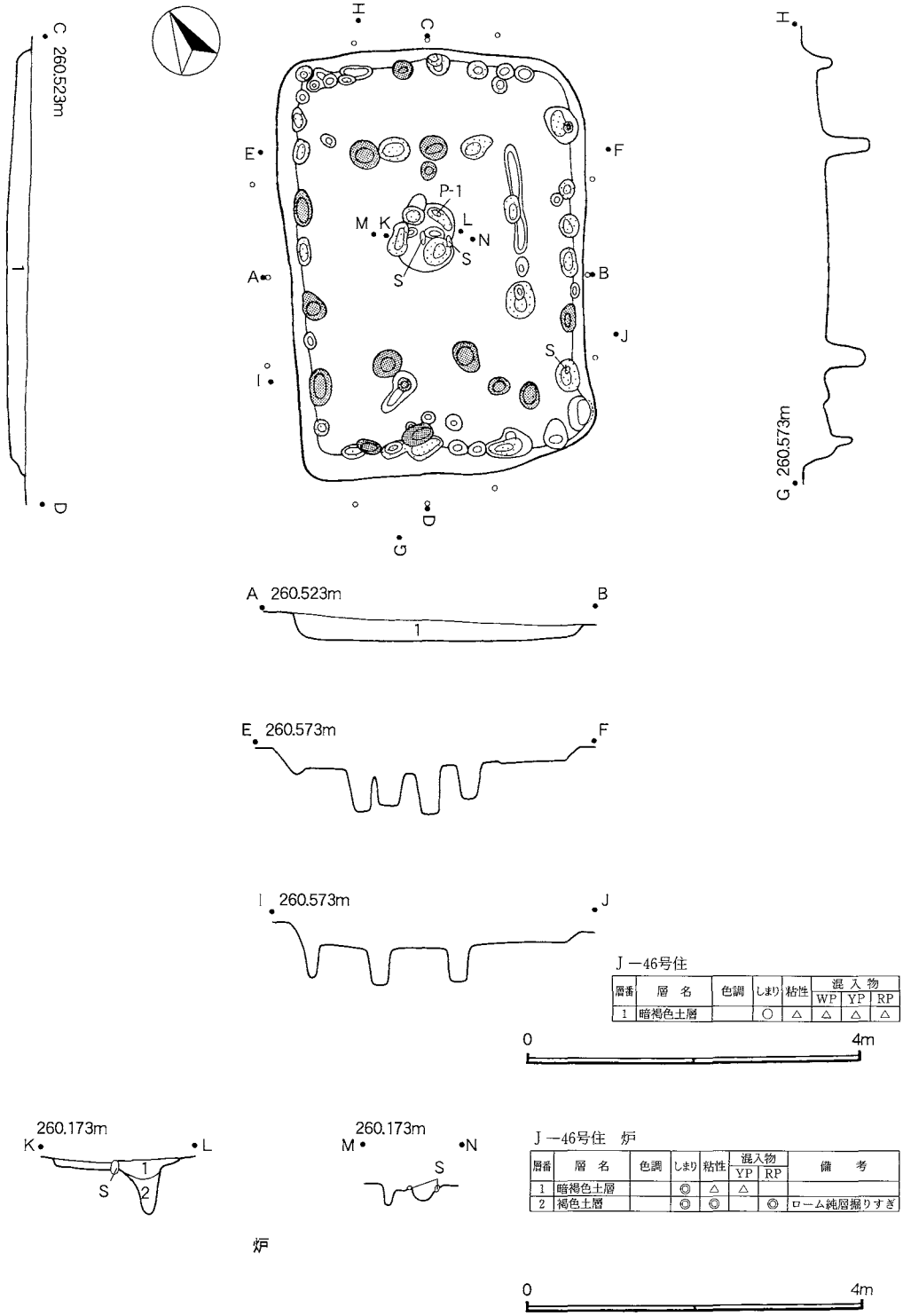
第24図　J—44号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP
1	暗褐色土層		◎	△	△

第25図　J—45号住居址実測図



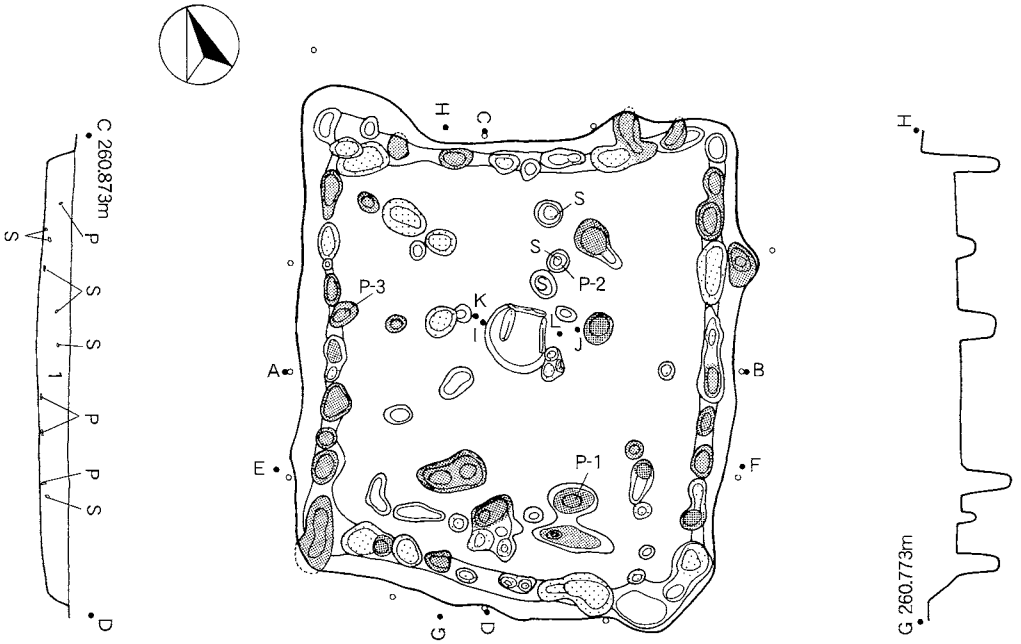
J－46号住

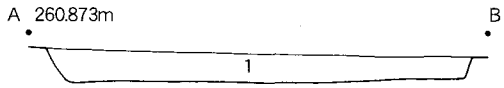
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

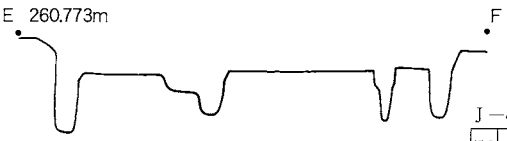
J－46号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		備考
					YP	RP	
1	暗褐色土層		◎	△	△		
2	褐色土層		◎	◎		◎	ローム純層掘りすぎ

第26図　J－46号住居址実測図

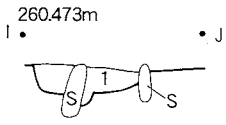


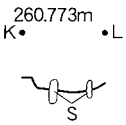




J－47号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

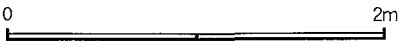




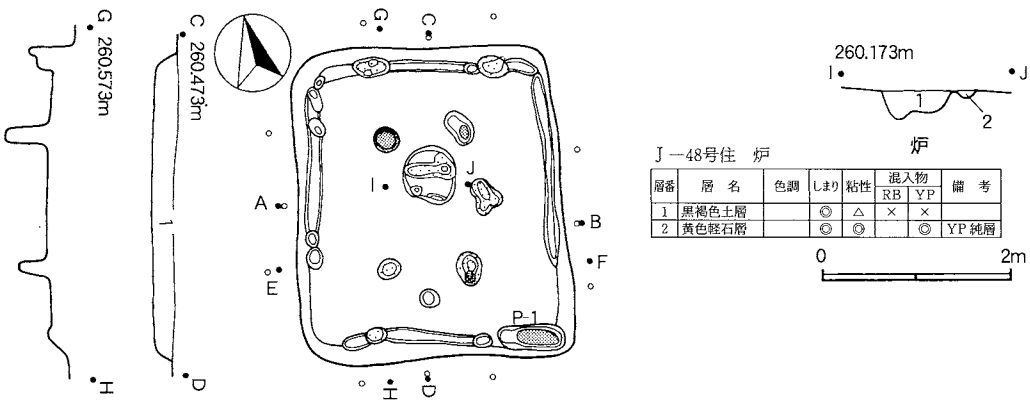
J－47号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物
					YP
1	黒褐色土層		◎	○	×

炉

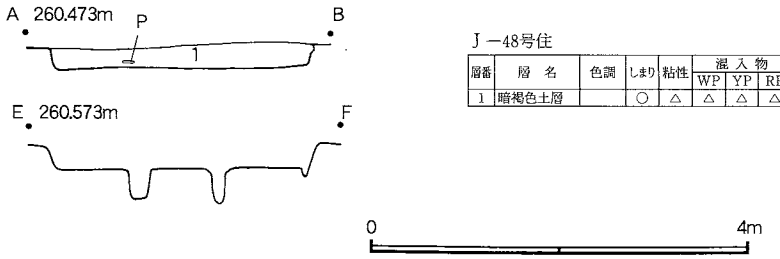


第27図　J－47号住居址実測図



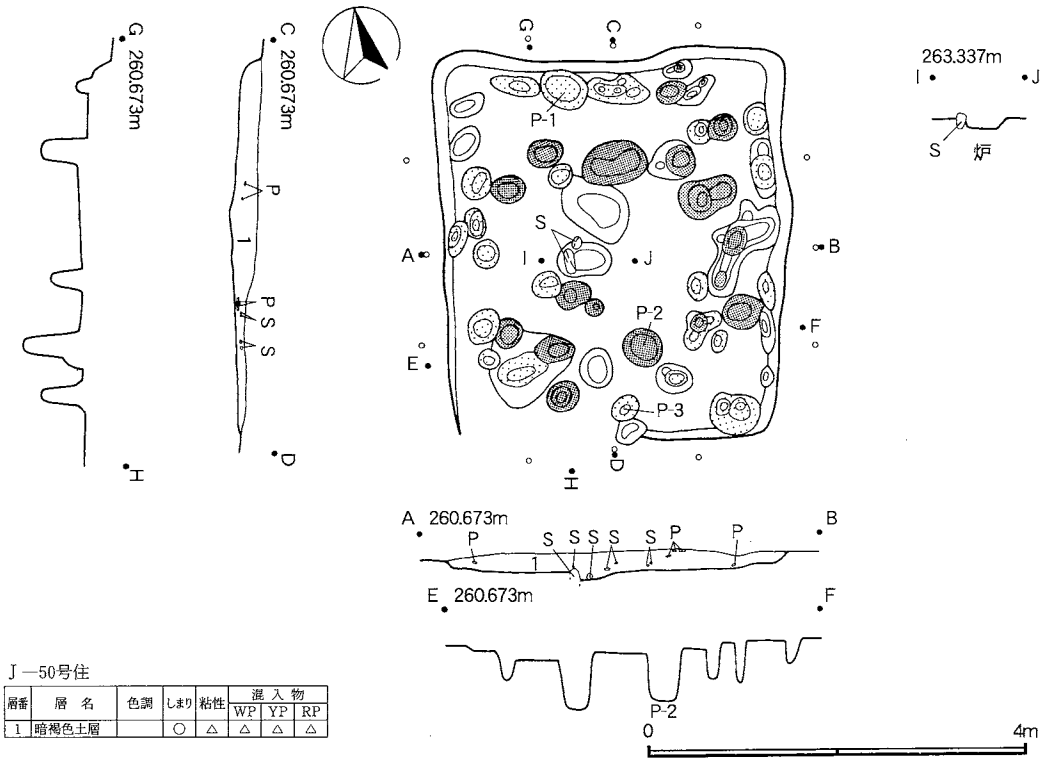
Ｊ－48号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 YP	備　考
1	黒褐色土層		◎	△	×	×	
2	黄色軽石層		◎	◎		◎	YP 純層



Ｊ－48号住

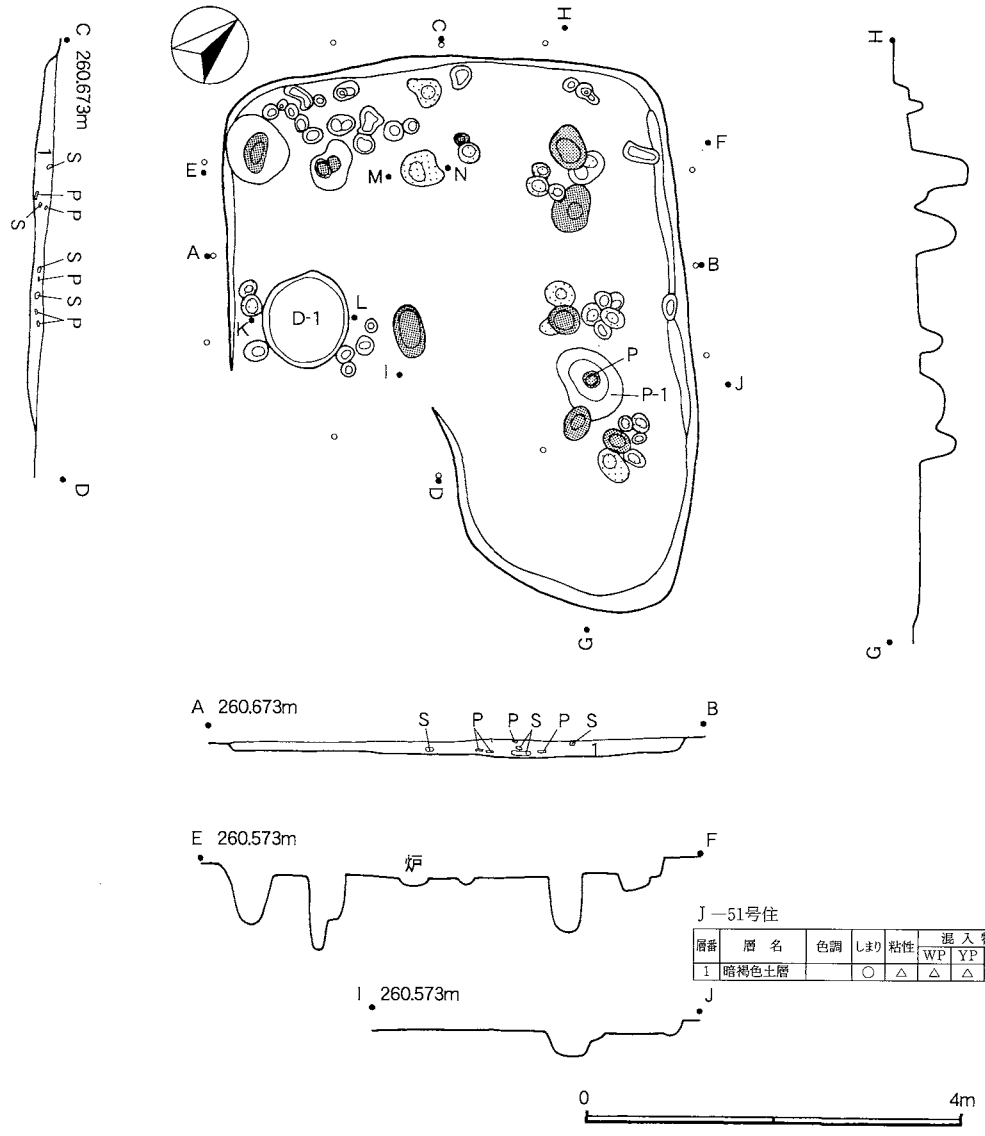
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△



Ｊ－50号住

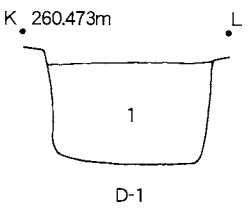
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△

第28図　Ｊ－48・50号住居址実測図



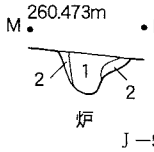
J－51号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△



J－51号住　D－1

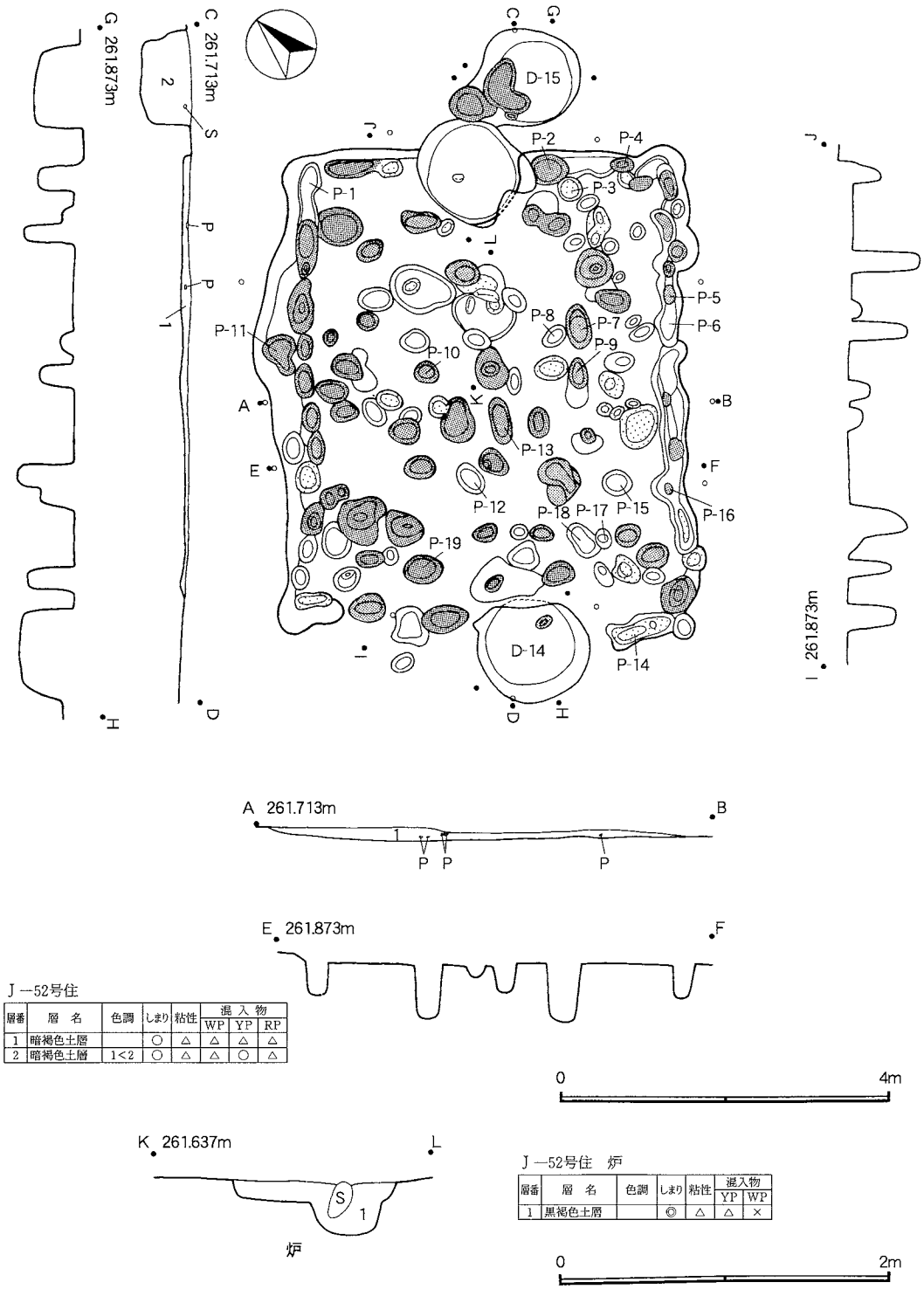
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 YP
1	黒褐色土層		◎	△	×	×



J－51号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	備考
1	暗褐色土層		◎	△	△	
2	赤褐色土層		◎	×		焼土層

第29図　J－51号住居址実測図



J—52号住

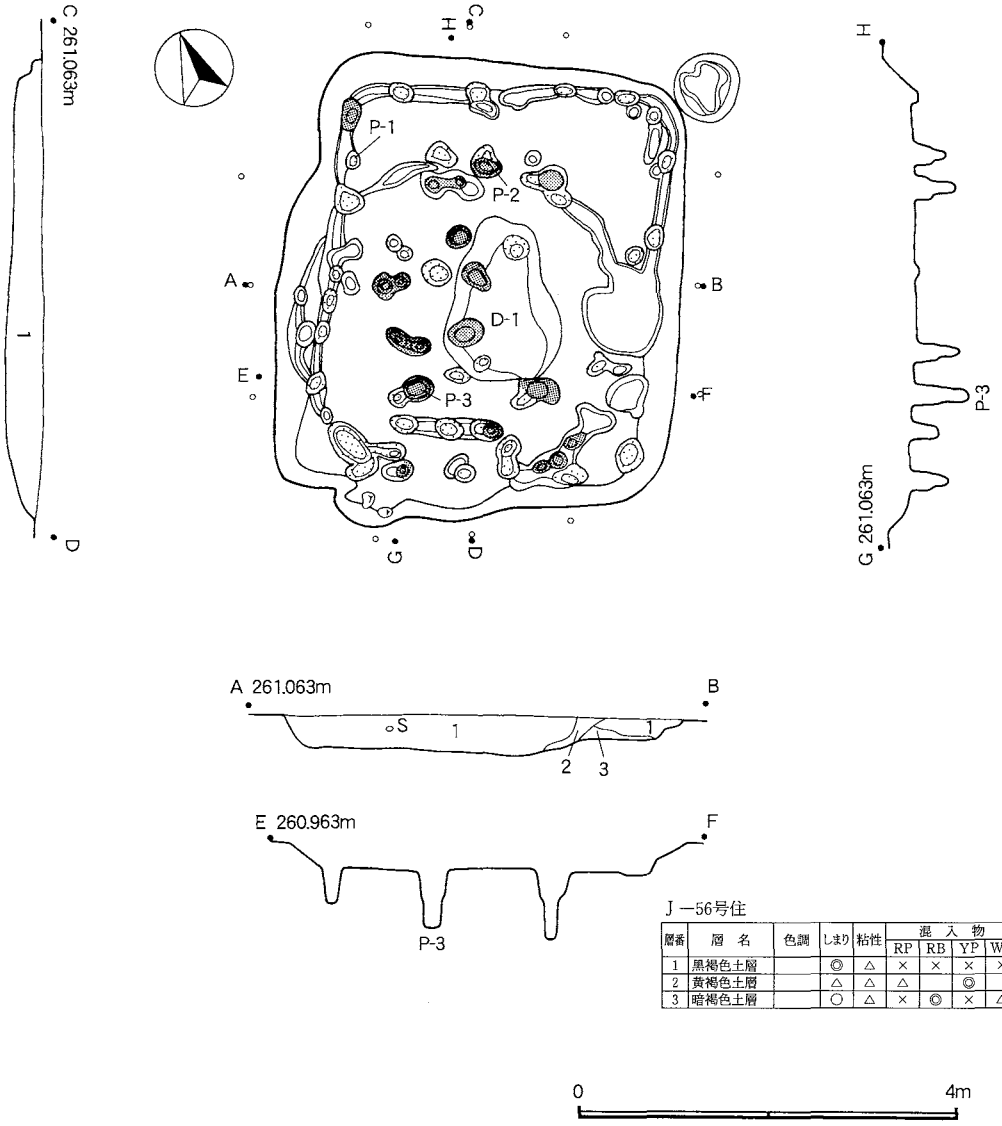
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	暗褐色土層		○	△	△	△	△
2	暗褐色土層	1<2	○	△	△	○	△

J—52号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	黒褐色土層		◎	△	△	×

第30図　J—52号住居址実測図

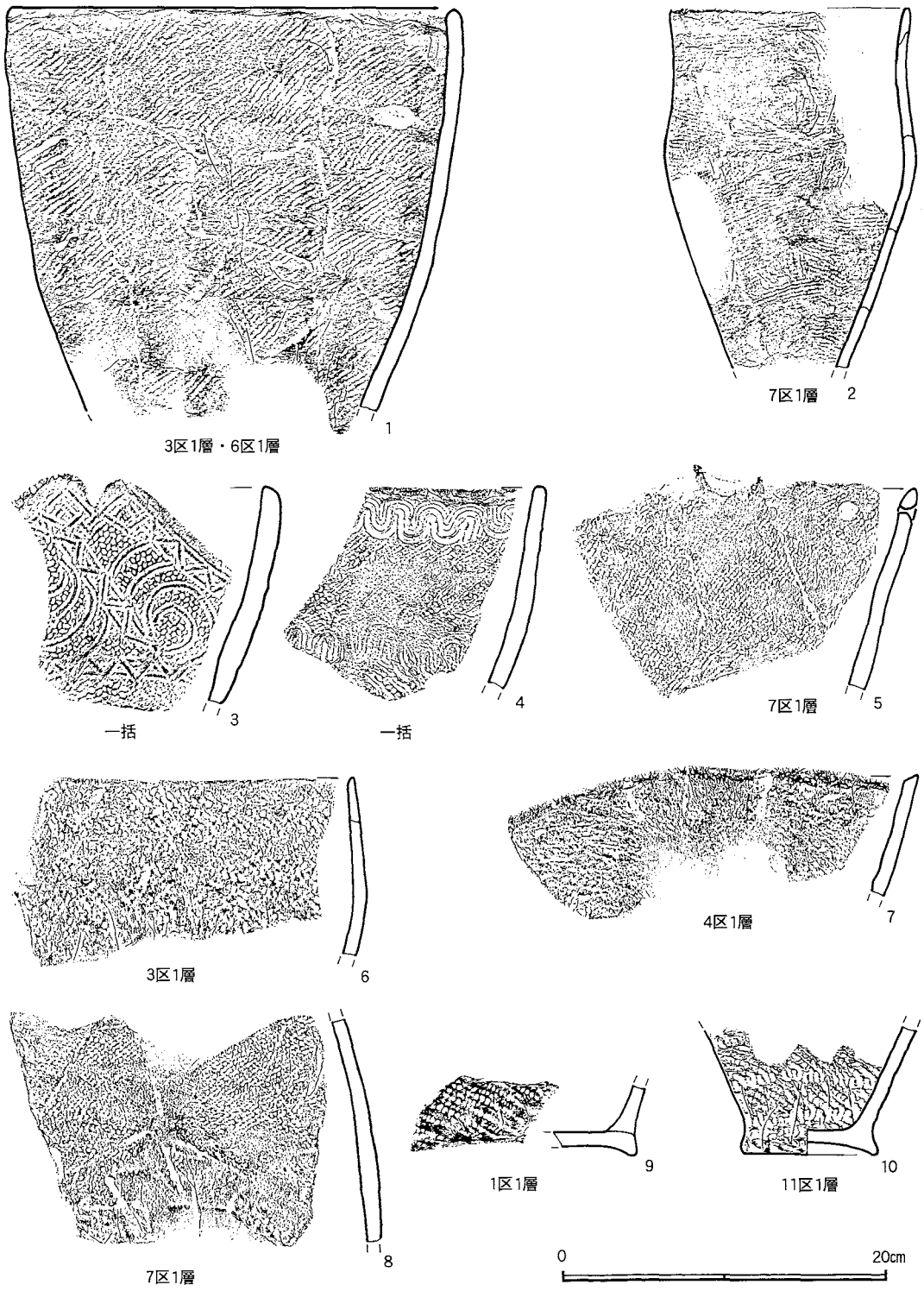
第31図　J－54・55号住居址実測図



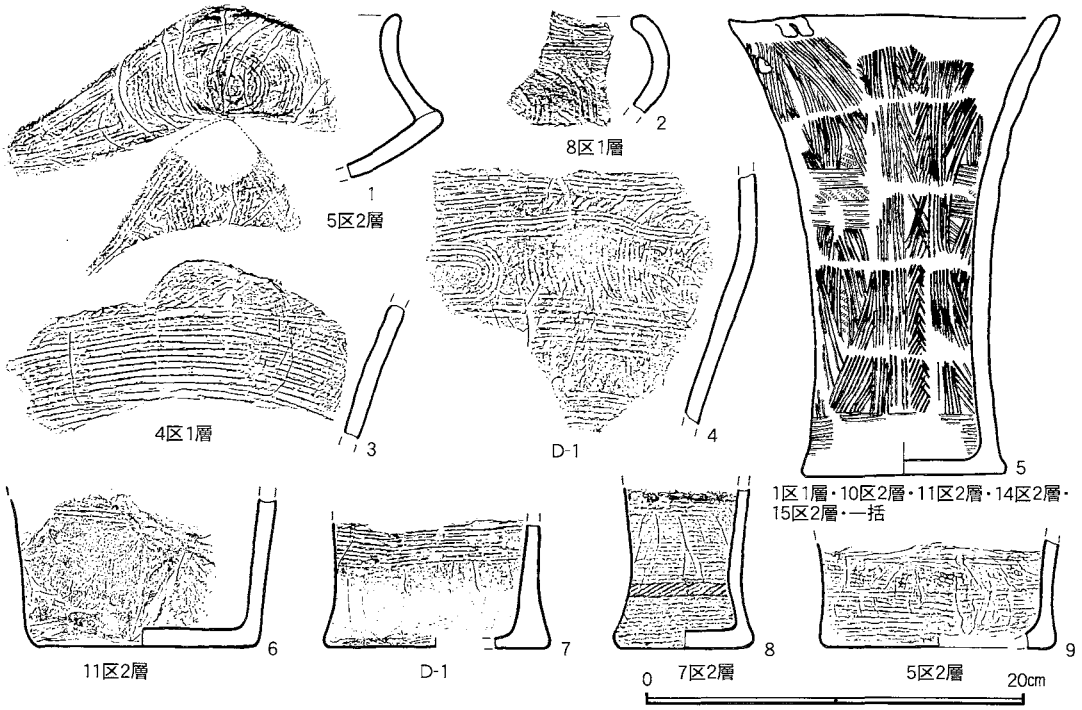
J－56号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					RP	RB	YP	WP
1	黒褐色土層		◎	△	×	×	×	×
2	黄褐色土層		△	△	△		◎	
3	暗褐色土層		○	△	×	◎	×	△

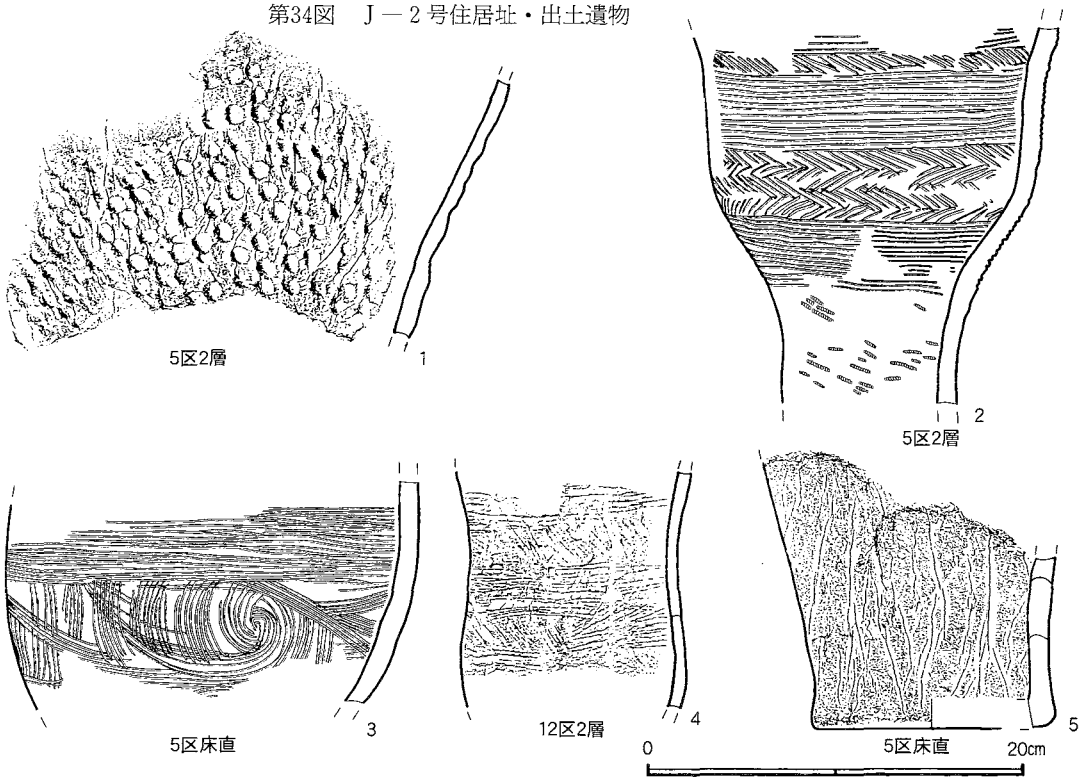
第32図　J－56号住居址実測図



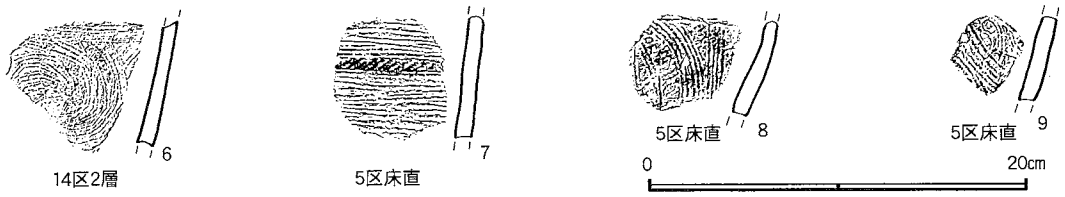
第33図　J－1号住居址・出土遺物



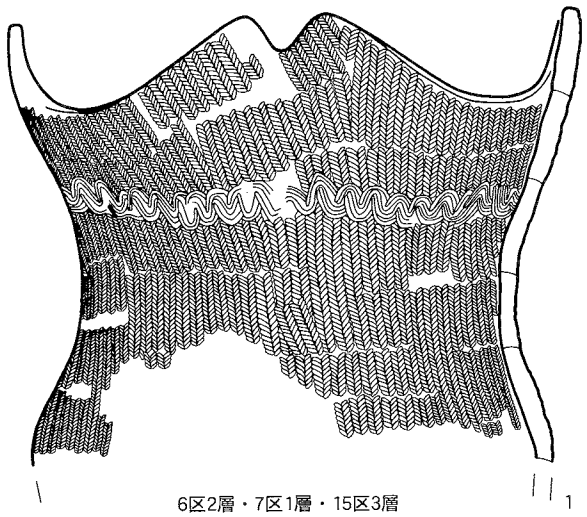
第34図　J－2号住居址・出土遺物

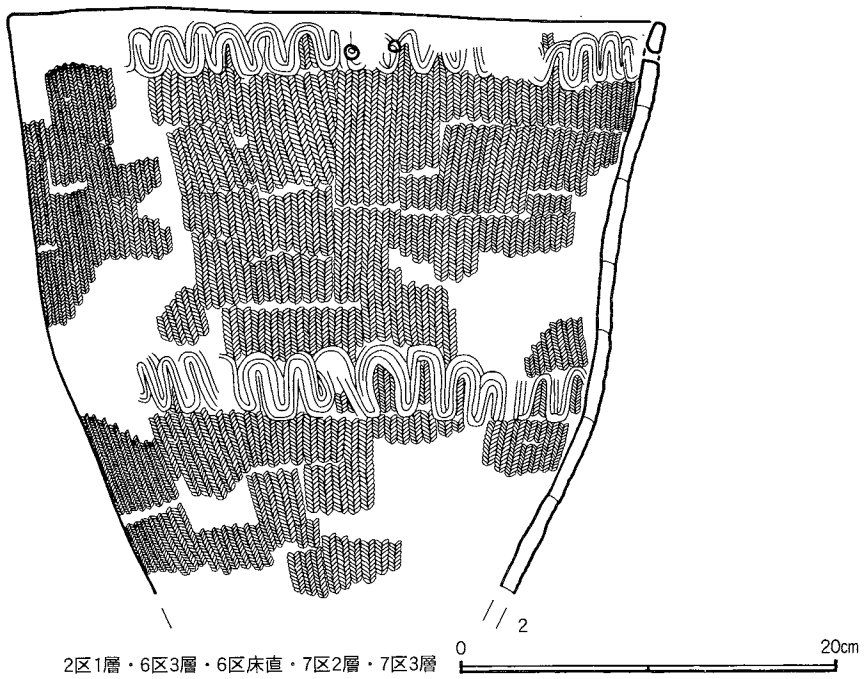


第35図　J－3号住居址・出土遺物(1)

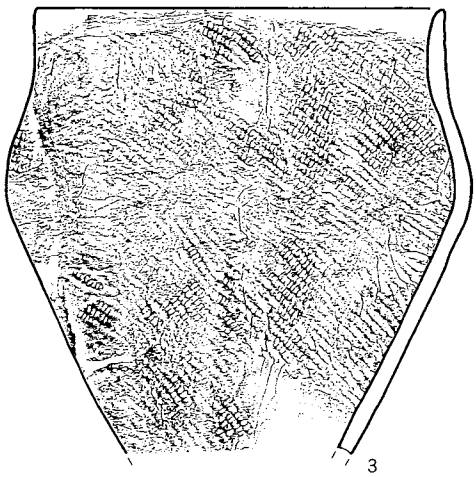


第36図　J－3号住居址・出土遺物(2)



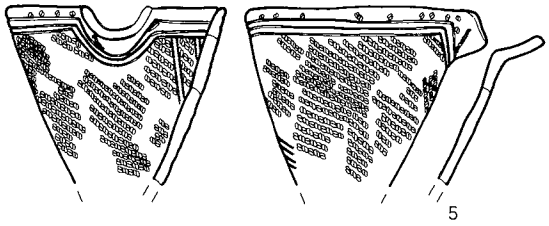


第37図　J－4号住居址・出土遺物(1)

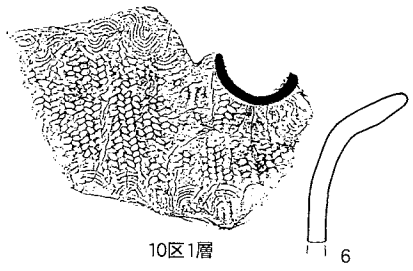


7区2層・7区床直・11区床直

6区3層・7区3層・11区1層・11区3層・11区床直



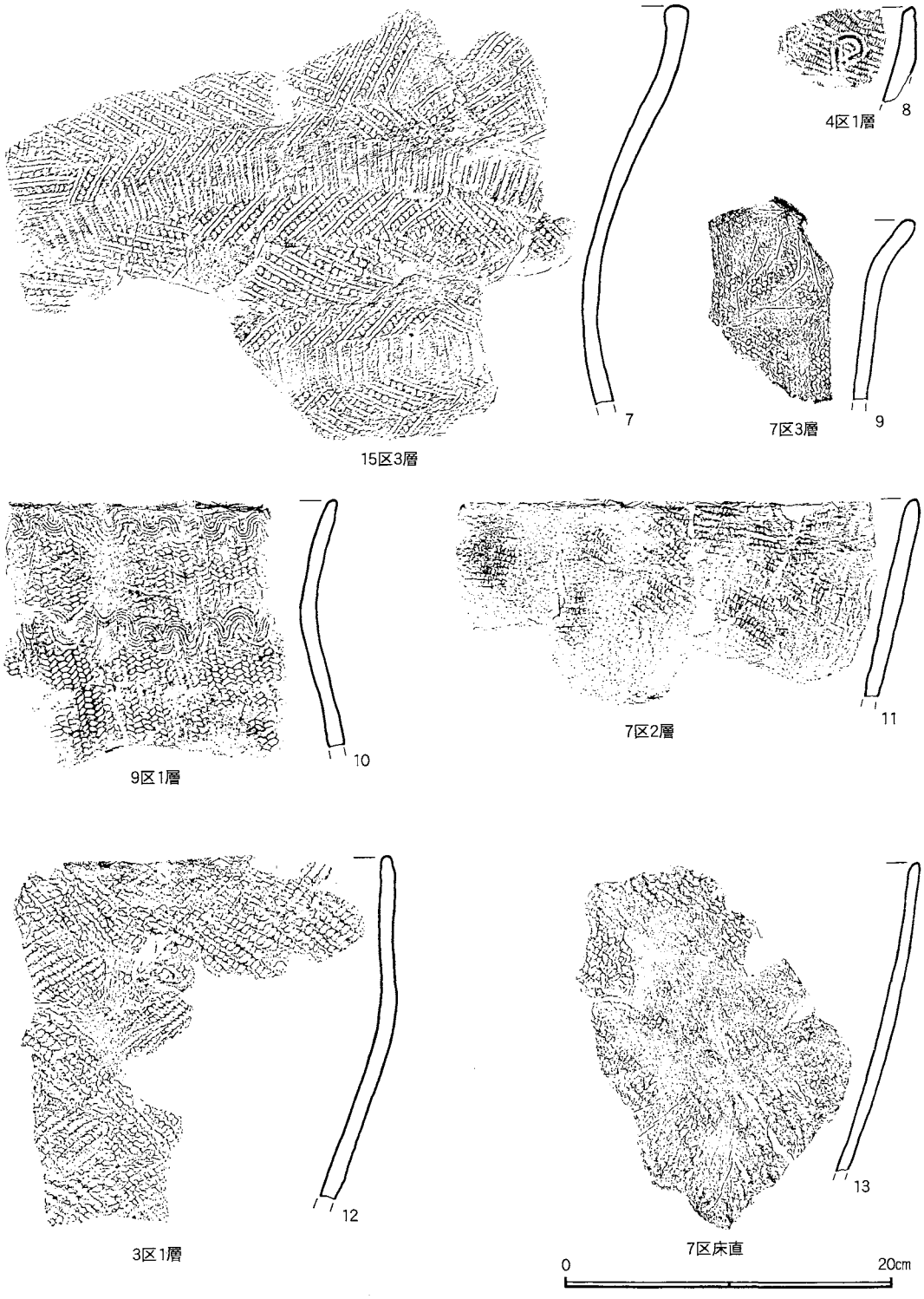
4区1層・7区3層・12区床直



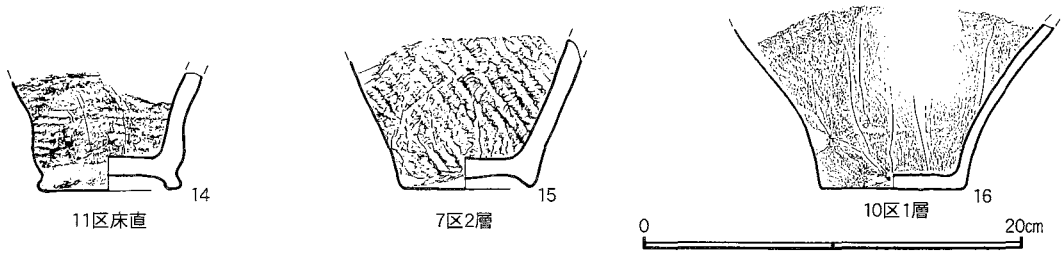
10区1層

0 20cm

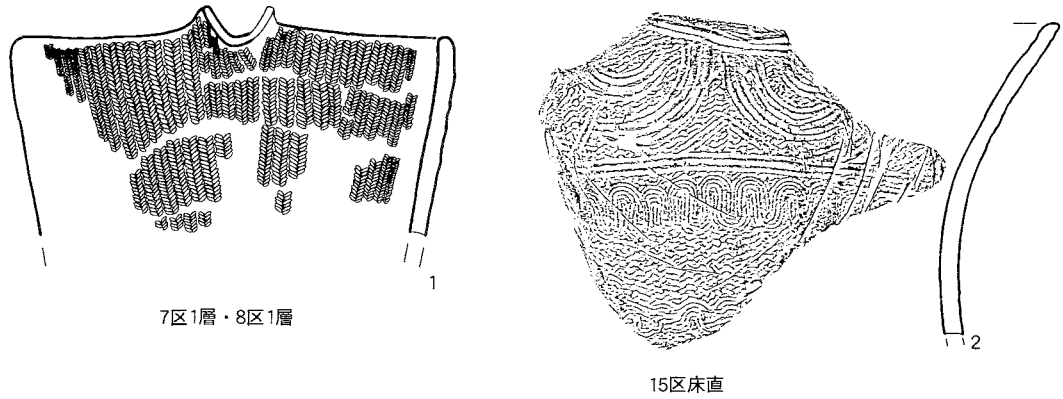
第38図　J－4号住居址・出土遺物(2)

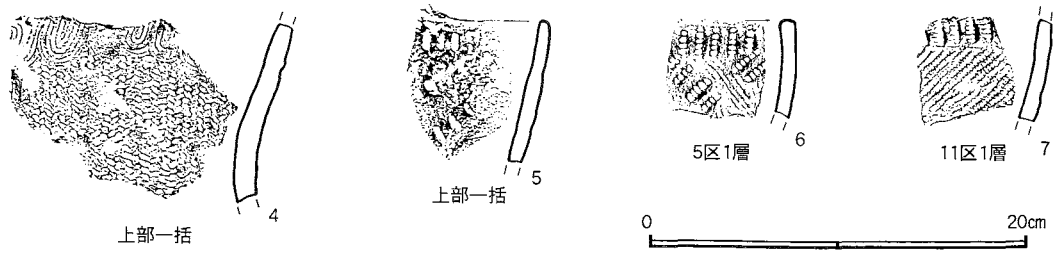


第39図　J－4号住居址・出土遺物(3)

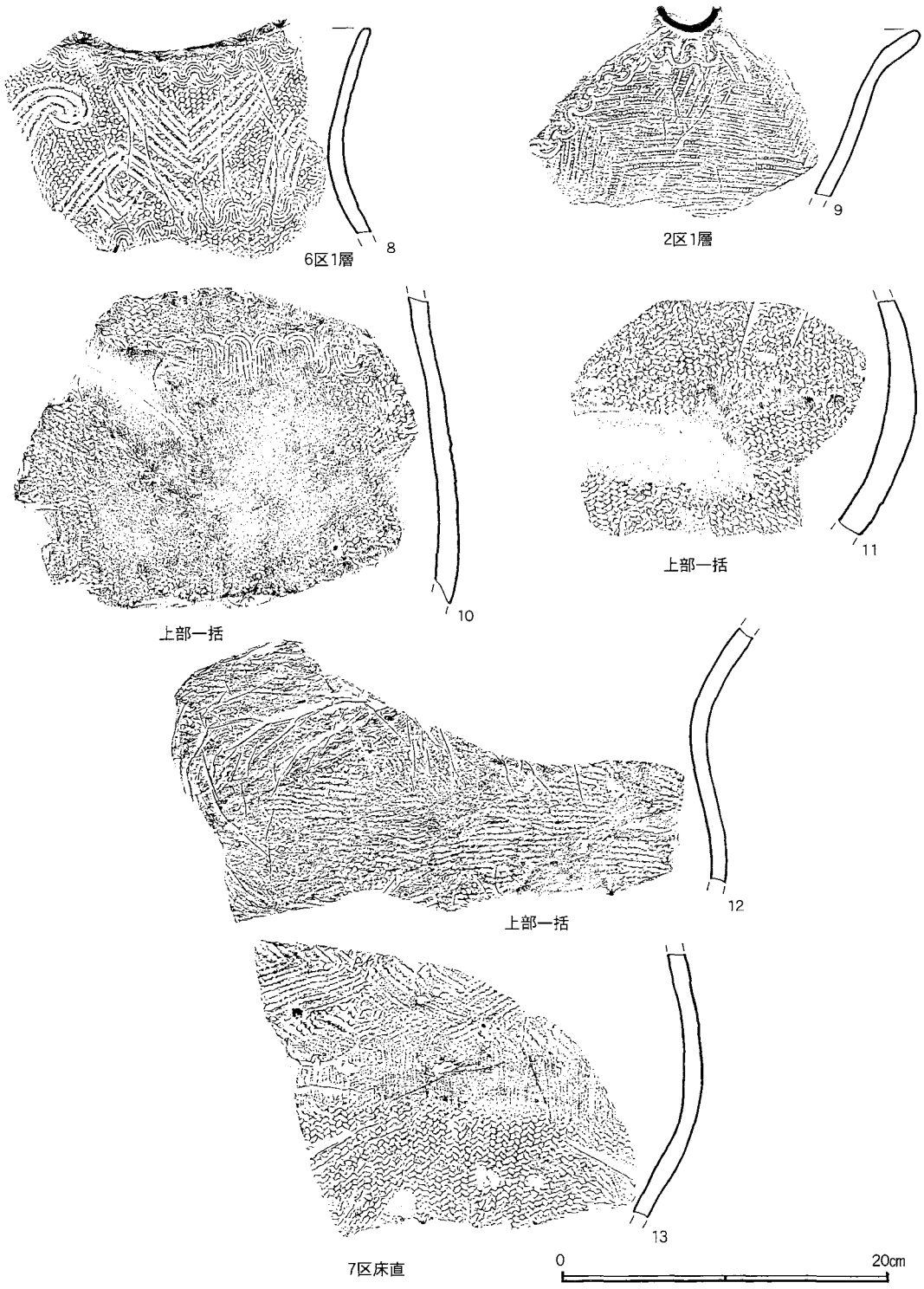


第40図　J－4号住居址・出土遺物(4)

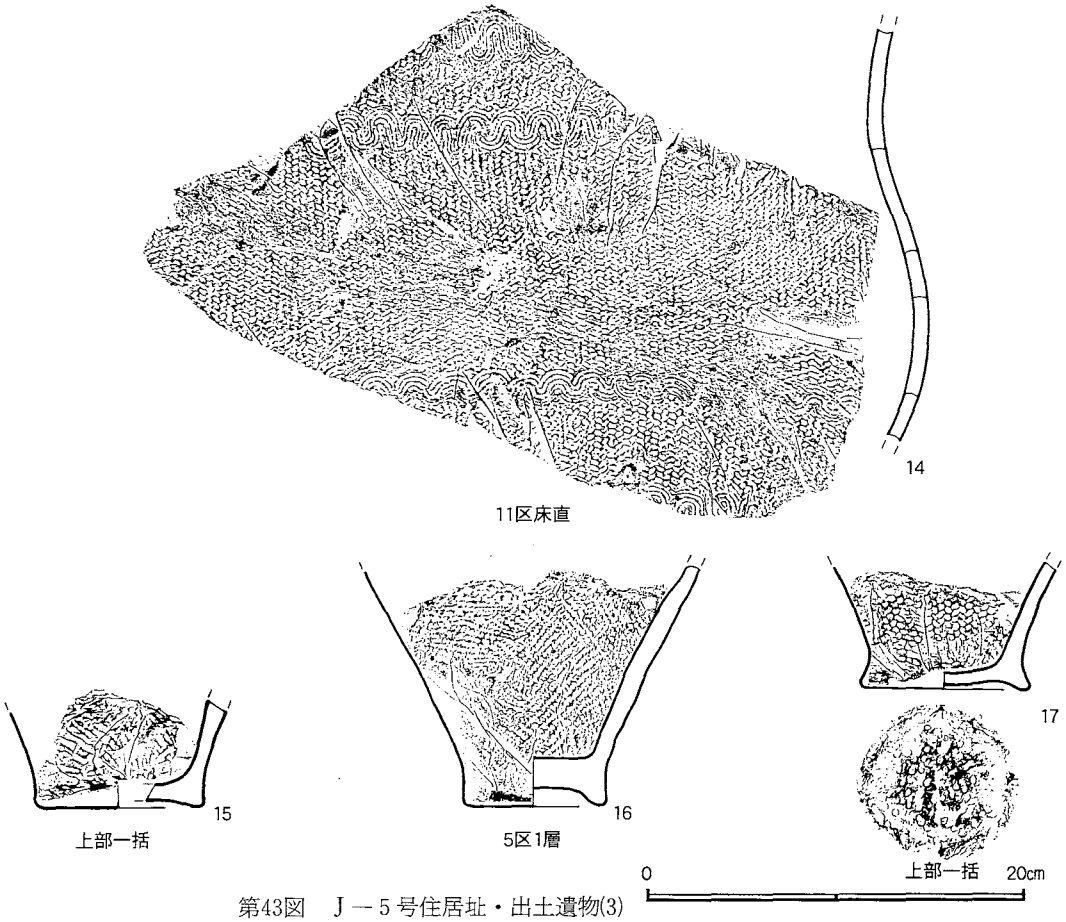




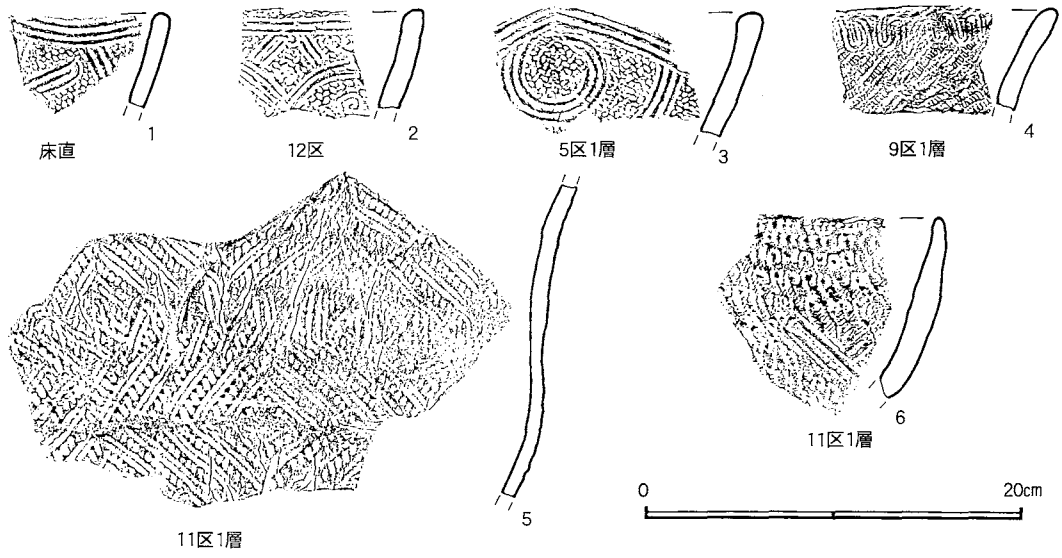
第41図　J－5号住居址・出土遺物(1)



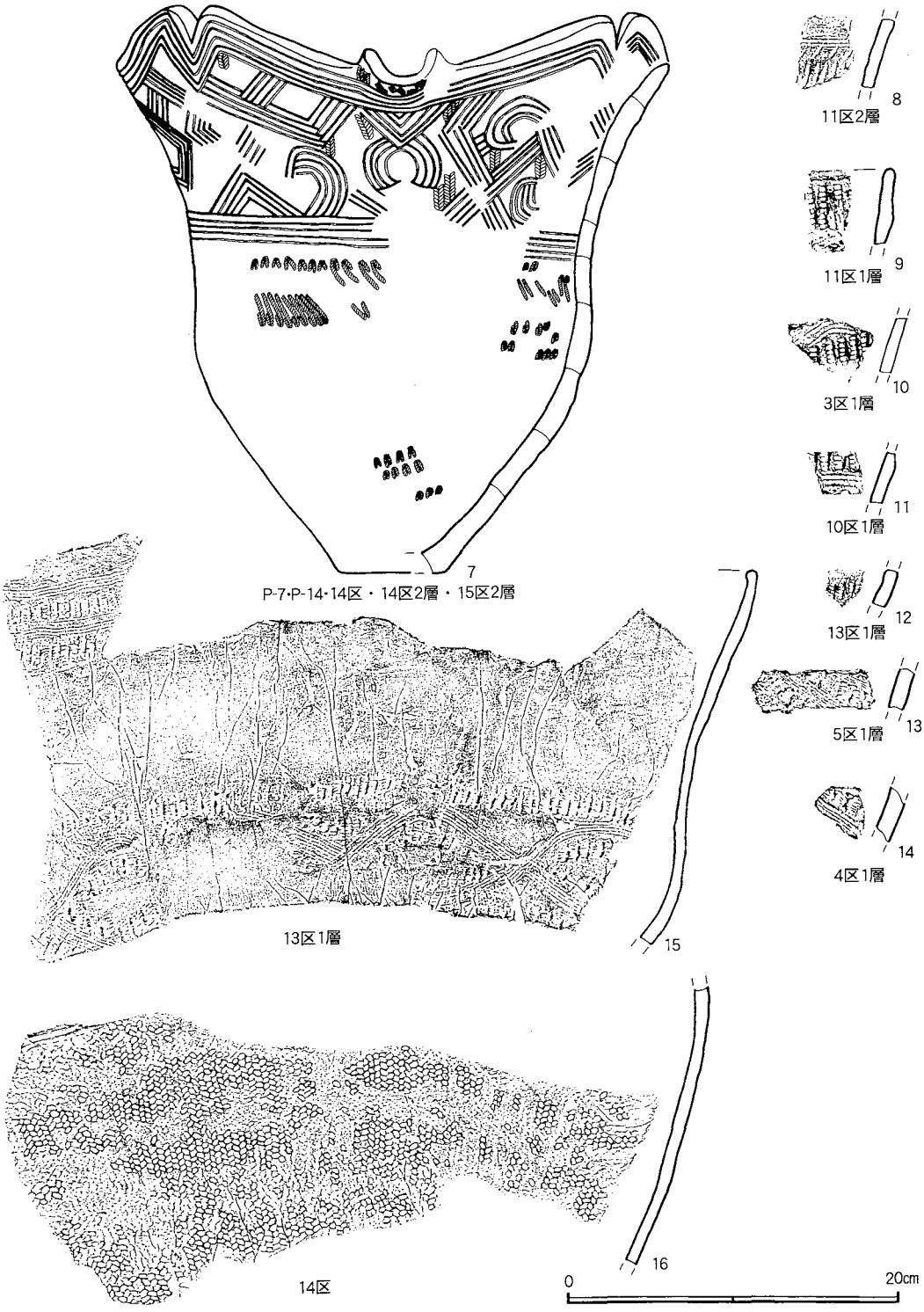
第42図　J－5号住居址・出土遺物(2)



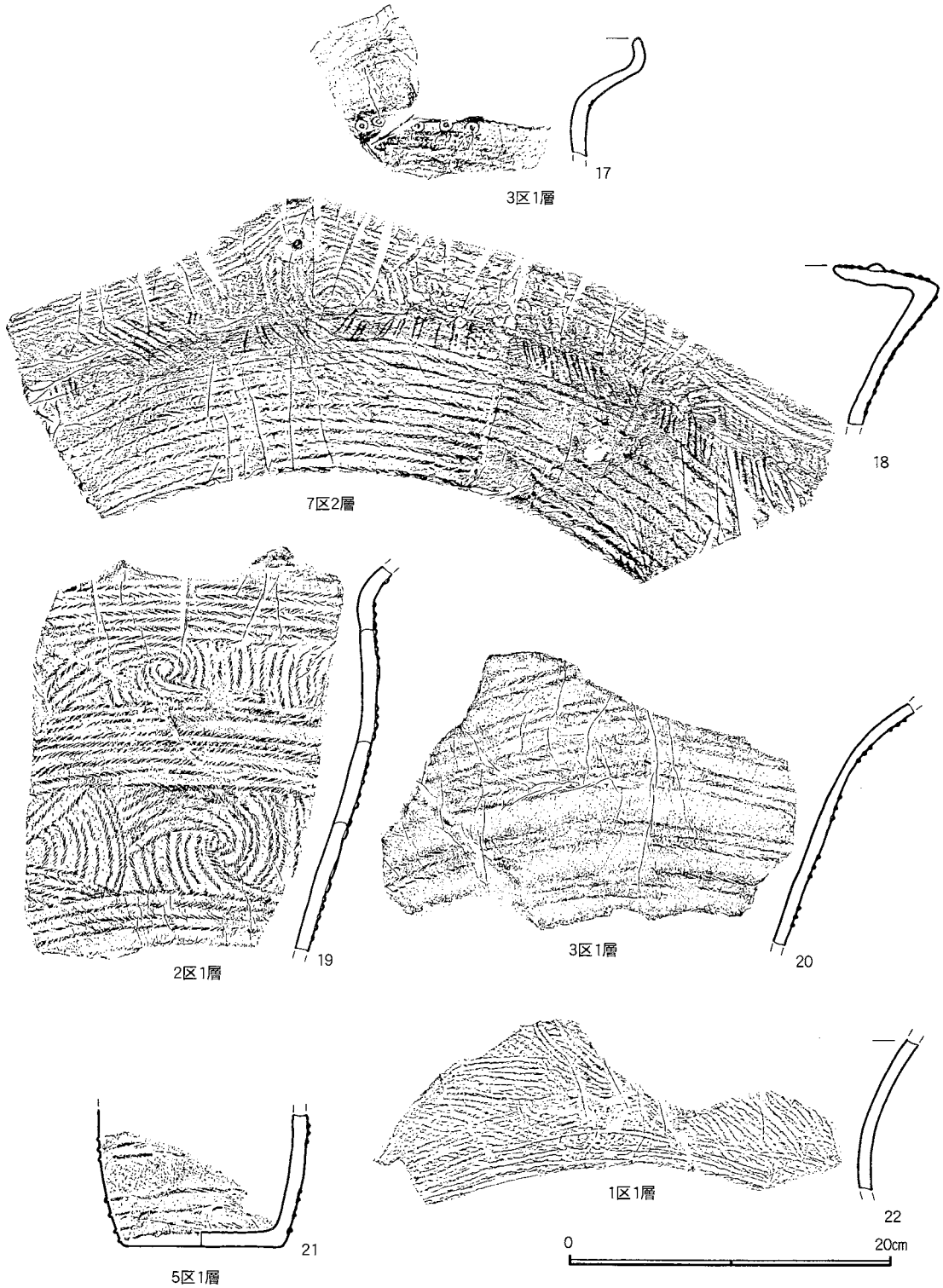
第43図　J－5号住居址・出土遺物(3)



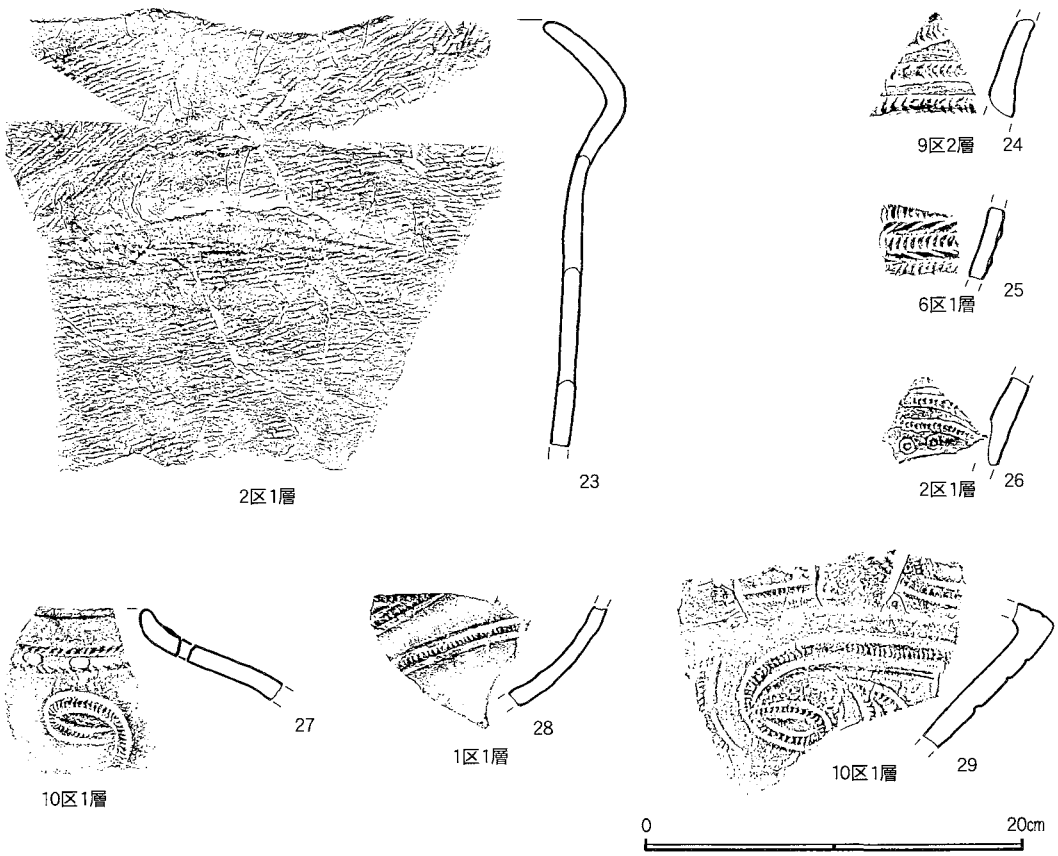
第44図　J－6号住居址・出土遺物(1)



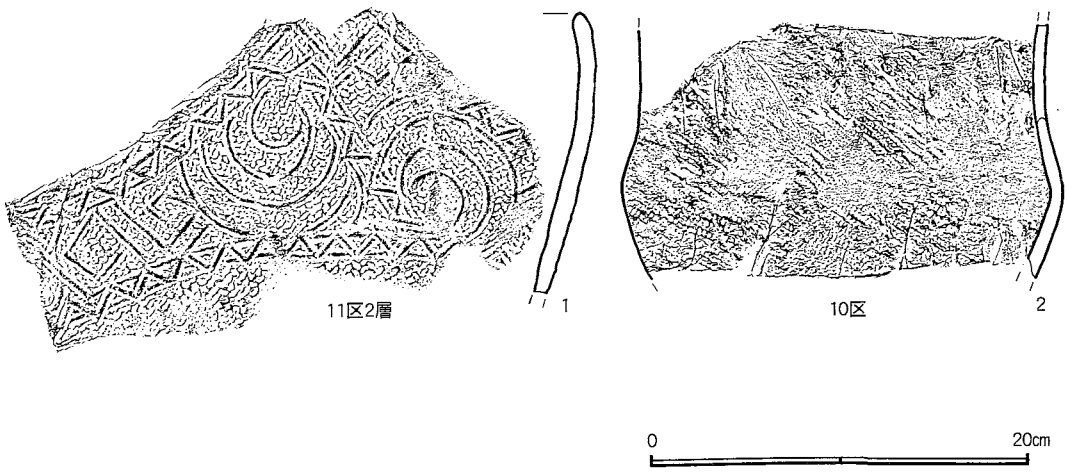
第45図　J－6号住居址・出土遺物(2)



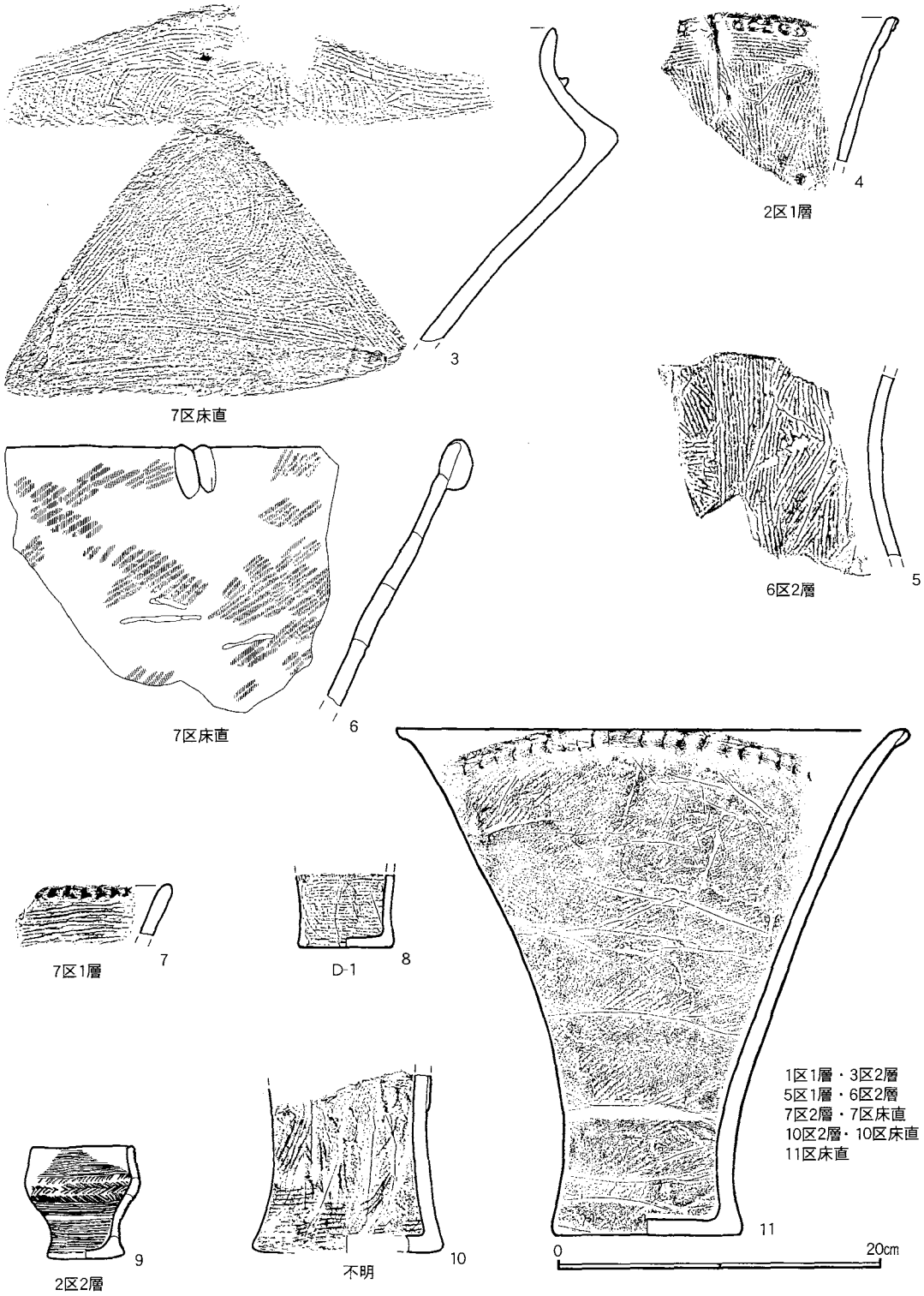
第46図　J－6号住居址・出土遺物(3)



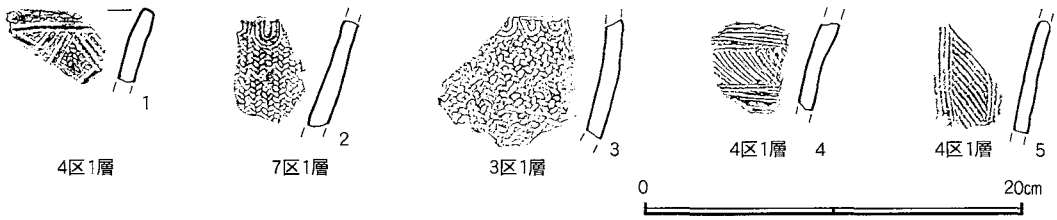
第47図　J－6号住居址・出土遺物(4)



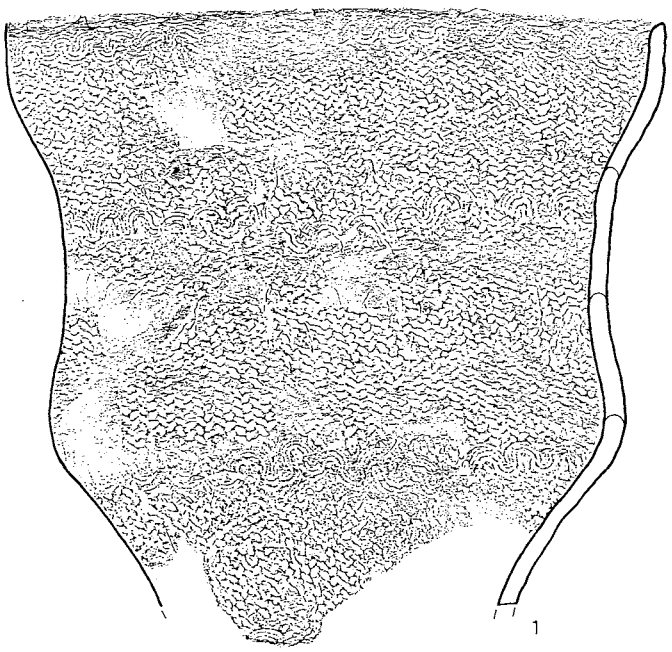
第48図　J－7号住居址・出土遺物(1)

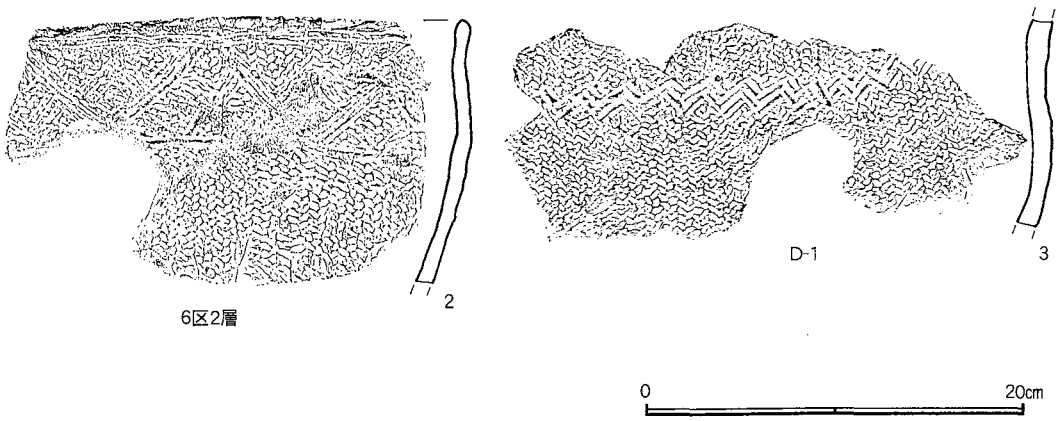


第49図　J－7号住居址・出土遺物(2)

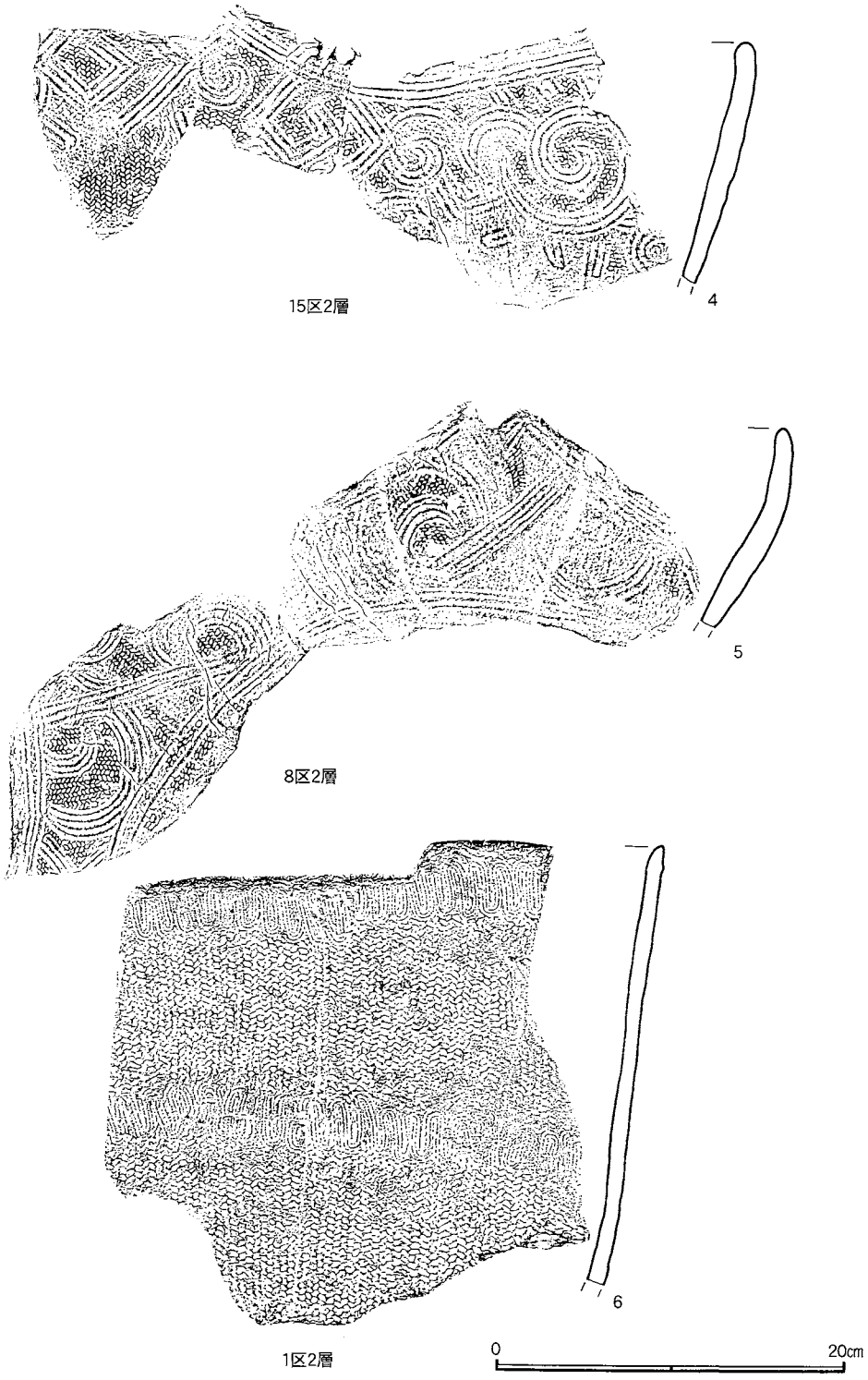


第50図　J－8号住居址・出土遺物

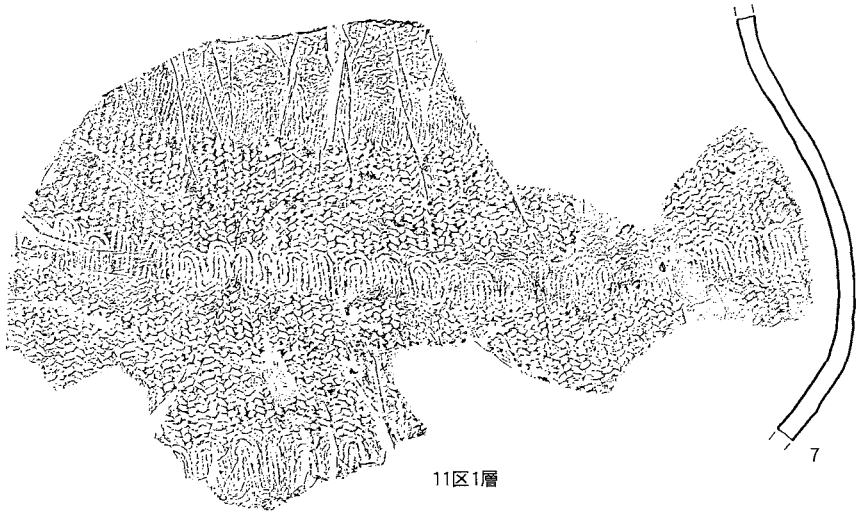




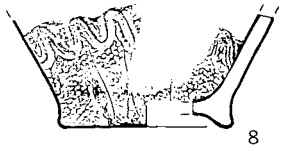
第51図　J－9号住居址・出土遺物(1)



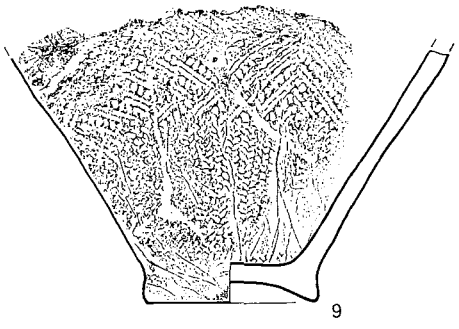
第52図　J－9号住居址・出土遺物(2)



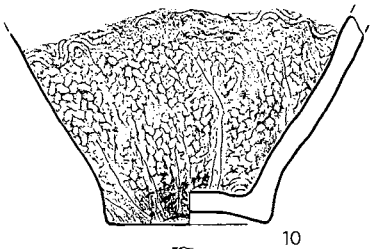
11区1層

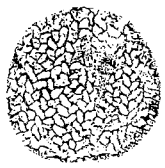


11区2層

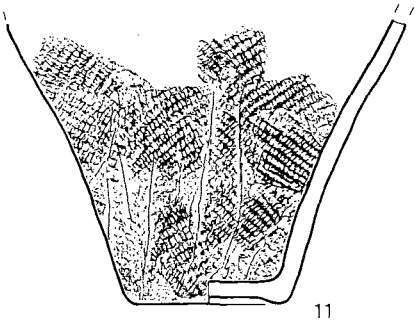


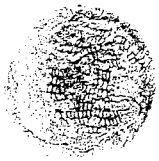
7区2層



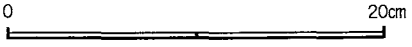


4区1層・7区2層・8区2層

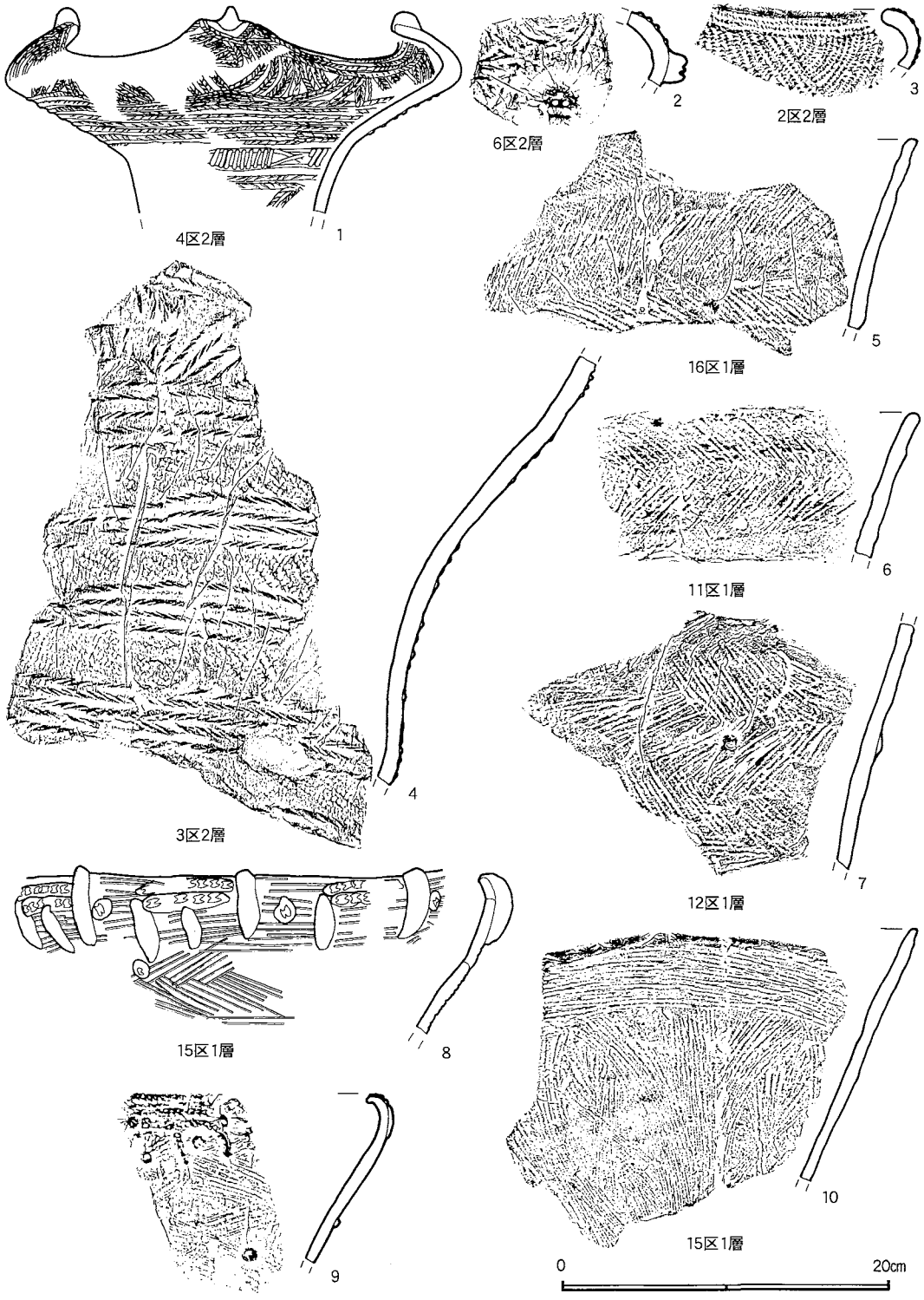




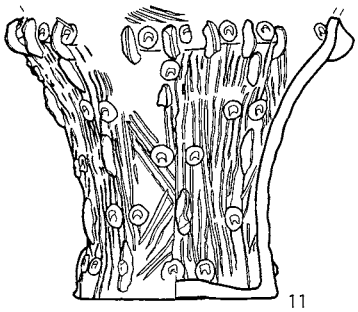
15区1層・15区2層・15区床直



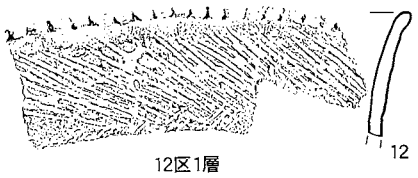
第53図　J－9号住居址・出土遺物(3)



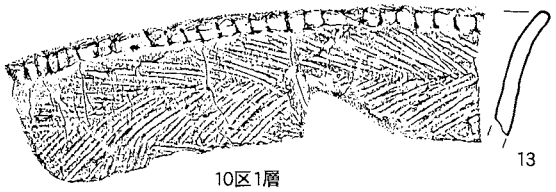
第54図　J—30号住居址・出土遺物(1)



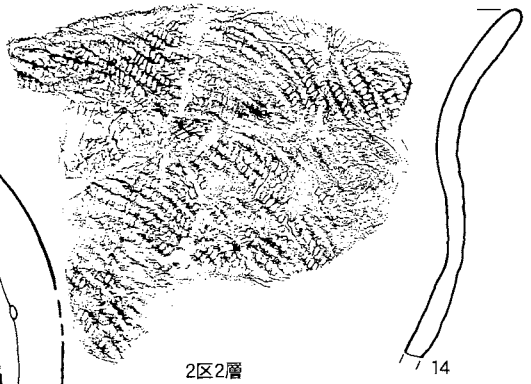
15区



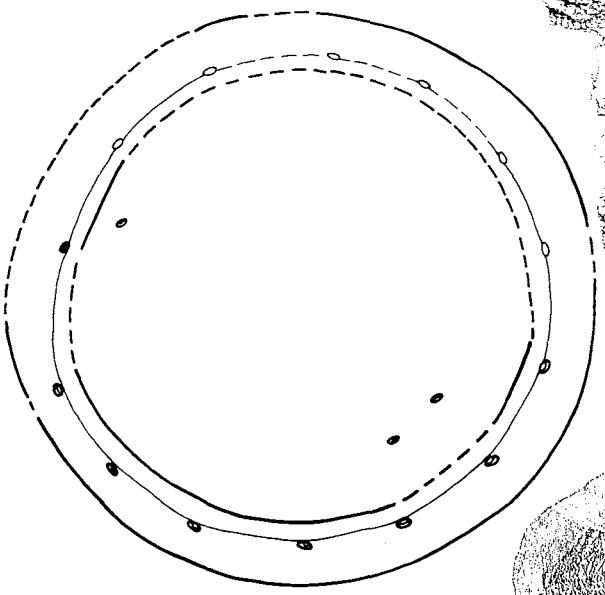
12区1層

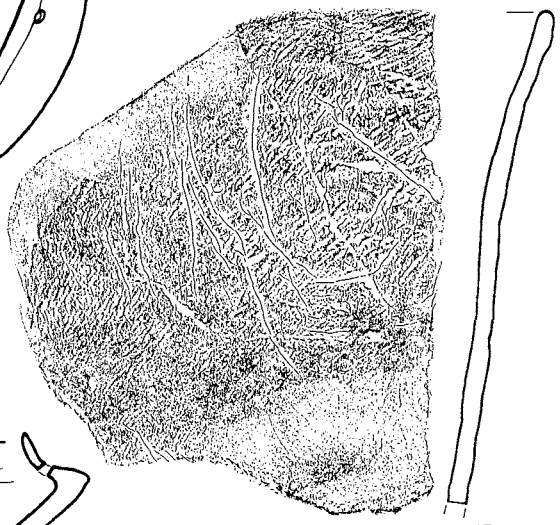


10区1層

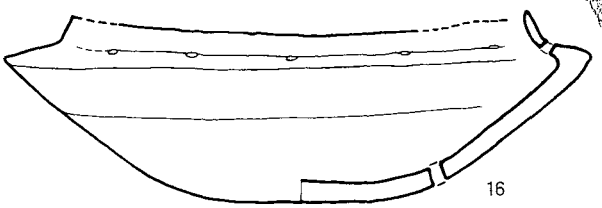


2区2層





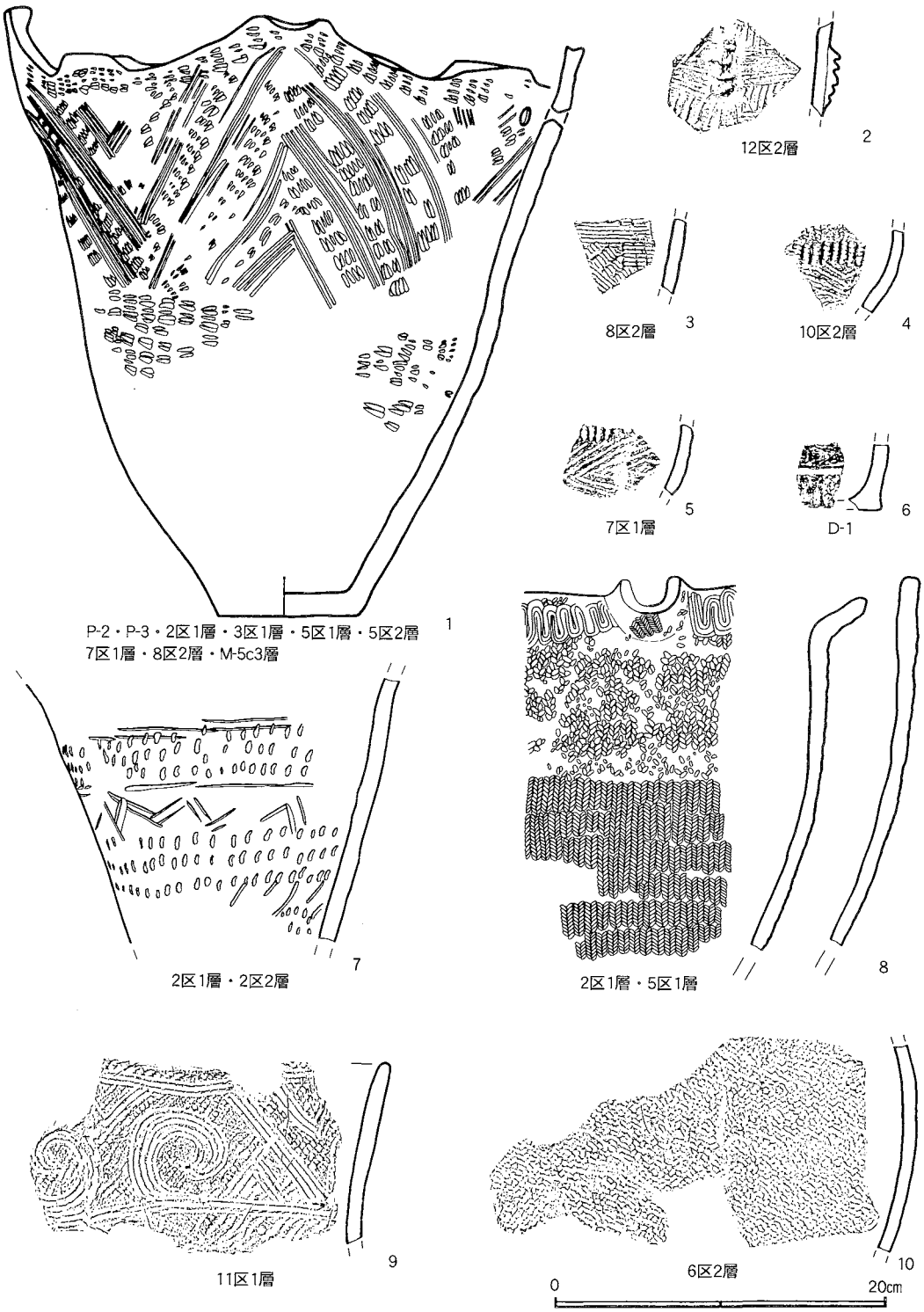
3区2層



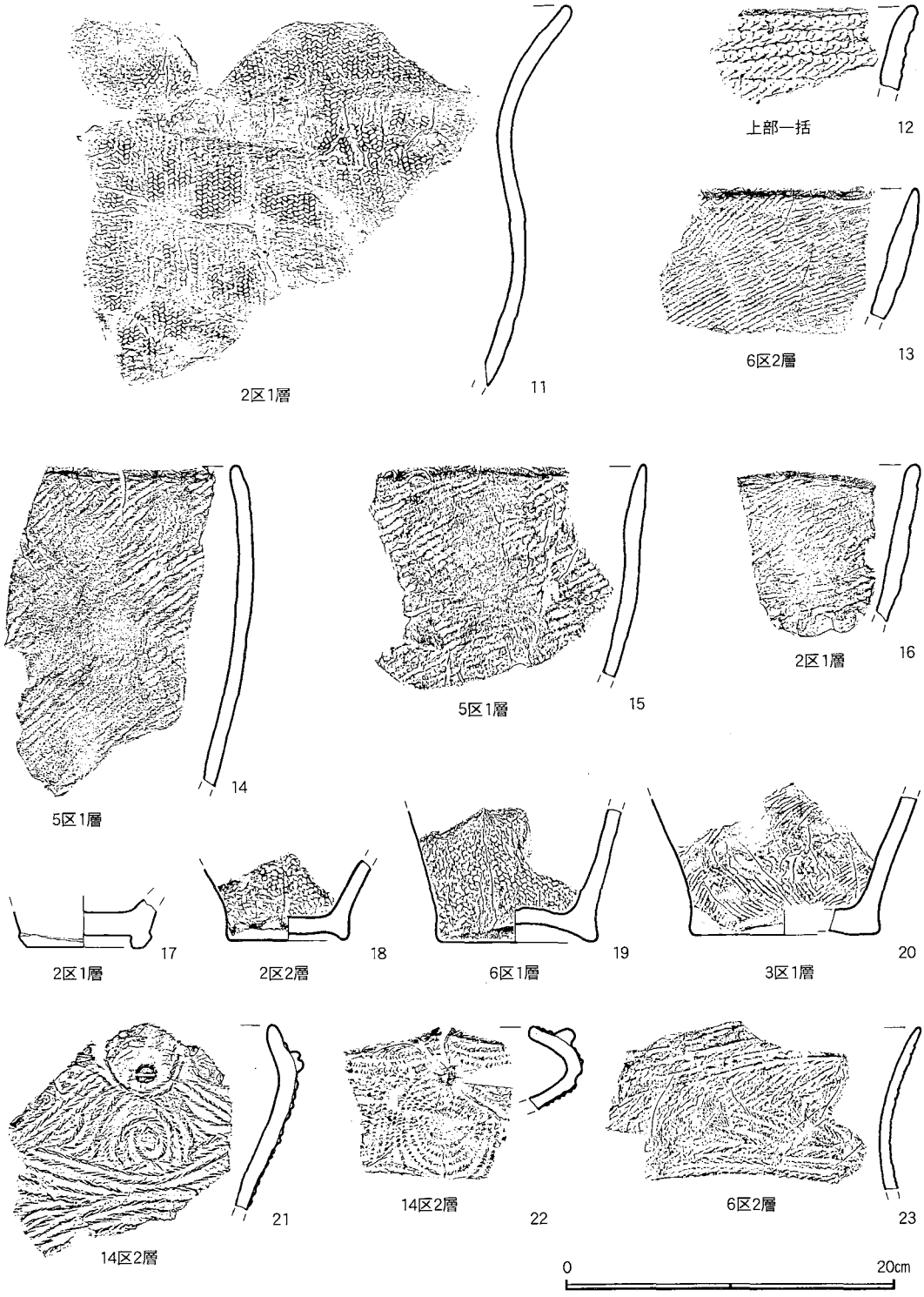
13区2層

0 20cm

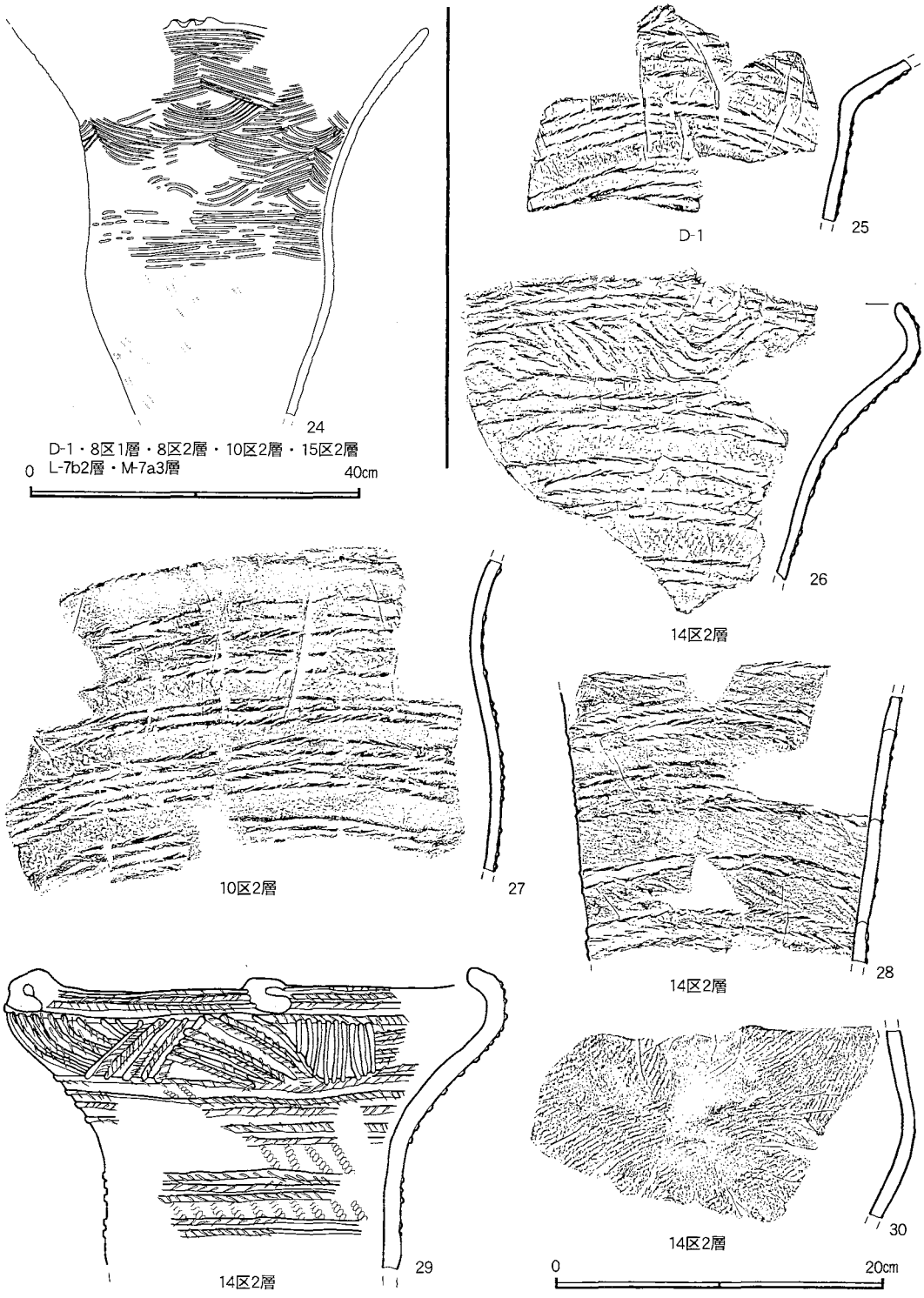
第55図　J—30号住居址・出土遺物(2)



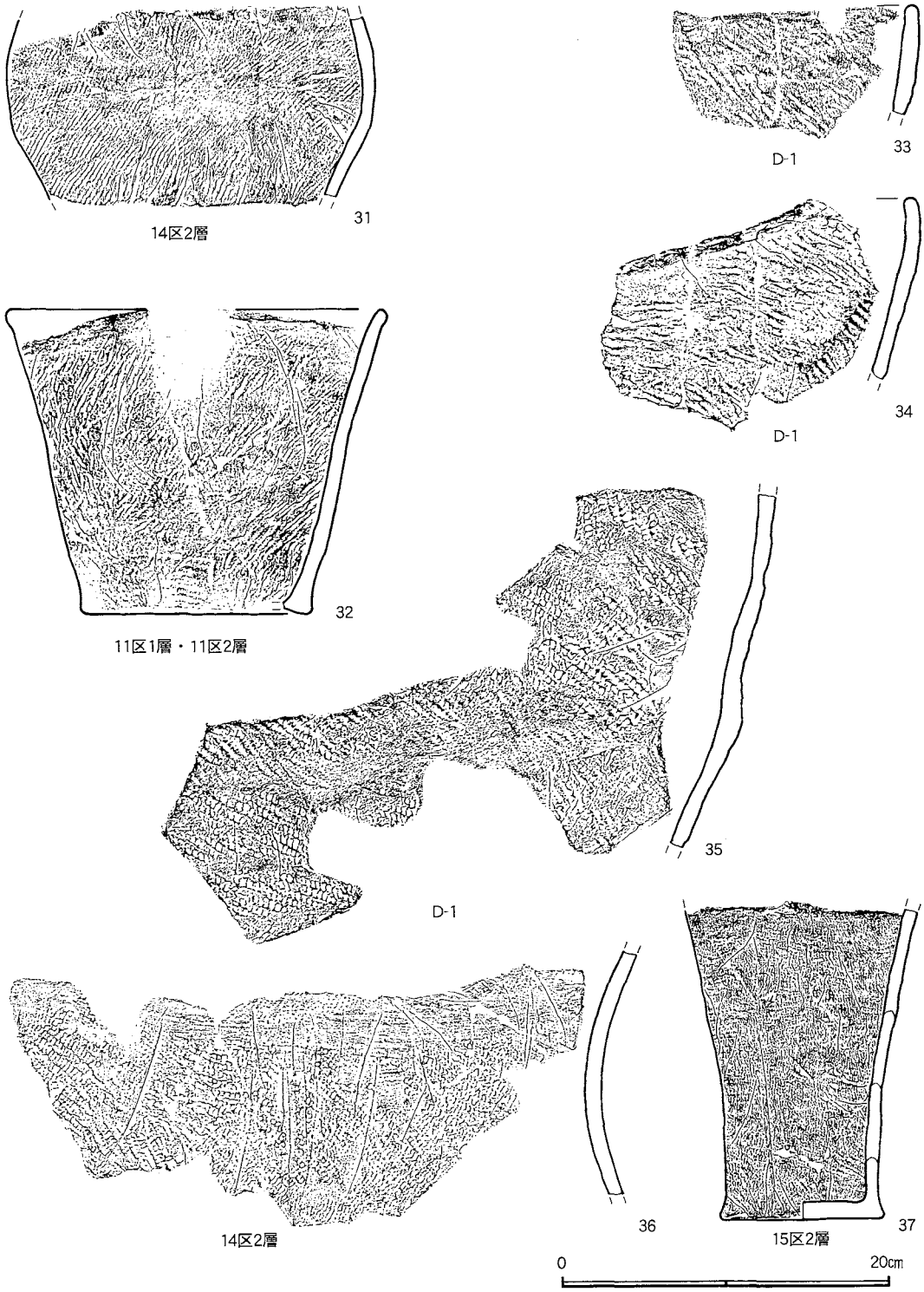
第56図　J－35号住居址・出土遺物(1)



第57図　J—35号住居址・出土遺物(2)

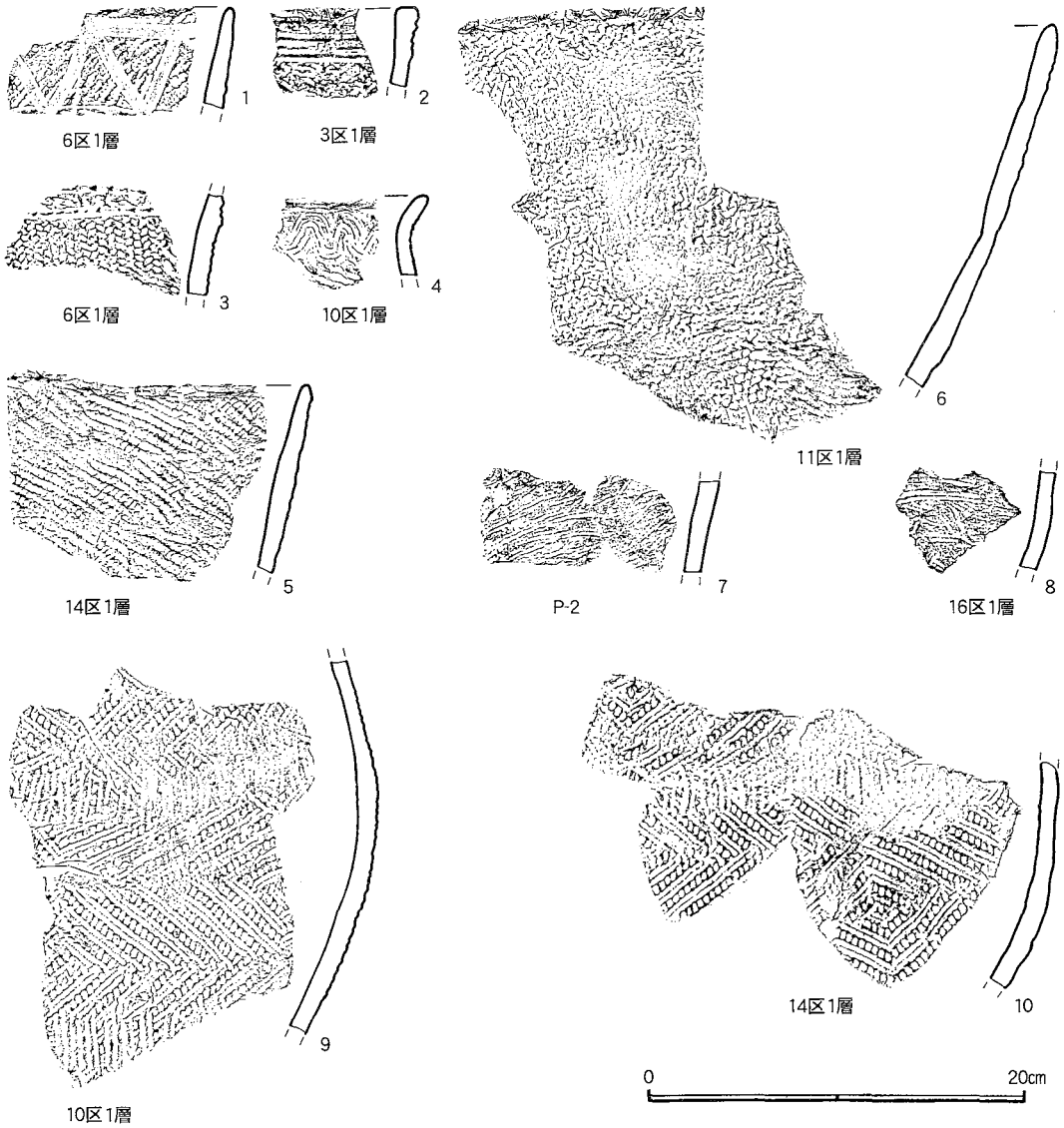


第58図　J－35号住居址・出土遺物(3)

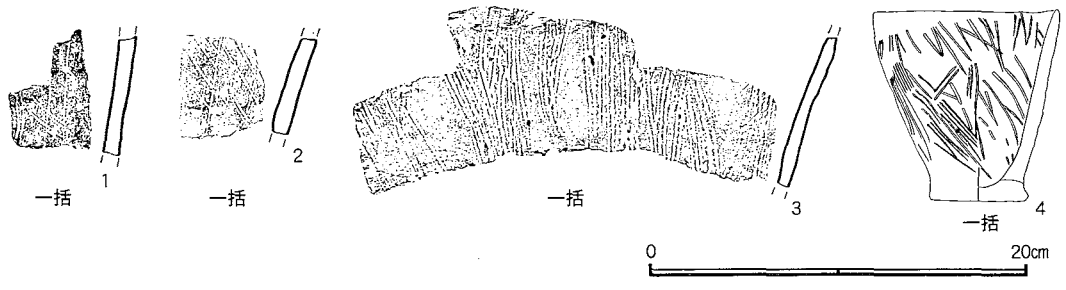


第59図　J－35号住居址・出土遺物(4)

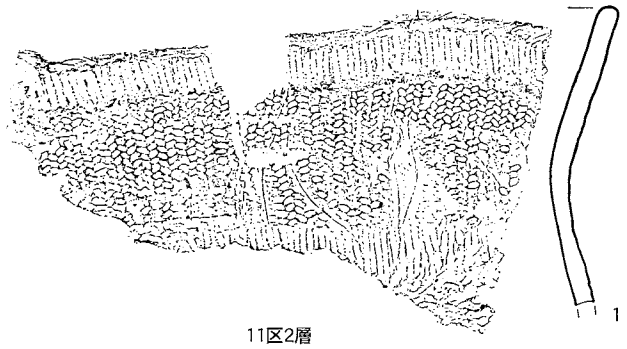
第60図　J—35号住居址・出土遺物(5)



第61図　J—36号住居址・出土遺物

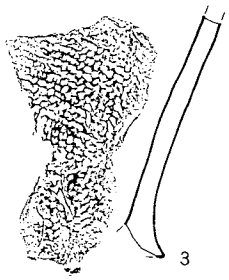


第62図　J—37B号住居址・出土遺物



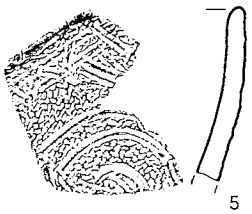
11区2層

11区2層

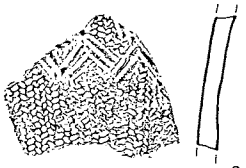


10区2層

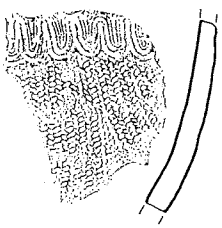
15区2層



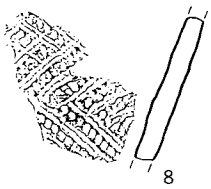
9区2層



6区2層

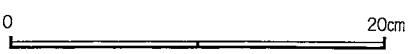


5区2層

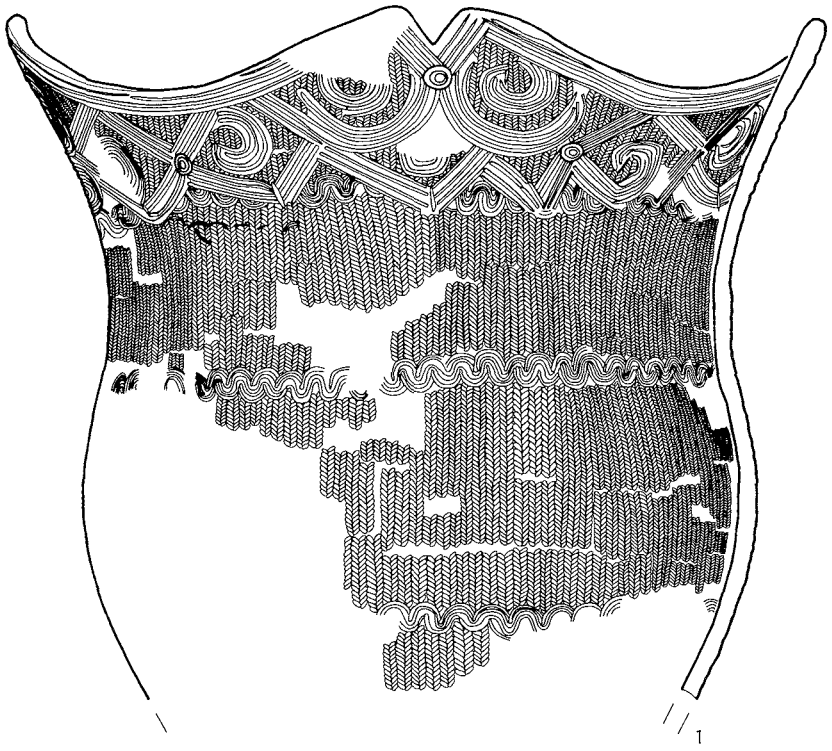


10区2層

10区2層



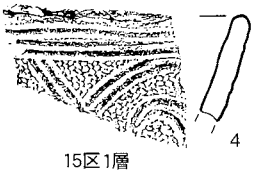
第63図　J－38号住居址・出土遺物



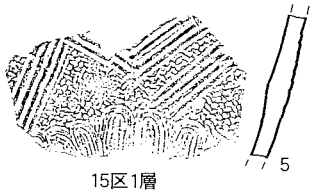
5区1層・10区2層・15区1層・15区2層

9区1層・11区1層・11区2層・15区1層

2区1層

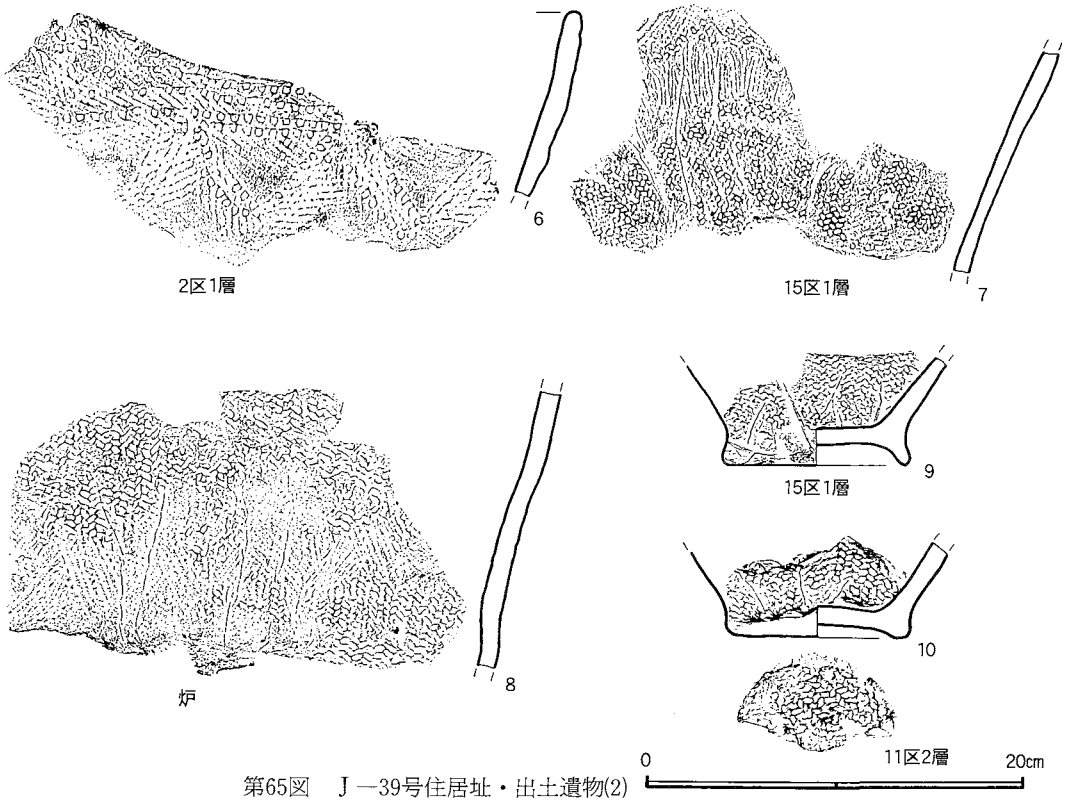


15区1層

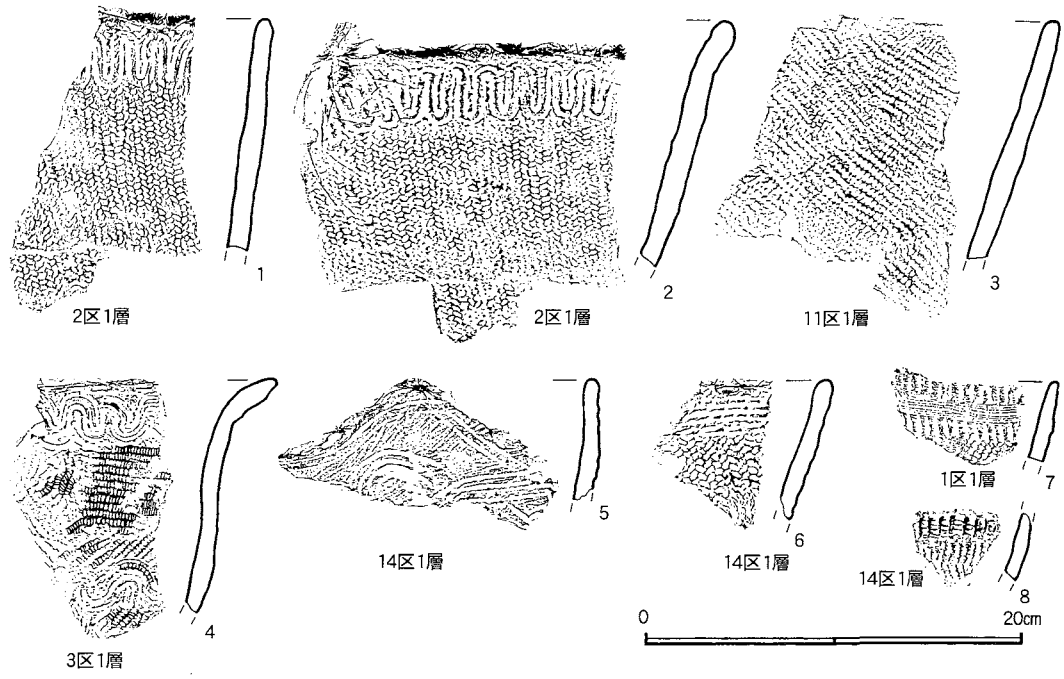


15区1層

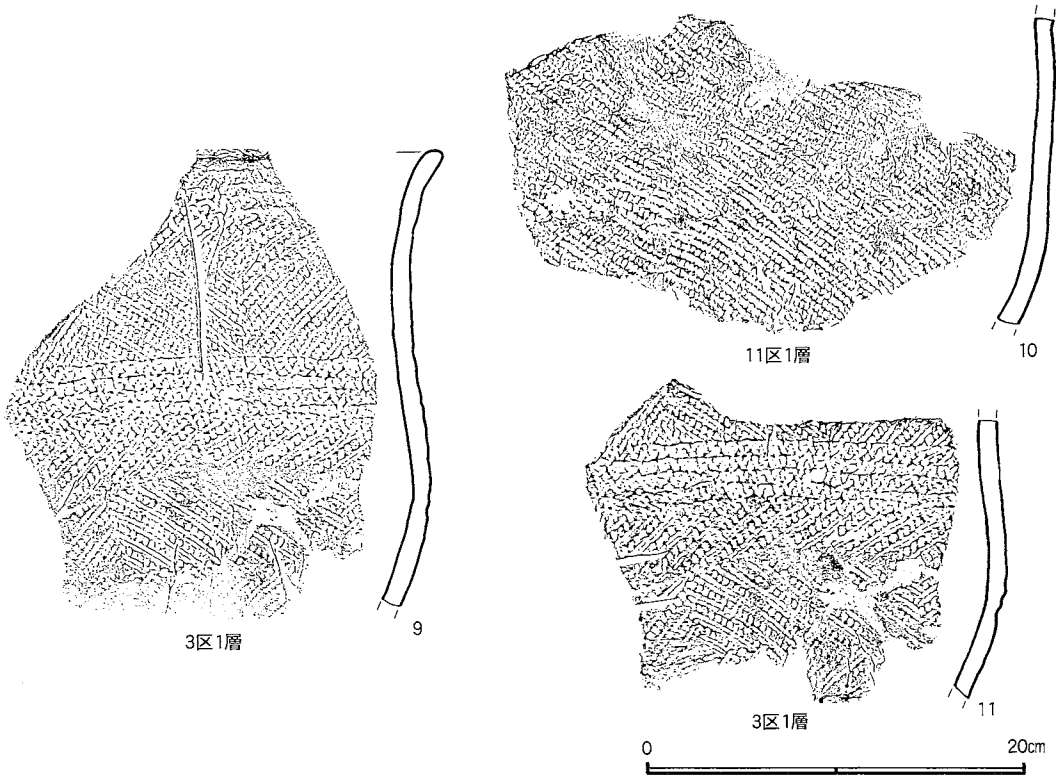
第64図　J－39号住居址・出土遺物(1)



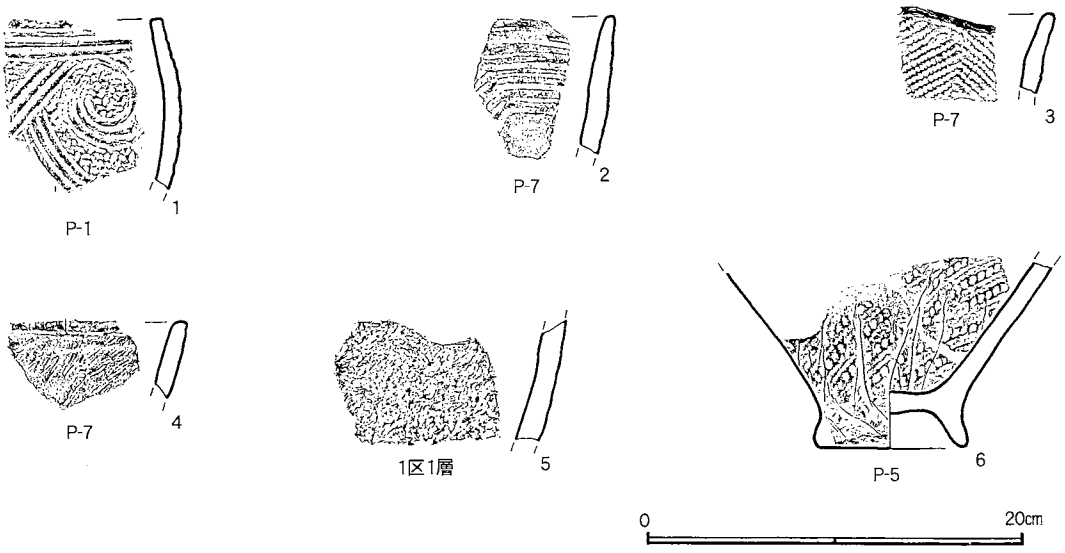
第65図　J—39号住居址・出土遺物(2)



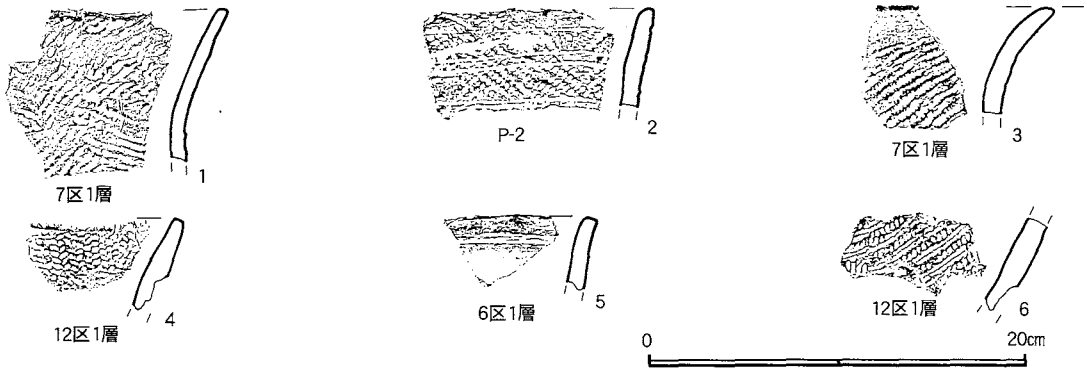
第66図　J—40号住居址・出土遺物(1)



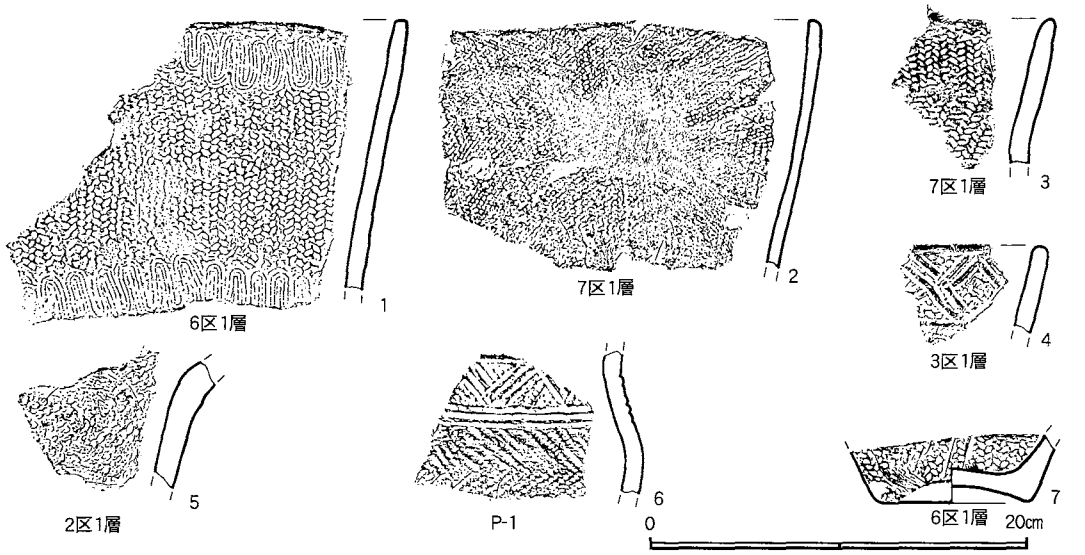
第67図　J－40号住居址・出土遺物(2)



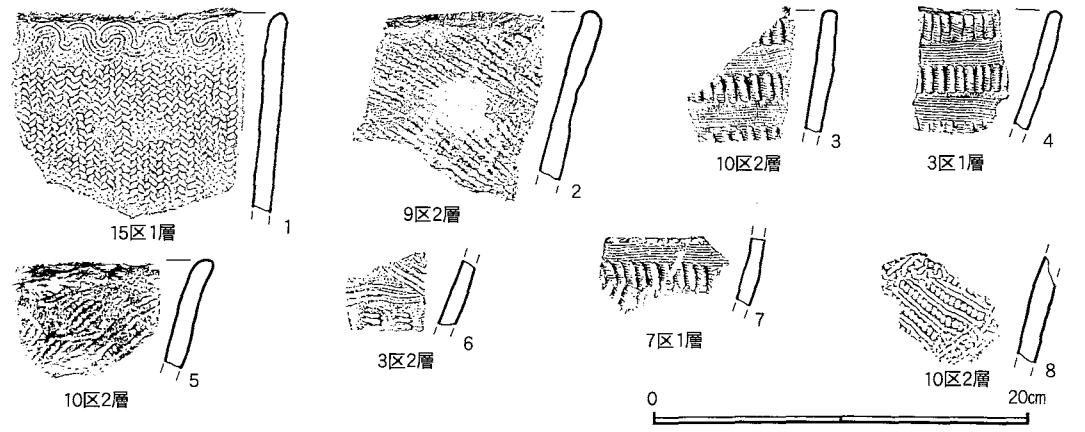
第68図　J－41号住居址・出土遺物



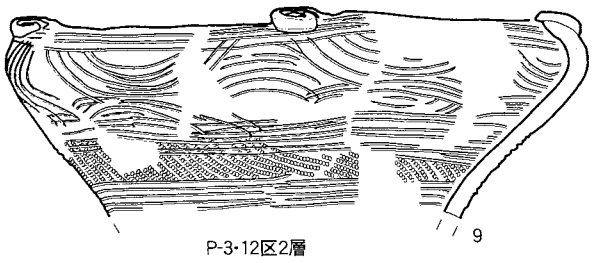
第69図　J－42号住居址・出土遺物

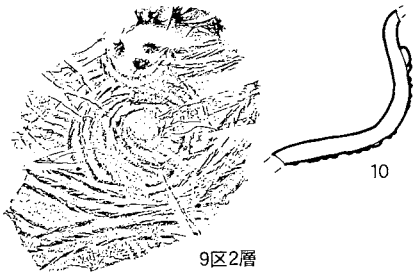


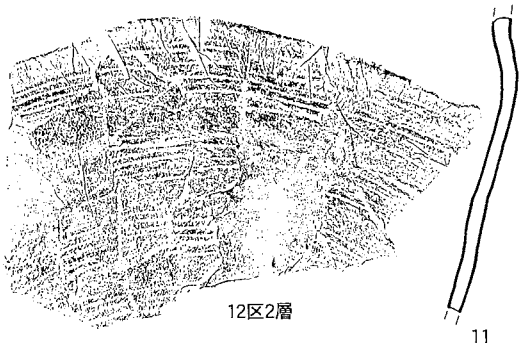
第70図　J－43号住居址・出土遺物

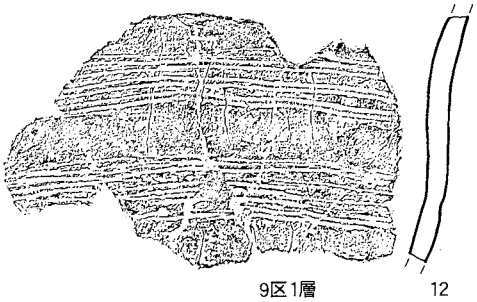


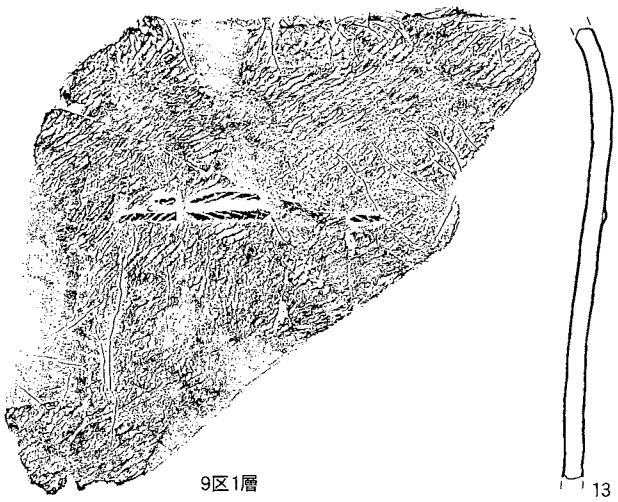
第71図　J－44号住居址・出土遺物(1)

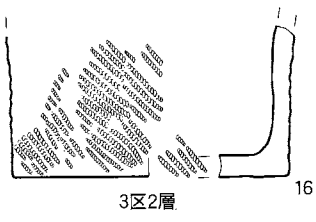


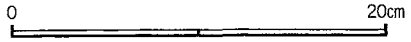




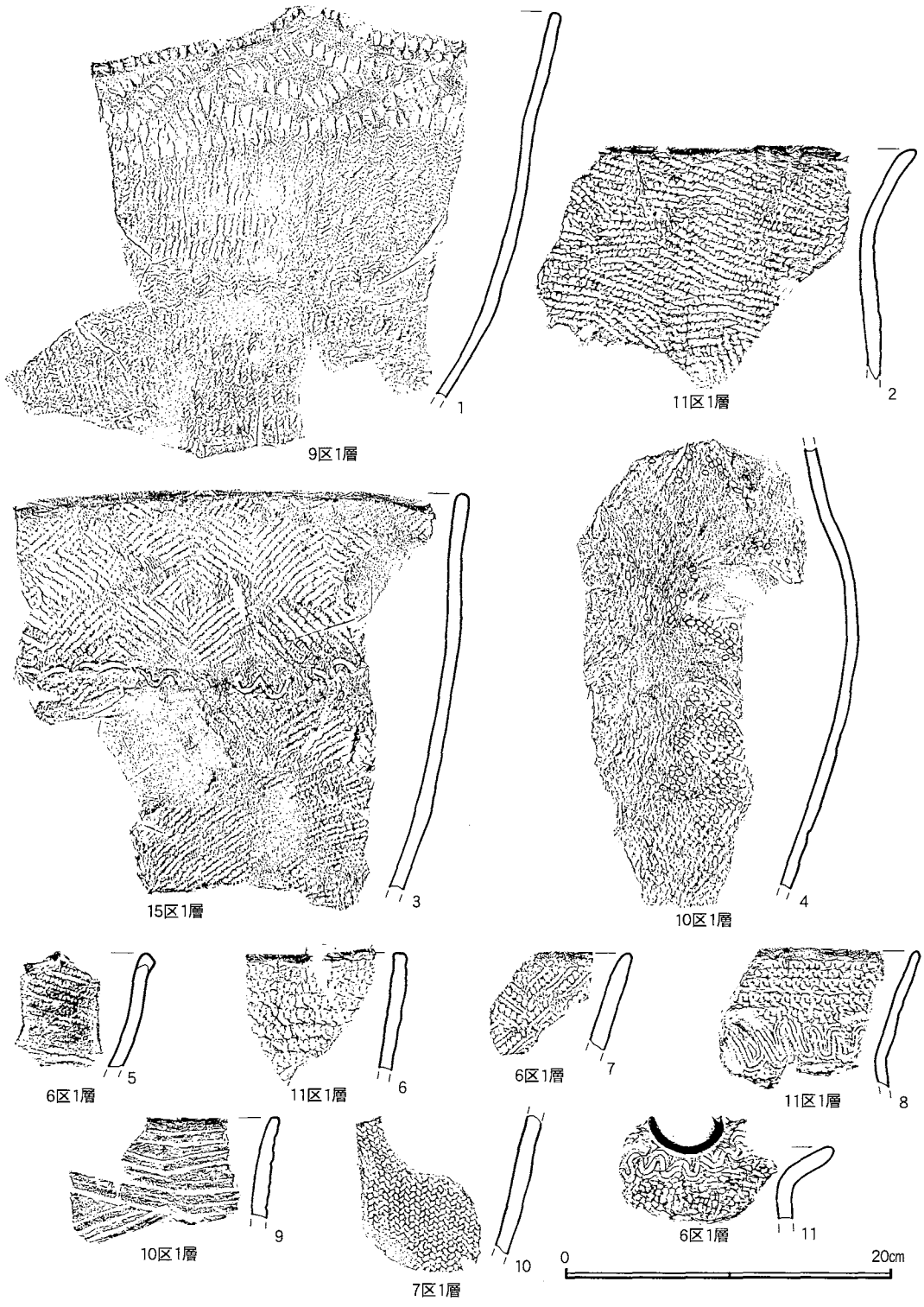




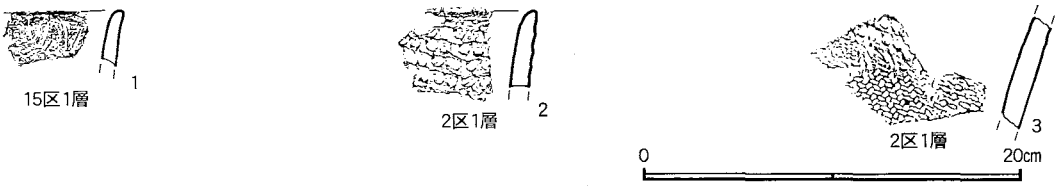




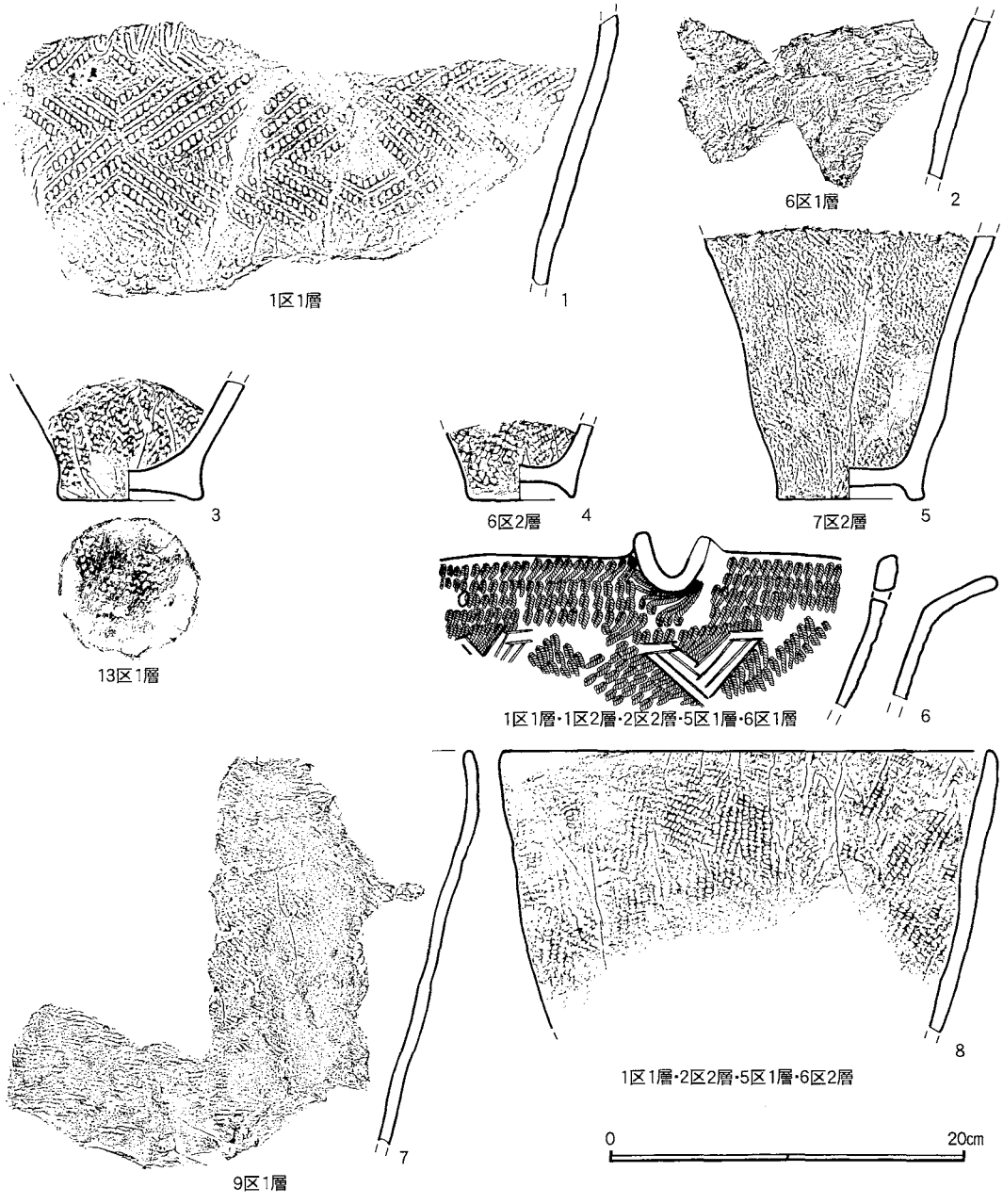
第72図　J—44号住居址・出土遺物(2)



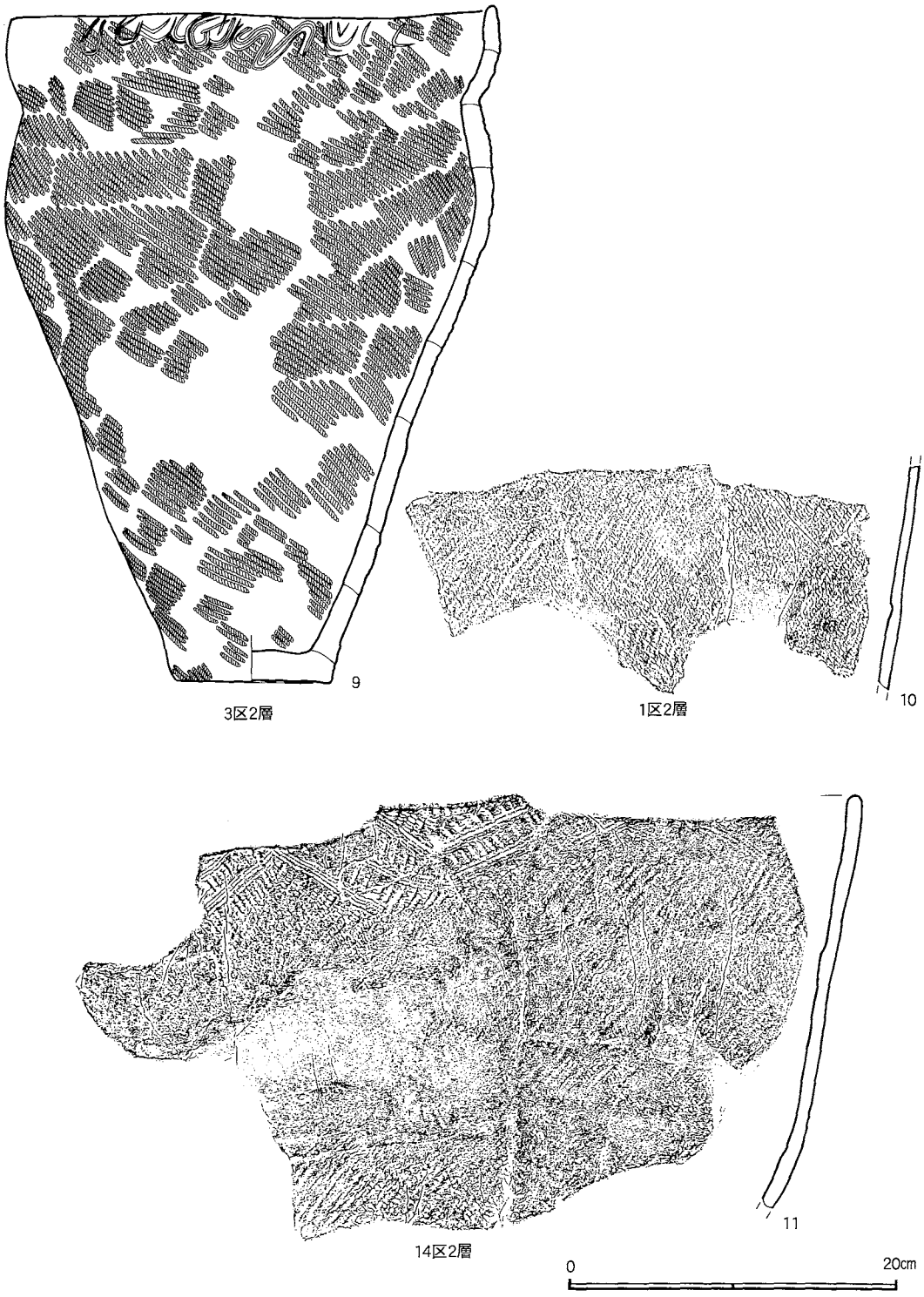
第73図　J—45号住居址・出土遺物



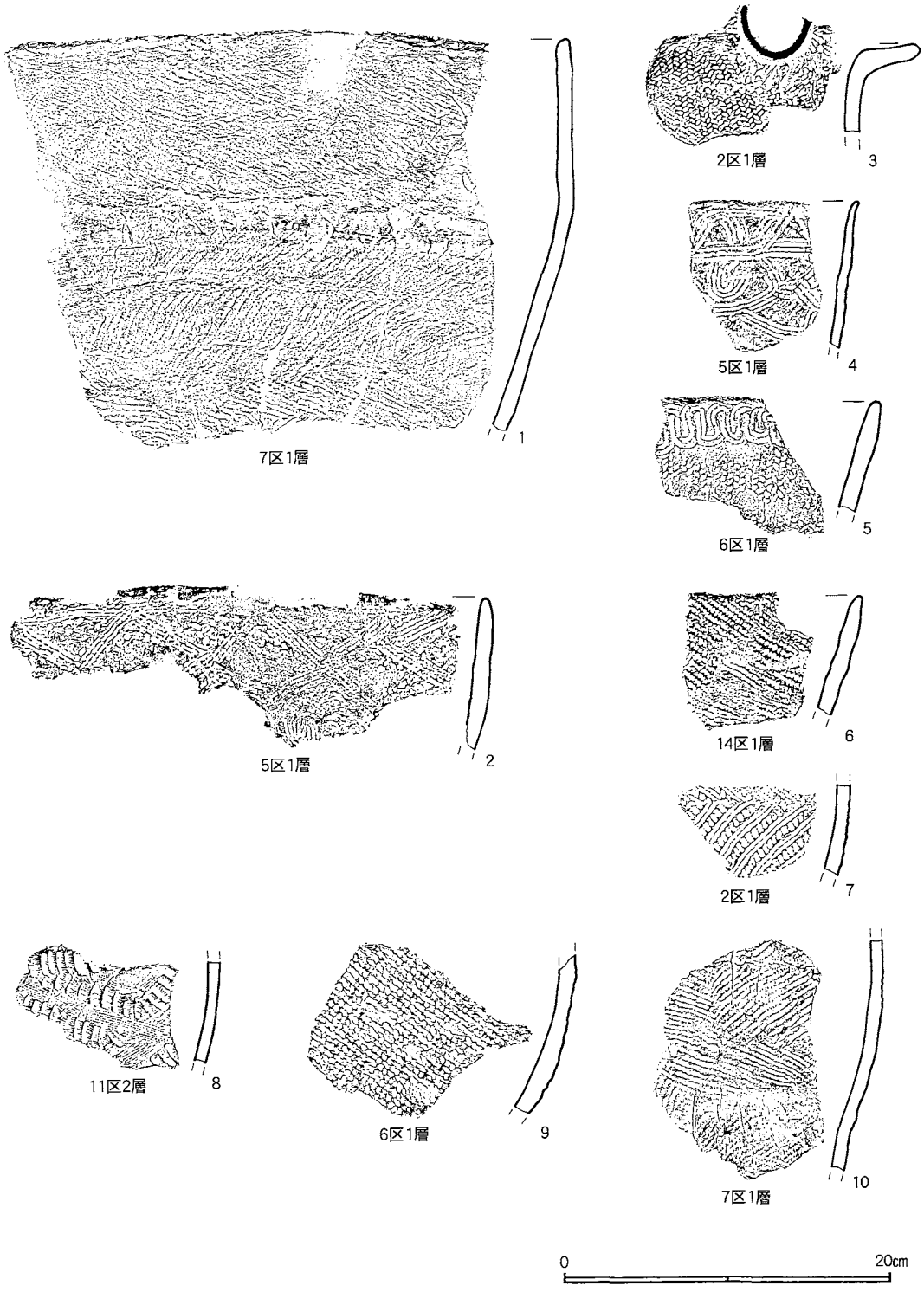
第74図　J—46号住居址・出土遺物



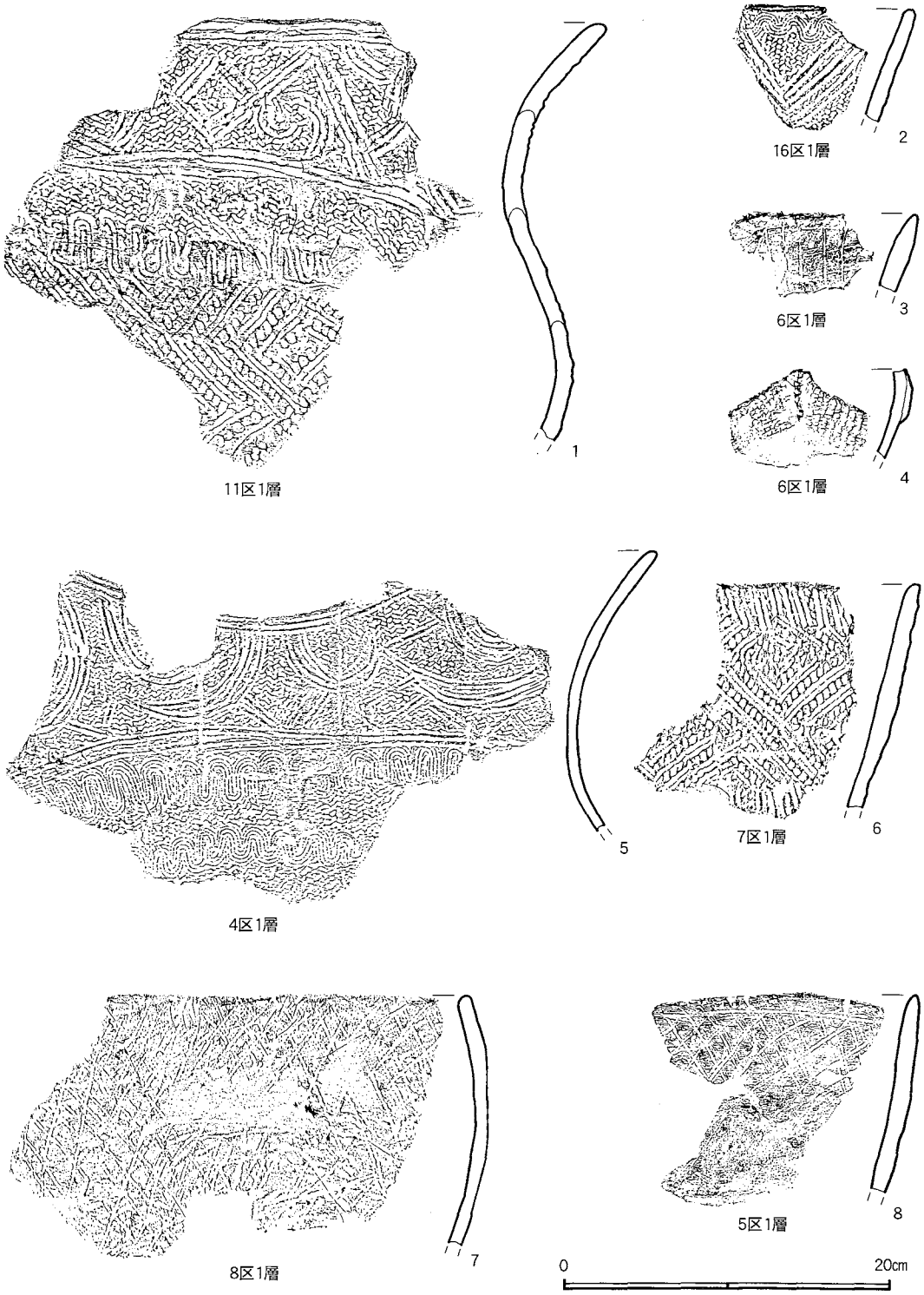
第75図　J—47号住居址・出土遺物(1)



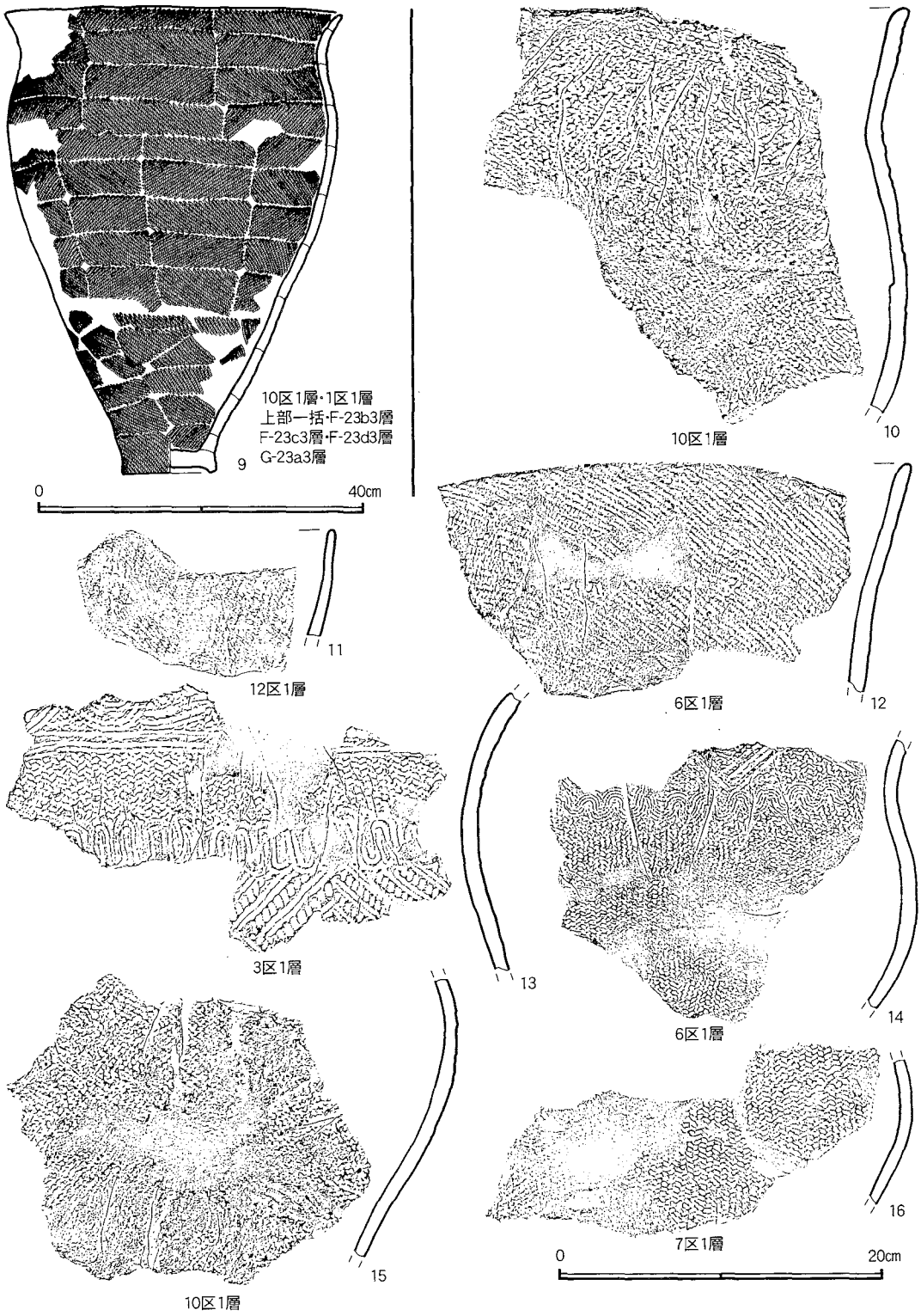
第76図　J－47号住居址・出土遺物(2)



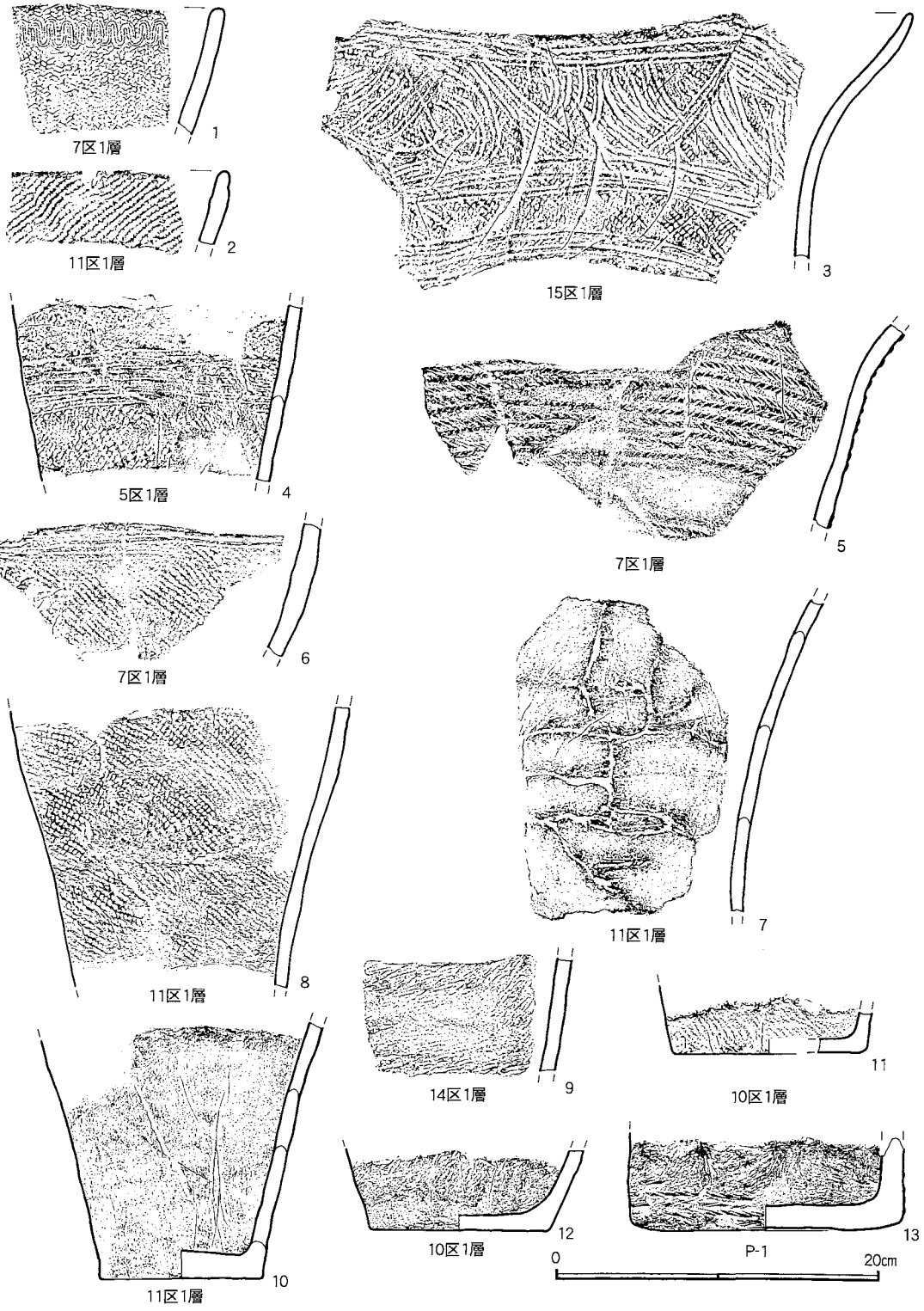
第77図　J—48号住居址・出土遺物



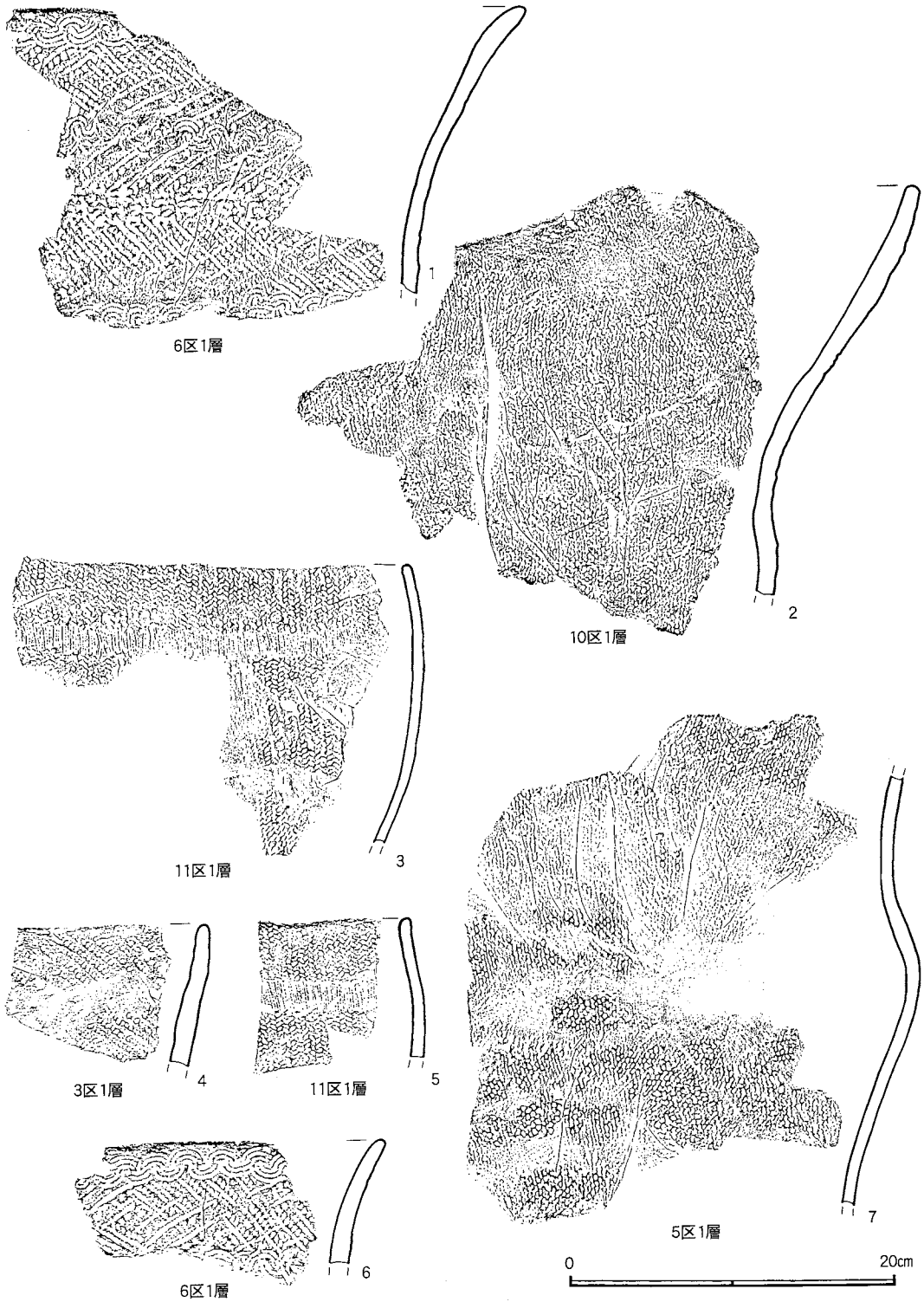
第78図　J－50号住居址・出土遺物(1)



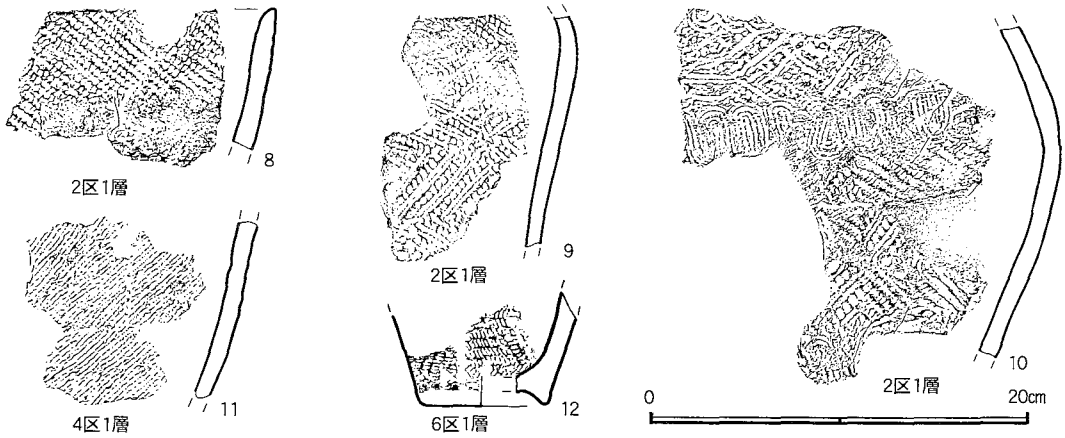
第79図　J—50号住居址・出土遺物(2)



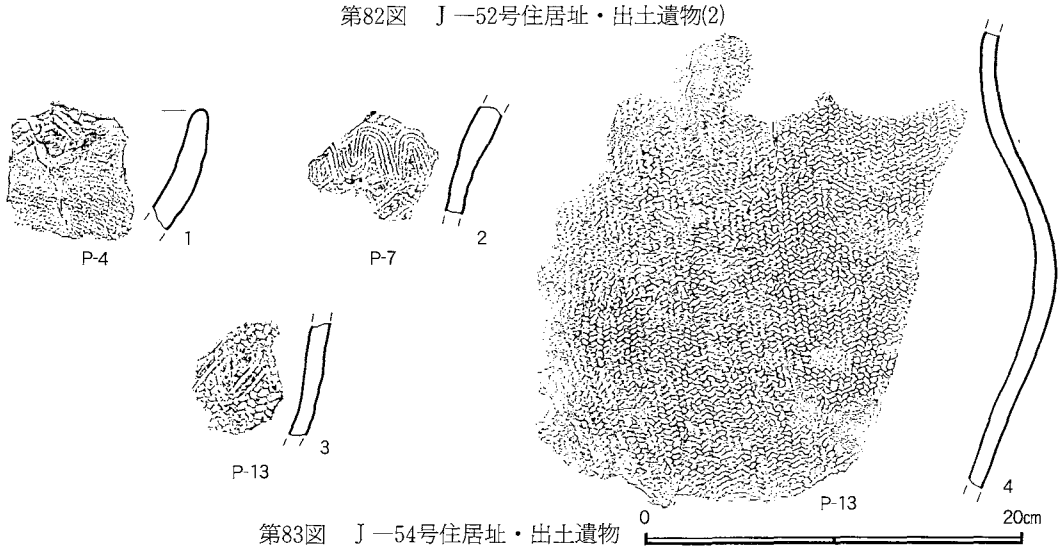
第80図　J—51号住居址・出土遺物



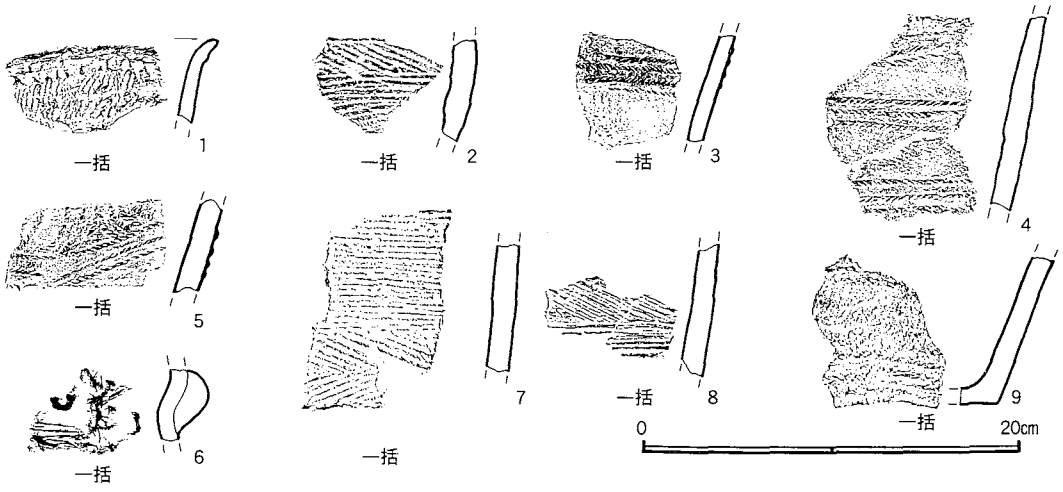
第81図　J—52号住居址・出土遺物(1)



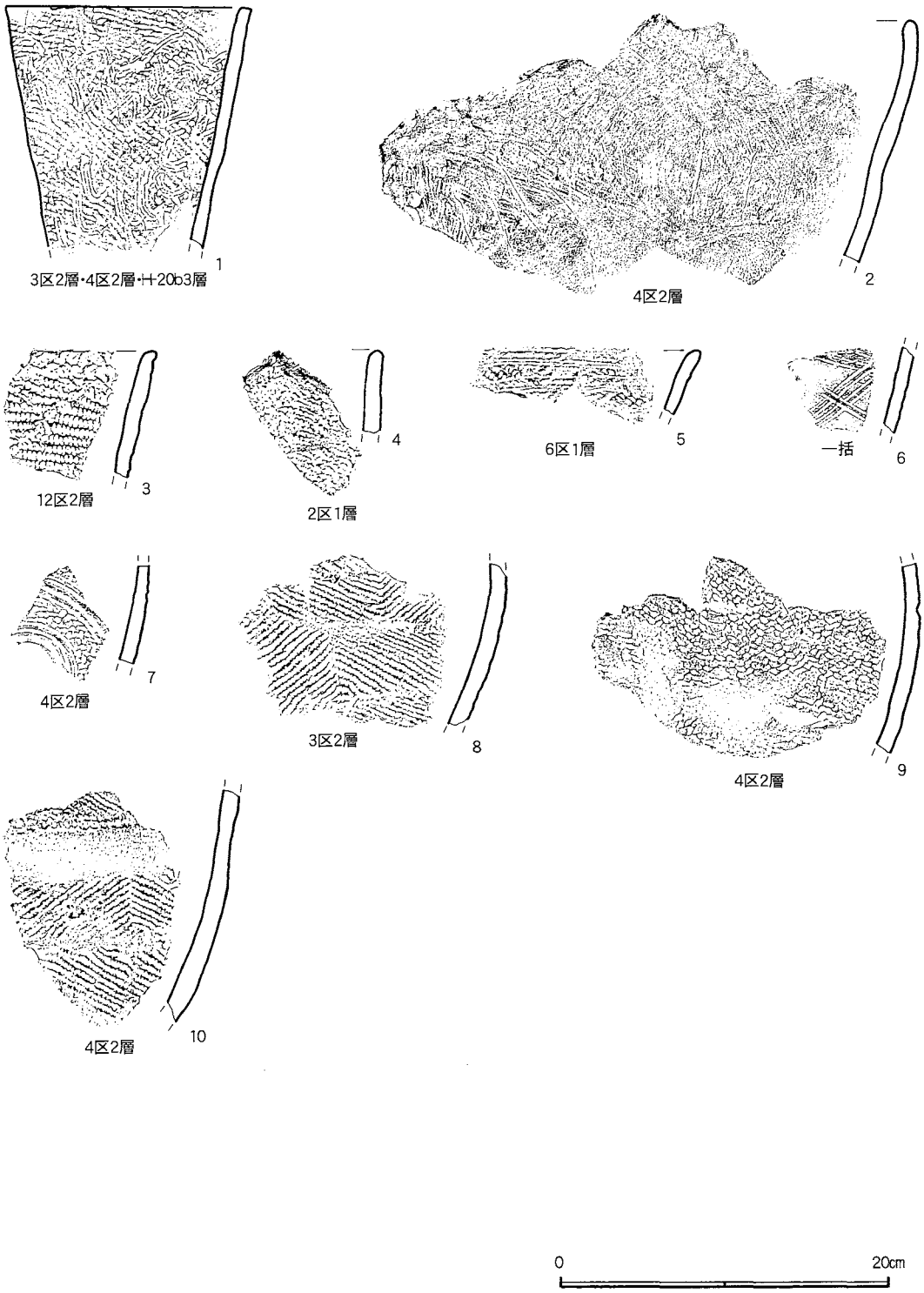
第82図　J—52号住居址・出土遺物(2)



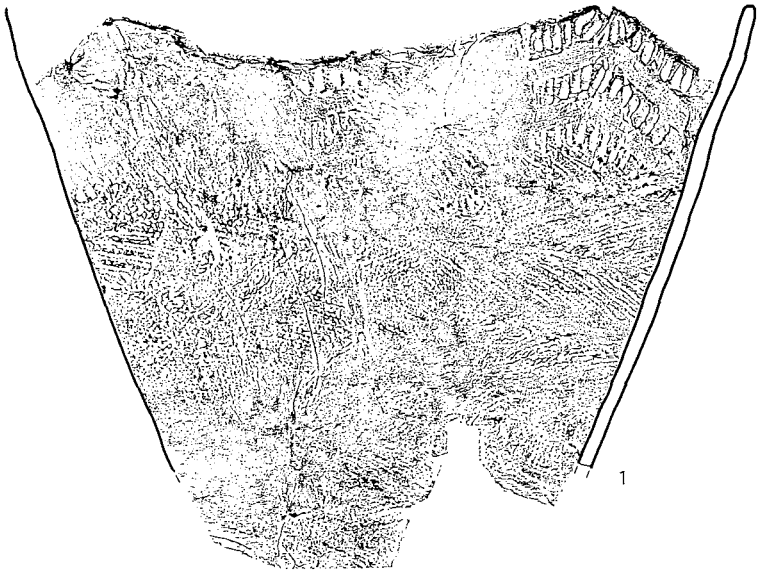
第83図　J—54号住居址・出土遺物



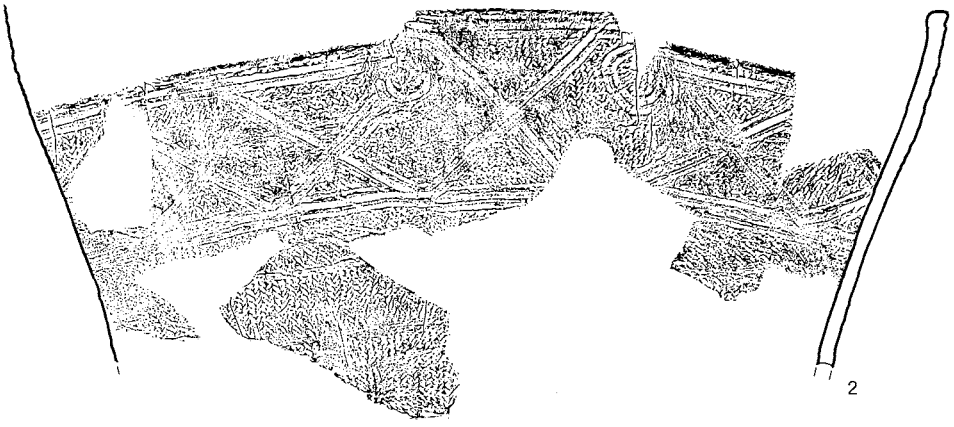
第84図　J—55号住居址・出土遺物



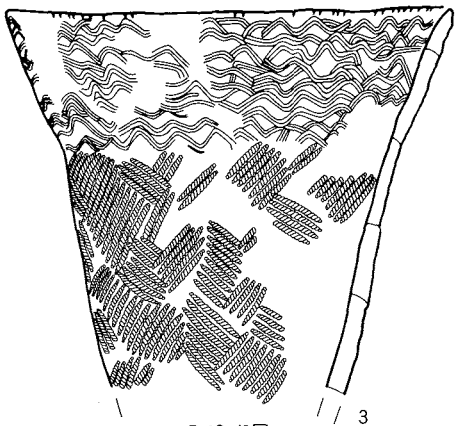
第85図　J—56号住居址・出土遺物



J-24 d3層　I-24 c3層



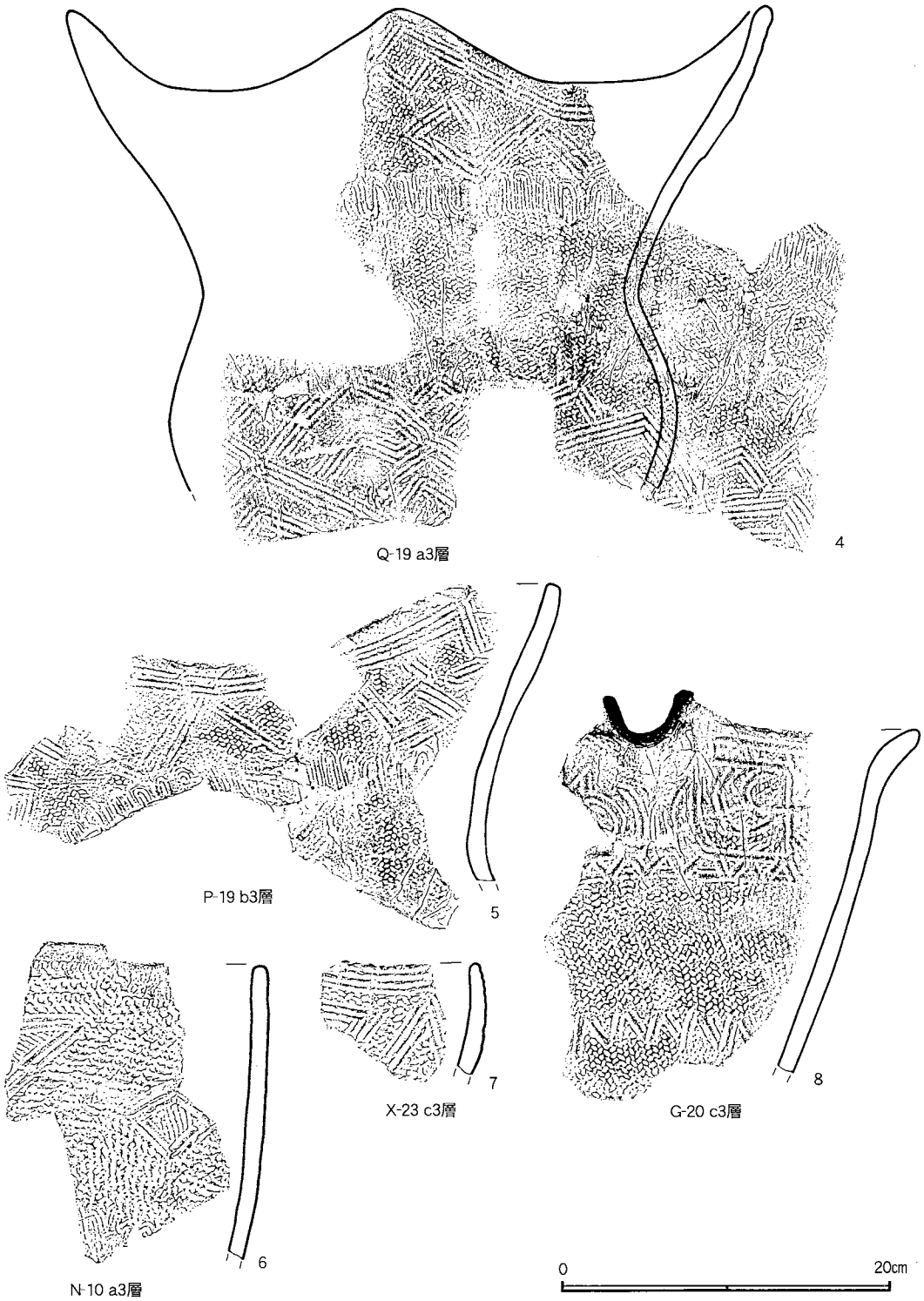
I-12 d3層



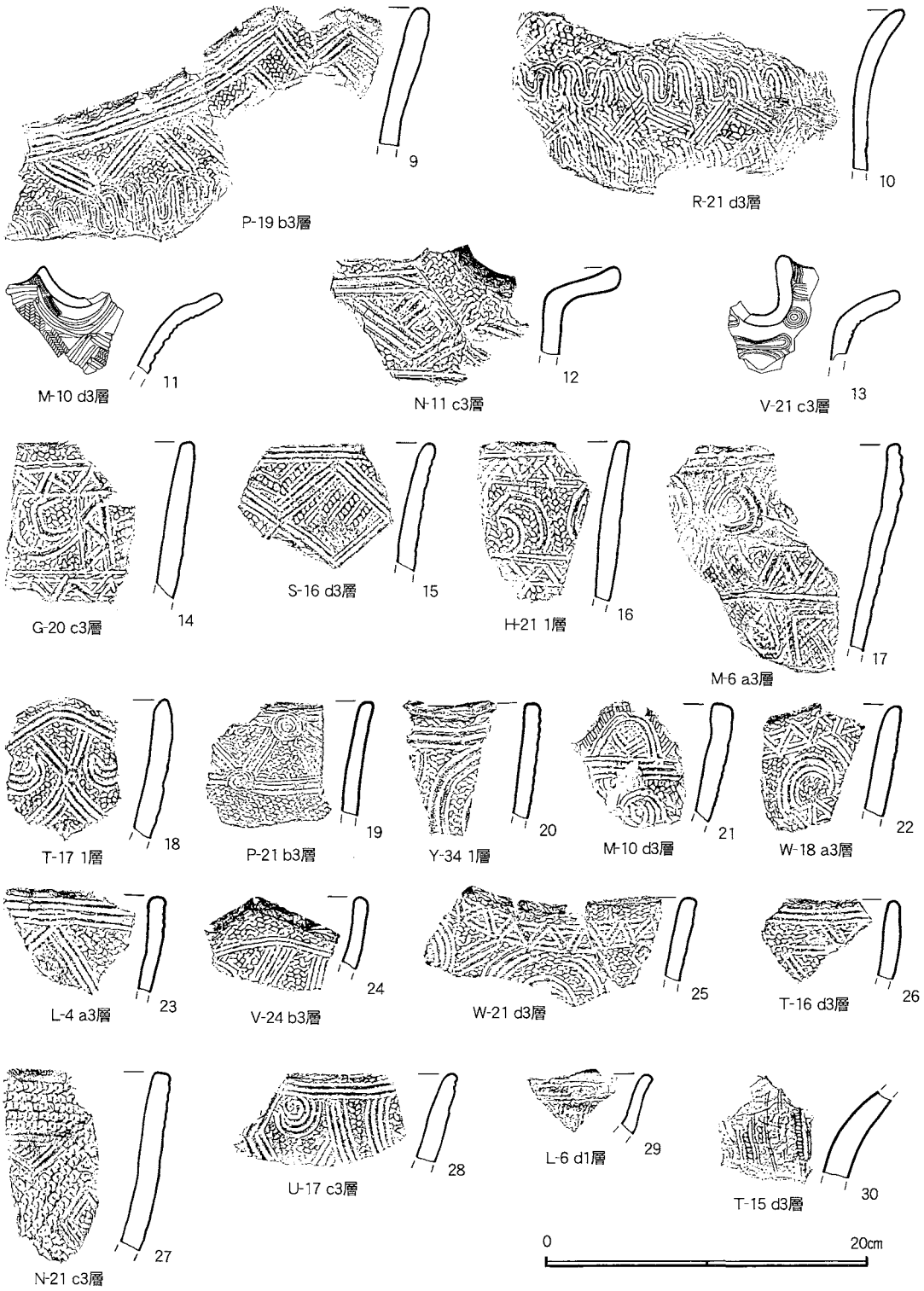
R-18 d3層

0　20cm

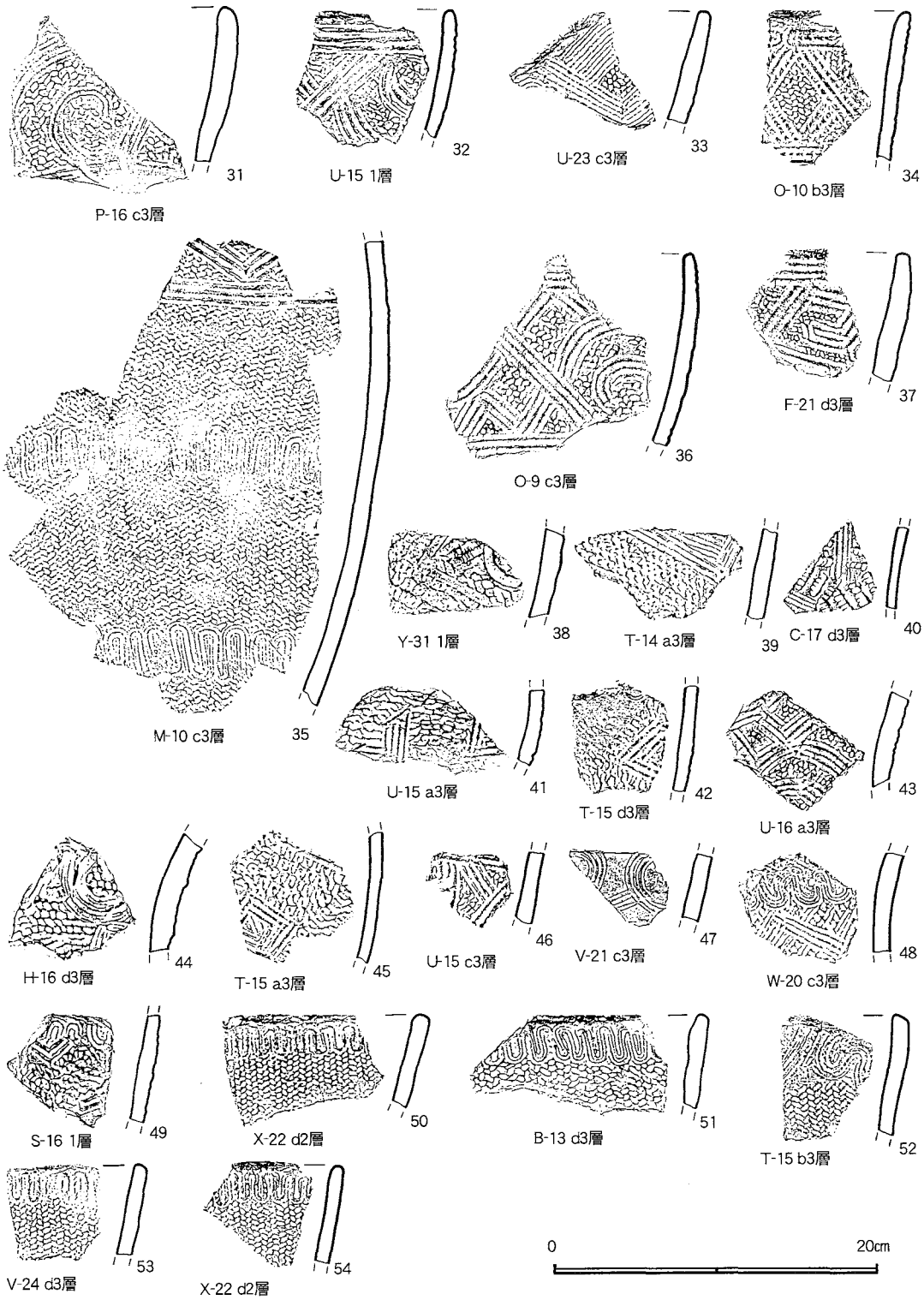
第86図　グリッド出土遺物



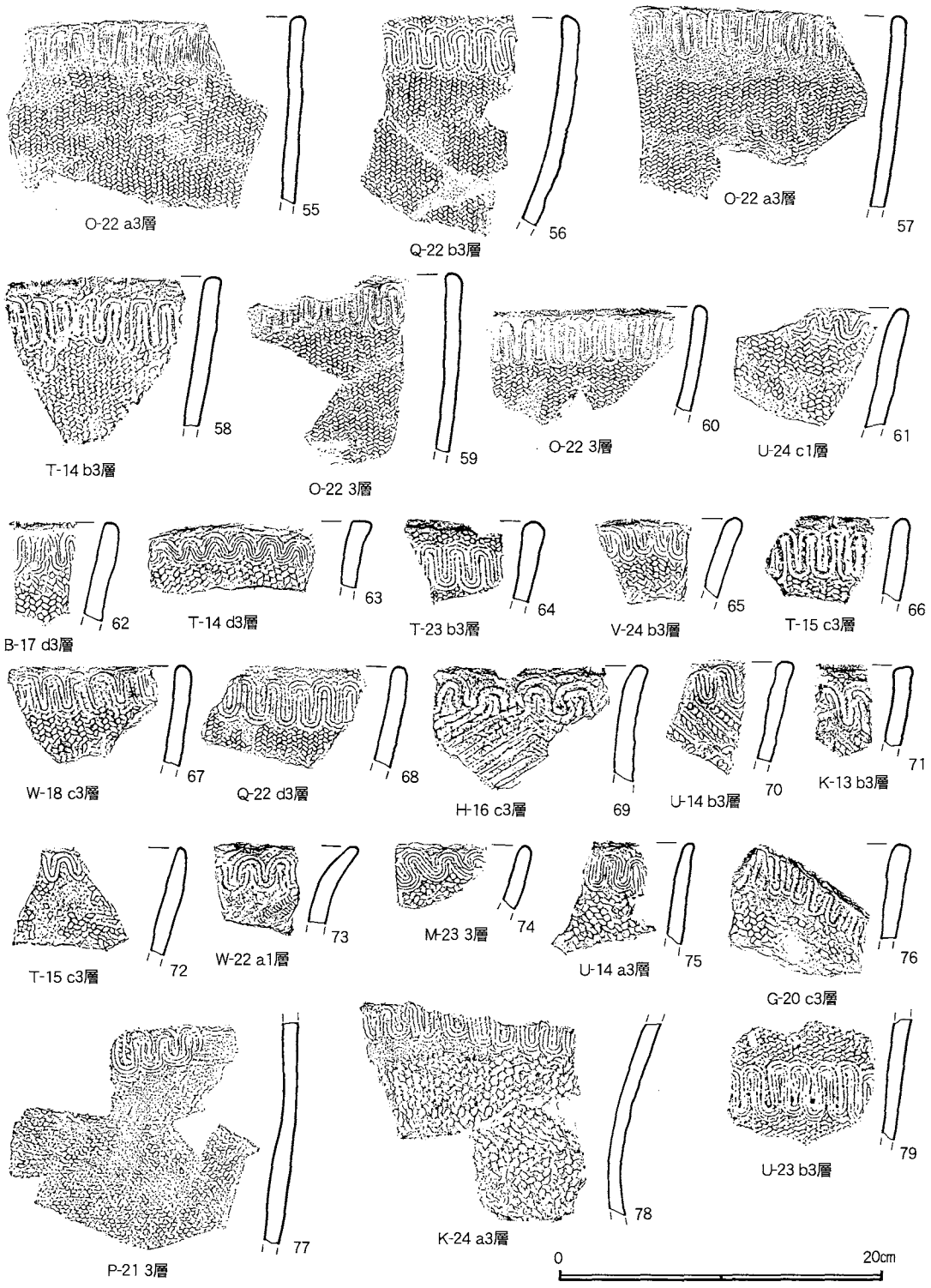
第87図　グリッド出土遺物



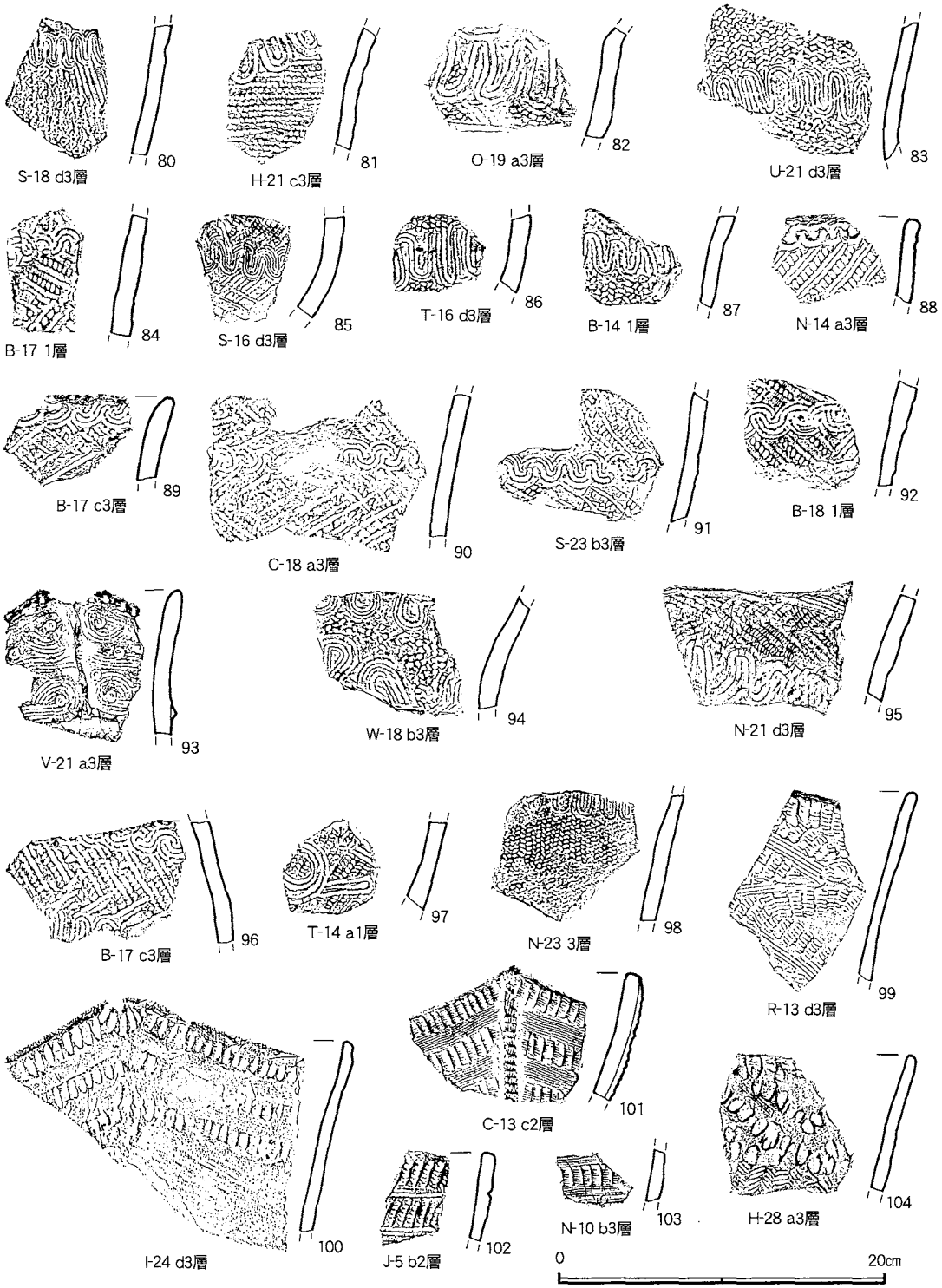
第88図　グリッド出土遺物



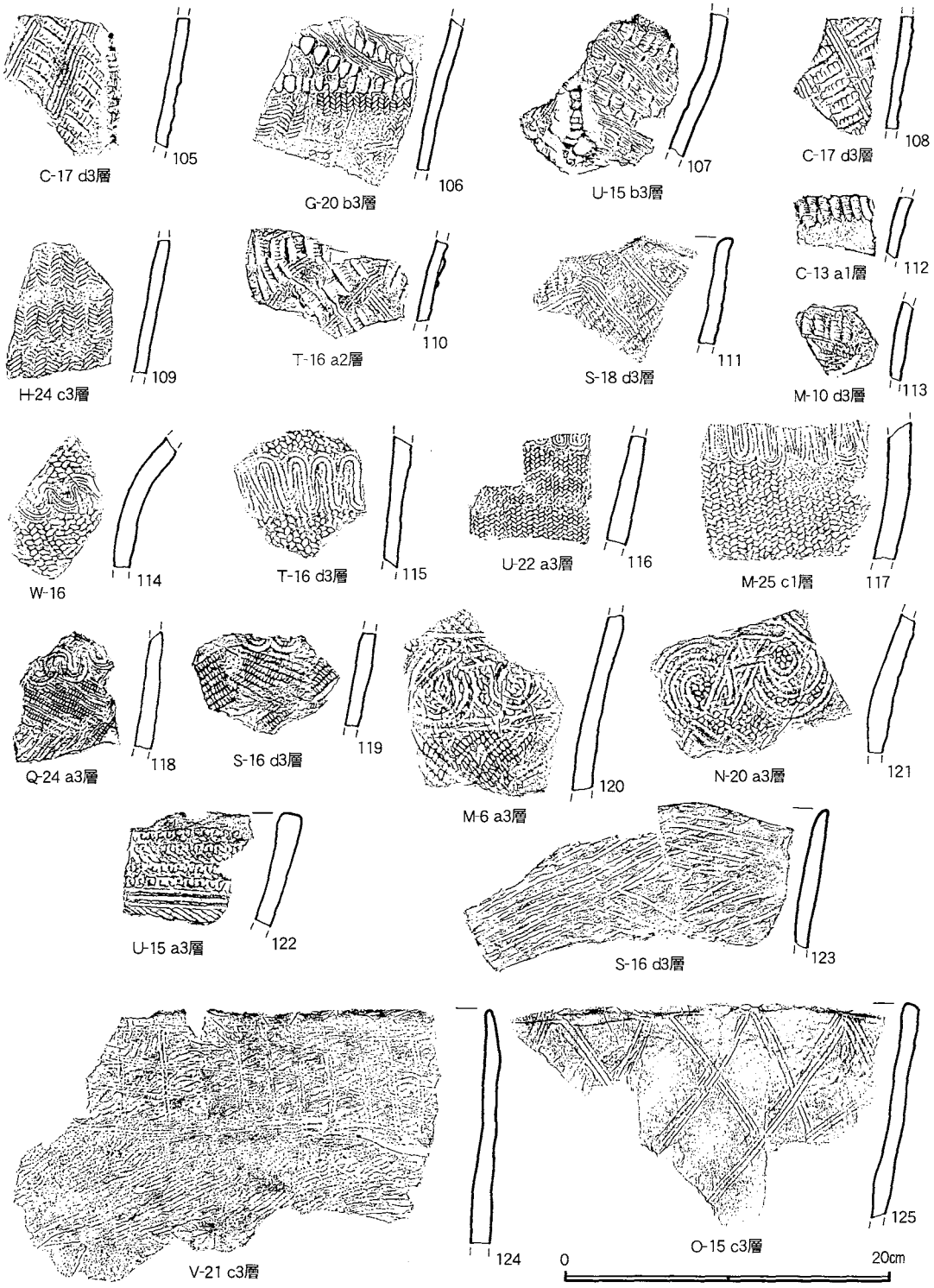
第89図　グリッド出土遺物



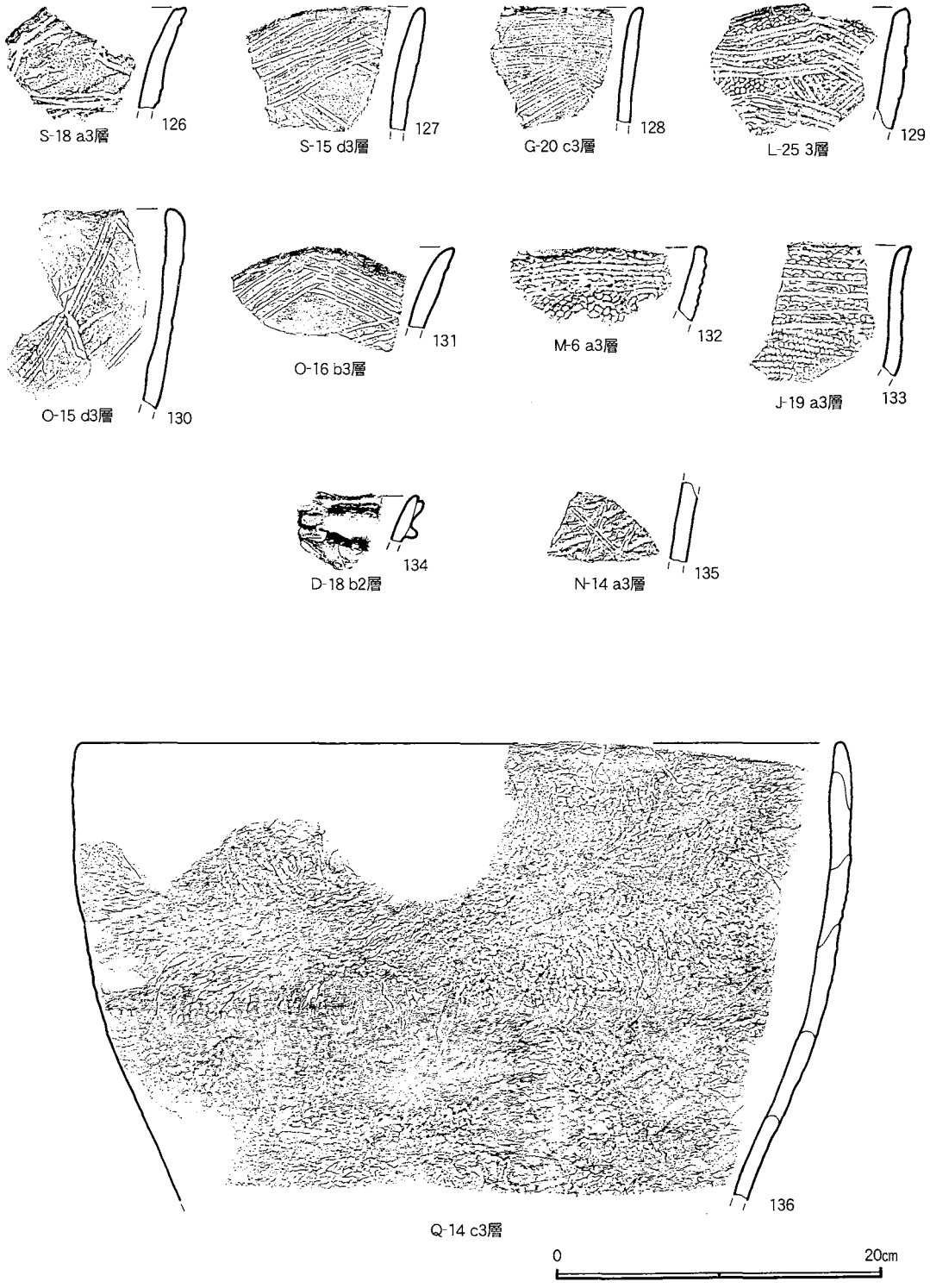
第90図　グリッド出土遺物



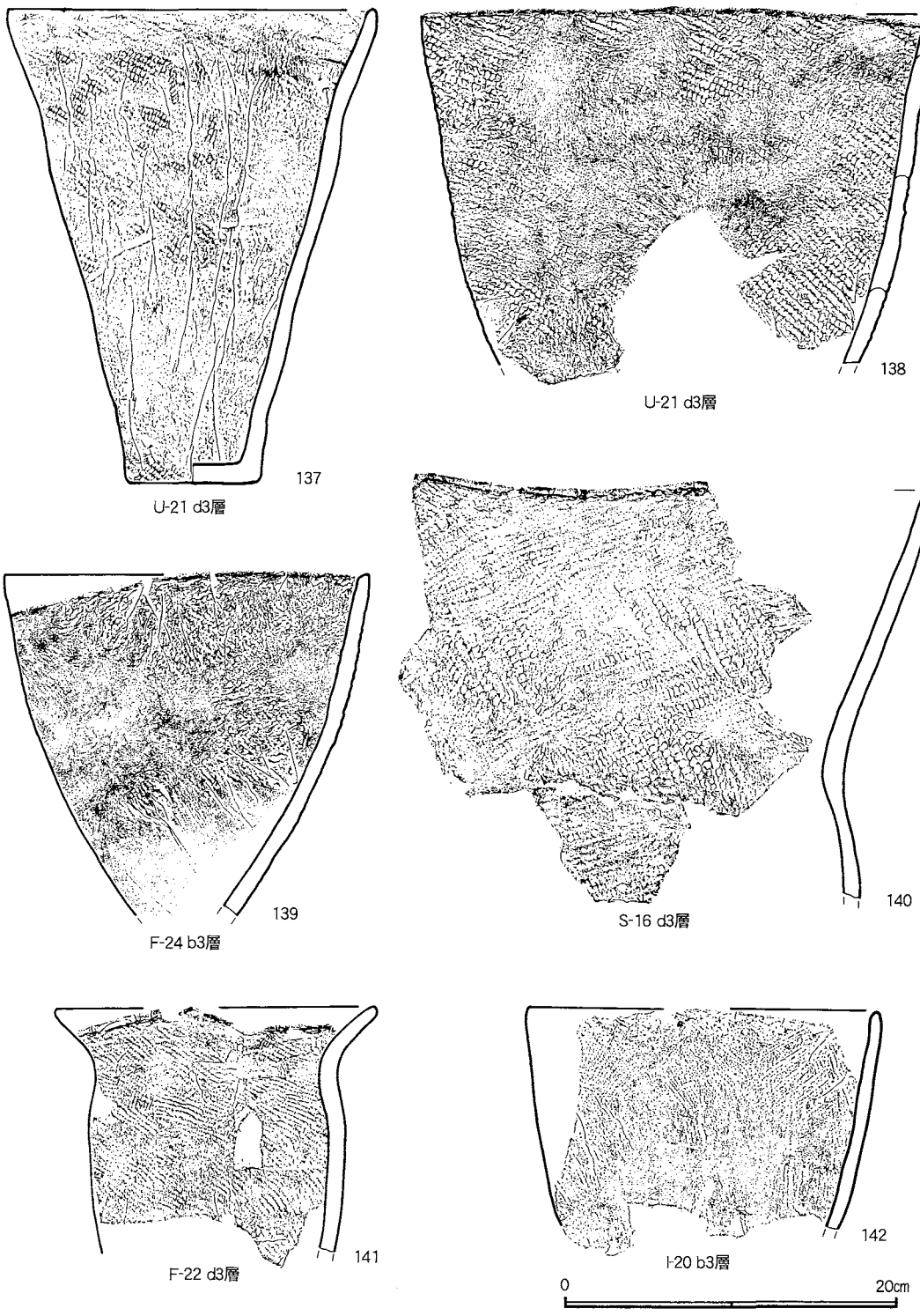
第91図　グリッド出土遺物



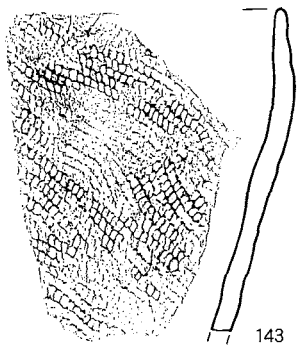
第92図　グリッド出土遺物



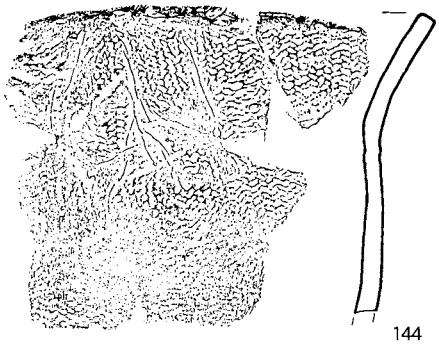
第93図　グリッド出土遺物



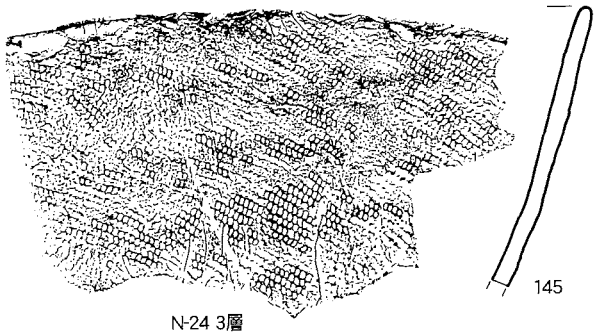
第94図　グリッド出土遺物


143

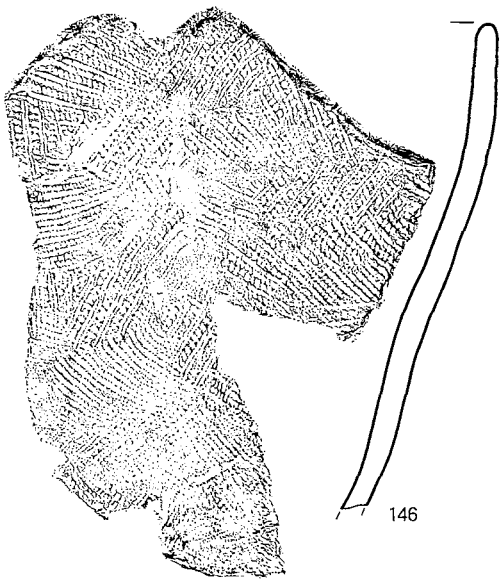
N-24 3層


144

N-10 c3層


145

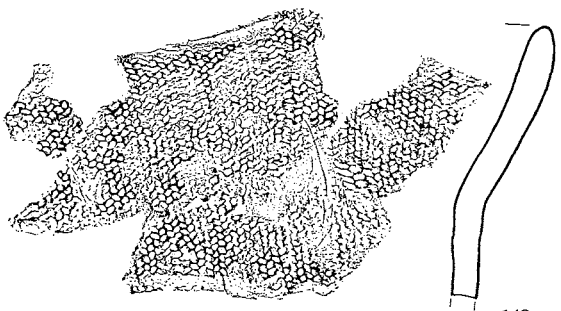
N-24 3層


146

T-16 a3層

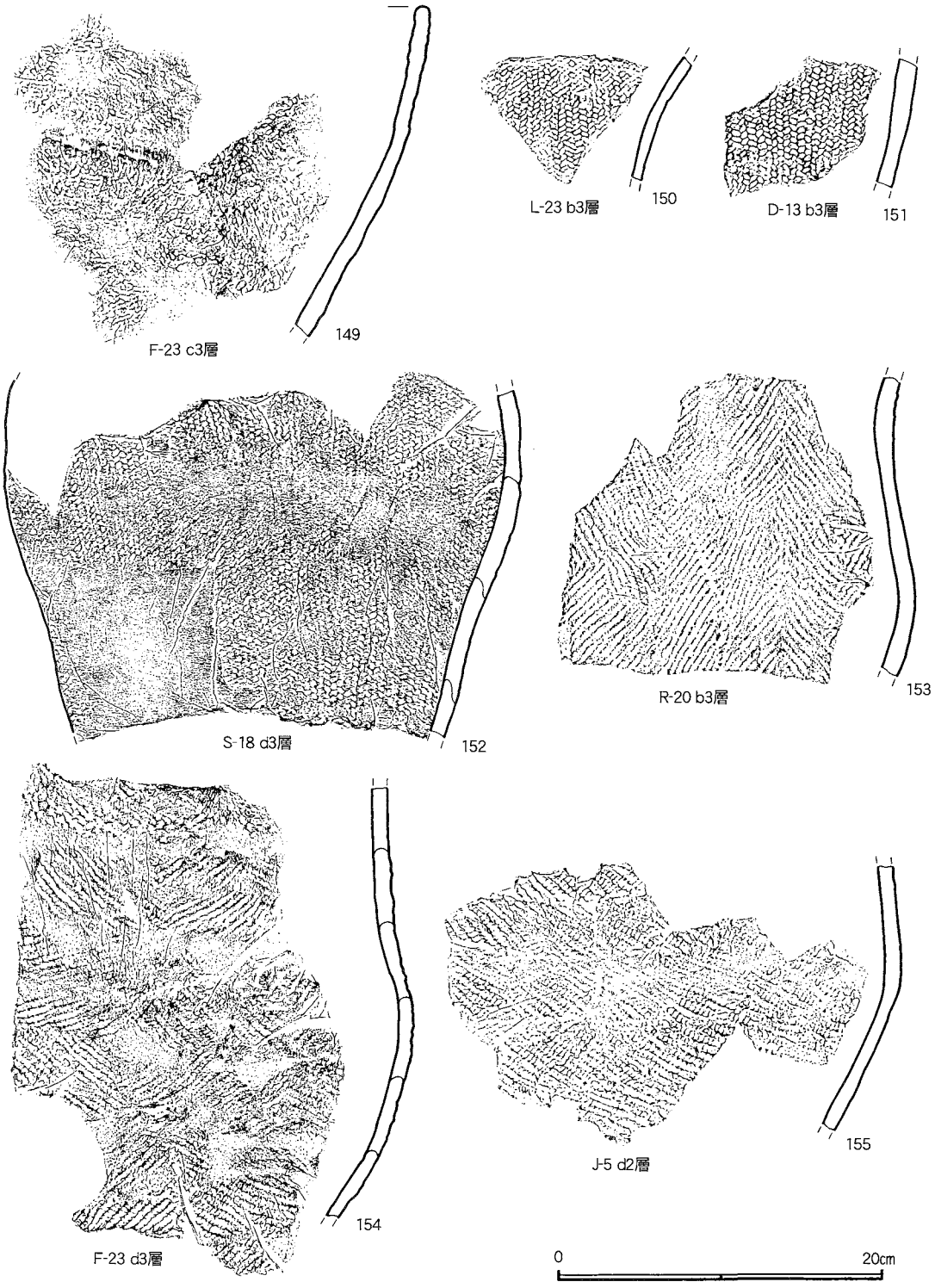
147

H-25 c3層

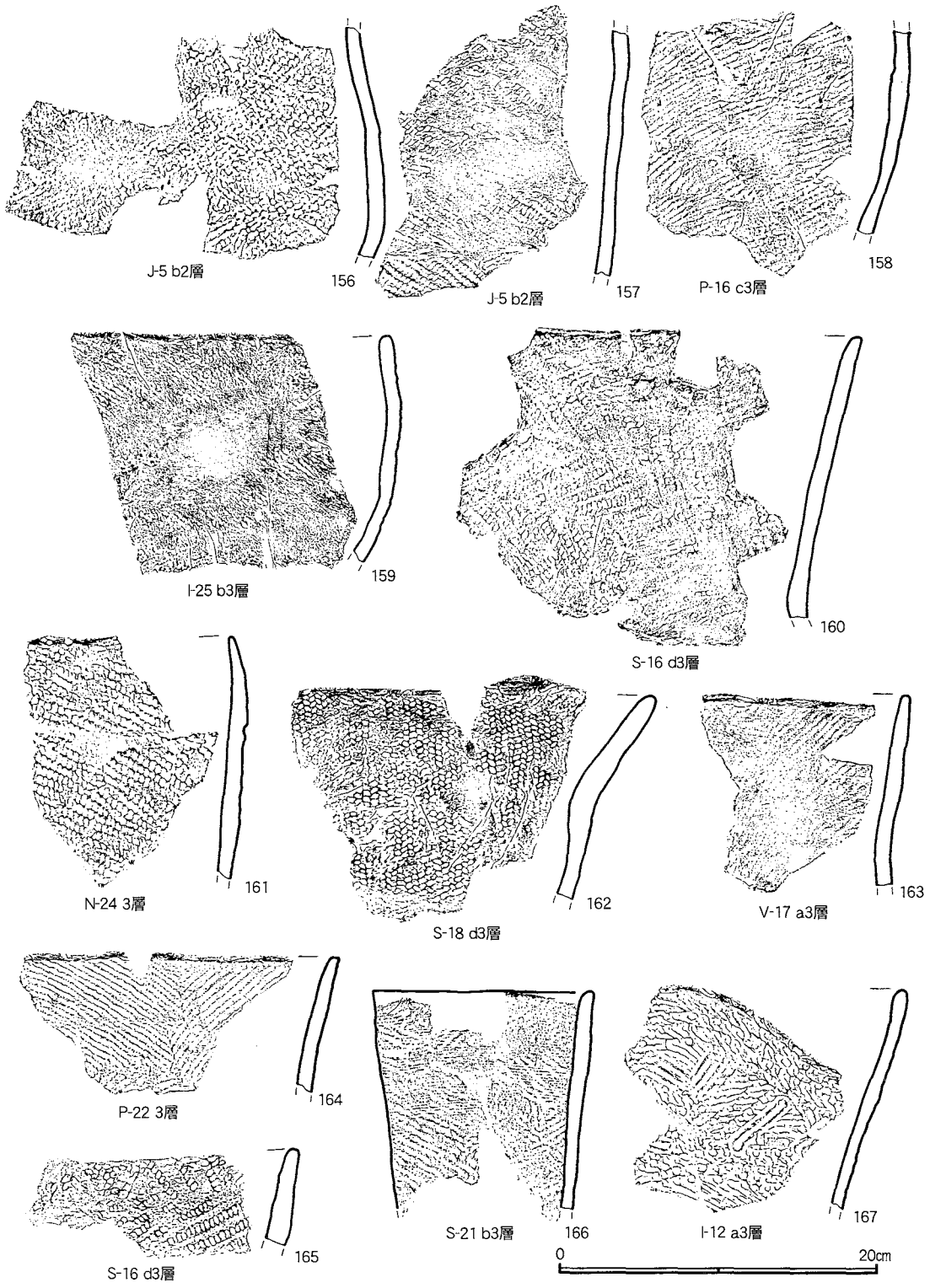

148

S-18 d3層

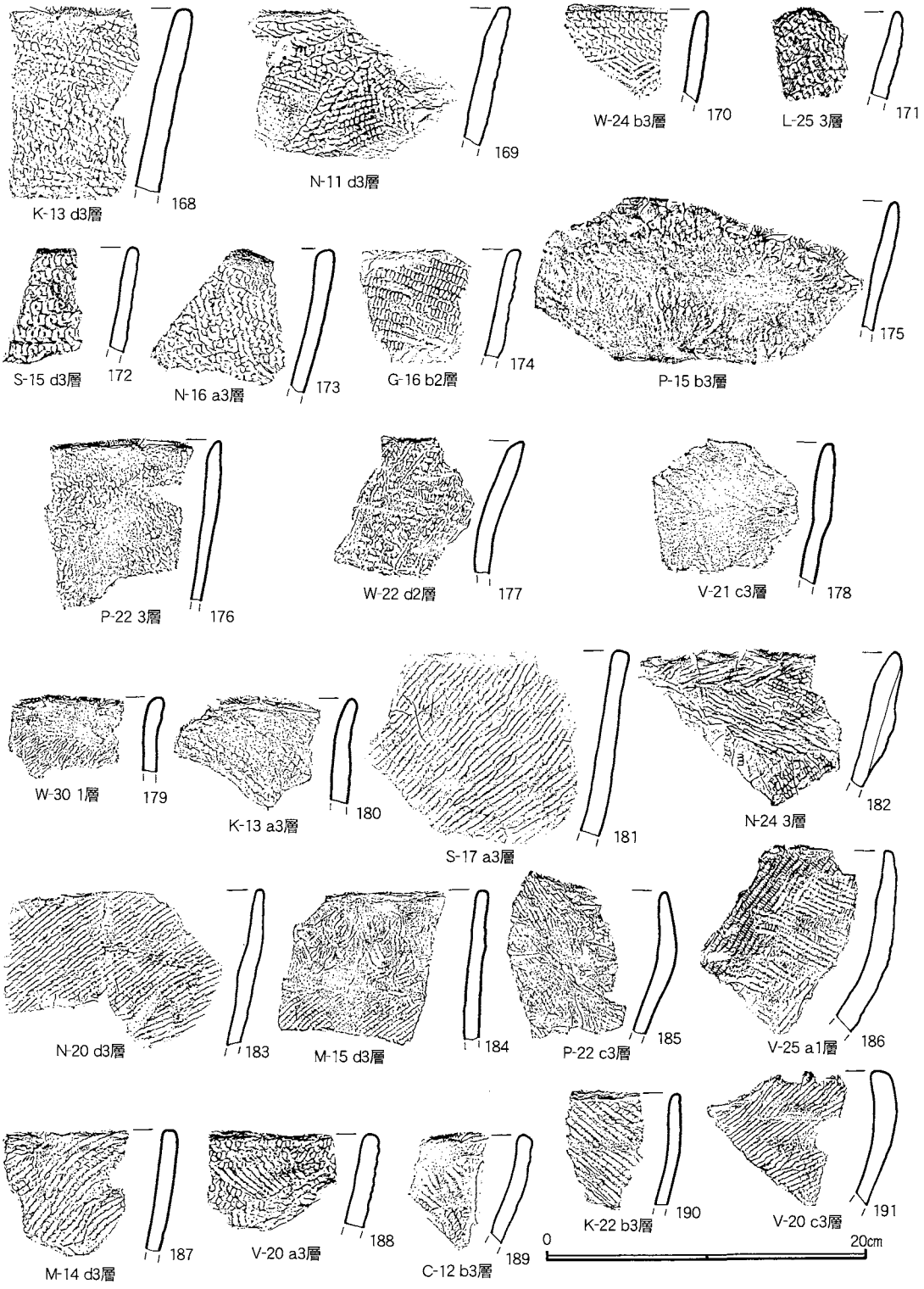
第95図　グリッド出土遺物



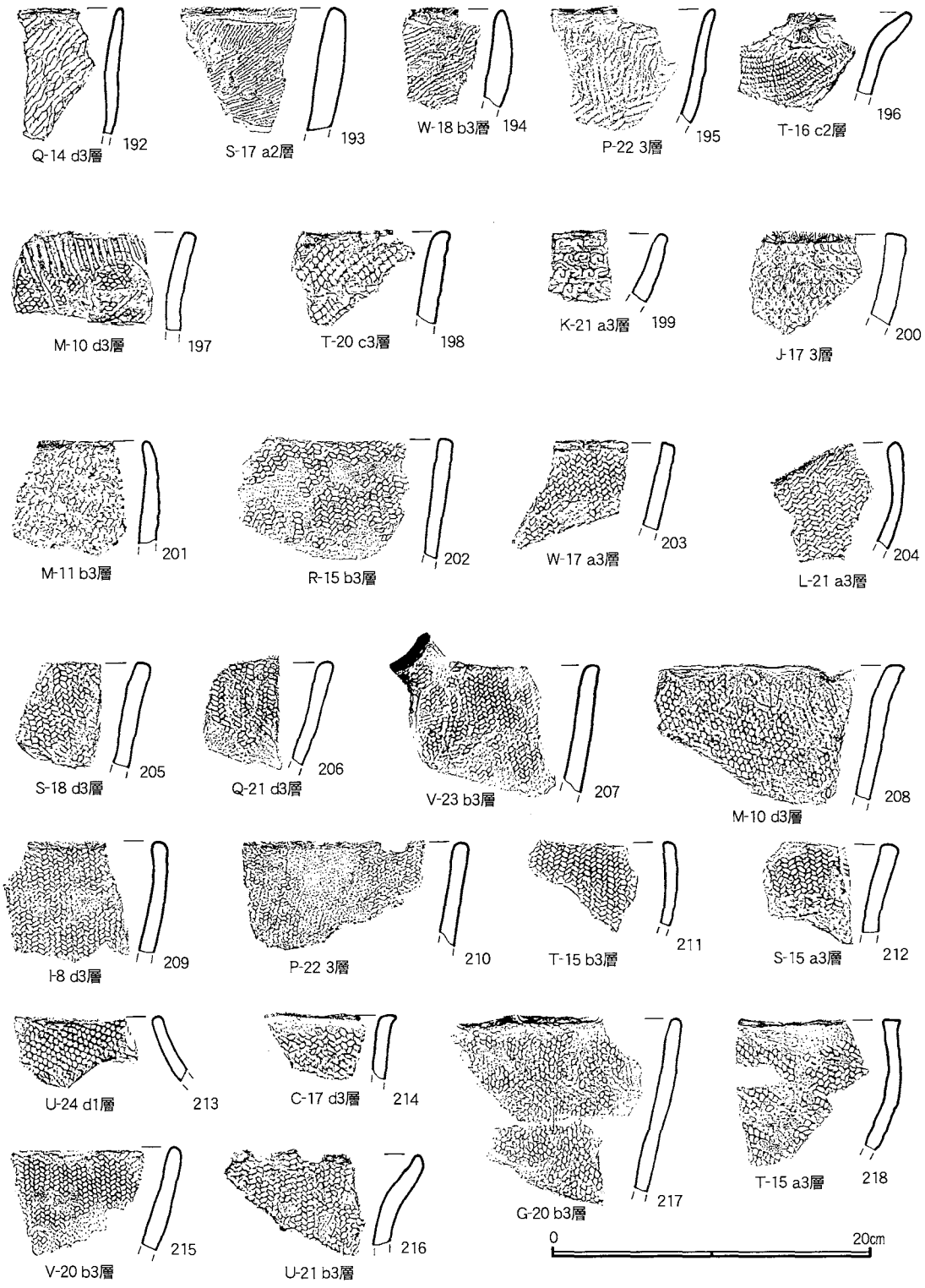
第96図　グリッド出土遺物



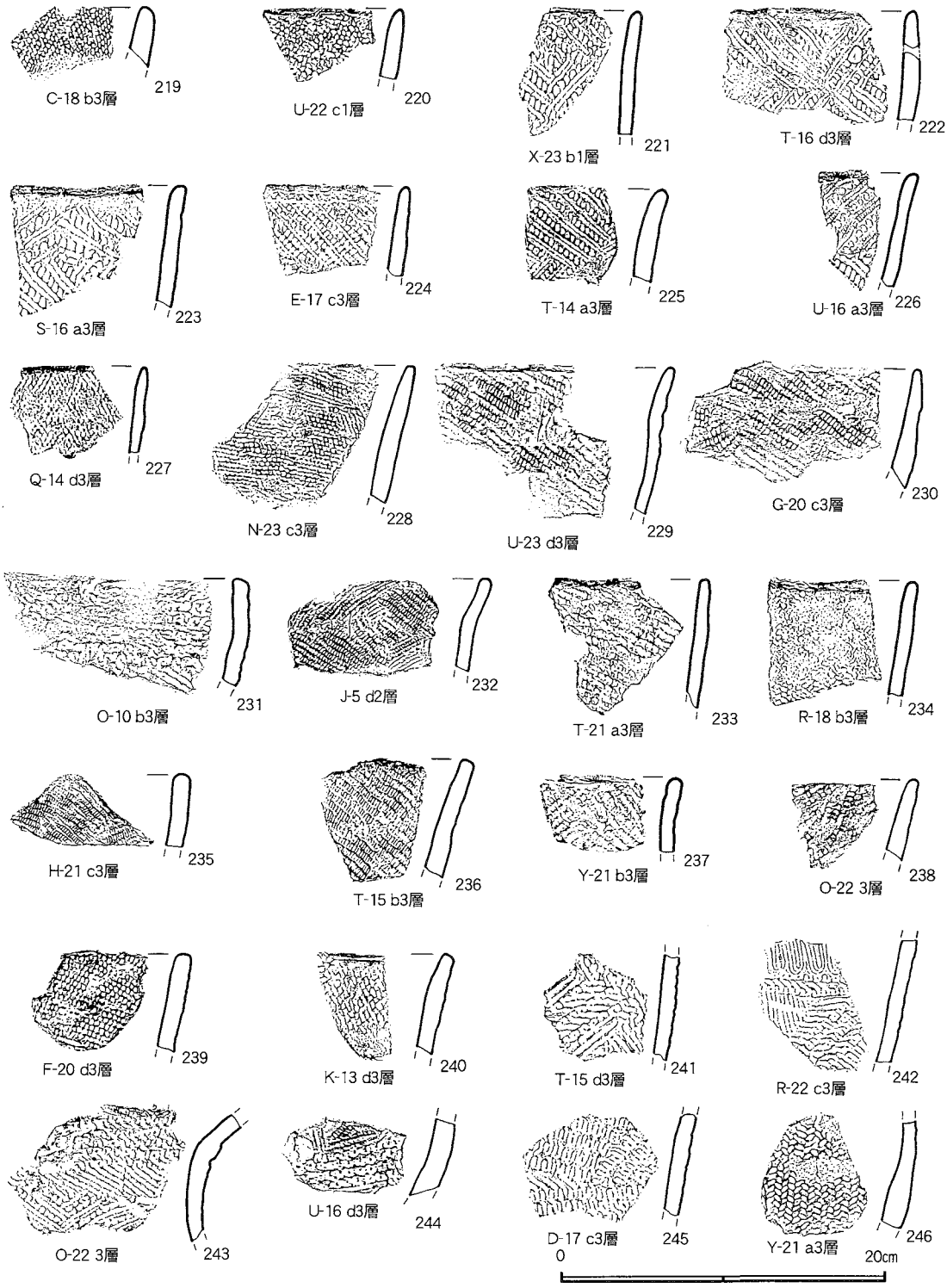
第97図　グリッド出土遺物



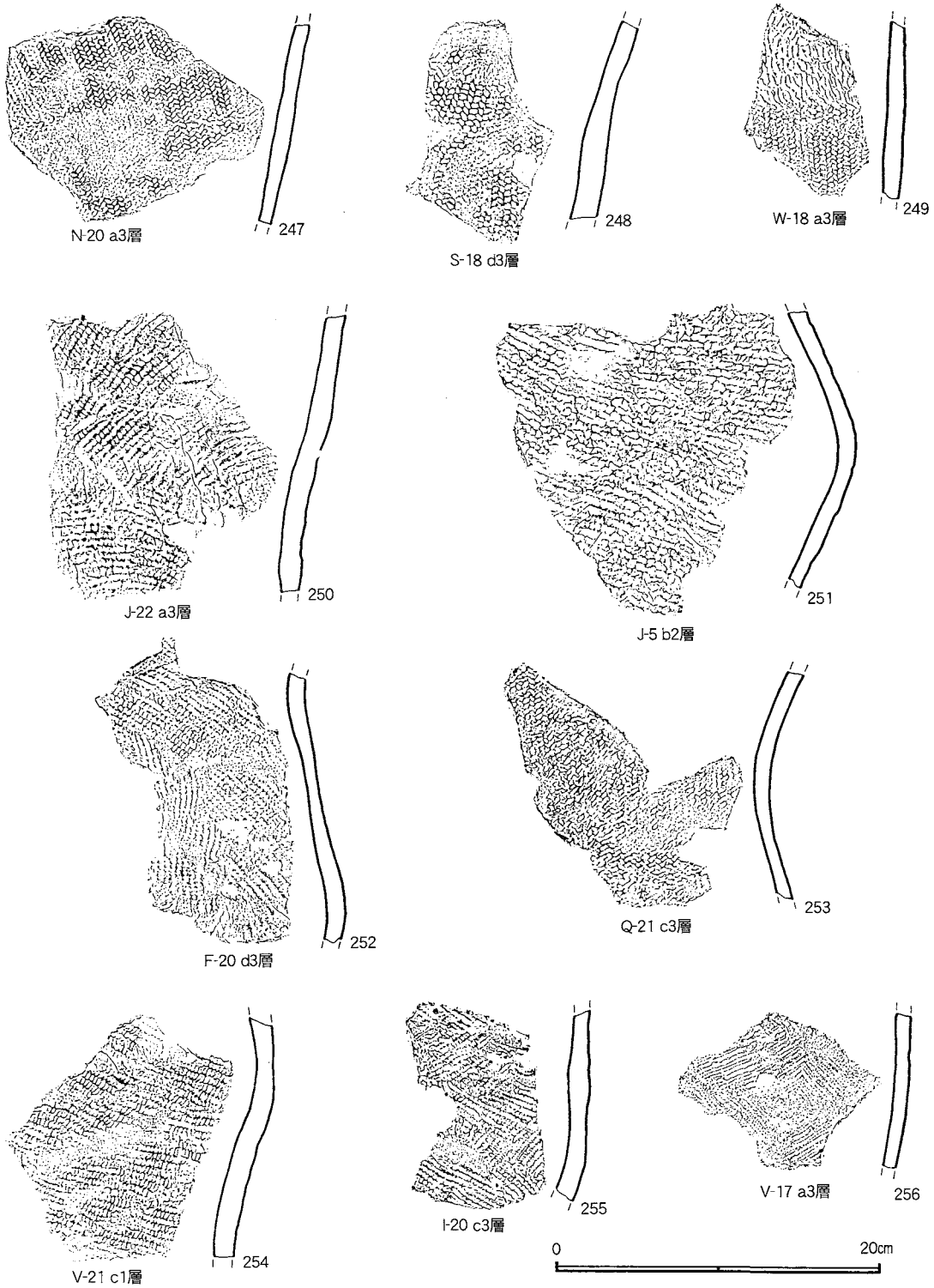
第98図　グリッド出土遺物



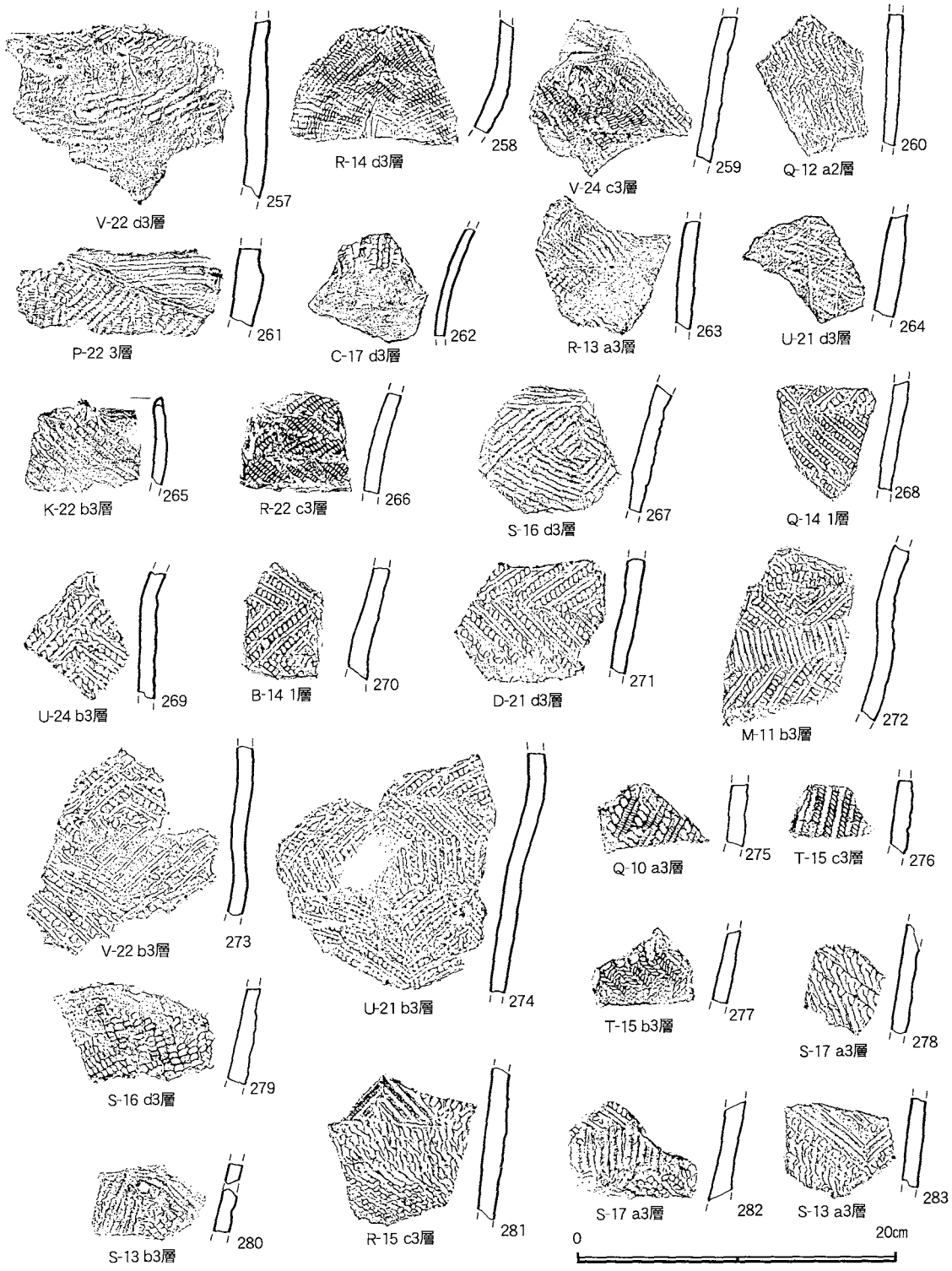
第99図　グリッド出土遺物



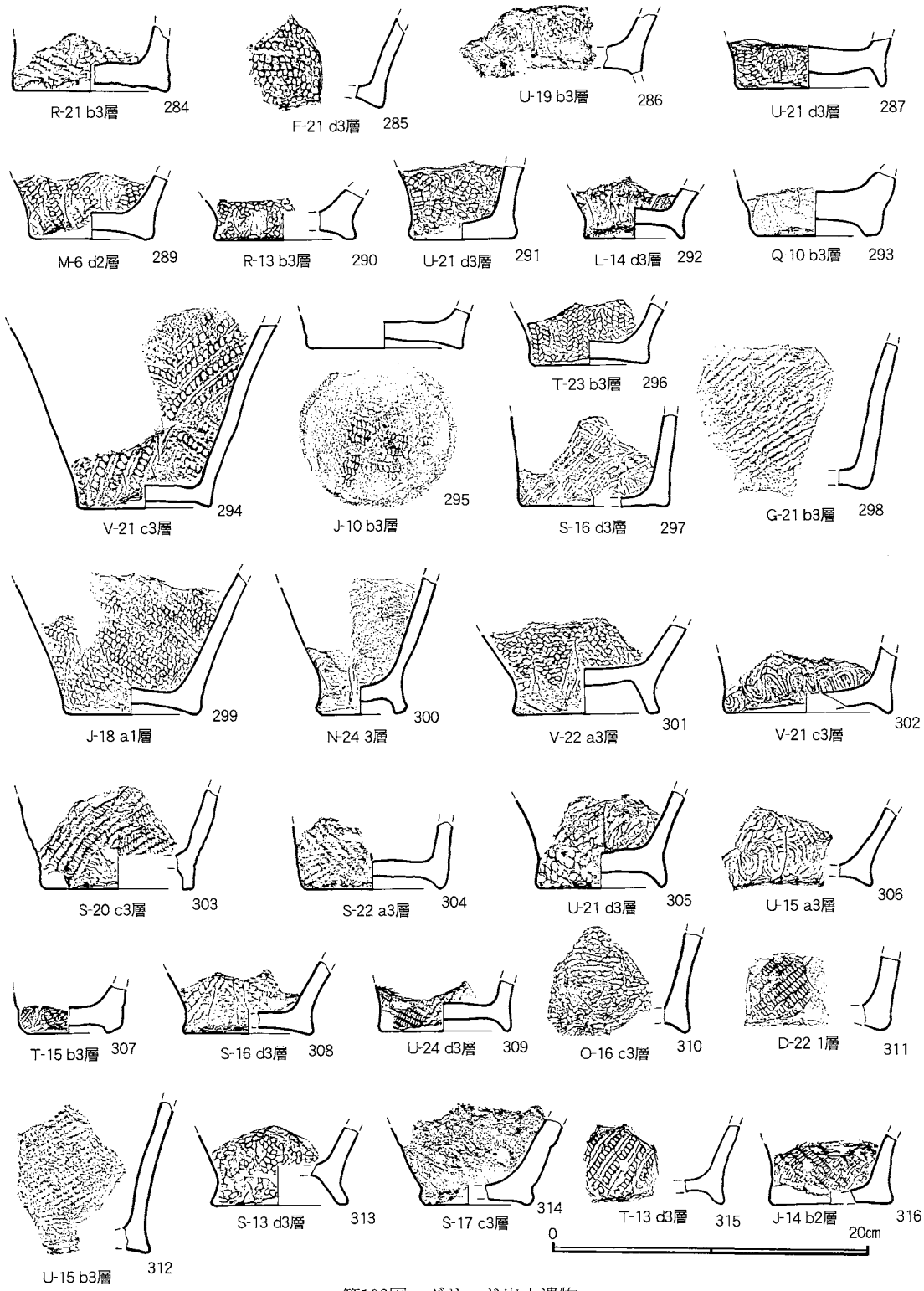
第100図　グリッド出土遺物



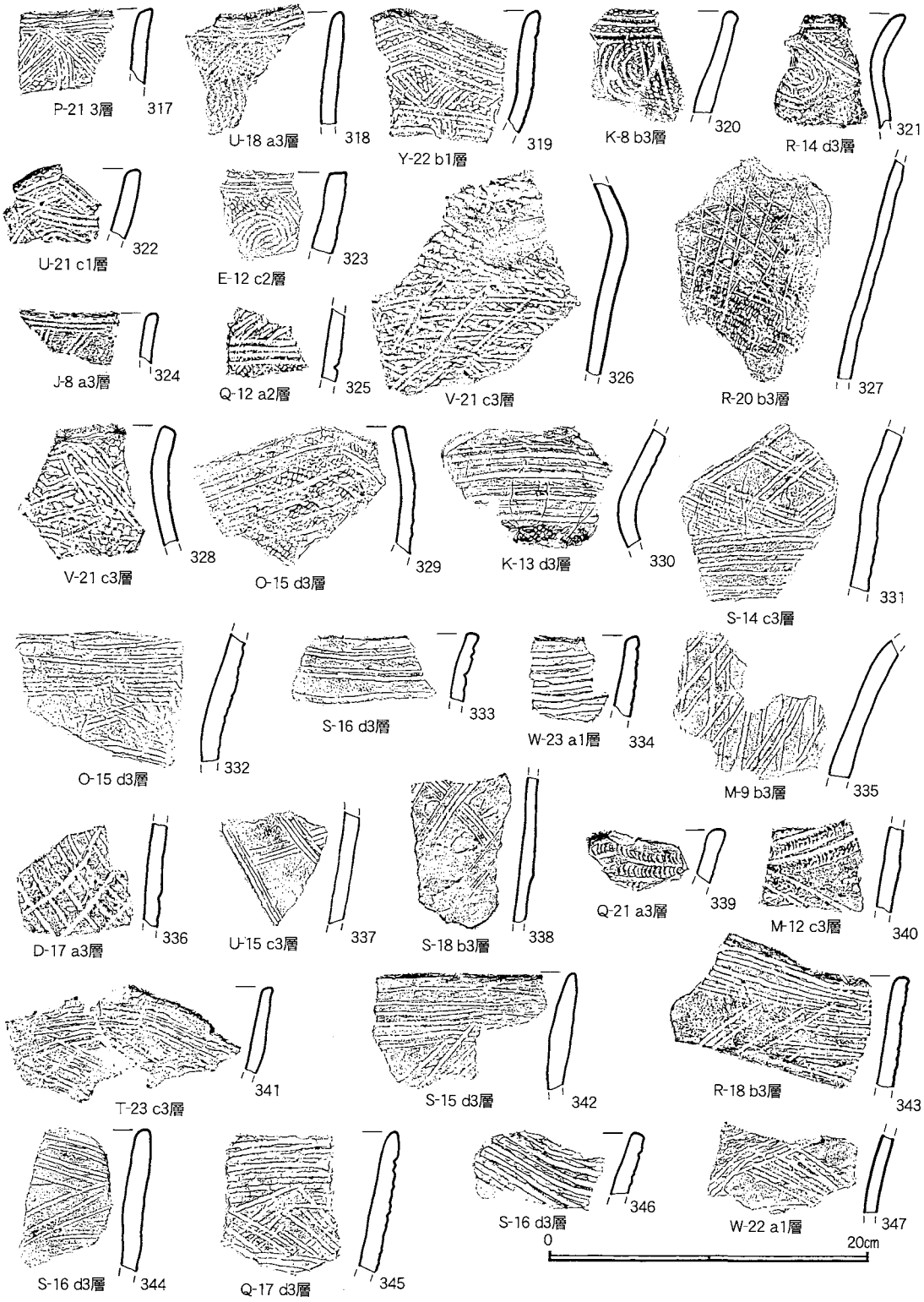
第101図　グリッド出土遺物



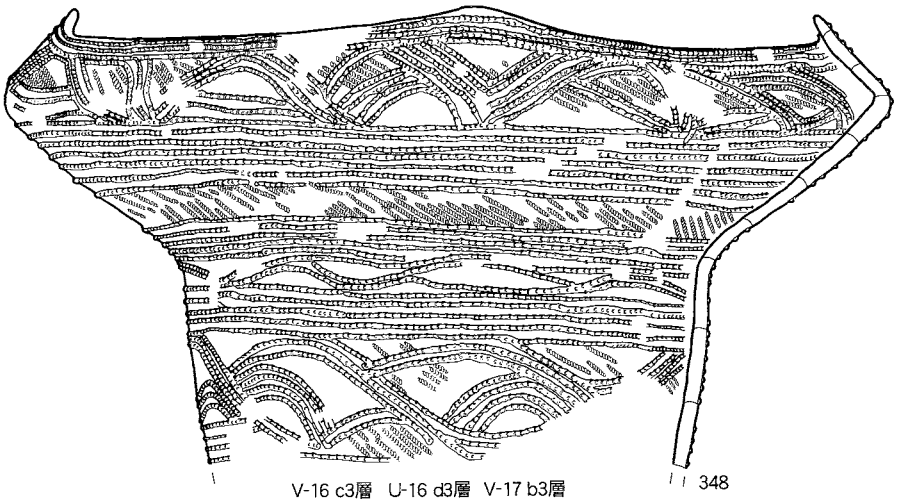
第102図　グリッド出土遺物



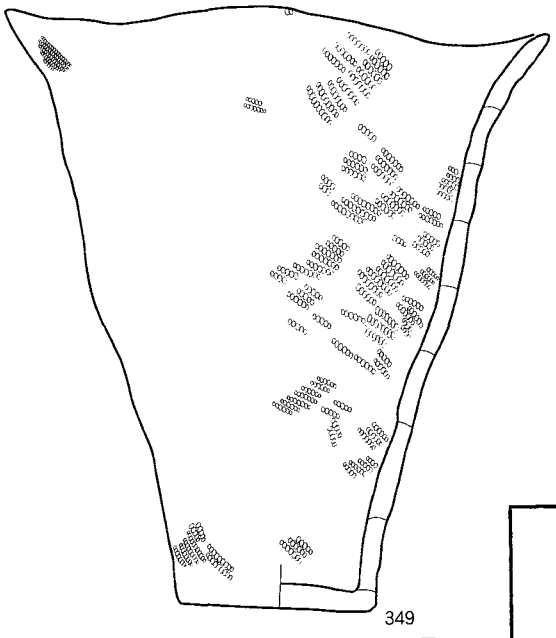
第103図　グリッド出土遺物



第104図　グリッド出土遺物

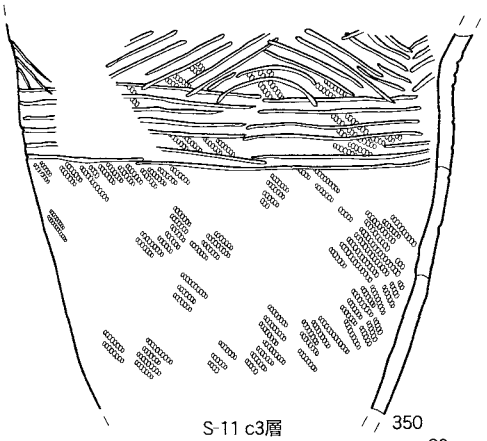


V-16 c3層　U-16 d3層　V-17 b3層　348



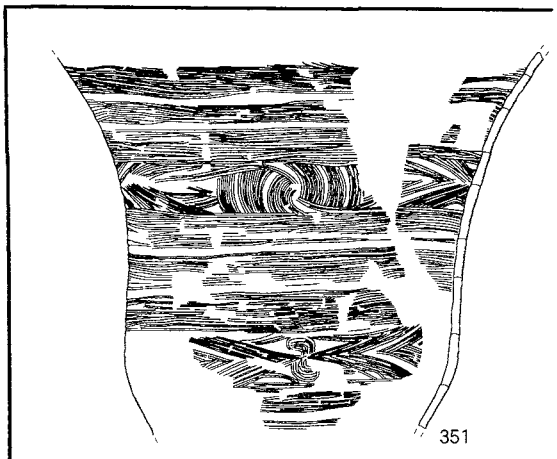
349

V-18 c3層　V-18 a3層　U-18 d3層　V-17 d3層



S-11 c3層　350

0　20cm

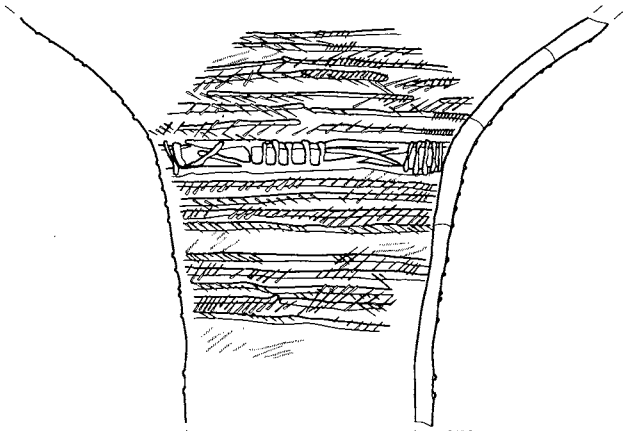


351

0　40cm

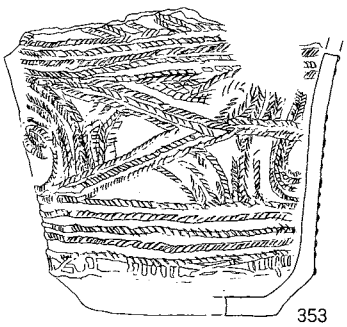
V-19 a3層　V-18 a3層　V-18 c3層　V-18 d2層
V-17 d3層　V-17 b3層　V-19 b3層　V-17 a3層

第105図　グリッド出土遺物



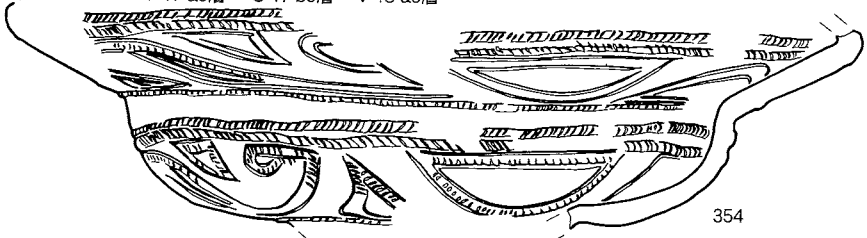
352

V-17 a3層　U-17 b3層　V-18 a3層



353

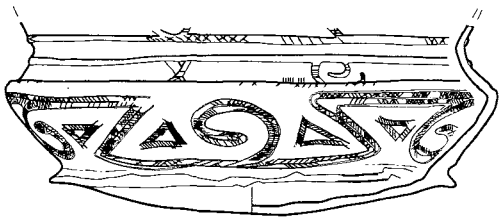
V-17 a3層



354

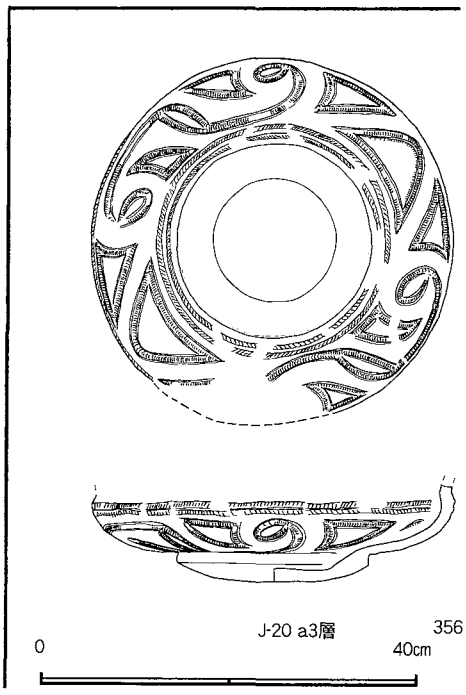
M-18 a3層　M-19 a3層　M-18 b2層　M-18 b3層　M-17 c3層

0　20cm



355

L-18 a3層

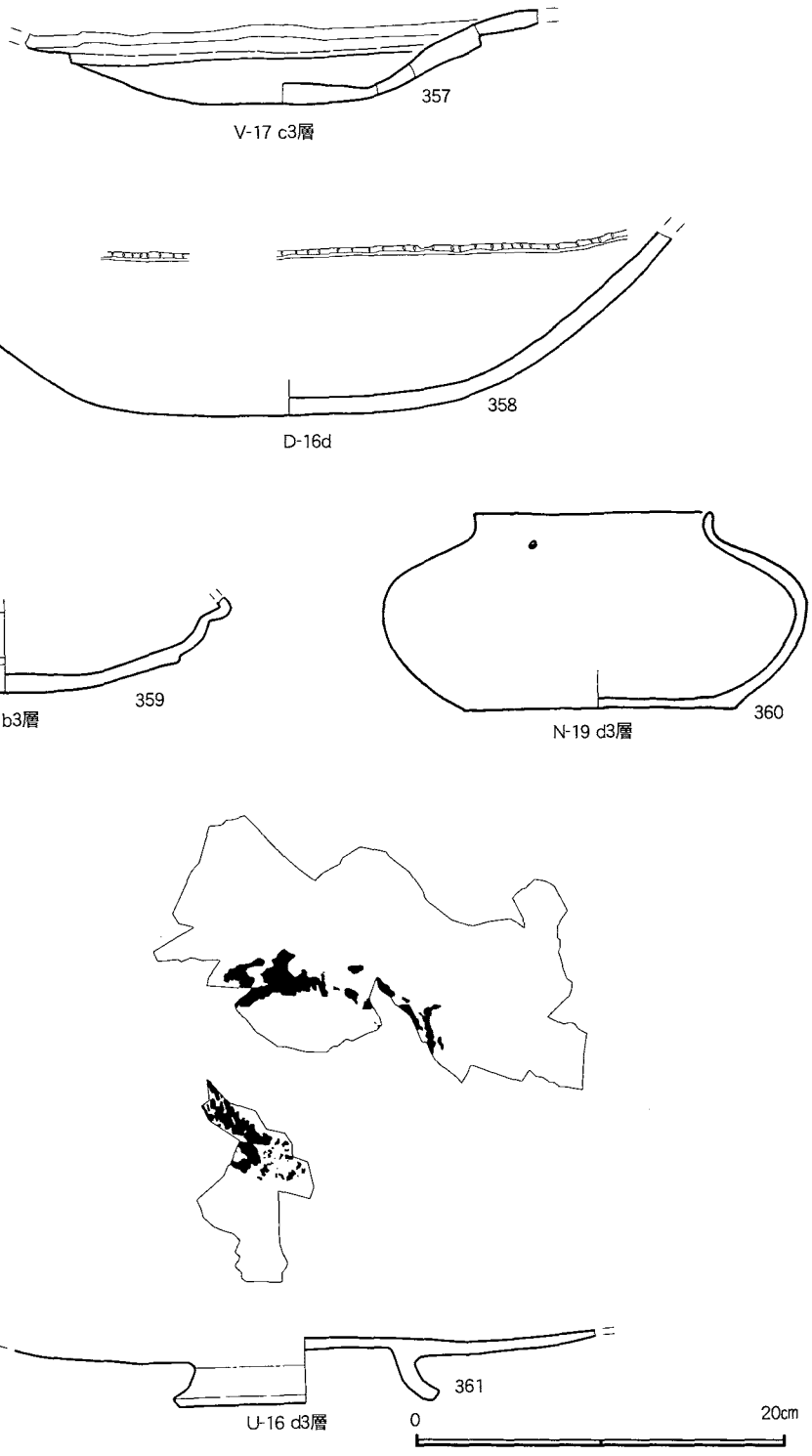


356

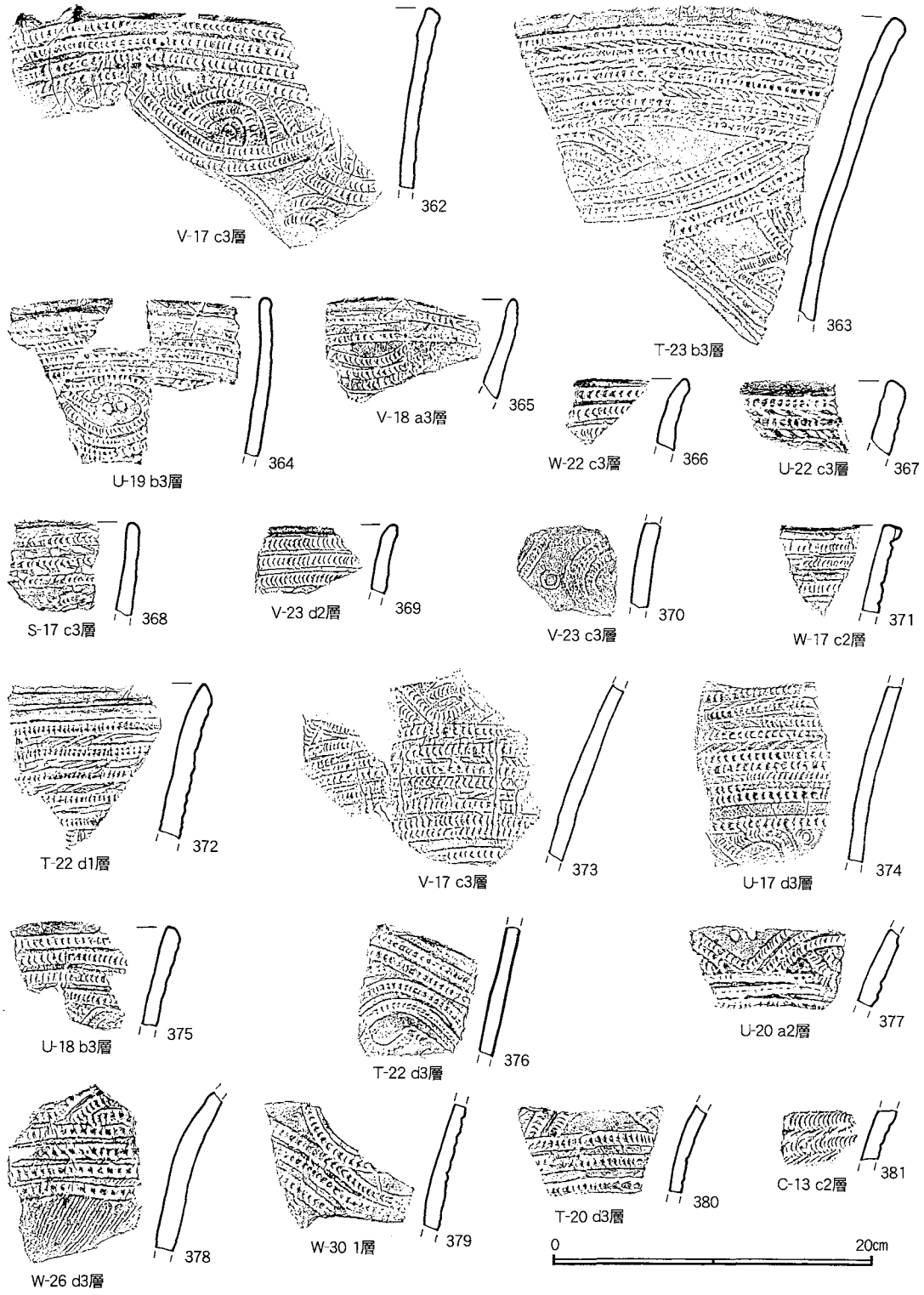
J-20 a3層

0　40cm

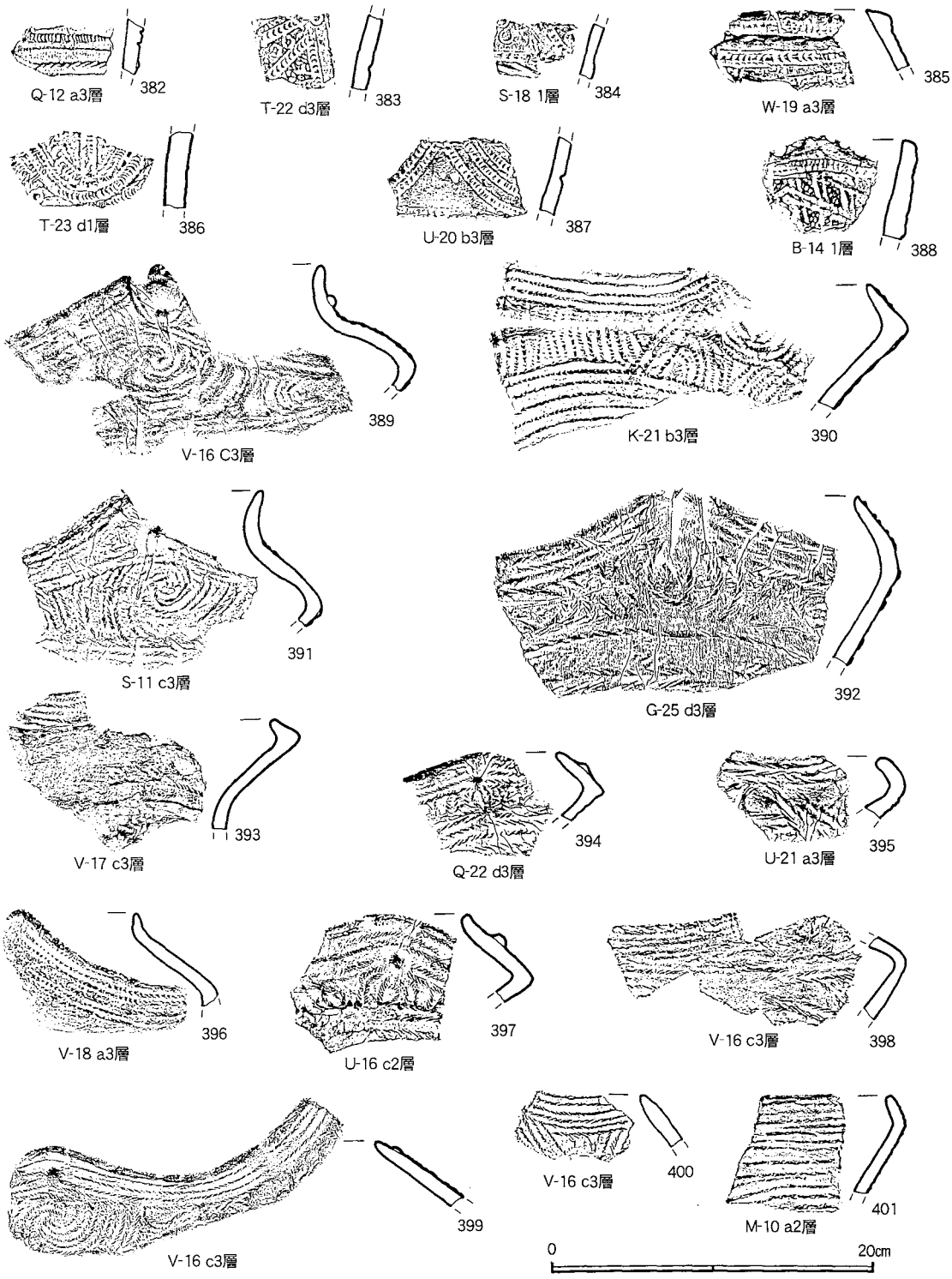
第106図　グリッド出土遺物



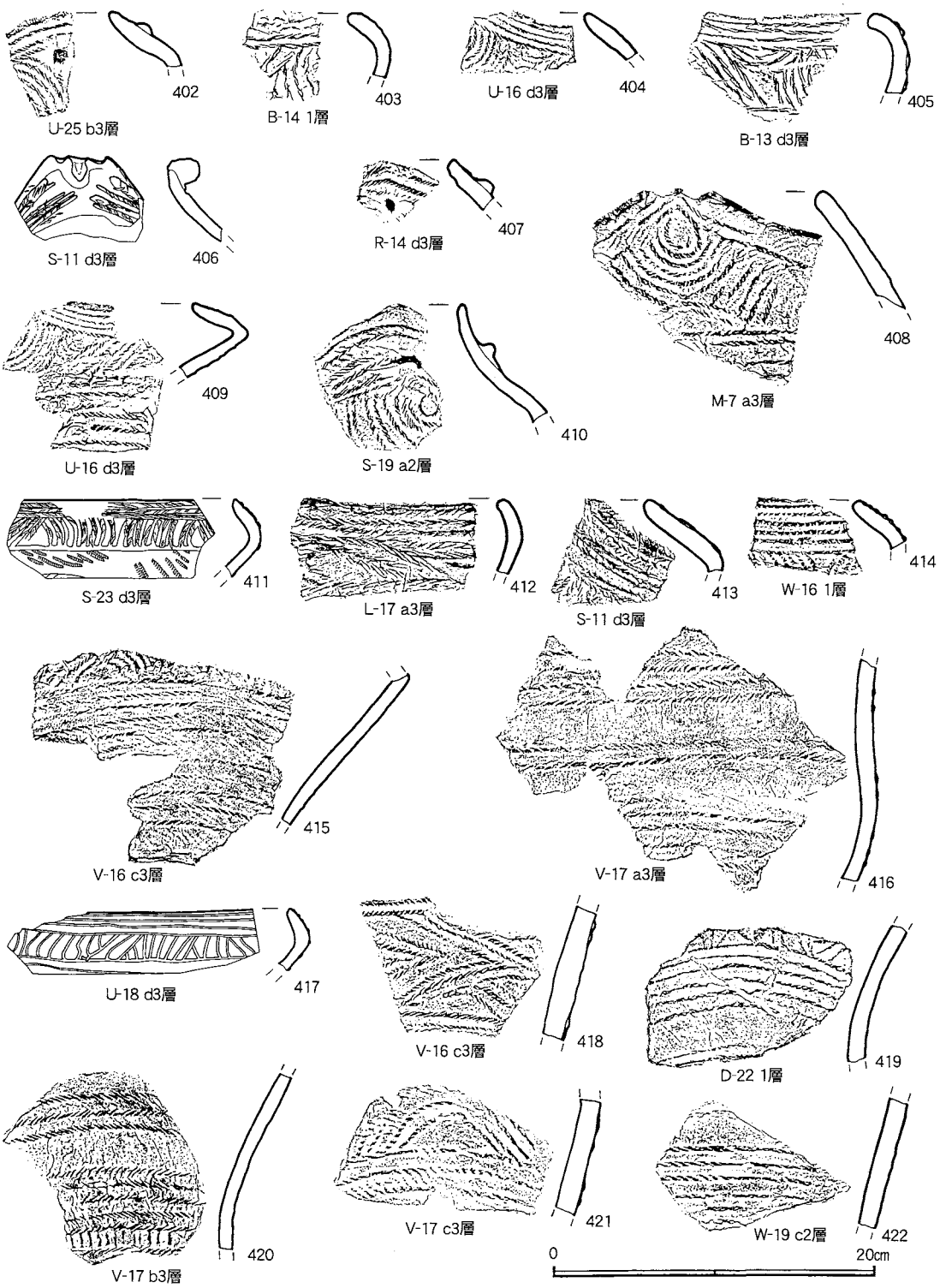
第107図　グリッド出土遺物



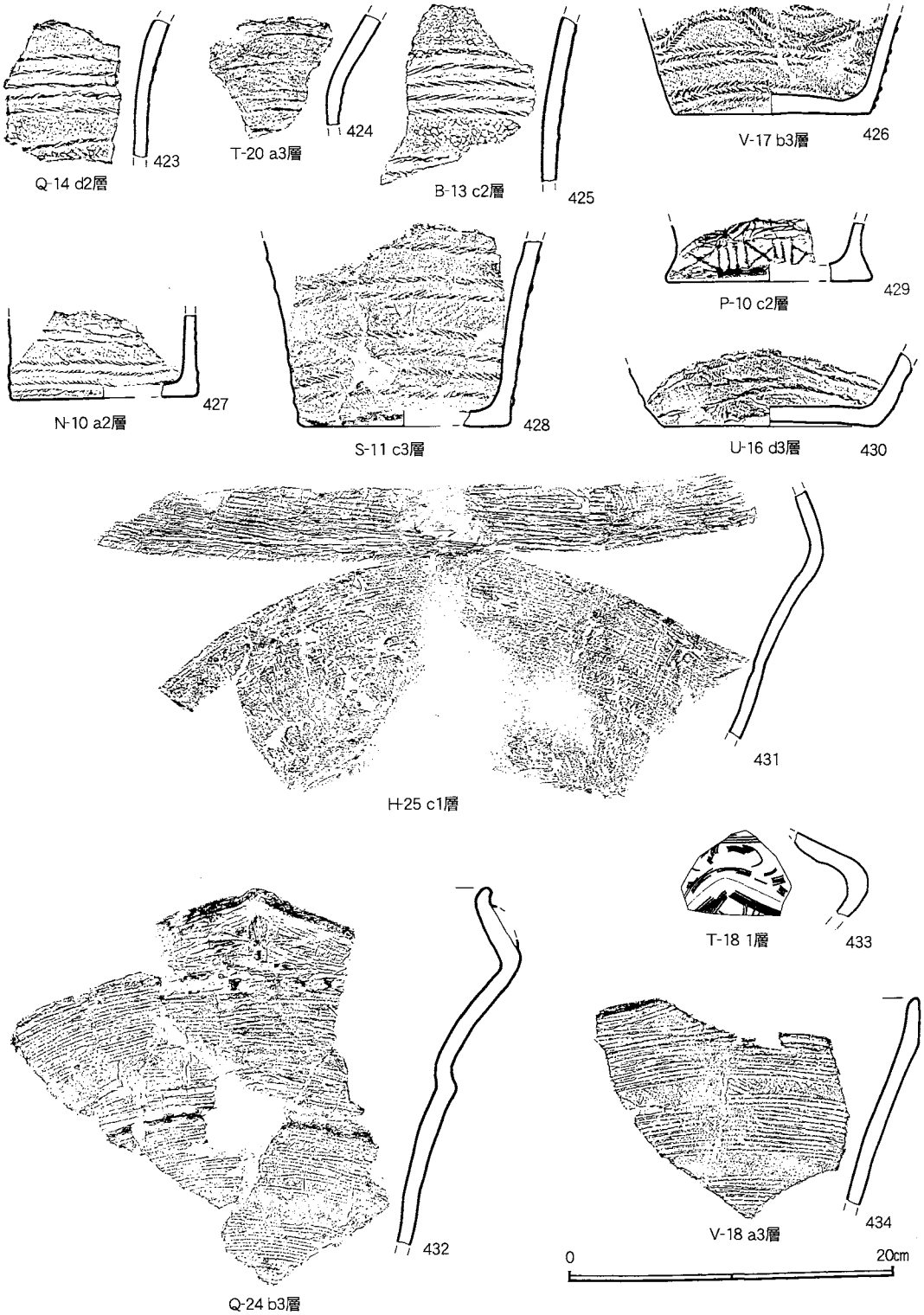
第108図　グリッド出土遺物



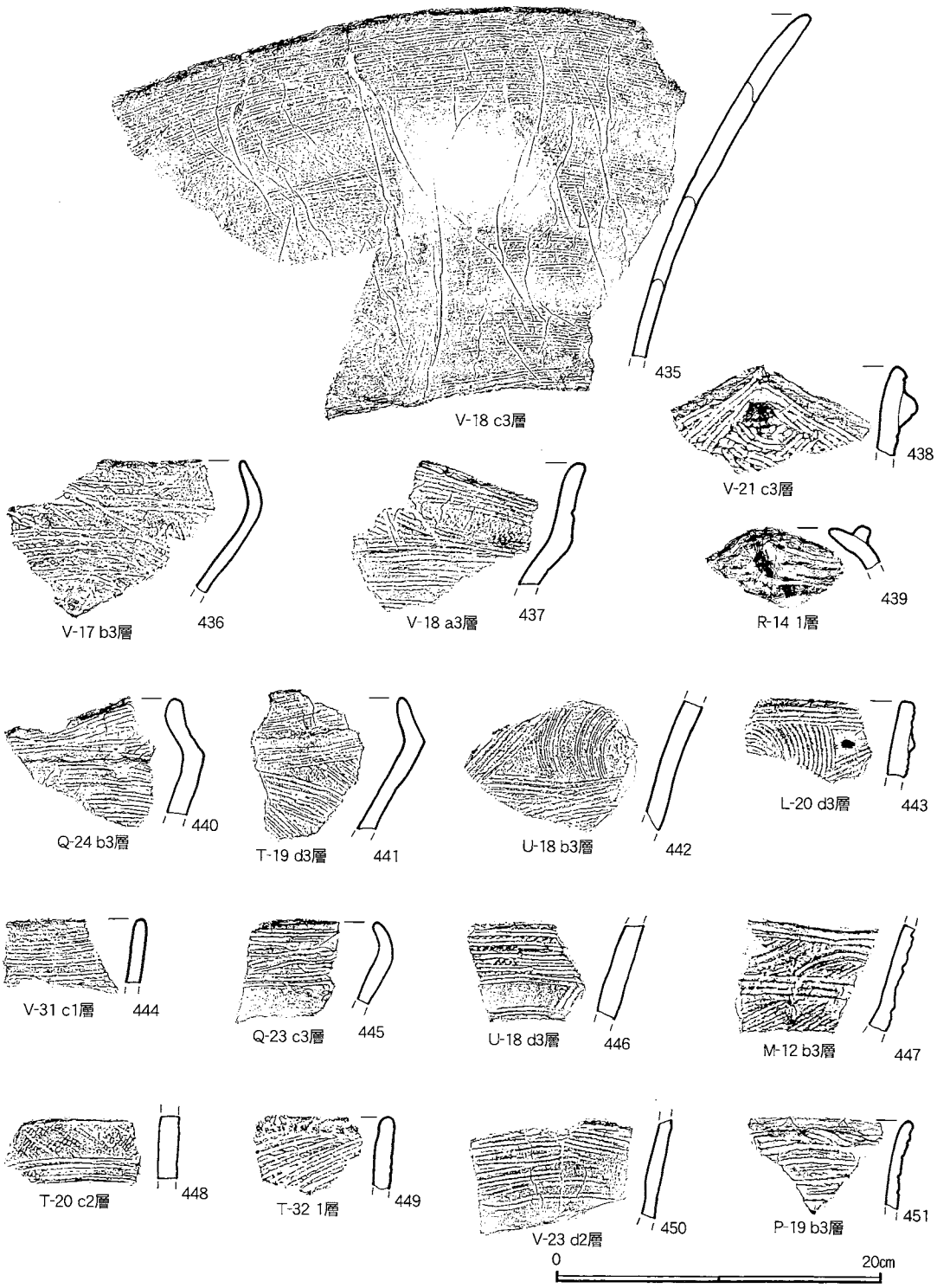
第109図　グリッド出土遺物



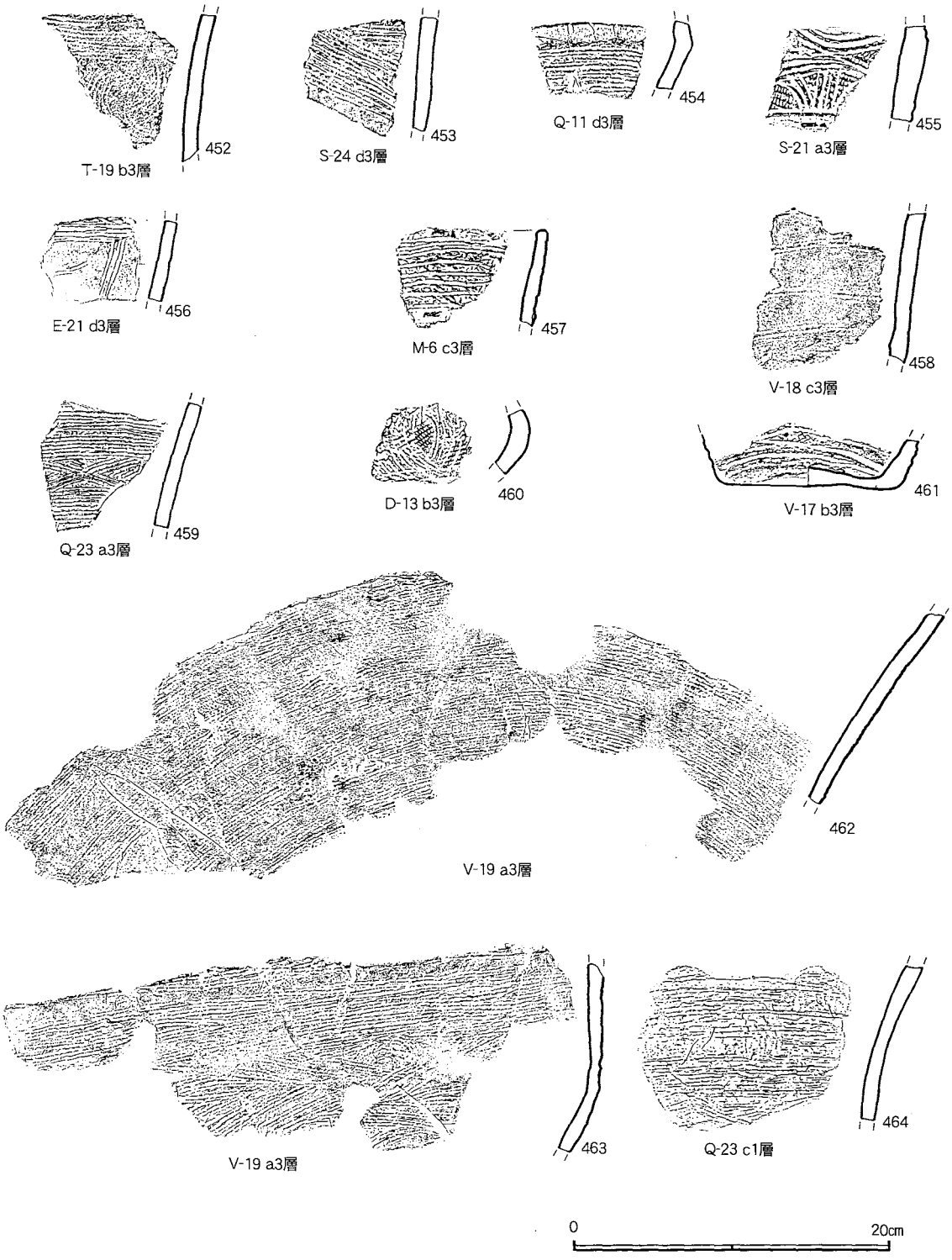
第110図　グリッド出土遺物



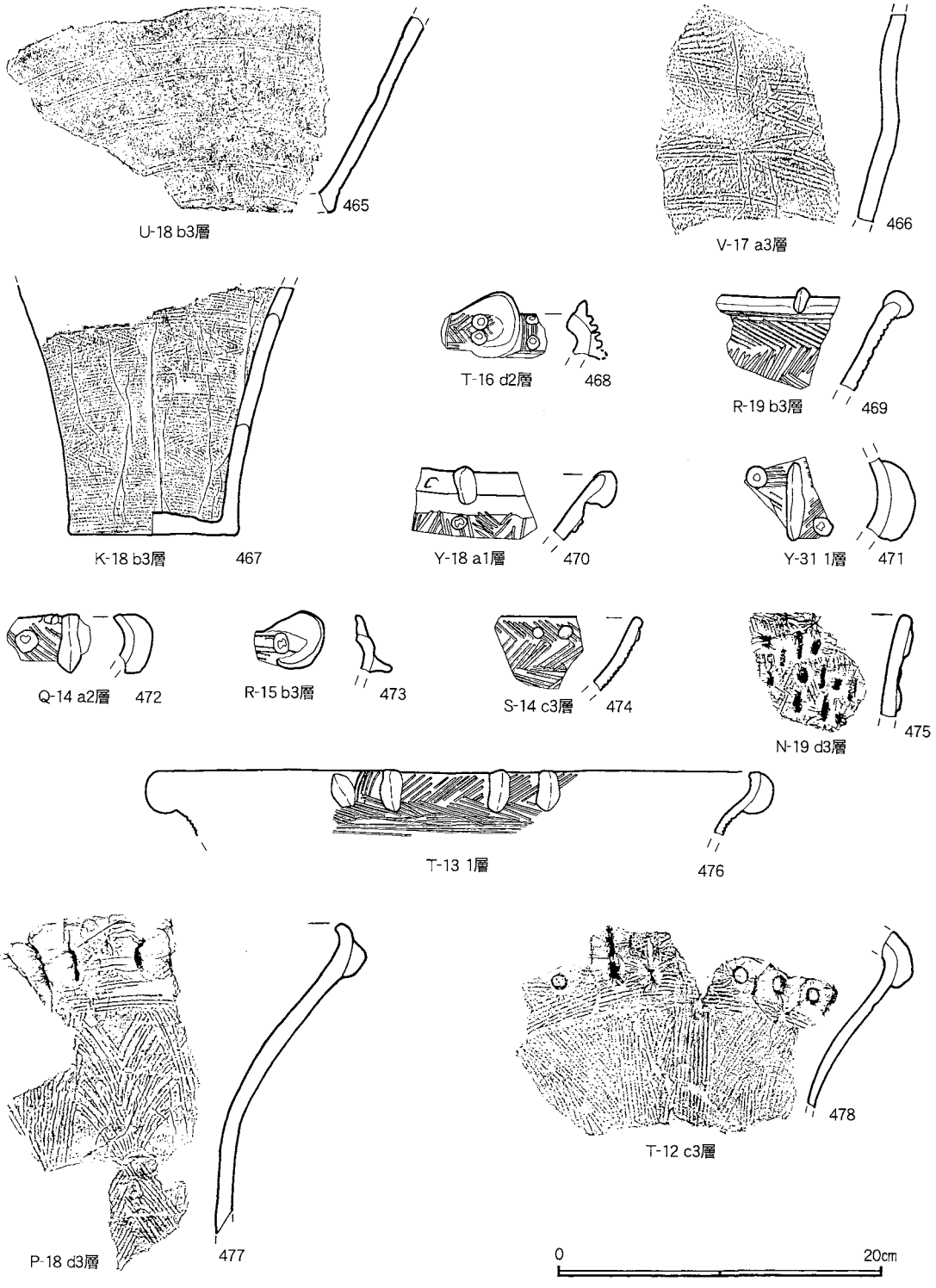
第111図　グリッド出土遺物



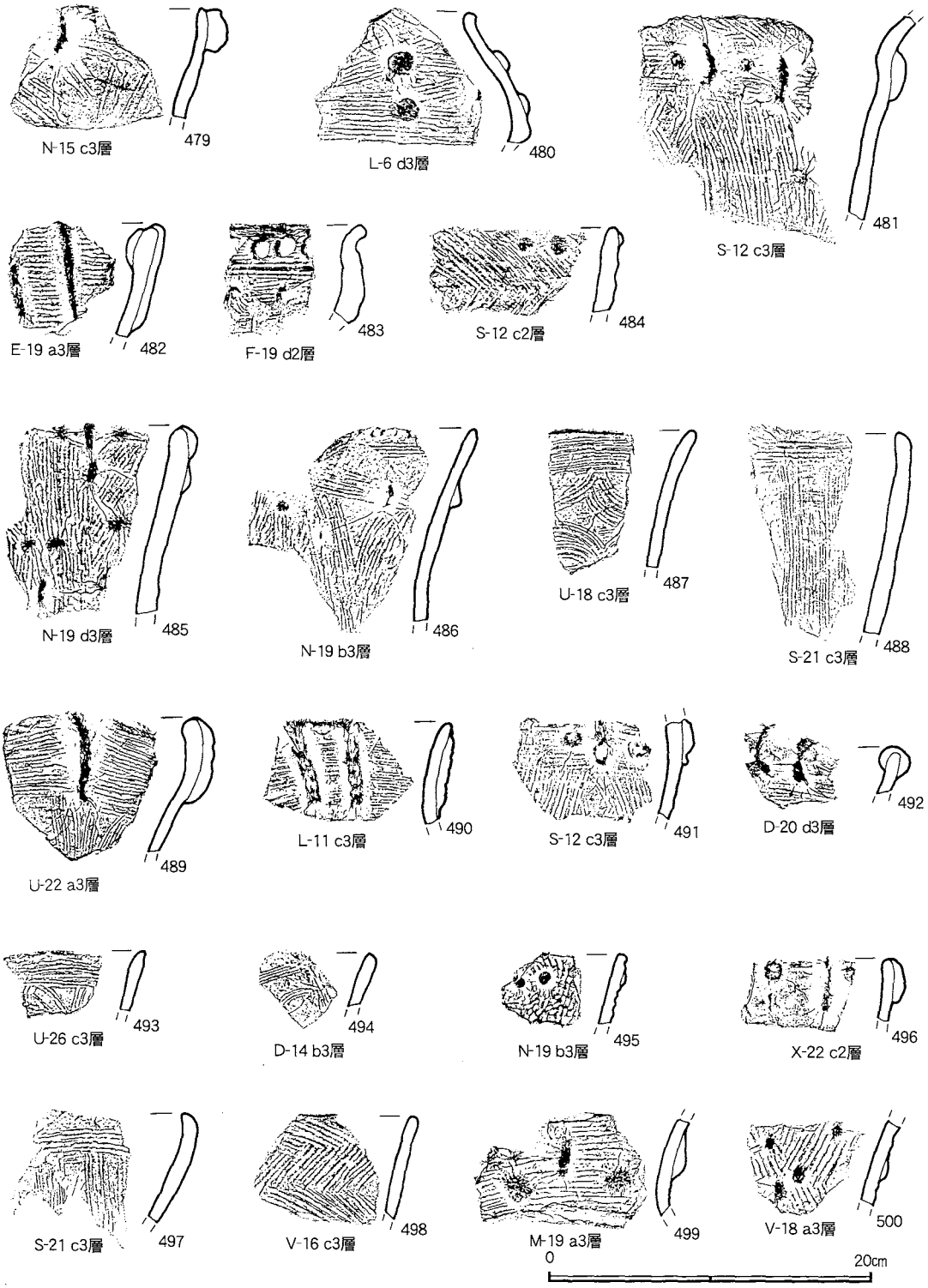
第112図　グリッド出土遺物



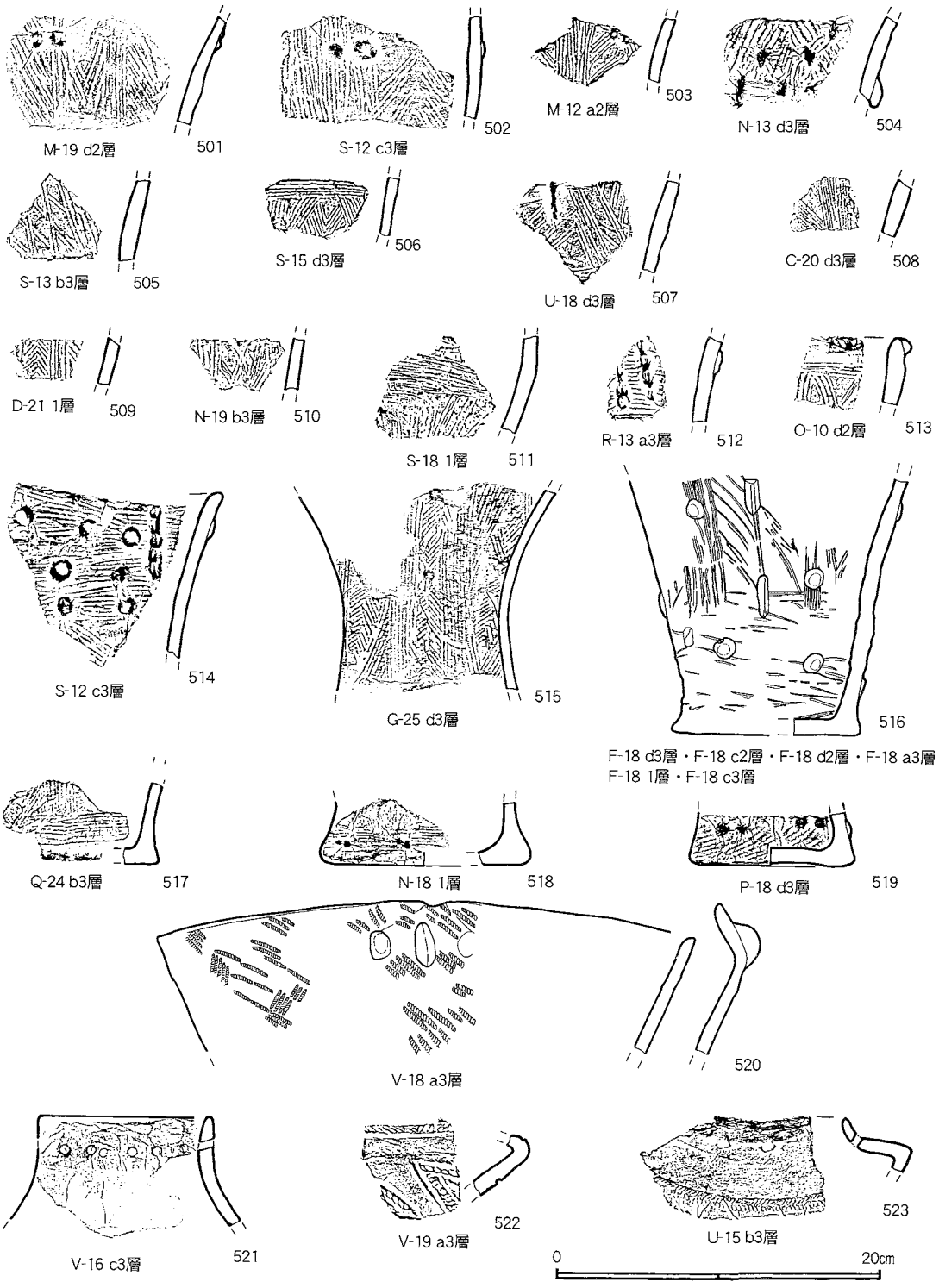
第113図　グリッド出土遺物



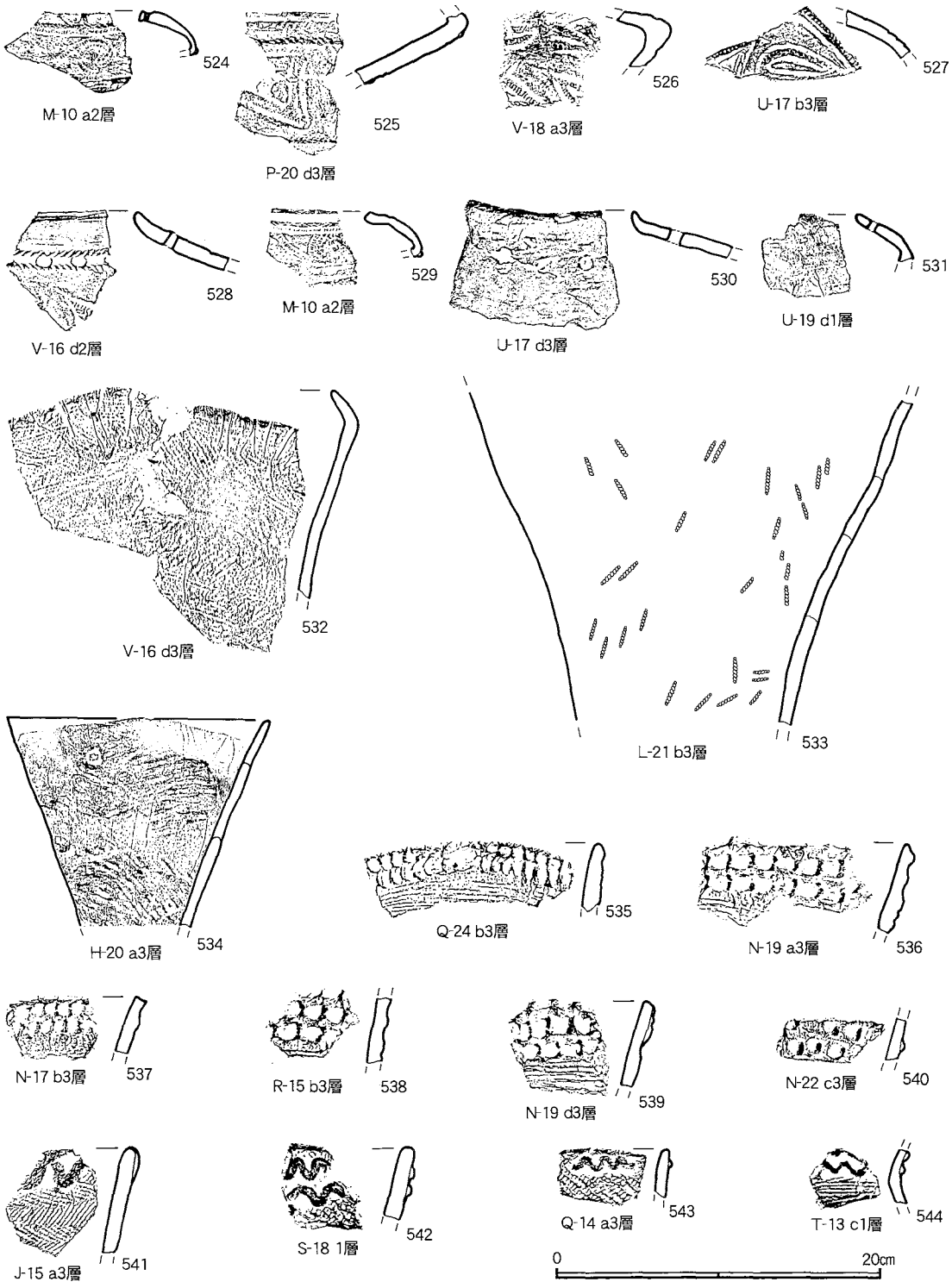
第114図　グリッド出土遺物



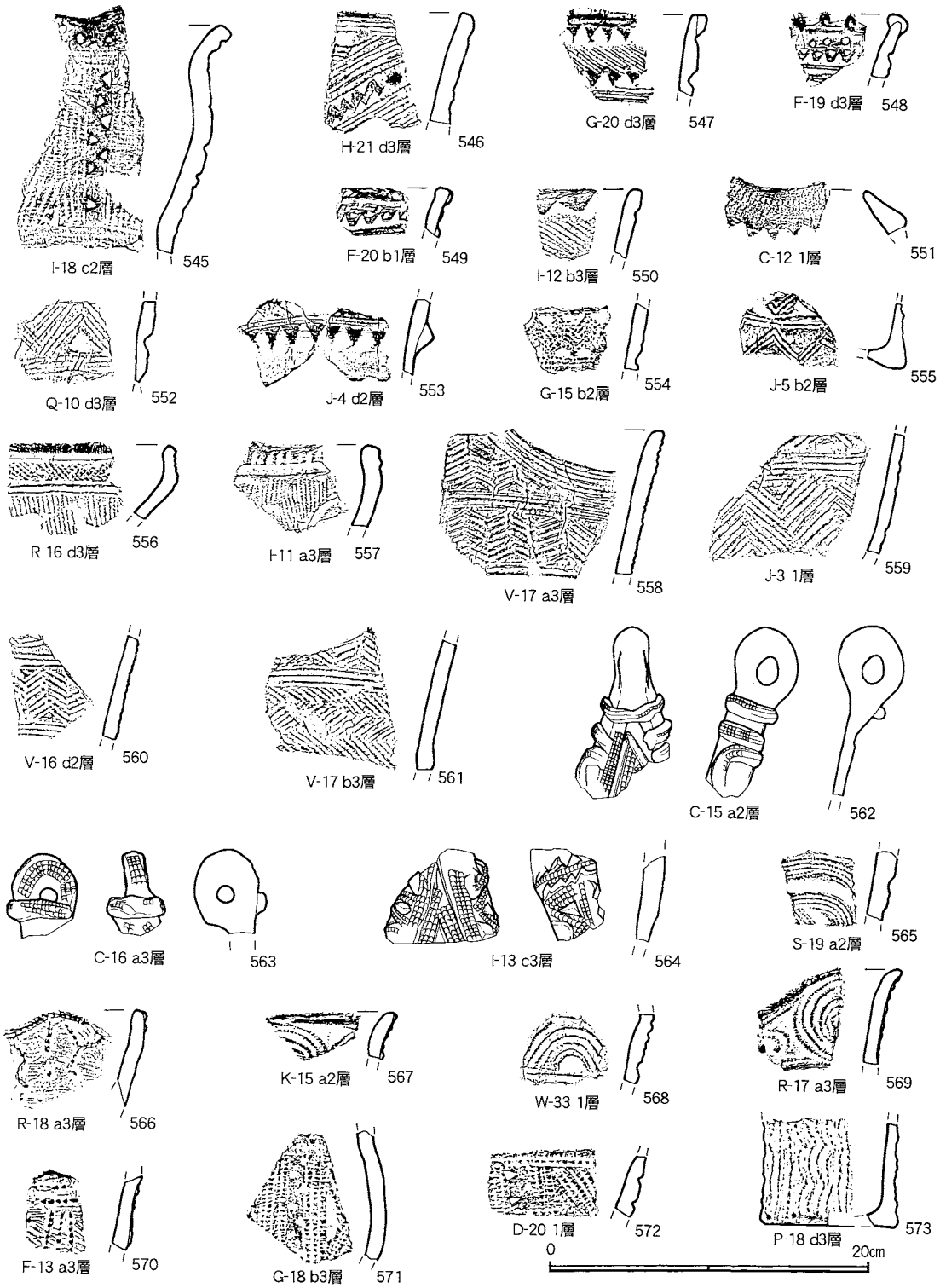
第115図　グリッド出土遺物



第116図　グリッド出土遺物



第117図　グリッド出土遺物



第118図　グリッド出土遺物

(3) 縄文時代中期の遺構と遺物

環状列石（第119・120・121・122図）

環状列石は良好な遺存状態で検出されたが、南東部分が欠けていて全周はしていない。平面型は隅丸方形を呈する。北東肩部から北列、北西肩部、北西列中央に掛けては、礫を1段から3段しっかりと積んでいる。北西列中央から南西肩部、南列にかけては、約4mから5m間隔で礫が2つずつ置かれている。

遺存現況での規模は36m×30mを図る。礫の積み方を観察すると（第120・121図）、礫の平面を内側に見せるよう意識した積み方をしていることを伺わせるため、環状列石の中心部に向かい正面観が存在しているものと推測される。

また、これらの礫は、その構築方法から幾つかの異なった方法が用いられていることが分かる。東列から北東肩部にかけては、2対の礫を丁寧に平面的に並べている。北列は大きな板状礫の平面を環状列石中心部へ向け正面をつくり、それらの裏込めをするかのような状態で2段から3段礫を積み上げている。そして、さらにこの列中には、礫が途切れる部分や積み方が明確に異なる部分が存在し、5m程の単位を確認することができる。北西肩部から西列は北東肩部と同様2対の礫を平面的に並べることを基本とするが、北東肩部と比べると並べ方は乱雑で、所々に楕円状の集礫が確認される。また北列と同様に礫の途切れる部分や積み方が明確に異なる部分が存在し、約4mから5mの単位を確認することができる。北列から西列に続くこの4mから5mの単位は、北西列中央から南西肩部、南列にかけて置かれた2対の礫の間隔と合致する（第122図）。すなわち、これが環状列石を構築する上での一つの単位と考えることができそうである。

環状列石の構成礫はそのほとんどが安山岩で、中には被熱により赤色に変化したものもある。しかし、赤色変化の観察に関しては、被熱による変化と風雨などによる酸化の区別が必ずしも明確にできていないことが調査後に判明したため、その旨を含めデーターを見ていただきたい。

つぎに、これら礫の供給源であるが、本遺跡の丘陵東側には苅稲川が流れ、西側の谷にも小河川が流下しており、両河川から礫を運び込んだものと考えられる。また、環状列石構成用石の中には、石棒・蜂巣石・石皿なども含まれている。

礫の大きさは平均重量で約14.5kg、最大のものは92.6kgを計る。そして、北西肩部から南に約6mの部分には1m程の大形棒状礫が確認されている。この棒状礫は環状列石内側に向かい倒れた状態で確認されたが、環状列石構築時には立石として存在していた可能性も推測される。

環状列石の内側及び周辺の確認面には、多数のピットや土坑が検出された。環状列石の北西肩部上F—12・F—13グリッドにHT—1号、B—13～15・C—13・C—14グリッドにHT—2号の掘立柱状建物址2棟（第127・128図）、B—14～18グリッドにかけて柱穴列1条（第127図）を確認した。しかし、これ以外のピットや土坑に関しては、覆土の観察を行った結果、攪乱による物

である事が確認された。

環状列石下部については、土坑などの遺構は確認されなかったが、環状列石に関連する遺物が確認された。環状列石北側中心部の列石直下より土器４個体（加曽利Ｅ３式IV期）が検出された（第123･124図）。土器はあたかも、壊されて敷き詰められたような状態で確認された。周囲に掘り込みなどの確認は出来なかったが、環状列石直下で、なおかつ北面のほぼ中央といった位置関係から、環状列石構築前に何らかの意味合いを込め、破砕・遺棄されたものと推測することができる。そして、環状列石の構築時期を知る上でも重要な意味をもつ資料である。この他にも、環状列石の間などから土器や石器の小破片と、環状列石内側の覆土中より長さ20cm程の結晶片の石棒１点（第439図）も検出した。

列石（第119図・付図２）

環状列石の北側に、東西方向に延びる直線的な列石が２列確認された。

①　列石１

列石１は環状列石中心部を正面とするようにして、石垣状に構築されている。

列石の遺存状態は、石垣状に積まれた礫が崩落している部分が多く、あまり良好ではないが、環状列石同様に４ｍから５ｍの単位で礫の切れ目や積み方の違いを確認することができる。

また列石１は、Ｉ－７グリッド付近でＪ－14号住居址の北壁と重複している。切り合い関係ははっきりとしないが、列石と北壁が融合している可能性も見られた。しかし列石と住居周礫に多少のレベル差が有ることからＪ－14号住→列石１と考えたい。

②　列石２

列石２も、列石１同様に環状列石中心部を正面とするようにして、石垣状に構築されている。列石の遺存状態は良好で、特に東側部分では横長に置いた礫が３段から４段しっかりと積まれている様子が明確に確認された（第119図）。この部分に縦位置に置かれた礫は確認されなかったものの、横積みの礫の状態は小牧野遺跡のいわゆる「小牧野積み」に酷似するものである。そして、列石２においても４ｍから５ｍの構築単位を確認することができる。

また、列石２もＪ－15号住・Ｊ－17号住居と重複関係にある。Ｊ－15号住との重複は、この部分の列石の遺存状態が悪く明確ではないが、Ｅ－11グリッド付近でＪ－15号住の柄の部分と列石のラインが重複する。Ｊ－17号住居と列石は、Ｃ－11グリッド付近でＪ－17号住居址の北壁と接している。新旧関係は、Ｊ－17号住居址の遺存状態が悪く、明確にすることはできなかった。しかし、列石の用石が住居址内に流れ込んでいる状況が観察されるため、列石が住居址に先行する可能性と、列石自体を住居北壁の周礫として取り込んでいる可能性が考えられる。

列石１・２ともに、環状列石同様その周辺や下部に明確な遺構は確認されなかった。

これら2列の列石は、環状列石同様そのほとんどが安山岩で、中には被熱により赤色変化したものも存在し、礫の供給源も環状列石と同じ河川礫と判断される。列石構成用石の中には、石棒・蜂巣石・石皿なども含まれていて、構成礫の重量なども環状列石と同様である。

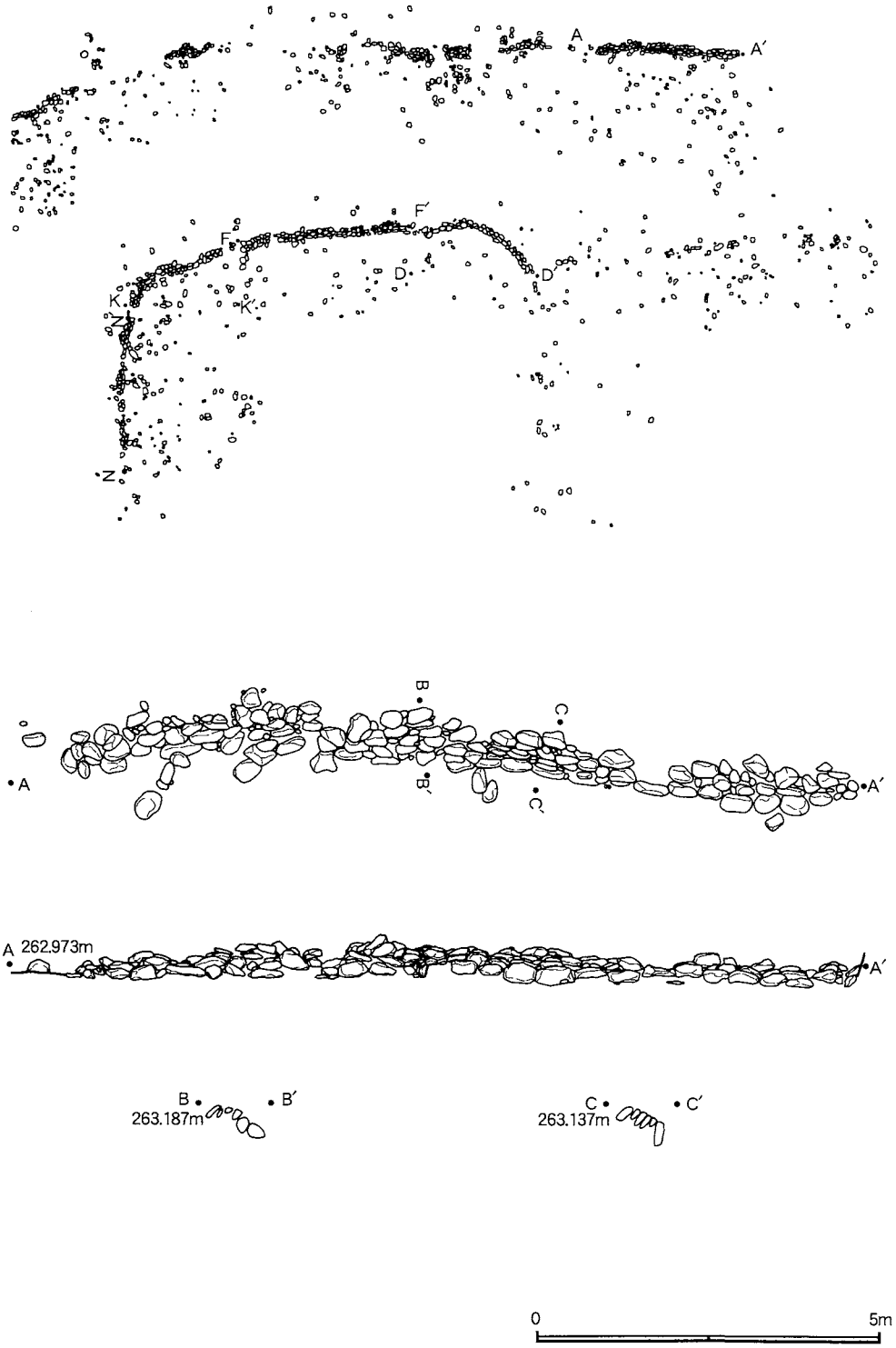
列石1・2ともに調査区外に延びていく可能性があったが、調査区の東は道路により削平され、その東は丘陵の傾斜地へ続いてしまい、この部分に遺構の確認はできなかった。また、調査区西については確認調査を行ったが、列石などの遺構の続きを確認する事はできなかった。

この他、当初列石3として環状列石東肩部付近から東へ延びる列を想定していた。しかし礫の数も少なく遺存状態も悪く、判断に苦慮していた。そして整理作業を行う中、当初単独のものとして確認していた炉が、敷石住居址に伴う残痕である可能性が強くなったのを受け、列石3として想定していたものは、その南に存在する炉6（第185図）に伴う敷石住居の残痕である可能性が強いのではないかと推測している。

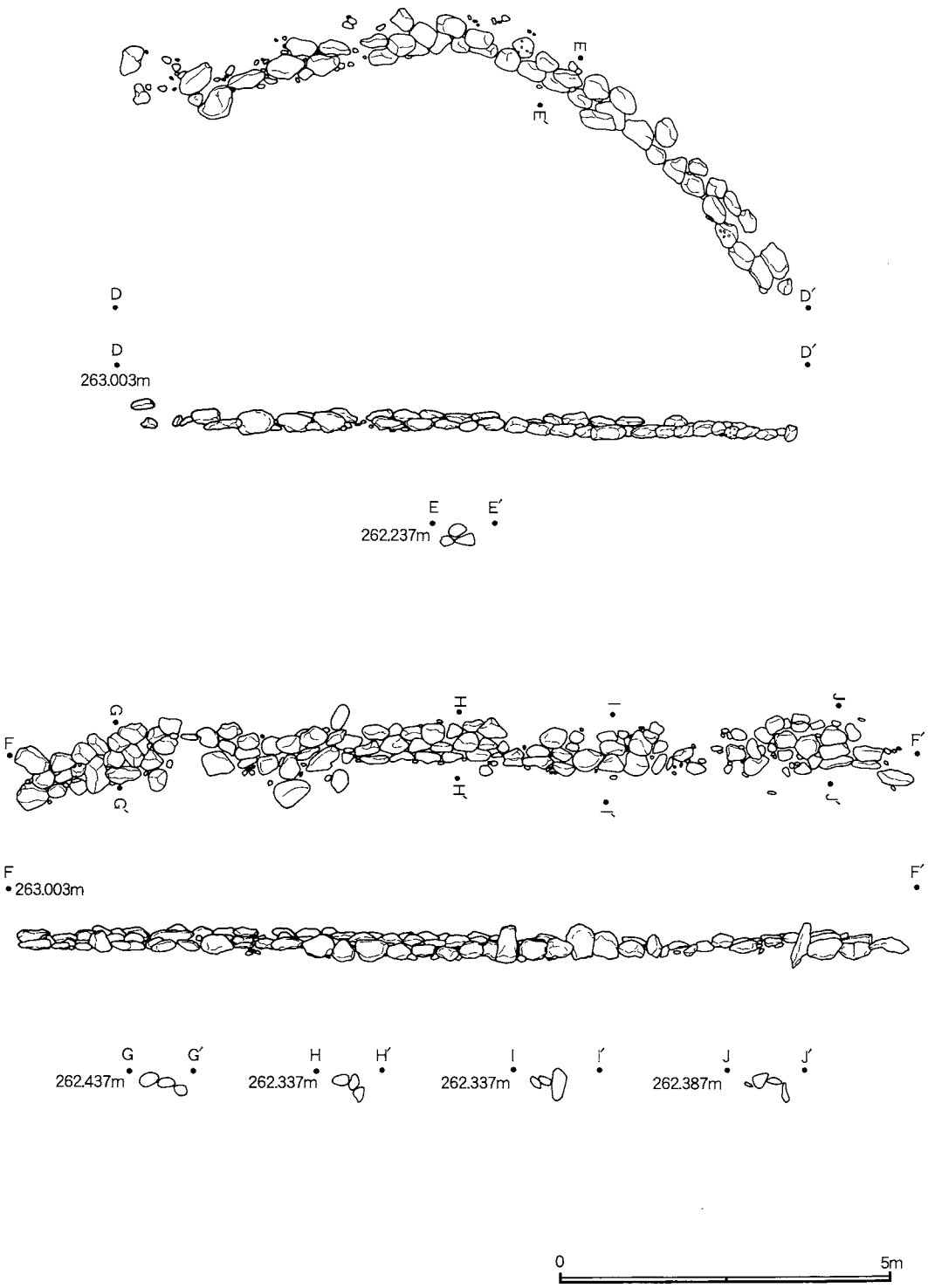
土地造成（第125・126図）

環状列石中央部から北方向を眺めると、南に正面を向けた環状列石と、その向こう同じく南に正面を向けた列石を段状に見ることができる。北側2列の列石及び環状列石に等高線を重ね合わせると、それぞれの列石のラインと等高線は一致し（付図2）、遺跡地北側から環状列石までが雛壇状に形成されていることが分かる。そして環状列石の部分で、等高線は環状列石全体を取り囲むように大きく広がり、環状列石北列と南列に囲まれる平坦面の存在を確認することができる。この広がりは、北からの等高線の流れからすると不自然なものである。

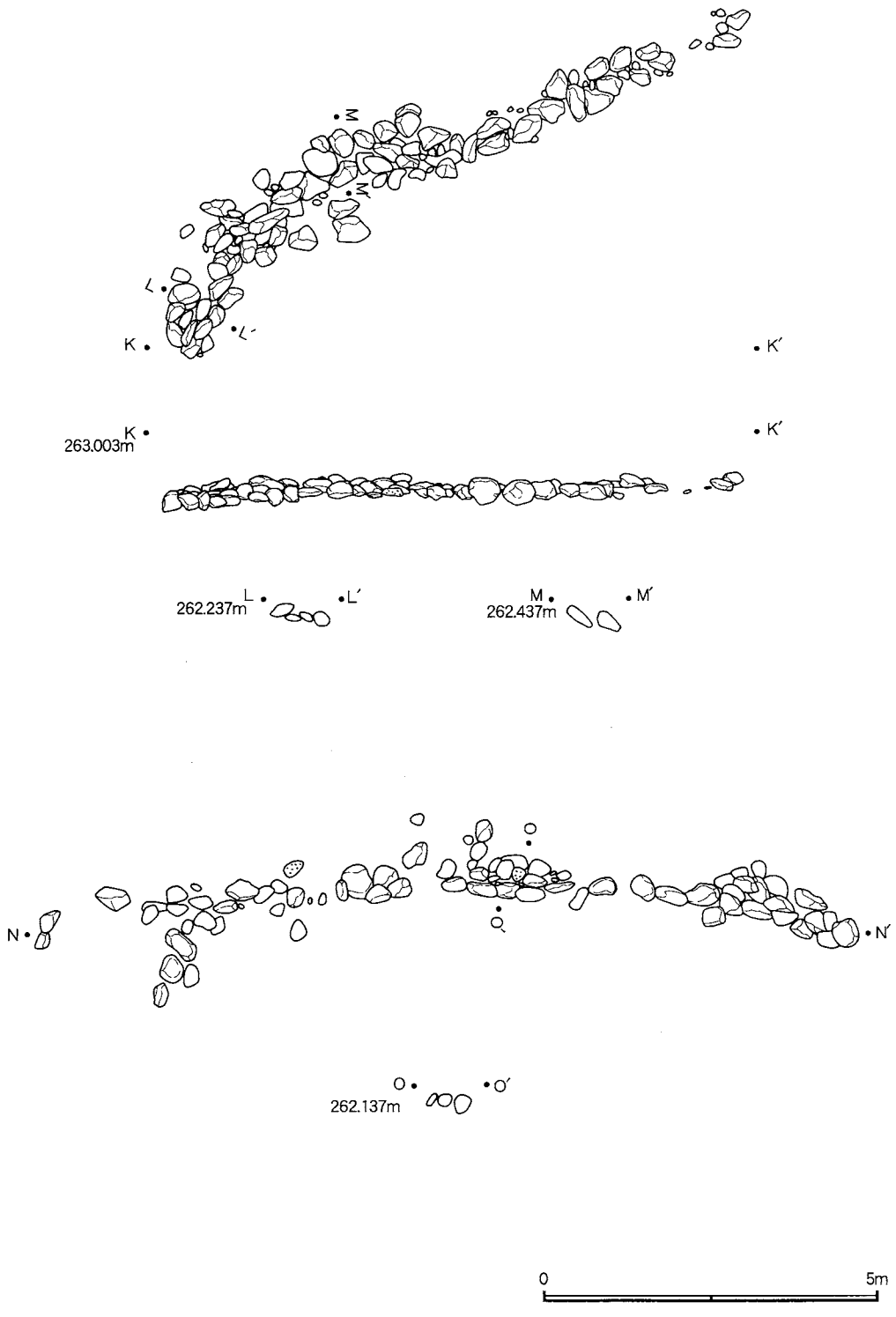
これらのことから、環状列石・列石を構築する際、土地造成が行われている可能性が考えられた。そのため、調査時に丘陵を南北及び東西に断ち割っての土層確認を行った。覆土の状態は第126図のとおりで、南に行く程堆積が厚くなるものの、土地の切り盛りを行っている様な状況を観察することはできなかった。しかし、前述した現状を踏まえれば、人為的な造成の可能性を考えることは十分可能であろう。



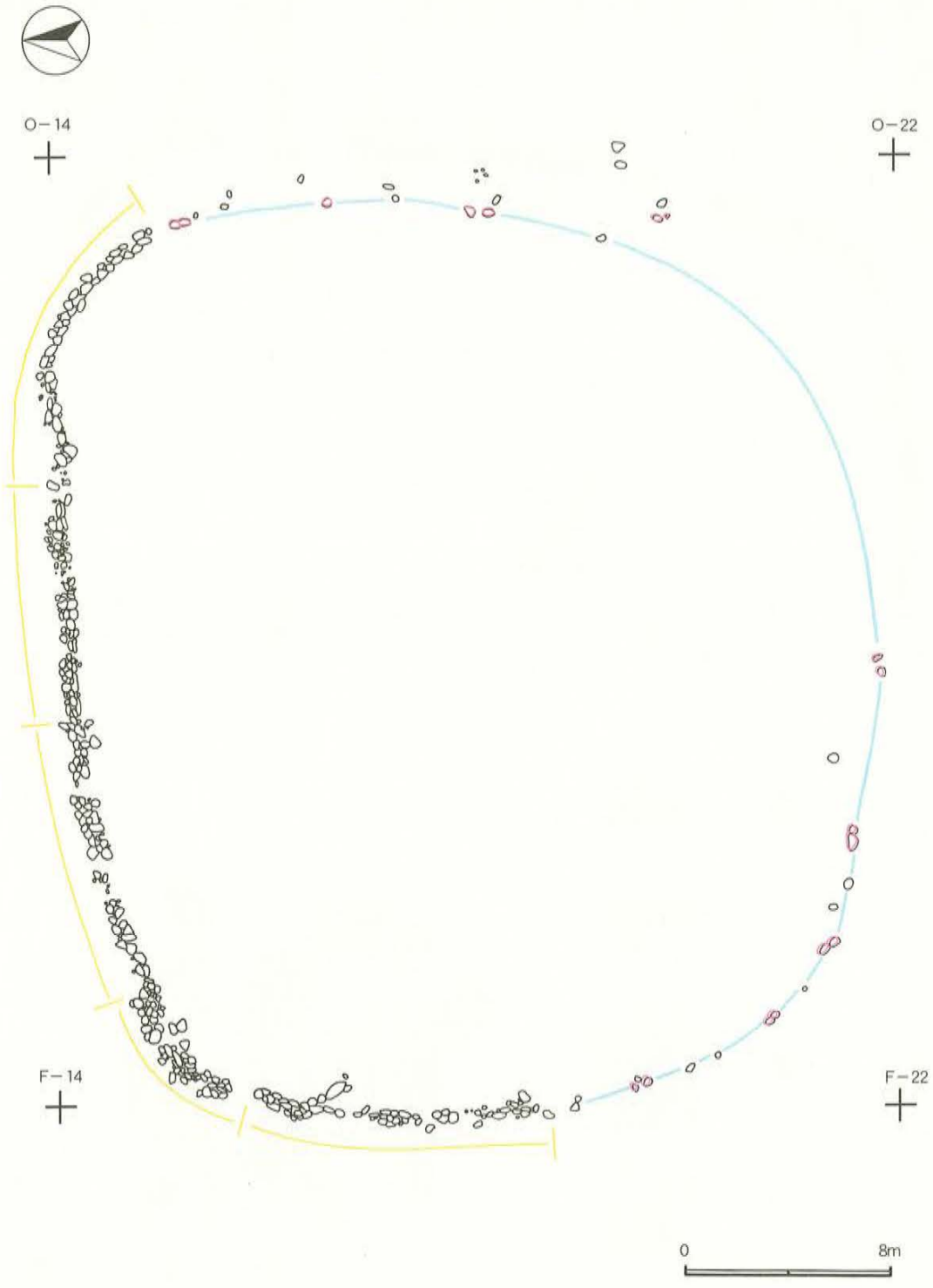
第119図　環状列石詳細図(1)



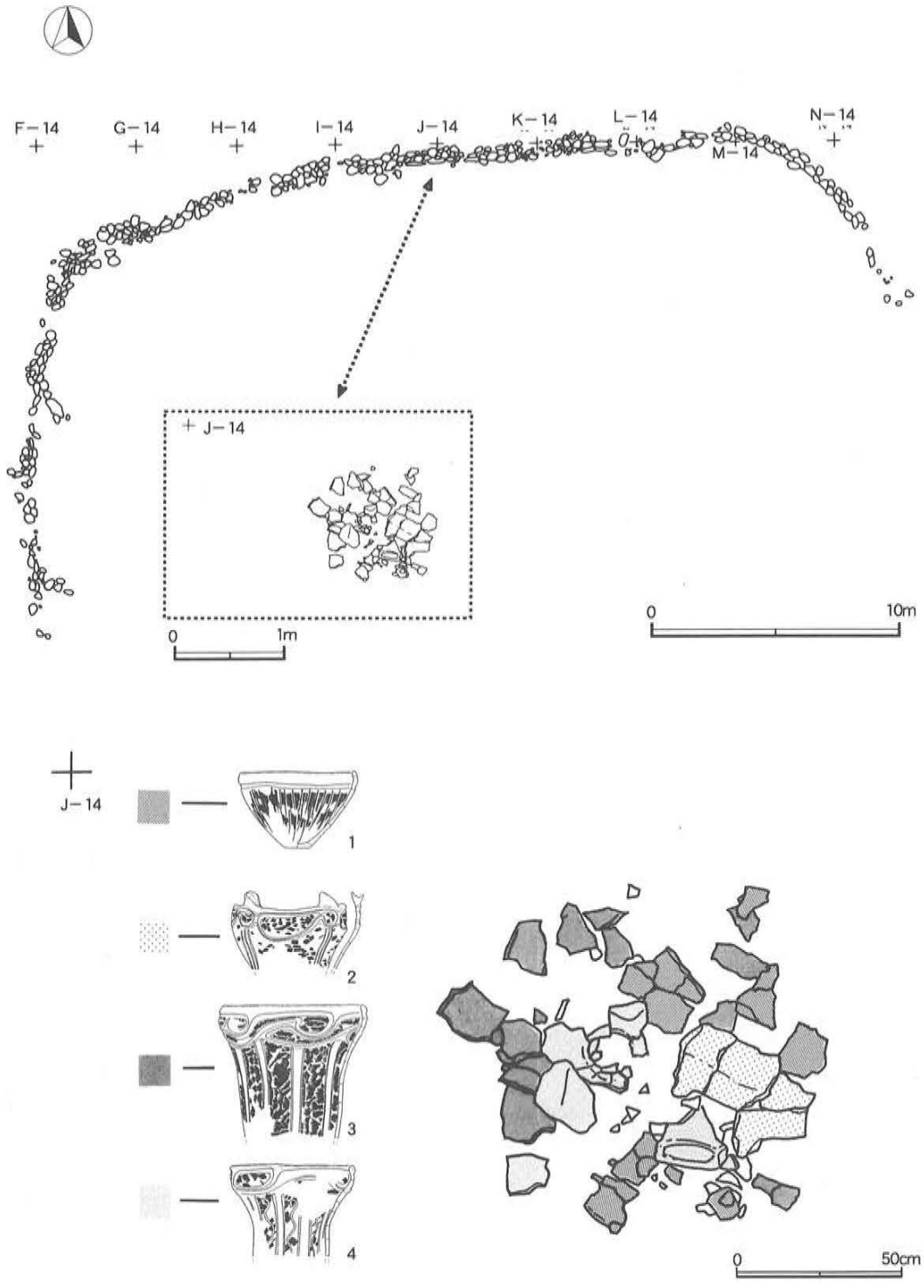
第120図　環状列石詳細図(2)



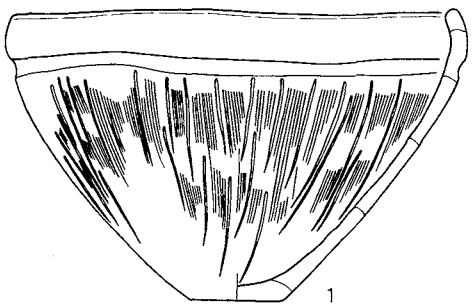
第121図　環状列石詳細図(3)



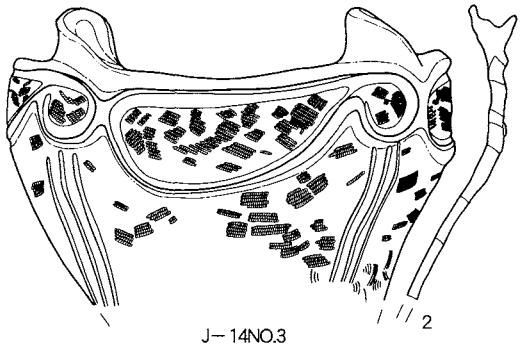
第122図　環状列石詳細図(4)



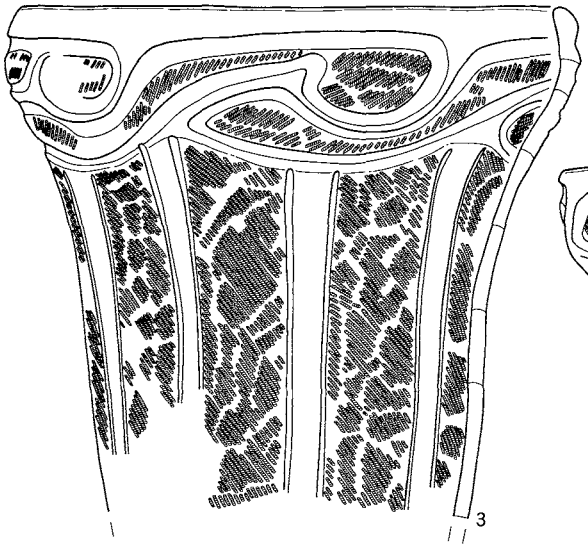
第123図　環状列石直下の遺物出土状態



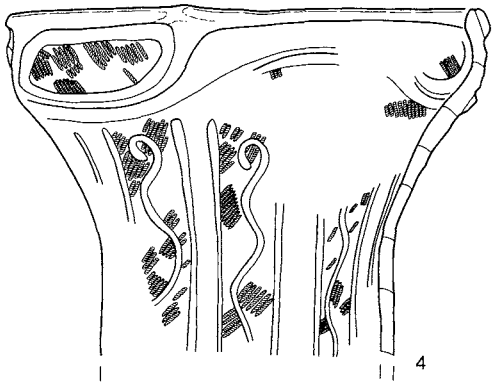
J－14NO.5



J－14NO.3



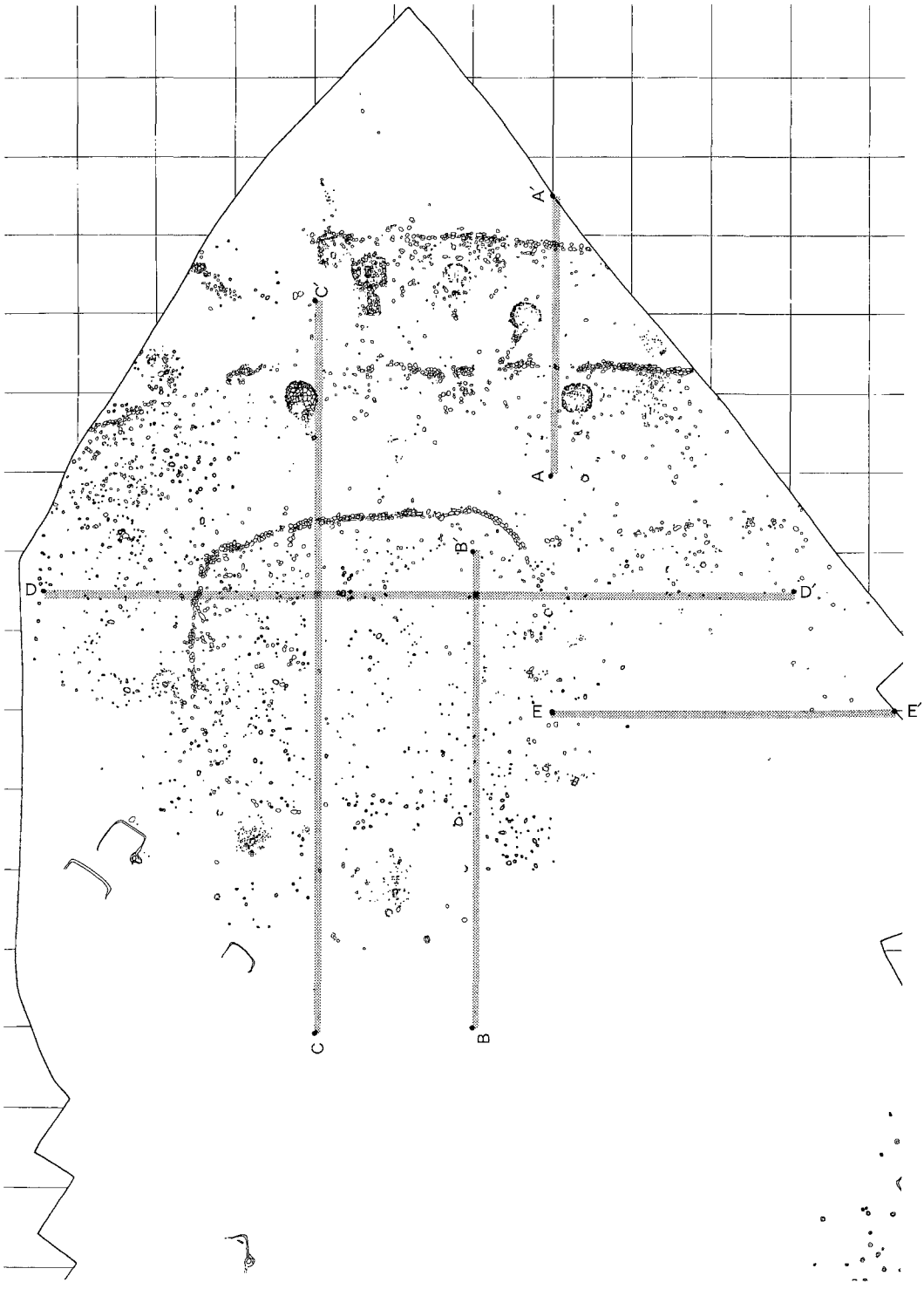
J－14NO.11



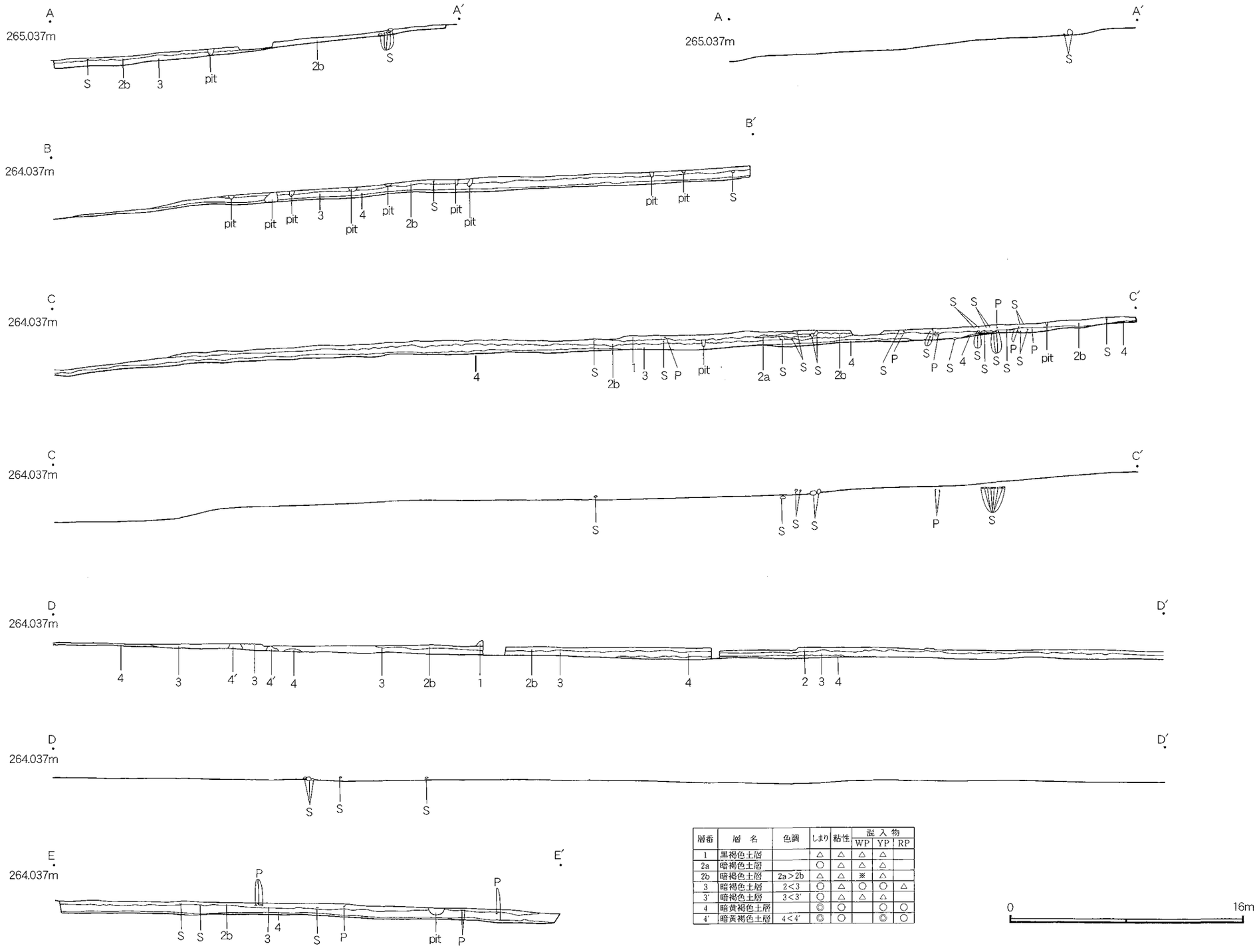
J－14NO.7

0 20cm

第124図　列石直下の出土遺物実測図

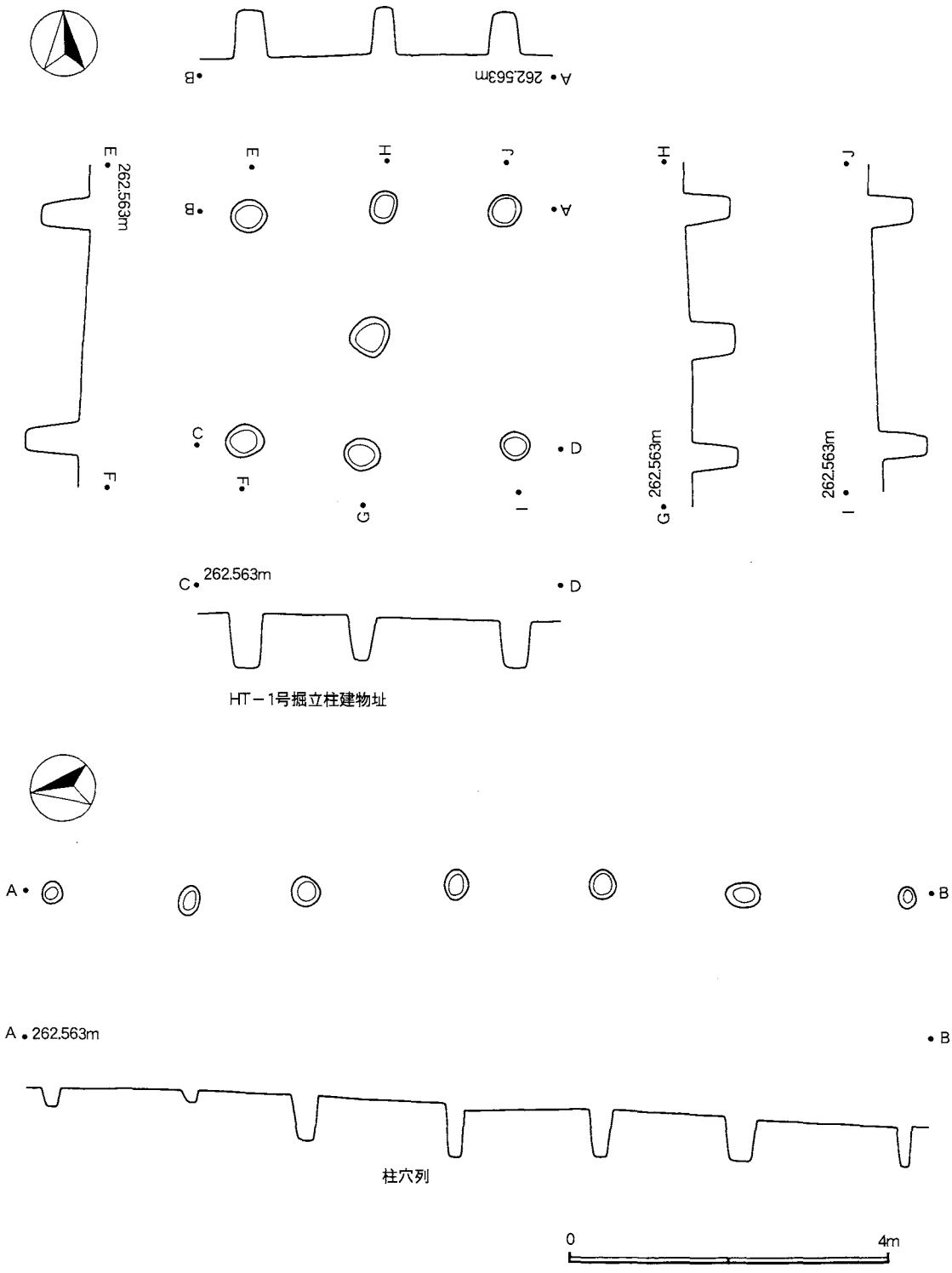


第125図　環状列石　セクション図・エレベーション図(1)

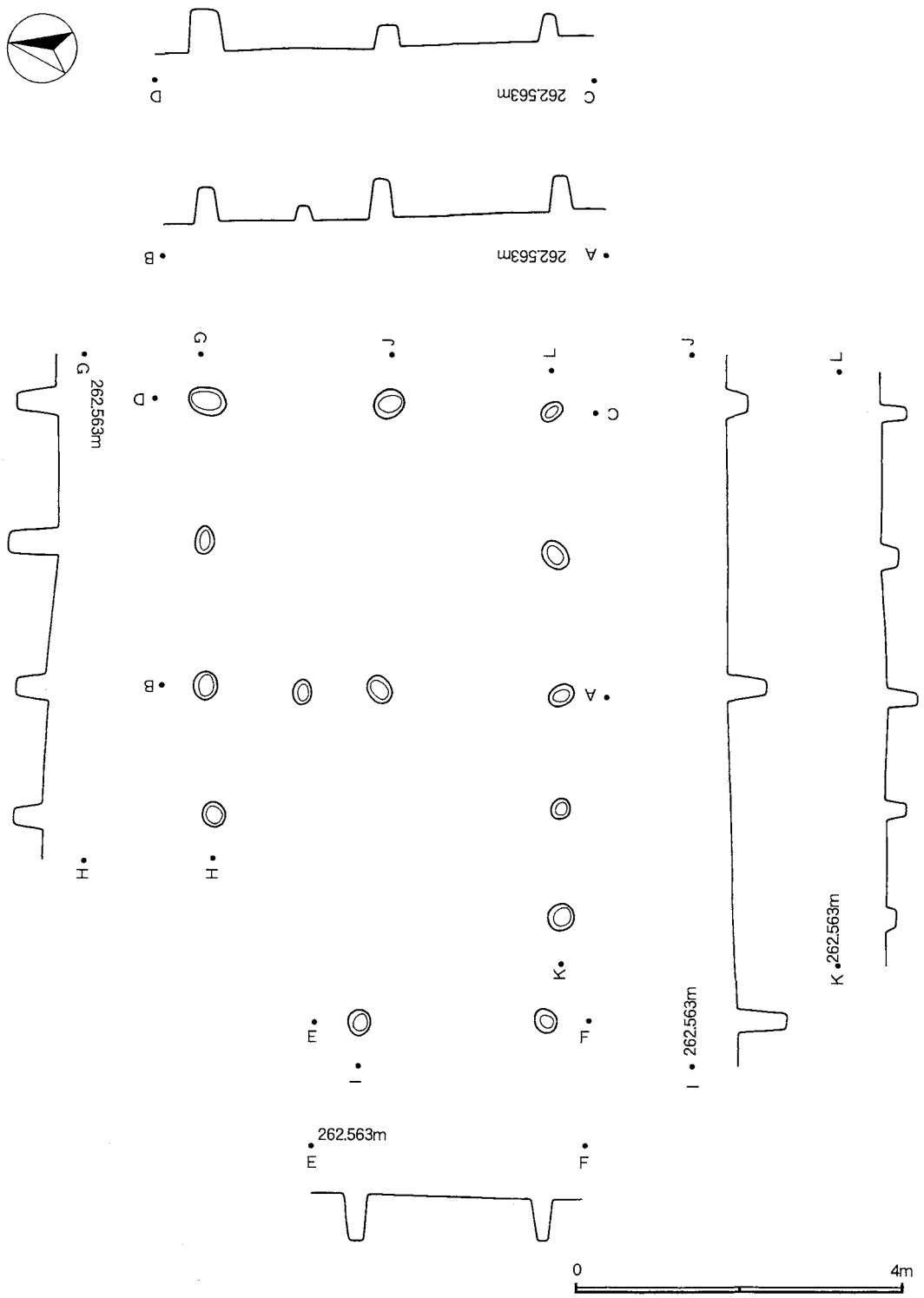


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2a	暗褐色土層		○	△	△	△	
2b	暗褐色土層	2a＞2b	△	△	※	△	
3	暗褐色土層	2＜3	○	△	○	○	△
3′	暗褐色土層	3＜3′	○	△	△	△	
4	暗黄褐色土層		◎	○		○	○
4′	暗黄褐色土層	4＜4′	◎	○		◎	○

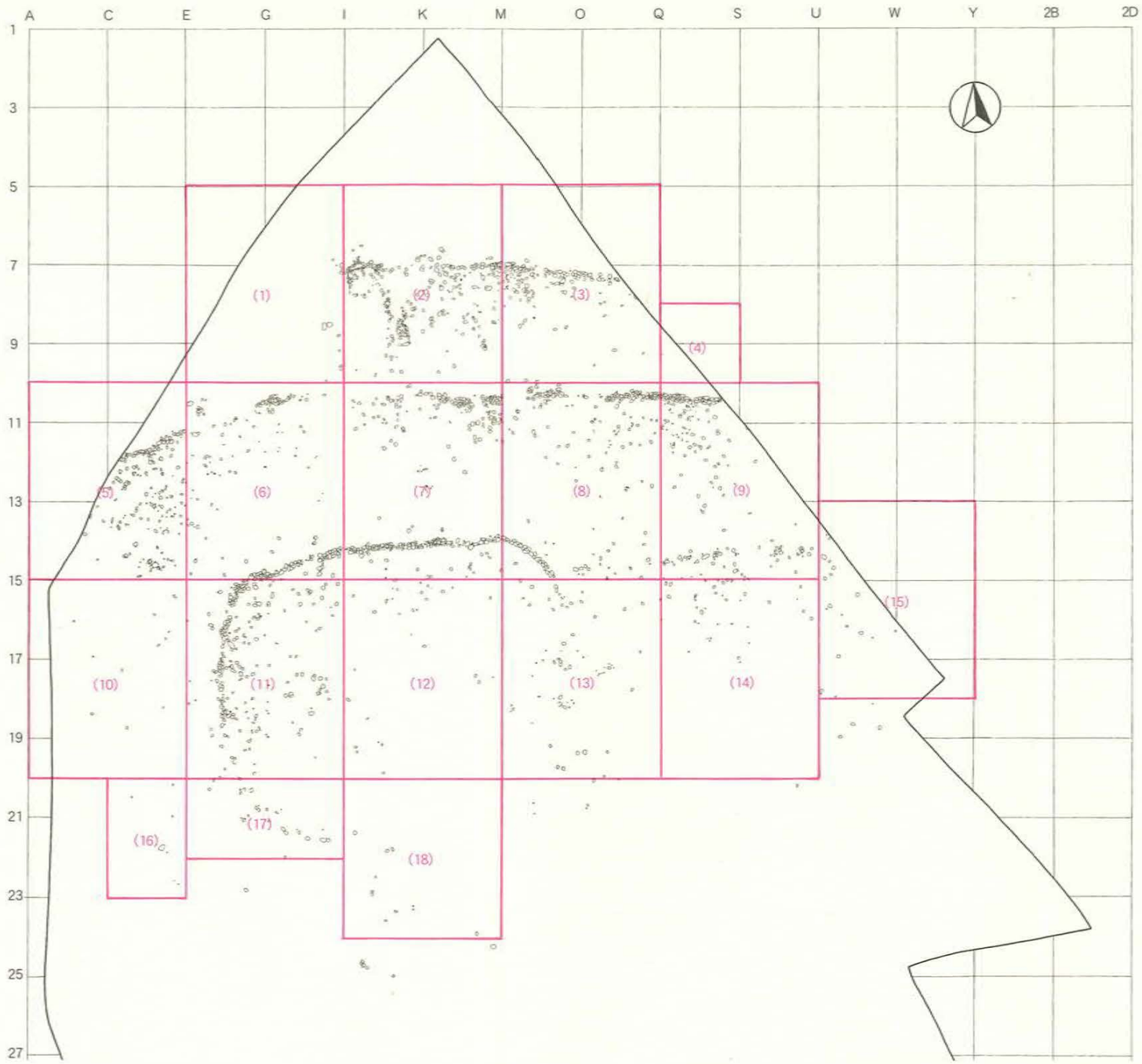
第126図　環状列石　セクション図・エレベーション図（2）



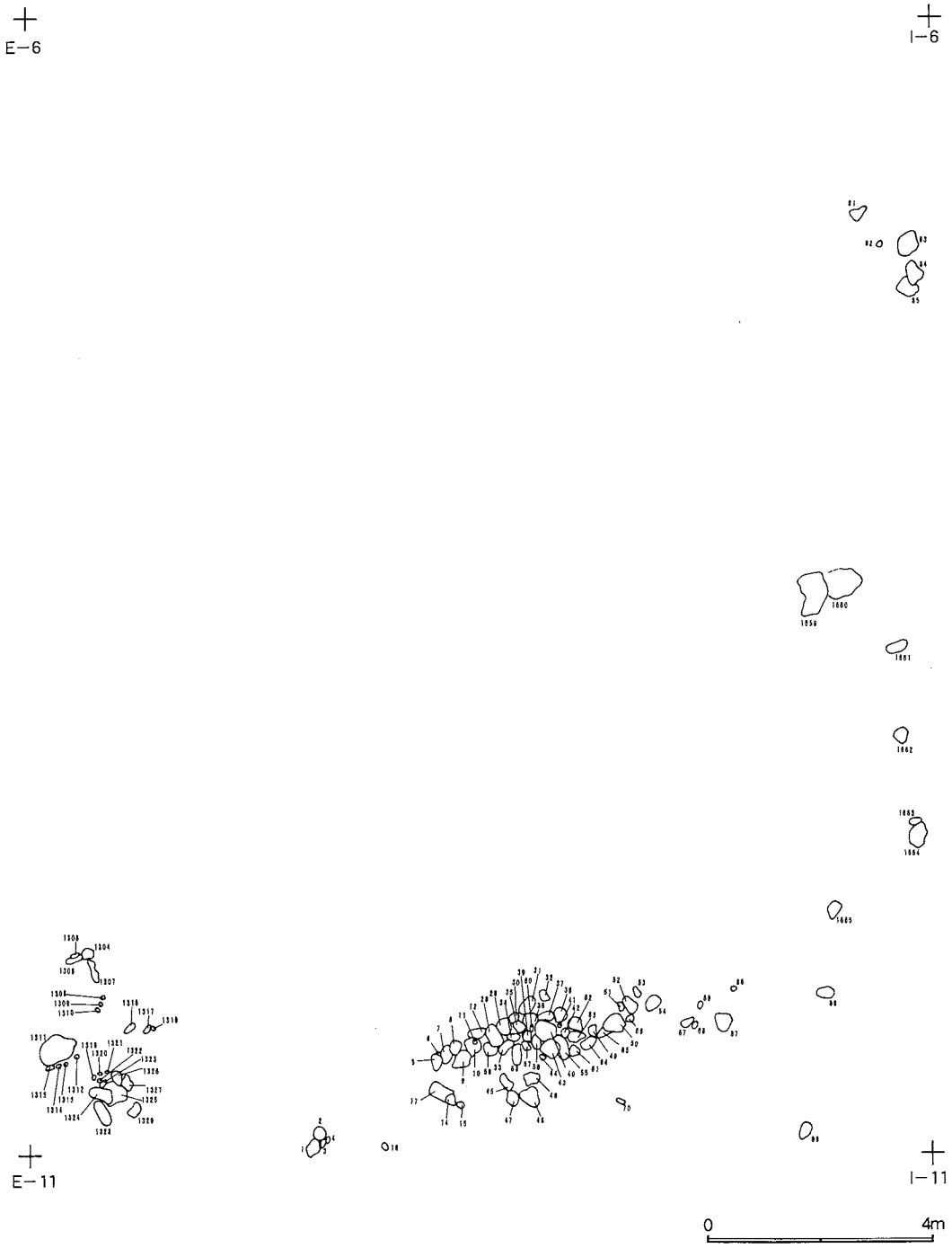
第127図　ＨＴ－１号掘立柱建物址・柱穴列実測図



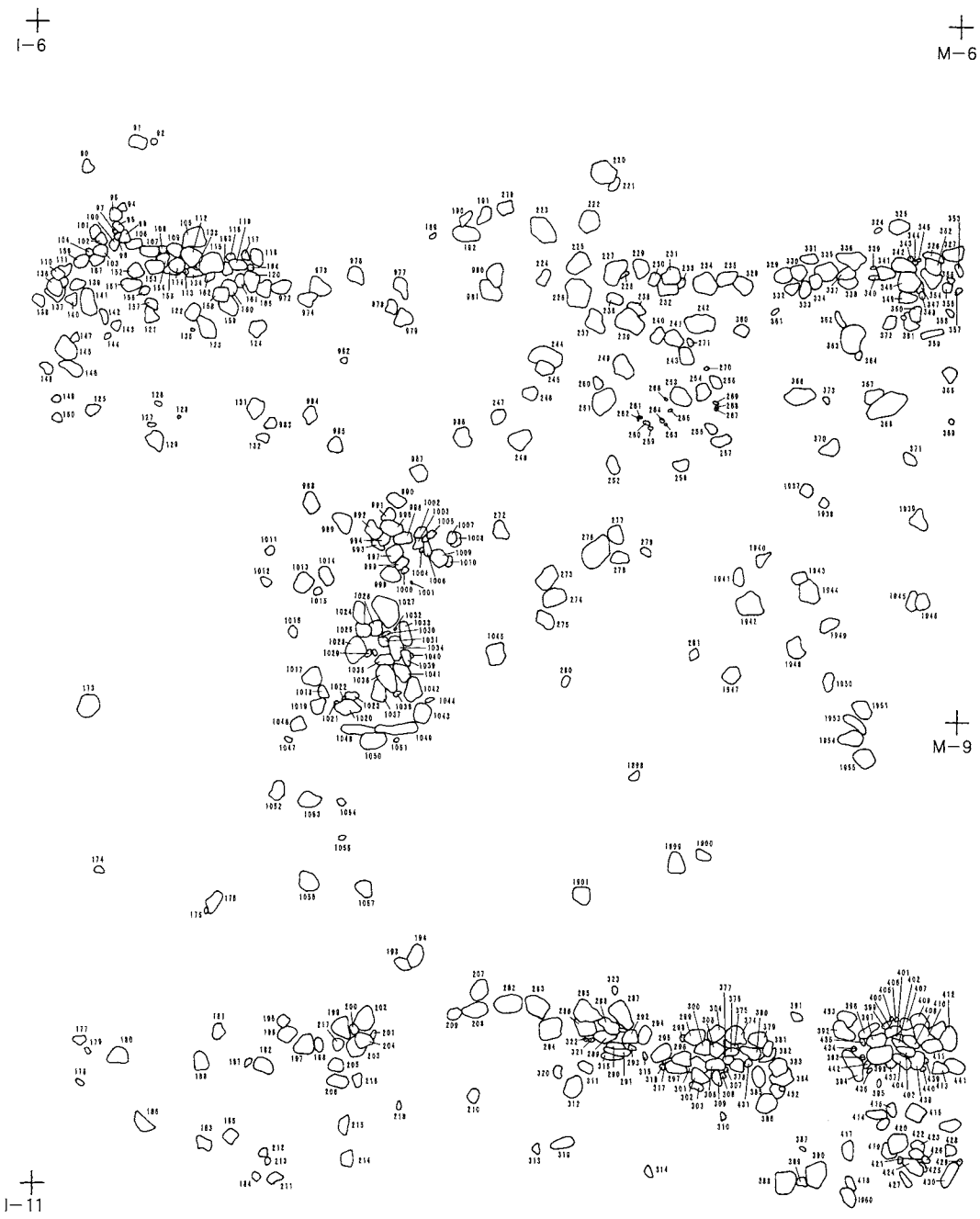
第128図　ＨＴ－２号掘立柱建物址実測図



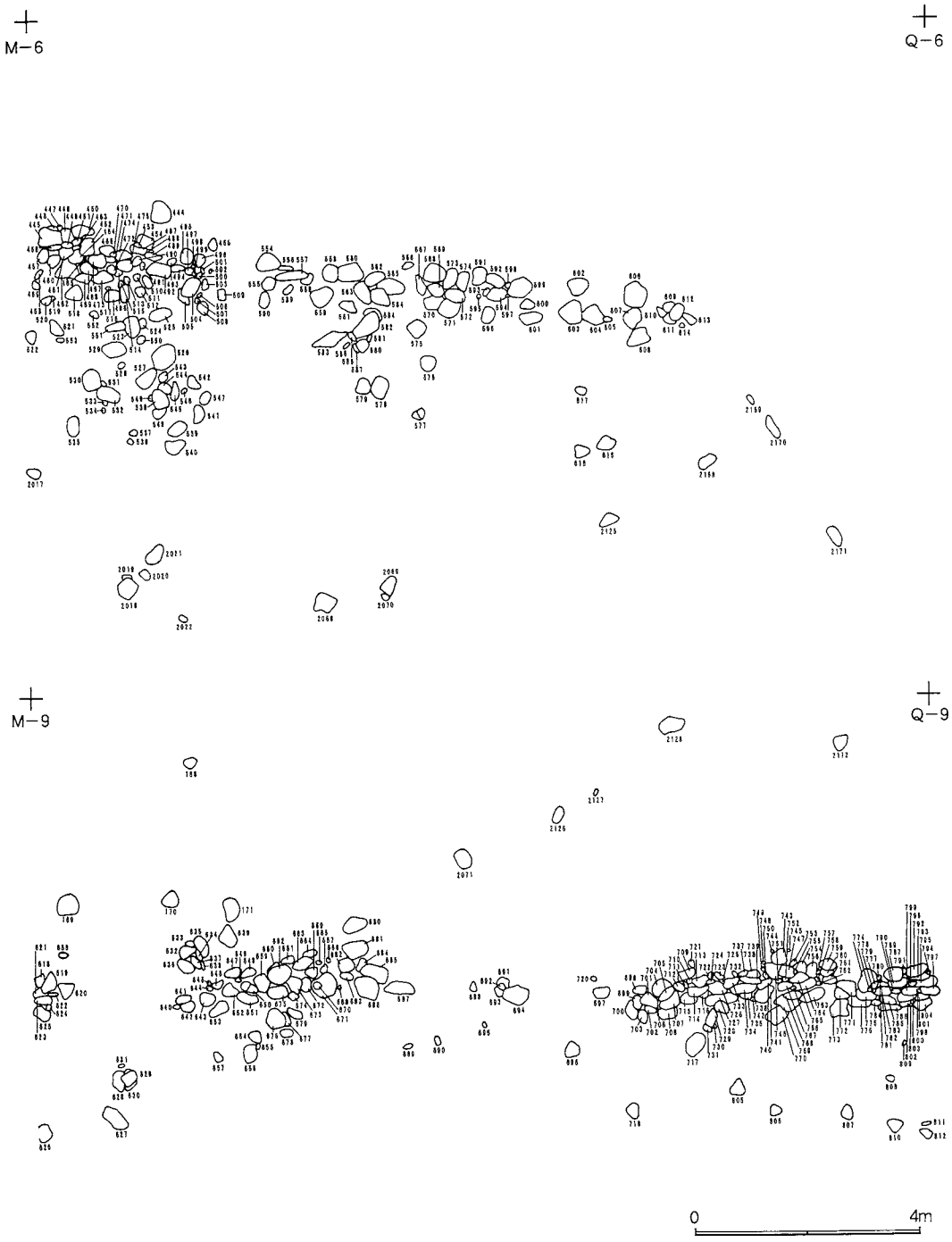
第129図　環状列石を構成する礫の分布概要図



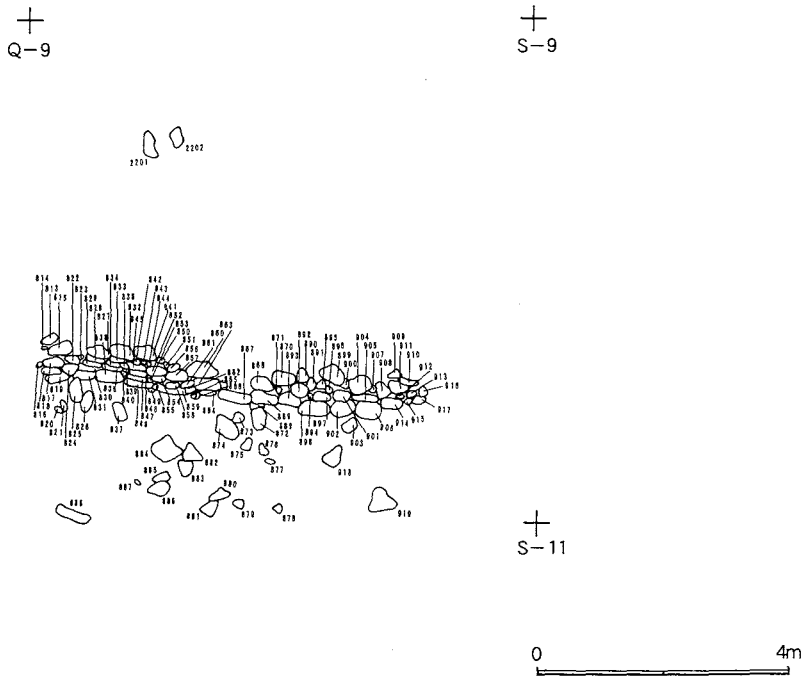
第130図　環状列石を構成する礫の分布(1)



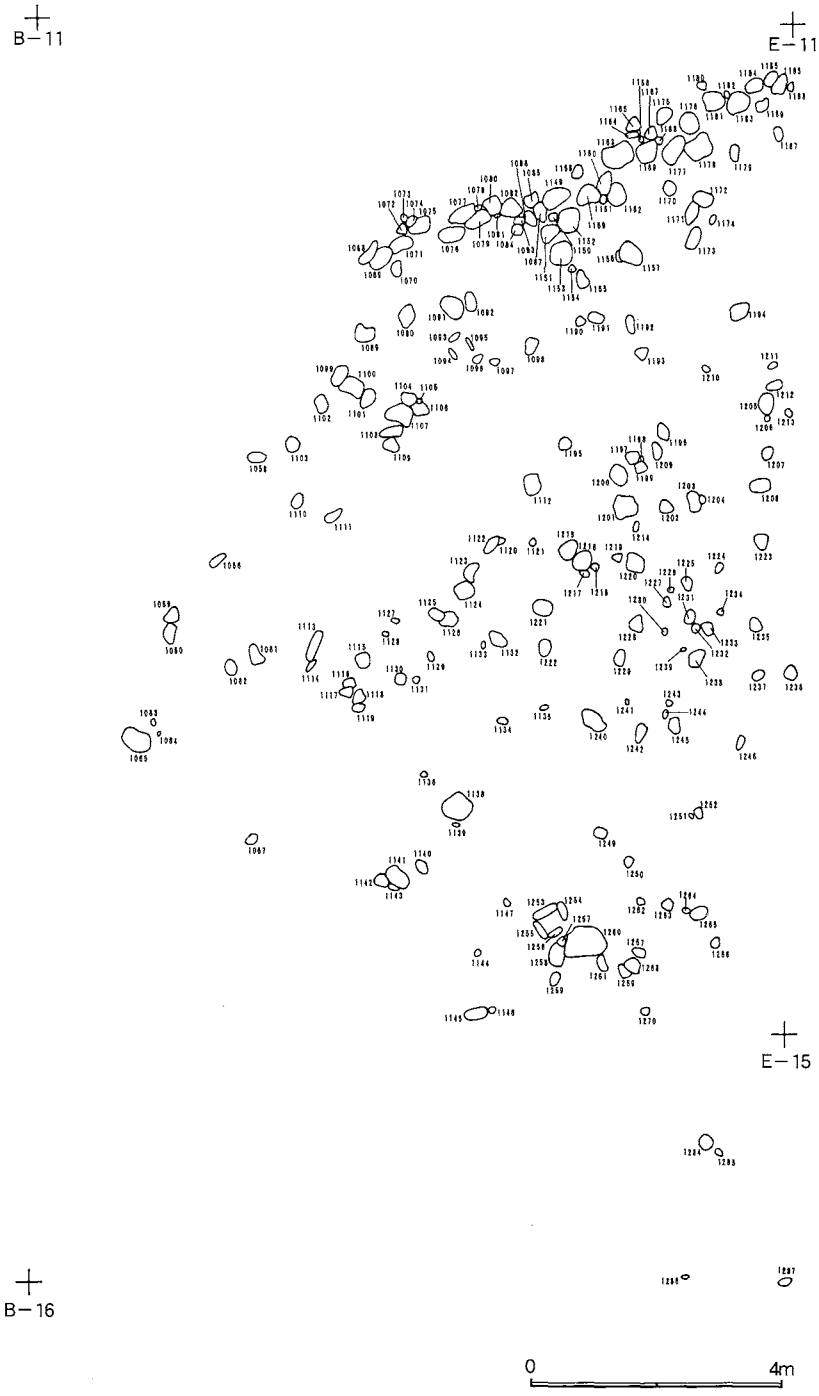
第131図　環状列石を構成する礫の分布(2)



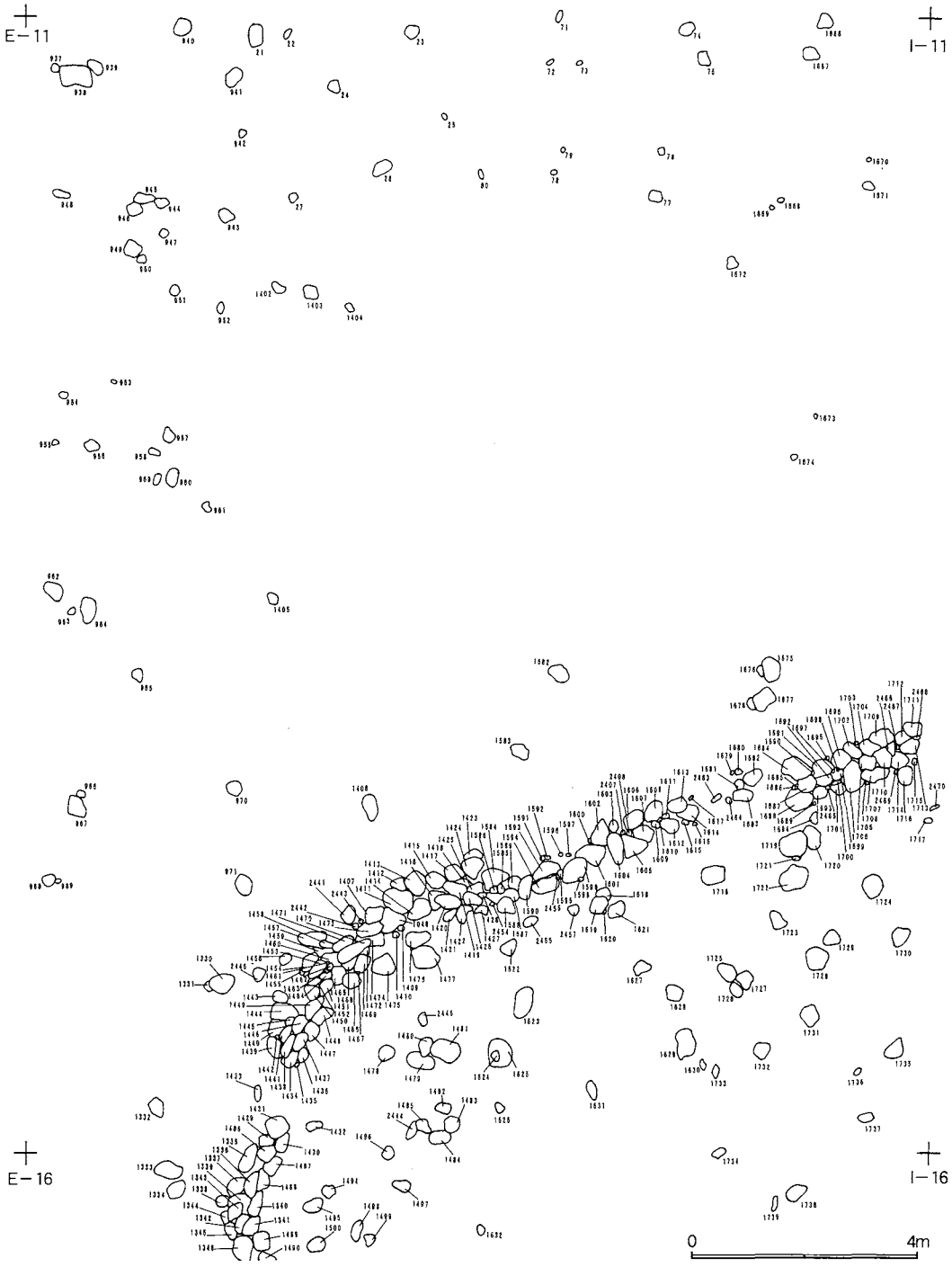
第132図　環状列石を構成する礫の分布(3)



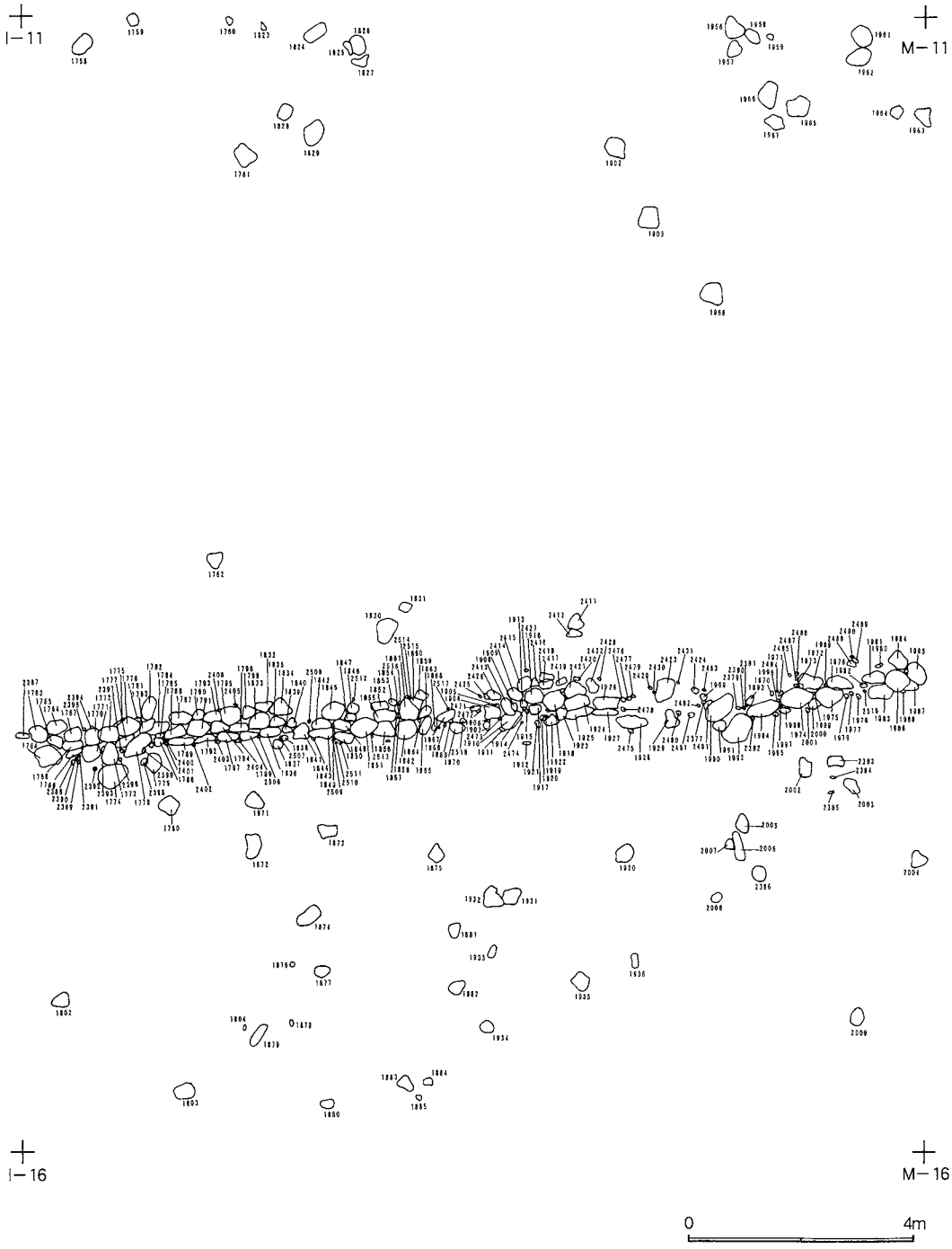
第133図　環状列石を構成する礫の分布(4)



第134図　環状列石を構成する礫の分布(5)

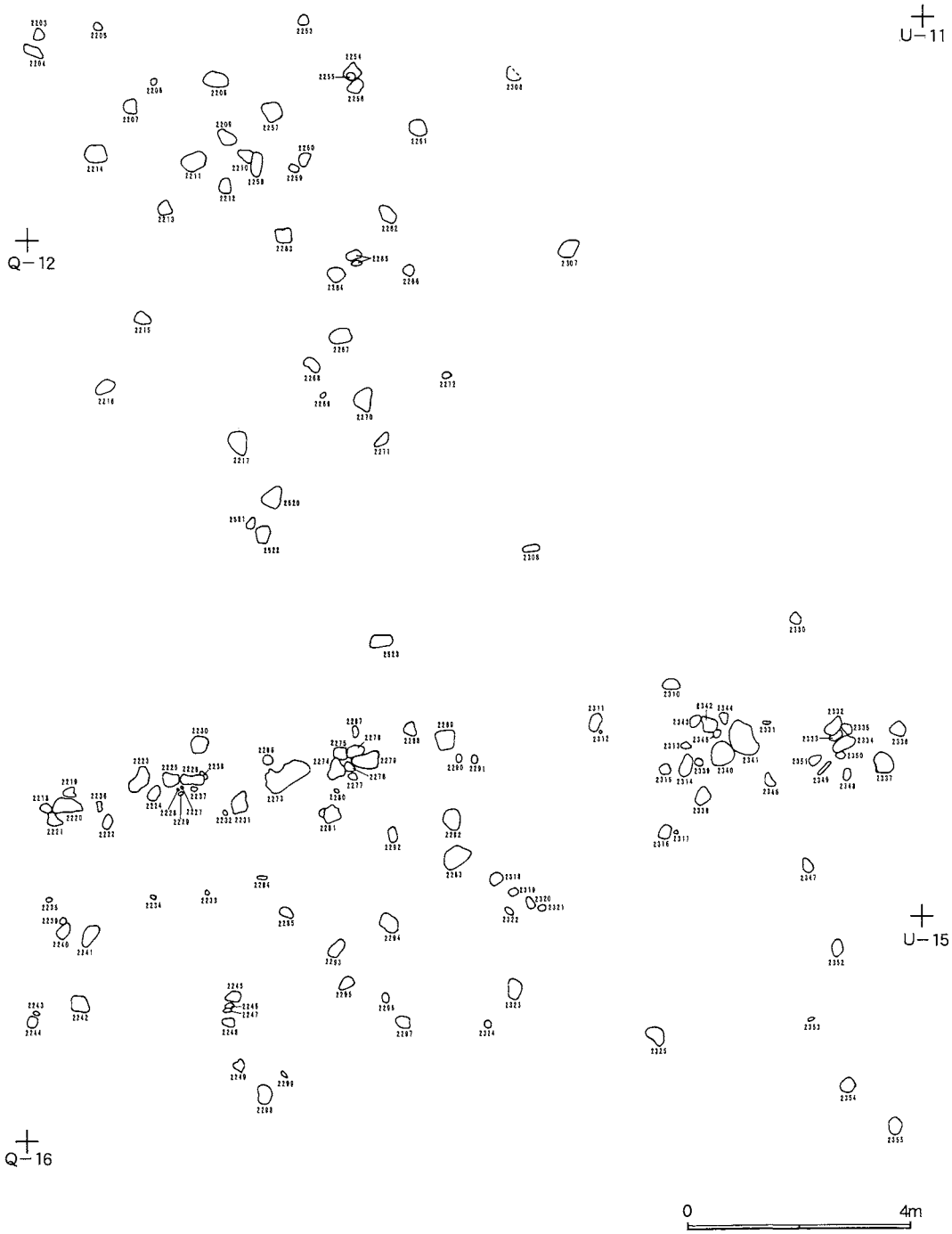


第135図　環状列石を構成する礫の分布(6)



第136図　環状列石を構成する礫の分布(7)

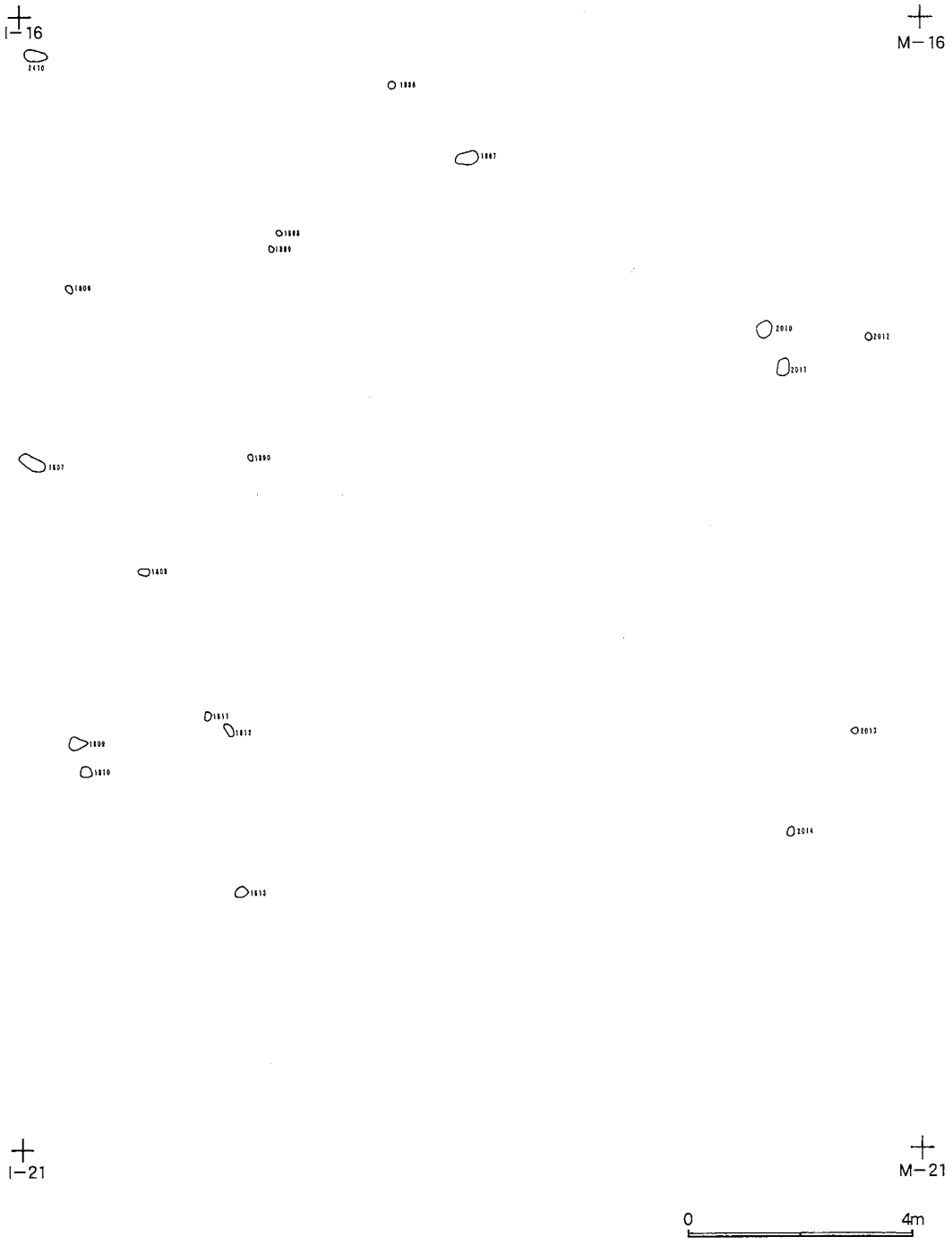
第137図　環状列石を構成する礫の分布(8)



第138図　環状列石を構成する礫の分布(9)

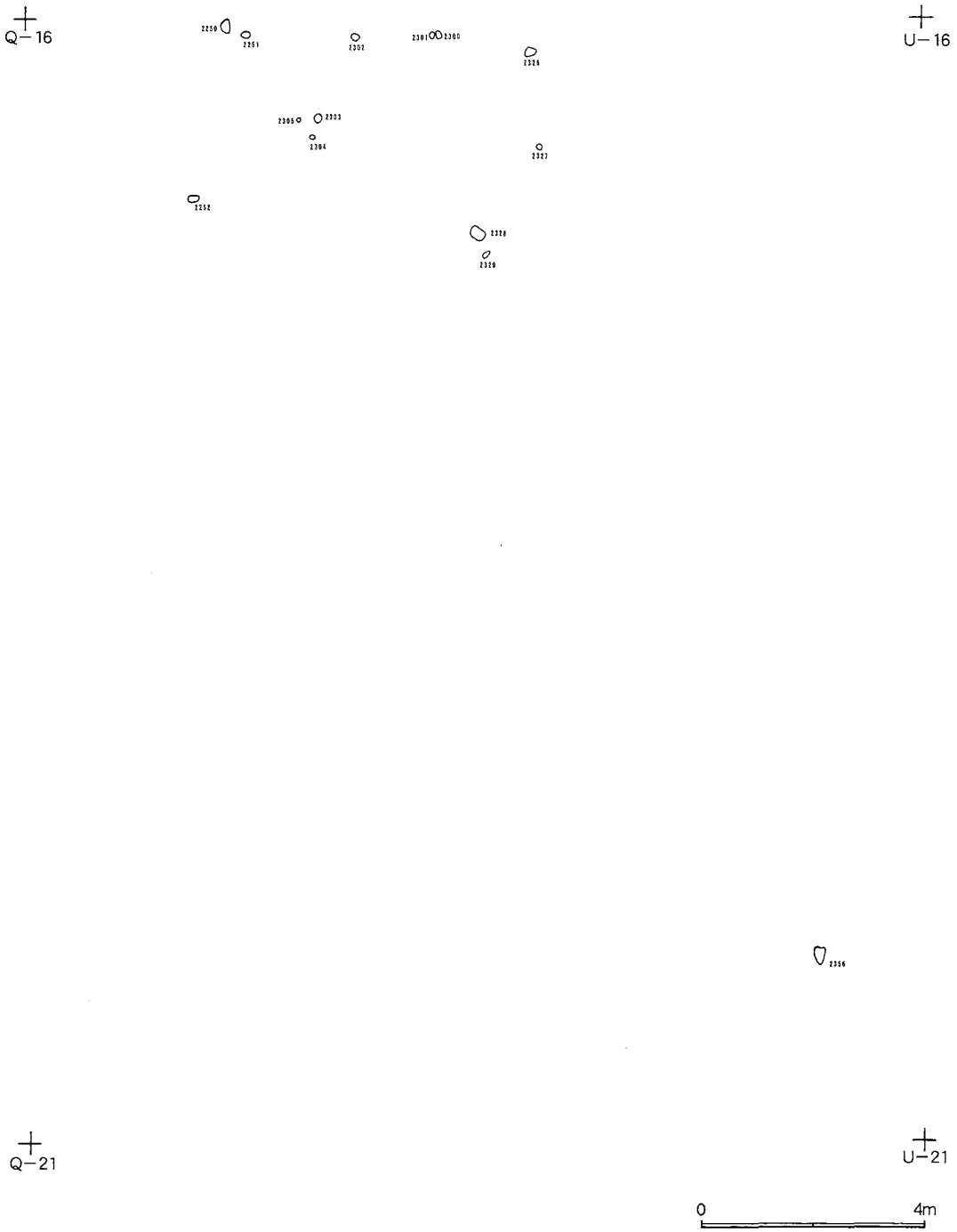
第139図　環状列石を構成する礫の分布(10)

第140図　環状列石を構成する礫の分布(11)



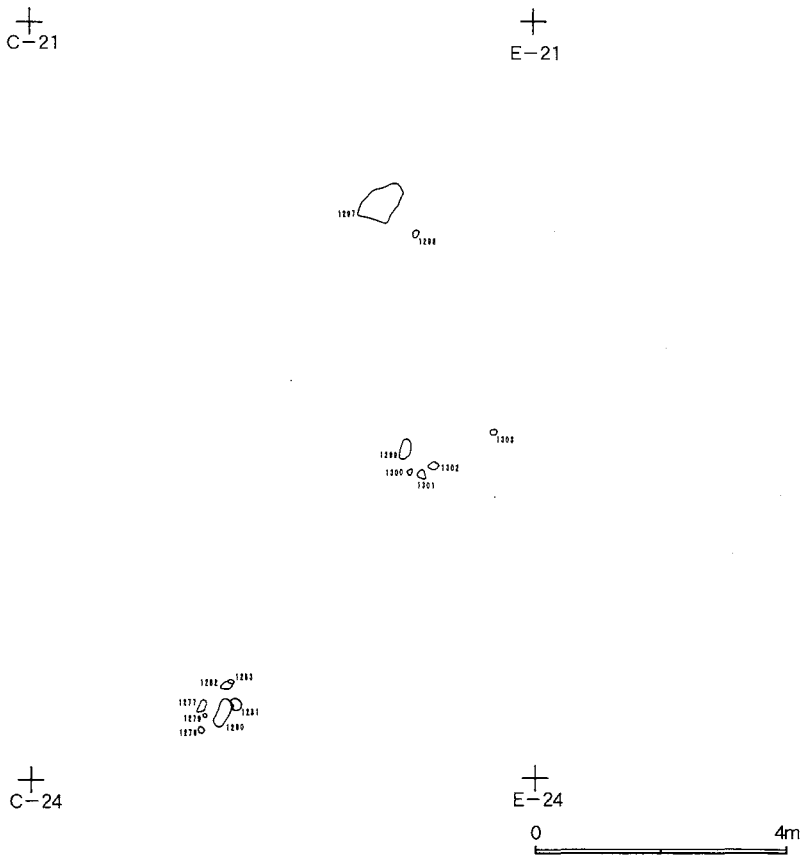
第141図　環状列石を構成する礫の分布(12)

第142図　環状列石を構成する礫の分布(13)

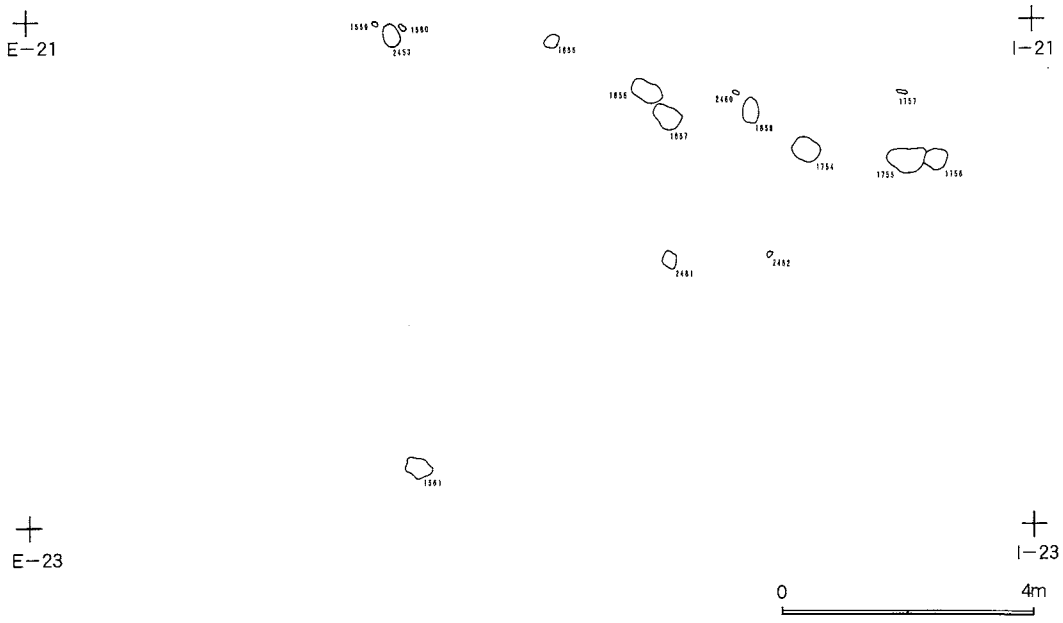


第143図　環状列石を構成する礫の分布(14)

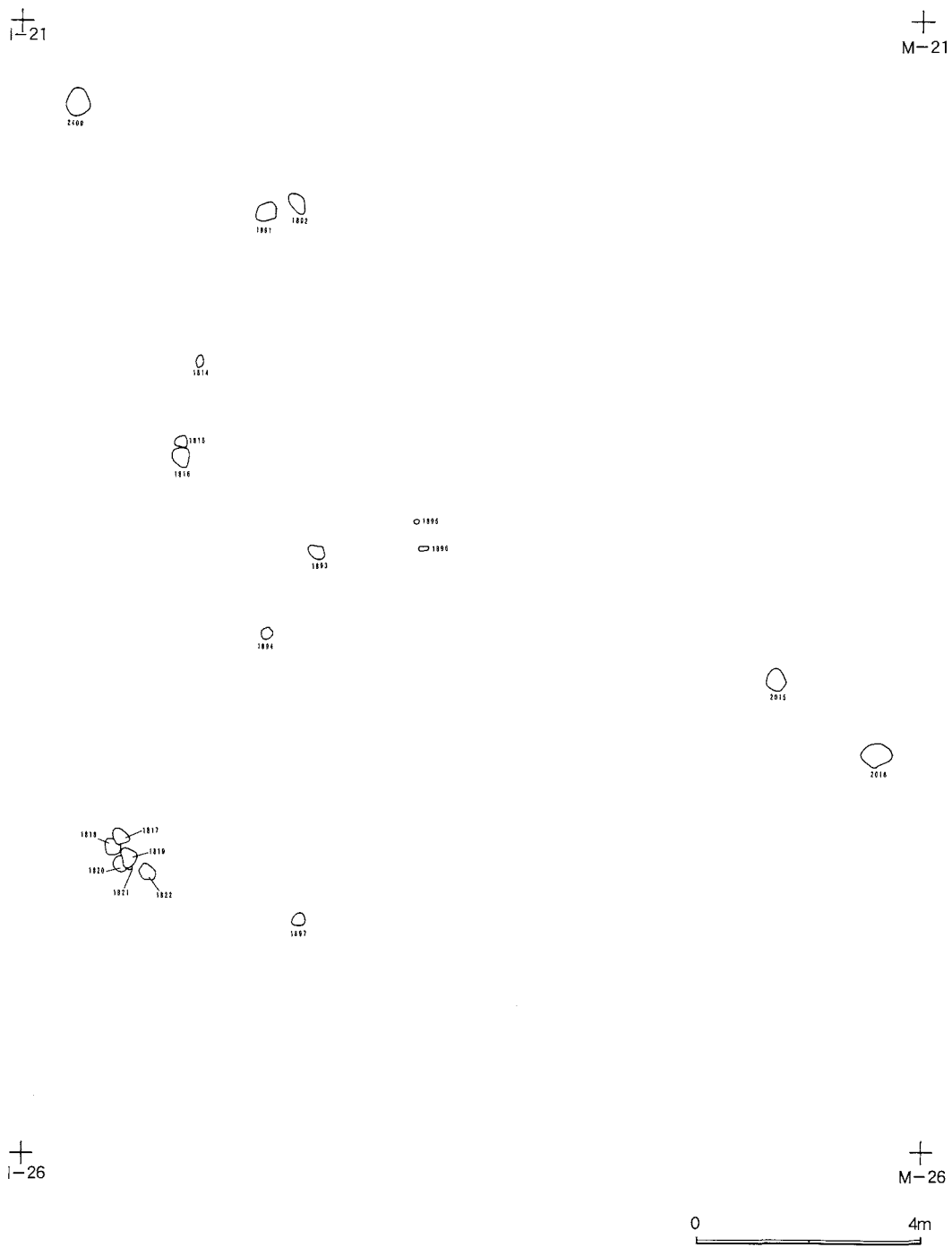
第144図　環状列石を構成する礫の分布(15)



第145図　環状列石を構成する礫の分布(16)



第146図　環状列石を構成する礫の分布(17)



第147図　環状列石を構成する礫の分布(18)

環状列石礫データ(1)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1	An	263.16	262.88	29	25	18	16.0		
2	An	262.96	262.79	23	19	17	10.8		
3	An	262.90	262.79						
4	An	262.86	262.79	14	11	7	0.9		
5	An	263.10	262.91	26	20	20	13.7		平面すり
6	An	263.04	262.98	13	8	4	0.5		
7	An	263.09	262.94	31	21	14	8.8		
8	KAn	263.26	263.06	25	21	20	12.6	○	
9	An	263.20	262.92	38	32	23	28.3		
10	An	263.21	263.00	32	29	18	20.0		
11	An	263.24	263.20	9	9	7	0.4	○	
12	An	263.26	263.10	32	18	15	10.0	○	
13	An			8	7	3	0.3		
14	An	263.12	263.06	19	19	7	2.0	○	
15	An	263.15	263.06	14	11	8	1.0		
16	An							○	
17	An	262.94	262.79	49	28	14	41.0		平面すり
18	An	262.94	263.24	26	18	11	5.4	○	
19									
20									
21	An	263.14	262.89	45	21	15	20.8	○	
22	An	262.98	262.87	21	12	12	3.7	○	
23	An	262.94	262.85	33	24	16	16.0		
24	An	263.08	263.01					○	
25	An	262.93	262.82	15	12	8	1.4	○	
26	An	263.00	262.86	38	19	13	12.5	○	
27	An	262.88	262.80	12	7	6	0.6	○	くぼみ石
28	An	263.25	263.07	41	23	19	21.4	○	
29	An	263.31	263.09	31	25	17	15.8	○	平面すり
30	An	263.30	263.16	20	15	15	5.4		
31	An	263.38	263.15	35	22	17	15.5	○	
32	KAn	263.45	263.27	19	14	13	4.7	○	
33	An	263.25	262.98	32	21	14	16.7	○	
34	An	263.28	263.06	23	19	17	8.0	○	
35	Wt	263.29	263.22	21	19	8	2.8	○	くぼみ石
36	An	263.28	263.12	27	19	16	10.6		
37	An	263.38	263.22	29	25	15	10.5		
38	An	263.39	263.23	28	20	13	9.7	○	
39	An	263.28	263.14	22	19	14	5.7	○	
40	An	263.40	263.18	35	31	19	27.9	○	
41	An	263.26	263.09	35	20	16	15.4		
42	An	263.30	263.09					○	
43	An	263.38	263.21	31	29	17	22.4	○	
44	Wt							○	
45	Wt	263.38	262.87	14	11	9	1.4		
46	An	263.34	263.19	25	22	15	11.1		
47	An	263.33	263.19	28	23	11	7.9		
48	An	263.31	263.19	37	34	10	17.3	○	
49	An	263.26	263.09	22	17	14	5.2		
50	An	263.34	263.14	40	30	17	23.8		
51	Ch	263.32	263.21	15	11	11	1.8		
52	Wt	263.33	263.12	32	23	15	11.7		
53	KAn	263.29	263.16	21	13	7	3.1	○	平面すり
54	An	263.28	263.06	33	26	18	17.0	○	
55	An	263.20	263.01	47	36	19	43.3		
56	An	263.21	263.01	39	32	23	28.0		
57	Wt	263.14	263.02	23	20	10	5.0		
58	An	263.13	262.98	41	18	14	12.4		
59	An	263.15	262.97	27	25	18	15.9		平面すり
60	An	263.18	263.06	27	16	12	5.9		
61	An	263.24	263.07	19	17	12	5.1		
62	An	263.24	263.07	30	23	17	15.8		平面すり
63	An	263.21	263.01	33	22	21	20.3		
64	An	263.19	263.01	34	22	13	12.5		平面すり
65	Wt	263.18	263.07	40	24	10	10.0	○	
66	An	263.20	263.10	17	16	10	2.4		

環状列石礫データ(2)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
67	An	263.12	262.98	24	14	13	3.9	○	平面すり
68	An	263.09	263.01	12	10	9	1.2	○	
69	An	263.14	263.10	11	8	5	0.3		
70	Sc	263.14	263.06				0.6		石棒
71	An	263.19	263.15					○	
72	An	262.97	262.92	12.5	6	5	0.4	○	
73	Ch	263.00	262.93					○	
74	An	263.19	263.01	28	23	14	9.7	○	
75	An	263.15	263.00	18	17	4	1.6	○	
76	An	262.89	262.84	12	8	5	0.8	○	
77	An	262.88	262.80	19	15	6	2.1	○	くぼみ石
78	An	262.86	262.75	17	14	12	2.3	○	
79	An	262.87	262.72						
80	An	262.95	262.67	33	29	20	18.0	○	
81	An	264.49	264.32	27	21	15	9.8	○	
82	An							○	
83	An	264.48	264.34	43	33	12	19.0	○	
84	Wt	264.34	264.18	33	31	12	12.2	○	
85	An	264.21	264.04	40	30	13	19.8		
86	An							○	
87	An	263.33	263.15	32	29	18	19.0		平面すり
88	An	263.32	263.07	30	28	19	19.0	○	
89	Wt	262.12	263.01	40	20	12	10.2	○	
90	An	264.60	264.51	22	15	6	3.3		
91	An	264.76	264.51	25	24	19	17.3		
92	An	264.63	264.45	22	21	18	9.2		
93	An								
94	An	264.51	264.46	15	13	6	1.1		
95	An	264.53	264.38	26	20	18	10.5		
96	An	264.60	264.46	18	16	14	4.3		
97	Wt	264.53	264.45	12	9	6	0.5		
98	An	264.60	264.51	15	14	8	1.2		
99	An	264.59	264.46	24	22	16	6.0		
100	Wt	264.59	264.46	21	16	13	3.8	○	
101	An	264.51	264.39	23	17	14	5.1	○	
102	An	264.47	264.38	24	17	7	4.5		平面すり
103	An	264.50	264.35	25	19	15	8.1	○	
104	An	264.50	264.41	23	15	8	2.0	○	平面すり
105	An	264.51	264.46	38	27	23	34.1		
106	An	264.38	264.08	40	32	17	25.1		
107	An	264.34	264.05	36	31	21	30.0		
108	Wt	264.30	264.18	15	10	12	1.8		
109	An	264.29	264.11	32	25	13	14.8		
110	An	264.34	264.14	33	20	17	9.4		
111	An	264.37	264.05	34	26	19	19.8		
112	An	264.49	264.29	39	33	19	28.7		
113	APo	264.24	264.14	15	11	8	1.5	○	石棒
114	An	264.32	264.10	34	29	20	23.6	○	
115	Wt	264.33	264.02	48	30	18	30.6	○	
116	Wt	264.35	264.20	19	18	11	3.3		すり石
117	An	264.35	264.21	18	16	15	4.5	○	
118	An	264.38	264.13	30	26	17	17.8		
119	An	264.36	264.12	32	22	19	17.8	○	
120	An	264.23	263.96	37	28	22	24.8		
121	An	264.19	264.05	26	21	15	9.1		
122	An	264.24	264.02	29	27	17	14.6	○	
123	Wt	264.28	264.15	40	24	10	10.4	○	
124	An	264.14	263.94	34	22	19	15.0		
125	An	264.10	263.81	29	21	20	15.8		
126	An	263.73	263.66	13	9	9	1.0	○	
127	An	263.68	263.59	16	13	10	1.9	○	
128	An							○	
129	An	263.74	263.58	39	31	13	20.2		
130	An	263.70	263.68	9	8	3	0.3		
131	An	263.84	263.67	33	24	17	16.2		
132	An								

環状列石礫データ(3)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
133	An	264.31	264.13	40	26	19	21.0		
134	An	264.14	263.93	26	26	18	12.7	○	
135	An	263.90	263.87	12	7	3	0.3		
136	An	264.31	264.16	31	20	16	10.9		
137	Wt	264.15	263.96	36	28	16	17.8	○	
138	Wt	264.10	263.95	24	18	13	5.2	○	
139	An	264.19	264.02	27	20	15	8.8		
140	Wt	264.19	264.03	25	23	12	5.9		くぼみ石
141	An	264.20	263.95	46	26	22	27.5		
142	An	264.13	264.02	26	15	14	5.5	○	
143	Wt	264.06	263.99	18	16	8	1.9	○	
144	An	264.10	264.03	11	8	8	0.9		
145	Wt	264.04	263.85	48	33	13	27.0	○	
146	An	263.98	263.81	45	25	16	19.6		平面すり
147	An	264.01	263.89	18	14	13	3.0		
148	Wt	264.02	263.92	25	16	7	3.1	○	
149	Wt	263.92	263.82	15	14	7	1.9	○	
150	Wt	263.94	263.87	19	14	5	1.9	○	
151	An	264.10	263.91	38	26	20	23.0		
152	An	264.17	263.97	30	23	18	19.3	○	
153	An	264.30	263.99	36	26	16	20.6		
154	Wt	264.23	264.08	26	23	15	10.3		
155	Wt	264.15	263.94	42	28	16	27.9	○	
156	Wt	264.04	263.95	20	15	11	2.7	○	すり石
157	An	264.10	263.95	24	18	13	8.3	○	
158	An	264.20	263.95	33	23	18	15.0		
159	An	264.09	263.90	34	26	16	20.1		
160	An	264.12	263.89	31	27	17	20.4		
161	An	264.14	263.94	26	18	18	10.9		
162	An	264.06	264.00	23	15	8	2.1	○	平面すり
163	An	264.23	264.03	30	25	18	18.3		
164	An	264.20	264.09	16	13	8	1.7		
165	An	264.19	264.00	32	30	19	18.7		
166	An	264.30	264.06	30	23	16	13.2		
167	An	264.28	264.08	35	25	18	16.6		
168	An	263.58	263.42	29	19	18	9.7	○	
169	An	263.44	263.33	39	37	13	23.0	○	
170	An	263.41	263.27	26	22	22	22.0	○	
171	An	263.34	263.08	41	25	22	31.3		
172	An	263.66	263.47	28	22	20	18.2	○	
173	An	263.85	263.71	38	31	22	29.9	○	
174	An	263.46	263.41	14	9	4	0.8	○	
175	An	263.48	263.35					○	
176	An	263.37	263.34	23	17	10	3.3	○	
177	Wt	263.27	263.19	23	14	10	2.4	○	178,179と同一個体
178	Wt	263.07	262.96	16	10	6	1.7		177,179と同一個体
179	Wt	263.23	263.17	12	10	7	0.5	○	177,178と同一個体
180	An	263.26	263.11	34	28	17	17.3	○	
181	An	263.28	263.17	25	18	7	4.8		
182	An	263.22	262.99	36	24	24	28.0		
183	KAn	263.12	263.02	32	14	25	13.8	○	
184	An			29	18	18	14.3	○	
185	An	263.05	262.86	20	19	19	13.5		
186	An	263.05	262.94	43	24	10	12.8	○	
187	An	263.16	263.04	16	12	10	1.8		
188	An	263.12	263.03	35	24	9	8.7		
189	An	264.26	264.20	12	9	6	0.7	○	
190	An	264.56	264.36	27	18	12	10.2		
191	An	264.49	264.32	40	21	16	11.8	○	
192	An	264.32	264.10	48	31	24	38.6		
193	An	263.44	263.31	25	19	12	9.0	○	すり面　くぼみ石
194	An	263.42	263.27	37	21	14	17.2	○	
195	KAn	263.22	263.06	17	16	3	1.5	○	
196	An	263.41	263.22	25	23	16	16.4	○	平面すり
197	An	263.32	263.09	34	27	18	23.2		
198	An	263.25	263.12	20	16	8	4.4	○	平面すり

環状列石礫データ(4)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
199	KAn	263.34	262.97	40	28	27	36.5		
200	An	263.31	262.99	35	22	20	20.7	○	
201	An	263.34	263.32	9	7	5	0.6		すり石　くぼみ石
202	An	263.46	263.13	47	27	21	44.5		平面すり
203	An	263.30	263.00	32	32	27	35.6		
204	An	263.35	263.08	32	24	18	24.1	○	
205	An	263.17	262.97	28	20	19	17.2		
206	KAn	263.21	262.98	36	18	16	14.6	○	
207	An	263.34	263.16	35	24	20	22.5		
208	An	263.34	263.06	47	28	23	34.0	○	
209	An	263.29	263.20	20	15	9	4.7		
210	Wt	263.09	262.96	28	22	15	6.4	○	2個体
211	An	263.09	263.02	36	26	19	16.4	○	
212	An	262.92	262.85	17	16	5	1.8		
213	Wt	262.91	262.87	14	10	4	0.7		
214	An	262.91	262.74	30	22	17	14.7		
215	An	263.02	262.84	34	17	11	9.1		
216	An	263.07	262.80	35	21	18	15.5		
217	An	263.11	262.93	22	22	15	11.7		
218	An	262.95	262.77	21	13	9	2.9		
219	Wt	264.46	264.25	28	26	11	5.2	○	
220	An	264.67	264.41	38	24	23	22.8		
221	An	264.33	264.12	31	26	12	10.6	○	
222	An	264.35	264.12	37	31	17	27.7		平面すり
223	An	264.56	264.30	50	37	20	31.2	○	
224	An	264.27	263.99	32	19	14	11.8		
225	Wt	264.31	264.07	39	29	20	25.0	○	
226	An	264.23	264.03	53	36	17	42.4		
227	Wt	264.36	264.12	50	32	16	24.0	○	すり石
228	An	264.19	263.97	16	7	6	0.8		
229	An	264.29	264.12	34	23	14	15.2	○	
230	Wt	264.27	264.16	21	14	6	2.0	○	
231	An	264.38	264.16	30	23	21	19.4		
232	An	264.30	264.07	31	27	23	27.0		
233	An	264.24	264.17	11	9	6	0.7	○	
234	An	264.42	274.12	40	36	27	41.6		
235	An	264.35	263.13	33	22	19	20.9	○	
236	An	264.23	264.12	22	15	10	3.0	○	
237	An	264.34	264.13	43	29	24	20.1		
238	An	264.32	264.11	31	21	19	15.1		
239	An	264.30	264.09	52	40	19	40.6		平面すり
240	An	264.14	263.97	29	20	14	12.4	○	
241	An	264.27	264.06	29	21	20	20.5		
242	An	264.17	263.98	51	31	13	24.3	○	
243	An	264.25	264.09	34	22	14	13.7		
244	KAn	264.01	263.82	48	35	20	29.7	○	
245	An	264.02	263.86	28	21	17	9.5	○	
246	An	263.98	263.88	21	20	8	4.8		
247	An	264.01	263.77	35	30	20	23.4		
248	An	264.10	263.86	35	27	21	20.0	○	
249	An	264.26	264.07	42	25	16	21.8		平面すり
250	APo	264.14	264.06	14	14	6	2.6	○	石棒
251	Wt	264.16	263.98	47	31	24	29.0	○	
252	An	263.98	263.76	27	18	15	10.5	○	
253	Wt	264.24	264.07	36	25	15	13.1	○	
254	An	264.03	263.81	28	25	18	20.1		平面すり
255	Wt	264.13	263.88	30	22	9	6.5	○	
256	An	264.00	263.87	24	10	10	4.1	○	平面すり
257	An	264.12	263.94	35	18	14	12.4	○	平面すり
258	An	264.04	263.91	27	19	12	7.2	○	平面すり
259	An	263.80	263.76	9	6	4	0.3		
260	An	263.82	263.76	12	8	5	0.6		すり石　くぼみ石
261	An	263.82	263.78	6	4	3	0.2	○	
262	An	263.82	263.74	9	8	6	0.5		
263	Wt	263.80	263.74	8	7	4	0.3	○	
264	Wt	263.82	263.79	10	7	3	0.2		

環状列石礫データ(5)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
265	Wt	263.84	263.81	7	5	3	0.1	○	
266	An	263.88	263.83	10	8	3	0.4		
267	Wt	263.85	263.80	10	8	4	0.3		
268	An	263.85	263.83	5	3	3	0.1		
269	An	263.86	263.79	10	8	6	0.6		
270	Wt	263.89	263.84	9	7	5	0.3	○	
271	Wt	264.01	263.93	13	13	6	1.4		
272	An	263.98	263.77	32	26	18	15.8		
273	An	263.92	263.71	42	31	18	24.6		
274	An	263.88	263.68	36	26	19	23.5	○	平面すり
275	An	263.78	263.65	34	23	10	9.5	○	平面すり
276	An	263.97	263.78	62	37	16	41.4	○	
277	An	264.03	263.81	28	24	20	17.4		くぼみ石
278	An	263.81	263.69	24	16	12	6.6	○	平面すり
279	An	263.58	263.49	16	14	10	1.6		
280	An	263.52	263.34	22	17	12	7.2		
281	Wt	263.51	263.37	20	15	13	4.0	○	
282	An	263.34	263.11	42	26	25	35.4	○	
283	An	263.26	263.05	43	31	20	30.0		
284	An	263.26	263.03	44	39	22	47.5		平面すり
285	An	263.24	263.10	41	29	18	22.5	○	
286	An	263.14	262.98	41	34	20	30.7	○	平面すり
287	An	263.36	263.07	54	31	25	55.5	○	
288	An	263.33	263.03	41	32	23	27.2		
289	An	263.21	263.03	41	30	12	15.6	○	平面すり
290	An	263.19	262.90	54	36	13	19.1		
291	An	263.13	262.83	52	35	20	36.1		
292	Wt	263.29	263.02	30	25	16	13.7	○	
293	An	263.16	262.87	40	38	22	29.6		
294	An	263.21	262.99	32	24	19	17.2		平面すり
295	Wt	263.08	262.80	37	30	18	24.4	○	
296	An	263.18	262.97	30	29	12	12.6	○	
297	An	263.11	262.92	38	30	15	13.0		
298	An	263.07	263.02	10	8	5	0.5	○	すり石　くぼみ石
299	An	263.21	262.97	35	26	19	21.6		
300	An	263.14	262.98	34	24	13	15.8	○	
301	KAn	263.08	262.93	45	30	14	28.6	○	
302	An	263.27	263.00	30	25	19	15.3	○	
303	An	263.01	262.93					○	
304	Wt	263.19	263.02	33	20	18	15.3	○	
305	An	263.14	262.96	33	23	18	17.6	○	
306	An	263.16	262.94	34	19	12	12.7	○	
307	An	262.97	262.93	6	7	5	2.5	○	
308	An								
309	KAn	262.89	262.69	40	25	18	25.9		
310	An								
311	An	263.27	263.12	24	18	13	8.2		
312	An	263.32	263.18	36	25	22	22.9		
313	An	262.95	262.71	36	30	21	28.6	○	
314	An	262.89	262.83	24	17	15	6.9	○	
315	Wt	263.00	262.70	43	34	14	27.8		
316	An	262.82	262.79						
317	An	262.94	262.84	24	21	9	3.4		
318	An	262.84	262.69	21	21	18	9.1		
319	An	262.86	262.75	42	22	12	8.2	○	
320	An	263.02	262.89	23	18	13	4.6	○	平面すり
321	Wt	263.04	262.95	10	9	6	0.5	○	
322	An	263.00	262.94	9	7	5	0.3		
323	Ch	263.11	263.03	16	11	8	1.8		
324	An							○	
325	An	264.38	264.22	32	24	10	8.1		
326	An	264.32	264.13	35	19	13	10.2	○	
327	An	264.43	264.18	44	22	21	31.1	○	
328	An	264.37	264.10	33	23	13	20.1		平面すり
329	An	264.32	264.14	28	27	14	11.9		
330	An	264.42	264.21	26	24	20	21.2		

環状列石礫データ(6)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
331	An	263.38	264.18	30	21	14	9.6		
332	Wt	264.24	264.13	27	23	10	6.1	○	
333	An	264.25	264.09	32	16	15	10.6	○	
334	An	264.33	264.12	29	29	16	12.7		多孔石
335	An	264.40	264.16	37	30	18	30.8		
336	Wt	264.44	264.21	47	30	20	34.6	○	
337	An	264.35	264.19	31	21	12	9.2		くぼみ石
338	An	264.28	264.11	30	20	18	13.7		
339	An	264.20	264.14	9	7	6	0.5		
340	An	264.16	264.11	14	12	4	0.7		
341	An	264.26	264.07	36	24	16	18.3		
342	An	264.32	264.08	38	29	17	25.3	○	
343	An							○	
344	An	264.26	264.15	15	15	9	2.0	○	
345	An	264.20	264.11	17	10	6	1.3		
346	Wt	264.48	264.32	39	35	14	22.8	○	平面すり
347	An	264.31	264.02	44	28	21	45.1		
348	Wt	263.97	263.90	11	10	8	0.9	○	
349	An	264.20	263.97	41	23	22	33.6	○	
350	An	264.34	264.15	29	18	18	12.4		平面すり
351	An	264.08	263.78	41	28	19	28.1	○	
352	An	264.39	264.11	32	29	21	25.2		
353	An	264.21	264.09	24	23	15	8.0		
354	An	264.23	264.01	41	30	15	27.9	○	
355	An	264.18	263.99	30	24	21	22.6		
356	An	264.24	264.17	19	15	8	2.0		
357	An	264.20	263.93	32	26	20	22.6		
358	An	264.12	264.06	21	14	5	1.3		
359		264.08	263.96	36	12	11	7.7		石棒
360	An	264.29	264.27	23	17	9	4.3	○	
361	Wt	263.98	263.90	16	10	8	0.9	○	
362	An	264.34	264.02	35	32	7	12.4	○	
363	An	264.33	264.16	46	34	15	37.6		平面すり
364	Wt	264.16	263.90	37	27	14	15.5	○	
365	An	264.11	263.90	27	25	20	12.2		
366	An	264.11	263.93	48	25	17	25.0	○	
367	An	263.93	263.76	26	26	9	22.4		
368	An	263.99	263.79	76	37	19	69.0	○	平面すり
369	An	264.02	263.99	9	6	3	0.2	○	
370	An	264.01	263.97	32	19	8	4.0		
371	An	263.90	263.82	20	17	8	2.8	○	
372	Wt	263.99	263.90	30	23	6	4.6	○	
373	Wt	263.87	263.82	11	8	6	0.4	○	
374	An	263.29	262.98	36	29	24	38.3	○	
375	KAn	263.14	262.93	32	22	10	8.5		
376	An	263.08	262.86	32	23	17	18.7		
377	KAn	263.00	262.82	52	33	15	26.1		
378	An	262.94	262.65	43	26	26	34.0	○	
379	An	263.12	262.93	34	28	20	25.2	○	
380	An	263.10	262.76	46	35	26	49.7	○	
381	An	263.24	262.95	31	23	16	16.0	○	
382	An	263.02	262.72	36	29	25	29.0		
383	An	263.19	262.95	36	34	14	20.5		
384	Wt	263.10	262.75	43	41	24	50.2	○	
385	An	263.32	263.15	34	20	18	14.5		くぼみ石
386	An	263.10	262.95	38	30	15	16.4	○	
387	An	262.96	262.93	10	8	4	0.3		
388	An	263.14	263.00	43	40	15	32.8	○	平面すり
389	Wt	263.07	262.98	19	17	6	2.6	○	
390	An	263.12	263.01	40	30	13	24.4		
391	An	263.15	262.97	23	20	14	6.8		
392	An	263.04	262.83	43	22	20	19.7		
393	Ch								
394	An	263.11	262.84	55	21	20	33.0	○	
395	An	262.80	262.67	16	13	5	1.2	○	
396	An	263.18	262.93	36	30	11	13.4		

環状列石礫データ(7)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
397	KAn	263.11	262.89	31	27	21	25.4	○	
398	An	263.08	262.80	52	42	15	35.0	○	
399	An	263.18	262.97	25	16	9	4.4	○	
400	An	263.15	262.91	29	22	19	15.0	○	
401	An	263.06	262.92	24	18	9	3.0		
402	An	263.03	262.83	36	24	16	17.5		
403	An	263.08	262.82	38	30	10	17.5	○	
404	An	263.08	262.88	33	22	16	13.6	○	平面すり
405	An	263.10	263.01	12	7	2	0.3		
406	An	263.20	263.06	16	13	6	1.0		
407	An	263.20	263.02	28	20	16	8.2	○	平面すり
408	An	263.04	262.85	32	23	18	14.4		
409	An	263.19	262.99	33	27	13	13.2	○	
410	Wt	263.18	262.93	39	23	9	10.2		
411	An	263.07	262.82	38	32	20	28.3		
412	An	263.15	262.76	46	37	31	53.6		
413	An	262.91	262.69	35	26	25	23.2	○	
414	An	262.84	262.62	30	24	14	9.2		
415	An	262.87	262.64	33	26	20	17.0		
416	An	262.79	262.61	33	32	17	16.1	○	
417	An	263.00	262.89	33	18	11	8.0	○	
418	KAn	262.82	262.64	30	20	17	8.9	○	
419	Wt	262.99	262.81	27	21	9	5.0		
420	An	263.03	262.82	32	27	23	27.3		
421	An	262.70	262.62	17	13	7	1.7	○	
422	An	262.70	262.58	23	20	13	5.3		
423	An	262.78	262.61	24	20	15	7.4	○	
424	KAn	262.87	262.65	43	26	13	19.5		平面すり
425	An	262.73	262.61	22	18	12	5.4		
426	An	262.65	262.58	18	15	7	2.2		
427	KAn	262.84	262.63	33	21	14	11.9		
428	An	262.74	262.59	23	19	14	7.2	○	
429	An	262.65	262.58					○	
430	An	262.85	262.77					○	
431	An	262.92	262.81	13	12	5	1.8		
432	An	262.89	262.60	35	33	30	29.7		
433	Wt	263.04	262.83	36	28	16	15.7	○	
434	Ch	262.99	262.88	9	8	5	0.5		
435	An	262.92	262.77	24	19	13	5.6	○	
436	An	262.74	262.44	42	24	18	24.1		
437	An	262.92	262.65	45	29	22	35.3		
438	An	262.92	262.71	34	30	22	29.7	○	
439	An	262.83	262.76	8	8	5	0.5		
440	An	262.83	262.71	14	12	11	2.2		
441	An	262.97	262.70	37	28	20	29.7		
442	An	262.89	262.53	41	26	18	25.9		
443	An	264.55	264.49	16	12	8	1.3		
444	An	264.52	264.32	36	27	22	28.0	○	
445	Tu	264.24	263.97	53	26	22	42.5		
446	An	264.32	264.25	20	10	4	0.7		
447	An	264.33		9	6	3	0.2		
448	An	264.19	264.01	25	13	14	7.5	○	
449	An	264.12	264.01	24	18	7	3.9	○	
450	An	264.41	264.21	35	21	19	14.4	○	
451	An	264.30	264.18	20	15	9	4.8	○	
452	An	264.21	264.01	36	23	17	21.9		
453	An	264.31	264.23	13	8	6	0.8	○	
454	An	264.37	264.17	30	21	21	19.0		平面すり
455	Wt	264.27	264.15	20	12	6	1.4	○	
456	An	264.29	263.98	30	21	18	9.4	○	
457	An	264.23	264.03	37	22	19	23.4		
458	An	264.12	263.96	28	23	10	8.7		
459	An	264.06	263.96	22	16	10	4.0		
460	An	264.17	264.00	29	21	14	11.6		
461	An	264.09	263.85	33	23	18	16.4		
462	An	263.96	263.75	40	32	22	33.8		

環状列石礫データ(8)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
463	An	264.09	263.96	29	22	11	8.8		
464	An	264.01	263.89	33	21	11	9.6		
465	An	264:17	264.11	9	6	1	0.1		
466	An	264.29	264.10	24	21	10	8.0		
467	An	264.23	264.00	29	22	19	19.3	○	
468	An	264.24	263.97	25	22	20	24.2	○	
469	An	264.16	263.88	33	28	19	24.1	○	
470	An	264.21	264.16	6	6	5	0.2		
471	An	264.20	264.03	28	18	12	5.5	○	
472	An	264.17	263.99	19	19	14	6.8	○	
473	An	264.13	263.91	43	28	16	29.0	○	
474	An	264.26	264.10	30	18	11	10.5		
475	An	264.15	263.98	31	28	16	16.5	○	
476									
477									
478									
479									
480									
481									
482									
483									
484									
485									
486	Wt	264.07	263.93	13	12	11	2.3	○	
487	An	264.28	264.08	32	16	14	13.5	○	
488	An	264.14	264.09	11	8	3	0.4	○	
489	An	264.12	263.90	24	18	11	10.1	○	
490	An	264.14	264.03	22	12	9	3.2	○	
491	An	263.99	263.82	24	19	12	6.8	○	
492	An	263.99	263.65	42	30	19	32.5		
493	An	263.99	263.86	16	14	12	3.6	○	
494	An	263.92	263.64	37	21	14	13.0		
495	Wt	264.38	263.91	49	28	15	25.4		
496	Wt	264.33	264.11	27	21	10	5.5	○	
497	An	264.26	264.17	15	11	9	1.9	○	
498	An	264.19	264.17	9	5	2	0.1		
499	An	264.20	264.16	10	5	3	0.2	○	
500	Wt	264.21	264.10	20	14	8	1.7	○	
501	An	264.20	264.15	9	7	5	0.3	○	
502	An	264.08	264.06	10	8	3	0.2	○	
503	Wt	264.24	264.12	15	13	10	1.8	○	
504	An	264.36	264.12	35	24	20	27.4		平面すり
505	An	264.22	264.17	24	16	5	1.5		
506	An	264.14	264.11	7	6	3	0.2		
507	An	264.13	263.76	46	25	20	37.0		
508	An	264.20	264.02	25	19	7	5.8	○	石皿
509	APo	264.29	264.15	17	14	13	5.3	○	石棒
510	An	263.84	263.64	28	17	14	11.2		
511	An	263.85	263.77	16	10	9	1.6	○	
512	An	263.86	263.63	33	21	20	20.2		
513	An	263.90	263.80	13	11	10	1.8		
514	Wt	264.12	263.96	30	18	10	7.1		
515	An	263.98	263.89	13	11	7	1.3		
516	An	264.06	263.79	48	29	18	40.8		
517	An	264.00	263.96	6	4	4	0.1		
518	An	263.96	263.76	29	22	18	16.4		
519	An	263.99	263.93	7	6	5	0.3	○	
520	An	264.09	264.03	16	16	4	1.2		
521	An	264.10	263.83	35	31	22	29.6		
522	An	264.00	263.87	30	24	12	12.4		
523	An	264.20	264.03	35	24	17	22.8		
524	An	264.07	263.93	18	14	12	5.4		
525	An	264.22	264.08	36	20	15	11.4	○	
526	An	264.16	263.98	47	36	15	40.4		
527	An	264.12	263.96	43	22	14	19.4		
528	Wt	264.01	263.95	11	9	5	0.5		

環状列石礫データ(9)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
529	An	264.13	263.87	41	28	19	33.0		くぼみ石
530	An	264.11	263.94	34	26	16	24.6	○	
531	An	264.02	263.97	11	8	5	0.5		すり石　くぼみ石
532	An	264.09	263.90	42	24	18	22.8		
533	An	263.98	263.94	15	8	4	0.6		
534	An	263.93	263.73	21	21	15	9.5		
535	Wt	264.06	263.91	36	23	17	15.0	○	くぼみ石
536	Wt	263.93	263.83	11	11	10	1.5	○	多孔石
537	An	263.94	263.86	16	12	4	0.9	○	
538	An	264.09	264.02	34	23	16	18.3	○	
539	An	264.07	263.97	35	19	13	10.8	○	
540	An	264.02	263.93	34	23	11	12.9	○	
541	An	264.10	264.02	35	18	17	11.9	○	
542	An	264.06	263.88	27	24	8	6.5	○	
543	An	263.92	263.69	25	20	13	9.3	○	
544	An	263.93	263.76	26	21	15	11.8		
545	Wt	263.81	263.58	39	23	14	20.7		
546	Wt	263.79	263.72	14	10	6	0.8	○	
547	An	264.01	263.71	24	23	18	14.5		
548	Wt	263.76	263.50	38	25	13	13.7		
549	Wt	263.81	263.78	18	12	12	4.1		
550	Wt	263.74	263.58	20	20	12	5.0		
551	An	263.84	263.63	39	26	12	18.1		
552	Wt	263.83	263.68	17	15	12	4.8	○	
553	Wt	263.75	263.63	14	12	11	2.5		
554	An	264.16	263.88	37	28	26	36.8		
555	An	263.94	263.79	27	25	14	10.8	○	
556	An	264.08	263.88	34	21	7	6.3		
557	An	264.08	263.70	65	30	17	43.5		
558	An	264.25	263.95	37	25	18	18.7		
559	An	264.11	263.90	39	30	22	29.4		
560	An	264.26	263.96	50	32	19	31.2		
561	An	264.04	263.83	33	22	18	16.2		
562	An	264.24	264.01	35	26	18	18.5		
563	Wt	264.15	263.94	45	29	19	32.2		
564	An	264.34	264.16	32	26	18	17.1	○	平面すり
565	An	264.19	263.96	43	31	16	31.8		
566	An	264.23	264.12	18	10	8	2.3		
567	Wt	264.11	263.95	29	18	11	4.5	○	
568	An	264.10	263.90	38	30	18	32.5	○	
569	An	264.00	263.81	26	23	18	16.1		
570	An	263.97	263.74	31	21	17	16.6		
571	An	263.95	263.66	42	40	20	48.5		
572	An	264.01	263.85	35	30	16	16.2		
573	KAn	264.09	263.83	39	19	20	19.5	○	
574	An	264.27	264.05	37	24	18	22.6		
575	Wt	264.26	264.11	31	26	24	11.1	○	
576	An	264.16	263.99	37	26	25	24.0	○	すり面
577	Wt	263.96	263.84	19	13	11	2.2	○	
578	An	264.15	264.08	38	32	15	25.2	○	
579	An	264.12	263.95	32	19	19	17.5		
580	Wt	264.20	264.00	22	20	19	12.2	○	
581	Wt	264.06	263.81	52	40	10	23.4		
582	Wt	264.26	264.05	51	25	23	25.1	○	
583	Wt	264.28	263.63	83	38	18	66.3	○	
584	An	264.02	263.88	24	19	16	25.0		
585	Wt	264.00	263.42	21	21	9	3.7		
586	An	263.86	263.75	18	15	2	0.7		
587	Wt							○	
588	Wt	263.95	263.73	33	17	11	8.2		
589	An	263.82	263.60	32	21	16	15.7		
590	An	263.69	263.55	36	24	8	8.0		
591	An	264.38	264.02	47	29	23	40.0		
592	An	264.32	264.07	32	24	21	20.8	○	
593	An	264.12	263.97	18	14	13	4.3		
594	An	264.14	263.90	33	22	18	24.5		

環状列石礫データ(10)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
595	An	264.08	263.96	12	11	9	1.4		
596	An	264.10	263.77	36	23	19	38.4		
597	Wt	264.01	263.95	10	5	4	0.3	○	
598	An	264.14	264.00	39	25	13	15.1		
599	An	264.26	264.09	40	29	17	26.5		
600	An	264.19	263.94	25	17	13	8.7		平面すり
601	KAn	264.12	263.88	36	25	19	25.1		
602	An	264.20	263.96	30	24	22	22.8		
603	An	264.11	263.90	44	38	17	33.8	○	
604	An	264.14	263.87	40	28	22	35.7	○	
605	An	263.92	263.88	11	8	4	0.5		
606	An	264.19	263.99	42	39	20	41.8		
607	An	264.03	263.81	37	30	14	20.6		
608	KAn	264.00	263.80	40	29	14	16.8		
609	An	264.04	263.85	27	21	15	8.8	○	
610	An	263.94	263.83	20	15	11	4.1	○	
611	An	263.89	263.77	30	21	10	9.5		
612	An	264.14	263.91	34	22	17	21.2	○	
613	An	264.07	263.76	38	34	30	40.5		
614	An	263.89	263.84	11	8	5	0.5		
615	An	264.04	263.84	35	23	23	22.0	○	
616	An	263.92	263.76	28	22	15	10.9	○	平面すり
617	Wt	263.87	263.74	21	18	13	4.4	○	
618	An	263.25	263.11	21	19	11	3.1		
619	An	263.27	263.13	29	24	15	19.8		
620	KAn	263.19	262.96	39	34	20	29.3	○	平面すり
621	An	263.14	262.98	33	19	13	11.4	○	
622	An	263.13	262.98	28	23	8	4.9		
623	KAn	263.15	262.94	29	22	15	11.0	○	
624	Wt	263.05	262.94	17	9	10	1.1	○	
625	An							○	
626	KAn	262.83	262.70	30	25	22	22.0	○	
627	An	263.09	262.97	44	23	21	27.0	○	
628	Wt	262.85	262.77	47	28	13	18.0	○	
629	An	262.94	262.79	32	22	16	14.9	○	
630	An	262.79	262.68	31	29	12	19.2	○	
631	An	262.69	262.66	14	9	3	0.4	○	
632	An	263.24	263.04	24	22	18	10.3		
633	An	263.28	263.12	19	19	13	4.6		
634	An	263.22	263.04	30	22	12	7.6	○	
635	An	263.23	263.04	38	24	19	21.0	○	
636	An	263.22	263.01	32	26	19	21.7	○	平面すり
637	An	263.26	263.03	28	21	11	8.1	○	
638	An	262.92	262.83	23	13	9	2.4	○	石皿
639	An	262.98	262.83	43	30	15	25.8		
640	An	262.79	262.75	11	10	5	0.4		
641	An	262.86	262.71	32	20	11	9.2	○	
642	An	262.86	262.68	30	18	16	12.5	○	
643	An	262.89	262.73	30	25	16	15.0	○	
644	An	262.84	262.76	19	16	9	2.2	○	
645	An	262.84	262.76	10	8	8	0.4		
646	An	262.84	262.74	25	22	11	6.0		
647	An	262.93	262.77	31	23	7	6.7		
648	An	262.91	262.80	29	19	10	6.9	○	くぼみ石
649	An	262.86	262.79	12	11	8	1.0		
650	KAn	262.92	262.76	37	22	13	15.5	○	
651	An	262.94	262.74	39	25	22	22.1		
652	An	262.89	262.70	33	23	20	21.6		
653	Wt	262.89	262.78	37	28	11	12.4	○	
654	An	263.01	262.87	24	24	15	8.6		
655	Wt	262.97	262.91	10	9	5	0.4		
656	An	263.11	262.89	31	25	17	16.7	○	平面すり
657	An	262.90	262.78	17	13	11	1.5		
658	An	262.89	262.84	12	10	5	0.6		
659	An	263.02	262.76	36	28	22	27.3		
660	An	262.91	262.80	34	25	11	12.5		

環状列石礫データ(11)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
661	An	262.97	262.81	29	22	12	10.4		
662	An	263.04	262.92	43	32	11	21.3	○	
663	An	263.10	262.75	46	34	15	33.5		平面すり
664	An	262.97	262.85	26	20	10	7.7		
665	An	262.95	262.88	18	8	6	0.9		
666	An	262.91	262.87	9	8	5	0.3		
667	An	263.04	262.91	17	12	9	2.2	○	
668	An	262.88	262.75	29	18	10	4.9		
669	An	263.14	262.93	24	20	19	13.6	○	
670	An	263.20	263.07	16	14	12	2.3		
671	An	263.11	262.82	48	43	20	42.0	○	
672	An	263.12	262.86	34	25	16	17.7		
673	An	263.16	262.87	39	28	19	23.2		平面すり
674	An	262.92	262.81	17	12	11	9.2	○	
675	An	263.10	262.83	40	34	16	27.4	○	平面すり
676	Wt	263.10	262.59	38	32	9	14.4		使用痕
677	An	263.04	262.79	29	29	11	9.5		
678	Wt	263.02	262.94	24	20	9	3.1		
679	An	263.09	262.87	29	20	13	10.6		
680	An	263.15	262.89	43	27	24	34.2		
681	Wt	263.14	262.98	42	34	16	26.2		
682	An	262.93	262.81	28	26	11	9.1	○	多孔石
683	An	262.86	262.67	36	27	13	18.0	○	
684	An	262.94	262.79	32	15	13	8.6		
685	Wt	262.95	262.71	47	46	15	30.5		
686	Wt	262.89	262.68	51	47	14	38.0		
687	Wt	262.95	262.72	56	29	18	27.8		
688	An	262.94	262.87	14	12	8	1.1		
689	An	262.86	262.63	30	29	13	10.1		
690	An	262.87	262.75	28	24	14	6.7	○	
691	Wt	262.92	262.78	29	20	9	4.5		
692	An	262.86	262.79	14	11	5	0.6		
693	An	262.81	262.70	21	12	9	2.5		
694	An	262.84	262.69	46	33	14	28.0		
695	An	262.64	262.57	10	8	4	0.3		すり石　くぼみ石
696	KAn	262.89	262.76	25	19	10	6.1	○	
697	An	263.01	262.69	36	34	14	27.0		平面すり
698	An	262.99	262.69	34	24	18	18.1	○	
699	An	262.92	262.77	25	19	14	7.6		
700	An	262.80	262.66	32	24	16	12.5		
701	An	262.92	262.72	36	25	20	18.7	○	
702	An	262.88	262.74	17	15	12	3.4	○	平面すり
703	An	262.85	262.65	24	20	15	9.3		
704	An	263.04	262.78	40	35	14	26.8	○	平面すり
705	An	263.23	263.06	33	25	22	26.5	○	
706	KAn	262.88	262.75	15	14	9	1.9	○	
707	An	262.97	262.73	39	25	25	29.4		
708	An	262.87	262.69	36	29	16	22.6	○	
709	An	262.13	262.92	37	27	17	18.4		
710	Wt	262.98	262.93	19	12	10	2.0		
711	KAn	263.00	262.75	34	16	15	9.4	○	
712	An	262.98	262.79	27	20	10	6.3	○	
713	An	263.09	262.85	30	30	15	13.8		
714	An	263.04	262.80	40	24	19	23.1	○	
715	An	262.92	262.63	40	31	22	32.0		平面すり
716	An	262.87	262.71	26	22	9	6.2		
717	An	262.91	262.80	41	30	28	24.2	○	
718	An	262.96	262.81	22	18	16	7.0	○	
719	An								
720	An	262.86	262.81	10	9	4	0.5		
721	An	262.95	262.90	13	7	6	0.7		すり石
722	KAn	262.95	262.87	20	17	9	2.3	○	723と同一個体
723	KAn	262.98	262.87	25	15	10	3.6	○	722と同一個体
724	An	262.99	262.89	15	11	9	1.4	○	
725	KAn	262.97	262.88	15	8	5	0.8	○	
726	An	262.96	262.78	40	30	17	28.2		

環状列石礫データ(12)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
727	An	262.92	262.71	61	22	22	38.8		
728	An	262.96	262.86	20	19	9	6.0	○	
729	An	262.93	262.83	21	11	10	2.5	○	
730	SS	262.88	262.86						
731	An	262.80	262.69	14	13	10	2.3	○	
732	An	263.02	262.95	11	9	5	0.4		
733	An	263.05	262.88	33	19	13	13.4		
734	Wt	263.02	262.82	50	30	15	27.2		
735	An	262.91	262.68	28	26	14	11.6		
736	An							○	
737	An	263.10	262.94	23	15	10	3.6	○	738と同一個体
738	An	263.16	262.94	33	30	9	8.0	○	737と同一個体
739	An	263.10	262.87	41	31	13	20.5		
740	An	263.04	262.79	35	31	13	18.1		
741	An	262.93	262.66	40	28	22	29.0		平面すり
742	An	262.84	262.76	9	8	7	0.3	○	
743	Wt	263.28	263.20	25	23	13	7.2	○	
744	An	263.09	263.06						
745	An	263.07	263.00					○	
746	An	263.22	263.02	36	30	13	15.5		747と同一個体
747	An	263.22	262.98	35	32	16	17.6		746と同一個体
748	An	263.06	263.00	10	7	7	0.4		
749	Ch	263.04	263.02	8	6	4	0.2		
750	An	263.05	262.98	10	7	4	0.3		
751	An	263.05	262.88	39	26	12	16.0		
752	An	262.95	262.80	18	15	8	1.8		
753	An	263.09	262.90						
754	An	263.24	262.93	36	17	16	13.5		
755	An	263.04		24	18	15	7.9		
756	KAn	263.16	262.99	23	18	9	5.9	○	平面すり
757	An	263.00	262.88	17	15	9	2.1		
758	An	263.01	262.87	18	18	10	2.2		
759	An	263.13	262.96	31	24	16	14.5	○	
760	KAn	263.04	262.92	26	21	7	5.0		
761	An	263.00	262.77	27	27	15	15.5	○	
762	An								
763	An	263.11	262.77	50	28	19	38.0	○	
764	Wt	263.06	262.78	41	28	20	31.0		
765	An	263.06	262.85	38	22	11	11.0		
766	An	262.92	262.79	16	14	8	2.8		767と同一個体
767	An	262.88	262.76	18	17	12	5.2		766と同一個体
768	An	262.94	262.79	28	21	15	12.8		
769	An	262.83	262.68	48	36	11	27.5		
770	An	263.14	263.32	38	28	17	26.0	○	
771	Wt	262.98	262.78	43	28	16	23.6		
772	An	262.83	262.66	35	25	17	20.2	○	
773	Wt	262.74	262.63	40	26	9	9.8		4個体
774	An	263.20	263.07	42	24	15	17.8		
775	An	263.08	262.92	40	34	11	17.5		
776	An	262.92	262.66	44	33	21	43.0	○	
777	An	263.20	263.00	24	21	10	6.4		
778	An	263.07	263.01	8	6	3	0.1		779と同一個体
779	An	263.06	263.01						778と同一個体
780	Wt	263.05	262.99	10	8	7	0.4		
781	An	263.02	262.99	7	6	2	0.1		
782	An	263.30	262.95	43	31	17	25.9		
783	An	263.17	262.91	32	23	16	16.9		
784	An	263.16	263.02	12	11	11	3.9	○	
785	KAn	263.00	262.85	36	34	10	14.1		
786	An	262.90	262.65	45	30	22	35.9	○	
787	An	263.21	262.93	33	28	20	27.4		
788									
789	An	263.10	262.87	46	28	17	23.4		
790	An	262.98	262.82	21	20	9	6.6		
791	An	263.05	262.94	14	13	9	1.5		
792	An	263.15	262.95	37	32	9	10.6	○	

環状列石礫データ(13)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
793	An	263.12	262.95	26	20	6	3.2	○	
794	An	263.02	262.97					○	
795	An	263.13	263.01	36	19	12	8.3		
796	An	263.10	262.95	24	19	9	3.4	○	
797	An	263.09	262.86	42	29	17	21.9	○	
798	An	262.99	262.87						
799	An	263.11	262.93	28	22	13	8.7	○	
800	An	263.04	262.80	36	28	19	18.0	○	
801	Wt	262.97	262.69	37	24	21	17.4	○	
802	Wt	262.85	262.65	27	20	13	5.4		
803	An	262.75	262.67					○	
804	An	262.87		36	25	18	24.5		
805	An	262.84	262.74	27	26	11	9.4	○	
806	An	262.83	262.71	17	16	7	1.7	○	
807	An	262.84	262.75	22	16	9	4.2		
808	An	262.81	262.72	24	16	6	2.1		くぼみ石
809	An	262.66	262.63					○	
810	KAn	262.70	262.64	28	23	6	5.1	○	
811	Wt	262.81	262.73					○	
812	An	262.86	262.76	19	14	8	2.8	○	
813	An	263.09	262.91	27	20	16	9.3	○	
814	An	263.04	262.92	35	17	9	5.6		
815	An	263.14	262.91	40	24	18	24.6	○	
816	KAn							○	
817	An	263.12	262.84	37	33	22	25.0	○	
818	An	263.00	262.82	34	26	10	11.3		
819	An	262.92	262.63	39	38	18	28.5	○	
820	An			12	9	5	0.9		すり石
821	An			11	10	7	0.8	○	
822	Wt	263.09	262.84	33	28	14	16.2		
823	An	263.01	262.90	13	7	5	0.5		
824	Wt	263.04	262.82	29	25	18	14.3		
825	An			38	24	17	18.8	○	
826	An	262.91	262.79	25	15	14	9.7		
827	An	263.13	262.89	36	27	15	16.9		
828	An	263.04	262.83	36	34	11	13.5		
829	An	263.00	262.79	32	24	12	9.5		
830	An	262.97	262.77	32	23	11	8.3		
831	An	262.88	262.63	38	28	24	32.3		
832	An	263.14	262.88	43	31	19	26.7	○	
833	KAn	263.02	262.83	31	30	11	13.2		
834	An	263.00	262.82	29	24	8	5.5		
835	Wt	262.97	262.77	38	22	9	10.3		
836	An	262.92	262.51	54	35	16	45.4		
837	An	262.65	262.61	28	13	10	6.4		
838	An	262.94	262.82	25	17	9	4.4		
839	Wt	262.91	262.85	10	9	5	0.4		
840	KAn	262.88	262.76	17	17	11	3.0	○	
841	An	263.12	262.88	41	29	13	22.1	○	
842	An	263.07	262.93	26	17	11	3.7		
843	An	263.03	262.95	14	9	4	0.6		すり石　くぼみ石
844	KAn	263.01	262.85	18	15	11	2.6	○	
845	An	263.02	262.83	36	32	11	12.3	○	
846	An	262.98	262.77	34	33	8	10.0		
847	An	262.94	262.79	35	17	10	8.7		
848	Wt	262.85	262.50	57	43	16	41.5	○	
849	Wt	262.68	262.57	18	17	8	1.8	○	
850	Wt	262.98	262.86	16	13	10	2.1	○	多孔石
851	An	262.97	262.85	14	11	10	1.8		
852	An	263.00	262.80	36	23	11	12.4		
853	An	262.85	262.77	13	11	6	0.7		
854	An	262.89	262.67	34	27	23	19.3		
855	SS	262.80	262.72	11	6	4	0.4		
856	Wt	263.04	262.83	26	24	10	5.9	○	
857	An	263.00	262.78	37	24	19	17.5		
858	An	262.92	262.76	23	21	9	5.0	○	

環状列石礫データ(14)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
859	Wt	262.87	262.52	57	41	13	35.2		
860	An	263.02	262.81	52	29	17	26.7		
861	An	262.94	262.80	26	23	6	4.3	○	
862	An	262.92	262.81	21	15	8	3.0	○	
863	KAn	263.02	262.85	45	30	15	18.5	○	平面すり
864	Wt	262.84	262.58	50	28	23	32.0		
865	An	262.64	262.58	12	12	8	0.9		
866	An	262.65	262.60	9	5	5	0.3		
867	An	262.92	262.57	54	50	13	41.2	○	
868	An	262.98	262.80	35	24	15	16.7		くぼみ石
869	An	262.94	262.63	48	41	20	32.6		
870	An	263.12	262.84	39	29	20	32.4		
871	An	262.89	262.81	18	10	9	1.5	○	
872	An	262.99	262.86	34	21	17	17.0	○	くぼみ石
873	Wt	262.90	262.85	20	10	7	1.4		
874	An	262.90	262.76	39	24	15	19.5	○	
875	An	262.83	262.67	17	16	10	3.6		
876	An	262.84	262.71	17	13	12	2.7		
877	An	262.57	262.36	29	22	14	8.2		
878	An	262.64	262.57	17	11	6	1.2		
879	An	262.69	262.58	14	10	7	1.5		平面すり
880	An	262.61	262.56	34	18	15	9.1		
881	An	262.63	262.55	37	22	19	21.4		
882	An	262.87	262.69	35	28	14	16.3		
883	An	262.71	262.65	27	22	11	9.1	○	
884	An	262.79	262.61	55	51	16	31.6	○	
885	KAn	262.89	262.74	39	31	9	12.3		
886	An	262.70	262.64	32	25	5	4.8	○	
887	An	262.59	262.52	12	7	6	0.5	○	
888	An			23	18	15	9.6	○	
889	An	262.63	262.51	38	24	12	13.5		
890	An	263.06	262.79	25	18	13	9.9		
891	An	262.93	262.79	22	13	11	4.5		
892	An	262.97	262.75	28	20	18	17.0		
893	An	262.88	262.61	39	28	18	27.2	○	
894	An	262.90	262.76	18	13	8	1.8		
895	An	262.94	262.76	21	14	8	3.3		
896	An	262.85	262.77	17	10	6	1.4	○	
897	An	262.95	262.72	34	20	19	17.2		
898	An	262.97	262.67	47	40	21	33.0		
899	An	263.06	262.78	40	31	18	32.7		
900	An	262.91	262.79	27	20	11	7.5		
901	KAn	262.91	262.74	31	24	14	10.5		
902	An	262.85	262.64	43	29	18	28.0		
903	KAn	262.79	262.69	20	12	10	2.9	○	
904	An	262.96	262.81	32	28	11	17.5	○	
905	An	262.87	262.75	41	22	13	14.0	○	
906	An	262.78	262.63	41	35	14	28.0		平面すり
907	An	262.88	262.80	18	14	9	2.3	○	
908	An	262.91	262.72	33	25	16	17.8		
909	An	263.02	262.81	36	20	13	11.0	○	平面すり
910	An	263.04	262.75	39	26	11	16.1	○	平面すり
911	An	263.00	262.74	29	25	17	17.6	○	
912	An	262.87	262.81	40	39	15	33.5		
913	An	262.89	262.76	16	14	9	2.4		
914	An	262.93	262.62						
915	Wt							○	
916	Wt	262.99	262.77	41	25	13	15.7		
917	Wt	262.85	262.57	62	37	19	63.6		
918	An	262.79	262.69	33	22	17	11.5		
919	An	262.78	262.63	41	38	16	27.7		
920		262.55	262.51						
921	An	264.23	264.06	33	25	13	13.3		
922	An	264.26	264.07	37	31	14	18.4		
923	An	264.16	263.98	35	27	18	11.3	○	
924	An	264.20	264.16	7	4	4	0.2		

環状列石礫データ(15)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
925	An	264.27	264.17	29	27	10	9.3		
926	An	264.25	263.98	38	25	24	26.6		
927	An	264.06	263.91	27	21	13	10.4		平面すり
928	An	264.10	263.90	28	23	19	18.2		平面すり
929	An	264.25	264.05	38	23	17	20.5	○	
930	An	264.21	263.97	43	29	14	21.1	○	
931	An	263.81	263.58	29	27	15	12.8		
932	An								
933	An							○	石皿？
934	An	263.85	263.69	27	23	14	9.7		
935	An	263.96	263.80	32	32	7	7.7	○	
936	An	263.84	263.63	31	26	24	20.1		
937	An	263.11	262.98	28	20	14	9.9		平面すり
938	Wt	263.19	262.93	60	38	23	48.2	○	
939	Wt	263.08	262.94	21	16	10	5.1	○	
940	An	263.23	263.05	31	24	20	17.3	○	
941	An	262.93	262.78	38	25	18	15.4	○	
942	KAn	263.00	262.95	17	14	5	1.1		
943	An	262.99	262.84	27	19	12	1.4		
944	An	263.05	262.97	25	15	7	3.1		
945	Wt	262.92	262.81						
946	An	262.89	262.84	33	33	13	15.2		
947	An	262.92	262.85	16	15	7	1.5		
948	An	262.85	262.71	37	12	12	8.1		
949	An	262.96	262.85	27	25	8	6.5	○	
950	An	262.91	262.84	16	13	7	2.0		石皿　くぼみ(裏)
951	An	262.83	262.78					○	
952	An	262.81	262.71	21	12	7	2.2	○	
953	An								
954	An	262.72	262.66	11	8	6	1.0	○	
955	An	262.64	262.63	12	8	7	0.8	○	
956	An	262.77	262.60	29	19	9	5.6	○	
957	An	262.73	262.60	20	20	11	4.7		
958	An	262.71	262.55	17	17	9	3.8	○	
959	KAn	262.75	262.66	23	12	8	2.2		
960	An	262.73	262.61	27	20	13	9.9		
961	An	262.61	262.52	16	13	7	2.1		平面すり
962	Wt	262.69	262.58	26	23	14	12.8		
963	SS	262.56	262.48	14	9	9	1.0		
964	An	262.62	262.47	42	25	19	20.0		
965	An	262.51	262.40	22	17	10	4.1		
966	An	262.46	262.35	14	13	9	2.1	○	
967	An	262.46	262.34	29	28	5	7.6		平面すり
968	An	262.40	262.23	19	15	14	6.7		平面すり
969	An	262.28	262.25	6	5	3	0.2		
970	An	262.38	262.33	32	21	14	10.7	○	
971	An	262.42	262.34	35	26	19	16.9	○	
972	An	264.23	264.06	33	25	13	13.3		
973	An	264.26	264.07	37	31	14	18.4		
974	An	264.16	263.98	35	27	18	11.3	○	
975	An	264.20	264.16	7	4	4	0.2		
976	An	264.27	264.17	29	27	10	9.3		
977	An	264.25	263.98	38	25	24	26.6		
978	An	264.06	263.91	27	21	13	10.4		平面すり
979	An	264.10	263.90	28	23	19	18.2		平面すり
980	An	264.25	264.05	38	23	17	20.5	○	
981	An	264.21	263.97	43	29	14	21.1	○	
982	An	263.81	263.58	29	27	15	12.8		
983	An			33	26	20	14.3		
984	An							○	石皿？
985	An	263.85	263.69	27	23	14	9.7		
986	An	263.96	263.80	32	32	7	7.7	○	
987	An	263.84	263.63	31	26	24	20.1		
988	An	263.90	263.72	34	24	13	10.8	○	
989	An	263.74	263.64	36	27	10	13.0		
990	An	263.94	263.81	28	23	14	8.5		

環状列石礫データ(16)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
991	An	263.85	263.72	24	18	16	6.1	○	くぼみ石
992	Wt	263.68	263.48	33	22	12	13.7	○	
993	KAn	263.73	263.50	30	18	8	7.2		
994	An	263.66	263.57	17	17	8	4.0		
995	An	263.65	263.53	35	24	10	17.5	○	
996	An	263.68	263.44	33	25	15	15.8	○	
997	An	263.68	263.54	29	25	11	10.5		
998	An	263.69	263.53	33	26	20	14.3		
999	An							○	
1000	An	263.62	263.56	10	9	6	0.8		
1001	An	263.58	263.55	10	8	2	0.2		
1002	An	263.65	263.57	23	18	8	3.5	○	
1003	KAn							○	
1004	An	263.50	263.57	8	5	3	0.2		
1005	An							○	
1006	KAn	263.71	263.61	25	11	7	2.8		
1007	An	263.72	263.62	17	12	10	2.8		
1008	An	263.75	263.55	32	23	16	11.8		
1009	An	263.85	263.67	34	29	17	15.1		平面すり
1010	An	263.80	263.54	34	21	18	16.7		
1011	An							○	
1012	An	263.64	263.57	22	14	7	2.7		
1013	An	263.88	263.66	33	28	18	20.8		
1014	An	263.67	263.52	31	19	15	14.2		
1015	An	263.72	263.62	14	11	11	1.7	○	
1016	An	263.67	263.38	38	28	19	21.0	○	
1017	An	263.74	263.58	31	30	14	14.5		
1018	Wt	263.62	263.52	22	14	8	2.6		
1019	An	263.74	263.58	28	23	10	9.2		
1020	An	263.72	263.57	43	29	18	20.3	○	
1021	An	263.60	263.36	25	16	13	8.4	○	
1022	An	263.59	263.54	10	8	3	0.3		
1023	An	263.60	263.50	21	17	4	1.9		
1024	An	263.68	263.51	38	29	10	12.1	○	
1025	An	263.70	263.51	31	30	12	10.5		
1026	An	263.63	263.41	45	28	12	16.9		
1027	An	263.67	263.36	55	43	15	62.7	○	
1028	An								
1029	An	263.57	263.41	17	12	12	3.5		
1030	An	263.53	263.49	9	8	1	0.2		
1031	An	263.61	263.42	25	18	10	6.5		
1032	An	263.57	263.52	10	6	3	0.2		
1033	An							○	
1034	KAn	263.63	263.47	46	25	20	18.8	○	
1035	An	263.67	263.46	31	26	10	11.5		
1036	An	263.66	263.48	49	31	19	34.5		
1037	An	263.51	263.31	48	27	21	35.4		
1038	An	263.51	263.33	33	23	15	14.0	○	
1039	Wt							○	
1040	An	263.55	263.48	11	7	3	0.7		
1041	An	263.67	263.54	35	21	16	15.7		
1042	An	263.68	263.50	42	29	18	27.7		
1043	An	263.60	263.36	36	33	14	23.6		
1044	An	263.55	263.43	22	14	6	2.0		
1045	An	263.07	263.57	37	37	14	18.1	○	平面すり
1046	An	263.79	263.62	27	25	15	12.7	○	
1047	An	263.37	263.33	14	9	4	0.6	○	
1048	An							○	
1049	An			14	11	5	1.0	○	
1050	An	263.65	263.44	42	28	28	36.5		
1051	An							○	
1052	An	263.62	263.52	33	20	14	14.4	○	
1053	Wt	263.67	261.56	36	22	15	17.4	○	
1054	KAn	263.53	263.46					○	
1055	An	263.47	263.40	12	9	8	0.9	○	
1056	An	263.49	263.44	38	32	12	17.5	○	

環状列石礫データ(17)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1057	An	263.51	263.42	30	24	9	7.7	○	多孔石
1058	Wt	262.81	262.63	29	23	17	11.7		
1059	An	262.61	262.46	27	20	14	10.3		
1060	An	262.58	262.45	23	17	14	6.6		
1061	An	262.54	262.39	32	17	16	8.9	○	くぼみ石
1062	An	262.48	262.40	27	18	9	6.2	○	
1063	An	262.44	262.37	14	7	5	0.4		
1064	Wt	262.36	262.30	8	8	6	0.5		
1065	An	262.61	262.43	44	32	16	15.0		
1066	An	262.64	262.55	20	11	10	2.7		
1067	An	262.37	262.29	19	14	7	1.5		
1068	An	263.27	263.10	47	33	20	25.2		
1069	An	263.15	262.90	48	36	27	34.7	○	
1070	An	263.05	262.88	25	17	10	5.0		
1071	An	263.10	262.86	40	25	21	27.1	○	
1072	An	263.14	263.01	20	14	12	4.8		くぼみ石
1073	An	263.13	263.00	19	13	7	2.0		
1074	An	263.14	263.03	14	12	10	1.6		
1075	An	263.12	262.93	37	22	17	22.5		
1076	An	263.17	262.85	47	37	19	40.2		
1077	An	263.19	262.96	52	23	21	22.9		
1078	KAn	263.12	263.01	16	10	8	1.4		
1079	An	263.14	262.87	50	28	25	45.7	○	
1080	An	263.18	263.02	25	23	10	10.3		平面すり
1081	An	263.08	263.01	12	9	8	1.2		
1082	An	263.20	262.97	35	26	24	30.4		
1083	An	263.04	262.92	17	13	12	4.4	○	
1084	KAn	263.07	262.88	23	17	13	6.8		
1085	Wt	263.14	262.99	17	17	10	4.5		
1086	An	263.07	262.92	27	14	13	6.1		
1087	An	263.11	262.93	35	18	13	11.1		
1088									
1089	An	263.04	262.91	32	21	12	9.1	○	
1090	An	262.92	262.77	32	22	15	12.5		
1091	An	263.00	262.82	38	25	18	18.7		
1092	An	263.00	262.77	32	24	15	11.9		
1093	Wt							○	炉石
1094	Wt							○	炉石
1095	Wt							○	炉石
1096	An	262.82	262.58	27	15	11	4.6		
1097	An	262.77	262.72	12	9	6	0.4		
1098	An	262.95	262.72	26	20	13	10.2		
1099	An	262.95	262.68	30	25	17	19.9		
1100	An	262.97	262.74	35	28	24	19.7		
1101	An	262.96	262.70	30	24	20	15.9		
1102	An	262.85	262.69	19	17	13	6.6		
1103	An	262.79	262.67	30	22	12	9.5		多孔石
1104	Wt	262.92	262.73	21	21	11	6.4	○	
1105	An	262.93	262.87	11	7	5	0.4		
1106	An	262.89	262.67	34	21	20	20.3	○	
1107	An	263.00	262.64	46	39	20	49.2		平石
1108	An	262.88	262.63	40	26	20	22.0		
1109	An	262.81	262.68	24	19	17	7.5		
1110	An	262.80	262.63	24	15	13	5.5		
1111	An	262.75	262.62	30	20	12	7.7	○	
1112	An	262.86	262.63	31	26	20	24.0		
1113	An	262.58	262.27	50	36	15	29.8	○	
1114	An	262.58	262.45	22	15	5	1.5		
1115	An	262.63	262.48	23	17	13	6.8	○	多孔石
1116	An	262.62	262.54	16	12	8	1.2		
1117	An	262.67	262.55	19	14	13	3.7	○	
1118	An	262.70	262.54	21	18	10	8.6		
1119	An	262.62	262.53	14	13	11	2.7		
1120	An	262.63	262.56	8	8	8	10.0		
1121	SS	262.65	262.60	10	8	8	0.1		
1122	An	262.64	262.59	32	19	7	4.2		

環状列石礫データ(18)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1123	An	262.71	262.54	30	18	18	10.6		
1124	An	262.69	262.51	26	21	19	13.9		
1125	An	262.71	262.59	21	15	10	3.4		平面すり
1126	Wt	262.69	262.56	30	21	10	6.5		
1127	An	262.62	262.57	11	9	6	0.5		
1128	An	262.60	262.56	9	8	4	0.3		
1129	An	262.58	262.35	31	20	20	13.9		
1130	An	262.64	262.51	16	15	13	4.6		
1131	SS	262.57	262.52	10	8	6	0.6		
1132	An	262.67	262.54	35	20	15	6.5	○	
1133	An	262.57	262.52	10	7	4	0.3		
1134	Wt	262.49	262.43	14	12	6	0.9		
1135	Wt	262.47	262.34	21	16	10	3.9		
1136	An	262.44	262.40	12	10	5	0.3		
1137	An	262.48	262.42	16	16	7	2.0		
1138	An	262.48	262.33	53	37	12	14.2		平面
1139	An	262.42	262.32	12	10	10	1.5		
1140	An	262.52	262.31	29	23	13	8.7		
1141	An	262.54	262.33	40	21	17	14.3		
1142	Wt	262.49	262.41	22	19	7	3.9	○	
1143	An	262.39	262.35	12	7	5	0.3		
1144	An								
1145	An	262.39	262.22	39	19	15	12.1		石皿
1146	An	262.27	262.21	10	9	6	0.7		
1147	An								
1148	An	262.34	262.30	6	6	5	0.2		すり石
1149	An	263.15	262.88	40	30	15	35.5	○	
1150	An	263.02	262.90	20	13	8	2.8		
1151	An	263.15	263.07	27	25	9	6.1		
1152	An	263.07	262.90	34	33	14	33.6	○	
1153	KAn	263.08	262.92	36	34	18	21.7		
1154	KAn	262.91	262.84	10	7	7	0.6		
1155	An	262.95	262.79	23	15	6	2.7		
1156	An	262.84	262.69	22	16	16	8.3		
1157	An	263.01	262.75	33	25	22	31.0		
1158	An	263.12	262.93	22	17	15	8.6		
1159	An	263.05	262.81	42	34	22	36.0		
1160	An	263.21	262.92	32	30	18	27.6	○	
1161	An	262.99	262.81	27	20	12	10.0		
1162	An	263.21	262.82	40	31	30	46.6		
1163	An	263.19	262.94	48	40	20	48.2		
1164	An	263.10	263.01	12	10	3	0.6		
1165	An	263.23	263.05	21	19	17	7.5		
1166	APo	263.06	263.01	9	7	5	0.3		くぼみ石
1167	An	263.19	263.00	20	15	12	6.1	○	多孔石
1168	An	263.06	263.00	11	9	5	0.6		
1169	An	263.09	262.91	40	36	13	24.2		
1170	An	263.04	262.97	18	18	7	3.6		平面すり　くぼみ石
1171	An	263.01	262.83	33	21	13	10.9		
1172	An	262.98	262.76	36	27	17	19.0		
1173	An	262.90	262.68	29	17	17	14.2		
1174	An	262.92	262.87	10	7	4	0.4		
1175	An	263.20	263.04	27	18	16	9.4		
1176	An	263.21	262.97	32	25	22	26.5	○	
1177	KAn	263.15	262.91	45	21	20	15.9	○	
1178	An	263.14	262.83	45	42	21	35.4		
1179	An	263.09	263.07	15	8	4	0.5		
1180	An	263.20	263.06	16	15	12	2.9		
1181	An	263.16	262.97	32	27	19	23.2		
1182	An	263.11	263.01	16	15	9	2.6		
1183	KAn	263.21	262.92	47	32	23	50.4	○	
1184	An	263.19	262.96	32	20	21	19.5		
1185	An	263.23	263.05	28	18	13	9.5		
1186	An	263.24	262.99	36	27	20	27.2		
1187	An	262.99	262.81	23	20	13	7.5		
1188	An	263.17	263.11	12	12	6	1.1	○	

環状列石礫データ(19)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1189	An	263.08	262.96	24	19	12	6.6		
1190	Wt								
1191	An	262.81	262.70	23	17	14	6.6		
1192	An	262.82	262.68	24	11	9	3.5		
1193	An	262.71	262.57	23	17	16	7.2		
1194	An	262.84	262.70	33	20	12	7.5		
1195	An	262.73	262.62	19	15	13	5.0		
1196	An	262.79	262.64	23	17	12	7.6		平石
1197	An	262.87	262.72	18	14	14	5.8	○	
1198	An	262.73	262.70	8	7	3	0.2		
1199	An	262.74	262.61	25	16	11	7.3		
1200	An	262.86	262.73	28	25	14	14.9		
1201	KAn	262.87	262.79	39	35	9	13.0		平面すり
1202	An	262.72	262.60	22	21	18	10.0	○	
1203	An	262.82	262.65	28	19	16	11.5	○	
1204	KAn	262.72	262.65	11	9	7	1.2	○	
1205	An	262.87	262.70	32	24	17	16.2		
1206	An	262.73	262.66	10	8	6	0.8		
1207	An	262.81	262.54	25	19	17	11.2	○	
1208	An	262.71	262.50	37	25	22	18.3		
1209	An	262.65	262.57	29	14	6	3.0		
1210	An	262.70	262.53	21	13	12	4.4		
1211	An	262.71	262.61	19	16	9	4.5		
1212	Wt	262.68	262.50	27	17	11	5.0		
1213	An	262.72	262.57	26	21	18	12.5	○	
1214	An	262.60	262.49	23	15	15	5.0		
1215	An	262.76	262.63	31	23	13	10.7		
1216	An	262.70	262.55	28	24	12	12.2		
1217	An	262.67	262.57	11	10	9	1.2		
1218	An	262.66	262.54	15	11	10	1.9		
1219	Wt	262.60	262.55	16	12	6	0.8		
1220	An	262.75	262.55	30	27	16	14.6	○	
1221	An	262.72	262.53	24	20	20	15.3	○	
1222	An	262.60	262.45	28	15	15	7.4		
1223	An	262.73	262.61	30	18	12	10.7		
1224	Wt	262.61	262.54	13	12	8	1.0		
1225	An	262.62	262.50	17	13	11	3.7		
1226	An	262.57	262.44	22	15	11	2.9		
1227	An	262.56	262.53	14	12	5	0.8		
1228	An	262.66	262.52	26	22	14	6.8		
1229	An	262.57	262.49	14	13	10	2.9		
1230	An	262.57	262.49	11	8	7	0.5	○	
1231	An	262.60	262.52	20	15	10	3.3		
1232	Wt	262.56	262.50	15	10	7	0.8		多孔石　石皿
1233	Wt	262.57	262.44	25	24	11	7.4		
1234	Wt	262.56	262.43	22	15	8	2.1		
1235	An	262.60	262.51	20	19	8	4.0		
1236	An	262.65	262.49	24	21	12	9.6		
1237	An	262.58	262.46	20	13	11	3.3		
1238	An	262.53	262.41	29	21	13	10.6		
1239	An	262.52	262.45	9	9	6	0.6		すり石
1240	An	262.60	262.48	37	24	13	9.3		
1241	An	262.50	262.32	20	15	8	3.8		
1242	An	262.56	262.45	27	18	13	9.1		
1243	Ch	262.51	262.47	19	8	4	0.5		
1244	An	262.49	262.46	11	6	4	0.3		
1245	An	262.60	262.45	23	19	13	7.7		
1246	An	262.47	262.39	23	13	9	2.5		
1247	An	262.67	262.60	15	14	7	2.0	○	
1248	An	262.60	262.44	20	13	12	4.7		
1249	An	262.44	262.40	20	17	5	1.9		石皿
1250	An	262.48	262.39	18	11	10	1.8		多孔石
1251	An	262.44	262.39	8	6	5	0.2		
1252	An	262.43	262.40	12	7	4	0.4		砥石
1253	An							○	炉石
1254	An							○	炉石

環状列石礫データ(20)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1255	An							○	炉石
1256	An							○	炉石
1257	An	262.42	262.33	14	12	11	1.2		
1258	An	262.47	262.40	29	20	8	7.4		
1259	An	262.39	262.27	18	17	15	3.7		
1260	An	262.50	262.35	70	48	13	51.4		平石
1261	An	262.45	262.10	23	14	14	9.9		
1262	An	262.35	262.31	12	9	5	0.4		
1263	An	262.50	262.36	18	17	12	6.0		平面すり
1264	An	262.36	262.33	12	11	3	0.4		
1265	An	262.47	262.30	21	21	16	8.3		
1266	An	262.40	262.31	15	12	10	2.0		
1267	An	262.43	262.31	20	16	10	3.6		
1268	An	262.50	262.30	28	22	17	9.7		1269同一個体
1269	An	262.35	262.26	1268と同一	1268と同一	1268と同一	1268と同一		1268同一個体
1270	An	262.29	262.18	11	11	9	1.3		
1271	An	261.91	261.86	11	9	5	0.7		
1272	An	261.91	261.85	11	9	6	0.6		
1273	An	261.43	261.57	34	27	14	12.5		
1274	An	261.94	261.88	11	8.5	5.5	0.6		くぼみ石
1275	An	261.94	261.86	14	11.5	7.5	1.2	○	
1276	An	261.71	261.58	23	18	14	7.7	○	
1277	An			18	12	4	0.9	○	
1278	An			7	7	3	0.2	○	
1279	SS			15	8	6	1.1	○	
1280	An			43	25	7	12.4	○	
1281	An			22	15	3	2.0	○	
1282	KAn			17	10	7	1.4	○	
1283	An			17	16	3	0.7	○	
1284	An	262.23	262.03	26	25	18	9.1	○	多孔石
1285	An	262.19	262.11						
1286	An	262.00	261.94	12	7.5	5.5	0.6	○	
1287	An	262.16	262.05	20	10	10	1.9	○	
1288	An	262.03	261.91	18	10	11	1.7	○	
1289	APo	261.97	261.94					○	石棒
1290	An	262.05	261.96	16	12	9	1.8	○	
1291	An	261.98	261.94					○	
1292	An	262.00	261.91					○	
1293	An	261.78	261.66	32	25	11	14.9	○	
1294	An	261.77	261.69	16	13	10	2.2		
1295	An							○	
1296	An							○	2個体
1297	An							○	平石
1298	An							○	
1299	An							○	
1300	An							○	
1301	An							○	
1302	An							○	
1303	An							○	
1304	APo								炉石　石棒
1305	An								炉石
1306	An							○	炉石
1307	An								炉石　4個体
1308	An							○	
1309	An							○	
1310	Ch								
1311	An							○	台石
1312	An								
1313	Ch							○	
1314	Wt							○	
1315	An							○	
1316	An								
1317	An								
1318	SS								
1319	An								
1320	An							○	

環状列石礫データ(21)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1321	An							○	
1322	An							○	
1323	An								
1324	An								
1325	An							○	台　平面
1326	An							○	
1327	An							○	
1328	Wt							○	
1329	An								
1330	Tu	262.40	262.21	42	27	23	33.3	○	くぼみ　平台石
1331	An	262.23	262.20					○	
1332	An	262.23	262.15	32	25	10	10.8	○	
1333	An	262.03	261.86	30	27	10	8.6	○	
1334	Wt	261.98	261.89	30	23	14	10.5	○	くぼみ石　平面
1335	Wt	262.07	261.92	47	22	16	15.9	○	
1336	Wt	262.14	261.88	43	34	18	23.6	○	
1337	An	262.08	261.74	40	24	19	23.0		平面
1338	An	262.02	261.90	17	16	12	7.2		
1339	Wt	262.09	261.90	40	28	15	19.7	○	
1340	An	262.02	261.87	46	23	14	18.6		
1341	An	262.00	261.81	41	23	21	25.0	○	くぼみ石
1342	An	262.04	261.90	16	15	15	13.0		くぼみ石　平面
1343	An	262.21	262.05	25	22	17	12.6		
1344	An	262.06	261.90	30	20	14	9.0	○	
1345	An	262.04	261.89	28	18	16	10.5		
1346	Wt	262.02	261.82	50	33	18	28.2	○	
1347	An	262.06	261.77	43	27	19	36.6		
1348	An	262.03	261.83	38	26	21	30.0	○	
1349	An	262.04	261.78	35	23	20	26.1		平石
1350	An	262.03	261.80	38	27	16	21.1		
1351	An	262.18	261.74	47	39	15	39.4		立石
1352	An	261.98	261.92	20	17	5	3.3	○	
1353	Wt	261.97	261.91	16	13	5	1.2	○	
1354	An			10	6			○	
1355	An	262.04	261.86	29	24	11	11.0	○	
1356	Wt	262.01	261.82	33	21	19	19.0	○	くぼみ石　平面
1357	An	262.00	261.73	41	32	17	18.5	○	
1358	An	261.99	261.79	42	22	11	11.7	○	
1359	An	262.03	261.84	29	21	20	15.4	○	多孔石
1360	An	261.97	261.83	20	8	8	1.4	○	
1361	An	261.99	261.71	33	30	21	28.3	○	
1362	Wt	262.12	262.00	28	23	12	8.5	○	
1363	An	262.01	261.83	24	20	19	12.1	○	
1364	Wt	261.98	261.82	29	16	12	6.5	○	
1365	An	262.06	261.75	42	30	19	34.5		
1366	An	262.00	261.84	28	21	17	11.5	○	
1367	An			11	8			○	
1368	An	262.02	261.85	24	21	19	14.0	○	
1369	An			13	10			○	
1370	An	262.17	261.90	27	24	22	19.9	○	
1371	An	261.99	261.81	25	20	20	13.8	○	
1372	An	261.96	261.74	36	20	17	17.1	○	
1373	An	262.08	261.80	39	23	21	23.5	○	
1374	An	261.93	261.75	31	26	19	18.4	○	
1375	An	261.92	261.73	31	23	18	7.6	○	
1376	An	261.98	261.77	3	28	21	23.2	○	
1377	Wt	261.91	261.74	43	39	13	22.6	○	くぼみ石　平面
1378	An	261.88	261.67	26	20	15	8.6	○	
1379	An	261.72	261.67	11	8	7	0.7		
1380	An	261.74	261.67	9	5	4	0.2	○	
1381	An	261.86	261.70	29	23	17	14.2	○	
1382	An	261.87	261.74	26	18	1	7.4	○	多孔石
1383	An	261.92	261.86						すり石
1384	An	261.84	261.70	22	17	14	7.0	○	
1385	An	261.75	261.67	13	12	6	1.3	○	
1386	An	261.82	261.70	28	18	12	7.5	○	

環状列石礫データ(22)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1387	An	261.86	261.72	41	29	13	21.5	○	
1388	An	261.78	261.65	17	14	9	2.2	○	
1389	An	261.92	261.67	34	23	19	18.8		
1390	An	261.91	261.61	38	28	19	12.6	○	
1391	An	261.89	261.63	32	26	17	16.0	○	
1392	An	261.90	261.74	31	26	16	13.4	○	
1393	An	261.88	261.69	35	21	16	13.7		
1394	An	261.95	261.75	27	21	13	7.2	○	
1395	An	261.93	261.73	50	28	19	34.6	○	
1396	An	261.95	261.70	36	26	23	29.6	○	
1397	An	261.84	261.76					○	
1398	An	261.84	261.70	35	23	18	15.8		
1399	An	261.77	261.64	30	21	17	7.8	○	
1400	An	261.80	261.73	23	16	14	5.0	○	
1401	An	261.74	261.67	34	24	11	9.5	○	
1402	An	262.91	262.81					○	
1403	An	262.92	262.80	26	23	12	8.6		
1404	An	262.85	262.75	17	12	7	1.3	○	
1405	An	262.63	262.48					○	
1406	Wt	262.39	262.26	46	25	16	19.7	○	
1407	Wt	262.30	262.16	42	39	11	10.8	○	
1408	An	262.15	262.02	54	34	13	24.2	○	
1409	An	262.14	262.09	10	7	4	0.3	○	
1410	An			10	9	6	0.7	○	
1411	An	262.30	262.04	50	26	25	73.1	○	
1412	Wt	262.31	262.13	29	23	16	14.7	○	
1413	An	262.32	262.05	42	31	15	29.5	○	
1414	An	262.20	261.95	46	29	28	42.8		
1415	An	262.29	262.04	31	24	23	24.4	○	
1416	An	262.19	262.02	19	14	12	11.6	○	
1417	An	262.29	262.06	34	30	22	30.0		
1418	An	262.22	262.03	19	19	18	11.9	○	
1419	An	262.27	262.04	40	23	19	27.1	○	
1420	An	262.26	261.93	45	22	18	29.5	○	
1421	An	262.07	261.96	30	16	9	5.8	○	多孔石
1422	An	262.14	261.95	30	18	16	14.1	○	多孔石
1423	An	262.38	262.09	30	26	20	20.1	○	
1424	An	262.36	262.10	35	33	20	30.1	○	
1425	An	262.24	262.05	32	17	16	12.1	○	
1426	An	262.22	261.96	40	26	19	20.6	○	
1427	An			29	16				
1428	Wt	262.13	262.01	21	11	10	2.6	○	
1429	An	262.01	261.87	29	23	13	10.4	○	
1430	An	261.99	261.83	40	26	16	16.2	○	
1431	Tu	262.16	251.98	37	30	15	24.6	○	
1432	An	261.89	261.53	37	36	15	32.6	○	
1433	Wt	262.01	261.95	38	25	14	14.3	○	くぼみ石
1434	An	262.09	261.84	34	20	20	20.2	○	
1435	An	261.90	261.84	8	6	6	0.4	○	
1436	Wt			21	14	6	2.3	○	
1437	An	262.12	261.80	33	25	19	20.0	○	
1438	An	262.09	261.87	44	19	12	13.8	○	
1439	An	262.11	261.83	42	32	21	28.5	○	
1440	An	262.11	261.88	30	21	17	15.8	○	
1441	An	262.08	261.90	35	17	12	11.1	○	付着物
1442	An	262.01	261.97	7	6	4	0.1	○	
1443	An	262.18	261.98	43	26	21	39.5		
1444	An	262.13	261.83	43	30	18	25.1	○	
1445	KAn	262.03	261.93	31	25	11	9.2		
1446	An	262.06	261.88	35	21	14	12.9		
1447	An	262.08	261.83	33	24	22	23.0		
1448	An	262.05	261.87	34	20	19	15.5		
1449	An	262.06	261.87	45	20	16	23.0		
1450	Tu	262.06	261.92	32	23	10	6.8	○	
1451	An	262.14	261.92	39	22	19	18.1	○	
1452	An	262.15	261.99	32	23	10	6.8	○	

環状列石礫データ(23)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1453	An	262.29	262.04	31	23	18	18.6	○	
1454	An	262.18	262.00	32	23	17	15.0	○	
1455	An	262.02	261.97	12	7	6	0.5		
1456	KAn	262.27	262.17	19	14	8	2.4	○	
1457	An	262.24	262.03	56	25	24	37.1	○	
1458	An	262.11	261.96	22	13	10	4.3	○	くぼみ石
1459	An	262.12	261.92	37	20	17	21.5	○	くぼみ石
1460	An	262.16	262.03	40	17	14	13.1	○	
1461	An	262.07	261.87	40	29	17	23.0		
1462	An	262.12	262.00	17	10	9	2.2	○	
1463	An	262.14	262.04	9	9	9	1.1	○	
1464	An	262.14	262.01	23	18	12	5.9	○	
1465	An	262.22	26.97	33	24	18	18.3	○	
1466	KAn	262.11	261.91	30	23	18	18.5	○	
1467	An	262.08	261.86					○	
1468	An	262.20	262.05	31	25	11	12.2	○	
1469	An	262.14	261.90	30	29	17	18.4	○	
1470	Wt	262.34	262.05	61	23	22	36.0	○	
1471	An	262.18	261.91	38	26	23	33.8	○	
1472	An	262.08	261.85	41	30	28	26.9	○	
1473	An	262.30	262.06	42	36	18	35.3	○	
1474	An	262.17	261.92	45	26	16	26.0	○	
1475	An	262.08	261.97	33	33	18	25.2	○	
1476	An	262.11	261.93	38	23	22	23.3	○	
1477	Wt	262.06	261.84	55	45	19	42.0	○	
1478	An	262.24	262.14					○	
1479	Wt	262.10	261.93	46	31	20	30.3	○	
1480	An	262.21	262.14	31	17	9	5.1	○	
1481	An	262.22	262.11	49	35	15	29.3	○	くぼみ石
1482	An	262.03	261.72	38	25	19	22.5	○	
1483	An	262.18	262.06	28	27	13	10.4	○	
1484	An	262.03	261.92	42	22	22	23.7	○	
1485	An	261.95	261.73	27	21	12	9.5	○	
1486	An	262.11	261.82	34	26	18	29.5	○	
1487	KAn	262.07	261.77	31	21	20	19.7		
1488	An	262.04	261.82	34	21	19	18.0	○	
1489	An	262.00	261.87	30	26	14	17.2		
1490	An	262.10	261.89	28	24	20	19.8	○	
1491	An	261.93	251.79	87	34	22	82.9		立石
1492	An	261.98	261.73	35	26	16	20.0	○	
1493	An	261.97	261.88	12	10	9	1.1	○	
1494	An	261.98	261.86	24	23	13	7.7	○	
1495	An	261.98	261.87	38	23	15	14.5		
1496	Wt	262.14	262.01	23	14	13	4.1	○	
1497	An	262.15	262.00	25	20	13	10.5		
1498	Wt	262.08	261.91	17	10	7	1.0	○	
1499	An	262.08	261.91	22	18	10	4.7		
1500	An	262.09	261.98					○	
1501	An	262.13	262.01	32	24	16	15.5	○	
1502	Wt	262.06	261.94					○	
1503	An	261.88	261.73	28	24	14	10.9	○	
1504	An	262.12	262.00	40	36	19	32.5	○	くぼみ石
1505	An	262.08	261.84	34	19	14	14.0	○	
1506	An	261.92	261.83	32	18	11	10.8	○	
1507	An	262.08	261.97	38	21	18	19.7	○	
1508	An	261.89	261.77	37	25	7	7.3	○	
1509	An	262.01	261.90					○	
1510	An	261.91	261.76	34	31	15	19.5	○	
1511	Wt	261.92	261.81					○	
1512	An	261.92	261.75	28	23	13	15.1	○	
1513	An	261.88	261.68	55	47	26	43.2		
1514	An	261.77	261.70	12	9	4	0.7		すり石
1515	An	261.91	261.83	13	11	7	1.1	○	
1516	An	262.08	261.88	27	22	19	12.0	○	
1517	An	262.09	261.73	51	24	21	40.9	○	
1518	Wt	261.97	261.86					○	

環状列石礫データ(24)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1519	An	261.74	261.59	26	22	10	9.0	○	多孔石
1520	An	261.98	261.83	29	22	15	9.7	○	
1521	KAn	261:96	261.94	22	19	3	1.8	○	
1522	An	261.80	261.76	7	7	5	0.3		
1523	An	262.01	261.83	26	21	13	9.6	○	
1524	An	262.09	261.95	35	22	14	11.6	○	
1525	An	261.85	261.71	16	16	12	5.3	○	
1526	An	261.89	261.77	50	29	14	29.5	○	
1527	Wt	261.93	261.80	29	28	27	24.8	○	
1528	An	261.91	261.80	38	29	17	25.0	○	
1529	An	261.97	261.86	33	19	16	5.5	○	平面すり
1530	An	261.89	261.73	27	16	11	4.7	○	
1531	An			22	21	15	5.0		
1532	An	261.92	261.80	21	17	13	4.5		
1533	An	261.86	261.72	16	15	11	2.3	○	
1534	Wt	261.98	261.87	42	28	15	20.0	○	平面すり
1535	Wt	261.96	261.89	25	14	7	3.3	○	
1536	An	261.75	261.54	25	19	16	7.8		
1537	An	261.85	261.73	28	16	12	6.4	○	平面すり
1538	An	261.70	261.63	14	14	6	1.1	○	
1539	An	261.69	261.62	18	13	8	1.7	○	
1540	An	261.94	261.84	24	21	12	5.6	○	
1541	An	261.91	261.86	25	20	4	2.2	○	
1542	Wt	261.85	261.67	31	18	18	12.6	○	
1543	An	261.83	261.68	20	15	15	4.6	○	
1544	An	261.86	261.75	45	26	23	32.2	○	
1545	An	261.86	261.68	37	19	19	9.0	○	
1546	Wt	261.71	261.53	30	25	15	15.6	○	
1547	An	261.73	261.61	24	12	12	8.1	○	
1548	An	261.77	261.59	36	16	16	20.1	○	
1549	An	261.87	261.77	17	12	9	2.2	○	
1550	An	261.80	261.70	30	25	17	14.8		
1551	An	261.68	261.62						
1552	KAn	261.71	261.58	40	24	14	14.8	○	
1553	An	261.60	261.53	28	26	22	16.6	○	
1554	Wt	261.78	261.67	19	19	16	3.5	○	
1555	Wt	261.67	261.41	27	23	18	11.3	○	
1556	An	261.77	261.52	38	30	23	43.5	○	
1557	An							○	
1558	An	261.74	261.51	32	29	21	28.1	○	
1559	An	261.55	261.45	12	9	8	1.2	○	
1560	An	261.51	261.47	8	6	4	0.2	○	
1561	An							○	
1562	An	263.25	263.07	41	23	19	21.4	○	
1563	An	263.31	263.09	31	25	17	15.8	○	平面すり
1564	An	263.30	263.16	20	15	15	5.4		
1565	An	263.38	263.15	35	22	17	15.5	○	
1566	KAn	263.45	263.27	19	14	13	4.7	○	
1567	An	263.25	262.98	32	21	14	6.7	○	
1568	An	263.28	263.06	23	19	17	8.0	○	
1569	Wt	263.29	263.22	21	19	8	2.8	○	くぼみ石
1570	An	263.28	263.12	27	19	16	10.6	○	
1571	An	263.38	263.22	29	25	15	10.5	○	
1572	An	263.39	263.23	28	20	13	9.7	○	
1573	An	263.28	263.14	22	9	4	5.7	○	
1574	An	263.40	263.18	35	31	19	27.9	○	
1575	An	263.26	263.09	35	20	16	15.4		
1576	An	263.30	263.09					○	
1577	An	263.38	263.21	31	29	17	22.4	○	
1578	Wt							○	
1579	Wt	263.38	262.87	14	10	9	1.4		
1580	An	263.34	263.19	25	22	15	11.1		
1581	An	263.33	263.19	28	23	8	7.9		
1582	Wt	262.53	262.43	35	20	11	8.8	○	
1583	An	262.45	262.34	34	25	12	12.0	○	
1584	Wt	262.22	262.03	6	25	18	25.1	○	

環状列石礫データ(25)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1585	An	262.19	262.08	15	11	10	2.0	○	
1586	An							○	
1587	An	262.13	261.99	63	35	17	32.1	○	
1588	An	262.18	261.91	39	30	15	16.4	○	
1589	An	262.20	262.02	23	19	15	9.4		
1590	An			37	25	19	24.6		
1591	An	262.20	261.95	13	9	7		○	
1592	An								
1593	An	262.25	261.99	52	27	24	44.5	○	
1594	Wt	262.30	261.87	49	44	21	52.4	○	
1595	An	262.19	262.02	19	15	13	3.5	○	
1596	An	262.09	262.06	6	4	4	0.1	○	
1597	An	262.03	262.00	8	5	3	0.1	○	
1598	An	262.27	261.87	52	36	23	69.2	○	
1599	An								
1600	An	262.08	262.03	7	5	3	0.1		
1601	An	262.25	261.97	47	31	26	41.2	○	
1602	An	262.26	262.01	37	33	19	33.9	○	
1603	An	262.16	262.07	19	17	6	1.7	○	
1604	An	262.21	262.00	47	23	18	30.4	○	
1605	An	262.21	261.94	50	28	21	41.2	○	
1606	An	262.17	262.00	40	31	13	21.0	○	
1607	An	262.26	261.98	30	28	17	22.1	○	
1608	An	262.20	262.07	37	27	12	18.2		
1609	An	262.05	261.96	18	11	8	1.7	○	
1610	An	262.15	262.07	13	8	6	0.6	○	
1611	Wt	262.17	262.06	14	12	12	1.9	○	
1612	An	262.35	261.86	61	33	17	31.5		立石
1613	An	262.29	262.02	30	28	19	29.0	○	
1614	An	262.20	262.00	38	30	6	27.4	○	
1615	An	261.84	261.75	11	10	9	0.9	○	
1616	An	261.80	261.75	10	7	5	0.2	○	
1617	An	262.11	262.09	13	7	2	0.3		平面すり
1618	An	262.05	261.99	34	23	9	9.1		
1619	An	262.20	262.03	30	25	17	13.5		
1620	An	262.07	261.95	12	10	11	1.9		
1621	An	262.05	261.94	35	31	16	25.6		
1622	An	262.15	261.98	31	24	14	11.8		
1623	Wt	262.34	262.10	50	46	19	36.4	○	
1624	An	262.19	262.09					○	
1625	An	262.09	261.90	46	41	18	53.9	○	平面すり
1626	An	261.91	261.85	16	14	5	1.4	○	
1627	An	262.20	262.11					○	
1628	An	262.07	261.96	31	25	22	19.2	○	
1629	An	262.27	262.07	18	15	10	2.6	○	
1630	An	261.97	261.88	19	10	5	1.4	○	平面すり
1631	An	262.04	261.92	34	24	11	11.8	○	
1632	An	262.01	261.90	23	20	10	6.8	○	
1633	An	262.00	261.89	31	17	8	6.2		
1634	An	262.04	261.92	22	16	16	9.5	○	くぼみ石　平面すり
1635	Wt	261.93	261.83	34	22	14	9.9	○	
1636	An	262.00	261.89	26	22	13	7.5	○	
1637	An	261.92	261.82	39	24	17	6.3	○	
1638	KAn	261.97	261.90	34	24	11	13.5	○	
1639	An	261.90	261.78					○	
1640	An	261.85	261.77	14	11	8	1.6	○	
1641	An	261.88	261.75	36	26	18	15.5		
1642	An	261.86	261.80	14	10	6	0.8	○	
1643	Wt	261.91	261.80	37	27	17	16.7	○	
1644	Wt	261.94	261.79	41	25	21	31.3	○	
1645	An	261.91	261.78	17	9	11	2.4	○	
1646	An	261.97	261.91	13	11	5	1.0	○	
1647	An	261.93	261.82	13.5	12.5	10	2.5	○	
1648	An	261.89	261.84	14	13	4	0.9	○	
1649	An	261.93	261.80	27	20	16	10.3	○	
1650	An	261.88	261.80	15	13	4	1.3	○	

環状列石礫データ(26)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1651	An	261.91	261.69	42	26	21	37.3	○	
1652	An	261.92	261.89	28	23	17	9.6	○	
1653	An	261.80	261.54	32	29			○	
1654	An	261.62	261.49	22	14	8	3.5	○	
1655	An	261.68	261.53	35	28	25	31.7	○	
1656	An	261.70	261.51	48	26	20	31.6	○	
1657	Wt	261.71	261.46	41	27	19	24.7	○	
1658	An	261.73	261.52	33	31	21	31.6	○	
1659	Wt	264.01	263.77	65	40	36	13.2	○	
1660	An	263.89	263.75	52	47	14	35.2		
1661	KAn	263.51	263.35	19	16	15	11.4	○	
1662	An	263.67	263.61	24	20	7	3.2	○	
1663	Wt	263.56	263.50	17	12	6	1.3	○	
1664	Wt	263.61	263.48	40	26	12	14.5	○	
1665	An	263.56	263.39	28	20	16	10.7	○	
1666	An	363.11	263.00	29	25	10	11.2		
1667	An	263.07	262.86	22	19	18	14.5	○	
1668	An	262.83	262.76	10	9	6	0.6	○	
1669	An	262.81	262.77					○	
1670	An	262.78	262.68	13	12	11	1.8	○	
1671	An	262.81	262.73	20	10	7	1.7		くぼみ石
1672	An	262.87	262.78	20	15	7	2.5	○	
1673	An	262.57	262.48	12	10	7	1.0	○	
1674	An	262.58	262.51	13	11	7	1.3	○	
1675	An			40	29	13	23.6	○	
1676	An	262.29	262.09	16	10	8	2.2	○	
1677	An	262.39	262.25	35	28	16	20.5		
1678	An	262.14	262.04	18	13	9	2.0	○	
1679	An	262.16	262.10	10	6	5	0.4	○	
1680	An	262.18	262.10	13	9	8	1.1	○	
1681	An	262.25	262.15	26	20	15	10.3	○	
1682	An	262.36	262.17	32	25	17	18.0	○	
1683	An	262.28	262.11	32	16	15	12.5		
1684	An	262.37	262.14	48	33	21	44.2	○	
1685	An	262.16	262.13	7	5	2	0.1		
1686	An	262.14	262.11	11	9	9	1.1		
1687	An	262.31	262.11	35	25	18	23.9	○	
1688	An	262.23	262.13	47	38	16	32.8	○	平石
1689	Ch			20	13	3	0.7	○	
1690	An	262.24	262.17	10	6	6	0.4	○	
1691	An	262.33	262.12	35	28	19	31.0	○	
1692	An	262.25	262.09	28	16	12	7.1	○	
1693	An	262.18	262.04	30	20	13	11.1	○	
1694	Sc	262.10	262.01	20	13	6	1.8		石皿　1700,1733と同一個体
1695	An			8	6	5			
1696	An	262.37	262.17	36	30	22	35.7	○	
1697	An	262.26	262.20	9	6	5	0.2	○	
1698	An	262.27	262.21	8	4	3	0.1	○	
1699	An	262.23	262.13	29	24	11	10.1		
1700	Sc	262.19	262.11	20	12	7	1.5		石皿　1694,1733と同一個体
1701	An	262.10	262.06	28	19	15	11.8	○	
1702	An	262.44	262.25	18	12	9	11.8	○	
1703	An								
1704	An	262.37	262.12	32	24	17	17.3	○	
1705	An	262.32	262.12	38	32	18	29.3	○	くぼみ石
1706	KAn	262.38	262.06	53	35	22	32.5	○	
1707	An	262.25	262.04	49	30	22	33.5	○	
1708	An	262.08	262.05	8	7	3	0.1		
1709	An	262.43	262.23	38	29	20	26.6	○	
1710	An	262.38	262.24	34	33	23	32.2	○	
1711	An	262.47	262.16	43	23	22	24.7	○	
1712	An	262.38	262.17	31	23	18	17.0	○	
1713	Wt	262.39	262.10	56	35	18	38.7	○	
1714	An	262.31	262.07	36	25	20	21.1	○	
1715	An	262.30	262.07	45	28	20	29.4	○	
1716	An	262.25	262.04	34	30	19	22.1	○	

環状列石礫データ(27)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1717	An							○	
1718	An	262.34	262.22	41	33	19	27.4	○	
1719	An	262.28	262.15	50	38	14	39.0	○	平面すり
1720	An	262.20	262.06	40	29	17	27.5		
1721	An	262.10	262.08	12	9	3	0.5	○	
1722	An	262.35	262.22	37	32	13	28.7	○	
1723	An	262.18	262.11	32	23	9	6.9	○	
1724	An	262.32	262.24	39	35	17	16.2	○	
1725	An	262.23	262.10	31	20	18	16.7	○	
1726	An	262.22	262.10	27	16	10	4.8	○	1727と同一個体
1727	An			16	16	10	2.7	○	1726と同一個体
1728	An	262.11	262.00	41	37	12	24.0	○	
1729	An	262.33	262.19	22	19	17	6.5	○	
1730	An	262.12	262.08	23	13	8	2.8	○	平石
1731	KAn	262.30	262.18	26	25	11	8.4	○	平面すり
1732	An	262.19	262.04	31	27	14	11.7		
1733	Sc	262.03	261.92	21	14	7	2.0		石皿　1694,1700と同一個体
1734	An	262.03	261.96					○	
1735	An	262.05	261.98	34	31	13	15.5	○	
1736	Ch	262.07	261.99	11	10	7	0.8	○	
1737	An	262.05	261.90					○	
1738	KAn	262.12	261.99	32	25	15	15.2	○	
1739	Wt	262.01	261.89	18	11	7	1.3	○	
1740	An	262.03	261.87					○	
1741	An	261.95	261.80	35	21	16	14.0	○	平面すり
1742	An	261.99	261.92	35	31	14	15.5	○	
1743	Wt	262.04	261.85	25	20	15	7.5	○	
1744	Wt	261.92	261.79	22	19	12	5.2		
1745	Wt	261.98	261.82	44	35	14	22.5	○	
1746	An	261.92	261.77	26	19	15	11.9	○	
1747	An	261.94	261.74	42	29	17	19.9	○	
1748	An	261.88	261.71	22	14	17	7.0	○	
1749	An	262.01	261.90	32	26	23	24.1	○	平面すり
1750	Wt	261.89	261.75	19	17	15	4.9	○	
1751	An	261.84	261.71	56	37	16	28.4	○	
1752	Wt	261.97	261.81					○	
1753	An	261.68	261.63	24	17	9	4.4		
1754	An	261.66	261.40	37	33	26	45.8	○	
1755	An	261.76	261.52	54	32	26	42.2	○	付着物
1756	An	261.77	261.53	30	27	25	29.1	○	
1757	An			29	15	9	3.6	○	
1758	An	263.12	263.01					○	
1759	An	263.10	262.94	21	20	16	9.4	○	
1760	An	263.05	262.92	18	10	9	2.0	○	
1761	Wt	263.04	262.83	38	34	15	19.4	○	くぼみ石
1762	An	262.47	262.39	34	25	16	20.0	○	
1763	An	262.47	262.15	47	37	14	31.2	○	
1764	An	262.45	262.24	38	28	19	28.9		
1765	An	262.34	262.14	27	27	11	13.4	○	
1766	An	262.34	262.06	57	42	18	50.9	○	
1767	An	262.45	262.29	31	24	15	17.1	○	
1768	An	262.31	262.17	34	26	16	22.1		
1769	An	262.21	262.06	34	28	14	13.5	○	くぼみ石
1770	An	262.36	262.16	38	26	19	28.4	○	
1771	An	262.27	262.09	31	21	19	25.1	○	
1772	An	262.44	262.26	36	26	12	23.2		
1773	An	262.37	262.12	36	27	15	19.0		
1774	An	262.30	262.12	49	36	14	32.5		くぼみ石
1775	An	262.29	262.13	46	34	15	18.9	○	
1776	An	262.44	262.26	36	23	20	26.9	○	
1777	An	262.30	262.06	41	31	13	21.4		
1778	Wt	262.32	261.96	55	38	14	33.8	○	
1779	An	262.38	262.19	28	24	10	8.1		
1780	An	262.26	262.15	36	31	13	17.5	○	
1781	An	262.26	262.12	30	24	13	16.9	○	
1782	KAn	262.43	262.22	41	23	18	23.6	○	

環状列石礫データ(28)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
1783	An	262.42	262.22	26	19	14	13.4	○	
1784	An	262.36	262.17	46	31	23	18.1	○	
1785	An	262.25	262.08	26	17	12	7.6	○	
1786	An	262.21	261.89	36	31	22	25.7	○	
1787	An	262.36	262.16	38	22	17	22.6	○	
1788	An	262.35	262.11	38	29	18	26.4	○	
1789	An	262.23	261.89	48	34	19	46.0		
1790	An	262.29	262.17	23	17	8	5.3	○	
1791	An	262.34	262.11	40	33	17	33.4	○	くぼみ石
1792	An	262.19	261.92	40	30	14	27.5		
1793	An	262.34	261.13	30	30	12	15.4		
1794	An	262.31	262.10	32	20	19	18.4		くぼみ石
1795	An	262.36	262.12	37	22	19	36.0	○	
1796	An	262.24	262.05	38	23	14	18.9	○	
1797	Wt	262.15	261.87	40	25	16	24.5	○	
1798	Ch	262.32	262.12	30	24	20	19.4	○	
1799	An	262.09	261.85	33	25	19	23.7		
1800	An	262.36	262.26	10	10	8	1.0	○	
1801	An	262.04	261.82	46	38	14	49.0	○	
1802	An	262.20	262.06	34	23	13	11.4	○	
1803	An	261.98	261.90	37	32	17	25.0	○	平面
1804	SS	261.96	261.88	13	8.5	4	0.6		
1805	An							○	
1806	An	261.86	261.79	12	9	7	0.3	○	
1807	Wt	261.98	261.87	52	22	16	18.3	○	
1808	An	261.83	261.76	16	12	5	1.2	○	平面すり
1809	An	261.78	261.65	31	21	17	11.2	○	
1810	An	261.76	261.66	16	13	11	2.4	○	
1811	An	261.68	261.62	8	7	5	0.5	○	
1812	An	261.73	261.66	16	7	7	1.3		たたき石
1813	An	261.72	261.62	22	15	9	3.5	○	
1814	Ch								
1815	An								
1816	An							○	
1817	An								スジキズ
1818	An								
1819	An							○	くぼみ石　スジキズ
1820	An								
1821	An							○	
1822	An							○	平面すり　スジキズ
1823	Wt	263.04	262.90	31	16	14	6.1	○	
1824	An	263.02	262.95	44	24	17	17.8	○	
1825	An	262.94	262.81				4.5	○	
1826	An	263.04	262.92	32	23	13	15.5	○	
1827	Wt	262.98	262.88	34	32	25	32.3	○	
1828	An	262.96	262.89	25	20	6	4.1		
1829	An	263.01	262.89	45	35	16	24.2	○	
1830	An	262.48	262.32	39	33	15	21.1	○	
1831	An	262.47	262.35	30	15	12	4.2	○	
1832	An	262.30	262.16	29	15	13	8.0	○	
1833	An	262.30	262.02	37	27	21	29.0	○	平石
1834	Wt	262.37	262.12	41	25	24	24.3	○	
1835	An	262.29	262.06	31	26	16	19.5	○	
1836	An	262.18	261.94	35	24	23	26.2	○	
1837	An	262.34	262.28	17	13	6	2.2	○	
1838	An	262.05	262.00	10	10	5	0.7	○	
1839	An	262.21	261.89	32	24	19	22.2	○	
1840	An	262.31	262.15	19	14	12	3.7	○	
1841	An	262.43	261.86	56	34	24	55.8	○	
1842	Wt	262.25	262.06	36	23	14	20.4	○	
1843	An	262.23	261.89	43	35	20	41.7	○	
1844	An	261.99	261.90	13	10	7	1.2	○	
1845	An	262.31	262.12	39	28	15	30.0	○	
1846	Tu	262.25	262.15	18	18	9	2.8	○	くぼみ石
1847	An	262.21	262.11	24	17	7	3.8	○	
1848	An	262.27	261.99	43	21	17	18.4	○	

環状列石礫データ(29)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1849	An	262.21	262.06	15	15	9	2.8		
1850	An	262.25	261.93	43	40	15	29.9	○	
1851	An	262.46	261.83	64	42	15	62.5	○	立石
1852	An	262.21	262.05	30	23	1	8.3	○	
1853	APo	262.22	262.12	13	11	7	1.6	○	石棒
1854	An	262.17	262.12	16	11	4	1.3	○	
1855	An	262.25	262.06	40	2	14	18.3		
1856	An	262.33	261.87	51	37	20	44.6	○	立石
1857	Wt	261.17	262.07	18	12	10	1.8	○	
1858	An	262.18	262.07	24	13	6	2.4	○	
1859	An	262.22	262.14	20	17	6	3.5	○	
1860	Wt	262.22	262.13	24	15	10	3.8	○	
1861	An	262.27	262.10	34	34	11	27.5	○	平石
1862	An	262.22	261.95	40	32	25	45.0	○	
1863	An	262.17	262.06	25	15	8	4.9	○	
1864	An	262.12	262.06	10	8	4	0.3	○	
1865	An	262.30	261.94	36	32	17	27.4		
1866	An	262.16	262.04	22	11	8	1.5	○	
1867	An	262.20	262.04	33	15	15	10.2	○	
1868	An	262.06	262.00	7	5	4	0.2	○	すり石
1869	An	262.14	262.08	7	7	4	0.3	○	
1870	An	262.16	261.95	32	21	18	20.4	○	
1871	An	262.34	262.27	38	28	8	8.8	○	くぼみ石
1872	An	262.15	262.00	46	28	16	22.8	○	
1873	An	262.28	262.21	18	17	4	2.1		
1874	An	262.25	262.10	50	26	15	15.1		
1875	An	262.30	262.21	26	23	10	8.6	○	
1876	Wt	262.09	261.94	11	10	4	0.5	○	
1877	Wt	262.12	262.05	25	17	7	2.9	○	
1878	An	261.93	261.90	13	9	3	0.5	○	
1879	An	262.21	261.93	83	35	17	49.5	○	
1880	An	262.04	261.94	19	14	13	3.2	○	平石
1881	An	262.14	262.10	25	23	6	3.9	○	
1882	An	262.22	262.07	31	25	23	23.2	○	
1883	An	262.11	262.00	30	23	16	13.5	○	平石
1884	An	261.91	261.71	26	23	18	11.7	○	
1885	An	261.90	261.80	18	10	5	1.0	○	
1886	An	261.91	261.80	16	8	8	1.1		
1887	An	261.95	261.76	42	30	21	37.1	○	
1888	An	261.81	261.72					○	
1889	An	261.82	261.76	12	9	6	0.3		
1890	An	261.81	261.75	10	7	4	0.6	○	
1891	An	261.95	261.41	32	28	17	14.7	○	
1892	An	261.61	261.33	40	28	15	20.6	○	
1893	KAn							○	付着物？
1894	An								
1895	An							○	
1896	An							○	
1897	An							○	石皿
1898	Ch	263.44	263.37	10	10	7	0.3	○	
1899	An	263.59	263.46	37	29	16	22.5	○	
1900	An	263.54	263.47	24	15	8	4.0	○	
1901	An	263.48	263.44	27	23	13	11.3	○	平面すり
1902	An	262.92	262.73	44	34	19	24.1	○	
1903	An	262.79	262.66	37	36	14	25.2		
1904	An	262.31	262.10	41	24	18	25.9		
1905	An	262.25	262.18	8	7	5	0.5	○	
1906	An	262.12	261.99	17	12	11	2.3		
1907	An	262.20	261.97	37	22	21	26.0		
1908	An	262.25	262.11	33	24	11	11.1	○	
1909	An	262.21	262.13	12	9	5	0.9	○	
1910	An	262.21	262.02	46	30	18	34.9		
1911	An	261.99	261.94	9	5	5	0.2	○	
1912	An	261.87	261.72	20	12	7	3.5	○	
1913	Wt	262.20	262.13	14	12	6	1.2	○	
1914	An	262.19	262.11	11	10	4	0.5	○	

環状列石礫データ(30)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1915	An	262.18	262.12	1	7	5	0.4	○	平面すり
1916	An	262.29	262.12	40	26	15	26.6	○	
1917	An	262.25	262.20	23	16	15	7.0		
1918	An	262.30	262.14	40	34	13	24.1	○	
1919	Ch	262.10	262.05					○	
1920	SS	262.11	262.05	9	9	5	0.8	○	
1921	An	262.08	262.02	10	8	5	7.5	○	
1922	An	262.33	262.28	24	17	4	2.9	○	
1923	Wt	262.45	261.8	65	21	20	32.6		立石
1924	An	262.29	262.07	51	26	22	37.6	○	
1925	Wt	262.22	261.87	54	36	13	25.0	○	
1926	An	262.29	262.05	49	24	18	38.3		
1927	An	262.18	261.91	50	29	13	31.6	○	
1928	Wt	262.25	261.92	55	48	17	38.4	○	
1929	An	262.21	262.02	35	28	16	18.3	○	
1930	An	262.23	262.13	36	29	9	13.7	○	
1931	An	262.26	262.14	37	27	18	29.2	○	
1932	Wt	262.34	262.19					○	
1933	An	262.17	262.01				5.0	○	
1934	An	262.13	261.97	26	22	10	8.0	○	
1935	Wt	262.15	262.08	14	12	8	0.9	○	
1936	An	262.11	262.04	24	14	6	1.5		
1937	An	264.03	263.79	41	41	12	23.6	○	
1938	An	263.88	263.82	14	10	5	1.0	○	平面すり
1939	An	263.94	263.78	30	25	22	20.6		
1940	KAn	263.76	263.69	23	15	7	2.6	○	
1941	An	263.77	263.64	30	21	16	16.6	○	
1942	Wt	263.85	263.70					○	
1943	An	263.90	263.81	20	18	9	5.8		平面すり くぼみ石
1944	Wt	263.87	263.70	40	31	15	26.7	○	
1945	An	263.83	263.77	28	17	9	4.7	○	
1946	An	263.85	263.76	24	22	15	9.8	○	
1947	An	263.68	263.60	29	22	17	14.3	○	
1948	Wt	263.81	263.73	29	28	11	9.3	○	
1949	An	263.80	263.73	32	22	16	14.5		
1950	KAn	263.79	263.65	31	16	14	8.6	○	
1951	An	263.74	263.64	34	23	19	20.0	○	
1952	An	263.64	263.56						
1953	An	263.68	263.50	56	25	10	17.3	○	
1954	An	263.75	263.52	41	23	22	29.3	○	
1955	An	263.65	263.51	34	30	13	19.6	○	多孔石
1956	Wt	262.99	262.79	95	37	26	90.5	○	
1957	An	262.81	262.74	23	22	6	6.1		平面すり
1958	Wt	262.98	262.77	46	33	16	27.5		
1959	An	262.80	262.65	25	19	14	11.0		
1960	An	262.85	262.71	34	22	21	24.1		
1961	An	262.99	262.86	33	33	20	20.0		
1962	An	263.01	262.89	39	28	20	23.3	○	
1963	An	262.96	262.71	32	28	25	16.4	○	
1964	An	262.88	262.78	19	14	8	3.3	○	
1965	An	262.95	262.85	38	37	11	22.0		
1966	An	263.07	262.91	39	31	25	37.1		
1967	An	262.98	262.83	29	20	10	7.3	○	
1968	An	262.66	262.51					○	
1969	An	262.20	262.06	21	15	9	2.8	○	多孔石
1970	An	262.13	262.05	13	10	5	0.8	○	
1971	An	262.15	262.07	10	9	5	0.5	○	
1972	An	262.28	262.07	47	22	16	28.6	○	
1973	An	262.23	262.10	13	12	7	1.3	○	
1974	An	262.27	261.92	57	41	13	56.6	○	
1975	An	262.27	261.92	50	41	21	56.2	○	
1976	An	262.31	262.03	48	32	19	31.0	○	
1977	An	262.23	262.10	14	10	8	1.5	○	
1978	An	262.08	262.04	8	7	4	0.3	○	
1979	An	262.13	262.03	12	9	7	0.5	○	
1980	An	262.16	262.10	12	7	6	0.4	○	

環状列石礫データ(31)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
1981	An	262.32	262.09	40	17	16	19	○	
1982	An	262.10	262.05	9	7	6	0.3	○	
1983	An	262.21	262.00	46	29	22	42.9		
1984	An	262.32	262.15	29	25	16	22.7		
1985	Wt	262.33	262.14	45	35	16	32.4	○	
1986	An	262.31	262.14	44	35	16	28.1	○	
1987	Wt	262.19	261.98	42	25	18	34.0	○	
1988	An	262.05	261.97	12	8	5	0.6	○	
1989	An	262.17	262.10	12	8	4	0.25	○	
1990	An	262.33	262.01	51	32	28	70.8	○	
1991	An	262.31	262.20	25	17	10	5.0	○	
1992	An	262.19	261.92	62	53	16	92.6	○	
1993	An	262.17	261.98	25	15	13	4.8	○	
1994	An	262.31	261.89	54	42	15	65.4	○	
1995	An	262.09	262.04	12	8	5	0.5	○	
1996	An	262.14	262.08						
1997	An	262.11	262.07	8	7	4	0.2		
1998	An	262.08	261.94	25	15	14	7.8		
1999	An	262.15	262.03	14	12	9	1.9		
2000	An	262.13	261.95	27	22	12	10.0	○	
2001	An			7	5	3		○	
2002	An	262.23	262.12	34	24	18	16.7	○	
2003	An	262.20	262.05	37	32	22	25.5		
2004	An	262.08	261.91	41	30	23	30.3	○	
2005	An	262.25	262.13	35	32	13	20.5	○	
2006	An	262.15	262.04	52	18	16	21.6		
2007	An	262.12	262.02	18	15	7	2.0		
2008	An	262.06	261.91	22	17	12	6.0	○	
2009	An	262.00	261.90	31	24	11	9.3	○	
2010	An	261.84	261.66	31	28	24	16.7	○	
2011	An	261.82	261.73	32	18	13	13.5		くぼみ石
2012	An	261.78	261.67	15	11	11	1.9	○	
2013	An								
2014	An	261.70	261.57	19	10	9	2.6	○	
2015	An							○	
2016	An							○	
2017	MS	263.91	263.84	17	13	7	1.8	○	
2018	An	263.88	263.75	38	29	12	15.7	○	
2019	KAn	263.77	263.70					○	
2020	An	263.88	263.64	25	24	13	7.9	○	
2021	An	263.94	263.87	33	19	17	10.6	○	
2022	Wt	263.69	263.57					○	
2023	An	262.78	262.68	17	10	9	1.6	○	
2024	An	262.91	262.82	31	18	11	7.5	○	
2025	KAn	262.98	262.83	40	26	18	20.1	○	
2026	An	262.91	262.75	32	27	17	13.0	○	
2027	An	262.29	262.13	39	22	19	14.1	○	
2028	An	262.13	262.03	13	10	9	1.5	○	
2029	Wt	262.26	262.08	48	30	19	30.2	○	
2030	An	262.17	262.01	42	30	16	33.7		
2031	Wt	262.15	261.97	30	20	17	17.5	○	
2032	An	262.27	262.06	38	28	16	30.6	○	
2033	An	262.18	261.97	42	24	20	25.3	○	
2034	An	262.19	261.94	36	31	18	36.6	○	
2035	Wt	262.16	262.00	31	27	17	16.6	○	
2036	An	262.12	261.93	44	36	18	37.0	○	
2037	An	262.23	262.00	37	27	15	22.5		
2038	An	262.01	261.97	10	6	5	0.3		
2039	Wt	262.05	261.88	20	15	15	6.3	○	
2040	Wt			15	13			○	
2041	An	262.22	262.03	44	30	23	34.8	○	
2042	An	262.10	261.87	41	33	20	46.3	○	
2043	An	262.10	261.98	11	9	9	1.1	○	
2044	An	262.07	261.88	44	32	18	38.2		
2045	An	262.19	261.96	41	34	22	40.9	○	
2046	An	262.04	261.95	20	13	3	0.7		

環状列石礫データ(32)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
2047	An	262.21	262.02	43	31	18	33.8	○	
2048	An	262.08	261.87	50	37	22	55.9	○	
2049	Wt	262.24	262.10	56	26	19	26.6		
2050	An	262.10	261.92	49	35	15	45.3	○	
2051	An	262.22	261.99	34	30	23	38.1	○	
2052	An	262.08	261.89	34	26	17	27.5	○	
2053	An	262.22	261.93	38	33	18	30.3		
2054	An	262.04	261.94	36	21	16	20.0	○	平面すり
2055	An	262.04	261.96	24	17	15	6.8		
2056	Wt	261.68	261.56	23	16	14	4.5	○	
2057	An	261.57	261.49	16	12	9	2.1	○	
2058	An	261.99	261.87	39	34	21	33.1	○	
2059	An	261.91	261.78	21	19	10	7.2	○	
2060	An	261.97	261.81	48	25	22	28.5	○	
2061	An	261.79	261.68	30	24	15	12.8	○	
2062	An	261.62	261.59						
2063	An	261.65	261.54	13	13	12	2.5	○	
2064	An	261.68	261.59	16	13	11	2.6	○	
2065	An	261.82	261.68	21	18	16	7.0	○	
2066	An	261.65	261.58	14	10	7	0.9	○	
2067	An	261.67	261.53	18	15	12	3.1	○	
2068	An	263.84	263.65	37	30	18	30.5	○	
2069	An	263.90	263.80	30	20	16	16.1	○	
2070	An	263.72	263.68	12	7	5	0.7		
2071	An	263.12	262.97	35	27	21	30.0	○	
2072	An	262.98	262.73	27	24	21	17.7		
2073	An	262.88	262.76	25	22	9	6.4	○	
2074	Wt	262.84	262.77	35	31	10	11.1	○	くぼみ石
2075	An	262.70	262.63	31	15	9	5.1	○	
2076	An	262.66	262.55	25	20	7	4.0	○	
2077	Wt	262.69	262.56					○	多孔石
2078	An	262.63	262.57	10	9	7	0.6	○	
2079	An	262.60	262.39	27	26	10	9.5	○	
2080	An	262.16	262.89	29	21	19	19.7		
2081	An	262.04	262.00	6	5	3	0.5		
2082	An	262.15	261.91	3	32	22	41.5	○	
2083	An	262.11	261.93	29	25	16	20.5		
2084	An	262.01	261.94	11	9	6	0.7		
2085	An	262.12	261.88	41	23	23	33.6		
2086	An	262.10	261.89	35	22	21	24.2		
2087	An	262.05	261.85	31	21	18	19.2		
2088	An	262.06	261.85	39	25	19	28.7	○	多孔石
2089	An	262.05	261.83	41	29	18	28.0	○	
2090	Wt	262.02	261.83	49	24	20	28.4	○	
2091	An	262.00	261.84	48	28	17	27.3	○	
2092	Ch								
2093	An	262.07	261.82	30	25	16	18.7		
2094	An	262.12	261.92	55	42	23	41.5	○	
2095	An	262.07	262.02	8	7	4	0.3	○	
2096	An	262.00	261.87	43	32	24	41.2		
2097	Wt	262.00	261.78	37	23	18	27.5	○	くぼみ石
2098	An	261.99	261.80	23	18	10	3.7		
2099	An	261.92	261.76				11.3	○	平面すり
2100	An	261.93	261.80						
2101	An	262.01	261.69					○	
2102	An			47	23	15	22.8		平面すり
2103	Tu	262.01	261.85	38	26	20	20.3	○	
2104	An	261.92	261.71	44	33	23	33.7		
2105	An			34	22	12	9.5		
2106	Wt	261.73	261.64	18	15	9	2.7	○	
2107	An	261.86	261.73	18	9	8	1.3		
2108	An	261.85	261.60	37	27	19	25.5	○	
2109	An	261.87	261.74	24	20	11	5.5		
2110	An								
2111	An	261.82	261.64	29	28	17	22.5	○	
2112	An	261.81	261.69	37	30	11	15.1	○	

環状列石礫データ(33)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
2113	An	261.75	261.62	26	21	13	6.9		
2114	An	261.88	261.62	42	24	20	34.0		
2115	An	261.85	261.65	50	32	23	42.5	○	平面すり　くぼみ石
2116	An	261.81	261.59	56	26	22	50.6	○	
2117	An	261.84	261.67	40	23	15	24.0		
2118	An	261.65	261.57	8	8	7	0.7	○	
2119	KAn	261.65	261.55	19	15	9	2.3	○	平面すり
2120	An	261.70	261.63					○	平面すり
2121	An							○	
2122	An							○	
2123	An								
2124	An			38	27	13	20.1	○	
2125	An	263.85	263.73	31	17	9	5.9		平面すり　くぼみ石
2126	An	263.21	263.07	34	20	13	12.0	○	
2127	An	263.37	263.18	46	30	22	36.6	○	
2128	Ch	263.31	263.21					○	
2129	An	262.84	262.76	27	22	9	7.0	○	
2130	Sc	262.55	262.50	30	23	5	3.6		石皿
2131	An	262.77	262.62	21	20	10	5.5	○	
2132	An	262.74	262.63	20	14	10	3.0	○	
2133	An	262.86	262.65	22	21	17	10.4	○	
2134	An	262.64	262.49	21	14	13	5.7	○	
2135	An	262.65	262.59	18	16	5	2.5		
2136	An	262.74	262.60	39	29	17	23.7	○	
2137	An	262.62	262.48	15	12	6	1.4	○	
2138	An	262.78	262.52	42	31	23	34.0	○	
2139	An	262.21	262.11	13	11	8	1.6	○	
2140	An	262.12	262.06	15	10	5	1.7		
2141	An	262.16	262.02	42	33	26	40.5	○	
2142	An	261.99	261.76	28	24	18	13.7	○	
2143	An	262.12	261.98	31	28	16	26.3		
2144	An	262.19	262.02	34	25	14	19.5	○	
2145	An	262.21	262.10	32	19	9	8.4	○	平面すり　くぼみ石
2146	An	262.14	262.02	23	22	12	9.3	○	
2147	An	262.08	262.04	12	11	9	2.3	○	
2148	An	262.08	261.90	23	19	15	8.0		
2149	An	262.11	262.03	18	15	7	2.7	○	
2150	An	262.21	262.02	22	20	13	7.8	○	
2151	An	262.03	261.96	13	9	4	0.6	○	
2152	An	261.90	261.85	11	10	4	0.5		
2153	An	261.85	261.80	14	7	4	0.8		
2154	An	261.95	261.85	16	10	8	1.3		
2155	An	262.08	262.00	20	10	8	1.8	○	
2156	An	262.02	261.89	36	22	15	18.2	○	
2157	KAn	262.02	261.92					○	平面すり
2158	An	261.82	261.62	27	19	16	11.5	○	
2159	An	261.78	261.73	12	7	4	0.5		
2160	An	261.74	261.66	14	11	8	1.5	○	
2161	An	262.01	261.87	29	25	17	17.5	○	
2162	An	261.72	261.64	42	37	17	33.7	○	
2163	An	261.61	261.50	20	14	10	3.7	○	平面すり
2164	KAn	261.63	261.56	38	22	14	11.4	○	
2165	Wt	261.48	261.32	19	16	12	4.2	○	
2166	An	261.44	261.33	15	10	10	2.1	○	
2167	An	261.59	261.40	23	20	13	6.3	○	
2168	An	263.84	263.72	37	25	15	18.3	○	平面すり？
2169	An	263.83	263.75	24	19	6	4.6	○	
2170	An	263.88	263.80	45	20	6	9.0	○	
2171	An	263.49	263.37	26	14	14	7.8	○	平面すり
2172	An	263.57	263.49	31	20	11	6.2	○	平面すり
2173	An	262.80	262.72	22	17	7	3.8	○	
2174	An	262.67	262.59	8	8	7	0.9	○	
2175	Wt	262.93	262.78	18	15	11	2.6	○	
2176	Wt	262.88	262.84	33	24	13	13.1	○	
2177	An	262.76	262.69	20	15	5	1.8		
2178	An	262.79	262.72	28	23	11	11.7	○	

環状列石礫データ(34)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
2179	An	262.67	262.56	20	18	11	5.4	○	平面すり
2180	An	262.62	262.44	29	23	13	12.9	○	
2181	An	262.76	262.60	31	21	11	8.0	○	
2182	An	262.51	262.41	25	20	7	4.6	○	平面（石皿）
2183	An	262.42	262.34	12	11	7	0.8		
2184	An	262.38	262.34						
2185	An	262.43	262.32	15	15	8	2.5	○	
2186	An	262.55	262.38	22	22	12	7.5	○	
2187	An	262.60	262.52	32	30	7	5.4		
2188	An	262.31	262.15	26	24	16	12.9	○	
2189	An	262.24	262.08	31	19	18	10.8	○	
2190	An	262.26	262.08	52	32	19	46.0	○	平面すり
2191	An	262.10	261.93	33	26	15	15.5		
2192	KAn	262.09	261.90	23	18	12	7.6	○	
2193	An	262.04	261.87	29	22	17	11.7		
2194	An	262.19	262.05	30	19	13	7.2	○	
2195	An	262.05	261.87	25	21	13	10.6	○	
2196	An	261.99	261.78	26	20	17	11.1		
2197	Wt	262.03	261.89	39	24	14	13.5	○	
2198	An	261.94	261.78	27	25	11	10.0		
2199	KAn	262.97	261.80	35	25	18	22.9	○	
2200	An	261.80	261.68	9	8	4	2.5	○	
2201	KAn	263.21	263.14	34	20	9	6.8	○	
2202	KAn	263.31	263.15	25	21	11	8.8	○	平面すり
2203	An	262.76	262.66	18	11	10	2.6	○	
2204	An	262.80	262.60	31	23	13	10.7	○	
2205	An	262.69	262.50						
2206	An	262.50	262.36	16	14	8	2.4	○	
2207	An			55	25	22	38.5	○	
2208	An	262.76	262.62	37	27	19	25.3	○	
2209	An	262.66	262.52	36	19	18	12.4	○	
2210	An			46	32	25	50.2		
2211	An	262.68	262.62	41	28	27	5.4	○	
2212	An	262.62	262.48	23	20	14	9.1	○	平面すり
2213	An	262.46	262.32	27	25	11	6.4	○	
2214	An	262.69	262.65	38	26	9	9.3		
2215	An	262.61	262.47	21	12	6	1.3	○	2個体
2216	An	262.49	262.37	33	22	12	12.2	○	平面すり　くぼみ石
2217	An	262.42	262.25	41	28	18	27.0	○	
2218	An	262.18	261.80	42	21	19	17.5	○	
2219	Wt	262.10	261.94	24	22	10	5.7	○	
2220	An	262.08	261.90	54	23	19	37.7	○	
2221	An	262.01	261.77	31	22	19	20.1		
2222	Wt	262.06	261.96	26	21	11	3.4		
2223	An	262.12	261.86	57	27	20	37.9	○	
2224	An	262.12	261.93	24	20	17	14.3	○	
2225	An	262.15	261.89	33	27	16	22.6		
2226	An	262.14	261.90	41	19	17	19.9		
2227	An	261.98	261.90	9	6	4	0.2	○	
2228	An	261.97	261.95	8	5	3	0.1		
2229	An	261.89	261.85	7	6	4	0.1		
2230	An	262.30	262.12	31	29	18	16.4	○	
2231	An	262.26	262.08	36	28	14	18.1		
2232	An	261.98	261.95	10	8	3	0.4		
2233	Wt	261.95	261.89	8	7	6	0.4	○	
2234	An	261.91	261.86						
2235	Wt	262.06	261.95	14	13	9	1.4	○	
2236	An	261.87	261.84	7	5	3	0.1		
2237	Sh	261.94	261.92	8	6	1	0.1		打製石斧
2238	An	262.02	261.89	18	11	7	1.2	○	
2239	KAn	262.10	262.02	20	17	14	6.7	○	
2240	An	262.17	262.03	27	17	16	9.7	○	
2241	An	262.15	262.06					○	
2242	An	262.12	261.99	37	29	8	8.8	○	
2243	An	261.95	261.94						
2244	Wt	262.01	261.93	17	16	6	1.7	○	

環状列石礫データ(35)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
2245	An	262.06	261.90	26	20	12	8.9	○	平面すり
2246	An	261.94	261.90	16	12	5	0.9	○	
2247	An	261.93	261.87	15	9	6	1.0		
2248	An	262.00	261.84	21	20	17	7.7	○	
2249	An	261.93	261.74					○	
2250	An	261.83	261.59	33	27	15	22.9		
2251	An	261.81	261.75						
2252	An	261.73	261.70	15	9	3	0.6	○	
2253	An	262.59	262.48	19	16	10	3.2		多孔石
2254	An	262.68	262.58	25	22	16	14.5		平面すり
2255	An	262.59	262.48					○	
2256	An	262.65	262.55	30	21	8	6.7	○	
2257	KAn	262.72	262.66	39	30	16	26.3	○	平面すり
2258	An	262.68	262.60	42	21	12	13.3	○	
2259	An	262.55	262.43					○	
2260	An	262.54	262.47	22	19	7	2.2	○	
2261	An	262.59	262.52	30	24	7	6.3	○	
2262	An	262.63	262.36	34	22	13	14.7		
2263	Wt	262.54	262.38	32	31	14	11.0		
2264	An	262.49	262.39	26	24	9	6.5	○	
2265	An	262.47	262.31	22	13	10	3.0	○	2個体
2266	An	262.40	262.31	14	11	8	1.2	○	2個体
2267	An	262.55	262.49	36	26	11	13.5	○	
2268	An	262.45	262.27	21	19	13	10.7		平面すり
2269	Wt	262.34	262.29					○	
2270	An	262.49	262.40	40	26	16	18.3	○	
2271	An	262.37	262.25	27	15	14	5.2	○	
2272	An	262.33	262.24	12	9	8	1.2		
2273	An	262.14	261.86	81	42	19	94.2	○	
2274	Wt	262.02	261.90	29	26	12	7.6	○	
2275	An	262.04	261.89	25	22	13	8.8	○	
2276	Ab	262.00	261.87	21	14	9	4.4	○	
2277	An	261.94	261.82	16	13	12	2.1	○	
2278	An	262.08	261.91	33	18	15	12.2	○	
2279	An	262.11	261.84	46	26	18	34.0	○	
2280	An								
2281	An	262.12	261.93	33	22	18	14.4	○	
2282		262.21	262.06	28	28	15	16.2		
2283		262.18	262.08	48	34	11	18.8		
2284		261.93	261.88	16	6	5	0.3		
2285		261.95	261.72	38	29	15	18.2		
2286	An	261.93	261.89	9	9	3	0.4		
2287	An	261.87	261.83	10	7	4	0.3		
2288	An	261.95	261.66	33	17	12	8.3		
2289	An	261.99	261.88	26	22	11	10.3		
2290	An	261.83	261.76	11	7	5	0.5		
2291	An	261.82	261.75	9	9	6	0.6	○	
2292	An	261.83	261.77	11	9	6	0.6		
2293	An	262.07	261.80	34	30	14	20.0	○	
2294	An	262.23	262.00	36	24	21	28.4	○	
2295	Wt	262.00	261.82	21	15	9	2.3	○	
2296	An	261.92	261.88	14	8	4	0.6		
2297	An	262.02	261.92	28	18	9	7.0	○	
2298	An	261.99	261.84	35	22	13	12.0		
2299	An							○	
2300	An	261.80	261.75	11	11	5	0.7	○	
2301	An	261.76	261.72	11	11	5	0.6	○	
2302	An	261.72	261.66	12	8	5	0.5		
2303	An	261.70	261.65	20	11	6	1.0		
2304	An	261.67	261.65						
2305		261.68	261.66						
2306	An	262.83	262.72	45	30	11	10.3	○	
2307	An	262.65	262.51	37	28	18	23.7		
2308	An	262.40	262.27	29	19	12	10.0	○	
2309		262.10	262.07						
2310	An	261.92	261.86	16	8	6	1.0		

環状列石礫データ(36)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
2311	An	262.17	262.03	28	23	15	10.6		
2312	An	262.01	261.98					○	
2313	An	262.09	261.86					○	
2314	An	262.17	262.07	32	24	10	9.0		
2315	An	262.02	261.90	25	20	12	7.3	○	
2316	An	262.06	261.90	22	18	17	7.3	○	
2317	An	261.96	261.93					○	
2318	KAn	261.98	261.75	37	24	22	28.1		
2319	An	261.77	261.75	6	5	3	0.1		
2320	An	261.78	261.74	9	6	3	0.2		
2321	An	261.75	261.72	6	6	3	0.1		
2322	An	261.77	261.72	8	6	3	0.2		
2323	Wt	261.92	261.67					○	
2324	An	261.84	261.79	12	12	5	0.8	○	
2325	An	261.92	261.76	35	25	23	20.5		
2326	Wt	261.81	261.70	19	14	8	1.8	○	
2327	An	261.72	261.66	10	9	7	0.7	○	
2328	An	261.85	261.76	26	21	12	12.0	○	くぼみ石
2329	An	261.70	261.63	13	8	6	0.8	○	
2330	An	262.13	262.06	18	15	7	2.5		くぼみ石
2331	An	262.22	262.09	34	27	12	10.5	○	平面すり？
2332	Wt	262.12	261.95	30	22	11	12.2		
2333	An	262.03	261.92	22	18	7	4.0		
2334	An	262.08	261.85	35	22	22	20.9	○	
2335	An	262.08	261.92	21	16	15	7.0	○	
2336	An	262.17	261.83	34	26	18	20.1	○	
2337	An	262.16	161.88	34	25	25	30.1		
2338	An	261.99	261.77	26	20	20	14.2		
2339	An	261.84	261.78	10	7	4	0.4		
2340	An	262.08	261.90	27	25	14	15.9		
2341	An	262.16	261.90	40	33	25	40.2		
2342	An	262.13	261.94	24	16	9	6.7		
2343	An	262.04	261.84	21	11	7	2.2	○	
2344	Wt	262.19	262.08	17	13	8	1.2		
2345	An	262.03	261.96	10	5	4	0.2		
2346	An	262.00	261.93	12	10	7	0.9	○	
2347	An	261.69	261.64	17	6	5	0.6		
2348	An	261.90	261.81	12	8	5	0.8		
2349	Sc	261.95	261.81	20	14	2	0.8		石皿
2350	An	261.77	261.71	10	8	4	0.4		
2351	An	261.92	261.88	9	7	3	0.2		
2352	An	261.77	261.63	30	24	9	8.7		
2353	An	261.67	261.46	25	17	15	9.7	○	
2354	An	261.78	261.67	24	23	13	6.8		平面すり　くぼみ石
2355	An	261.70	261.59	28	24	20	14.5	○	
2356	An	261.39	261.27	25	17	9	6.8	○	平面すり
2357	An	262.14	261.96	52	36	18	43.5	○	
2358	An	261.84	261.66	27	20	15	13.1	○	
2359	KAn	261.85	261.67	39	32	15	25.9		
2360	An	261.83	261.67	26	24	15	11.7		平面すり
2361	An	261.69	261.63	11	7	6	0.6		
2362		261.78	261.63	31	28	16	18.2		
2363		261.69	261.48	27	17	14	8.0		
2364		261.58	261.54	8	7	5	0.3		
2365	An	261.58	261.50	20	8	8	1.5	○	
2366	SS	261.51	261.45	10	7	4	0.4		
2367	An	261.64	261.47	31	30	18	23.2		
2368	An	261.36	261.30	46	30	13	24.4	○	
2369	An	261.31	261.21					○	
2370	An	261.43	261.34	35	31	16	16.5	○	
2371	An	261.14	261.08	39	28	9	11.0		
2372	An	261.79	261.69	31	31	14	13.1	○	平面すり
2373	An	261.62	261.46	40	28	20	24.7		
2374	An	261.32	261.27	11	8	5	0.6		
2375	An	261.26	261.04	41	28	21	30.0	○	平面すり
2376	KAn	261.35	261.26	13	9	8	2.3		平面すり

環状列石礫データ(37)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
2377	An	262.14	262.11						
2378	An	262.12	262.06						
2379	An	262.12	262.08						
2380	An	262.12	262.07				0.11		
2381	An	262.12	262.07				0.1	○	
2382	An	261.98	261.91						
2383	An			20	14	13	3.5		
2384	An							○	スクレイパー？
2385	An			10	7		0.15		
2386	An	261.72	261.67	38	25	9	13.7		
2387	An				9				
2388	An	262.08	262.03	15	10	3	0.5		
2389	An	262.08	261.99	14	10	8	1.4		
2390	An	262.11	262.06	7	6	4	0.2		
2391	An	262.11	262.07	7	6	4	0.2		
2392	An	262.16	262.00	8	6	5	0.2		
2393	An	262.20	262.97	30	24	20	22.5	○	
2394	An			7	6	4			
2395	An			6	5	1			
2396	An	262.13	262.09	7	4	3	0.1		
2397	An	262.07	262.01	8	6	4	0.2		
2398	An	261.93	261.87	12	7	6	0.7		
2399	An	261.99	261.95	8	5	3	0.5		
2400	An	262.21	262.11	35	9	8	1.1		
2401	An								
2402	An	262.01	261.97	7	5	4	0.1		
2403	An	262.01	261.89	16	13	10	2.8	○	
2404	An	262.00	261.92	12	9	4	0.5		
2405	An								
2406	An	262.21	262.16	7	6	3	0.1		
2407	Ch	262.13	262.08	7	5	4	0.2		
2408	An	262.14	262.09	11	8	5	0.5		
2409	An			42	30				すり石
2410	An			37	20			○	
2411	An	262.32	262.28					○	
2412	An	262.34	262.22				3.2	○	
2413	An	262.27	262.10	31	27	8	13.0	○	多孔石
2414	An	262.17	262.15	32	22	8	4.6		
2415	An	262.25	262.18	17	21	6	4.8		
2416	An	262.26	262.17	13	13	8	2.2	○	
2417	An	262.28	262.16	18	14	9	7.4	○	
2418	An	262.31	262.20	26	16	5	3.3	○	
2419	An	262.25	262.12	24	21	8	3.7	○	
2420	Ch	262.22	262.11	19	17	5	2.2	○	
2421	An	262.35	262.04	36	29	24	32.6	○	
2422	Wt	262.33	262.09	30	29	12	13.2		
2423	An	262.45	262.30	48	31	16	31.9	○	
2424	An	262.13	262.05	19	19	6	2.9	○	
2425	An	262.17	262.13	9	6	4	0.2		
2426	An	262.20	262.13	15	13	5	1.3	○	
2427	An			6	4				
2428		262.19	262.14	12	7	4	0.4		
2429	An	262.14	262.08	7	6	5	0.2		
2430	An	262.26	262.22	8	6	4	0.2		
2431	An			10	6	4			
2432	An			12	10			○	
2433	An			19	12	10		○	
2434	An	261.87	261.73	22	16	13	5.0		
2435	An	262.03	261.94	12	7	3	0.2		
2436	An			17	9				
2437	An			18	6				
2438	An			12	6				
2439	An	261.85	261.77	9	7	4	0.3		
2440	An	261.64	261.40	34	26	15	19.8		
2441	An	262.22	262.04	27	24	17	14.7		
2442	An	262.16	262.10	9	6	5	0.4		

環状列石礫データ(38)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備考
2443	An	262.19	262.16	6	6	4	0.2		
2444	An	261.90	261.70	31	22	16	14.6	○	
2445	An	261.91	261.83	13	12	8	1.5		
2446		262.04	261.94	27	25	9	7.7	○	
2447	KAn	261.62	261.5	16	16	4	1.7		石皿
2448	Wt			17	14	8		○	
2449	An	261.73	261.51	36	28	26	25.2		
2450	An			10	6	3	0.2		
2451	An			7	5			○	
2452	An	261.52	261.36	24	17	16	7.7		
2453	An	251.58	261.41	25	20	16	9.0	○	
2454	An	262.03	261.97	8	5	5	0.2		
2455	An	261.83							
2456		261.17							打製石斧
2457	An	261.78							
2458	An	261.51	261.45	9	8	4	0.2		
2459	An	261.54	261.48	10	5	3	0.2		
2460	An	261.54	261.48	12	7	5	0.5	○	
2461	An	261.46	261.29	20	17	13	5.2	○	
2462	An			7	4	1			打製石斧
2463	An	262.09	262.06	12	5	3	0.1		打製石斧
2464	An	261.85	261.80	10	10	5	0.6		
2465	An	262.11	262.07	9	6	3	0.2		
2466	An	262.24	262.21	7	6	3	0.2		
2467	An	262.24	262.21	8	5	2	0.1		
2468	An	262.37	262.31	9	6	4	0.2		
2469	An	262.09	262.07	6	5	2	0.1		
2470	An	262.40	262.24	22	20	16	10.5	○	
2471		262.18	262.13	13	7	5	0.3		
2472	An	262.18	262.04	18	12	4	1.0		
2473	An	262.07	261.99	11	9	7	0.8		
2474	An	261.93	261.87	8	5	3	0.1		
2475	An	261.92	261.75	17	13	9	2.5		石皿
2476	Ch	262.10	262.06	10	8	4	0.3		
2477	An	262.10	262.02	10	8	4	0.3	○	
2478	An	262.11	262.07	8	6	5	0.2		
2479	An	262.02	261.97	8	6	5	0.2	○	
2480	An	262.13	262.01	14	10	9	1.5		
2481	An	261.98	261.91	17	12	7	1.5	○	
2482	An	262.09	262.04	9	6	4	0.2		
2483	An	262.12	262.07	7	5	4	0.2		
2484	An	262.11	262.06	10	5	2	0.1		
2485	An	262.26	262.18	9	7	5	0.3		
2486	An	262.13	262.08	11	8	6	0.4		
2487	An	262.17	262.12	14	9	5	0.7		
2488	An	262.07	261.94	17	13	11	4.0	○	
2489	An	262.02	261.91	13	11	9	1.4		
2490	An			8	6	4	0.2	○	
2491	An	262.11	262.09	14	10	2	0.1	○	
2492	Ch	262.05	262.00	7	5	4	0.2		
2493	An	262.07	262.01	13	7	4	0.5	○	
2494	An	262.04	261.98	10	6	6	0.5	○	
2495	An	262.04	261.99	7	5	5	0.2		
2496	Ch			12	8				
2497	An	261.89	261.69	32	24	15	0.5		
2498	KAn	261.83	261.67	18	18	16	0.5		
2499	An	261.66	261.62	16	15	3	0.7		
2500	An	262.00	261.95	9	6	4	0.2		
2501		261.92	261.89	10	7	3	0.3		
2502	An			7	6	3			
2503	An			7	5	3			
2504	An			9	7	4			
2505	An			9	7	5			
2506	An	261.99	261.90	15	12	9	1.7		
2507	Ch	261.98	261.94	7	4	4	0.1		
2508	An	262.17	262.08	11	8	8	0.7		

環状列石礫データ(39)

番号	石材	レベル上(m)	レベル下(m)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	被熱	備　　考
2509	An	261.97	261.91	10	9	4	0.3		
2510		261.99	261.94	8	6	3	0.2		
2511	An	261.96	261.92	10	6	4	0.2		
2512	An	262.16	262.10	8	5	3	0.1		
2513	An	261.99	261.92	10	8	5	0.3		
2514	An	262.00	261.93	13	9	7	1.0		
2515	An	262.03	261.95	8	6	5	0.2		
2516	An	262.14	262.13			2			打製石斧
2517	An	262.14	262.07	10	8	5	0.5		
2518	An	262.20	262.13	14	13	4	0.8		
2519	An	262.12	262.08	7	5	2	0.1		

住居址（第148・150・152・155・158・161・164・166・167・171・173・176・178・180・182図）

住居址諸元

住居址	時期	炉址		主軸(cm)	主体部規模(cm)	柄部規模(cm)	主軸方向	備考
		石囲	埋設					
J—10	E 4	○		—	—	—	N— 15°—E	
J—11	E 4			420	300×320	120× 80	N— 31°—E	
J—12	E 4	○		560	340×320	220× 80	N— 7°—E	
J—13	E 4	○	○	640	380×380	260×120	N— 3°—E	J—14住と重複
J—14	E 4	○		(340)	340×360	—	N— 13°—E	J—13住と重複
J—15	E 4	○		500	360×340	140× 80	N—157°—E	
J—16	E 4	○		(460)	460×420	—	N—150°—E	
J—17		○		(500)	500×480	—	N—140°—E	
J—18	E 3 IV	○		560	400×340	160× 80	N—170°—E	
J—19	E 3 IV			—	—	—	N—174°—E	
J—21	E 3 IV			540	320×320	220× 80	N— 2°—E	
J—22	E 3 IV	○		620	420×400	200× 80	N— 6°—E	
J—28	E 3 IV	○		—	—	—	N— 5°—E	
J—34	E 3 IV	○		440	280×300	160× 80	N—128°—E	

環状列石及び列石間に、加曽利E 3式期～加曽利E 4式期の敷石住居址が14軒検出された。列石付近の住居址は遺存状態も比較的良好であるが、環状列石から南にかけての住居址は遺存状態が悪い。しかし遺存状態の良い住居も、立ち上がり（壁）を確認することは出来なかった。

これらのうち、列石間で確認されたJ—11・J—12・J—13・J—18・J—21号住居址は、遺存状態の良好な柄鏡型敷石住居址で、特にJ—13・J—18号住居址は状態が良好である。

J—11号住居址は、円形主体部と柄部の周礫が確認され、床面の敷石は周礫部分に一部残存しているだけで、そのほとんどは確認されなかった。柄部の連結部分には盤状の円礫が置かれ、そこから長方形の柄部が伸びている。炉は確認することが出来なかった。

J—12号住居址は、円形主体部北側の周礫と柄部連結部の埋甕、柄部先端の埋甕が確認された。床面の敷石は、周礫部分に一部残存しているだけでほとんど確認されなかった。柄部については、前述した埋甕が確認されただけで、敷石等は確認されなかった。炉は石囲炉の残骸が確認されたが堀込みは認められなかった。

J—13号住居址は、長方形のしっかりとした柄部が連結していて、板状の礫を縦に置いて壁面を作り、その中に敷石が施されている。隅丸方形の住居主体部は、下層の前期の住居址の影響で床面が周礫・敷石と共に落ち込んでしまっているが、ほぼ中央に石囲炉を持ち、柄部との連結部には埋設土器が設置されている。周礫・敷石の下部には壁柱穴がまわり、連結部には対ピットも検出された。また、列石1との重複関係を持つJ—14号住居址と隣接している。J—14号住の東南部分が確認できず、新旧関係を確認することはできなかったが、出土遺物や住居址の遺存状況などから、J—14号住→J—13号住の新旧関係が推測される。

J—14号住居址は、円形主体部の周礫とそれに伴う敷石が一部分認められた。前述したとおり

東南部分は認められなかったが、円形主体部の中央には石囲炉が確認された。そして北壁にあたる周礫は列石１と重複し、Ｊ―14号住→列石１の切り合い関係が考えられる。周礫の下部にはＪ―13号住同様壁柱穴が確認された。

Ｊ―18号住居址は、円形主体部の南西一部を除き敷石が施されている。敷石は大きな板状の礫や板状節理の安山岩を敷き詰め、目地の部分に小礫を埋めるなどし、周到に敷石を施している。また、敷石は部分的に被熱を受けている部分や、擦れて表面が滑らかになっている部分が確認された。柄部は、連結部の敷石と先端部の周礫の一部分しか検出されなかったため、平面形ははっきりとしないが、長方形のものと推測される。埋設土器は検出されず、敷石下部に柱穴などの施設も確認されなかった。

Ｊ―21号住居址は、隅丸方形の主体部を持つ。主体部は周礫が良く残り、敷石も部分的に残存していた。柄部の遺存状態は悪く、先端の埋甕と敷石の一部が確認されたのみである。埋甕は柄部先端の物の他、柄部連結部と主体部南東隅にも確認された。炉は確認することが出来なかった。

住居址出土の土器を検討すると、環状列石の北側に存在する住居址の土器の方が多少新しい傾向を示している。そして、Ｊ―14号住居が列石１に先行する可能性を持っているため、住居と列石は多少の時間差を持ちながら、環状列石を中心から外側（北側）に向けて広がっていった可能性が伺われる。

埋設土器（第192・193図）　環状列石を囲むように埋設土器10基が検出された。これらはいずれも住居などの遺構に伴わない単独の埋設土器である。掘り込みを伴った正位の埋設土器が５基、逆位の埋設土器５基が確認された。逆位のものの多くは顕著な掘り込みが認められず、伏せて置かれた所謂「伏せ甕」ような状態であったと推測される。

Ｕ―８は列石１に隣接した北側に確認されたが、他の埋設土器はすべて環状列石の外側を取り囲むように検出されている。土器の時期をみると、加曽利Ｅ３式期～Ｅ４式期の土器であり、前述の環状列石直下から出土した土器とともに、環状列石の構築時期を知る上での重要な資料といえる。

炉址（第185・186・187図）　埋設土器同様環状列石の外側に炉址が13基検出された。これらは環状列石の東から南側に掛けて分布している。いずれの炉址も、周辺に礫の散布は見られるが、柱穴と思われる遺構は確認されていない。そのため、調査時には住居に伴わない単独炉として判断していたが、炉の形態や周辺に散布している礫の状況、また遺存状態の良くない敷石住居址の状態を考え合わせると、敷石を抜き取られてしまった住居の残痕と考えることが出来そうである。特に炉８・炉９については、板状の円礫や礫下に小ピットなども確認されている。

住居址の残痕と見た場合、住居址が環状に配置されていることがわかる。そして、その中心部分に環状列石が構築されている。(第369図)

炉址諸元

炉址	平面形	規模(cm)	備　　考
1	円形	84×70	深い堀込みを持つ。覆土に炭化物を若干含む。
2	円形	92×84	堀込みは浅いがしっかりと礫で囲われている。
3	円形	84×76	浅い堀込みを持つ。
4	円形	68×56	浅い堀込みを持つ。
5	長方形？	68×—	覆土に炭化物を少量含む。
6	円形	84×80	深い堀込みを持つ。覆土に炭化物を微量含む。
7	長方形	—×—	炉部分に顕著な堀込みは見られないが、周辺部に浅い堀込みが確認される。
8	長方形	70×60	深い堀込みを持つ。堀込み底面にも礫が敷かれる。
9	長方形	92×50	深い堀込みを持つ。
10	長方形？	68×—	堀込みもなく遺存状態は悪い。
11	長方形	72×58	深い堀込みを持つ。覆土に炭化物を微量含む。
12	長方形	—×—	
14	長方形？	—×60	深い堀込みを持つ。覆土に焼土が含まれる。

(千田・鬼形)

10号住居址出土土器（第149図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	11区	口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	やや良 黄橙	口縁部破片	
2	６区	口縁部に横位の隆帯が廻る。	－×－×－	やや良 橙	口縁部破片	
3	炉	隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
4	炉	隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
5	炉	隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	
6	10区	胴部中位に最大径を有する土器。無文。	－×5.6×(14)	良 黄橙	胴部～底部	埋甕

11号住居址出土土器（第151図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	Ｎ－８ｃ	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。単節ＬＲを横位施文する。	－×－×－	良 暗赤褐	口縁部破片	
2	Ｎ－９ａ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
3	Ｎ－８ｄ	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、隆帯上に単節ＬＲを横位施文する。胴部は沈線で文様施文し、単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	

12号住居址出土土器（第153・154図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	Ｌ－８ｂ	胴部上位が内彎して胴部中位で括れ、胴部下位がやや膨らむ。底部に脚部が付く土器。上下二段の文様構成。上段は沈線で「Ｕ」状区画文を、下段は「∨」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。	－×6.8×(18.4)	良 明褐	胴部～底部	
2	南埋甕	底部から直線的に開き、胴部上位に最大径を有する深鉢形土器。沈線を垂下して縦位区画し、無文帯と無節Ｌｒの縦位施文帯をそれぞれ一・二帯に分ける。	－×9.6×(34.8)	良 橙	胴部～底部	
3	北埋甕	口縁部がややすぼまる器形を呈する両耳壺であるが、把手部は欠損している。幅広の口縁部無文帯を有する。隆帯で円形区画文と楕円区画文を横位に配する。円形区画文内は単節ＲＬを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。楕円区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は単節ＲＬを横位・縦位施文する。	－×８×(21)	良 灰黄褐	胴部～底部	両耳壺

13号住居址出土土器（第156・157図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	Ｊ－８ｂ	口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＲＬの横位・縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	
2	Ｊ－８ｂ	隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄褐	胴部破片	
3	埋甕	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。単節ＬＲを横位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
4	炉	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で「∧」状区画文を配し、区画文内を無文とする。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	
5	Ｊ－８ｄ	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。単節ＬＲを横位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
6	Ｊ－８ｄ	隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
7	Ｊ－８ｂ	口縁部に横位の隆帯が廻る。	－×－×－	良 明赤褐	口縁部破片	
8	炉	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で「∨」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
9	埋甕	口縁部は直立し、胴部上位に強い張りを有する両耳壺であるが、把手部は欠損している。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。胴部は沈線で三角・半円等の六単位の文様を連続して配する。区画文内及び把手部下に単節ＬＲを横位・縦位施文する。	18×８×30	良 にぶい橙	口縁部～底部	両耳壺
10	Ｊ－８ａ３層	沈線で「∧」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
11	炉	沈線で「∧」状区画文を配し、区画文内を無文とする。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
12	Ｊ－８ａ	単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	把手部	
13	Ｊ－９ｂ	無文。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	
14	炉	無文。	－×6.3×(3.1)	良 橙	底部	
15	Ｊ－８ｂ	中央部が摘み状に高まり、横方向に穴を空ける。内外面共に良く磨かれている。	最大径×器高 7×(2.8)	良 にぶい黄	完形	蓋形土器
16	Ｊ－７ｄ３層	刺突を施す。	－×－×－	良 明黄褐	把手部	

14号住居址出土土器（第159・160図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	Ｉ－７ａ	口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	
2	炉	隆帯を垂下して縦位区画する。	－×－×－	良 明黄褐	胴部破片	
3	Ｉ－７ａ３層	隆帯とそれに沿う撫でにより渦巻文を配する。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 明黄褐	胴部破片	
4	Ｉ－７ａ３層	突起の側縁は口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する。突起下に細い沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内を無文とする。無節Ｌｒを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	突起を有する口縁部の破片	
5	Ｉ－７ｂ	突起の側縁は口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する。細い沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内を無文とする。無節Ｌｒを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	突起を有する口縁部の破片	
6	炉	胴部中位で括れ、口縁部が内彎する小型の深鉢形土器。四単位の波状口縁を有し、内一つが突起する。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。突起下に沈線で紡錘状区画文を配し、区画文内は無節Ｌｒを縦位施文する。上下に入り組ませて連続する「∨」・「∧」状区画文を配し、区画文内に無節Ｌｒを縦位施文する。	18.1×4.8×18.8	良 橙	突起を有する口縁部～底部	
7	Ｉ－７ｂ	隆帯を垂下して縦位区画する。	－×－×(25.2)	良 橙	胴部破片	
8	Ｉ－７ａ Ｉ－７ｂ Ｉ－７ａ３層	隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＲＬの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×(33)	良 橙	胴部破片	
9	炉 Ｅ－８ｄ２層	胴部下位より内彎気味に開き、口縁部がより内彎する土器。口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの横位・縦位施文帯を交互に施す。	42×－×(35.4)	良 橙	口縁部～底部	

15号住居址出土土器（第162・163図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	炉の周り２層	口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
2	Ｄ－10ｂ	隆帯で上下に入り組ませて「∪」・「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	
3	Ｅ－10ａ	沈線で「∩」状区画文を配すると思われる。区画文内を無文とする。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
4	炉の周り２層	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
5	Ｅ－９ｃ	二条の沈線で渦巻文を配する。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部破片	
6	Ｅ－９ｃ	口縁部が僅かに波状を呈する。口縁部無文帯を区画する横位の隆帯が廻り、波頂部で口端に接する。波頂部下に隆帯で楕円区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。上下に入り組ませて「∪」・「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×(24.6)	良 黄橙	口縁部～胴部	
7	北埋甕	口縁部は外反気味に直立し、胴部中位に最大径を有する両耳壺であるが、把手部は欠損している。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。沈線で八単位の「∧」状区画文を配し、区画文内を無文とする。単節ＬＲを縦位施文する。	21.5×7.4×27.6	良 にぶい橙	口縁部～底部	両耳壺
8	南埋甕	底部から胴部上位に向かって内彎気味に開き、口縁部がより内彎する深鉢形土器。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。以下胴部には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	33.8×8.5×40.4	良 にぶい橙	口縁部～底部	

16号住居址出土土器（第165図）

番号	出土位置	文　　様	法　　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　　存	備　考
1	炉	隆沈線で渦巻文を配すると思われる。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	

18号住居址出土土器（第168・169・170図）

番号	出土位置	文　　様	法　　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　　存	備　考
1	Ｈ－10ｃ３層	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
2	Ｈ－10ｃ３層	隆帯で文様施文し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
3	Ｉ－９ｃ３層	口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。無節Ｌｒを縦位施文する。	－×－×－	良 浅黄橙	口縁部破片	
4	Ｉ－10ｄ３層	沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に無節Ｒ１を横位施文する。	－×－×－	良 にぶい褐	口縁部破片	
5	Ｉ－12ａ	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを横位・縦位施文する。蕨手状沈線を垂下する。	－×－×－	良 浅黄橙	胴部破片	
6	Ｈ－10ｄ３層	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
7	Ｈ－10ｄ３層	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
8	Ｈ－11ｄ３層	二条の沈線を垂下して縦位区画し、０段多条ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
9	Ｉ－10ｄ３層	沈線で上下に入り組ませて連続する「∨」・「∧」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 褐	胴部破片	
10	Ｉ－10ｄ３層	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 明赤褐	胴部破片	
11	Ｈ－10ｄ３層	沈線を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＲＬの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 にぶい橙	胴部破片	
12	Ｈ－11ｂ３層	隆帯で渦巻文を配する。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい橙	胴部破片	
13	Ｈ－10ｃ３層	波状口縁の波頂部に突起を有する。口縁部無文帯を区画する横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して、縦位区画する。突起部より垂下した隆帯は、「∩」状区画文と連結する。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 浅黄橙	突起を有する口縁部の破片	
14	埋甕	胴部部上位に最大径を有し、口縁部が内彎する土器。口縁部に一つの橋状把手が付くが欠損している。口縁部に鍔状の高まりが廻る。口縁部及び鍔状の高まり上に、単節ＲＬを横位施文する。胴部は沈線で連続する八単位の波状文を配し、入れ子状に「∩」状区画文を配する。単節ＲＬを横位・縦位施文する。	24.5×－×(18.8)	良 灰褐	口縁部～胴部	
15	Ｈ－11ｂ３層	幅広の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。以下胴部には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
16	Ｈ－10ｃ３層	波状口縁。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。二条の沈線で「∩」状区画文を配すると思われる。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
17	Ｈ－10ｃ３層	波状口縁。口縁部無文帯を区画する沈線内に円形刺突を施す。二条の沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
18	Ｈ－10ｄ３層	波状口縁。口縁部無文帯を区画する沈線内に円形刺突を施す。二条の沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
19	Ｇ－10ｃ３層	波状口縁。波頂部下に瘤状の突起を有し、円形竹管により刺突を施す。口縁に沿ってと、円形刺突を囲むように刺突を施す。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
20	Ｈ－11ｄ	波状口縁。単節ＲＬを横位施文後、円形刺突を口縁に沿って施す。波頂部は二重に施す。口縁部文様帯を区画する沈線が廻る。胴部は隆帯で「∩」状区画文を配する。	－×－×－	良 にぶい褐	口縁部破片	
21	Ｈ－11ｂ３層	波状口縁。円形刺突を口縁に沿って施す。波頂部下に隆帯で円形区画文を配し、それに沿うように円形刺突を施す。胴部は隆帯で文様施文する。	－×－×－	良 にぶい褐	口縁部破片	
22	Ｉ－９ｂ３層	波状口縁の波頂部に付く突起部。口縁に沿うように刺突を施す。	－×－×－	良 橙	突起部	
23	Ｉ－10ｄ３層	橋状把手正面は、上方に舌状に突出している。橋状把手の側縁と連結する隆帯が弧を描いて上方に伸び、口縁部の横位の隆帯と接する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部・把手部	
24	Ｈ－11ｄ３層	橋状把手が胴部隆帯と連結する。沈線で文様施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	胴部・把手部	
25	Ｉ－10ｃ３層	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×７×(5.2)	良 明赤褐	底部	

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
26	H－11ｂ３層	無文。	－×8.2×(4.3)	良 橙	底部	
27	H－10ｃ３層	無文。	－×4.7×(2.9)	良 明赤褐	底部	
28	F－８ｃ３層 G－13　１層 H－10ｃ３層 H－10ｄ３層 H－11ｂ H－11ｄ１層 H－11ａ３層 H－11ｂ３層 H－11ｄ３層 Ｉ－10ｃ３層 Ｉ－10トレンチ Ｉ－11　１層 Ｉ－11ａ２層 Ｉ－11ｂ２層 Ｉ－11ｂ３層 Ｊ－10ａ３層 Ｊ－10ｃ３層 Ｊ－11　１層 Ｊ－11ａ３層 Ｋ－９ａ３層	口縁部が外反し、胴部上位に強い張りを有する大型土器。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。胴上部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内び胴上部は、単節ＲＬを横位・縦位施文する。胴下部は櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	26.5×(11)×50	良 橙	口縁部～底部	

19号住居址出土土器（第172図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	炉	胴部中位で括れ、口縁部が内彎する土器。口縁に沿って刺突を施す。単節ＲＬを横位施文する。	20×－×(14)	良 浅黄橙	口縁部～胴部	
2	埋甕	三本状の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×16	良 黄橙	胴部破片	

21号住居址出土土器（第174・175図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	O－11ｂ	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 暗褐	口縁部破片	
2	O－11ｂ	波状口縁。口縁部無文帯を区画する沈線内に刺突を施す。二条の沈線で渦巻文を配する。単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
3	O－10ｄ	胴部張り出し部に横位の隆帯を二条施し、隆帯の斜面に沿って押捺を加える。横位の隆帯と連結する隆帯が垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＲＬの横位施文帯を交互に施す。張り出し部より上部は、隆帯で「∪」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを横位・縦位施文する。蕨手状沈線を垂下する。	－×－×－	良 暗赤	胴部破片	
4	O－10ｄ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×8.4×(17.5)	良 明赤褐	胴部～底部	
5	O－11ａ	胴部中位に最大径を有し、口縁部が外反する小型の土器。胴部中位に橋状把手が一つ付く。幅広の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＬＲを横位施文する。	11.8×５×15.8	良 明赤褐	口縁部～底部把手部	縄文施文部の摩滅が著しい。
6	O－11ｂ	無文。	－×6.4×(5.5)	良 橙	底部	
7	O－11ｂ	隆沈線で渦巻文を主体として曲線文を配する。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 褐灰	胴部破片	
8	東埋甕	隆帯を垂下して縦位区画し、部分的に櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×８×(17)	良 にぶい橙	胴部～底部	
9	北埋甕	胴部中位で括れ、胴部上位が丸く膨らむ土器。胴部括れ部を境に上下二段の文様構成。胴上部文様帯は、隆帯で渦巻文を四単位配する。胴下部文様帯は、隆沈線で「∩」状区画文を配し、それぞれの区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文する。	－×8.8×(31.2)	良 明赤褐	胴部～底部	
10	O－11ａ	胴部上位に最大径を有する両耳壺。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。胴部は七～八本単位の櫛歯状工具による条線を、やや右カーブを描いて二cm程の間隔を置いて施文する。	－×７×(25)	良 橙	胴部～底部 把手部	両耳壺

22号住居址出土土器（第177図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	南埋甕	底部から直線的に開き、四単位の小波状口縁を有する土器。無文。	23.8×7.8×(27.4)	良 橙	口縁部～底部	
2	Q－11	口縁部は外反気味に直立し、胴部上位に最大径を有する両耳壺。幅広の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で丁字状文を八単位区画する。区画文内は単節ＬＲを横位・縦位施文する。	26.8×７×30.4	良 にぶい橙	口縁部～底部把手部	両耳壺

28号住居址出土土器（第179図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	J－23b	二条の沈線で「∩」状区画文を配する。区画文内は単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄褐	口縁部破片	
2	K－23a	櫛歯状工具による条線を横位・斜位に施す。	－×－×－	良 明黄褐	口縁部破片	
3	炉	単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	

34号住居址出土土器（第181図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	E－18a	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
2	E－18a	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
3	E－18a	三条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
4	E－18a	一条または二条の沈線で、上下に「∪」・「∩」状区画文を配する。区画文内は単節ＲＬを縦位施文する。「∩」状区画文の頂部に粘土を盛り、蕨手状沈線を垂下する。	－×－×－	良 浅黄橙	胴部破片	
5	E－18a	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×6.4×(7.5)	良 にぶい黄橙	胴部～底部	
6	炉	橋状把手正面は、上方に舌状に突出している。	－×－×－	良 橙	把手部	

37Ａ号住居址出土土器（第183図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	出土位置不明	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良	口縁部破片	
2	16区１層	口縁部に無文帯を有する。沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内を無文とする。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良	口縁部破片	
3	P－11	口縁部に無文帯を有する。沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内を無文とする。単節ＲＬを横位・縦位施文する。	－×－×－	良	口縁部破片	
4	８区１層	隆帯で渦巻文を配すると思われる。単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良	胴部破片	
5	P－11	無文。	－×７×(6.7)	良 明赤褐	底部	

炉７出土土器（第188図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	O－17b ３層	小波状口縁。口縁部文様帯は、沈線で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを縦位施文する。波頂部下に円形刺突を施す。胴部は沈線を垂下して、縦位区画する。	－×－×－	良 暗灰黄	口縁部破片	
2	O－17b ３層	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	

炉８号住居址出土土器（第189・190図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	N－20b	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＬＲを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
2	N－20d ３層	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＬＲを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	－×－×－	良 にぶい橙	胴部破片	
3	N－20d ３層	隆帯で「∩」状区画文を配する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
4	N－20 b	幅狭の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。対の刺突が施され、それより二条の沈線を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＲＬの縦位施文帯を交互に施す。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
5	N－20 b	二条の沈線で「∩」状区画文を配し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
6	N－20 d	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい橙	胴部破片	
7	N－20 b N－20 c N－20 d N－20 d 3層	口縁部が直線的に開き、胴部中位で括れる土器。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。以下胴部には、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	32.4×－×(28.8)	良 赤橙	口縁部～胴部	

炉９号住居址出土土器（第191図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	O－20 c	口縁部無文帯を区画する沈線が廻るが、一部途切れる。口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
2	O－20 c	隆沈線で渦巻文を配し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
3	O－20 c	二条の隆沈線を垂下して縦位区画する。隆沈線で渦巻文を配し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
4	O－20 c	隆沈線で「Ｕ」状区画文を配し、連結して隆沈線を垂下する。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
5	O－20 c	底部から胴部上位に向かって内彎気味に開き、口縁部がより内彎する深鉢形土器。口縁部は櫛歯状工具による条線で渦巻文をやや乱雑に描く。胴部は条線を縦位施文する。	20.9×5.9×28.4	良 橙	口縁部～底部	

環状列石直下の出土土器（第124図）

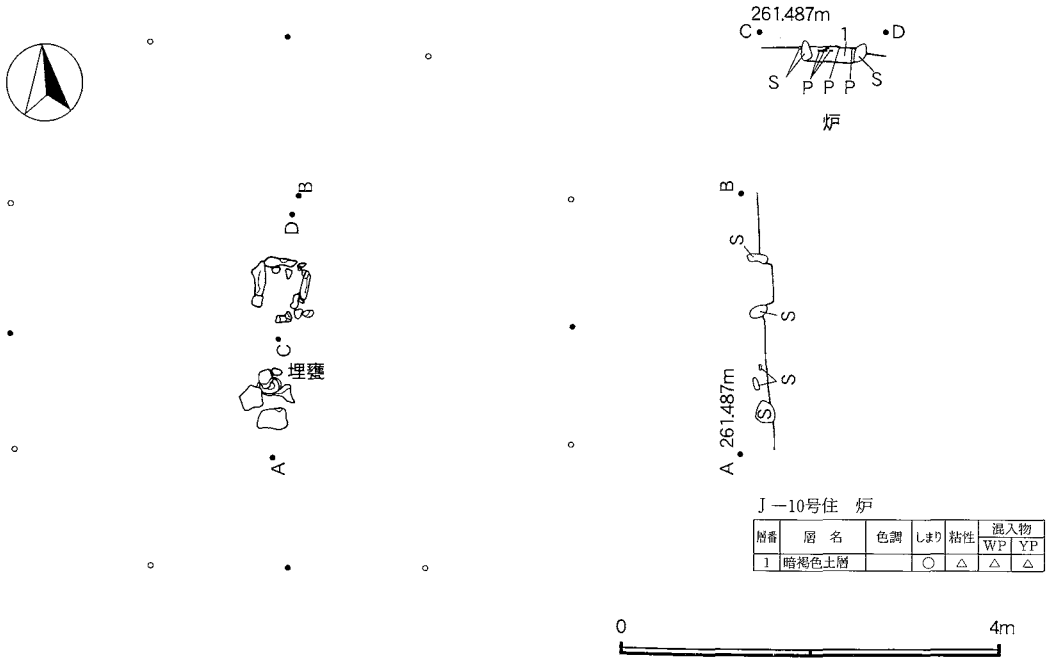
番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	J－14 環状列石直下	底部は小さく口縁部に向かって大きく開く鉢形土器。口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。以下胴部には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	38×７×23.1	良 にぶい橙	口縁部～底部	
2	J－14 環状列石直下	胴部上位に最大径を有する土器。口縁部に一対の耳状突起を有する。口縁部文様帯は、隆帯で円形区画文と連結する楕円区画文を横位に配する。区画文内は無節Ｌｒを横位・縦位施文する。胴部は円形区画文下に三条の沈線を垂下して縦位区画し、無節Ｌｒを横位・縦位施文する。胴下部の一部に櫛歯状工具による条線文を縦位施文する。	33.2×－×(23.6)	良 浅黄橙	突起部・口縁部～胴部	
3	J－14 環状列石直下	口縁部は内彎し、胴部中位で括れる深鉢形土器。口縁部文様帯は、隆帯で曲線文と楕円区画文との組み合わせによる区画文を横位に配する。区画文内は単節ＬＲを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	43×－×(41)	良 にぶい橙	口縁部～胴部	
4	J－14 環状列石直下	胴部中位で括れ、口縁部が強く内彎する土器。口縁部文様帯は、隆帯で曲線文と楕円区画文との組み合わせによる区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。縄文帯内に波状の蕨手状沈線を垂下する。	37×－×(27.7)	良 にぶい橙	口縁部～胴部	

埋設土器土器（第194図）

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	埋甕－５	胴部中位が“く”の字状に括れる。沈線で八単位の「Ｕ」・「∩」状区画文を上下２段に配する。区画文内は不揃いな列点・短沈線を施す。	－×－×(17)	良 にぶい橙	胴部	
2	埋甕－９	直線的な胴部から内彎する口縁部を有する土器。口縁部文様帯は、隆帯で曲線文と楕円区画文との組み合わせによる区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	40×－×(26.9)	良 浅黄橙	口縁部～胴部	
3	埋甕－10	口縁部が内彎する土器。口縁部文様帯は、曲線文と楕円区画文との組み合わせによる区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	29×－×(12)	良 橙	口縁部～胴部	

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
4	埋甕－12	胴部から直線的に開き、口縁部が内彎する土器。隆沈線で三角形と「∩」状区画文を配する。区画文内に単節ＲＬを横位・縦位施文する。一部施文されない区画がある。	27×－×(13)	良 橙	口縁部～胴部	
5	埋甕－11	直線的な胴部から内彎する口縁部を有する土器。口縁部文様帯は、隆帯で五単位の楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文部する。	37.8×－×(27.5)	良 浅黄橙	口縁部～胴部	
6	埋甕－13	口縁部は外反気味に直立し、胴部上位に最大径を有する両耳壺であるが、把手部は欠損している。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は八～九本単位の櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	28×－×(23.3)	良 橙	口縁部～胴部	両耳壺
7	埋甕－15	口縁部は外反し、胴部上位に最大径を有する両耳壺であるが、把手部は欠損している。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。隆帯で円形区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを横位施文する。沈線で円形区画文を配し、区画文下に蕨手状沈線を垂下する。沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文する。	32.4×－×(17.7)	良 橙	口縁部～胴部	両耳壺

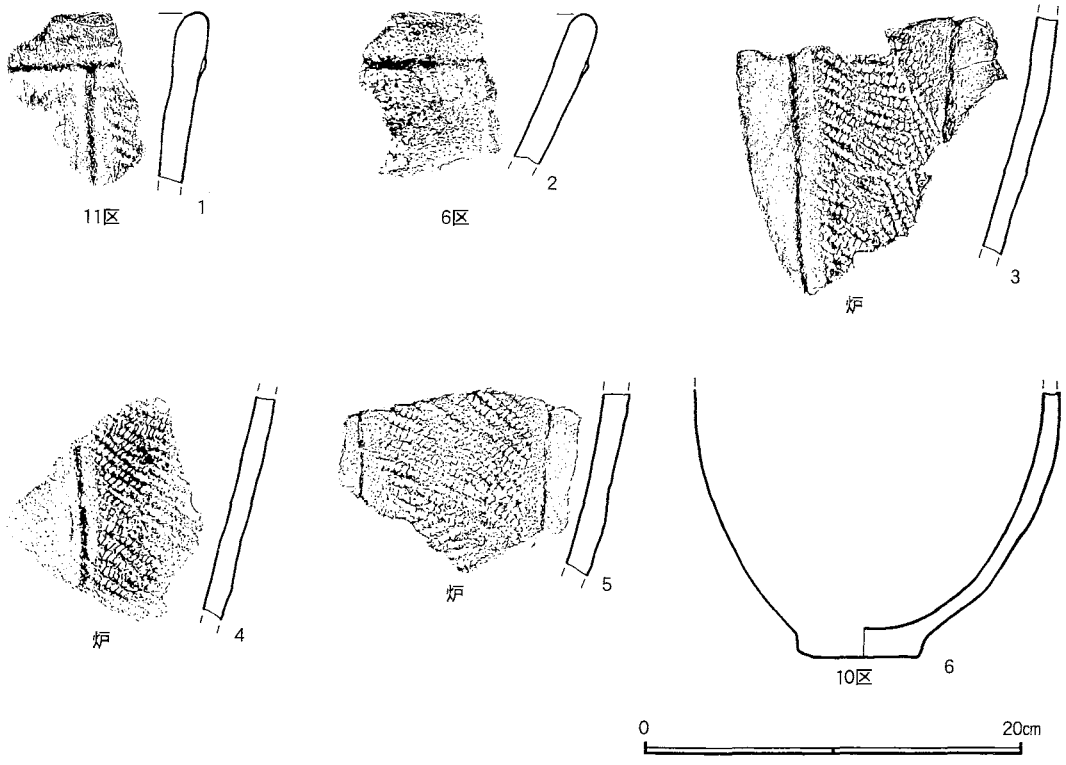
（鬼形）



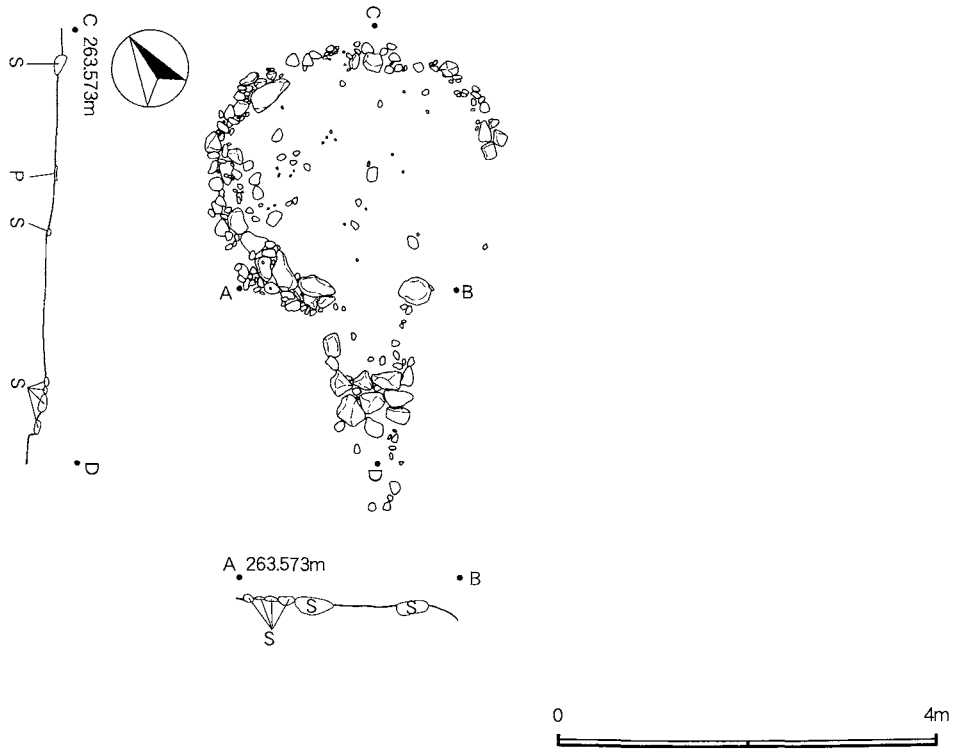
Ｊ－10号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

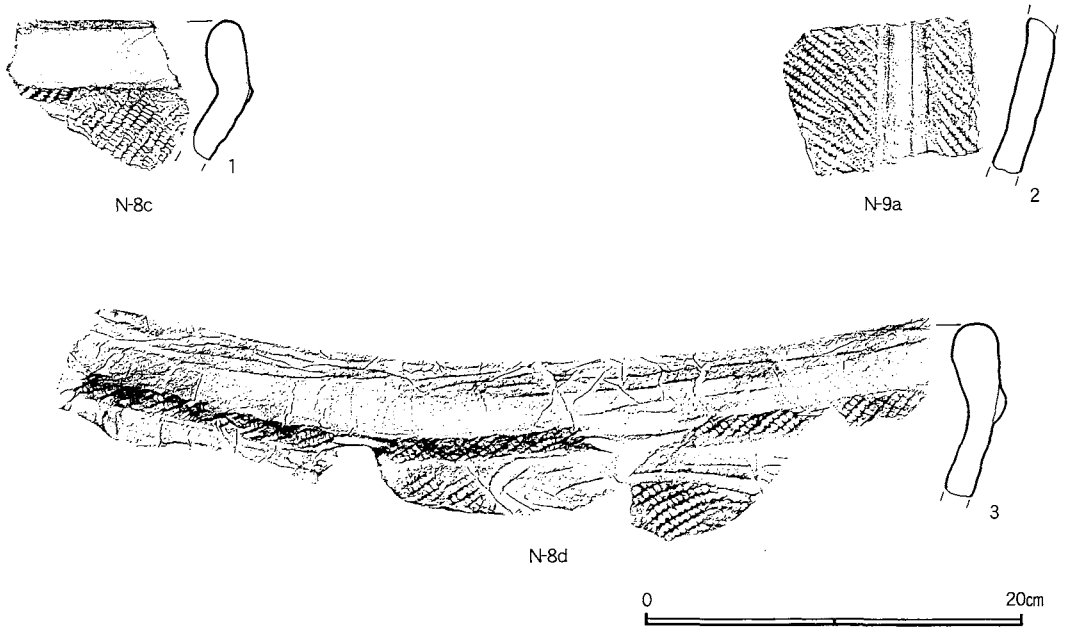
第148図　Ｊ－10号住居址実測図



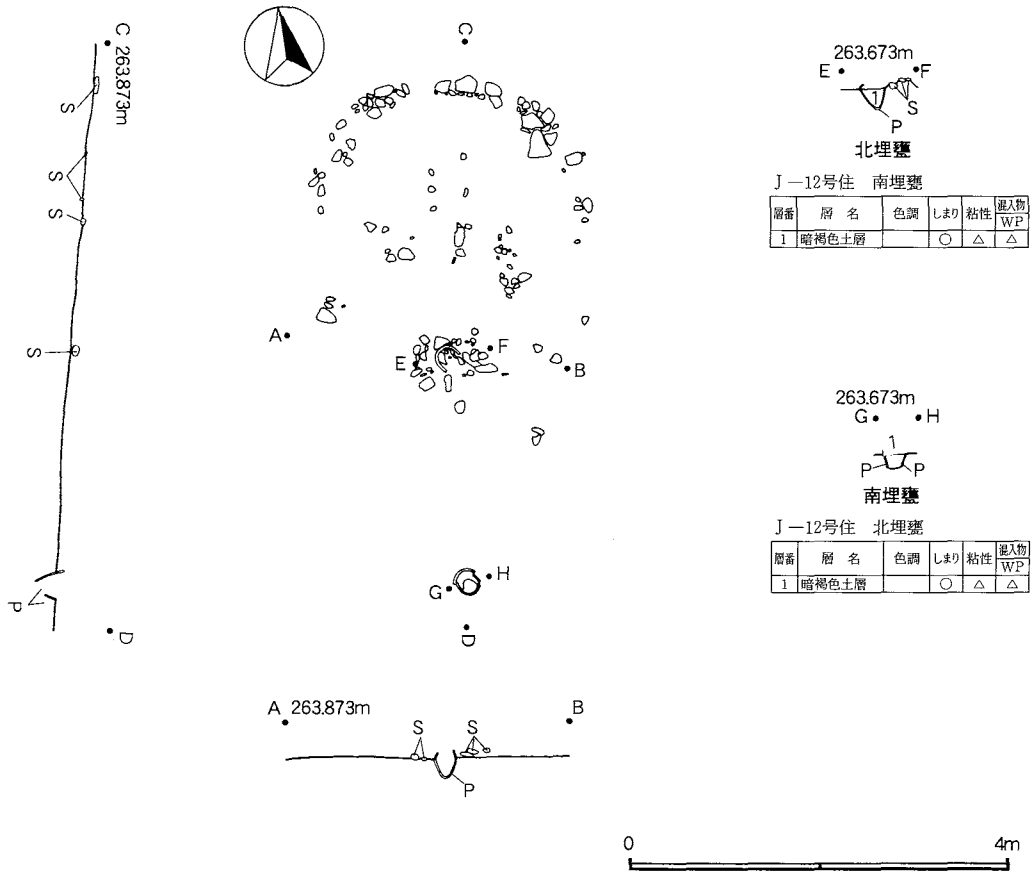
第149図　Ｊ－10号住居址・出土遺物



第150図　J—11号住居址実測図



第151図　J—11号住居址・出土遺物



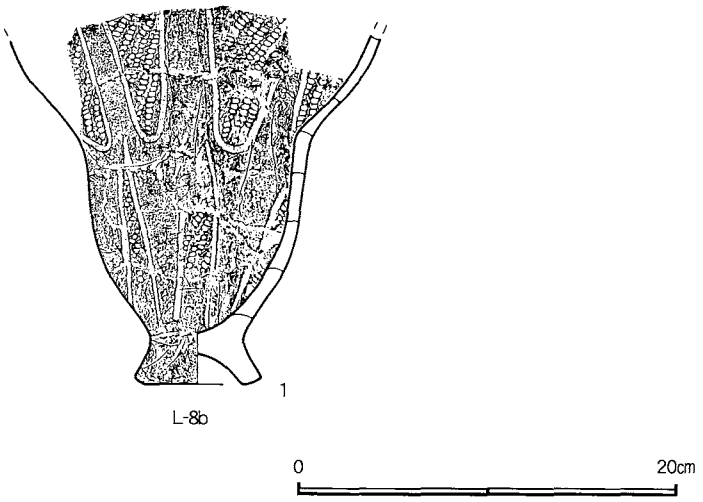
J－12号住　南埋甕

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP
1	暗褐色土層		○	△	△

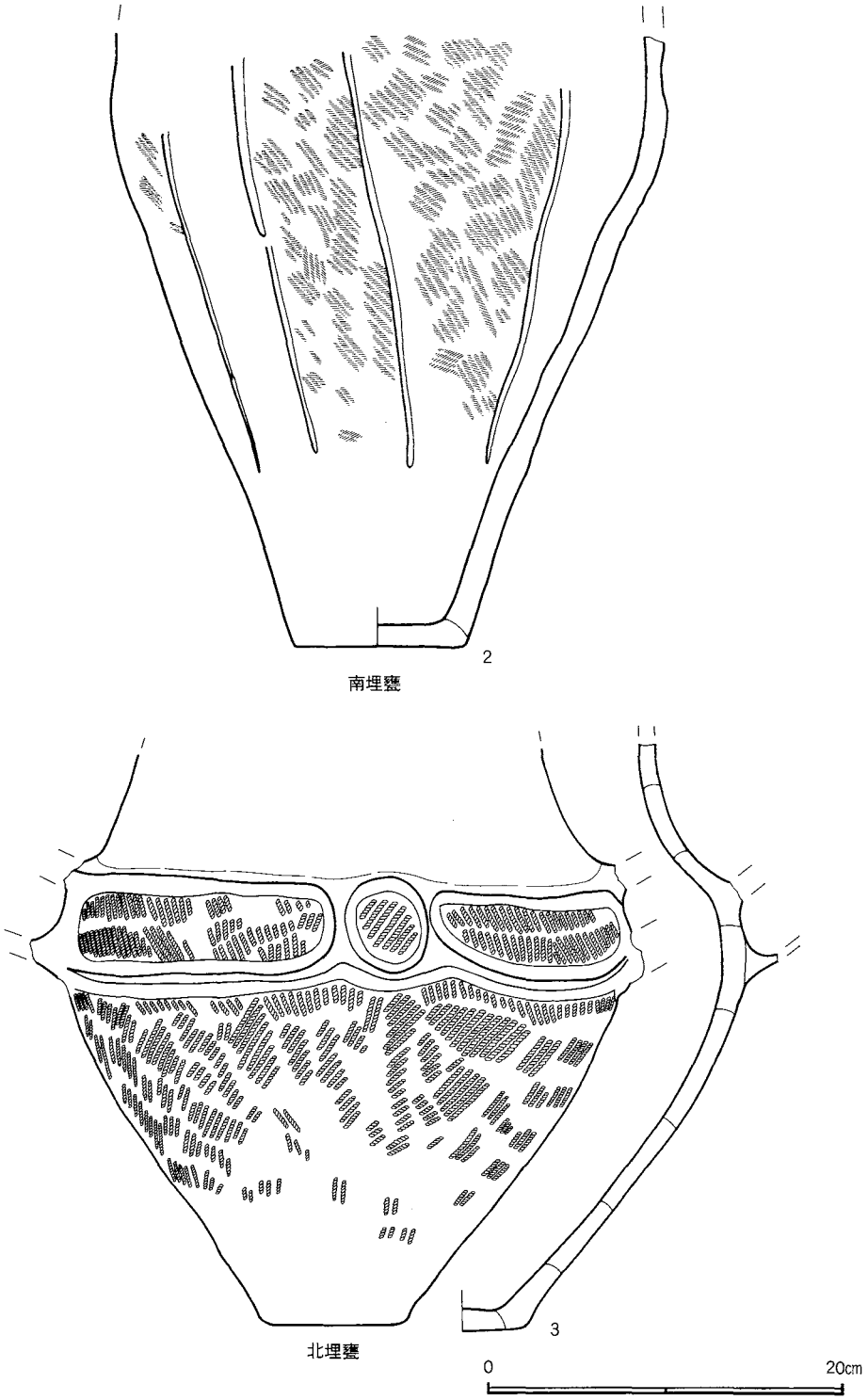
J－12号住　北埋甕

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP
1	暗褐色土層		○	△	△

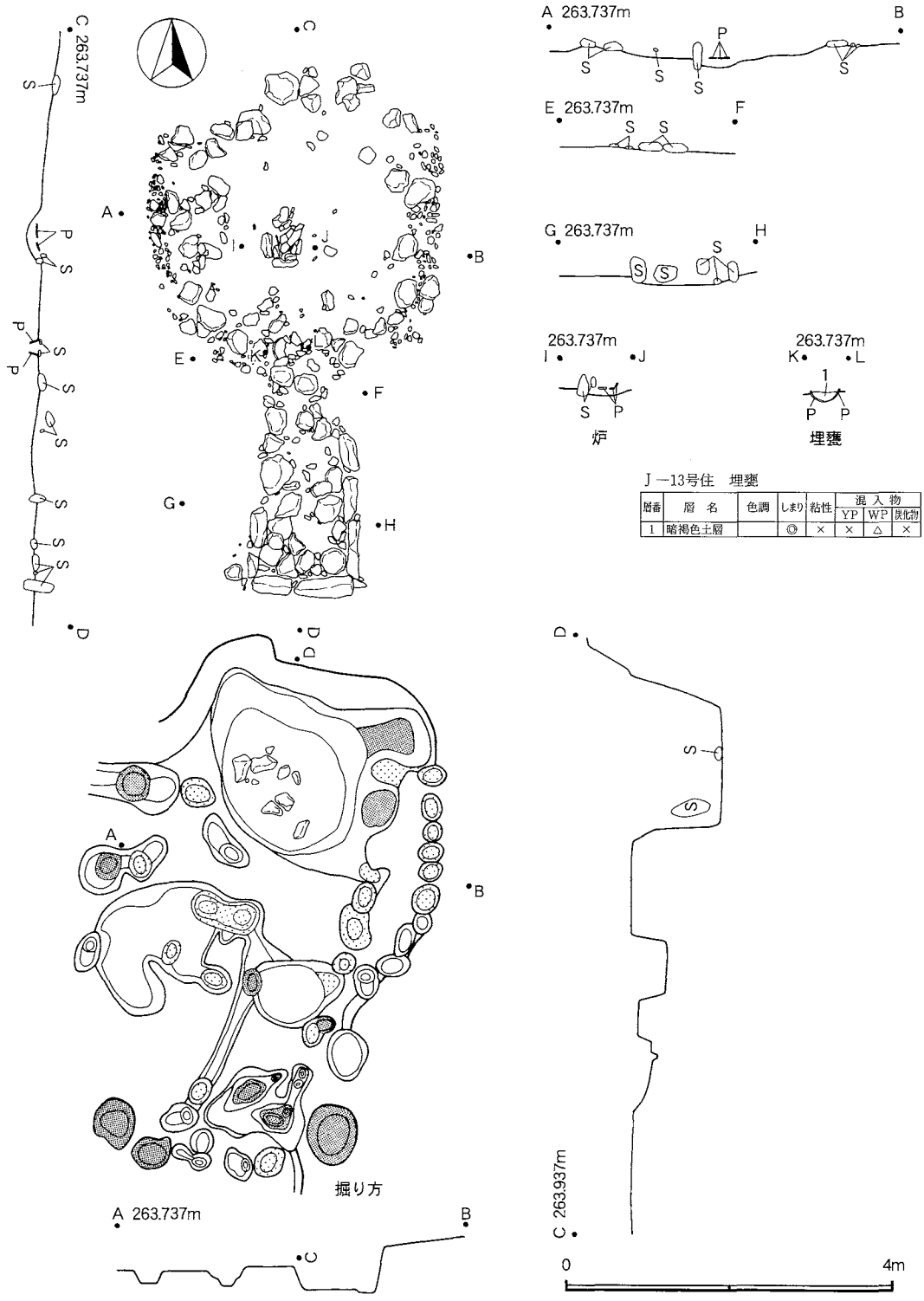
第152図　J－12号住居址実測図



第153図　J－12号住居址・出土遺物(1)



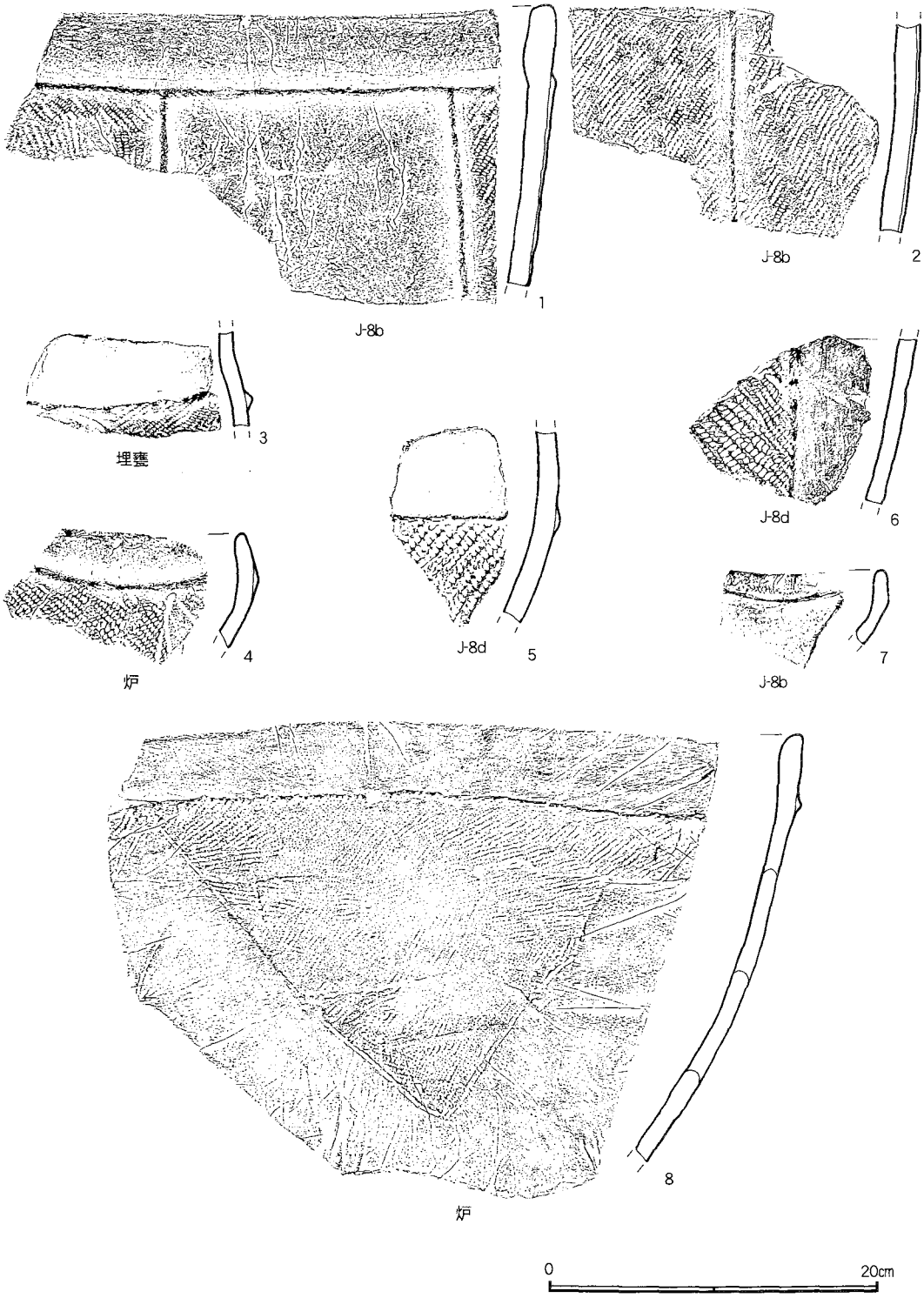
第154図　J—12号住居址・出土遺物(2)



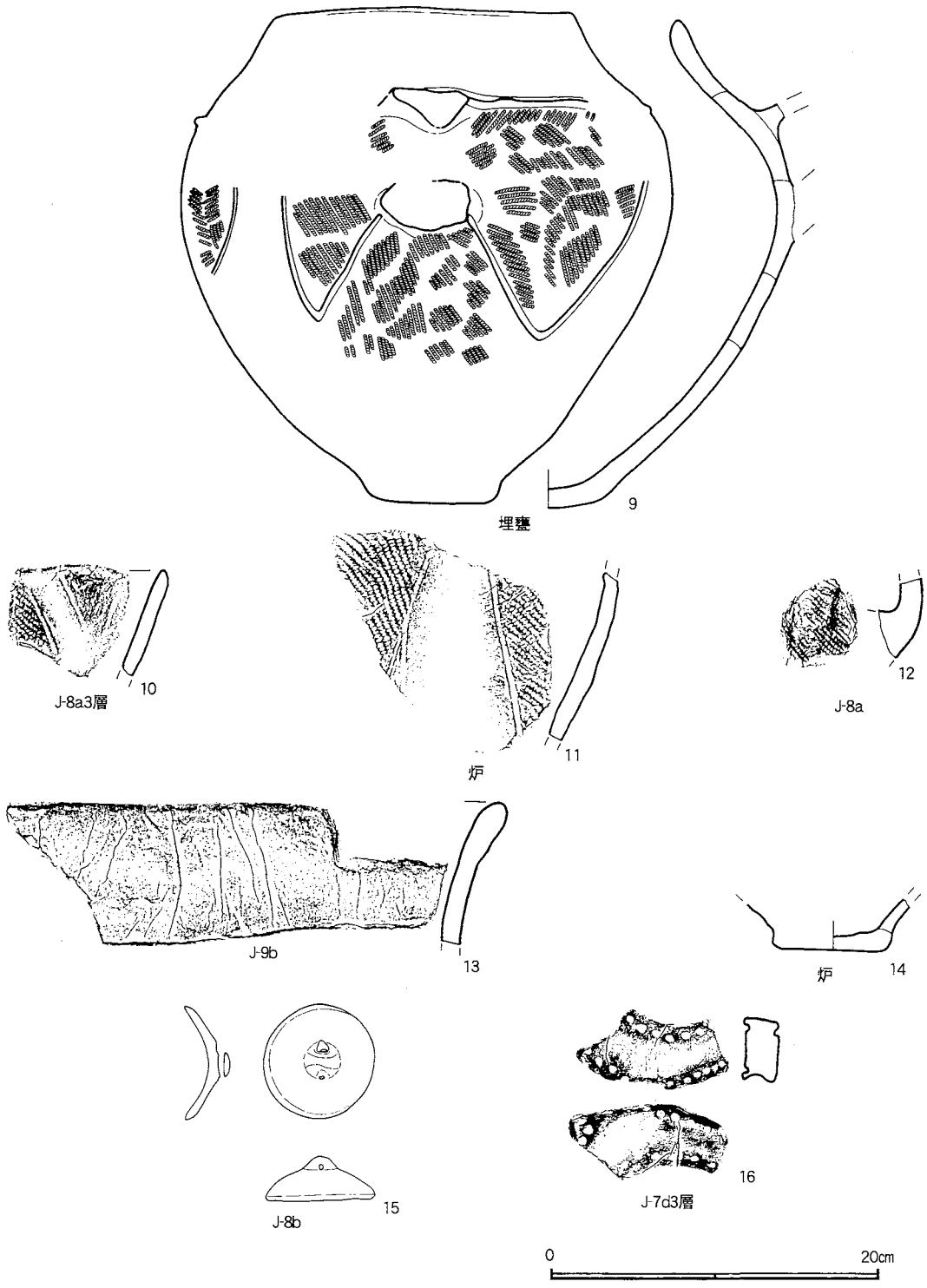
J－13号住　埋甕

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	WP	炭化物
1	暗褐色土層		◎	×	×	△	×

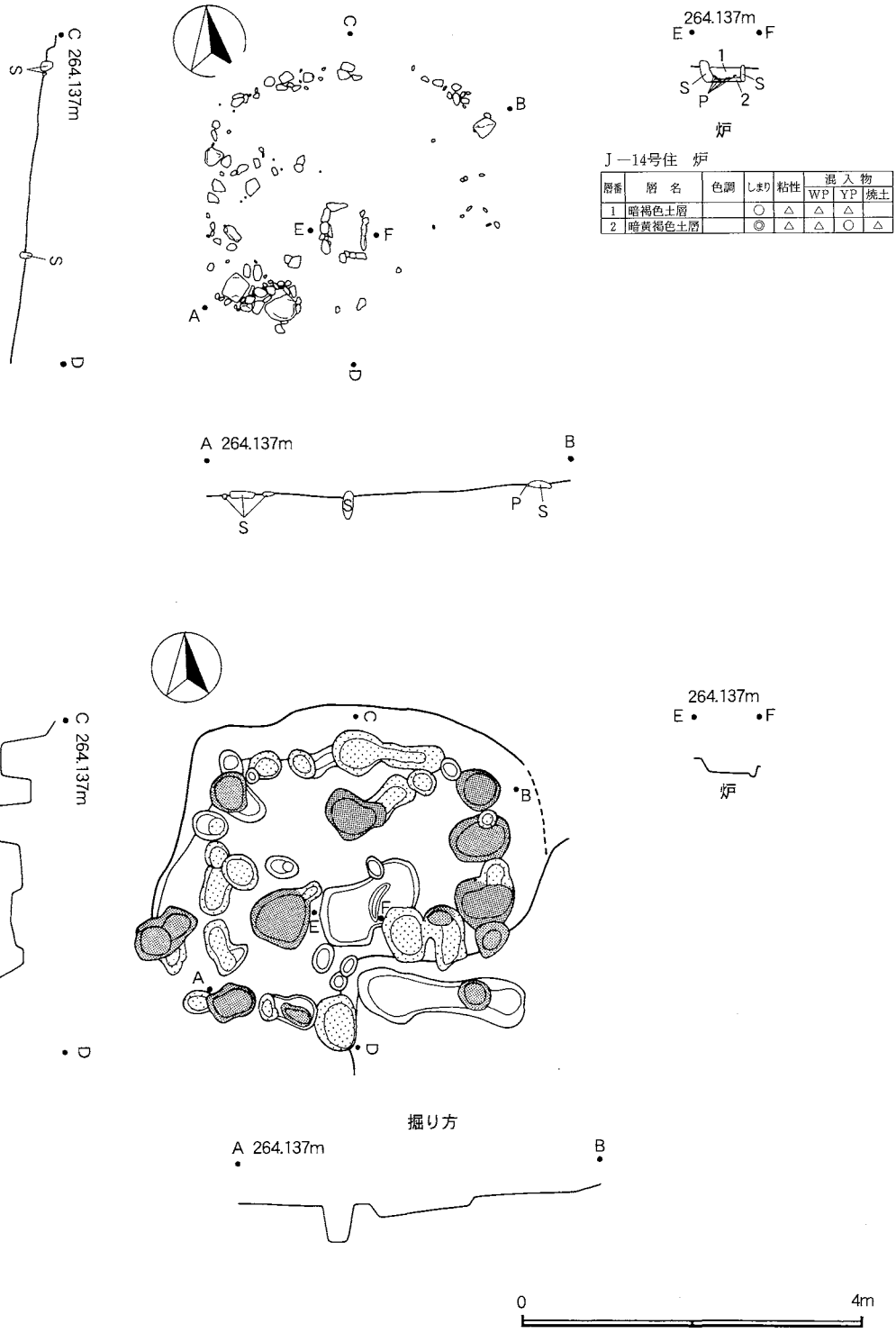
第155図　J－13号住居址実測図



第156図　J－13号住居址・出土遺物(1)



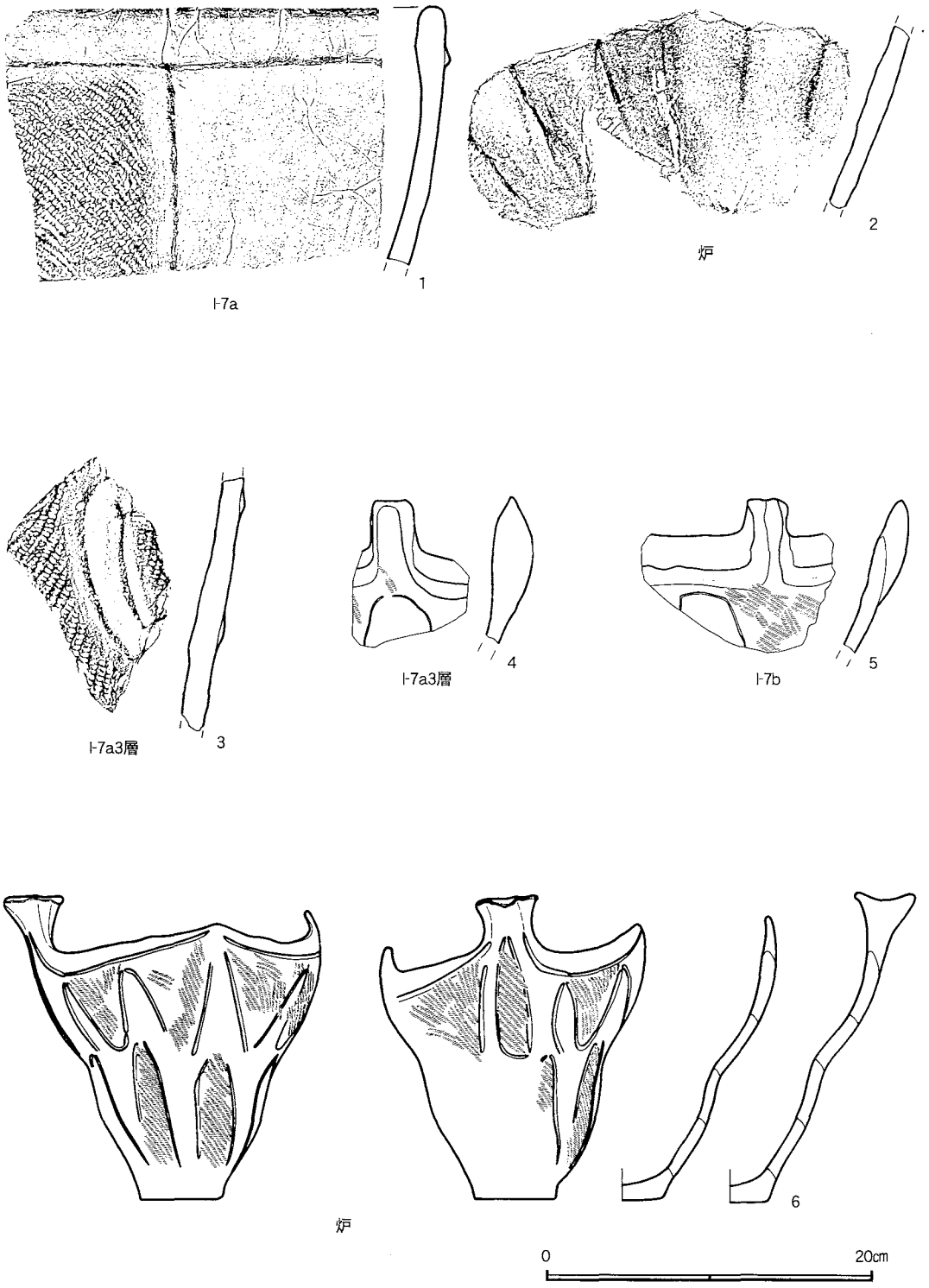
第157図　J—13号住居址・出土遺物(2)



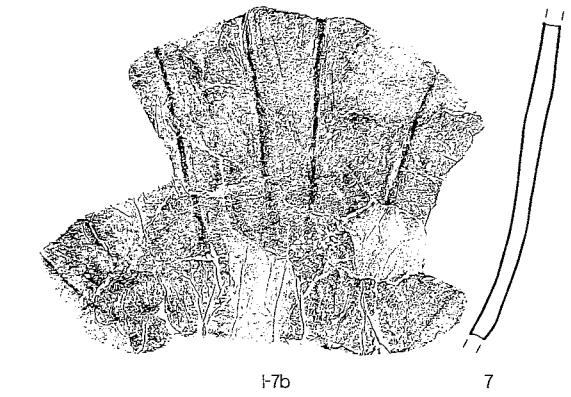
J—14号住　炉

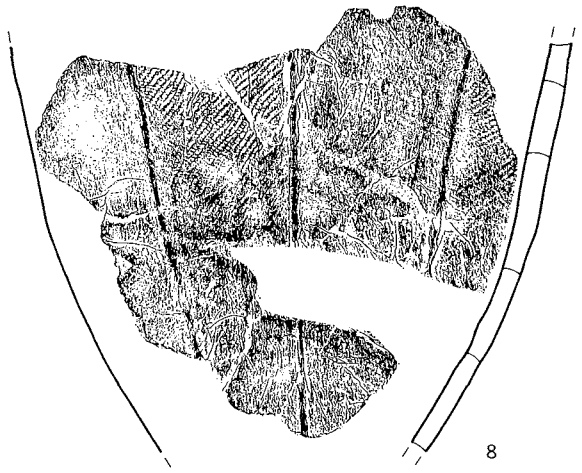
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	焼土
1	暗褐色土層		○	△	△	△	
2	暗黄褐色土層		◎	△	△	○	△

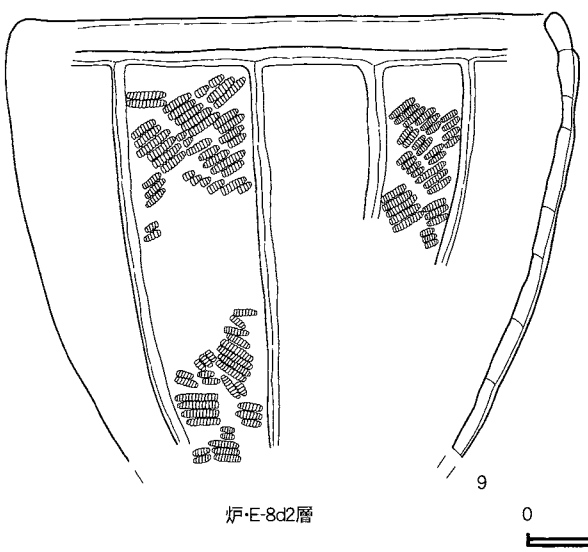
第158図　J—14号住居址実測図



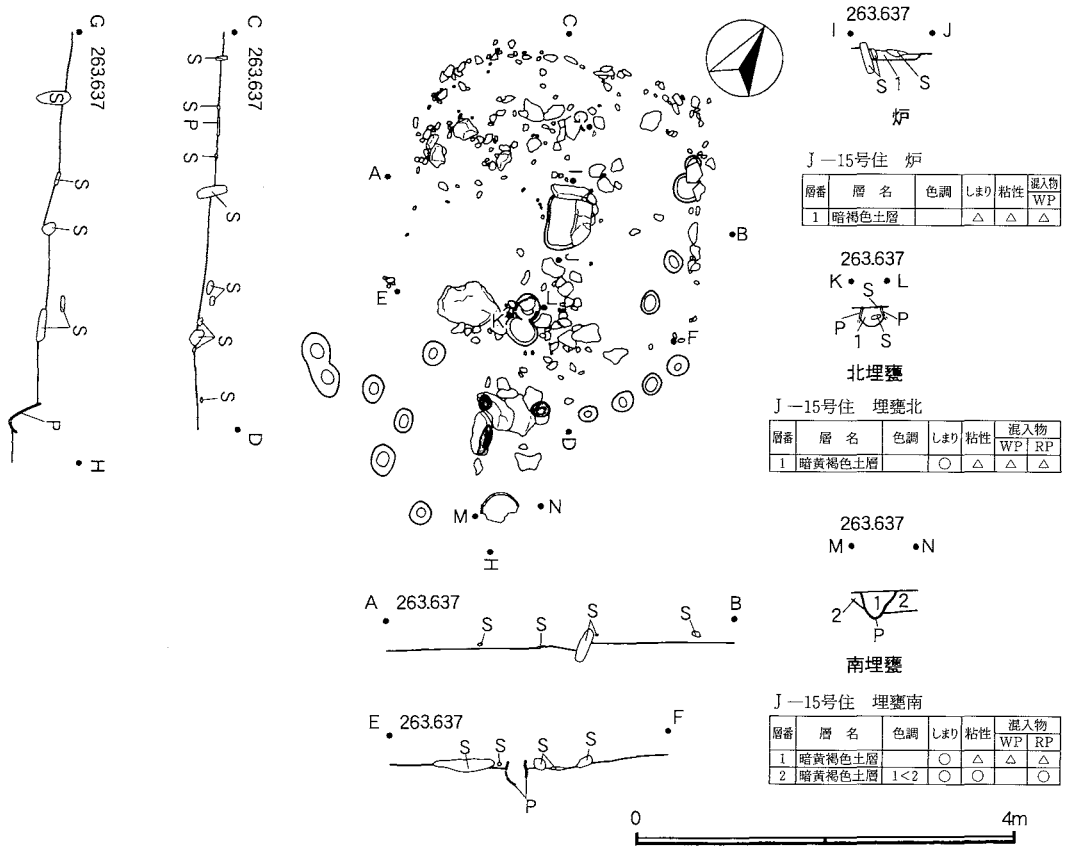
第159図　J－14号住居址・出土遺物(1)







第160図　J―14号住居址・出土遺物(2)



J－15号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP
1	暗褐色土層		△	△	△

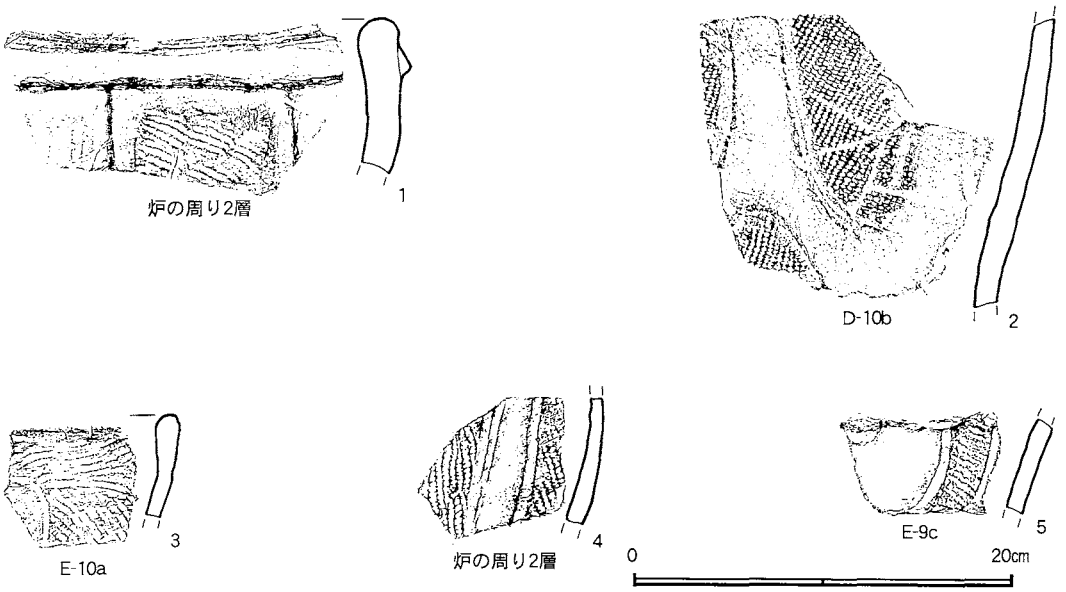
J－15号住　埋甕北

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 RP
1	暗黄褐色土層		○	△	△	△

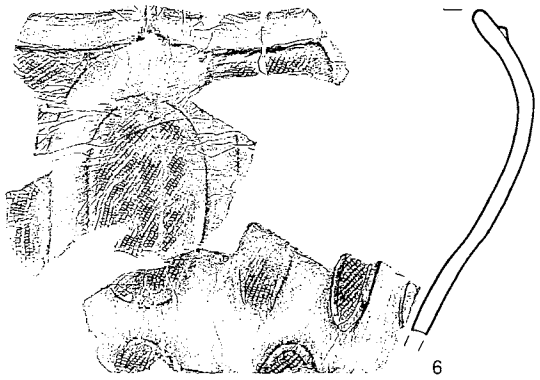
J－15号住　埋甕南

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 RP
1	暗黄褐色土層		○	△	△	△
2	暗黄褐色土層	1<2	○	○		○

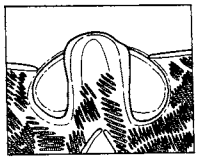
第161図　J－15号住居址実測図

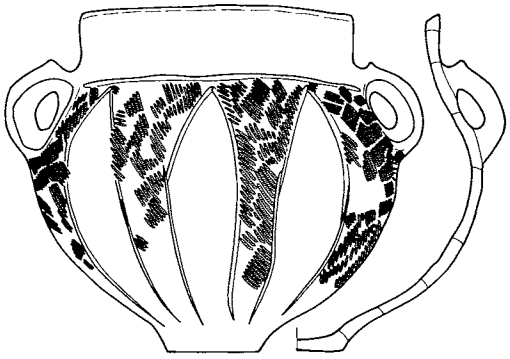


第162図　J－15号住居址・出土遺物(1)

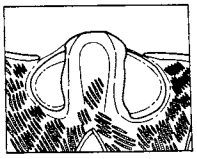


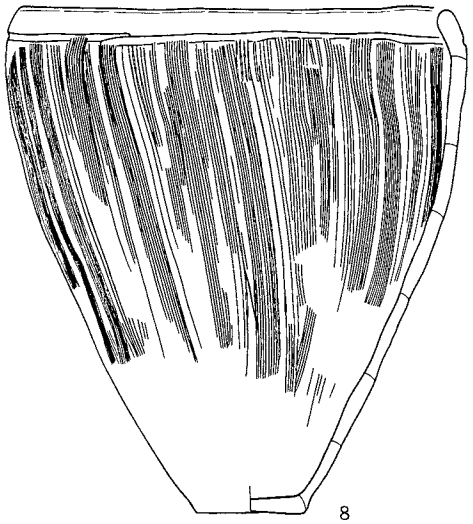
E-9c





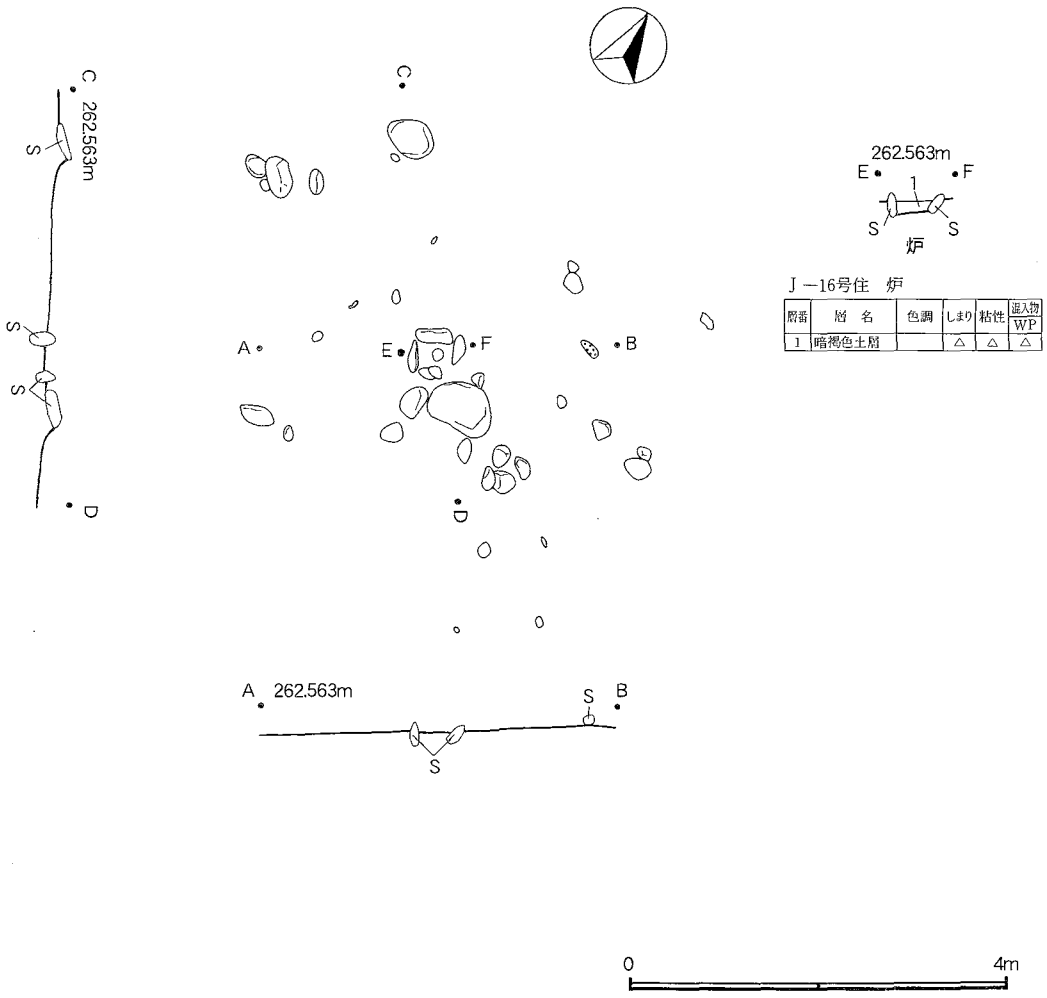
北埋甕



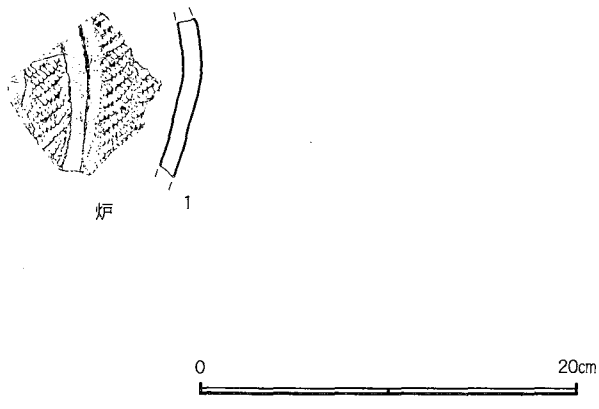


南埋甕

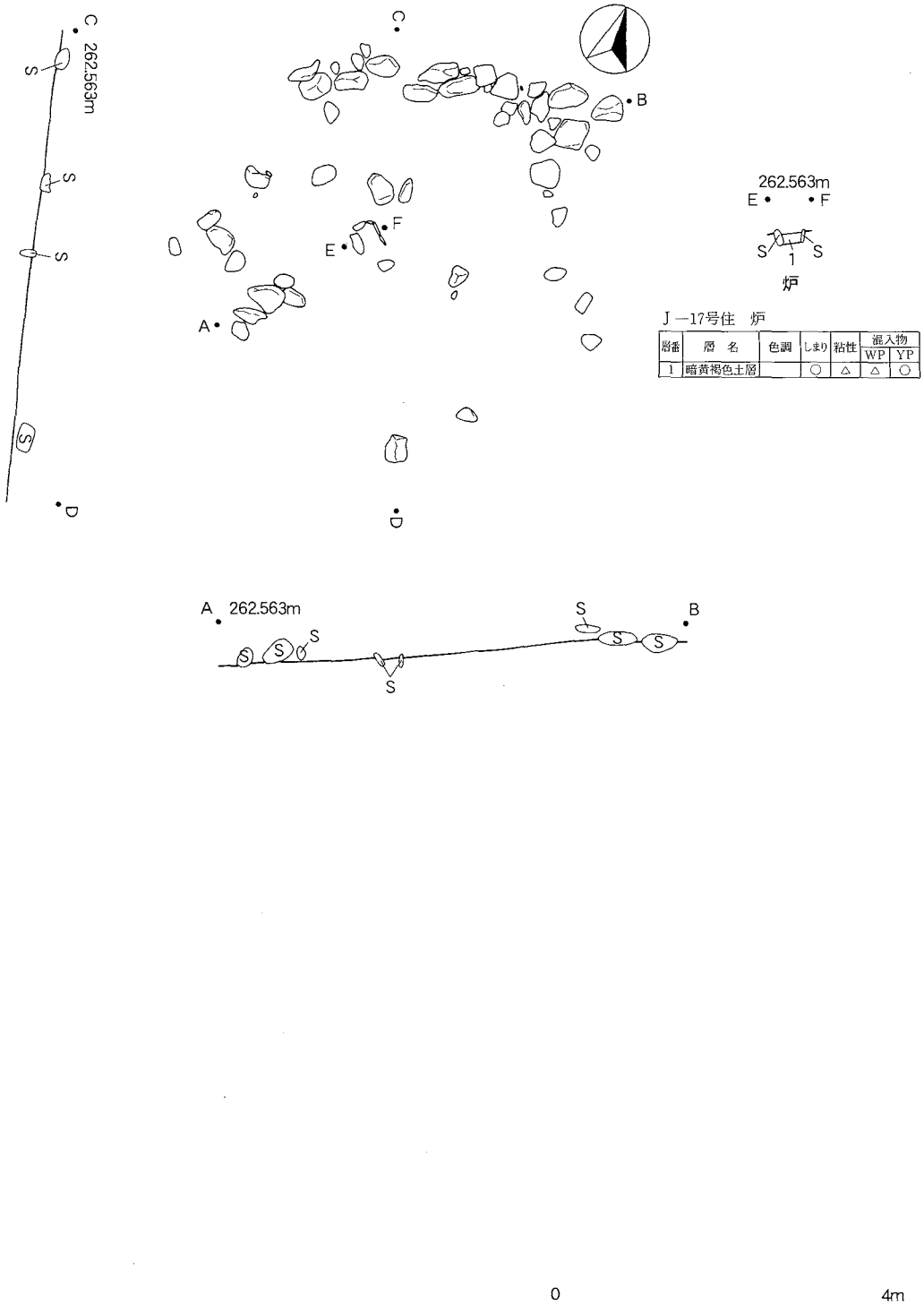
第163図　Ｊ―15号住居址・出土遺物(2)



第164図　J－16号住居址実測図



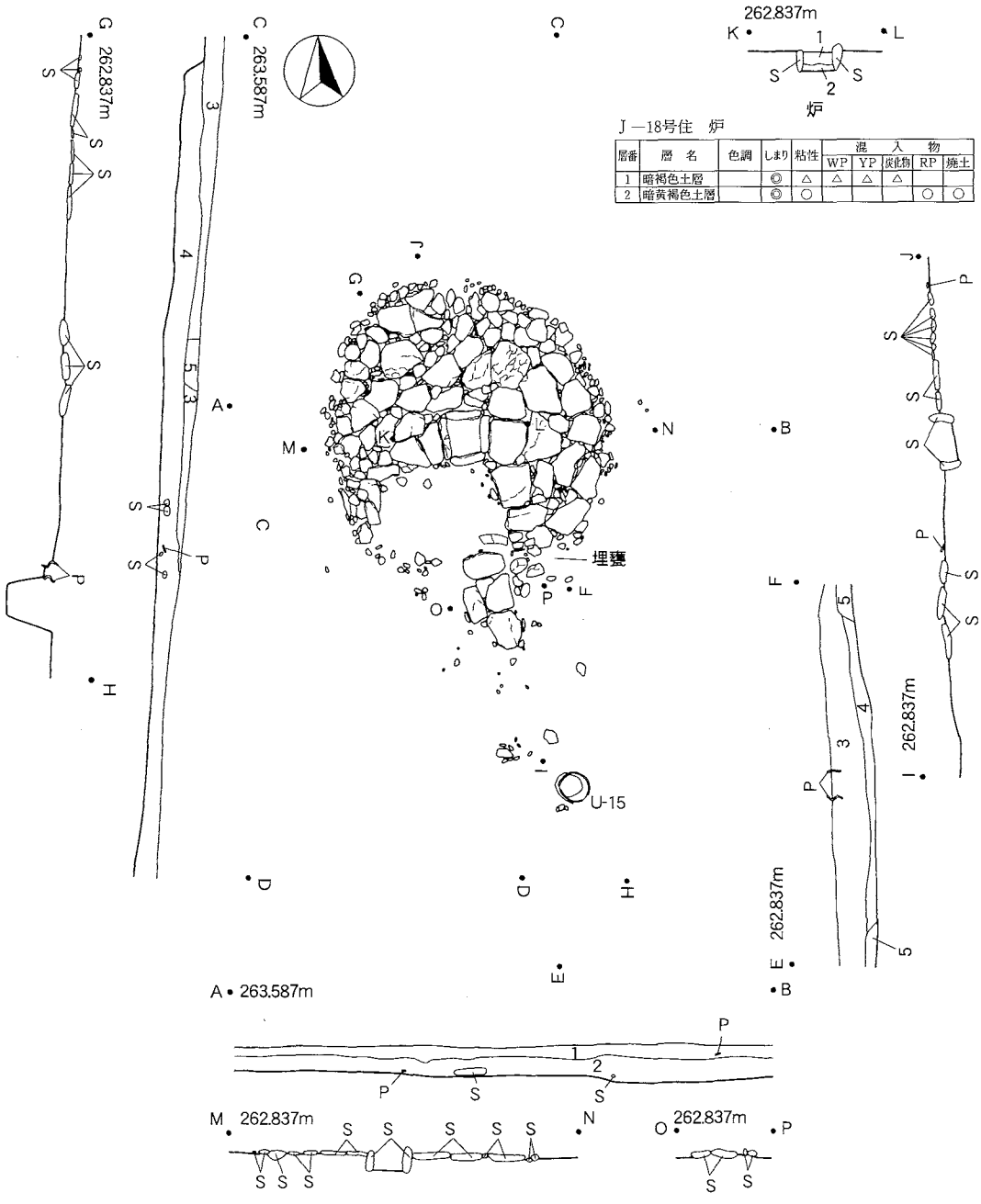
第165図　J－16号住居址・出土遺物



J—17号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗黄褐色土層		○	△	△	○

第166図　J—17号住居址実測図



J—18号住　炉

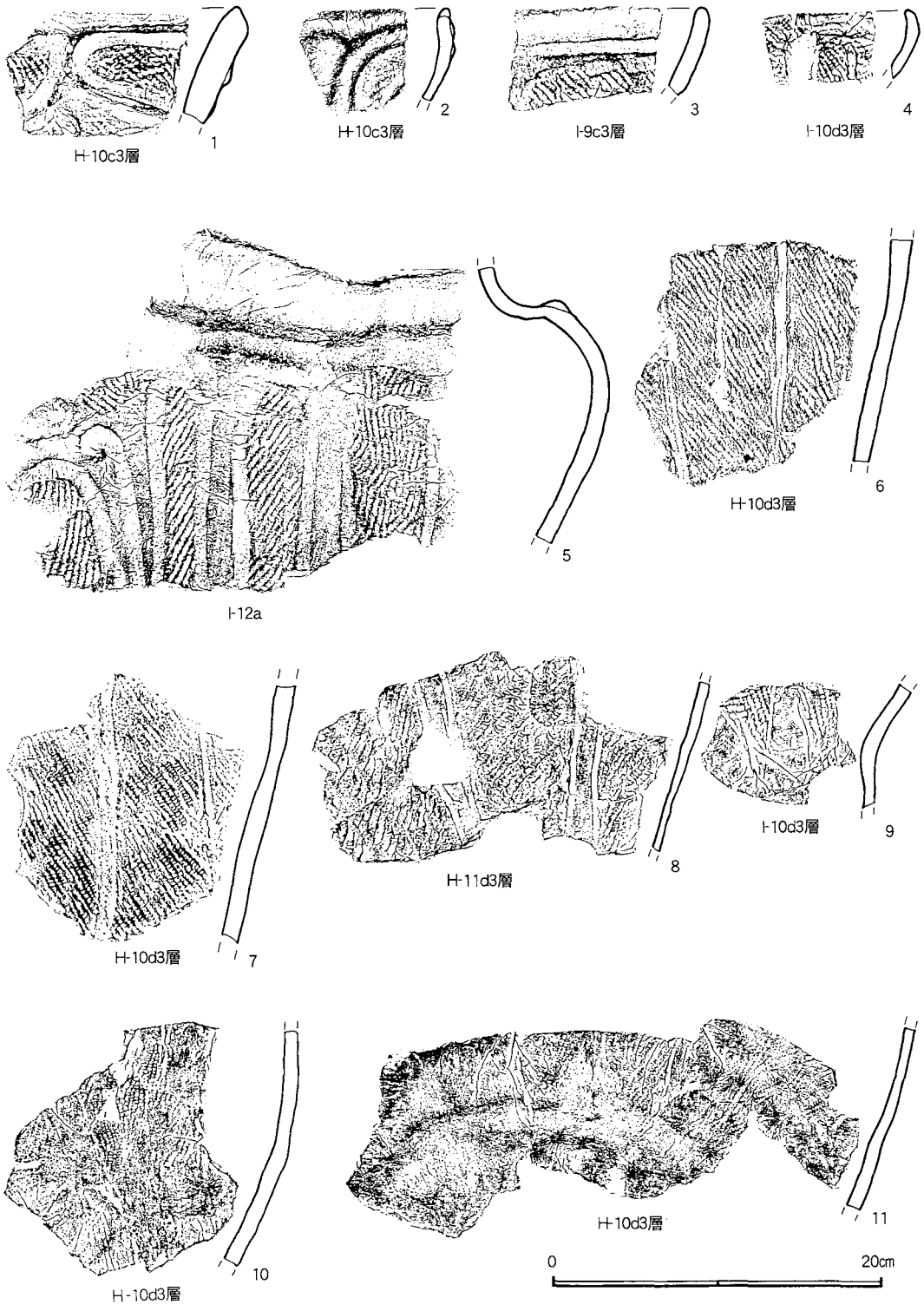
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	炭化物	RP	焼土
1	暗褐色土層		◎	△	△	△	△		
2	暗黄褐色土層		◎	○				○	○

J—18号住

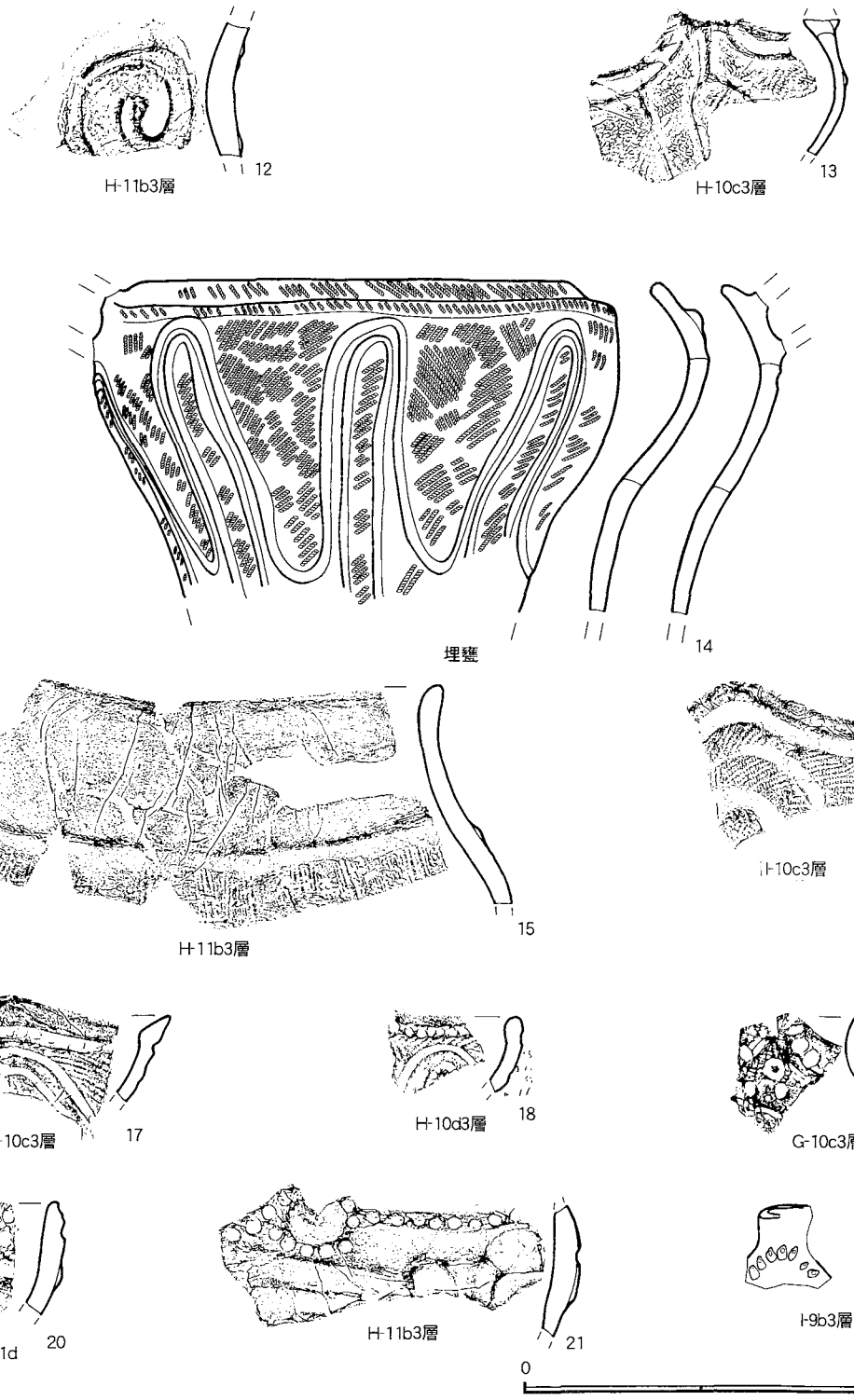
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP
1	暗褐色土層		△	△	△		
2	暗褐色土層	1>2	○	△	○	△	△
3	暗褐色土層		○	△	△	○	
4	暗褐色土層	1<2	○	△	△	△	△
5	暗黄褐色土層		◎	○	△	○	○

0　4m

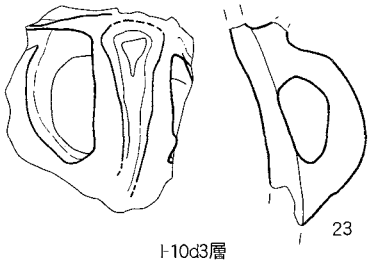
第167図　J—18号住居址実測図

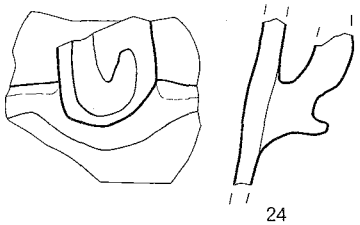


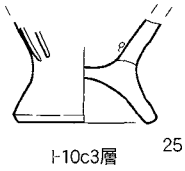
第168図　J－18号住居址・出土遺物(1)

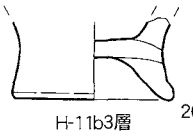


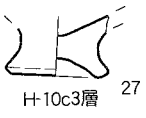
第169図　J—18号住居址・出土遺物(2)

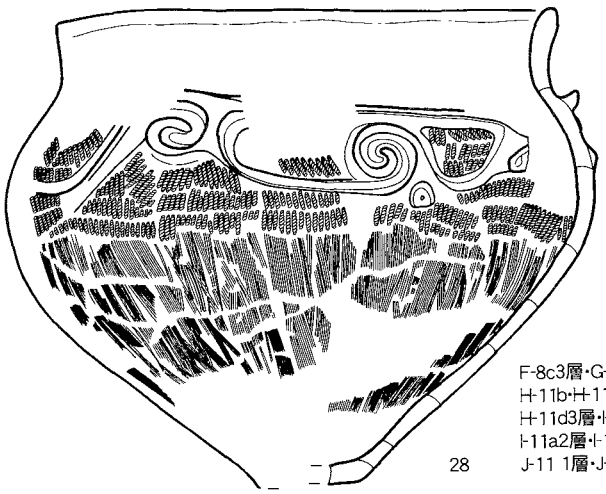




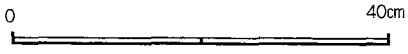




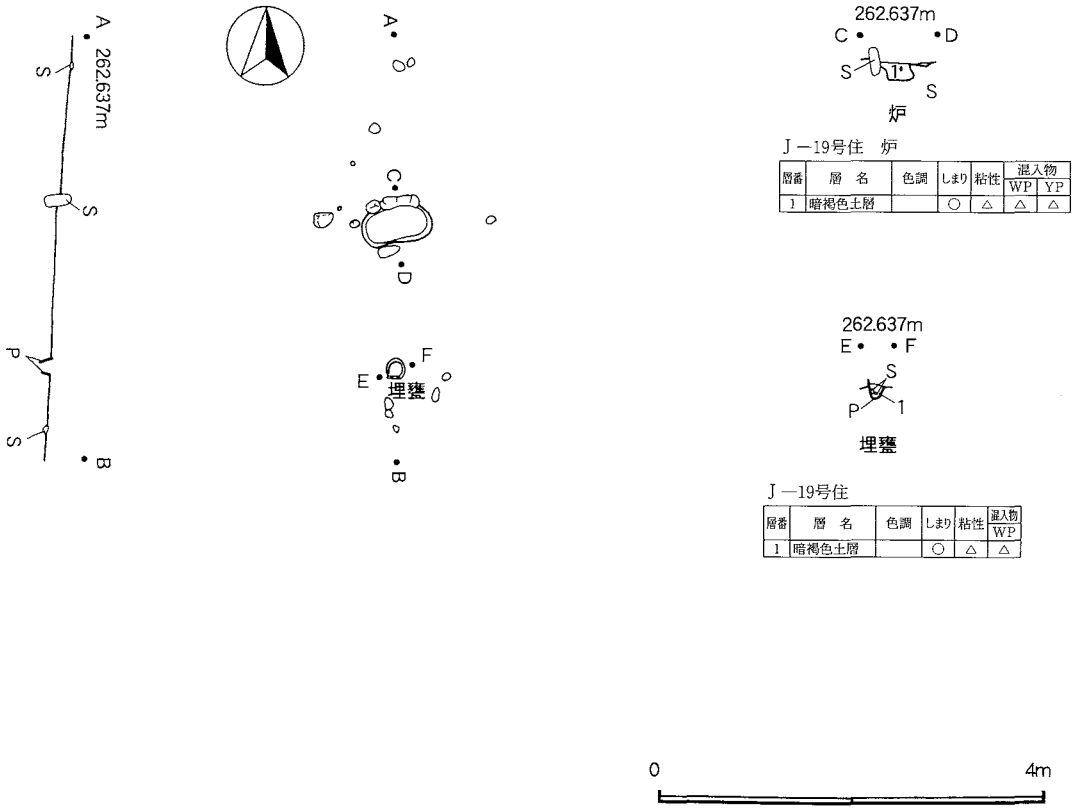




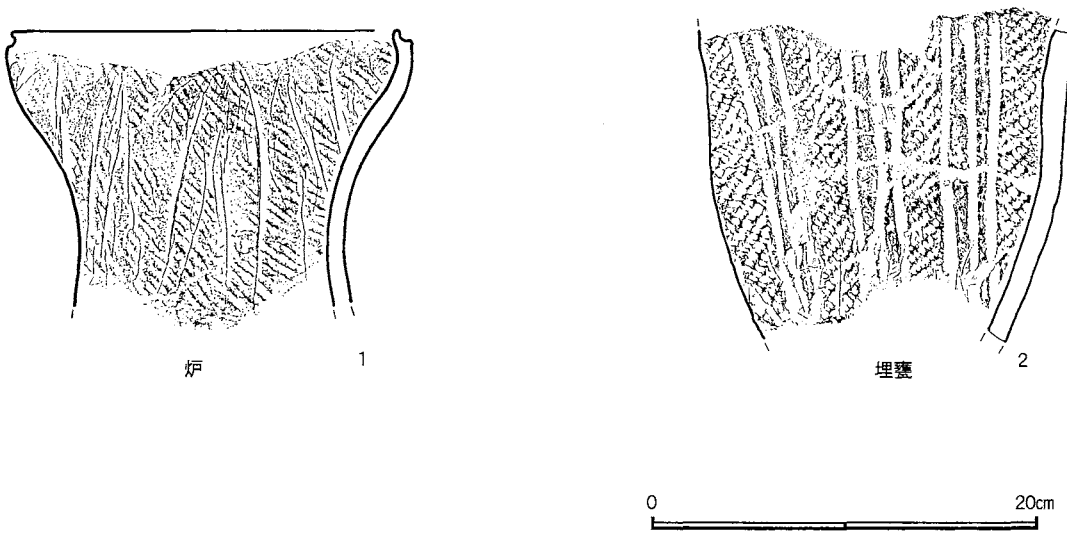
F-8c3層・G-131層・H-10c3層・H-10d3層
H-11b・H-11d1層・H-11a3層・H-11b3層
H-11d3層・I-10c3層・I-10トレンチ・I-111層
I-11a2層・I-11b2層・I-11b3層・J-10a3層・J-10c3層
J-11 1層・J-11a3層・K-9a3層



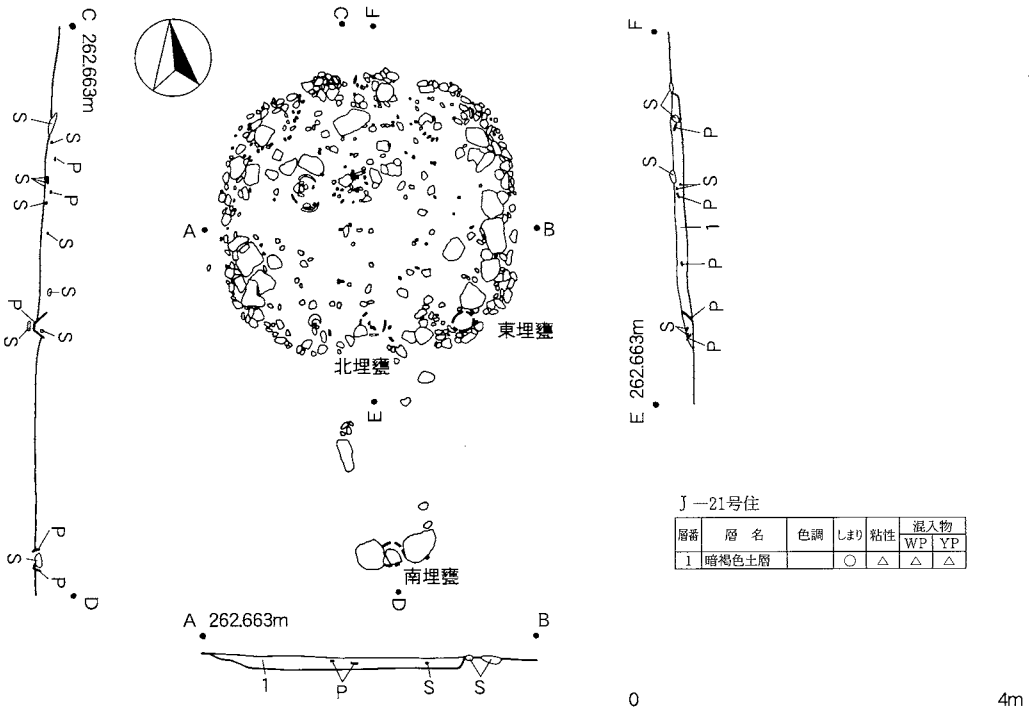
第170図　J—18号住居址・出土遺物(3)



第171図　J－19号住居址実測図



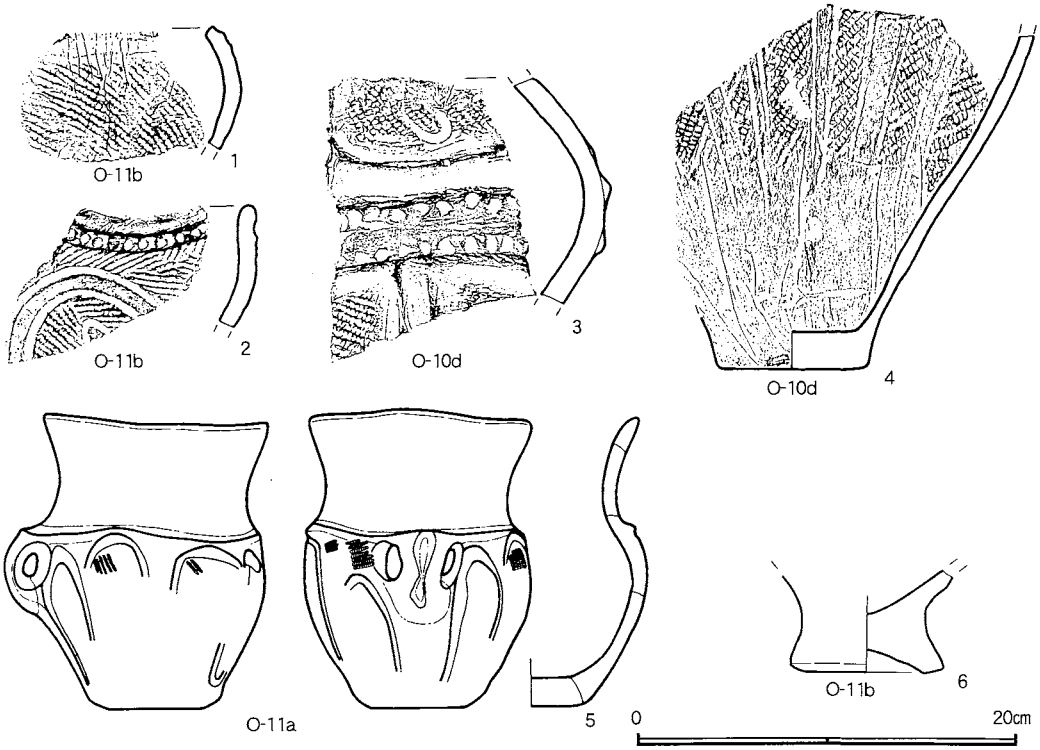
第172図　J－19号住居址・出土遺物



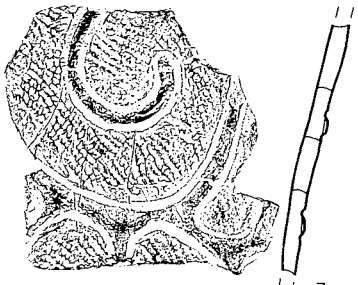
J—21号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

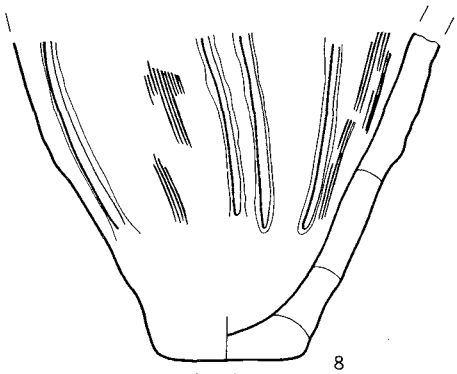
第173図　J—21号住居址実測図



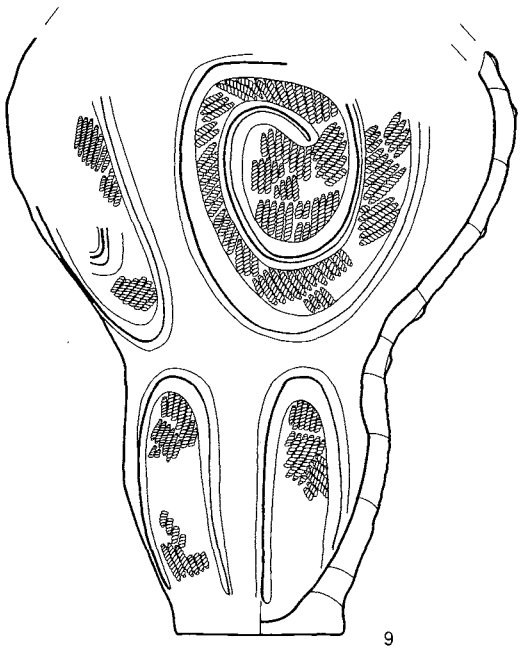
第174図　J—21号住居址・出土遺物(1)



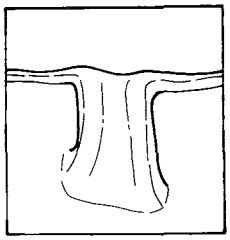
O-11b　7

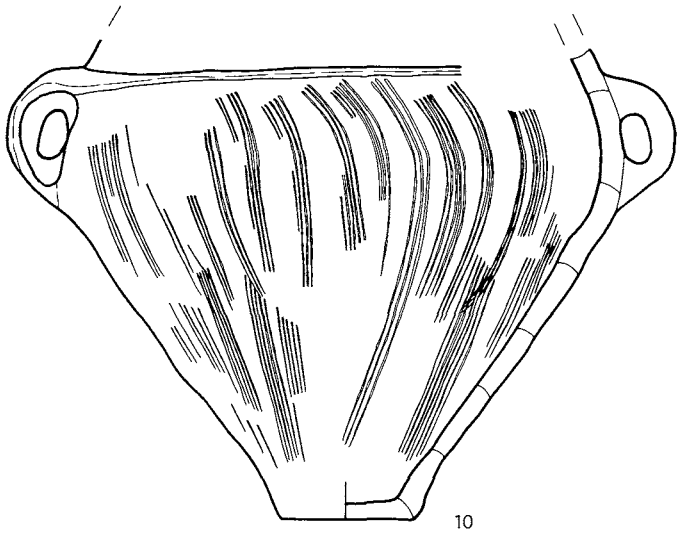


東埋甕　8



北埋甕　9

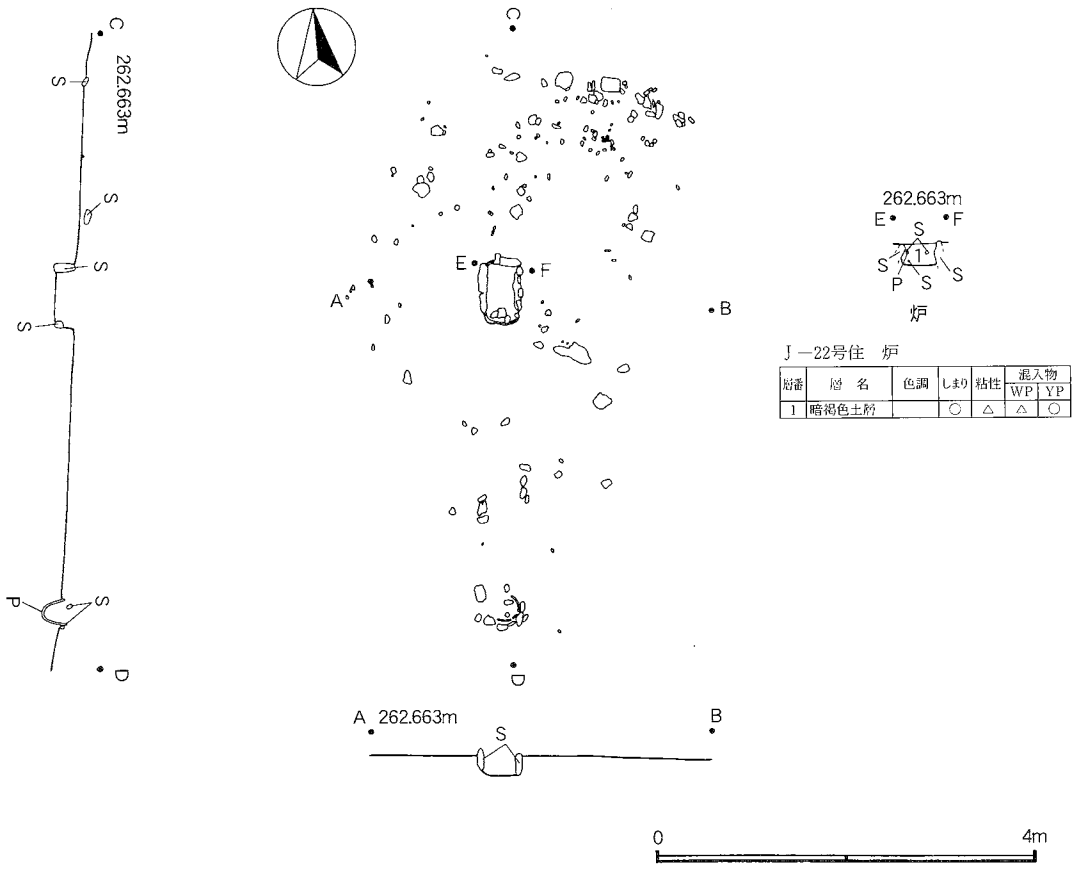




O-11a　10

0　20cm

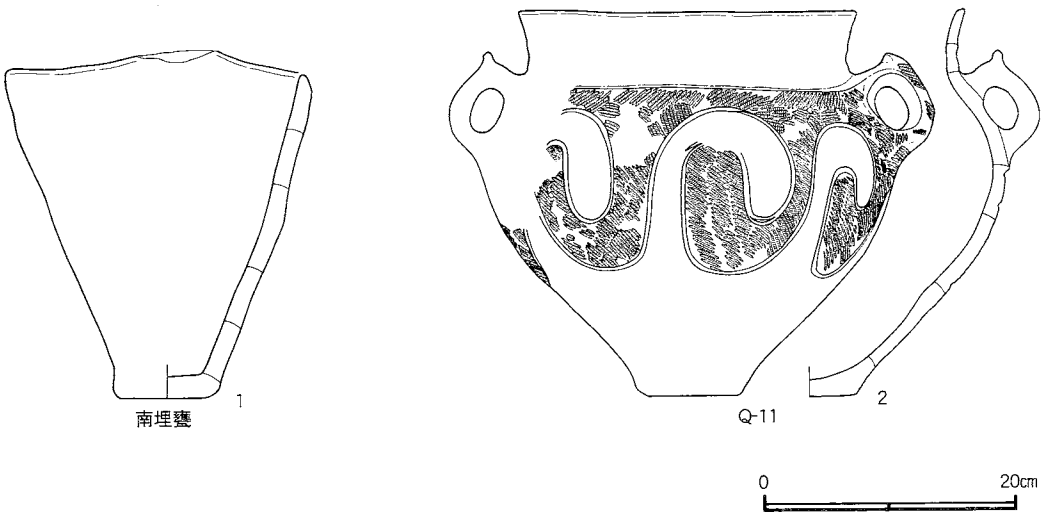
第175図　J－21号住居址・出土遺物(2)



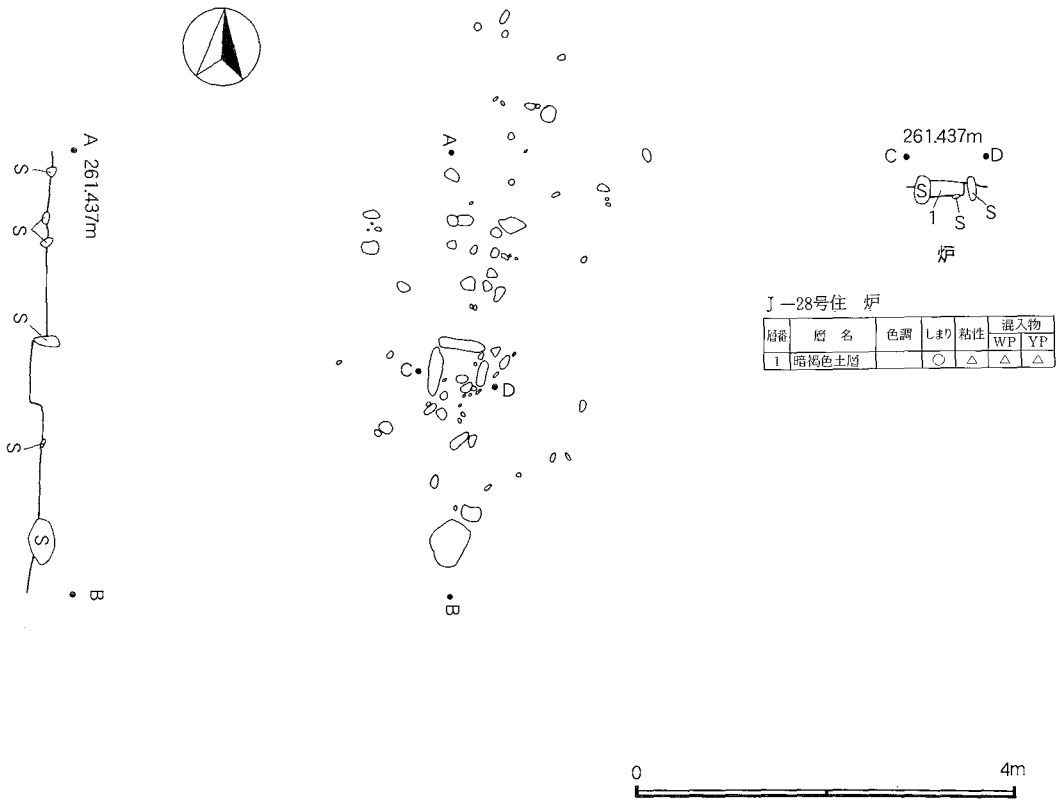
J—22号住　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗褐色土層		○	△	△	○

第176図　J—22号住居址実測図

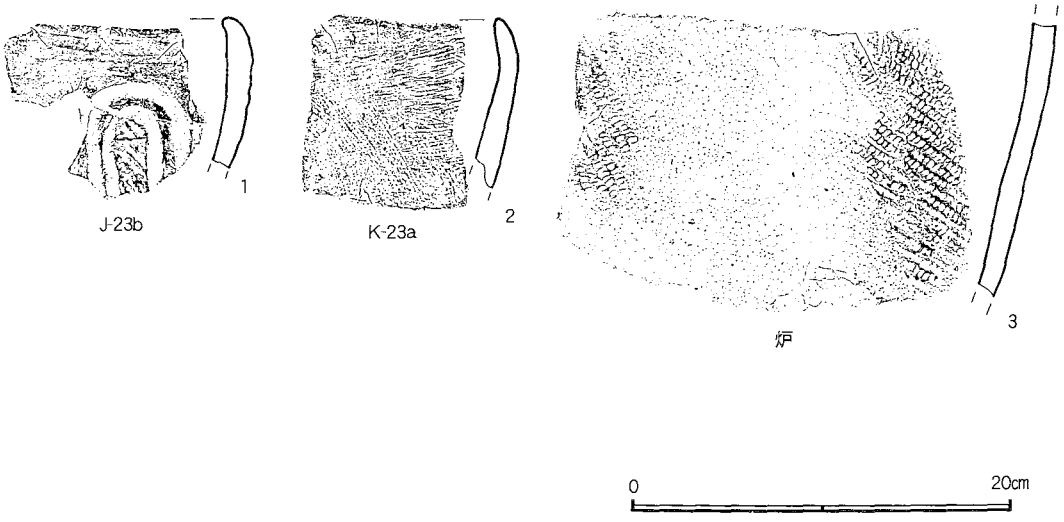


第177図　J—22号住居址・出土遺物

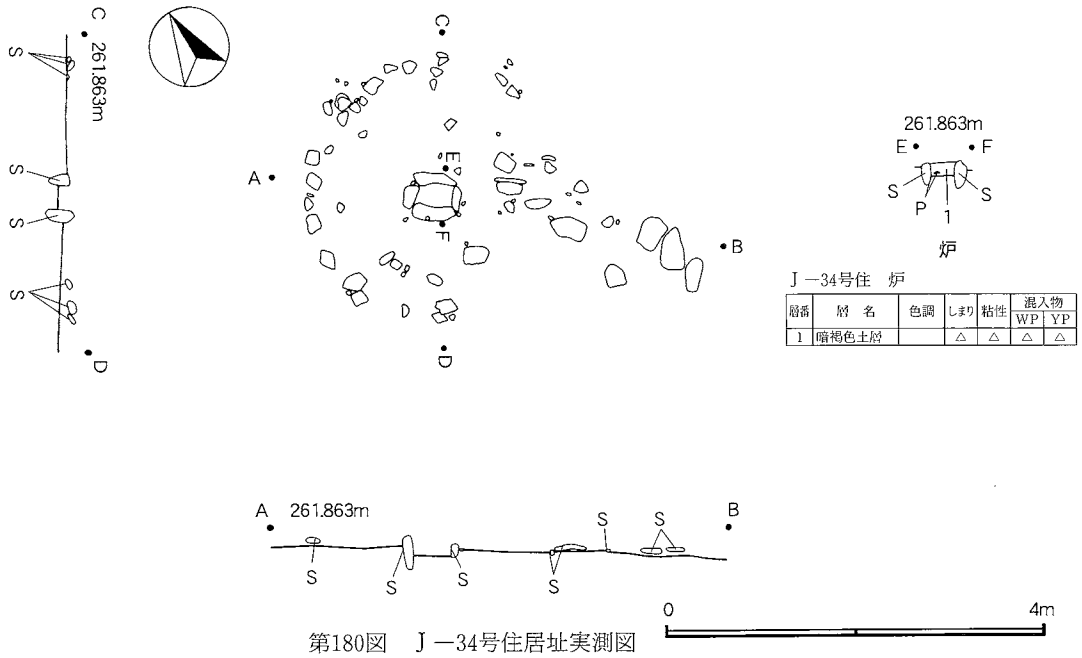


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

第178図　J－28号住居址実測図



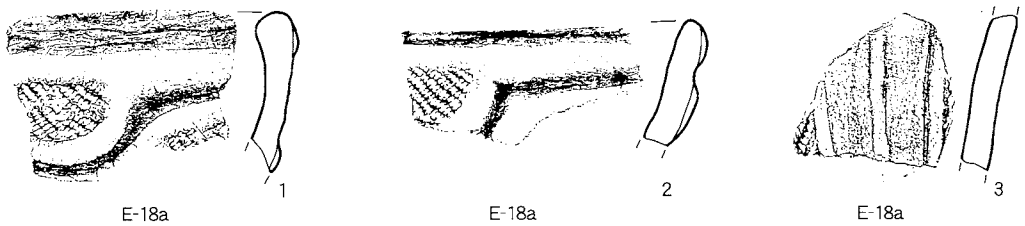
第179図　J－28号住居址・出土遺物

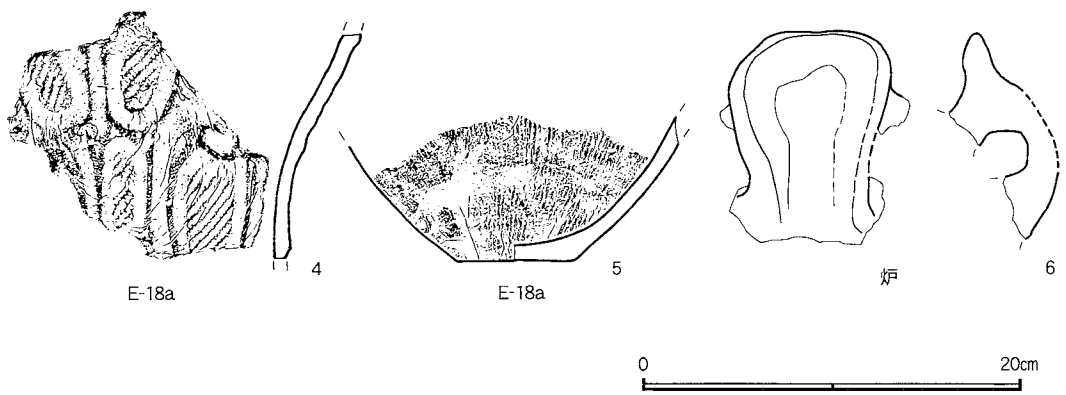


Ｊ―34号住　炉

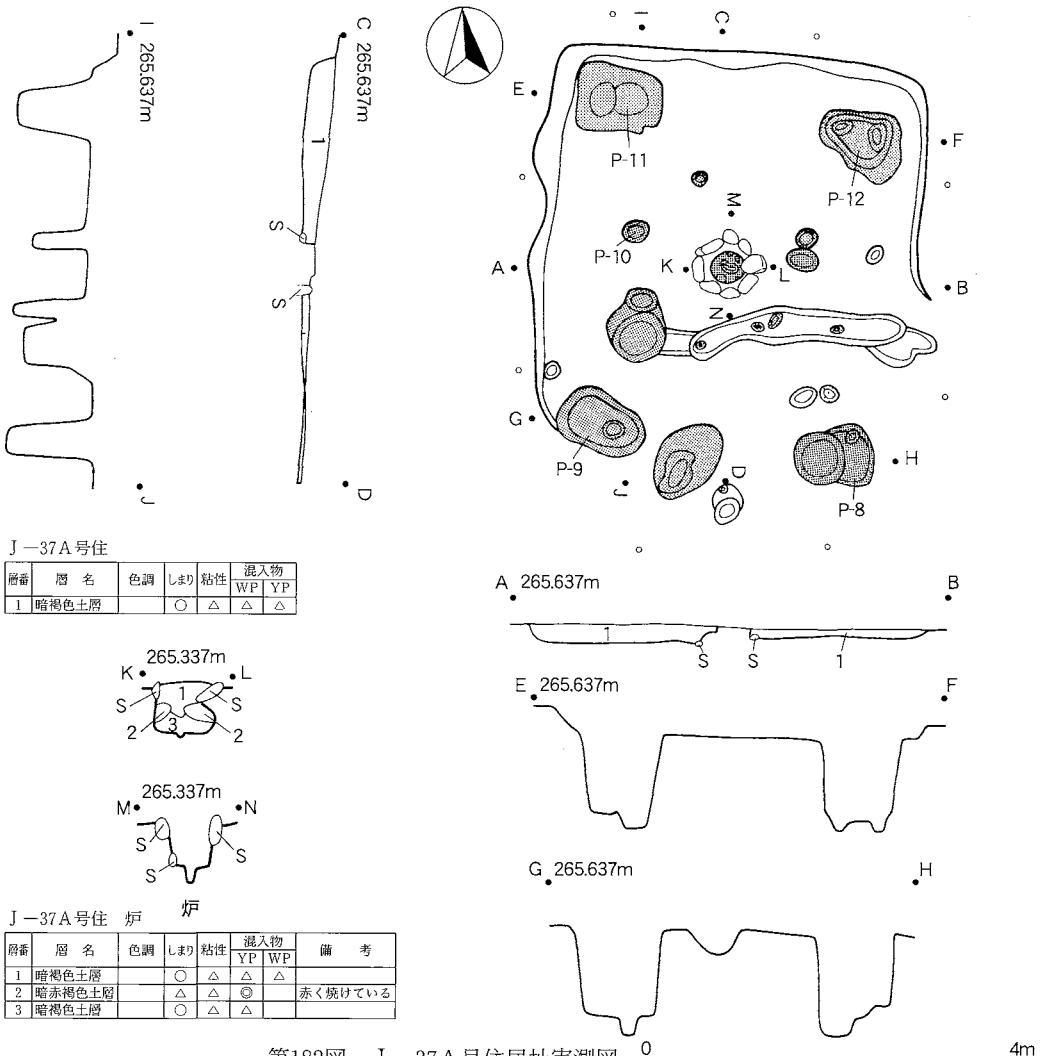
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗褐色土層		△	△	△	△

第180図　Ｊ―34号住居址実測図





第181図　Ｊ―34号住居址・出土遺物



J－37A号住

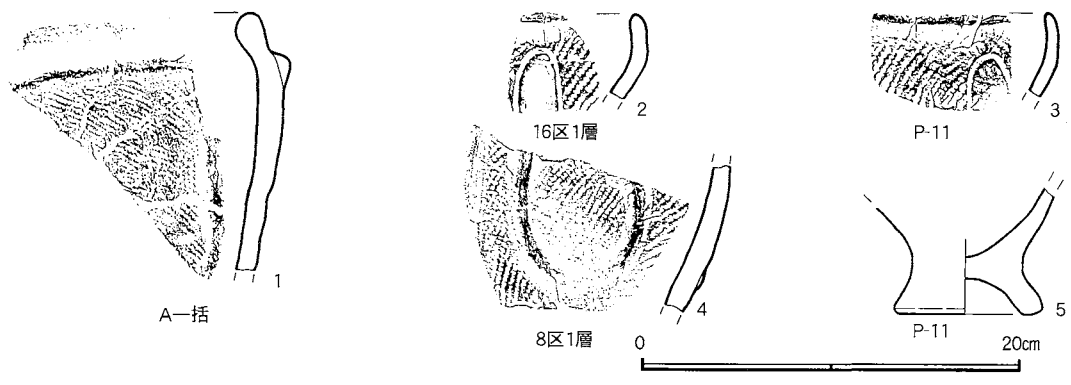
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

炉

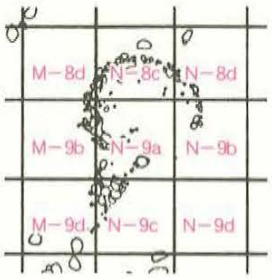
J－37A号住　炉

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	備考
1	暗褐色土層		○	△	△	△	
2	暗赤褐色土層		△	△	◎		赤く焼けている
3	暗褐色土層		○	△	△		

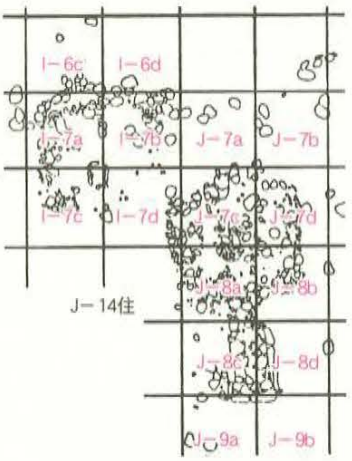
第182図　J－37A号住居址実測図



第183図　J－37A号住居址・出土遺物

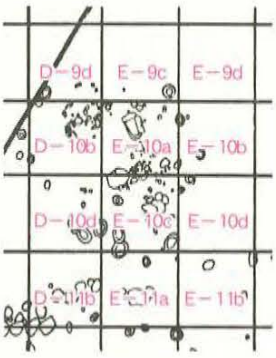


J－11住

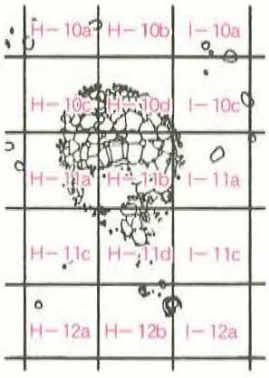


J－14住

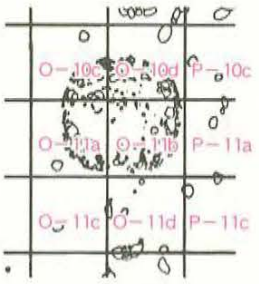
J－13住



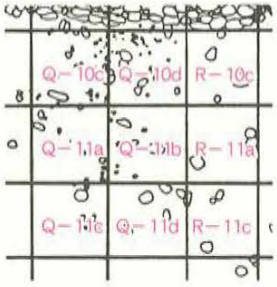
J－15住



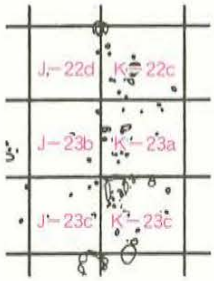
J－18住



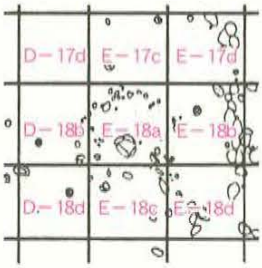
J－21住



J－22住

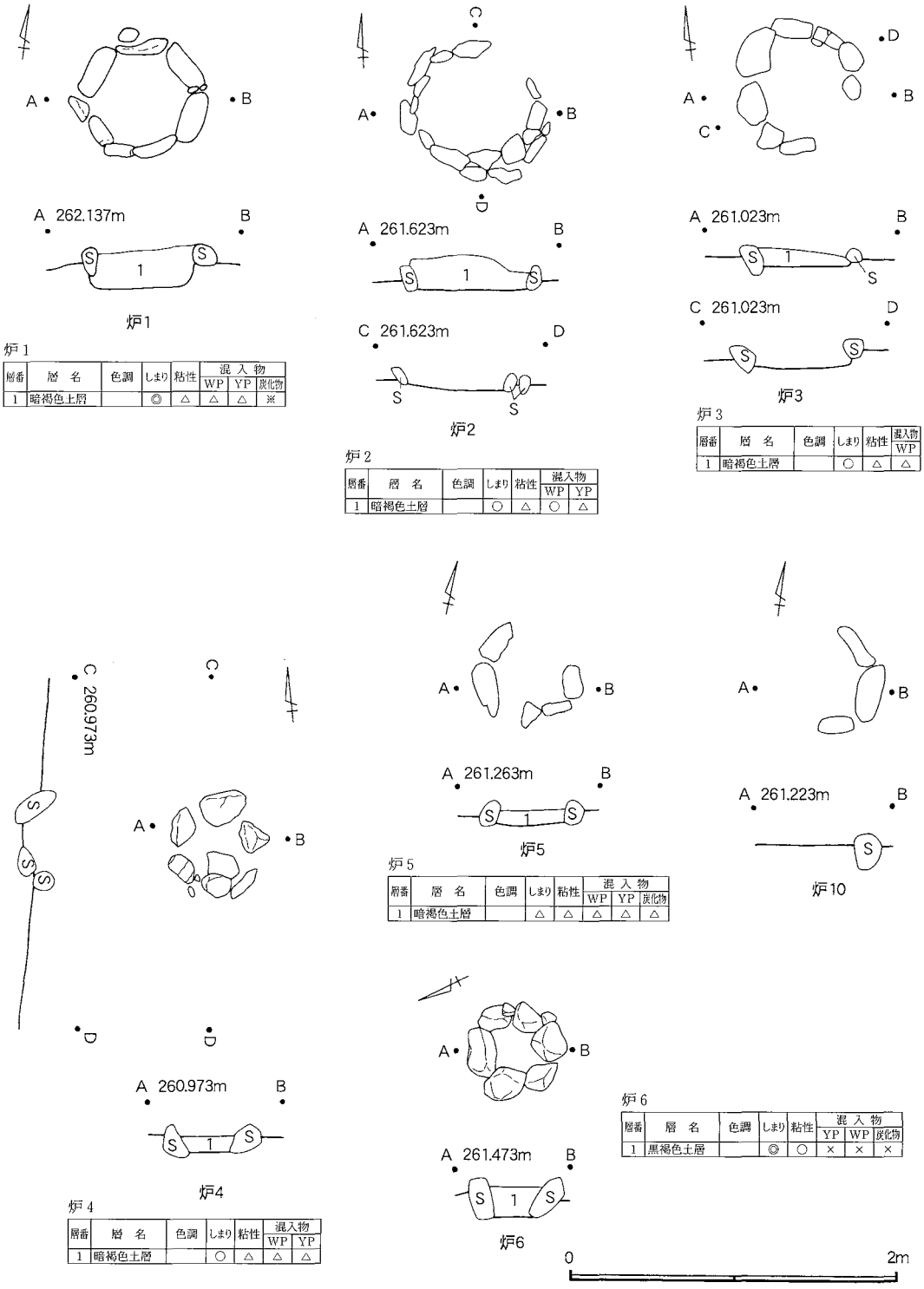


J－28住



J－34住

第184図　縄文時代住居址・グリッド分割図



炉1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	炭化物
1	暗褐色土層		◎	△	△	△	※

炉2

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗褐色土層		○	△	○	△

炉3

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物
					WP
1	暗褐色土層		○	△	△

炉4

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

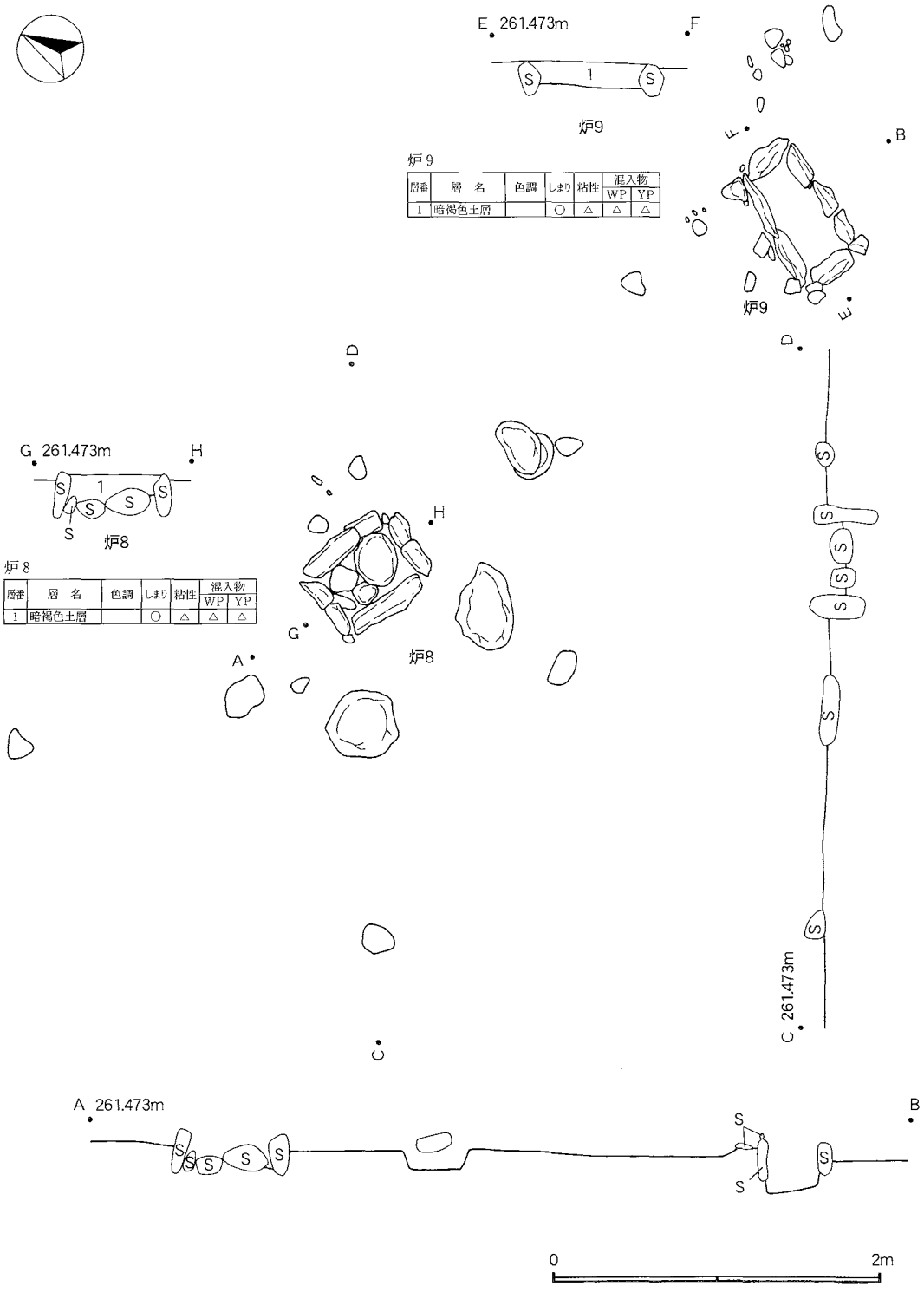
炉5

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					WP	YP	炭化物
1	暗褐色土層			△	△	△	△

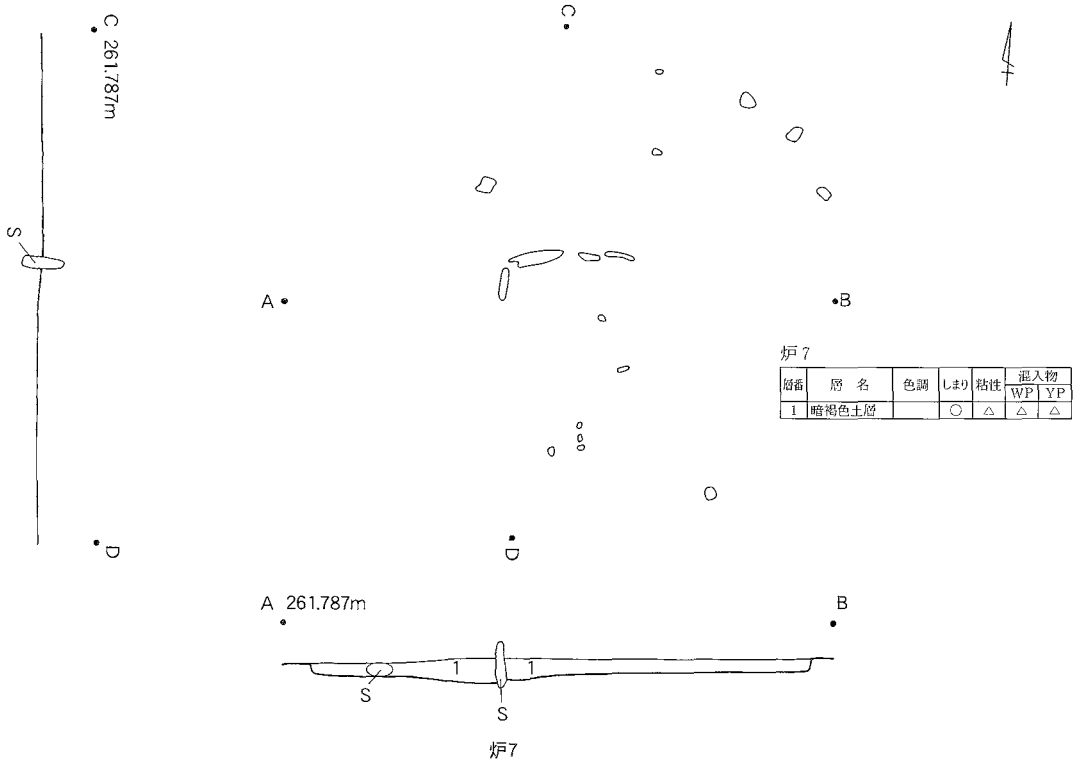
炉6

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	WP	炭化物
1	黒褐色土層		◎	○	×	×	×

第185図　1・2・3・4・5・6・10号炉址実測図

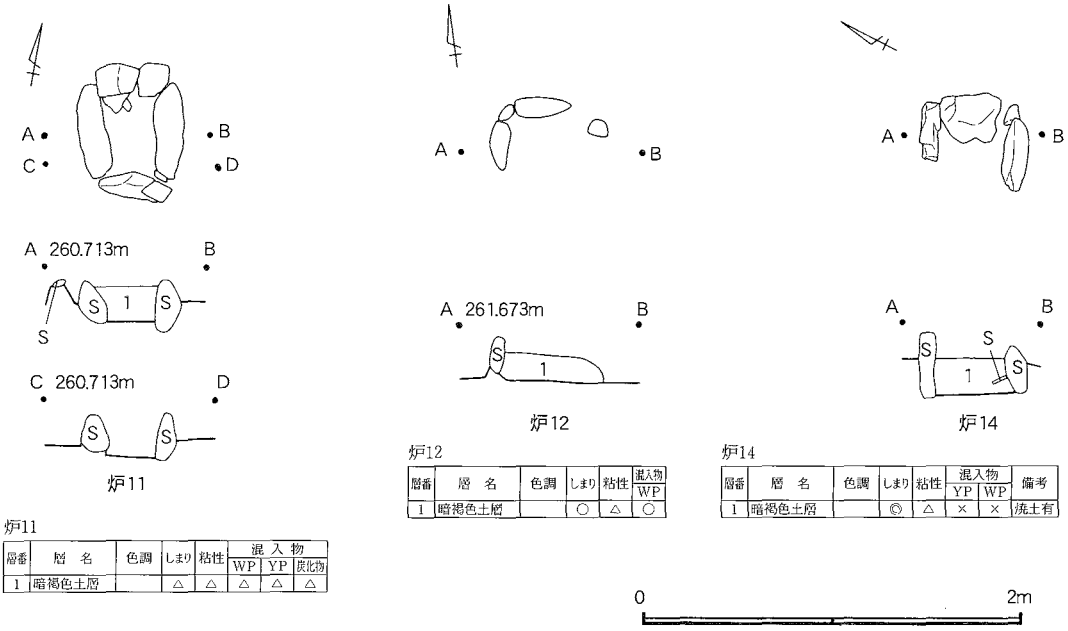


第186図　8・9号炉址実測図



炉7

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP
1	暗褐色土層		○	△	△	△



炉11

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 炭化物
1	暗褐色土層		△	△	△	△	△

炉12

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP
1	暗褐色土層		○	△	○

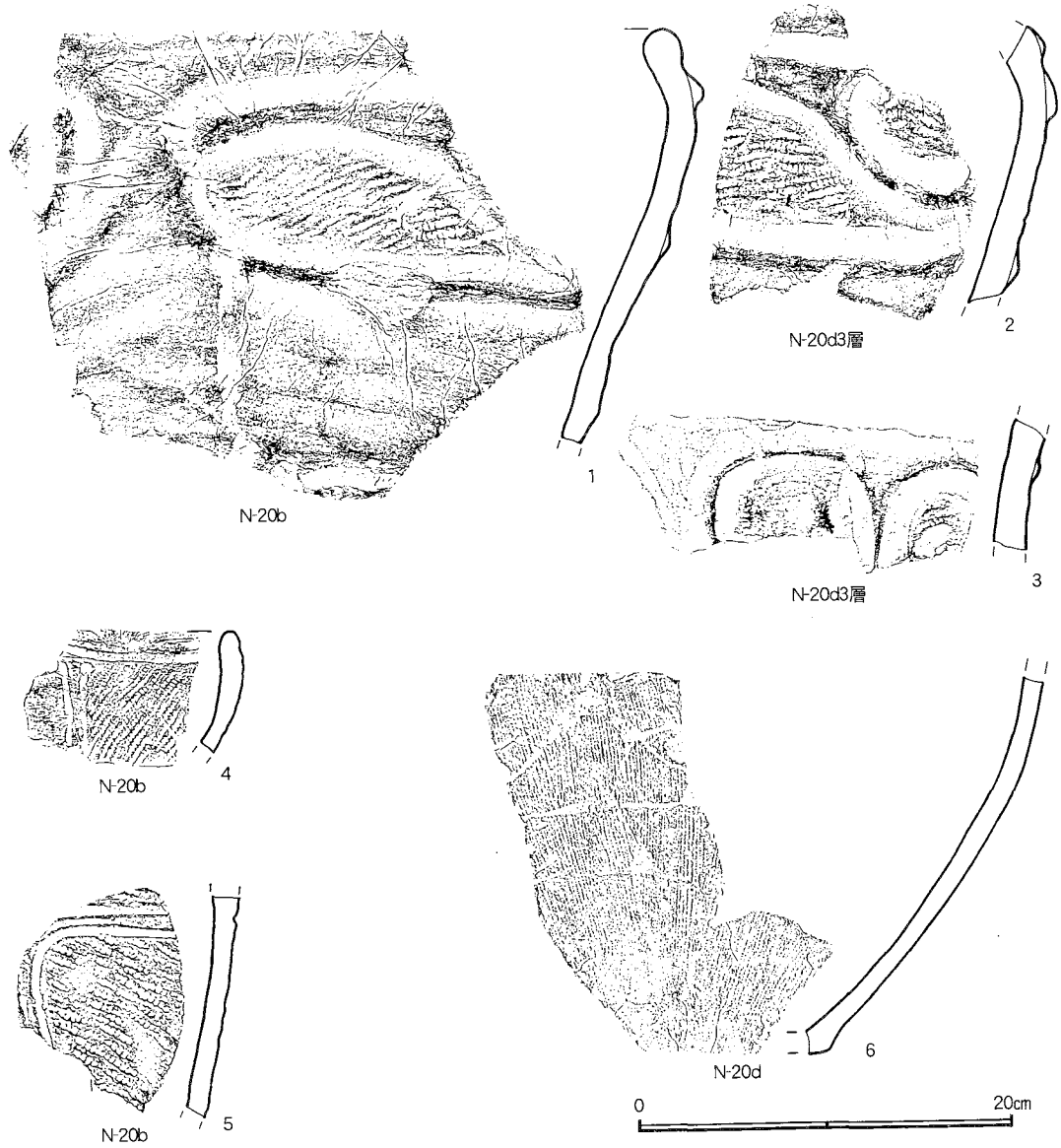
炉14

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 WP	備考
1	暗褐色土層		◎	△	×	×	焼土有

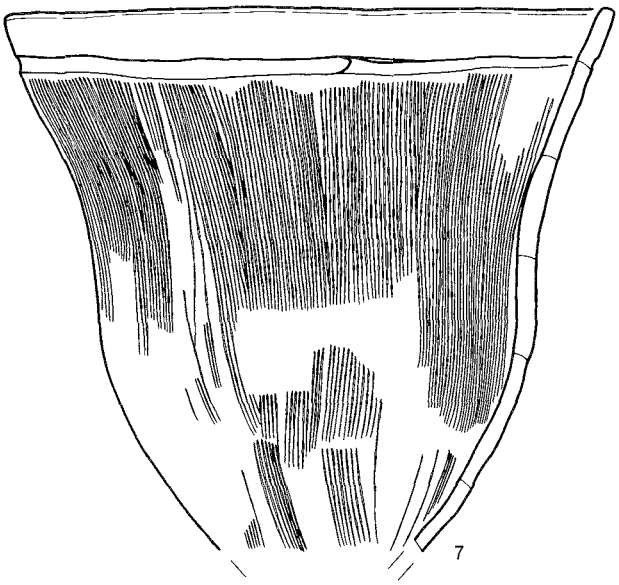
0 2m

第187図　7・11・12・14号炉址実測図

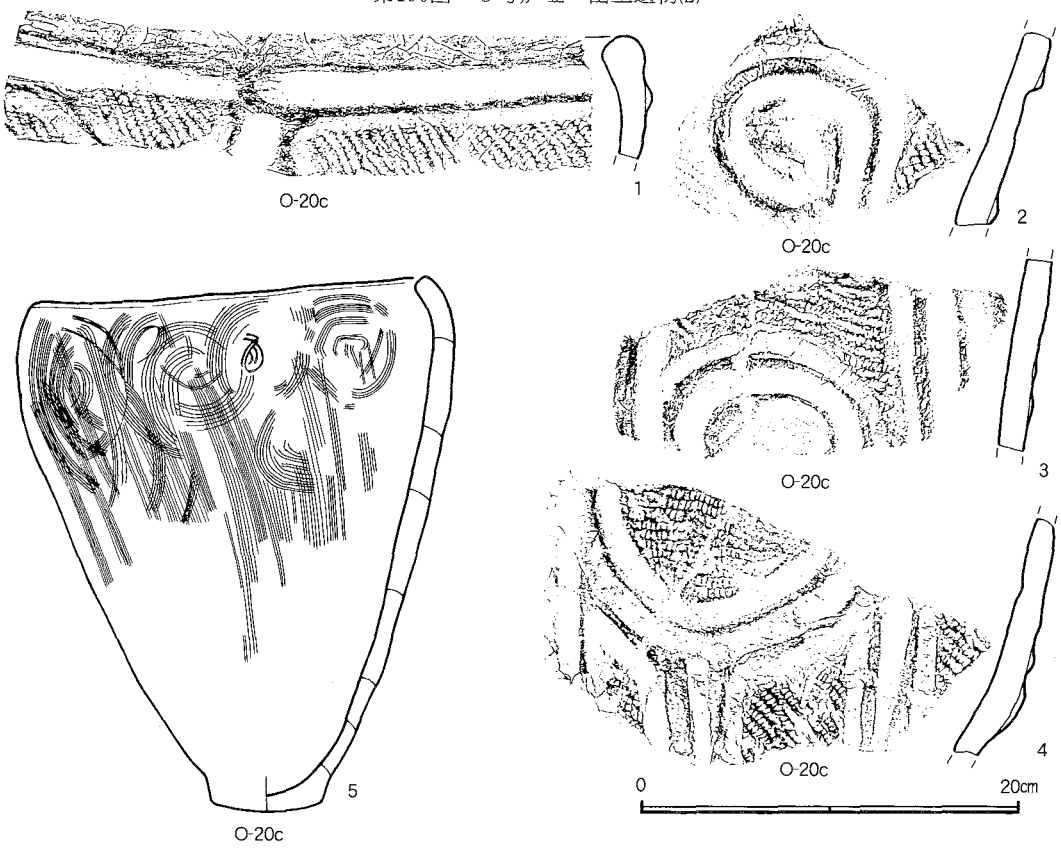
第188図　7号炉址・出土遺物



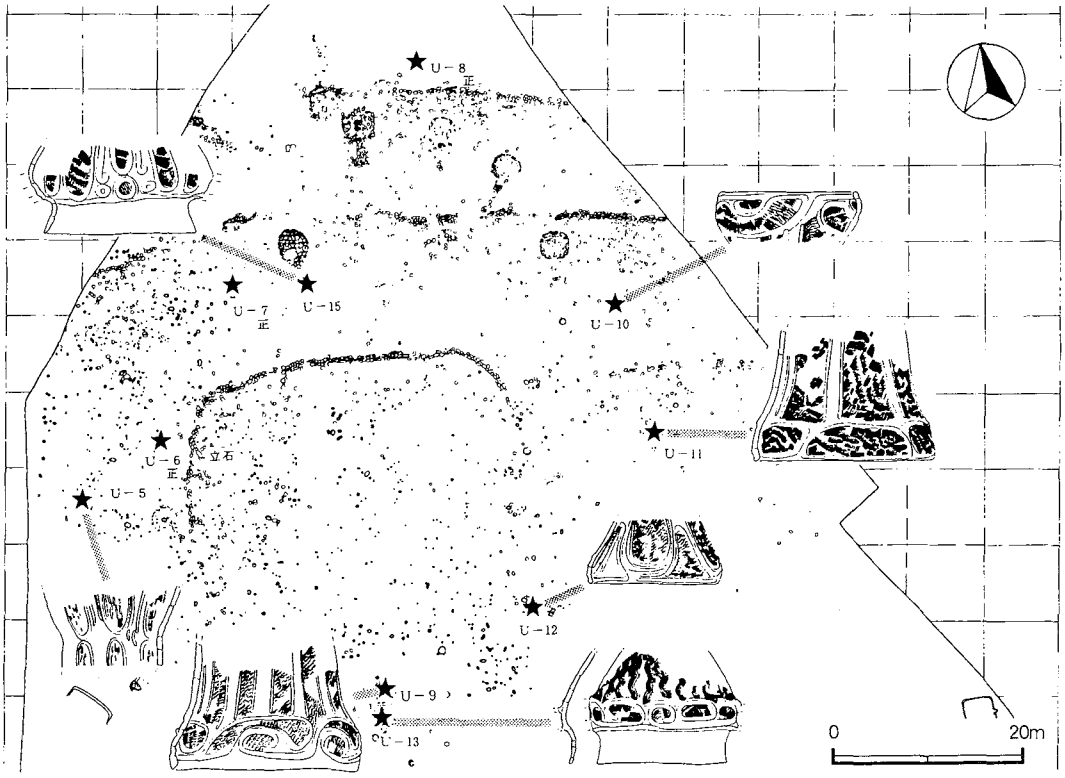
第189図　8号炉址・出土遺物(1)



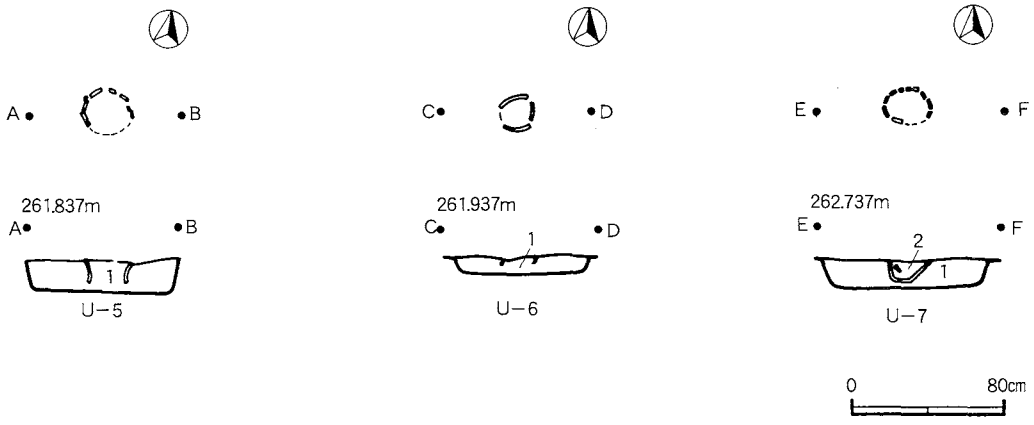
第190図　8号炉址・出土遺物(2)



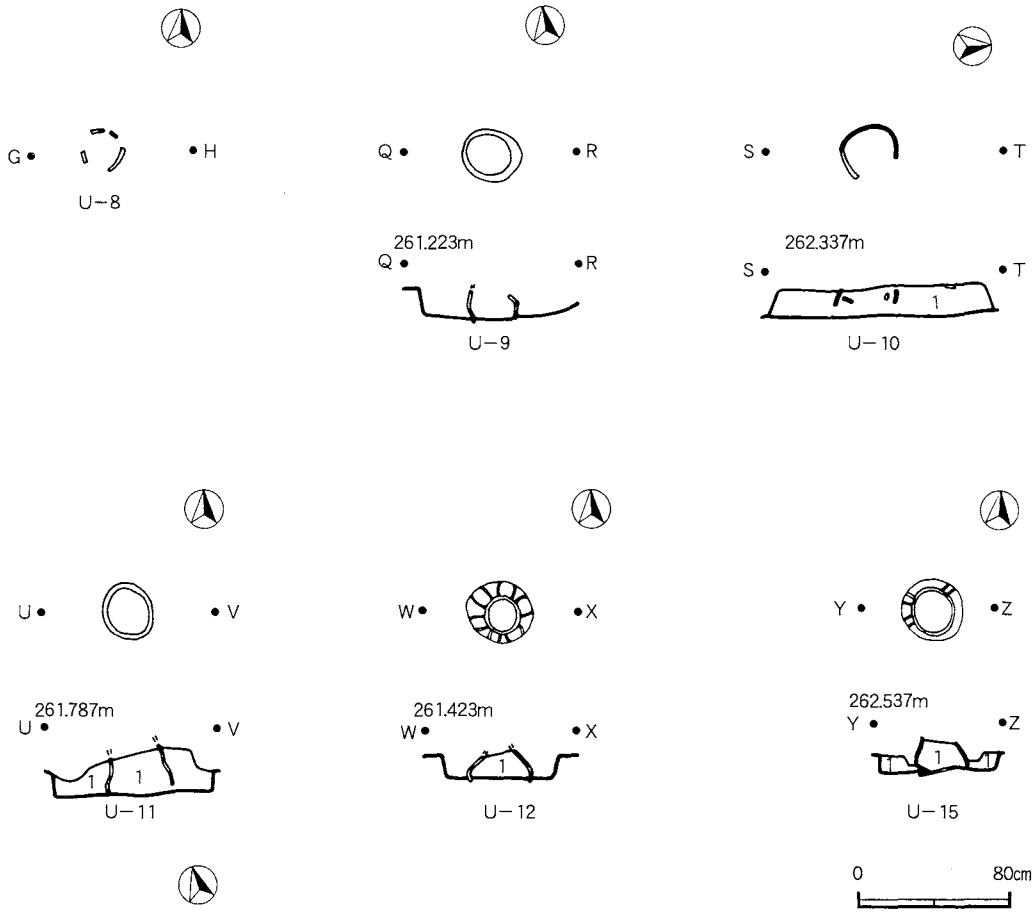
第191図　9号炉址・出土遺物



埋設土器分布図



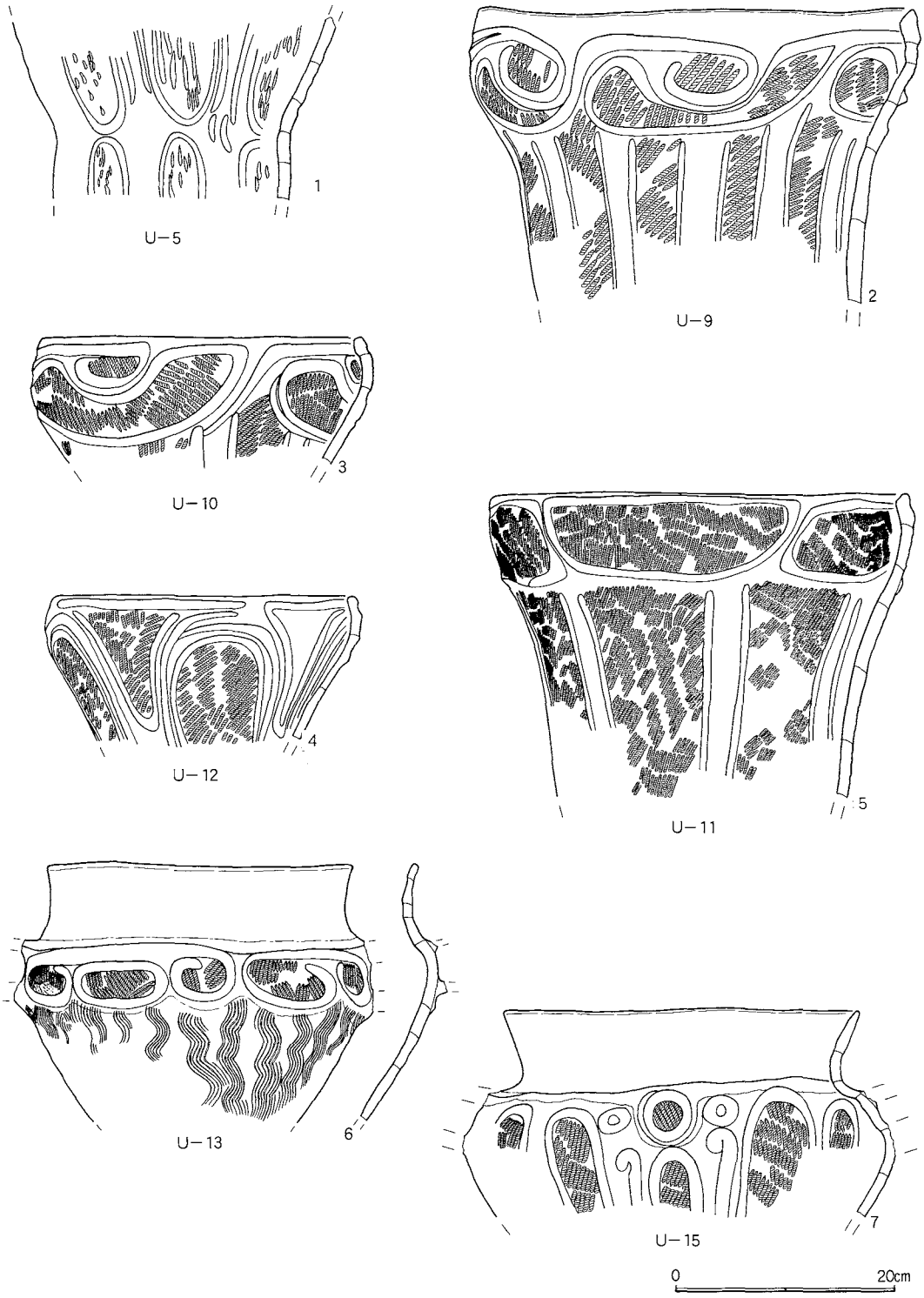
第192図　埋設土器(1)



埋設土器

	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						YP	WP	RP	炭化物
U－5	1	暗褐色土層		○	△	△	△	※	
U－6	1	暗褐色土層		○	△	△	△	※	
U－7	1	褐色土層		◎	△	△	△	△	
	2	褐色土層	1≦2	◎	△		△		
U－10	1	暗褐色土層		○	△	△	△		
U－11	1	暗褐色土層		○	△	○	△		
U－12	1	暗褐色土層		○	△	△	△		
U－15	1	暗褐色土層		△	△	△	△		△

第193図　埋設土器(2)



第194図　埋設土器実測図

グリッド出土の土器

中期後葉から後期前葉の土器（第195～211図）

出土している土器は、加曽利E式後半段階の土器から堀之内式の土器群である。編年的順序は、口縁部文様帯を楕円区画から入り組み状になるもの、胴部には、懸垂文や隆帯文の施文される土器が、加曽利E式後半段階に比定される。次いで、微隆起線による区画と胴部文様帯が一体化する段階の土器が中期終末から後期初頭段階。内面に沈線を持つ土器は堀之内式段階になる。

以下、本時期の土器については、各部位別（文様帯）文様施文別に説明したい。

口縁部文様帯の区画を・楕円区画や入り組み状の楕円区画にしている土器（1から36）。

1や2、4等の大形の深鉢では、口縁部施文を幅の太い隆帯とそれを貼り付けるために押しつけた痕が沈線状になる。口縁部文様帯の楕円区画を隣の区画と隆帯で連結するように入り組ませている。区画内は、縄文が充塡される。RLやLRの斜行縄文で、施文方向は斜め、或いは、縦位が多い。口縁部からは、垂線が引かれ懸垂文を作る。懸垂文間は磨り消し縄文。15、19などの小形と思われる深鉢の施文では、隆帯を貼り付けず、器面を工具で削るようにして沈線を引き文様を描いている。

9は、隆線で口縁部文様帯を半円状に区画する。胴部は懸垂文が施文される。

口縁部文様帯を微隆起線で区画する土器（47から60、148から172）。

50から55、148から157などは、口縁部文様帯が幅狭く、口縁に平行する微隆起線で区画し、懸垂文が施文される。口縁部は、無文帯になる。懸垂文内は、幅が広い磨り消し縄文を施す。縄文は、RLやLRで横位方向に施文する。47や59では、口縁に弧線を描くように施文し長半円状に区画する土器がある。58では、口縁の隆起線下からごく細い線でレンズ状に文様を描いている。

口縁部文様帯と胴部文様帯が一体化した土器（61から68、79から90）

口縁部に沿って細い沈線を巡らす土器や。沈線に接するように弧線や垂線が施文される。63や66では、口縁部文様帯が消失し胴部文様帯と一体となっている。

口縁内面に沈線を持つ土器（91、92）

口縁内面に沈線が巡る。91は、外面に口縁に沿って刺突された微隆起線が巡り胴部に三角文が施文される。

条線を施文している土器（93から110）

103から106は、口縁部に沿って沈線を一条引いている。

96等では、条線を密集させて縦位に施文している。95では、条線を乱雑に間隔を開けて施文しているため減退の幅が確認できる。

98や101、105、109では、縦の波状や工具の片側を支点にしてコンパス文風に施文している。

胴部隆帯文の土器（111、112、113、115、117）

本類の土器は、胴部文様帯を太い隆帯で渦巻きや蕨手状に文様を描く。文様区画内を縄文が充塡される。

胴部に沈線による垂線が引かれる土器（114、118、119から121、132から147）。

3本の沈線で懸垂文を描く土器（132、142から144）と、2本の沈線（119、140）で懸垂文を描くものがある。懸垂文は磨り消し縄文になる。地文の縄文は、RLやLRの斜行縄文。縦位施文が多い。

胴部に微隆起線で垂線が引かれる土器（173から183）

胴部文様帯に微隆起で懸垂文が施文される。懸垂文内は、磨り消し縄文である。地文は、RLやLRの横位に施文された斜行縄文。

胴部に弧線・曲線が引かれる土器（184から195、211から213）

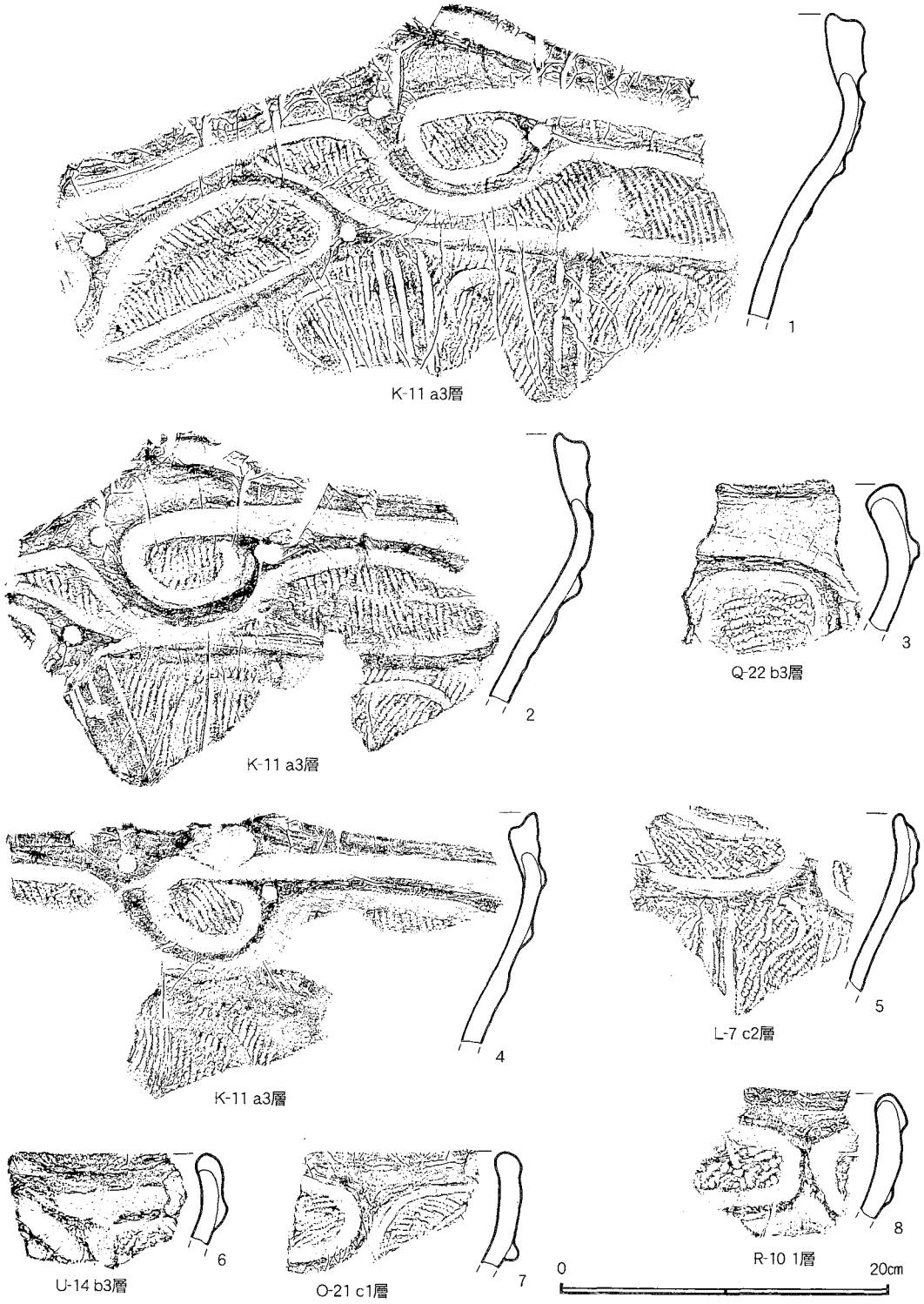
胴部文様帯に沈線で曲線が描かれる。沈線内は、磨り消し縄文。

底部片（230から245）

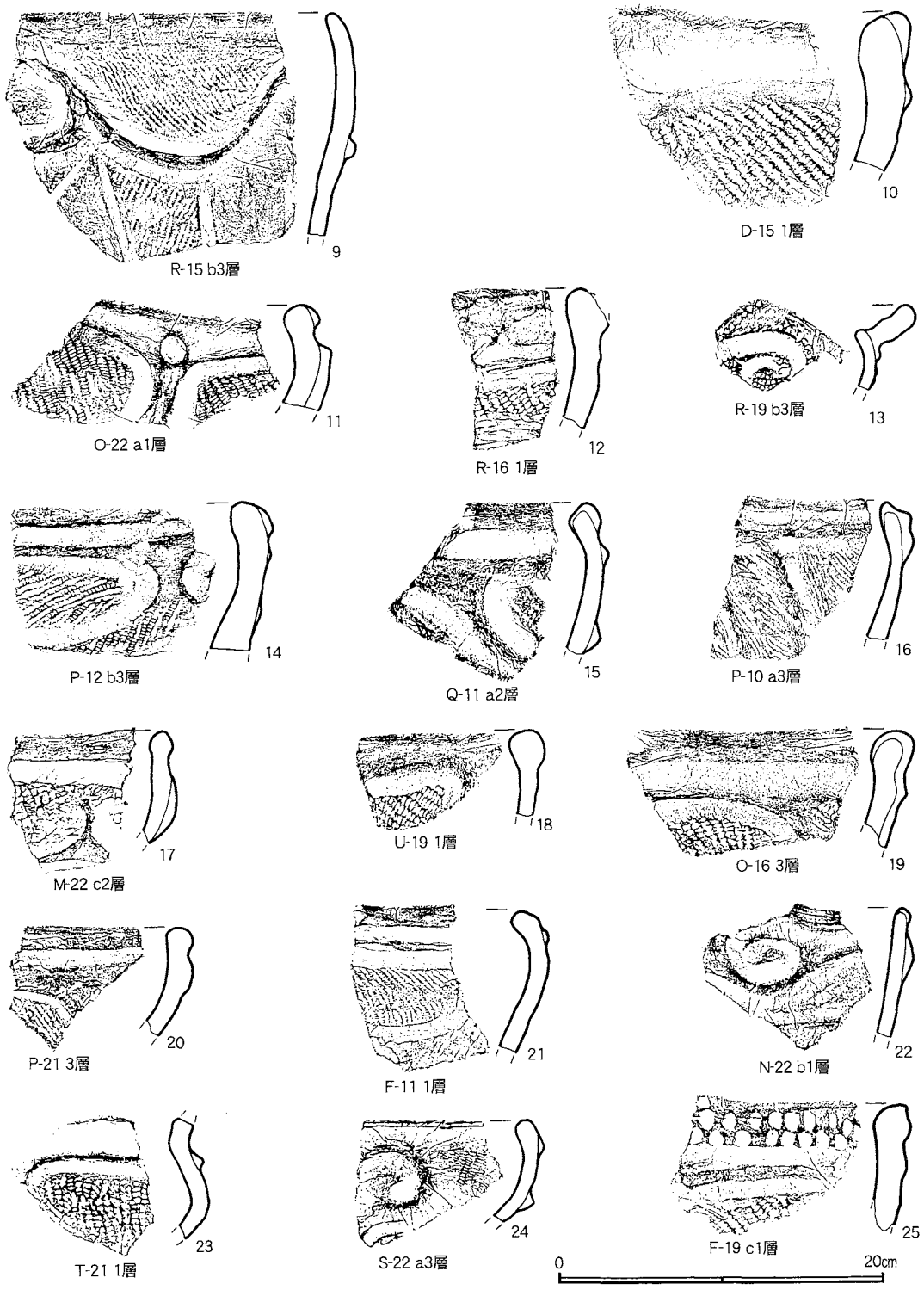
232、235、236、239、240は、懸垂文が底部付近まで施文される。他は、表面の摩滅や形面調整により無文のもある。

246～275は橋状把手を集成した。両耳壺の出現率が高く注目される。，

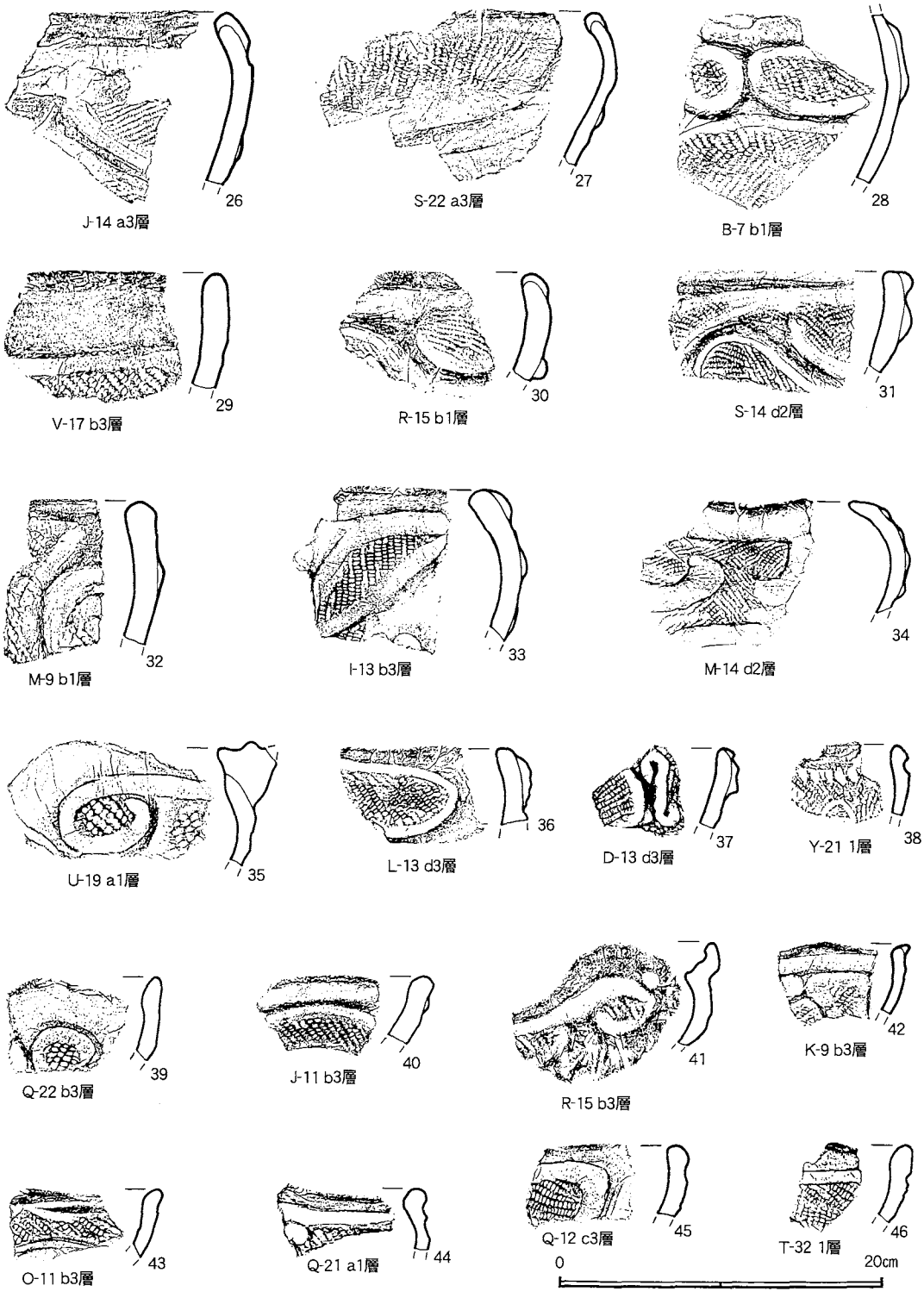
276は耳栓である。（関根）



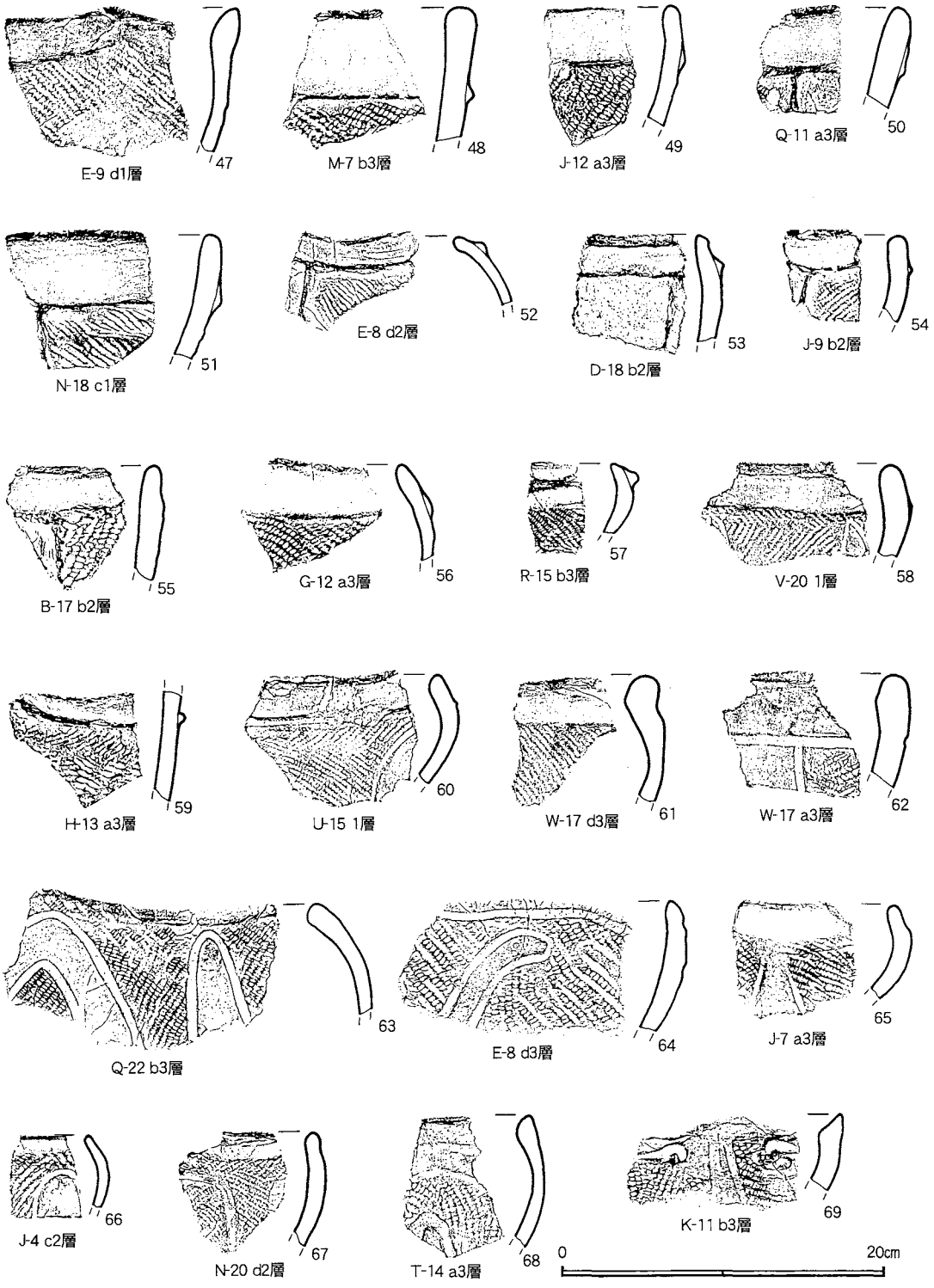
第195図　グリッド出土遺物



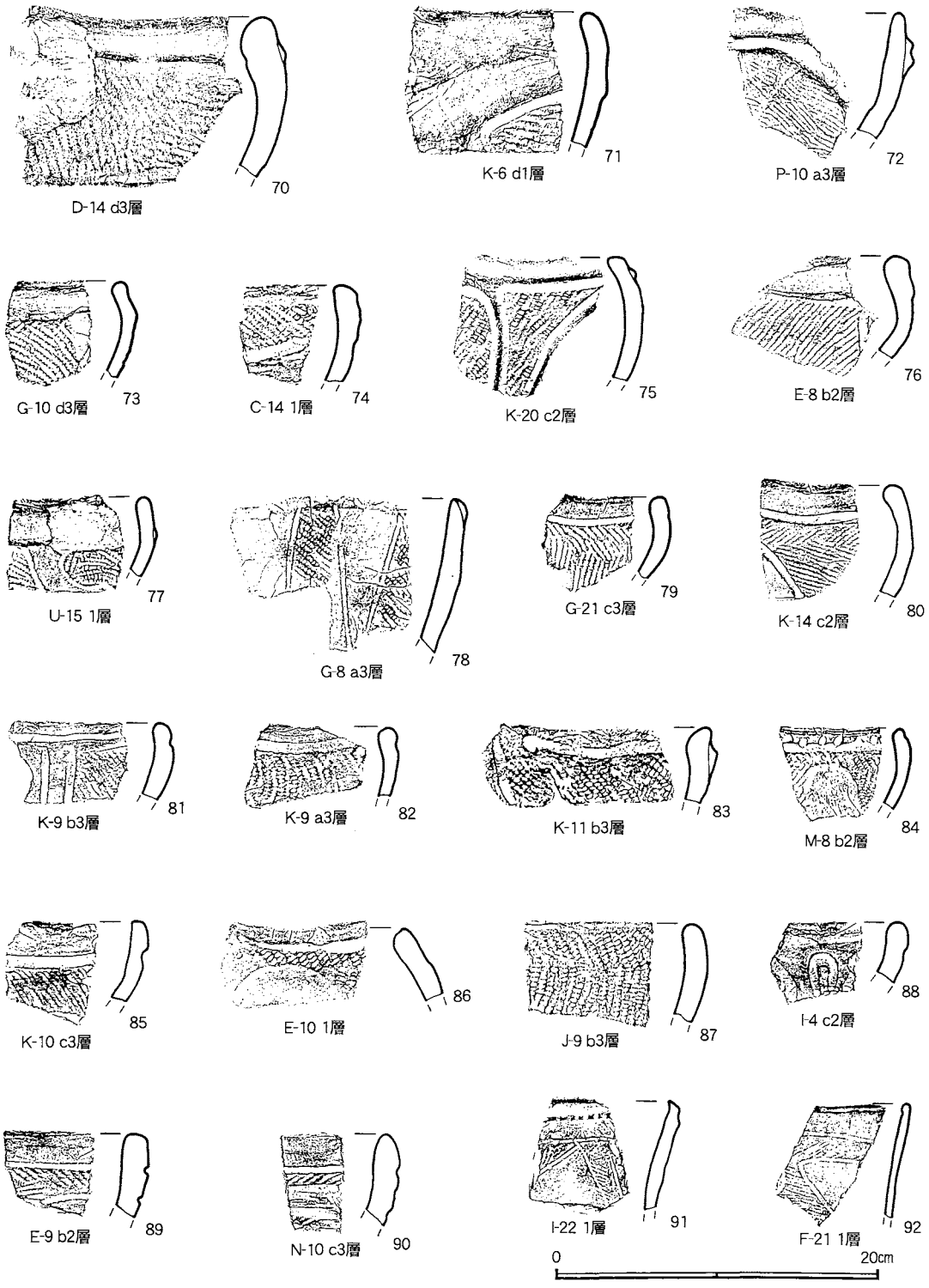
第196図　グリッド出土遺物



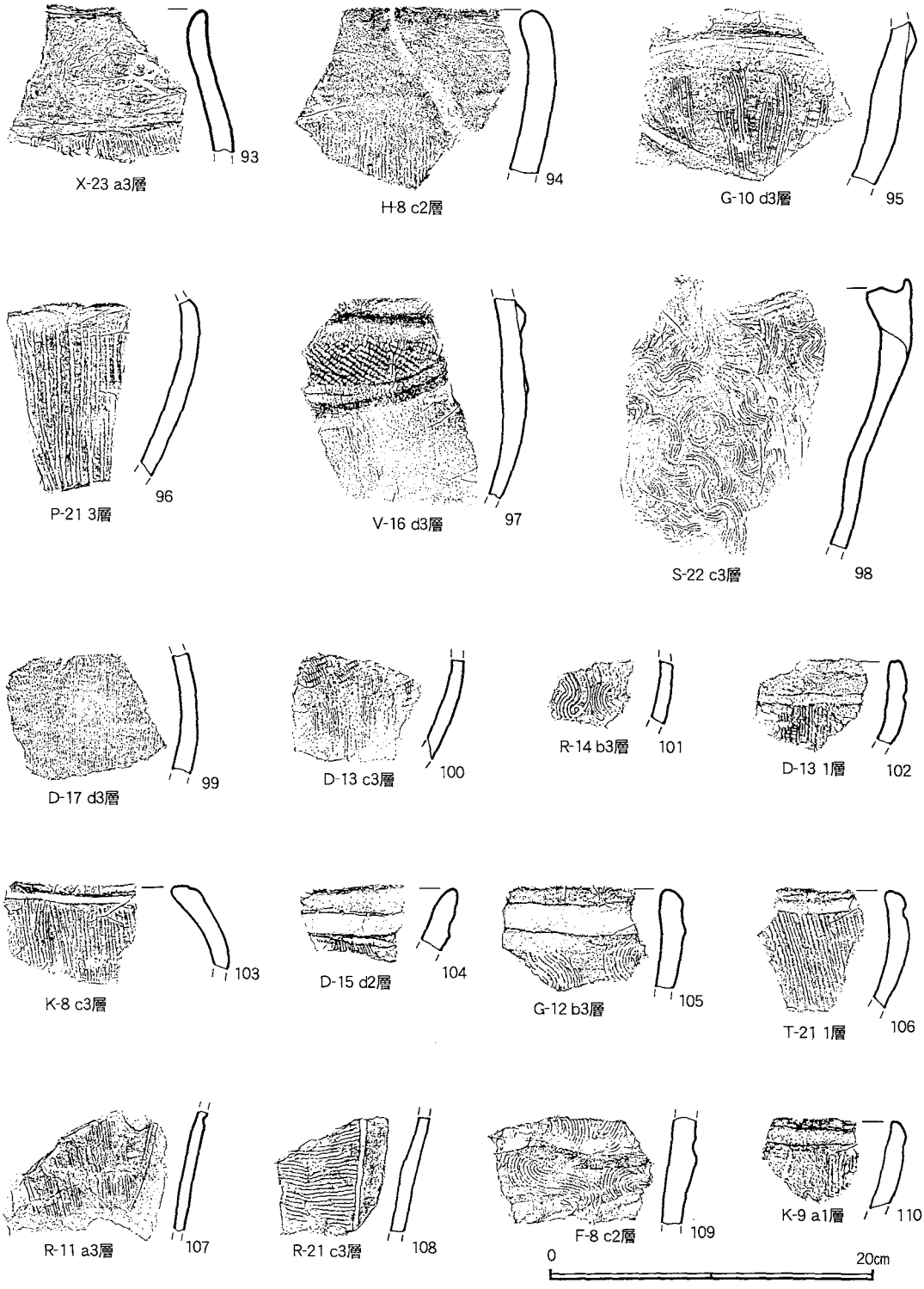
第197図　グリッド出土遺物



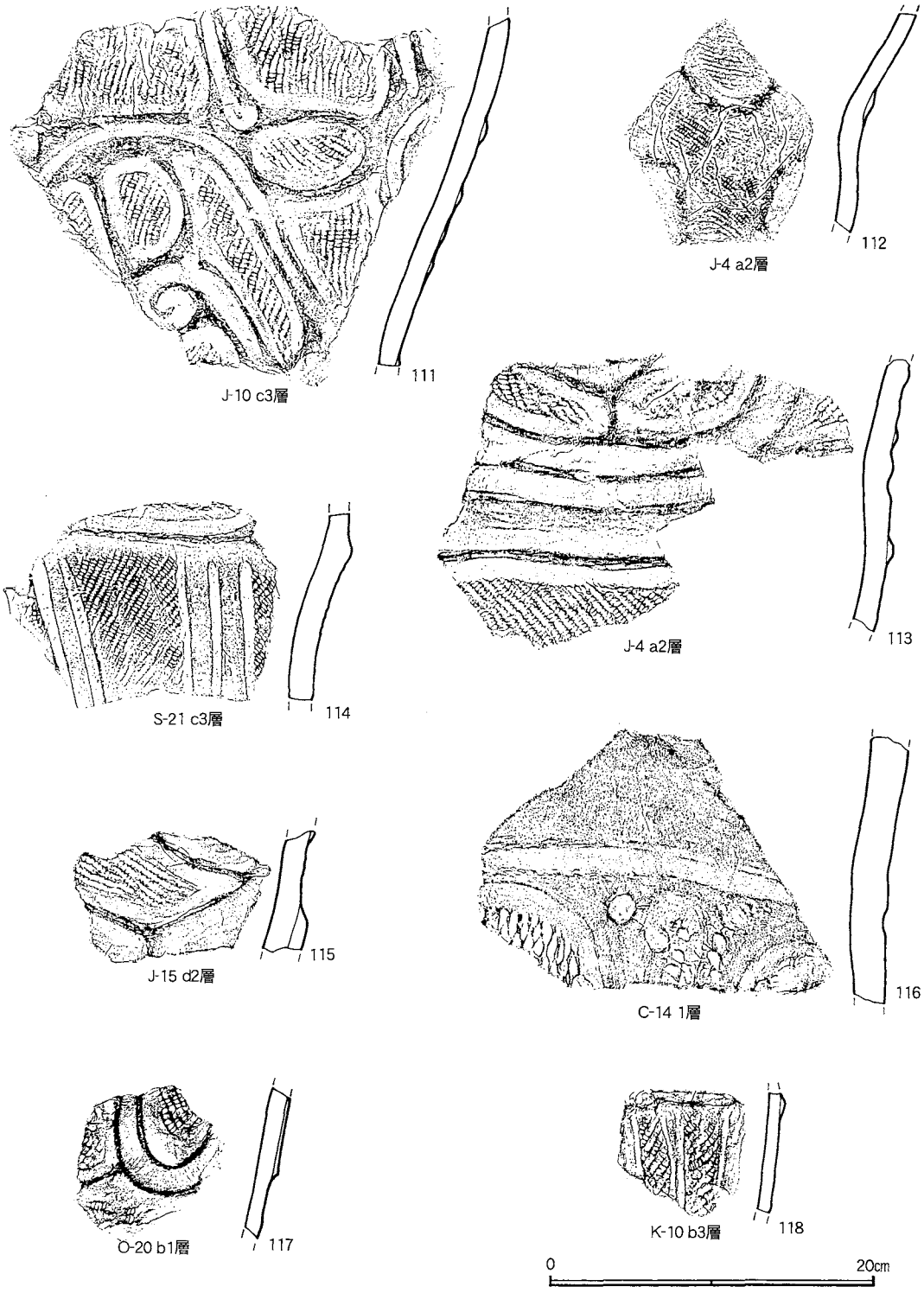
第198図　グリッド出土遺物



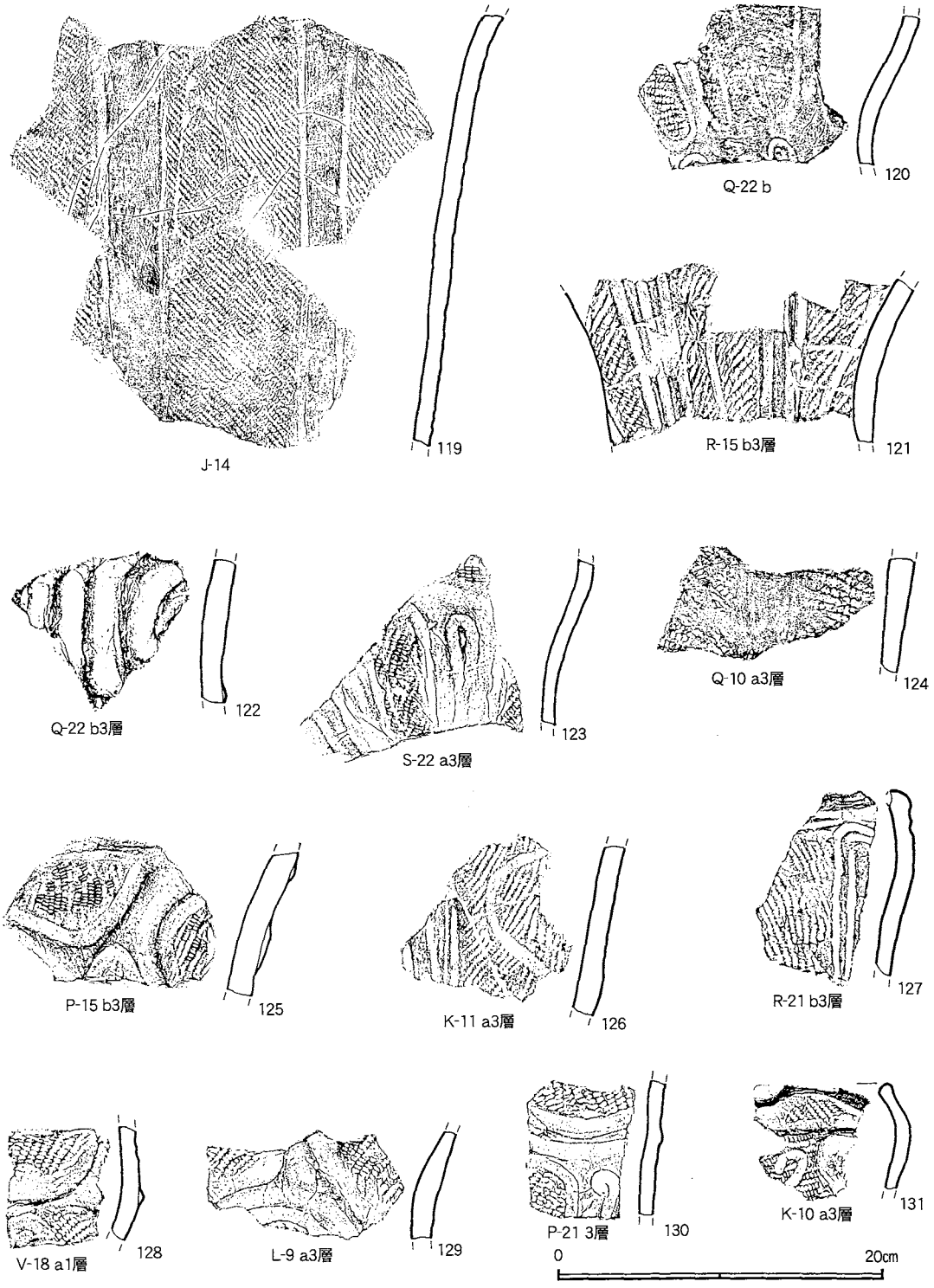
第199図　グリッド出土遺物



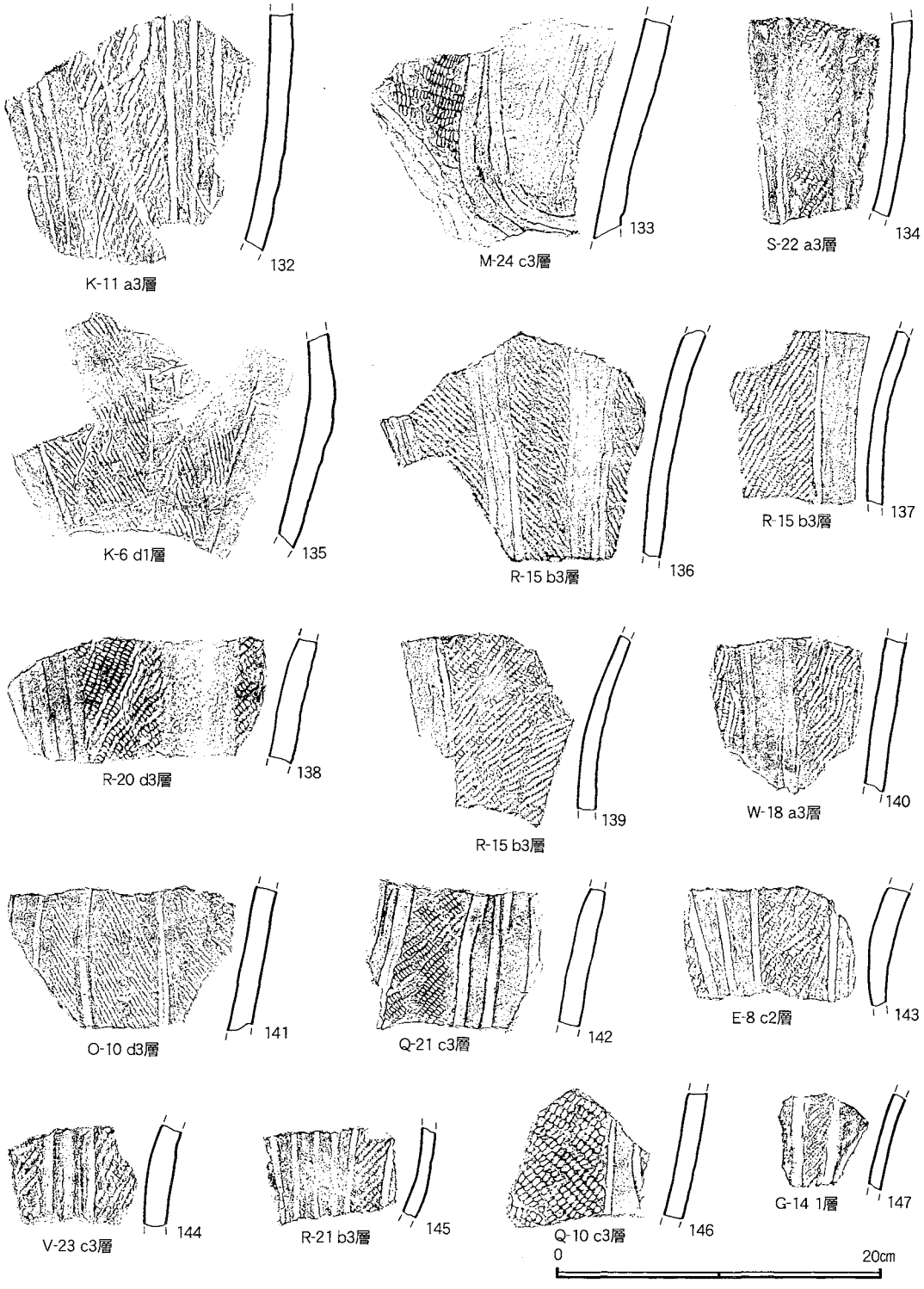
第200図　グリッド出土遺物



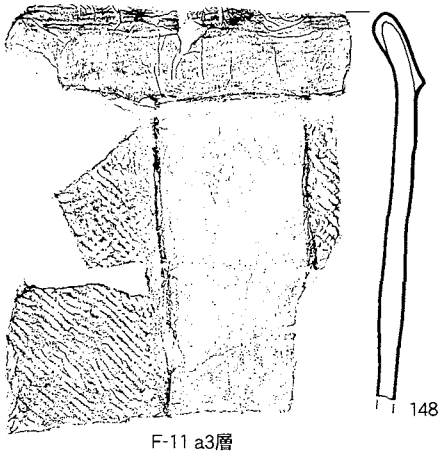
第201図　グリッド出土遺物

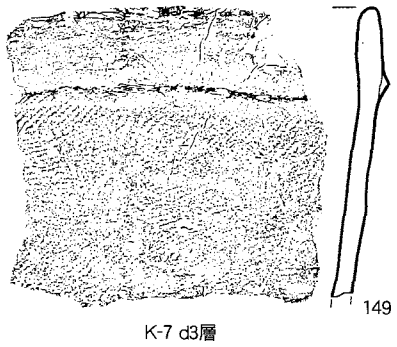


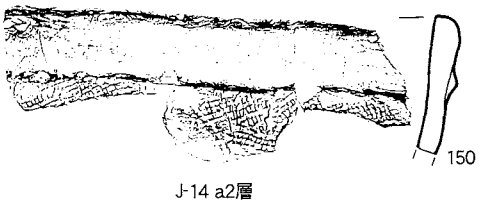
第202図　グリッド出土遺物

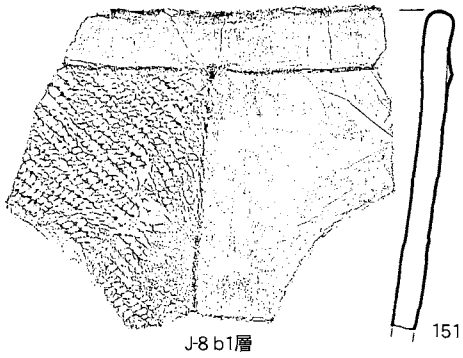


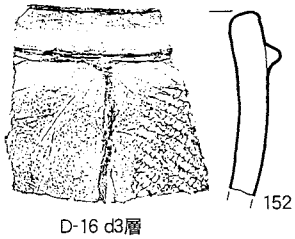
第203図　グリッド出土遺物

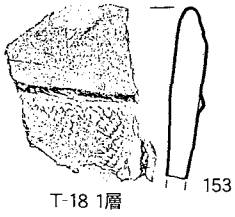


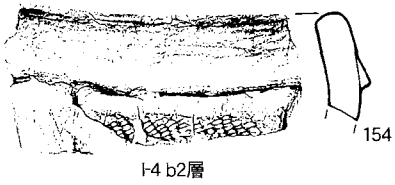


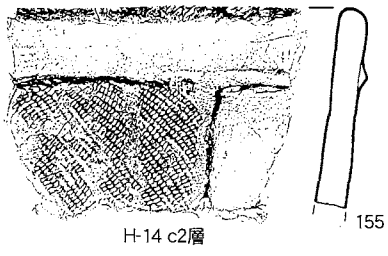


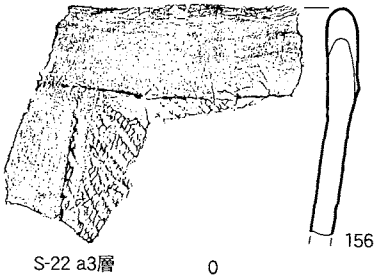


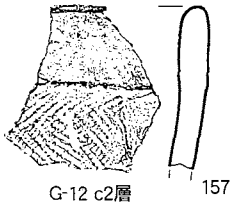


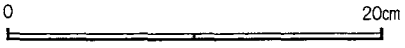




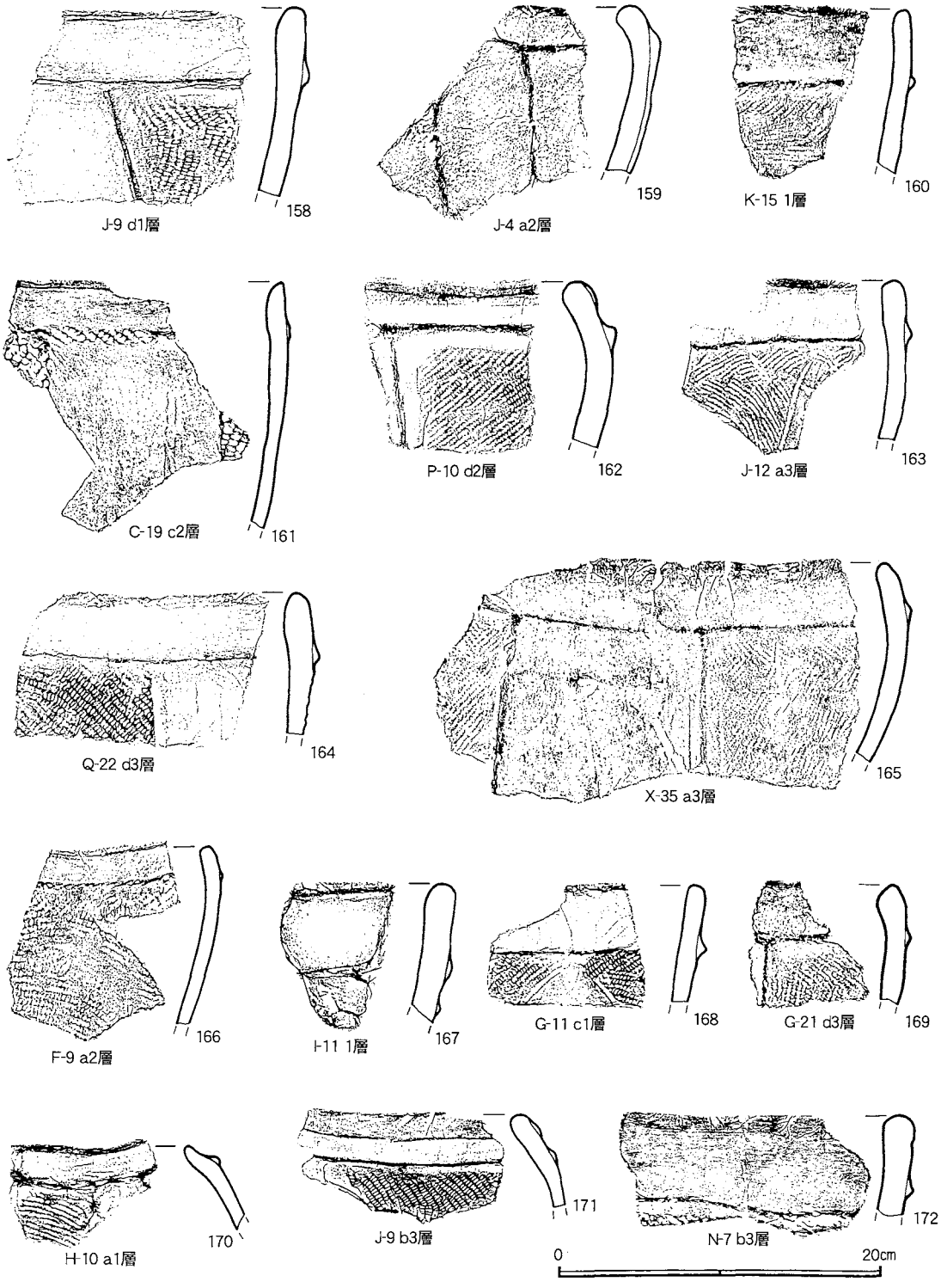




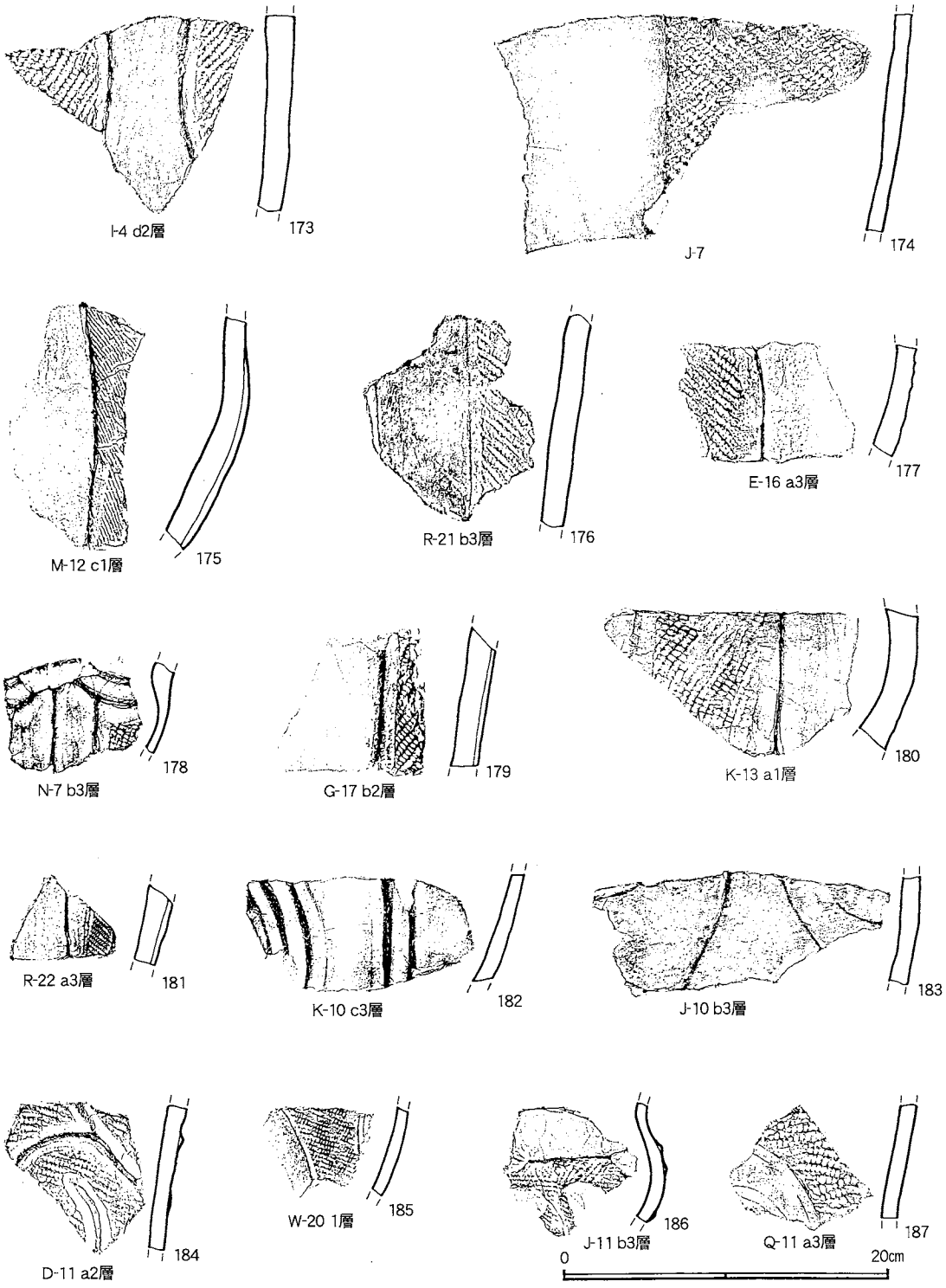




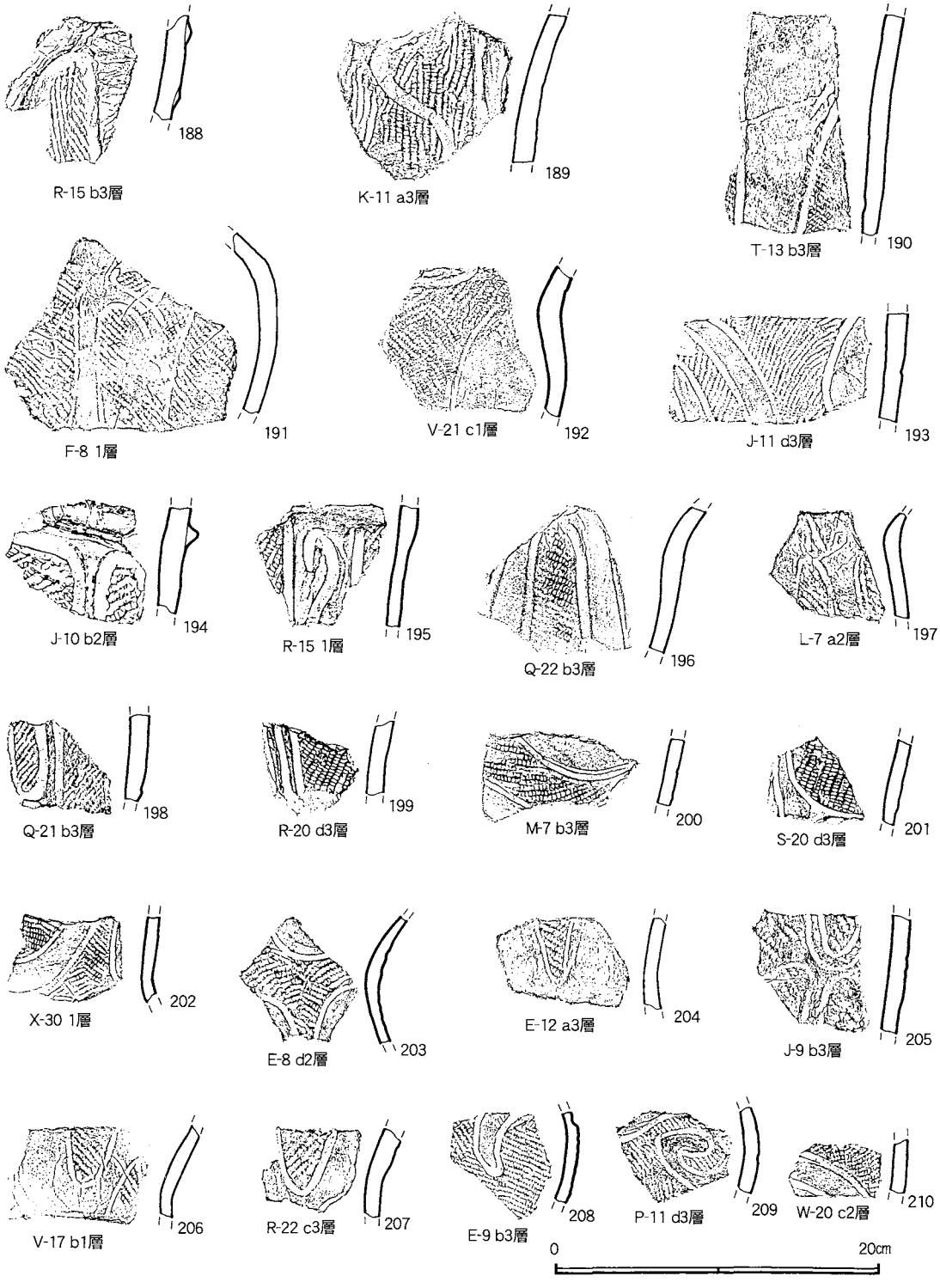
第204図　グリッド出土遺物



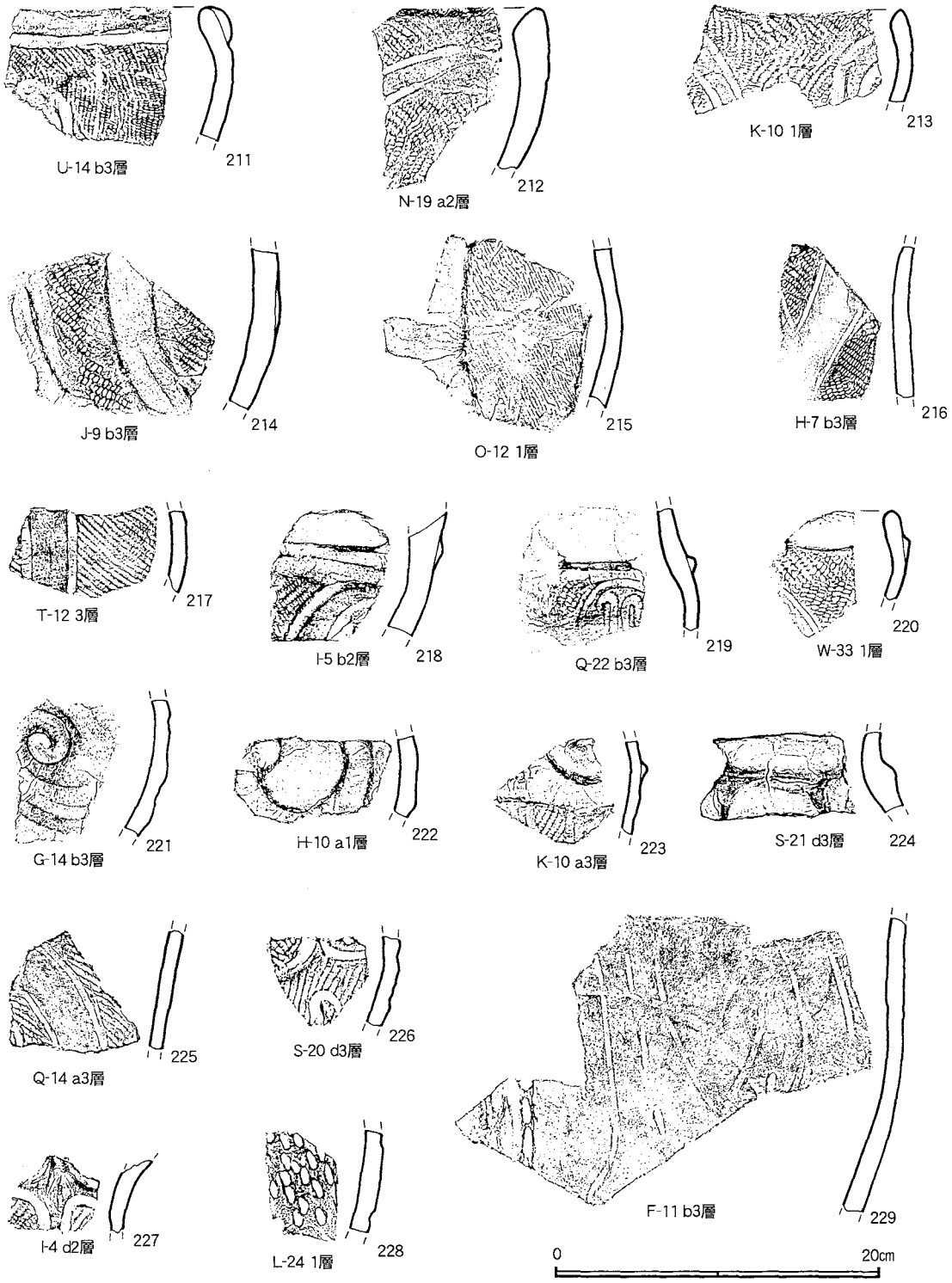
第205図　グリッド出土遺物



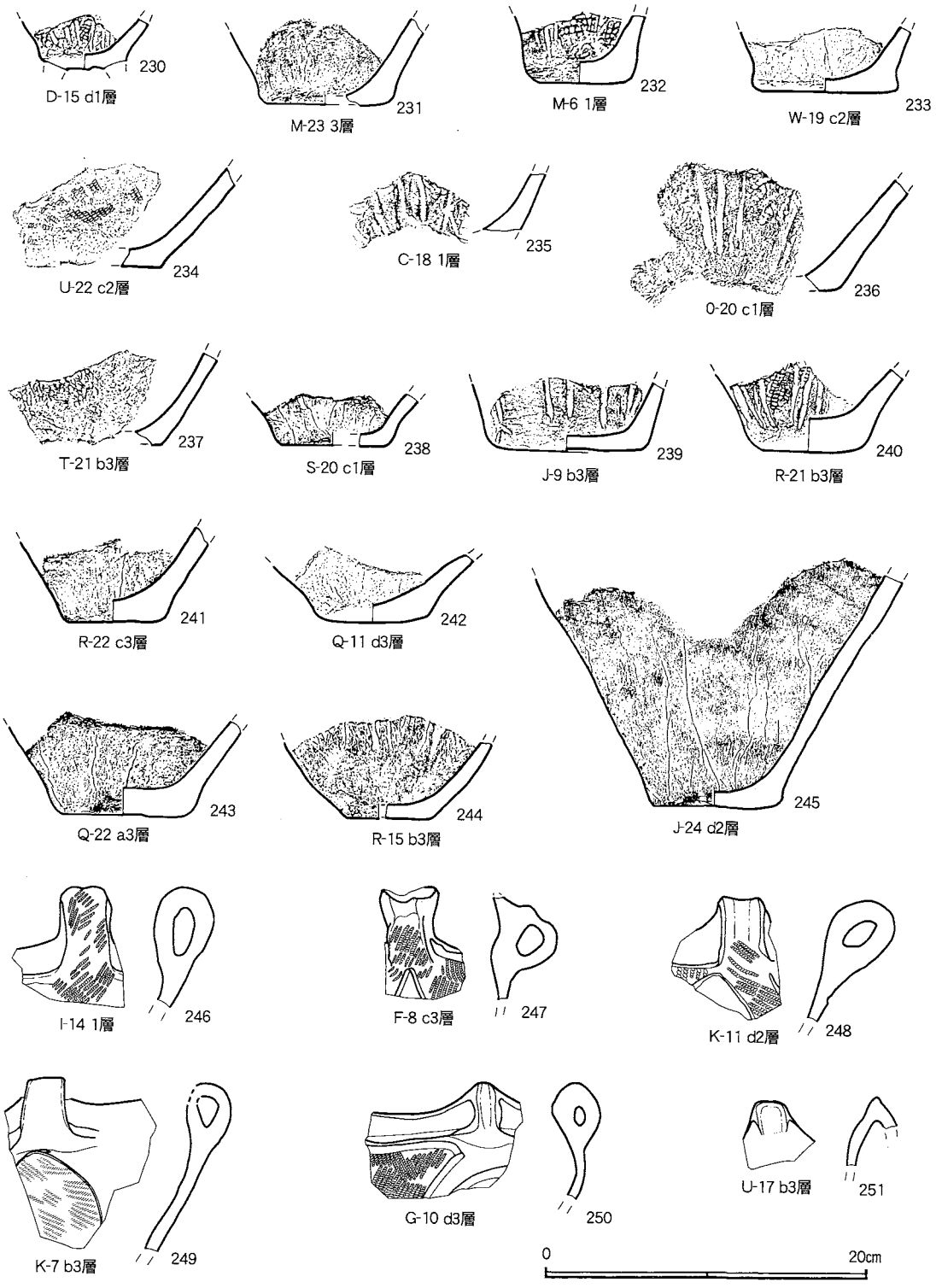
第206図　グリッド出土遺物



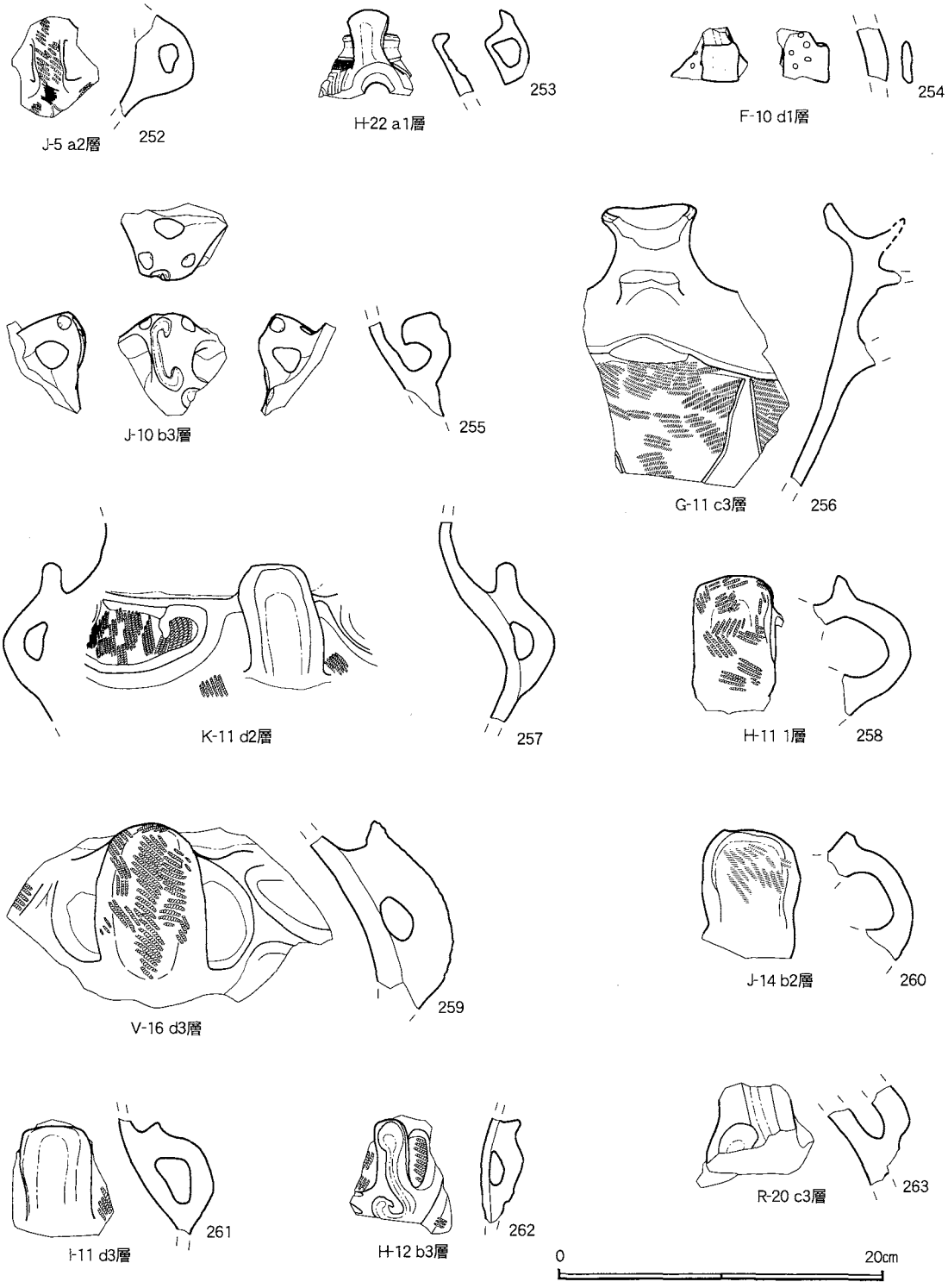
第207図　グリッド出土遺物



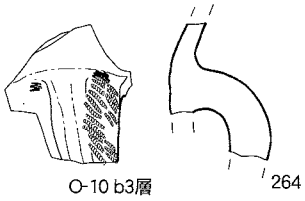
第208図　グリッド出土遺物

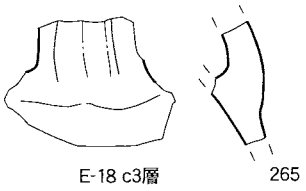


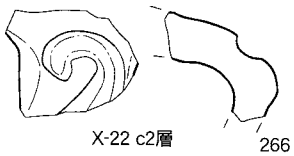
第209図　グリッド出土遺物

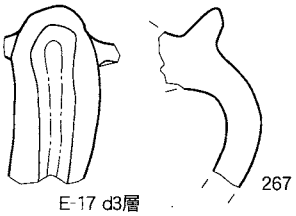


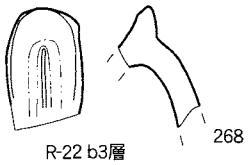
第210図　グリッド出土遺物

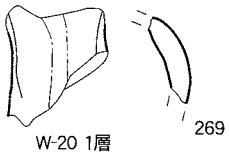


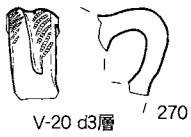


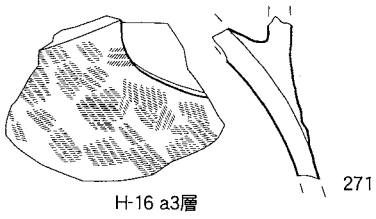


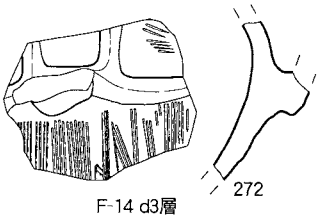


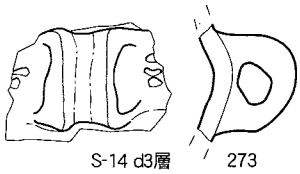


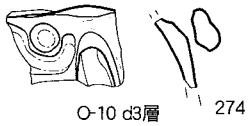


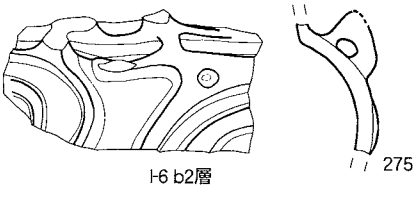


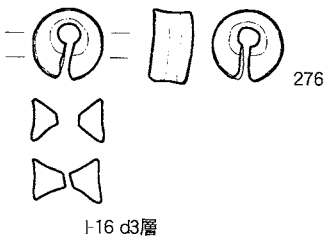












第211図　グリッド出土遺物

(4) 平安時代の遺構と遺物（第212～291図）

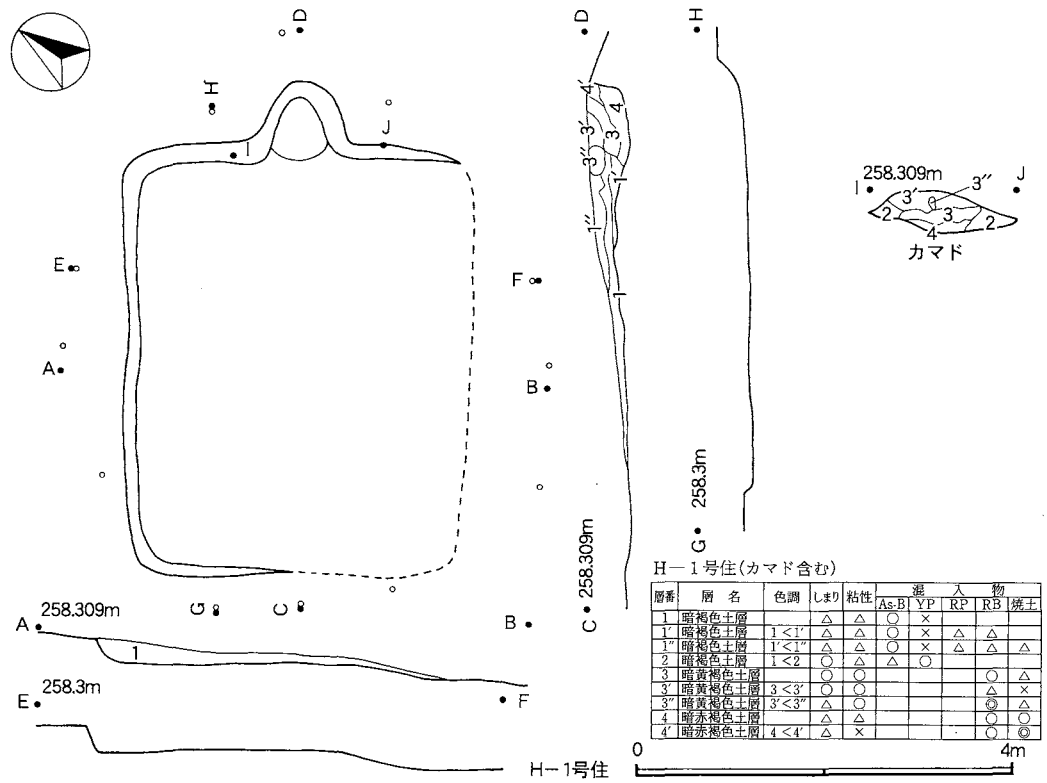
平安時代の住居址は、前述のとおり33軒が検出された。9世紀から10世紀にかけての集落で、縄文時代の遺構が確認された南の平坦面に広がっている。野村遺跡・野村II遺跡が存在する尾根筋を見ると、本遺跡の周辺で平坦面が広がるだけで、他の箇所は尾根になっていて集落を形成するには向かない。その中でも特に、縄文時代の遺構が確認された箇所が最も広く平坦面が広がっている。しかし、平安期の集落はこの部分にではなく、その南側の少し狭まる部分に集落を形成している。まるで縄文時代前期の環状集落、縄文時代中期の環状列石を避けるようであり示唆的である。

住居址は、集落北側（B－5・野村遺跡）のものは攪乱などにより遺存状態が悪い。南側（B－11・野村II遺跡）は、北側に比べ遺存状態は良いが堆積土が薄く、あまり深い堀込みで住居址を確認することは出来なかった。

竈は、確認されたのもは全て東壁に設けられ、中央及び中央南に設置されているものが多い。H－23号住は竈の残りが良く、礫によって組まれている状態が遺存していた。

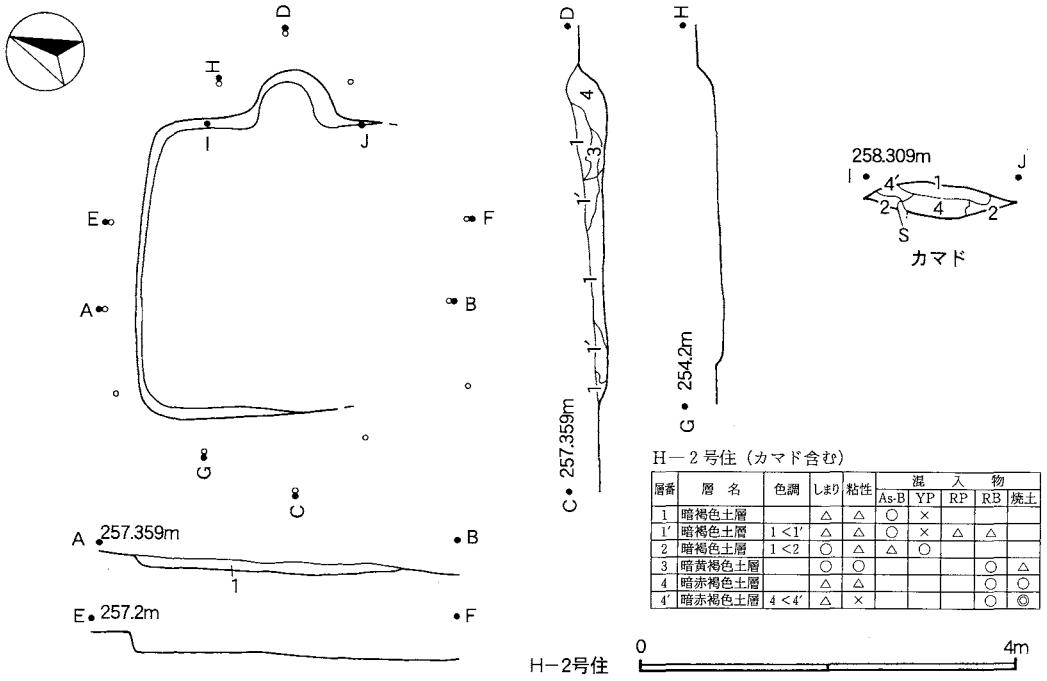
柱穴は、北側の住居址からは検出されなかった。南側の住居址からは、遺構の内側や外側から確認されたが、上屋構造を推測させるような配置で確認されたものはなかった。

遺物は、遺構内出土及び調査区出土の実測に耐えるものを中心に図化した。図化されていない遺物も全て重量を計測し、その分布状況を図示した(第285～291図)。本遺跡は、県下須恵器一大生産地として著名な秋間古窯跡群の中に存在している。そのため生産遺構（二反田遺跡）で見られるような、窯壁の融着や歪みを持った須恵器が確認されている。秋間古窯跡群の操業は7世紀初頭から9世紀後半と考えられているため、本遺跡の遺物はこの最終期に属するものと考えられる。（千田）



H－1号住(カマド含む)

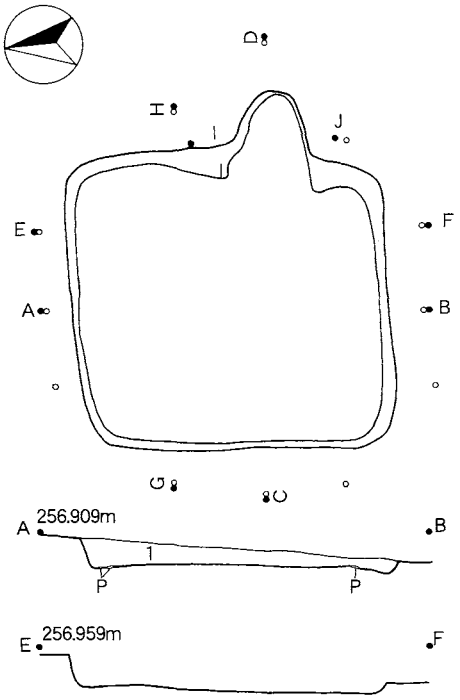
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B	YP	RP	RB	焼土
1	暗褐色土層		△	△	○	×			
1′	暗褐色土層	1＜1′	△	△	○	×	△	△	
1″	暗褐色土層	1′＜1″	△	△	○	×	△	△	△
2	暗褐色土層	1＜2	○	△	△	○			
3	暗黄褐色土層		○	○				○	△
3′	暗黄褐色土層	3＜3′	○	○				△	×
3″	暗黄褐色土層	3′＜3″	△	○				◎	△
4	暗赤褐色土層		△	△				○	○
4′	暗赤褐色土層	4＜4′	△	×				○	◎

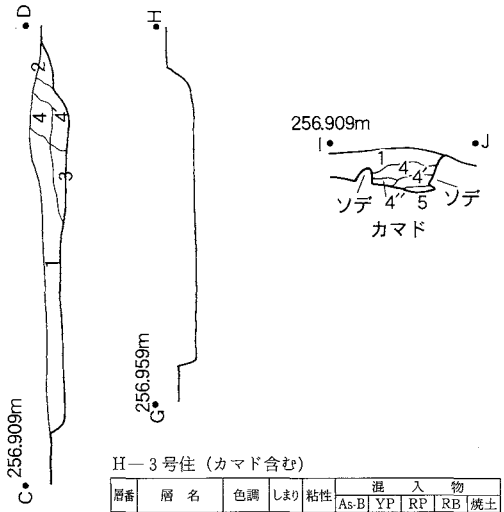


H－2号住（カマド含む）

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B	YP	RP	RB	焼土
1	暗褐色土層		△	△	○	×			
1′	暗褐色土層	1＜1′	△	△	○	×	△	△	
2	暗褐色土層	1＜2	○	△	△	○			
3	暗黄褐色土層		○	○				○	△
4	暗赤褐色土層		△	△				○	○
4′	暗赤褐色土層	4＜4′	△	×				○	◎

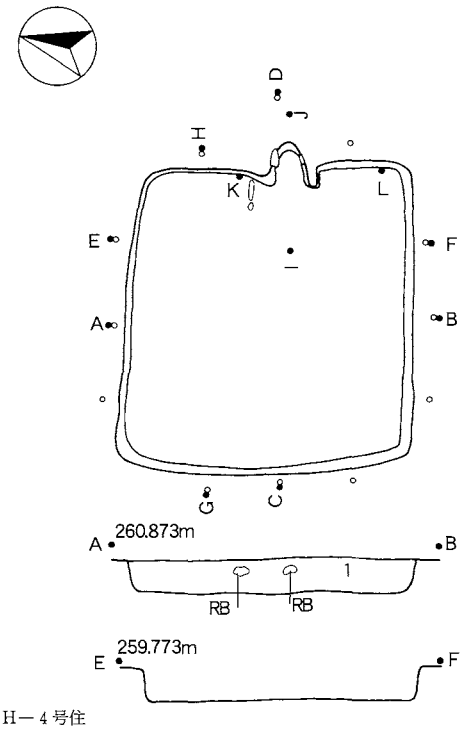
第212図　H－1・2号住居址実測図

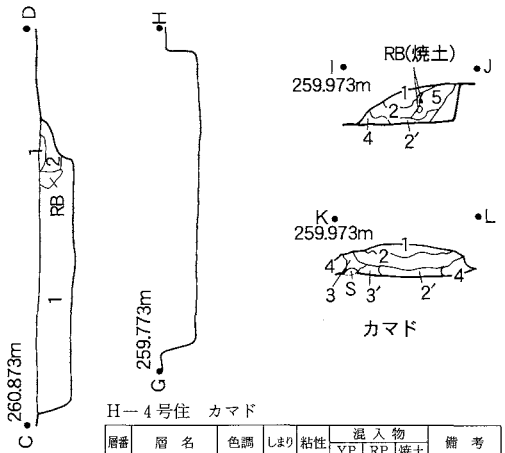




H－3号住（カマド含む）

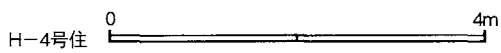
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B	混入物 YP	混入物 RP	混入物 RB	混入物 焼土
1	暗褐色土層		△	△	○	×			
2	暗褐色土層	1＜2	○	△	△	○			
3	暗黄褐色土層		○	○				○	△
4	暗赤褐色土層		△	△				○	○
4′	暗赤褐色土層	4＜4′	△	×				○	◎
4″	暗赤褐色土層	4′＜4″	△	×					◎
5	赤褐色土層		×	×					◎





H－4号住　カマド

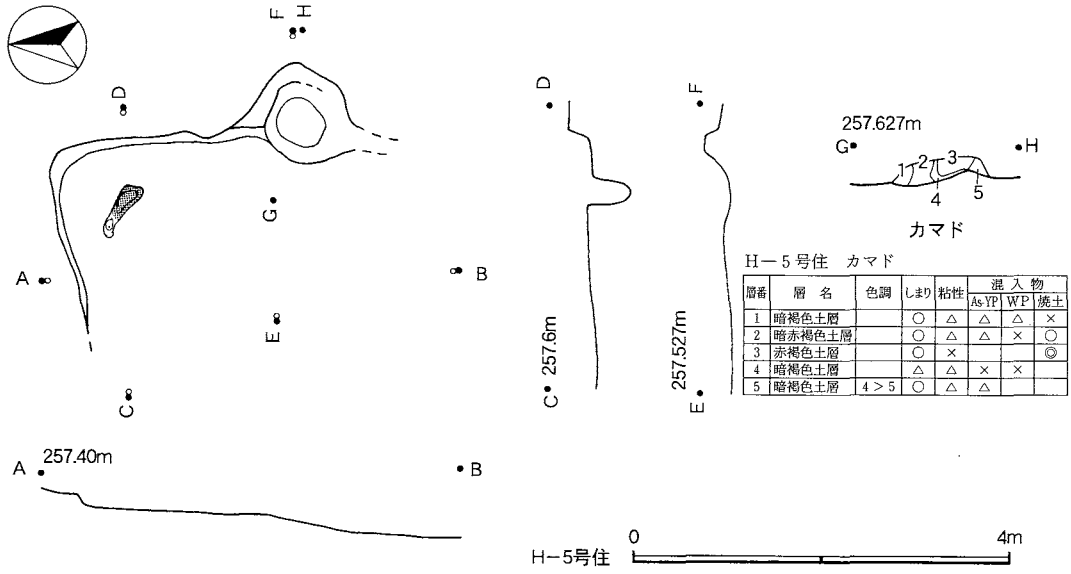
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土	備　考
1	暗褐色土層		○	○	△	△	△	
2	暗黄褐色土層		△	○	○	○	○	
2′	暗黄褐色土層	2＞2′	○	○	○	△	△	
3	暗黄褐色土層	2′＞3	○	○	×	○	×	
3′	暗黄褐色土層	3＞3′	○	△	×	△	×	
4	暗褐色土層		○	△	×	×		
5	黄褐色土層		○	○	△	◎	△	天井崩落土



H－4号住

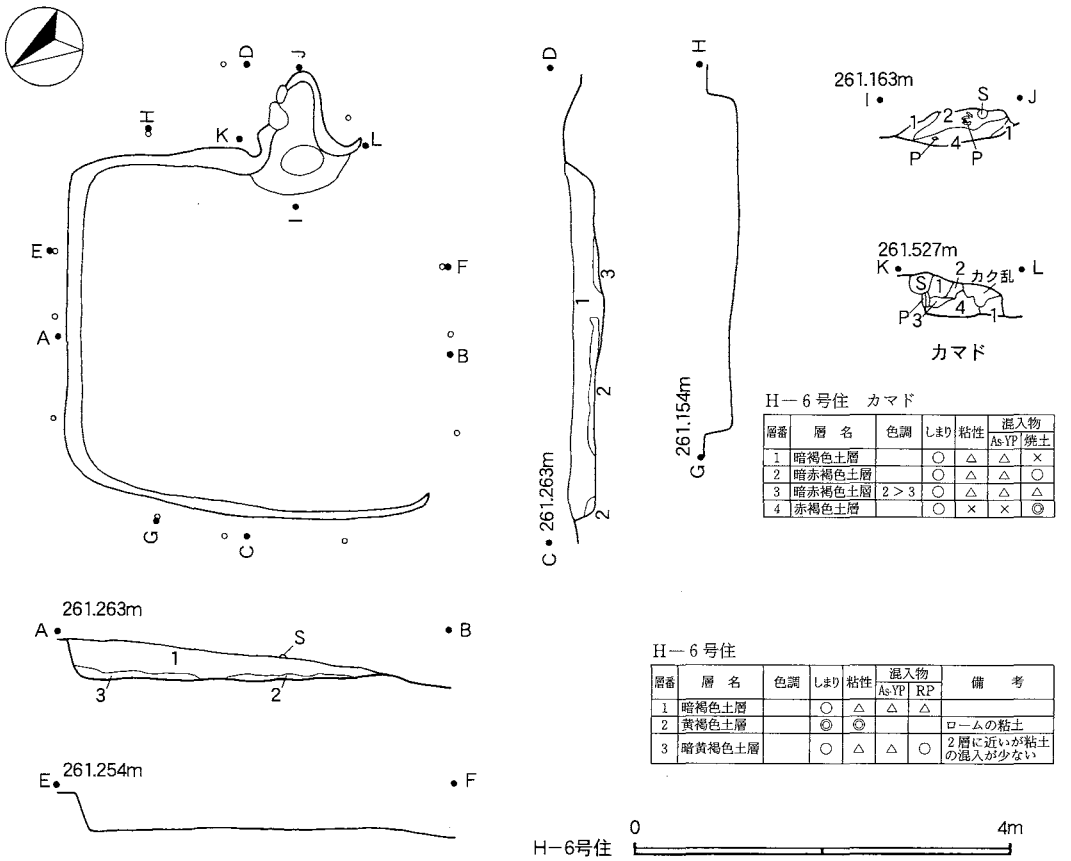
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B	混入物 As-YP	混入物 RP
1	黒褐色土層		△	△	○	△	
2	暗褐色土層		○	○	△	△	△

第213図　H－3・4号住居址実測図



H−5号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-YP	混入物 WP	混入物 焼土
1	暗褐色土層		○	△	△	△	×
2	暗赤褐色土層		○	△	△	×	○
3	赤褐色土層		○	×			◎
4	暗褐色土層		△	△	×	×	
5	暗褐色土層	4＞5	○	△	△		



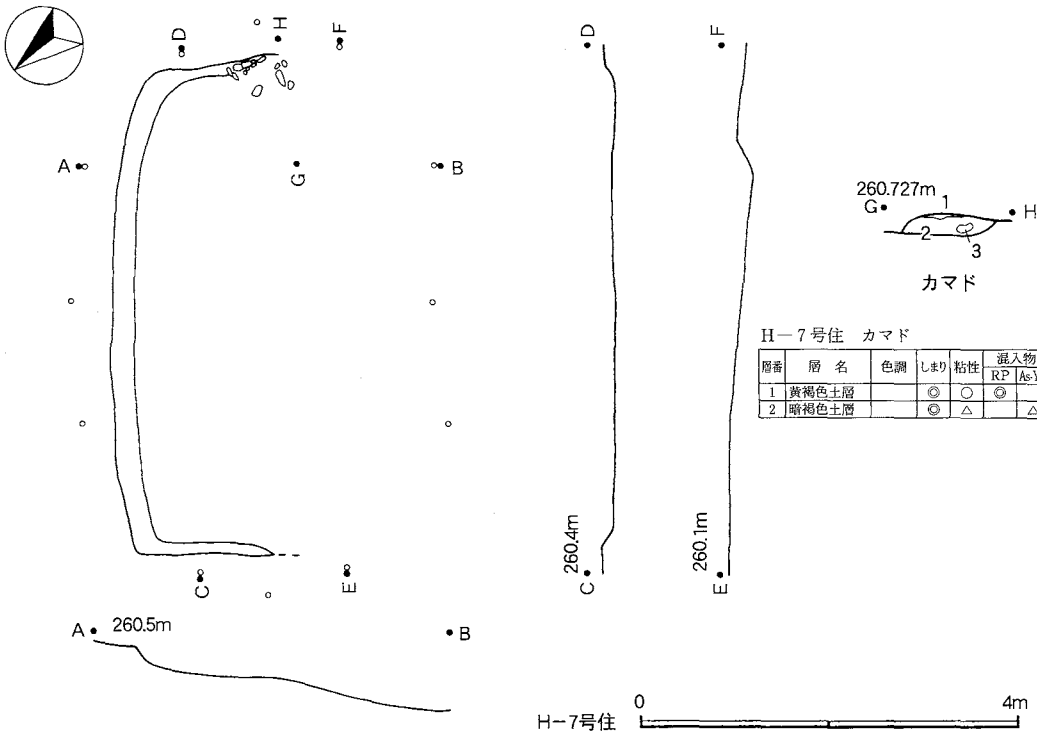
H−6号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-YP	混入物 焼土
1	暗褐色土層		○	△	△	×
2	暗赤褐色土層		○	△	△	○
3	暗赤褐色土層	2＞3	○	△	△	△
4	赤褐色土層		○	×	×	◎

H−6号住

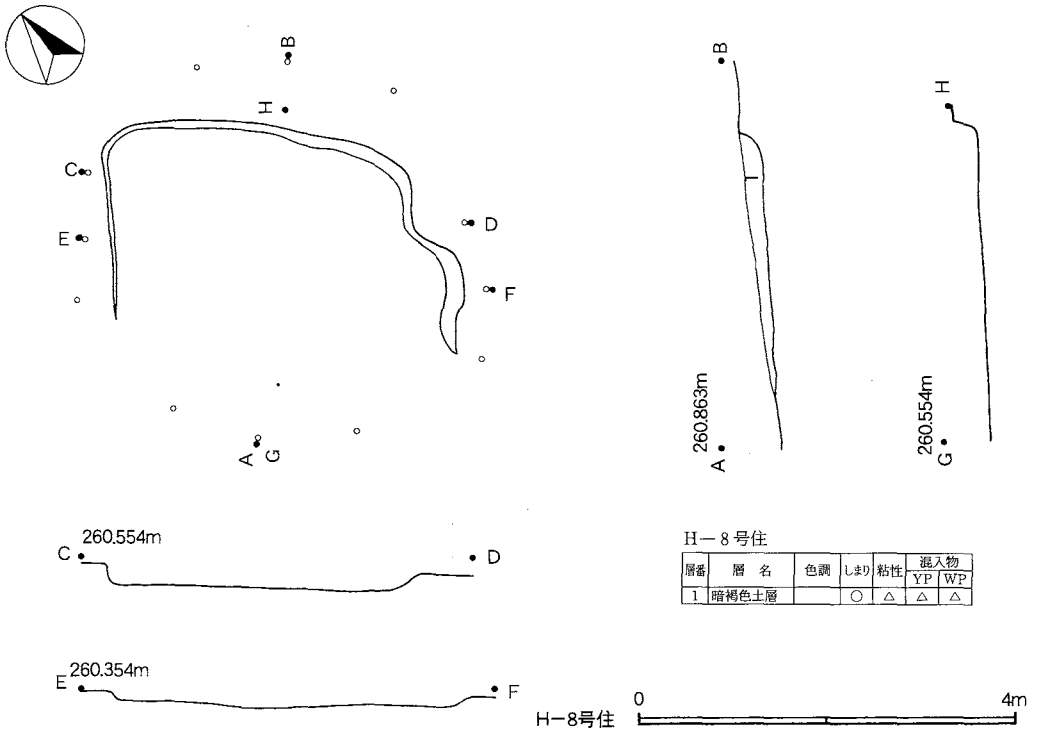
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-YP	混入物 RP	備考
1	暗褐色土層		○	△	△	△	
2	黄褐色土層		◎	◎			ローム の粘土
3	暗黄褐色土層		○	△	△	○	2層に近いが粘土の混入が少ない

第214図　H−5・6号住居址実測図



H−7号住　カマド

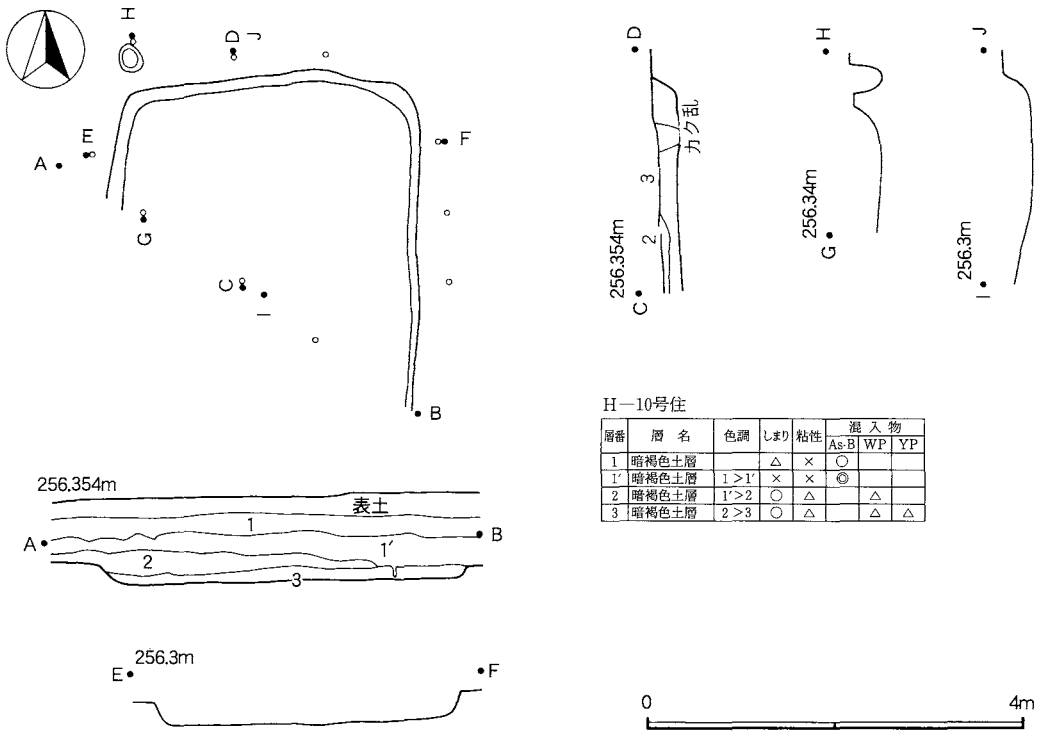
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RP	As-YP
1	黄褐色土層		◎	○	◎	
2	暗褐色土層		◎	△		△



H−8号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	WP
1	暗褐色土層		○	△	△	△

第215図　H−7・8号住居址実測図



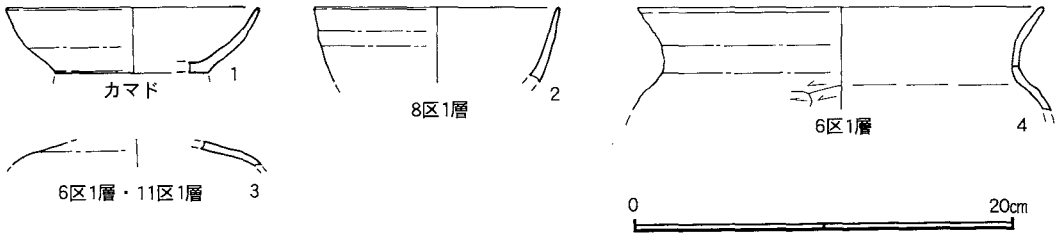
第216図　H－10号住居址実測図

野村遺跡H住居址諸元

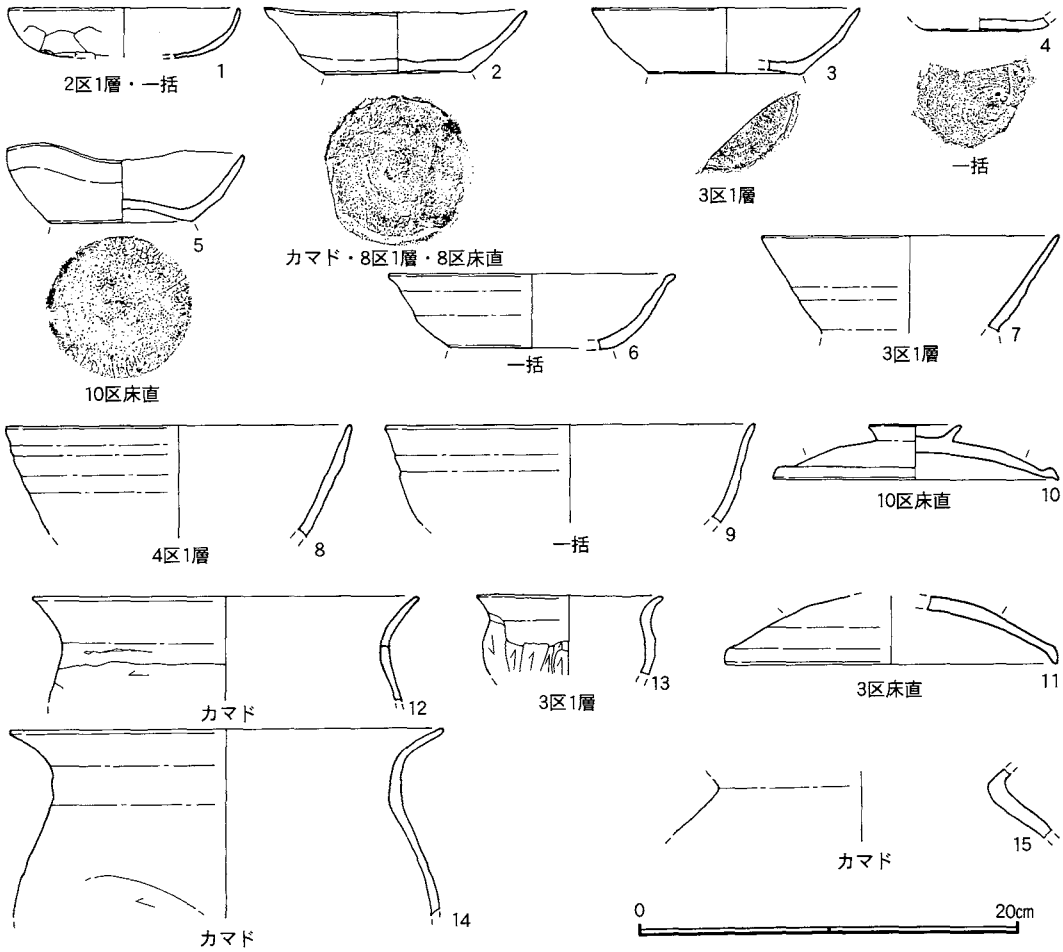
住居名	平面形態	規模（m・m²） 長軸	短軸	深さ 最大	深さ 最小	面積	主軸方向	竈位置	周堀	備考
H－1	縦長方形	4.56	3.28	0.28	—	15.84	N－56°－E	東壁中央		
H－2	正方形	3.12	2.4	0.22	—	—	N－70°－E	東壁中央		
H－3	正方形	3.36	2.8	0.37	0.06	10.38	N－94°－E	東壁南より		
H－4	正方形	3.2	2.88	0.43	0.33	9.6	N－74°－E	東壁中央		
H－5	不明	3.36	2	0.22	—	—	N－89°－E	東壁		
H－6	正方形	3.84	3.2	0.39	—	—	N－120°－E	東壁南より		
H－7	縦長方形	5.12	1.76	0.31	—	—	N－127°－E	東壁		
H－8	不明	3.76	1.92	0.26	—	—	—	不明		
H－10	縦長方形	3.44	3.04	0.25	0.14	—	—	不明		

（広上）

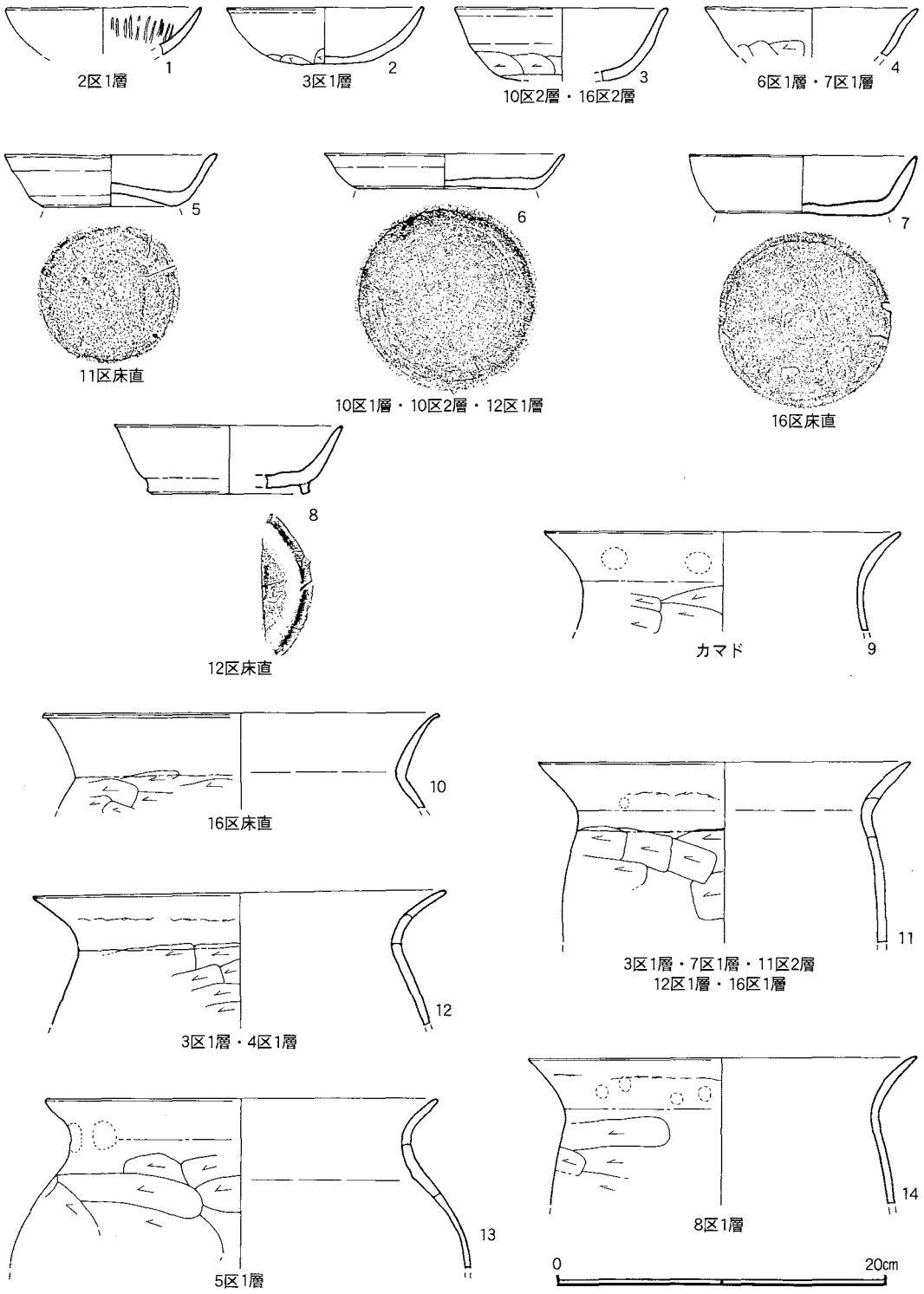
第217図　H－1号住居址・出土遺物実測図



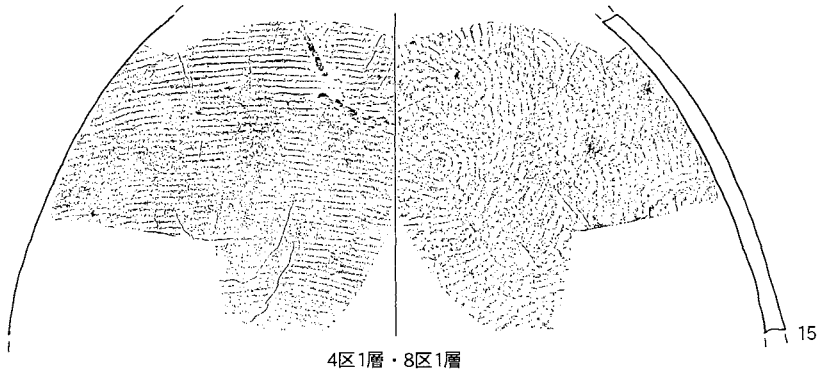
第218図　H－2号住居址・出土遺物実測図

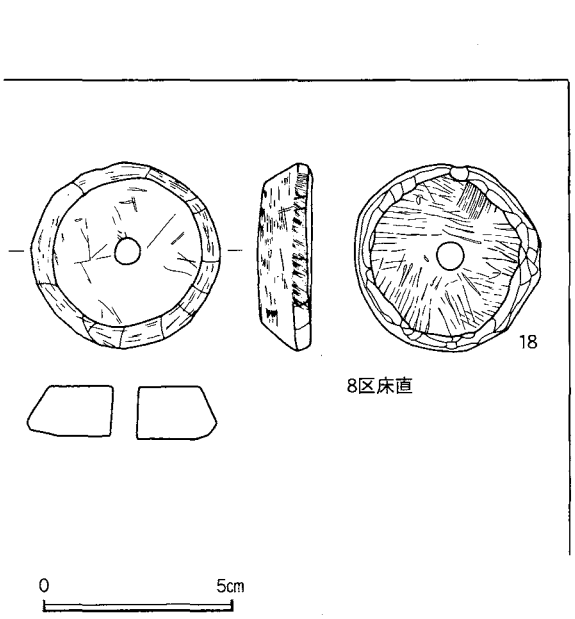


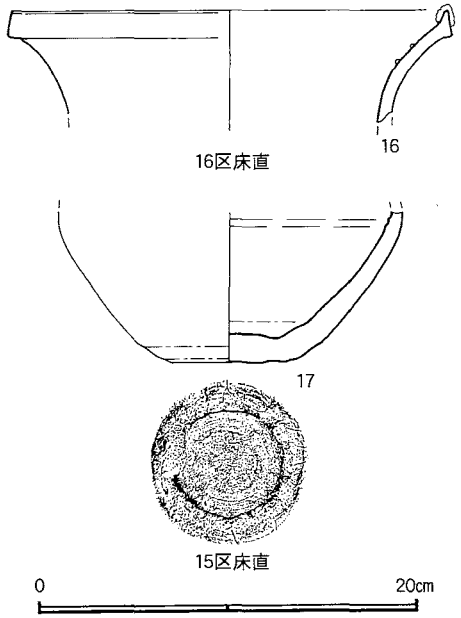
第219図　H－3号住居址・出土遺物実測図



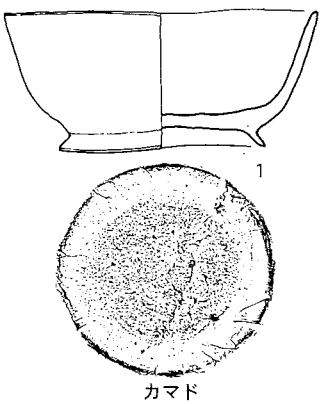
第220図　H－4号住居址・出土遺物実測図(1)

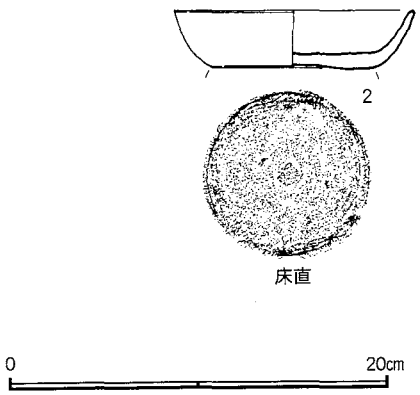




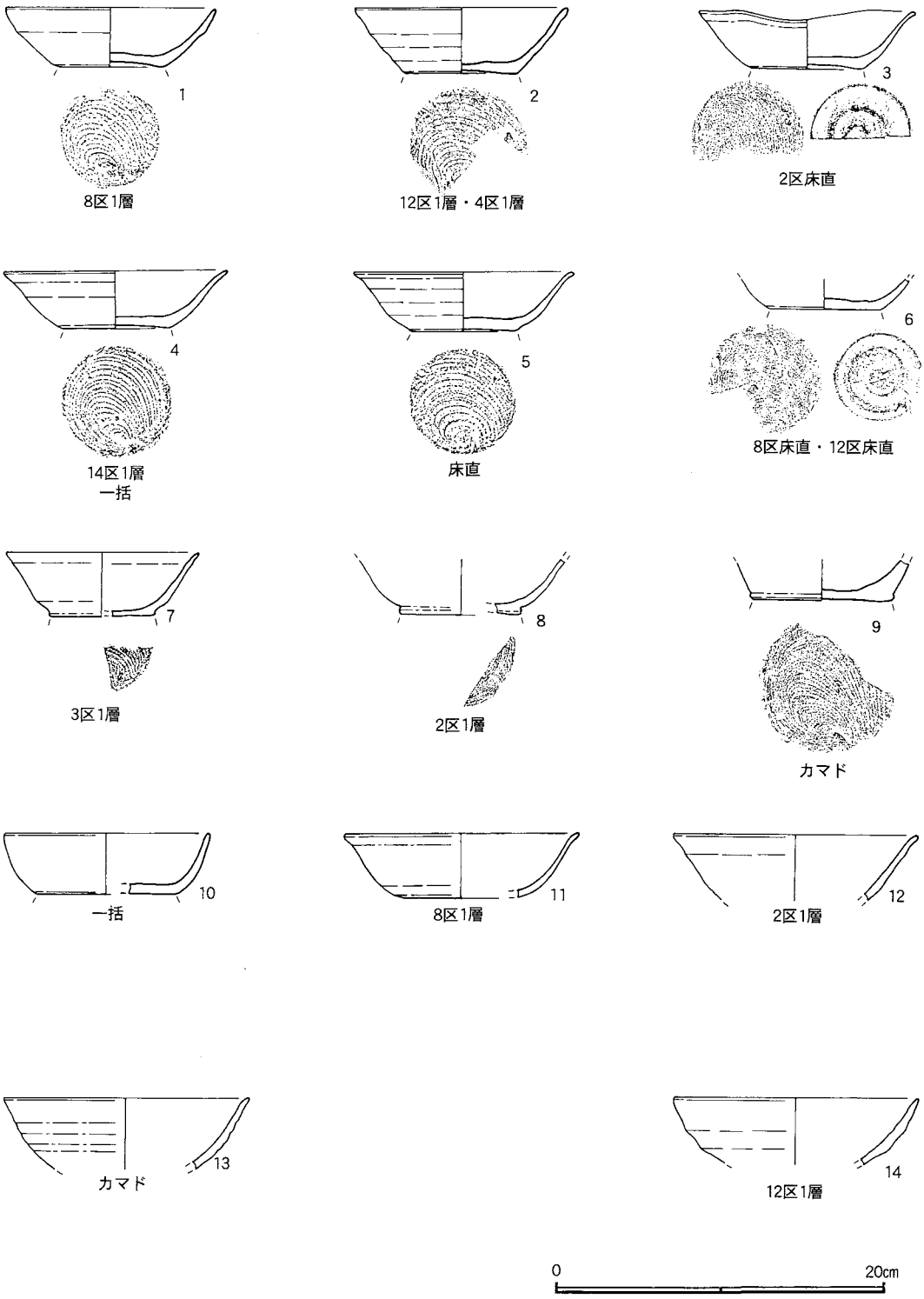


第221図　H－4号住居址・出土遺物実測図(2)

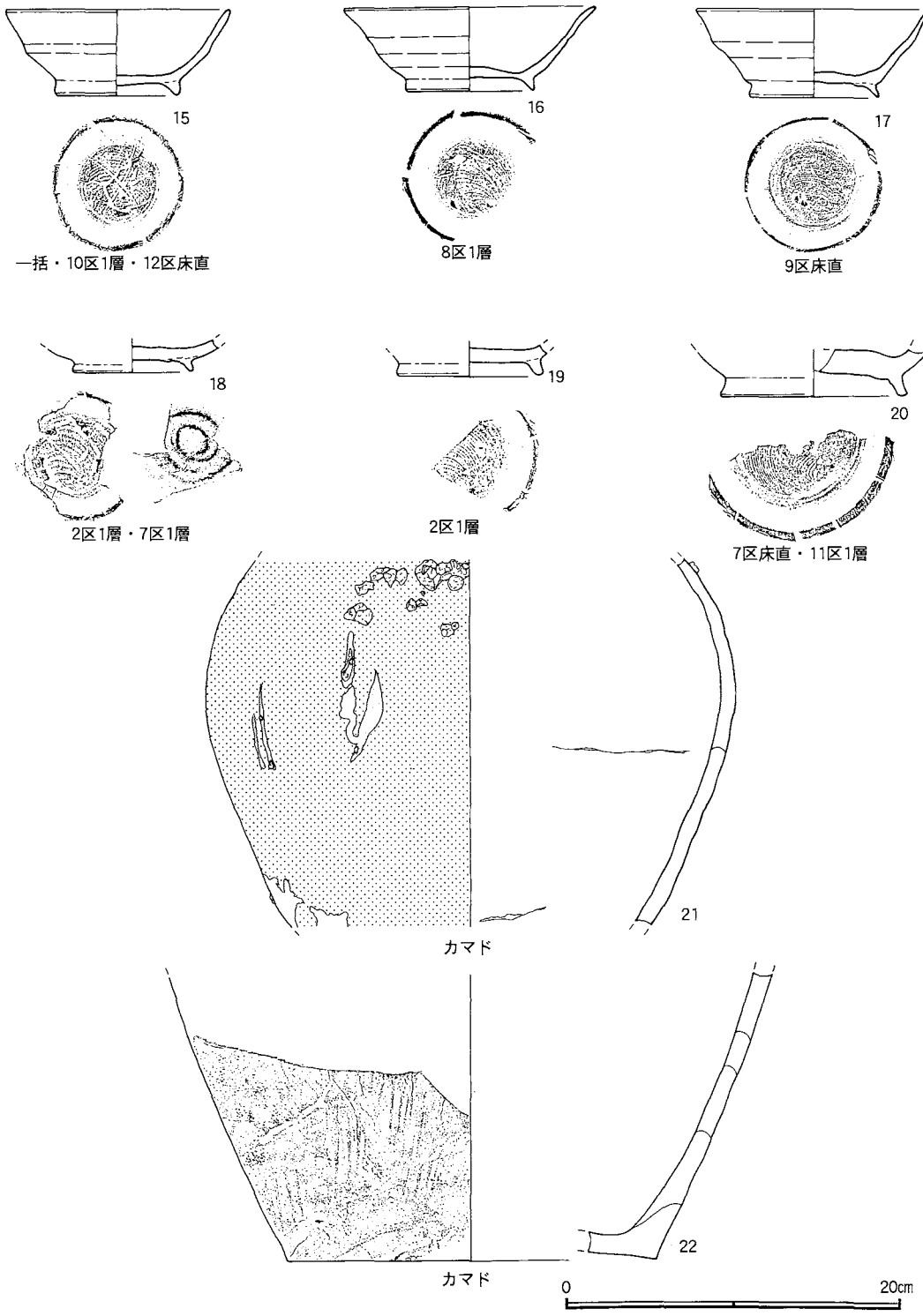




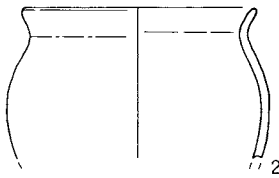
第222図　H－5号住居址・出土遺物実測図



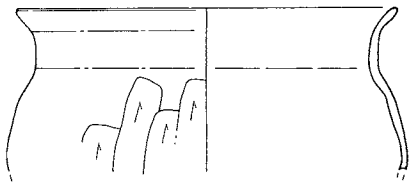
第223図　H－6号住居址・出土遺物実測図(1)



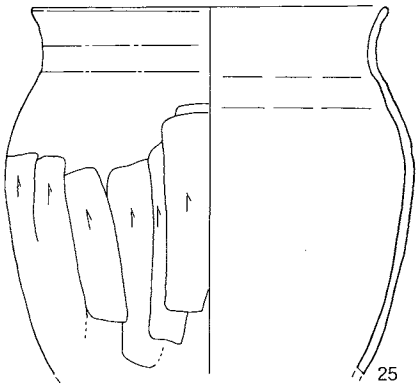
第224図　H－6号住居址・出土遺物実測図(2)



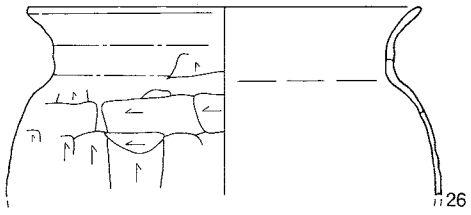
カマド



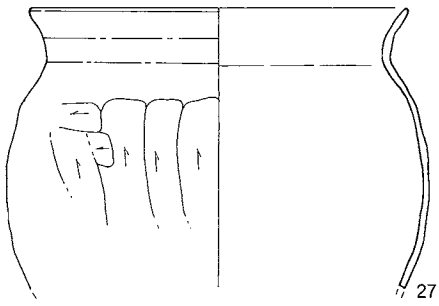
一括



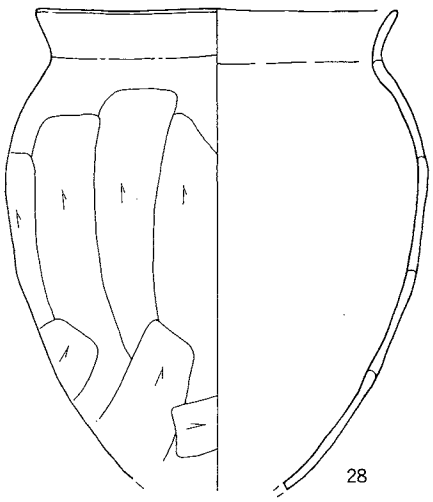
カマド



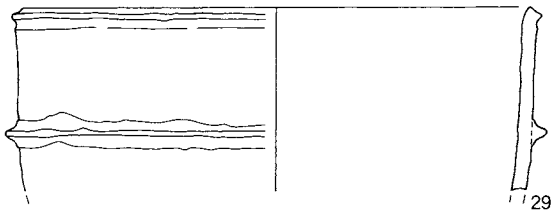
カマド・12区1層



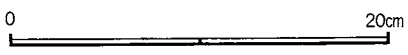
カマド



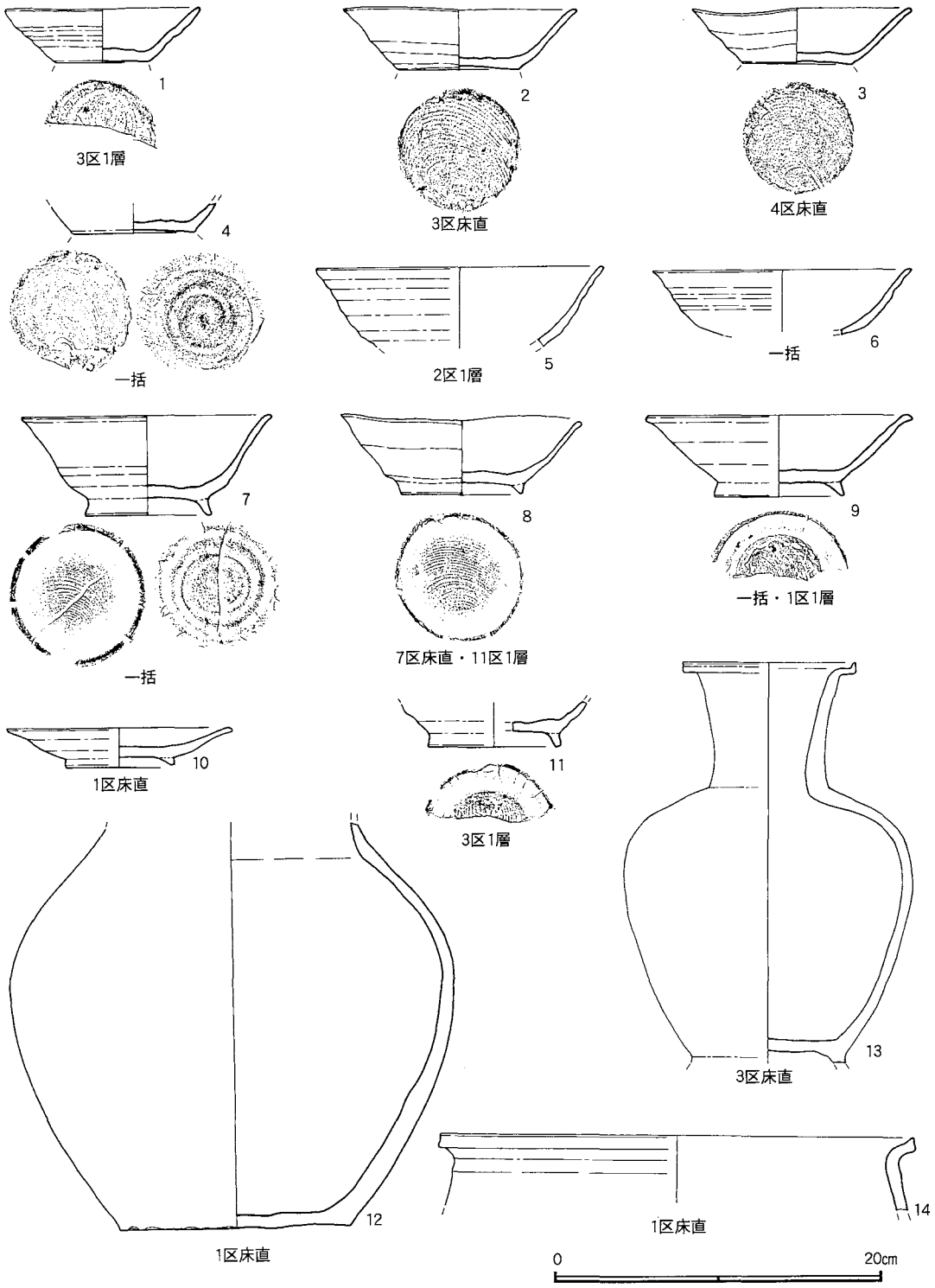
カマド



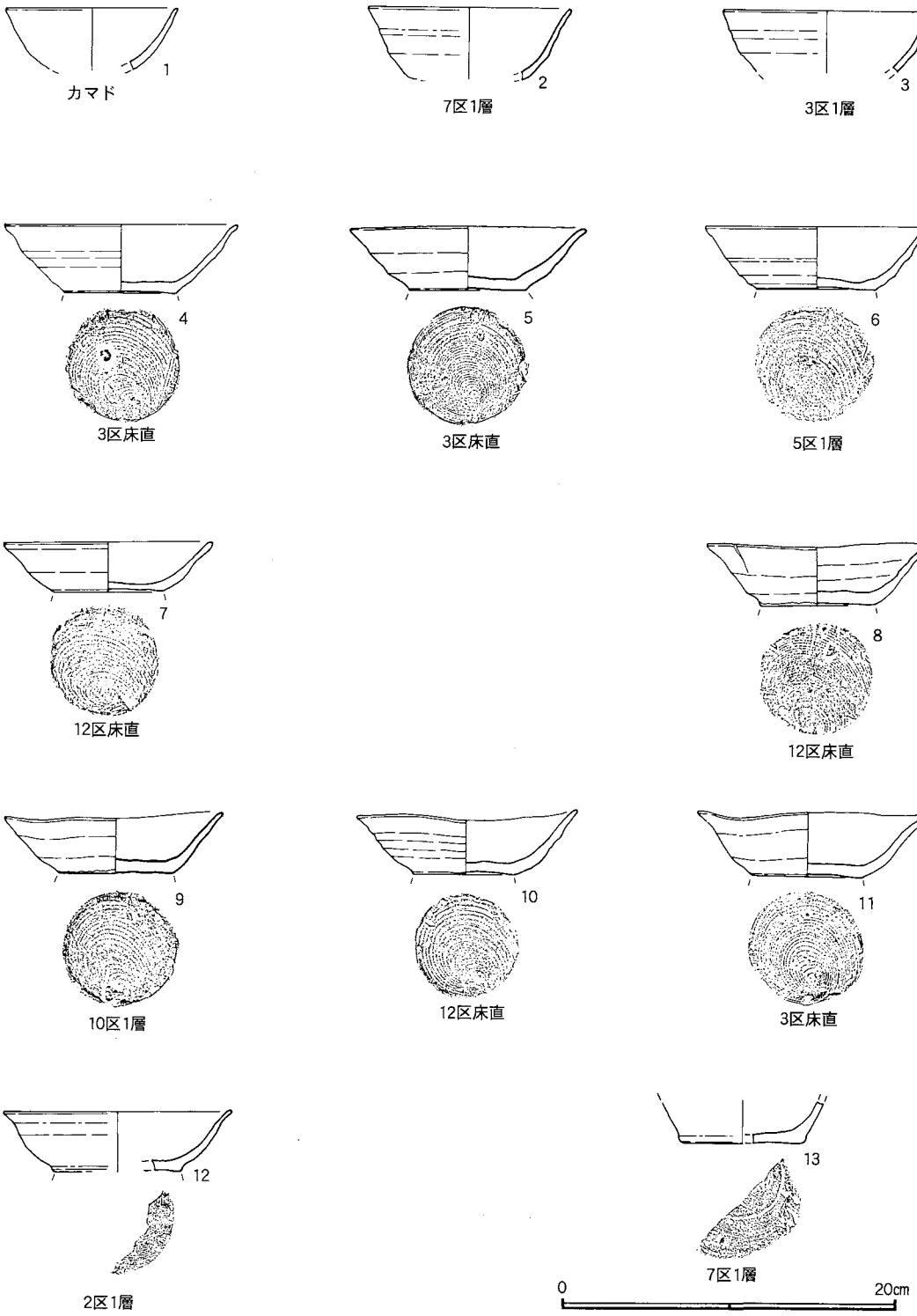
12区1層



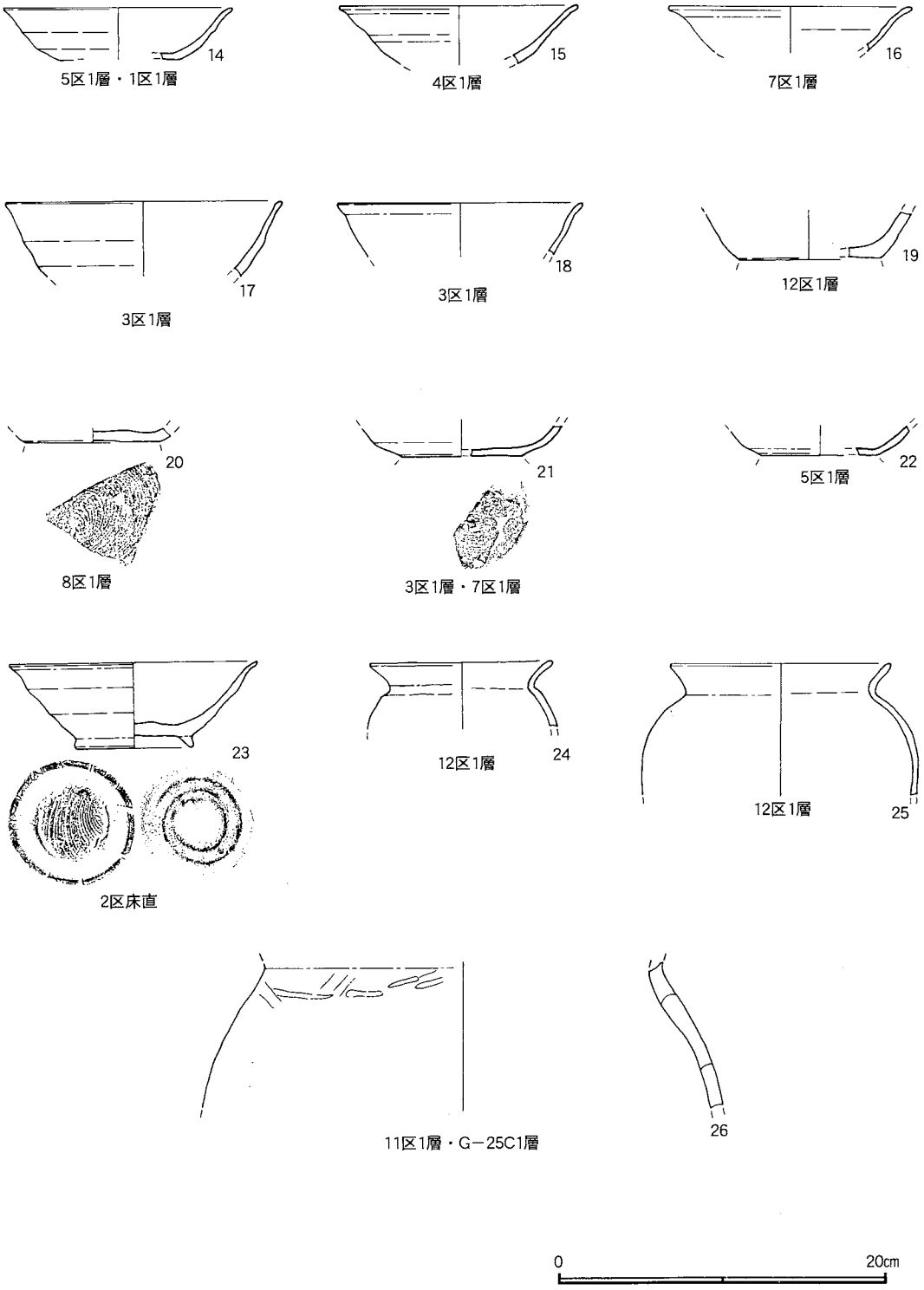
第225図　H－6号住居址・出土遺物実測図(3)



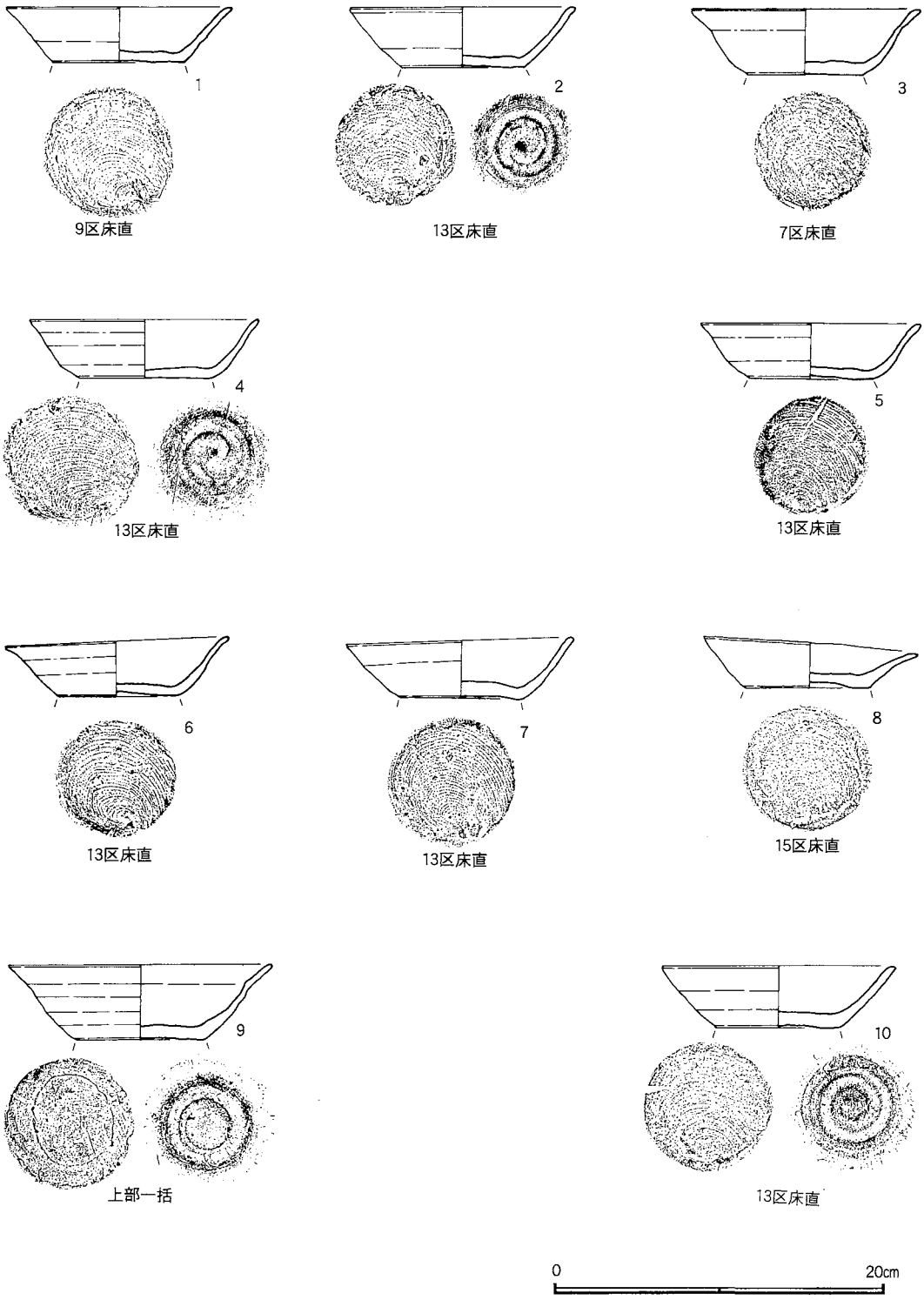
第226図　H－7号住居址・出土遺物実測図



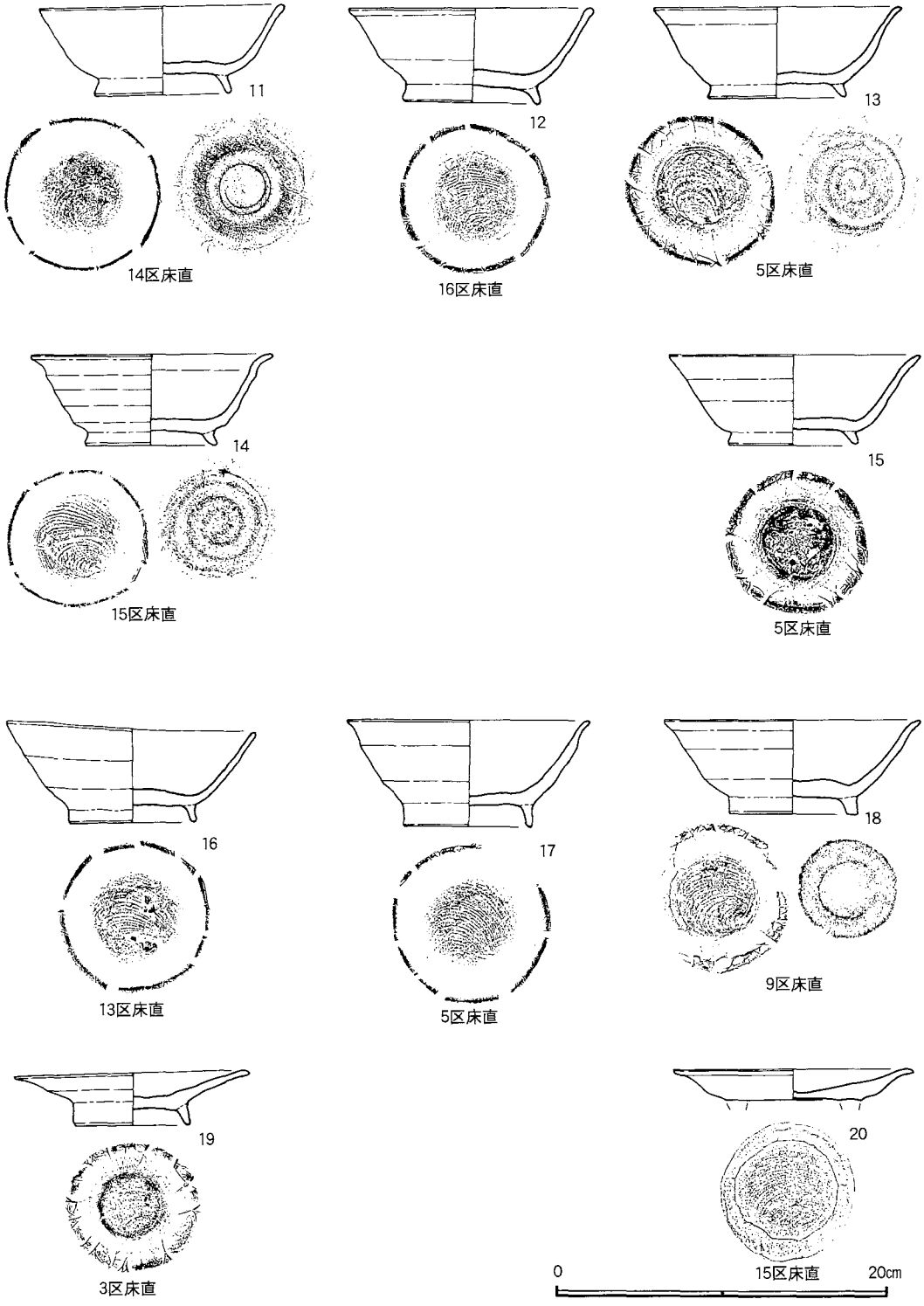
第227図　H－8号住居址・出土遺物実測図(1)



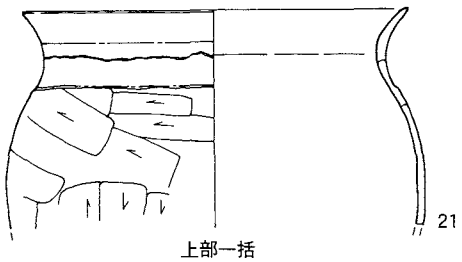
第228図　H−8号住居址・出土遺物実測図(2)



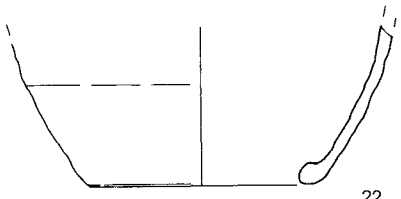
第229図　H－9号住居址・出土遺物実測図(1)



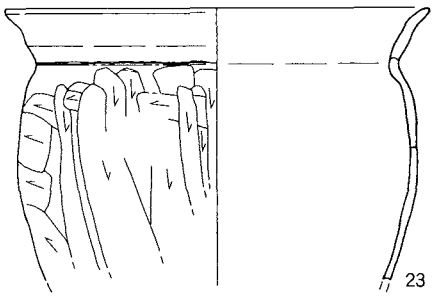
第230図　H－9号住居址・出土遺物実測図(2)



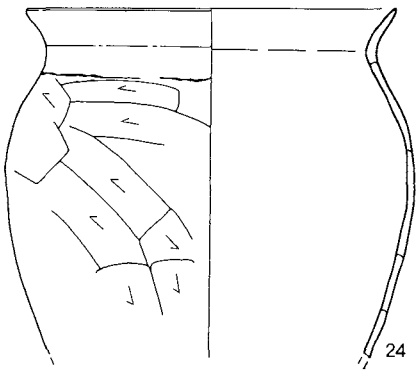
上部一括



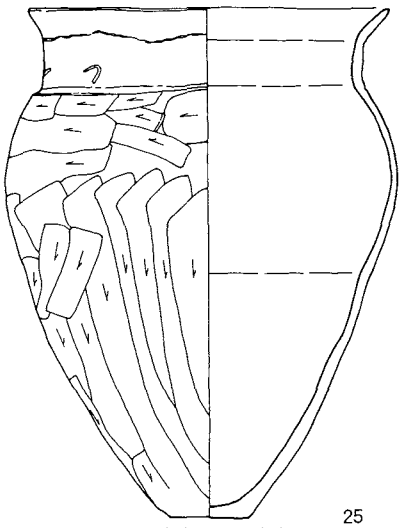
上部一括



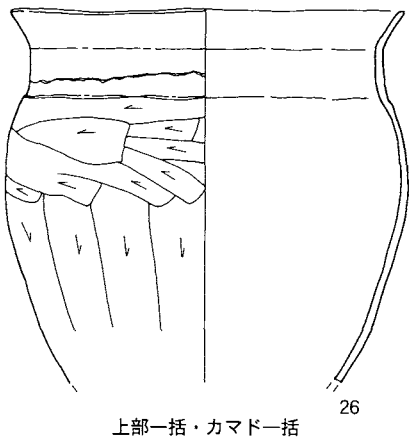
上部一括



上部一括・カマド一括

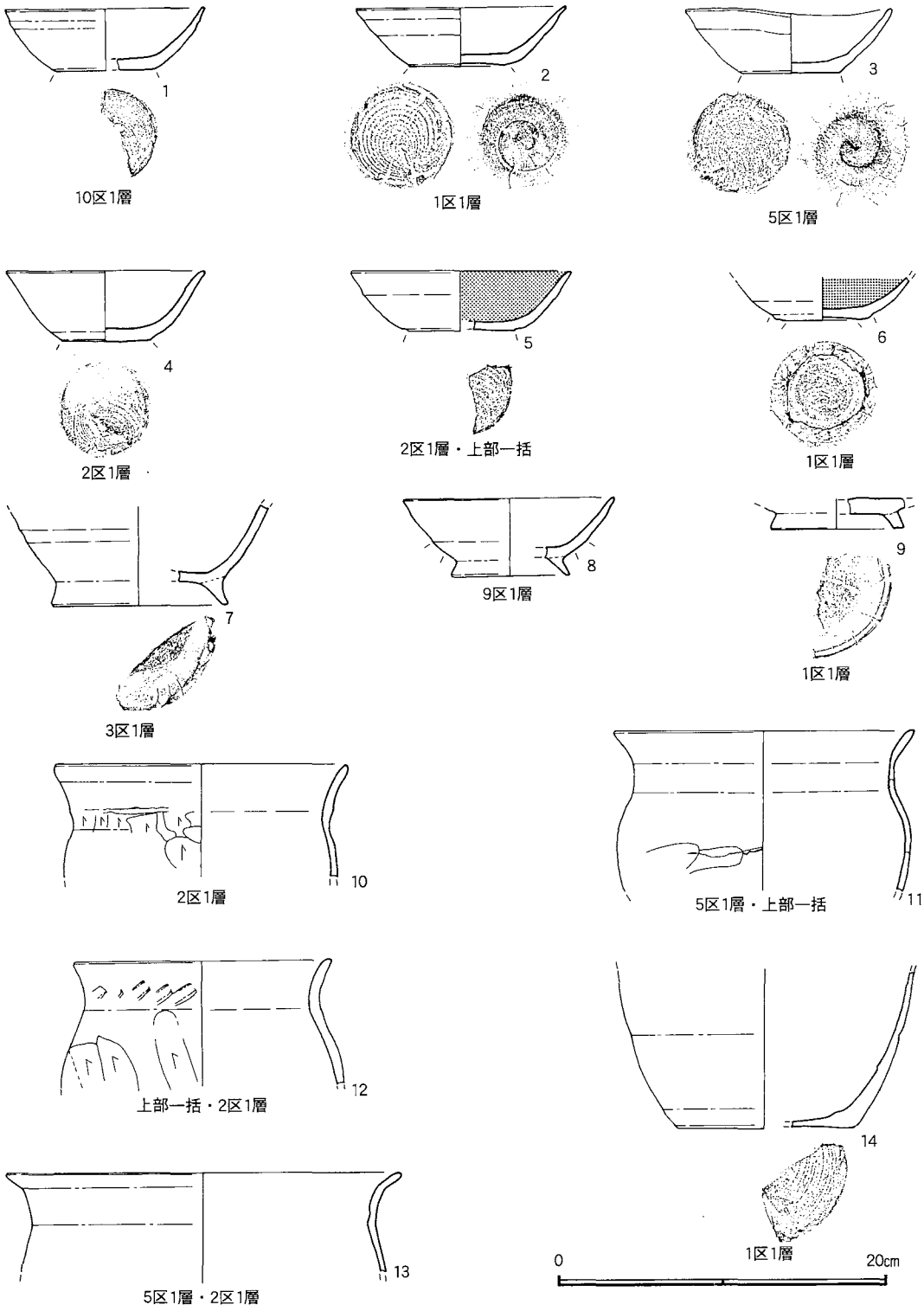


5区床直・15区床直

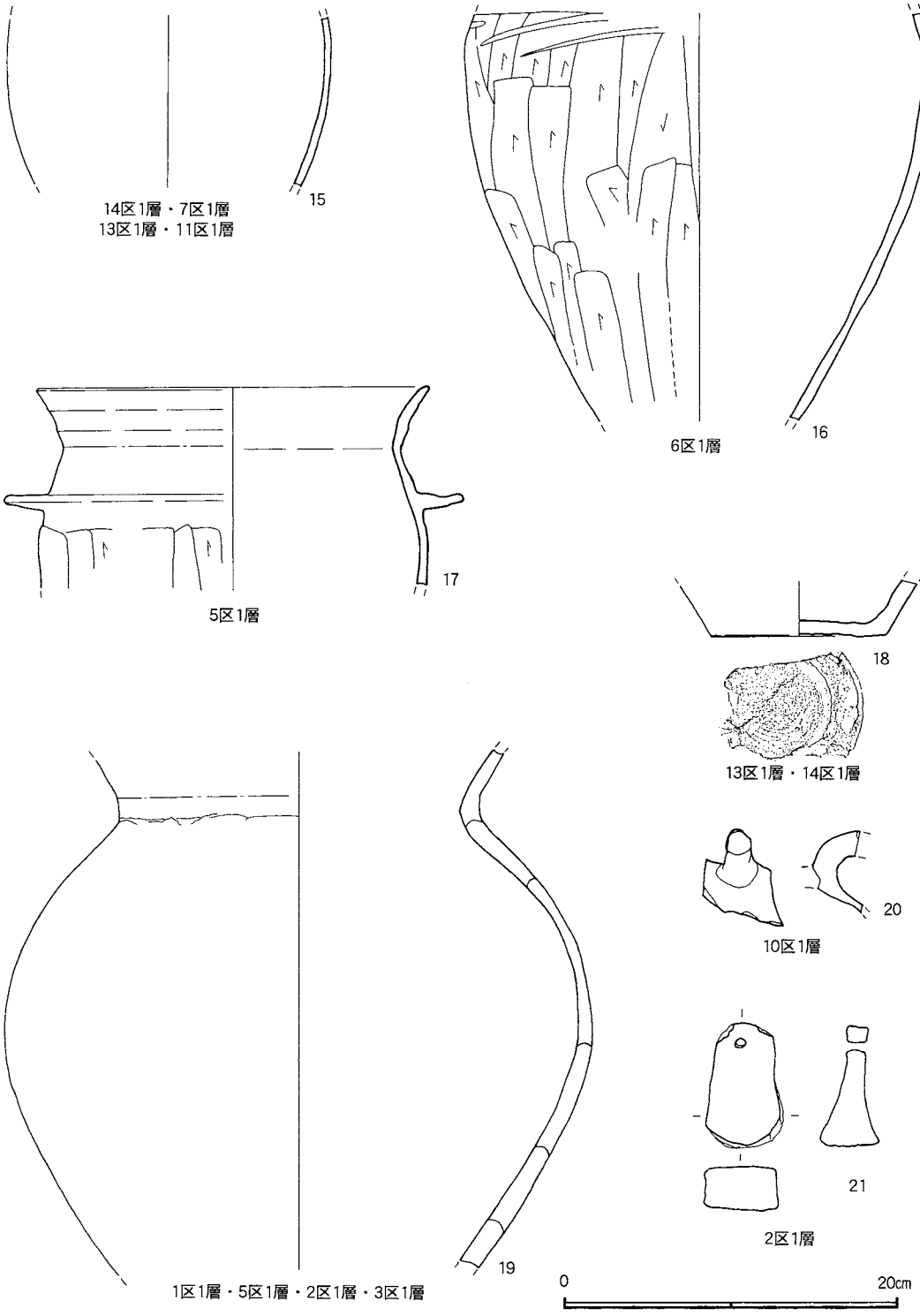


上部一括・カマド一括

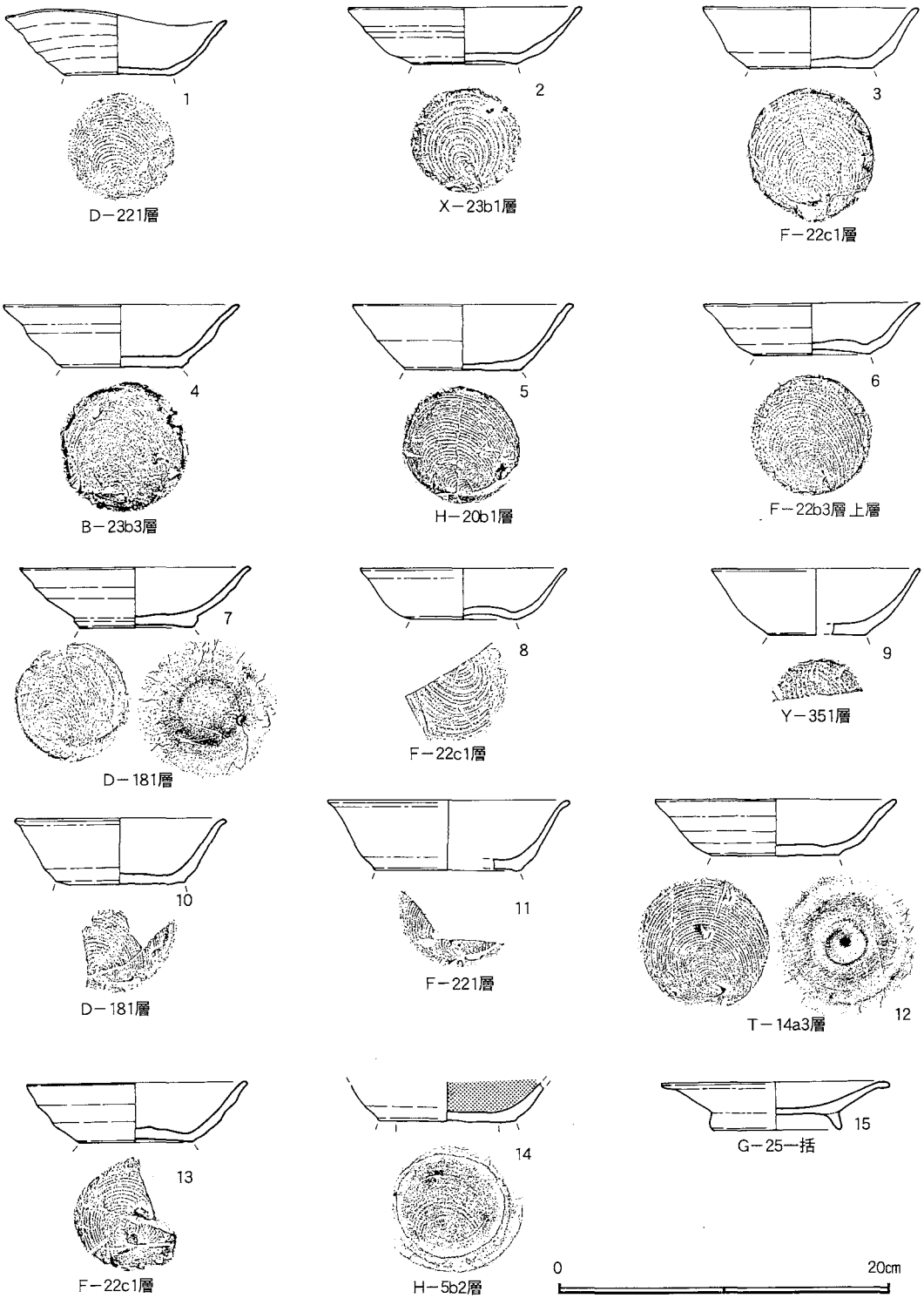
第231図　H－9号住居址・出土遺物実測図(3)



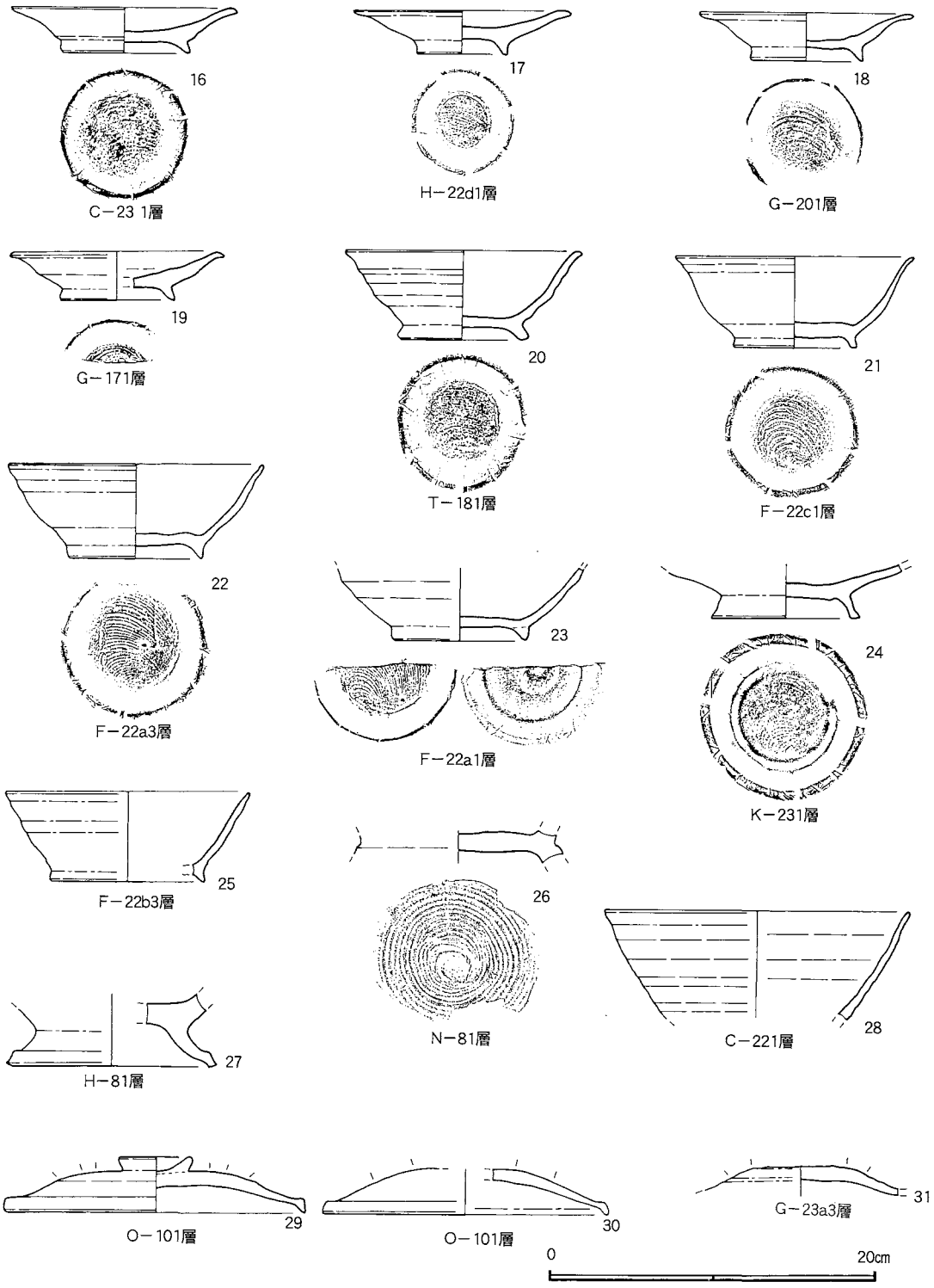
第232図　H—10号住居址・出土遺物実測図(1)



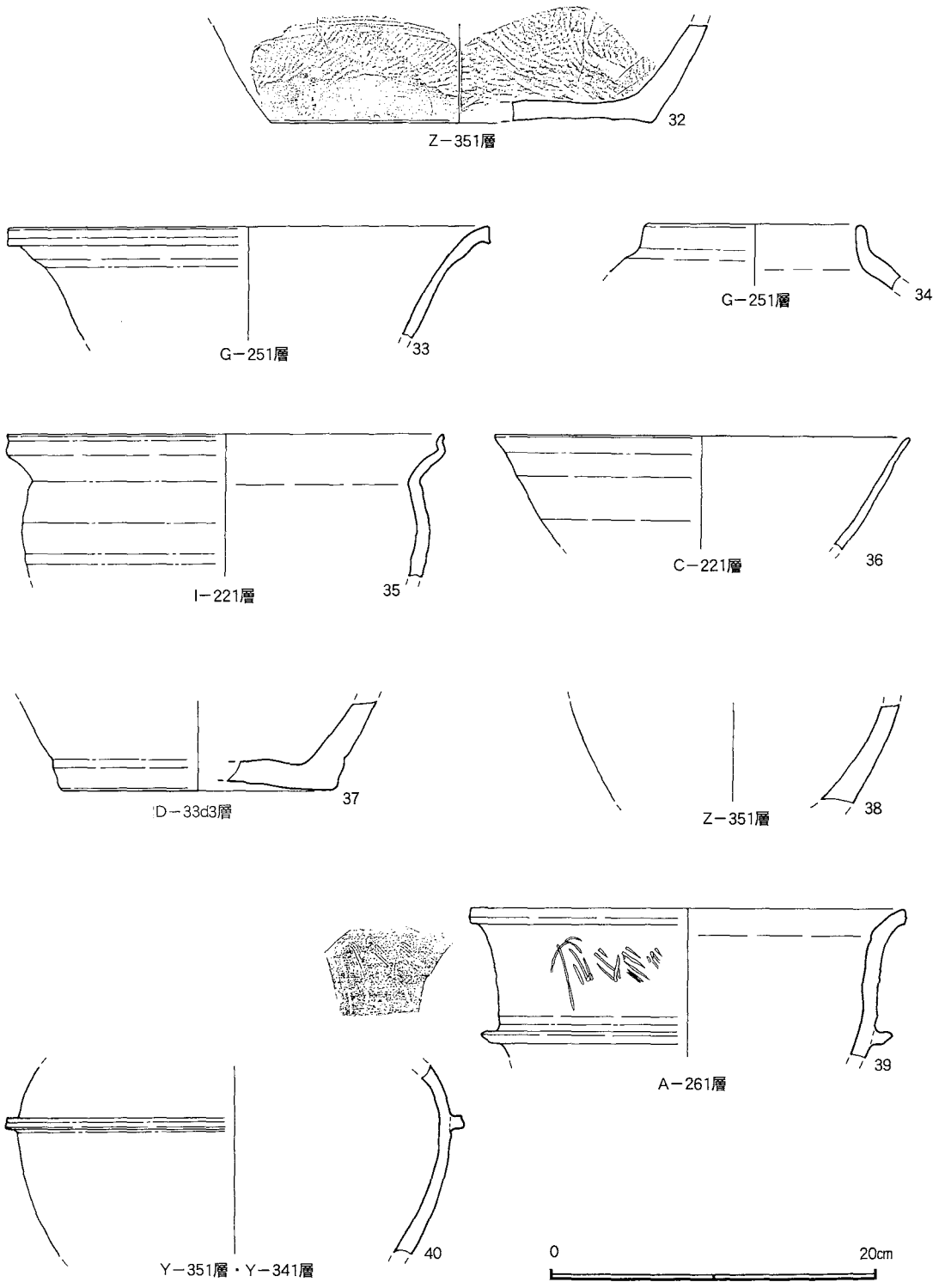
第233図　H—10号住居址・出土遺物実測図(2)



第234図　グリッド出土遺物実測図(1)



第235図　グリッド出土遺物実測図(2)



第236図　グリッド出土遺物実測図(3)

B－5　H－1号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	3区1層	口 13.8 底 — 高 4.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒少量含む 色 灰色 焼 良	1/5　外面に自然灰釉付着
2	土師器 甕	8区1層	口 18.8 底 — 高 3.5	口縁部内外面共横ナデ	胎 細砂粒多量含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部のみ　内面スス付着

H－2号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	カマド	口 13.5 底 8.2 高 3.4	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 外面　灰黄色 内面　灰白色 焼 やや不良	口縁部～底部の1/6
2	須恵器 坏	8区1層	口 13.0 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/8　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 蓋	11区1層 6区1層	口 — ツマミ — 高 1.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部
4	土師器 甕	6区1層	口 25.6 底 — 高 5.5	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 細砂粒多量含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部の1/9

H－3号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	2区1層 一括	口 12.2 底 — 高 2.6	外面口縁部横ナデ　体底部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 明赤褐色 焼 良	1/10
2	須恵器 坏	カマド 8区1層 8区床直	口 14.0 底 8.0 高 3.2～3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 不良	1/2　内外面共自然灰釉付着　重ね焼き痕有　歪み有
3	須恵器 坏	3区1層	口 14.2 底 8.3 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部不明瞭	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の1/6
4	須恵器 坏	一括	口 — 底 5.2 高 —	底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	底部の2/3　内面に酸化還元焔によるスス吸着
5	須恵器 坏	10区床直	口 12.7 底 7.4 高 3.5～4.0	内外面共回転横ナデ　底部不明瞭	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 不良	2/3　内外面共自然灰釉付着　重ね焼き痕有　歪み有
6	須恵器 坏	一括	口 15.0 底 8.5 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部不明瞭	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の1/8　内面に重ね焼き痕有
7	須恵器 坏	3区1層	口 15.8 底 — 高 5.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/6
8	須恵器 椀	4区1層	口 18.5 底 — 高 5.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	口縁部～胴部の一部
9	須恵器 椀	一括	口 19.6 底 — 高 5.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部
10	須恵器 蓋	10区床直	口 15.6 ツマミ 5.0 高 2.9	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 不良	3/4　内外面共重ね焼痕有
11	須恵器 蓋	3区床直	口 17.6 ツマミ — 高 3.7	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/3
12	土師器 甕	カマド	口 20.4 底 — 高 5.6	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 細砂粒多量含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部の1/5　外面にわづみ痕有
13	土師器 小型甕	3区1層	口 9.5 底 — 高 4.3	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 黒褐色 焼 良	口縁部～胴部の1/10
14	土師器 甕	カマド	口 23.0 底 — 高 9.7	外面口縁部横ナデ　胴部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 橙色 焼 やや不良	口縁部～胴部の一部
15	須恵器 甕	カマド	口 — 底 — 高 3.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	頸部～胴部の一部

H-4号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	2区1層	口 12.0 底 — 高 2.9	外面口縁部横ナデ　体部磨滅著しく不明　内面横ナデ後ヘラ磨き	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	1/8
2	土師器 坏	3区1層	口 12.0 底 — 高 3.5	外面口縁部横ナデ　体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	1/5　内外面・底部にスス付着
3	土師器 坏	10区2層 16区2層	口 13.0 底 — 高 4.5	外面口縁部横ナデ　体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	1/5　内面にスス付着
4	土師器 坏	6区1層 7区1層	口 13.0 底 — 高 3.0	外面口縁部横ナデ　体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/3　内面にスス付着
5	須恵器 坏	11区床直	口 13.0 底 8.2 高 3.2	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　暗赤褐色 焼　良	完形　歪み有
6	須恵器 盤	10区1層 10区2層 12区1層	口 14.8 底 11.0 高 2.2	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	完形
7	須恵器 坏	16区床直	口 14.0 底 10.6 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒小石含む 色　灰色 焼　良	完形
8	須恵器 高台付坏	12区床直	口 14.0 底 9.2 高 4.2	内外面共回転横ナデ　底部ヘラ削り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/5
9	土師器 甕	カマド	口 22.0 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部　外面口縁部に指圧痕有
10	土師器 甕	16区床直	口 24.2 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部の1/8
11	土師器 甕	3区1層 7区1層 11区2層 12区1層 16区1層	口 23.0 底 — 高 11.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部一部　外面口縁部に指圧痕有　内外面共スス吸着
12	土師器 甕	3区1層 4区1層	口 25.4 底 — 口 8.1	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
13	土師器 甕	5区1層	口 24.0 底 — 高 10.4	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の1/5　外面口縁部に指圧痕有
14	土師器 甕	8区1層	口 24.0 底 — 高 9.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部　外面口縁部に指圧痕有
15	須恵器 甕	4区1層 8区1層	口 — 底 — 高 17.0	内外面共回転横ナデ　外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴上部の1/6　内外面共窯壁融着　外面に他遺物の融着有
16	須恵器 甕	16区床直	口 26.2 底 — 高 6.4	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の1/10　内外面共窯壁融着、スス付着　酸化還元焔によるスス吸着
17	須恵器 甕	15区床直	口 18.5 底 5.8 高 7.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部～底部　内外面共自然灰釉付着　外面に窯壁融着
18	石製品 紡錘車	8区床直	長さ 5.0 幅 5.0 厚さ 1.5 重量(g) 67.0	表面全体に磨き痕が残る		蛇紋岩

H-5号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 高台付椀	カマド	口 16.9 底 11.0 高 7.4	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　外面　灰色 　　内面　灰黄色 焼　不良	ほぼ完形　内外面共自然灰釉付着　外面窯壁付着歪み有
2	須恵器 坏	床直	口 12.7 底 8.5 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形

H-6号住

No	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	8区1層	口 13.0 底 6.2 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	1/2　底部に工具痕有
2	須恵器 坏	12区1層 4区1層	口 13.0 底 6.8 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　やや不良	1/2　外面に粘土付着　底部に工具痕有
3	須恵器 坏	2区床直	口 13.4 底 7.0 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　不良	3/5　歪み有
4	須恵器 坏	14区1層 一括	口 13.8 底 6.6 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形　内外面共重ね焼き痕有
5	須恵器 坏	床直	口 13.5 底 6.4 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形
6	須恵器 坏	8区床直 12区床直	口 — 底 7.0 高 —	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰黄色 焼　やや不良	1/3
7	須恵器 坏	3区1層	口 11.9 底 6.4 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部～底部の1/8
8	須恵器 坏	2区1層	口 — 底 7.3 高 3.4	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　不良	胴部の1/8～底部の1/8
9	須恵器 坏	カマド	口 — 底 8.6 高 2.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　にぶい褐色 焼　やや不良	胴部の一部～底部の4/5 底部の処理粗雑　工具痕有
10	須恵器 坏	一括	口 12.4 底 8.6 高 3.7	外面磨滅が著しく調整不明　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	1/5
11	須恵器 坏	8区1層	口 14.4 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の1/3
12	須恵器 坏	2区1層	口 15.0 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部　外面に酸化還元焔によるスス吸着
13	須恵器 坏	カマド	口 15.0 底 — 高 4.4	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部
14	須恵器 坏	12区1層	口 15.0 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の1/6
15	須恵器 高台付椀	一括 10区1層 12区床直	口 13.6 底 7.2 高 5.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	口縁部～底部に工具痕、ひび割れ有　高台部に圧痕有
16	須恵器 高台付椀	8区1層	口 15.2 底 7.6 高 5.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	2/3
17	須恵器 高台付椀	9区床直	口 14.5 底 7.2 高 5.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む （荒砂粒少量） 色　灰色 焼　良	ほぼ完形
18	須恵器 高台付坏	2区1層 7区1層	口 — 底 7.2 高 1.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部4/5　底部の処理粗雑
19	須恵器 高台付坏	2区1層	口 — 底 8.4 高 1.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部の2/5　底部に工具痕有
20	須恵器 高台付甕	7区床直 11区1層	口 — 底 11.4 高 2.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部の1/3
21	須恵器 甕	カマド	口 — 底 — 高 22.0	内外面共横ナデ　外面叩き痕有　内面当て具痕有	胎　砂粒多量含む 色　黄灰色 焼　良	胴部のみ　内外面共自然灰釉付着　わづみ痕顕著　外面に窯壁融着、小石付着
22	須恵器 甕	カマド	口 — 底 22.2 高 17.2	内外面共回転横ナデ　底部ヘラ削り 外面叩き痕有	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	胴部の1/5～底部の一部 外面自然灰釉付着
23	土師器 小型甕	カマド	口 12.6 底 — 高 8.0	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部

H-6号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
24	土師器 甕	一括	口 20.4 底 — 高 8.7	外面口縁部横ナデ　胴上部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　浅黄橙色 焼　不良	口縁部～胴上部の1/5
25	土師器 甕	カマド	口 19.0 底 — 高 19.3	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/4　外面磨滅著しい　スス付着
26	土師器 甕	カマド 12区1層	口 20.8 底 — 高 10.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/4　剝落多い
27	土師器 甕	カマド	口 20.2 底 — 高 14.8	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/3　内外面共磨滅著しい　スス付着
28	土師器 甕	カマド	口 19.3 底 — 高 25.5	外面口縁部横ナデ　胴部不定方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	2/3
29	須恵器 羽釜	12区1層	口 27.0 底 — 高 9.7	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒多量に含む 色　灰黄色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の1/8

H-7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	3区1層	口 12.2 底 5.5 高 3.4	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部～底部の1/5　歪み有
2	須恵器 坏	3区床直	口 14.3 底 7.4 高 4.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　黒色 焼　良	完形　全面にスス吸着　やや歪み有
3	須恵器 坏	4区床直	口 13.7 底 6.8 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含むA (小石少量含む) 色　灰色 焼　不良	ほぼ完形　重ね焼痕、歪み、ひび割れ有　内外面共自然灰釉付着
4	須恵器 坏	一括	口 — 底 7.3 高 1.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部　内外面共火襷痕有
5	須恵器 坏	2区1層	口 17.8 底 — 高 5.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部～胴部の1/5
6	須恵器 坏	一括	口 16.0 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部～胴部の1/5
7	須恵器 高台付坏	一括	口 15.2 底 7.6 高 6.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/2　内面底部にひび割れ有
8	須恵器 高台付坏	7区床直 11区1層	口 14.9 底 7.4 高 5.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　荒砂粒含む 色　灰色 焼　やや不良	ほぼ完形　歪み有
9	須恵器 高台付坏	一括 1区1層	口 16.2 底 8.0 高 5.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部に工具痕有　底部内面に重ね焼き痕有
10	須恵器 高台付皿	1区床直	口 14.0 底 6.8 高 2.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　浅黄橙色 焼　やや不良	1/3
11	須恵器 高台付坏	3区1層	口 — 底 8.5 高 2.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部～底部の1/2
12	須恵器 甕	1区床直	口 — 底 14.2 高 24.3	内外面共回転横ナデ　底部静止ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部～底部の3/4　内外面共自然灰釉付着
13	須恵器 長頸壺	3区床直	口 10.6 底 9.6 高 24.7	外面横ナデ　底部横ナデ後高台貼付 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　やや不良	口縁部の一部と高台部欠損 胴部～底部にかけてひび割れ有
14	須恵器 甕	1区床直	口 29.5 底 — 高 4.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部　口唇部に重ね焼き痕有

H-8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	カマド	口 10.4 底 — 高 3.7	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　黄灰色 焼　良	1/8　内外面共自然灰釉付着

H-8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	須恵器 坏	7区1層	口 12.2 底 7.4 高 4.4	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	1/12
3	須恵器 坏	3区1層	口 12.6 底 — 高 3.7	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	破片
4	須恵器 坏	3区床直	口 14.2 底 6.8 高 4.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　明黄褐色 焼　やや不良	完形　内外面共重ね焼き痕有　酸化還元焔によるスス吸着　底部に工具痕有　No.5とNo.11と三段重ねで出土
5	須恵器 坏	3区床直	口 14.2 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　明黄褐色 焼　やや不良	完形　内外面共重ね焼き痕有　酸化還元焔によるスス吸着　底部に工具痕有　No.4とNo.11と三段重ねで出土
6	須恵器 坏	5区1層	口 13.6 底 7.2 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形　外面自然灰釉付着
7	須恵器 坏	12区床直	口 12.6 底 6.6 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　荒砂粒含む 色　灰色 焼　良	7/8　やや歪み有
8	須恵器 坏	12区床直	口 13.4 底 7.0 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　不良	ほぼ完形　口縁部にひび割れ、焼け歪み有　内面重ね焼き痕有　底部に工具痕有
9	須恵器 坏	10区1層	口 13.3 底 6.8 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　不良	ほぼ完形　内外面共自然灰釉付着　歪み有
10	須恵器 坏	12区床直	口 13.4 底 6.3 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	ほぼ完形　歪み、ひび割れ有
11	須恵器 坏	3区床直	口 14.1 底 6.8 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　外面　体部の一部を除いて黒色 内面　黒色 焼　やや不良	完形　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　外面に重ね焼き痕有　歪み有　No.4とNo.5と三段重ねで出土
12	須恵器 坏	2区1層	口 13.8 底 7.6 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　黄灰色 焼　良	1/6
13	須恵器 坏	7区1層	口 — 底 7.4 高 2.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　灰白色 焼　良	底部の1/3　底部に工具痕有
14	須恵器 坏	5区1層 1区1層	口 14.0 底 7.5 高 3.2	内外面共回転横ナデ　底部不明瞭	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/6　内外面共重ね焼き痕有
15	須恵器 坏	4区1層	口 14.6 底 — 高 3.6	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　良	1/3　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　重ね焼き痕有
16	須恵器 坏	7区1層	口 14.8 底 — 高 2.8	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の1/5
17	須恵器 坏	3区1層	口 16.8 底 — 高 4.6	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰オリーブ色 焼　やや不良	口縁部～胴部の1/8　外面に酸化還元焔によるスス吸着
18	須恵器 坏	3区1層	口 14.8 底 — 高 3.2	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の1/10　外面に自然灰釉付着
19	須恵器 坏	12区1層	口 — 底 8.6 高 2.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒少量含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	胴部と底部の一部　胴部に工具痕有
20	須恵器 坏	8区1層	口 — 底 8.0 高 0.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　灰白色 焼　やや不良	底部のみ
21	須恵器 坏	3区1層 7区1層	口 — 底 7.2 高 1.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒少量含む 色　灰白色 焼　良	胴部と底部の一部
22	須恵器 坏	5区1層	口 — 底 7.0 高 1.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部と底部の一部
23	須恵器 高台付坏	2区床直	口 15.2 底 7.2 高 5.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　良	3/5

H－8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
24	土師器 甕	12区1層	口 11.2 底 — 高 4.2	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒多く含む 色 橙色 焼 良	口縁部～胴上部の1/10 歪み有
25	土師器 甕	12区1層	口 13.6 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部～胴部の一部
26	須恵器 甕	11区1層 G-25 c(1)	口 24.6 底 — 高 8.9	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴上部の1/6

H－9号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	9区床直	口 13.8 底 7.8 高 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	3/4 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	13区床直	口 13.8 底 7.4 高 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	ほぼ完形 やや歪み有
3	須恵器 坏	7区床直	口 14.0 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 細砂粒含む 色 灰白色 焼 良	4/5
4	須恵器 坏	13区床直	口 14.0 底 8.0 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 外面 黒色 内面 黄灰色 焼 良	完形 底部を除く外面に酸化還元焔によるスス吸着 やや歪み有
5	須恵器 坏	13区床直	口 13.4 底 7.5 高 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 浅黄橙色 焼 良	ほぼ完形 外面に酸化還元焔によるスス吸着 胴部にひび割れ有 底部工具痕有
6	須恵器 坏	13区床直	口 13.5 底 7.2 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	ほぼ完形 ひび割れ、歪み有 外面に粘土付着
7	須恵器 坏	13区床直	口 13.8 底 7.4 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 やや不良	完形 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 ひび割れ、歪み有 外面底部に粘土付着
8	須恵器 坏	15区床直	口 13.2 底 7.5 高 3.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	完形 外面自然灰釉付着 歪み著しい
9	須恵器 坏	上部一括	口 16.2 底 7.8 高 4.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	4/5
10	須恵器 坏	13区床直	口 14.2 底 7.4 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 やや不良	ほぼ完形
11	須恵器 高台付椀	14区床直	口 15.0 底 8.4 高 5.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 細粒含む 色 黄灰色 焼 良	3/4
12	須恵器 高台付椀	16区床直	口 15.0 底 8.5 高 5.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 歪み有
13	須恵器 高台付椀	5区床直	口 15.2 底 8.5 高 5.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	4/5 外面に酸化還元焔によるスス吸着
14	須恵器 高台付椀	15区床直	口 14.4 底 7.8 高 5.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の2/3
15	須恵器 高台付椀	5区床直	口 14.8 底 8.2 高 6.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	ほぼ完形
16	須恵器 高台付椀	13区床直	口 15.2 底 7.6 高 6.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰オリーブ色 焼 不良	9/10 内外面共自然灰釉付着 歪み有
17	須恵器 高台付椀	5区床直	口 15.4 底 8.0 高 5.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒少量含む 色 灰黄褐色 焼 やや不良	3/4 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
18	須恵器 高台付椀	9区床直	口 15.2 底 8.0 高 5.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	2/3 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
19	須恵器 高台付皿	3区床直	口 14.2 底 7.0 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 にぶい黄色 焼 やや不良	完形 内面に重ね焼き痕、ひび割れ有 内外面共酸化還元焔によるスス吸着

H-9号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
20	須恵器 高台付皿	15区床直	口 14.8 底 — 高 1.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　やや不良	2/3　高台部剝離　内面に重ね焼き痕有　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
21	土師器 甕	上部一括	口 20.4 底 — 高 11.5	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向、胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴部の1/2
22	土師器 甑	上部一括	口 — 底 11.8 高 8.4	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　やや不良	胴下部の1/6
23	土師器 甕	上部一括	口 22.6 底 — 高 14.6	外面口縁部横ナデ　胴部縦・横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/4　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　外面わづみ痕顕著
24	土師器 甕	上部一括 カマド一括	口 19.8 底 — 高 18.5	外面口縁部横ナデ　胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴中央部の1/2
25	土師器 甕	5区床直 15区床直	口 19.2 底 4.0 高 27.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多く含む 色　明赤褐色 焼　良	3/4
26	土師器 甕	上部一括 カマド一括	口 21.0 底 — 高 19.7	外面口縁部～頸部横ナデ　胴上部横方向、胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴部の2/3　外面に酸化還元焔によるスス吸着

H-10号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	10区1層	口 12.3 底 5.9 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/2　外面に自然灰釉付着
2	須恵器 坏	1区1層	口 12.8 底 6.1 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒多く含む 色　灰色 焼　不良	2/3　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　焼ムラ有
3	須恵器 坏	5区1層	口 12.7 底 6.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　にぶい黄褐色 焼　不良	ほぼ完形　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　歪み有
4	須恵器 坏	2区1層	口 12.2 底 5.3 高 4.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　不良	2/3　内外面共酸化還元焔によるスス吸着　内面重ね焼き痕有
5	須恵器 坏	2区1層 上部一括	口 13.4 底 6.6 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面黒色処理	胎　砂粒含む 色　外面　にぶい赤褐色 内面　黒色 焼　やや不良	1/5
6	須恵器 高台付坏	1区1層	口 — 底 6.2 高 2.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面黒色処理	胎　砂粒含む 色　外面　橙色 内面　暗灰色 焼　良	胴部の1/3～底部　高台部剝離　内面に酸化還元焔によるスス吸着
7	須恵器 高台付坏	3区1層	口 — 底 10.6 高 6.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	1/5　外面に酸化還元焔によるスス吸着
8	須恵器 坏	9区1層	口 13.1 底 7.1 高 4.8	内外面共回転横ナデ　外面一部ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/6
9	須恵器 高台付坏	1区1層	口 — 底 7.9 高 1.9	底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　不良	高台部のみ　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
10	土師器 甕	2区1層	口 18.0 底 — 高 6.9	外面口縁部横ナデ　胴上部縦方向ヘラ削り　内面口縁部横ナデ　胴上部ヘラ削り	胎　砂粒多量含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の2/5
11	土師器 甕	5区1層 上部一括	口 18.4 底 — 高 9.7	口縁部内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量に含む 色　灰白色 焼　やや不良	口縁部～胴部の一部　内面に酸化還元焔によるスス吸着　内外面共わづみ痕有
12	土師器 甕	上部一括 2区1層	口 16.0 底 — 高 7.7	外面口縁部横ナデ　胴上部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　荒砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴上部の一部　口縁部に工具痕有　外面に酸化還元焔によるスス吸着
13	土師器 甕	5区1層 2区1層	口 24.2 底 — 高 6.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多く含む 色　橙色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の1/10
14	須恵器 甕	1区1層	口 — 底 10.6 高 9.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　淡赤褐色 焼　不良	胴部～底部の一部　外面に酸化還元焔によるスス吸着

H-10号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
15	須恵器 甕	14区1層 13区1層 7区1層 11区1層	口 — 底 — 高 10.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部 外面に自然灰釉付着
16	土師器 甕	6区1層	口 — 底 — 高 24.5	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 黒褐色 焼 良	胴上部～胴下部 外面に酸化還元焔によるスス吸着
17	土師器 羽釜	5区1層	口 23.8 底 — 高 12.0	外面口縁部・鍔部回転横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	口縁部～胴上部の1/4
18	須恵器 甕	13区1層 14区1層	口 — 底 10.6 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部～底部1の/2 内外面共自然灰釉付着
19	須恵器 甕	1区1層 5区1層 2区1層 3区1層	口 — 底 — 高 30.7	内外面共回転横ナデ 内面叩き痕有	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/3
20	須恵器 把手部	10区1層	口 — 底 — 高 —	内面回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	把手部の1/2 外面に自然灰釉付着
21	石製品 砥石	2区1層	長さ 7.2 幅 4.6 厚さ 3.7 重量(g) 123.7	上部穿孔有		トザワ石

グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	D-22(1)	口 13.5 底 6.5 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	2/3 歪み有
2	須恵器 坏	X-23b(1)	口 14.2 底 6.3 高 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	2/3 内面に重ね焼き痕有 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 底部工具痕有
3	須恵器 坏	F-22C(1)	口 13.2 底 7.6 高 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	完形 外面に自然灰釉付着
4	須恵器 坏	B-23b(3)	口 14.4 底 7.3 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 黒褐色 焼 良	2/3 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 底部に圧痕有
5	須恵器 坏	H-20b(1)	口 13.4 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰白色 焼 良	4/5 外面に重ね焼き痕有 底部に工具痕有
6	須恵器 坏	F-22c(3)	口 13.2 底 7.0 高 3.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形 外面に自然灰釉付着 歪み有
7	須恵器 坏	D-18(1)	口 14.0 底 7.0 高 2.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部糸切りやり直し	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 やや不良	2/3 外面に重ね焼き痕有 酸化還元焔によるスス吸着 外面底部に圧痕有 内面底部に工具痕有
8	須恵器 坏	F-22c(1)	口 12.6 底 6.2 高 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/3 外面に重ね焼き痕有 自然灰釉付着歪み有 底部工具痕有
9	須恵器 坏	Y-35(1)	口 12.8 底 6.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/3 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 底部に工具痕有
10	須恵器 坏	D-18(1)	口 — 底 8.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 不良	1/5
11	須恵器 坏	F-22(1)	口 14.9 底 8.8 高 4.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/4 内面に重ね焼き痕有 内外面共自然灰釉付着
12	須恵器 坏	T-14a(3)	口 14.6 底 7.7 高 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 細砂粒多量含む 色 灰黄色 焼 良	ほぼ完形 歪み有 底部に工具痕有
13	須恵器 坏	F-22C(1)	口 13.4 底 7.0 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰色 焼 良	2/3 外面に重ね焼き痕有 底部に工具痕有
14	須恵器 高台付坏	H-5b(2)	口 — 底 8.4 高 2.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面黒色処理 暗文	胎 砂粒含む 色 外面 橙色 内面 黒色 焼 やや不良	胴部～底部 高台部剝離 外面底部に酸化還元焔によるスス吸着

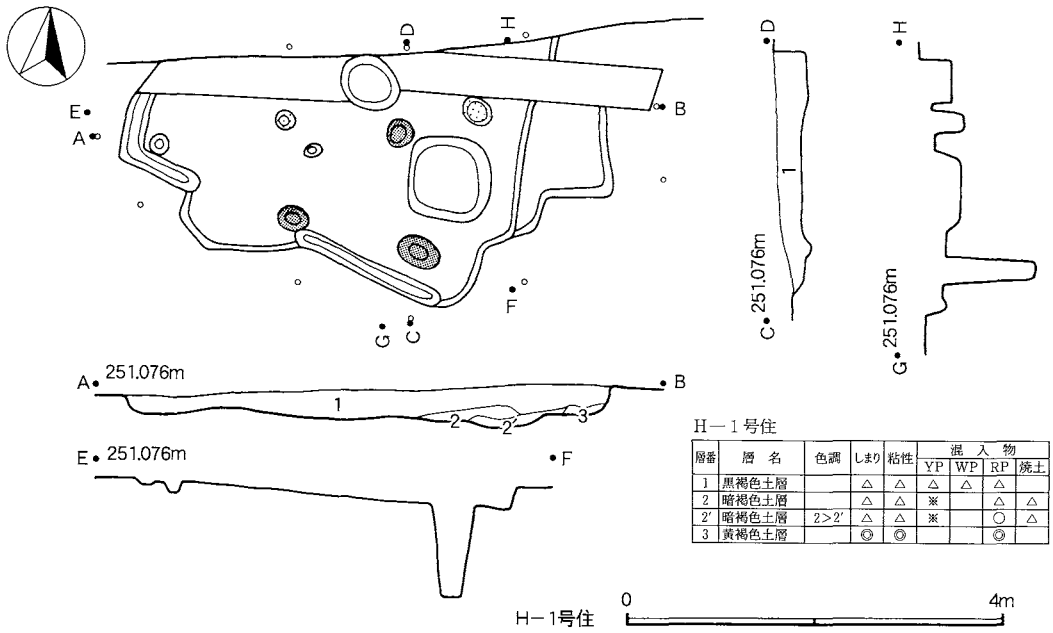
グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
15	須恵器 高台付皿	G-25一括	口 14.0 底 2.9 高 7.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	4/5　やや歪み有
16	須恵器 高台付皿	C-23(1)	口 14.0 底 2.8 高 7.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	3/4　内面底部に重ね焼き痕有
17	須恵器 高台付皿	H-22d(1)	口 13.4 底 5.7 高 2.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	2/5　底部にひび割れ有
18	須恵器 高台付皿	G-20(1)	口 13.4 底 7.0 高 2.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	2/3　粗雑
19	須恵器 高台付皿	G-17(1)	口 13.2 底 7.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/4　内外面共重ね焼き痕有　内面底部に剝落痕有
20	須恵器 高台付椀	T-18(1)	口 14.4 底 7.6 高 5.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	2/5　底部工具痕有
21	須恵器 高台付椀	F-22c(1)	口 15.0 底 7.4 高 5.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/3　外面に自然灰釉付着　底部工具痕有
22	須恵器 高台付椀	F-22a(3)	口 15.8 底 8.2 高 5.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　良	1/2　外面に重ね焼き痕有　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
23	須恵器 高台付椀	F-22a(1)	口 — 底 8.0 高 4.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒少量含む 色　灰白色 焼　良	2/3　内外面共重ね焼き痕有
24	須恵器 高台付皿	K-23(1)	口 — 底 9.2 高 3.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/3　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
25	須恵器 高台付椀	F-22b(3)	口 15.2 底 — 高 5.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/3　歪み有
26	須恵器 高台付甕	N-8(1)	口 — 底 10.3 高 —	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部のみ
27	須恵器 高台付甕	H-8(1)	口 — 底 13.0 高 4.4	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部の1/4　外面に自然灰釉付着　ひび割れ有
28	須恵器 椀	C-22(1)	口 19.0 底 — 高 6.6	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　外面　灰黄色 内面　にぶい黄橙色 焼　良	1/9　ロクロ痕顕著
29	須恵器 蓋	O-10(1)	口 18.4 ツマミ 4.5 高 3.4	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転糸切り後回転ヘラ削り　ボタン状つまみ貼付	胎　砂粒含む 色　灰褐色 焼　良	1/2　外面に重ね焼き痕有
30	須恵器 蓋	O-10(1)	口 17.6 ツマミ — 高 2.8	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰黄色 焼　良	1/5
31	須恵器 蓋	G-23a(1)	口 — ツマミ — 高 1.9	内外面共回転横ナデ　外面天井部　回転ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/4
32	須恵器 甕	Z-35(1)	口 — 底 24.0 高 6.0	外面平行叩き後、胴部下端回転ヘラ削り　内面当て具痕有　底部ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	体部の一部～底部　内外面共少量窯壁融着
33	須恵器 甕	G-25(1)	口 29.8 底 — 高 6.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部　外面口唇部・内面に自然灰釉付着　内外面共窯壁融着
34	須恵器 球胴甕	G-25(1)	口 13.2 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	口縁部のみ　内外面共自然灰釉付着
35	須恵器 甕	I-22(1)	口 27.0 底 — 高 8.8	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　浅黄橙色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の一部
36	須恵器 椀	C-22(1)	口 25.8 底 — 高 7.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部のみ　外面に自然灰釉付着
37	須恵器 甕	D-33a(3)	口 — 底 17.0 高 5.5	内外面共回転横ナデ　底部ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部　底部に指圧痕有

グリッド

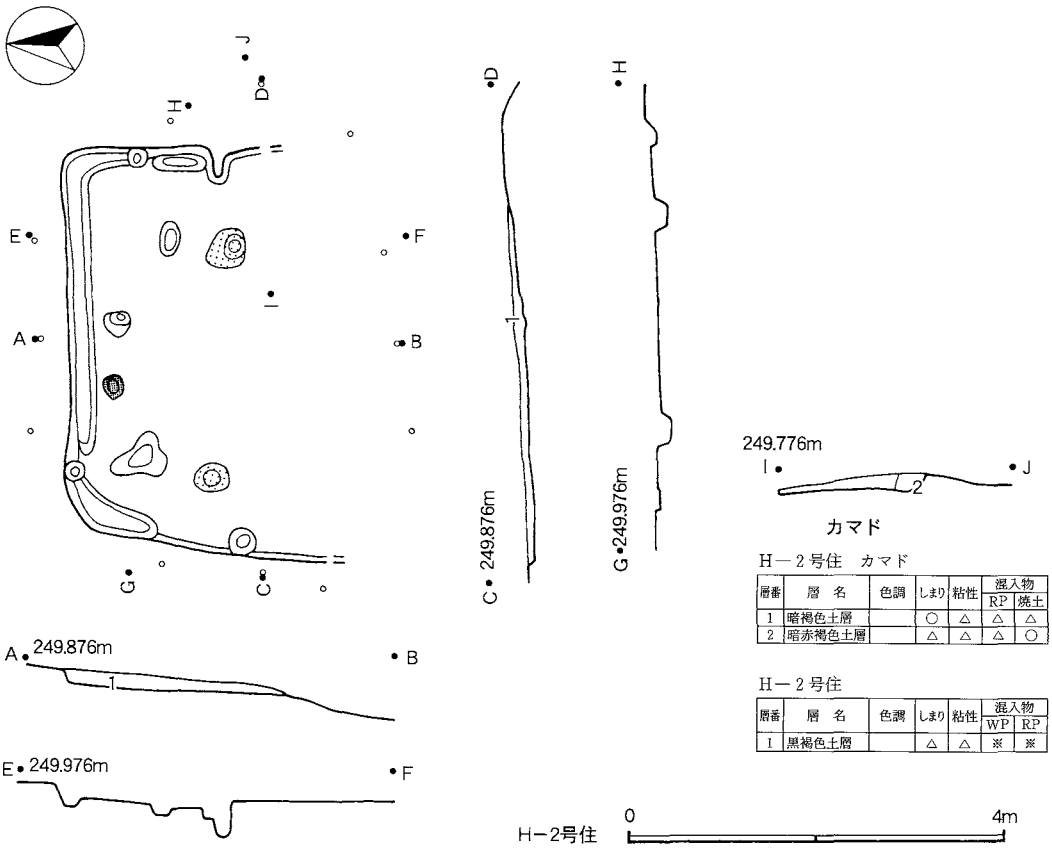
No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
38	須恵器 甕	Z-35(1)	口 — 底 — 高 6.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部
39	須恵器 羽釜	A-26(1)	口 26.8 底 — 高 9.2	内外面共回転横ナデ 外面櫛引き痕有	胎 砂粒多量含む 色 灰色 焼 良	口縁部～鍔部の一部
40	須恵器 羽釜	Y-35(1) Y-34(1)	口 — 底 — 高 11.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	胴部の一部

（鬼形）



H－1号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					YP	WP	RP	焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	△	△	
2	暗褐色土層		△	△	※		△	△
2′	暗褐色土層	2>2′	△	△	※		○	△
3	黄褐色土層		◎	◎			◎	



カマド

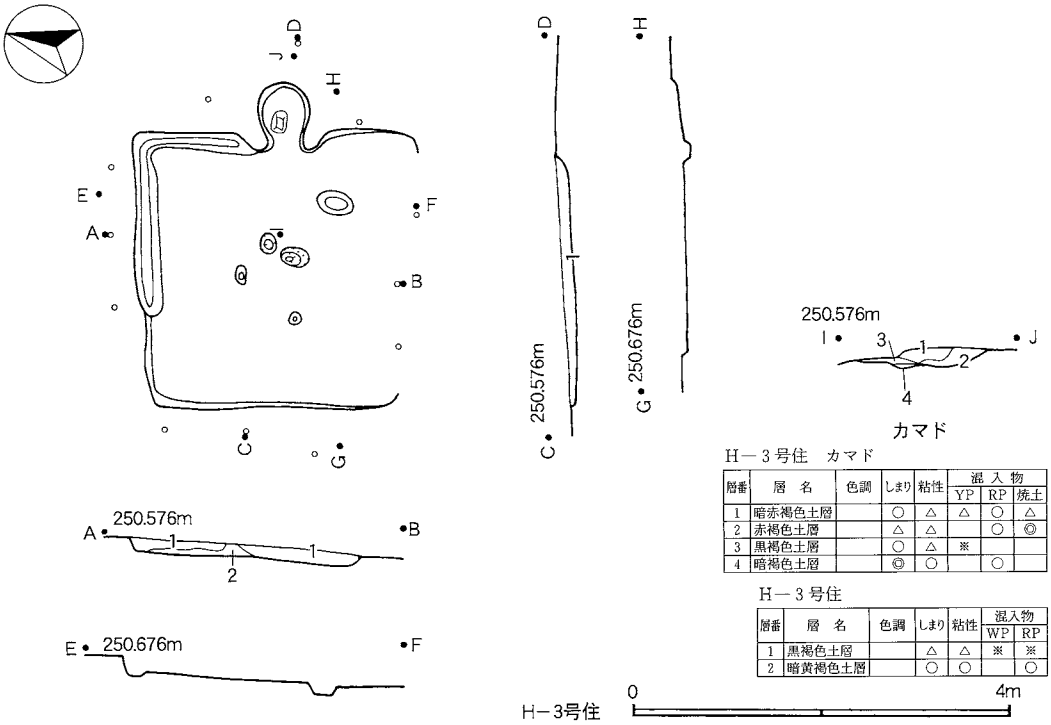
H－2号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RP	焼土
1	暗褐色土層		○	△	△	△
2	暗赤褐色土層		△	△	△	○

H－2号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					WP	RP
1	黒褐色土層		△	△	※	※

第237図　H－1・2号住居址実測図

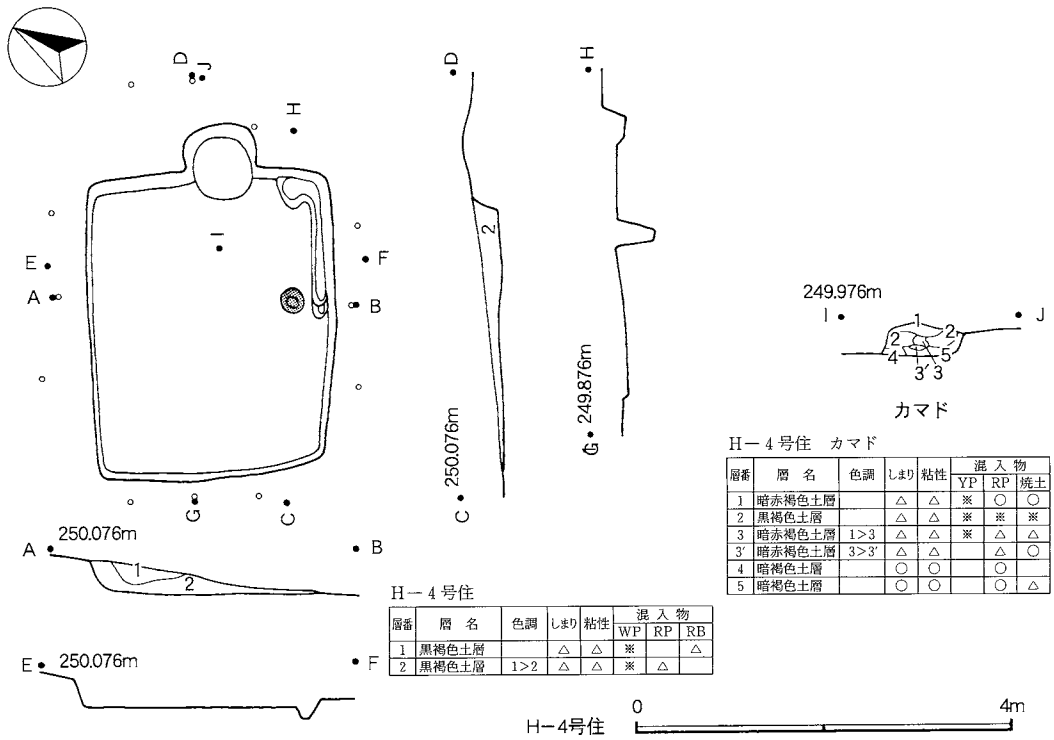


H－3号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	RP	焼土
1	暗赤褐色土層		○	△	△	○	△
2	赤褐色土層		△	△		○	◎
3	黒褐色土層		○	△	※		
4	暗褐色土層		◎	○		○	

H－3号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	RP
1	黒褐色土層		△	△	※	※
2	暗黄褐色土層		○	○		○



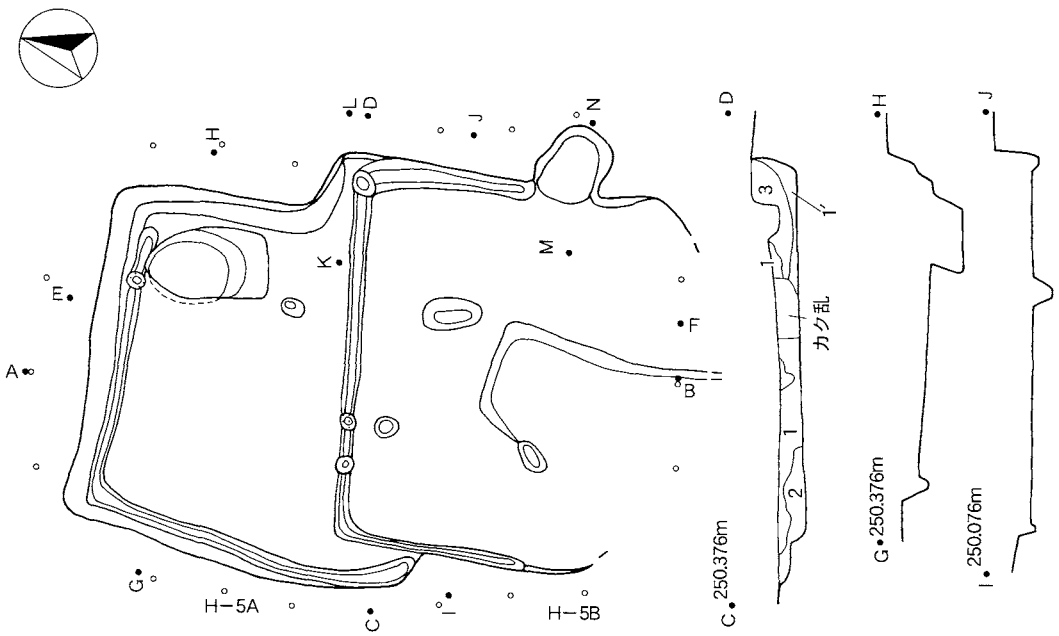
H－4号住　カマド

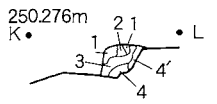
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	RP	焼土
1	暗赤褐色土層		△	△	※	○	○
2	黒褐色土層		△	△	※	※	※
3	暗赤褐色土層	1>3	△	△	※	△	△
3′	暗赤褐色土層	3>3′	△	△		△	○
4	暗褐色土層		○	○		○	
5	暗褐色土層		○	○		○	△

H－4号住

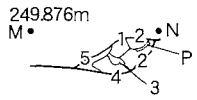
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	RP	RB
1	黒褐色土層		△	△	※		△
2	黒褐色土層	1>2	△	△	※	△	

第238図　H－3・4号住居址実測図





5Aカマド



5Bカマド

H−5A・5B号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					B	YP	RP	RB	焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	△			
1'	黒褐色土層	1<1'	△	△	△	△	※		
2	暗黄褐色土層		○	○				◎	
3	暗赤褐色土層		○	○				◎	◎

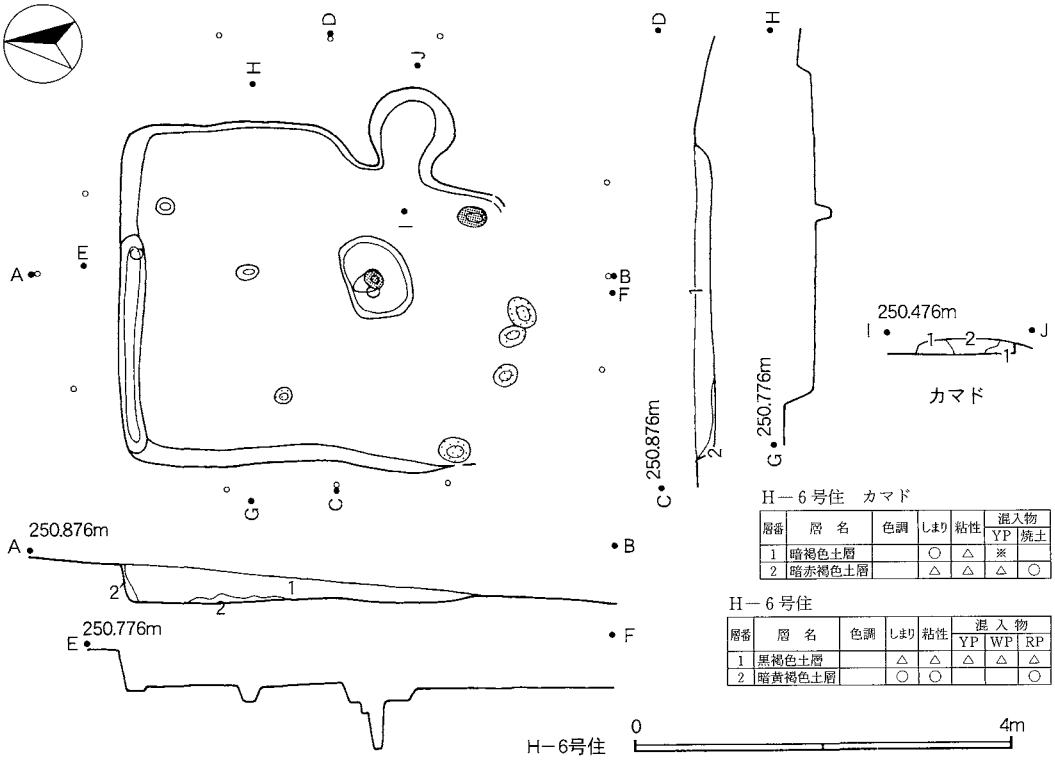
H−5A号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	褐色土層		○	○	※	△	○
2	黒褐色土層		△	△	※		※
3	暗赤褐色土層		△	△	※		◎
4	暗赤褐色土層	3>4	△	△	※		○
4'	暗赤褐色土層	4>4'	△	△	※		○

H−5B号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	黄褐色土層		○	○	※	◎	△
2	暗赤褐色土層		△	△	※		△
2'	暗赤褐色土層	2<2'	△	△	※		○
3	暗褐色土層		△	△	※		△
4	褐色土層		○	○		○	※
5	黒褐色土層		△	△	※		

第239図　H−5A・5B号住居址実測図

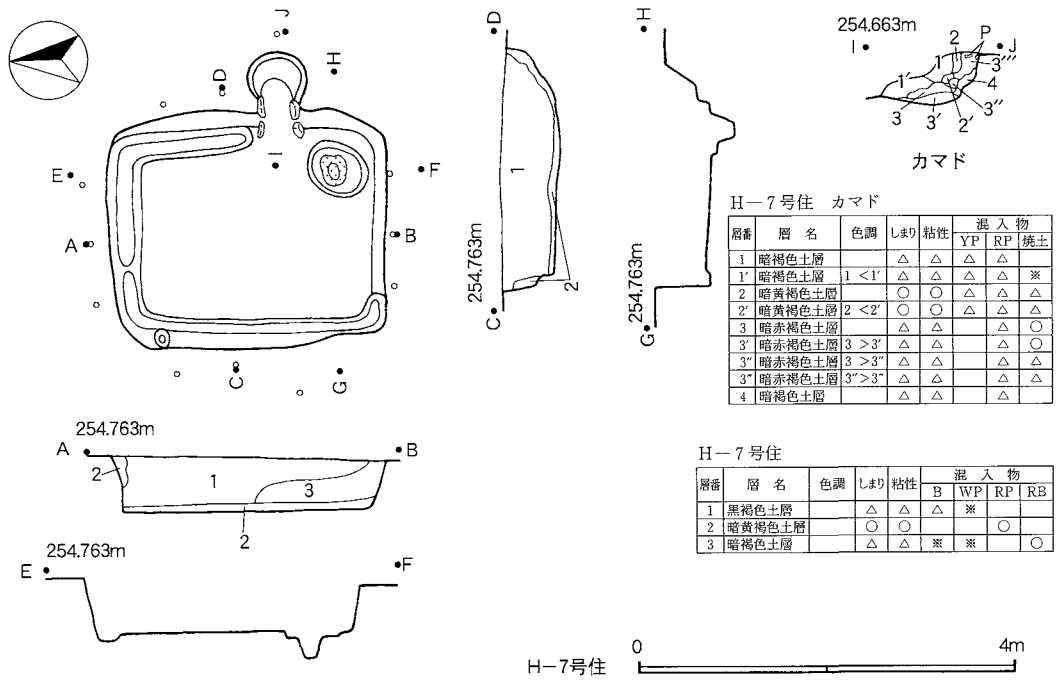


H－6号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	焼土
1	暗褐色土層		○	△	※	
2	暗赤褐色土層		△	△	△	○

H－6号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	WP	RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	△
2	暗黄褐色土層		○	○			○



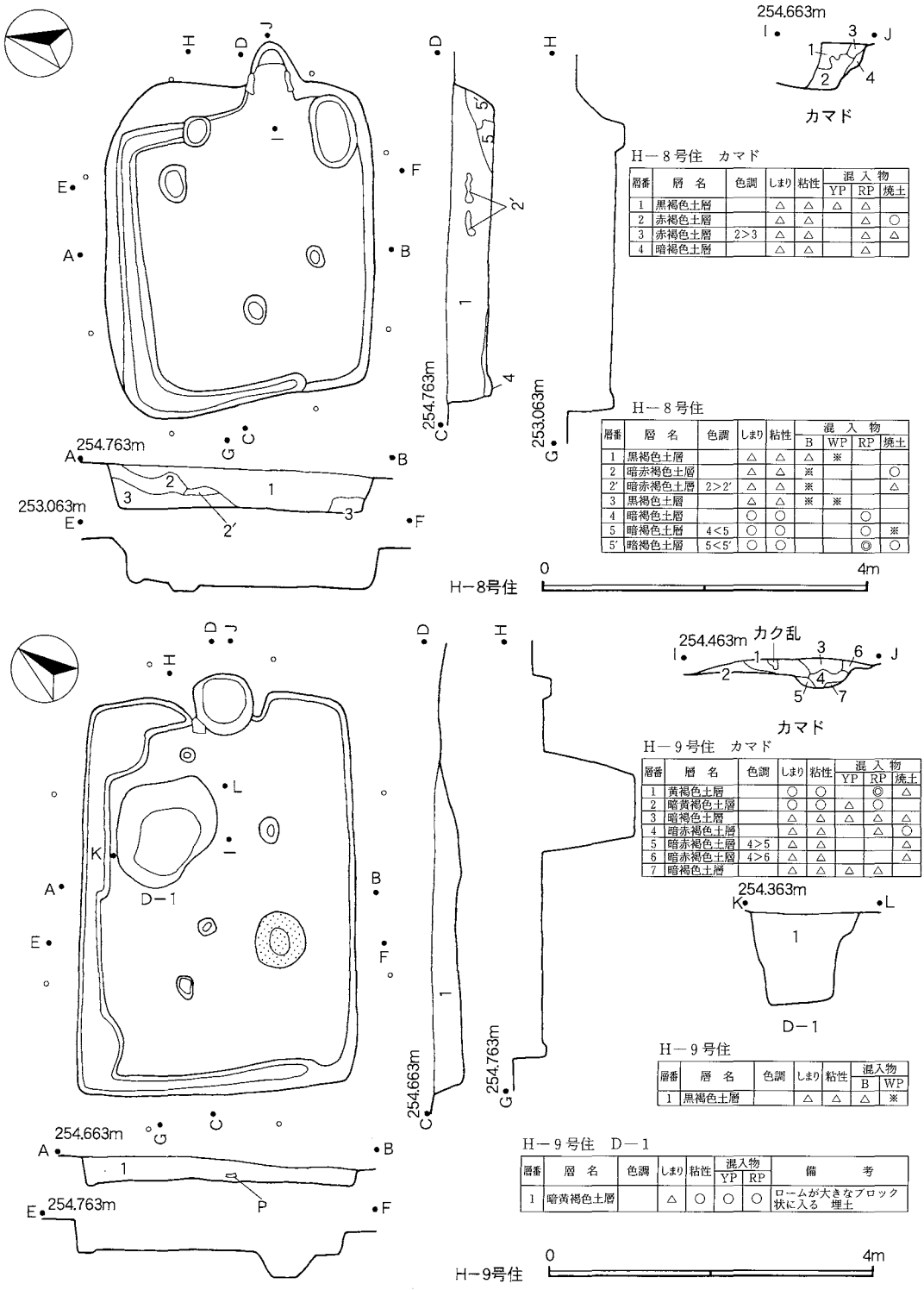
H－7号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	暗褐色土層		△	△	△	△	
1′	暗褐色土層	1 <1′	△	△	△	△	※
2	暗黄褐色土層		○	○	△	△	△
2′	暗黄褐色土層	2 <2′	○	○	△	△	△
3	暗赤褐色土層		△	△		△	○
3′	暗赤褐色土層	3 >3′	△	△		△	○
3″	暗赤褐色土層	3 >3″	△	△		△	△
3‴	暗赤褐色土層	3″>3‴	△	△		△	△
4	暗褐色土層		△	△		△	

H－7号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
					B	WP	RP	RB
1	黒褐色土層		△	△	△	※		
2	暗黄褐色土層		○	○			○	
3	暗褐色土層		△	△	※	※		○

第240図　H－6・7号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2	赤褐色土層		△	△		△	○
3	赤褐色土層	2>3	△	△		△	△
4	暗褐色土層		△	△		△	

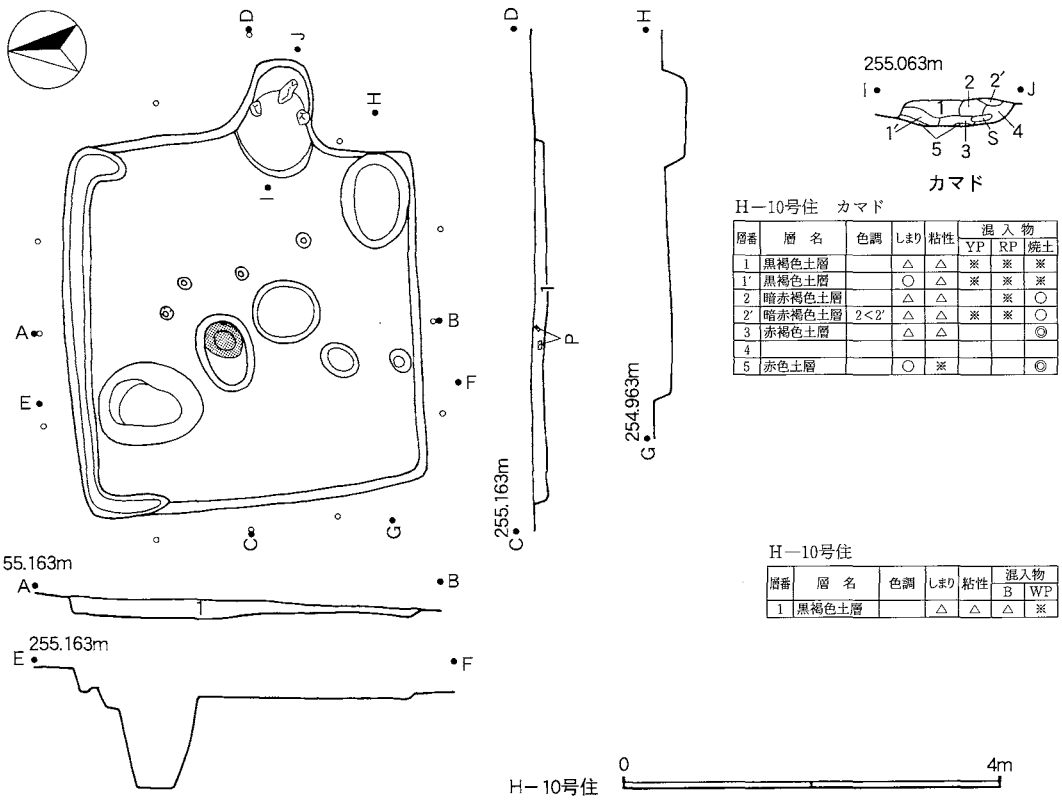
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 B	混入物 WP	混入物 RP	混入物 焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	※		
2	暗赤褐色土層		△	△	※			○
2′	暗赤褐色土層	2>2′	△	△	※			△
3	黒褐色土層		△	△	※	※		
4	暗褐色土層		○	○			○	
5	暗褐色土層	4<5	○	○			○	※
5′	暗褐色土層	5<5′	○	○			◎	○

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土
1	黄褐色土層		○	○		◎	△
2	暗黄褐色土層		○	○	△	○	
3	暗褐色土層		△	△	△	△	△
4	暗赤褐色土層		△	△		△	○
5	暗赤褐色土層	4>5	△	△			△
6	暗赤褐色土層	4>6	△	△			△
7	暗褐色土層		△	△	△	△	

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 B	混入物 WP
1	黒褐色土層		△	△	△	※

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	備考
1	暗黄褐色土層		△	○	○	○	ロームが大きなブロック状に入る　埋土

第241図　H－8・9号住居址実測図

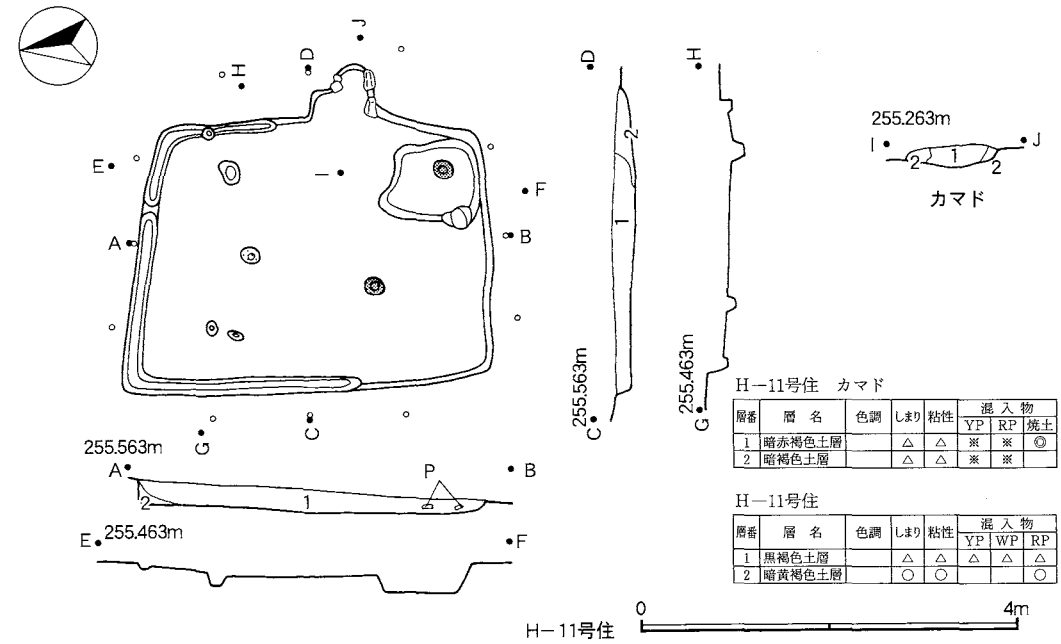


H－10号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	黒褐色土層		△	△	※	※	※
1′	黒褐色土層		○	△	※	※	※
2	暗赤褐色土層		△	△		※	○
2′	暗赤褐色土層	2<2′	△	△	※	※	○
3	赤褐色土層		△	△			◎
4							
5	赤色土層		○	※			◎

H－10号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					B	WP
1	黒褐色土層		△	△	△	※



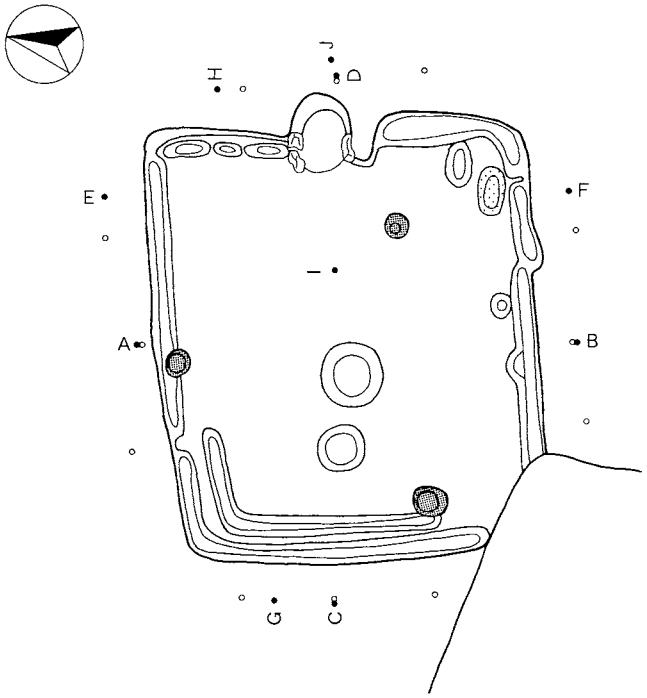
H－11号住　カマド

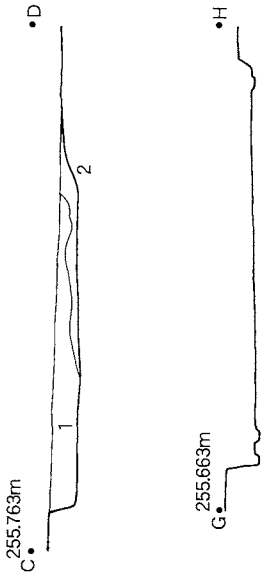
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	暗赤褐色土層		△	△	※	※	◎
2	暗褐色土層		△	△	※	※	

H－11号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	WP	RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	△
2	暗黄褐色土層		○	○			○

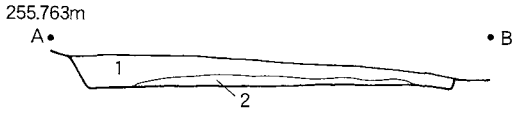
第242図　H－10・11号住居址実測図

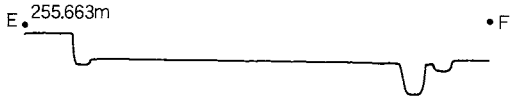


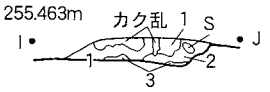


H—12号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					B	YP	RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2	暗褐色土層		△	△	△	△	△



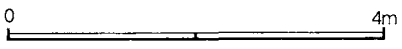




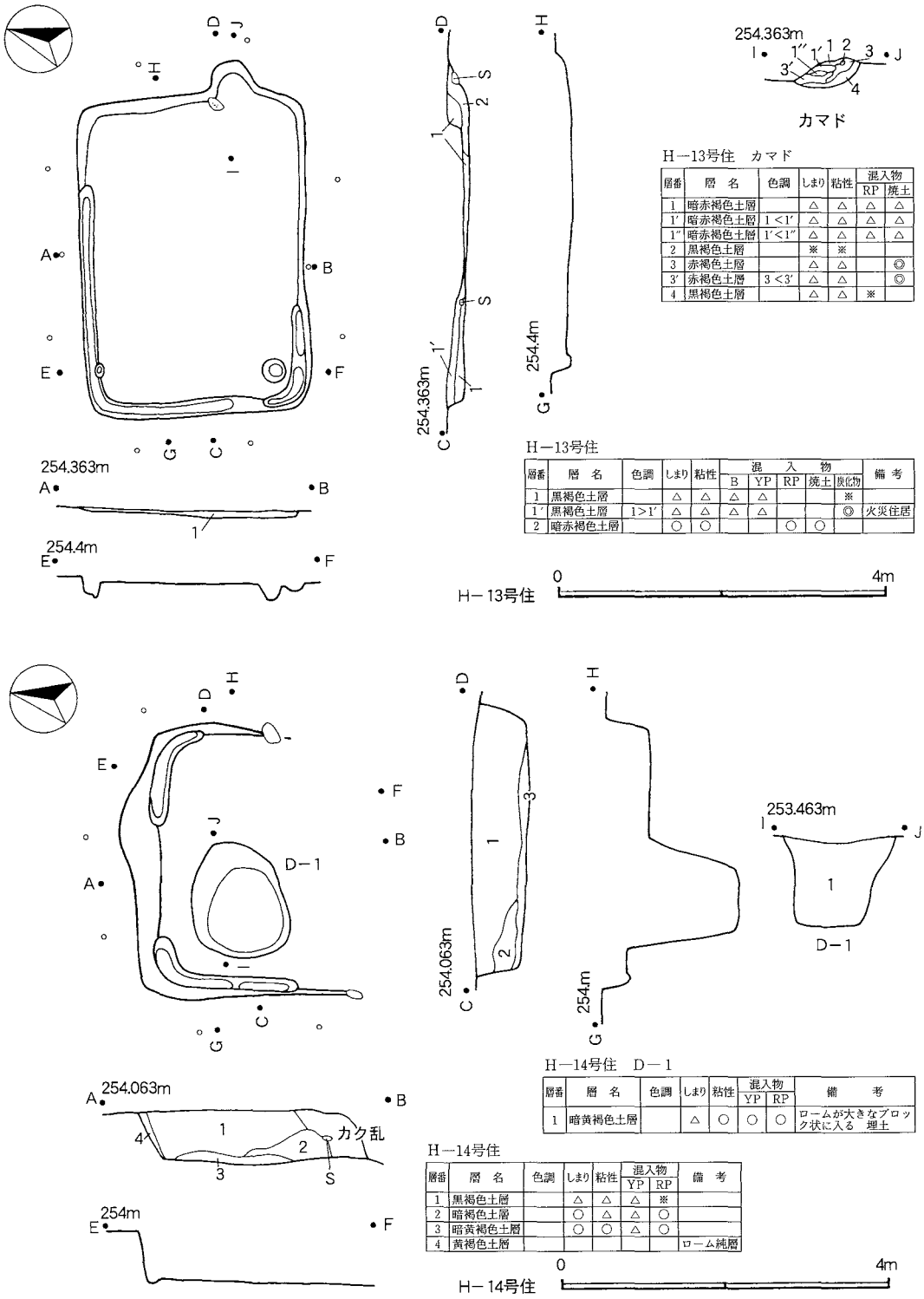
カマド

H—12号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RP	焼土
1	黄褐色土層		◎	◎	◎	△
2	暗赤褐色土層		△	△	△	◎
3	暗褐色土層		△	△	※	



第243図　H—12号住居址実測図



H−13号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 焼土
1	暗赤褐色土層		△	△	△	△
1′	暗赤褐色土層	1＜1′	△	△	△	△
1″	暗赤褐色土層	1′＜1″	△	△	△	△
2	黒褐色土層		※	※		
3	赤褐色土層		△	△		◎
3′	赤褐色土層	3＜3′	△	△		◎
4	黒褐色土層		△	△	※	

H−13号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 B	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土	混入物 炭化物	備考
1	黒褐色土層		△	△	△	△			※	
1′	黒褐色土層	1＞1′	△	△	△	△			◎	火災住居
2	暗赤褐色土層		○	○			○	○		

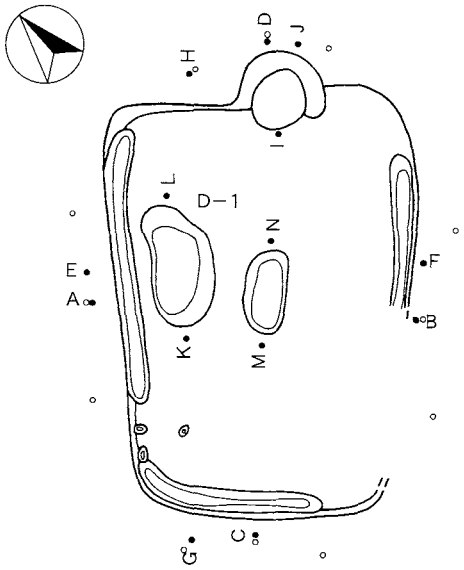
H−14号住　D−1

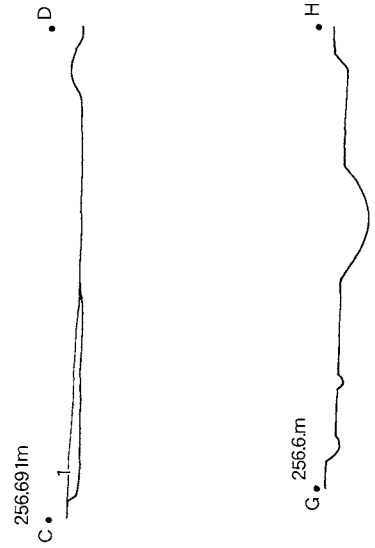
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	備考
1	暗黄褐色土層		△	○	○	○	ロームが大きなブロック状に入る　埋土

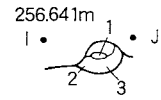
H−14号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	備考
1	黒褐色土層		△	△	△	※	
2	暗褐色土層		○	△	△	○	
3	暗黄褐色土層		○	○	△	○	
4	黄褐色土層						ローム純層

第244図　H−13・14号住居址実測図



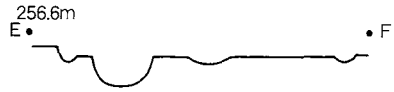




カマド

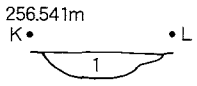
H－15号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2	暗黄褐色土層		○	△		△	△
3	暗赤褐色土層		○	△		△	○

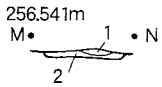


H－15号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					B	YP
1	黒褐色土層		△	△	△	△



D－1



焼土1

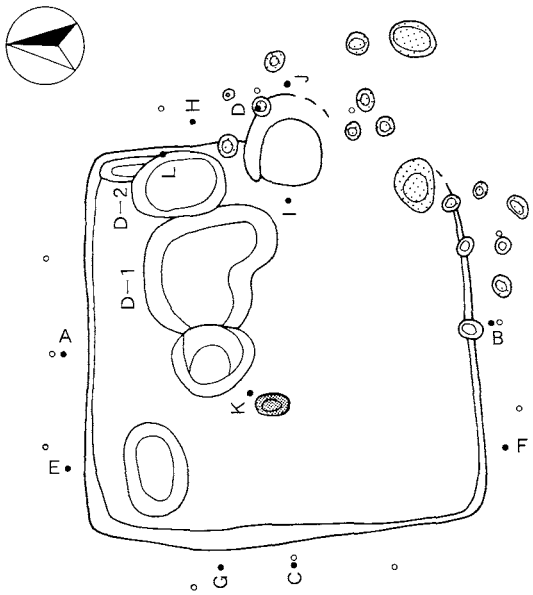
H－15号住　D－1

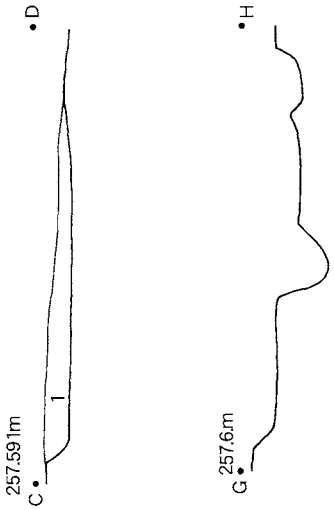
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	RP
1	黒褐色土層		○	△	△	△

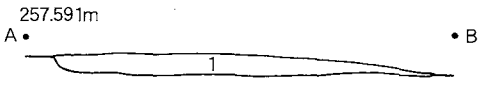
H－15号住　焼土1

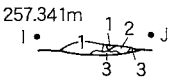
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	赤褐色土層		△	△			◎
2	暗褐色土層		○	○	△	△	

第245図　H－15号住居址実測図





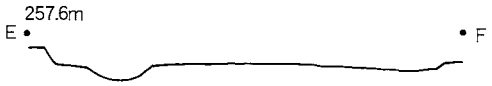




カマド

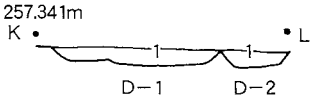
H－16号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	暗赤褐色土層		△	△	△	△	△
2	暗赤褐色土層	1<2	△	△	△	△	○
3	暗褐色土層		△	△	※	※	



H－16号住

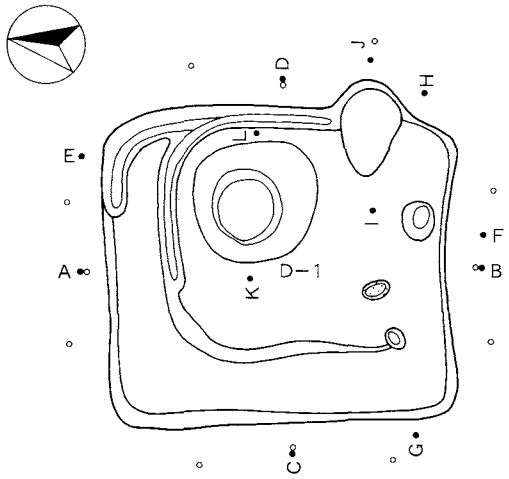
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					B	YP
1	黒褐色土層		△	△	△	△

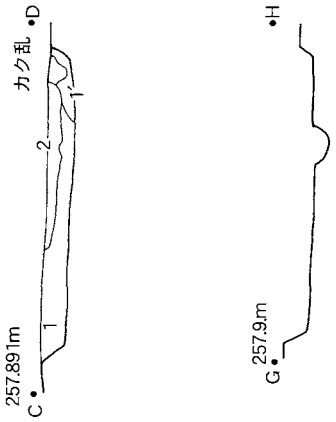


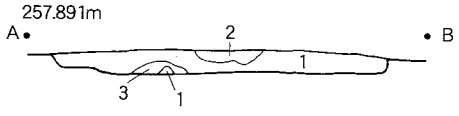
H－16号住　D－1　D－2

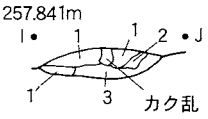
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	RP
1	暗褐色土層		○	○	△	△

第246図　H－16号住居址実測図









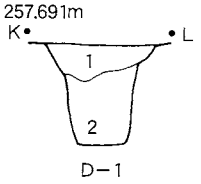
カマド

H－17号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	黄褐色土層		○	◎		◎	△
1'	暗褐色土層		○	△		○	△
2	赤褐色土層		○	※			◎
3	暗黄褐色土層		△	△	△	△	

H－17号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物			
					B	YP	RP	焼土
1	黒褐色土層		△	△	△	△	△	
1'	黒褐色土層	1<1'	△	△	△	△	△	△
2	暗赤褐色土層		△	△	△	△	△	○
3	褐色土層		△	○			○	

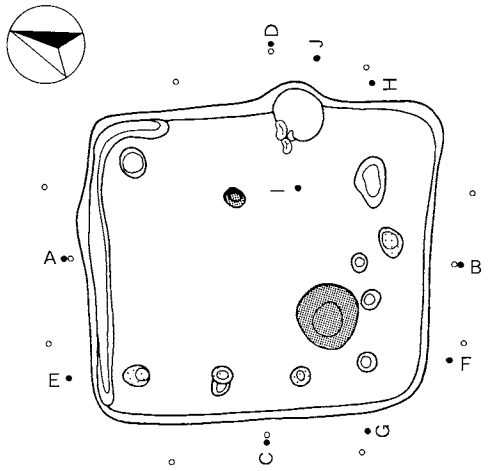


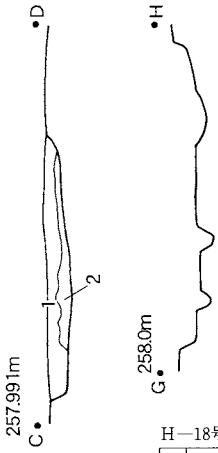
D－1

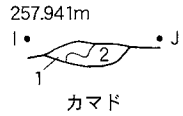
H－17号住　D－1

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					YP	RP
1	黒褐色土層		○	△	△	△
2	暗黄褐色土層		△	○	○	○

第247図　H－17号住居址実測図

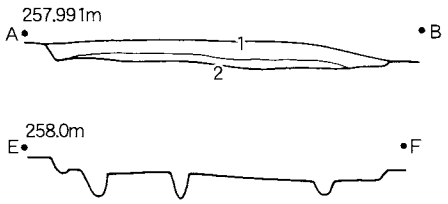






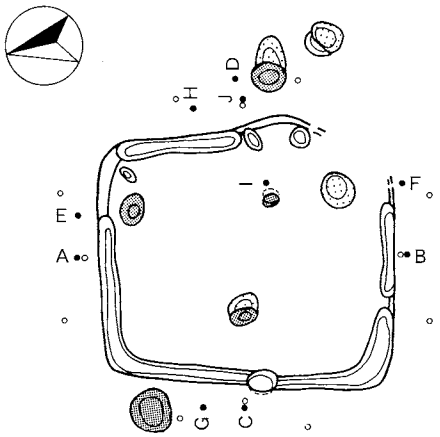
H—18号住　カマド

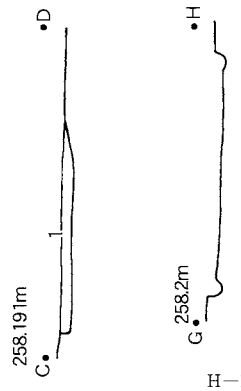
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土
1	暗褐色土層		△	△	△	△	
2	暗赤褐色土層		△	△		△	○

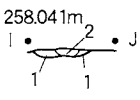


H—18号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 B	混入物 YP	混入物 RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2	暗黄褐色土層		△	△		△	○

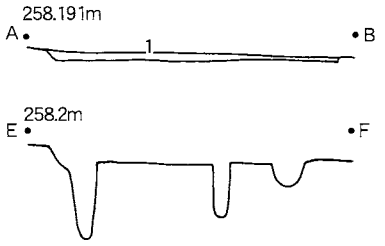






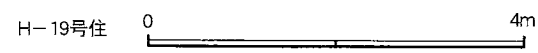
H—19号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 焼土
1	暗褐色土層		△	△	△	△	
2	暗赤褐色土層		△	△		△	○

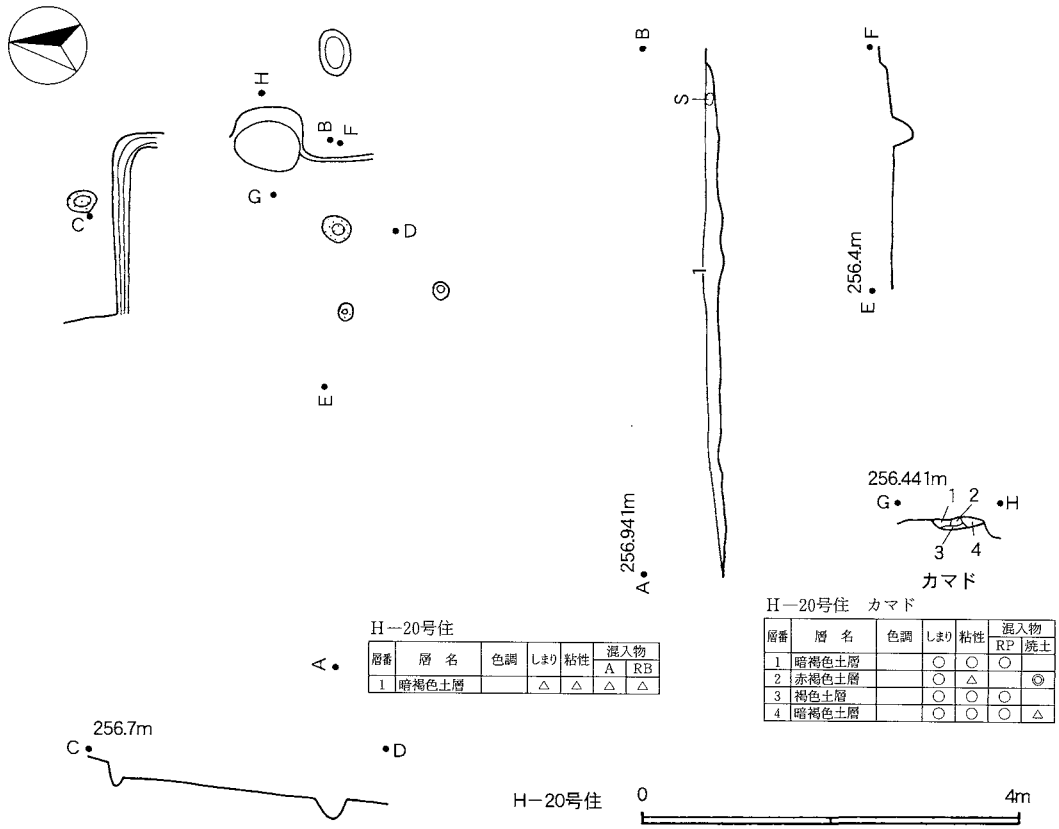


H—19号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 B	混入物 YP	混入物 RP
1	黒褐色土層		△	△	△	△	△



第248図　H—18・19号住居址実測図

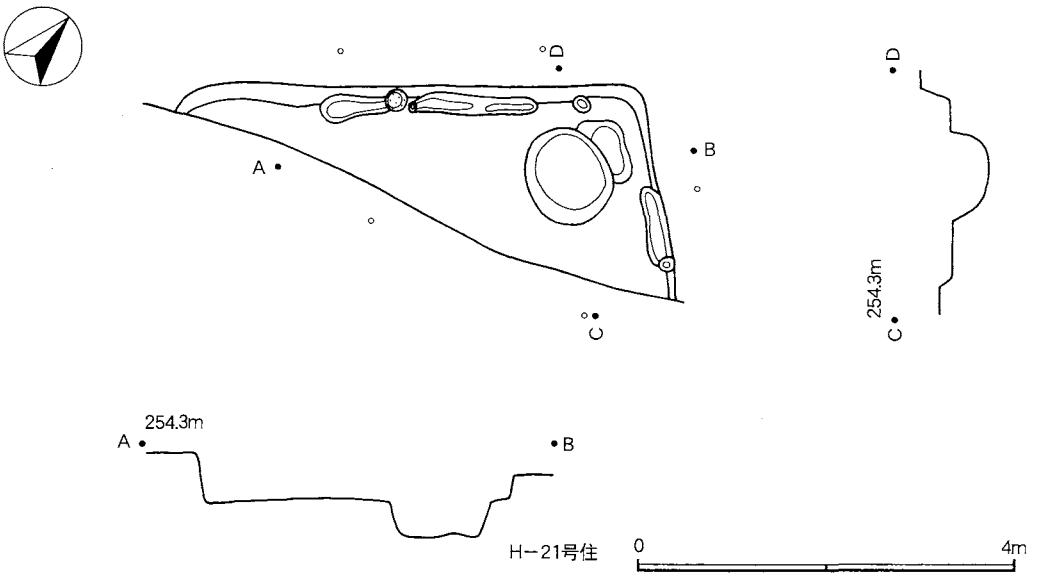


H—20号住

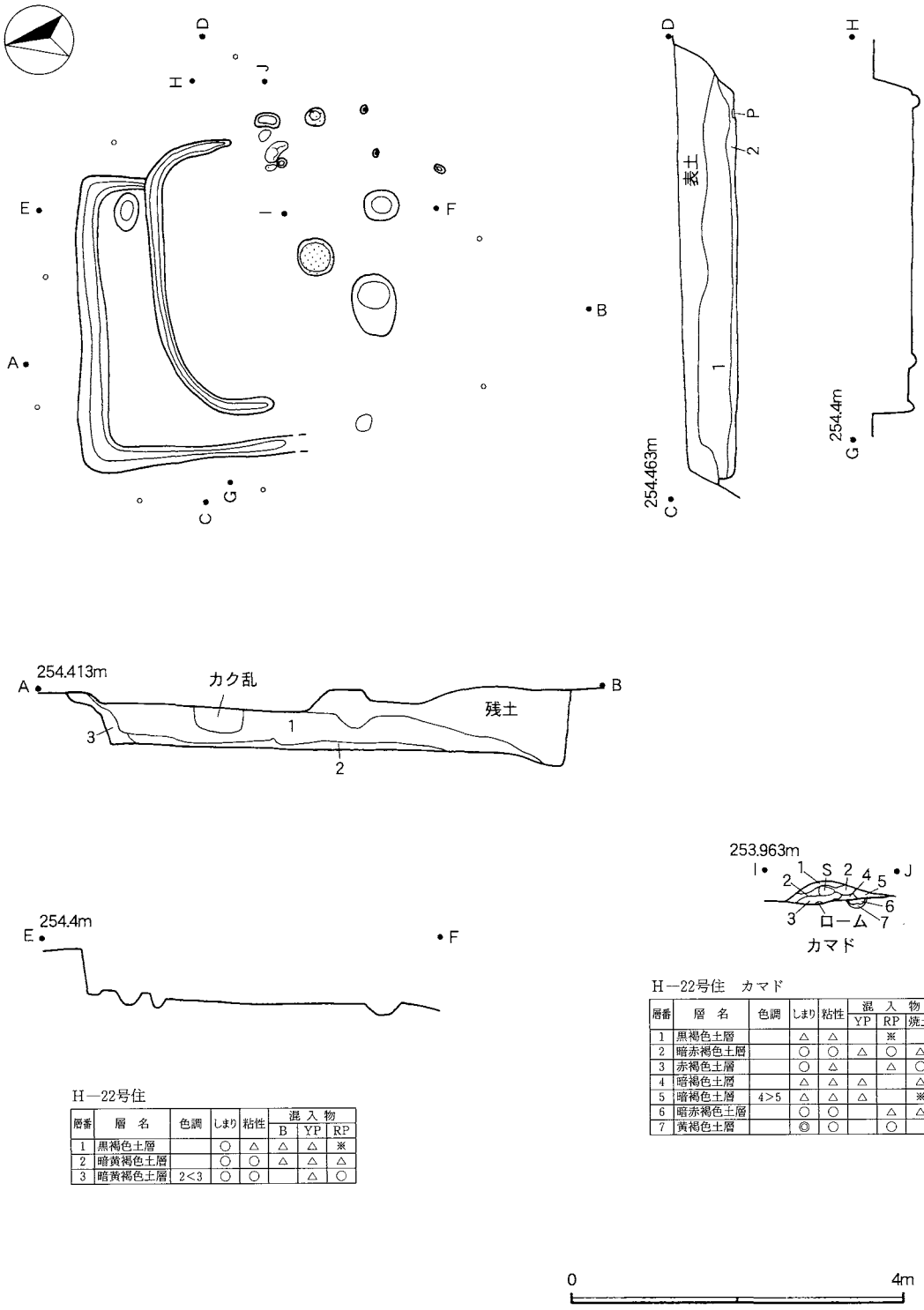
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					A	RB
1	暗褐色土層		△	△	△	△

H—20号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RP	焼土
1	暗褐色土層		○	○	○	
2	赤褐色土層		○	△		◎
3	褐色土層		○	○	○	
4	暗褐色土層		○	○	○	△



第249図　H—20・21号住居址実測図



H－22号住

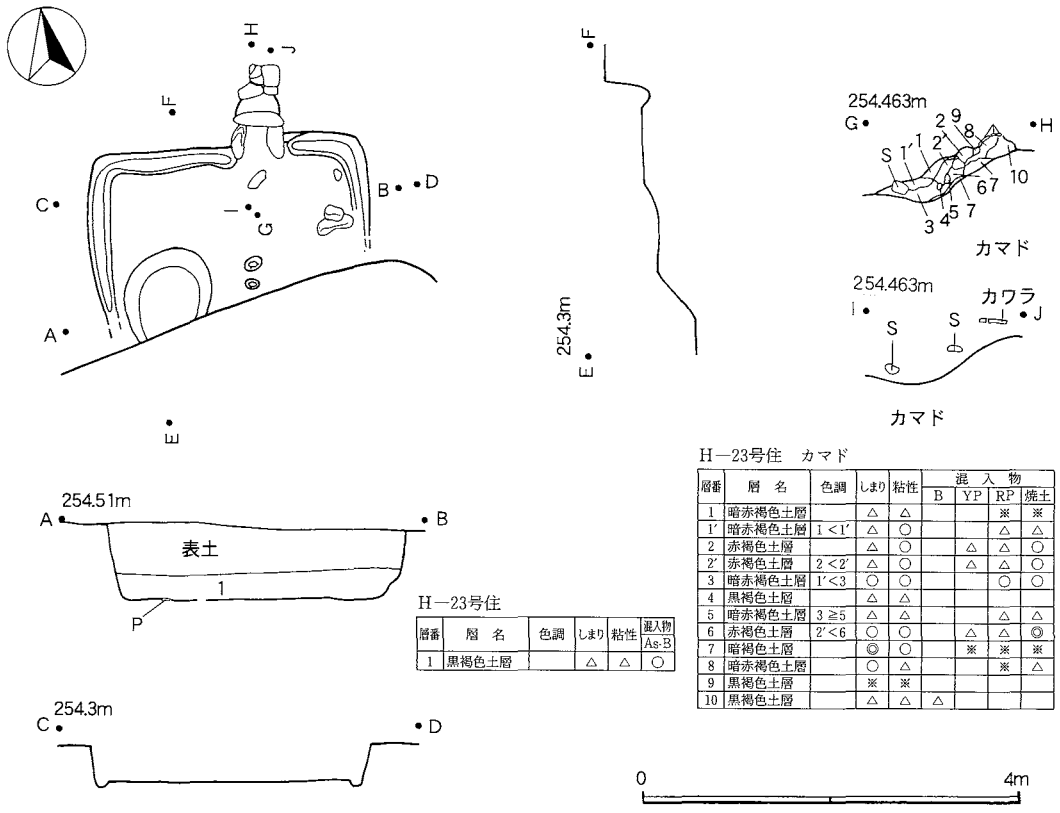
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					B	YP	RP
1	黒褐色土層		○	△	△	△	※
2	暗黄褐色土層		○	○	△	△	△
3	暗黄褐色土層	2<3	○	○		△	○

H－22号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	RP	焼土
1	黒褐色土層		△	△		※	
2	暗赤褐色土層		○	○	△	○	△
3	赤褐色土層		○	△		△	○
4	暗褐色土層		△	△	△		△
5	暗褐色土層	4>5	△	△	△		※
6	暗赤褐色土層		○	○		△	△
7	黄褐色土層		◎	○		○	

0　4m

第250図　H－22号住居址実測図

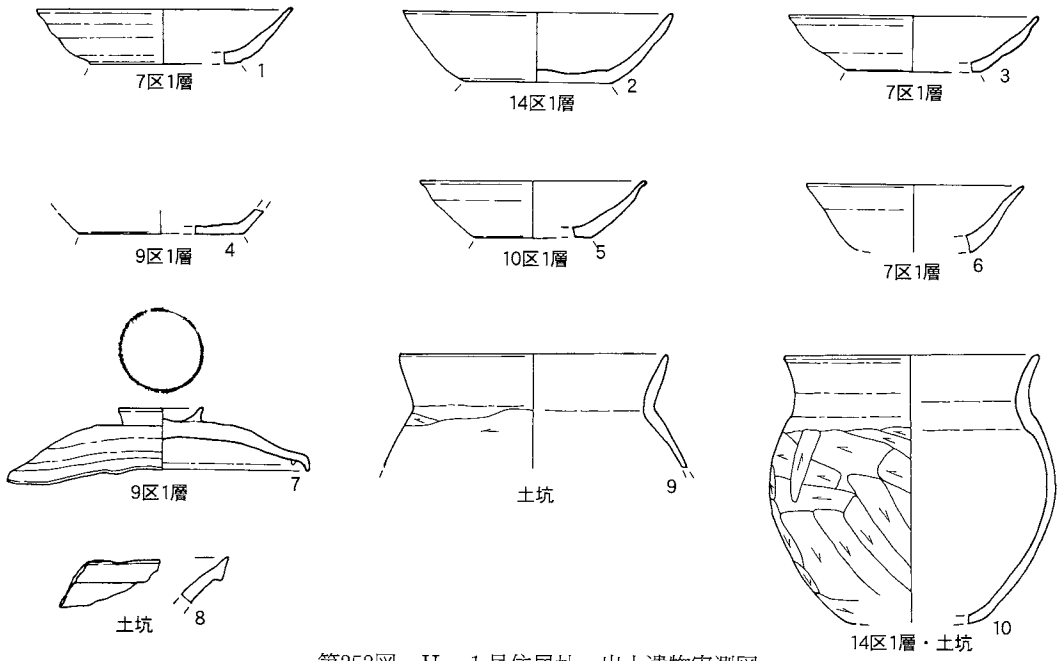


第251図　H—23号住居址実測図

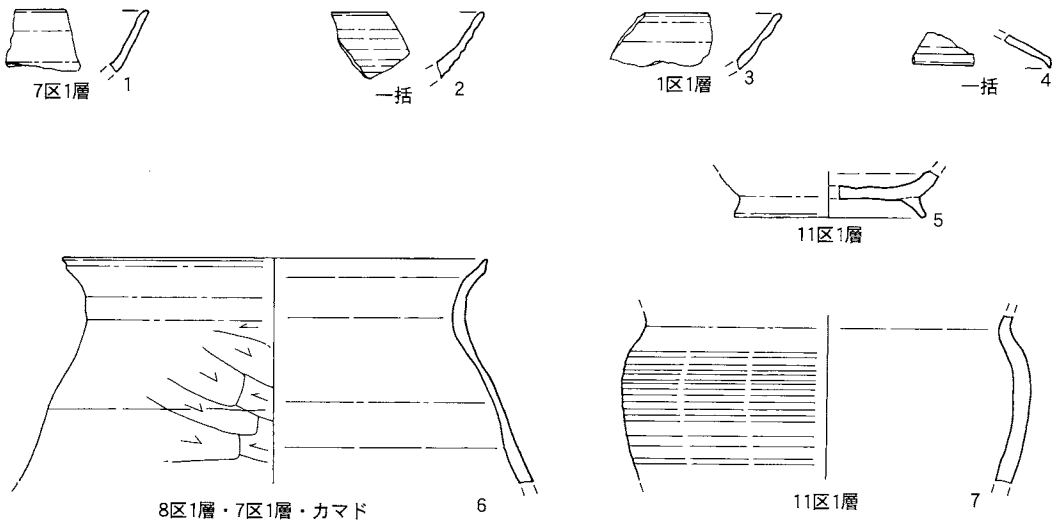
野村II遺跡H住居址諸元

住居名	平面形態	規模（m・m²）					主軸方向	竈位置	周堀	備考
		長軸	短軸	深さ		面積				
				最大	最小					
H－1	不明	—	—	0.24	0.07	—	—	不明	最大深さ0.05m 南壁	
H－2	縦長方形	4.16	—	0.19	0.05	—	N－88°－E	東壁	最大深さ0.23m 北東角～北壁北西角	
H－3	正方形	3.6	3.6	0.15	—	7.83	N－80°－E	東壁中央	最大深さ0.03m 東壁竈横～北壁中央	
H－4	縦長方形	3.2	2.4	0.35	0.06	7.78	N－60°－E	東壁中央	最大深さ0.26m 東南角～南壁中央	
H－5A	縦長方形	4	—	0.28	—	—	N－75°－E	東壁南寄り	最大深さ0.23m 東壁竈～北壁～西壁中央	
H－5B	正方形	3.76	3.76	0.35	—	—	N－75°－E	東壁南寄り	最大深さ0.61m 東壁竈～北壁～西壁	
H－6	横長方形	—	0.37	0.4	—	—	N－88°－E	東壁南寄り	最大深さ0.43m 北壁中央～西角	
H－7	横長方形	2.96	2.48	0.6	0.51	6.8	N－90°－E	東壁南寄り	最大深さ0.69m 東壁竈～北壁～西壁	
H－8	縦長方形	4.08	3.2	0.59	0.41	12.1	N－76°－E	東壁南寄り	最大深さ0.66m 東壁北寄り～北壁～西壁南寄り	
H－9	縦長方形	4.8	3.2	0.38	0.2	16.01	N－53°－E	東壁中央	最大深さ0.45m 東壁竈～北壁～西壁	
H－10	正方形	3.76	3.76	0.22	0.07	14.42	N－91°－E	東壁南寄り	最大深さ0.24m 北壁	
H－11	横長方形	3.92	2.72	0.24	0.07	15.66	N－96°－E	東壁南寄り	最大深さ0.28m 東壁竈～北壁～西壁中央南寄り	
H－12	縦長方形	4.64	3.92	0.43	0.03	17.92	N－79°－E	東壁中央	最大深さ0.43m 住居の全周	
H－13	縦長方形	3.92	2.72	0.24	0.03	10.75	N－71°－E	東壁南寄り	最大深さ0.26m 北壁中央東～西壁～南壁中央西	
H－14	不明	3.36	1.68	0.62	0.53	—	—	不明	最大深さ0.65m 東壁中央～北壁東寄り及北西角～西壁中央	
H－15	縦長方形	4.48	2.48	0.16	—	13.28	N－43°－E	東壁中央	最大深さ0.18m 北壁、西壁、及南壁	
H－16	正方形	4.32	3.6	0.3	0.03	16.84	N－90°－E	東壁中央	最大深さ0.24m 東壁竈～北東角	
H－17	正方形	3.68	2.96	0.36	0.12	11.85	N－80°－E	東壁南寄り	最大深さ0.19m 東壁竈～北壁東寄り	
H－18	正方形	3.84	3.04	0.25	0.1	12.12	N－67°－E	東壁南寄り	最大深さ0.25m 東壁北寄り～北壁北西角	
H－19	正方形	3.2	2.48	0.14	—	7.9	N－98°－E	東壁南寄り	最大深さ0.20m ほぼ住居の全周	
H－20	不明	2.72	1.92	0.17	—	—	N－81°－E	東壁	最大深さ0.24m 北壁	
H－21	不明	5.04	—	0.35	0.28	—	—	不明	最大深さ0.35m 北壁中央	
H－22	不明	3.76	—	0.5	0.45	—	N－90°－E	東壁	最大深さ0.60m 東壁～北壁～西壁（外周と内周）	
H－23	不明	3.04	—	0.48	—	—	N－8°－E	北壁東寄り	最大深さ0.62m 北壁、西壁、及東壁	

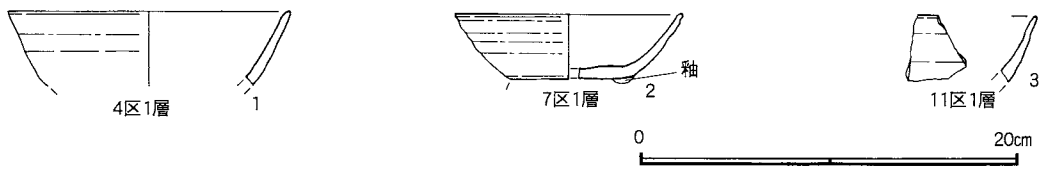
（広上）



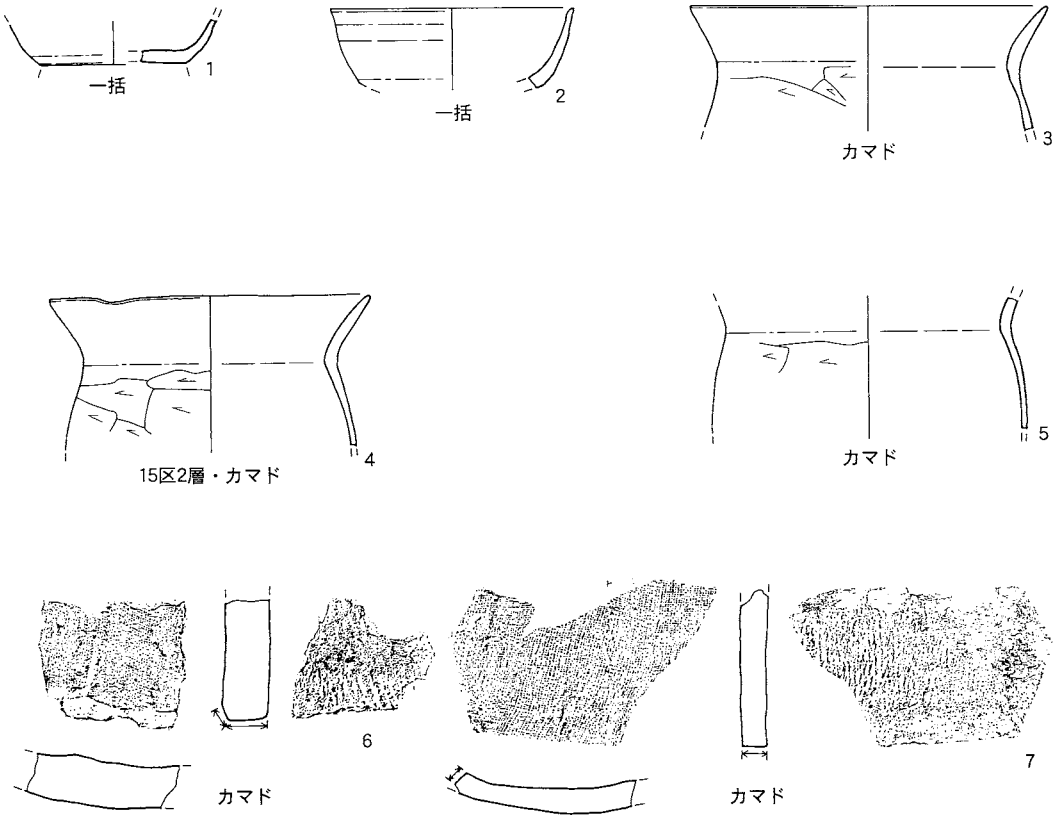
第252図　H－1号住居址・出土遺物実測図



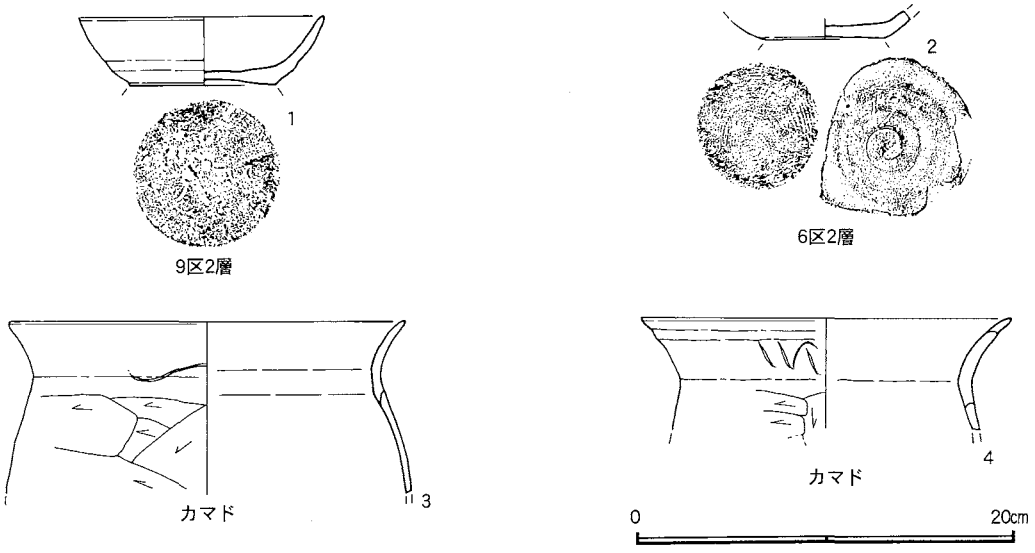
第253図　H－2号住居址・出土遺物実測図



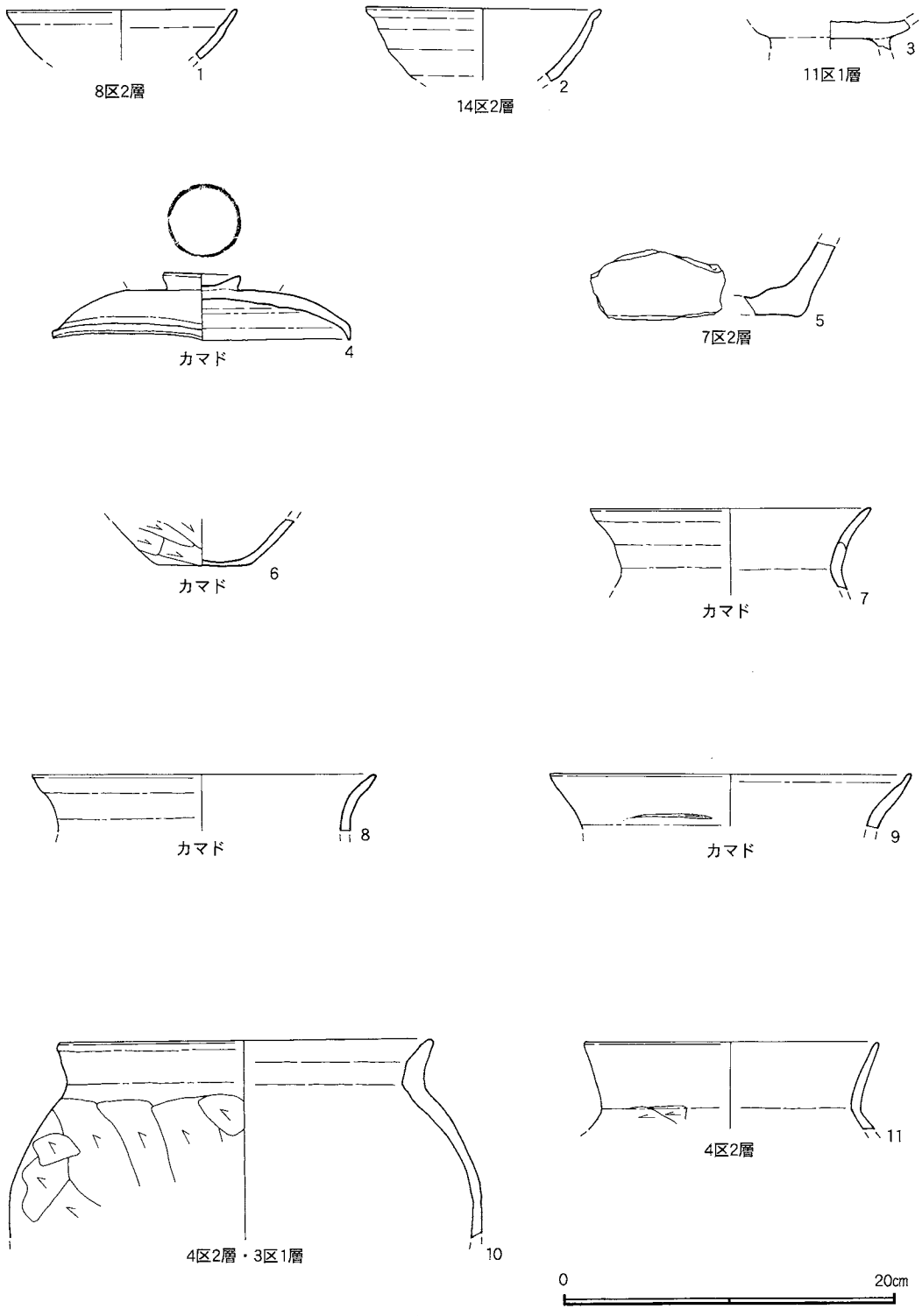
第254図　H－3号住居址・出土遺物実測図



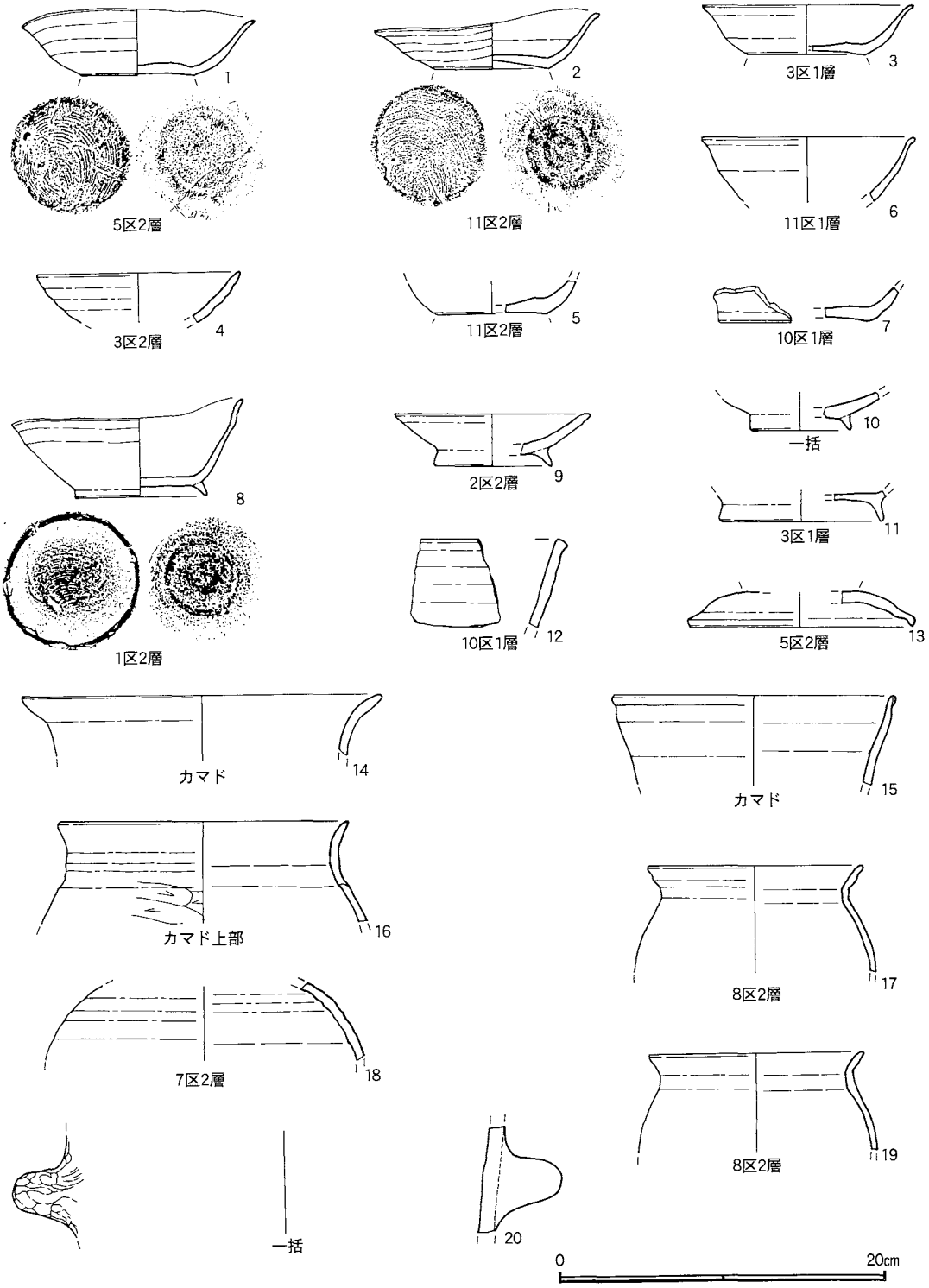
第255図　H－4号住居址・出土遺物実測図



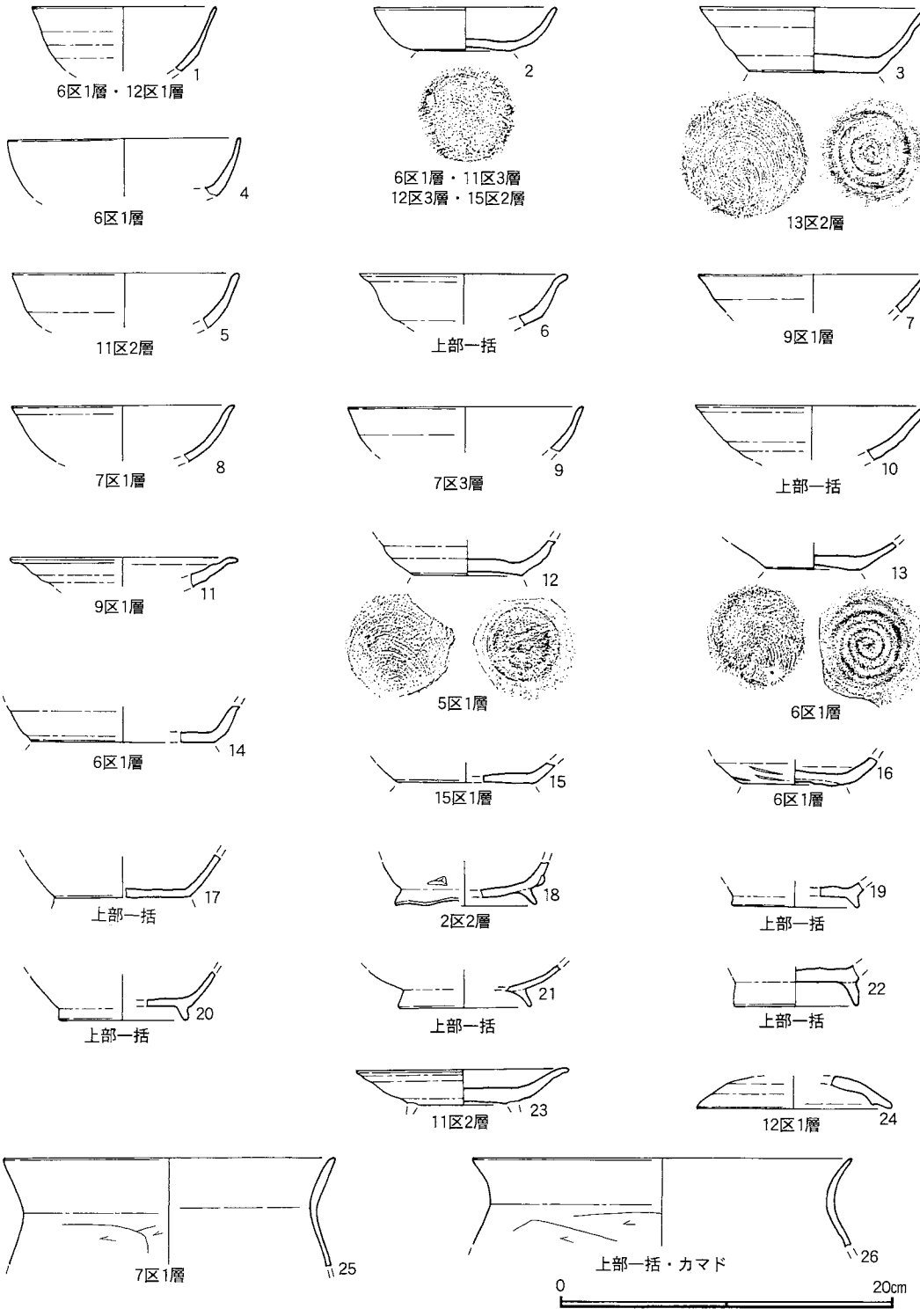
第256図　H－5A号住居址・出土遺物実測図



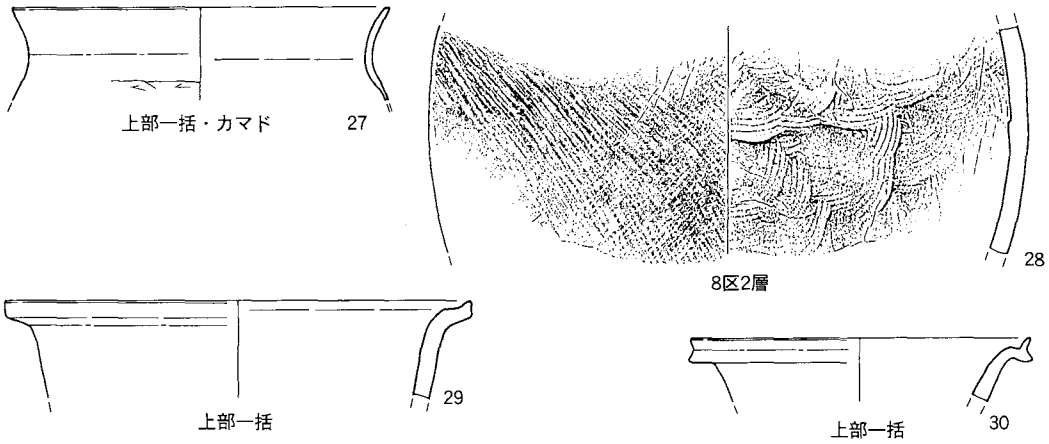
第257図　H－5 B号住居址・出土遺物実測図



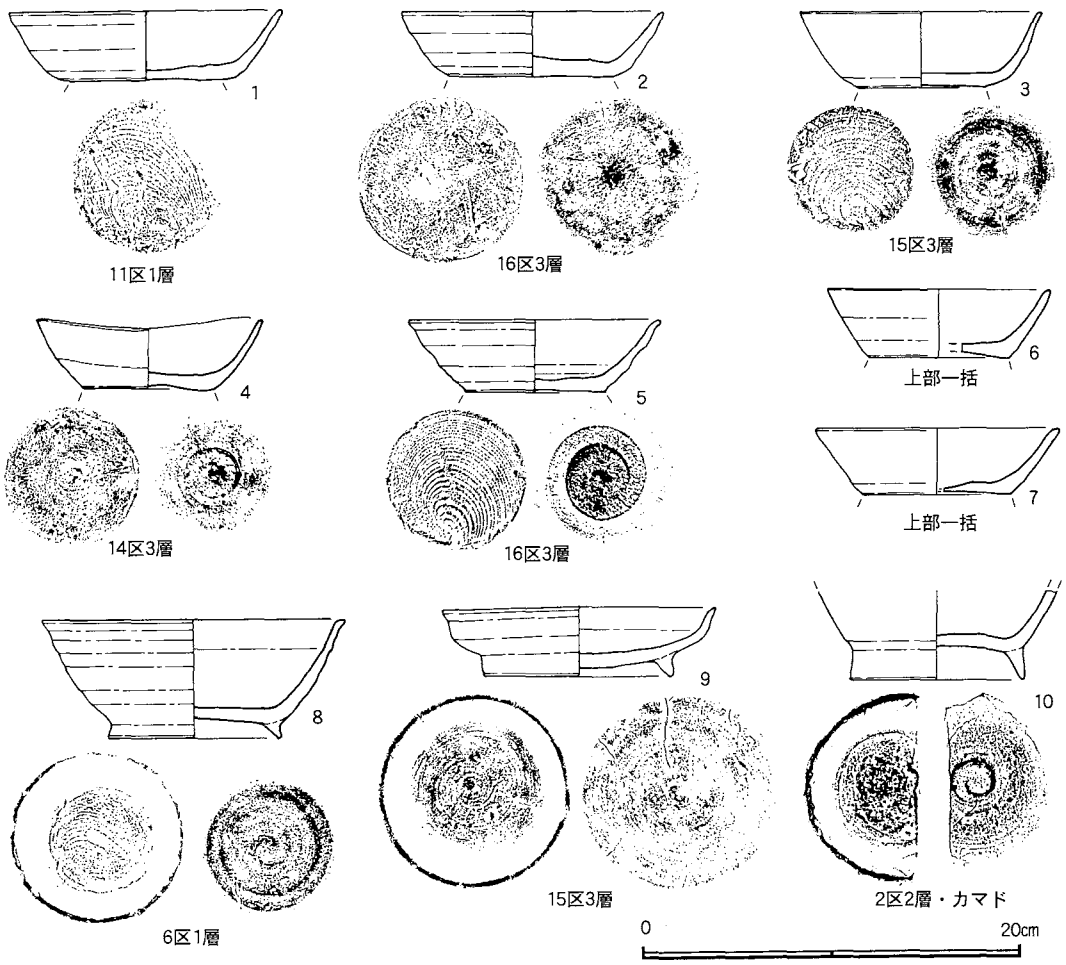
第258図　H－6号住居址・出土遺物実測図



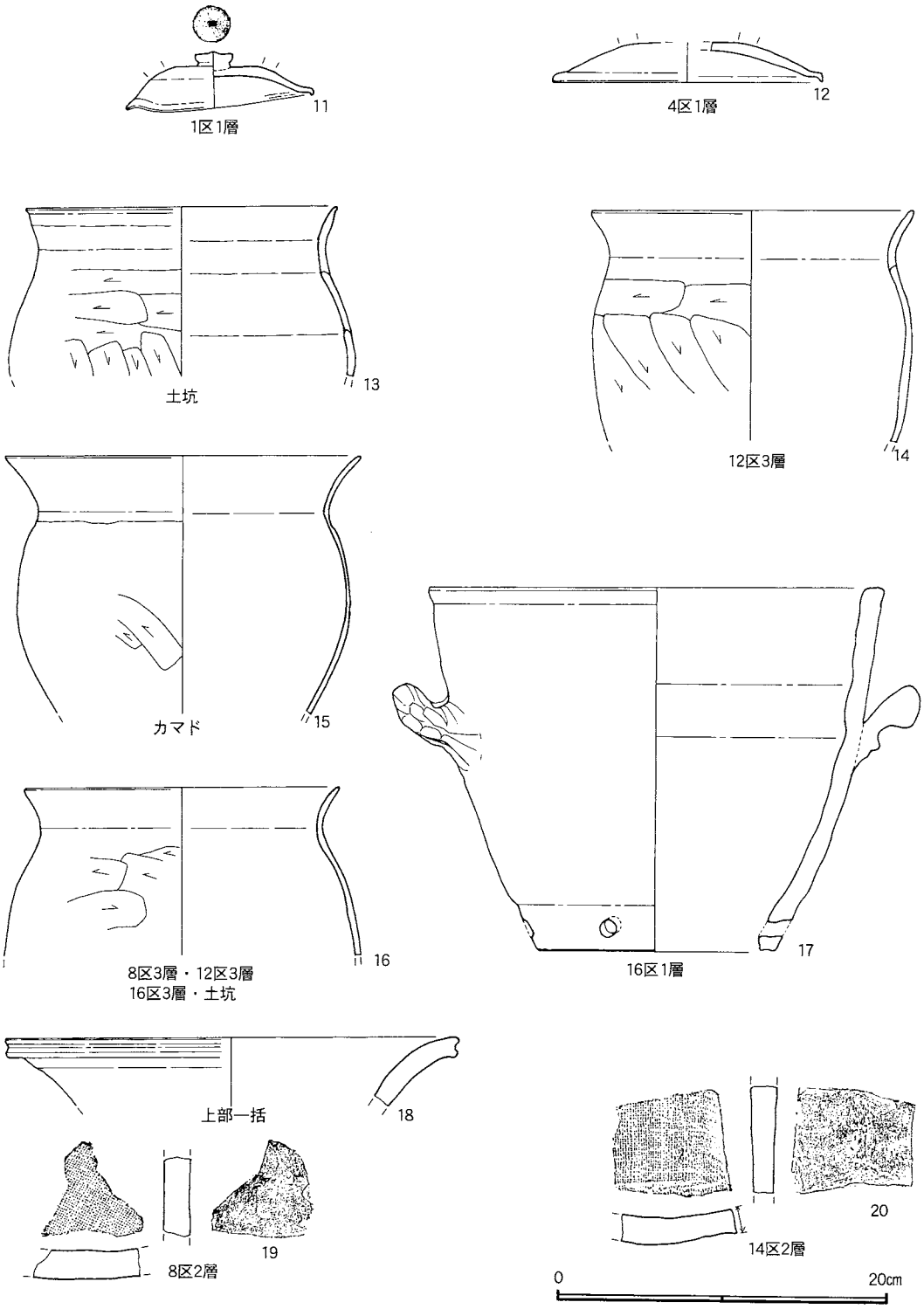
第259図　H－7号住居址・出土遺物実測図(1)



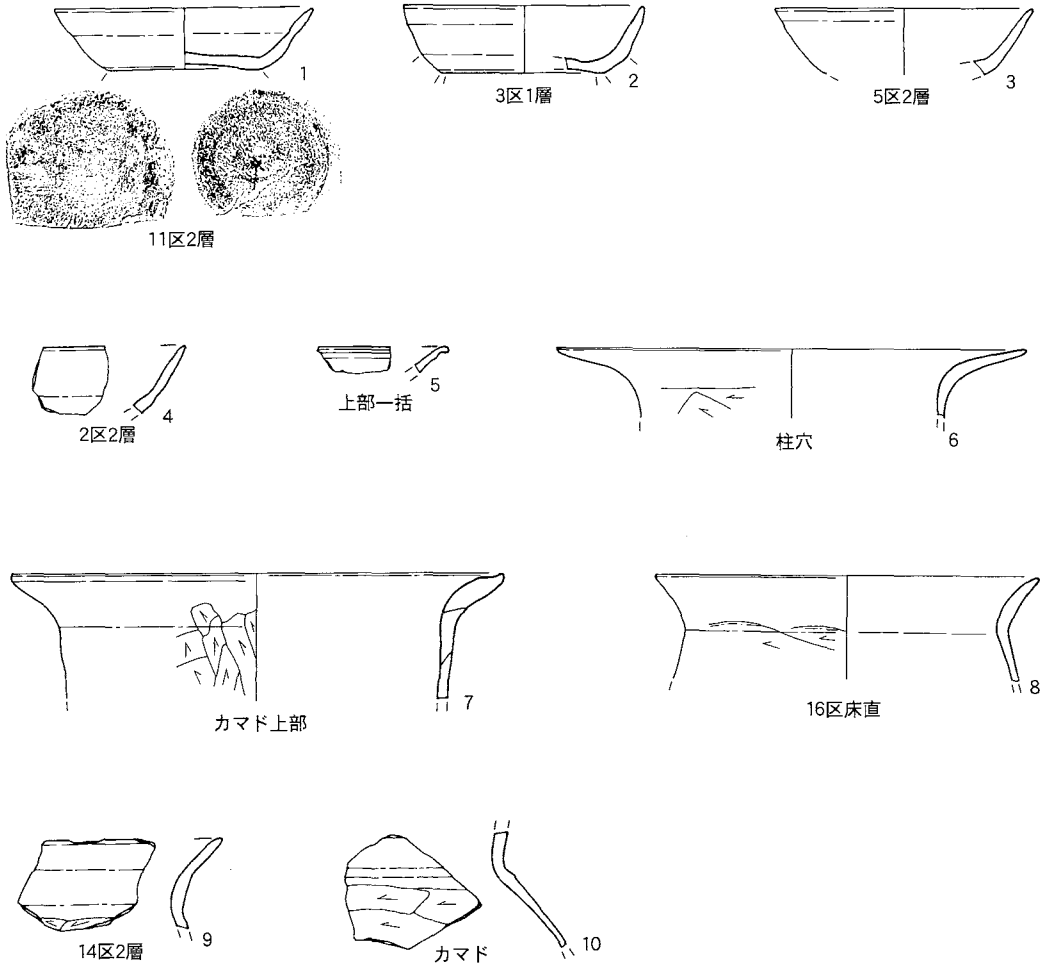
第260図　H－7号住居址・出土遺物実測図(2)



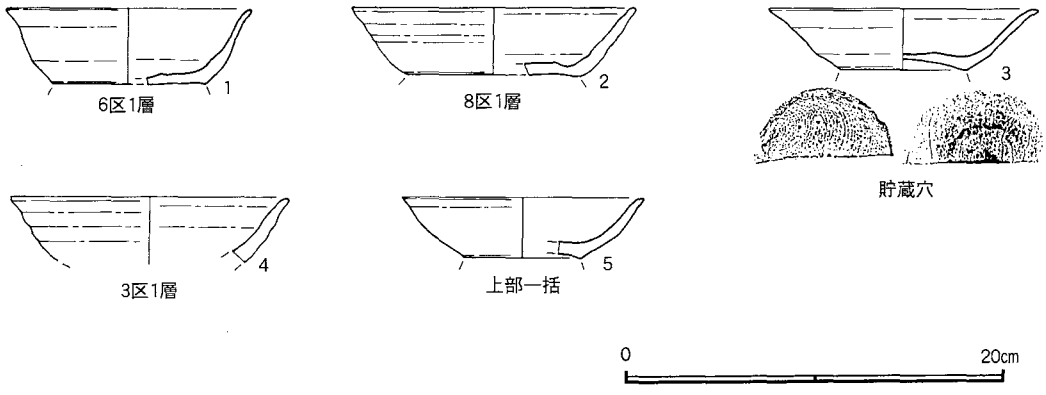
第261図　H－8号住居址・出土遺物実測図(1)



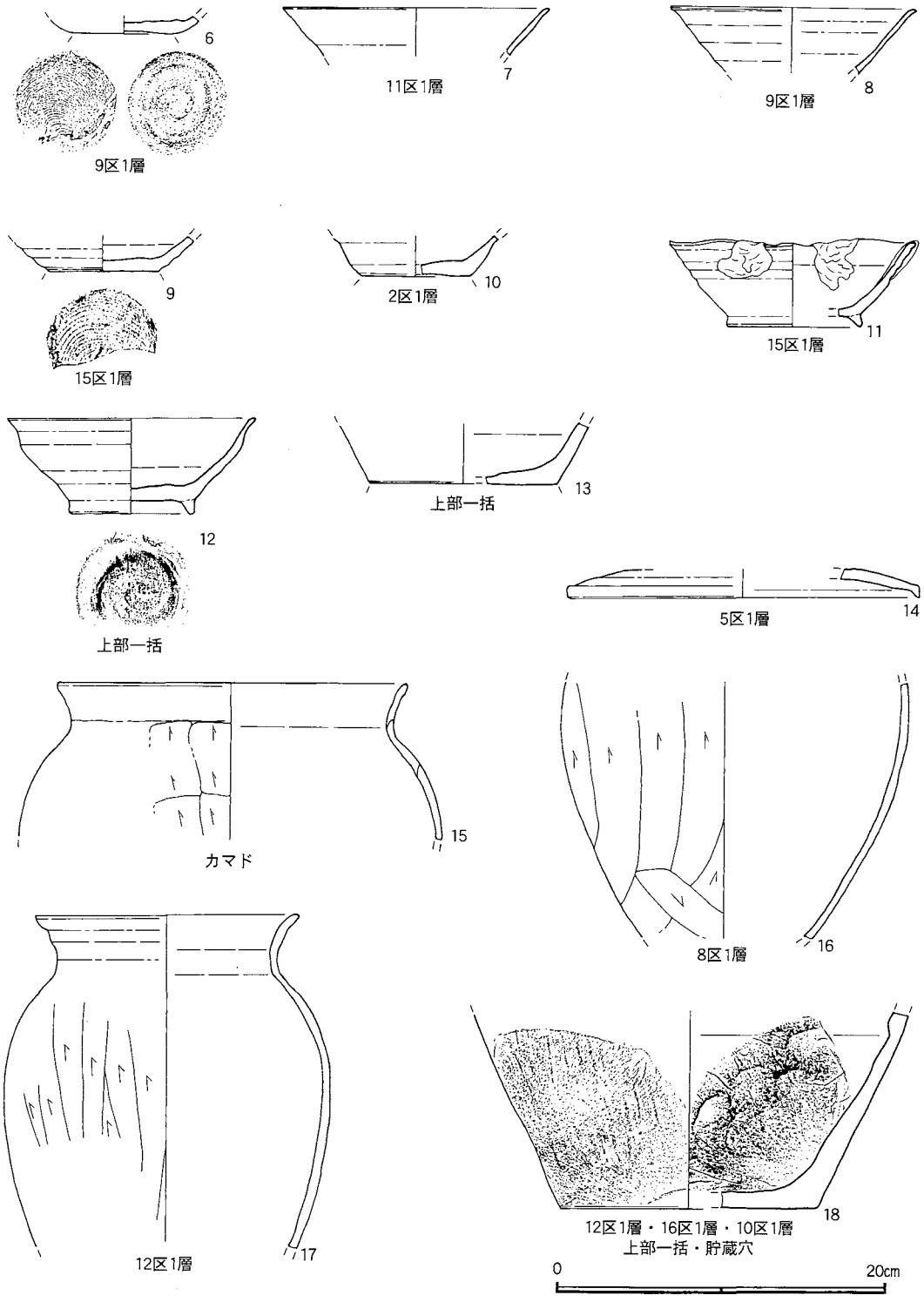
第262図　H－8号住居址・出土遺物実測図(2)



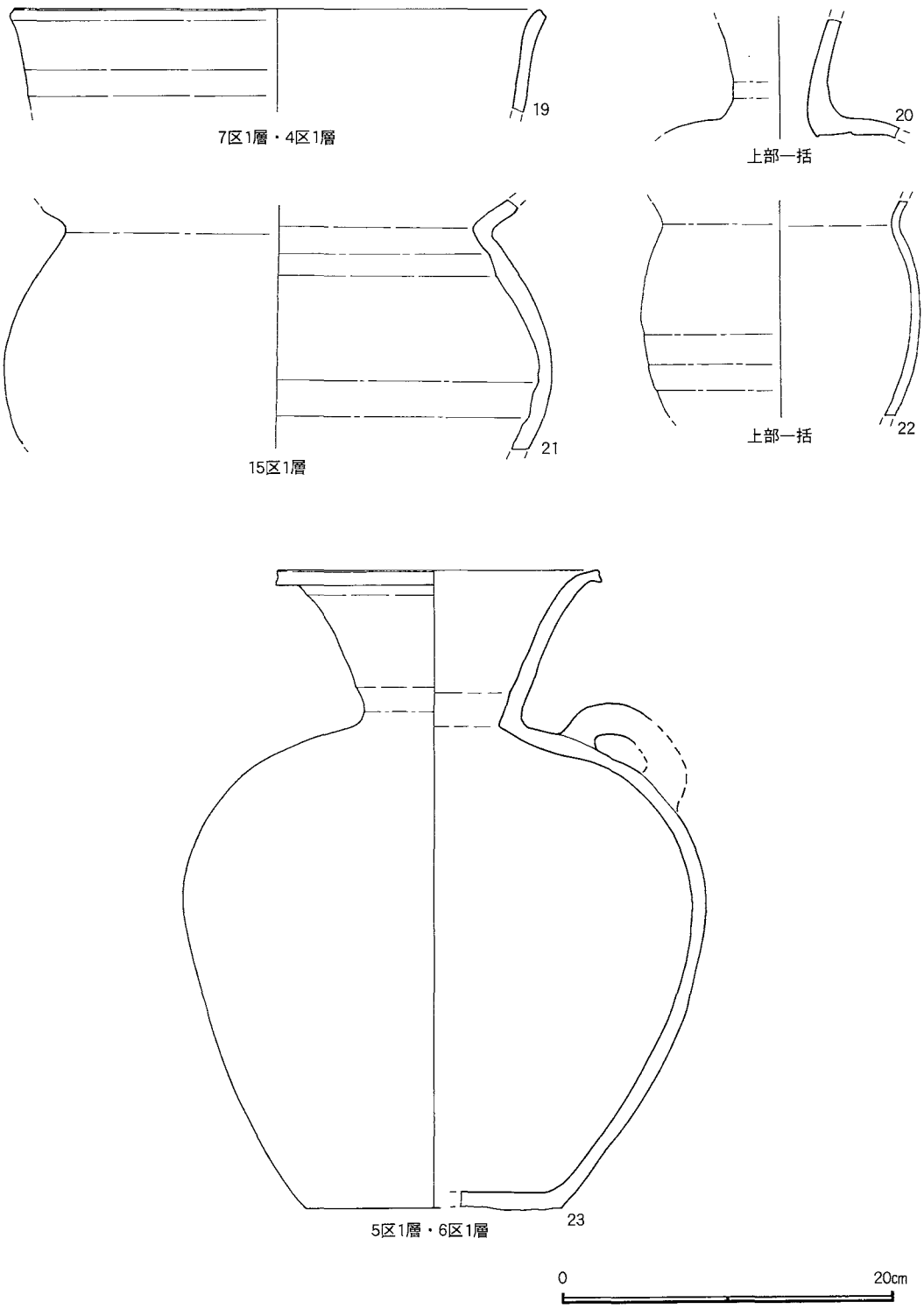
第263図　H－9号住居址・出土遺物実測図



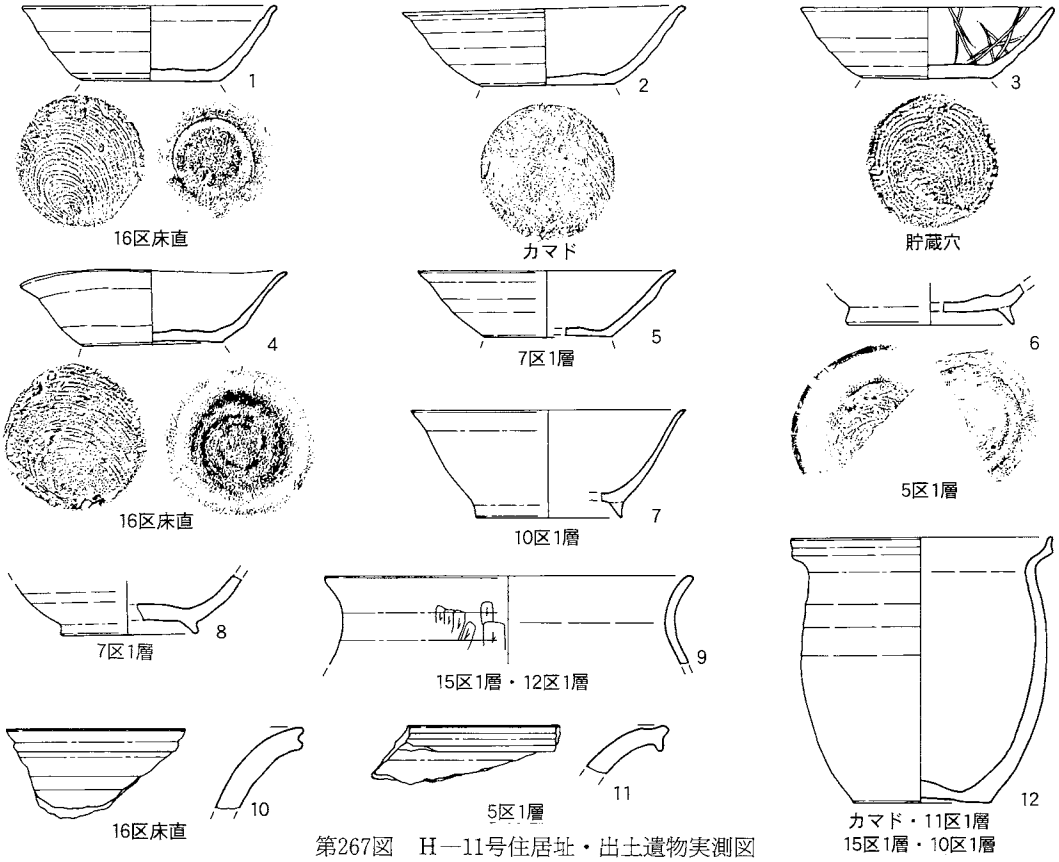
第264図　H－10号住居址・出土遺物実測図(1)



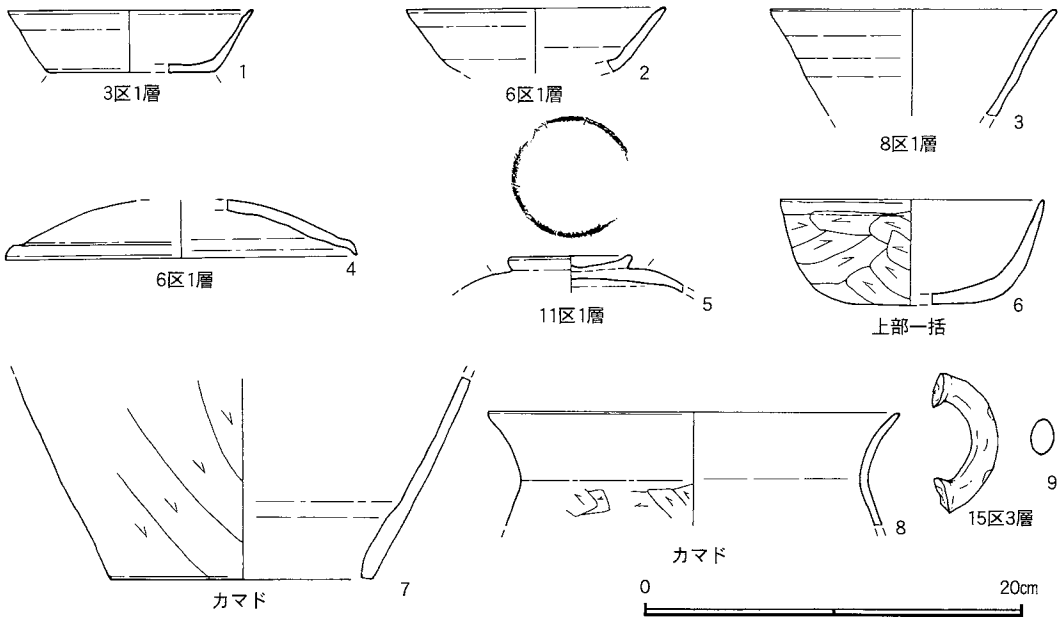
第265図　H－10号住居址・出土遺物実測図(2)



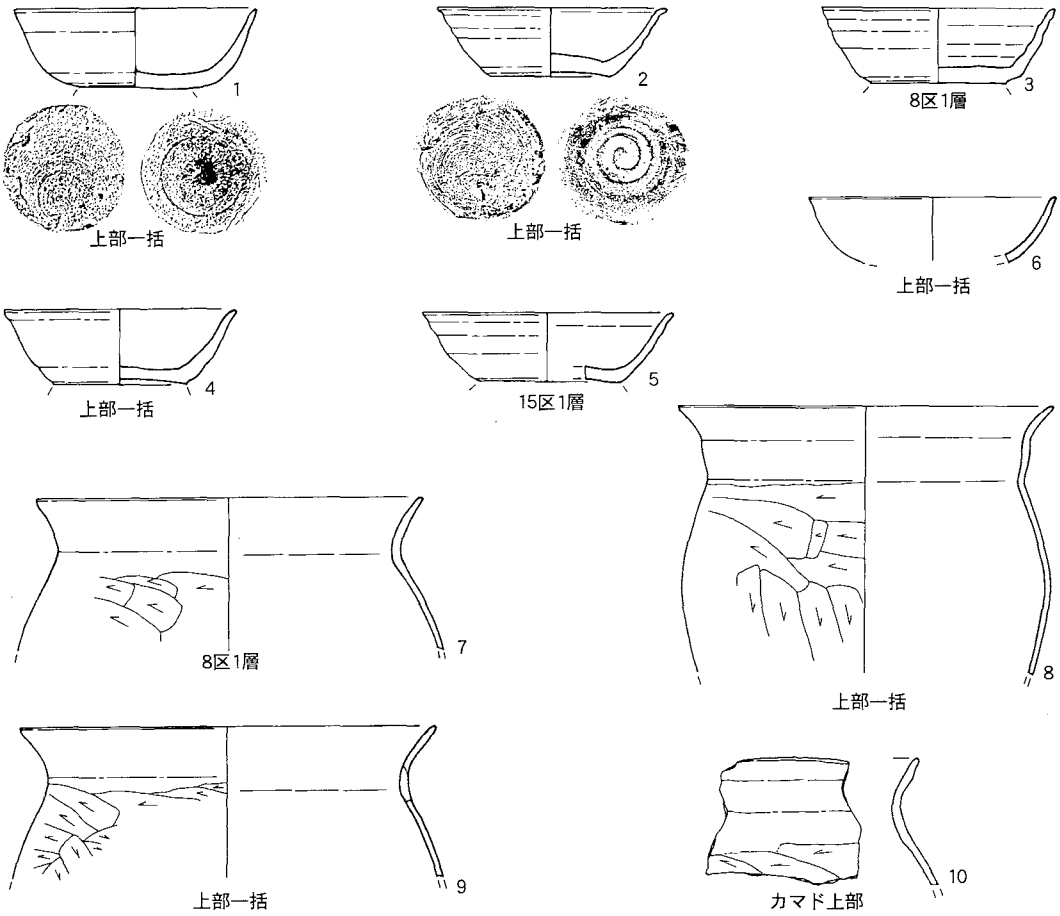
第266図　H－10号住居址・出土遺物実測図(3)



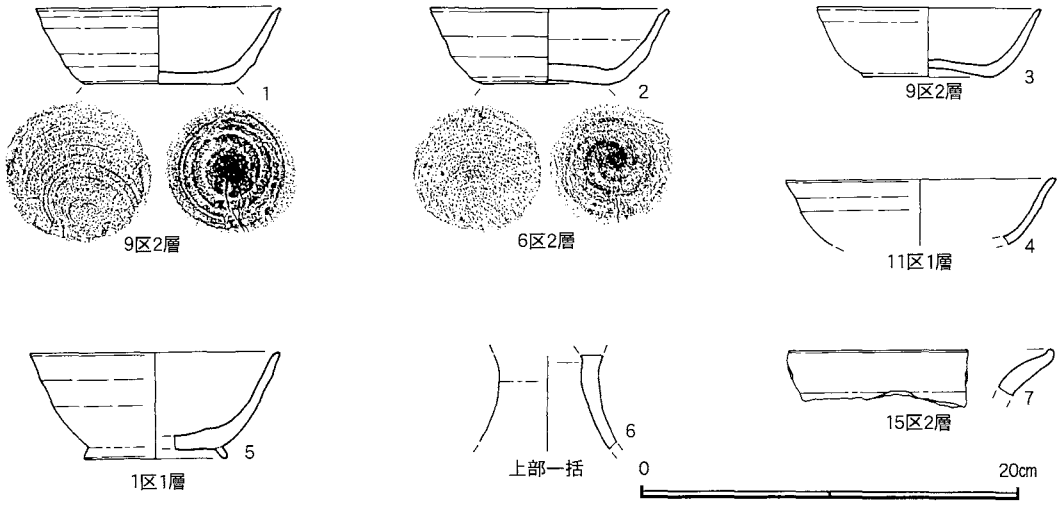
第267図　H—11号住居址・出土遺物実測図



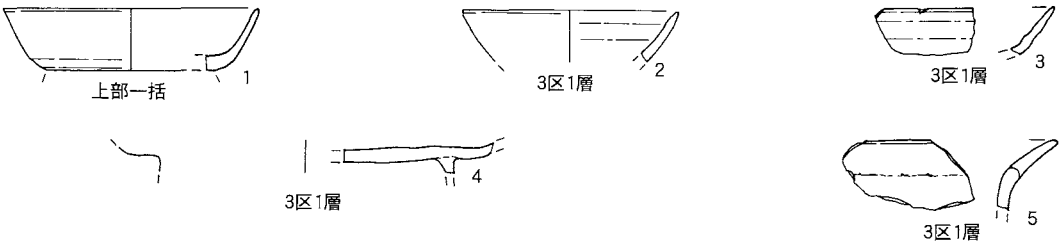
第268図　H—12号住居址・出土遺物実測図



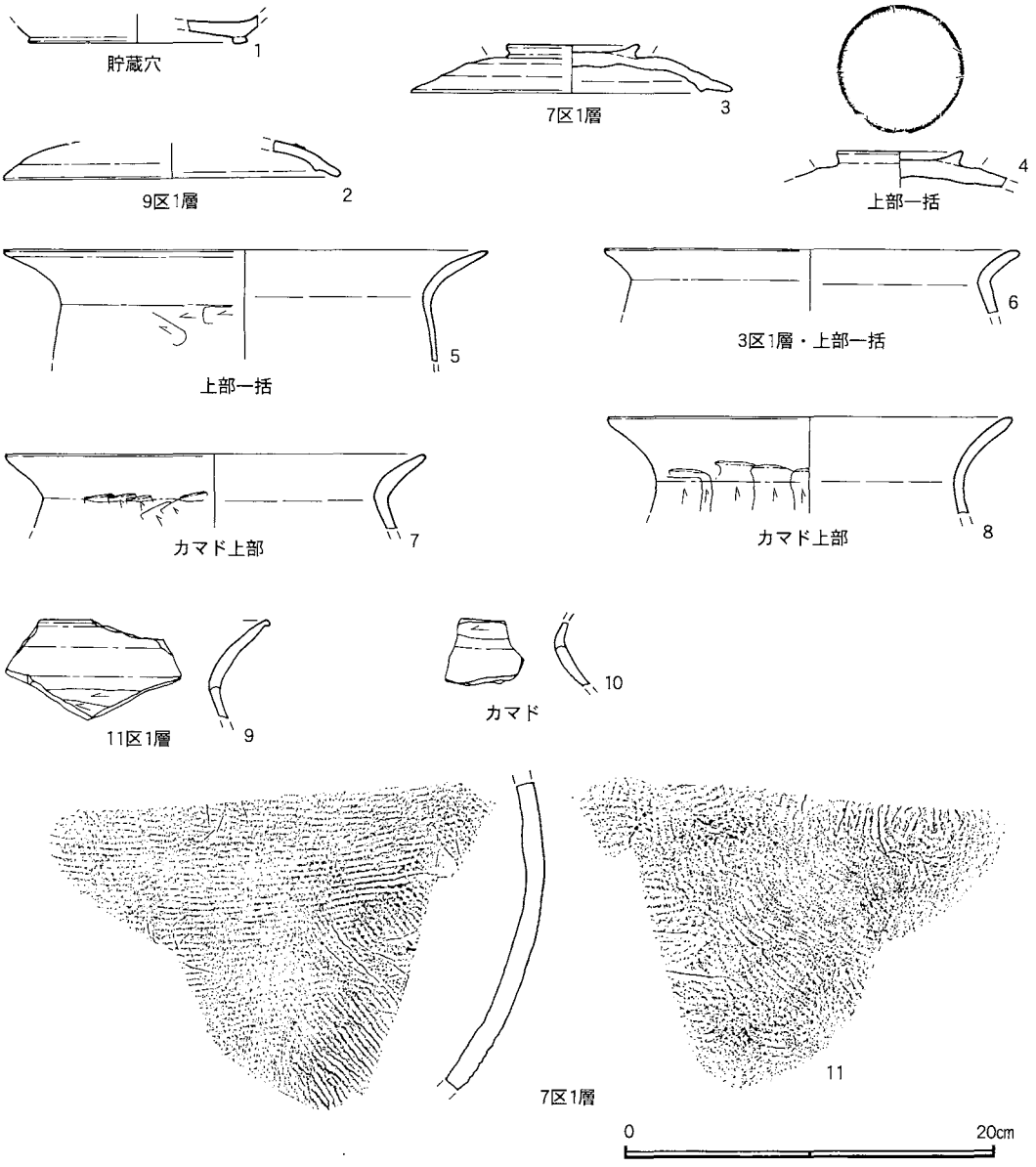
第269図　H―13号住居址・出土遺物実測図



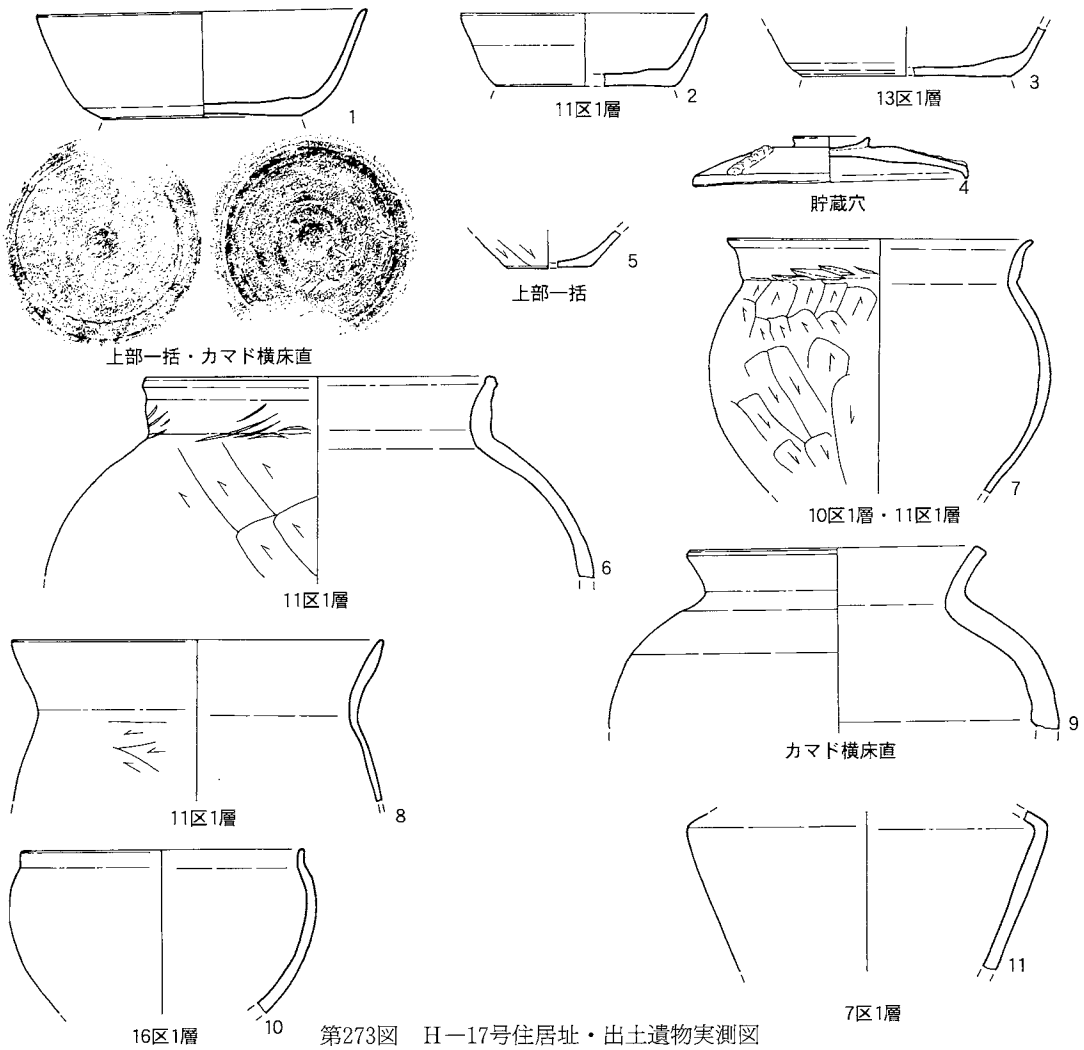
第270図　H―14号住居址・出土遺物実測図



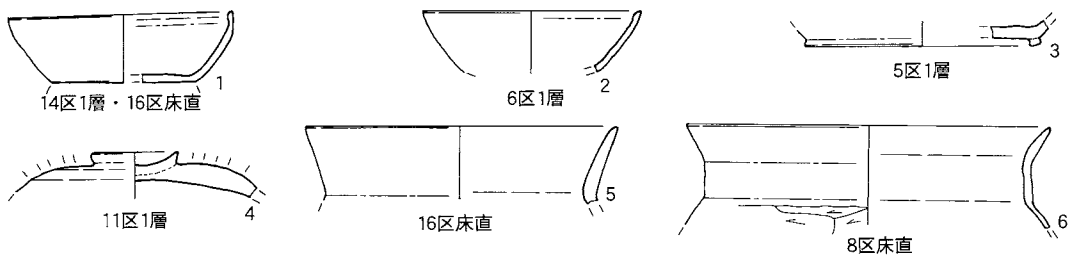
第271図　H－15号住居址・出土遺物実測図



第272図　H－16号住居址・出土遺物実測図

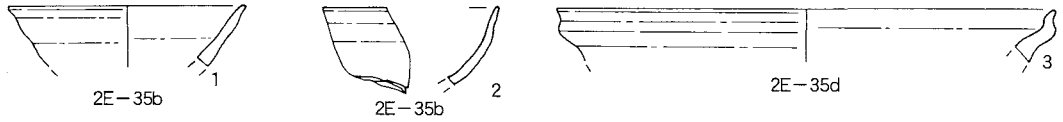


第273図　H—17号住居址・出土遺物実測図

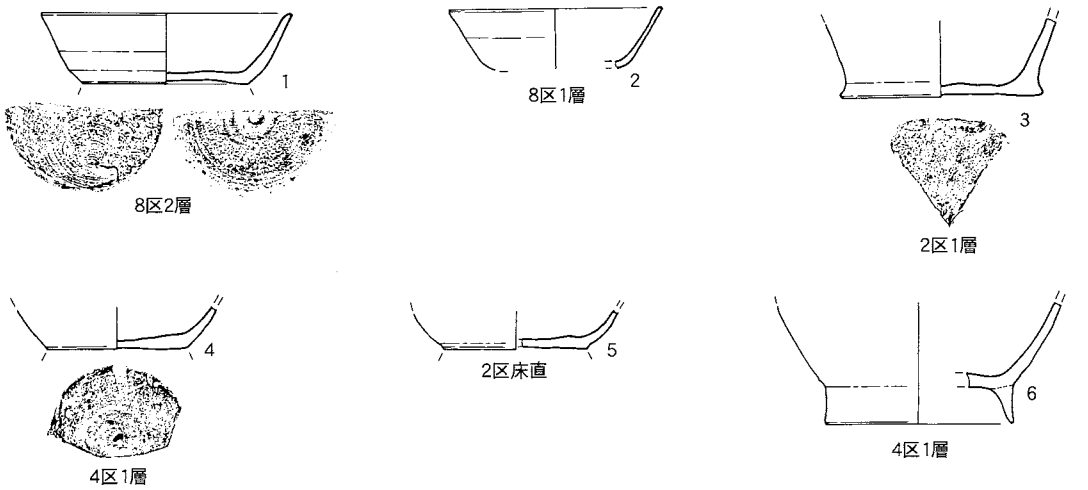


第274図　H—18号住居址・出土遺物実測図

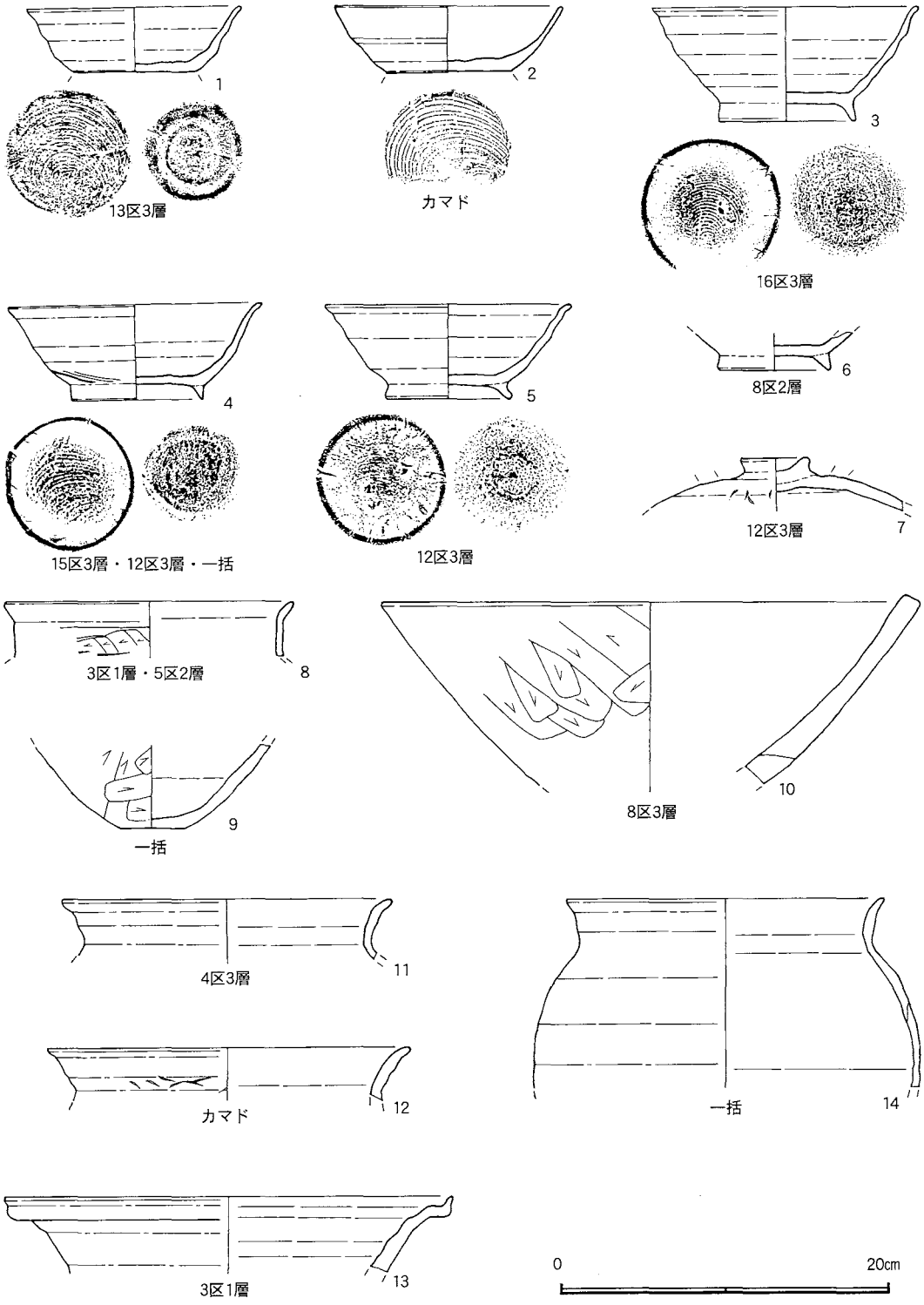
第275図　H—19号住居址・出土遺物実測図



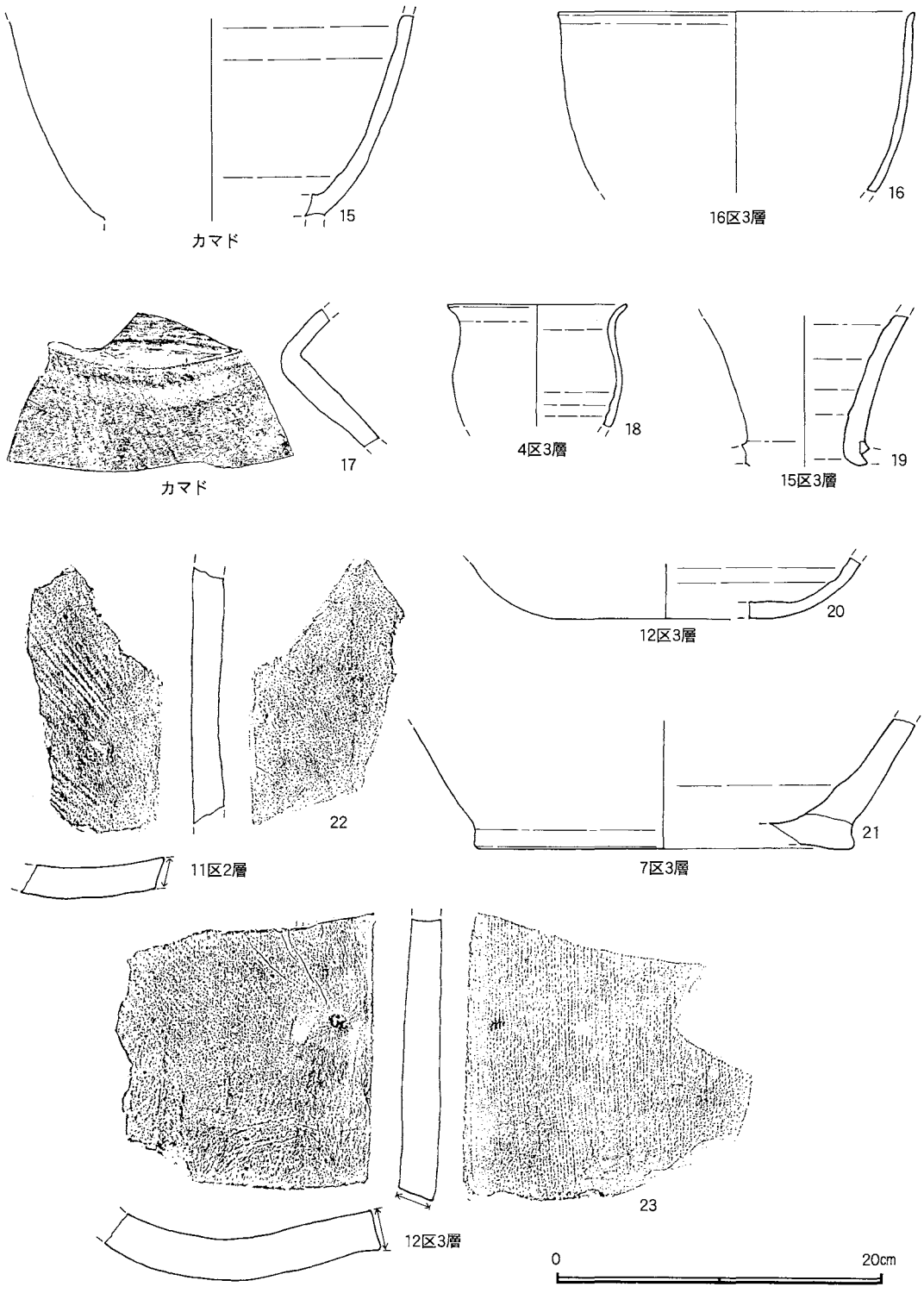
第276図　H―20号住居址・出土遺物実測図



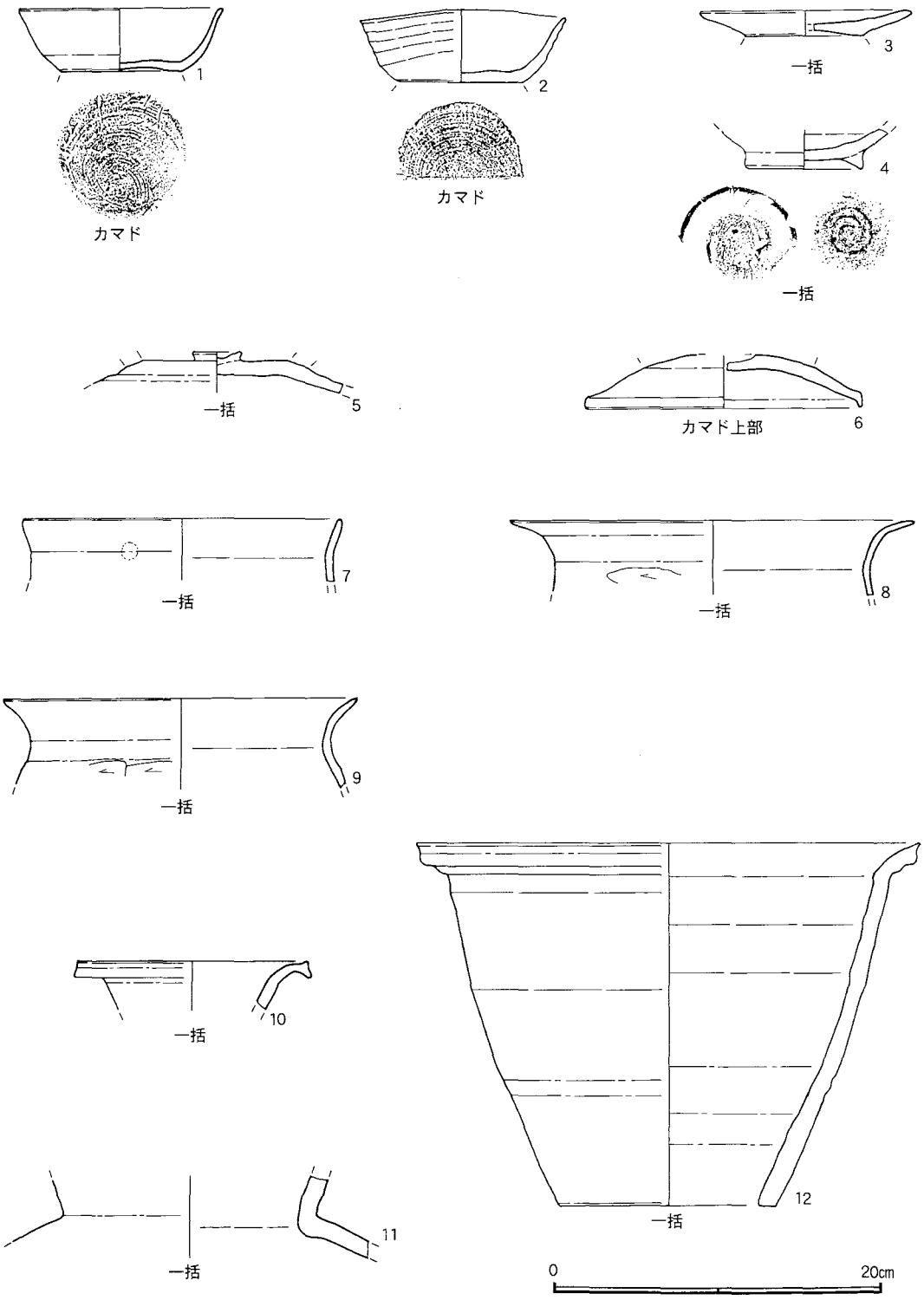
第277図　H―21号住居址・出土遺物実測図



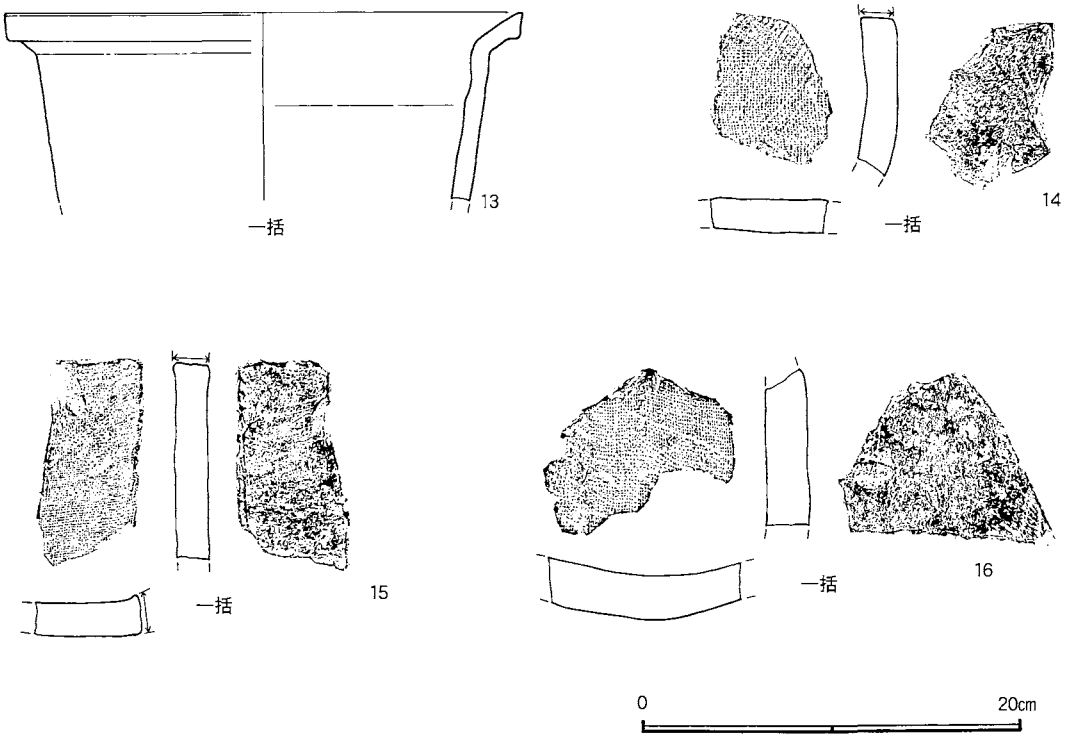
第278図　H—22号住居址・出土遺物実測図(1)

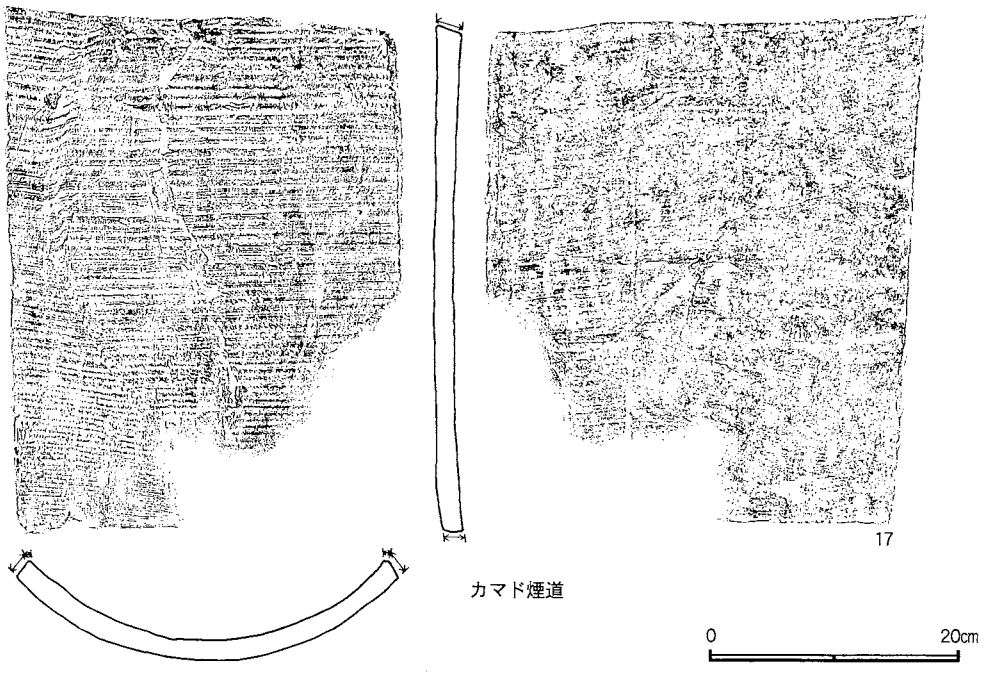


第279図　H－22号住居址・出土遺物実測図(2)

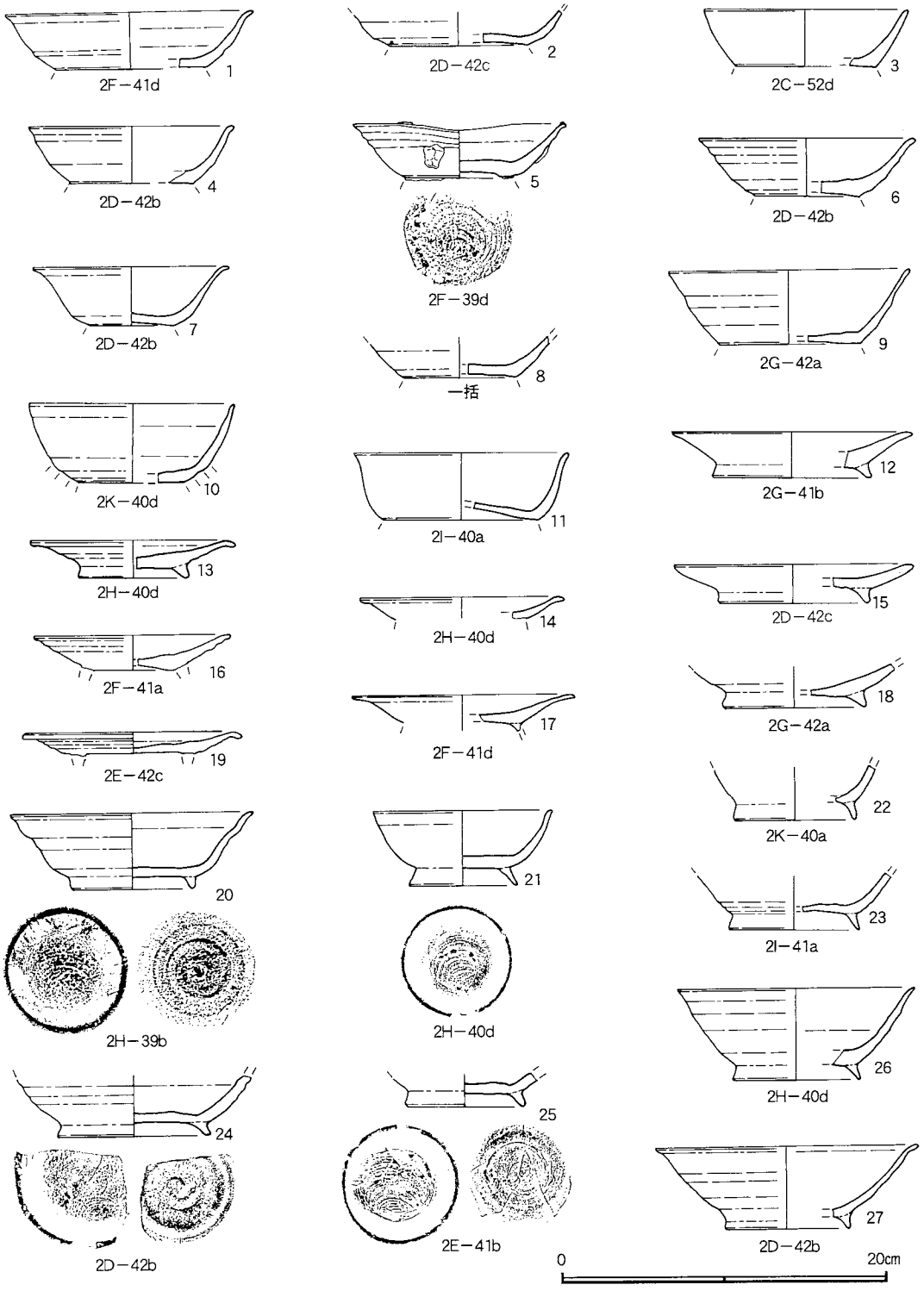


第280図　H—23号住居址・出土遺物実測図(1)

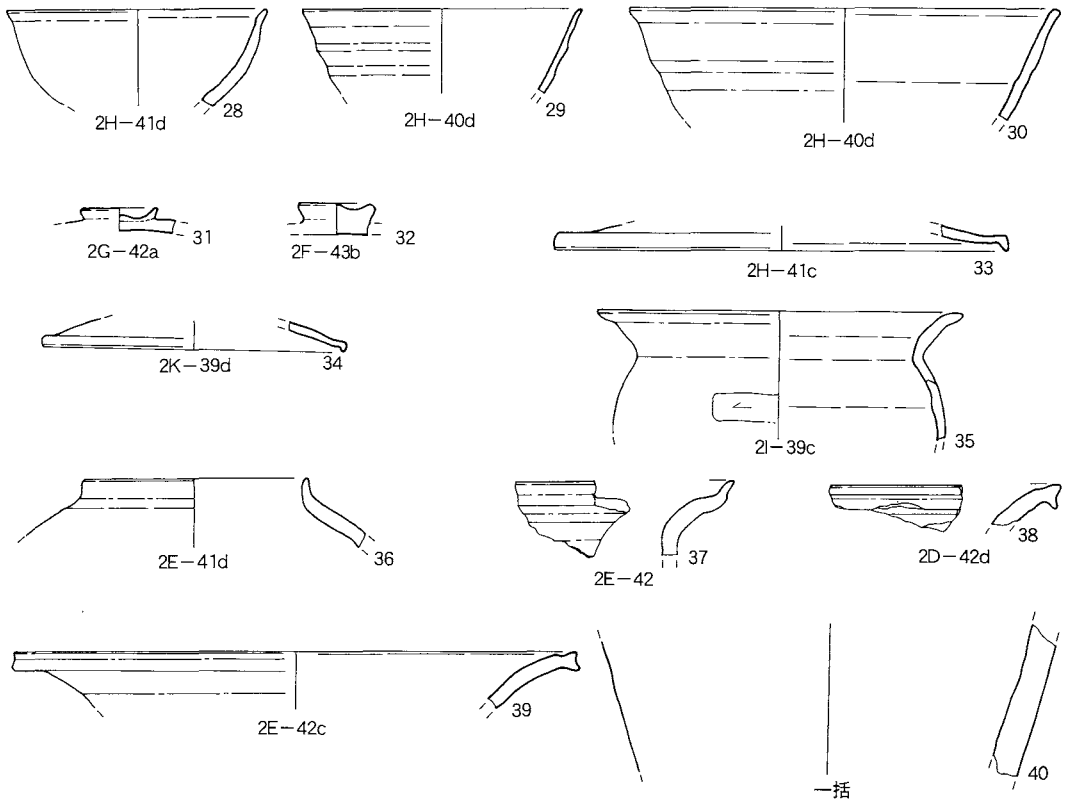




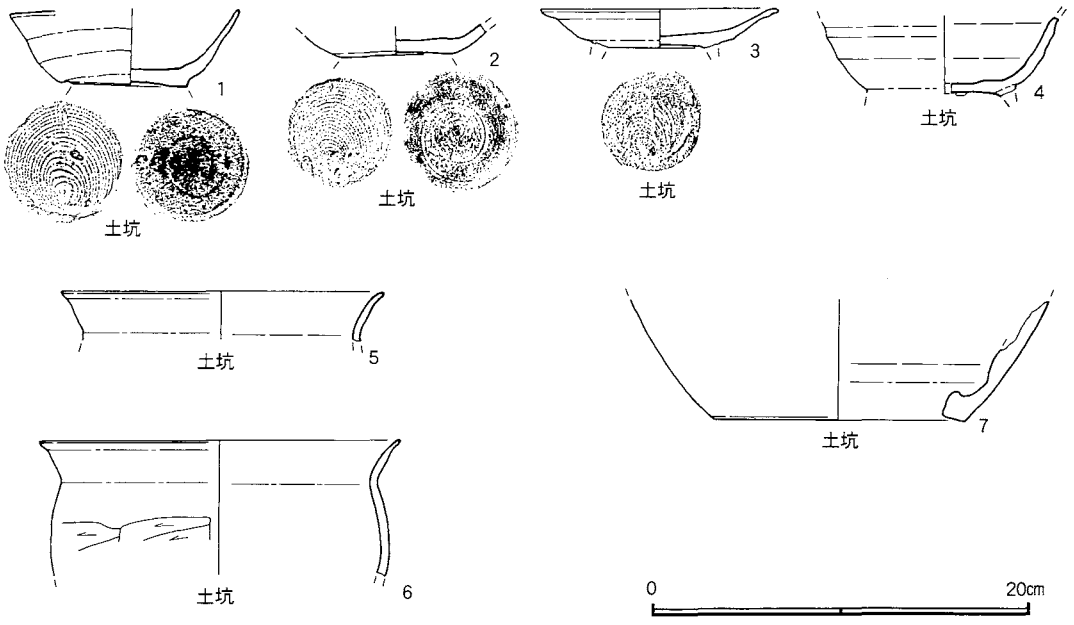
第281図　H―23号住居址・出土遺物実測図(2)



第282図　グリッド出土遺物実測図(1)



第283図　グリッド出土遺物実測図(2)



第284図　土坑出土遺物実測図

B—11　H-1号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	7区1層	口 13.4 底 8.0 高 2.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/9
2	須恵器 坏	14区1層	口 14.2 底 7.8 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	1/2　底部外面半分に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	7区1層	口 13.2 底 7.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	1/9　外面自然灰釉(重ね焼き痕)付着
4	須恵器 坏	9区1層	口 — 底 8.8 高 1.3	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	底部の一部
5	須恵器 坏	10区1層	口 11.8 底 6.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部　外面に自然灰釉付着
6	須恵器 坏	7区1層	口 11.6 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部
7	須恵器 蓋	9区1層	口 15.6 ツマミ 4.4 高 3.4～4.1	内外面共回転横ナデ　天井部回転ヘラ削り　中央突出リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	ほぼ完形　内面口唇部に重ね焼きによる自然灰釉付着 外面半分に自然灰釉付着 土器破片(1.2㎜幅1/5周)融着窯壁と思われる5㎜ほどの粒子融着有
8	須恵器 壺	土坑	口 — 底 — 高 2.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	口縁部破片　口唇部を除く口縁部外面に自然灰釉付着
9	土師器 甕	土坑	口 14.2 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の一部　内外面共スス付着
10	土師器 甕	14区1層	口 13.6 底 — 高 14.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	3/5

H-2号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	7区1層	口 — 底 — 高 3.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片　外面に自然灰釉付着 内面に酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	一括	口 — 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黒褐色 焼 やや不良	破片
3	須恵器 坏	1区1層	口 — 底 — 高 2.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片
4	須恵器 蓋	一括	口 — ツマミ — 高 1.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	破片
5	須恵器 高台付椀	11区1層	口 — 底 10.0 高 2.1	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/3　外面底部に工具痕有
6	土師器 甕	8区1層 7区1層 カマド	口 23.0 底 — 高 11.8	外面口縁部横ナデ　胴上部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 不良	口縁部～上胴部の1/5　内面にスス付着
7	須恵器 甕	11区1層	口 — 底 — 高 8.7	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部　頸部に自然灰釉付着

H-3号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	4区1層	口 15.0 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片
2	須恵器 坏	7区1層	口 — 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片　内外面共自然灰釉付着　底部に自然灰釉融着
3	須恵器 坏	11区1層	口 — 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 褐灰色 焼 良	破片

H-4号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	一括	口 — 底 7.4 高 2.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部～底部の一部

H－4号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	須恵器 坏	一括	口 12.8 底 — 高 4.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黒褐色 焼 良	破片
3	土師器 甕	カマド	口 19.0 底 — 高 6.7	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 赤褐色 焼 良	口縁部の1/4
4	土師器 甕	カマド 15区2層	口 17.0 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/4 口縁部に歪み有
5	土師器 甕	カマド	口 — 底 — 高 7.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 赤褐色 焼 良	頸部～胴上部の一部
6	瓦	カマド	狭 — 広 — 長 — 厚 2.1～2.5	叩き 縦目2 布目 8×8	色 灰色 焼 良	破片
7	瓦	カマド	狭 — 広 — 長 — 厚 0.9～1.4	叩き 縦目4 布目 7×9	色 灰色 焼 良	破片

H－5A号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	9区2層	口 13.0 底 7.8 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 やや不良	2/3
2	須恵器 坏	6区2層	口 — 底 6.2 高 1.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 小石含む 色 灰色 焼 やや不良	底部のみ
3	土師器 甕	カマド	口 21.0 底 — 高 9.1	外面口縁部横ナデ 胴上部不定方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部の1/3～胴上部外面 口縁部に工具痕有
4	土師器 甕	カマド	口 19.6 底 — 高 5.9	外面口縁部横ナデ 胴上部不定方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 やや不良	破片 内面にスス付着 外面口縁部に工具痕有

H－5B号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	8区2層	口 14.0 底 — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片 外面に酸化還元焔によるスス少量吸着
2	須恵器 坏	14区2層	口 14.6 底 — 高 4.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	破片 内面に自然灰釉付着
3	須恵器 高台付坏	11区1層	口 — 底 — 高 2.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	底部の3/4
4	須恵器 蓋	カマド	口 17.8 ツマミ 4.5 高 3.8	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形 歪み有
5	須恵器 甕	7区2層	口 — 底 — 高 4.1	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片 外面底部に工具痕有
6	土師器 甕	カマド	口 — 底 5.6 高 2.8	外面底部ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 不良	破片 内面・底部にスス付着
7	土師器 甕	カマド	口 17.0 底 — 高 4.9	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	破片 内面にスス付着
8	土師器 甕	カマド	口 21.0 底 — 高 3.4	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部の1/5 スス付着
9	土師器 甕	カマド	口 22.0 底 — 高 3.3	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	破片 外面口縁部に工具痕有
10	土師器 甕	4区2層 3区1層	口 22.4 底 — 高 12.0	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 小石含む 色 橙色 焼 不良	口縁部～胴上部の1/4 外面口縁部の一部と内面全体にスス付着
11	土師器 甕	4区2層	口 17.8 底 — 高 5.3	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部の1/4

H-6号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	5区2層	口 14.4 底 7.0 高 3.0～4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	完形　内面に口唇部に重ね焼き痕有　内面・底部に自然灰釉付着　底部に工具痕有 歪み有
2	須恵器 坏	11区2層	口 13.2 底 7.0 高 2.4～3.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	1/6　口唇部に重ね焼き痕有　底部を除く外面に自然灰釉付着　胴部に剝落痕有 歪み有
3	須恵器 坏	3区1層	口 13.0 底 7.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の一部　底部に切り離しのためのヘラ具痕有
4	須恵器 坏	3区2層	口 12.6 底 — 高 3.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片
5	須恵器 坏	11区2層	口 — 底 6.6 高 2.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	胴部の1/3～底部
6	須恵器 坏	11区1層	口 12.6 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片　口唇部に酸化還元焔によるスス少量吸着
7	須恵器 坏	10区1層	口 — 底 — 高 2.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片　外面に自然灰釉付着
8	須恵器 高台付椀	1区2層	口 14.4 底 8.1 高 4.5～6.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎 小石含む 色 灰色 焼 やや不良	3/4　歪み有
9	須恵器 高台付皿	2区2層	口 13.0 底 7.0 高 3.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片
10	須恵器 高台付坏	一括	口 — 底 6.2 高 2.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の一部
11	須恵器 高台付坏	3区1層	口 — 底 10.0 高 1.9	底部回転ヘラ切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	底部の一部
12	須恵器 椀	10区1層	口 — 底 — 高 5.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	破片
13	須恵器 蓋	5区2層	口 13.8 ツマミ — 高 2.1	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片
14	土師器 甕	カマド	口 22.0 底 — 高 4.0	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	口縁部の一部
15	須恵器 甕	カマド	口 17.4 底 — 高 5.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片　外面に自然灰釉付着 折り返し口縁
16	土師器 甕	カマド上部	口 20.0 底 — 高 6.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	破片　内外面共スス付着
17	土師器 甕	8区2層	口 13.2 底 — 高 6.5	口縁部内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	破片　内外面共スス付着
18	須恵器 壺	7区2層	口 — 底 — 高 4.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片
19	土師器 甕	8区2層	口 13.2 底 — 高 6.0	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	破片　内外面共スス付着
20	須恵器 甑	一括	口 — 底 — 高 6.3	内外面共回転横ナデ後把手貼付	胎 砂粒含む 色 黒色 焼 良	把手部のみ　内外面共酸化還元焔によるスス吸着

H-7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	12区1層 6区1層	口 11.0 底 — 高 3.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/6　内面に自然灰釉付着
2	須恵器 坏	6区1層 11区3層 12区3層 15区2層	口 11.0 底 5.6 高 2.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	3/5　底部除く内外面に自然灰釉付着　底部に工具痕有
3	須恵器 坏	13区2層	口 13.8 底 7.6 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	完形　底部除く外面に酸化還元焔によるスス吸着

H－7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
4	須恵器 坏	6区1層	口 14.0 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰オリーブ色 焼 良	口縁部～胴部の1/7 口唇部を除く内外に自然灰釉付着
5	須恵器 坏	11区2層	口 13.6 底 — 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部 口唇部に重ね焼き痕有
6	須恵器 坏	上部一括	口 12.6 底 — 高 3.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	1/8 外面に自然灰釉(重ね焼き痕)付着
7	須恵器 坏	9区1層	口 13.8 底 — 高 2.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部
8	須恵器 坏	7区1層	口 11.6 底 — 高 2.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部 外面に自然灰釉付着
9	須恵器 坏	7区3層	口 14.0 底 — 高 2.7	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/8 外面の一部に酸化還元焔によるスス吸着
10	須恵器 坏	上部一括	口 14.0 底 — 高 3.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	1/8 外面自然灰釉(重ね焼き痕)付着
11	須恵器 皿	9区1層	口 14.0 底 — 高 1.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 黄灰色 焼 良	口縁部の一部 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
12	須恵器 坏	5区1層	口 — 底 6.6 高 2.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 暗灰色 焼 良	胴部の一部～底部 底部除く外面に自然灰釉少量付着
13	須恵器 坏	6区1層	口 — 底 5.6 高 1.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	底部のみ 外面に自然灰釉付着
14	須恵器 坏	6区1層	口 — 底 — 高 2.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	胴部～底部の一部 胴部外面に自然灰釉付着
15	須恵器 坏	15区1層	口 — 底 8.2 高 1.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/2 外面に酸化還元焔によるスス少量吸着
16	須恵器 坏	6区1層	口 — 底 6.2 高 1.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 糸切り方向相違し二重底状を呈する	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部と底部の3/4 切り離し時の工具痕有
17	須恵器 坏	6区1層	口 — 底 8.2 高 2.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/4
18	須恵器 高台付坏	2区2層	口 — 底 — 高 2.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部～底部の一部 外面高台上部に自然灰釉付着 坏破片融着
19	須恵器 高台付坏	上部一括	口 — 底 7.6 高 1.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/5
20	須恵器 高台付坏	上部一括	口 — 底 7.6 高 2.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/4 底部を除く外面に自然灰釉付着
21	須恵器 高台付椀	上部一括	口 — 底 8.0 高 2.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	胴部の一部～底部の1/4 高台部に酸化還元焔によるスス吸着
22	須恵器 高台付坏	上部一括	口 — 底 7.4 高 2.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部のみ
23	須恵器 高台付皿	11区2層	口 12.8 底 — 高 2.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	4/5 内外面共重ね焼き痕有 自然灰釉付着
24	須恵器 蓋	12区1層	口 12.0 ツマミ — 高 1.9	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 外面 灰黄色 内面 黄灰色 焼 良	1/7 外面全面に自然灰釉付着
25	土師器 甕	7区1層	口 20.0 底 — 高 6.5	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/6
26	土師器 甕	上部一括 カマド	口 23.2 底 — 高 5.3	外面口縁部横ナデ 胴上部横ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/2
27	土師器 甕	カマド 上部一括	口 20.0 底 — 高 5.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/4
28	須恵器 甕	8区2層	口 — 底 — 高 12.0	外面叩き目痕有 内面当て具痕	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部

H-7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
29	須恵器 甕	上部一括	口 24.8 底 — 高 5.2	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 やや不良	口縁部の一部
30	須恵器 甕	上部一括	口 18.0 底 — 高 3.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部　口唇部に重ね焼き痕有　内面に窯壁と思われる2～3㎜の粒子付着

H-8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	11区1層	口 14.2 底 8.0 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	胴部の一部～底部　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	16区3層	口 13.8 底 8.6 高 3.4	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り　内面渦巻き	胎 砂粒小石含む 色 灰黄色 焼 良	3/4　底部含む外面全体に自然灰釉(重ね焼き痕)付着
3	須恵器 坏	15区3層	口 12.8 底 6.8 高 —	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 外面 灰色 内面 灰白色 焼 やや不良	ほぼ完形　内面口唇部に重ね焼き痕有　底部を除く外面に3/4と内面口唇部に酸化還元焔によるスス吸着
4	須恵器 坏	14区3層	口 12.0 底 7.0 高 3.1～3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り　内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	9/10　底部を除く外面全体に自然灰釉付着　歪み有
5	須恵器 坏	16区3層	口 13.4 底 7.4 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	4/5　外面に酸化還元焔によるスス吸着　内面口唇部に斜方向重ね焼き痕有　酸化還元焔によるススの吸着有
6	須恵器 坏	上部一括	口 11.8 底 7.5 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	1/3　内面口唇部と外面口縁部に斜方向重ね焼き痕有　酸化還元焔によるススの吸着有
7	須恵器 坏	上部一括	口 12.9 底 6.0 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	1/3　外面一部に自然灰釉付着
8	須恵器 高台付椀	6区1層	口 16.0 底 9.0 高 6.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	5/6　内面胴部の1/2と外面口縁部に酸化還元焔によるスス吸着　重ね焼き痕有
9	須恵器 高台付盤	15区3層	口 14.6 底 10.0 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形　外面一部と内面口唇部に酸化還元焔によるスス吸着　重ね焼き痕有
10	須恵器 高台付椀	カマド 2区2層	口 — 底 9.2 高 4.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部と底部の1/2
11	須恵器 蓋	1区1層	口 11.4 ツマミ 2.3 高 2.8～3.5	内外面共回転横ナデ　外面天井部ヘラ削り中央突出ボタン状つまみ貼付	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形　外面口縁部に重ね焼き剝落痕有　自然灰釉付着　内面中央部に重ね焼き痕有　自然灰釉付着
12	須恵器 蓋	4区1層	口 16.6 ツマミ — 高 2.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 褐灰色 焼 良	1/6　中央部を除く内面全体～外面折りの部分にかけて自然灰釉付着
13	土師器 甕	土坑	口 19.0 底 — 高 10.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 にぶい赤褐色 焼 やや不良	口縁部の1/3～胴部　内外面共スス付着
14	土師器 甕	12区3層	口 19.6 底 — 高 14.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 にぶい赤褐色 焼 やや不良	口縁部の1/3～胴部　外面口縁部にスス付着
15	土師器 甕	カマド	口 21.6 底 — 高 15.1	外面口縁部横ナデ　胴部不定方向ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部～胴部の一部
16	土師器 甕	8区3層 12区3層 16区3層 土坑	口 19.0 底 — 高 10.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明褐色 焼 良	口縁部～胴部の1/3
17	須恵器 甑	16区1層	口 27.8 底 14.6 高 22.1	内面回転横ナデ　外面上部回転横ナデ 下部縦方向ヘラ削り	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	3/4　外面に酸化還元焔によるスス吸着　胴下部に4個の完通した穴有
18	須恵器 甕	上部一括	口 27.4 底 — 高 4.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 良	口縁部の一部
19	瓦	8区2層	狭 — 広 — 長 — 厚 1.5～1.7	叩き ——— 布目 7×7	色 灰白色 焼 やや不良	破片

H－8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
20	瓦	14区2層	狭 — 広 — 長 — 厚 1.2～1.7	叩き ——— 布目 7×7	色 灰色 焼 やや不良	破片

H－9号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	11区2層	口 14.0 底 8.0 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	3/4 底部含む外面に自然灰釉付着 内面に少量付着 外面底部に工具痕有
2	須恵器 坏	3区1層	口 12.6 底 8.4 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/4 底部含む外面に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	5区2層	口 13.6 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	口縁部破片
4	須恵器 坏	2区2層	口 — 底 — 高 3.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 やや不良	口縁部破片
5	須恵器 皿	上部一括	口 — 底 — 高 1.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部破片
6	土師器 甕	柱穴	口 25.0 底 — 高 3.7	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 やや不良	口縁部から胴上部の1/10 内外面共磨滅 内面口縁部にスス付着
7	土師器 甕	カマド上部	口 26.2 底 — 高 6.7	外面口縁部横ナデ 胴上部縦・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 細粒小石を含む 色 外面 にぶい橙色 内面 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/10 外面口唇部に朱有
8	土師器 甕	16区床直	口 20.2 底 — 高 5.5	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 小石含む 色 橙色 焼 やや不良	口縁部～胴上部の1/8 頸部内外面共スス付着
9	土師器 甕	14区2層	口 — 底 — 高 5.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 やや不良	口縁部破片
10	土師器 甕	カマド	口 — 底 — 高 6.2	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 やや不良	破片

H－10号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	6区1層	口 13.0 底 6.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰黄色 焼 やや不良	1/2 底部内外面共重ね焼き痕有 底部を除く内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	8区1層	口 15.0 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 やや不良	1/5 底部含む外面に酸化還元焔によるスス吸着
3	須恵器 坏	貯蔵穴	口 14.3 底 6.8 高 2.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	1/2 内面口唇部に重ね焼き痕有 底部を除く外面に自然灰釉付着
4	須恵器 坏	3区1層	口 14.8 底 — 高 3.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/3
5	須恵器 坏	上部一括	口 12.8 底 6.2 高 3.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/6 底部含む外面に自然灰釉付着
6	須恵器 坏	9区1層	口 — 底 6.0 高 1.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部のみ 全面に自然灰釉付着
7	須恵器 坏	11区1層	口 16.2 底 — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/5
8	須恵器 坏	9区1層	口 14.8 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/6 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
9	須恵器 坏	15区1層	口 — 底 6.6 高 1.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部～底部の2/3 底部含む内外面に自然灰釉付着
10	須恵器 坏	2区1層	口 — 底 6.8 高 2.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	胴部～底部の1/2 内面・胴部の一部に自然灰釉付着 底部に切り離し時の工具痕有
11	須恵器 高台付坏	15区1層	口 15.4 底 8.0 高 5.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 黄灰色 焼 やや不良	胴部～底部の1/2 口縁部に粘土を盛った補修有

H-10号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
12	須恵器 高台付椀	上部一括	口 15.0 底 7.6 高 5.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台	胎　小石含む 色　灰色 焼　不良	1/2　外面底部に重ね焼き痕有　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
13	須恵器 甕	上部一括	口 — 底 11.6 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　小石含む 色　にぶい橙色 焼　不良	胴下部之1/4～底部　底部含む外面に酸化還元焔によるスス吸着
14	須恵器 蓋	5区1層	口 21.4 ツマミ — 高 1.7	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	破片
15	土師器 甕	カマド	口 21.4 底 — 高 9.4	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	破片　内外面共スス付着
16	土師器 甕	8区1層	口 — 底 — 高 15.4	外面縦・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	胴中部の3/5～胴下部　内面の一部と外面上部にスス付着
17	土師器 甕	12区1層	口 16.2 底 — 高 20.0	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	口縁部～胴部の1/4　外面胴部にスス付着　頸部に工具痕有
18	須恵器 甕	12区1層 16区1層 10区1層 上部一括 貯蔵穴	口 — 底 16.0 高 12.0	外面叩き目痕有　内面当て具痕	胎　小石を含む 色　黄灰色 焼　良	胴部～底部の1/3
19	須恵器 甕	7区1層 4区1層	口 32.0 底 — 高 6.2	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　浅黄色 焼　良	口縁部の1/11
20	須恵器 長頸壺	上部一括	口 — 底 — 高 7.6	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	頸部～胴上部の2/3
21	須恵器 甕	15区1層	口 — 底 — 高 14.3	内面回転横ナデ後斜方向ヘラ削り 外面胴部回転横ナデ後斜方向ヘラ削り 外面頸部回転横ナデ	胎　砂粒小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	頸部の一部～胴部の1/3 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
22	須恵器 甕	上部一括	口 — 底 — 高 13.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の1/6　外面に酸化還元焔によるスス吸着
23	須恵器 甕	6区1層 5区1層	口 19.9 底 15.3 高 38.7	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　青灰色 焼　良	1/2　外面底部剝落著しい

H-11号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	16区床直	口 13.6 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	ほぼ完形　底部除く外面全体を酸化還元焔によるスス吸着　内面口唇部に斜方向重ね焼き痕　酸化還元焔によるスス吸着有
2	須恵器 坏	カマド	口 15.0 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　黒色 焼　やや不良	1/2　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
3	須恵器 坏	貯蔵穴	口 13.5 底 6.8 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	ほぼ完形　内面に融着防止用と思われるワラの痕跡有
4	須恵器 坏	16区床直	口 14.1 底 7.4 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　小石含む 色　内面　にぶい黄橙色 外面　黒褐色 焼　不良	ほぼ完形　底部を除く外面ほぼ全面と内面半分に酸化還元焔によるスス吸着　内面重ね焼き痕有　自然灰釉付着　歪み有
5	須恵器 坏	7区1層	口 13.6 底 6.8 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　小石含む 色　灰色 焼　やや不良	1/2　口唇部・外面全面に自然灰釉付着　口唇部内面に重ね焼き痕有　重ね焼きによる剝落痕有
6	須恵器 高台付坏	5区1層	口 — 底 8.8 高 2.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部の1/2
7	須恵器 高台付椀	10区1層	口 14.5 底 7.6 高 5.7	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰褐色 焼　良	1/5　内面に自然灰釉付着
8	須恵器 高台付椀	7区1層	口 — 底 7.0 高 2.8	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　小石含む 色　灰色 焼　やや不良	1/8
9	土師器 甕	15区1層 12区1層	口 19.4 底 — 高 4.7	外面口縁部横ナデ後、縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎　小石含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の1/3
10	須恵器 甕	16区床直	口 — 底 — 高 4.2	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰黄褐色 焼　良	口縁部破片

H-11号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
11	須恵器 甕	5区1層	口 — 底 — 高 2.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部破片
12	須恵器 小 甕	カマド 11区1層 15区1層 10区1層	口 13.8 底 7.4 高 14.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 にぶい黄橙色 焼 不良	3/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着(内面底部は特に黒色)

H-12号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	3区1層	口 13.0 底 8.8 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/3 外面、口唇部、底部を残し自然灰釉付着 重ね焼き痕
2	須恵器 坏	6区1層	口 13.6 底 — 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部
3	須恵器 椀	8区1層	口 15.0 底 — 高 5.7	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	1/8 外面に自然灰釉付着
4	須恵器 蓋	6区1層	口 18.6 ツマミ — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/5 内面上部・外面口唇部に酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕
5	須恵器 蓋	11区1層	口 — ツマミ 6.4 高 1.9	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 砂粒小石含む 色 灰黄色 焼 良	ツマミと周辺胴部 外面に自然灰釉付着
6	土師器 坏	上部一括	口 14.0 底 — 高 5.3	外面口縁部横ナデ 体底部不定方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 橙色 焼 良	1/4
7	土師器 甑	カマド	口 — 底 13.8 高 10.6	外面胴部斜方向ヘラ削り 内面底部縁ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 にぶい橙色 焼 良	胴下部の2/5 内面にスス付着
8	土師器 甕	カマド	口 22.0 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 やや不良	口縁部の1/4
9	須恵器	15区3層	口 — 底 — 高 7.5		胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	把手部のみ 片面全面に自然灰釉付着

H-13号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	上部一括	口 12.8 底 6.8 高 4.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り内面渦巻き	胎 砂粒小石含む 色 灰黄色 焼 やや不良	ほぼ完形 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	上部一括	口 12.0 底 6.4 高 3.7	内外面共口縁部横ナデ 底部回転糸切り内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 やや不良	1/2
3	須恵器 坏	8区1層	口 12.4 底 7.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 やや不良	口縁部～底部の1/2 外面底部～胴部に酸化還元焔によるスス少量吸着
4	須恵器 坏	上部一括	口 12.2 底 7.0 高 3.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	1/3
5	須恵器 坏	15区1層	口 13.2 底 7.6 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	1/4
6	須恵器 坏	上部一括	口 13.0 底 — 高 3.4	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/4 口縁部内面に重ね焼き痕有 内外面共自然灰釉付着
7	土師器 甕	8区1層	口 20.4 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/6 外面にスス付着
8	土師器 甕	上部一括	口 20.0 底 — 高 14.1	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向胴部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 小石含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴下部の1/8 頸部内面に自然灰釉付着
9	土師器 甕	上部一括	口 22.0 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 細粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部～胴上部の1/3
10	土師器 甕	カマド上部	口 — 底 — 高 7.0	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 やや不良	口縁部破片

H-14号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	9区2層	口 13.0 底 7.6 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	ほぼ完形 底部の1/2と外面の1/2に酸化還元焔によるスス吸着

H-14号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	須恵器 坏	6区2層	口 12.4 底 6.8 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒小石含む 色　灰黄色 焼　やや不良	ほぼ完形　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	9区2層	口 11.8 底 7.0 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒小石含む 色　灰白色 焼　良	1/4　内外面共酸化還元焔によるスス少量吸着
4	須恵器 坏	11区1層	口 14.2 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　良	口縁部～胴部の1/3　口唇部に重ね焼き痕有　外面に自然灰釉付着　小石及び2～3㎜の窯壁と思われる粒子付着
5	須恵器 高台付椀	1区1層	口 13.2 底 7.6 高 5.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　小石含む 色　黒褐色 焼　良	1/4　内面底部に重ね焼き痕有　口唇部～内面に自然灰釉付着
6	須恵器 高　坏	上部一括	口 — 底 — 高 5.0	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	脚部破片
7	土師器 甕	15区2層	口 — 底 — 高 2.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部破片

H-15号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	上部一括	口 13.6 底 8.8 高 2.3	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	口縁部～胴部の1/6　外面に自然灰釉付着
2	須恵器 坏	3区1層	口 11.4 底 — 高 2.7	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	破片　外面口唇部に酸化還元焔によるスス吸着　重ね焼き痕有
3	須恵器 坏	3区1層	口 — 底 — 高 2.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部破片
4	須恵器 高台付盤	3区1層	口 — 底 — 高 1.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	胴部破片
5	土師器 甕	3区1層	口 — 底 — 高 3.7	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	口縁部破片　口唇部～内面上部にスス付着

H-16号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 高台付坏	貯蔵穴	口 — 底 12.0 高 1.5	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　小石含む 色　灰白色 焼　良	底部の一部
2	須恵器 蓋	9区1層	口 18.2 ツマミ — 高 1.9	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部　口縁部内面と天井部に重ね焼き痕有 内面に自然灰釉付着　天井部に重ね焼きのための剝離痕有
3	須恵器 蓋	7区1層	口 17.4 ツマミ 6.8 高 2.6	内外面共回転横ナデ　天井部回転ヘラ削り　リング状つまみ貼付	胎　砂粒小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/4　内外面共自然灰釉付着
4	須恵器 蓋	上部一括	口 — ツマミ 6.8 高 2.0	内外面共回転横ナデ　天井部回転ヘラ削り　リング状つまみ貼付	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	ツマミと周辺胴部
5	土師器 甕	上部一括	口 26.4 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部と胴上部の一部
6	土師器 甕	3区1層 上部一括	口 22.4 底 — 高 3.4	口縁部内外面共横ナデ	胎　小石含む 色　暗赤褐色 焼　良	口縁部の1/6
7	土師器 甕	カマド上部	口 22.6 底 — 高 4.0	外面口縁部横ナデ　胴上部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　小石含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～頸部の一部
8	土師器 甕	カマド上部	口 21.8 底 — 高 5.2	外面口縁部横ナデ　胴上部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/7
9	土師器 甕	11区1層	口 — 底 — 高 5.4	内外面共口縁部横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい赤褐色 焼　やや不良	口縁部破片
10	土師器 甕	カマド	口 — 底 — 高 3.5	頸部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	口縁部破片
11	須恵器 甕	7区1層	口 — 底 — 高 16.6	外面叩き痕有　内面当て具痕	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部

H-17号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 椀	上部一括 カマド横床直	口 17.6 底 10.5 高 5.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　黄灰色 焼　やや不良	4/5　底部を除く外面に自然灰釉付着
2	須恵器 坏	11区1層	口 13.0 底 9.4 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　小石含む 色　灰色 焼　良	1/2　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	13区1層	口 — 底 11.0 高 2.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	底部の1/8　底部に切り離し痕有
4	須恵器 蓋	貯蔵穴	口 14.6 ツマミ 3.8 高 2.4	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　リング状つまみ貼付	胎　小石含む 色　灰色 焼　やや不良	1/2　外面に自然灰釉付着 歪み有　外面口縁部剝離痕有　工具痕有
5	土師器 甕	上部一括	口 — 底 4.4 高 1.9	内外面、底部ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰褐色 焼　やや不良	底部の1/2　底の部縁にスス少量付着
6	土師器 甕	11区1層	口 18.6 底 — 高 10.6	内面横ナデ　内外面共口縁部横方向ヘラ削り　外面胴上部斜方向ヘラ削り	胎　砂粒小石含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の3/4　外面スス付着　外面口縁部に工具痕有
7	土師器 甕	10区1層 11区1層	口 16.2 底 — 高 13.4	外面口縁部横ナデ　胴上部縦方向、胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　小石含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	底部を除く1/4　内面・外面胴下部にスス付着　外面口縁部に工具痕有
8	土師器 甕	11区1層	口 19.8 底 — 高 8.5	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部の1/6
9	須恵器 甕	カマド横床直	口 15.5 底 — 高 9.7	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰白色 焼　不良	口縁部～胴中部　外面頸部と内面に酸化還元焔によるスス吸着
10	須恵器 甕	16区1層	口 15.0 底 — 高 8.7	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　黒褐色 焼　良	口縁部～胴部の一部　外面口縁部に自然灰釉付着
11	須恵器 長頸壺	7区1層	口 — 底 — 高 8.4	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰色 焼　良	胴部の1/4　外面に斜方向自然灰釉付着

H-18号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	14区1層 16区床直	口 11.8 底 7.6 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部～底部の一部　口唇部に重ね焼き痕有　自然灰釉付着
2	須恵器 坏	6区1層	口 11.4 底 — 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部～胴部　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 高台付盤	5区1層	口 — 底 12.6 高 1.3	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	底部の一部
4	須恵器 蓋	11区1層	口 — ツマミ 4.5 高 2.4	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　リング状つまみ貼付	胎　小石含む 色　にぶい褐色 焼　不良	ツマミと周辺胴部の1/4
5	土師器 甕	16区床直	口 16.5 底 — 高 3.7	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部の一部
6	土師器 甕	8区床直	口 19.4 底 — 高 5.3	口縁部外面横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/5

H-19号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	貯蔵穴	口 11.8 底 — 高 3.3	外面口縁部横ナデ　体底部外面ヘラ削り　内面横ナデ	胎　小石含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体底部の1/7

H-20号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	2E—35b	口 12.6 底 — 高 3.2	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部破片　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	2E—35b	口 — 底 — 高 4.1	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　褐灰色 焼　良	口縁部破片
3	須恵器 甕	2E—35d	口 26.4 底 — 高 2.8	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	口縁部破片　内外面共酸化還元焔によるスス吸着

H-21号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	8区2層	口 13.2 底 8.8 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　小石含む 色　内外面　灰白色 外面底部　にぶい橙色 焼　不良	1/2　口唇部に重ね焼き痕有　外面口縁部に酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	8区1層	口 11.2 底 — 高 3.2	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰色 焼　良	胴部の1/8　外面に自然灰釉付着
3	土師器 甕	2区1層	口 — 底 10.8 高 4.0	外面縦方向ヘラ削り	胎　小石含む 色　外面　にぶい黄橙色 内面　黒色 焼　不良	底部の1/5　内面にスス付着　底部木の葉痕
4	須恵器 坏	4区1層	口 — 底 7.4 高 2.2	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　小石含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	底部の1/2　底部に切り離し痕有　酸化還元焔によるスス吸着
5	須恵器 坏	2区床直	口 — 底 7.6 高 2.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　小石含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部　外面の一部に自然灰釉付着
6	須恵器 高台付椀	4区1層	口 — 底 10.0 高 6.4	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰色 焼　やや不良	胴部から底部の1/5
7	須恵器 蓋	8区1層	口 18.0 ツマミ — 高 1.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	口縁部の一部
8	須恵器 蓋	2区床直	口 14.7 ツマミ — 高 1.6	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部　外面口唇部に自然灰釉付着
9	須恵器 蓋	3区2層	口 13.2 ツマミ — 高 1.6	内外面共回転横ナデ	胎　小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	口縁部の一部　外面かえし部に重ね焼き痕有　酸化還元焔によるスス吸着
10	土師器 甕	2区1層	口 18.5 底 — 高 6.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部
11	土師器 甕	4区2層	口 24.7 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の一部
12	土師器 甕	2区1層	口 19.2 底 — 高 9.7	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向、胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴部の1/5

H-22号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	13区3層	口 13.0 底 7.4 高 3.9	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　不良	2/3　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	カマド	口 13.9 底 7.6 高 4.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む1～2㎜程度の小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	口唇部～底部の2/3　内面口唇部に重ね焼き痕有　内面口唇部・外面全面・底部の一部に酸化還元焔によるスス吸着
3	須恵器 高台付椀	16区3層	口 16.2 底 8.2 高 7.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の1/5～底部　内面に酸化還元焔によるスス吸着
4	須恵器 高台付椀	15区3層 12区3層 一括	口 15.4 底 7.9 高 5.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	ほぼ完形　胴部中位～底部にかけ切り離しに用いた糸の斜方向接触痕有
5	須恵器 高台付椀	12区3層	口 15.0 底 7.4 高 5.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	ほぼ完形　内外面共自然灰釉付着
6	須恵器 高台付坏	8区2層	口 — 底 6.8 高 2.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　外面　灰白色 内面　淡黄色 焼　やや不良	胴部～底部の1/2
7	須恵器 蓋	12区3層	口 — ツマミ 4.2 高 3.5	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　中央突出リング状つまみ貼付	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/4　外面に切り離しのためと思われる工具痕有
8	土師器 甕	3区1層 5区2層	口 17.2 底 — 高 3.4	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部の1/6
9	土師器 甕	一括	口 — 底 4.0 高 5.2	外面胴下部不定方向ヘラ削り　内面未調整	胎　砂粒小石含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	胴下部の一部～底部
10	土師器 鉢	8区3層	口 33.2 底 — 高 11.1	外面横ナデ後胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴部の1/5

H-22号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
11	土師器 甕	4区3層	口 20.0 底 — 高 3.7	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 やや不良	口縁部破片 内外面共スス付着
12	土師器 甕	カマド	口 22.0 底 — 高 3.2	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 良	口縁部の1/3 口唇～内面にスス少量付着 外面工具痕有
13	須恵器 甕	3区1層	口 27.4 底 — 高 4.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部破片 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕有
14	土師器 甕	一括	口 19.2 底 — 高 11.5	口縁部外面回転横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り	胎 砂粒小石含む 色 にぶい黄橙色 焼 やや不良	口縁部～胴部の1/3 内外面共スス付着
15	須恵器 甕	カマド	口 — 底 13.6 高 12.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/4
16	須恵器 椀	16区3層	口 22.0 底 — 高 11.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	破片 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
17	須恵器 甕	カマド	口 — 底 — 高 8.4	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 良	破片
18	須恵器 甕	4区3層	口 11.0 底 — 高 7.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 やや不良	口縁部～胴部の1/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
19	須恵器 長頸壺	15区3層	口 — 底 — 高 9.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	破片
20	須恵器 甕	12区3層	口 — 底 13.0 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片 外面に自然灰釉付着
21	須恵器 甕	7区3層	口 — 底 23.0 高 7.6	外面ヘラ削り 内面横ナデ 底部ヘラ削り	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	破片 外面に酸化還元焔によるスス吸着
22	瓦	11区2層	狭 — 広 — 長 — 厚 1.7～1.9	叩き ——— 布目 8×8	色 灰色 焼 良	破片 凹凸面共に砂粒多量付着
23	瓦	12区3層	狭 — 広 — 長 — 厚 1.8～2.5	叩き 縦目5 布目 9×7	色 灰色 焼 良	破片 両面共自然灰釉付着

H-23号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	カマド	口 12.3 底 7.2 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 にぶい橙色 焼 不良	3/4 胴部の一部に酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	カマド	口 — 底 7.6 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 やや不良	1/2 内外面共口唇部に自然灰釉付着 重ね焼き痕有 歪み有
3	須恵器 皿	一括	口 13.0 底 7.2 高 1.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/4 外面に口唇部～重ね焼き痕有
4	須恵器 高台付坏	一括	口 — 底 7.0 高 2.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/2 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕有
5	須恵器 蓋	一括	口 — ツマミ 3.0 高 2.6	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	2/3 内面に酸化還元焔によるスス吸着
6	須恵器 蓋	カマド上部	口 16.8 ツマミ — 高 3.2	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 やや不良	1/2 外面口縁部に重ね焼き痕有
7	土師器 甕	一括	口 19.4 底 — 高 3.8	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 赤褐色 焼 良	口縁部の一部 頸部に指圧痕有
8	土師器 甕	一括	口 24.8 底 — 高 4.5	口縁部外面横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部の1/7
9	土師器 甕	一括	口 21.8 底 — 高 5.5	口縁部外面横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部の1/4
10	須恵器 甕	一括	口 14.2 底 — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 暗灰色 焼 良	口縁部の一部 内面に自然灰釉付着

H-23号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
11	須恵器 壺	一括	口 — 底 — 高 5.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴上部の一部 内面口縁部・外面胴上部に自然灰釉付着
12	須恵器 甕	一括	口 30.8 底 13.2 高 22.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	1/4 外面全面に酸化還元焔によるスス吸着
13	須恵器 甕	一括	口 27.6 底 — 高 9.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	口縁部～胴部
14	瓦	一括	狭 — 広 — 長 — 厚 1.5～2.0	叩き ——— 布目 7×7	色 にぶい橙色 焼 良	破片
15	瓦	一括	狭 — 広 — 長 — 厚 1.7～2.1	叩き 布目 11×10	色 にぶい橙色 焼 良	破片
16	瓦	一括	狭 — 広 — 長 — 厚 1.8～2.3	叩き 布目 7×7	色 にぶい橙色 焼 良	破片
17	瓦	カマド煙道	狭 — 広 — 長 40.7 厚 1.3～1.8	叩き 横撫で 布目 5×5横撫で	色 灰白色 焼 良	4/5 凹面の一部に酸化還元焔によるスス吸着

グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	2F-41d	口 15.2 底 9.0 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の一部 外面に自然灰釉少量付着
2	須恵器 坏	2D-43c	口 — 底 6.4 高 2.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	胴部～底部の1/3
3	須恵器 坏	2C-52d	口 12.4 底 8.6 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰オリーブ色 焼 良	口縁部～底部の1/8 内外面共自然灰釉付着 外面に2～3㎜の窯壁付着
4	須恵器 坏	2D-42b	口 12.6 底 7.6 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の一部 外面に自然灰釉付着 外面底部に工具痕有
5	須恵器 坏	2F-39d	口 13.0 底 6.6 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 褐灰色 焼 良	完形 底部除く外面全面と内面口唇部に一部自然灰釉付着 重ね焼き痕 外面底部(7.8cm幅で1/4周)・外面胴部・口唇部に他遺物融着 歪み有
6	須恵器 坏	2D-42b	口 13.2 底 6.4 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部の一部～底部の1/2 外面に酸化還元焔によるス ス吸着 重ね焼き痕有
7	須恵器 坏	2D-42b	口 12.0 底 5.2 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/3 外面口唇部に酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕有
8	須恵器 坏	一括	口 — 底 6.8 高 2.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 黒色 焼 不良	胴部の一部～底部の1/2
9	須恵器 坏	2G-42a	口 14.8 底 8.6 高 4.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 外面 黒色 (底部を除く) 内面 灰黄褐色 焼 良	1/4 内面口縁部に重ね焼き痕有
10	須恵器 坏	2K-40d	口 — 底 6.6 高 4.8	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	口縁部～底部の一部 外面に自然灰釉付着
11	須恵器 坏	2I-40a	口 13.0 底 9.4 高 4.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	1/5 口唇部、底部を除く外面に自然灰釉付着 2～3㎜の窯壁粒付着 歪み有
12	須恵器 高台付皿	2G-41b	口 14.6 底 9.8 高 2.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部～底部の1/5
13	須恵器 高台付皿	2H-40d	口 12.6 底 6.6 高 2.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 良	1/4 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕有
14	須恵器 高台付皿	2H-40d	口 12.0 底 — 高 1.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/4 高台部剝離 内面口縁部重ね焼き痕有 内面に自然灰釉付着

グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
15	須恵器 高台付皿	2G-42c	口 14.6 底 9.0 高 2.4	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 にぶい橙色 焼 不良	口縁部～底部の1/5
16	須恵器 高台付皿	2F-41a	口 12.0 底 — 高 2.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	1/4 高台部剝離 内外面共自然灰釉付着 内外面共底部に重ね焼き痕有
17	須恵器 高台付皿	2F-41d	口 13.6 底 — 高 2.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 不良	口縁部～底部の1/5
18	須恵器 高台付坏	2G-42a	口 — 底 8.4 高 2.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	底部の1/2 底部内外面共酸化還元焔によるスス吸着
19	須恵器 高台付皿	2E-42c	口 13.6 底 — 高 1.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/2 高台部剝離 外面に自然灰釉付着
20	須恵器 高台付坏	2H-39b	口 14.8 底 7.4 高 4.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	ほぼ完形 内外面共1/2に酸化還元焔によるスス吸着
21	須恵器 高台付椀	2H-40d	口 10.8 底 6.6 高 4.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/5～底部 口唇部に重ね焼き痕有 外面に自然灰釉付着
22	須恵器 高台付椀	2K-40a	口 — 底 7.4 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部と底部の一部 外面に自然灰釉付着
23	須恵器 高台付坏	2I-41a	口 — 底 8.0 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部～底部の1/4
24	須恵器 高台付椀	2D-42b	口 — 底 8.8 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部～底部の4/5
25	須恵器 高台付坏	2E-41b	口 — 底 7.0 高 2.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部のみ 外面底部に酸化還元焔によるスス少量吸着
26	須恵器 高台付椀	2H-40d	口 14.6 底 7.8 高 5.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/4 内外面の一部に自然灰釉付着
27	須恵器 高台付椀	2D-42b	口 16.0 底 7.1 高 5.1	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	1/5 外面口唇部に重ね焼き痕有
28	須恵器 椀	2H-41d	口 14.0 底 — 高 5.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の1/4 内面全体の器面剝落 内面口唇部・外面胴下部に自然灰釉付着
29	須恵器 椀	2H-40d	口 14.8 底 — 高 4.5	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部 外面口唇部に重ね焼き痕有 外面に自然灰釉付着
30	須恵器 椀	2H-40d	口 23.0 底 — 高 5.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒小石含む 色 灰白色 焼 やや良	口縁部の破片 口唇部～外面に酸化還元焔によるスス吸着 重ね焼き痕有
31	須恵器 蓋	2G-42a	口 — ツマミ 3.8 高 1.2	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状ツマミ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	ツマミ部のみ
32	須恵器 蓋	2F-43b	口 — ツマミ 4.0 高 1.6	内外面回転横ナデ リング状ツマミ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	ツマミ部のみ 外面に自然灰釉付着
33	須恵器 蓋	2H-41c	口 24.0 ツマミ — 高 1.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部
34	須恵器 蓋	2K-39d	口 16.0 ツマミ — 高 1.5	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部の一部 かえし部内外面共重ね焼き痕有
35	土師器 甕	2I-39c	口 19.4 底 — 高 6.7	外面口縁部横ナデ 胴上部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	破片
36	須恵器 壺	2E-41d	口 11.6 底 — 高 3.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	口縁部の1/3～胴部の一部 内面口唇部～外面全体に自然灰釉付着
37	須恵器 甕	2E-42	口 — 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部破片 内面口唇部に重ね焼き痕有 自然灰釉付着
38	須恵器 甕	2D-42d	口 — 底 — 高 2.2	内外面共回転横ナデ	胎 小石含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部破片
39	須恵器 甕	2E-42c	口 30.0 底 — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 外面 暗灰色 内面 灰色 焼 良	口縁部のみ 外面に重ね焼き痕有 内外面共自然灰釉付着

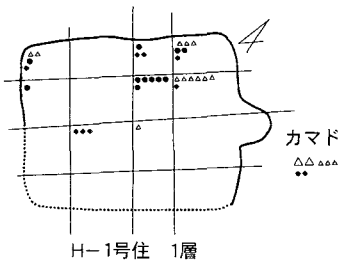
グリッド

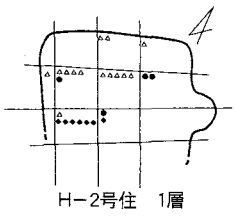
No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
40	須恵器 甕	一括	口 — 底 — 高 8.0	外面胴部横方向ヘラ削り　内面当て具痕有	胎　小石多量含む 色　灰色 焼　良	破片　内面に自然灰釉付着

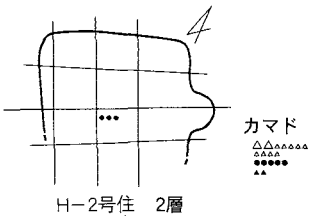
土坑

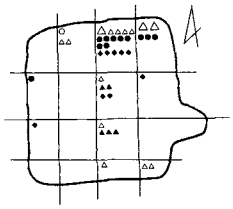
No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	D－1	口 — 底 6.0 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒小石含む 色　灰白色 焼　やや不良	4/5　外面底部1/2に酸化還元焔によるスス吸着
2	須恵器 坏	D－1	口 — 底 5.6 高 1.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　やや不良	底部・内外面共酸化還元焔によるスス吸着　外面底部に切り離しに用いたと思われる工具痕有
3	須恵器 高台付皿	D－1	口 12.6 底 — 高 2.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	7/8　高台部剝離　内外面共重ね焼き痕(径7cm)有 自然灰釉付着
4	須恵器 高台付坏	D－1	口 — 底 — 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部～底部の破片　高台部剝離　外面底部に破片融着
5	土師器 甕	D－1	口 17.0 底 — 高 2.6	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部の一部
6	土師器 甕	D－1	口 19.2 底 — 高 7.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む　1～2mm程度の小石を含む 色　橙色 焼　やや不良	口縁部～胴上部の約1/12
7	土師器 甑	D－1	口 — 底 13.4 高 6.4	内外面共横ナデ	胎　小石含む 色　橙色 焼　やや不良	胴下部の一部　内面剝落

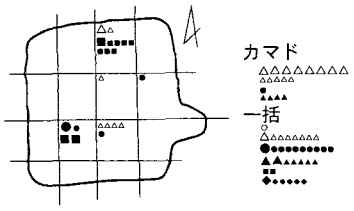
（鬼形）



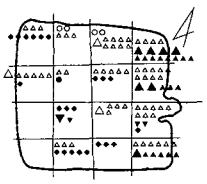


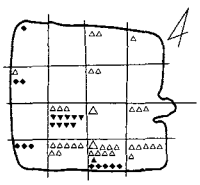


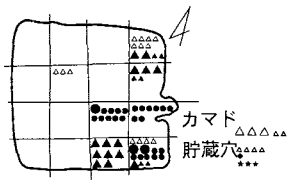


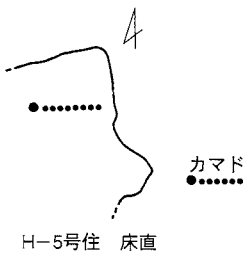


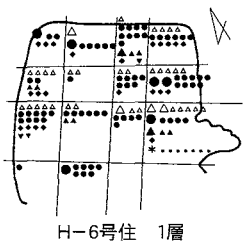
分　類	記号		
	10g	100g	1000g
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	▵	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	■	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◘	◙	◎
硯	▫	▢	▢
羽　釜	⋆	✶	✶
瓦	⋆	☆	☆
灰釉陶器	▿	▽	▽
瓶	◦	◇	◇
把　手	×	×	✕
縄　文	◆	◆	◆
炭化材	⋆	★	★

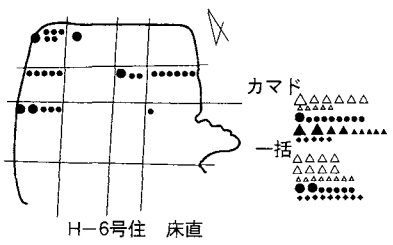


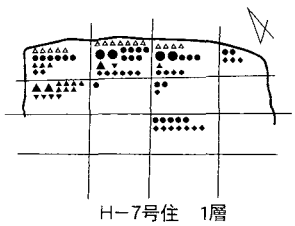


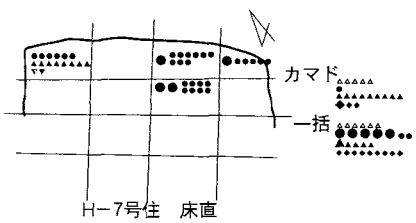




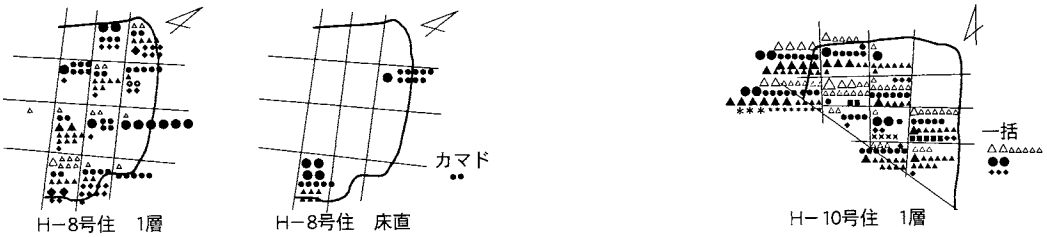




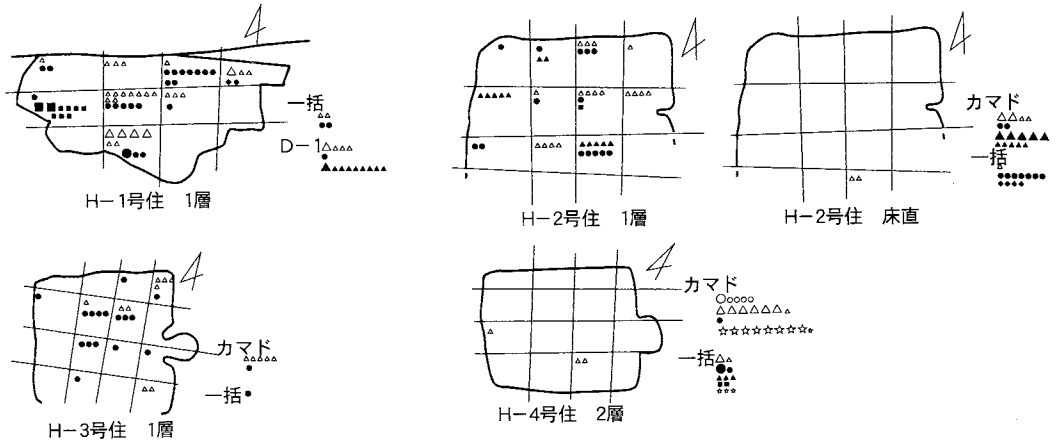


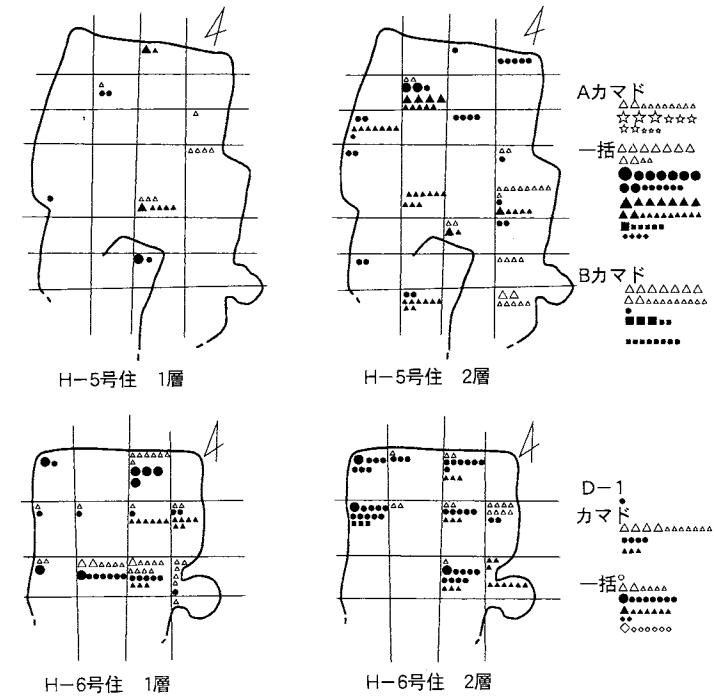


第285図　野村遺跡住居址16分割遺物出土状況(1)



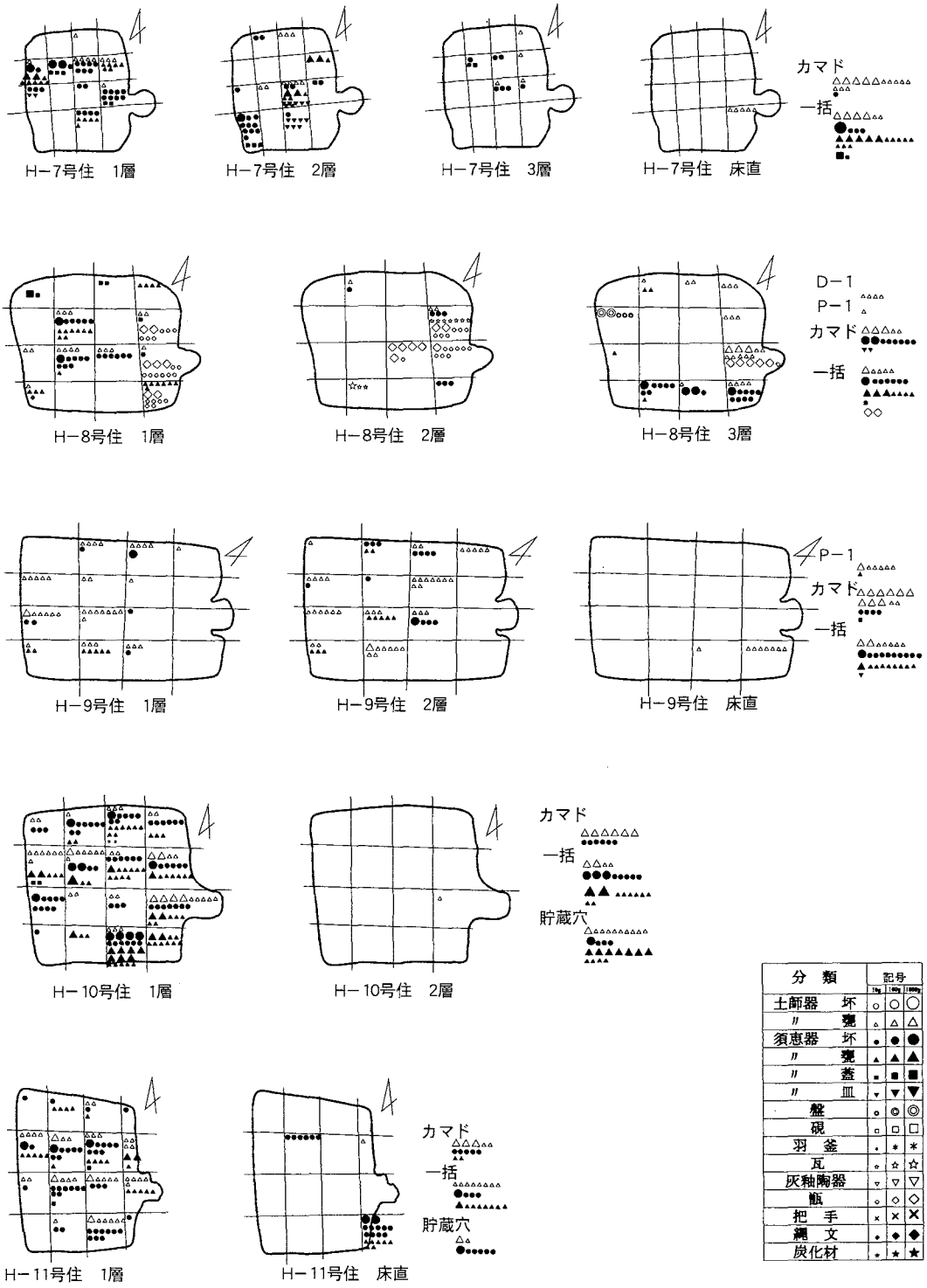
第286図　野村遺跡住居址16分割遺物出土状況(2)



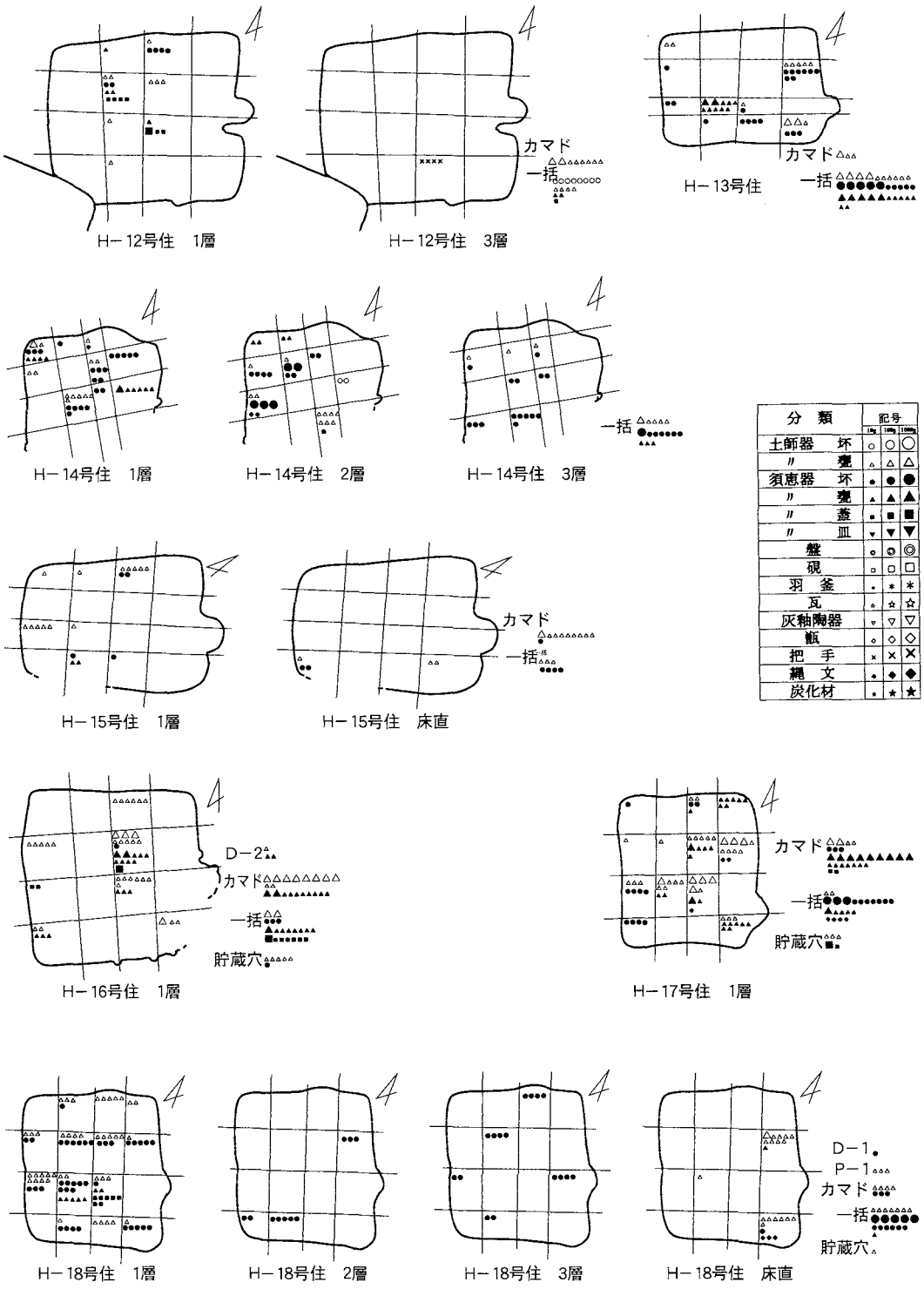


分類	記号		
	1kg	10kg	100kg
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	△	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	■	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◘	◘	◎
硯	□	□	□
羽　釜	⋆	⋆	⋆
瓦	☆	☆	☆
灰釉陶器	▽	▽	▽
甑	◇	◇	◇
把　手	×	×	×
縄　文	◆	◆	◆
炭化材	★	★	★

第287図　野村II遺跡住居址16分割遺物出土状況(1)



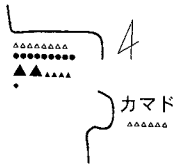
第288図　野村II遺跡住居址16分割遺物出土状況(2)



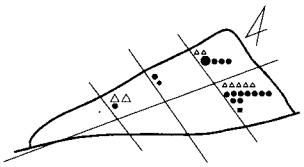
分類	記号		
	1kg	100g	10mg
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	△	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	■	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◎	◎	◎
硯	□	□	□
羽　釜	⁎	⁎	⁎
瓦	☆	☆	☆
灰釉陶器	▽	▽	▽
甑	◇	◇	◇
把　手	×	×	×
縄　文	◆	◆	◆
炭化材	★	★	★

第289図　野村Ⅱ遺跡住居址16分割遺物出土状況(3)

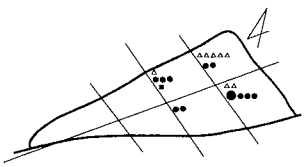
H－19号住　1層



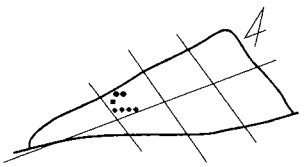
H－20号住　1層



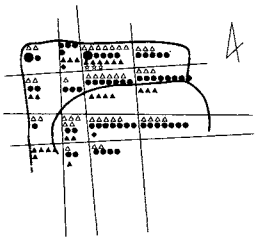
H－21号住　1層



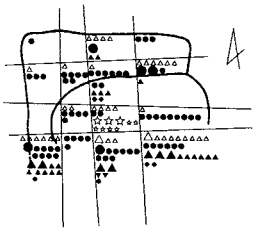
H－21号住　2層



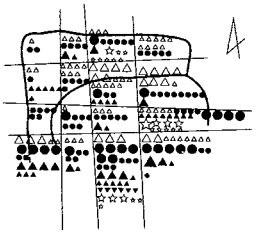
H－21号住　床直



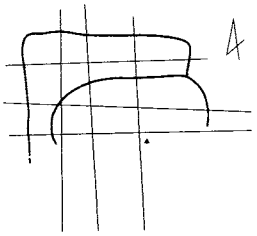
H－22号住　1層



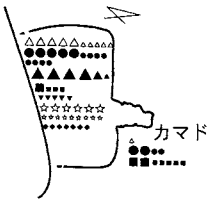
H－22号住　2層



H－22号住　3層



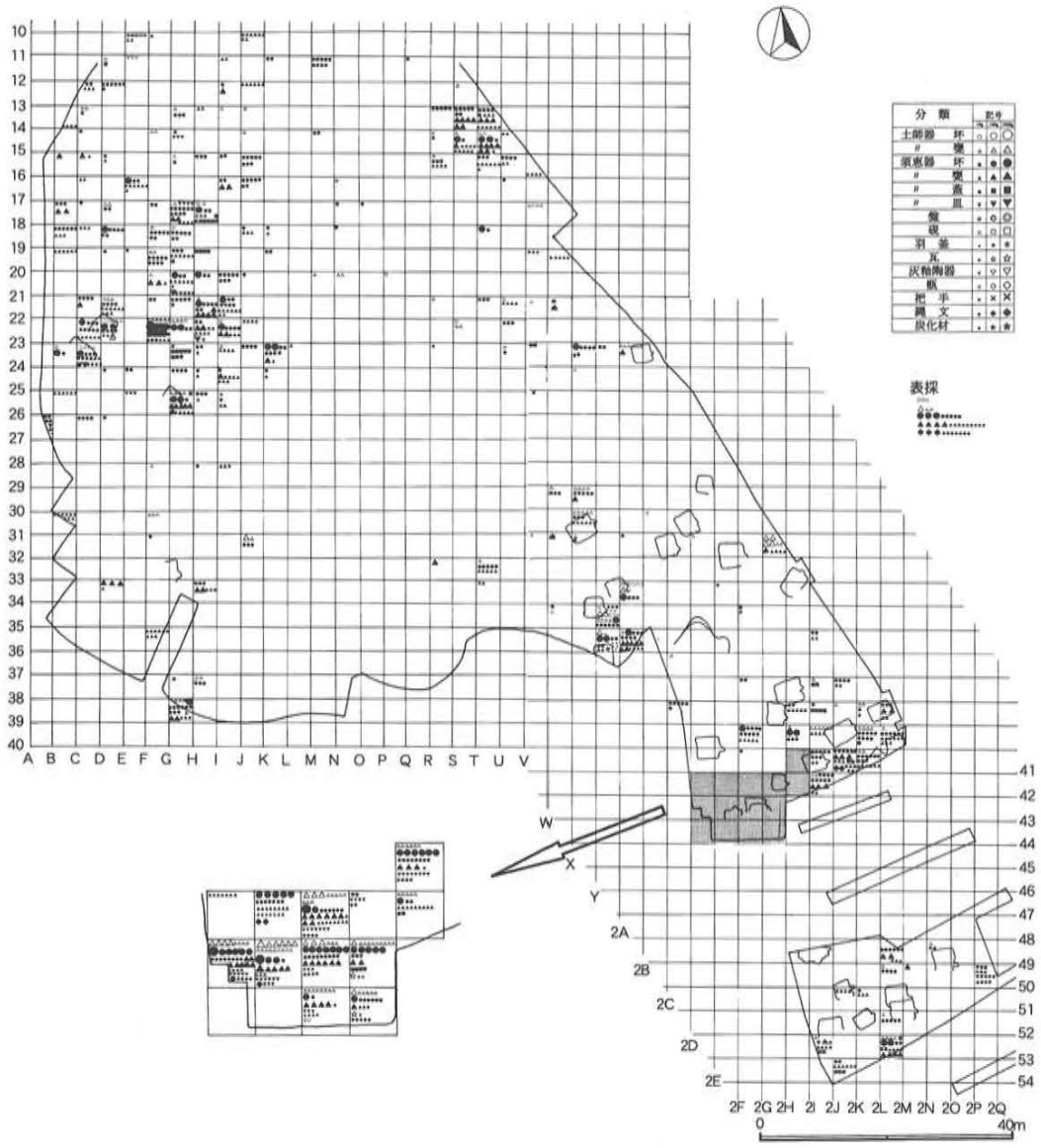
H－22号住　床直



H－23号住　1層

分　類	記号		
	1Kg	100g	10g
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	△	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	■	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◎	◎	◎
硯	□	□	□
羽　釜	✶	✶	✶
瓦	☆	☆	☆
灰釉陶器	▽	▽	▽
甑	◇	◇	◇
把　手	×	×	×
縄　文	◆	◆	◆
炭化材	★	★	★

第290図　野村Ⅱ遺跡住居址16分割遺物出土状況(4)



第291図　グリッド遺物出土状況

2　北原II遺跡

(1)　遺跡の概要

北原II遺跡は北原遺跡A区・B区の北に接している。北原遺跡は、平成5・6年度に安中土木事務所が実施した、安中榛名駅へのアクセス県道の建設に先立ち発掘調査が行われた遺跡である。本遺跡は北原遺跡のA区・B区の北に接していて、同時期の遺構が確認されており、同一の集落遺跡として捉えることができる。

確認された遺構は、縄文時代中期と奈良・平安時代のものを確認した。

(2)　縄文時代の遺構と遺物

遺構（第292・293図）

J－1号住

加曽利E3式期の住居で、規模は6.4m×5.9mの不正円形で、確認面から最も深い部分で60cm、主軸方向はN－42°－Eを計る。主柱穴は5本と思われ、その外側を沿うように廻っている。周溝は北東部から南部まで確認されたが、途中堀込みが浅く不明瞭になり、全周していたかは不明である。炉は中央北寄りに掘られ、石囲炉であったと思われる。また、住居址南端には埋甕も確認された。

2B－12Grid周辺

埋甕2基と土器が集中して確認され、ピットも多数検出されたことから、堀込みは確認出来なかったが住居址の可能性が高い。出土土器から、J－1号住とほぼ同期と考えられる。（千田）

遺物

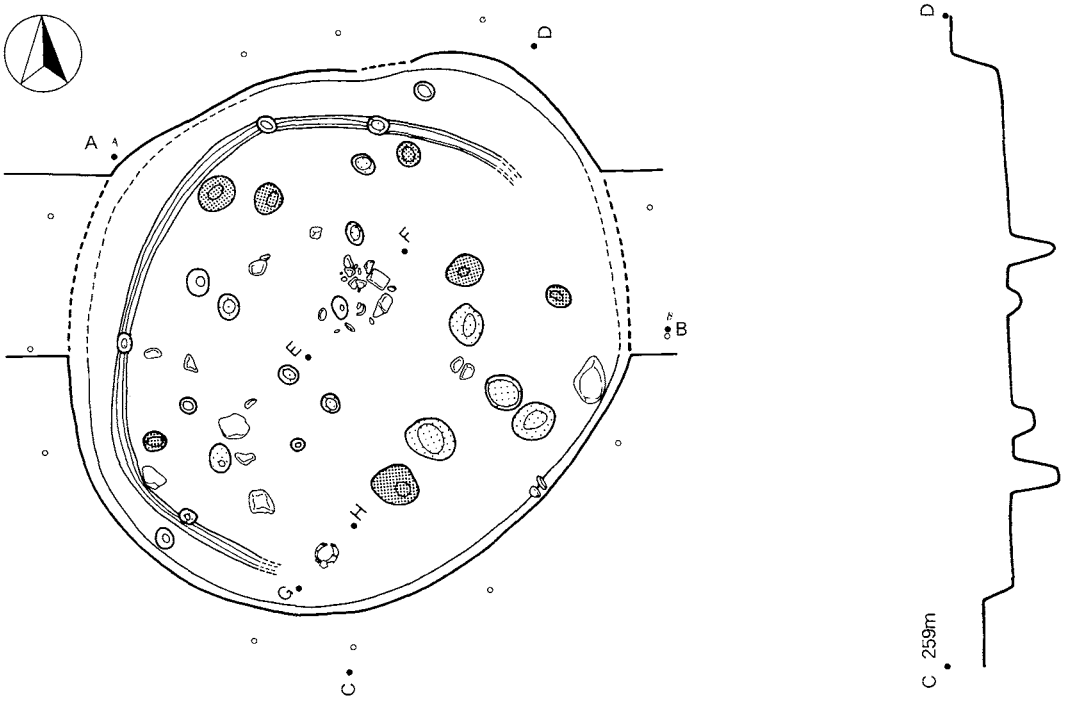
石器

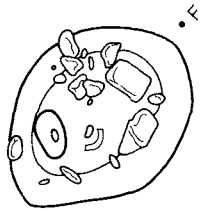
住居址に帰属すると思われる遺物は縄文時代の1号住のみであるので、以下に様相のみを記述する。

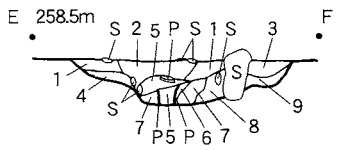
J－1号住居址出土の石器

黒曜石・チャート製の石鏃、楔形石器、両極技法によるフレイク、石錐、スクレイパー、打製石斧、磨石、石皿、凹石、敲石、砥石、丸石、磨製石斧（ミニチュアを含む）が出土している。

（伊藤）



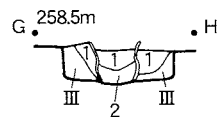




炉

B－7　炉

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		◎	×	×	×	×	×
2	暗褐色土層	1<2	◎	×		×	×	
3	褐色土層	1=3	◎	×	×	×	×	△
4	黒褐色土層		◎	×	△	×	△	×
5	赤褐色土層							
6	黒褐色土層		○	×	×	×	×	×

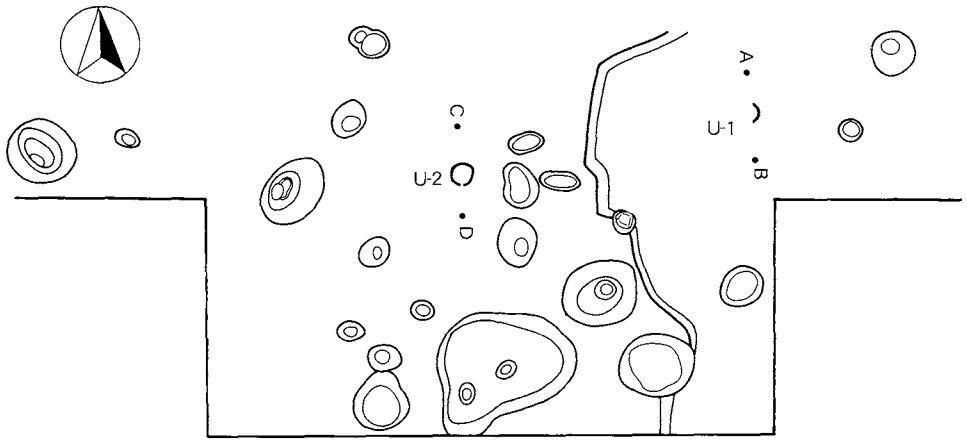


B－7　埋甕

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		◎	△	×	×	×	×
2	黒褐色土層	1<2	◎	△	×	×	×	×

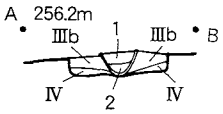
0　1m

第292図　J－1号住居址実測図

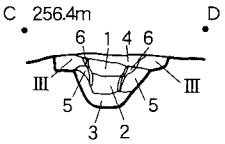


2B-12Grid周辺（住居址？）

0 4m



U-1



U-2

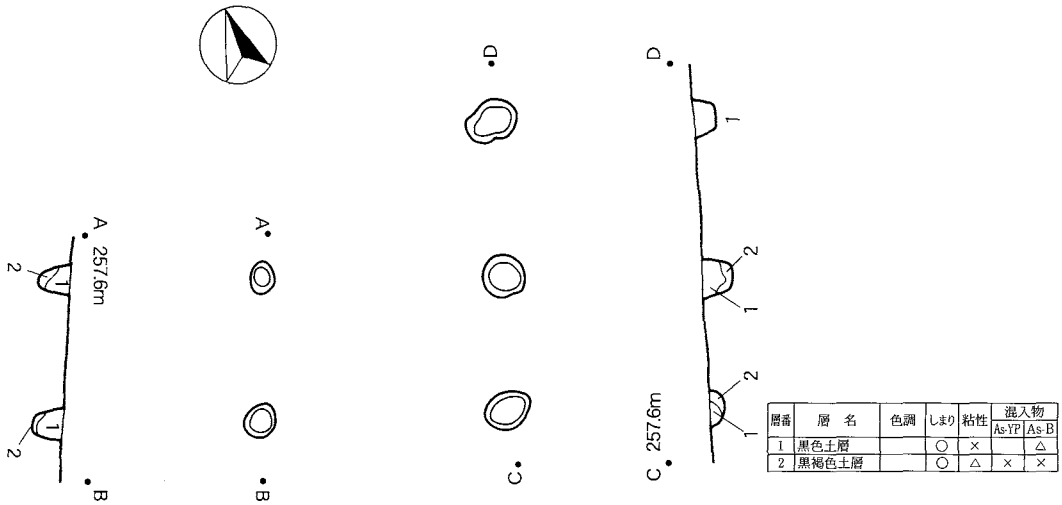
B－7　U－1

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		◎	△	×	×	×	×
2	黒褐色土層	1<2	◎	△	×	×	×	×

B－7　U－2

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		◎	×	×	×	×	×
2	暗褐色土層	1<2	◎	×		×	×	
3	褐色土層	1=3	◎	×	×	×	×	△
4	黒褐色土層		◎	×	△	×	△	×
5	赤褐色土層							
6	黒褐色土層		○	×	×	×	×	×

0 1m

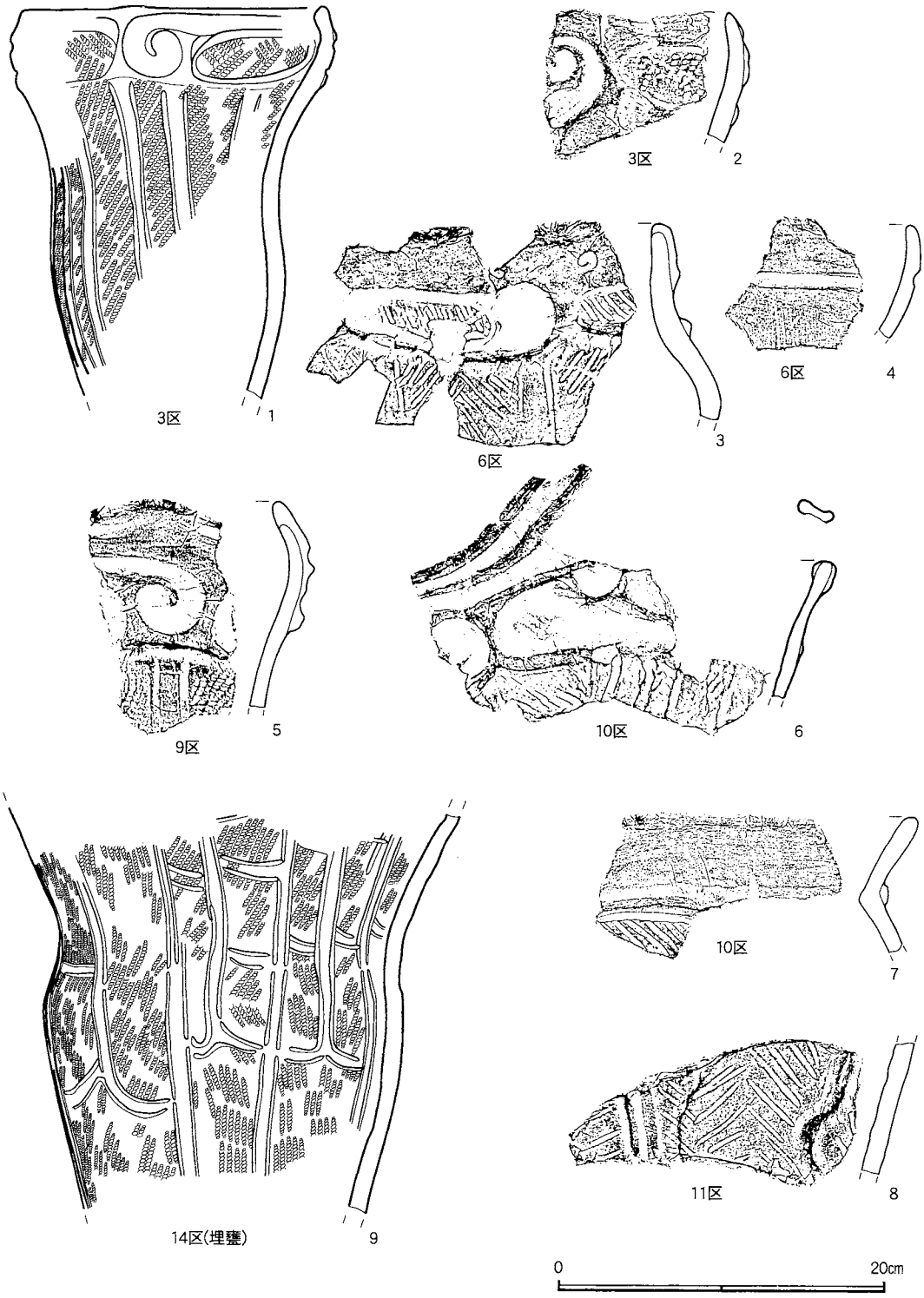


層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					As-YP	As-B
1	黒色土層		○	×		△
2	黒褐色土層		○	△	×	×

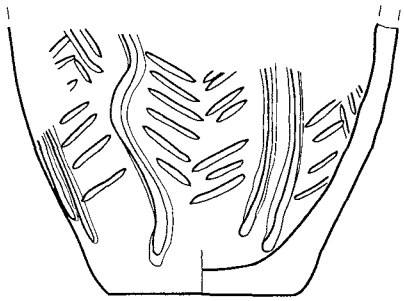
HT-1号堀立柱状建物址

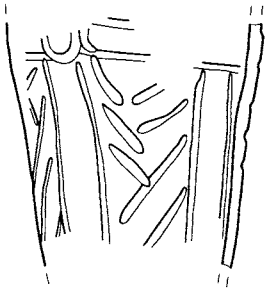
0 4m

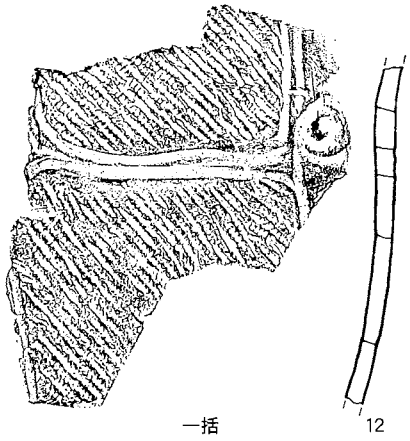
第293図　２Ｂ—12Grid 周辺・ＨＴ—１号掘立柱状建物址実測図

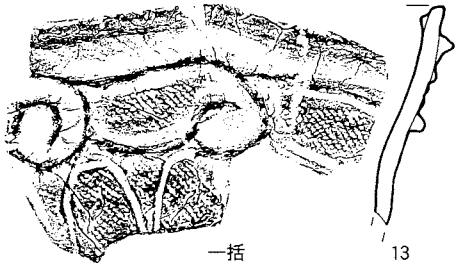


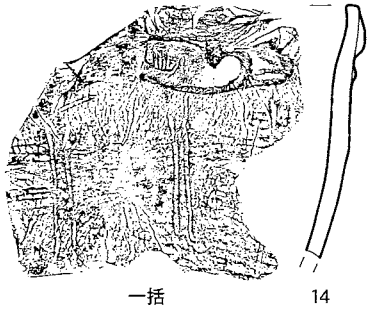
第294図　J－1号住居址出土遺物(1)

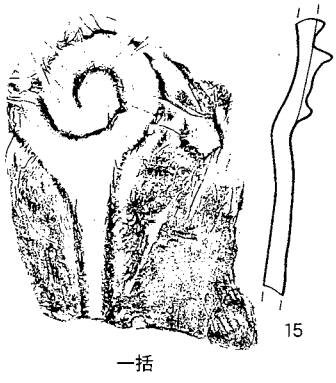


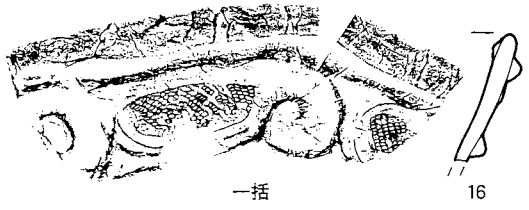


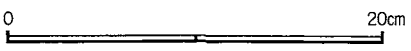




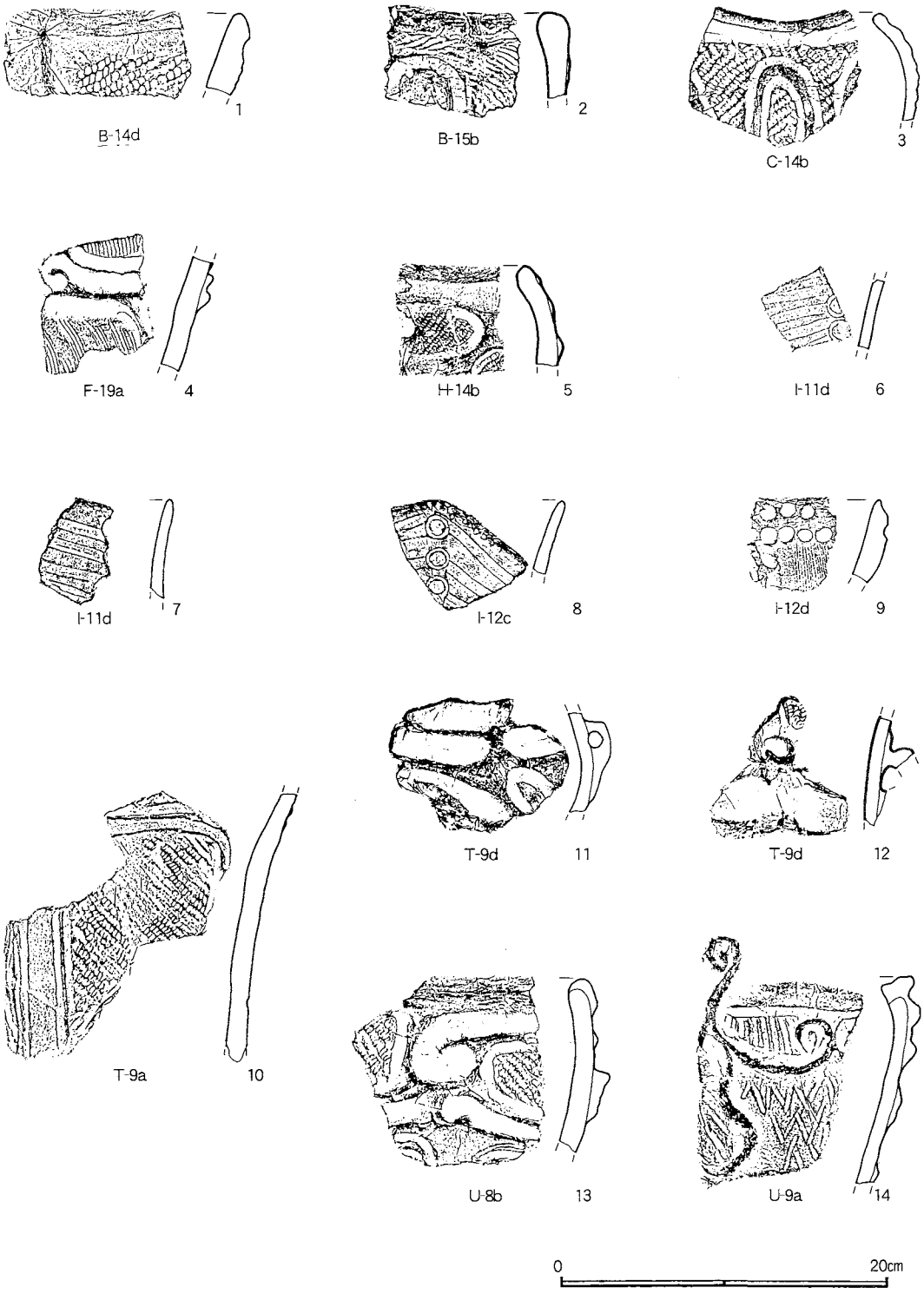




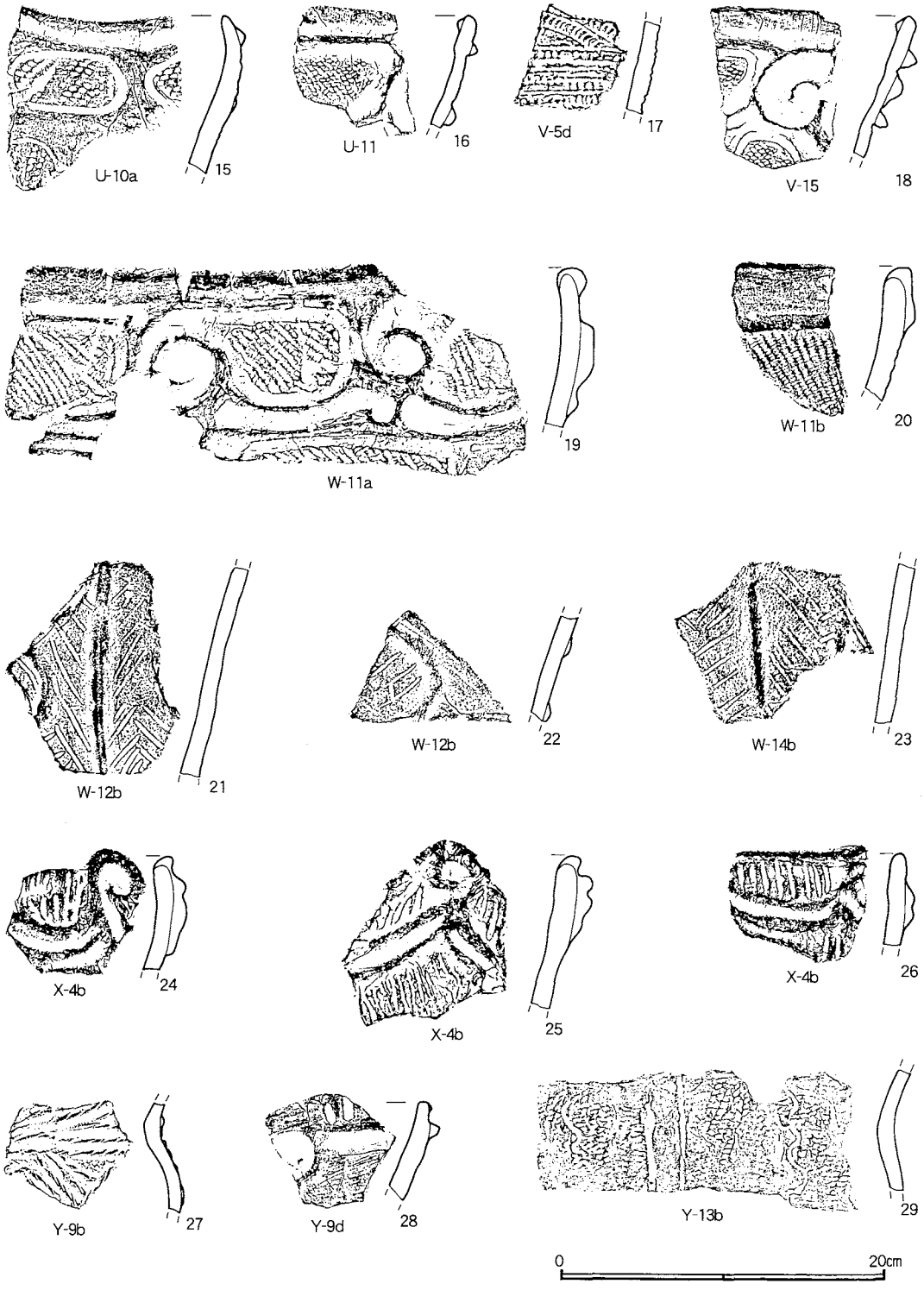




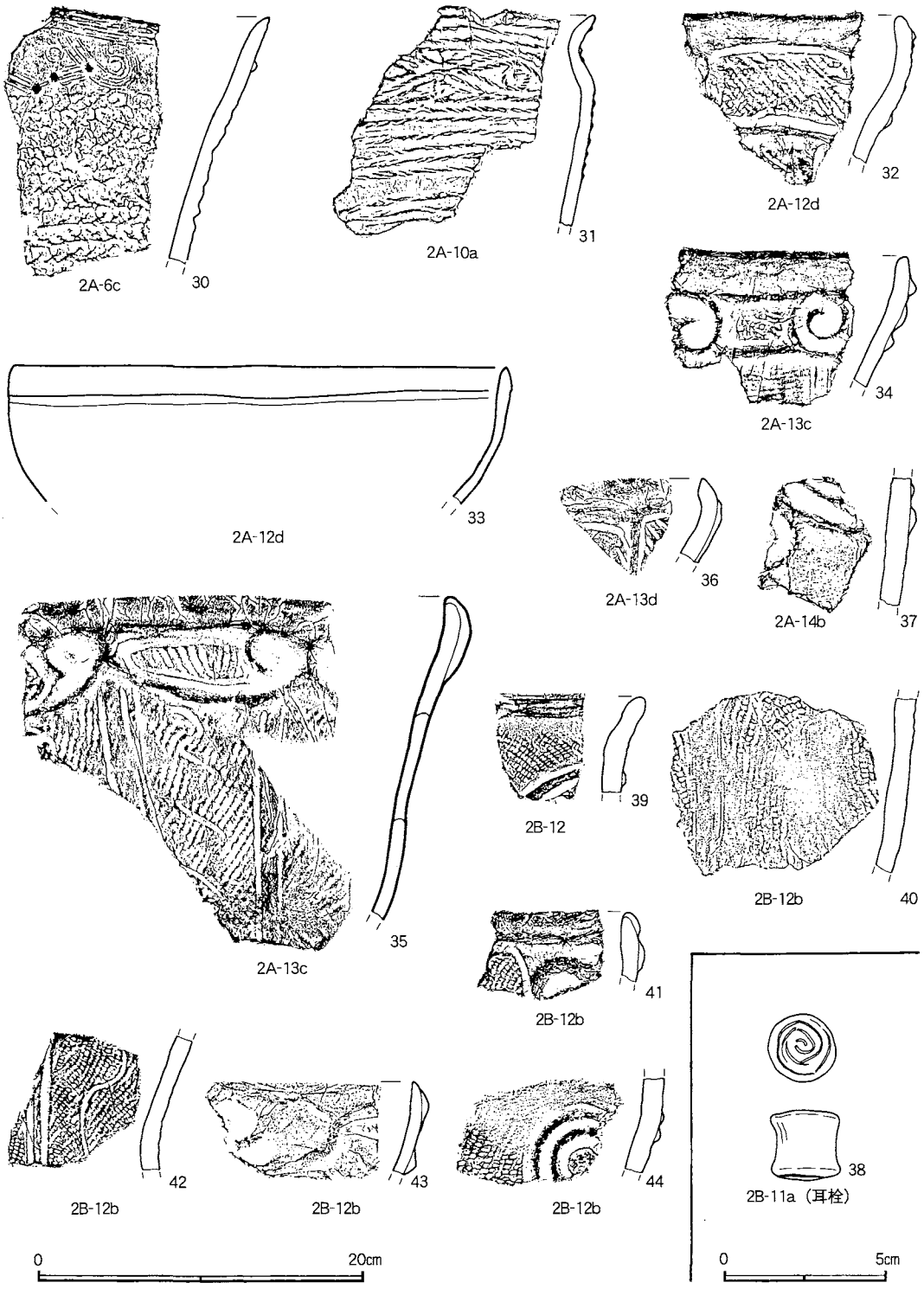
第295図　J－1号住居址出土遺物(2)



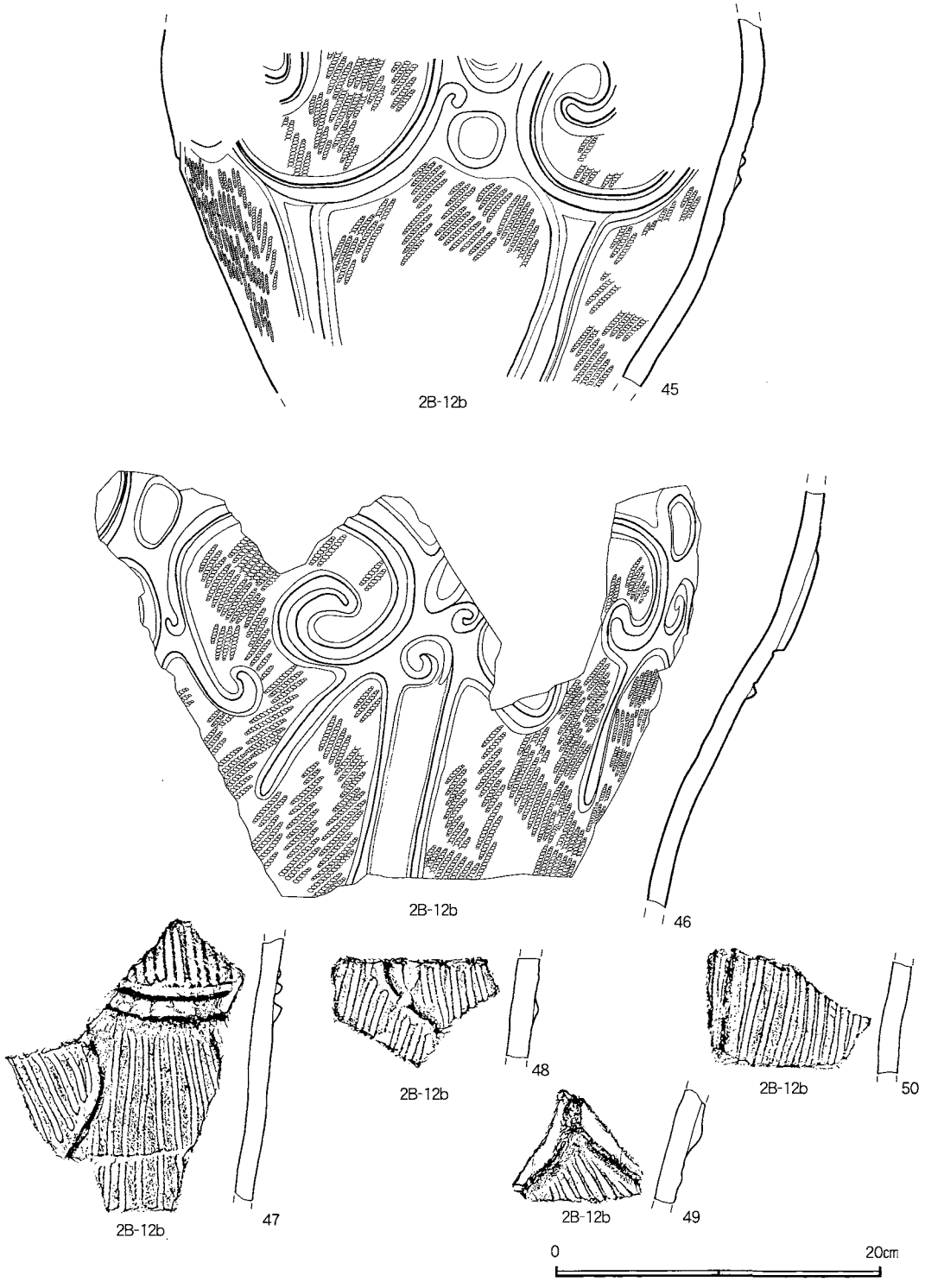
第296図　グリッド出土遺物



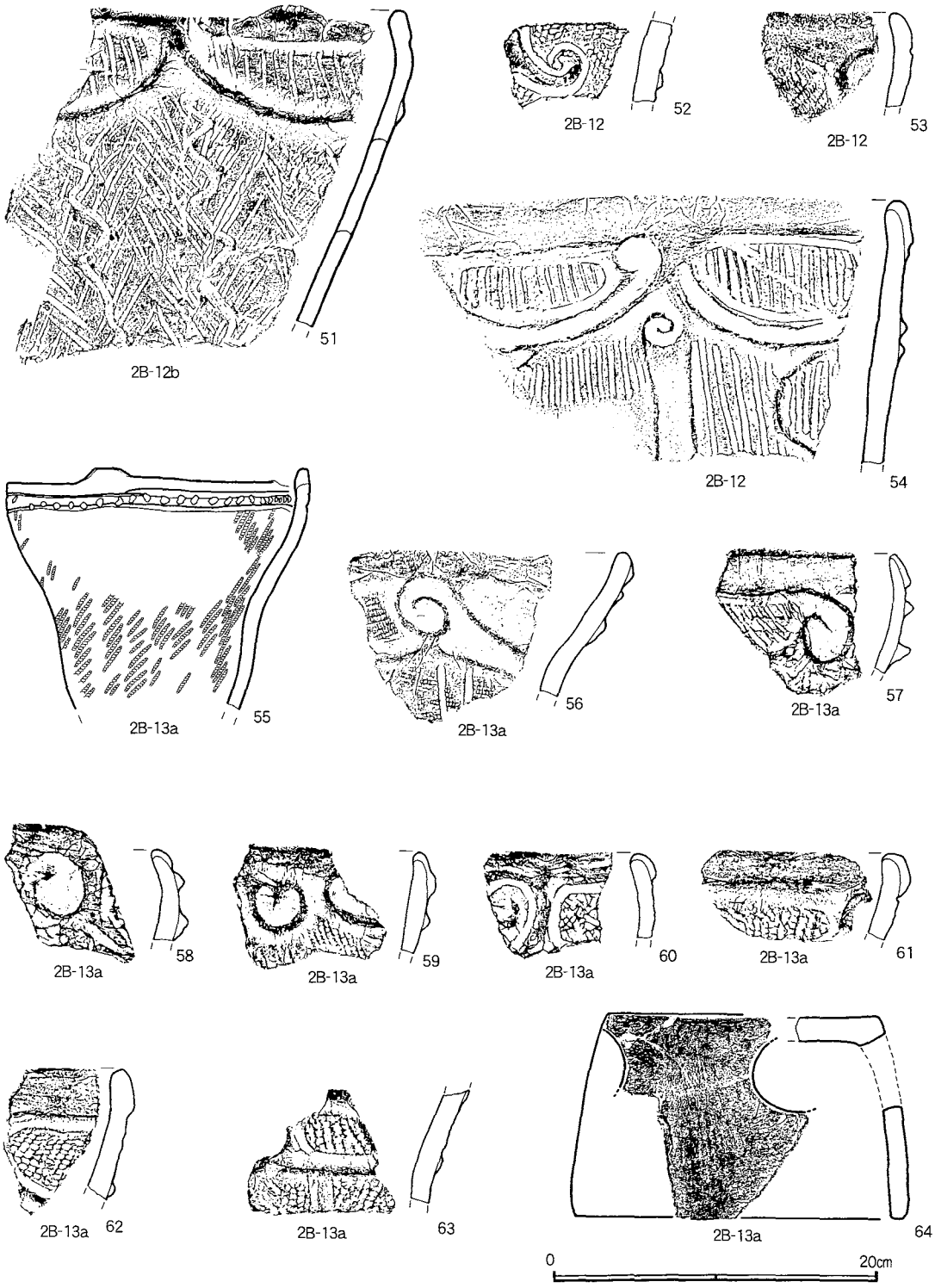
第297図　グリッド出土遺物



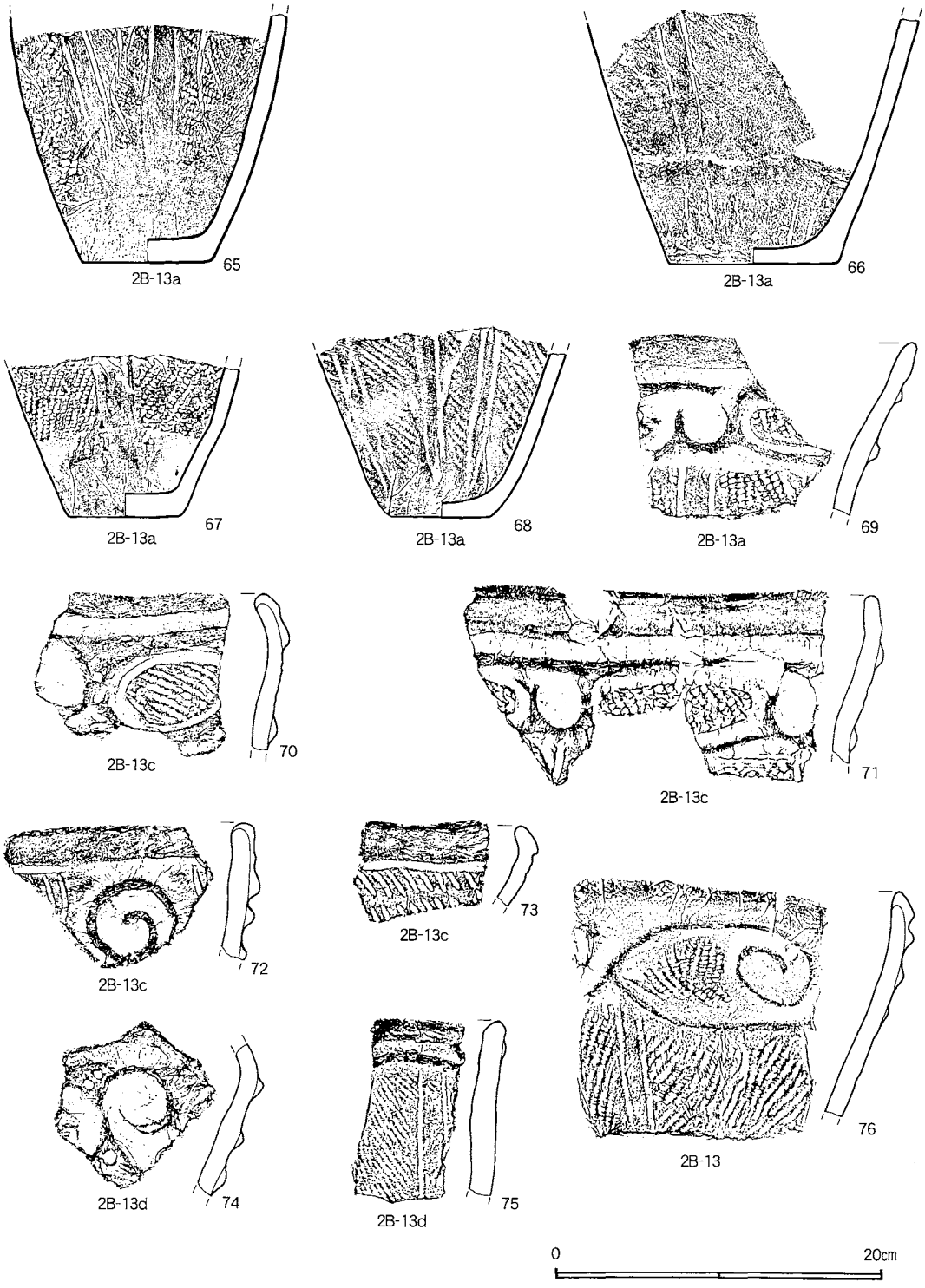
第298図　グリッド出土遺物



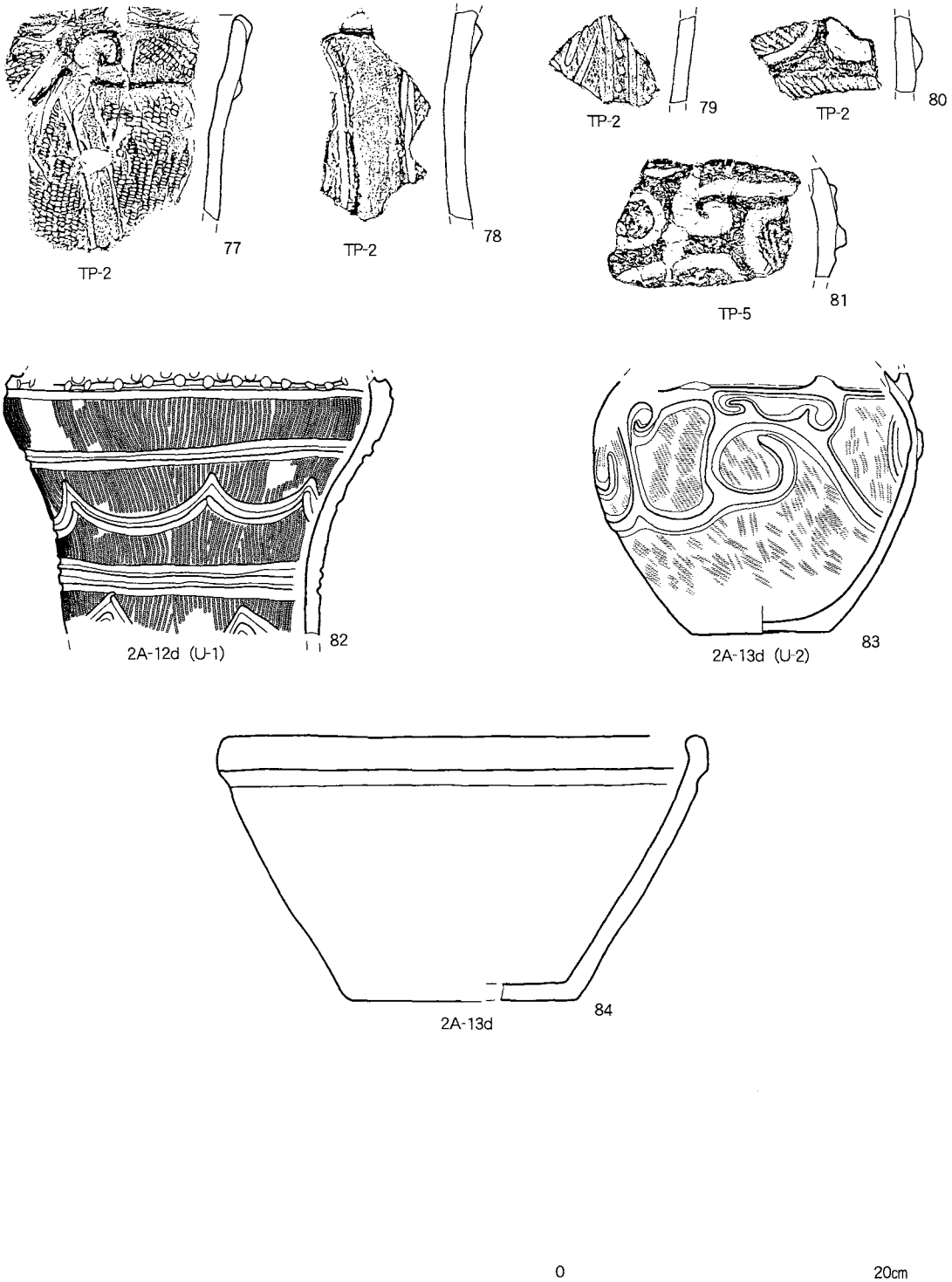
第299図　グリッド出土遺物



第300図　グリッド出土遺物



第301図　グリッド出土遺物



第302図　グリッド出土遺物

1号住居址

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	3区	キャリパー形を呈する深鉢形土器。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	18×－×(24)	良 黄橙	口縁部～胴部	
2	3区	波状口縁。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	－×－×－	良 浅黄橙	口縁部破片	
3	6区	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は隆帯に沿って沈線を廻らした後、斜位平行沈線を充填施文する。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 赤褐	口縁部破片	補修孔有り
4	6区	口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。以下胴部には、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
5	9区	波状口縁。口唇部に波頂部に向かう沈線が廻る。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
6	10区	波状口縁。口唇部に橋状把手を施す。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文する。胴部は三条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
7	10区	口縁部無文帯は、頸部で括れ“く”の字状に外反する。括れ部下に隆帯を弧状に配し、斜位平行沈線を充填施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
8	11区	二条の隆帯と波状隆帯を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
9	14区	胴部中位の括れ部からほぼ直線的に開く深鉢形土器。二条の沈線を垂下して縦位区画し、その間に横位の沈線をランダムに施す。	－×－×(24.6)	良 橙	胴部	
10	炉	胴部下位が膨らむ深鉢形土器。二条の隆帯と波状隆帯を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×9.8×(14.2)	良 黄橙	胴部～底部	
11	炉	胴部中位に弱い括れを有する。胴上部文様帯は、沈線で円形区画文を配し二条の沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×(13.1)	良 橙	胴部	
12	一括	沈線で上下に「∪」・「∩」状区画文を配する。区画文内は単節ＬＲを縦位施文する。区画に沿って沈線を垂下し、無文部に隆沈線で渦巻文を配する。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	
13	一括	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
14	一括	波状口縁。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は縦位平行沈線施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。横位の区画間に刺突を施す。胴部は沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＬＲを斜位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部～胴部	
15	一括	波状口縁。波頂部下に隆帯で渦巻文を配し、端部を垂下する。波頂部より斜位に隆帯を垂下し、渦巻文を配する。	－×－×－	良 浅黄橙	口縁部破片	
16	一括	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線で「∩」状区画文を配すると思われる。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	

グリッド

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
1	B－14d	幅広の沈線で楕円区画文を横位に配する。楕円区画文の縦位部分に隆帯を垂下し、区画文内に複節ＬＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
2	B－15b	沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内を無文とする。無節Ｌｒを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
3	C－14b	波状口縁。口唇部に沈線が廻る。二条の沈線で「∩」状区画文を配する。単節ＲＬを横位・縦位施文する。	－×－×－	良 浅黄橙	口縁部破片	
4	F－19a	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は櫛歯状工具による条線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。楕円区画文下に隆沈線で横位の蕨手文を施す。胴部は横位の隆帯と連結する隆帯を垂下して、縦位区画する。櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
5	H－14b	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	－×－×－	良 浅黄	口縁部破片	
6	I－11d	綾杉状沈線文の中央に竹管で円形刺突を施す。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
7	I－11d	波状口縁。口唇部に刻みを有する。綾杉状沈線文の中央に 竹管で円形刺突を施す。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
8	I－12c	波状口縁。口唇部に刻みを有する。綾杉状沈線文の中央に竹管で円形刺突を施す。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
9	I－12d	口縁部に二段の円形刺突を施す。沈線で文様施文し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
10	T－9a	二重の沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 赤褐	胴部破片	
11	T－9d	口縁部下に二条の隆帯を廻らし、橋状把手で繋ぐ。沈線で文様施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
12	T－9d	二条の隆帯を廻らし、橋状把手で繋ぐ。把手上部に渦巻文を配する。沈線で「∪」状区画文を配し、区画文内に単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
13	U－8b	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内に単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。楕円区画文下に隆沈線で横位の蕨手文を施す。胴部は沈線で「∩」状区画文を配する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
14	U－9a	口縁部文様帯を区画する沈線が廻る。突起部上端に隆帯で渦巻文を配し、そのまま隆帯を垂下して口縁部文様帯に弧状の渦巻文を区画する。区画内は縦位平行沈線施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は突起部より波状隆帯を垂下して縦位区画し、「∨」状沈線文を横位施文する。	－×－×－	良 黄橙	突起を有する口縁部破片	
15	U－10a	波状口縁。口唇部に沈線が廻る。口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は複節ＬＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は細い沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に複節ＬＲＬを斜位施文する。	－×－×－	良 淡黄	口縁部破片	
16	U－11	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。口縁部内面に隆帯が廻る。	－×－×－	良 明赤褐	口縁部破片	
17	V－5d	爪形文を横位・弧状に施す。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
18	V－15	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 明赤褐	口縁部破片	

グリッド

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
19	W－11a	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。楕円区画文下に隆沈線で横位の蕨手文を施す。胴部は沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
20	W－11b	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。０段多条ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
21	W－12b	隆帯と波状隆帯を交互に垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	
22	W－12b	波状隆帯を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
23	W－14b	隆帯と波状隆帯を交互に垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
24	X－4b	突起部に隆帯で渦巻文を配し、そのまま二条の隆帯を垂下して、口縁部文様帯を弧状に区画する。区画文内は縦位平行沈線を充填施文する。	－×－×－	良 橙	突起を有する口縁部破片	
25	X－4b	突起部に隆帯で渦巻文を配し、そのまま二条の隆帯を垂下して、口縁部文様帯を弧状に区画する。区画文内は縦位平行沈線を充填施文する。胴部は撚糸文を施す。	－×－×－	良 橙	突起を有する口縁部破片	
26	X－4b	突起部に隆帯で渦巻文を配し、そのまま二条の隆帯を垂下して、口縁部文様帯を弧状に区画する。区画文内は縦位平行沈線を充填施文する。	－×－×－	良 橙	突起を有する口縁部破片	
27	Y－9b	刻みを施した浮線を横位・斜位に施す。	－×－×－	良 赤褐	胴部破片	
28	Y－9d	波状口縁。波頂部下に二条の沈線を垂下する。隆帯で渦巻文を配する。	－×－×－	良 明赤褐	口縁部破片	
29	Y－13b	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。縄文帯内に波状沈線を垂下する。	－×－×－	良 黄橙	胴部破片	
30	2A－6c	波状口縁。口縁に沿って二条の平行沈線を廻らす。口縁部文様帯は、平行沈線で幾何学文を施文する。円形竹管を刺突し、粘土瘤を貼付する。胴部縄文帯はループ文を施す。	－×－×－	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
31	2A－10a	口唇部に刻目を有する。刻みを施した浮線文を弧状・渦巻状に施す。地文は単節ＲＬを横位施文する。	－×－×－	良 浅黄橙	口縁部破片	
32	2A－12d	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内に単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
33	2A－12d	口縁部に沈線が廻る。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
34	2A－13c	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、口縁部文様帯を構成する隆帯の渦巻文と連結する。渦巻文同士を連結する横位の隆帯が廻り、区画内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文後、横位の沈線を施す。	－×－×－	良 橙	口縁部破片	
35	2A－13c	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は０段多条ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、０段多条ＲＬを縦位施文する。縄文帯内に波状沈線を垂下する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
36	2A－13d	口縁部に無文帯を有する。隆帯で「∩」状区画文を配し、区画文内に斜位平行沈線を充填施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に斜位平行沈線を充填施文する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
37	2A－14b	隆帯で文様施文し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	

グリッド

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
38	2Ｂ—11ａ	臼形。内面は平坦で外面は凸面となる。内面に沈線で渦巻文を施す。		良 にぶい黄橙	完形	耳栓
39	2Ｂ—12	口縁部に無文帯を有する。隆帯で文様施文し、単節ＲＬを横位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
40	2Ｂ—12ｂ	細い二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを横位・縦位施文する。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
41	2Ｂ—12ｂ	口縁部無文帯を区画する沈線が廻り、その沈線と一部重ねて沈線で楕円区画文を配する。区画内は単節ＲＬを縦位施文する。隆帯で渦巻文を配すると思われる。	—×—×—	良 黄橙	口縁部破片	
42	2Ｂ—12ｂ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。縄文帯内に波状沈線を垂下する。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
43	2Ｂ—12ｂ	口縁部文様帯に隆帯で文様施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
44	2Ｂ—12ｂ	二条の隆帯で渦巻文を配し、単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
45	2Ｂ—12ｂ	胴部上位に最大径を有する土器。胴上部文様帯は、隆帯で渦巻文を主体とした曲線文を配する。胴下部は、曲線文に連結した二条の隆帯を垂下して縦位区画する。単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×(22.5)	良 橙	胴部破片	
46	2Ｂ—12ｂ	胴部上位に最大径を有し、胴部中位でやや括れる土器。胴上部文様帯は、隆帯で渦巻文を主体とした曲線文を配する。胴下部は、曲線文に連結した二条の隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×(25.5)	良 橙	胴部破片	
47	2Ｂ—12ｂ	口縁部文様帯は、二条の隆帯で弧状区画文を横位に配する。区画文内は縦位平行沈線を充填施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は波状隆帯を垂下して縦位区画し、縦位・斜位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 黄橙	胴部破片	
48	2Ｂ—12ｂ	波状隆帯を垂下して縦位区画し、縦位・斜位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 黄橙	胴部破片	
49	2Ｂ—12ｂ	口縁部文様帯は、隆帯で弧状区画文を横位に配すると思われる。斜位平行沈線を充填施文する	—×—×—	良 橙	胴部破片	
50	2Ｂ—12ｂ	隆帯を垂下して縦位区画し、 縦位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
51	2Ｂ—12ｂ	舌状突起を有する。口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は楕円区画文の上部隆帯に沿って沈線を廻らした後、縦位平行沈線を充填施文する。胴部は波状沈線を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文する。	—×—×—	良 黄橙	口縁部破片	
52	2Ｂ—12	隆帯とそれに沿う沈線で渦巻文を配する。単節ＲＬを横位・縦位施文する。	—×—×—	良 明赤褐	胴部破片	
53	2Ｂ—12	隆沈線で文様施文し、単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
54	2Ｂ—12	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は縦位平行沈線施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。楕円区画文下から区画文の連結部に、隆沈線で横位の蕨手文を施す。胴部は二条の隆帯と波状隆帯を垂下して、縦位区画する。二条の隆帯の内一本は上端が蕨手文となる。縦位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
55	2Ｂ—13ａ	胴部中位が括れ、舌状突起を有する口縁が内彎気味に膨らむ土器。口縁部に平行沈線を廻らし、沈線内に刺突を施す。単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部～胴部	
56	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを横位施文する。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	—×—×—	良 黄橙	口縁部破片	

グリッド

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
57	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は斜位平行沈線を充填施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線を垂下して縦位区画し、綾杉状沈線文を充填施文すると思われる。	—×—×—	良 黄橙	口縁部破片	
58	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯に隆帯で渦巻文を配する。	—×—×—	良 にぶい黄橙	口縁部破片	
59	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で「♡」状区画文・楕円区画文を横位に配する。単節ＲＬを横位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
60	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	—×—×—	良 明黄褐	口縁部破片	
61	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	—×—×—	良 明赤褐	口縁部破片	
62	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＲＬを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	—×—×—	良 明赤褐	口縁部破片	
63	2Ｂ—13ａ	口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は複節ＲＬＲを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、複節ＲＬＲを横位・縦位施文する。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
64	2Ｂ—13ａ	台形状を呈し、側面に円孔を有する。内外面共に良く磨かれている。	—×—×—	良 黄橙	破片	器台
65	2Ｂ—13ａ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ・単節ＬＲを縦位施文する。縄文帯内に波状沈線を垂下する。	—×—×—	良 黄橙	胴部～底部	
66	2Ｂ—13ａ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、無節Ｌｒを縦位施文する。	—×—×—	良 橙	胴部～底部	
67	2Ｂ—13ａ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	—×—×—	やや不良 橙	胴部～底部	
68	2Ｂ—13ａ	二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	—×—×—	やや不良 橙	胴部～底部	
69	2Ｂ—13ａ	口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は複節ＲＬＲを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は、二条の沈線を垂下して縦位区画し、複節ＲＬＲを横位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
70	2Ｂ—13ｃ	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。口縁部文様帯は、隆帯で楕円区画文を横位に配する。区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。横位の区画間に刺突を施す。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
71	2Ｂ—13ｃ	口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを横位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
72	2Ｂ—13ｃ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文を配する。口縁部無文帯を区画する沈線が、渦巻文の上部で途切れる。渦巻文の両脇に縦位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 明赤褐	口縁部破片	
73	2Ｂ—13ｃ	口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。沈線以下には、斜位平行沈線を充填施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	
74	2Ｂ—13ｄ	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。渦巻文と楕円区画文が連結する部分に刺突を施す。	—×—×—	良 橙	胴部破片	
75	2Ｂ—13ｄ	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	—×—×—	良 橙	口縁部破片	

グリッド

番号	出土位置	文　　様	法　量 口径×底径×器高	焼成・色調	残　存	備　考
76	2 B－13	波状口縁。口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は0段多条ＲＬを横位・縦位施文する。胴部は、二条の沈線を垂下して縦位区画し、0段多条ＲＬを縦位施文する。縄文帯内に波状沈線を垂下する。	－×－×－	良 黄橙	口縁部破片	
77	ＴＰ－2	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＲＬを横位施文する。胴部は二条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－×－×－	良 明赤褐	口縁部破片	
78	ＴＰ－2	横位の隆帯と連結する二条の隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。隆帯に沿って縄文帯内側に沈線を施す。	－×－×－	良 明赤褐	胴部破片	
79	ＴＰ－2	二条の沈線を垂下して縦位区画し、沈線間に刺突を施す。綾杉状沈線文を充填施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
80	ＴＰ－2	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は単節ＬＲを縦位施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。胴部は単節ＬＲを縦位施文する。	－×－×－	良 橙	胴部破片	
81	ＴＰ－5	口縁部文様帯は、隆帯で渦巻文と連結する楕円区画文を横位に配する。楕円区画文内は縄文を施すが摩滅により不明。	－×－×－	不良 橙	胴部破片	
82	2 A－12d 埋甕－1	口縁部は内彎し、胴部中位に括れを有する土器。口縁部に二条の沈線を廻らし、上部の沈線に重なる刺突を二条に施す。胴部は二条の沈線と二条の沈線による連弧文を交互に廻らす。地文は撚糸文を施す。	－×－×(15.8)	良 橙	胴部～底部	
83	2 A－13d 埋甕－2	胴部上位に最大径を有する土器。口縁部下に隆帯を廻らして橋状把手を施す。胴上部文様帯は、隆帯で渦巻文を主体とした曲線文を配する。無節Ｌｒを縦位施文する。	－×8.3×(15.6)	良 黄橙 43	胴部～底部	
84	2 A－13d	底部が小さく平縁の口縁部に向かって大きく開く浅鉢形土器。口縁部に沈線が廻る。	28.8×(13.6)×16	良 橙	口縁部～底部	

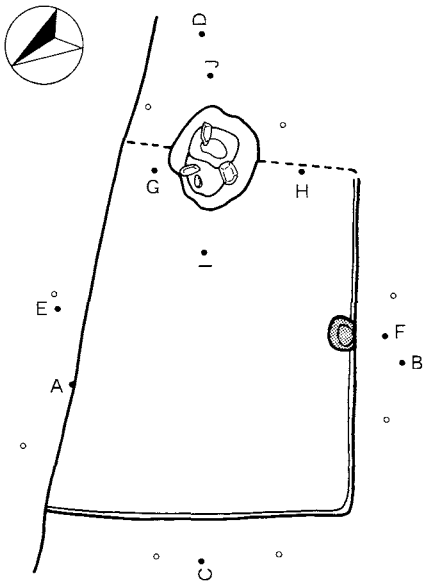
（鬼形）

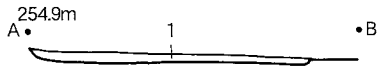
(3) 奈良・平安時代の遺構と遺物（第303～334図）

北原II遺跡H住居址諸元

住居名	平面形態	規模（m・m²）					主軸方向	竈位置	周堀	備考
		長軸	短軸	深さ		面積				
				最大	最小					
H－1	縦長方形	3.92	2.56	0.15	—	—	N－123°－E	東壁		
H－2	横長方形	4.8	3.28	0.18	0.03	17.09	N－25°－E	北壁東より		
H－3	縦長方形	4.8	3.84	0.46	0.22	19.02	N－113°－E	東壁南より	最大深さ0.51m 住居の全周	
H－4	正方形	4.56	4	0.52	0.03	19.64	N－320°－E	西壁南より		
H－5	正方形	4.72	2.08	0.61	0.02	—	N－111°－E	東壁	最大深さ0.67m 住居の全周及内部	
H－7	縦長方形	3.6	2.32	0.26	0.12	8.89	N－120°－E	東壁中央		
H－8	正方形	5.44	4.8	0.77	0.26	27.69	N－328°－E	北壁中央		
H－9	正方形	4.24	3.52	0.49	0.14	16.15	N－46°－E	東壁の南端		
H－11	縦長方形	4.96	2.96	0.44	0.17	15.61	N－55°－E	東壁南より		
H－12	縦長方形	4.24	2.96	0.21	0.04	12.04	N－123°－E	東壁中央		
H－13	不明	3.68	1.52	0.41	0.16	—	N－39°－E	東壁		
H－14	不明	3.44	0.64	0.26	0.16	—	N－68°－E	東壁中央		
H－15	縦長方形	3.84	2.8	0.47	0.36	11.98	N－61°－E	東壁南より	最大深さ0.7m 住居の全周	
H－17	不明	3.44	1.52	0.25	0.18	—	—	不明		
H－18	不明	4.72	—	0.3	0.18	—	N－100°－E	不明		

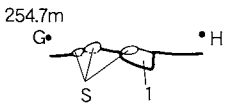
（広山）

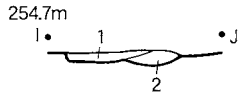




H－1号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					As-B	焼土	炭化物
1	暗褐色土層		○	×	△	※	※

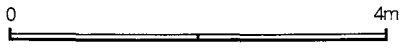




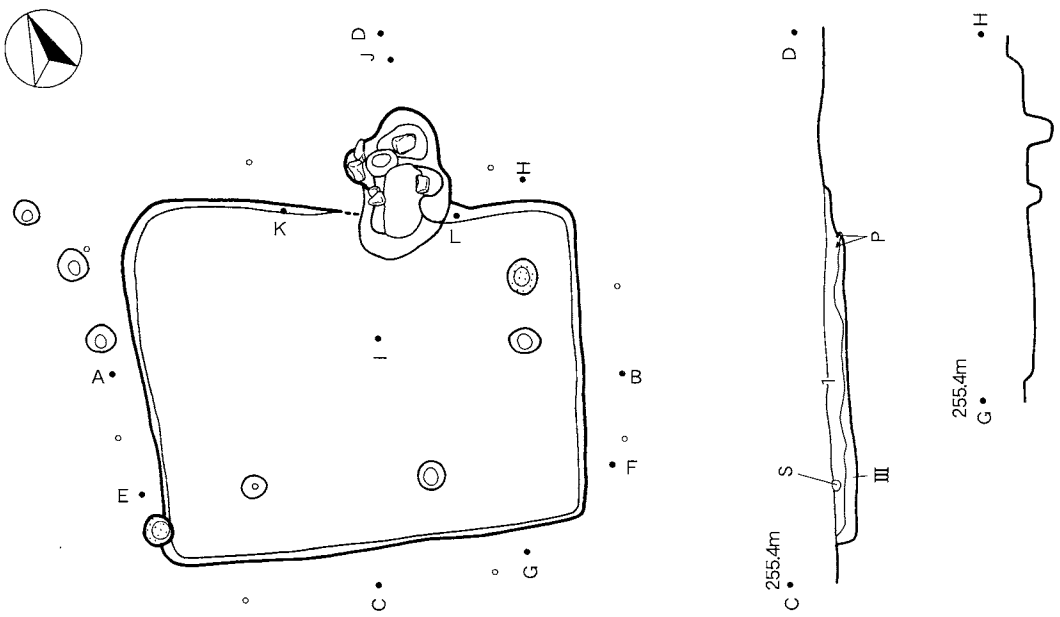
カマド

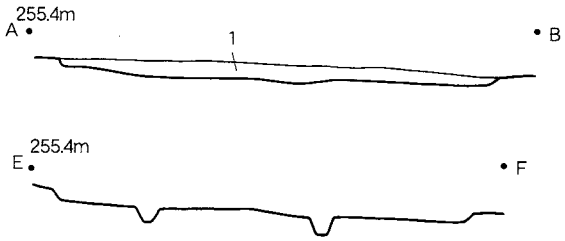
H－1号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				備考
					WP	RP	焼土	炭化物	
1	暗褐色土層		◎	×	△	※	※	※	
2	赤褐色土層		◎	×	※		△	※	焼土はブロック状



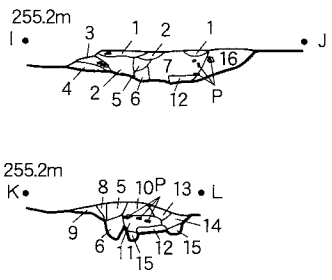
第303図　H－1号住居址実測図





H－2号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					As-B	焼土	炭化物
1	暗褐色土層		○	×	△	△	○



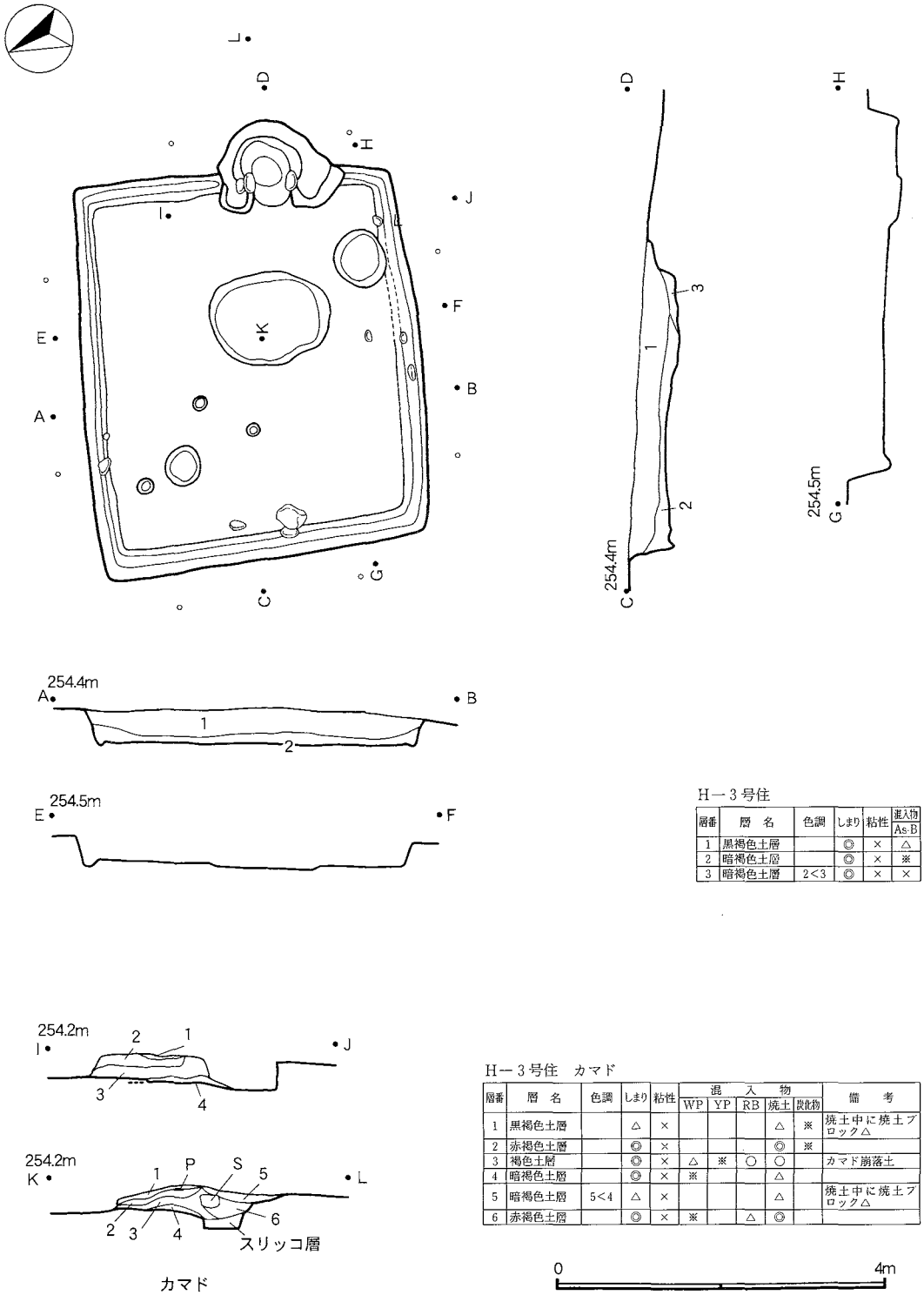
カマド

H－2号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物							備考
					WP	YP	RP	RB	As-B	焼土	炭化物	
1	暗褐色土層		◎	×	△		※			※	※	
2	暗褐色土層		○	×		※		△	※	○	△	
3	暗褐色土層	2＜3	○	×				△	※	△	△	
4	暗褐色土層	3＝4	○	×						△	○	
5	黒色土層		△	×					○			
6	黒色土層	5＜6	△	×		※			○	※	※	
7	暗褐色土層	2＜7	◎	×						△	○	
8	暗褐色土層		○	×			※	△		△	※	焼土中に焼土ブロック※
9	黒褐色土層		○	×						△	△	焼土中に焼土ブロック※
10	暗褐色土層		○	×				※		△	△	
11	暗赤褐色土層	13＜11	○	×						○	△	焼土中に焼土ブロック○
12	明赤褐色土層		◎	×								
13	暗褐色土層	13＜10	○	×		※				※	※	
14	暗褐色土層		○	×						※	△	
15	赤褐色土層		○	×		※				○		焼土中に焼土ブロック○
16	暗赤褐色土層		◎	×						○	○	カマド崩落土

0　4m

第304図　H－2号住居址実測図



H－3号住

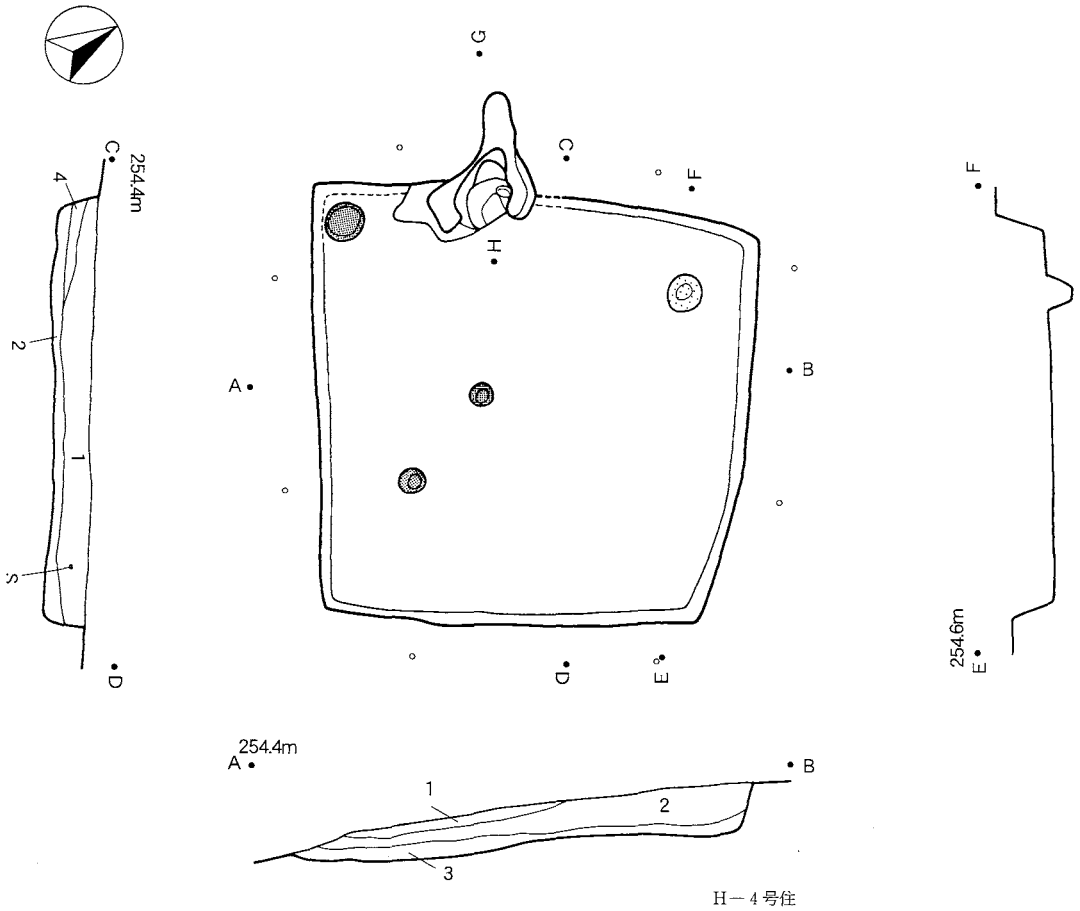
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As·B
1	黒褐色土層		◎	×	△
2	暗褐色土層		◎	×	※
3	暗褐色土層	2<3	◎	×	×

H－3号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RB	焼土	炭化物	備　考
1	黒褐色土層		△	×				△	※	焼土中に焼土ブロック△
2	赤褐色土層		◎	×				◎	※	
3	褐色土層		◎	×	△	※	○	○		カマド崩落土
4	暗褐色土層		◎	×	※			△		
5	暗褐色土層	5<4	△	×				△		焼土中に焼土ブロック△
6	赤褐色土層		◎	×	※		△	◎		

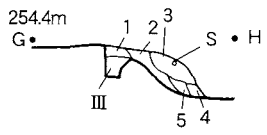
0　4m

第305図　H－3号住居址実測図



H－4号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	RP	As-B	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		○	×			○		
2	黒褐色土層	1＝2	○	×			△		
3	暗褐色土層		◎	×	※	※	※	※	※
4	暗褐色土層	3＜4	○	×	※	※	×	※	※

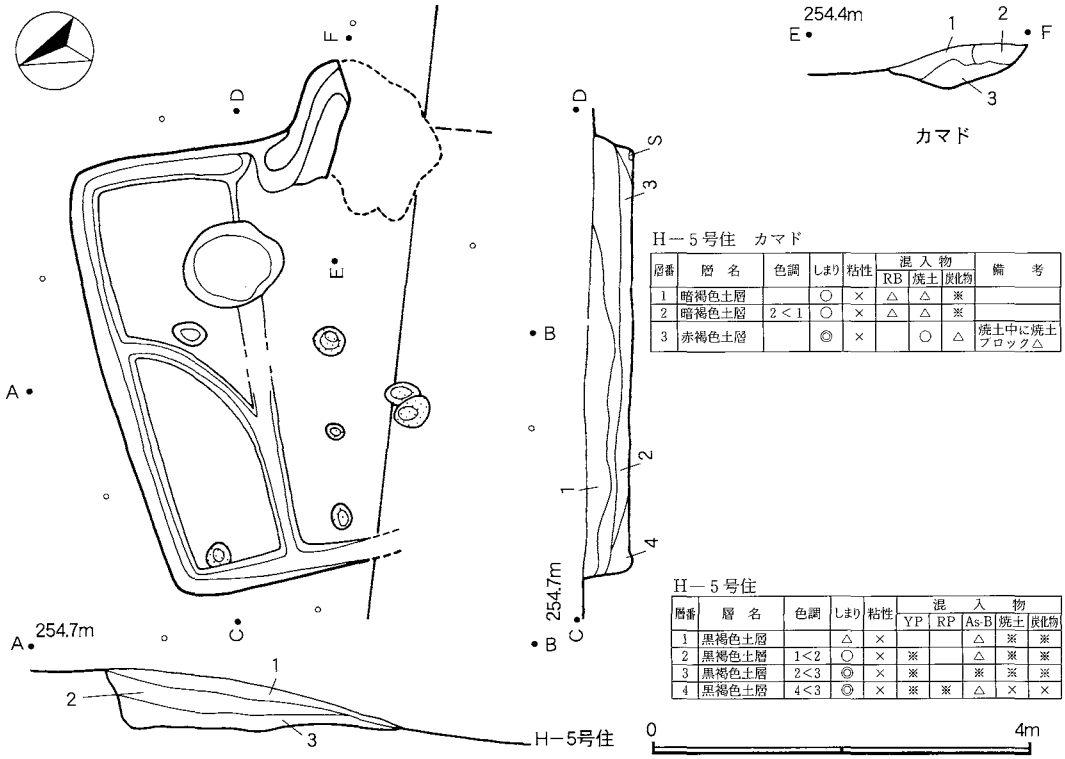


カマド

H－4号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	RP	RB	As-B	焼土	炭化物	備考
1	暗褐色土層		○	×			※	※	△		焼土はブロック状
2	赤褐色土層		○	×			※		○	△	焼土はブロック状
3	暗褐色土層	1＜3	○	×	※	※	※		△		焼土はブロック状
4	褐色土層		◎	×		△	△		※		
5	暗褐色土層		○	×		※	△		※		焼土中に焼土ブロック※

第306図　H－4号住居址実測図

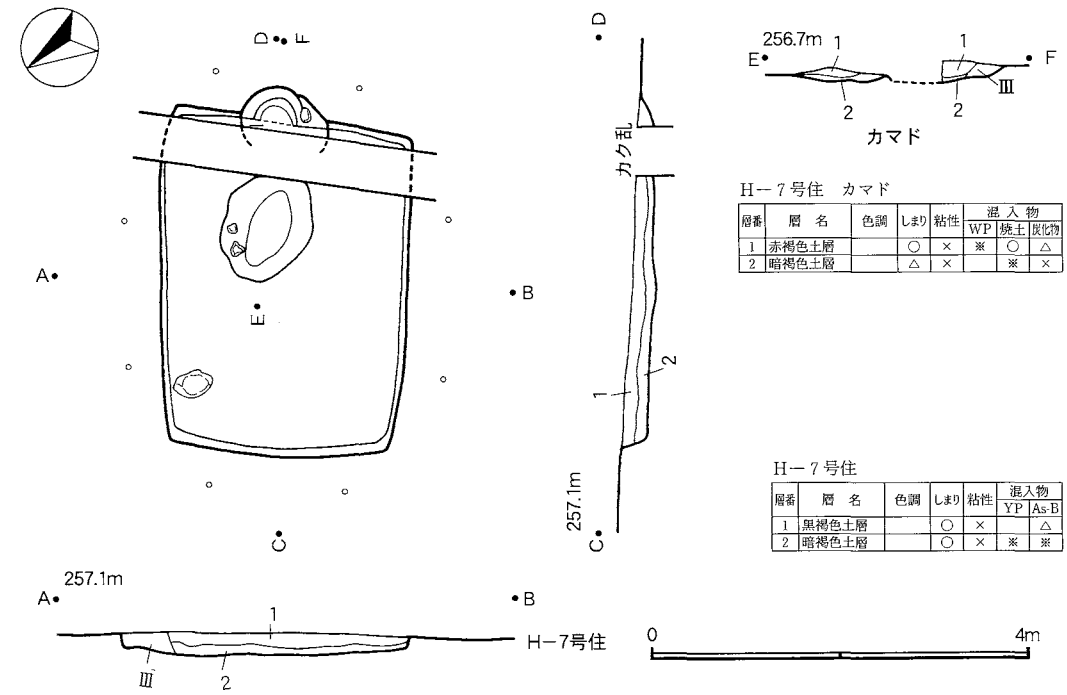


H−5号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 焼土	混入物 炭化物	備考
1	暗褐色土層		○	×	△	△	※	
2	暗褐色土層	2＜1	○	×	△	△	※	
3	赤褐色土層		◎	×		○	△	焼土中に焼土ブロック△

H−5号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 As-B	混入物 焼土	混入物 炭化物
1	黒褐色土層		△	×			△	※	※
2	黒褐色土層	1＜2	○	×	※		△	※	※
3	黒褐色土層	2＜3	◎	×	※		※	※	※
4	黒褐色土層	4＜3	◎	×	※	※	△	×	×



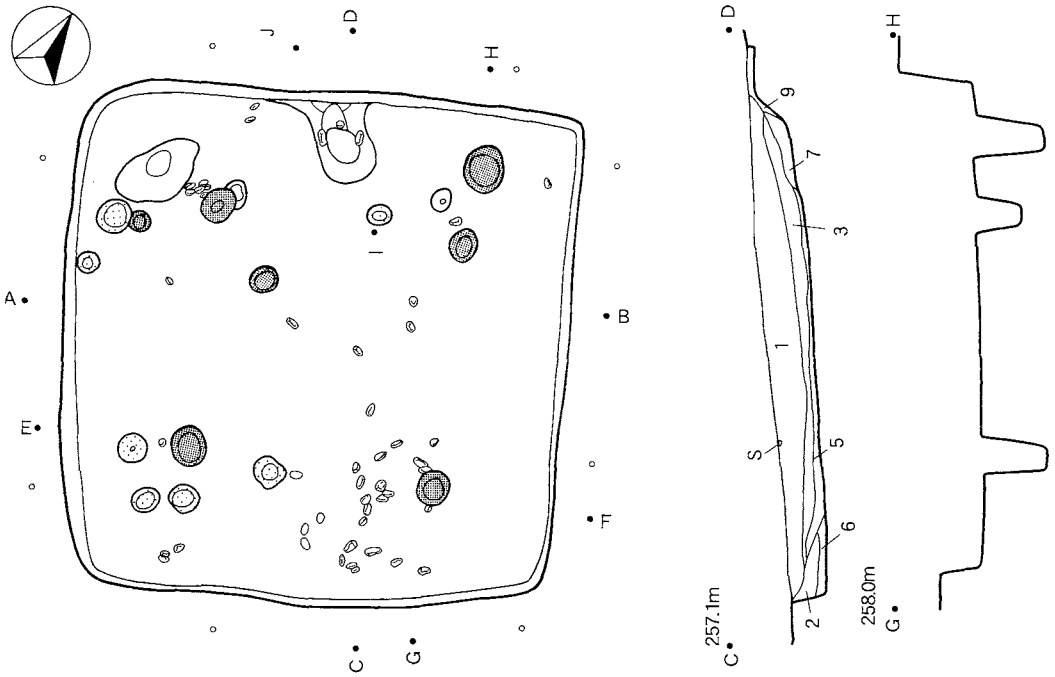
H−7号住　カマド

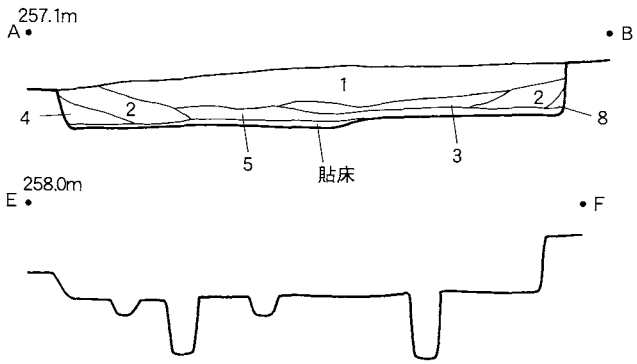
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 焼土	混入物 炭化物
1	赤褐色土層		○	×	※	○	△
2	暗褐色土層		△	×		※	×

H−7号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 As-B
1	黒褐色土層		○	×		△
2	暗褐色土層		○	×	※	※

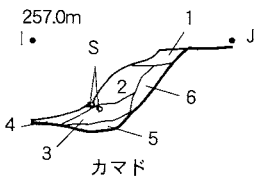
第307図　H−5・7号住居址実測図





H－8号住

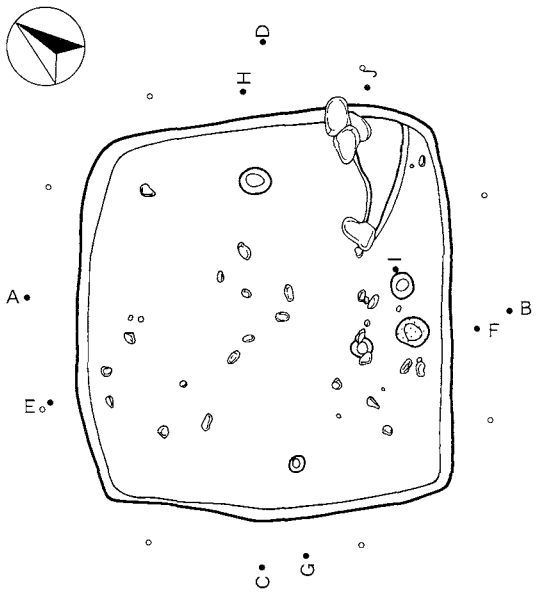
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RB	As-B	炭化物
1	黒褐色土層		○	×				△	
2	暗褐色土層		○	×			※	※	
3	黒褐色土層	1＝3	○	×		※		△	△
4	暗褐色土層		○	×				※	
5	暗褐色土層		○	×	※		※	※	○
6	暗褐色土層		○	×	※		※	※	○
7	黒褐色土層	2＝7	○	×					

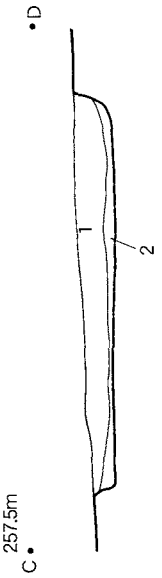


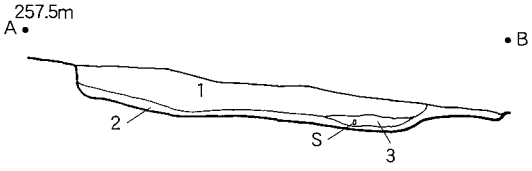
H－8号住　カマド

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	As-B	焼土	炭化物	備考
1	黒褐色土層		○	×					△			
2	暗褐色土層		○	×	※	※		○		△	△	カマド崩落土
3	暗褐色土層	3＜2	○	×		△		△		○	※	焼土中に焼土ブロック※ カマド崩落土
4	黒褐色土層		○	×		※				※	※	
5	暗褐色土層	3＜5	○	×		○		※		△	※	
6	暗褐色土層		◎	×	○		※			※		非常に硬くしまっている

第308図　H－8号住居址実測図

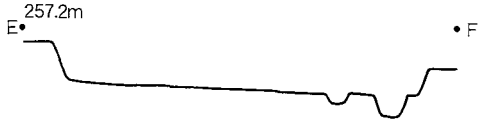


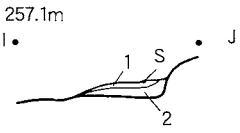




H－9号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B
1	黒褐色土層		◎	×	○
2	黒褐色土層	1<2	◎	×	※
3	黒褐色土層	2=3	◎	×	※



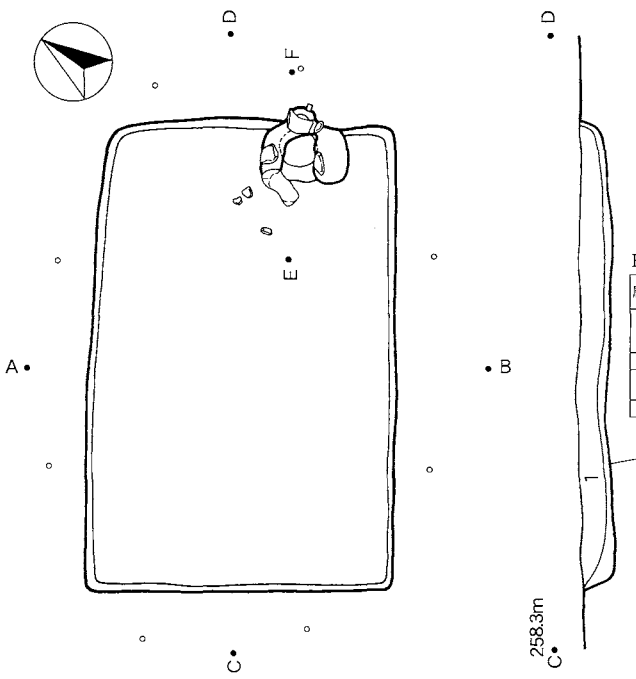


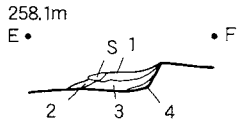
カマド

H－9号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 焼土	混入物 炭化物
1	赤褐色土層		○	×		○	△
2	暗褐色土層		◎	×	※		

第309図　H－9号住居址実測図





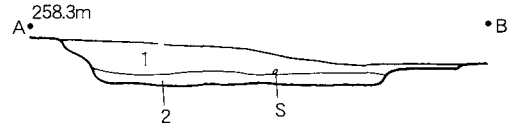
カマド

H—11号住　カマド

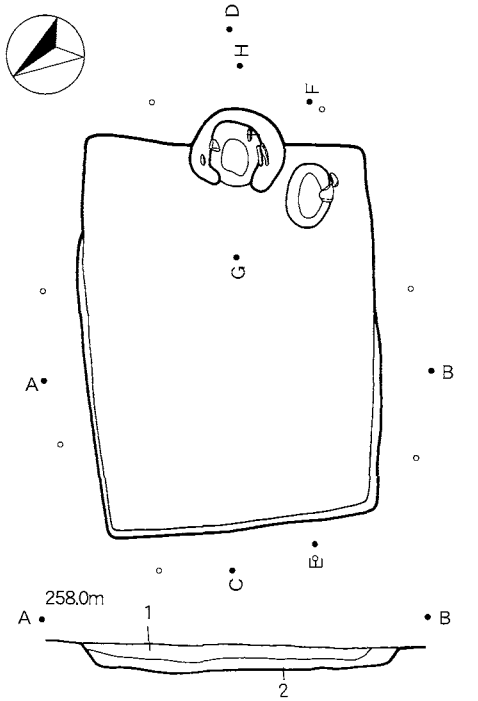
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	混入物 YP	混入物 焼土	混入物 炭化物	備　考
1	暗赤褐色土層		◎	×		※	△	※	焼土中に焼土ブロック△
2	暗褐色土層		○	×	※		△		
3	赤褐色土層		◎	×			◎	※	カマド崩落土
4	赤褐色土層	4＜3	◎	×			○	※	

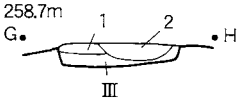
H—11号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B
1	黒褐色土層		◎	×	△
2	黒褐色土層	1<2	◎	×	



H—11号住





カマド

H—12号住　カマド

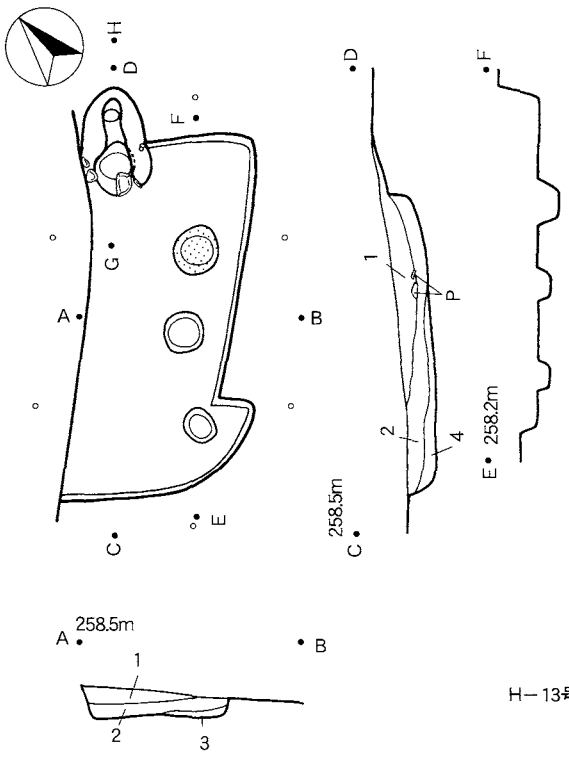
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 焼土	混入物 炭化物	備　考
1	暗褐色土層		○	×	△	△	×	カマド崩落土
2	赤褐色土層		◎	×		○	○	焼土中に焼土ブロック○ カマド崩落土

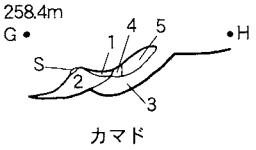
H—12号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 As-A	混入物 As-B	備　考
1	黒褐色土層		○	×		△	1層下部に炭化物が若干認められる
2	灰褐色土層		×	×	◎		As-A の二次堆積

H—12号住

第310図　H—11・12号住居址実測図





カマド

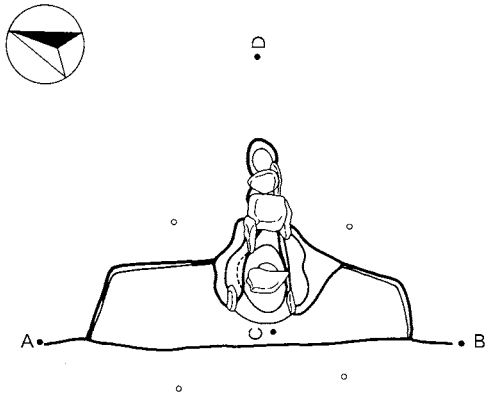
H－13号住　カマド

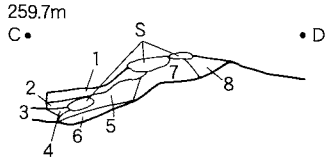
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物					備　考
					YP	RP	As-B	焼土	炭化物	
1	暗褐色土層	2<5	○	×		△	※	※		
2	暗褐色土層	5<3	○	△	※			○	△	粘土ブロック△
3	赤褐色土層	3<4	○	×				◎	△	粘土ブロック※
4	暗褐色土層		○	△	※			※		粘土ブロック△
5	天井									

H－13号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物						備考
					YP	RP	RB	As-B	焼土	炭化物	
1	黒褐色土層		◎	×				△			
2	黒褐色土層	1<2	◎	×				△	※	※	
3	暗褐色土層		◎	×		△			※	※	
4	暗褐色土層	3<4	◎	△	※	※	△		※	※	貼り床

H－13号住　0　4m

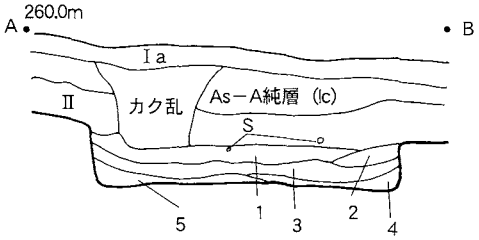




カマド

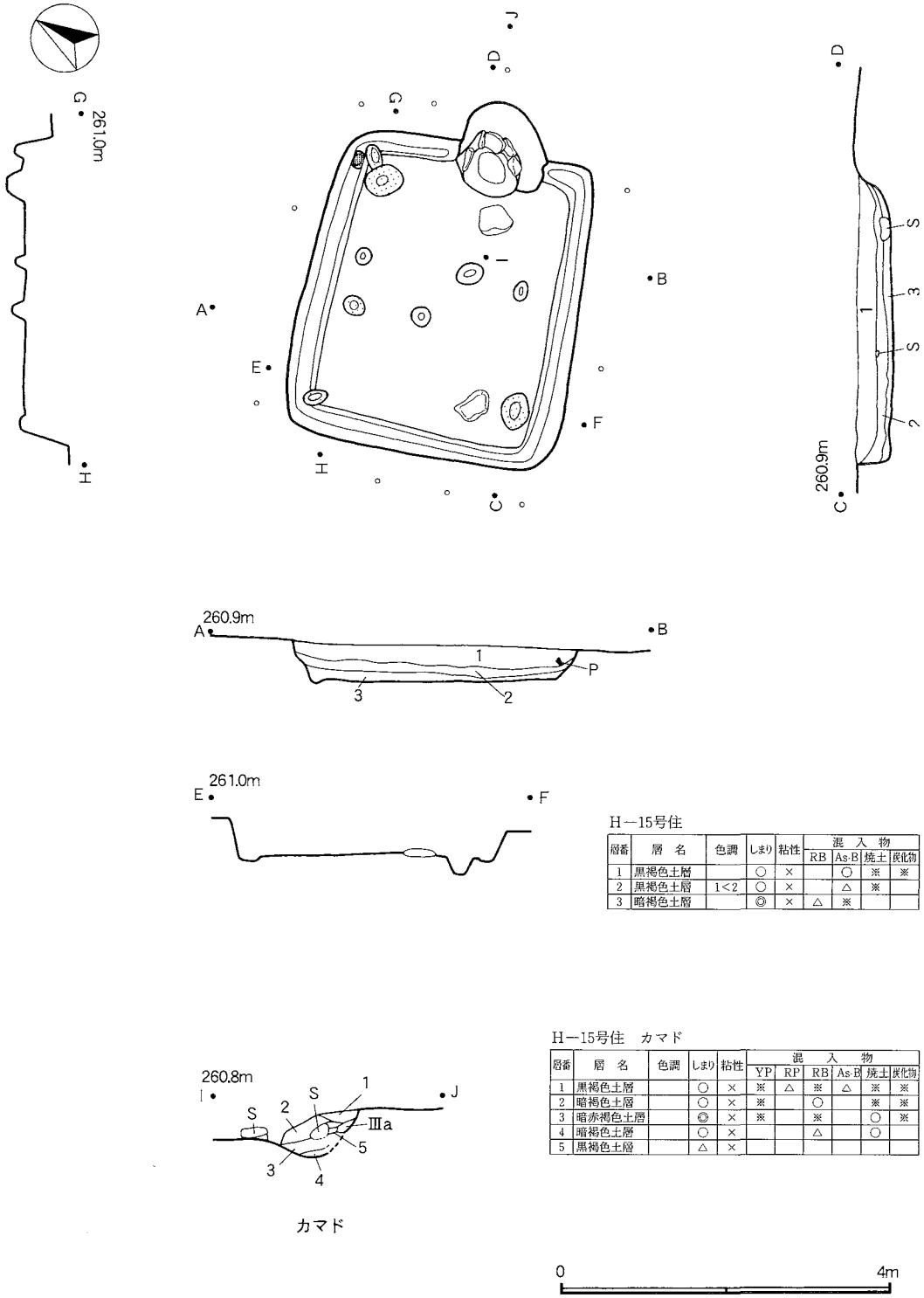
H－14号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物					備　考
					RP	RB	As-B	焼土	炭化物	
1	黒色土層		○	×		※	※	※		
2	黒褐色土層		○	△	※	△		△		
3	黒色土層		○	×	※			※		
4	褐色土層		○	×				※		カマド崩落土 粘土ブロック状
5	褐色土層		○	×	○	○		△	※	カマド崩落土
6	赤褐色土層		○	×	○			○		カマド崩落土 焼土中に焼土ブロック△
7	暗褐色土層		△	×	△			△		
8	赤褐色土層	8＜6	◎	×	○	○		○		



H－14号住　0　4m

第311図　H－13・14号住居址実測図



カマド

H－15号住

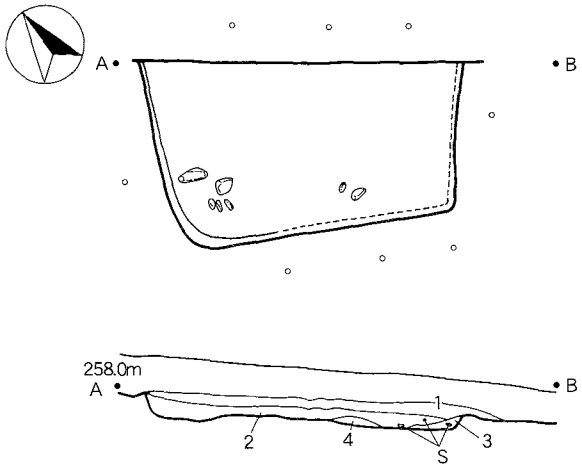
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 As-B	混入物 焼土	混入物 炭化物
1	黒褐色土層		○	×		○	※	※
2	黒褐色土層	1<2	○	×		△	※	
3	暗褐色土層		◎	×	△	※		

H－15号住　カマド

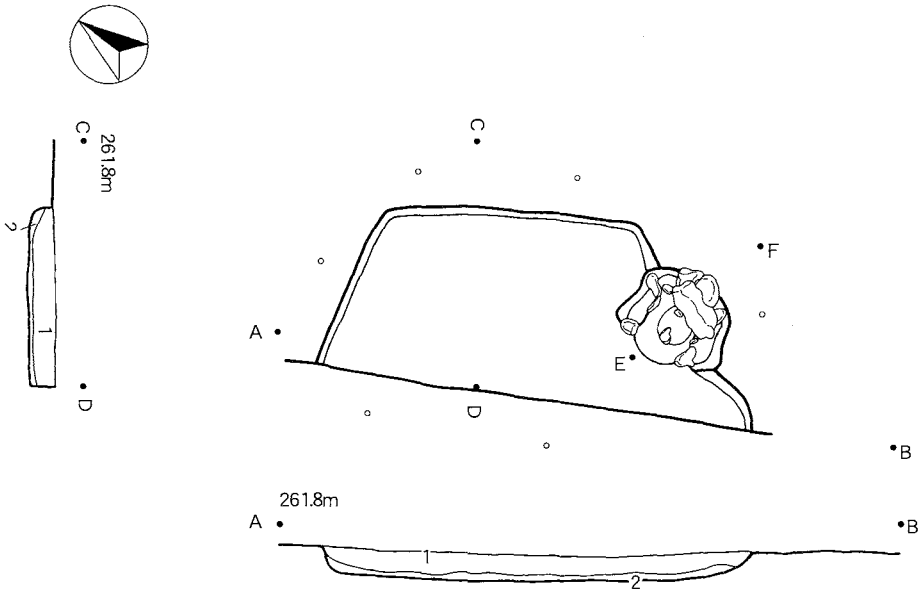
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-B	混入物 焼土	混入物 炭化物
1	黒褐色土層		○	×	※	△	※	△	※	※
2	暗褐色土層		○	×	※		○		※	※
3	暗赤褐色土層		◎	×	※		※		○	※
4	暗褐色土層		○	×			△		○	
5	黒褐色土層		△	×						

0　4m

第312図　H－15号住居址実測図

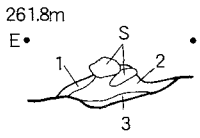


H－17号住　0　4m



H－18号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					YP	As-B	焼土	炭化物
1	黒色土層		○	△	※	○	※	
2	黒褐色土層		○	△	※	△	※	※



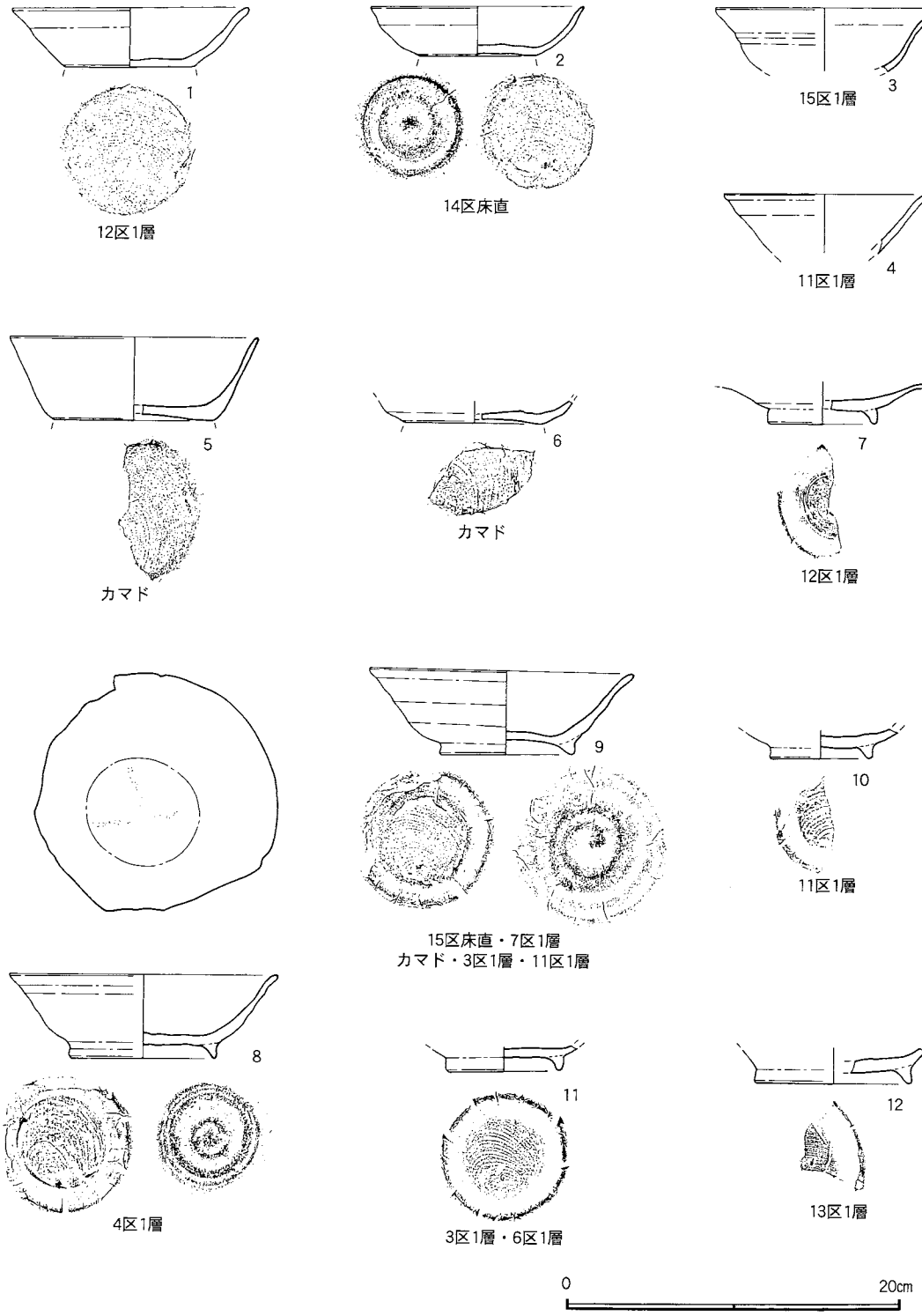
カマド

H－18号住　カマド

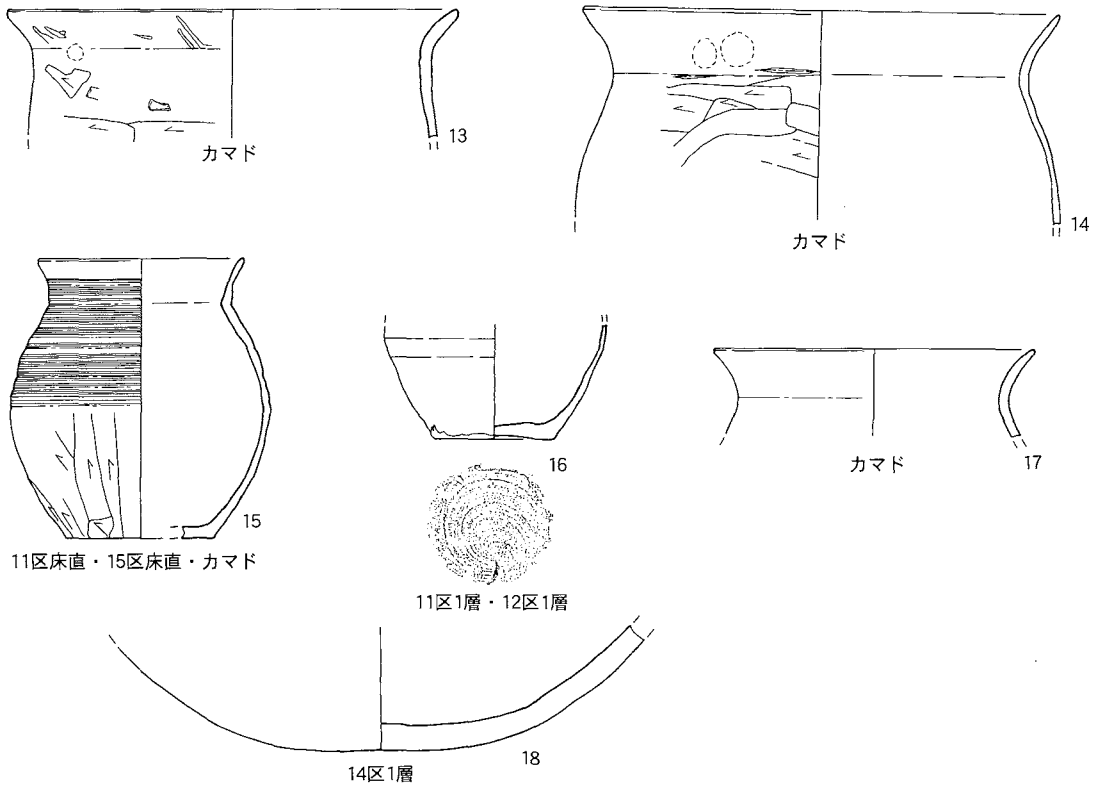
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					YP	RP	RB	As-B	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		○	×	※	△	※	※	※	
2	暗赤褐色土層		○	×	※	○			○	△
3	暗褐色土層	2＝3	○	×	※				○	○

H－18号住　0　4m

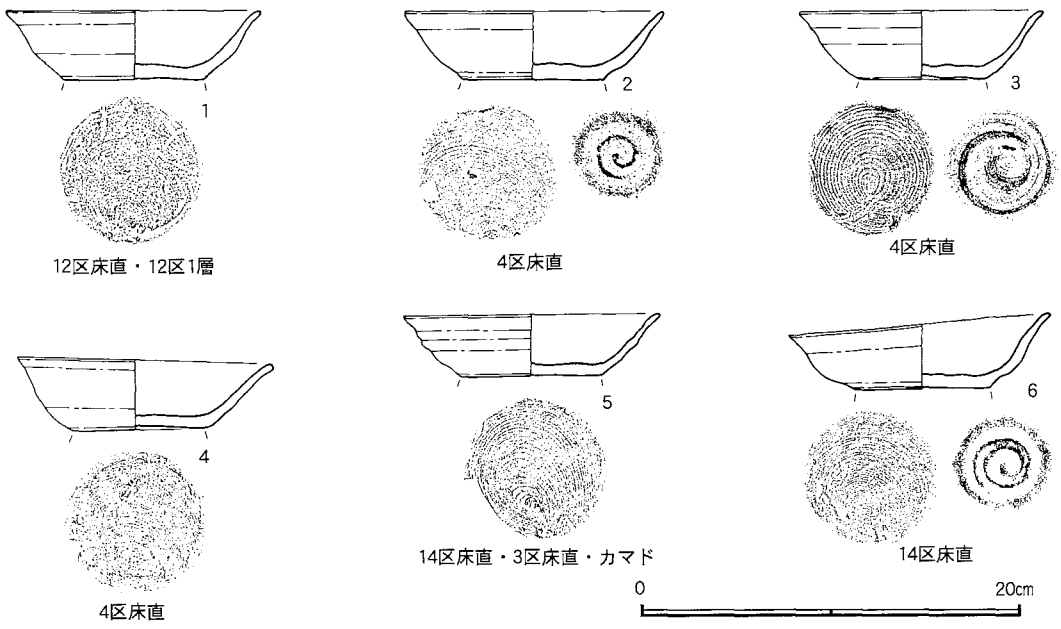
第313図　H－17・18号住居址実測図



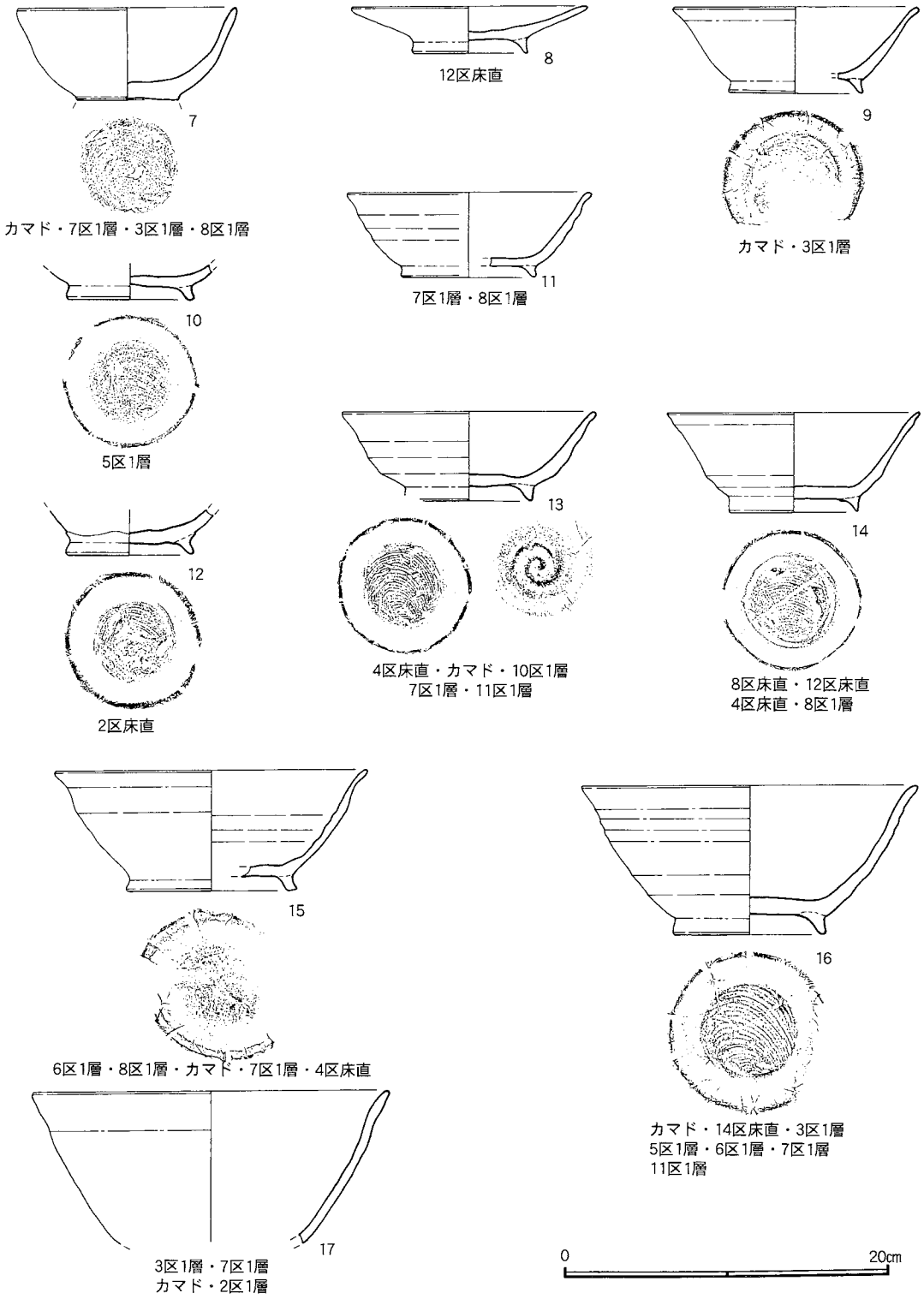
第314図　H－1号住居址出土遺物実測図(1)



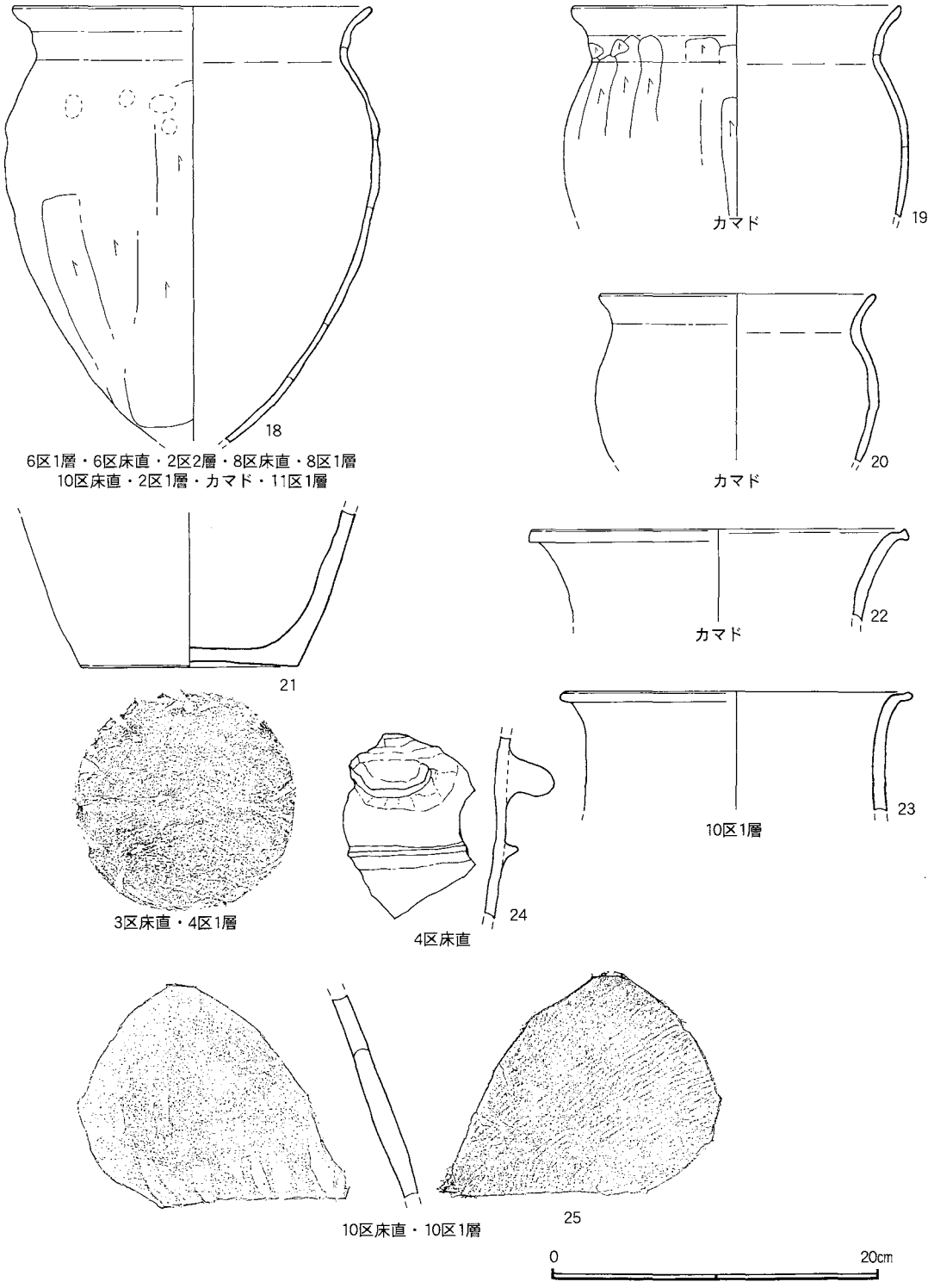
第315図　H－1号住居址出土遺物実測図(2)



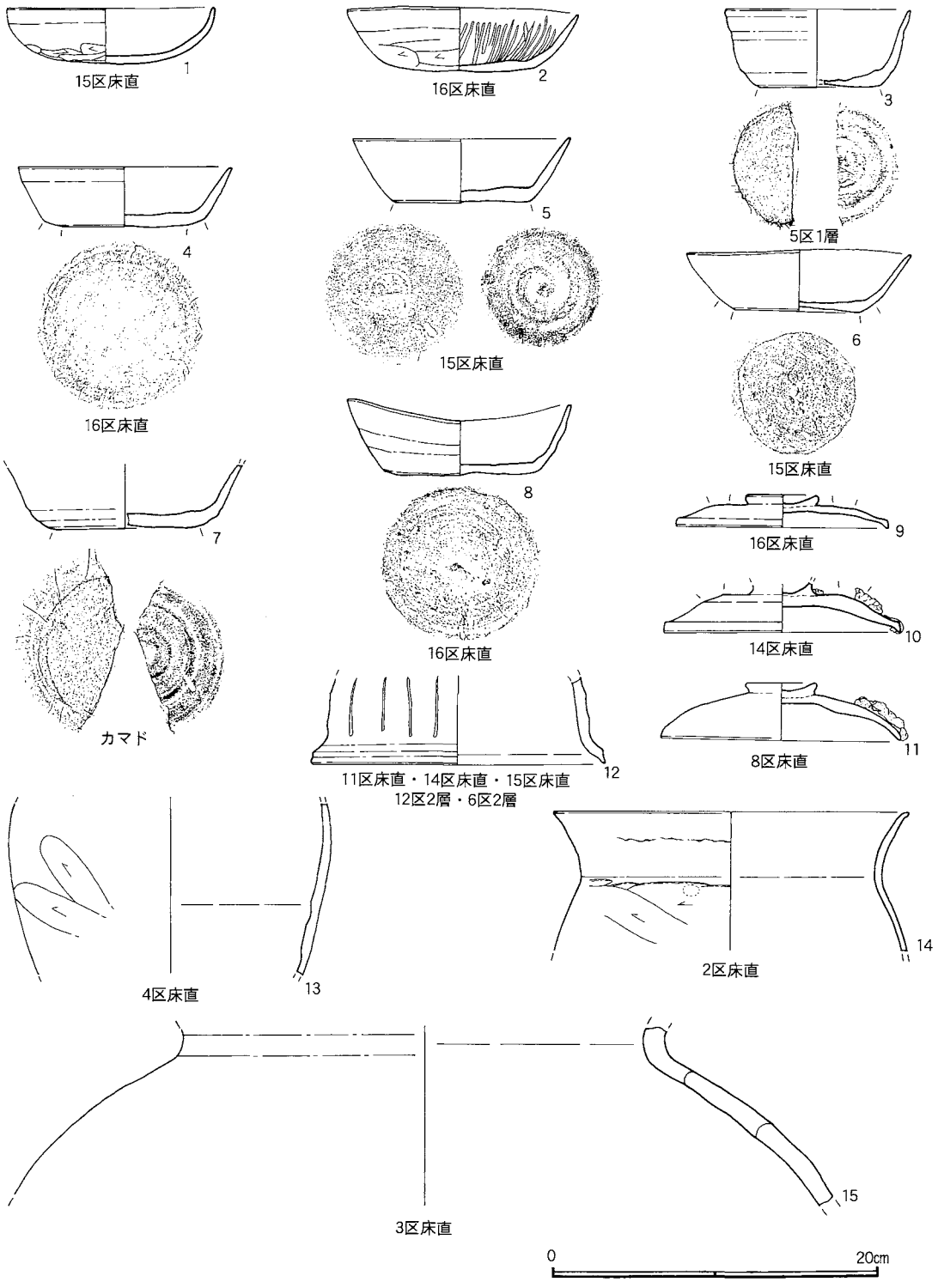
第316図　H－2号住居址出土遺物実測図(1)



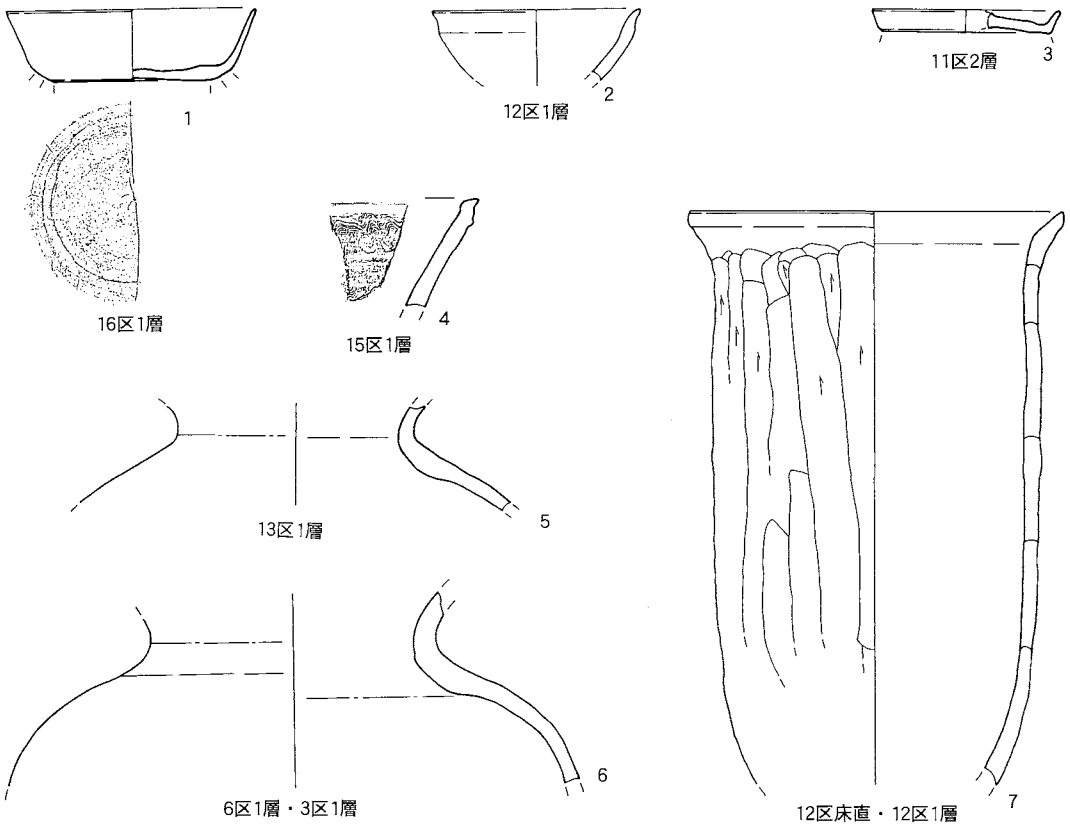
第317図　H－2号住居址出土遺物実測図(2)



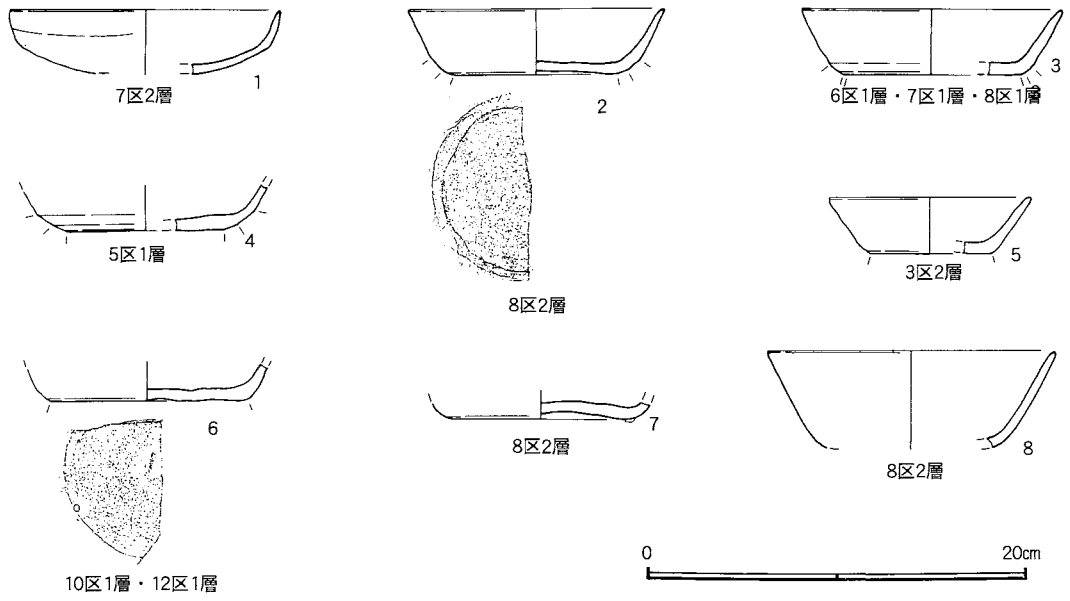
第318図　H－2号住居址出土遺物実測図(3)



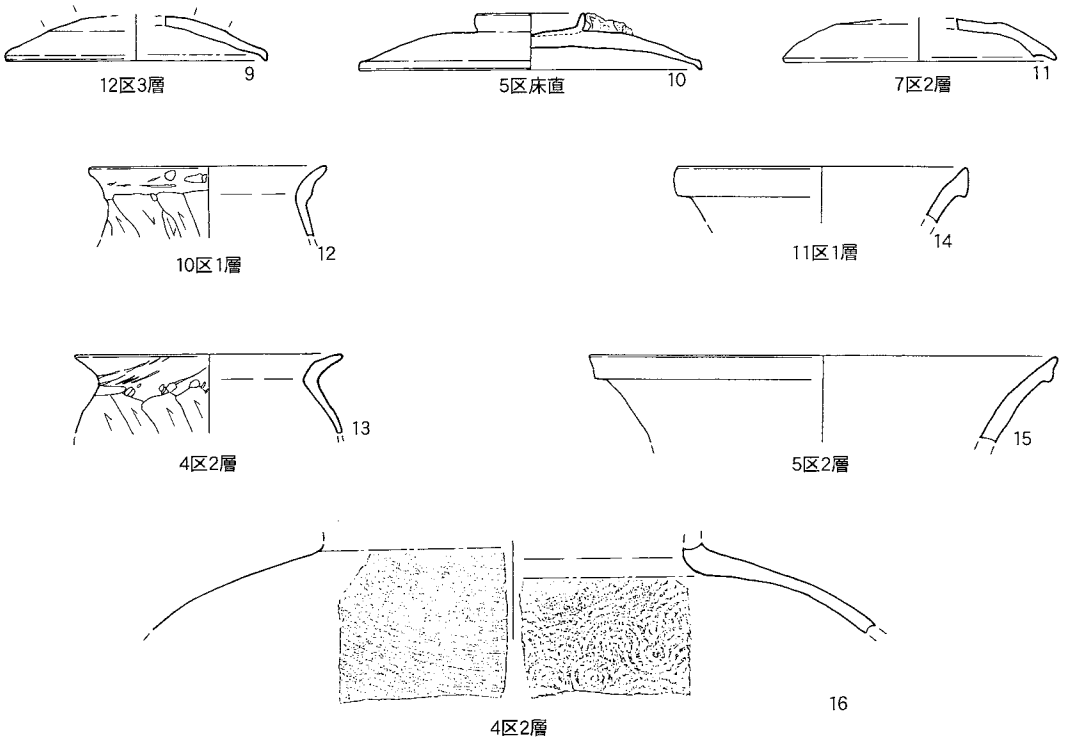
第319図　H－3号住居址出土遺物実測図



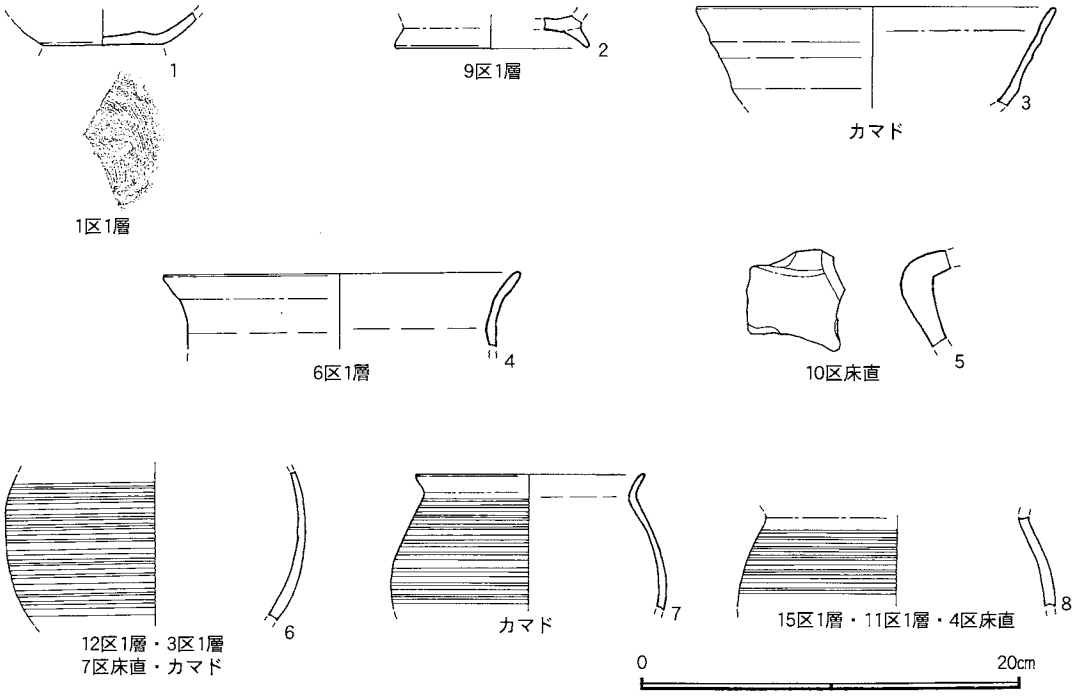
第320図　H－4号住居址出土遺物実測図



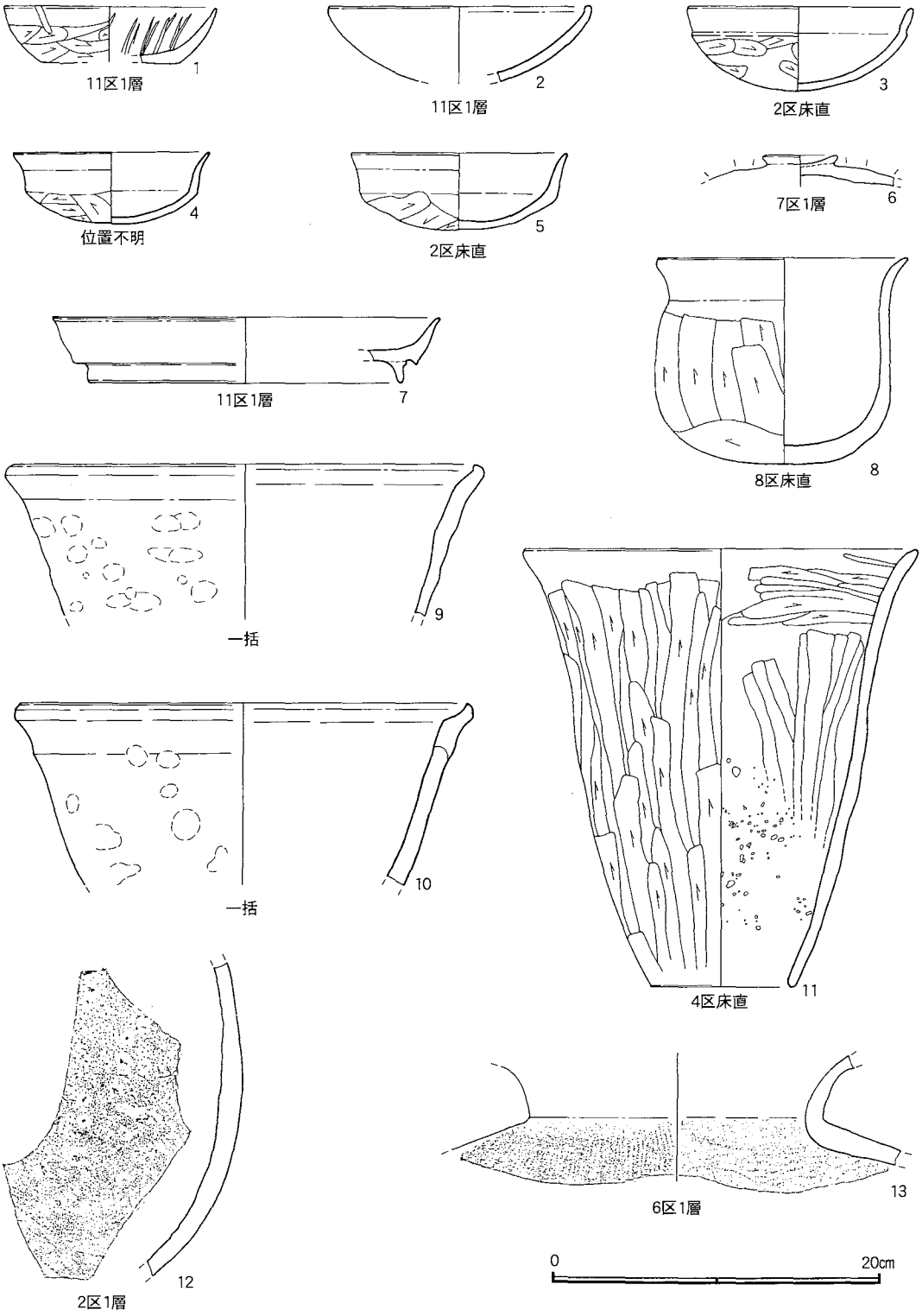
第321図　H－5号住居址出土遺物実測図(1)



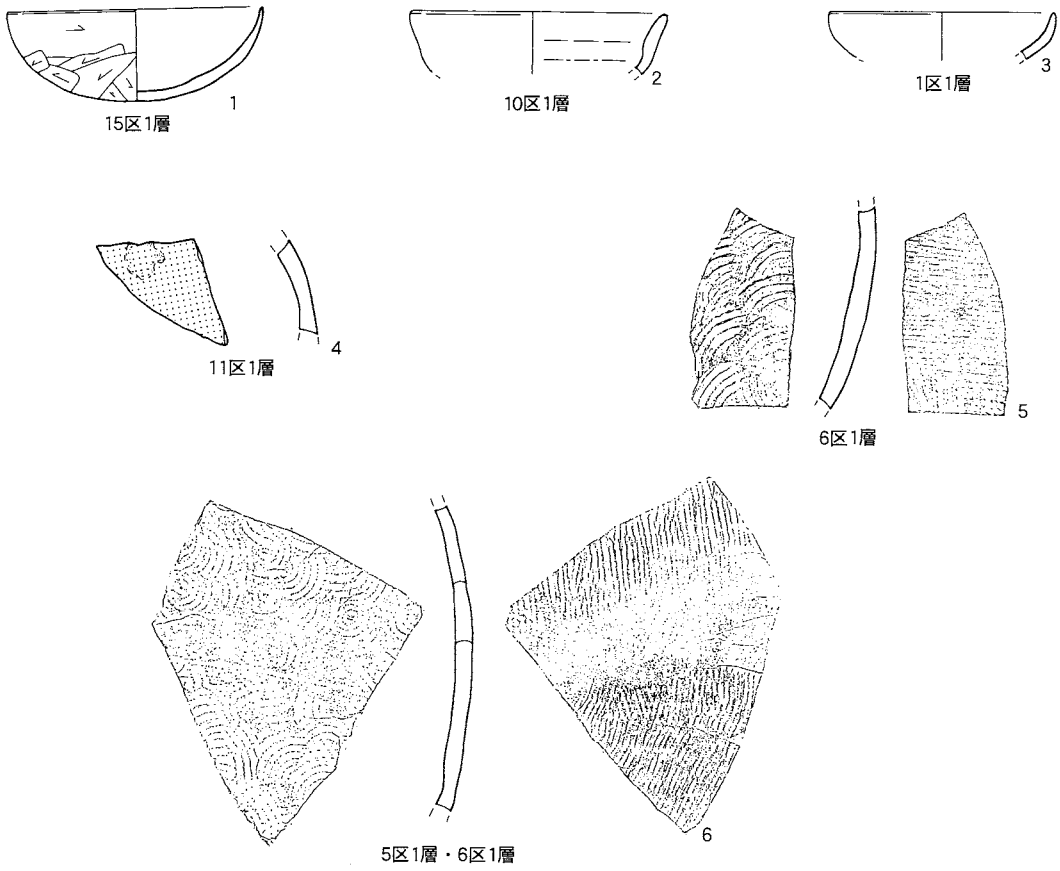
第322図　H－5号住居址出土遺物実測図(2)



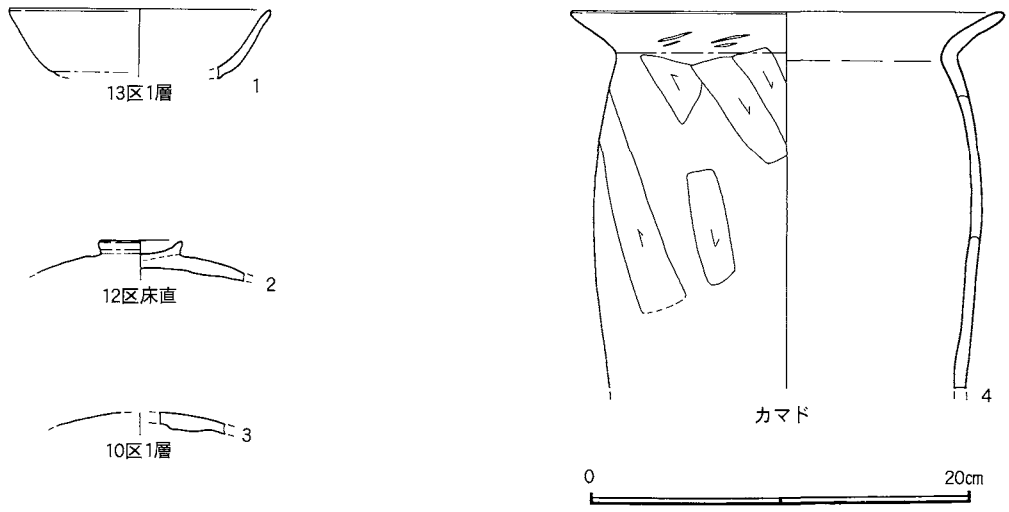
第323図　H－7号住居址出土遺物実測図



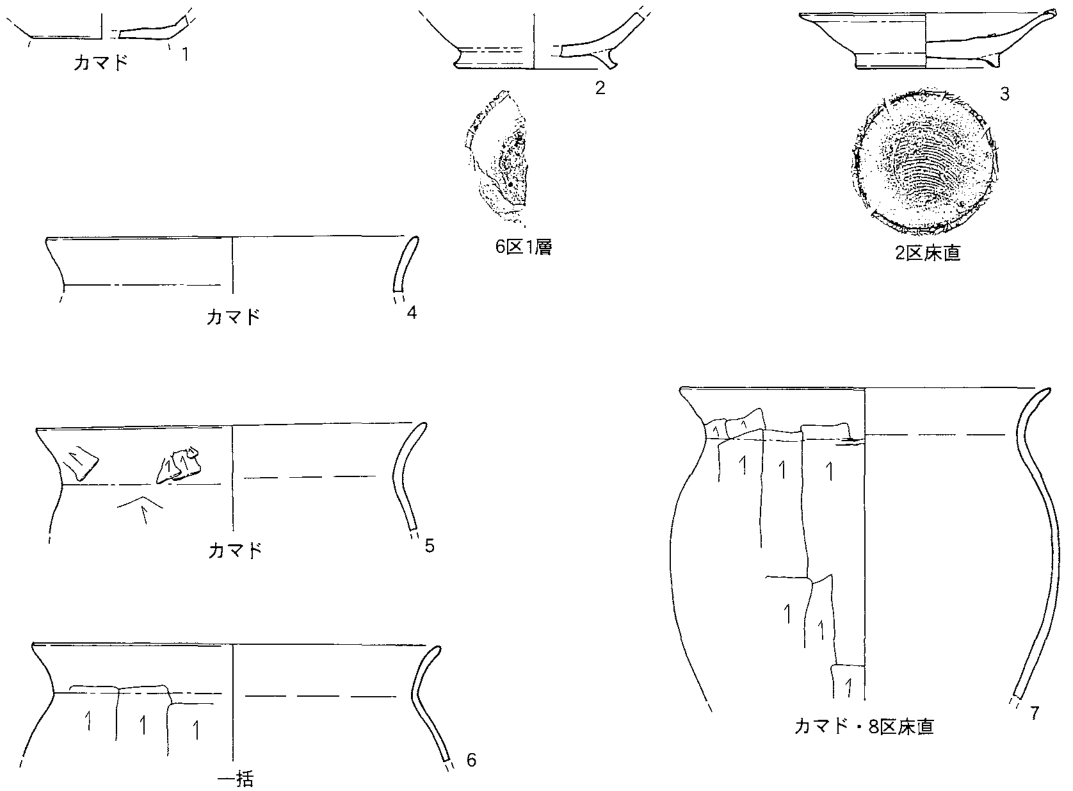
第324図　H－8号住居址出土遺物実測図



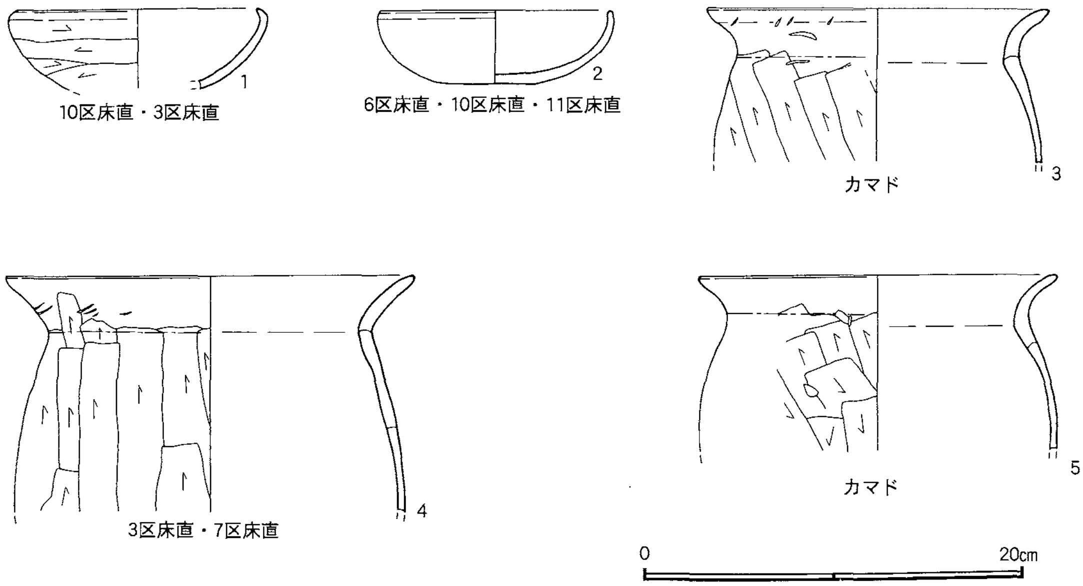
第325図　H－9号住居址出土遺物実測図



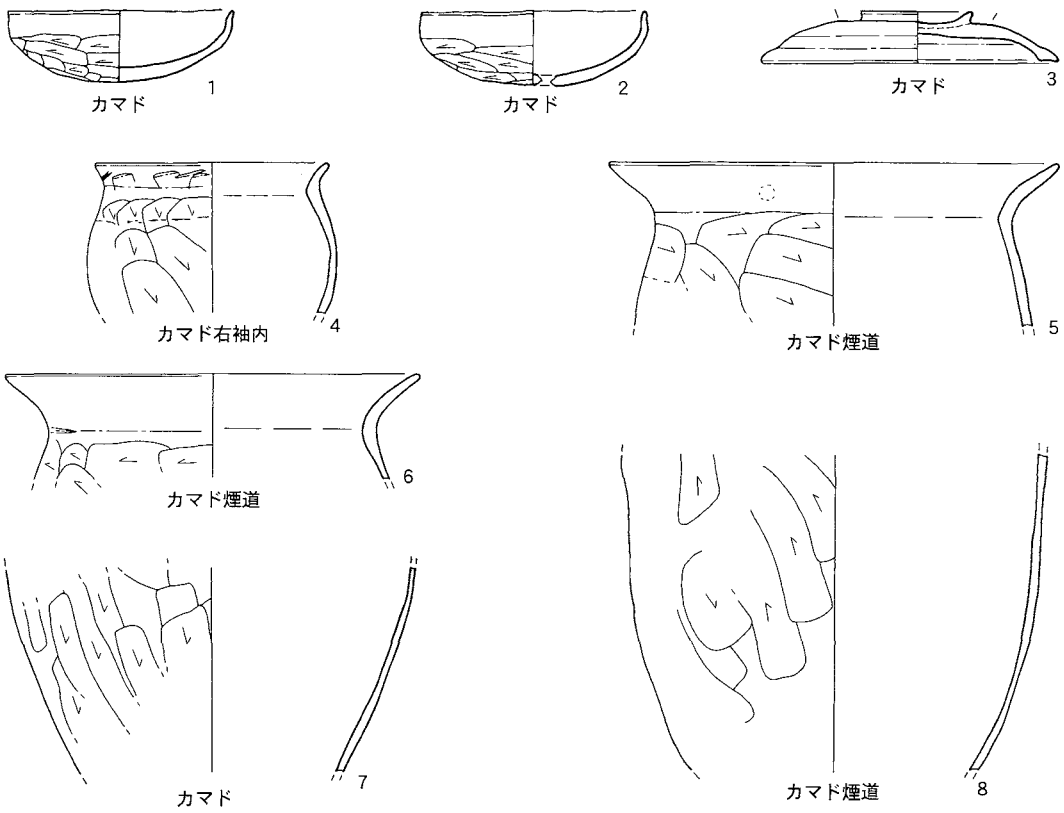
第326図　H－11号住居址出土遺物実測図



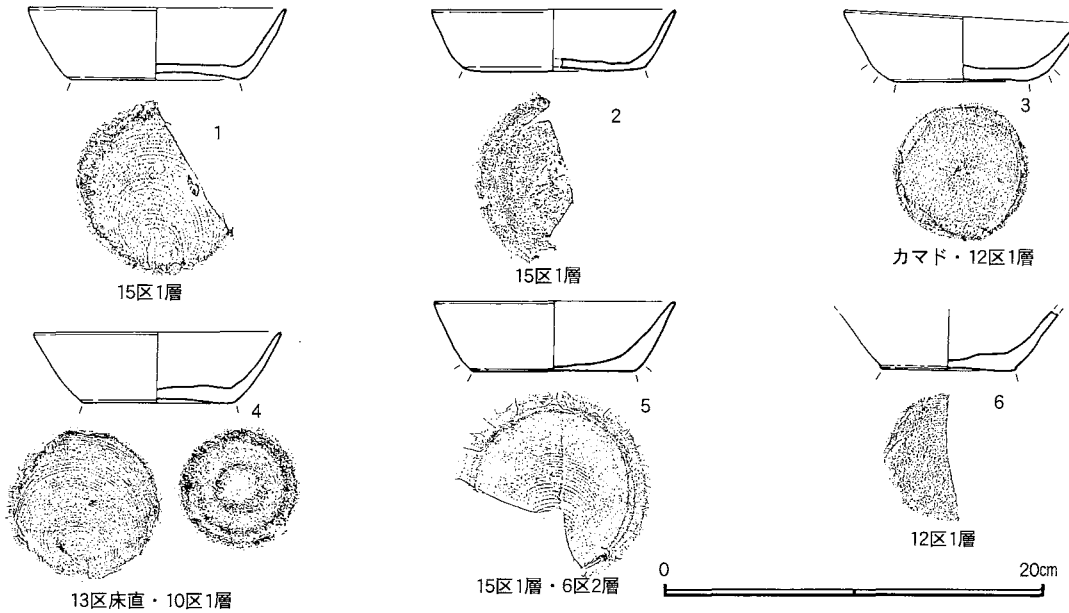
第327図　H—12号住居址出土遺物実測図



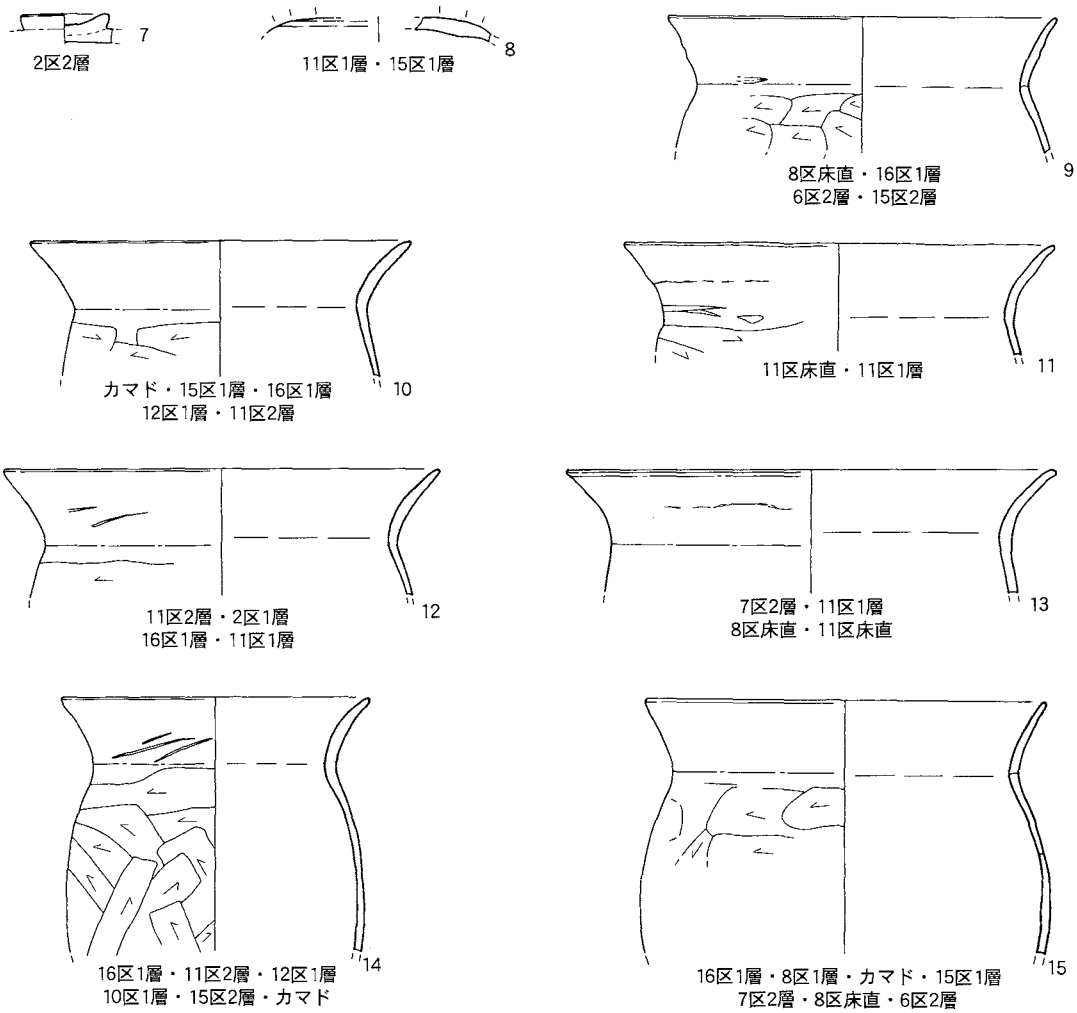
第328図　H—13号住居址出土遺物実測図



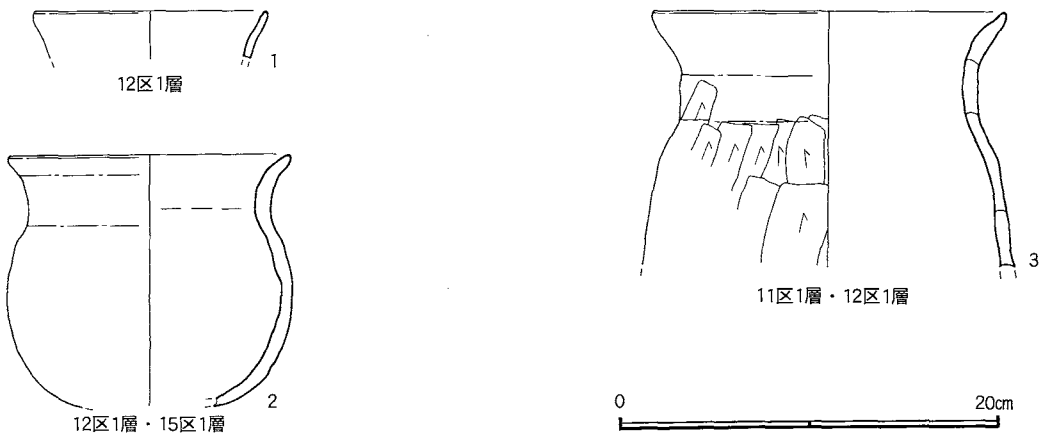
第329図　H―14号住居址出土遺物実測図



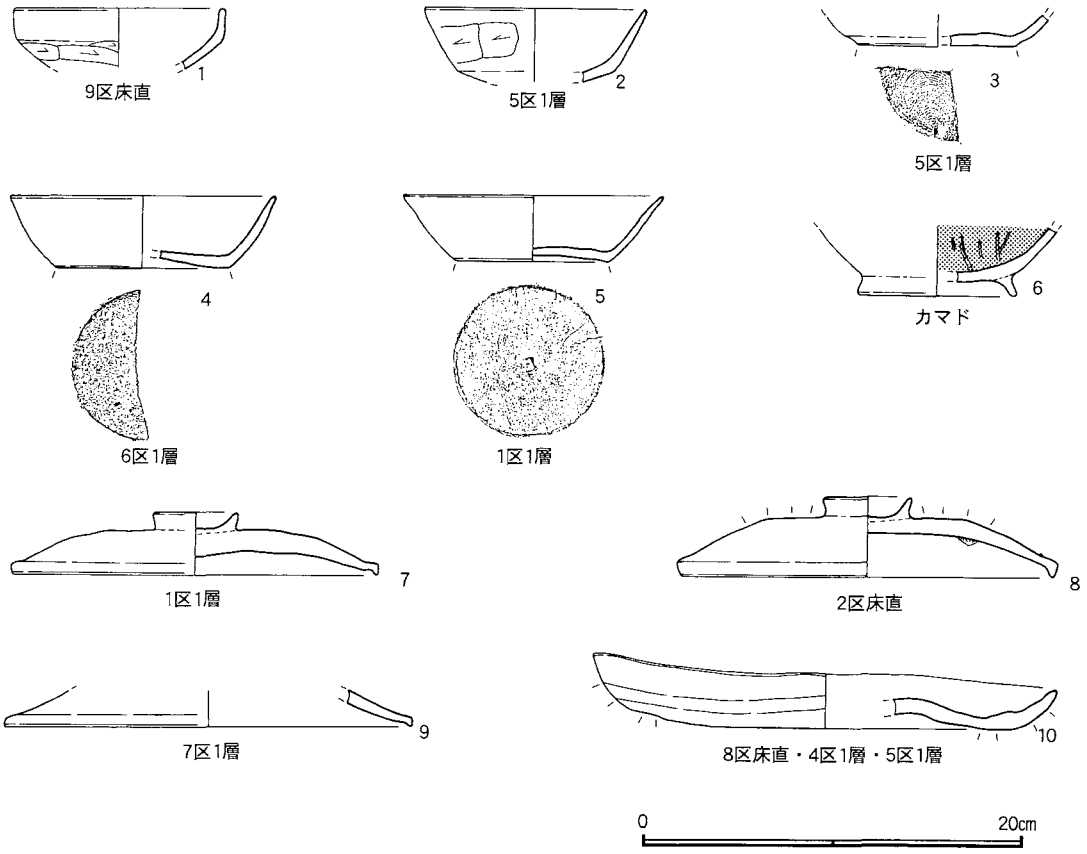
第330図　H―15号住居址出土遺物実測図



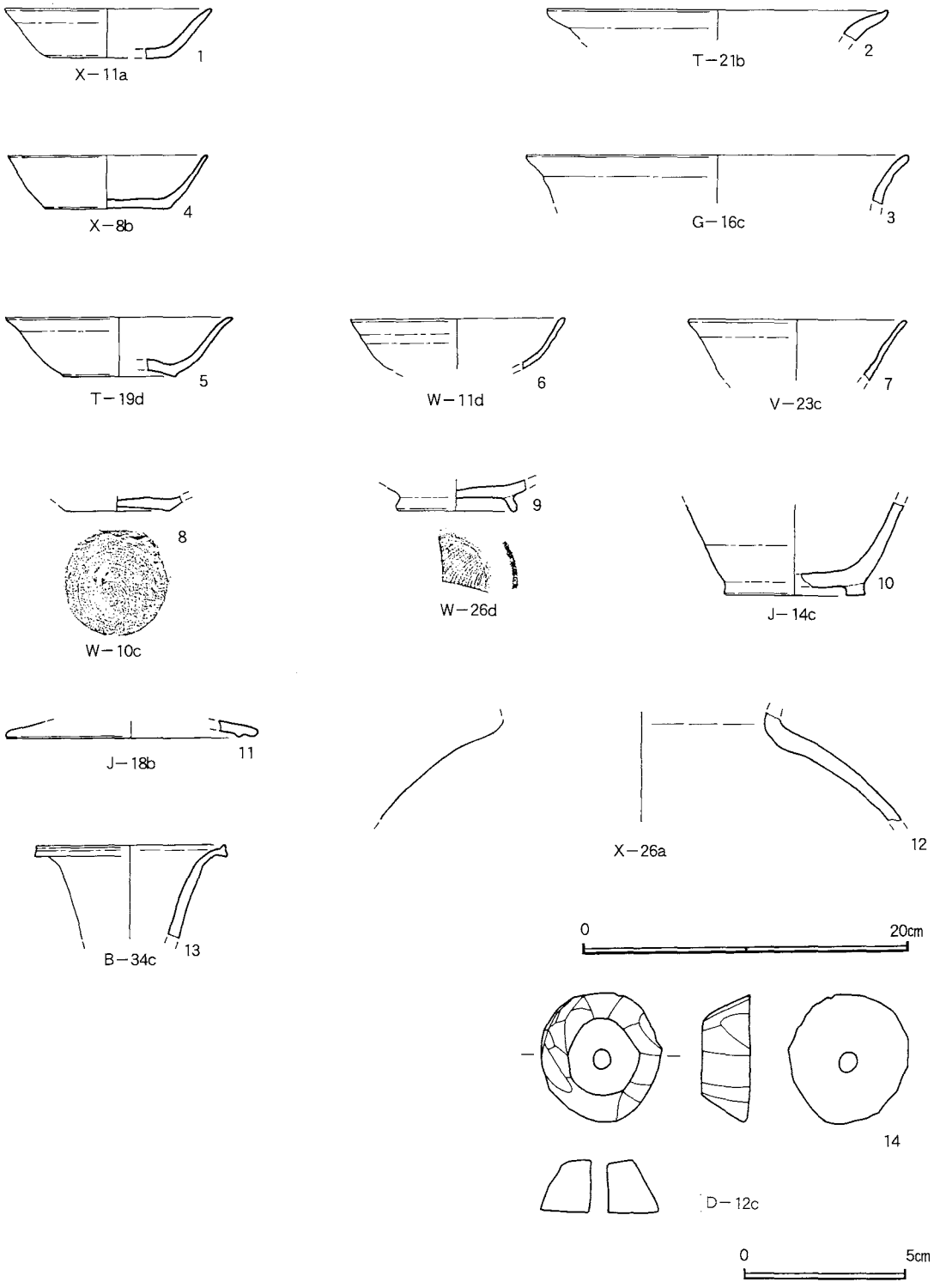
第331図　H—15号住居址出土遺物実測図



第332図　H—17号住居址出土遺物実測図



第333図　H―18号住居址出土遺物実測図



第334図　グリッド出土遺物実測図

B－7　H-1号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	12区1層	口 14.2 底 15.6 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　灰白色 焼　良	完形　内面に剝落有　外面に酸化還元焔によるスス吸着　歪み有
2	須恵器 坏	14区床直	口 13.0 底 6.9 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒多量含む 色　外面底部　灰赤色 外面　灰色 内面　灰赤色 焼　良	2/3　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	15区1層	口 13.4 底 — 高 3.8	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　灰白色 焼　良	1/8
4	須恵器 坏	11区1層	口 12.4 底 — 高 3.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰黄色 焼　良	1/6
5	須恵器 椀	カマド	口 15.1 底 9.6 高 5.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　細砂粒多量含む 色　灰黄色 焼　良	1/3
6	須恵器 坏	カマド	口 — 底 8.4 高 1.4	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	底部の1/3　外面に自然灰釉付着
7	須恵器 高台付皿	12区1層	口 — 底 6.4 高 2.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/5　底部に工具痕有
8	須恵器 高台付坏	4区1層	口 16.4 底 8.7 高 5.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒多量含む 色　灰白色 焼　やや不良	3/4　内面底部に線刻・墨書有
9	須恵器 高台付坏	15区床直 7区1層 カマド 3区1層 11区1層	口 16.0 底 8.0 高 5.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	4/5　内外面共自然灰釉付着　重ね焼き痕有
10	須恵器 高台付坏	11区1層	口 — 底 6.2 高 1.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　細砂粒含む 色　灰白色 焼　良	底部の1/3　底部内面に剝落有
11	須恵器 高台付坏	3区1層 6区1層	口 — 底 6.9 高 1.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	底部のみ
12	須恵器 高台付坏	13区1層	口 — 底 9.6 高 2.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　外面　灰色 内面　灰白色 焼　良	底部の1/5　底部に圧痕有
13	土師器 甕	カマド	口 24.0 底 — 高 6.8	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/5
14	土師器 甕	カマド	口 25.4 底 — 高 11.1	外面口縁部横ナデ　胴上部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の1/4　外面口縁部に指頭圧痕有　外面に酸化還元焔によるスス吸着
15	土師質 甕	11区床直 15区床直 カマド	口 11.0 底 8.0 高 14.8	外面口縁部～胴中部回転横ナデ　胴下部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～底部の1/3　内外面共スス付着
16	土師質 甕	11区1層 12区1層	口 — 底 6.5 高 6.1	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部～底部　底部に工具痕有　内外面共スス付着
17	土師器 甕	カマド	口 17.2 底 — 高 4.6	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部の1/10
18	須恵器 甕	14区1層	口 — 底 — 高 6.5	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	底部のみ　外面に自然灰釉付着

H-2号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	12区床直 12区1層	口 13.8 底 7.5 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒多量含む 色　淡黄色 焼　不良	4/5
2	須恵器 坏	4区床直	口 13.8 底 7.6 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
3	須恵器 坏	4区床直	口 13.2 底 6.8 高 3.6	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	完形
4	須恵器 坏	4区床直	口 13.6 底 6.4 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	6/7　外面自然灰釉付着 口縁唇部重ね焼き痕有

H－2号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
5	須恵器 坏	14区床直 3区床直 カマド	口 13.6 底 7.5 高 3.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒小石含む 色　灰色 焼　良	3/4
6	須恵器 坏	14区床直	口 14.0 底 7.2 高 4.0	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 内面渦巻き	胎　砂粒多量含む 色　黄橙色 焼　やや不良	完形　底部に工具痕有　底部外面に酸化還元焔によるスス吸着　歪み有
7	須恵器 坏	カマド 3区1層 7区1層 8区1層	口 13.6 底 6.2 高 5.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む (小石少量含む) 色　灰色 焼　良	3/5　底部やや粗雑　内面口縁唇部・外面に自然灰釉付着　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
8	須恵器 高台付皿	12区床直	口 14.6 底 7.1 高 3.0	内外面共回転横ナデ　底部ヘラ切り後付高台	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	完形　内外面共重ね焼き痕有　酸化還元焔によるスス吸着
9	須恵器 高台付坏	カマド 3区1層	口 15.4 底 8.4 高 5.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰黄色 焼　やや不良	2/5
10	須恵器 高台付坏	5区1層	口 — 底 7.7 高 2.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒多量含む 色　外面　灰黄色 内面　褐灰色 焼　やや不良	底部のみ　内面に酸化還元焔によるスス吸着
11	須恵器 高台付椀	7区1層 8区1層	口 15.0 底 8.0 高 5.3	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	1/3　外面口縁部に重ね焼き痕有　自然灰釉付着
12	須恵器 高台付坏	2区床直	口 — 底 7.8 高 2.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	底部のみ　底部に工具痕有
13	須恵器 高台付椀	14区床直 カマド 7区1層 10区1層 11区1層	口 15.8 底 8.0 高 5.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　浅黄色 焼　やや不良	ほぼ完形　底部に工具痕有
14	須恵器 高台付椀	8区床直 12区床直 4区床直 8区1層	口 15.9 底 8.1 高 6.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	完形　底部に亀裂有　内面に重ね焼き痕有　外面酸化還元焔によるスス吸着
15	須恵器 高台付椀	6区1層 8区1層 カマド 7区1層 4区床直	口 19.5 底 10.4 高 7.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	3/4　内面にロクロ痕顕著　内外面共自然灰釉付着　歪み有
16	須恵器 高台付椀	カマド 14区床直 3区1層 5区1層 6区1層 7区1層 11区1層	口 21.2 底 9.6 高 9.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り 後付高台	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	ほぼ完形　焼きムラ有　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
17	須恵器 椀	3区1層 7区1層 カマド 2区1層	口 22.4 底 — 高 9.4	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　やや不良	3/5　内外面共酸化還元焔によるスス吸着
18	土師器 甕	6区1層 6区床直 2区2層 8区床直 10区床直 2区1層 カマド 11区1層 8区1層	口 22.0 底 — 高 26.8	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	1/2　外面胴上部に指頭圧痕有　内外面共スス付着
19	土師器 甕	カマド	口 20.4 底 — 高 13.0	外面口縁部横ナデ　胴部縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴部の2/3　内外面共スス付着
20	土師器 甕	カマド	口 17.0 底 — 高 10.3	外面口縁部横ナデ　胴部磨滅により不明瞭　内面横ナデ	胎　細砂粒多量含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	口縁部～胴部の1/3　内外面共スス付着
21	須恵器 甕	3区床直 4区1層	口 — 底 13.6 高 9.5	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部　底部に工具痕有
22	須恵器 壺	カマド	口 21.6 底 — 高 5.8	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　灰黄色 焼　良	口縁部の1/8
23	須恵器 壺	10区1層	口 21.4 底 — 高 7.2	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	口縁部の一部

H-2号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
24	須恵器 羽釜	4区床直	口 — 底 — 高 10.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙 焼 良	胴部の一部
25	須恵器 甕	10区床直 10区1層	口 — 底 — 高 12.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部

H-3号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	15区床直	口 12.8 底 — 高 3.5	外面口縁部横ナデ 体底部不定方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 細砂粒多量含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	ほぼ完形 内外面共スス付着
2	土師器 坏	16区床直	口 14.3 底 9.0 高 3.9	外面口縁部横ナデ 体部横方向ヘラ削り 底部ヘラ削り 内面横ナデ後放射状ヘラ磨き	胎 砂粒多量含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	ほぼ完形 底部スス付着
3	須恵器 坏	5区1層	口 10.4 底 7.9 高 4.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/5
4	須恵器 坏	16区床直	口 13.2 底 10.0 高 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 細砂粒多量含む 色 灰色 焼 良	完形 底部に重ね焼き痕有 外面に自然灰釉付着
5	須恵器 坏	15区床直	口 13.4 底 8.2 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	ほぼ完形
6	須恵器 坏	15区床直	口 13.9 底 7.4 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ切り後外縁ヘラ削り 内面渦巻き	胎 砂粒多量含む 色 褐灰色 焼 良	ほぼ完形 歪み有
7	須恵器 坏	カマド	口 — 底 9.4 高 4.0	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り 内面渦巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/3
8	須恵器 坏	16区床直	口 13.7 底 9.5 高 4.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り 内面渦巻き	胎 砂粒少量含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	ほぼ完形 歪み有
9	須恵器 蓋	16区床直	口 12.9 ツマミ 4.4 高 2.0	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	4/5
10	須恵器 蓋	14区床直	口 14.7 ツマミ 3.7 高 3.2	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰オリーブ色 焼 良	4/5 内外面に他遺物融着 外面に窯壁融着 外面全面に自然灰釉付着
11	須恵器 蓋	8区床直	口 14.8 ツマミ 4.5 高 3.5	内外面共回転横ナデ リング状つまみ貼付	胎 砂粒多量含む 色 灰色 焼 良	1/3 内面に他遺物融着 外面に窯壁融着 外面全面に自然灰釉付着
12	須恵器 円面硯	11区床直 14区床直 15区床直 12区2層 6区2層	口 18.2 底 — 高 5.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	口縁部～胴部の4/5
13	土師器 甕	4区床直	口 — 底 — 高 10.4	外面斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	胴部の一部 外面にスス付着 ヘラ具痕有
14	土師器 甕	2区床直	口 22.0 底 — 高 8.5	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 細砂粒多量含む 色 にぶい橙色 焼 良	口縁部～胴上部の1/6
15	須恵器 甕	3区床直	口 — 底 — 高 11.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部 内面わづみ痕有

H-4号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	16区1層	口 13.2 底 8.3 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/4
2	土師器 坏	12区1層	口 11.0 底 — 高 3.7	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	破片
3	須恵器 盤	11区2層	口 9.9 底 9.1 高 1.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/10
4	須恵器 甕	15区1層	口 — 底 — 高 —	内外面共回転横ナデ 口縁部に波状文有	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片
5	須恵器 甕	13区1層	口 — 底 — 高 5.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	胴上部の1/8

H－4号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
6	須恵器 甕	6区1層 3区1層	口 — 底 — 高 10.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	胴上部の1/5
7	土師器 甕	12区床直 12区1層	口 19.8 底 — 高 30.5	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 橙色 焼 やや不良	1/6 内外面共スス付着

H－5号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	7区2層	口 14.5 底 — 高 3.4	外面口縁部横ナデ 胴部磨滅著しく不明 底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明赤褐色 焼 良	1/8
2	須恵器 坏	8区2層	口 13.7 底 8.6 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/2
3	須恵器 坏	6区1層 7区1層 8区1層	口 13.8 底 9.4 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/6
4	須恵器 坏	5区1層	口 — 底 8.8 高 2.4	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/8
5	須恵器 坏	3区2層	口 10.6 底 6.4 高 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/4 内外面共自然灰釉付着 歪み有
6	須恵器 坏	10区1層 12区1層	口 — 底 10.6 高 1.8	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部～底部の2/5 内外面共自然灰釉付着
7	須恵器 坏	8区2層	口 — 底 9.8 高 0.9	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/3 外面に自然灰釉付着 底部に重ね焼き痕剝落痕有
8	須恵器 坏	8区2層	口 15.4 底 — 高 5.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/8 外面口縁部に重ね焼き痕有
9	須恵器 蓋	12区3層	口 14.0 ツマミ — 高 2.4	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片 内外面共自然灰釉付着 内外面共口縁唇部に重ね焼き痕有
10	須恵器 蓋	5区床直	口 18.2 ツマミ 5.8 高 3.0	内外面共回転横ナデ 外面天井部ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/8 外面に窯壁融着 自然灰釉付着
11	須恵器 蓋	7区2層	口 14.6 ツマミ — 高 2.2	内外面共回転横ナデ 外面天井部ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	破片
12	土師器 甕	10区1層	口 12.8 底 — 高 3.8	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 暗赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/10
13	土師器 甕	4区2層	口 14.0 底 — 高 4.2	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 暗赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/8
14	須恵器 甕	11区1層	口 15.4 底 — 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/8
15	須恵器 甕	5区2層	口 25.0 底 — 高 4.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/7
16	須恵器 甕	4区2層	口 — 底 — 高 4.8	内外面共回転横ナデ 外面叩き具痕有 内面に当て具痕有	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	胴上部の1/8

H－7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	1区1層	口 — 底 6.2 高 1.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	胴部の一部～底部の1/4
2	須恵器 高台付坏	9区1層	口 — 底 10.2 高 1.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	底部の1/5
3	須恵器 椀	カマド	口 19.2 底 — 高 5.3	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 小石少量含む 色 オリーブ灰色 焼 良	1/10
4	土師器 甕	6区1層	口 19.0 底 — 高 4.0	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部の1/12 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
5	須恵器 甕	10区床直	口 — 底 — 高 4.6	内外面共回転横ナデ 内面当て具痕有	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁辺部の一部

H－7号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
6	土師質 甕	2区1層 3区1層 7区床直 カマド	口 — 底 — 高 8.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	胴部の一部 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
7	土師質 甕	カマド	口 12.0 底 — 高 7.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部～胴部の1/5 外面に酸化還元焔によるスス吸着
8	土師質 甕	15区1層 11区1層 4区床直	口 — 底 — 高 4.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	胴部の一部 外面に酸化還元焔によるスス吸着

H－8号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	11区1層	口 13.0 底 8.6 高 3.4	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ 暗文	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	1/8
2	土師器 坏	11区1層	口 16.0 底 — 高 4.6	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	破片 磨滅著しい
3	土師器 坏	2区床直	口 14.0 底 — 高 5.1	外面口縁部横ナデ 体底部不定方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	4/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
4	土師器 坏	位置不明	口 12.0 底 — 高 4.1	外面口縁部～胴上部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	4/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
5	土師器 坏	2区床直	口 13.4 底 — 高 4.6	外面口縁部～胴上部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒多量含む 色 赤褐色 焼 不良	4/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
6	須恵器 蓋	7区1層	口 — ツマミ 4.4 高 2.0	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	2/3
7	須恵器 高台付盤	11区1層	口 23.8 底 19.2 高 4.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/10 内面に自然灰釉付着
8	土師器 球胴甕	8区床直	口 15.4 底 — 高 11.8～12	内面横ナデ 外面口縁部・胴上部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り	胎 砂粒多量含む 色 にぶい橙色 焼 やや不良	3/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 歪み有
9	軟質陶器 内耳鍋	一括	口 28.2 底 — 高 9.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 暗青灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/6 外面全面に指頭圧痕有
10	軟質陶器 内耳鍋	一括	口 27.6 底 — 高 11.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 暗オリーブ灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/6 外面全面に指頭圧痕有
11	土師器 甑	4区床直	口 24.0 底 9.0 高 27.0	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り	胎 砂粒含む 小石少量含む 色 明黄褐色 焼 良	ほぼ完形 内外面共スス付着
12	須恵器 甕	2区1層	口 — 底 — 高 —	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎 砂粒含む 色 灰黄色 焼 良	破片 内外面共自然灰釉付着 内面窯壁融着
13	須恵器 甕	6区1層	口 — 底 — 高 7.0	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内外面共当て具痕有	胎 砂粒含む 色 オリーブ灰色 焼 良	頸部～胴上部の1/8

H－9号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	15区1層	口 13.8 底 — 高 4.8	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	4/5
2	須恵器 坏	10区1層	口 14.0 底 — 高 3.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の1/4 外面に自然灰釉付着
3	土師器 坏	1区1層	口 6.0 底 — 高 2.4	外面口縁部横ナデ 体部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい褐色 焼 良	破片
4	須恵器 甕	11区1層	口 — 底 — 高 —	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎 砂粒含む 色 褐灰色 焼 良	破片 外面に自然灰釉付着 窯壁融着
5	須恵器 甕	6区1層	口 — 底 — 高 —	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎 砂粒含むB 色 灰色 焼 良	破片
6	須恵器 甕	5区1層 6区1層	口 — 底 — 高 —	内外面共回転横ナデ 外面叩き痕有 内面当て具痕有	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部の一部 外面に自然灰釉付着

H-11号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	13区1層	口 14.0 底 — 高 3.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	破片 内面口縁部と外面に自然灰釉付着
2	須恵器 蓋	12区床直	口 — ツマミ 4.4 高 2.1	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	1/12
3	須恵器 蓋	10区1層	口 — ツマミ — 高 1.2	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒少量含む 色 暗灰色 焼 良	胴部の一部
4	土師器 甕	カマド	口 23.0 底 — 高 20.0	外面口縁部横ナデ 胴部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部～胴部の一部 内外面共酸化還元焔によるスス吸着

H-12号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	カマド	口 — 底 7.4 高 1.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 にぶい黄色 焼 良	底部の一部
2	須恵器 高台付坏	6区1層	口 — 底 8.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/10
3	須恵器 高台付皿	2区床直	口 13.6 底 7.4 高 2.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒小石含む 色 灰色 焼 良	4/5 内外面共自然灰釉付着 窯壁融着 内面底部に重ね焼きのための剝落痕有
4	土師器 甕	カマド	口 19.8 底 — 高 3.0	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	口縁部の一部
5	土師器 甕	カマド	口 20.8 底 — 高 5.6	外面口縁部横ナデ 胴上部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明褐色 焼 良	口縁部の一部
6	土師器 甕	一括	口 21.8 底 — 高 6.2	外面口縁部横ナデ 胴上部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 明褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/12 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
7	土師器 甕	カマド 8区床直	口 19.8 底 — 高 16.5	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 淡赤褐色 焼 良	口縁部～胴部の1/3

H-13号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	10区床直 3区床直	口 13.8 底 — 高 4.2	外面口縁部横ナデ 胴部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	1/4 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	土師器 坏	6区床直 10区床直 11区床直	口 12.6 底 — 高 3.9	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	ほぼ完形 底部に酸化還元焔によるスス吸着 外面全面に工具痕有 磨滅著しい
3	土師器 甕	カマド	口 18.4 底 — 高 8.1	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
4	土師器 甕	3区床直 7区床直	口 21.8 底 — 高 12.5	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	口縁部～胴部の1/2 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
5	土師器 甕	カマド	口 19.0 底 — 高 9.3	外面口縁部横ナデ 胴上部斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰黄褐色 焼 良	口縁部～胴上部の一部 内外面共酸化還元焔によるスス吸着

H-14号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	カマド	口 12.0 底 — 高 3.7	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	5/6 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	土師器 坏	カマド	口 11.9 底 — 高 3.9	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ 内面黒色処理	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	完形 外面に酸化還元焔によるスス吸着 底部ほぼ中央に2×3㎜の完貫した穴有
3	須恵器 蓋	カマド	口 15.8 ツマミ 5.9 高 2.6	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 小石砂粒含む 色 灰色 焼 良	完形 内面口縁部に重ね焼き痕有 外面全面に自然灰釉付着
4	土師器 甕	カマド右袖内	口 12.6 底 — 高 8.0	外面口縁部横ナデ 胴部斜方向ヘラ削り	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部～胴部の1/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着 外面口縁部に工具痕有
5	土師器 甕	カマド煙道	口 24.0 底 — 高 8.6	外面口縁部横ナデ 胴上部横・斜方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の一部 酸化還元焔によるスス吸着 外面口縁辺部に指頭圧痕有

H-14号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
6	土師器 甕	カマド煙道	口 22.0 底 — 高 5.6	外面口縁部横ナデ　胴上部不定方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁辺部のみ
7	土師器 甕	カマド	口 — 底 — 高 11.0	外面胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	胴部のみ　内面に酸化還元焔によるスス吸着
8	土師器 甕	カマド煙道	口 — 底 — 高 16.8	外面胴部斜方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　橙色 焼　良	胴部のみ　内面に酸化還元焔によるスス吸着

H-15号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	15区1層	口 13.8 底 8.6 高 3.8	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	1/2
2	須恵器 坏	15区1層	口 13.0 底 9.6 高 3.2	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り	胎　砂粒含む 色　外面　灰褐色 内面　暗灰黄色 焼　良	2/5
3	須恵器 坏	カマド 12区1層	口 12.8 底 7.0 高 3.5	内外面共回転横ナデ　底部回転ヘラ切り　内面渦巻き	胎　細砂粒多量含む 色　灰色 焼　良	3/4　外面に自然灰釉付着　歪み有　口縁唇部重ね焼き痕有
4	須恵器 坏	13区床直 10区1層	口 13.2 底 8.0 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り　内面渦巻き	胎　砂粒含む 色　灰白色 焼　良	完形
5	須恵器 坏	15区1層 6区2層	口 12.9 底 8.5 高 3.7	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り　後外縁ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	2/3
6	須恵器 坏	12区1層	口 — 底 7.0 高 3.2	内外面共回転横ナデ　底部回転糸切り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	胴部の一部～底部の1/2　底部に工具痕
7	須恵器 蓋	2区2層	口 — ツマミ 4.6 高 1.5	内外面共回転横ナデ　ボタン状つまみ貼付	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	ツマミ部分のみ
8	須恵器 蓋	11区1層 15区1層	口 — ツマミ — 高 1.3	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り	胎　砂粒含む 色　灰色 焼　良	破片　内面に自然灰釉付着
9	土師器 甕	8区床直 6区2層 16区1層 15区2層	口 20.8 底 — 高 7.2	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/6　内面に酸化還元焔によるスス吸着
10	土師器 甕	カマド 15区1層 16区1層 12区1層 11区2層	口 20.2 底 — 高 7.3	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　不良	口縁部～胴上部の1/4　内面に酸化還元焔によるスス吸着
11	土師器 甕	11区床直 11区1層	口 22.8 底 — 高 5.8	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/6　内面に酸化還元焔によるスス吸着　歪み有
12	土師器 甕	11区2層 16区1層 2区1層 11区1層	口 23.2 底 — 高 6.7	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/6
13	土師器 甕	7区2層 8区床直 11区1層 11区床直	口 26.0 底 — 高 6.5	外面口縁部横ナデ　胴上部横方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部の2/5～胴部の一部　内面に酸化還元焔によるスス吸着
14	土師器 甕	16区1層 11区2層 12区1層 10区1層 15区2層 カマド	口 16.4 底 — 高 13.4	外面口縁部横ナデ　胴部不定方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　明赤褐色 焼　不良	口縁部～胴部の1/5　内面に酸化還元焔によるスス吸着　外面口縁部に工具痕有
15	土師器 甕	16区1層 8区1層 カマド 15区1層 7区2層 8区床直 6区2層	口 21.2 底 — 高 13.4	外面口縁部横ナデ　胴上部横・斜縦方向ヘラ削り　内面横ナデ	胎　砂粒多量含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴部の2/5　内面に酸化還元焔によるスス吸着　歪み有

H-17号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 甕	12区1層	口 12.4 底 — 高 2.6	口縁部内外面共横ナデ	胎　砂粒含む 色　橙色 焼　良	口縁部の一部

H-17号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	土師器 球胴甕	12区1層 15区1層	口 14.8 底 — 高 13.3	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒多量含む 小石含む 色 橙色 焼 不良	1/2 磨滅著しい
3	土師器 甕	11区1層 12区1層	口 18.8 底 — 高 13.5	外面口縁部横ナデ 胴部縦方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 小石含む 色 にぶい黄橙色 焼 やや不良	口縁部～胴部の1/12 外面に酸化還元焔によるスス吸着

H-18号住

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	9区床直	口 11.0 底 — 高 3.1	外面口縁部横ナデ 体底部ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	破片 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
2	土師器 坏	5区1層	口 11.7 底 — 高 3.9	外面口縁部横ナデ 胴部横方向ヘラ削り 内面横ナデ	胎 砂粒含む 色 にぶい橙色 焼 良	1/5 内外面共酸化還元焔によるスス吸着
3	須恵器 坏	5区1層	口 — 底 8.4 高 1.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	底部の1/6
4	須恵器 坏	6区1層	口 14.2 底 9.2 高 3.8	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/3
5	須恵器 坏	1区1層	口 13.9 底 8.0 高 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	3/4 外面に自然灰釉付着
6	須恵器 高台付坏	カマド	口 — 底 8.4 高 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面黒色処理 暗文	胎 砂粒含む 色 外面 橙色 内面 黒色 焼 やや不良	胴部の一部～底部の1/4
7	須恵器 蓋	1区1層	口 19.4 ツマミ 4.4 高 3.3	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/12 内外面共自然灰釉付着 重ね焼き痕有
8	須恵器 蓋	2区床直	口 20.0 ツマミ 4.6 高 4.2	内外面共回転横ナデ 外面天井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	2/3 内外面共重ね焼き痕 剝落痕有 自然灰釉付着 内面に窯壁融着
9	須恵器 蓋	7区1層	口 21.6 ツマミ — 高 1.9	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部の一部
10	須恵器 高台付盤	8区床直 4区1層 5区1層	口 24.8 底 19.0 高 2.0～3.8	内外面共回転横ナデ 胴下部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	4/5 高台欠損 歪み、ひび割れ有 内面に重ね焼き痕有 融着防止用のわら痕有

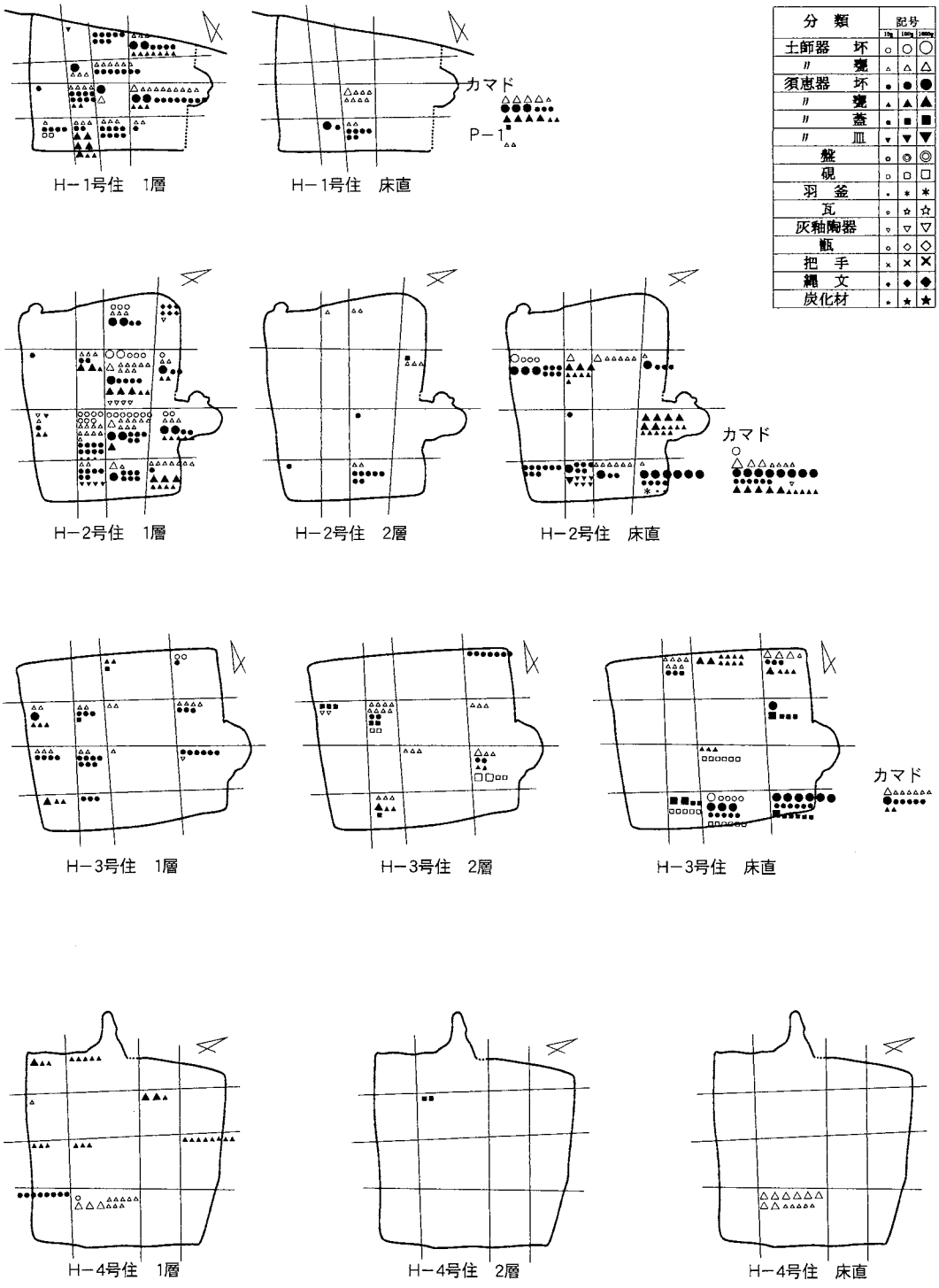
グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	X-11a	口 12.6 底 6.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部～底部の一部
2	土師器 甕	T-21b	口 21.0 底 — 高 1.8	口縁部内外面共横ナデ	胎 小石含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部の1/5
3	土師器 甕	G-16c	口 23.6 底 — 高 3.0	口縁部内外面共横ナデ	胎 砂粒含む 色 橙色 焼 良	口縁部の一部 内外面共スス付着
4	須恵器 坏	X-8b	口 12.2 底 7.6 高 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の一部
5	須恵器 坏	T-19d	口 13.8 底 7.0 高 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～底部の1/4
6	須恵器 坏	W-11d	口 13.2 底 — 高 3.1	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部
7	須恵器 坏	V-23c	口 13.6 底 — 高 3.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部～胴部の一部
8	須恵器 坏	W-10c	口 — 底 6.4 高 0.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 小石含む 色 灰色 焼 良	底部のみ
9	須恵器 高台付坏	W-26d	口 — 底 7.0 高 1.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	底部の1/4

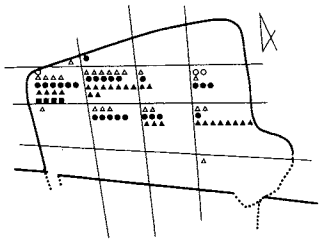
グリッド

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
10	須恵器 高台付甕	J-14c	口 — 底 14.0 高 5.6	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 内面 灰色 外面 オリーブ灰色 焼 良	胴下部～底部の一部
11	須恵器 蓋	J-18b	口 15.6 ツマミ — 高 1.0	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部
12	須恵器 甕	X-26a	口 — 底 — 高 6.2	内面あて具痕 外面回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	頸部～胴上部の一部
13	須恵器 壺	2B-34c	口 11.6 底 — 高 5.7	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む 色 暗灰色 焼 良	口縁部の一部
14	土製 紡錘車	P-12c	長さ 3.9 幅 3.9 厚さ 1.6 重量(g) 22.4	側面全面にヘラ削り調整が施される		

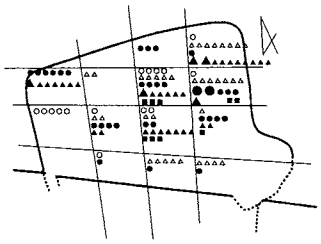
（鬼形）



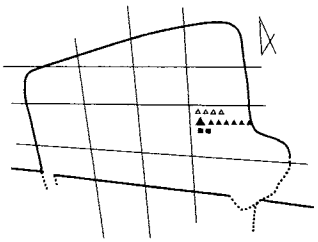
第335図　住居址16分割遺物出土状況(1)



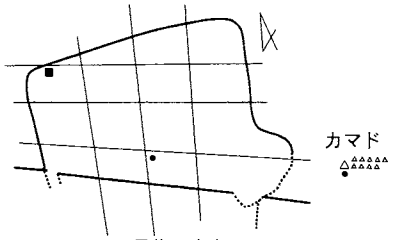
H−5号住　1層



H−5号住　2層

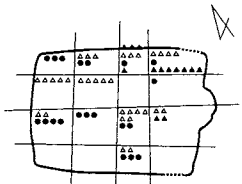


H−5号住　3層

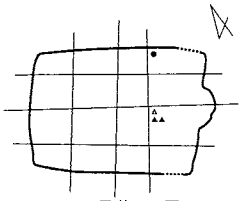


H−5号住　床直

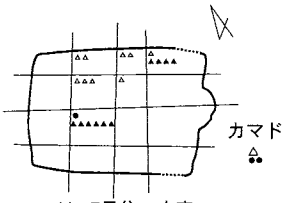
分　類	記号		
	10g	100g	1000g
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	△	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	■	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◎	◎	◎
硯	□	□	□
羽　釜	＊	＊	＊
瓦	☆	☆	☆
灰釉陶器	▽	▽	▽
甑	◇	◇	◇
把　手	×	×	×
縄　文	◆	◆	◆
炭化材	★	★	★



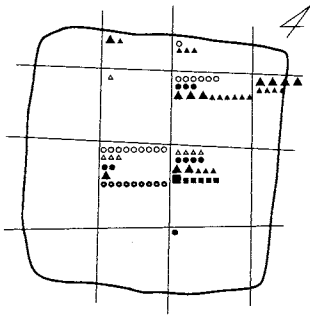
H−7号住　1層



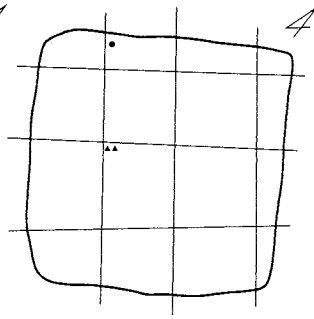
H−7号住　2層



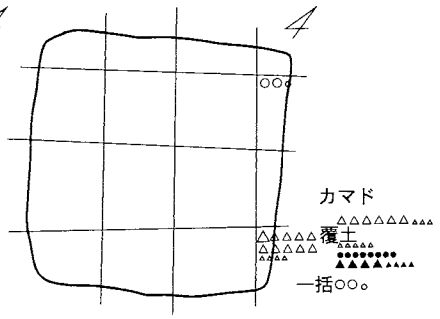
H−7号住　床直



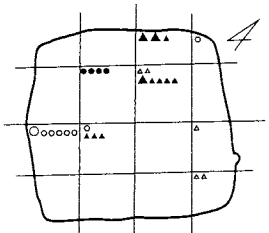
H−8号住　1層



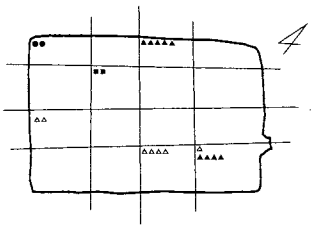
H−8号住　2層



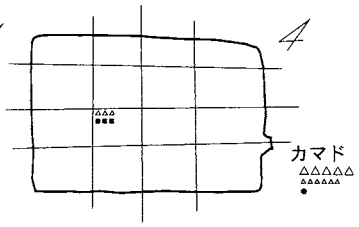
H−8号住　床直



H−9号住　1層

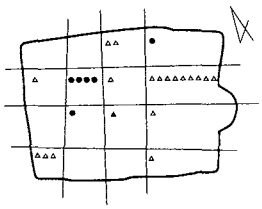


H−11号住　1層

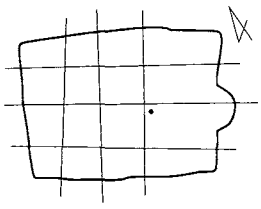


H−11号住　床直

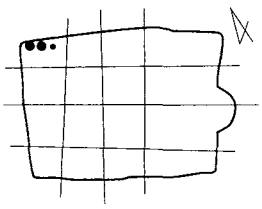
第336図　住居址16分割遺物出土状況(2)



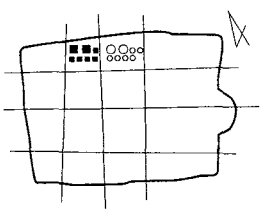
H－12号住　1層



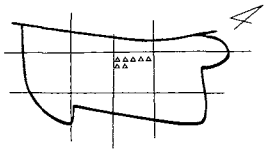
H－12号住　2層



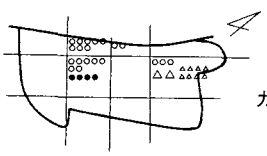
H－12号住　3層



カマド
P－1
H－12号住　床直

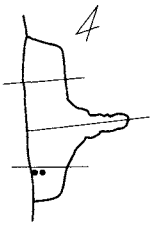


H－13号住　1層

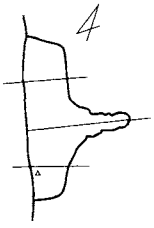


カマド
H－13号住　床直

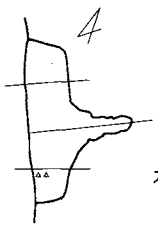
分　類	記号		
	10g	100g	1000g
土師器　坏	○	○	◯
〃　甕	▵	△	△
須恵器　坏	●	●	●
〃　甕	▲	▲	▲
〃　蓋	●	■	■
〃　皿	▼	▼	▼
盤	◘	◙	◎
硯	▫	□	□
羽　釜	▪	＊	＊
瓦	◘	☆	☆
灰釉陶器	▽	▽	▽
甑	◘	◇	◇
把　手	×	×	×
縄　文	●	◆	◆
炭化材	▪	★	★



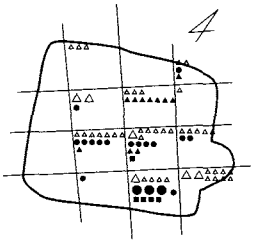
H－14号住　1層



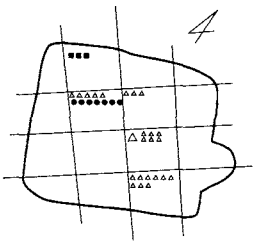
H－14号住　2層



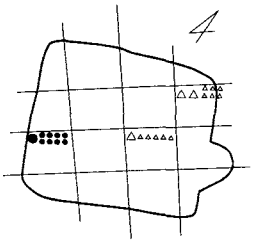
カマド
H－14号住　3層



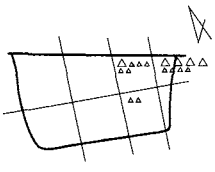
H－15号住　1層



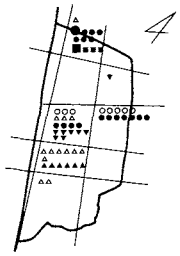
H－15号住　2層



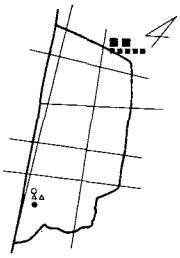
カマド
H－15号住　床直



H－17号住　1層

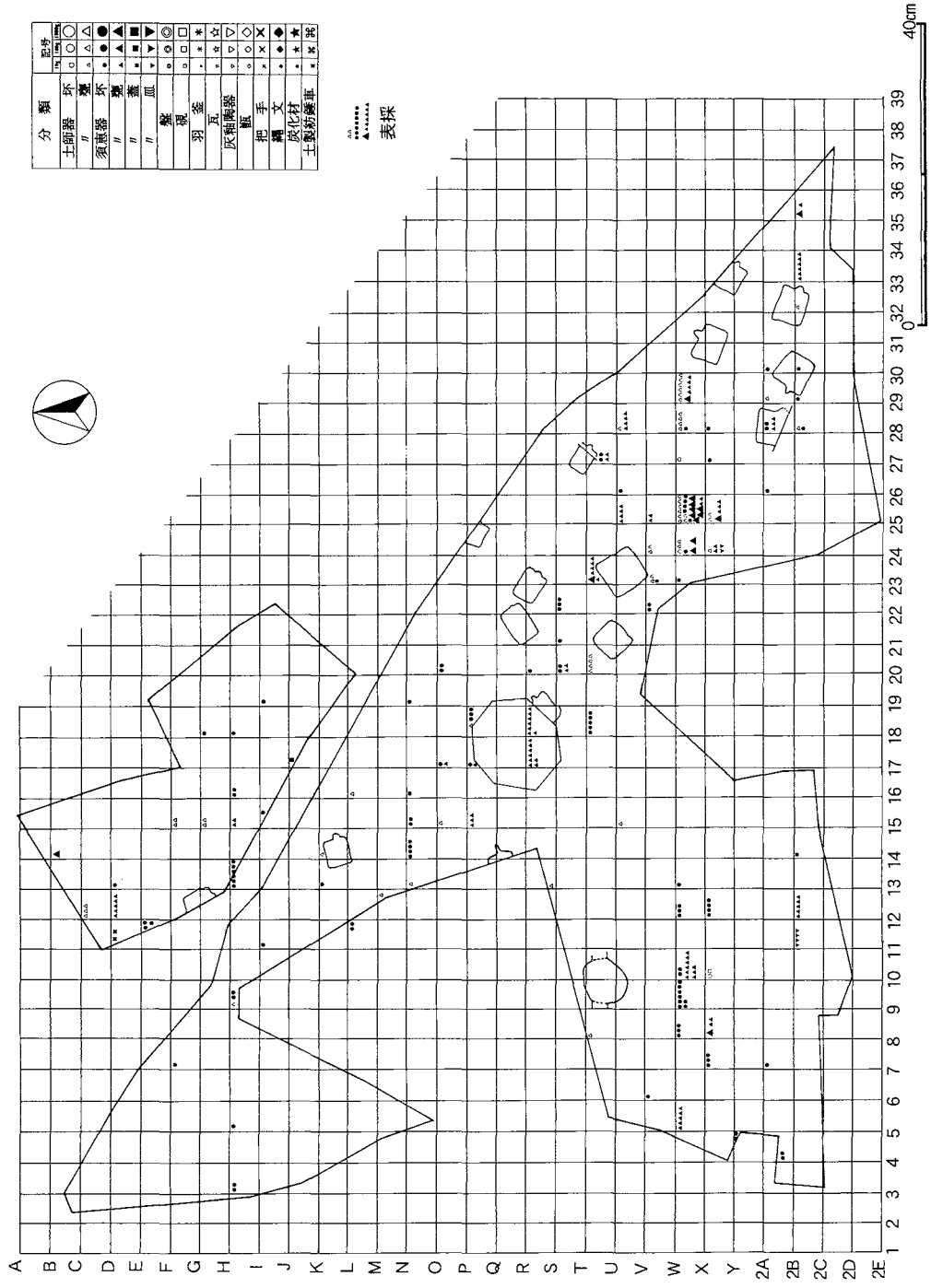


H－18号住　1層



カマド
H－18号住　床直

第337図　住居址16分割遺物出土状況(3)



第338図　グリッド遺物出土状況

3　北原古墳（第339・340図）

(1)　古墳概要

北原古墳は秋間丘陵の主稜線から続く南東方向にのびる支稜線で、両側が谷で挟まれた丘陵の緩斜面に位置している。本墳の南には奈良・平安時代の集落跡である北原遺跡・北原II遺跡が隣接する。本地域はこの北原古墳を含めて、こうした支稜線単位で終末期古墳が点在し、幾つかの古墳群が展開する。本墳の谷を挟んだ東250mには北川古墳が存在する。

『上毛古墳総覧』では、秋間地区に16基の古墳が登載されている。しかし、この北原古墳と北川古墳は記載漏れの古墳であり、その後行われた安中市市内遺跡詳細分布調査によって確認された。

調査前は開墾によって石室の一部が露出し、天井石は失われていたが、墳丘部分は北側を中心に比較的良好な遺存状態であった。

(2)　墳丘及び外部施設

本墳は主体部部分を中心に地山を掘削し、墳丘部分は傾斜地形を利用して盛土を施して築造された円墳である。

規模は石室主軸方向で周堀を含めた直径で17m以上、墳丘の直径は14m以上であると推定される。

周堀は全周し、北側部分の上段には葺石が存在する。周堀には浅間B軽石の純層が堆積していた。墳丘外側には多数の小ピットが検出された。

(3)　主体部

埋葬主体部は、自然乱石積みの両袖型横穴式石室で南東に開口する。開墾により天井石は全て失われており、石室内は土砂で埋没していた。玄室左壁の一部と羨道左側部分は、盗掘あるいは開墾によって壊されていた。また、石室入口部分の遺存状態も悪く、前庭部の構造は確認できなかった。

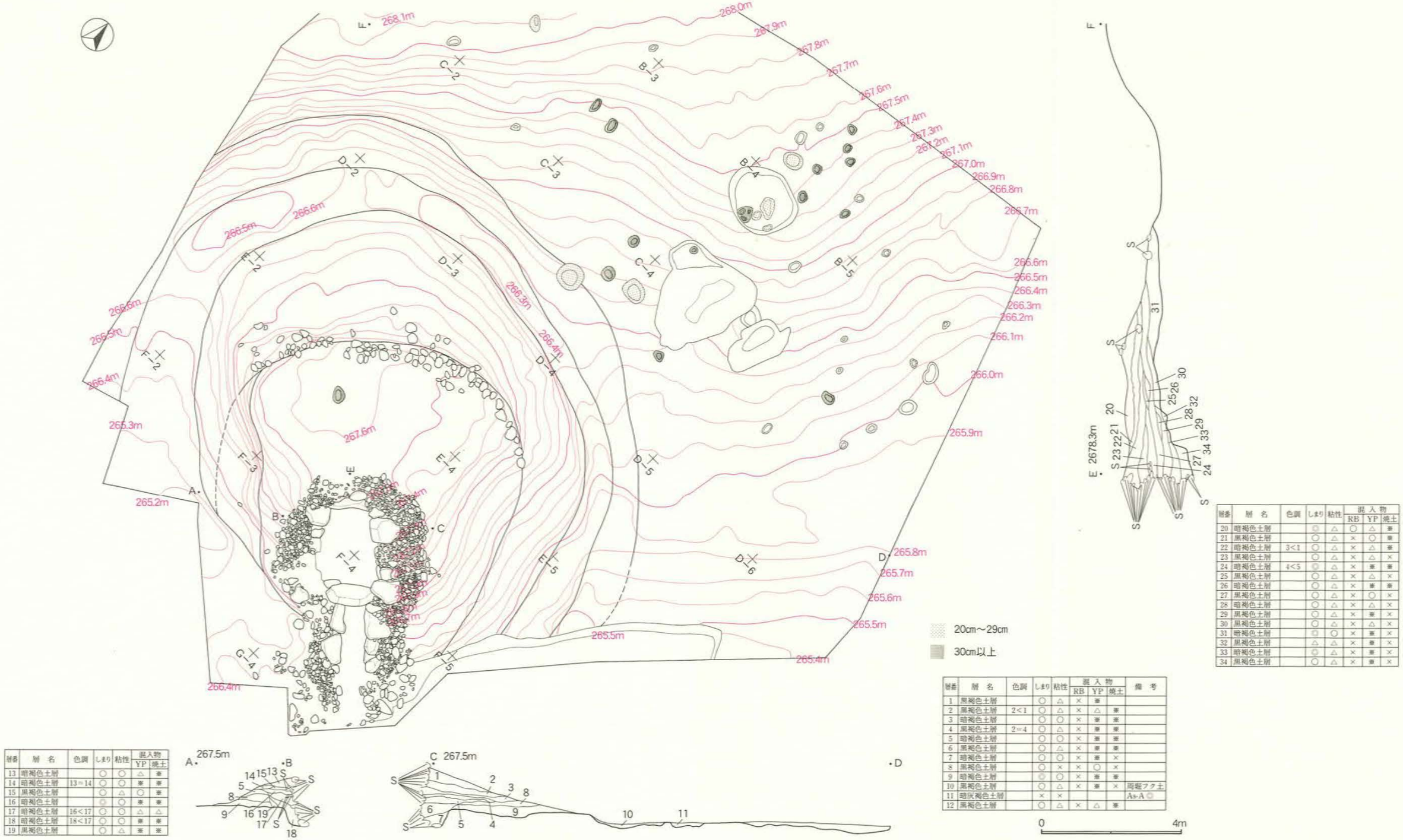
石室の規模は全長4.9m以上、玄室長2.4m、玄室幅1.6m、羨道長2.2m以上、玄室幅0.6m～0.7mであると推定される。石材は在地の凝灰岩（溶結凝灰岩）が主体であり、玄室奥壁と側壁にはこの凝灰岩の大形割石が使用されている。石室の床面、裏込めや墳丘の葺石には安山岩が使用されている。

(4) 遺　物（第349図）

遺物は石室の盗掘などのため検出数は少なかったが、右側玄門と玄室内側との境で完形の長頸壺がほぼ原位置を推測させるような状態で出土した。また、玄門付近及び羨道前部においても須恵器甕の破片が検出された。長頸壺は硬質緻密な須恵器で、器体全体にオリーブ色の釉がかかる。奈良時代以降のものと推定される。

(5) 小　結

本墳は、盗掘により副葬遺物は少なかったが、前記したようにほぼ完形の長頸壺の出土は特筆される。しかし、墳丘の形態や自然乱石積みの両袖型横穴式石を持つことなどから、本墳の構築年代は7世紀後半～終末と考えられる。つまり、遺構と出土遺物の時期との間に時間差が認められることから、奈良時代以降も墳墓として利用されていたものと考えられる。　（井上・千田）

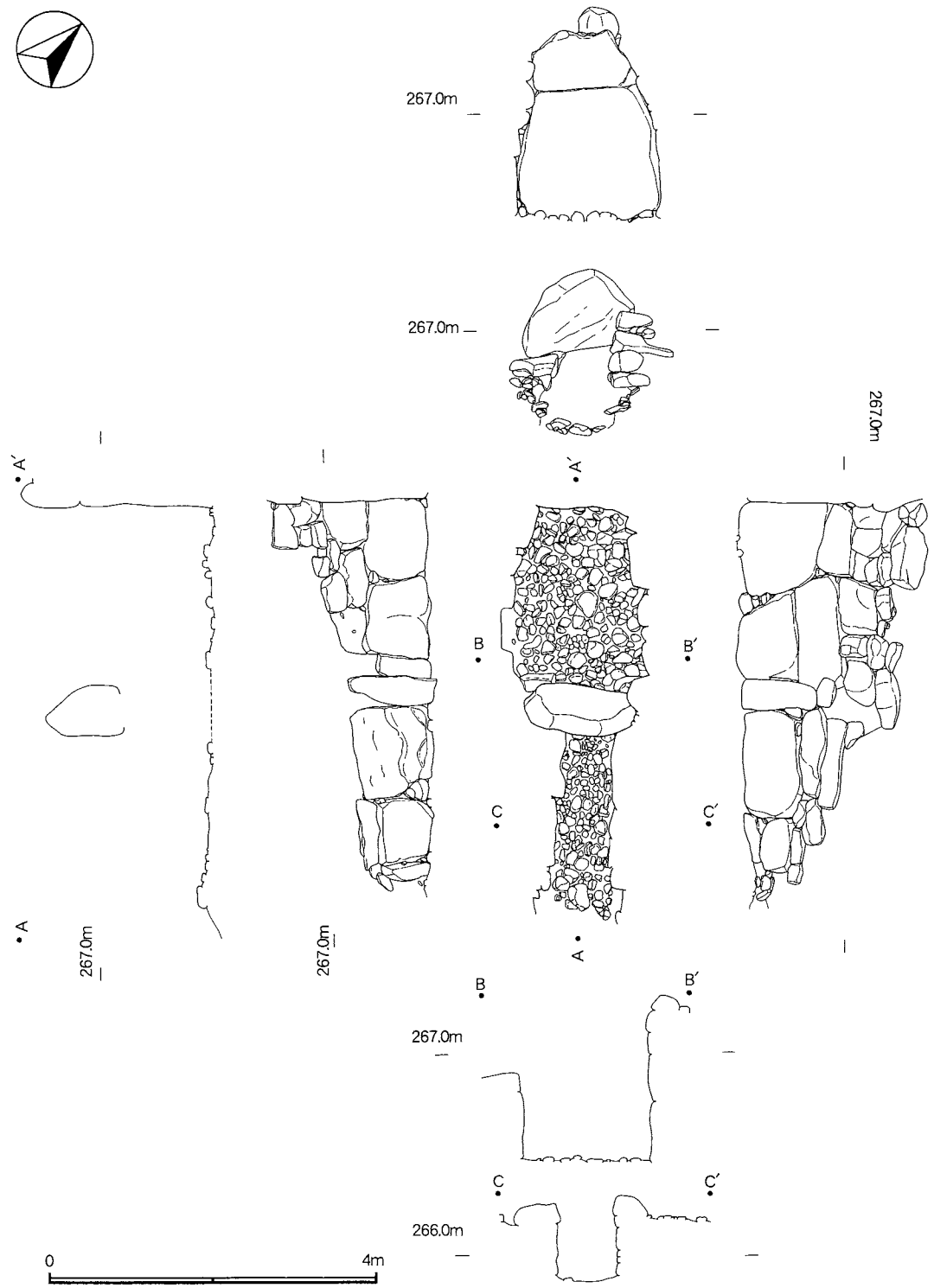


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 YP	混入物 焼土
20	暗褐色土層		◎	△	○	△	※
21	黒褐色土層		○	△	×	○	※
22	暗褐色土層	3<1	○	△	×	△	※
23	黒褐色土層		○	△	×	△	×
24	暗褐色土層	4<5	◎	△	×	※	※
25	黒褐色土層		○	△	×	△	×
26	暗褐色土層		○	△	×	※	※
27	黒褐色土層		○	△	×	○	×
28	暗褐色土層		○	△	×	△	×
29	黒褐色土層		○	△	×	※	×
30	黒褐色土層		○	△	×	△	×
31	暗褐色土層		◎	○	×	※	×
32	黒褐色土層		△	△	×	※	×
33	暗褐色土層		◎	△	×	※	×
34	黒褐色土層		○	△	×	※	×

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RB	混入物 YP	混入物 焼土	備考
1	黒褐色土層		○	△	×	※		
2	黒褐色土層	2<1	○	△	×	△	※	
3	暗褐色土層		○	○	×	※	※	
4	黒褐色土層	2=4	○	△	×	※	※	
5	暗褐色土層		○	○	×	※	※	
6	黒褐色土層		○	△	×	※	※	
7	暗褐色土層		○	○	×	※	×	
8	黒褐色土層		○	×	×	○	×	
9	暗褐色土層		◎	○	×	※	※	
10	黒褐色土層		○	△	×	※	×	周堀フク土
11	暗灰褐色土層		×	×				A-A ◎
12	黒褐色土層		○	△	×	△	※	

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 YP	混入物 焼土
13	暗褐色土層		○	○	△	※
14	暗褐色土層	13=14	○	○	※	※
15	黒褐色土層		○	△	○	※
16	暗褐色土層		◎	○	※	※
17	暗褐色土層	16<17	○	○	△	△
18	暗褐色土層	18<17	○	○	※	※
19	黒褐色土層		○	△	※	※

第339図　北原古墳全体図



第340図　北原古墳　石室展開図

4　北川古墳（第341・342・343図）

(1)　古墳概要

本墳は北原古墳と同様、秋間丘陵の主稜線から続く南東方向にのびる支稜線に位置し、両側が谷で挟まれた丘陵の斜面に存在する。谷を挟んで南西に北原古墳、同じく谷を挟んで東には馬舟さま（秋間９号墳）が存在している。

調査の結果、以前に墳丘と考えられたマウンドは浅間Ａ軽石の灰掻き山であることが判明し、その下から墳丘及び主体部が検出された。さらに墳丘面には浅間Ｂ軽石に覆われた畝状遺構を検出し、すでに浅間Ｂ軽石降灰以降には開墾によって墳丘上部が削平されていたことが確認された。

(2)　墳丘及び外部施設

本墳も北原古墳と同様、主体部部分を中心に地山を掘削し、墳丘部分は傾斜地形を利用して盛土を施して築造された円墳である。

規模は石室主軸方向で直径16m以上、墳丘の直径は11.5mであると推定される。

周堀は墳丘東側で一部を確認したが、墳丘外側の削平が著しかったため、全周するのか確認することができなかった。葺石は、石室入口部分と墳丘裾でほぼ全周することを確認した。

(3)　主体部

本墳の埋葬主体部は、自然乱石積みの両袖型横穴式石室で、南東方向に開口する。石室は盗掘及び開墾により天井石の全てが失われ、石室右側部分の礫も多数抜き取られ、遺存状態はあまり良くなかった。石材は主に在地の凝灰岩（溶結凝灰岩）を使用し、玄室の奥壁と側壁は大形の割石が使用されている。また、床面の敷石、裏込め、積石の一部、葺石には安山岩が使用されている。

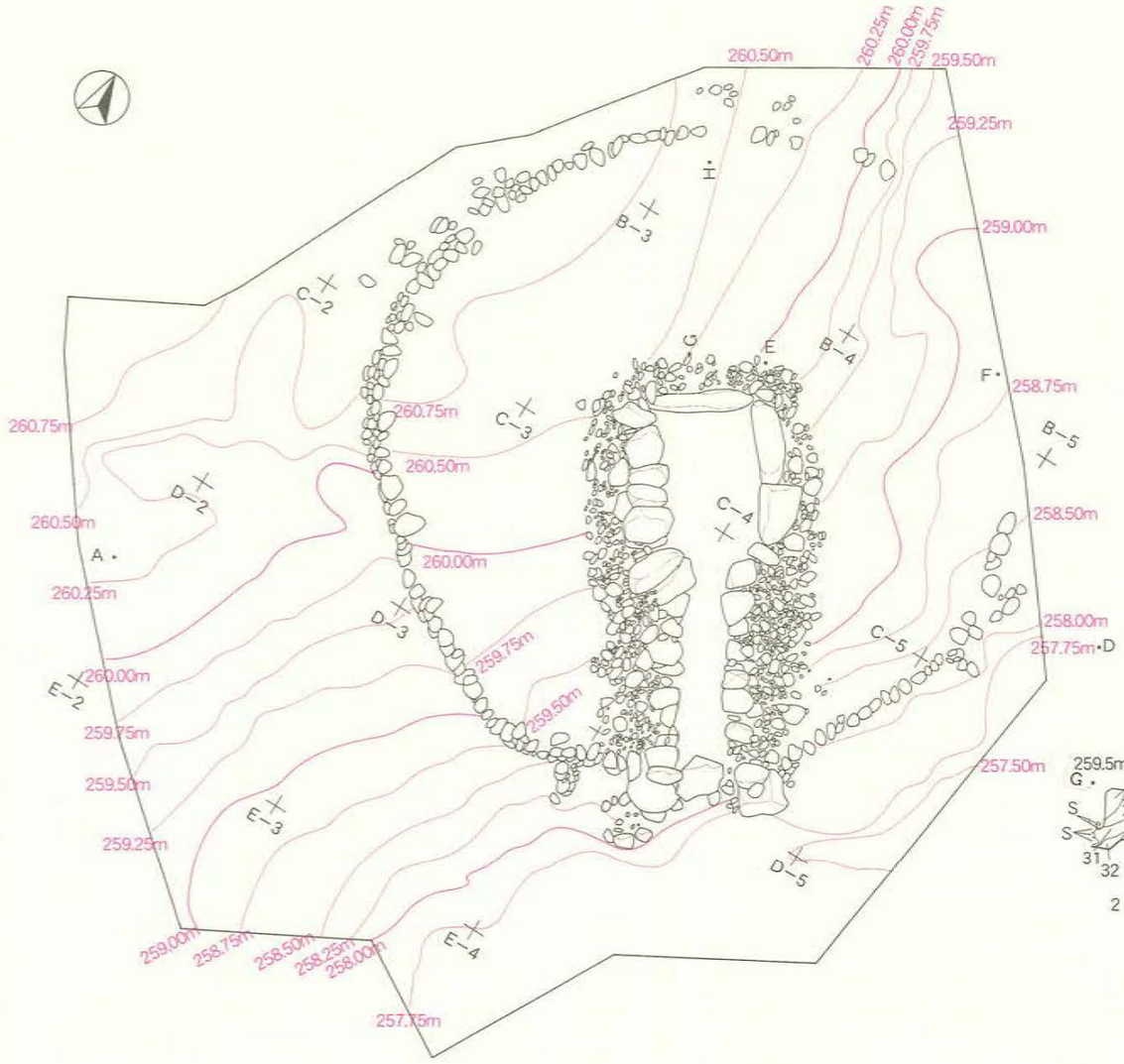
石室の規模は全長４m、玄室長2.8m、玄室幅2.1m、羨道長3.6m、羨道幅0.6mである。

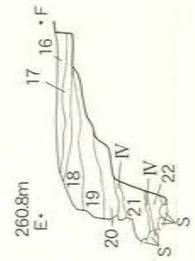
羨道入口部は閉塞石がつめられた状態であったが、羨道正面部分は急勾配の斜面であるため、前庭部は確認できなかった。

(4)　遺　物（第344～348・349・350図）

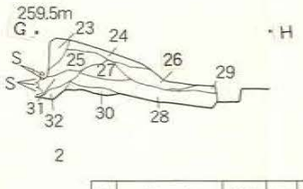
遺物は、玄室から鉄剣、鉄鏃、帯金具、刀子、鉄釘、土師器片の副葬遺物が出土した。これらは玄室入口付近の壁際を中心に種類ごとに集中して確認された。また覆土からは須恵器も数点検出された。

第344図の鉄剣は玄室右側玄門付近で出土した。二個一組の青銅製の足金具と責金具が残ること



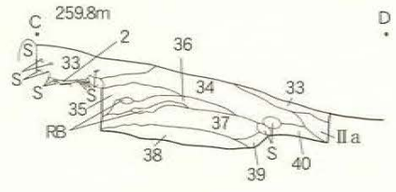


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-YP
16	褐色粘土充塡土層		◎	×	○	◎	○
17	暗褐色粘土層		◎	×	○	◎	○
18	黒褐色土層		◎	×	○	○	△
19	黒色土層		○	×	○	×	○
20	黒色土層	19＜20	○	△	○	※	○
21	黒色土層	20＜21	○	△	△	×	△
22	黒色土層	22＜21	○	○	△	×	※



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-YP
23	黒褐色土層		△	×	△	※	※
24	黒色土層	24＜23	○	×	○	※	△
25	暗褐色土層		◎	△	◎	○	○
26	黒褐色土層	26＜25	○	△	○	△	△
27	黒色土層		○	×	△	×	△
28	黒色土層		◎	×	○	×	○
29	黒褐色土層	26＝29	○	△	○	※	○
30	黒色土層	28＜30	○	△	△	×	△
31	黒褐色土層		◎	△	○	○	○
32	黒褐色土層	32＜31	◎	○	△	△	△

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-YP	混入物 炭化物	混入物 焼土
1	黒褐色土層		○	×	△	△	○	×	×
2	黒色土層	2＜1	○	×	※	※	△	×	×
3	黒色土層	3＜2	○	×	※	×	△	※	※
4	暗褐色土層		◎	△	○	◎	○	×	×
5	暗褐色土層	5＜4	◎	△	△	◎	△	×	×
6	黒褐色土層		◎	×	△	△	※	×	×
7	黒色土層		◎	×	△	△	△	×	×
8	黒色土層	7＜8	◎	△	△	△	△	×	×
9	黒褐色土層		◎	△	△	○	△	×	※
10	黒色土層	10＜8	○	△	○	△	△	×	×
11	黒色土層		◎	△	△	※	※		
12	褐色粘土層		○	○	※	○	×		
13	黒褐色土層	11＜13	○	△	△	△	※		
14	褐色粘土層		◎	◎			※		
15	褐色粘土層	14・15	◎	◎			※		



第341図　北川古墳全体図

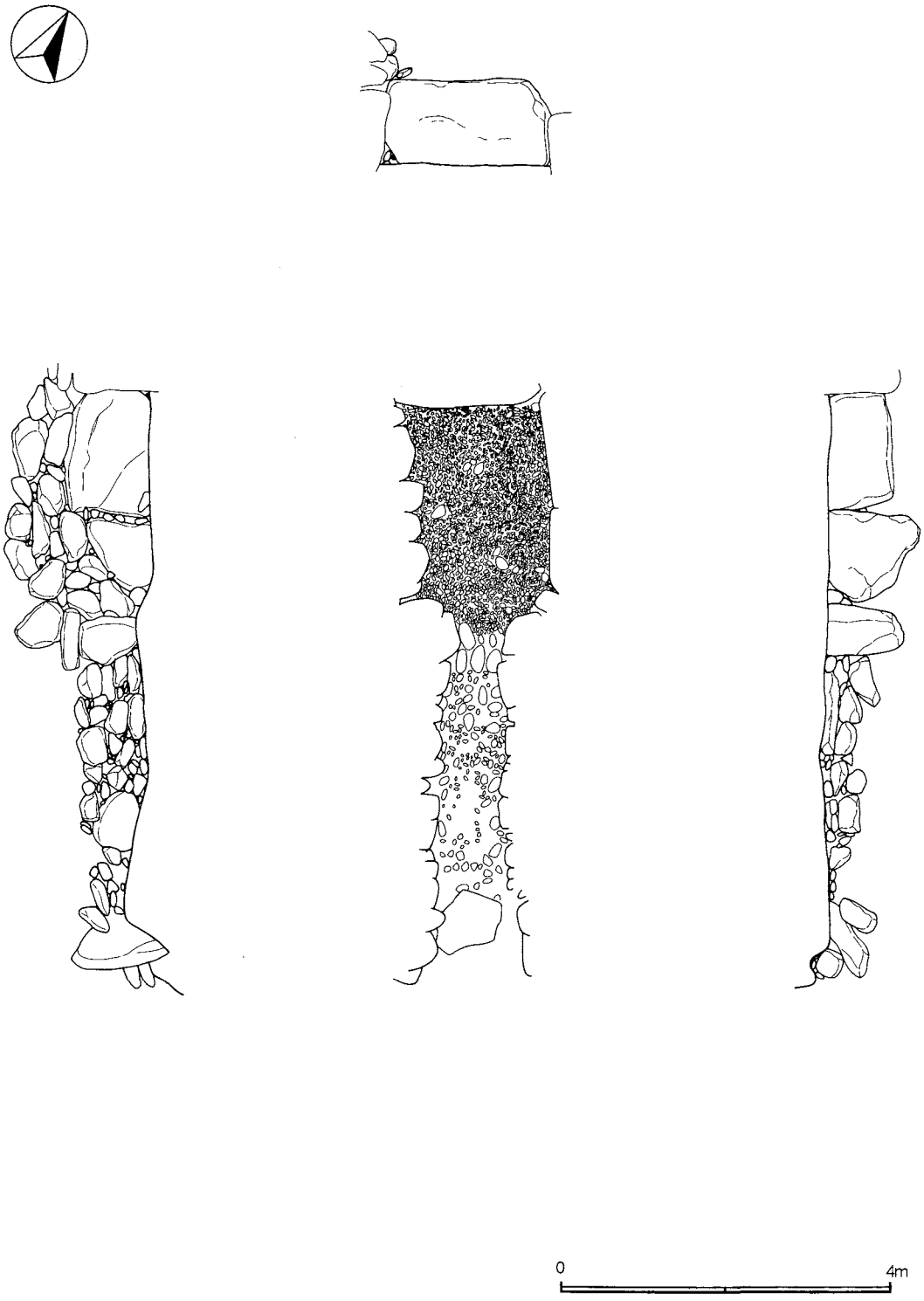
から、鞘のついたまま納められたものと推定される。足金具部分の隙間には木質部が残存していた。

第345図8～18は青銅製の腰帯具で、鉸具・巡方3点・丸鞆6点・蛇尾の11点が1つのセットになって出土した。腰帯具は玄室左側入り口付近で出土し、その状態から推測して革帯に着装されていたものと考えられる。

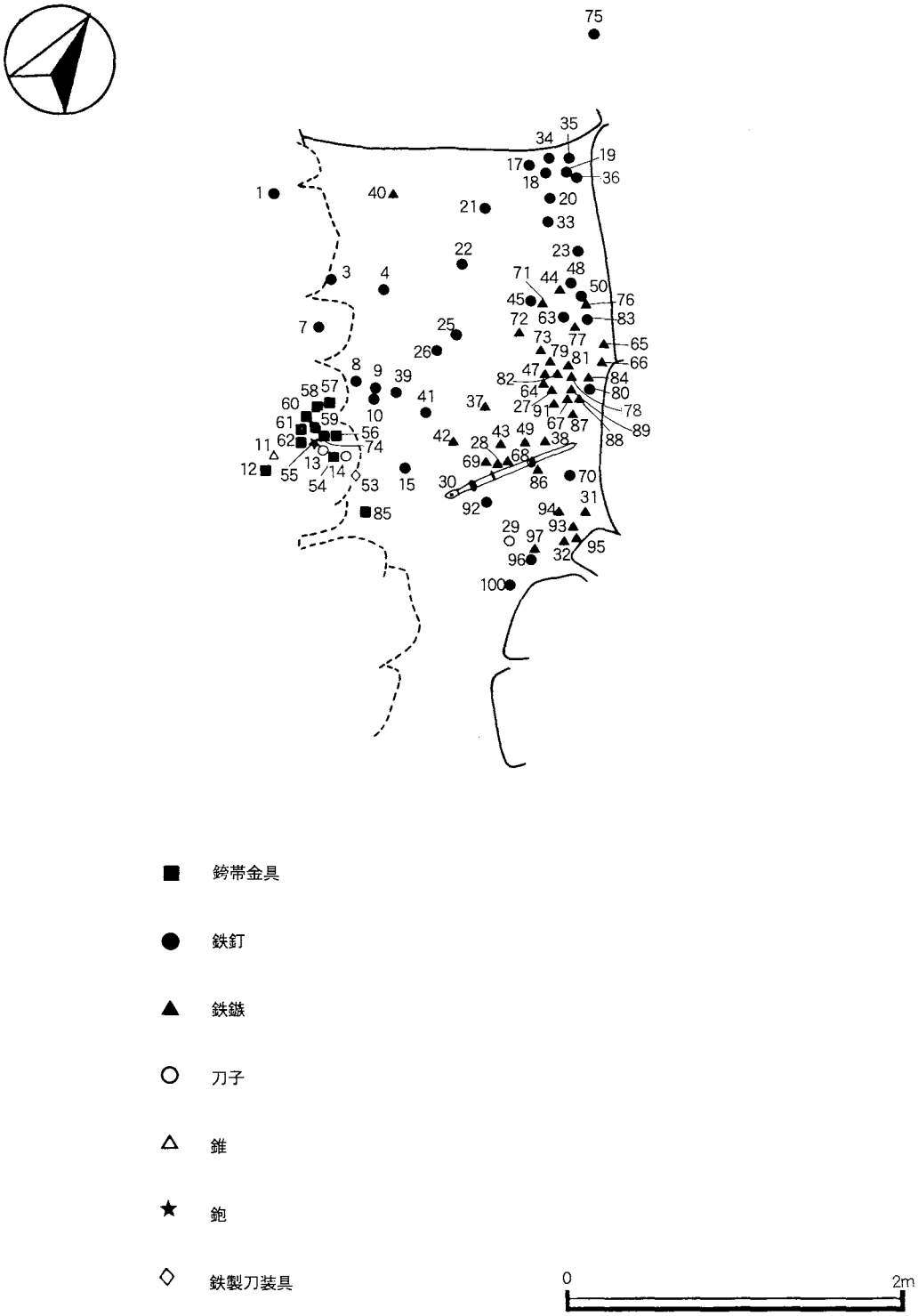
(5) 小　結

本墳も北原古墳同様、自然乱石積みの両袖型横穴式石室を持つ円墳で、墳丘や主体部の形態などから、7世紀後半～終末に築造されたものと推定される。そして、やはり検出された出土遺物との間に時間差が認められることから、平安時代まで墳墓として利用されたていたことが考えられる。

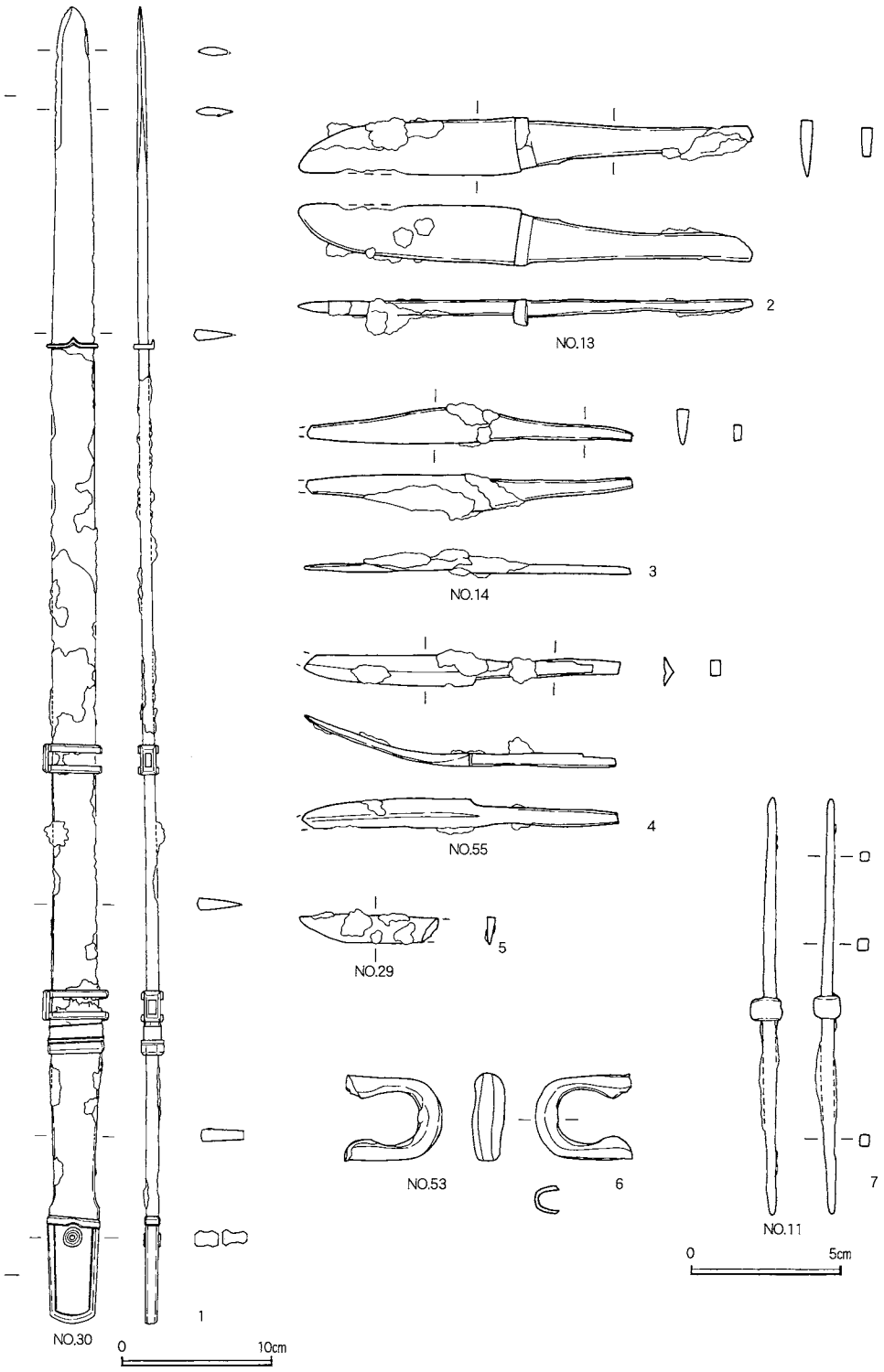
副葬遺物は前述したように、鉄剣及び鉄鏃といった武器、腰帯具、刀子、鉄釘が検出された。腰帯具は平安時代のものであり、一つのセットになっていたものと推定され、被葬者の身分を示しているものと推測される。（井上・千田）



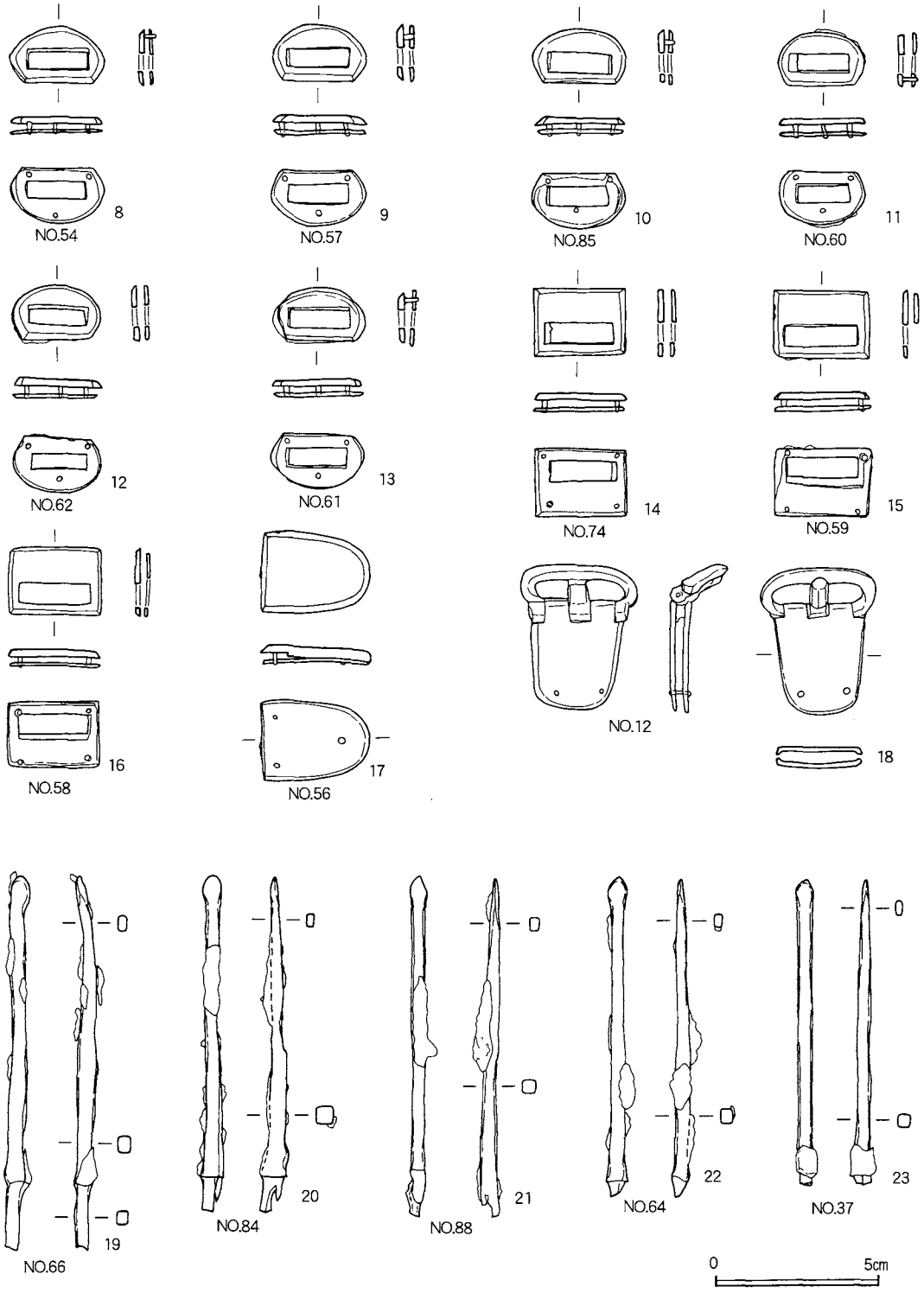
第342図　北川古墳　石室展開図



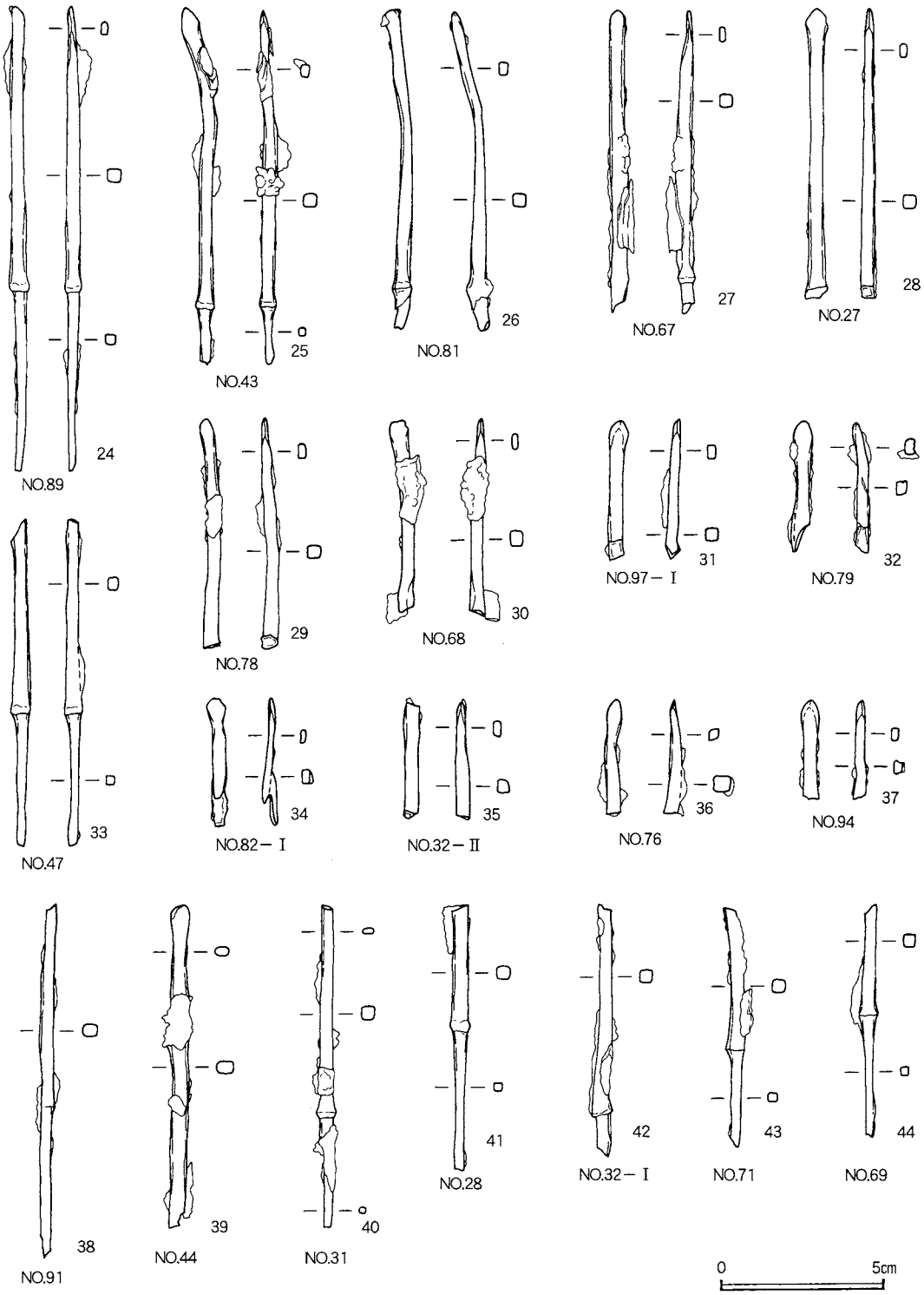
第343図　北川古墳　石室内遺物出土状況



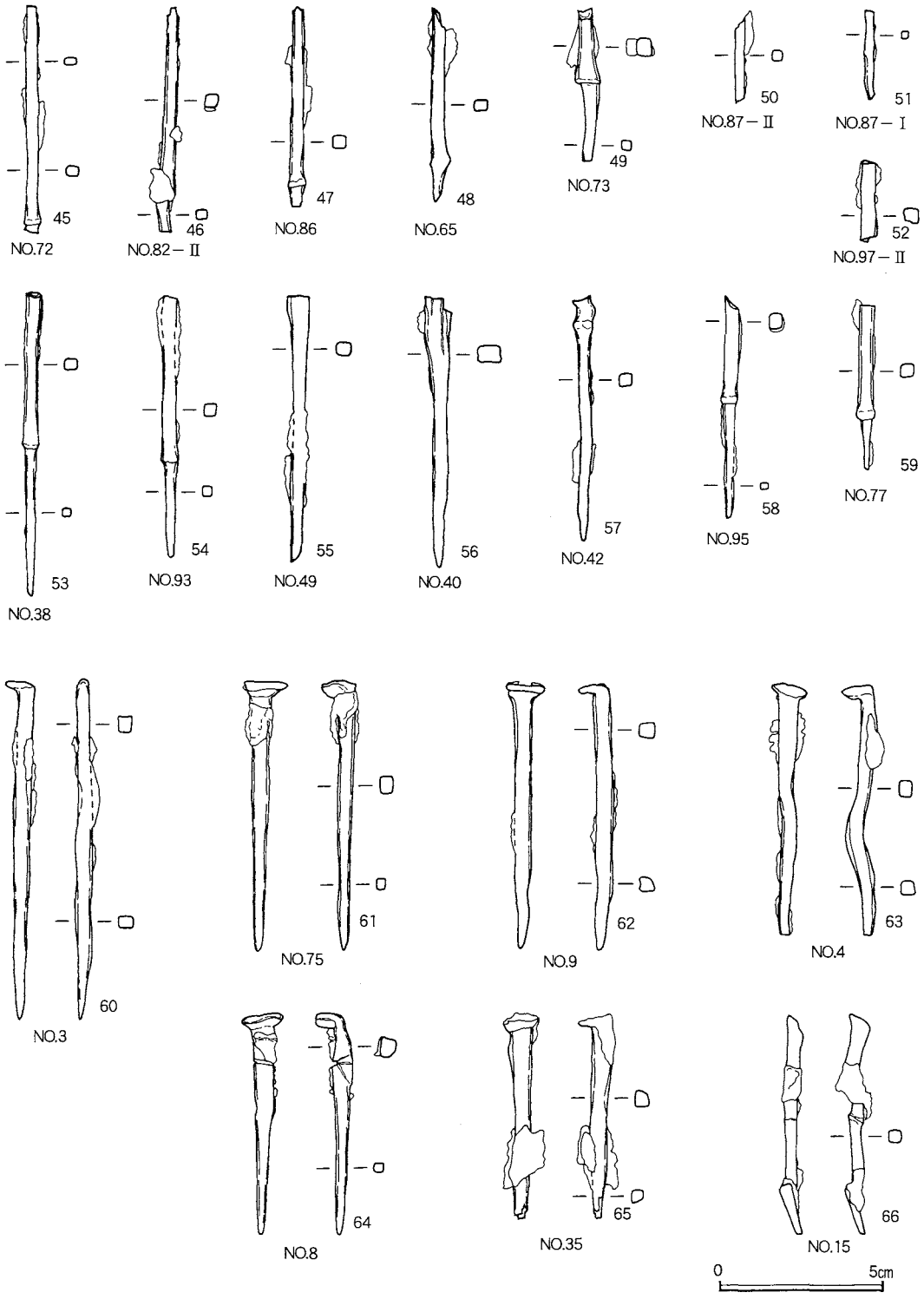
第344図　北川古墳出土の遺物(1)



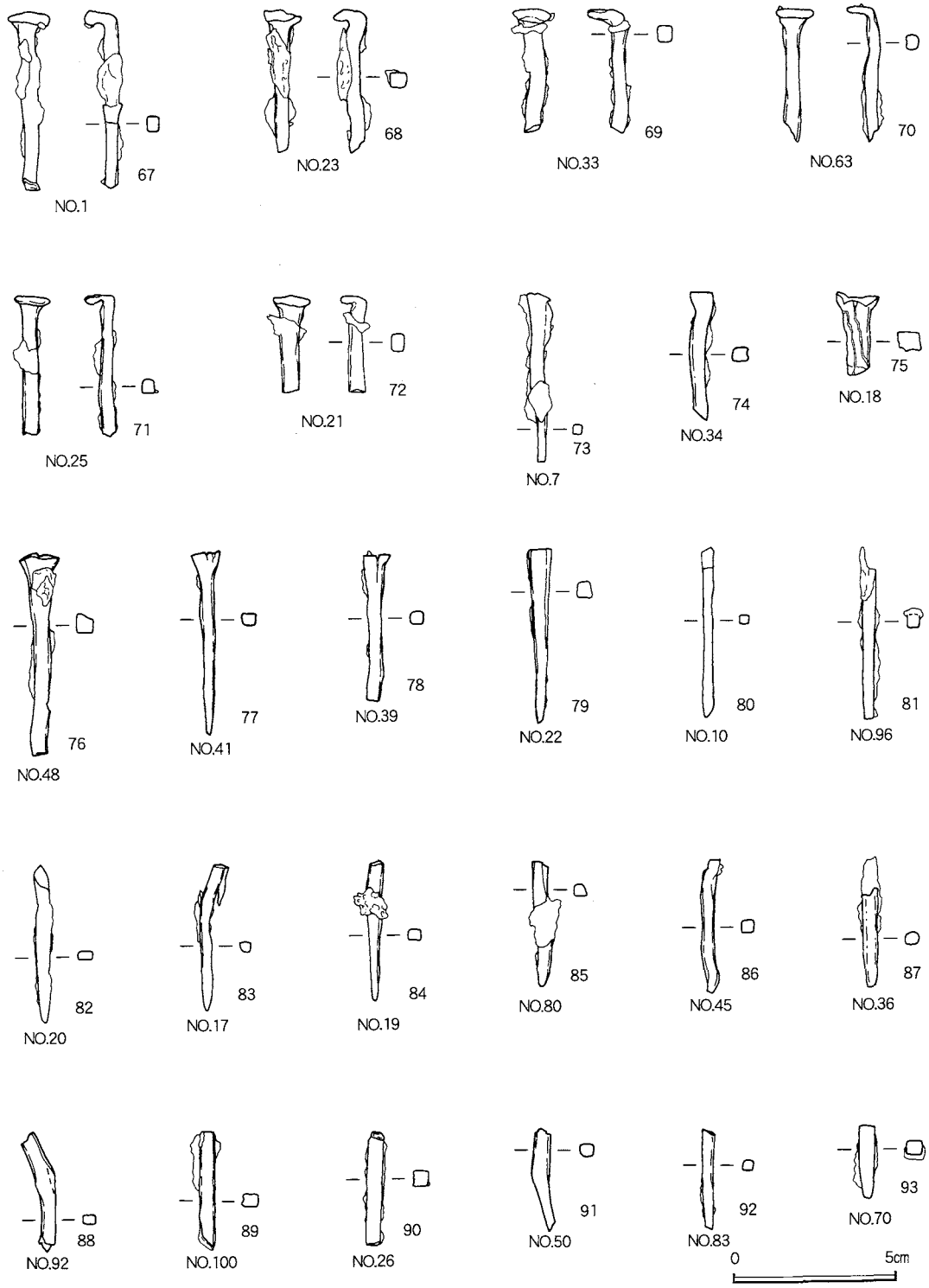
第345図　北川古墳出土の遺物(2)



第346図　北川古墳出土の遺物(3)



第347図　北川古墳出土の遺物(4)

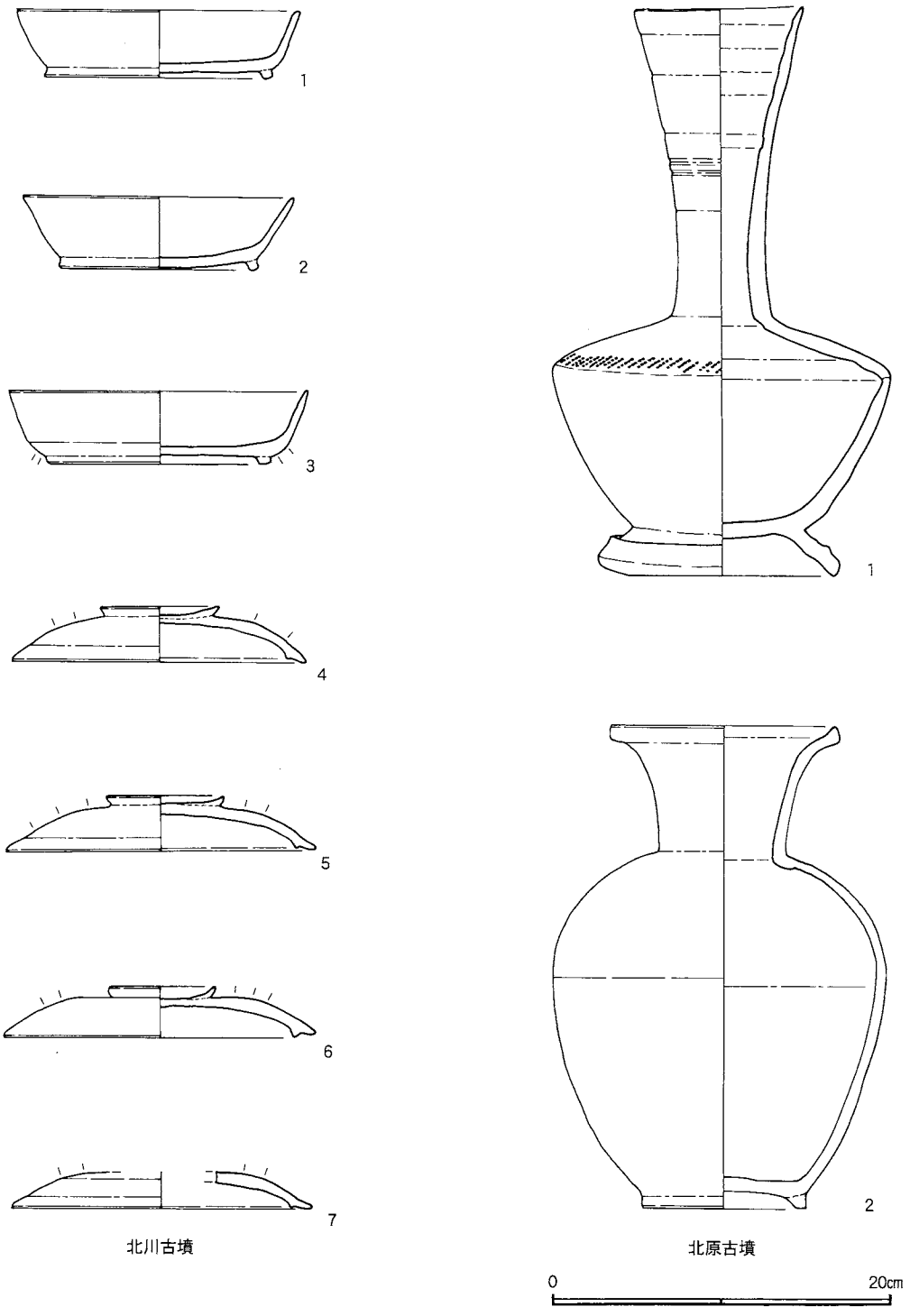


第348図　北川古墳出土の遺物(5)

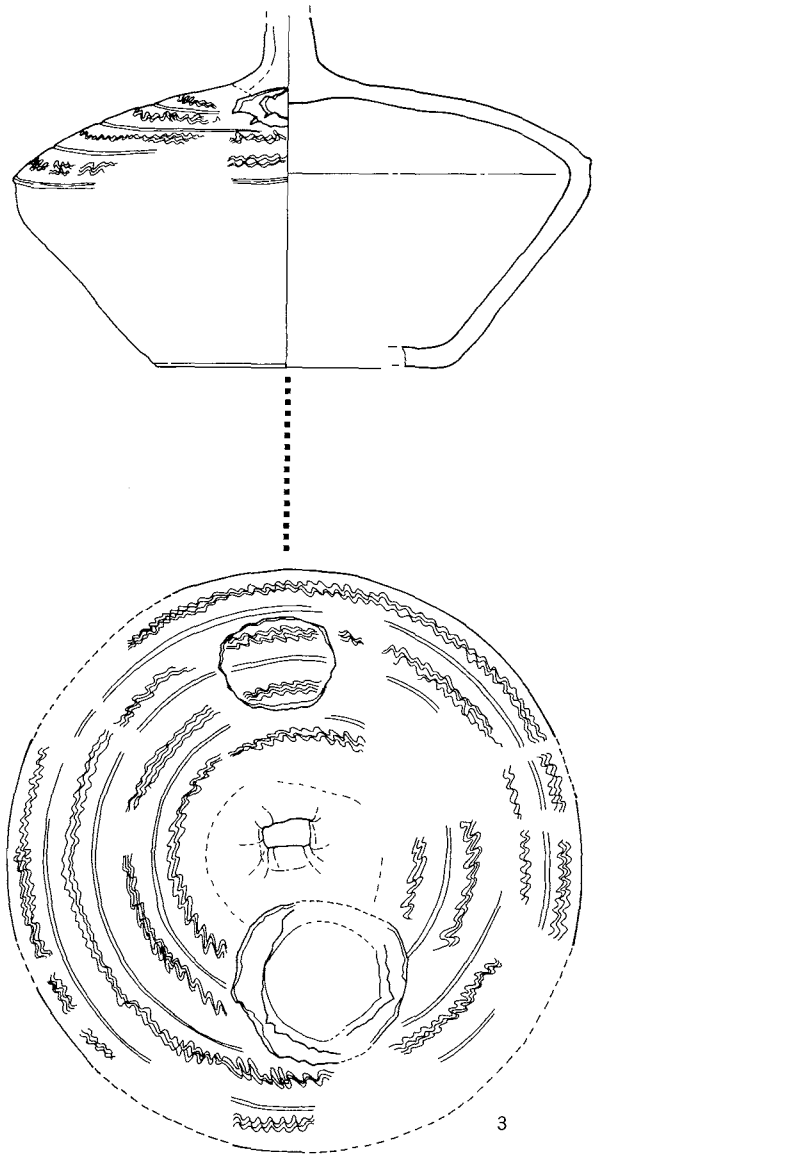
B－9（北川古墳）鉄製品・銅製品観察表

法量（ ）は現存値　単位:cm、g

No.	出土位置	器種	長さ	厚さ	重さ	備考
1	No.30	鉄剣	全長 88.0 身長 69.0 身巾 3.0	1.0	807.3	
2	No.13	刀子	15.2 刃幅 1.9	0.5	37.9	
3	No.14	刀子	(10.9) 刃幅 1.1	0.4	19.8	
4	No.55	鉋	(10.5) 刃幅 1.0	0.5	11.4	
5	No.29	刀子	(4.6) 刃幅 0.9	0.3	3.6	
6	No.53	刀装具	3.2×2.4	1.0	11.6	
7	No.11	錐	(13.8)	0.5	13.4	
8	No.54	鍔帯金具	1.7×2.8	0.5	14.8	銅製品
9	No.57	鍔帯金具	1.7×2.9	0.6	13.8	銅製品
10	No.85	鍔帯金具	1.7×2.8	0.5	6.2	銅製品
11	No.60	鍔帯金具	1.7×2.6	0.6	5.1	銅製品
12	No.62	鍔帯金具	1.7×2.7	0.6	13.9	銅製品
13	No.61	鍔帯金具	1.7×2.9	0.6	5.3	銅製品
14	No.74	鍔帯金具	2.1×2.8	0.6	19.7	銅製品
15	No.59	鍔帯金具	2.1×2.9	0.6	11.6	銅製品
16	No.58	鍔帯金具	2.1×2.8	0.5	12.0	銅製品
17	No.56	鍔帯金具	2.5×3.4	0.5	15.2	銅製品
18	No.12	鍔帯金具	3.5×(4.5)	0.6	26.3	銅製品
19	No.66	鉄鏃	(11.5)	0.5	11.9	
20	No.84	鉄鏃	(10.3)	0.6	10.9	
21	No.88	鉄鏃	(10.4)	0.5	10.5	
22	No.64	鉄鏃	(9.8)	0.5	9.6	
23	No.37	鉄鏃	(9.4)	0.4	9.4	
24	No.89	鉄鏃	(14.2)	0.5	12.4	
25	No.43	鉄鏃	(10.8)	0.5	11.1	
26	No.81	鉄鏃	(9.8)	0.5	8.1	
27	No.67	鉄鏃	(9.3)	0.5	9.6	
28	No.27	鉄鏃	(8.9)	0.5	8.0	
29	No.78	鉄鏃	(7.0)	0.4	5.1	
30	No.68	鉄鏃	(5.9)	0.5	4.9	
31	No.97-Ⅰ	鉄鏃	(4.3)	0.4	2.8	
32	No.79	鉄鏃	(4.0)	0.5	2.7	
33	No.47	鉄鏃	(10.0)	0.5	8.8	
34	No.82-Ⅰ	鉄鏃	(3.9)	0.4	1.8	
35	No.32-Ⅱ	鉄鏃	(3.7)	0.5	2.5	
36	No.76	鉄鏃	(3.6)	0.5	2.9	
37	No.94	鉄鏃	(3.0)	0.4	1.9	
38	No.91	鉄鏃	(10.8)	0.4	7.6	
39	No.44	鉄鏃	(9.9)	0.5	10.6	
40	No.31	鉄鏃	(9.8)	0.4	8.6	
41	No.28	鉄鏃	(8.1)	0.5	7.2	
42	No.32-Ⅰ	鉄鏃	(7.7)	0.4	8.5	
43	No.71	鉄鏃	(7.3)	0.4	6.9	
44	No.69	鉄鏃	(7.1)	0.4	5.6	
45	No.72	鉄鏃	(6.9)	0.4	6.6	
46	No.82-Ⅱ	鉄鏃	(6.8)	0.5	6.4	
47	No.86	鉄鏃	(6.1)	0.5	7.0	
48	No.65	鉄鏃	(6.0)	0.4	5.8	
49	No.73	鉄鏃	(4.7)	0.7	4.8	
50	No.87-Ⅱ	鉄鏃	(2.7)	0.3	1.2	
51	No.87-Ⅰ	鉄鏃	(2.8)	0.3	0.6	
52	No.97-Ⅱ	鉄鏃	(2.5)	0.5	2.3	
53	No.38	鉄鏃	(9.2)	0.4	7.4	
54	No.93	鉄鏃	(8.0)	0.5	8.1	
55	No.49	鉄鏃	(8.1)	0.5	7.6	
56	No.40	鉄鏃	(8.3)	0.7	7.8	
57	No.42	鉄鏃	(7.5)	0.5	6.6	
58	No.95	鉄鏃	(6.8)	0.5	4.8	
59	No.77	鉄鏃	(5.0)	0.5	4.8	
60	No.3	釘	(10.4)	0.6	12.2	
61	No.75	釘	(8.2)	(0.7)	8.2	
62	No.9	釘	(8.2)	(0.5)	9.7	
63	No.4	釘	(7.7)	(0.8)	8.5	
64	No.8	釘	(6.8)	(0.6)	4.9	
65	No.35	釘	(6.3)	(0.7)	9.0	
66	No.15	釘	(6.7)	0.5	4.7	
67	No.1	釘	(5.5)	0.5	6.0	
68	No.23	釘	(4.4)	0.5	6.2	
69	No.33	釘	(3.8)	0.5	4.8	
70	No.63	釘	(4.2)	0.5	4.3	
71	No.25	釘	(4.3)	0.5	4.1	
72	No.21	釘	(3.0)	0.5	3.3	
73	No.7	釘	(5.2)	0.5	4.4	
74	No.34	釘	(3.9)	0.5	3.5	
75	No.18	釘	(2.6)	0.9	3.4	
76	No.48	釘	(6.2)	0.8	10.1	
77	No.41	釘	(5.6)	0.5	4.2	
78	No.39	釘	(4.5)	0.6	3.8	
79	No.22	釘	(5.3)	0.6	3.9	
80	No.10	釘	(5.2)	0.4	2.7	
81	No.96	釘	(4.6)	0.4	4.1	
82	No.20	釘	(4.8)	0.5	2.4	
83	No.17	釘	(4.5)	(0.4)	2.3	
84	No.19	釘	(4.3)	0.5	2.8	
85	No.80	釘	(3.9)	0.5	3.2	
86	No.45	釘	(4.1)	0.4	2.5	
87	No.36	釘	(4.0)	0.5	2.7	
88	No.92	釘	(3.7)	0.5	2.4	
89	No.100	釘	(3.7)	0.5	4.3	
90	No.26	釘	(3.4)	0.5	3.3	
91	No.50	釘	(2.2)	0.5	1.8	
92	No.83	釘	(3.1)	0.3	1.4	
93	No.70	釘	(2.3)	0.5	2.1	



第349図　北原・北川古墳出土土器



第350図　北原古墳出土土器

B－9　北原・北川古墳出土遺物

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 長頸壺	北原古墳	口 9.9 底 14.0 高 33.5	内外面共回転横ナデ　肩部に列点状の押圧施文	胎　砂粒少量含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形
2	須恵器 壺	北原古墳	口 13.8 底 9.6 高 28.3	内外面共回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	8/10
3	須恵器 甕	北原古墳	口 30.4 底 15.4 高 18.2	内外面共回転横ナデ後胴下部・底部へら削り　肩部に沈線1本による区画線が4段、その中に櫛歯状工具によ波状文を施文	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	8/10

B－9　北川古墳出土遺物

No.	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	北川古墳	口 16.6 底 13.5 高 4.0	内外面共回転横ナデ後内面底部ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	8/10　内外面共自然灰釉付着
2	須恵器 坏	北川古墳	口 17.5 底 13.2 高 4.3	内外面共回転横ナデ後内面底部ナデ　底部回転ヘラ切り後外縁ヘラ削り、付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	9/10　外面に自然灰釉付着
3	須恵器 坏	北川古墳	口 16.0 底 11.8 高 4.3	内外面共回転横ナデ後内面底部ナデ　底部回転ヘラ切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　外面　にぶい褐色 内面　灰色 焼　良	9/10　外面に自然灰釉付着
4	須恵器 蓋	北川古墳	口 17.4 ツマミ 7.0 高 3.3	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　ボタン状ツマミ貼付	胎　砂粒を含む 色　外面　にぶい橙色 内面　灰色 焼　良	9/10
5	須恵器 蓋	北川古墳	口 18.5 ツマミ 6.3 高 3.0	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　ボタン状ツマミ貼付	胎　砂粒を含む 色　外面　にぶい橙色 内面　灰色 焼　良	9/10　外面に自然灰釉付着
6	須恵器 蓋	北川古墳	口 18.4 ツマミ 6.9 高 3.3	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り　ボタン状ツマミ貼付	胎　砂粒を含む 色　外面　灰色 内面　にぶい橙色 焼　良	8/10
7	須恵器 蓋	北川古墳	口 17.7 ツマミ — 高 2.2	内外面共回転横ナデ　外面天井部回転ヘラ削り	胎　砂粒を含む 色　外面　にぶい黄橙色 内面　灰色 焼　良	口縁部～胴部の2/3

（鬼形）

5　内出城遺跡

(1)　遺跡の概要（付図５・付図６）

内出城遺跡は安中市東上秋間字上馬場、下馬場外地内に所在する。遺跡は秋間丘陵の舌状台地先端部に位置し、秋間川の支流である久保川を望む急峻な崖上に立地する。遺跡の標高は230～252ｍである。遺跡が立地する秋間丘陵には秋間川流域と榛名町との分水嶺上に多数の中世城館が分布している。本遺跡も周知の中世城郭として確認されており、西には般若沢城、東には礼応寺城と八貝戸城が存在する。

内出城遺跡の土層堆積は、概ね東上秋間遺跡群とほぼ同様な状況を示していた。しかし、本遺跡の城郭遺構は、自然地形を大幅に改変し、ローム層（Ⅴ層）まで削平して構築されており、自然層の堆積は極端に薄い状況であった。また、遺構面までが表土層（Ⅰａ層）の堆積のみが多く、郭２の一部において縄文時代以降の遺物包含層であるⅣ層とⅢ層の堆積が認められた。

内出城遺跡の調査範囲は城郭の主郭部分を中心としたほぼ北半分が対象となった。内出城の縄張については山崎一氏によって作成された縄張図で知ることができる。したがって、発掘調査は山崎氏の縄張図をもとに調査区を設定し、トレンチ調査を併用して遺構の配置と内出城の構造を把握することを目的とした。調査の結果、内出城の範囲は概ね山崎氏の縄張と一致することが判明し、別郭（郭２）より北側には遺構が存在しないことが明らかとなった。また、内出城に関連する城郭遺構以外にも縄文時代前期と弥生時代前期の遺構と遺物、平安時代後期の小規模集落跡、近世後半以降の屋敷跡が発見された。

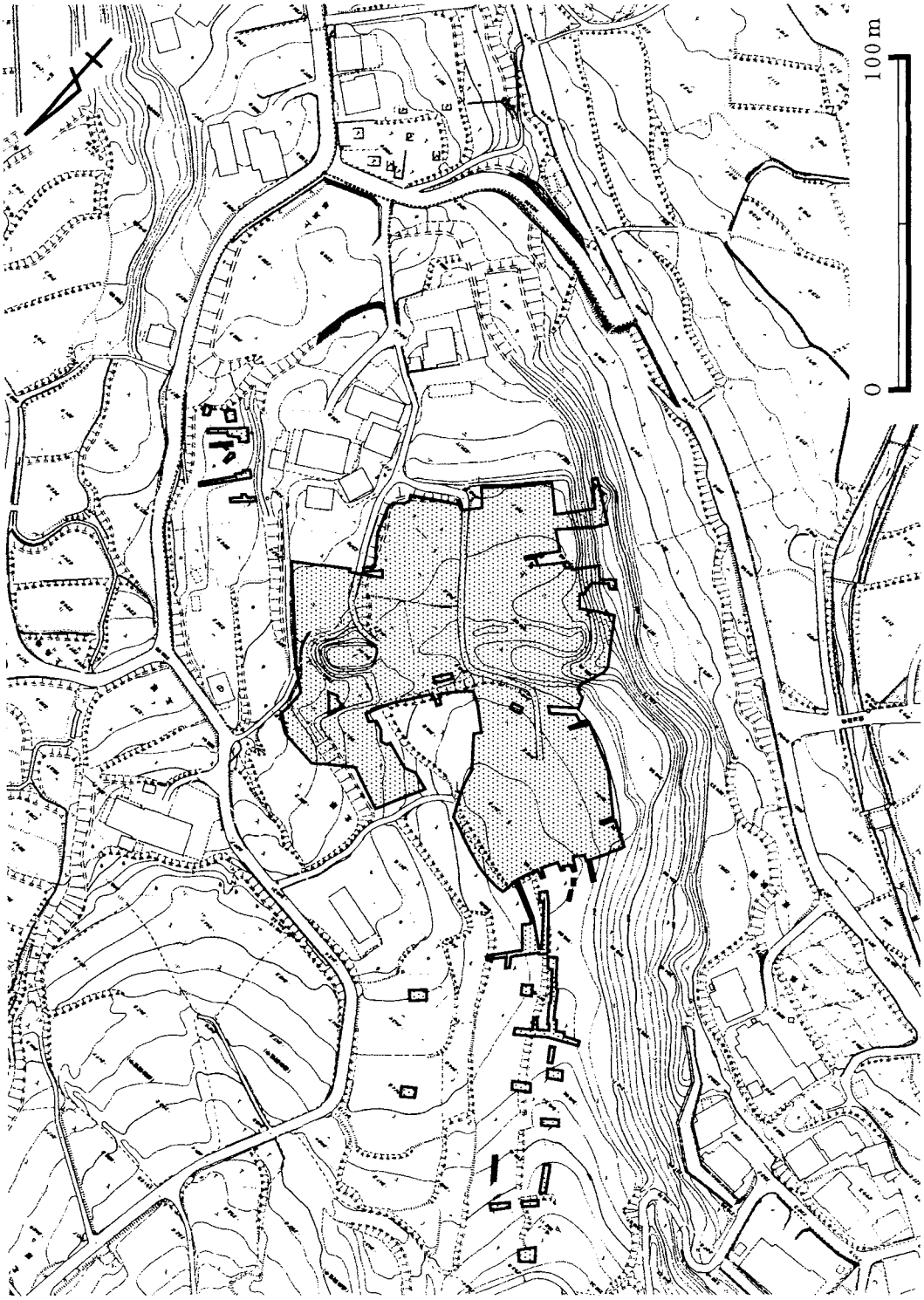
本報告では整理の制約上、遺跡の特徴が中世城郭であることから内出城関連遺構を中心とし、他時代の遺構と遺物についてはその概要と一部を報告することにする。詳細については別の機会で報告したい。

(2)　縄文時代の遺構と遺物

郭１と郭２において前期中葉（有尾・黒浜式期）と前期後半～終末（諸磯Ｃ式期）の遺構と遺物を検出した。郭１では前期後半の土坑１基を検出した。郭２ではⅢ層及びⅣ層が堆積する部分で、前期中葉及び前期後半～終末の遺物包含層と土坑１基、集石２基、黒曜石集中地点１カ所、ピット群を検出した。

土　坑（第352図）

Ｄ－３号土坑は郭１のＲ－21グッリド付近に位置する。平面形は長軸1.9m、短軸1.0mで不整楕円形を呈する。中世城郭により削平を受け、掘り込みは浅く、遺物は大形破片を含む土器片、



第351図　内出城遺跡調査区位置図

礫片が少量出土した（第353図１、２）。縄文時代前期後半の所産と考えられる。

Ｄ－47号土坑は郭２のＰ－19グリッド付近に位置する。平面形は長軸1.2m、短軸1.1mで円形を呈する。覆土下層からは大形破片を含む土器片、礫片が少量出土した（第353図３～９）。前期終末の所産と考えられる。

集　石（第354図）

郭２のＰ－15グリッド付近で２基検出された。Ｓ－10号集石は長軸6.8m、短軸6.0mの範囲に小礫が散漫に分布する。石材は安山岩40点、チャート16点、砂岩12点である。欠損は７点である。

Ｓ－11号集石は長軸4.8m、短軸4.0mの範囲に小礫が密集する。さらに数カ所の小単位が認められる。石材は安山岩は283点、チャート77点、砂岩65点、頁岩２点、不明１点である。欠損は32点である。この集石からは黒曜石の砕片が少数出土したのみである。。２基の集石に共通するのは、石材がこの地域の礫層の石材を含む在地石材を用い、欠損が少ない点である。周辺の遺構及び出土遺物の状況から前期後半～終末の所産と考えられる。

その他の遺構

郭２では黒曜石の砕片のみが散漫に分布する集中地点と前期の遺物包含層と重複するピット群を検出した。主な出土遺物は有尾・黒浜式期および諸磯Ｃ式期の土器、石鏃、石匙（横型）、打製石斧、スクレイパー、凹石、剝片類等である。石器石材は黒曜石、チャート、頁岩、安山岩である。

⑶　弥生時代の遺構と遺物

郭２のＯ－15グリッド付近で弥生時代前期の土坑を１基検出した。Ｄ－８号土坑の平面形は長軸0.9m、短軸0.8mで楕円形を呈する（第352図）。上部が中世城郭の削平を受けており不明だが、底面には大形礫３点が並べられていた。石材は在地の凝灰岩（秋間石）である。礫の上面で壺と甕各１個体がつぶれた状態で出土した（第353図10～12）。覆土には炭化物が混入する。出土状況から判断して再葬墓的な様相をもつものと考えられる。10と11の壺は胴部上半部が工字文で地文が条痕文である。12は無文で口縁部が外反する。弥生時代前期末の所産と考えられる。

⑷　平安時代の遺構と遺物

郭１の矢倉遺構下と腰郭の切岸部分で平安時代後期の住居址２軒と溝２条を検出した。住居址は中世城郭の削平を受けていたため、遺構の一部のみを確認した。

住居址（第355図）

Ｈ－１号住居址は矢倉遺構下のＮ－21付近に位置する。調査時の掘削が深かったため、平面プランを確認できず、竈及び浅い土坑（貯蔵穴）のみの検出となった。竈の西側で遺物が出土した

ことから、東壁に竈をもつ住居址と考えられる。遺物は竈内およびその周囲で須恵器椀等が少量出土した。平安時代後期（10世紀後半）の所産と考えられる。

H－2号住居址は腰郭の切岸部分のK－19グリッド付近に位置する。斜面であったため半分は削平され、遺存状態は悪い。平面形は東西3.2m、南北1.6m（現存部分）で長方形を呈すると考えられる。竈は東壁中央に位置する。遺物は竈内およびその周辺で須恵器椀、甕片、羽釜が少量出土した。平安時代後期（10世紀後半～11世紀前半）の所産と考えられる。

住居址出土遺物（第356図）

H－1号住居址出土遺物で図示した須恵器は竈内出土の2点である（1・2）。1は坏である。2は高台付椀である。2点とも焼成が酸化焔で橙色を呈する。外面と内面は回転横ナデで底部は回転糸切りである。胎土は細砂粒、小礫若干含む。2の外面下半には判読不明の墨書がある。

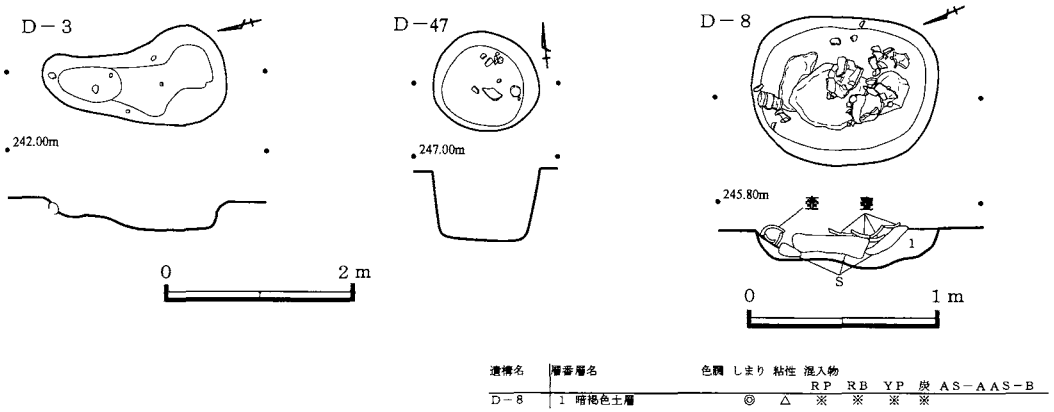
H－2号住居址出土遺物で図示した須恵器は竈内出土の7点である（3～9）。3～8は高台付椀である。全点焼成が還元焔で、浅黄橙色（3）、黄橙色（4）、灰色（5～8）を呈する。外面と内面は回転横ナデで底部は回転糸切りである。胎土は細砂粒、小礫若干含む。9は羽釜である。焼成は酸化焔でにぶい橙色を呈する。口縁部は横ナデで胴部外面は縦方向の篦削り、内面は篦ナデである。胎土は細砂粒、小礫若干含む。

溝（第355図）

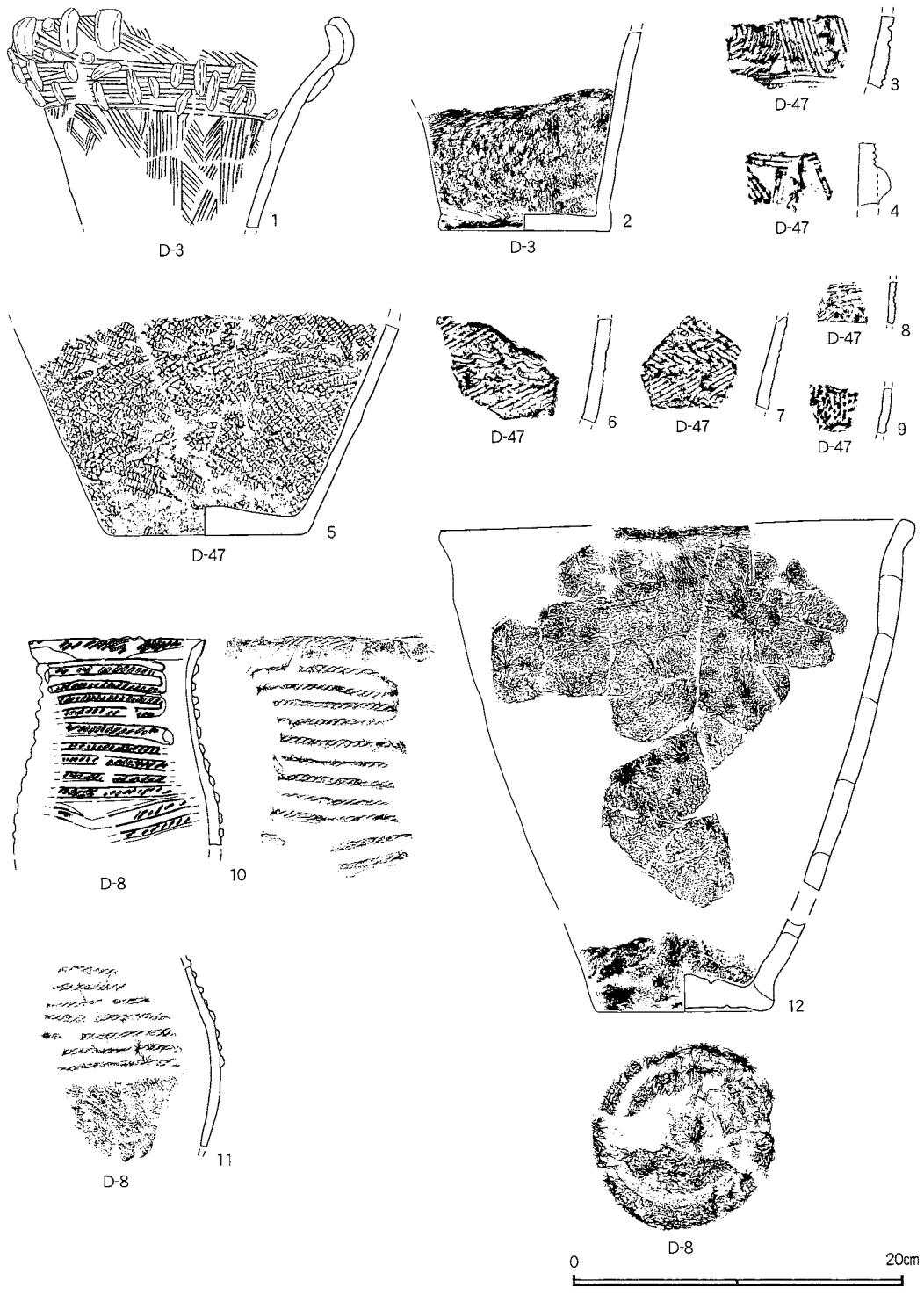
溝は矢倉遺構下のN－20付近に位置する。M－8号溝とM－9号溝は並行しており、道路状遺構の可能性が高い。2条とも覆土に浅間B軽石を含むため平安時代後期の所産と考えられる。

(5) 中世の遺構と遺物

内出城に関連する遺構では主郭の一部（郭1、郭3）と別郭（郭2）、堀切2本（M－1号堀切、

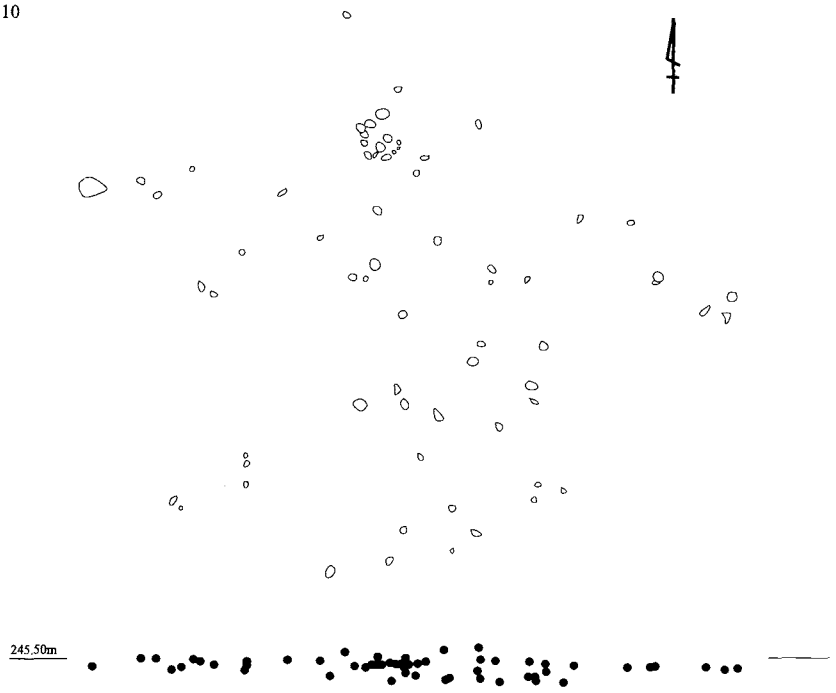


第352図　土坑実測図（縄文・弥生）

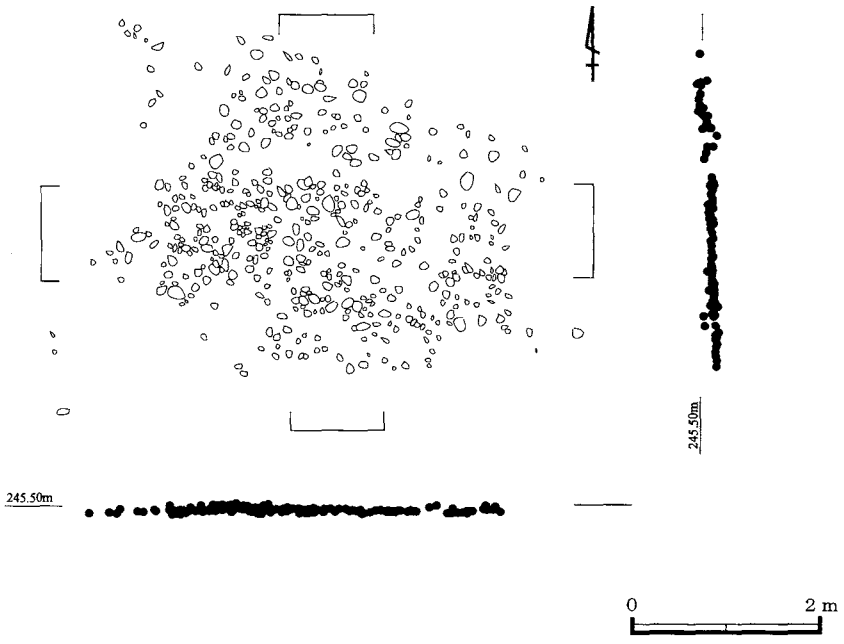


第353図　土器実測図（縄文・弥生）

S－10

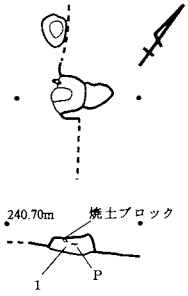


S－11



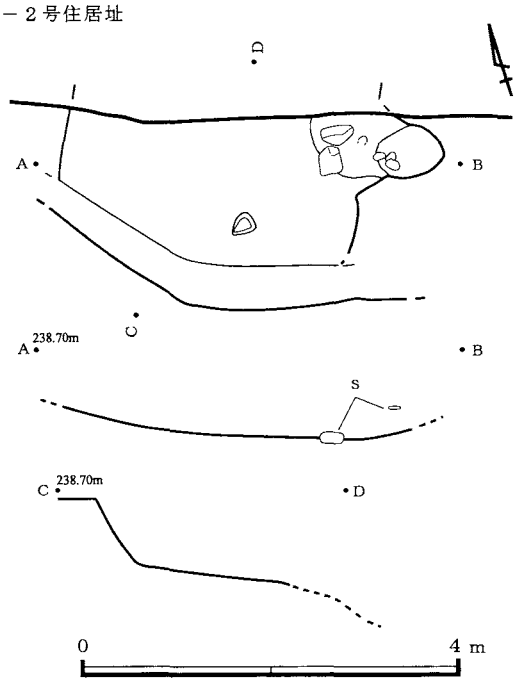
第354図　集石実測図（縄文）

H－１号住居址

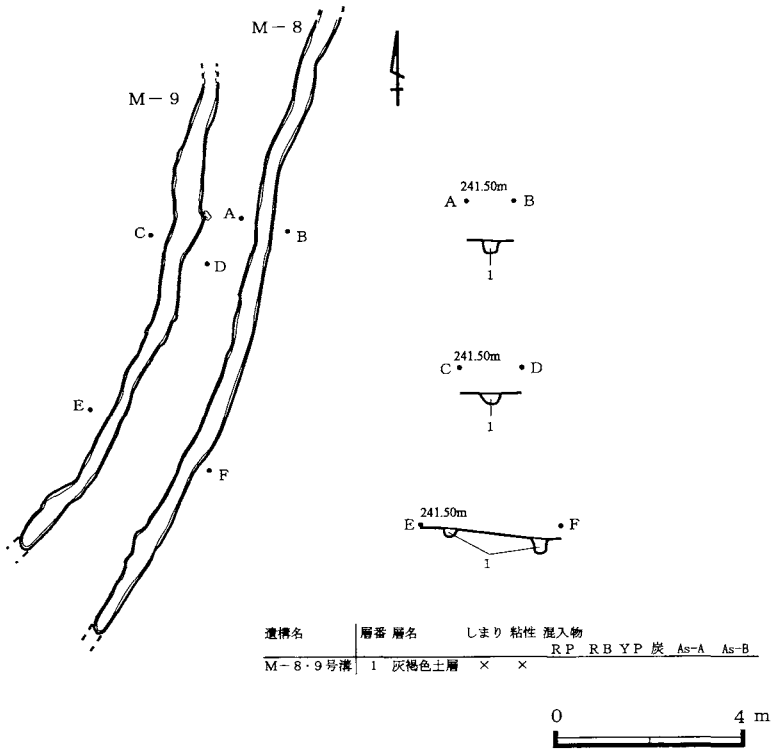


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	焼土B
H－1号住居	1	赤褐色土層	◎	×				※	○	△

H－２号住居址

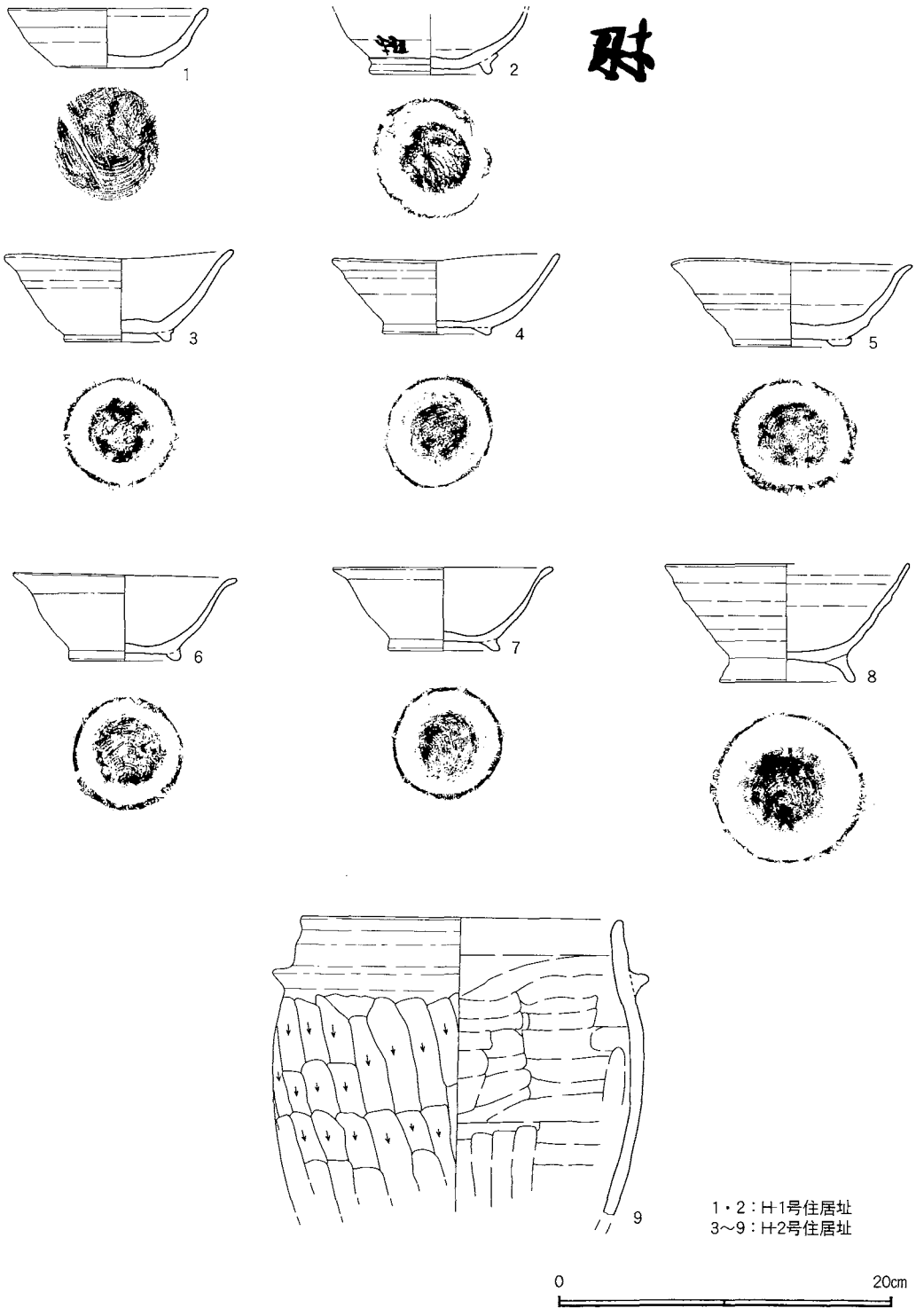


M－８溝・M－９溝



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-A	As-B
M－8・9号溝	1	灰褐色土層	×	×						

第355図　住居址・溝実測図（平安）

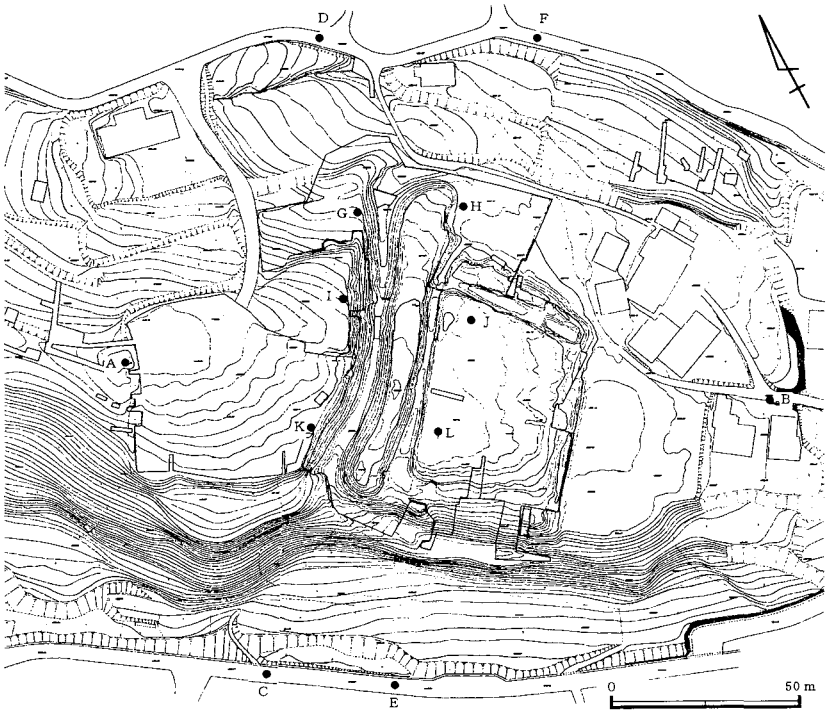


第356図　土器実測図（平安）

M－２号堀切)、矢倉遺構、土居、腰郭の一部、帯郭の一部で確認調査を実施し、発掘調査によって新たに堀２本(M－３号堀、M－４号堀)、郭２で掘立柱建物址、M－１号堀切で橋脚、郭３で落ち込みを検出した。また、内出城の縄張を使用した近世後半以降の屋敷跡を確認し、現在残る内出城には中世と近世の遺構が混在していることが判明した。

郭・掘立柱建物址・落ち込み（第359図・第363図）

郭１は主郭部分に相当する。土居、テラス状の平坦部を確認したが、建物跡等は確認できなかった。土居は郭１で認められたが、ほとんどが削平されていた。土居は堀切を掘削したときの排土を盛って構築されていたことを確認した。また、新たにM－２号堀切につながるM－３号堀を検出した。この堀はさらに南東方向の調査区外へと延びることが判明した。郭２は堀切を挟んで郭１の向かいに位置する。ここでは掘立柱建物址１棟を検出した。梁間１間、桁行２間で南北長3.4m、東西長1.3mを測る。郭３は郭１の北東の一段低い場所に位置する。郭３では浅間A軽石を含む覆土の土坑状の落ち込みを検出し、中世の土師質土器と板碑片が少量出土した。郭２の一段下で確認した北側の腰郭では、ピット群を検出した。郭１の南側には細長い帯郭が存在し、M－１号堀切の底面とつながることから、城内への進入路であった可能性が高い。なお、帯郭には大量に廃棄された礫と中世の土師質土器が少量出土した。しかし、郭から出土した遺物は近世以降の



第357図　内出城縦横断面位置図

遺物が多数を占め、中世の遺物は一部の遺構で土師質土器、青磁、板碑片、明銭等が少量出土したのみで、内出城全域では遺構に伴う遺物はほとんど出土しなかった。

郭は二本の堀切を挟んだ主郭（郭１）と別郭（郭２）を中心に、丘陵を階段状に削平した郭を構築し、郭を囲むように丘陵に平行する腰郭と帯郭が付帯する構造であったことを確認した。

矢倉遺構（第360図）

堀切で挟まれた北東隅に位置する。堀切掘削時のロームを主体とする排土を盛って構築されており、高さ約４ｍを測る。また、南西隅でも盛土による高まりを確認した。

堀切・堀・橋脚（第361図・第362図）

堀切は郭１と郭２の間に位置し、土居を挟んで２本並行している。M－１号堀切は全長80以上で、さらにM－４号堀へとつながる。上幅約10m、下幅約２ｍで底面が平坦な箱堀である。深さ５ｍ以上を測る。M－２号堀切に比べ底面がやや低い。底面は中央部が高く両側が傾斜し、北東では湧水が認められ、この部分が一部冠水していたことを確認した。堀切の両側で橋脚部分と考えられるピットの集中を検出した。M－２号堀切は全長60m以上で上幅約７ｍ、下幅1.5mの箱堀である。M－１号堀切に比べやや規模が小さい。

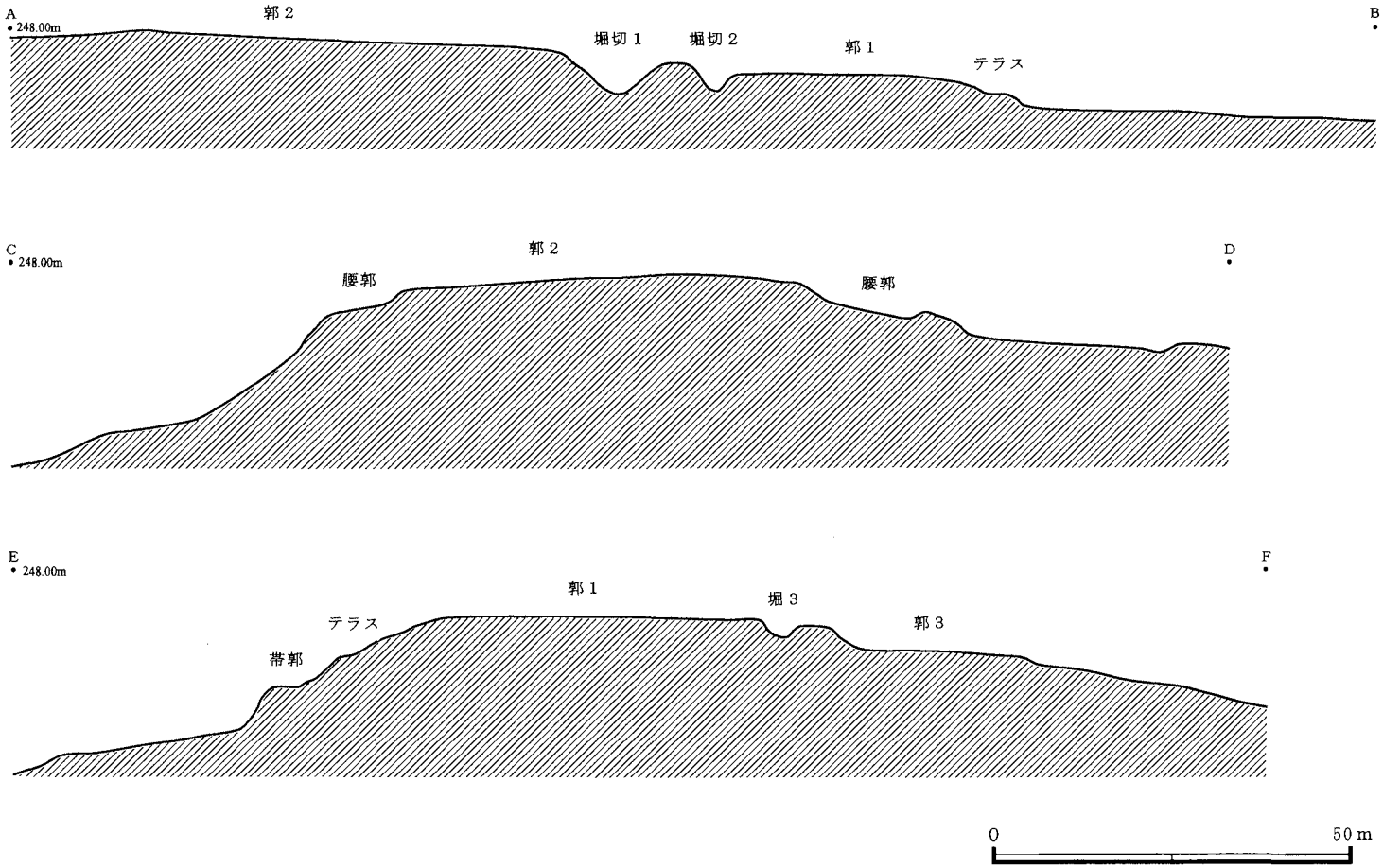
堀切の覆土は中位部分に浅間Ａ軽石及び二次堆積層が認められていることから、近世後半まで堀切が存在し、機能していたことが判明した。

郭１で検出したM－３号堀は郭１でM－２号堀切より古く、人為的に埋め戻されていることを確認した。M－４号堀はM－１号堀切と同じ遺構であり、調査区外に存在する南側の堀切につながることを確認した。２本並行する堀切は台地を区切り、堀切につながるM－４号堀は、郭１（主郭）部分を台地軸線に沿って「コ」の字状に区画すると考えられる。さらに、郭１のM－３号堀は、M－２号堀切とは時間差が認められることから、郭１を区画する別の堀であった可能性が考えられる。

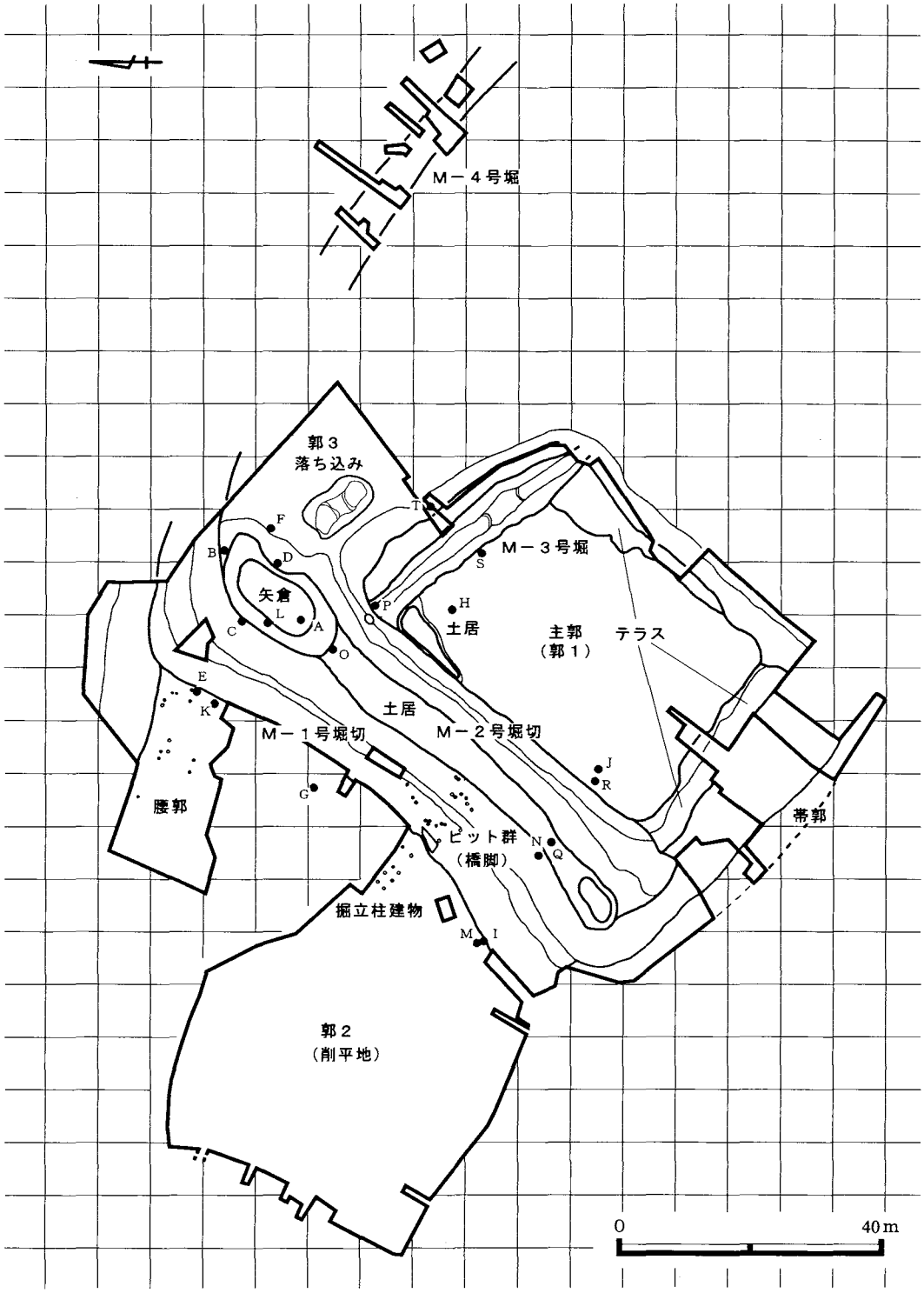
出土遺物（第364図）

中世城郭に関連する遺物は、土師質土器（かわらけ）、板碑片（結晶片岩製）、古銭が少数出土したのみである。中世城郭の遺構に伴うものは少なく、ほとんどが表土層からの出土であった。ここでは土師質土器３点（１～３）、貿易陶磁器１点（４）、明銭２点（５・６）を図示した。

１は郭３の落ち込み覆土から出土した小皿、２・３は帯郭から出土した皿である。焼成は酸化焔で橙色を呈する。外面と内面は横ナデで底部は回転糸切りである。胎土は砂粒を若干含む。４は郭１から出土した貿易陶磁器で青磁椀の破片である。中国龍泉窯のものと考えられる。明銭は調査区から出土した。５は洪武通宝（1368年）、６は永楽通宝（1408年）である。

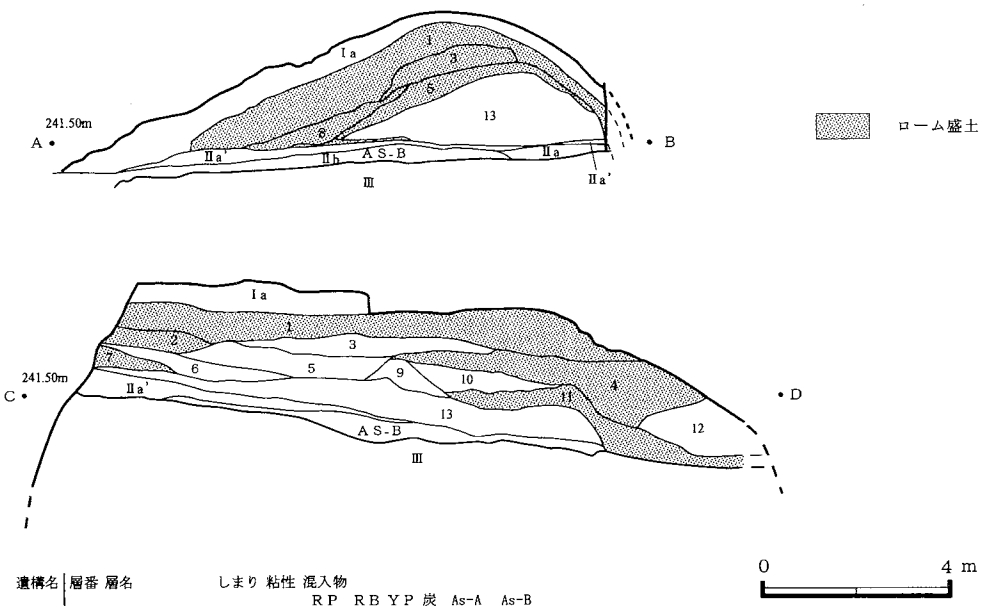

A
248.00m
郭２
堀切１
堀切２
郭１
テラス
B
C
248.00m
郭２
腰郭
腰郭
D
E
248.00m
郭１
堀３
テラス
郭３
帯郭
F
0
50 m

第358図　縦横断面図



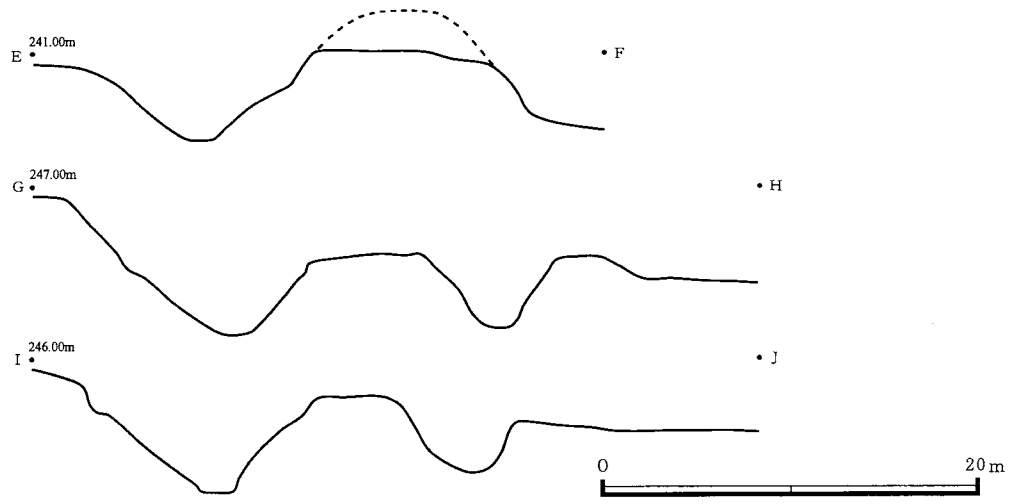
第359図　中世遺構全体図

矢倉遺構



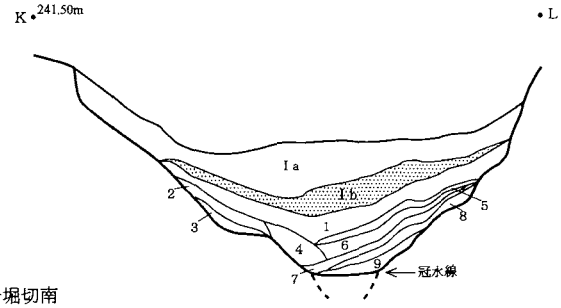
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-A	As-B
矢倉	Ⅱa'	(暗)灰褐色土層	△	×						○
	1	黄褐色土層	○	○						
	2	暗褐色土層	◎	△						
	3	褐色土層	○	○		※	△			
	4	黒褐色土層	◎	×		○				
	5	黒色土層								
	6	黒色土層	◎	×						※
	7	褐色土層	○	△		○				
	8	黒黄褐色土層	◎	○						※
	9	黒褐色土層	○	○		※				
	10	黒色土層	○	×			△			
	11	黒色土層	○	△		△				△
	12	黄褐色土層	○	△						
	13	黒色土層	○	×		※				※

堀切

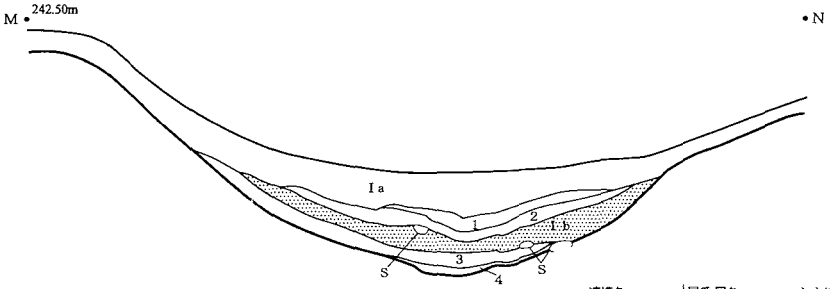


第360図　矢倉遺構土層断面図・堀切断面図

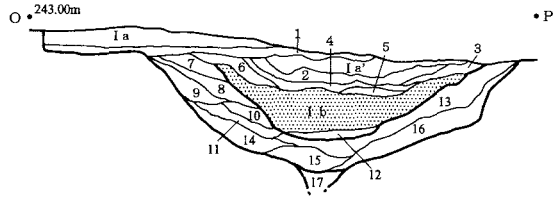
M－１号堀切北



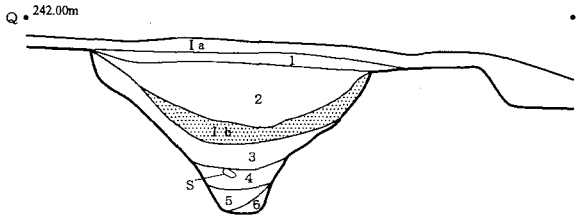
M－１号堀切南



M－２号堀切北



M－２号堀切南



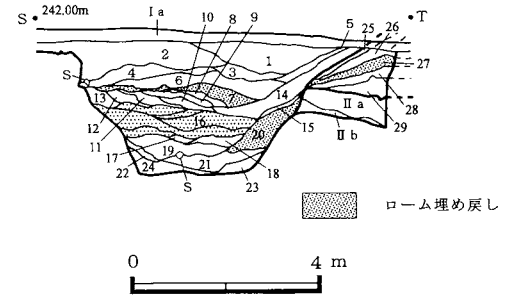
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-A	As-B
M－１号堀切北	1	暗褐色土層	○	△			△			
	2	暗黒茶褐色土層	○	△						
	3	褐色土層	○	○	△	○				
	4	黒褐色土層	○	○		△				
	5	暗黒茶褐色土層	○	△			○			
	6	暗褐色土層	△	△			○			
	7	褐色土層	○	○			◎			
	8	黒褐色土層	△	△						
	9	黒褐色土層	△	△						
M－１号堀切南	1	黒褐色土層	×	×						
	2	黒褐色土層	○	×		△			○	
	3	黒褐色土層	○	×						
	4	黒褐色土層								
M－２号堀切北	1	褐色土層	◎	△						
	2	黄褐色土層	◎	×						
	3	黒褐色土層	○	×						
	4	黒褐色土層	○	×		△			○	
	5	黄褐色土層	◎	○			○			
	6	黒褐色土層	○	×		△			○	
	7	黒褐色土層	○	×		△			○	
	8	黒褐色土層	○	×	※	△			△	
	9	黒褐色土層	○	×			※			
	10	黒褐色土層	○	×			※			
	11	暗褐色土層	○	△	○		△			
	12	暗褐色土層	◎	○						
	13	黒褐色土層	○	×			△			
	14	暗褐色土層	◎	△	○	△				
	15	黒褐色土層	○	×						
	16	黒褐色土層	○	×			△			
	17	褐色土層	○	△	○	○				
M－２号堀切南	1	暗褐色土層								
	2	暗褐色土層								
	3	暗褐色土層	△	×						○
	4	暗褐色土層	○	○		△				
	5	暗褐色土層	○	○		△				
	6	褐色土層	○	○		○	○			

As-A混入土

0　4 m

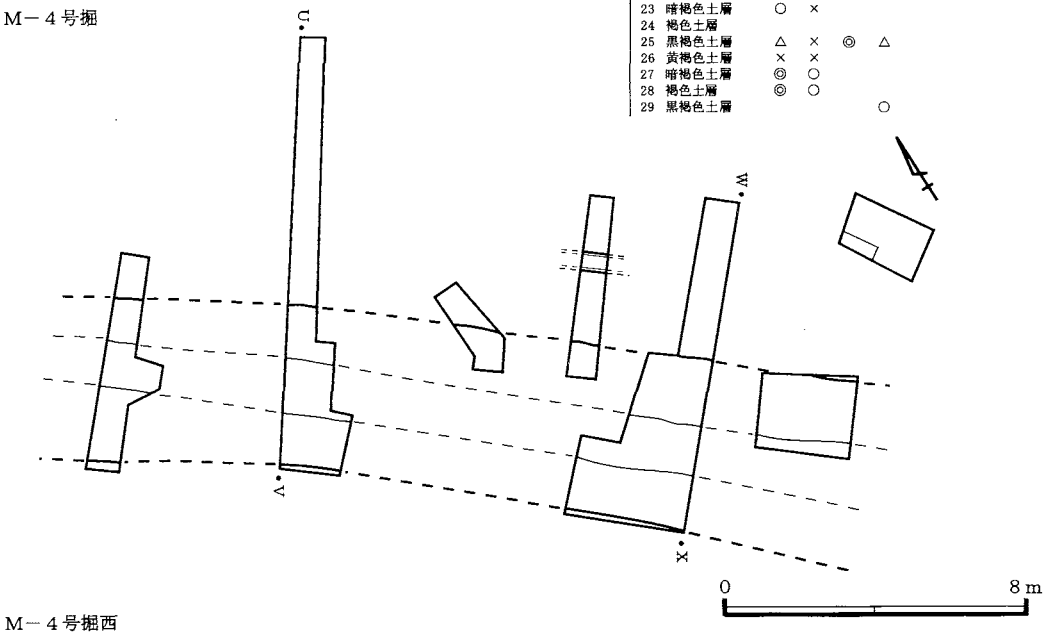
第361図　堀切・堀土層断面図

M－３号掘

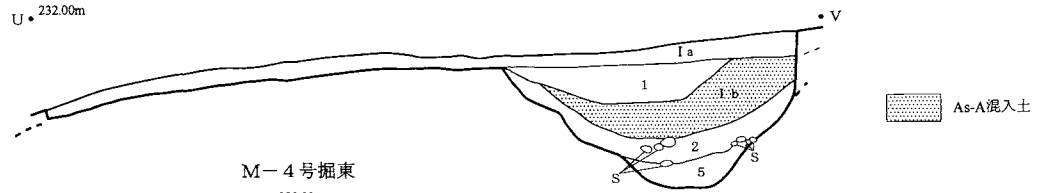


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-A	As-B
M－３号掘	1	黄褐色土層	◎	◎	△		○			
	2	黒褐色土層	◎	△		△				
	3	黒褐色土層			※					
	4	黄白褐色土層	○	○			○			
	5	黄褐色土層	△	○	◎					
	6	黄褐色土層	×	×		△				
	7	黒褐色土層	◎	△						
	8	黄褐色土層	×	△						
	9	黄白褐色土層	◎	○			○			
	10	褐色土層	◎	○	○					
	11	黒褐色土層	○	△		○				
	12	褐色土層	◎	○		○				
	13	褐色土層	◎	○						
	14	黒褐色土層	○	△		※				
	15	黒褐色土層	◎	×						△
	16	黒褐色土層								
	17	褐色土層	◎	○			△			
	18	黒褐色土層	◎	○						
	19	褐色土層	◎	○			○			
	20	黄褐色土層	×	×						
	21	黒褐色土層	◎	○						
	22	暗褐色土層	◎	◎						
	23	暗褐色土層	○	×						
	24	褐色土層								
	25	黒褐色土層	△	×	◎	△				
	26	黄褐色土層	×	×						
	27	暗褐色土層	◎	○						
	28	褐色土層	◎	○						
	29	黒褐色土層				○				

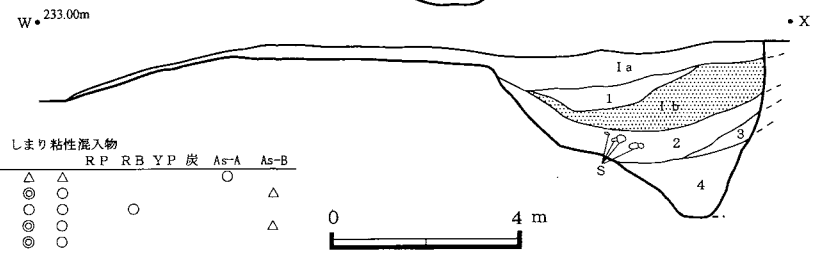
M－４号掘



M－４号掘西

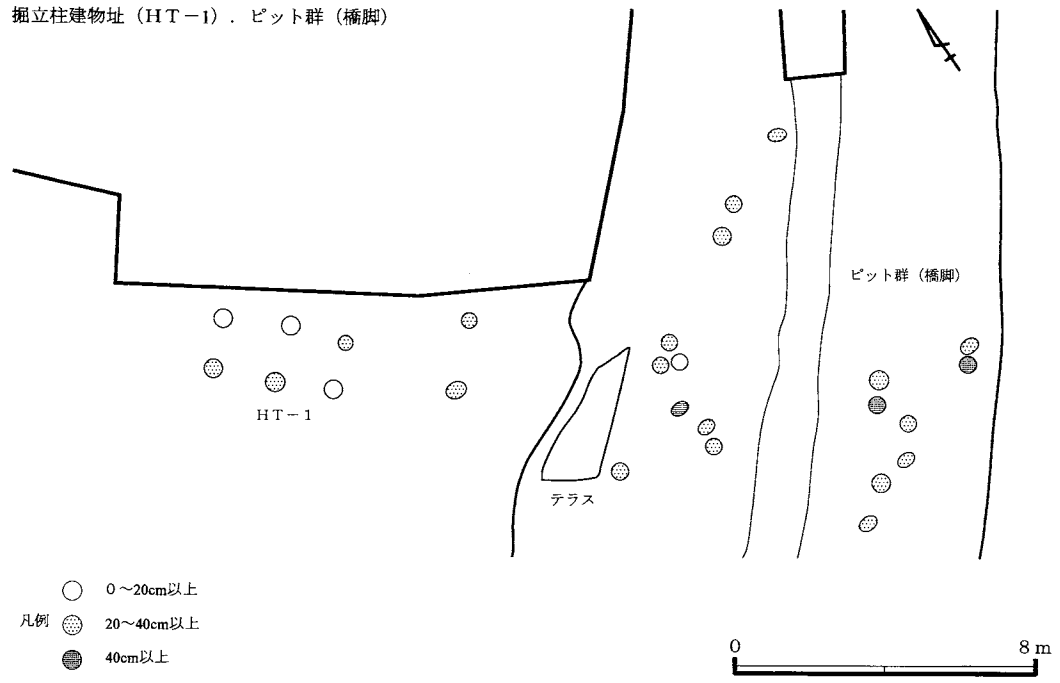


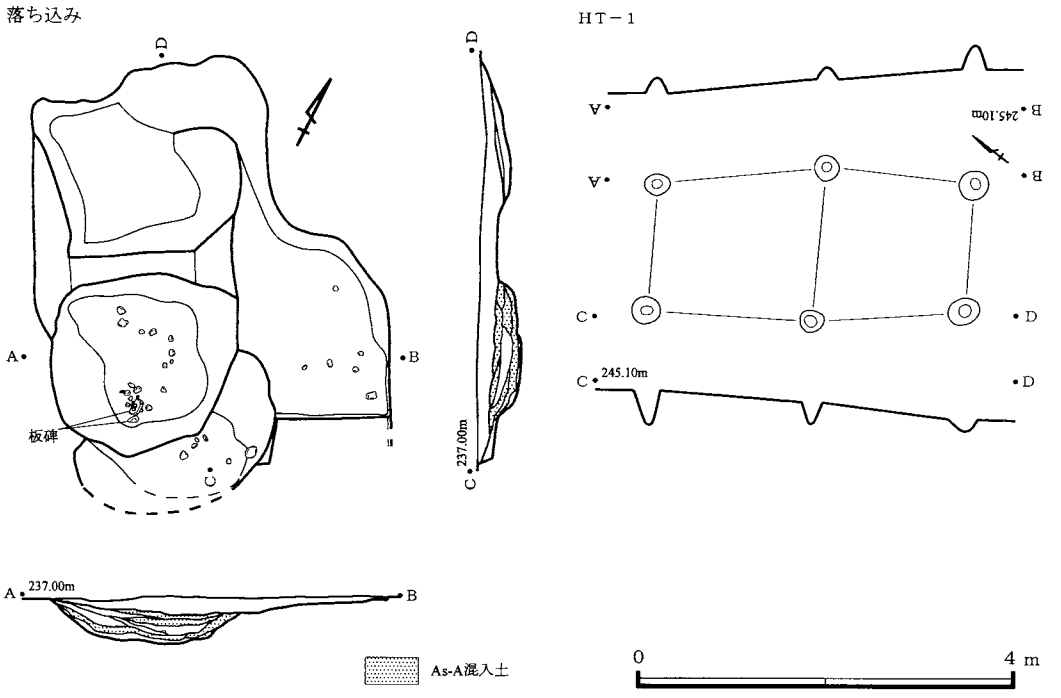
M－４号掘東



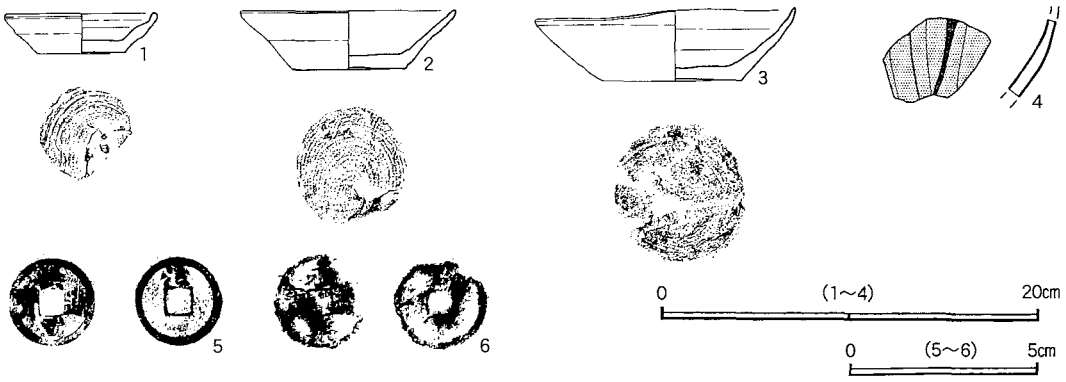
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-A	As-B
M－４号掘	1	黒褐色土層	△	△					○	
	2	黒褐色土層	◎	○						△
	3	暗褐色土層	○	○			○			
	4	黒褐色土層	◎	○						△
	5	褐色土層	◎	○						

第362図　堀土層断面図





第363図　中世遺構実測図



第364図　遺物実測図（中世）

(6) 近世の遺構

郭１では近世後半以降の屋敷跡を検出した。この屋敷跡は一部中世城郭の縄張をそのまま利用しているが、堀や切岸は埋め立てによって平坦部を拡張し、土居や郭が大幅に削平されていた。M―２号堀切は途中まで埋め戻し、堀の機能をそのまま維持している。また、この堀の底部には井戸や集石も構築され、近世の陶磁器等の遺物も大量に廃棄されていた。さらに、堀の途中で硬化面が認められ、堀が通路として機能していたことを確認した。郭１では屋敷跡に関連する柱穴（ピット）、竪穴状遺構、土坑（集石土坑）、集石、井戸、石組及び石垣、石造物（墓）を確認し、何らかの建物跡が存在していたと考えられるが、建物跡を特定するまでには至らなかった。

また、郭１の切岸、M―２号堀切内では大量の近世の遺物が出土した。堀切内の遺構は浅間A軽石で覆われていることから、屋敷跡の時期は近世後半以降の所産と考えられる。M－１号堀切覆土中で浅間A軽石に覆われた獣骨５体を埋葬した遺構を検出した。獣骨は馬のものと推定される。検出状況が類似することから同時期のものと考えられる。堀切に挟まれた土居の中央部には大石（約1.5m）が露出していた。この大石の石材は凝灰岩（秋間石）である。この大石の機能及び時期については伝承も残るが不明である。

出土遺物は屋敷跡（郭１）周辺で近世後半～明治初期の陶磁器（椀、皿、急須、湯呑茶碗、徳利、杯、甕、焙烙鍋、壺等）、鉄製品、キセル、古銭（寛永通宝）等が出土したが、ほとんどが廃棄によるもので遺構に伴うものは少ない。

(7) 内出城について

内出城の歴史的背景

内出城については山崎一氏の文献（『群馬県古城塁址の研究』等）や『安中市誌』、『安中市史』等によって伝承、記録及び縄張図が紹介されている。ここではこれらの文献をもとに内出城に関

する歴史的背景について述べたい。

内出城の築城については南北朝時代、吉良治家によるものとされている。吉良治家の先祖は足利義氏に発しているとされ、足利義氏は承久年間に三河国幡豆郡吉良庄の地頭に命じられ、吉良を姓とした。義氏の三男義継は奥州（磐城安達郡藤谷庄）へ下り、経氏、経家、貞家、治氏（満家）、治家と幕府の奥州探題職を務めた一族であり、東条吉良氏として発展した家系である。延文元年（1356年）から貞治４年（1365年）の頃、吉良治家に至って、関東管領足利基氏の招きによって鎌倉に赴き、南朝側であった飽間斉藤氏の所領であった碓氷郡飽間郷を領有したとされている。『吉良系図』には吉良氏が「飽間殿」と号したという記載が残っている。そして、この地に築いたのが内出城とされ、ここを本拠地とし、武蔵国世田谷郷を分国していたとされる。以後、頼治、頼氏と続き、応永年間（1394～1427年）に至って吉良氏は、分国世田谷郷に城を築いてここへ本拠地を移したといわれる。吉良氏が去った後、西上秋間にある茶臼山城に在城した飽間勝俊が内出城へ移り、明応年間（1492～1500年）に至って飽間氏は讃岐国丸亀城へと移るまで存続し、廃城したとされる。したがって、記録では内出城は南北朝時代に築城された城郭であり、戦国時代前半には廃城したとされる古い城郭の一つに数えられる。

内出城には伝承、記録があり、築城時期と存続期間、築城者等が推定することがある程度可能であるが、飽間郷に吉良氏が築城し、在城していたかについてや吉良氏以前に当地を領有していた飽間氏との関係については、不明な点が多くさらに検証していく必要も残されている。

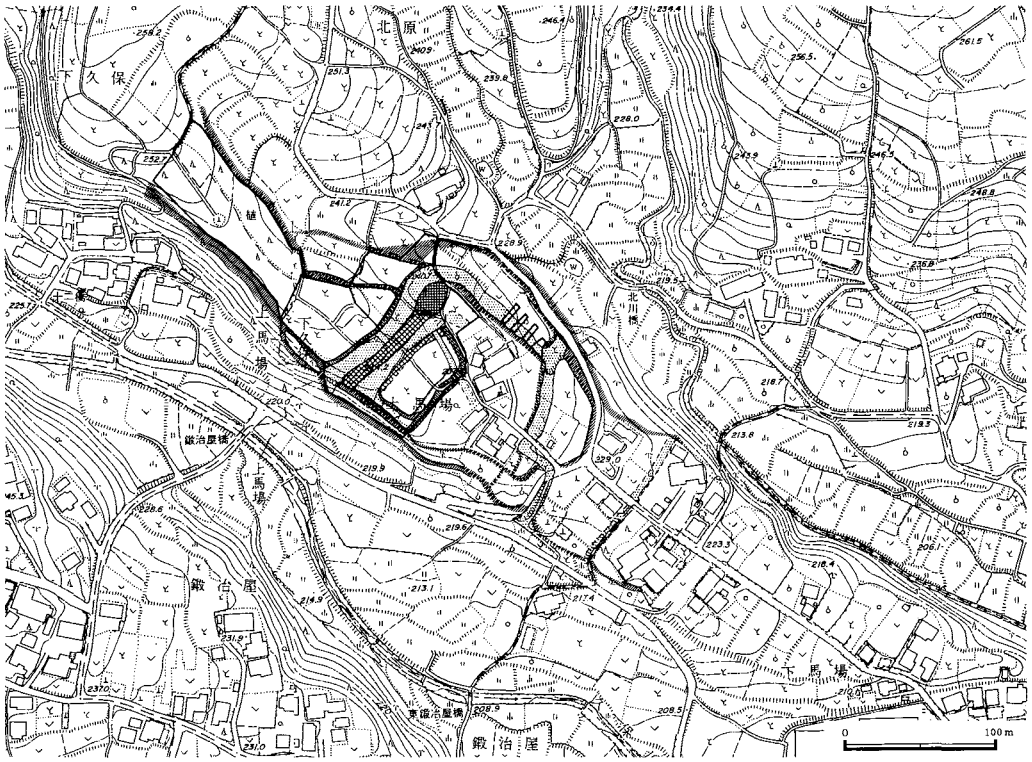
なお、内出城の存在する場所には、字名で城郭の施設を示す「馬場」という地名や「内出」といった名称が残っている。

秋間地区に分布する城館址

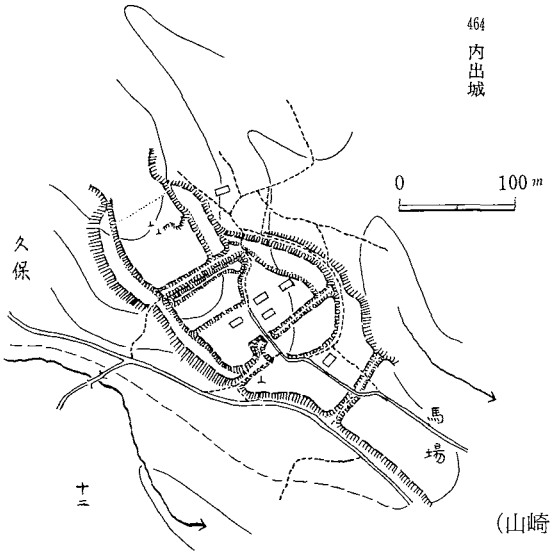
安中市には中世城館址が44カ所（一部近世を含む）確認されている（井上2001）。市内に分布する城館址は中世の勢力範囲と地域性を反映しており、大きく３地域に区分される。このうち秋間地区の秋間川流域には中世城館址が12カ所分布する。城館址は全て秋間川を望む丘陵頂部あるいは端部に立地し、直線状に分布する。西から茶臼山城（西上秋間）、般若沢城（西上秋間）、小屋城（東上秋間）、内出城、茗荷沢の砦（下秋間）、八貝戸城（中秋間）、礼応寺城（中秋間）、蔵人城（中秋間）、辻城（下秋間）、秋間館（下秋間）、御嶽山の砦（下秋間・上里見）、雉郷城（下秋間・中里見）が分布している。この地域には南北朝時代に築城されたこの地を領有していた飽間氏に関連する茶臼山城や内出城や武田氏に関連した永禄年間（16世紀後半）の頃とされる城館が多数存在する地域でもある。これらの城館址は互いに関連性をもって機能していたと考えられ、秋間川流域が中世において重要な位置を占めていたことが想定される。

内出城の構造（第365図）

発掘調査前の内出城の構造は、細長い舌状台地を南北二筋の堀切によって郭が区切られた並郭



内出城概念図（井上　2001）



（山崎　1978）

第365図　内出城概念図・縄張図（山崎一氏作成）

式に分類される。北側にある２本の堀切の間には土居が存在し、土居の北東隅には矢倉跡と思われる高まりが残る。また、主郭の南側にある堀切の西南部文意は「折」が構えられ、中央部には小口（虎口）跡と考えられる遺構が存在する。両堀切の間に東西約100m、南北70mの規模である二段の主郭があり、北堀切西北にも広い削平地をもつ別郭、南堀切の外側には半月状の外郭が存在する。主郭の周囲には台地に平行する腰郭と細長い帯郭も存在する。さらに南堀切の外側にも現在は確認が難しいが台地に直交する堀切が認められる。調査前の内出城は近世後半の大規模造成を受けていたため、内出城の遺構の時期がいつのものであったかは判然としないが、現状でも中世城郭の特徴を残しており、内出城が防御性を維持した実用的な城郭であったことがうかがえられる。

発掘調査された内出城の遺構と時期

内出城の築城は、伝承、記録等によって南北朝時代と推定されている。発掘調査では時期を特定できる遺構及び遺物が少ないため判然としない。しかし、内出城が二本の大堀切によって区画された並郭式の城郭構造である特徴をもつことから、現在残る遺構及び発掘調査で確認した遺構は、ほとんどが戦国時代前半（15世紀後半～16世紀前半）のものと推定される。この点は数少ない土師質土器や青磁等の出土遺物からも裏付けられる。また、内出城の廃絶時期は、伝承、記録では15世紀後半とされており、この点においても発掘調査で確認した遺構の時期が一致することが確認できた。さらに郭１では大堀切と切り合い関係をもち、明らかに時間差をもつ埋め戻された堀（M－３号堀）が検出されたことから、内出城は数度の改修を経て、現在に至っていたことが推測できる。このことは内出城が南北朝時代までさかのぼる可能性をもつことを示していると言える。

近世後半になると内出城には屋敷が築かれ、大規模な造成によって城郭遺構の一部が壊され、改変されている。しかし、内出城全体の縄張を生かしたものであり、城郭本来の機能を生かしたままの屋敷であったことが確認された。

以上、発掘調査によって検出した遺構から、内出城は中世城郭としての機能を果たした時期と近世になって屋敷へ改変された時期に分けられることが判明した。（井上）

6　馬舟さま（第366・367図）

(1) 概　要

この小形石棺（以下、石棺と称す）は、日本武尊東征の際に馬に水を飲ませたとされる伝説があり、また日照りの際の雨乞いにも使用され地元では「馬舟さま」と呼ばれていた。『上毛古墳総覧』には秋間９号墳として登録されていて、秋間丘陵の主稜線から続く南東方向にのびる支稜線に位置している。

現況では、刳抜式の小形石棺が蓋と身の凹面を上に向けほぼ水平に据えられていた。石棺の置かれていた場所および周辺を含めた範囲の調査を実施したが顕著な遺構は検出されず、石棺そのものが原位置にあったかどうかを確定する資料は得られなかった。

(2) 石　棺

石棺の蓋は、凝灰岩製で平面形が長方形の扁平な立方体をなしている。大きさは、長軸が92.5cm、幅61.3cm、厚みは28cmで、ここには（以下、石棺の使用を想定し下面と称す）長さ75cm、幅46cm、深さ約６cmの印籠口を受けるための一段目の刳り抜きが、次に深さ８cmの二段刳込があり、更に二次的な手が加えられ、段の長軸と短軸のそれぞれ一方側にはさらに中段が付け加えられここでは三段の刳り込みとなっている。蓋石は裏返しで最近まで露頭にあったことから印籠口の縁部分の欠損が進み、石表面の風化も著しい。これに反し、上面並びに側面は土中に有ったためか石棺表面は比較的安定していて、加工の際の平ノミ状の工具痕を随所に確認することができた。蓋にみられる石材加工痕は下面に近い部分では縁と平行する平ノミ痕が、上面部分では斜め横方向の平ノミ痕が認められる。石棺蓋の表面となる上面も平ノミ状工具でほぼ平坦に仕上加工され、縁辺部には緩やかな面取りが認められる。

石棺の身は、上半分の平面形は長さ84.5cm、幅61cmの平面形で、裾部では長さ102cm、幅73cm、高さ約32cmがあり、側面形は台形をする立方体で、中を上幅75cm、幅38.5cm、深さ20cmに刳抜いて形を整えた極めて丁寧な仕上になっている。一方、この均整のとれた石棺の下にはヒレ状の未加工の石材が割り取られずに残っていて、この部分を比較観察と、石棺の小口の片方の下部に側面形状を著しく損ねる大きな剝離が認められた。このことは、当初は残り三側面のヒレ状部分も取り除くはずであったものを中止したとも推測させるものである。蓋・身とも、合口縁辺部には後世の水抜きのための溝が彫られている。

「馬舟さま」の蓋と身はこれまで一組のものと思われてきたが実測の結果、蓋の刳抜が身の印籠口より小さく、蓋としての役割を果たさないことが判明し、これまで一対と考えていた蓋と身は別個体のものと判断せざるを得なくなった。そのような目で見ると、蓋の側目形は長方形であ

るのに対し、身は台形を意識して作られ、工人が意図した完成形に差異があり、別個体であることがさらに裏付けられた。このことから「馬舟さま」は二組の石棺の身と蓋がいつの日か一カ所に集められたものと考えられる。

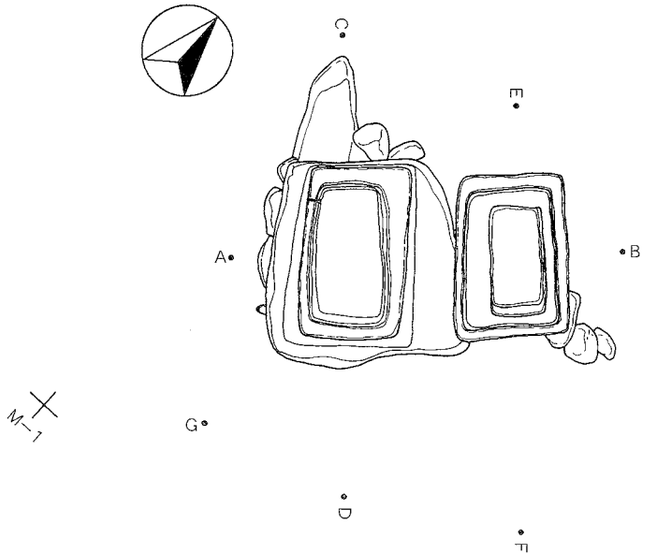
(3) 小　結

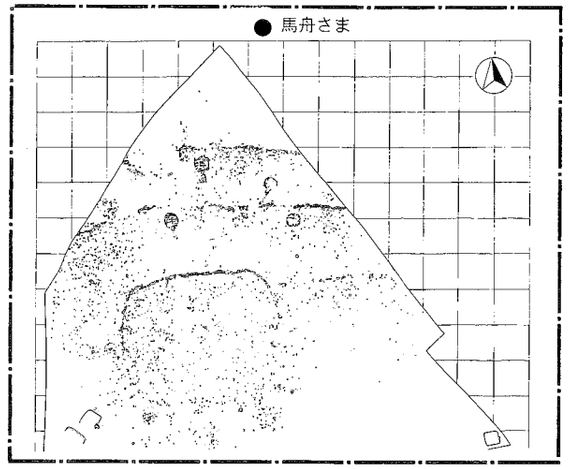
石棺の用途については、石棺下部に残るヒレ状突起部の存在から①未完成品である可能性②完成品いづれかも考えられる。完成品か未完成品かについては、石棺上部の大半が平ノミ状工具により最終仕上げされている、下部に残る極めて不自然なヒレ状突起部も、ヒレ状突起部の上面は荒加工ながら平坦面に仕上げられていることから見せる部分と見えない部分を明確にしていることから完成品と考えたい。現在この種の石棺は「馬舟さま」と相津谷津出土の他は県内ではその存在が知られていない。今回、一対と考えられていた石棺が二個体分と判明したことから秋間地区では相津谷津遺跡出土の小形石棺と合わせ三組の同種の石棺が存在することが明らかとなり、当該地域の墓制の特殊性が更に強調されるものと考えられる。

これまでこれらの小型石棺は、古墳時代の石棺に比べ極めて小型であり古代の火葬骨を納める骨蔵器と考えていた。ところで、我が国における火葬の始まりは、文武天皇四年（七〇〇年）僧道昭により始められたとされ、県内各地から発見さる奈良・平安時代の火葬墓には主に須恵器製の有蓋短頸壺の骨蔵器が用いられ、秋間地区でもこの短頸壺を用いた笠松火葬墓の存在が知られている。

一方、当該地区の小型石棺と比較される角閃石安山岩製骨蔵器は、榛名山噴火により供出された軽石を刳抜き作られたもので、赤城南麓一体の限られた地域に分布し、その大半は平安時代の墓制であることが確認されている。このような古代の火葬墓のあり方と今回の石棺の観察結果から、本石棺は完成品とみられる一方、ヒレ状突起部の存在は使用方法を推定させる。

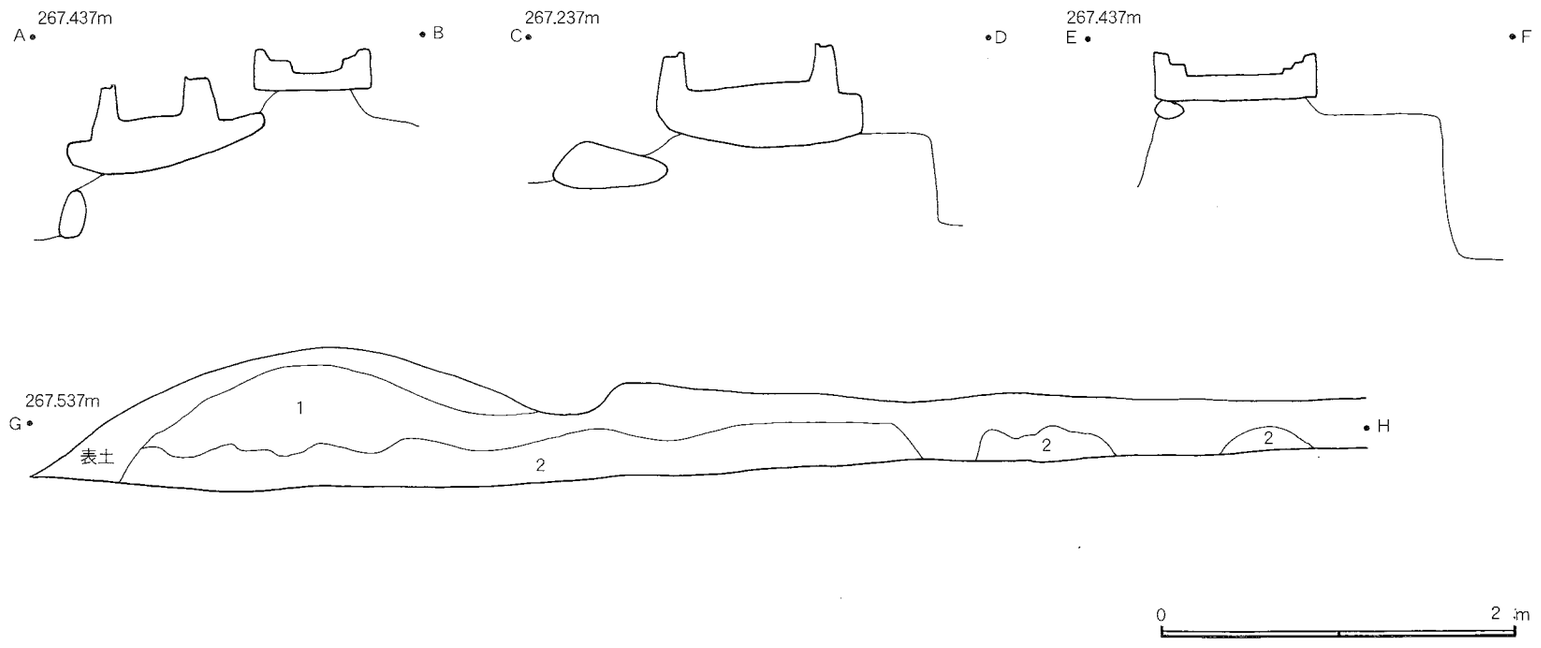
一般的に知られる古代の火葬墓における骨蔵器は地下に埋設するか盛土被覆が、石棺はヒレ状突起部から下を見えない状態にするまで埋設し、石棺本体の上半部は見える状況での使用が想定される。この石棺の収容体積も、県内あるいは全国的に知られる骨蔵器に比べ、著しく大きいことから、砕片化する火葬骨の収納とするよりは小児遺体あるいは再葬骨の収納容器も想定し使用された時期も古代と特定せず幅を持たせておくべきと考える。すなわち、当該地域に残る終末期古墳や、相津谷津石棺出土地の近くに存在する横穴等の組み合わの可能性も視野におき奈良時代始めの頃までの所産と考えたい。　（津金沢）



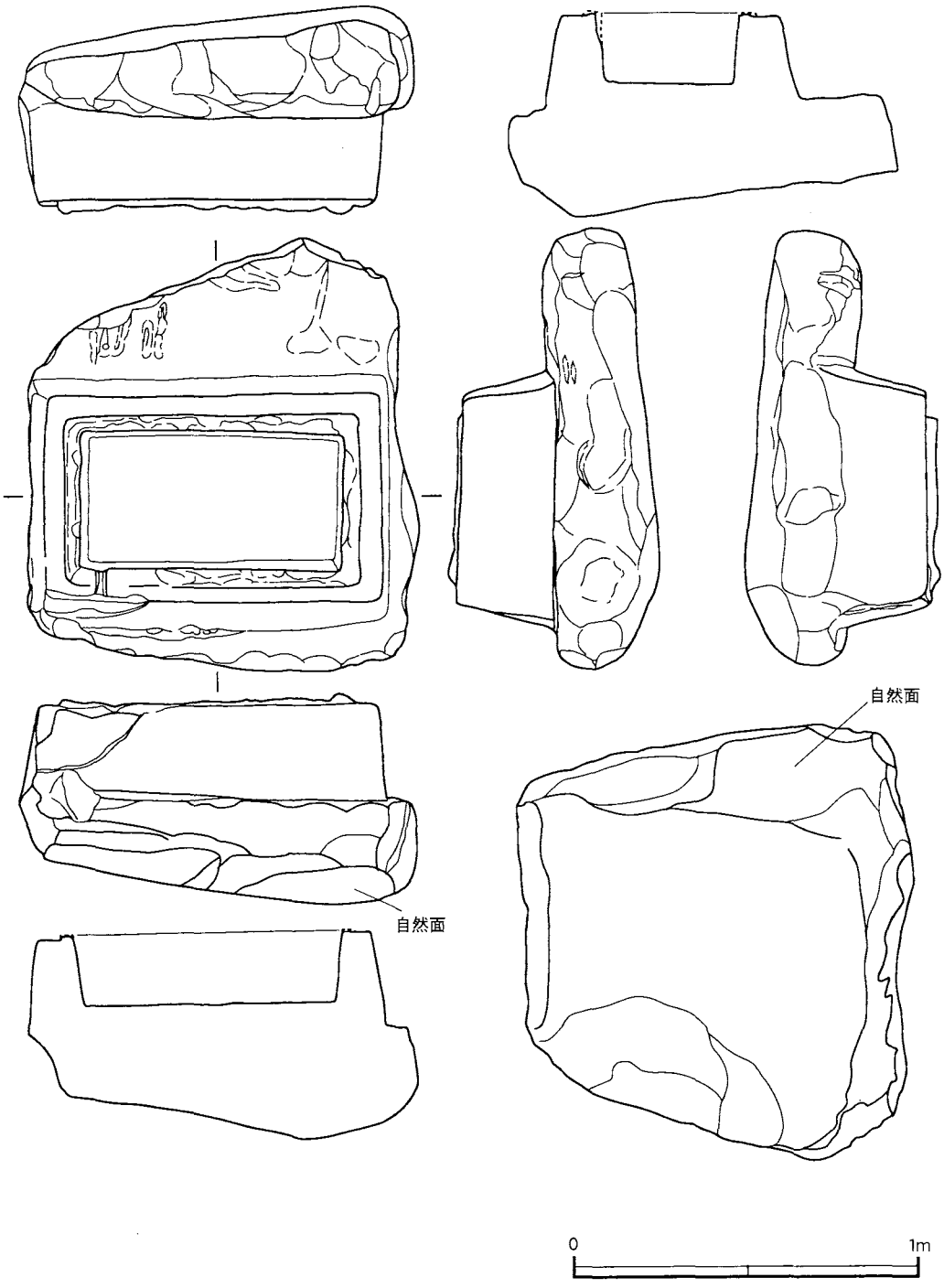


馬舟さま

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					YP	WP	RP
1	黒褐色土層		○	△		○	
2	暗黄褐色土層		○	○	△		○



第366図　馬舟さま実測図



第367図　馬舟さま展開図

VI　成果と問題点

1　野村遺跡調査所見

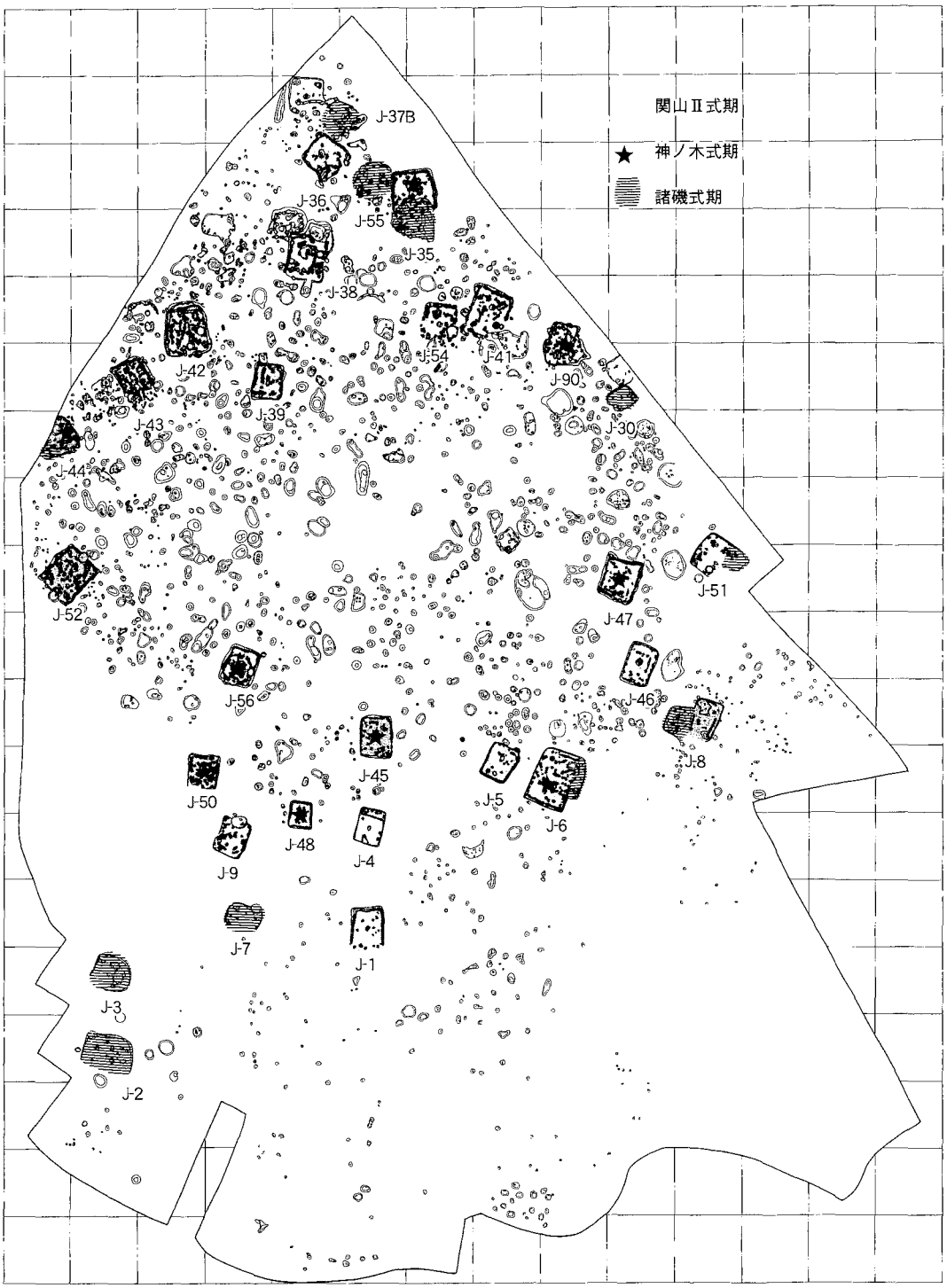
(1)　縄文前期（第368図）

本遺跡からは関山II式期、諸磯b式期の住居址が確認されたわけだが、関山II式期の集落は当期としては大規模なもので、直径約90㍍の環状の集落構成であることが確認された。

環状集落は前期中葉から東日本全域で急速な広がりが確認されるが、前期前葉花積下層式期から関山式期にかけての類例は極めて少ない。本地域においても、中原遺跡・東畑遺跡・三本木II遺跡に見られるように当該期では、数軒で構成される列状集落が伝統的な集落形態として存在していて、環状集落を形成する類例は確認されていない。同時期の環状集落の事例としては、千葉県幸田貝塚があり、類似性を指摘することができる。

さて本遺跡の環状集落は、前述のとおり住居址群が南西部分（南群）と北東部分（北群）に大きく二群に分かれている。北群では大形・中形の住居址が多いのに対し、南群は小形・中形の住居址が多く、また中部系の神ノ木式土器が多くの住居址から出土する傾向が認められた。このことは、当期の集落構成に深く関係しているものと考えられる。そして住居址の時期を見ると、出土土器から基本的に関山II式の時期内に収まるものである。また、当期の住居址同士が隣接して存在するものの重複する例はなく、集落の継続時期は短期間であった事が推測される。こうしたことから、同時並存する住居数も２、３軒といった当期の一般的な集落よりも、規模の大きな集落が存在していた可能性が高い。つぎに環状集落の中央部分を見ると、土坑やピットが多数検出されたものの攪乱が多く、当期の遺構は確認されなかった。つまり大形建物や土坑墓群といった、公共性の高い社会的機能を有する前期後葉以降の環状集落とは本質的に異なるもので、単純な集落構造であったものと考えられる。狩猟などの特定の目的で一時的に形成された集落と推測することができる。そしてこの環状集落の中央部分は、中期の環状列石が構築された平坦な部分と重なり合う。両者の間に共通するような何らかの認識があったのであろうか。

諸磯b式期の集落は、調査区北側・東側・南側に２～３軒ずつが散在する状態で、それぞれが70㍍程の間隔を開けて存在している。集落としては小規模であるが、この集落形態はこの時期に一般的であり、当期近隣の大規模な拠点集落である中野谷松原遺跡とは対照的な存在である。そして、両者がどのような関連性を有していたのか、今後の検討課題である。



第368図　縄文時代前期時期別住居全体図

(2) 縄文中期

中期の遺構は前述のとおり環状列石、列石２列、敷石住居址14軒、埋設土器10基、炉址（住居址残痕）13基が検出された。調査区は遺跡のほぼ全域に渡っていると考えられるため、環状列石を中心とした遺跡の構造が確認された。

本遺跡のような事例はあまり無く重要なため、現地保存も検討され協議されたが、残念ながら残すことはできなかった。

列石遺構

列石遺跡は、環状列石と列石２列が確認された。環状列石は南東部分が欠け全周しないが、平面形は隅丸方形を呈し、規模は36m×30mを図る。列石は環状列石の北側に、東西方向に直線的に延びる２列を確認した。

環状列石の配石方法は、東列から北東肩部にかけて２対の礫が丁寧に平面的に並べられ、北列は大きな板状礫の平面を環状列石中心部へ向け正面をつくり、その裏込の状態で２段から３段礫が積み上げられ。北西肩部から西列は、北東肩部と同様２対の礫を平面的に並べることを基本とするが、北東肩部と比べると並べ方は乱雑で、所々に楕円状の集礫が確認される。そして配石の途中に、途切れや積み方の異なる部分が存在し、約４mから５mの単位を確認することができた。この単位は、北西列中央から南西肩部、南列にかけて置かれた２対の礫の間隔とも合致し、環状列石を構築上の一つの単位を推測させる。

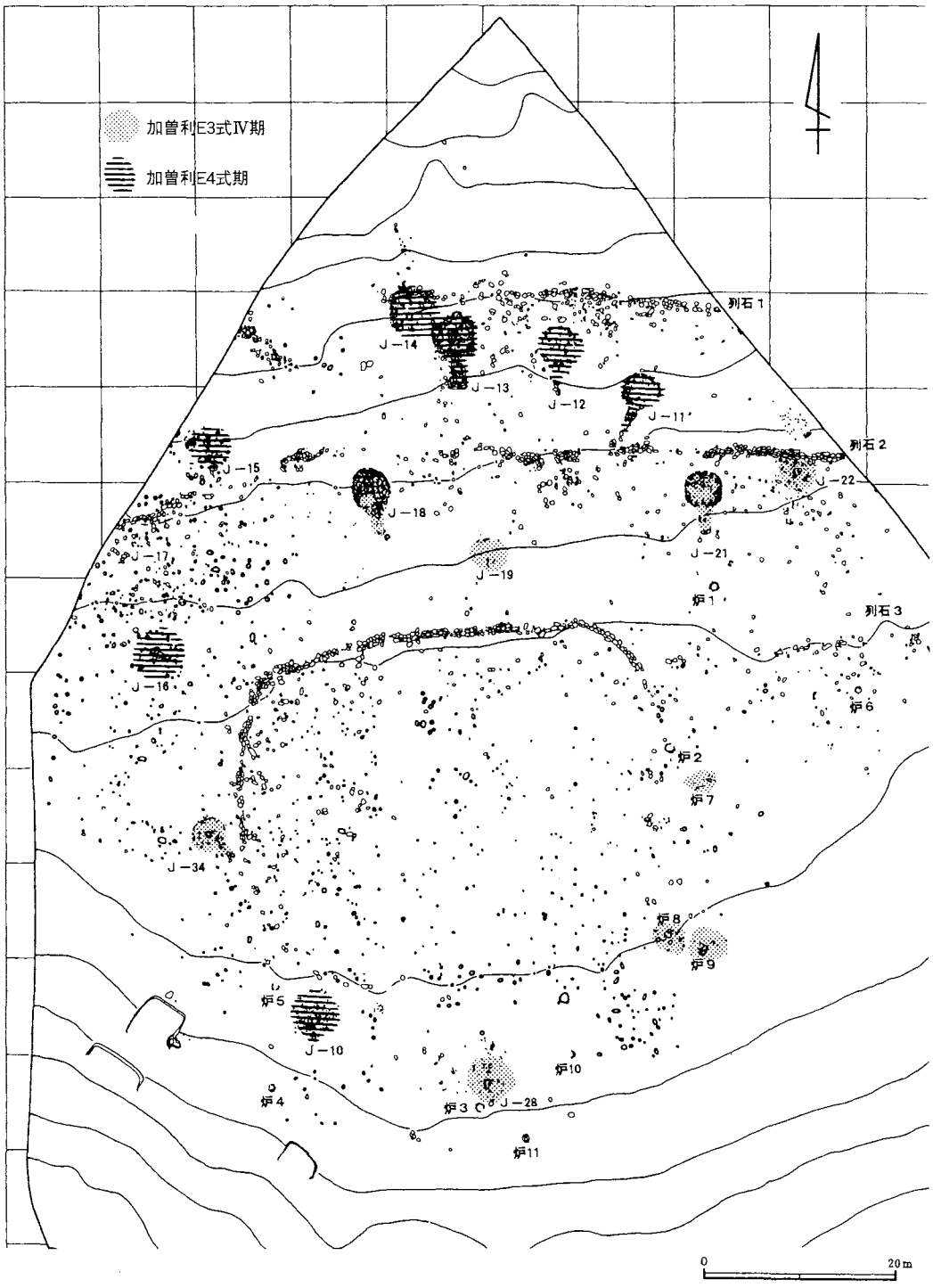
列石の配石方法は、崩落が著しい箇所が部分的にあるものの、環状列石中心部を正面とするように、横長に置かれた礫が石垣状に３段から４段構築されている。遺存状態の良好な部分では、縦位置の礫は確認されなかったが、小牧野遺跡に見るいわゆる「小牧野積み」に酷似するものである。そして環状列石同様に、４mから５mの単位で礫の切れ目や積み方の違いを確認した。

列石遺構の構成礫は84％が安山岩で、石棒・蜂巣石・石皿なども含まれていた。礫の大きさは平均重量で約14.5kg、最大のものは92.6kgを計り、供給源は遺跡の丘陵東側の苅稲川と、西側の谷の小河川から運び込んだものと考えられる。そして、風雨などによる酸化と被熱による赤色変化の判断が曖昧になってしまったものの、多くの礫に赤色変化が確認された。

また環状列石・列石共に、礫の平面を内側に見せる様、意識をした積み方をしていることや、環状列石と列石が北側から中心に向かい雛壇状に形成されている事などから、小牧野遺跡で『環状列石は「見せる」ということをかなり意識している』と指摘されたように、環状列石の中心部に向かい正面観が存在しているものと推測される。そして、雛壇状の造成と共に環状列石・列石を構築する際、土地造成が行われている可能性も考えられることは前述のとおりである。

構築時期

環状列石北側中心部の直下より加曽利Ｅ３式Ⅳ期に属する土器４個体が、掘り込みを持たず潰



第369図　縄文時代中期時期別遺構配置図

され敷き詰められたような状態で検出された。つまり、環状列石構築時期の下限を示す資料と言える。そして環状列石直下、なおかつ北面のほぼ中央といった位置関係から、環状列石構築に際し前に何らかの意味合いを込め、破砕・遺棄されたものと推測している。つぎに、列石２はＪ―15・22号住と重複している。Ｊ―22号住は加曽利Ｅ３式Ⅳ期に属し、Ｊ―22号住→列石２の関係が考えられる。Ｊ―15号住は列石の遺存状態が悪く切り合い関係は不明だが、列石のラインはＪ―15号住の柄の部分にあたり、加曽利Ｅ４式期に属する。そのため列石２は、加曽利Ｅ３式Ⅳ期～４式期と考えられる。また列石２の南側には、加曽利Ｅ３式Ⅳ期に属するＪ―18・21号住が並んでいる。そして最も北に位置する列石１は、加曽利Ｅ４式期のＪ―14号住と重複している。両遺構の切り合いを見ると、Ｊ―14号住→列石１と推測されるため、下限を同期に求めることができる。また、列石１の南側にはＪ―11・12・13号住が並び、いずれも加曽利Ｅ４式期の住居址である。

以上のことから、隅丸方形の環状列石が加曽利Ｅ３式Ⅳ期に構築され、北に向かって順次列石が形成されていったと考えられる。

敷石住居と環状列石（第369図）

住居址の残痕と考えられる炉を含めると、27軒の住居址が環状列石の周りに配置されている。列石１・２のある遺跡地北寄り付近の住居址は比較的遺存状態は良いが、環状列石付近から南は住居址の遺存状態が悪く、住居址残痕の炉もこの部分に集中している。

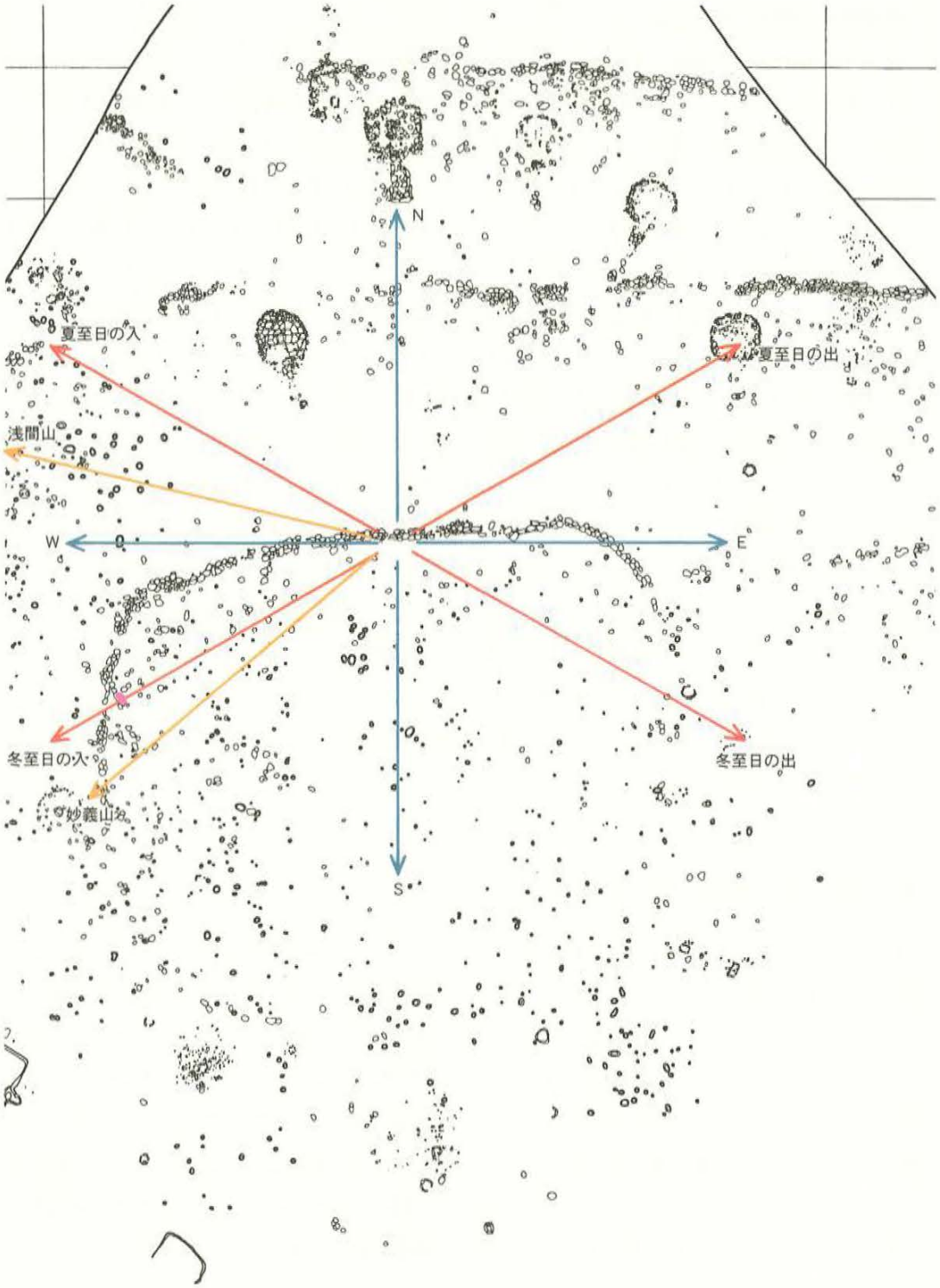
これらの各遺構の時期を見ると、以下のとおりである。

加曽利Ｅ３式Ⅳ期：Ｊ―18・19・21・22・28・34号住、炉７・８・９

加曽利Ｅ４式期：Ｊ―10・11・12・13・14・15・16号住

つぎにこれら各時期の遺構配置を見ると、加曽利Ｅ３式Ⅳ期の遺構が環状に存在していることがわかる。つまり加曽利Ｅ３式Ⅳ期に、この部分に環状集落が形成されていたということである。またこの加曽利Ｅ３式Ⅳ期環状集落の外側には、加曽利Ｅ４式期の集落が存在しており、やはり環状集落を形成している。そして環状集落の中央広場と、環状列石に囲まれた中央平坦部は合致していることが見て取れる。この事は、両者の関係を考える上で示唆的ということができよう。

前述した様に、環状列石直下北面中央からは、破砕・遺棄されたと考えられる状態で、加曽利Ｅ３式Ⅳ期の土器が検出された。これを環状列石構築に伴う祭祀的行為（たとえば地鎮祭の様な）と見るならば、同期の住居址残痕と考えられる炉や遺存状態の悪い住居についても、環状列石や列石との関わりに於ける故意の破壊、つまり祭祀的な要素を読みとる事が出来るのではないだろうか。また、環状列石を囲むように検出された10基の単独埋設土器も、加曽利Ｅ３式Ⅳ期～Ｅ４式期の時期であり、環状列石を取り囲む様な配置や、半数の５基が逆位で伏せて置かれた「伏せ甕」状であった事などから、前述した祭祀行為に深く関係しているものと考えられる。この点に関しては推論の域を出ない部分もあるが、後記する角張氏の解釈は有用な１つと考えられる。



第370図　夏至と秋分の日の太陽との関係

太陽運行との関係（第370図）

近年、遺跡の立地（選地）を天体の運行や特定の山岳嶺との関係性に於いて解釈しようとする研究や報告がなされている。著名なところでは、栃木県小山市寺野東遺跡（台状遺構と筑波山山頂線上に冬至の日の出が重なる）、大湯環状列石（２つの環状列石の中心と列石内にあるそれぞれの日時計状石組みの線上に夏至の日没が重なる）、小牧野遺跡（夏至：弧状列石から延びる直線上の列石に日没、特殊組石遺構北寄りに日の出。冬至：弧状列石西直線部に日の出、特殊組石遺構南寄りに日の出。）などが報告されている。

本地域に於いては、縄文前期拠点集落の中野谷松原遺跡、後・晩期の環状列石が検出された天神原遺跡において、冬至に大桁山、春分・秋分には妙義山に日没することが確認されている。

本遺跡に於いて見ると、環状列石北西肩部付近に位置し、約１㍍を計る長大な礫が注目される。調査時には、環状列石内側に倒れる状態で検出されたが、立石として存在していた可能性は高いと考えている。実際に立石を立て観察したところ、環状列石中心から見ると浅間山の方向とほぼ一致することが確認された。また冬至には、遺跡の西南西にそびえ立つ妙義山の山頂右下肩部に日没することが観測されている。実際当時の植生の中で、これらの山が見通せているのかなど疑問点もあるが、わざわざ土地造成を行い平坦面を作り出し、雛壇状に列石遺構を構成していることを考えると、これらのことは環状列石構築時の大きな要因となっていることは確かであろう。このように、地域の拠点集落や、環状列石のようないわゆる記念物（モニュメント）は、周囲の山あるいは山と日没の位置関係などが、構築時の重要な要素となっている可能性が高いと考えられる。（千田）

2　縄文時代前期出土土器所見

前期中葉の土器　本遺跡からは、関山Ⅱ式土器に伴って神ノ木式土器が出土した。神ノ木式土器が確認された例は、多くない。県内で神ノ木式土器が確認されたのは、1980年代末に北橘村下箱田向山遺跡[註1]で確認されたのが最初である。下箱田向山遺跡で確認された神ノ木式土器は、関山Ⅱ式に混じって「束の縄文」を施文した小破片の土器が数点である。下箱田向山遺跡例は、無繊維の土器で胎土も明らかに関山Ⅱ式土器とは異なるものであった。組紐に似せた「束の縄文」の特徴から、神ノ木式土器と認定できたものである。この発見を契機に、注意深く関山式土器が出土する遺跡を観察することで、検出例が多くなった。特に、当市の横野台地周辺や原市の遺跡[註2]で「束の縄文」を持つ土器や、櫛状工具による刺突・条線を持つ土器が、断片的に発見されるようになった。

これらの遺跡においては、神ノ木式土器と関山Ⅱ式、或いは有尾式古段階の土器と関山Ⅱ式・

黒浜式が遺構から一緒に出土している。また、神ノ木式土器が小破片のため関山II式土器との共伴関係が確定できない状態であった。本遺跡出土例を介在させることで、関山II式土器と神ノ木式土器、さらには有尾式土器へとの変遷感を追うことができると考える。

今回、本遺跡の関山II式が出土しているJ－40号住居址遺構では、ループの縄文土器と一緒に神ノ木式土器が出土している。また、関山式土器のコンパス文があまり崩れず短めであることから、本遺跡では、古い方と考えられる。J－9号住居址から出土している幾何学紋様を持つ関山式土器と、J－35号住居址出土の神ノ木式土器との関連などから、神ノ木式土器・関山II式土器をさらに細分できるのではないかと考える。

また、周辺遺跡の大下原遺跡では、関山式土器の終末段階と思われる土器と有尾式古段階の土器が出土している。さらに、吉田遺跡では、本遺跡より古式の様相を見せる関山式土器が出土している。清水I遺跡でも、関山式土器と神ノ木式土器から有尾式土器へと集落が変遷した様子が見られる。

今後、本地域のこられの遺跡を総合的にまとめることで、関東南部では、関山式から黒浜式への変遷が、群馬では、関山式土器から有尾式土器へと変遷した過程が検討できるのではないだろうか。

前期後葉の土器　本遺跡出土の諸磯式土器は、諸磯b式後半段階から諸磯c式土器である。特に諸磯b式終末から諸磯c式土器にかけての変遷については、系統だって捉えることができる。J－6号住居址→J－3号住居址→J－7号住居址→J－30号住居址という変遷が考えられる。(註3) この時期において、浮島式土器が伴うことが多いのであるが、本遺跡では、その出土が少ない。また、下島式土器に付いても同様に出土例が少ない点で本遺跡の性格を考える上で今後の課題となる。

(関根)

註1　1990　一般国道17号(真壁交差点改良)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　「下箱田向山遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団

註2　三本木II・吉田原・大下原・中野谷松原・清水I遺跡等　2001　安中市史第4巻　原始古代中世資料編

註3　1999　第12回縄文セミナー「前期後半の再検討」　縄文セミナーの会による諸磯b式土器の変遷

3　環状列石構築に費やされた作業量について
～野村遺跡をモデルとしての一試論～

(1)　はじめに

環状列石の研究は形態や埋葬施設の有無などに比重がおかれ、従来からその用途は墓地（水野1984、斎藤1985他）あるいは祭祀（大場1946、江坂1982他）に関わる施設と考えられ、二者択一的に論じられることも多かった。しかし、仮に墓であることが確かめられても、儀礼が行われた可能性は否定できず、また物的資料から実証困難である祭祀行為、それ自体を環状列石の用途として積極解釈することはできず、両者を本来同レベルで比較することはできない。いずれにしても直接に生業活動に関わりを持たない、抽象的性格の強い施設の意味を考察するには、あらかじめ具体的な情報を最大限引き出しておくことが重要である。そこで環状列石に使われた石の数・重量・運搬距離などからこの施設を造るのに必要な作業量を基礎資料として推定し、縄文時代の社会規模や土木的力量について考えてみたい。

(2)　量としての環状列石

作業量の推定にあたり、環状列石の単位が明確であり、かつ列石に用いられた個々の石の重量が計測されているか、または平図面から石の大きさが推定可能な本遺跡を含めた次の５遺跡―群馬県安中市野村遺跡、群馬県藤岡市中栗須滝川II遺跡、青森県青森市小牧野遺跡（青森市教育委員会1996）、北海道知内町湯の里５遺跡（北海道埋蔵文化財センター1985）、北海道斜里町オクシベツ川遺跡（斜里町教育委員会1980）―を分析対象とした。

①　作業時間

ア　各遺跡で環状列石に用いられた石の重量を求める。

重量を算出する際に湯の里５遺跡は報告書の配石計測値一覧表を、オクシベツ川遺跡は報告書のＪ―27遺構（環状列石）出土礫計測表を、中栗須滝川II遺跡は石を計測した未発表資料を藤岡市教育委員会から借用し、それを利用した。小牧野遺跡については記載がないため、野村環状列石に用いられた石の、縦、横、高さ、及び重量を計測してそれらの相関係数を求め（図１、図２）、それをもとに小牧野遺跡の実測図から起こした各石の縦と横の数値から重量を推定した。石質の違いにより比重が異なることが予想されるが、小牧野遺跡と野村遺跡の石質の大部分が安山岩（小牧野遺跡92％、野村遺跡84％）であり（図３）、大きな違いはないと判断した。

各遺跡に用いられた石の平均重量は４kgから15kgの範囲であり、かつ石の半数以上はどの遺跡も20kg以下であり、一人でも十分に運べる石が多い（図４、表１）。一方で中栗須滝川II遺跡を除くと各環状列石の石の最大重量は50kgを超え、中には小牧野遺跡のように推定重量が500kgに近い

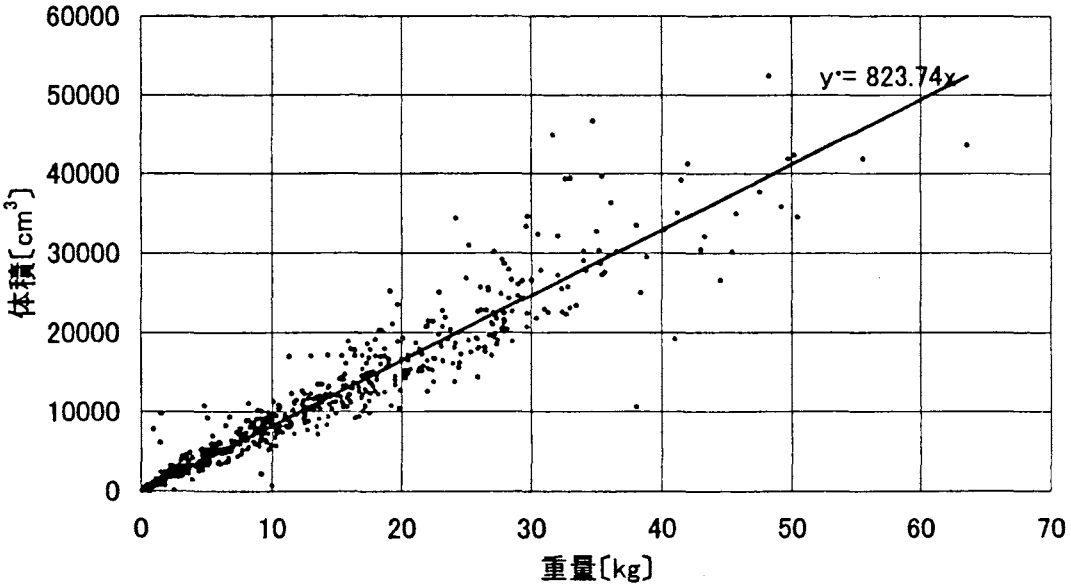


図１　野村環状列石における石の体積と重量

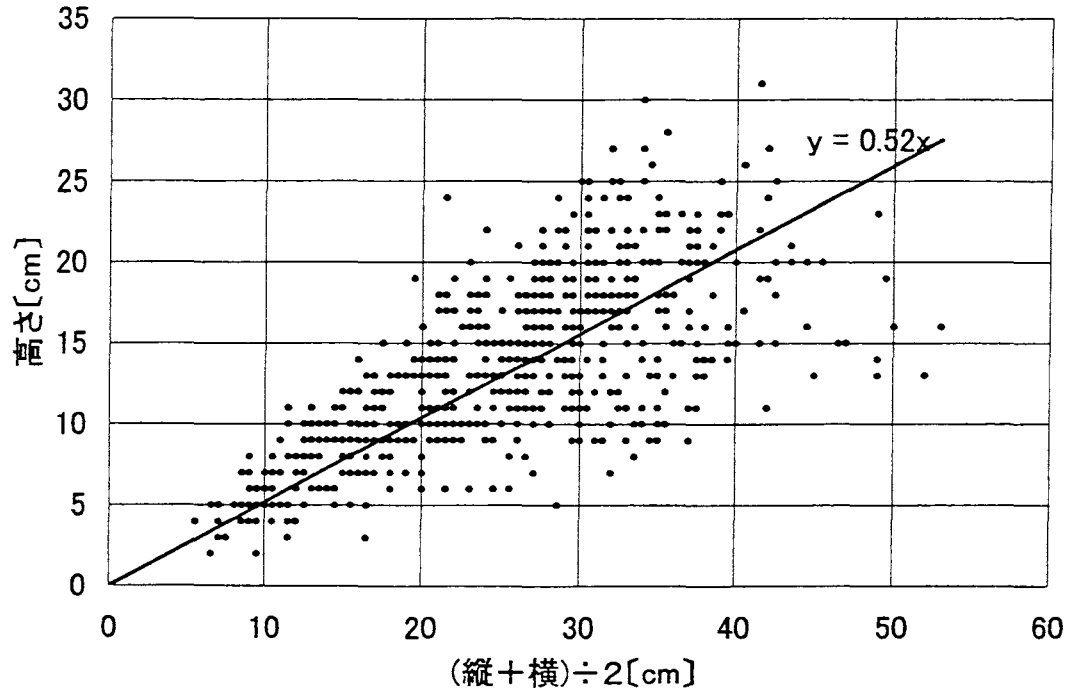


図２　野村環状列石における石の縦・横の平均と高さの関係

巨石も計測し、様々な大きさの石が用いられていることがわかる。

イ　遺跡と河原までの水平距離と標高差を地形図から求め、斜面距離と傾斜角を計算する（図５）。

各遺跡で用いられた石材は大半が河原石であり、遺跡から最寄りの河原で入手できるものである。このことから石材の入手地経路として遺跡から河原までの最短距離を設定した。地形図には野村遺跡1/2500、小牧野遺跡1/10000、湯の里５遺跡、中栗須滝川II遺跡1/250000を用いて遺跡から河原までの水平距離と標高差を測り、斜距離と傾斜角を算出した(表２)。オクシベツ川遺跡は遺跡内に川が流れているため、列石と河原までの水平距離を10m、標高差を０mとした。

ウ　河原から遺跡まで石の運搬を想定しての歩行実験を行ない、傾斜角の違いによる歩行速度の変化をみる。

実験では「しょい子」を運搬具として用い、一定の負荷（10kg）を与え、５度間隔で上りの傾斜での歩く速度の変化を調べた（図６)。下りでの、負荷なしで河原まで下る歩行速度は上りの1.3倍で統一して計算した。その結果、25度の勾配では平坦の道を歩く1/2の速度に落ちることがわかり、また、平坦である傾斜角０度の道のりでは10kg程度の負荷の有無にかかわらず歩く速さは一定であった。

エ　斜面距離と歩行速度をもとに遺跡と河原まで一往復に要する時間を求め、往復回数をかけて作業時間を求める。

環状列石の石運搬の作業時間を推定する式は

作業時間＝遺跡と河原との往復時間×(環状列石の総重量÷１回に運ぶ重量)

と考えた。往復時間とは遺跡～河原間の上りと下りの時間の和であり、１回に運ぶ重量は歩行実験で用いた10kgとした。

作業時間は１時間から750時間までの広範囲に及んだが（表３)、この結果から環状列石を造るのに費やされた作業時間を、ある程度具体的な量として把握することができる。これは仮に一人で１日８時間の作業を連日行なうとすると、湯の里５遺跡は約１日、野村遺跡は約１ヶ月、小牧野遺跡は約２ヶ月、中栗須滝川II遺跡は約３ヶ月程度の作業と推定できる。

②　投下されたエネルギー量

環状列石に使われた石の運搬に必要とするおおよその作業時間は検討がついたが、仮に歩行時に同じ荷物を持っていたとしても傾斜角が異なれば、歩行速度が変化するように体にかかる負担、つまり、作業強度は異なるはずである。石の運搬作業をもし現代で行なうとしたらその運動量は荷物を背負ったハイキングや山登りに相当すると思われる。そこで金沢大学の調査班によって行われた登山に必要なエネルギー量を推定した実験（表４）を、石の運搬作業に見立て（池田1952を勝田1972から転用)、必要とする運動エネルギー量を推定したい。この実験は登山の全経過を呼

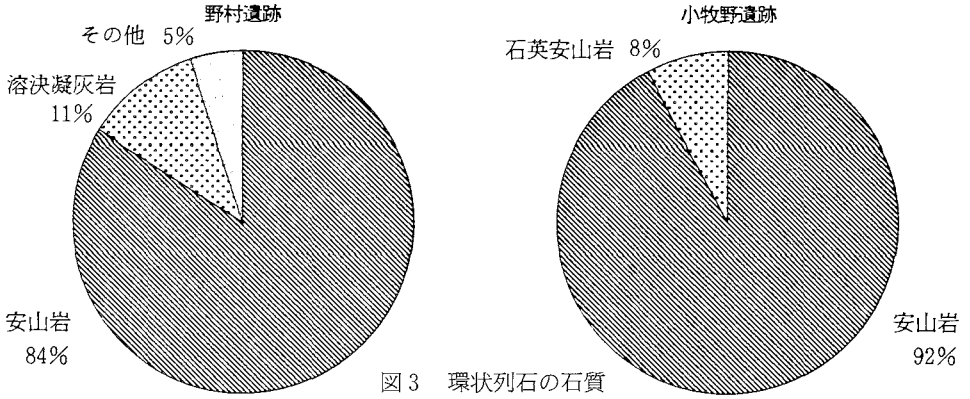


図3　環状列石の石質

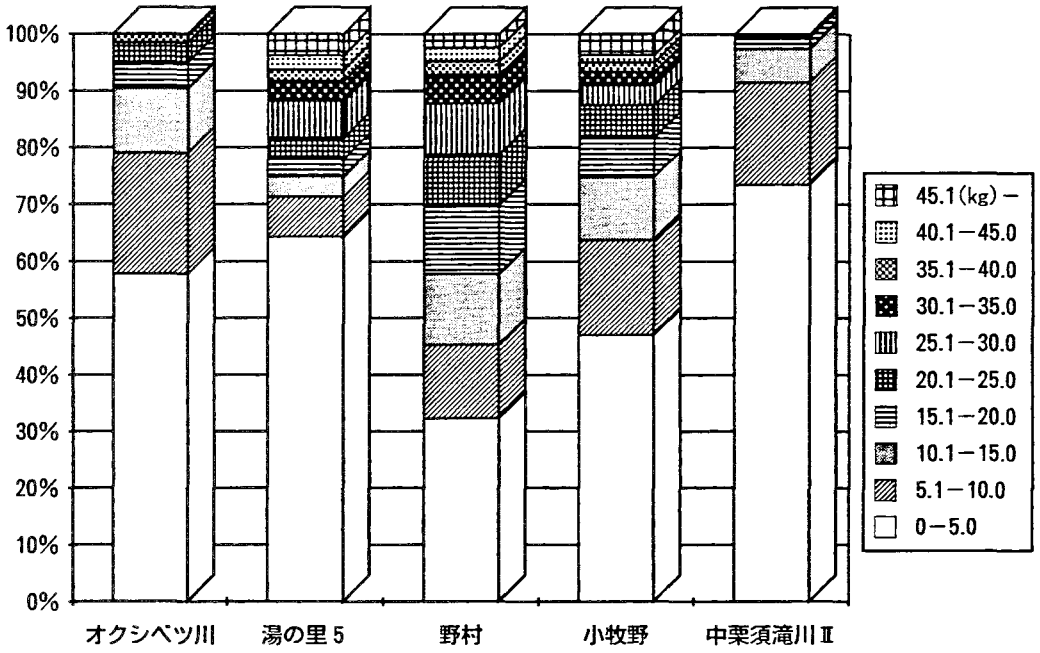


図4　環状列石に使用された石の重量別グラフ

表1　環状列石の計測データ

	個数	最大(kg)	最小(kg)	平均重量(kg)	総重量(kg)
オクシベツ川遺跡	249	55.4	0.1	6.9	1657.3
湯の里5遺跡	169	79.0	0.1以下	10.4	1747.3
野村遺跡	1573	92.6	0.1	14.5	22747
小牧野遺跡	2277	493.4	0.1以下	11.8	26788
中栗須滝川Ⅱ遺跡	2580	38.0	0.1以下	4.0	10006.2

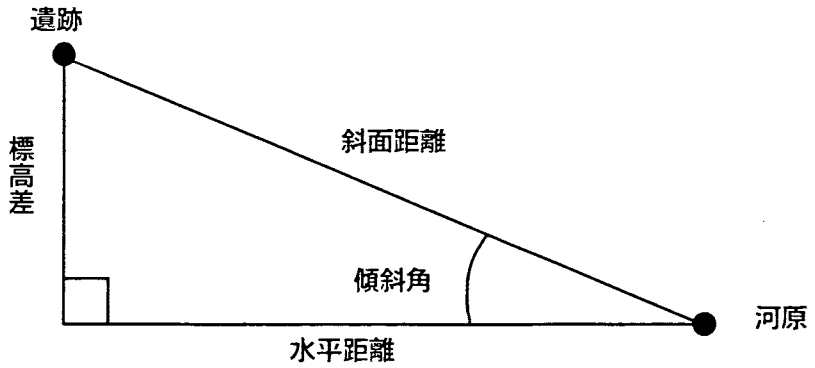
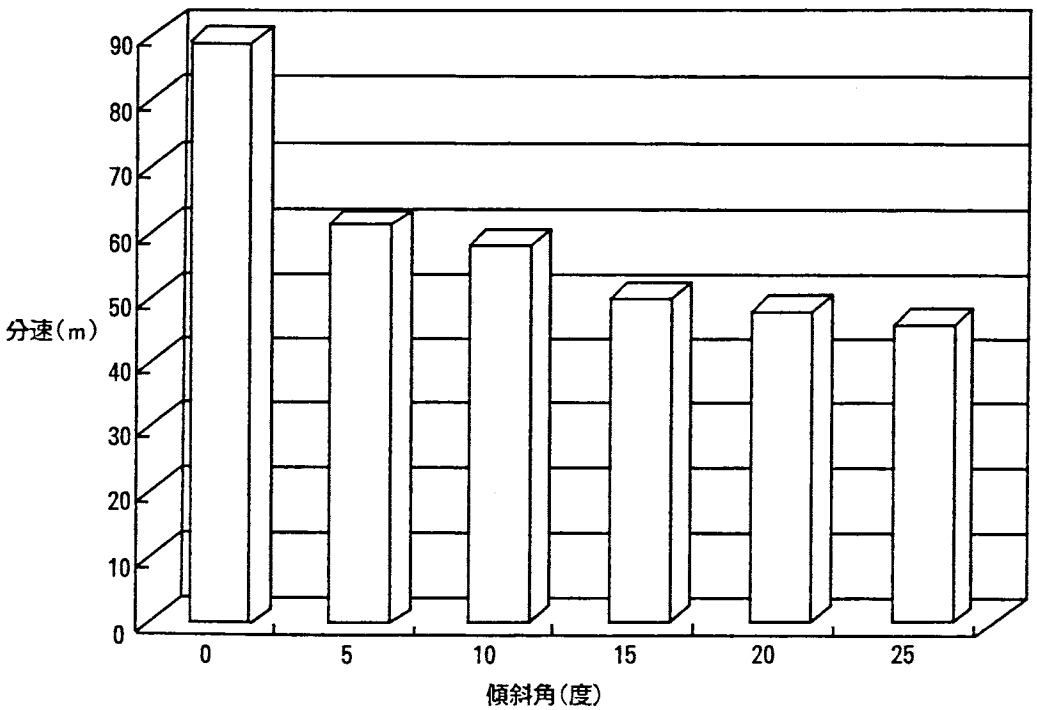


図5　遺跡と河原との位置モデル

表2　遺跡と河原との関係

	水平距離(m)	標高差(m)	傾斜角(度)	斜面距離(m)
オクシベツ川遺跡	10	0	0	10
湯の里5遺跡	50	25	26	56
野村遺跡	250	40	9	253
小牧野遺跡	300	80	15	311
中栗須滝川Ⅱ遺跡	2000	7	0	2000



吸ガス代謝法*1)その他の実験によって計測(実測)しており、携行した荷物の重量(負荷)が記載されていないので仮に10kg程度と考えた。

表4から傾斜角4度～10度の角度における歩行距離（斜面距離）と運動熱量（kcal）との関係を知ることができ、分析対象とする遺跡のうち傾斜角9度の野村遺跡のみがこの範囲に該当し、これを傾斜角10度の白山での実験結果と対応させる。そして、すでに求めてある遺跡～河原間の傾斜角と歩行距離（斜面距離）から、環状列石構築に費やされた運動量（kcal）を推定した（表5）。

野村遺跡での石運搬に投下された熱量は約95000kcalと推定でき、これは現代の成人した日本人が必要とする1日のエネルギー所要量の平均を約2200kcal*2)とすると、43人/日分のエネルギー量に相当する。また可食部100ｇあたり、クリで156kcal、トチの実で365kcalの熱量を持っているので(菅原1997)、クリで61kg、トチの実で26kgに相当する。また野村遺跡の推定作業時間が293時間であることから、石の運搬の作業には、毎時323kcalのエネルギーを消費し、これはエアロビックダンスの一時間あたりのエネルギー消費量に等しい*3)。

さらにオクシベツ川遺跡や中栗須滝川II遺跡のように傾斜角0度、つまり平らな面での作業が想定される場合もある。これを平坦地でのハイキングの運動量263kcal/時とみると、オクシベツ川遺跡はクリ100ｇ、中栗須滝川II遺跡クリで126kg、トチの実では54kgの熱量に相当する。

表5から3遺跡のみではあるが、投下熱量の点で作業時間には現れない作業強度の比較を試みることができる。平坦な運搬作業であるオクシベツ川遺跡と中栗須滝川II遺跡において、角度の違いによる歩行エネルギーの差は認められないので、作業時間の差がそのまま投下熱量に反映する。一方、角度10度で323kcal/時消費するのに対し、ハイキング（平坦）では263kcal/時の熱量を消費するので、勾配によるエネルギー量の差は一時間あたり60kcalとなる。その結果作業時間において、中栗須滝川II遺跡は野村遺跡の2.6倍であったのが投下熱量では2.1倍にまで減少しており、傾斜があると単位時間当りに体にかかる負担が大きくなることがわかる。

③　石運搬の仕事量

石の運搬作業とは、そりなどを使い力学的に石を河原から遺跡までの斜面を滑りあげる仕事とみることもできる。そこで、土木工学的視点から八戸工業大学の諸戸靖史が提案した、石運搬の労力を推定する以下の略式を用いて仕事量を計算した（諸戸1996）（表6）。

仕事量*4)（kgf･m）＝石の重量（kgf）×（標高差(m)＋水平距離(m)）

仕事量の結果からも作業時間でもとめた結果とほぼ同じような遺跡間の相対関係が得られた（図7、表7）。ただ仕事量においてオクシベツ川遺跡と他の4遺跡との格差が広がっている。こ

表3　作業時間

	往復時間(分)	作業時間(時)	作業日数(人/日)
オクシベツ川遺跡	0.2	0.6	−
湯の里5遺跡	2.2	6.3	0.8
野村遺跡	7.7	293.1	36.6
小牧野遺跡	11.0	490.7	61.3
中栗須滝川Ⅱ遺跡	44.9	749.8	93.6

表4　登山に必要なエネルギー量

山岳名	垂直距離(m)	斜面距離(m)	平均角度	継続運動熱量(kcal)	
				登	降
卯辰山（天神橋―頂上間）	10	1350	4°40′	83	35
宝達山（登山口―頂上間）	487	4800	5°44′	432	164
白山（市ノ瀬―御前頂上間）	1860	10500	10°2′	1234	494
立山（称名滝下―雄山山頂間）	1820	13770	7°35′	1403	561
富士山（吉田口太郎坊―頂上間）	2230	12372	10°12′	561	1719

〔註〕　富士山の場合は不慣れなため30%ほど多く出ている（池田　1952を転用）

表5　作業時間と投下エネルギー量

	作業時間	投下熱量(kcal)
オクシベツ川遺跡	0.6	158
野村遺跡	293.1	94640
中栗須滝川Ⅱ遺跡	490.7	196934

表6　仕事量

	仕事量(kgf・m)	標高差(m)	水平距離(m)	総重量(kg)
オクシベツ川遺跡	1657.3	0	10	1657.3
湯の里5遺跡	131047.5	25	50	1747.3
野村遺跡	6596630.0	40	250	22747.0
小牧野遺跡	10179440.0	80	300	26788.0
中栗須滝川Ⅱ遺跡	20082503.6	7	2000	10006.2

表７　野村遺跡を１とする仕事量と作業時間の遺跡間比率

	仕事量	作業時間
オクシベツ川遺跡	1/3980	1/489
湯の里５遺跡	1/50	1/47
野村遺跡	1	1
小牧野遺跡	1.5	1.7
中栗須滝川Ⅱ遺跡	3	2.8

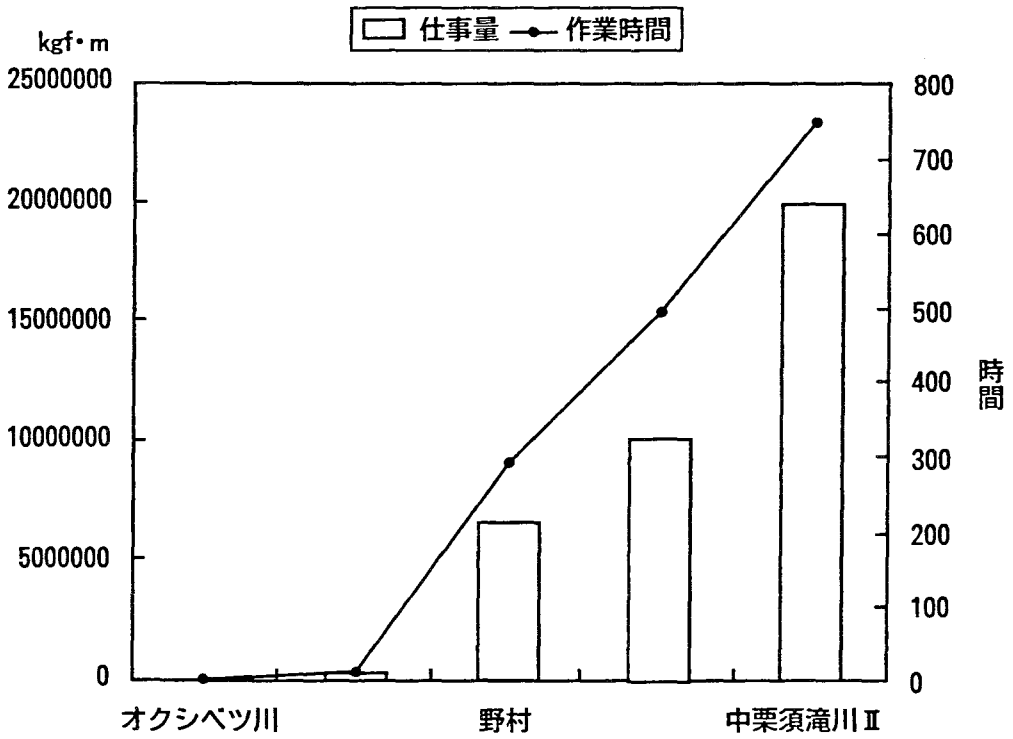


図７　環状列石における仕事量と作業時間

れはオクシベツ川遺跡の場合、作業時間が0.6時間という余りにも短い推定結果により誤差が大きくなったものと考えられる。

諸戸の式に従えば石の総重量、遺跡と河原との標高差、水平距離がデータとして整えておけば簡単に仕事量が推定でき、これらの変化量をみることができる。また、さらに計算を簡略化して、石の平均的な重さとおおよその個数、遺跡と河原の位置関係を調べておけば、他の多くの遺跡に関しても石運搬の作業を仕事量の視点から比較可能である。仕事の概念は石を人間がもって運ぶのではなく、石が斜面を滑りあがる場合の加える力と重さとの積を求めるものである。諸戸が指摘しているように厳密に作業量を推定しようとすれば運搬時に用いる道具の種類や、路面の状況による摩擦係数や割り増し係数の変化値を式に反映させる必要があり、そうした場合は計算が複雑になることが予想される。

(3) 推定量の解釈

① 結果と問題点

分析した5遺跡の中で一番作業時間が短いのはオクシベツ川遺跡の0.6時間で、一番長いのは中栗須滝川II遺跡の749時間であった。このことから作業規模として最も小さなオクシベツ川遺跡は、一人で1時間もあれば石の運搬作業を終えるのに対し、中栗須滝川II遺跡では10人で1日8時間の作業を行なったとしても10日を要する計算となる。作業時間の差としては確かに大きいが、規模的に最も大きなオクシベツ川遺跡に関しても予想していたレベルよりはるかに小さな規模であった。またこれは少なく1日3時間の作業を行ったとすると、10人で25日を要する作業となり、未開社会の狩猟＝採集民での1日の労働時間の平均が3時間41分であることから(山内1992)、縄文人の活動時間を1日8時間とすれば、生業活動と環状列石を造る作業の両方を行なえることが可能な時間として仮定できる。

作業量の推定法について、先に図4で示したように登山においても平均傾斜角は10°前後であるならば、直線距離で傾斜が15度の小牧野遺跡や26度を測る湯の里5遺跡ではかなりの勾配であるといえ、このことから迂回経路や休憩も想定する必要がある（児玉・高沢1998)。また小牧野遺跡では「内・外帯の石配列は極めて規則的である。最大で1m、平均50～60cmに近い偏平または棒状の細長い礫を縦に置き、その横には一回り小型の偏平な礫を2～6段、石垣状に横積みし、これを繰り返すことで内・外帯が構成されている（青森市教育委員会1996)」、ように意図的に石材の選択が行われ、配置にも工夫が見られる遺跡は多い。したがって、計算を行なうのは難しいが、迂回距離や休憩時間、石の選択・配置などに要する時間を加えたものが現実に列石を造る作業を想定した場合の作業時間となる。

その他にも小牧野遺跡は「列石構築に際し、西高東低の緩斜面を削り(深さ最大1.8m)、西側を

半円状に削り、その排土を東側に盛り、中央に円形の平坦地をもつ地形に造成し、その作出した面に列石を築いている(青森市教育委員会1996)」とあり、湯の里5遺跡は外環の下を「さらに掘り進めると中央部に一段低い位置にめぐる礫が現れ、全体で二重のサークルをなすことがようやく確認された（北海道埋蔵文化財センター1985)」、オクシベツ川遺跡では「249（最も大きい石の番号）はストーン・サークルのほぼ中心部に位置し、他の礫より一段低い場所から横になって出土した(斜里町教育委員会1980)」とある。野村遺跡に関しても、土層堆積状態からは確認できなかったが、各列石を境にして土地が雛壇状または階段状に形作られており、自然の地形とは考えにくい。

このようなことから環状列石を造る際には、何らかの土地の造成が前段階に準備されていた可能性が高く、環状列石の構築プランには事前の土地整備作業も含まれるはずである。しかし、科学的に土量を計測するのが難しく、また土砂の移動を確実に証明できる遺跡も少なかったので作業量の推定に際し、この点は考慮しなかった。

② 住居の建設との比較

分析結果から作業時間が最も長く推定されたのは中栗須滝川II遺跡で、1日3時間の作業を行なったとして250人/日、現代人の平均労働時間に相当する1日8時間の作業を行なったとすれば、94人/日という規模となる。縄文時代の土木力を把握するためには、同じような土木作業によって造られた施設との比較を行なう必要があると考え、住居の建設との比較を行ないたいと思う。しかし、管見の限り縄文時代の住居（特に竪穴式住居）の建設に必要とする労力を推定した研究資料は手に入らなかっが、ある程度の目安となる資料を得ることができた。

タウンゼンドは、ニューギニアのヒオウエのヘブ族での場合を例に、石斧を使って材料を得る時間から家を一軒建てるために必要とする時間を、114時間と推定している(TOWNSEND1969)。これは1日8時間働いたとして、14人/日に相当する規模となる。また西田正規は竪穴を掘る作業を、掘り棒で2㎥/日掘ると仮定し、15～20人/日程度の作業を想定した（西田1989)。

このことから竪穴住居の建設規模は木材の入手から、竪穴を掘り、家を組み上げるまでおおよそ30人/日＝1ヶ月程度の作業と予想することとした。これと環状列石を造るために必要とする作業時間とを比較するとき、1日8時間の作業の場合、作業時間293時間の野村遺跡で、37人/日となり、ほぼ同じ作業規模と考えることができる。また中栗須滝川II遺跡の環状列石の規模が94人/日程度であることから、おおまかに大きな環状列石の構築規模（分析したうちで）は、竪穴住居の建設の3倍程度であると言える。住まいは縄文人にしろ現代人にしろ基本的生活に必要な施設であると考えられるから、縄文人は作業時間の点から見ればそれ以上の労力を費やす価値を環状列石に見出す場合もあり、それを実行できる労力を集落は内在させていたことになる。

表８　石の個数を推定した環状列石

遺跡名	所在地	時　期	規　模（m）	石の個数	形　態
忍路環状列石	北海道 小樽市	後期	32.0×23.0	150	環状
地鎮山巨石記念物	北海道 小樽市	後期	6.0×3.8	1000	塊状
オクシベツ川遺跡	北海道 斜里町	後期後半	直径10.0	249	環状
湯の里５遺跡	北海道 知内町	後期初頭	"内環2.8×2.5, 外環6.7×6.5"	169	環状
小牧野遺跡	青森県 青森市	後期前葉	"中央2.5×1.5, 内帯径29.0, 外帯径35.5"	2277	環状
湯舟沢Ⅱ遺跡	岩手県 岩手郡	後期前葉	全長14.0	210	環状
御所野遺跡	岩手県 二戸郡	中期後半	5.0×4.2	210	環状
大湯環状列石	秋田県 鹿角市	後期前葉	"野中堂直径36.0, 万座直径40.0"	"野中堂1400, 万座3100"	環状
伊勢堂岱遺跡	秋田県 北秋田郡	後期前葉	列石A30×25	1500	環状
野村遺跡	群馬県 安中市	中期後半	第１列35.0×30.0 "第２列65.0, 第３列25.0"	第１列622 "第２列605, 第３列348"	第１列環状 "第２列弧状, 第３列直線"
中栗須滝川Ⅱ遺跡	群馬県 藤岡市	後期	全長40.0	2580	環状
田端遺跡	東京都 町田市	後期後半	10.0×9.0	1100	環状
下溝稲荷林遺跡	神奈川県 相模原市	後期後半	13.0×12.5	730	方形
小林遺跡	長野県 駒ヶ根市	中期初頭	"第Ⅰ直径10.0, 第Ⅱ直径16.0"	"第Ⅰ270, 第Ⅱ510"	直線
殿原遺跡	長野県 飯田市	後期	全長10.0	290	弧状
上白岩遺跡	静岡県 田方郡	中期末～ 後期初頭	13.1×12.3	680	環状
千居遺跡	静岡県 富士宮市	中期後半	"第Ⅰ46.0, 第Ⅱ22.0"	"第Ⅰ170, 第Ⅱ170"	"第Ⅰ直線, 第Ⅱ弧状"

③　範囲規模

環状列石は規格がある程度はっきりしているものだけでも、全国的に30～40件確認されている（山梨県考古学協会1990,日本考古学協会1997）。分布域は北海道・東北地方北部を中心とするが東海地方にまで及び、その大きさ（直径または全長）や石の個数も様々である。分析した環状列石構築の推定作業時間は５遺跡のみで、これが正確な環状列石の規模範囲をあらわしているとは言い切れず、新たに列石の単位が明確であり、かつ、列石に使われている石の個数が確認できる12遺跡で、平面図などからその概数を推定した（表８）。

環状列石の大きさは直径２m～40mの範囲となり、特定の大きさに偏りは認められず、弧状または直線状の列石を含めれば野村遺跡の第二列の全長65mが最も大きいが、これらのタイプの大きさも様々である。列石範囲をどこまでとするかにより誤差はあるにしても、おおよその石の数は50個から3000個の範囲と考えられる。石の計測数が最も多い大湯環状列石は、直径約１～２mの組石遺構が集合して直径約40mのサークルが二つ形作られている遺跡で、万座遺跡で約3100個、野中堂遺跡で約1300個、合わせて4500個の石を数えた。

配石された石の個数は総重量に、さらにそれは石を運搬するのに必要とした作業量と相関関係をもつ。そこで最大個数の規模をもつ大湯環状列石を造るのに費やされた作業時間を推定したい。

まず総重量を推定する。大湯環状列石は1951・52年に発掘調査が行われ、53年に報告書が刊行されている。両遺跡とも完存時にはより多くの石が配石されていたことが推察され、中でも万座遺跡に関しては、200ヶ所以上の組石遺構の存在が可能性として指摘されている（後藤1953）。保存状態が良い万座遺跡で考えて見るならば、発掘当時で組石遺構が47基と日時計状の特殊組石遺構が一基確認されている。実測図で把握できる限り、石の数は組石遺構の石の平均個数が27個、特殊組石遺構で129個の石が使われていた。そこで組石遺構の平均個数27個、構築当時200基の組石遺構があると考えれば、全部で5400個の石が配置されていたことになる。そして「列石の大きさは人頭大以上で、大きさ及び重さから見て、大体一人の力で運びうる程度、稀に大きくても二人なら特に運搬器具を使うことなく運びえたと考えられる（藤岡・佐藤1953）」ことを参考にして、石の平均重量を10kgと仮定して、総重量を54000kgと推定しておく。

次に石の運搬距離を考えてみる。石材は天然の河原石で、遺跡近くの大湯川から運ばれたと推測されている（藤岡・佐藤1953）。その後の大湯環状列石周辺遺跡発掘調査（1985年）でも岩質分類鑑定及び原産地特定の調査が行われている（加納1985）。その結果として、調査時に遺跡の近くの河原では列石に使われた形の良い長柱状の石が稀であることから、遺跡から６～７km離れた安久谷川、もしくはもう少し下った大湯川と安久谷川の合流地点を石材獲得場所と推定している。確かに、大湯環状列石では長柱状の河原石が好まれて選択され、また5000個の以上の石が用いられたとすれば、１ヶ所の河床ですべてまかなうのは難しい。しかし、地理的に遺跡から最も近い大湯

川まで1kmほどであるのに、5km以上離れた地点まで石を取りにいったとは考えにくく、列石構築当時には目当てとする石が近くの河原で採集できたと考える方が自然であり、石材獲得地を、可能性が高いと思われる、最短距離1km付近と仮定しておく。

こうした仮定から総重量を54000kg、傾斜はなく歩行距離を片道1kmとし、1回10kgを運んだとしてこれまでと同じ方法で万座遺跡の作業時間を推定すると2021時間となった。1日8時間の作業の場合、253人/日となり、分析結果の中で作業量の大きかった中栗須滝川II遺跡(94人/日)の2.7倍の作業量に相当する。これはあくまで最低限必要とする作業時間であり、分析対象とした5遺跡はいずれも列石の下に土壙は確認されていないが、大湯の場合、土壙を掘る時間も加えればさらに作業時間は増大する。簡単に考えて、組石と土壙がセットであるとし、土壙の土量が1㎥、これを1日1人で掘るとすると、ほぼ倍の500人/日程度の作業を要することになる。分析した遺跡の作業時間と比べ、相当大きな作業規模となる。

以上の分析は現状に残された環状列石をすべて一つの塊と見なして計算したものである。だが、実は環状列石を一つの単位と見るか、または幾つかの単位に分けて考えるか、つまり一度に造るられたのか、時間差をもって何回かに分けて造るられたと考えるのかによって、特に大湯のような大きなものに関しては、分析結果からの解釈が異なる。次に、環状列石の形態的、機能的違いについて触れておきたい。

④　二種類の環状列石

一般的な環状列石として本稿で分析対象とした5遺跡の他に、秋田県伊勢堂岱遺跡、山梨県牛石遺跡(小林公明1981)、静岡県千居遺跡(千居遺跡発掘調査団1972)などが有名である。なかでも代表的なものとして大湯環状列石と小牧野遺跡が挙げられ、大湯型と小牧野型とに区別されている。二つのタイプは形態面と性格面で異なる特徴が認められる。形態的には前者が直径1～2mの組石遺構の集合体であるのに対し、後者は偏平または棒状の細長い石を規則的に組み合わせて列状に連続させた統一体である。性格面では前者が一基ずつ組石遺構の下部に土壙を伴うことから集団の墓地、墓域であると推定されているが、後者は列石の下部に土壙は存在せず、祭祀場を想定する多くの遺物が出土している。このことから小牧野遺跡の調査者は、前者は配石墓が時間の計画の中で環状に並んだ、「結果の環状列石(環状配石墓群)」、後者は円空間作りを目的とする短期間に石を並べた、「計画の環状列石」であるとしている(上野1996)。また秋元信夫も環状列石の構築期間について小牧野遺跡は組石の統一性及び土器型式から短期間を想定しているのに対し、大湯環状列石は列石を構成する組石遺構群の重複や、周囲の建物群に新旧関係が認められたことから短期間ではないが、出土遺物の単一型式から数100年は越えないと判断している(秋元1996)。

以上から大湯環状列石の万座、野中堂の両遺跡とも一基の組石遺構が基本単位であると判断し、

万座遺跡でこれが200基もあったとするならば、始めから完成（現在の状態）を目指していたというよりも、徐々に墓の数を増やしていったと考える方が自然だと思われる。組石遺構単位で考えるならば、一基当りに必要とする作業時間は全体の1/200となり、約10時間程度となる。先に述べたように、これに土壙を掘る時間を加えても、一人で数日もあればこなせる作業レベルにまで低下する。小牧野型は力学的安定のもとに全体のバランスを考慮して石が積み重ねられているが、大湯型では、組石遺構の重複が認められる箇所もあり、構造的に全体の構築プランのイメージを当初から描いていたとは考えにくい。

石の運搬のみで考えるならば環状列石の構築は多くて100人/日程度、具体的には10人で10日の規模という計算になる。このことから結論として短期的に構築されたと推定される環状列石に費やされた作業量は、一集落あるいは数人～数十人の範囲で扱える規模であると思われる。

⑤　構築期間

環状列石の規模を理解するためには、それを造るために費やされた構築期間を判断材料とすることができる。しかし、環状列石を造るのに「短期間」があるとしたらもう一方は「短期間ではない」としか説明できず、確実な構築期間としては、せいぜい数100年を越えない程度としかわからない。作業時間を推定したことにより、継続作業を行なった場合での作業時間はある程度求められたが、実際の作業密度、つまりどれだけの日数や人数をかけて造られたかを推定することは困難である。このことから絶対的にはわずか一人で1時間足らずの作業量であるオクシベツ川遺跡でも何年、何十年かけて完成させたとも考えられるし、一方総体としては石の運搬のみで250人/日かかる大湯の万座遺跡でさえ100人で連日の作業を行なえばわずか3日足らずである。注意しなければならないのは考古学での「短期間」は土器を資料として判断されていることが多く、縄文時代全般における時間幅の平均最小単位は、一般的に数百年を目安として考えられている。よって、数日または数十日レベルの作業時間の違いを現段階では推定することはできない。

だが、縄文時代の中でも土器資料が豊富な地域と時期に限定すれば、より細かな時間幅で環状列石の構築期間を捉えることができそうである。関東地方に限れば、土器編年は80段階以上の時間帯に細分されており、縄文土器の存続期間を、8000年から1万年未満とすると、仮に一段階が時間的に等間隔とすれば100年と見積もられる（小林1994）。さらに、資料が豊富な中期に範囲を狭めれば、より細かな時間幅で捉えることが可能であると予想でき、野村遺跡は縄文時代中期の環状列石であることから、この遺跡を対象として最小単位の時間幅を推定してみたい。

関東地方の縄文時代中期は土器様式によると五領ヶ台式6段階（山本1998）、狢沢式3段階（植田1988）、勝坂式6段階（安孫子1988）、加曽利E式9段階（鈴木・山本1988）に細分され、全部で24段階となる。放射性炭素年代測定では縄文中期は4800～4050y.B.Pの範囲を示し（キーリ・武藤1994）、仮に各段階の時間幅が一定とすれば、一段階は約30年となる。

野村遺跡は列石が２重に巡らされ、中心から外側へ第一列、第二列へと構成されており、構築時期はいずれも縄文時代中期末、土器区分では加曽利Ｅ３様式の終末からＥ４様式の初頭期の範囲であると考えられる。加曽利Ｅ式土器は４様式９段階のうち、Ｅ３様式は３段階、Ｅ４様式は２段階に区分されている。野村遺跡の環状列石がＥ３様式の３段階（最後の段階）からＥ４様式の１段階（始めの段階）の範囲に構築されたとすれば、時間幅は約60年となる。

結論として野村遺跡の環状列石の構築期間は土器型式からでも約60年の範囲内で捉えることができそうである。いくらかでも「短期間」の具体的なイメージがしやすくなり、少なくとも数百年という単位ではない。

⑥　単位集団

野村遺跡の環状列石の構築期間は土器区分での２段階＝約60年、あるいは約30年＝一世代を単位として集落の展開を予想できそうである。このことから確かな構築日数または構築年数を推定できなくとも、背景に考えねばならない労働力、つまり集落の構成人数から列石を造る単位集団の人数は想定できる。仮に、加曽利Ｅ３様式の最後の段階＝30年、の間に列石が構築されたとすると、同時期の住居跡は５軒から６軒確認されており、一軒に４人から５人暮らしていたとして、集落人数は20人から30人程度の範囲であったと推定できる。年寄りや子供は作業に携わらなかったとして、その半数の10人から15人ぐらいが環状列石を造る作業に関わったのではないかと、より具体的な作業人数を想定することもできる。

また推定作業時間が最大であった中栗須滝川Ⅱ遺跡においても作業日数は約94人/日＝３ヶ月程度の規模であるが、数値上からは一人で作業を行なうことも十分可能であったと考えられる。しかし、石の重さや、石を運ぶ状況、つまり「作業の質」を考えれば一人で作業を行なったとは考えにくい。野村遺跡の環状列石に使われている石で見れば、実際には一人では持ち上げることすら困難な石も幾つかあり、まして標高差が40ｍもある河原から一人で運んだとは考えにくい。現代で普通の体格の持ち主ではザックの負荷の至適量は30kgまでであり、それ以上になると平行安定機能が非常に悪くなる（勝田1972）。石の総数1573個中、一人で運ぶには体にかかる負担が大きいと思われる30kg以上の石が９個あり、そのうち50kg以上が２個、最大重量は92.6kgであった。中栗須滝川Ⅱ遺跡以外の遺跡ではいずれも50kg以上の石が用いられており、小牧野遺跡では推定重量493.4kgの巨石も計測した。これらのことから、実際にどのような方法で石を運搬したかは把握できないが、最低３～４人による共同で、作業が行なわれたことが想定できる。

結論として環状列石を構築する単位集団は集落の大きさや作業の質から考えて３．４人から10人程度の範囲内であるのではないかということが推定できる。分析した中で大きな作業時間をもつ遺跡でも１日８時間の作業を毎日行なえば、この範囲の人数で10日から１ヶ月程度の作業規模であり、標準的な集落の構成人数を20人から30人とすれば一集落でも十分構築可能な規模であっ

たと考えられる。

(4) おわりに

本稿の目標として三つの課題を考えていた。一つは環状列石を造るのに費やされた作業時間の推定であり、これは基礎資料を収集する段階での主眼であるといって良い。分析は環状列石の規格が明確な5遺跡を対象として行ない、その推定結果は1時間たらずのものから750時間まで広範囲にわたった。だが最も大きな作業時間を必要とする遺跡においても10人で10日程度の規模であるので、比較的短期間でも環状列石を造ることが可能であると想定できる。また仕事量の推定から作業時間の推定結果を裏付けるような遺跡間の関係が得られ、エネルギー量の推定からは歩行条件により単位時間あたりのエネルギー消費量や作業強度に違いがでることを想定できた。作業時間の推定には実際に野村遺跡をモデルとして石の大きさや、重さを測り、石をかついで歩いてみる実験もしてみた。その結果得られた推定作業時間を量として捉えることで、縄文時代と現代との共通項を提示することが可能となった。しかし、一方で求めた数値は色付けされておらず、我々が理解するためには資料操作が必要であり、それには主観も入りやすいという矛盾も生まれ、得られた数値の解釈が次の主要課題となる。

二つめは環状列石という構築物に投下された土木規模である。これは推定作業時間をもとに縄文時代における環状列石の土木規模の推定を行なった。規模とは「物事の大きさ」を意味するが、そのためには比較となる対象がなければならず、竪穴式住居建設との比較を行なった。竪穴式住居の作業量に関してはほとんど資料が手に入らず、比較は難しかったが、構築規模を30人/日程度と仮定し、これと環状列石構築に必要とする推定作業時間と比較してみると、中レベルであった野村遺跡とほぼ同規模の作業日数と比定でき、最も大きな中栗須滝川II遺跡は住居構築のほぼ3倍の作業量を要することがわかった。

三つめは環状列石を造り出す背景となる集団の推定である。単位集団の想定に際して一時期の集落の人数を求めておく必要があり、作業時間を推定した5遺跡の中で唯一環状列石と同時期の集落跡が確認されたこと、また土器編年の細分化が進んでいる関東地方の中期の遺跡であることから、野村遺跡をモデルとして構築集団の推定を試みた。土器の編年と放射性炭素年代測定とを対応させることにより一段階約30年を1世代、一時期と仮定し、確認された住居跡の数から集落の構成人数を20人から30人と推定した。環状列石には一人では持ち上げることすら難しい石も幾つかあったことも考慮して、作業に際し、数人から10人程度の範囲の集団的作業を想定した。

本稿では縄文時代の社会規模の想定するために、当時において大きな建造物である環状列石に焦点を当て、これに関するデータを収集し、石を運搬するのに必要とする作業量を推定した。環状列石の構築作業量にはこの他にも事前の土地整備や、構築後には環境維持を計る列石周辺の草

取り作業なども一連の作業として想定できるものであり*6)、これらも視野に入れて今後の研究課題としたい。

本稿は高沢周示が筑波大学の考古学・民俗学専攻時から野村遺跡の発掘調査に参加し、環状列石構築の作業量に着目し、分析研究を続けてきたものである。本稿は物質文化に掲載された論功を基に一部加執修正を加えたものである。（高澤・千田）

参考文献

1）体内で消費された酸素量と体外に排出された二酸化炭素量からエネルギー代謝を推測する方法。
2）生活強度II（中程度）における20～49歳の男女のエネルギー所要量を平均した（香川1997）。
3）男性で体重60kgの場合328kcal/時消費する（香川1997）。
4）物体に力Fを加えて、その力の向きへ距離Sだけ物体を移動させたとき、力は物体に仕事Wをしたという。W＝F×S。また用語の説明として質量kgの物体が地球から受ける重力の大きさ（重さ、重力）をkgfまたはkgwと表し、〔kgf〕の力で〔m〕移動させたときの仕事を〔kgf・m〕といい、仕事の単位として用いられる。
6）青森市教育委員会の児玉大成氏は小牧野環状列石周辺の草刈りの実験を行っている。

付編　野村遺跡の石器(1)

㈱アルカ

第１章　石器の時期区分

野村遺跡の時期は、縄文前期と縄文中期に大別される。発掘所見では、縄文中期の敷石柄鏡型住居の幾つかは、縄文前期の住居の窪みを再利用して構築されていることがわかっている。

当初、重複住居の石器は、前期と中期の石器が混在していると予想され、重複のない住居を中心に石器属性を記述していった。

次により詳しい発掘所見を担当者の千田氏と打ち合わせた結果、遺構の全体構造が判明したので、再度、遺構の石器を見直し、最終的には発掘所見による遺構別の時期区分を行った。

結果的には前期と中期の石器の混在は比較的少ないと結論されたが、そこに至る過程は遺構全体の理解を得てからであった。そこで、以下に遺構全体の構造の理解を述べ、次にそこから演繹した石器の時期区分について述べることにする。

発掘所見によると、中期の住居は壁が確認できなかった。特に発掘区の北側は堆積層が薄く、前期の住居と中期の住居には堆積層のレベル差がなかった。ここに該当する住居は列石２よりも北側にある住居址であり、11、12、13、14号の住居址である。この中で比較的残りの良い13号住は前期の38号住居址内の覆土に斜めにめり込むように敷石が配置され、前期の住居址の窪みをそのまま利用しただけでなく、敷石で形成された床面が非常に不安定な点が特徴である。

一方、列石２よりも南側の住居は18、21号住を除いて遺存状態が悪く、住居の壁がほとんど確認されず、敷石の残痕で住居がかろうじて確認される状態である。そして18、21、22号住居は列石２に接しており、列石が住居内に流れ込む状態を呈していた。

さらに南側の発掘では、かろうじて住居址と確認された遺構の他に、炉址（炉１から炉11）だけが残存するケースや、敷石が散乱して、おそらく住居址が存在したであろうという遺構検出状態があった。

そこで、炉址などから推定した住居を含めて遺構全体を観察すると、そこには中期加曽利Ｅ３からＥ４式土器文化のムラが環状に存在した状態となった。

さて、列石１と列石２は、柄鏡型敷石住居に接して構築されており、列石の礫が柄鏡型敷石住居に流れ込んでいる状態であった。そして柄鏡型敷石住居は壁がない状態で、一部が列石と接した状態にあった。この状態は、列石と柄鏡型敷石住居に遺構の切り合い関係が存在した蓋然性が高いことを示す。つまり、柄鏡型敷石住居址を破壊して、そこに接するように列石が構築された

とみることができる。

一方これを遺存状態の悪い住居にも演繹するならば、環状のムラの開いた部分(ムラの開口部)を閉ざすように環状列石が構築され、さらに環状列石は環状のムラの入り口にある住居（34、炉2（住居の残痕））に接するように構築されていることがわかる。

以上の点より、野村遺跡には、当初は中期のムラが環状に形成され、それと同時期に柄鏡型住居がムラの開口部よりやや北に整列して構築された状況がわかる。

そして、次には、環状のムラの住居址と柄鏡型の住居址の壁を取り去るまで破壊し、北の柄鏡型敷石住居群の外側に接するように列石１を、その南の柄鏡型住居群の外側に接するように列石２を、さらに環状のムラの最深部の開口部を閉ざすように、環状のムラの両端の住居址を結んで環状列石が構築されている状態が推定される。

発掘によって、住居からは埋めカメや伏せカメなど、祭司に関係する遺物が主に出土した点から、この野村遺跡の中期のムラの変遷は、最初に通常のムラが営まれ、次にそのムラは破壊されて列石や環状列石が構築され、埋めカメを利用した廃屋墓のムラに改造されたことを示している。

さて、特に中期の遺存状態の良い住居址には石器が多く残され、遺存状態の悪い住居にはほとんど石器が残されていなかった。また中期と重複しない前期の住居址には、少量の石器が残されていた。ここより推論すれば、前期の石器は、一軒の住居址にほとんど少量しか残されていないことが推論される。あるいは、中期のムラが形成される時点で、前期のムラが破壊され、その遺物が別地点に廃棄されたのだろうか。

よって中期と前期が重複していても、取り上げ住居の通りに時期区分をして、ほぼ間違いはないと思われる。しかし、打製石斧のような標識遺物については、若干の例外があることを付しておく。

第２章　中期の石器群

第１節　概　　要

中期の石器群の資料体は119点である。量の最も多いのが打製石斧34点である。礫石器類は石皿15点、敲石11点、石棒９点、磨石類８点、多孔石・凹石７点となり、剝片石器は石匙２点、石鏃７点、単式削器２点、石核７点が主な石器である。中期の石器群は、打製石斧と礫石器類に偏っていることがわかる。

したがって中期の住居内の石器は、熱を受けた大形の礫石器が特徴であり、その他に熱を受けていない打製石斧や剝片石器、石核などが残存しているといえる。最も残りの良いのが18号住居址の石器であり、36点図化してある。この組成が加曽利Ｅ３からＥ４にかけての標準セットであ

ろう。その他の住居は、熱を受け、破壊された大形の礫石器類と断片的な剝片石器組成である。

また、前期の住居址を破壊・再利用した中期の住居址出土の石器には、前期の石器も含まれる場合がある。例えば13号住居は前期の38号住居と重複しており、13号住居からは前期に比定される石匙などが出土している。しかし、発掘所見を重要視するため、熱を受けた大形礫石器や土擦痕の顕著な打製石斧などの例外はあるものの、極力取り上げた住居の石器を同じ図版に組んだ。

第2節　10号住居（住居の残痕）（第409図）

石器は3点図化した。前期関山期の56号住と一部接する状況にある。大形の使用痕剝片（1）は縦折れを生じた大形剝片である。強い力と硬質ハンマーで剝離されており、この剝離技術は関東甲信の縄文中期に標準的である。被熱資料。打製石斧の断片と破壊された石皿も出土している。

第3節　11号住居（敷石住居）（第411・412図）

11号住居は前期の住居址と重なりのない住居で、その出土石器は中期の石器として一括性を保つと推定される。石器は全点図化した。ここには小形の剝片を製作する石核や鉄石英の二次加工剝片、石錐（4）、石匙断片（2）などの剝片石器類と、打製石斧の側辺を形成する敲石（5）やその他の石器を製作する敲石（7、8）がある。また中期後半独特の分銅形打製石斧（6）の胴部が出土している。さらに大形で壊れた石棒、多孔石、石皿が出土している。大形石器はすべて被熱資料である。

第4節　12号住居（敷石住居）（第410図）

磨製石斧2点と凹石が1点出土している。

第5節　13号住居（敷石住居）（第413・414図）

この住居は前期関山期の38号住居址の窪みを利用して作られた住居であるが、非常に良好な遺存状態である。よってこの住居址に帰属するとされた遺物は一括性が高いと判断して図版を組んだ。さらに、摩耗礫や打製石斧が熱を受けているため、38号住居で取り上げられても被熱資料は13号住居に帰属する遺物として図版に掲載した。

出土石器は、縦形の石匙、器種不明の半両面加工石器（2被熱資料）、器種不明の両面加工石器（4）、小形の剝片石器素材を作る石核（3）、黒曜石の原石（被熱資料）、打製石斧6点、打製石斧未製品（14）、礫石器3点で構成される。

第6節　14号住居（敷石住居の残痕）（第415図）

この住居は破壊されており、一部38号住居と重複している。この住居から出土した石器は6点で、石鏃と打製石斧、大形の剝片、礫石器3点である。礫石器はいずれも熱を受けている。

第7節　15号住居（住居の残痕）（第416図）

住居の残痕である。前期関山期の15号住と一部重複する。打製石斧と礫石器類、石棒などが出土した。これらはすべて被熱資料である。

第8節　18号住居（敷石住居）（第417・418・419図）

住居の入り口の部分が前期関山期の39号住居と重複しているが、良好な遺存状態の敷石住居である。35点の石器を図化した。石鏃・石錐・大形剝片の単式削器（5）の刃器類と打製石斧、石皿、敲石、多孔石などがある。おそらくこの住居の石器組成が野村遺跡の中期の石器のセットを示していると推定できる。

第9節　19号住居（住居の残痕）（第420図）

住居の残痕であり、ほとんど遺構の形状をとどめていない。出土石器は打製石斧2点である。

第10節　21号住居（敷石住居）（第421図）

石器は8点図化した。図化した石器は打製石斧3点、礫石器5点である。礫石器はすべて熱を受けている。この他に凝灰岩の分割礫や剝片などが10点出土している。

第11節　22号住居（住居の残痕）（第422図）

前期の40号住居と重複している。22号住居出土の石器はいずれも熱を受けた石棒3点である。40号住居出土の石器の中で、土擦痕の残る明らかに中期の打製石斧断片（1）、被熱資料の石棒断片（2）、そして熱を受けた有溝砥石をこの住居の帰属として図版を組んだ。

第12節　炉8・炉9（住居の残痕）（第423図）

9点図化した。石鏃2点、削器1点が小形剝片石器。残りは打製石斧3点、石核2点、石皿1点である。石皿は被熱資料。

第13節　28・34号住居・炉４・炉７（住居の残痕）（第424・425・426図）

中期の大形環状列石に接し、破壊された住居の残痕から出土した石器である。28号住居の石鏃は埋カメ出土。大形礫石器はすべて熱を受けている。

第３章　関山期の石器群

第１節　概　　要

関山期の石器群は183点の資料体となった。このうち、量の多い順に、石匙35点、石鏃27点、単式削器24点、篦状石器14点、石錐10点である。打製石斧は24点出土しているが、６号住居の11点、35号住居の８点がほとんどを占めており、特定の住居に集中する傾向がある。また打製石斧は断片がほとんどである。そして６号住居と35号住居は中期のムラの南北の外縁に位置する特殊な位置である。これらのことから、関山期の住居にある打製石斧は、中期の打製石斧が集中的に廃棄されたものと解釈したい。

従って関山期の石器群の剝片石器の組成は、打製石斧をともなわない石器群であろう。

第２節　１号住居（第371図）

８点の石器を図化した。

第３節　４号住居（第372図）

４号住居は一部炉11（住居の残痕）にかかるが、出土した遺物はすべて４号住居から取り上げられている。石器は６点図化した。石錐、石匙、鋸歯縁の単式削器、二次加工剝片（おそらく石器の未製品）、小形剝片石器の石核、土擦痕のある打製石斧断片である。

第４節　５号住居（第373・374図）

５号住居は中期の住居との重複はない。石器は11点図化した。緩い抉りの縦形石匙は押圧剝離で刃部を形成している。横形石匙は明瞭な摘みを作り出し、刃部は素材辺である。削器は黒曜石製の内湾削器、間接打撃で刃部を形成した単式鋸歯縁削器、使用痕剝片などである。石鏃を除いた良好な剝片石器組成である。

第５節　６号住居（第375・376・377図）

６号住居は中期の住居との重複はない。関山期の住居で最も大きな住居である。石器は28点図

化した。石鏃、石錐、縦形石匙、横形石匙、単式削器、素刃削器、使用痕剝片、小形剝片石核、打製石斧の組成である。打製石斧は11点出土しており、すべて破損して、土擦れ痕の激しいものが6点ある。他の剝片石器は完成品や未製品などであり、打製石斧は消費し尽くされた様相をもつ。

第6節　9号住居（第378・379図）

9号住居は中期の住居との重複はない。未製品を1点含む石鏃8点、石錐2点、縦形石匙1点、横形石匙3点、複式削器、二次加工剝片2点(石器未製品の可能性あり)、打製石斧断片1点である。打製石斧を除いて、関山期の良好な資料である。

第7節　35号住居（第380・381・382・383図）

35号住居は列石1のすぐ北側に位置し、中期の住居との重複はない。石器組成は、石鏃7点、石錐3点、縦形石匙3点、単式削器、削器3点、素刃削器、使用痕剝片、篦状石器3点、黒曜石原石、磨製石斧、断片を含む打製石斧8点である。打製石斧を除いて、関山期の良好な資料であり、6号住居や9号住居と共通する石器組成をもつ。

第8節　36号住居（第384図）

列石1の北側に位置している。石器組成は、石鏃2点、縦形石匙3点、横形石匙、削器、篦状石器である。削器は篦状石器の可能性があるが、側辺の加工が部分的にとどまるため、削器とした。この住居に打製石斧断片を含むが出土しない点が重要であり、打製石斧は中期の所産である点の傍証であろう。

第9節　38号住居（第385図）

38号住居は中期の13号敷石住居と重複している。38号住居の石器として出土したのは3点で、凝灰岩製の横形石匙と珪質頁岩製の縦形石匙、黒曜石製の篦状石器未製品の3点である。

第10節　39号住居（第386図）

39号住居は18号の柄鏡型敷石住居の柄鏡部分と重なっている。39号住として取り上げられた遺物は2点で、石鏃と石錐である。

第11節　40号住居（第387図）

中期の22号住居が上層に覆っている。この住居のプランは不整な長方形であり、明らかに中期

22号住居の構築時に破壊されたことがわかる。40号住居出土の石器で、明らかに中期に帰属する3点を22号住居の図版に組み入れた。残りの石器は5点である。篦状石器の断片(4)、単式削器2点(1、5)、使用痕剝片(2)、剝片(3)の構成である。単式削器のうち(5)は大形の剝片を素材にしている。資料体としては良好ではない。

第12節　42号住居(第388図)

列石2の下層に位置し、中期の15号住と一部重複する。石器は8点図化した。石鏃、石匙、単式削器(3)は押圧剝離で整形・刃部加工がなされている。篦状石器はバルブの発達しない矩形の剝片の打面部分を加工し、素材の側辺に小さな押圧剝離で刃部を形成している。この押圧剝離は刃部形状を直刃に整形する臨機的加工で、加工そのものが刃部を形成する主体ではないと推定される。素刃削器は中形の剝片の両側辺を折取って形態を形成している。刃部は素材の鋭い真っ直ぐな辺である。急角度の刃部をもつ掻器(5)は素材を大きく折り取ったあとに間接打撃で刃部を形成している。

大形の二次加工剝片(8)は篦状石器の未製品の可能性がある。敲打痕のある石器(7)は素材を剝離されている。それは別の石器に作り替える形態形成なのか、敲石そのものの形態を形成する剝離であるのかは、判断ができなかった。

第13節　43号住居(第389図)

列石2の南に位置し、中期17号住居と一部重複している。石器は4点図化し、石匙断片2点、石核と分割礫である。中期の17号住居から取り上げられた石器はないので、この住居に混在している可能性がある。良好な資料体ではない。

第14節　45号住居(第390・391図)

45号住居は中期28号住と炉10(住居の残痕)の間に位置し、中期の住居との重複はない。石器は7点図化した。単式削器1点、削器の素材剝片(2、3)2点、篦状石器(5、6)2点、両面加工石器(4篦状石器未製品か)、敲石(7)である。削器の素材剝片(2、3)は側辺が鋭く、そのまま刃器として使用された可能性もある。篦状石器は片刃で側辺が成形加工されて、形態形成が行われている。2点の中形削器の刃部は同じである。大形石器に凝灰岩の円礫石器組成は部分的ではあるが、残された器種では良好な資料体であろう。

第15節　46号住居(第392図)

中期の住居との重複はない。石鏃2点、単式削器、磨製石斧断片が出土している。磨製石斧は

おそらくこの時期の所産であろうが、数量が僅少であることがわかる。

第16節　47号住居（第393図）

47号住居は中期の住居との重複はない。石器は11点図化した。石鏃、石匙は丁寧な押圧剝離で製作されている。押圧剝離は石鏃や石錐と同じである。削器は、押圧剝離（４）と間接打撃（７）で鋸歯縁の刃部が形成されている。素刃削器（９）は大形の剝片を素材にして、部分的で簡単な加工（HD）で形態を形成している。この石器の刃部にも加工（S'P）はあるが、それは刃部を直刃にするための臨機的加工であり、加工そのものが刃部形成をする刃部の主属性ではない。篦状石器は２点出土している。そのうち（８）は未製品である。加工が貝殻状の剝離面で覆われ、篦状石器の形態形成の加工がよくわかる。(11)は二次加工剝片であり、刃部が形成されていないので石器の未製品の可能性が高い。素材の鋭い末端辺が直接打撃の刃潰し加工となっている。篦状石器の未完成品の可能性がある。

第17節　50号住居（第394図）

中期の炉４（住居の残痕）と完全に重なっている。中期の石器として石棒１点を図版に組んだが、この４点も中期の石器が混在している可能性がある。資料体として良好ではない。石匙は凝灰岩製で素材剝片の裏面に石器のフェイスを形成している。石鏃は珪岩製の未製品。剝片は２点ともに側辺が鋭く、刃器としてそのまま使用された可能性もある。

第18節　52号住居（第395図）

明確な中期の住居とは重なっていないが、埋甕（Ｕ５）と重なっており、かつて中期の住居がこの住居の真上に構築されていた可能性が高い。良好な資料体とはいえない。

石器は８点図化した。石鏃は黒曜石製。削器類は押圧剝離で刃部を形成した３点（２、３、５）である。単式削器（５）と複式削器（２、３）があるが、両者はおそらく同じ石器で、刃部の付け方は程度差であろう。珪質頁岩の小形剝片を剝離する石核（４）は、小形で厚みのある貝殻状の剝片を剝離している。35号住居には珪質頁岩製の石錐があるので、おそらく石錐の素材剝片を剝離している石核であろう。なお野村遺跡では、珪質頁岩で製作されている石器は、石匙と石錐に限定され、石鏃は製作されていない。

大形の白色凝灰岩製の単式鋸歯縁削器（６）と打製石斧（８）及び打製石斧未製品（７）も出土している。打製石斧は刃部が急角度に成形され、おそらく折れた刃部の再生途上で放棄されたのであろう。

第19節　56号住居（第396図）

中期の炉12（住居の残跡）と炉５（住居の残痕）・10号住居と一部接する状況に位置する。打製石斧が混在せず、資料数が少ないものの、良好な資料体であろう。珪岩製の石鏃（１）、黒曜石製の石錐（２）、横形石匙３点、素刃削器（８）、剝片２点が出土している。石匙は間接打撃で鋸歯縁をつくるもの（３、４）、素材の鋭い辺を利用したもの（６）がある。素刃削器は打面を折り取り、形態形成を行っている。大形の剝片２点は鋭い縁辺をもち、刃器として用いられた可能性がある。

第20節　８号・41号・48号・54号住居（第397・398・399・400図）

石器がごくわずかの住居の資料をまとめて以下に記述する。

８号住と48号住は、関山期の環状集落の外縁を構成する住居址であり、ともに中期の住居との重複関係はみられない。48号住と９号住は隣り合わせの位置にある。

８号住の石器は凝灰岩製で器種不明である。抉りをいれた側辺はハードハンマーの直接打撃で叩きつぶされている。

48号住の石器は単式削器と頁岩製の削器である。平面形態と側辺の加工の種類は篦状石器と同じであるが、刃先が急角度剝離となっているので、削器とした。

41号住と54号住は列石２の下層から検出された住居である。41号住は中期21号住とも一部で重なっている。41号住と54号住からは、遺物が各１点しか検出されず、おそらく中期の時期に住居が破壊されて、遺物も残らなかったと推定される。

41号住は珪岩製の面的押圧剝離で加工された石匙である。他の関山期の住居からは、このような加工の石匙は出土していない。54号住は黒曜石の石鏃である。

第４章　諸磯期の石器群

第１節　概　　要

諸磯期の資料体は44点である。打製石斧７点、篦状石器７点、石匙６点、石鏃６点、磨製石斧２点、単式削器４点、石錐３点が主要な器種である。比較的バランスのとれた剝片石器群であることがわかる。

第２節　２号住居（第401・402図）

野村遺跡の最南端に構築された住居である。他の遺構との重複関係はみられない。13点図化し

た。諸磯期の良好な資料体である。

石鏃、石匙、削器類、篦状石器、磨製石斧、打製石斧、石核、白色玉髄の剝片が出土している。打製石斧（9、10）は篦状石器と同じ剝離技術で側辺が形成された両刃の石器であり、土擦痕が観察されない。打製石斧の未製品（11）は被熱資料である。この住居の打製石斧は屈曲した胴部をもち、使用による大きな剝離痕がみられるので、土掘り具でない可能性が高い。磨製石斧は敲打整形がなく、研磨だけで形態形成を行っている。

第3節　3号住居（第403図）

2号住居の北隣にある住居址で、中期の住居址との重複はない。石器は5点図化した。石錐、尖頭形の単式削器、直刃の単式削器、篦状石器、打製石斧である。打製石斧は被熱資料で土擦れ痕が顕著である。

第4節　7号住居（第404・405図）

3号住居の北東にあり、中期の住居址との重複関係はないが、住居の半分は検出されていない。おそらく中期のムラの構築時に削片されたと思われる。

石器は石鏃3点、石錐1点、横形石匙4点、篦状石器4点、打製石斧3点である。この住居は横形石匙が卓越し、しかも大形の横形石匙である。さらに土擦れ痕が顕著で、側辺の稜線を直線上に形成するハードハンマーの直接打撃で加工がなされている。中期的様相の混在した石器群である。

第5節　30号住居（第406・407図）

30号住居は発掘区の最東端にあり、いずれの時期の住居とも重複していない小さな住居である。良好な資料体であると思われる。

出土石器は、石鏃、石錐、横形石匙、間接打撃の削器、押圧剝離の単式削器、篦状石器、二次加工剝片（石器未製品と推定される）2点、小形剝片石核2点である。

第6節　55号住居（第408図）

諸磯期の中でも北側に位置する住居である。関山期の35号住と重なっており、35号住が55号住を切っているようにみえる。この区域は包含層が最も薄く、おそらく中期の土木工事によって大規模に削平されている地点である。この住居は関山期35号住の上に重複して構築された結果、中期の作業によって作経にされたと推定される。出土石器は黒曜石製の石器1点である。

第５章　時期不明の住居と遺構外出土の石器（第427・428・429・430・431図）

時期の相違する住居が重なり合い、いずれの時期か判明しない住居がある。37号住は中期と諸磯期が重なりあい、石器の帰属時期が不明である。尖基の石鏃と抉入りの打製石斧が出土しているが、中期後半から後期にかけての石器と理解したい。44号住は諸磯期と関山期の住居が半分ずつ残ってしまっている。互いの住居址の深い部分だけが残り、切り合い関係が判明しなかった住居である。石器は剝片と敲石である。なお、敲石は次に述べる51号住のものと同じである。

51号住は諸磯期と関山期が切りあい、44号住と同じ状況である。石器は横形石匙２点、大形の二次加工剝片、敲打整形の磨製石斧、打製石斧である。打製石斧は断片であるが、土擦れ痕が片面の胴部半ばにまで発達している。この石器組成からは諸磯期の所産であることを推定させる。なお、遺構外の石器については、時期推定のできるものがあるが、慎重を期して時期不明とした。

第６章　野村遺跡の石器の分類と所見

第１節　打製石斧と篦状石器

打製石斧は短冊形で土擦痕のある形態が目立つ。関山期の住居から出土した打製石斧は、ほぼ中期の所産とみることができることは関山期の石器群の概要で既に述べた。

これらの打製石斧は、主に短冊形の形態で、土擦れ痕が顕著な土掘り具である。側辺の加工は強いHD(ハードハンマーの直接打撃)である。

一方、諸磯期の住居からも土掘り具の打製石斧は出土しているが、それらの側辺の加工は貝殻状の剝離痕をもつやや急角度の剝離面で、側辺が大きく波打つ。これは前期の加工技術と中期の加工技術が異なることを示しており、既に大工原（1998『中野谷松原遺跡』）で指摘されている通りである。

一方、篦状石器は諸磯期の打製石斧の側辺形成加工と同じ加工で形態形成されるが、打製石斧と異なり、片刃の削器類である。打製石斧は土掘り具と伐採具の両方が使用痕によって確認されており（池谷勝典2001「打製石斧研究の着眼点」『佐久考古通信』No82佐久考古学会)、池谷の研究に従えば打製石斧は対象物に直接当てる鈍器という定義がなされよう。

簡単にまとめるならば、打製石斧は両刃の鈍器がその定義であり、篦状石器は片刃の削器類の一種である。篦状石器が諸磯期に打製石斧と同じ加工で形態形成がなされるのは、諸磯期の石器製作の歴史的個性といえるだろう。関山期には篦状石器があり、打製石斧がないのであるから、諸磯期というのは関山期から中期へかけての石器文化であるといえる。

第2節　削　　器

削器は、鋭い刃部を加工によって形成する石器である。原則として片面加工で、規則的な形態を加工によって形成する削器類と、刃部だけを加工する削器類がある。これらを形態で分類するならば、野村遺跡においては、前者の代表が篦状石器である。刃部だけを形成する削器には、一辺だけを刃部にする単式削器と、交わらない二つの辺を刃部にする複式削器、交わる辺で尖頭部を形成する尖頭削器がある。

また刃部形態で分類するならば、直刃・凸刃・鋸歯縁となる。篦状石器は急角度の直刃の石器、単式削器は急角度の直刃と鋸歯縁の石器、尖頭削器は凸刃の石器である。

第3節　素刃削器と使用痕剝片

素刃削器と使用痕剝片は、素材の鋭い辺を刃部とする石器である。素刃削器は刃部以外の辺に形態形成の加工を施し、使用痕剝片は剝がされた剝片をそのまま用いている。

素刃削器の形態形成加工は、素材の打面や分厚い辺を叩き折る「折取」や直接打撃、押圧剝離などがみられ、形態と加工に非常に緩やかな相関を持つ点がその特徴である。素刃削器は使用痕剝片のなかで、形態の不揃いな剝片を臨機的加工で形態形成を行った石器であり、野村遺跡では「使用痕剝片」の範疇に分類される。

第7章　属性表の凡例

属性表は主に石器の出土位置と技術・加工の種類・石材を記載した。以下に説明を行う。

剝離技術

剝離技術は、加工をする人間の右手の技術と左手の技術に分けると理解しやすい。右手の技術はハンマーの種類とその身振りであり、左手の技術は素材を傾けることで、ハンマーの当たる箇所をコントロールする技術である。

ハンマーの種類は、石材と相対的で、石材に対して変形度の少ないハンマーをハードハンマー、石材よりもより変形しやすいハンマーをソフトハンマーと定義する。

ハードハンマーの特徴はコーンとバルブが明瞭に表れること、稜線が切り立つことで理解できる。

身振りは、直接打撃(D)、間接打撃(I)、押圧剝離(P)の3種類が基本的である。

以上を組み合わせると、6種類の右手の技術が記述できることがわかる。

さて、野村遺跡では、ハードハンマーとソフトハンマーの中間的様相をもつ剝離技術が多くみられた。中間的様相とは、コーンが明瞭だが、稜線が平滑な剝離面様相のことである。こうした

ハンマーは比較的良くみられ、おそらく変形度が少ないが、ハンマーそのものが鞭のようにしなる属性をもつと推定される（角張淳一2002「石器研究の展望」『利根川』23利根川同人）。

そこで、野村遺跡にみられるソフトハンマーを、通常のソフトハンマーとは異なるとして「S'」と記述した。

次に左手の技術であるが、これは剝離面様相を記述するのに用いる。剝離面様相は、剝離角が120度前後の「通常の剝離」、剝離角90度から110度前後の「急角度剝離」、剝離角130度を超える「平坦剝離」、鋭い縁辺を潰す「刃潰し」、急角度が連続する「鋸歯縁」などがある。スラッシュ（ / ）を用いて、右手の技術の後ろに上記の表記を記述する。

表記の中で通常の剝離は一般的なので特に記載しない。野村遺跡の属性表の中でスラッシュのついていない技術は、すべて通常の剝離である。

加工の種類

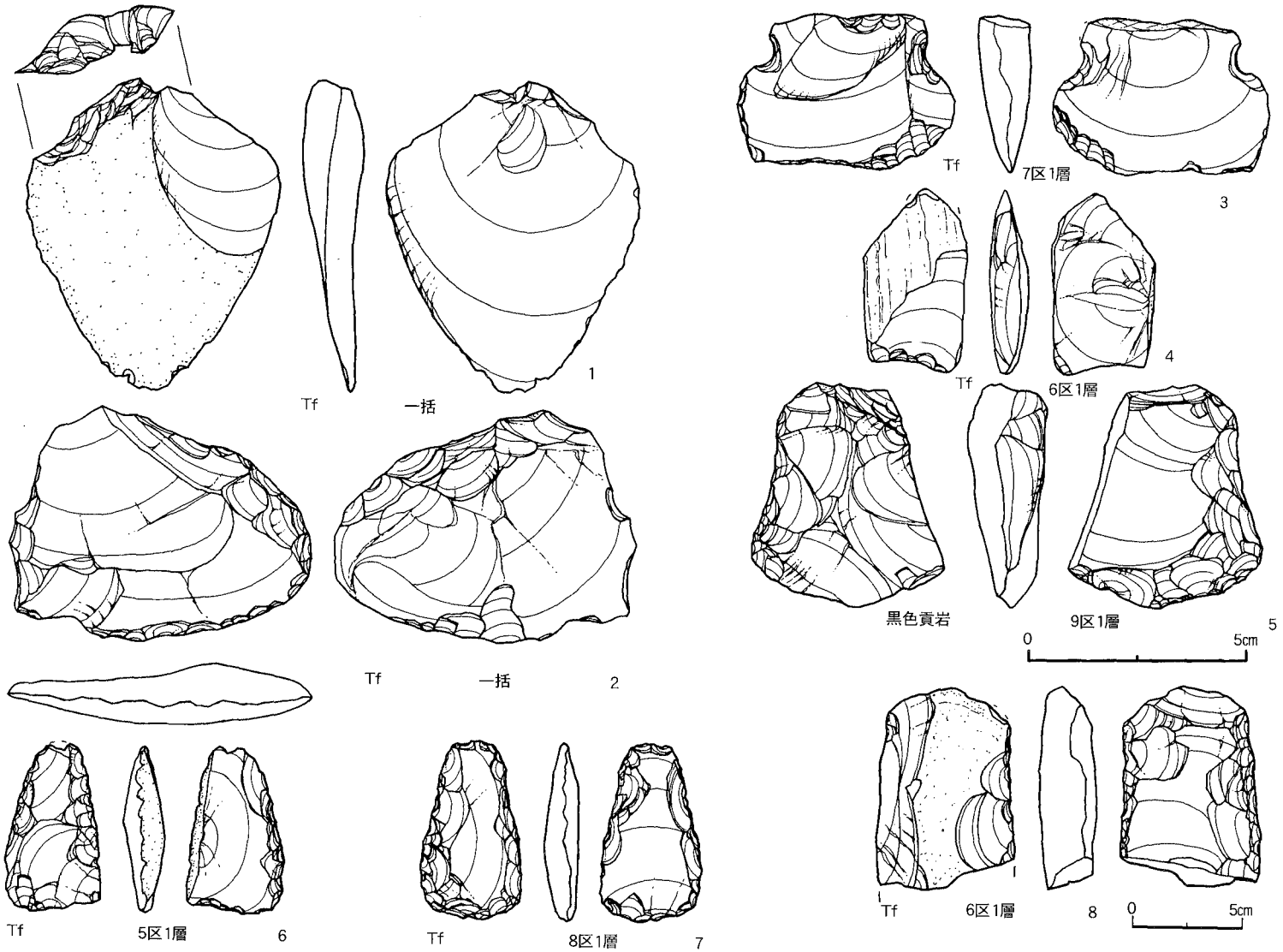
加工の種類は、刃部属性、整形加工、成形加工の3種類にわけて記述した。石器には鋭い刃先をもつ石器と持たない石器がある。また加工によって刃部を形成する石器と素材の鋭い辺を刃部にする石器もある。このような変異があるので、刃部については、刃部の有無、素材の辺の利用、加工によって形成された刃部などを記述した。

整形加工は、素材の縁辺だけを加工して、大きく素材の形態を変形させない加工である。成形加工は厚みのある剝片を剝離して、素材の形態を変形させる加工である。整形加工と成形加工の区別のない石器もあるが、その場合は整形加工と成形加工の表記を同じ記述にした。

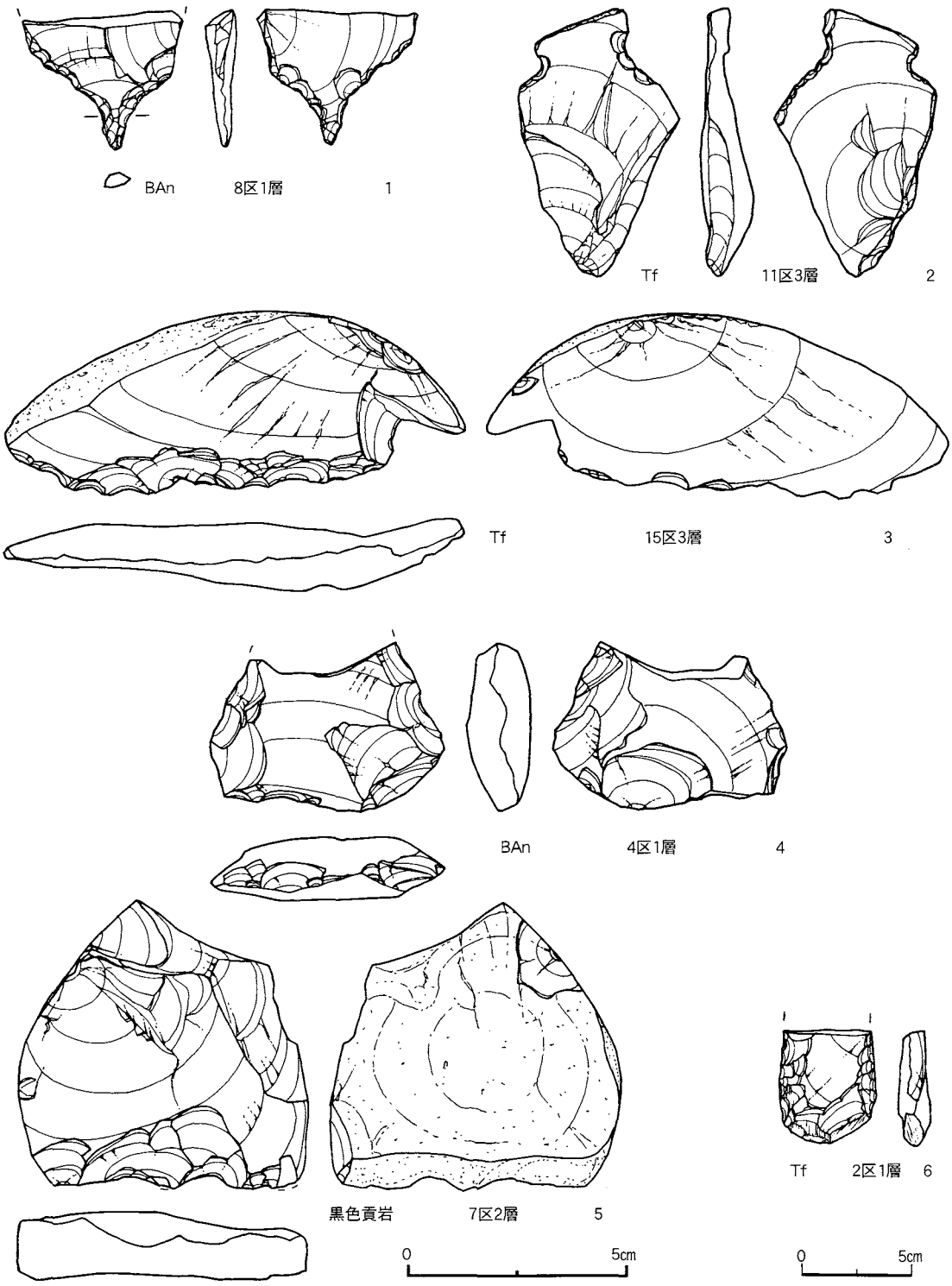
（角張・伊藤・千田）

参考文献

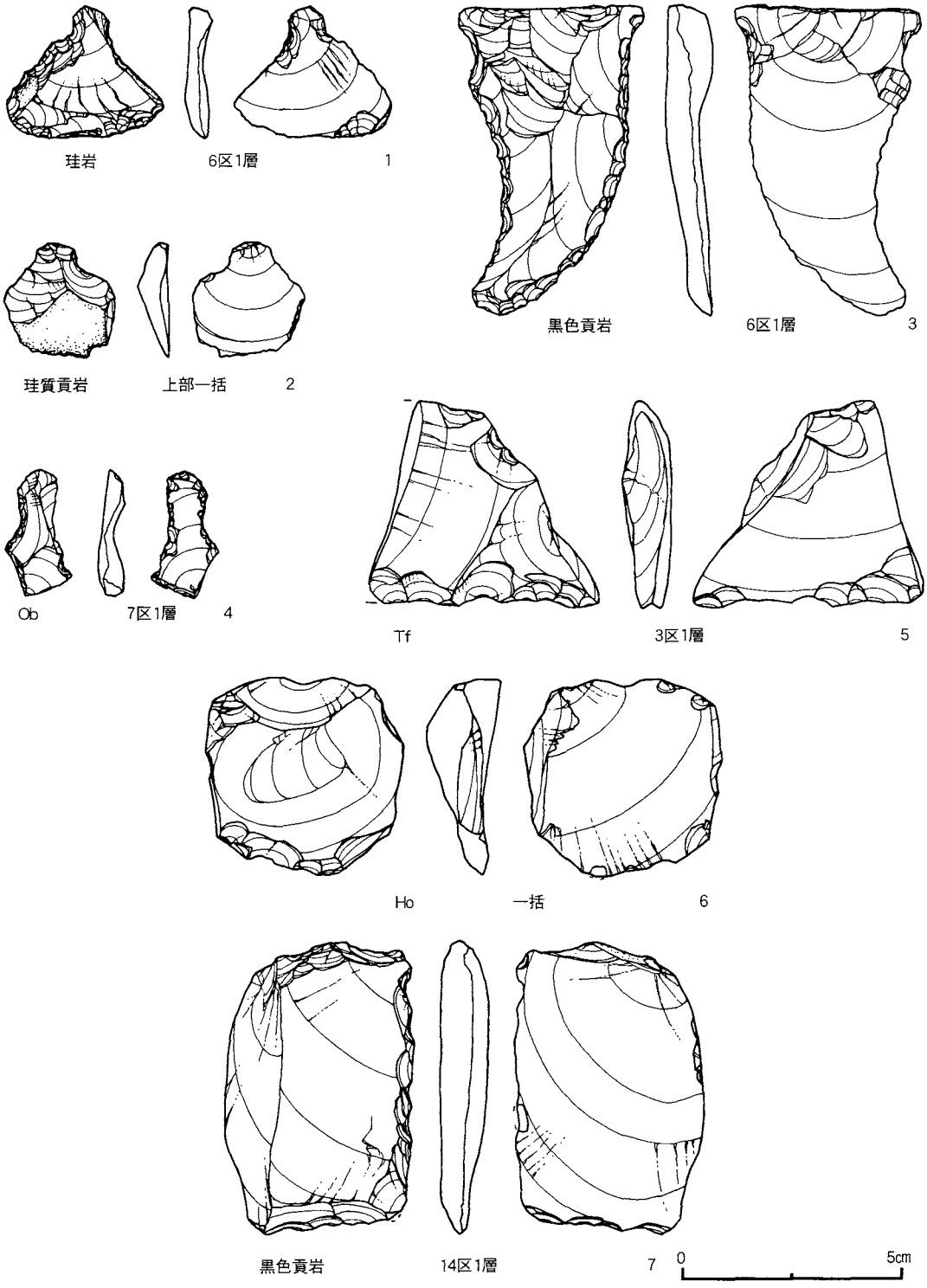
池谷勝典　「打製石斧研究の着眼点」『佐久考古通信』№82　佐久考古学会　2001
角張淳一　「石器研究の展望」『利根川』23　利根川同人　2002
大工原豊　『中野谷松原遺跡』　安中市教育委員会　1998
竹岡俊樹　『石器研究法』　言叢社　東京　1989



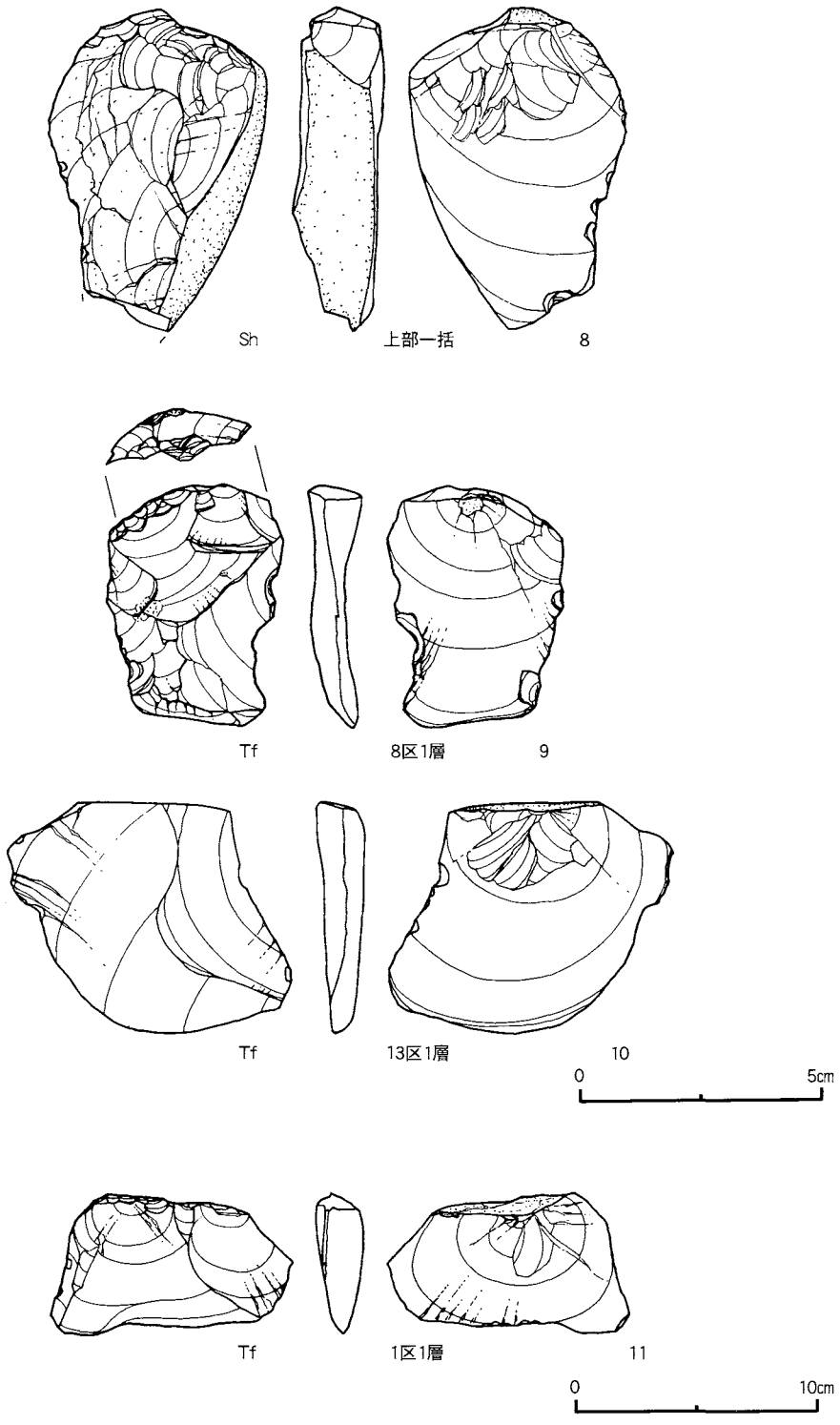
第371図　J－1号住石器実測図



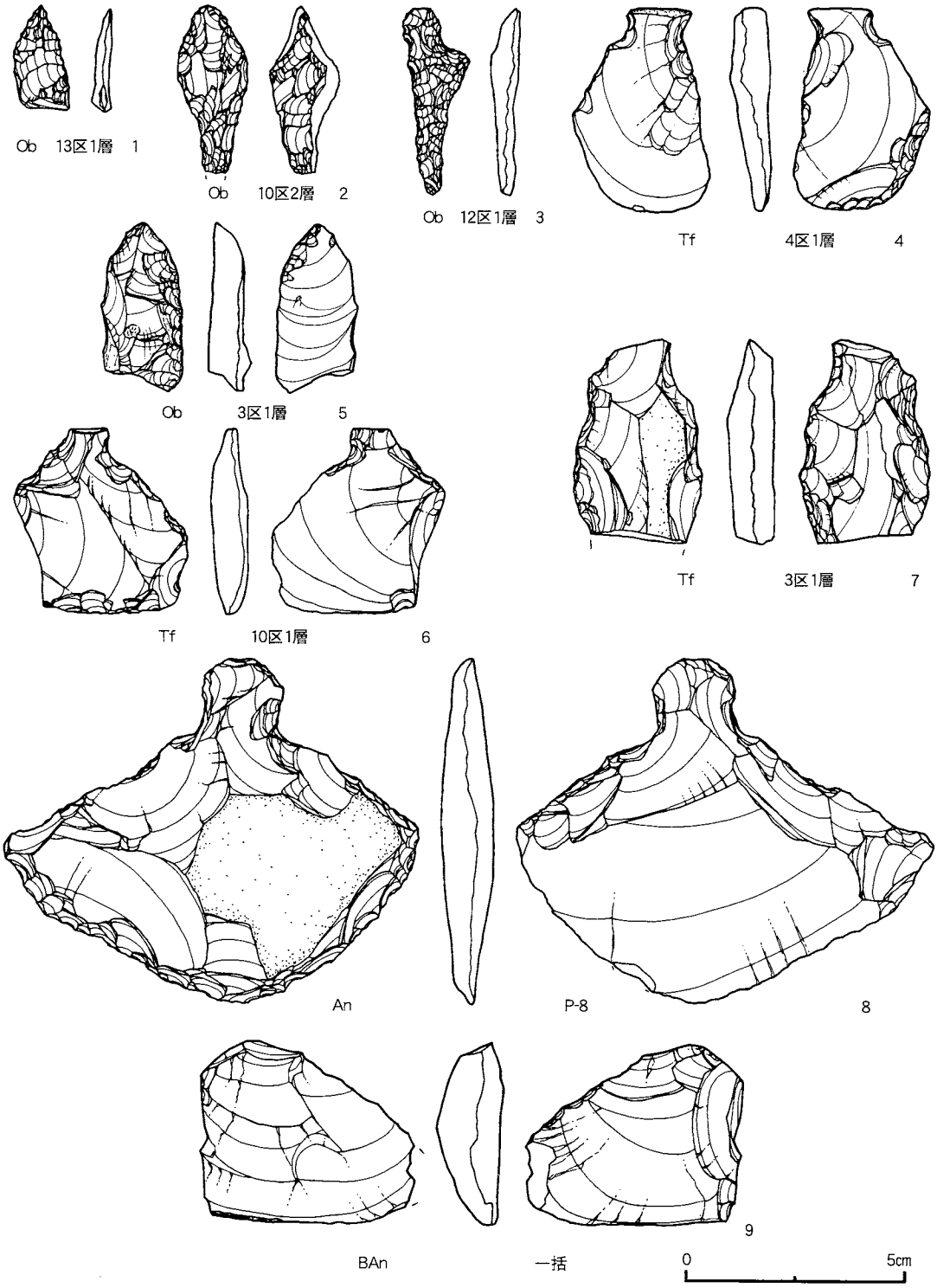
第372図　J－4号住石器実測図



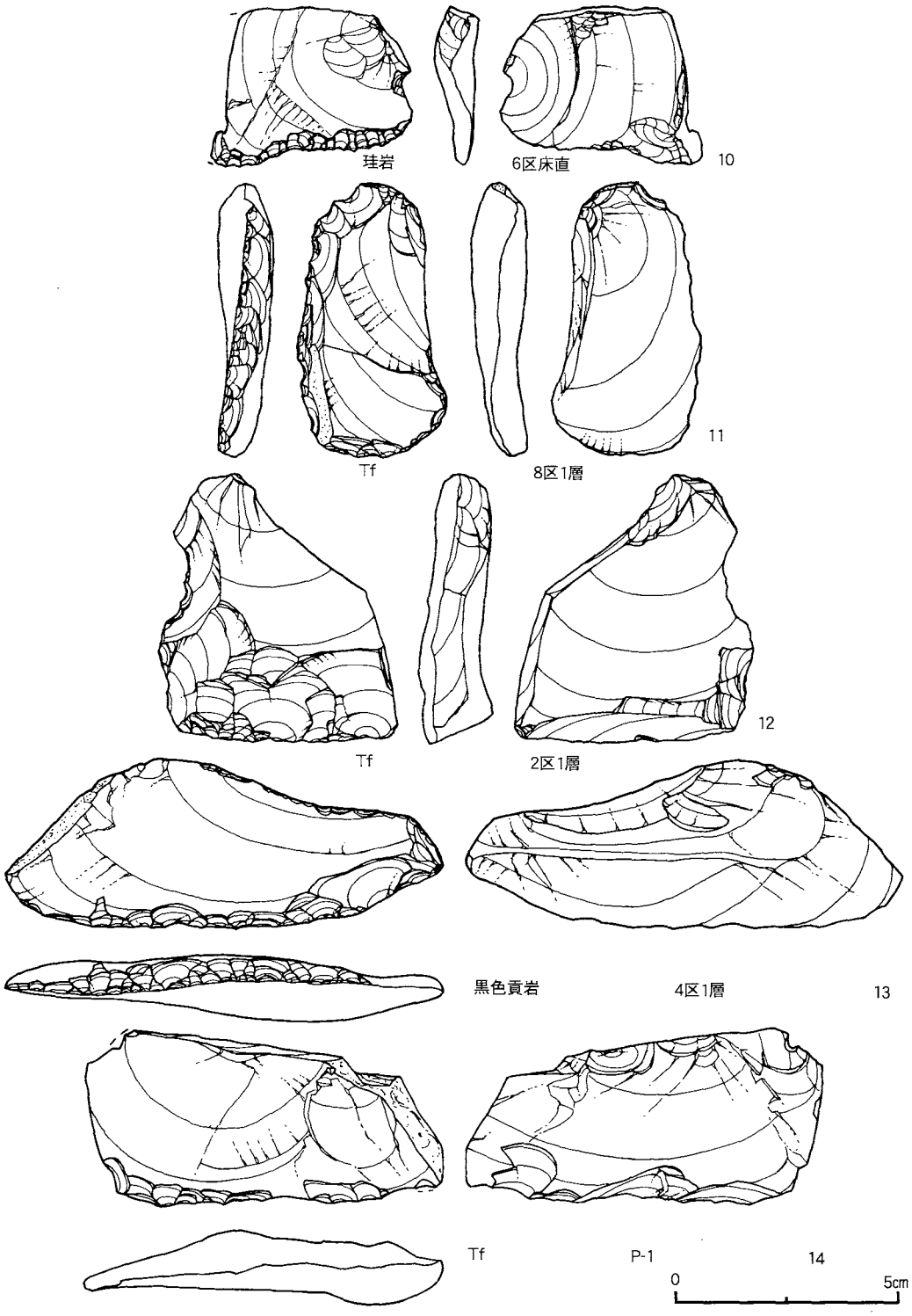
第373図　J－5号住石器実測図(1)



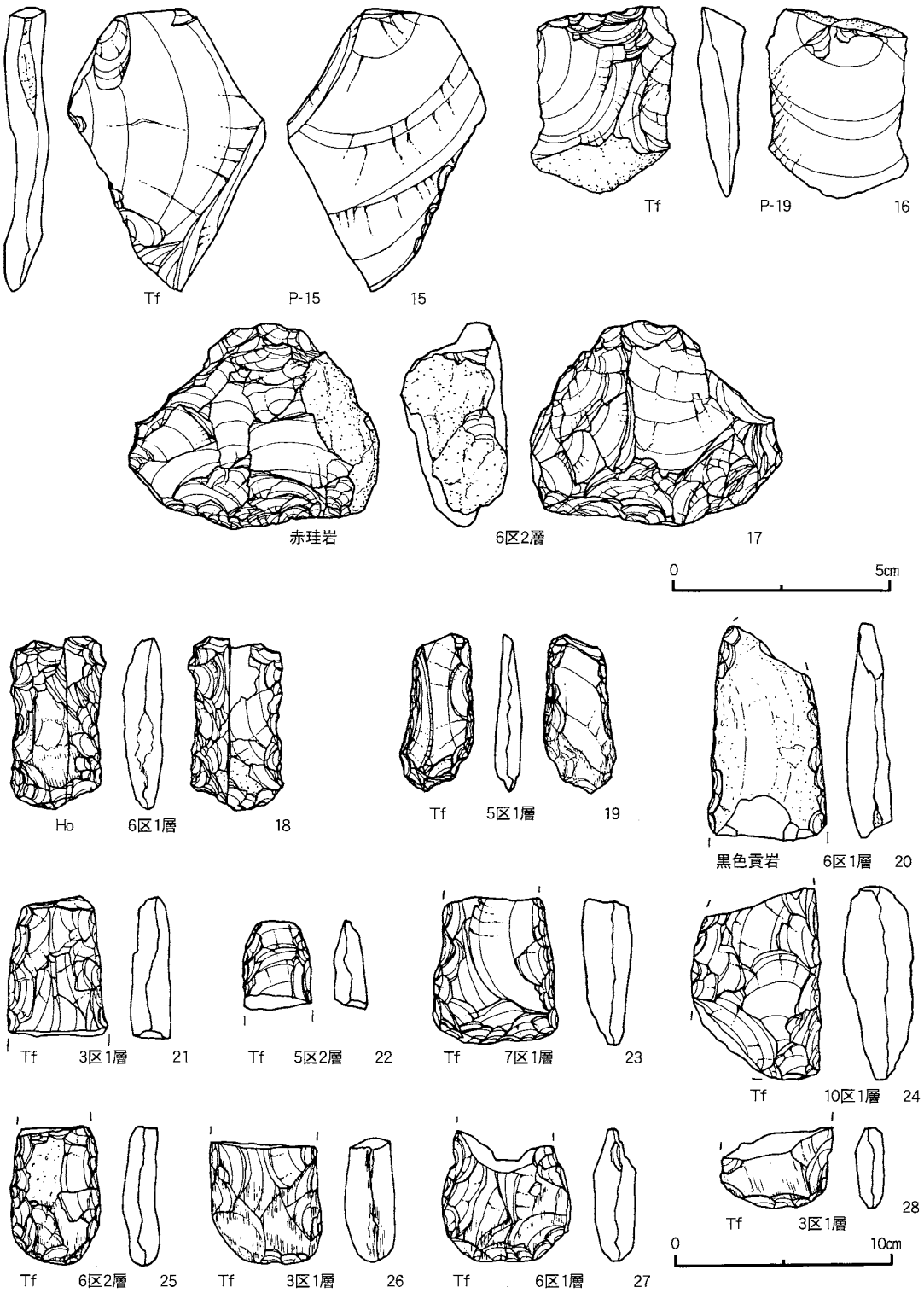
第374図　J－5号住石器実測図(2)



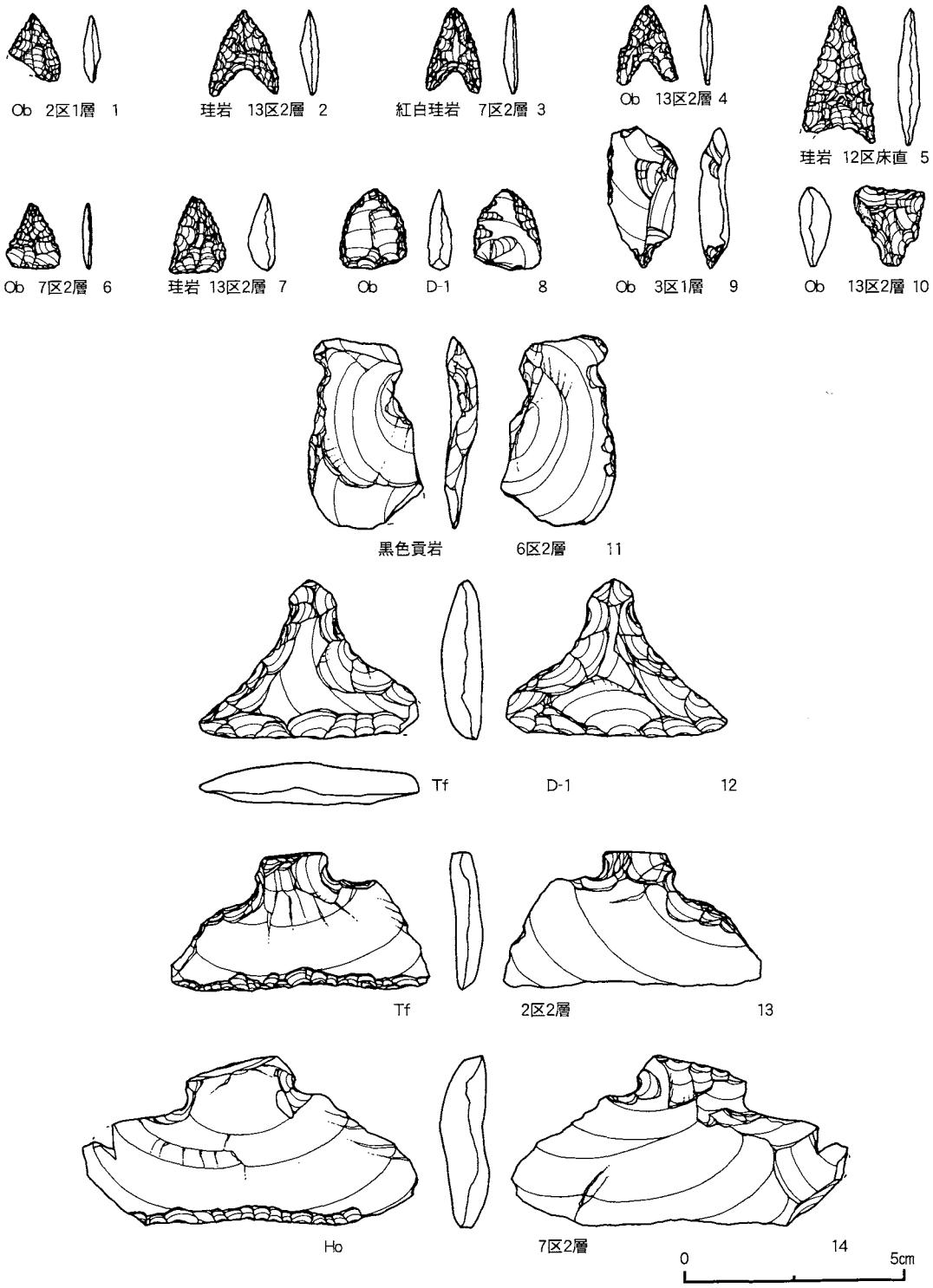
第375図　J－6号住石器実測図(1)



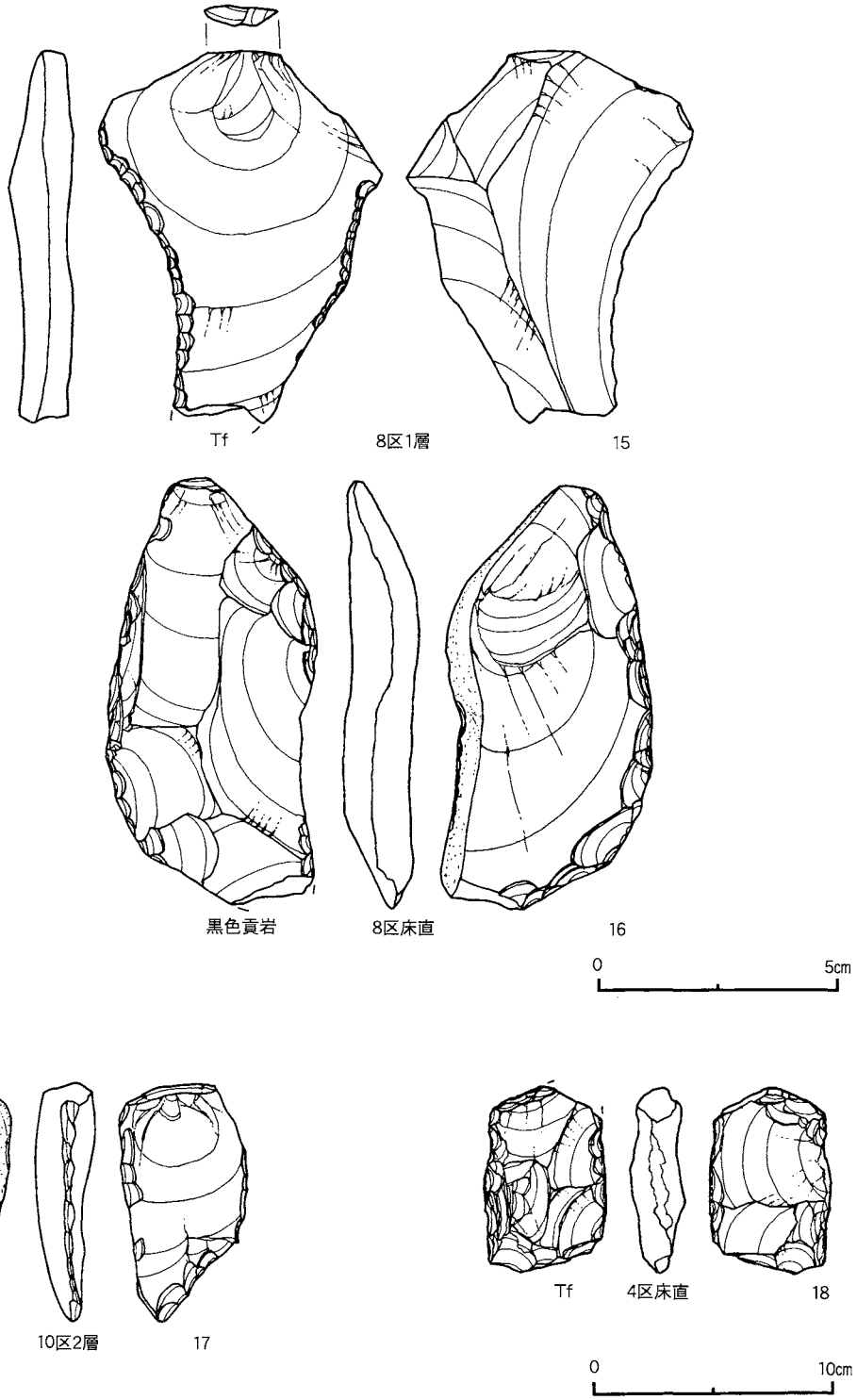
第376図　J－6号住石器実測図(2)



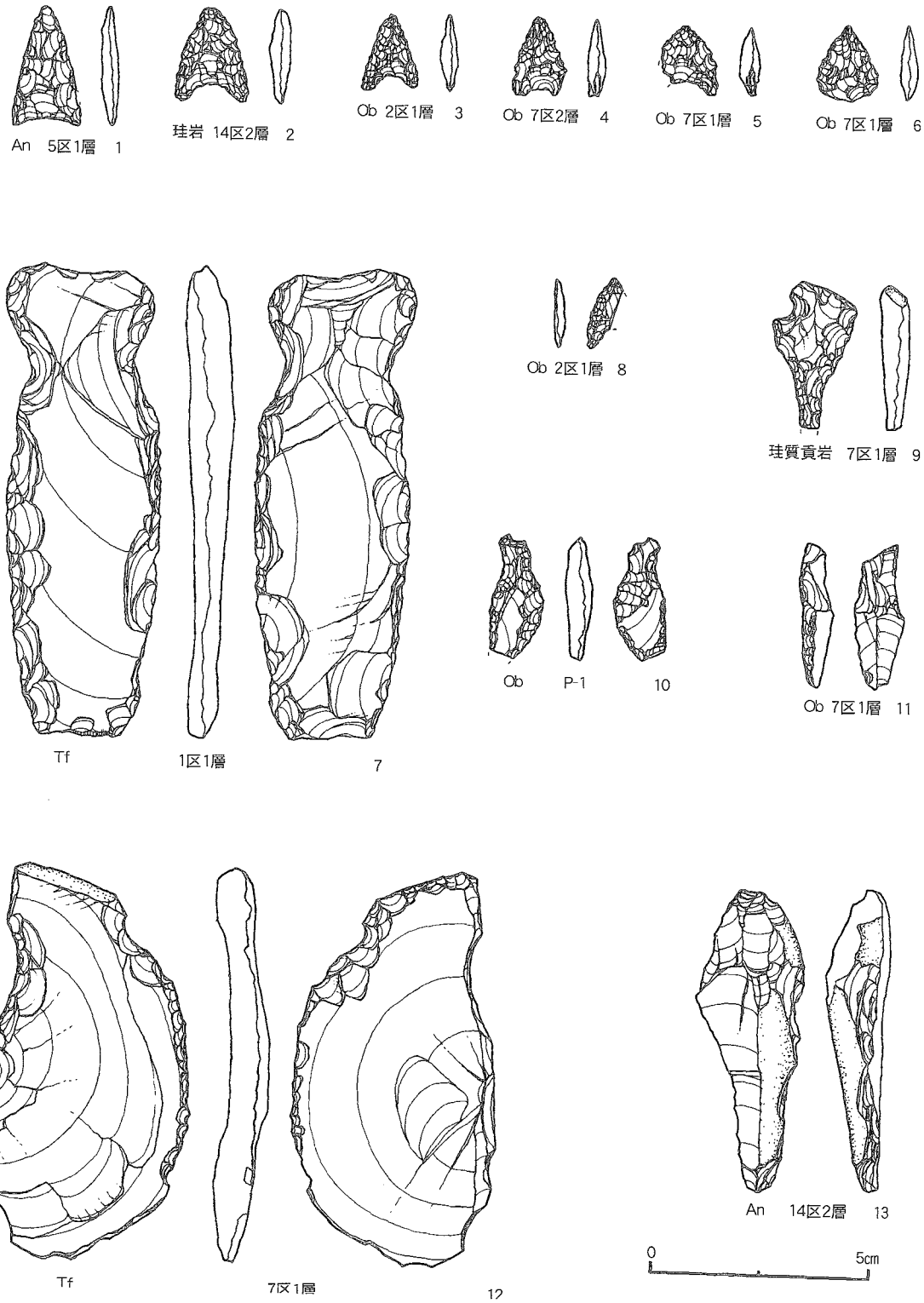
第377図　J－6号住石器実測図(3)



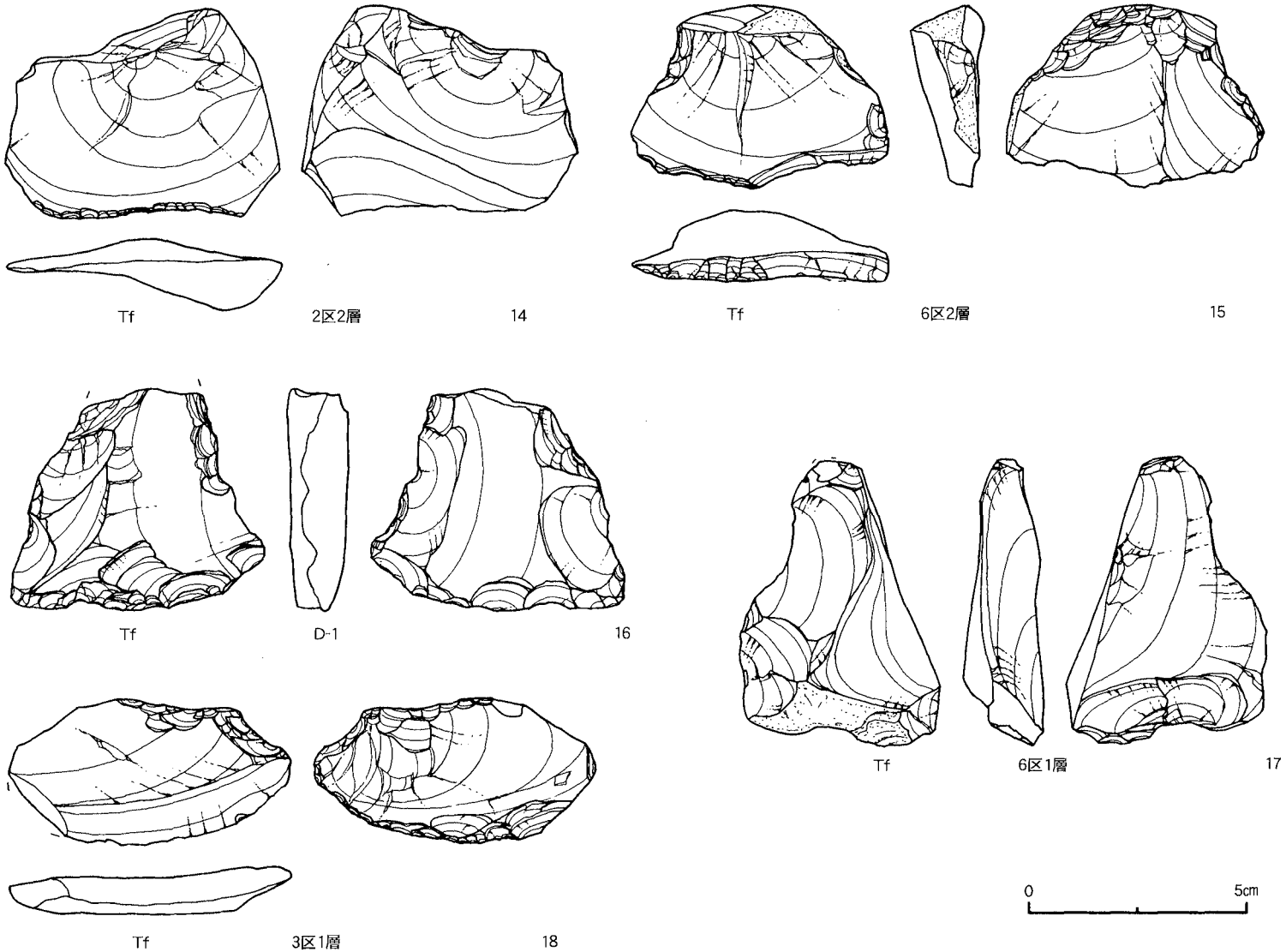
第378図　J－9号住石器実測図(1)



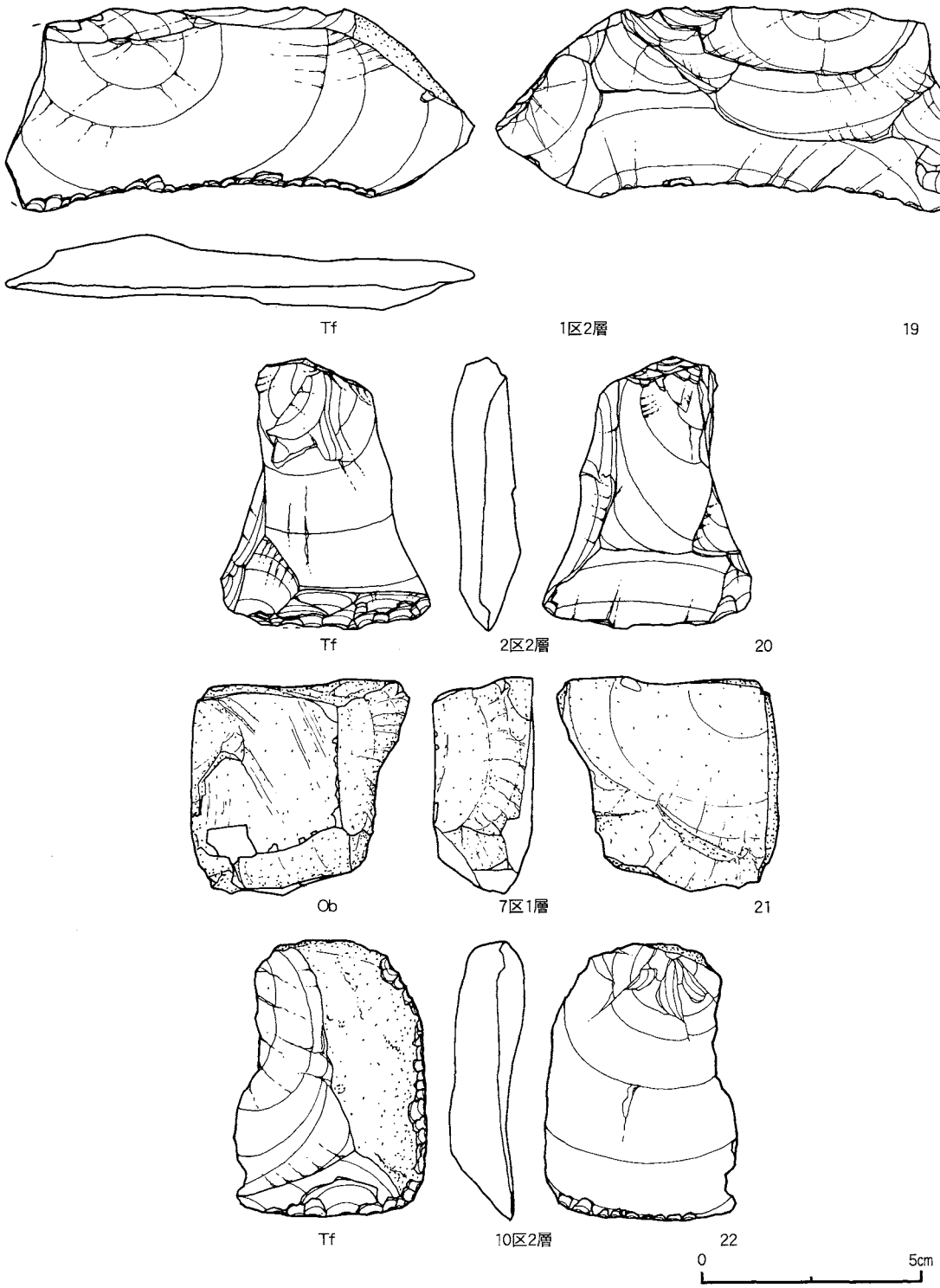
第379図　J－9号住石器実測図(2)



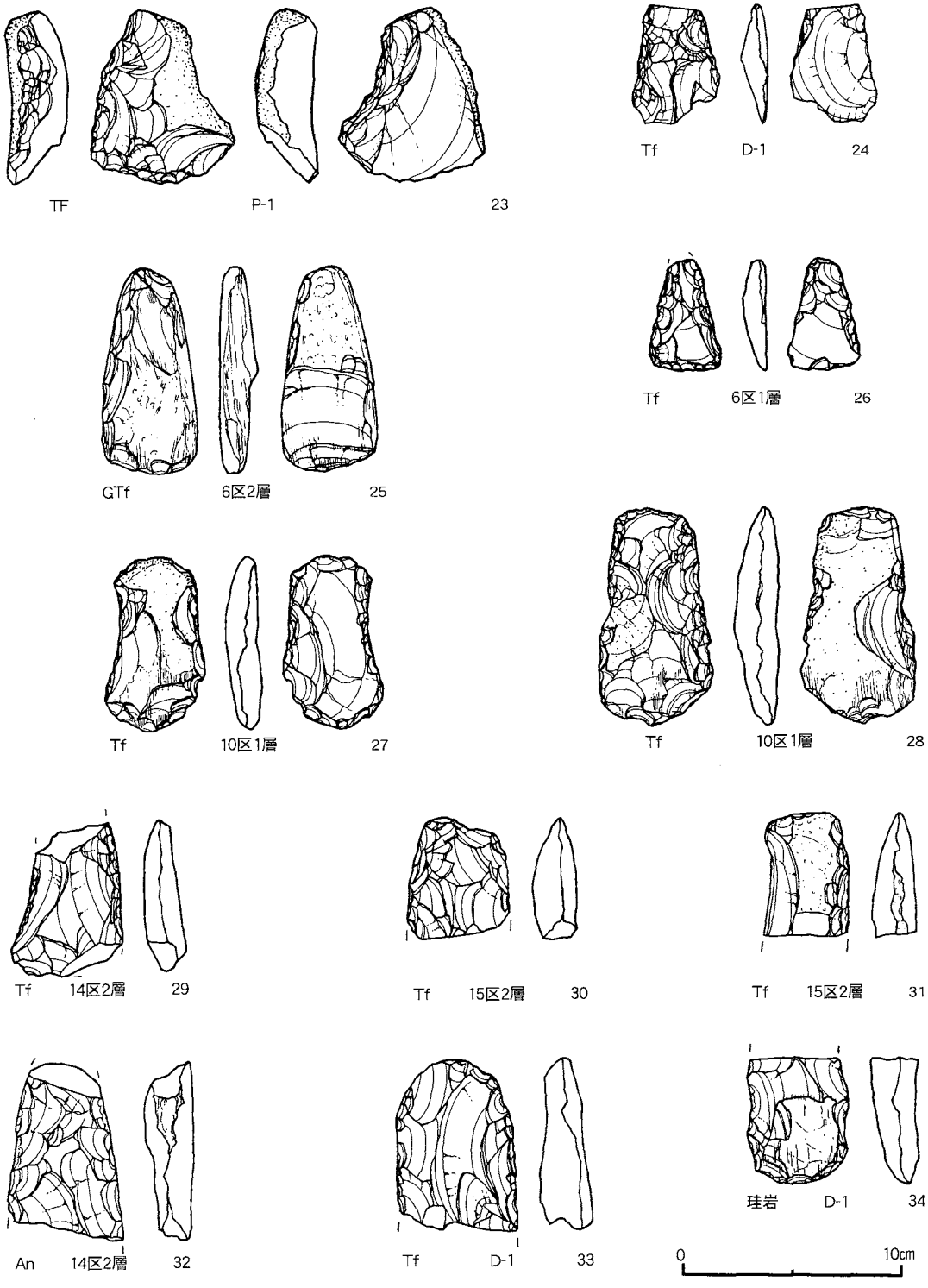
第380図　J—35号住石器実測図(1)



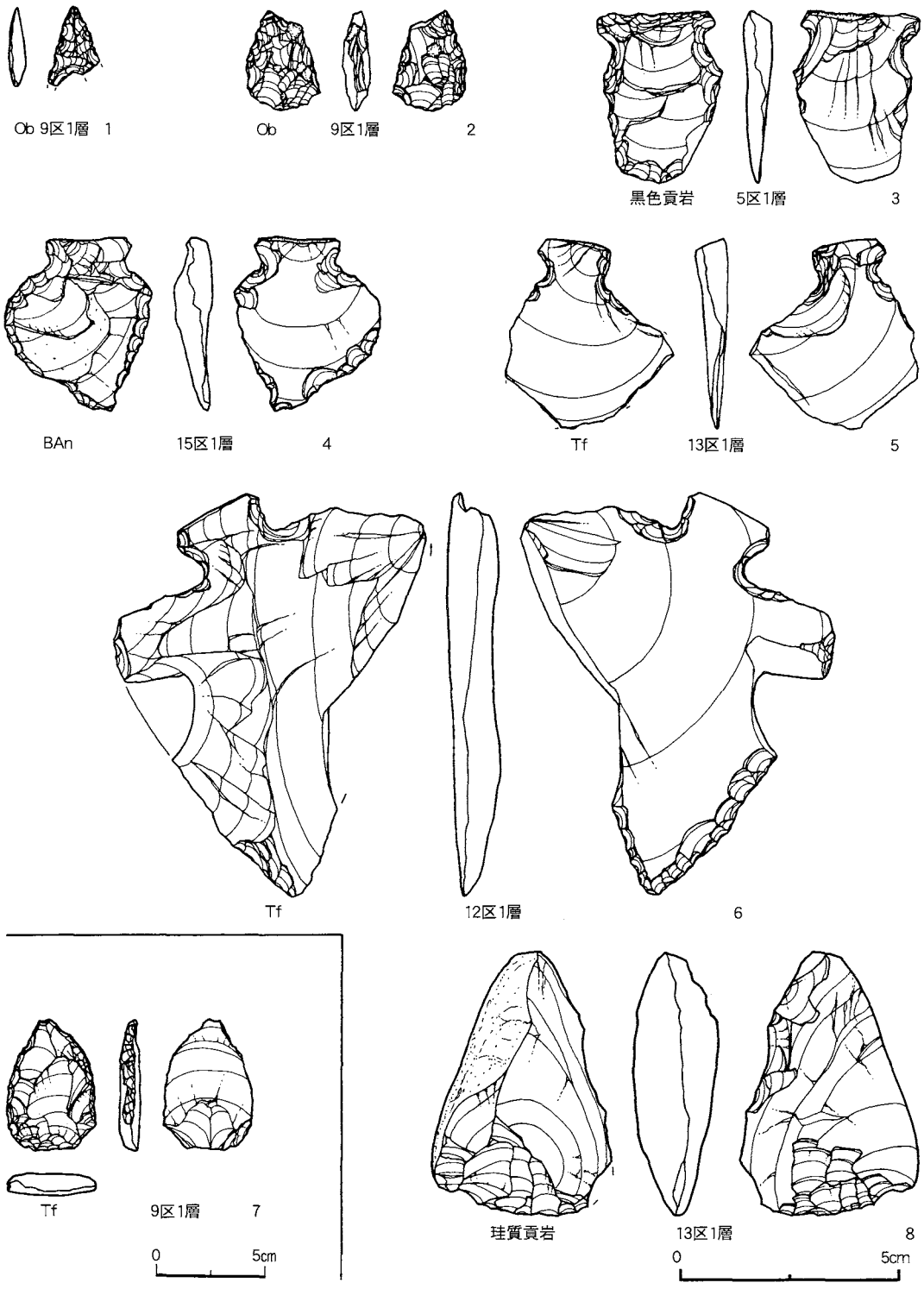
第381図　J－35号住石器実測図(2)



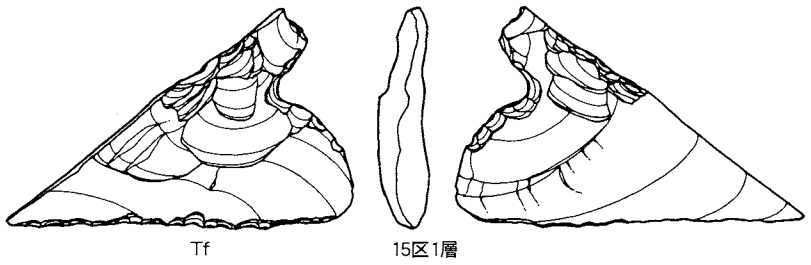
第382図　J－35号住石器実測図(3)

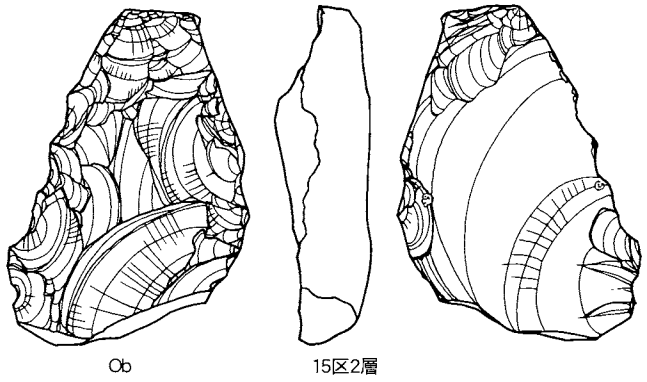


第383図　J－35号住石器実測図(4)

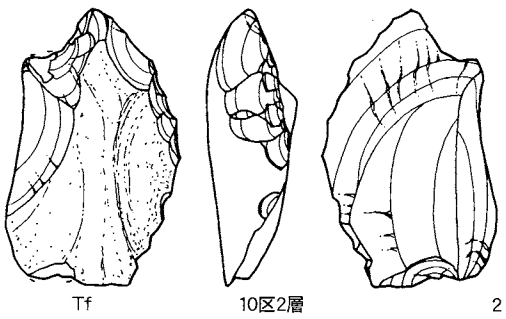


第384図　J－36号住石器実測図

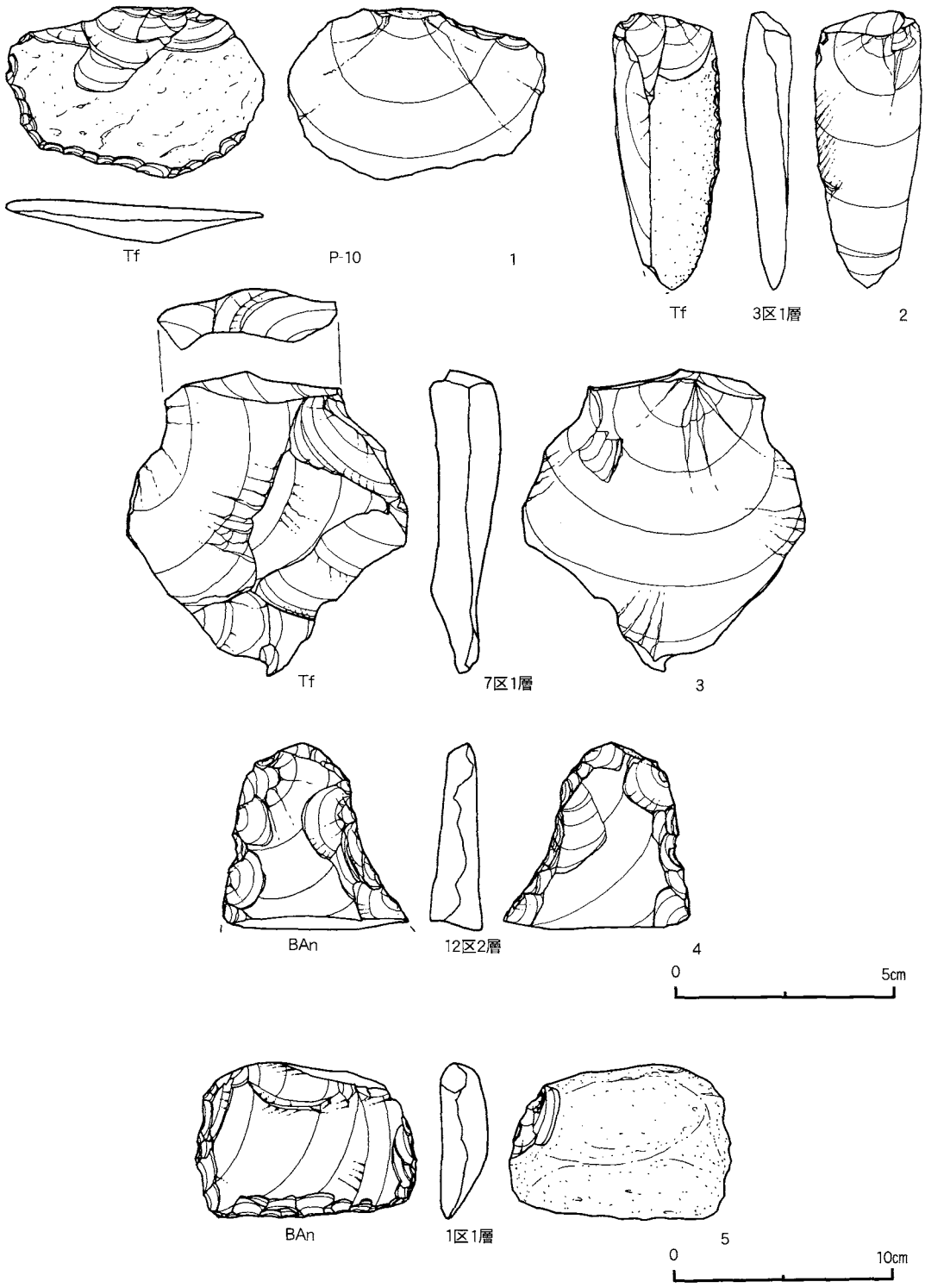




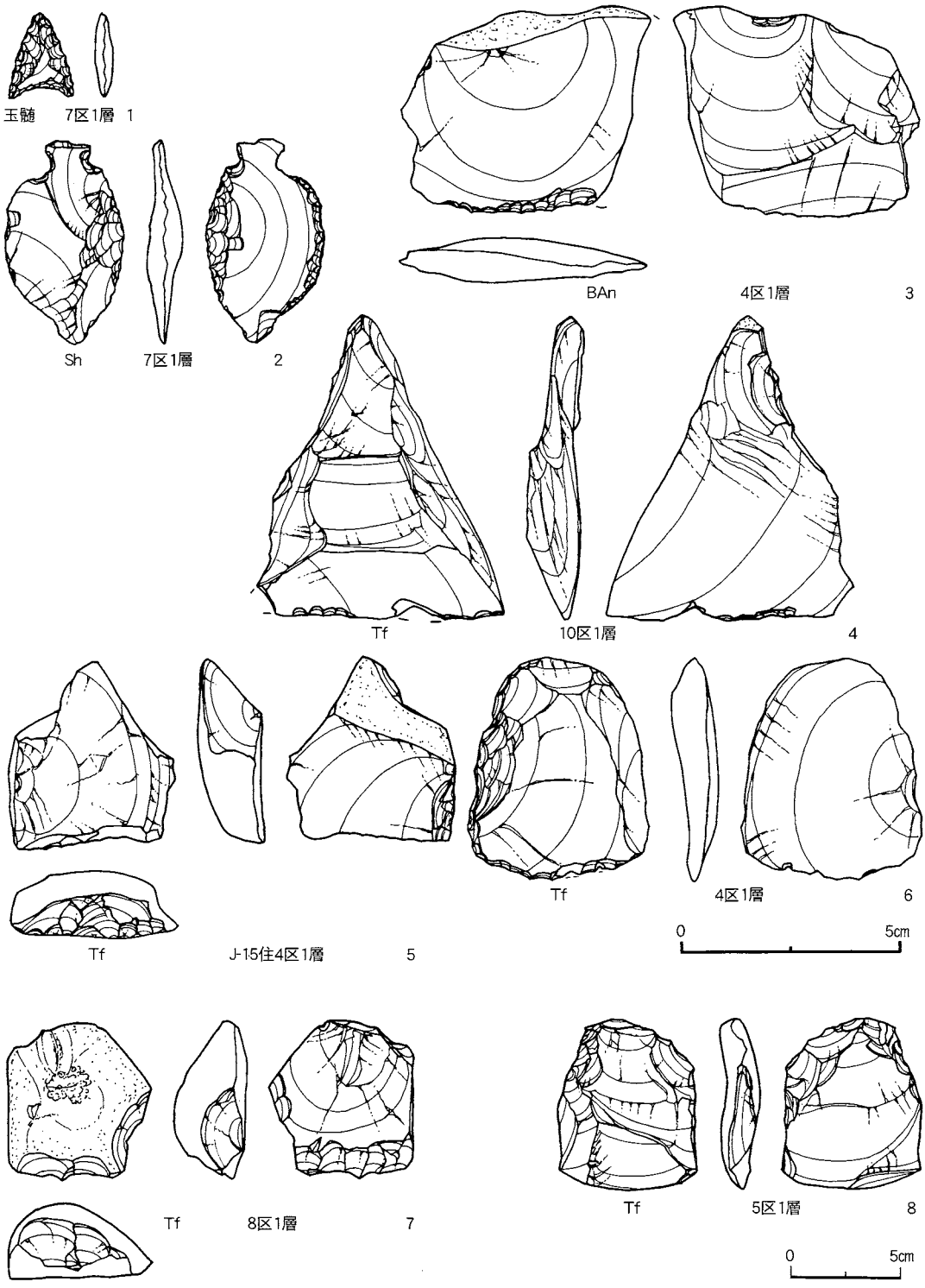
第385図　J—38号住石器実測図



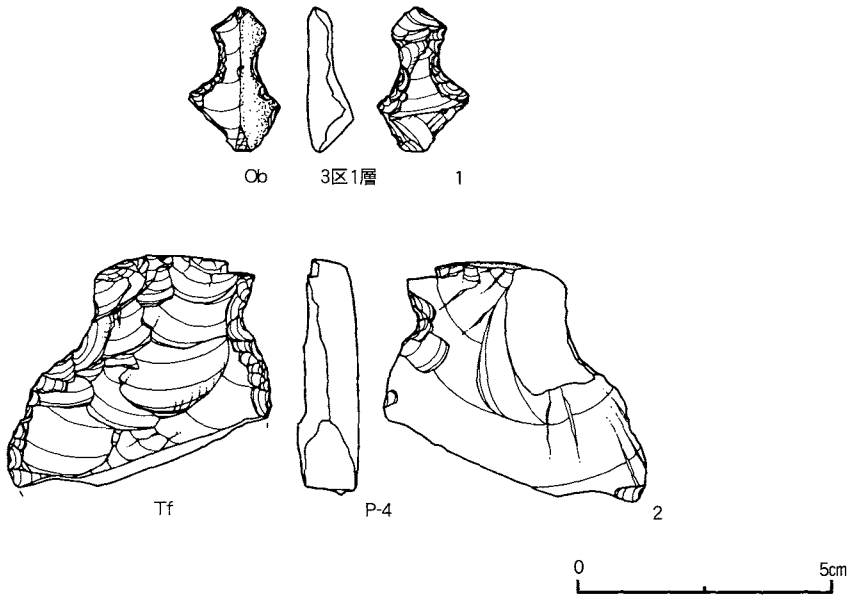
第386図　J—39号住石器実測図



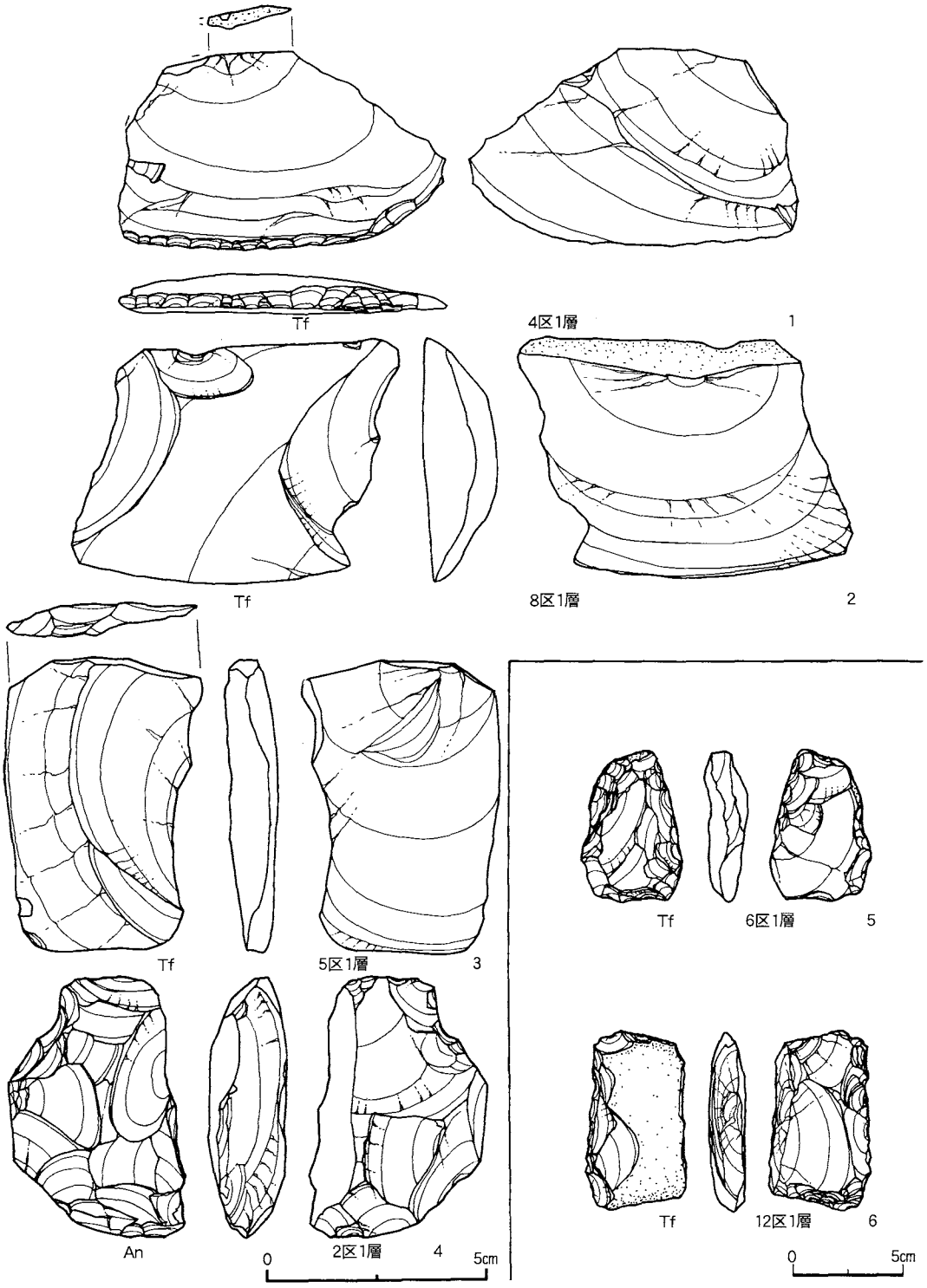
第387図　J－40号住石器実測図



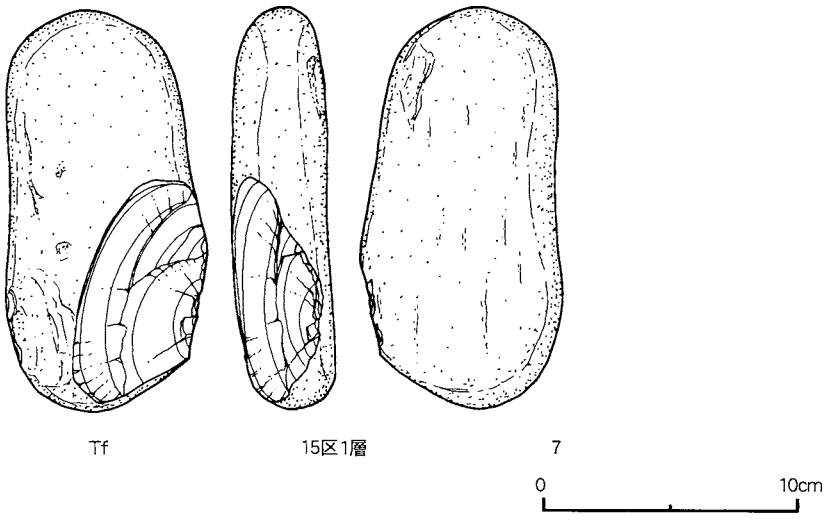
第388図　Ｊ―42号住石器実測図



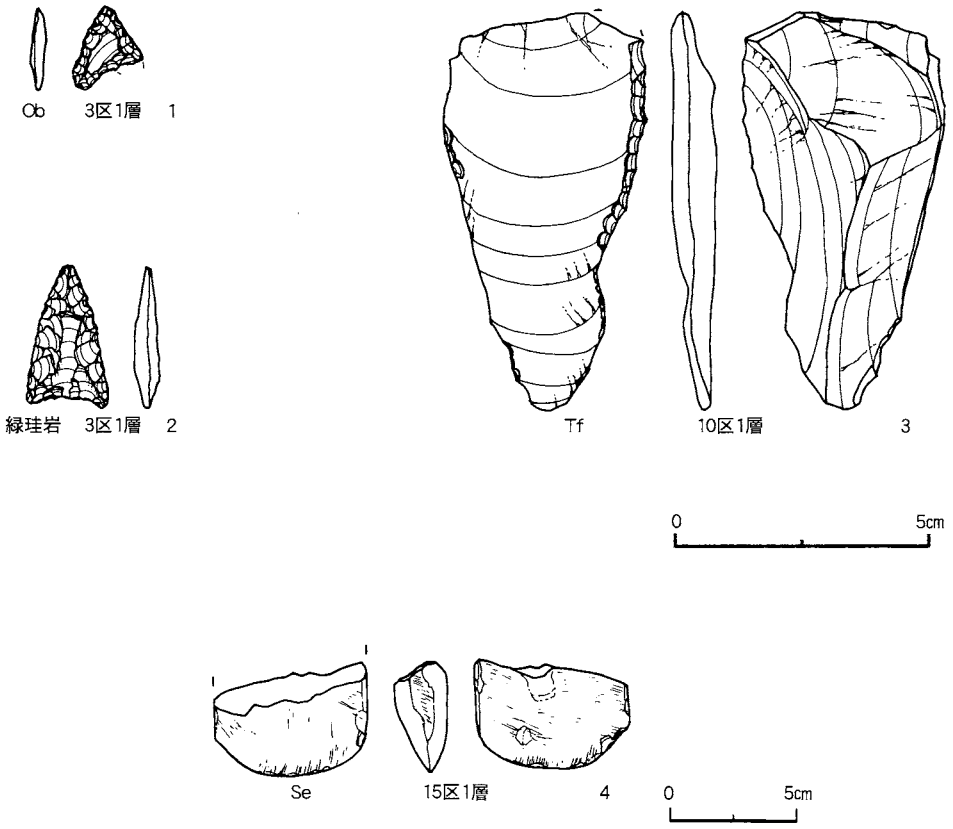
第389図　J－43号住石器実測図



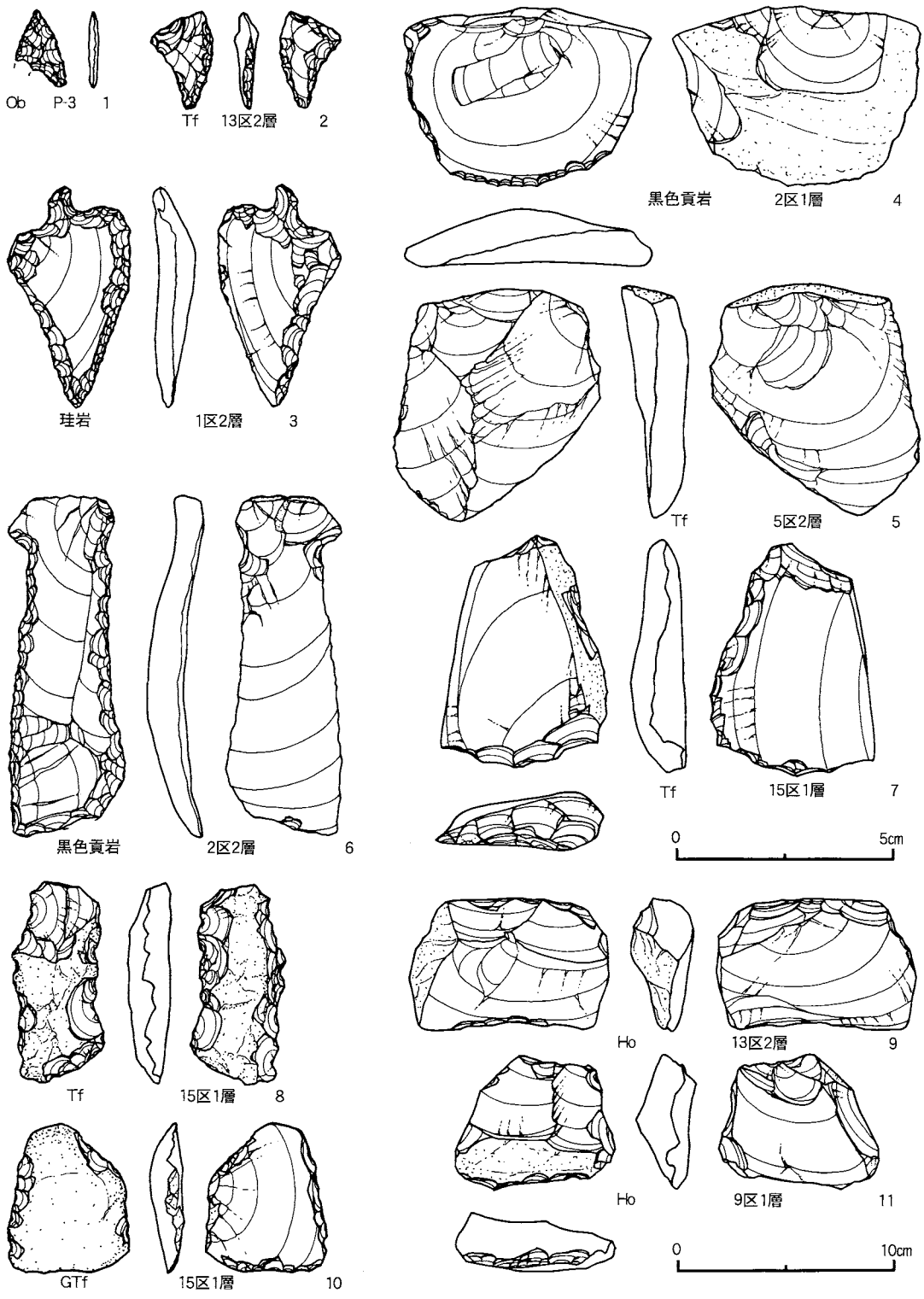
第390図　J－45号住石器実測図(1)



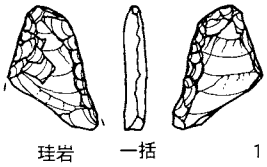
第391図　J－45号住石器実測図(2)

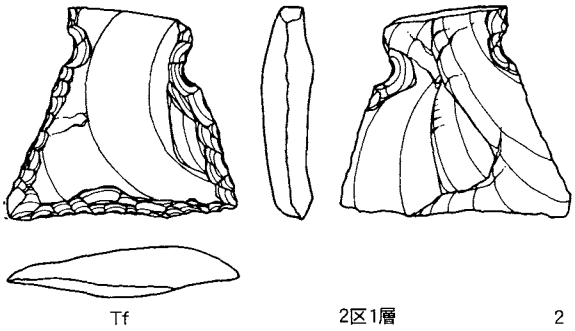


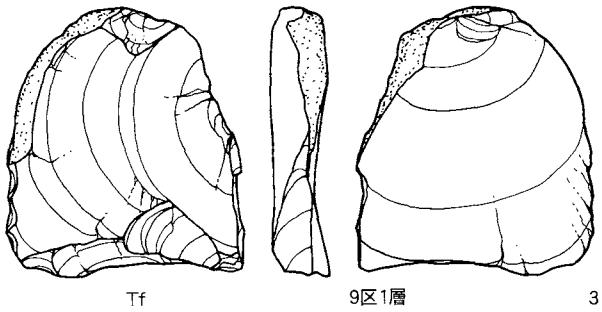
第392図　J－46号住石器実測図

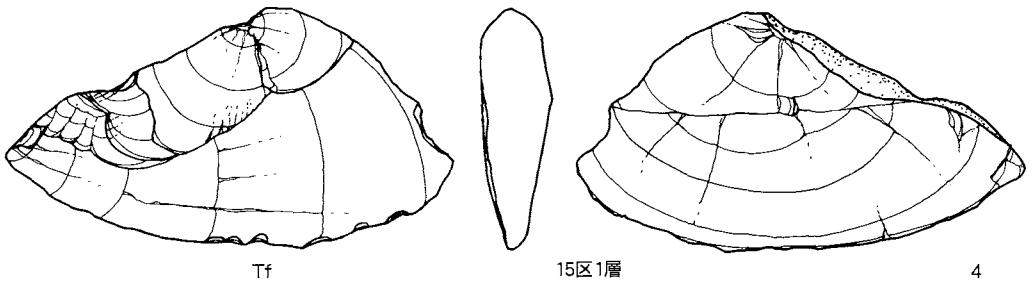


第393図　J－47号住石器実測図

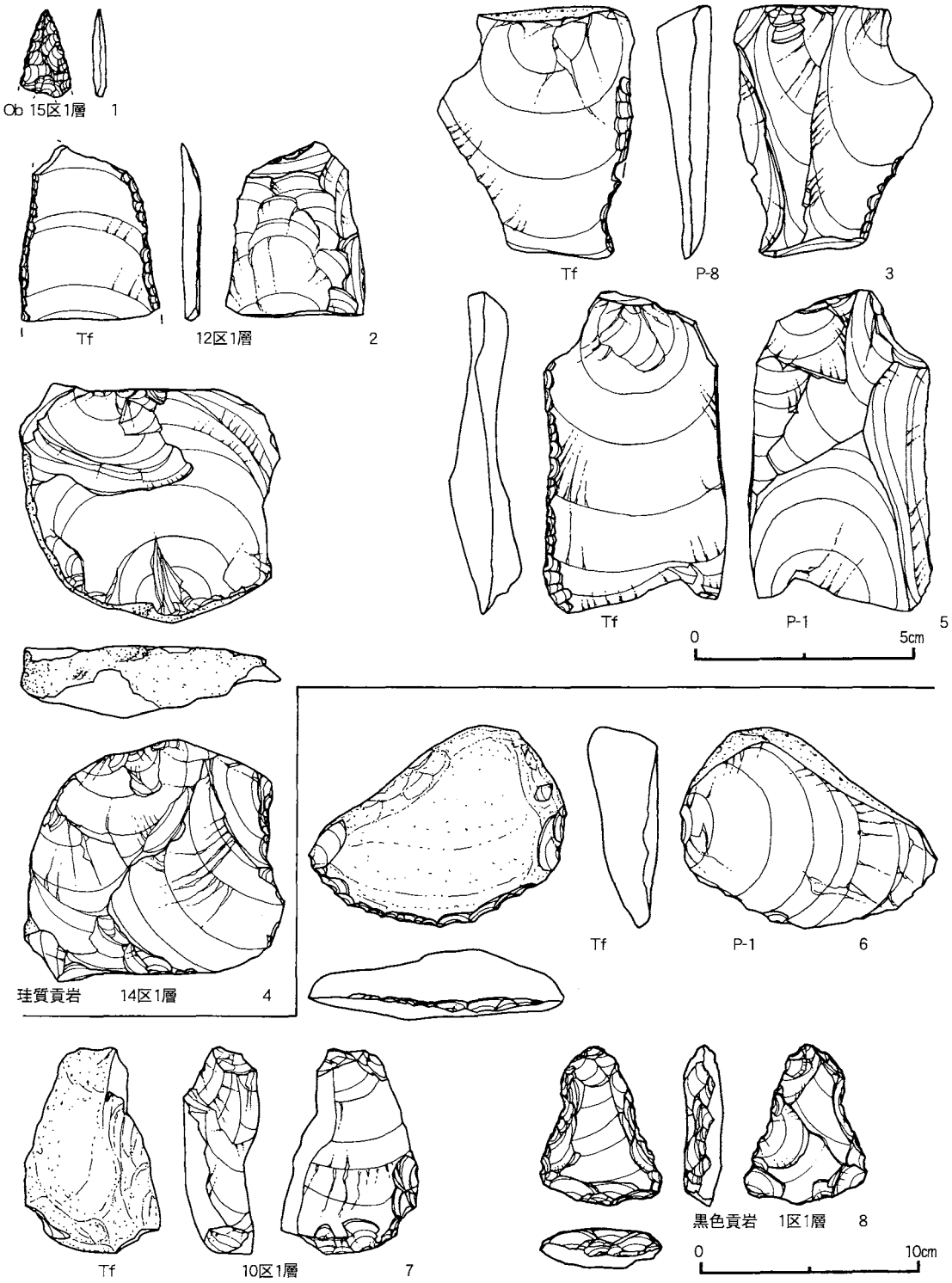




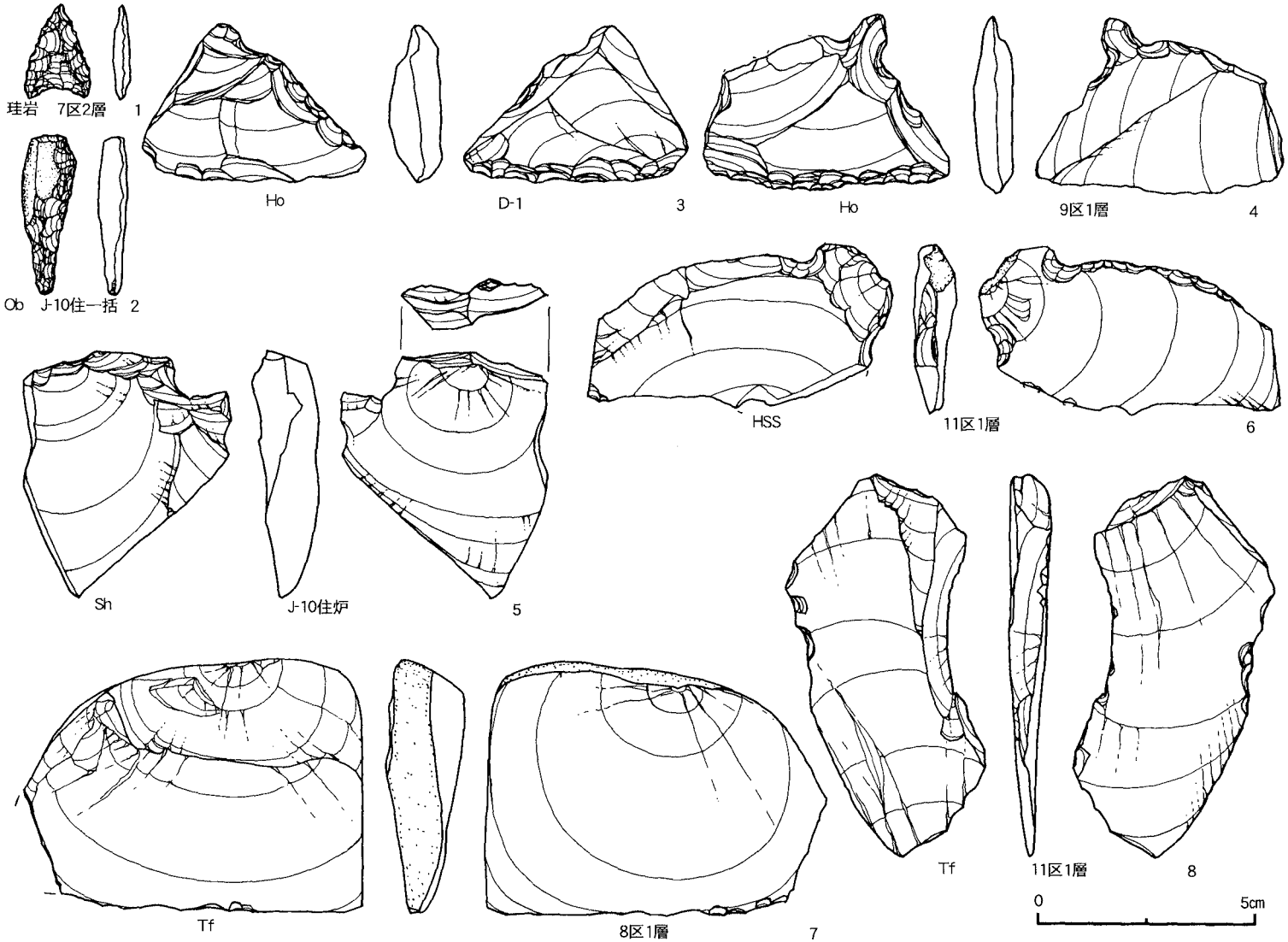




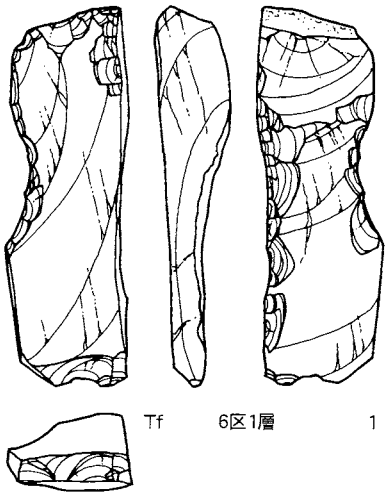
第394図　J—50号住石器実測図



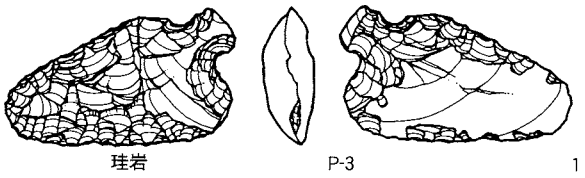
第395図　J—52号住石器実測図



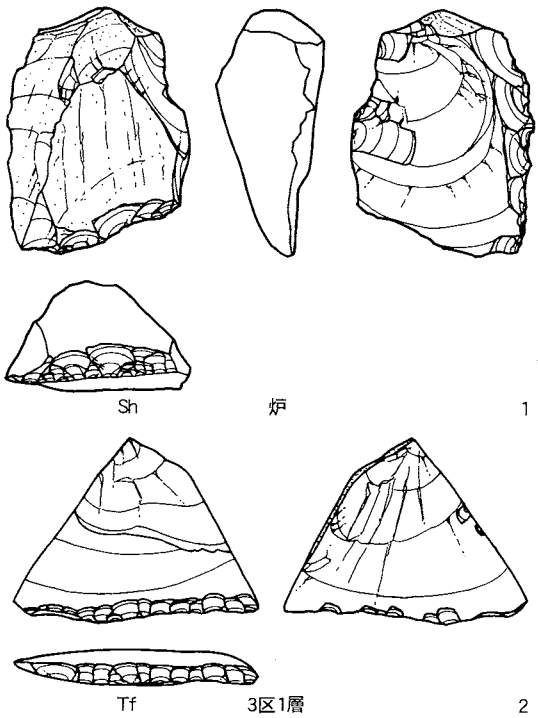
第396図 J－56号住石器実測図



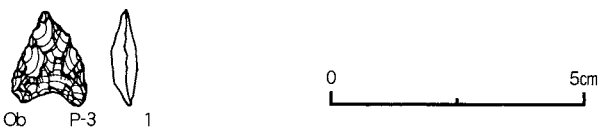
第397図　J－8号住石器実測図



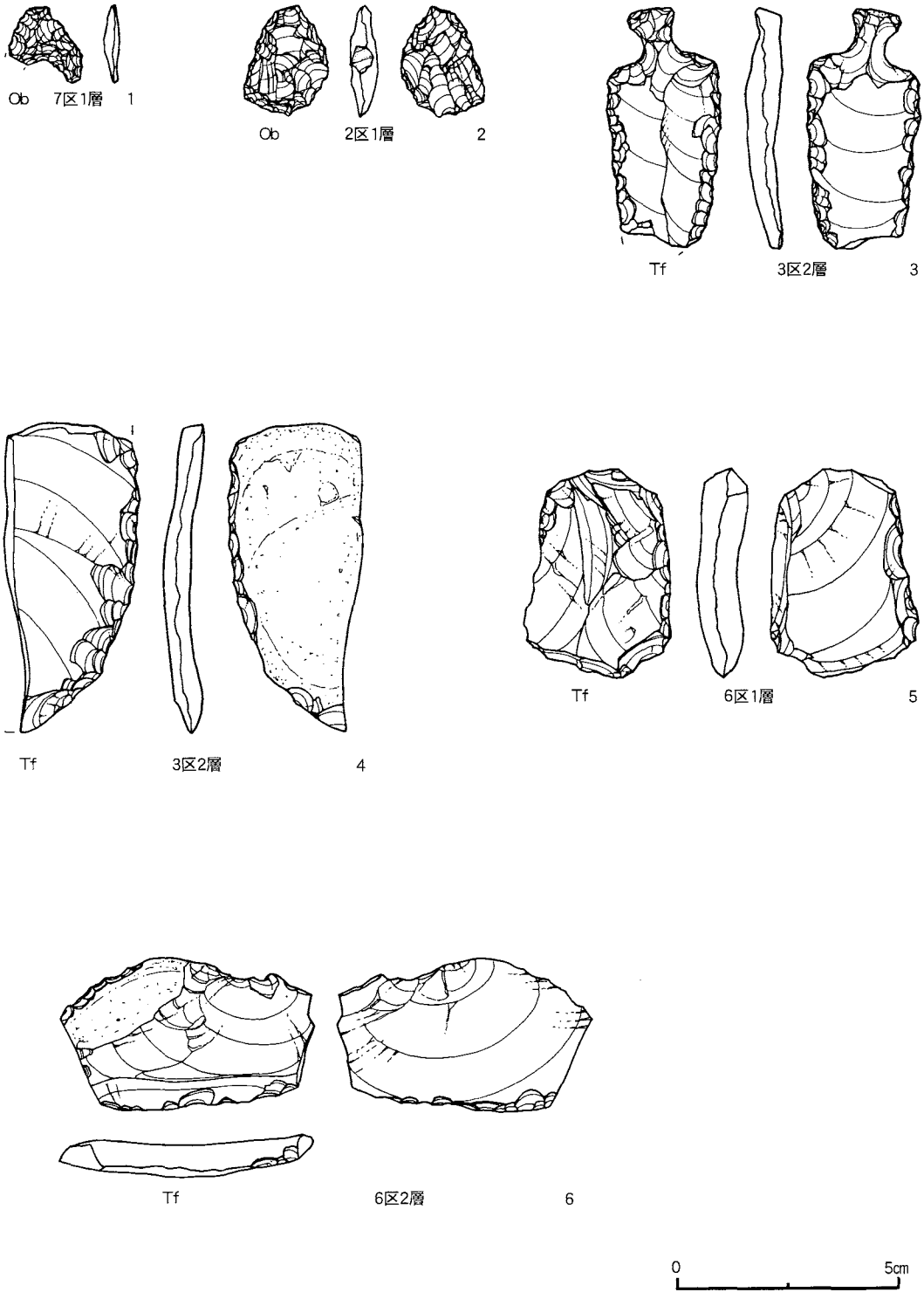
第398図　J－41号住石器実測図



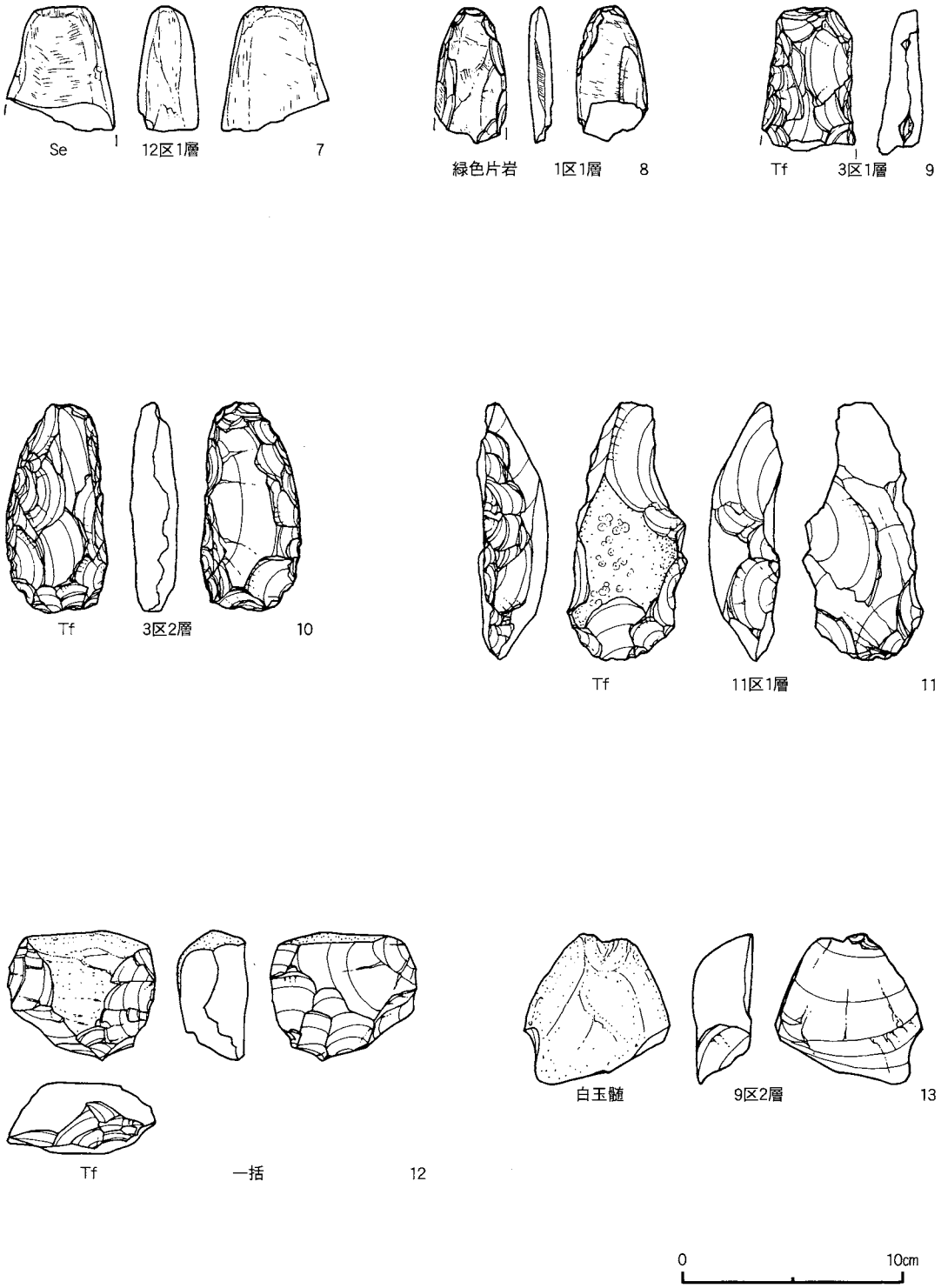
第399図　J－48号住石器実測図



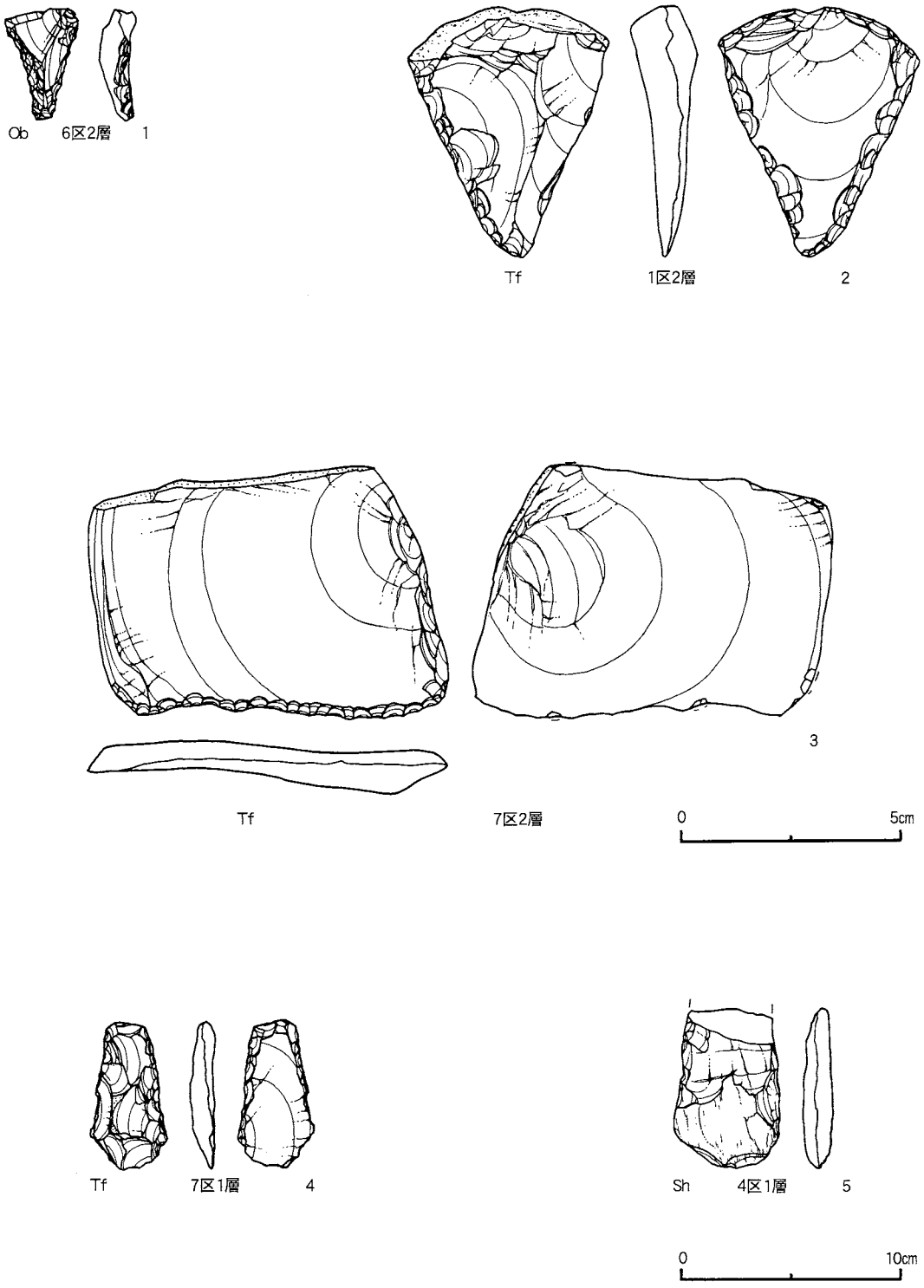
第400図　J－54号住石器実測図



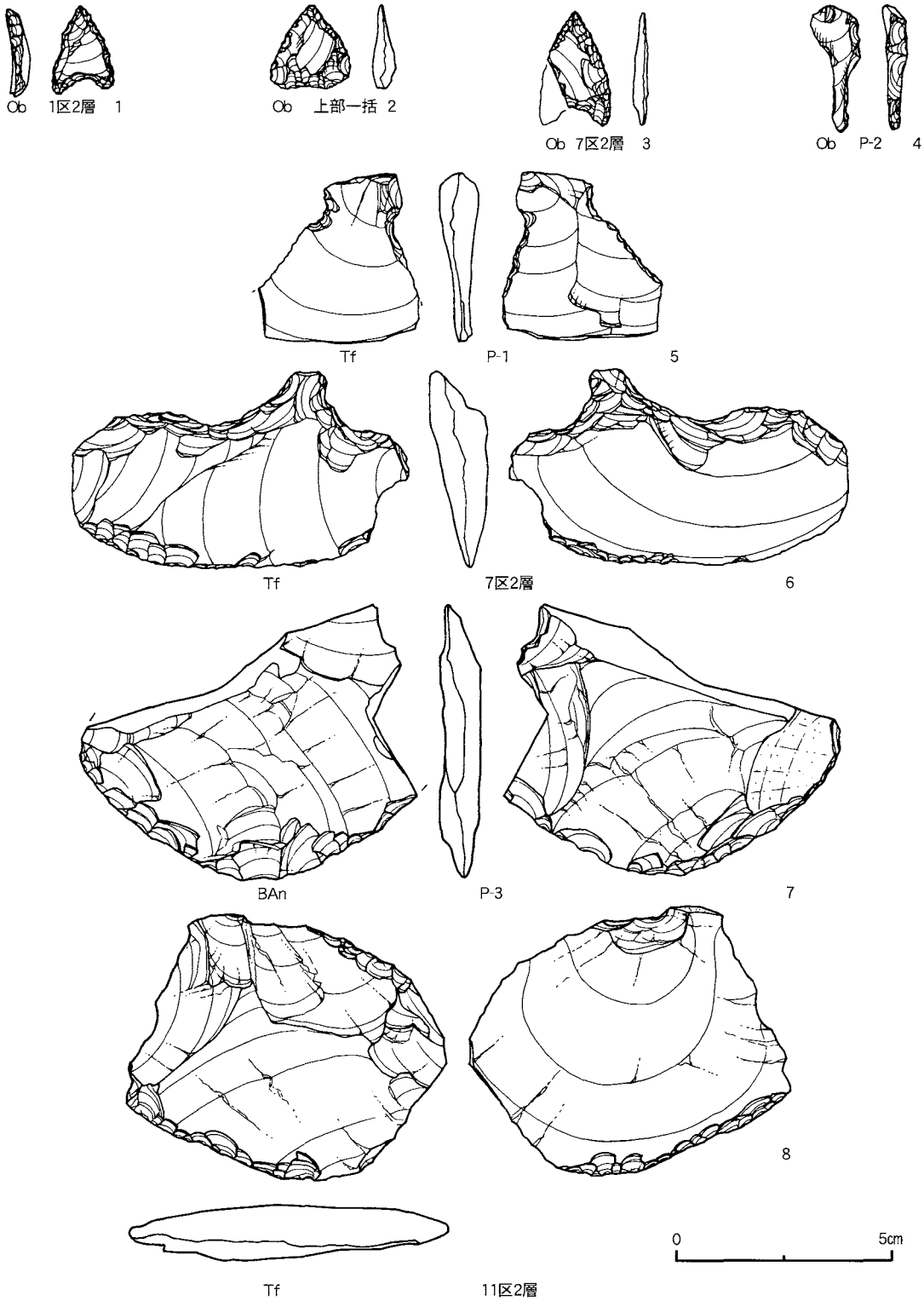
第401図　J－2号住石器実測図(1)



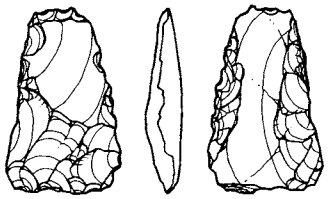
第402図　J－2号住石器実測図(2)



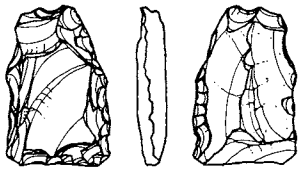
第403図　J－3号住石器実測図



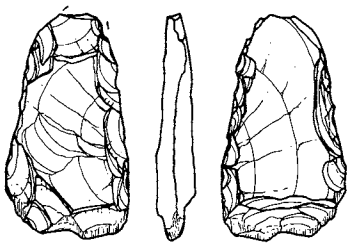
第404図　J－7号住石器実測図(1)



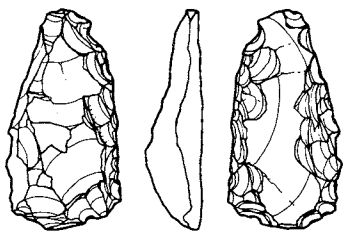
Tf　　P-1　　9



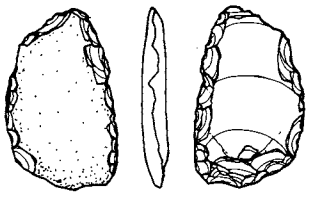
Tf　　6区2層　　10



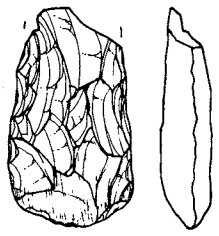
Tf　　3区2層　　11



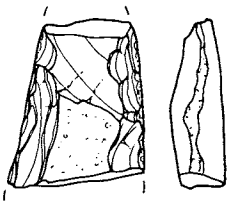
Ho　　8区2層　　12



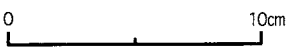
黒色頁岩　　11区2層　　13



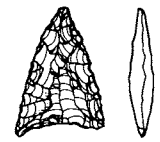
GTf　　床直　　14



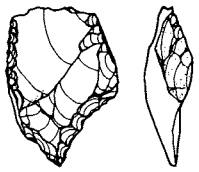
Tf　　11区2層　　15



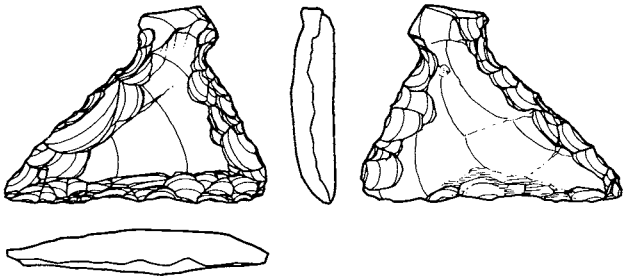
第405図　J－7号住石器実測図(2)



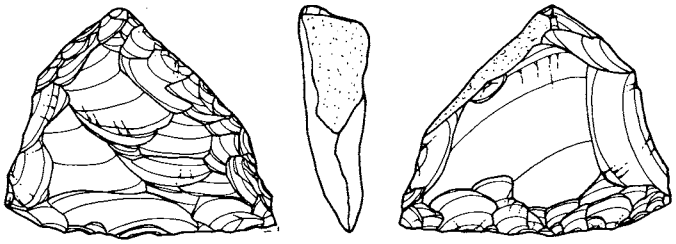
珪岩　4区2層　　1



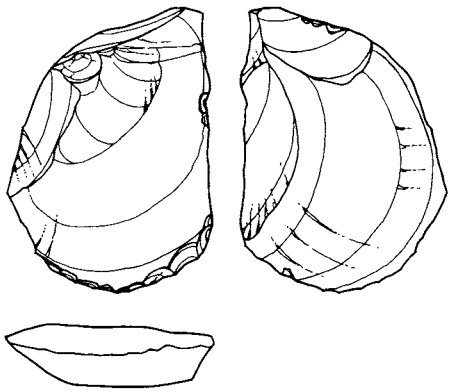
珪岩　13区1層　　2

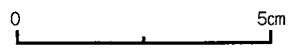


Tf　　3区2層　　3



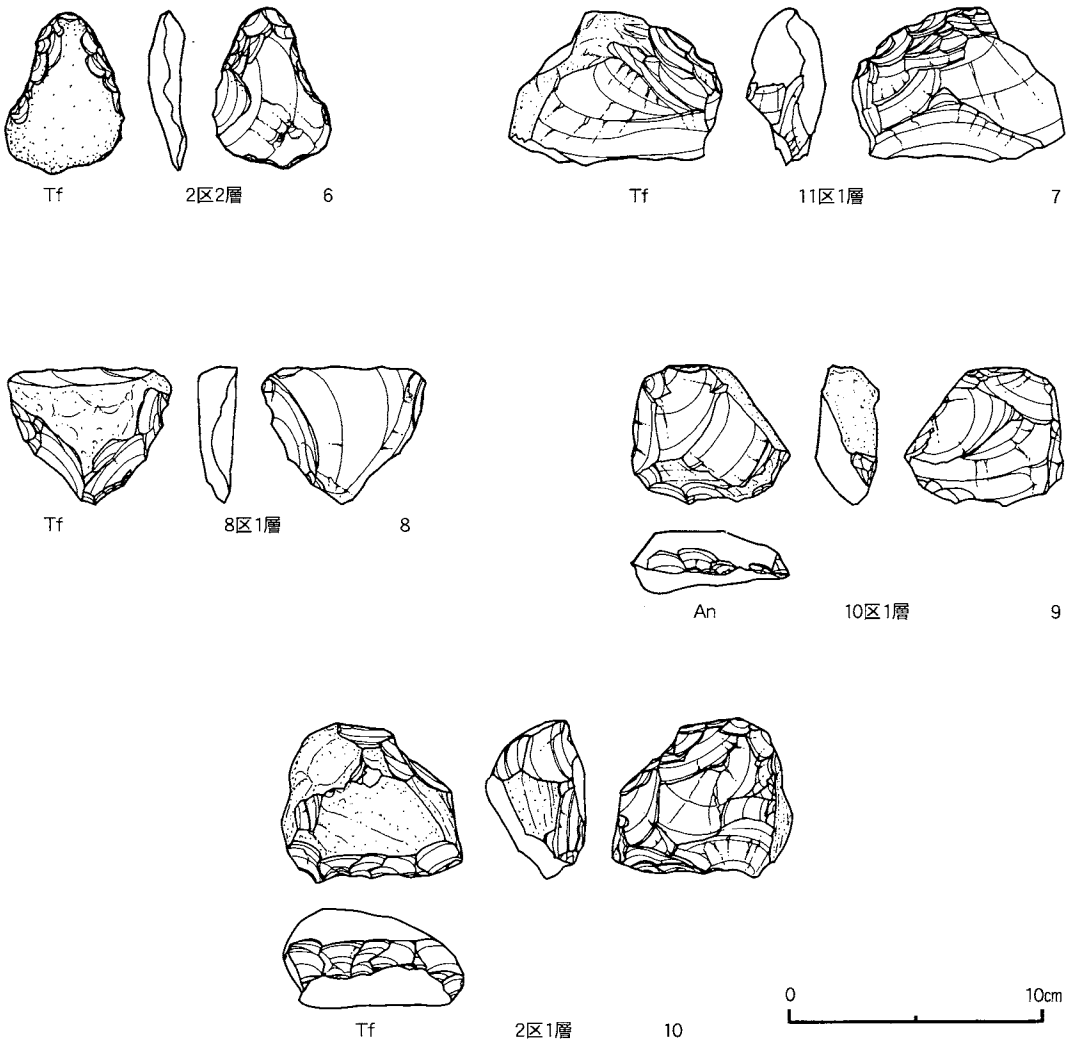
Tf　　16区1層　　4



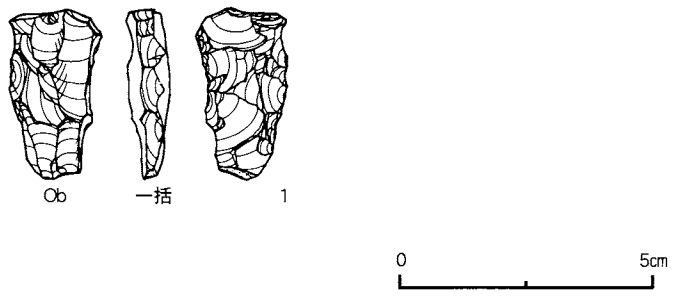


BAn　　8区1層　　5

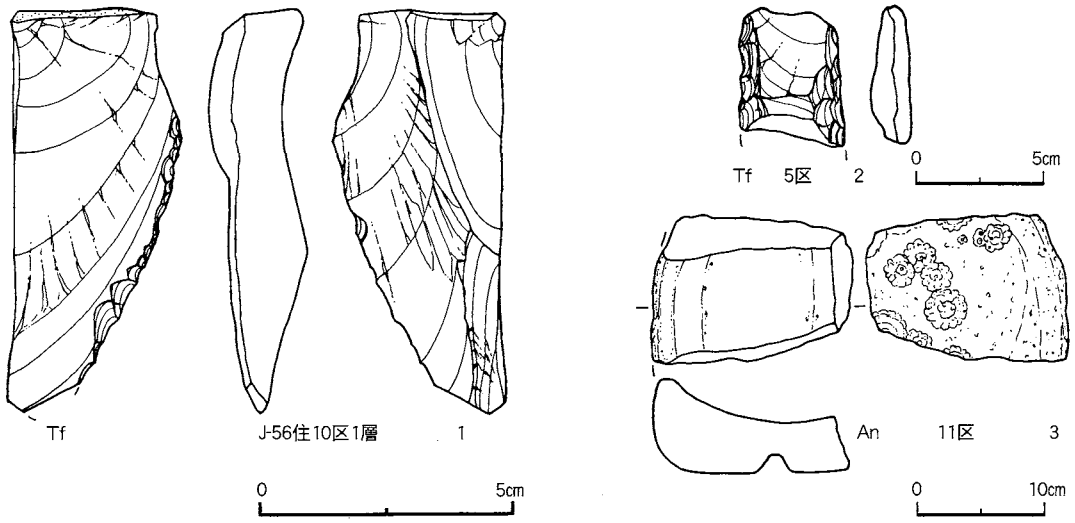
第406図　Ｊ―30号住石器実測図(1)



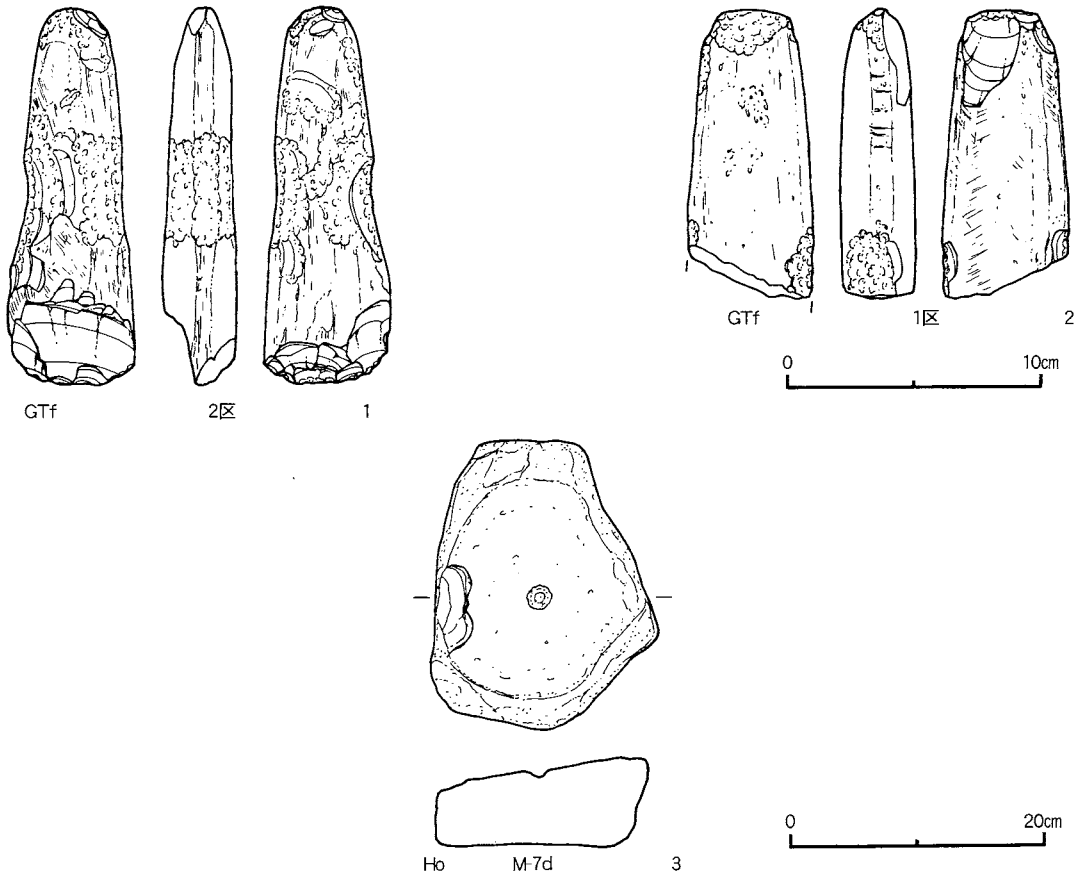
第407図　J—30号住石器実測図(2)



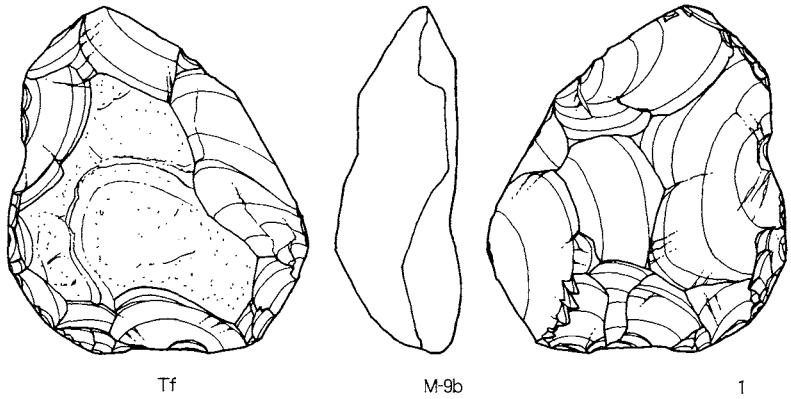
第408図　J—55号住石器実測図

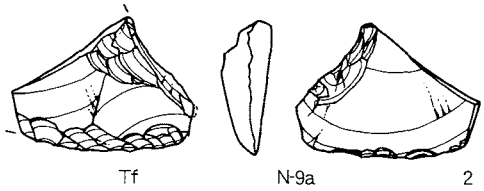


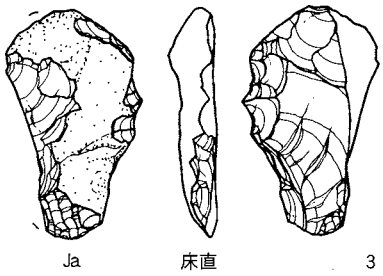
第409図　J－10号住石器実測図

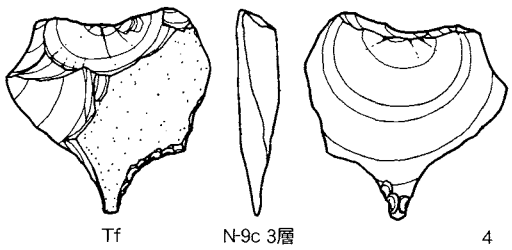


第410図　J－12号住石器実測図

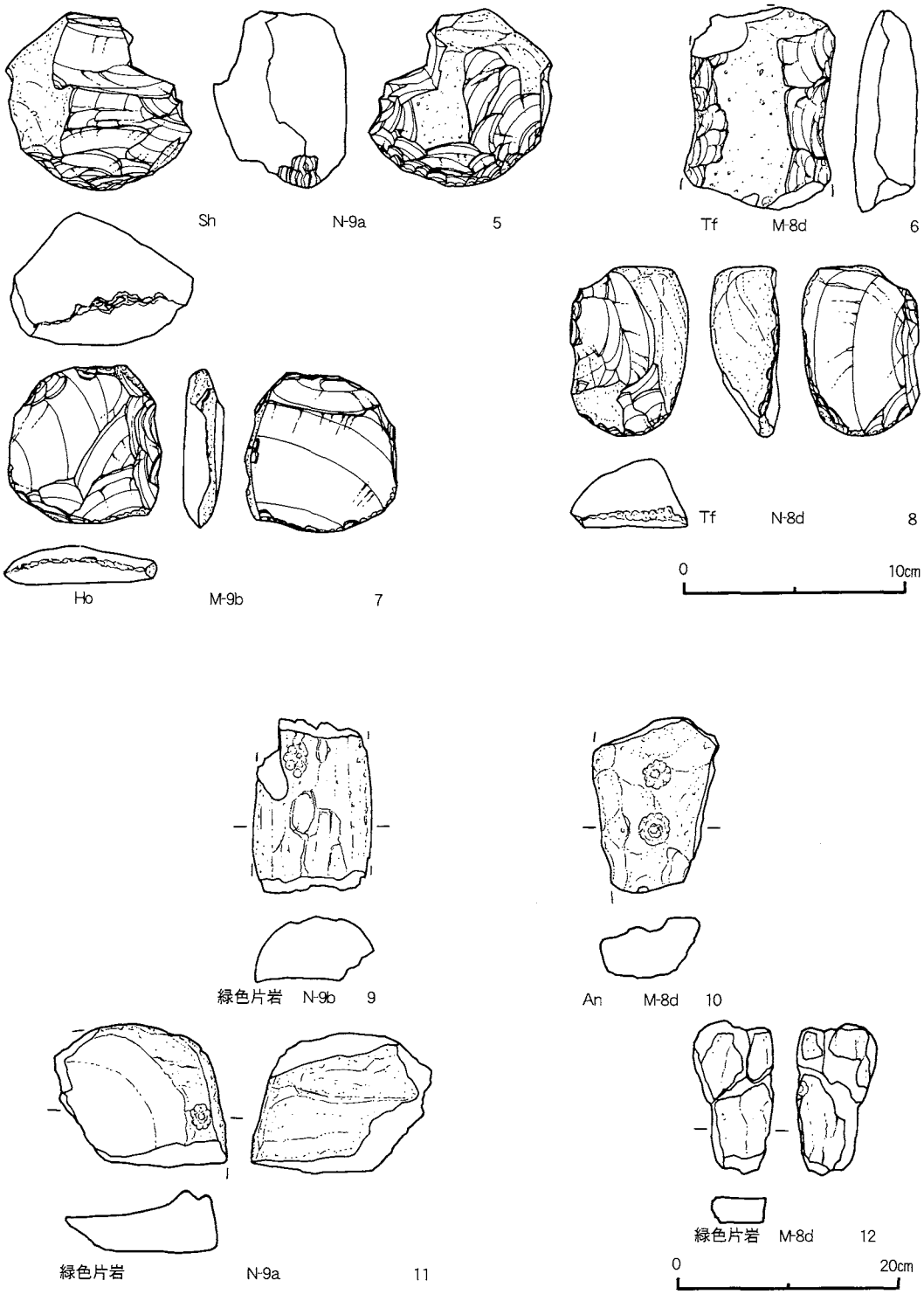




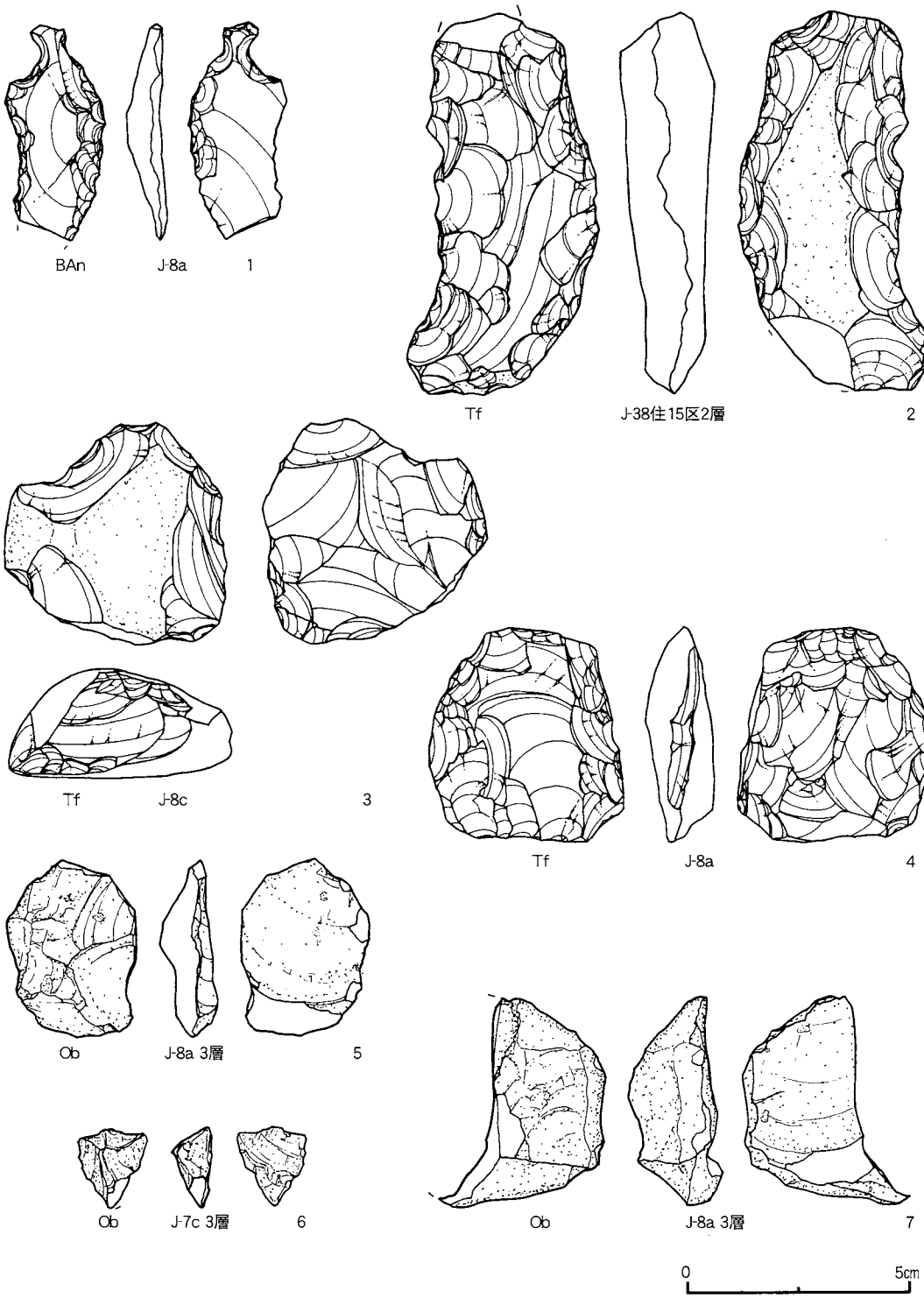




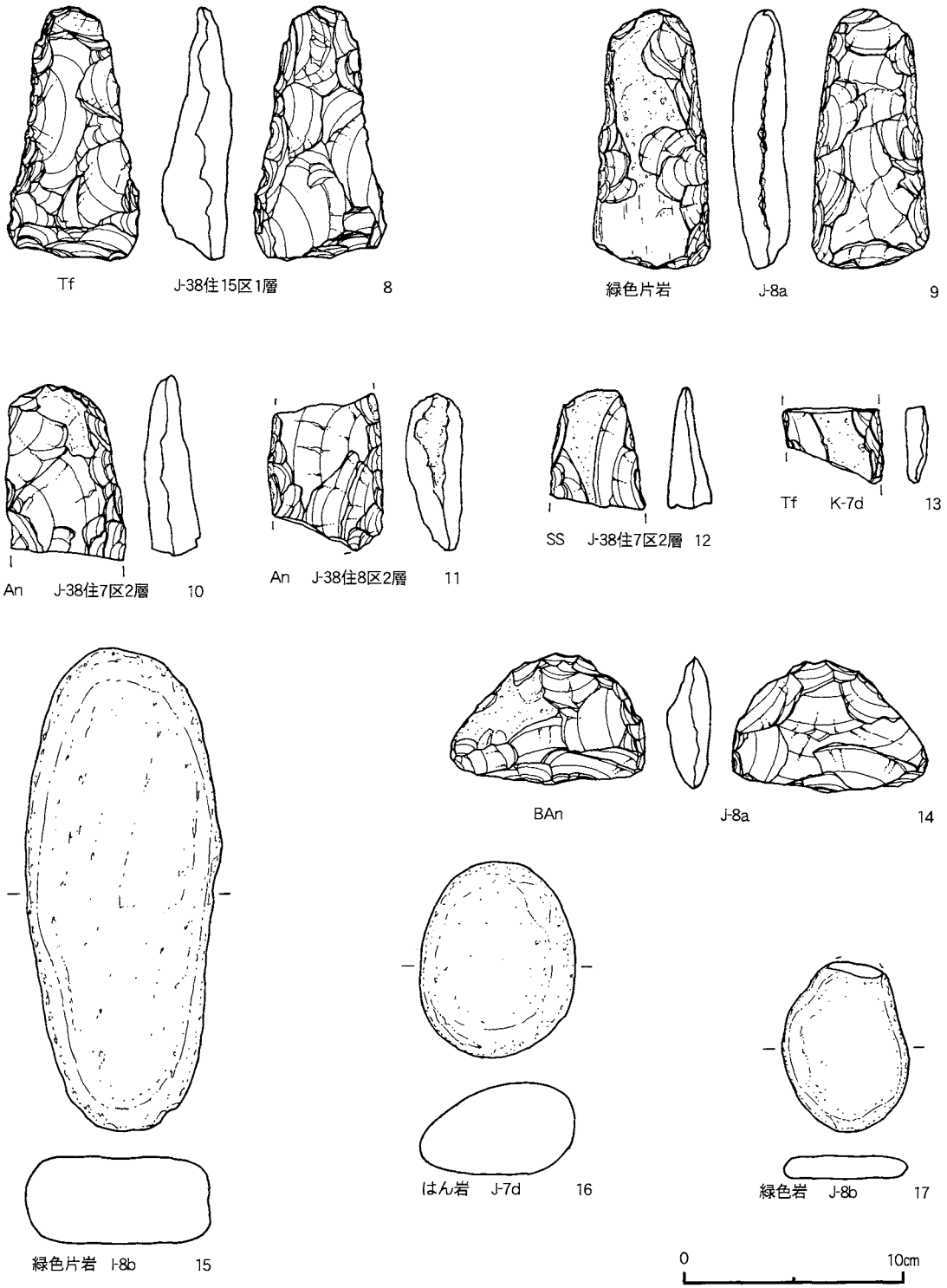
第411図　Ｊ－11号住石器実測図(1)



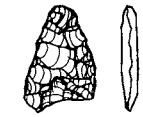
第412図　J－11号住石器実測図(2)

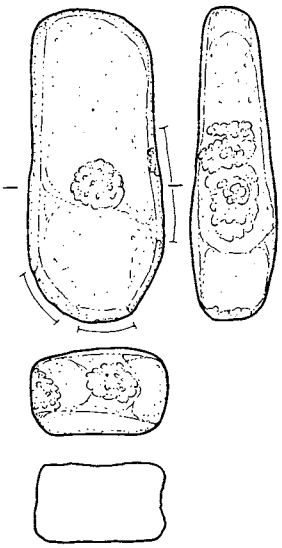


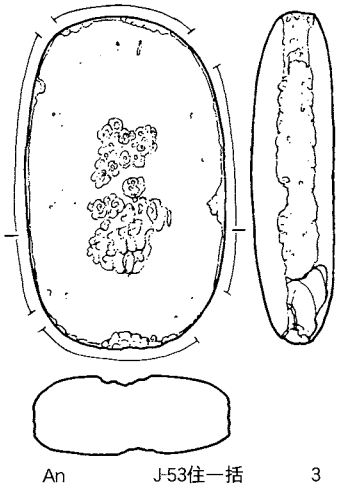
第413図　J－13号住石器実測図(1)

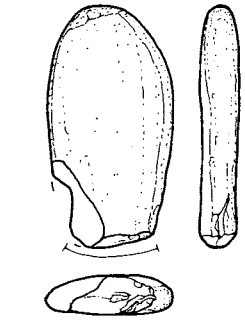


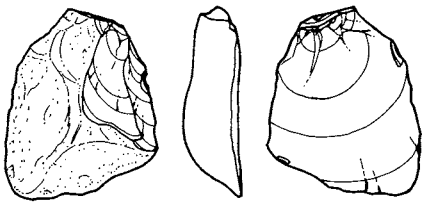
第414図　J―13号住石器実測図(2)



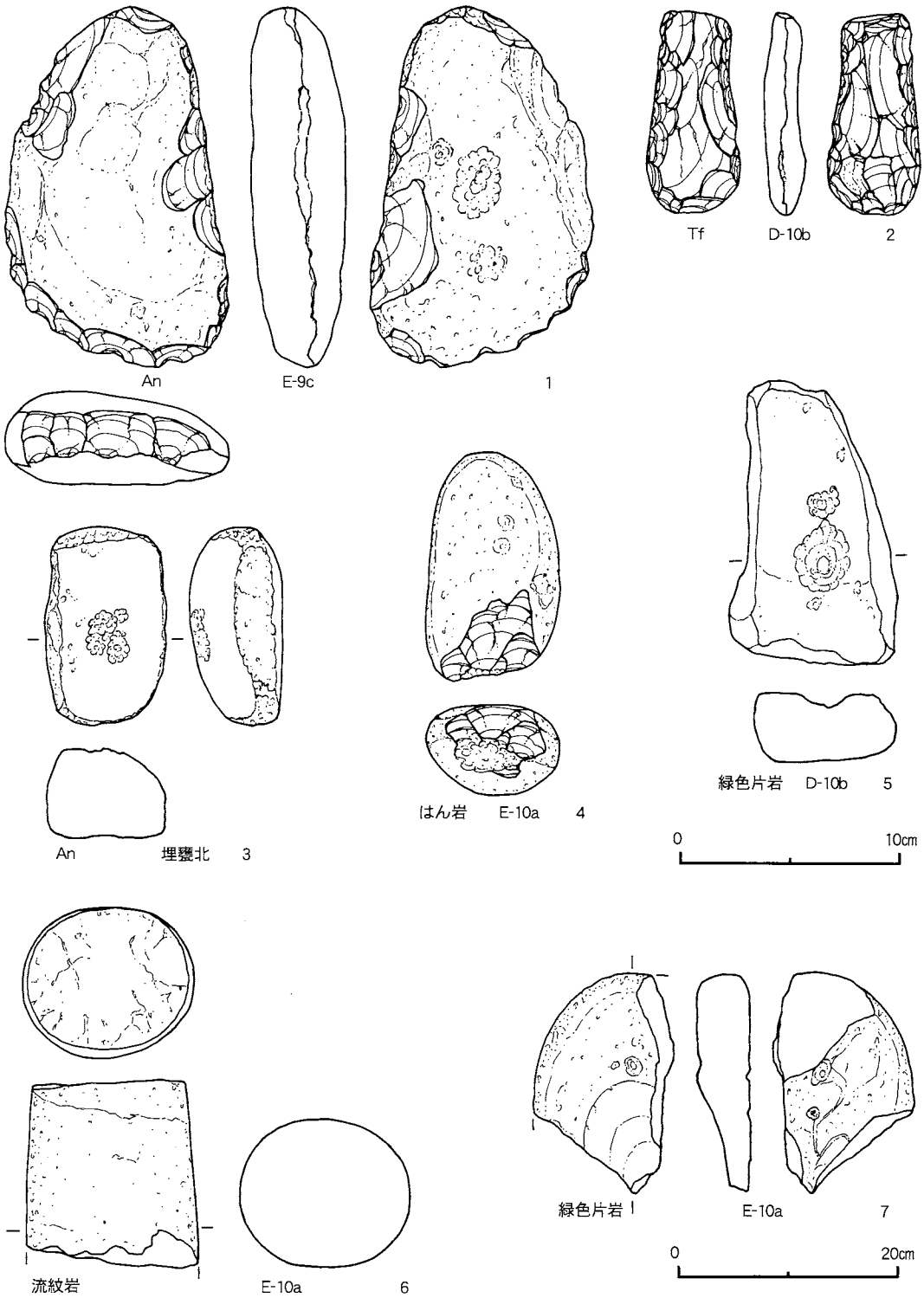




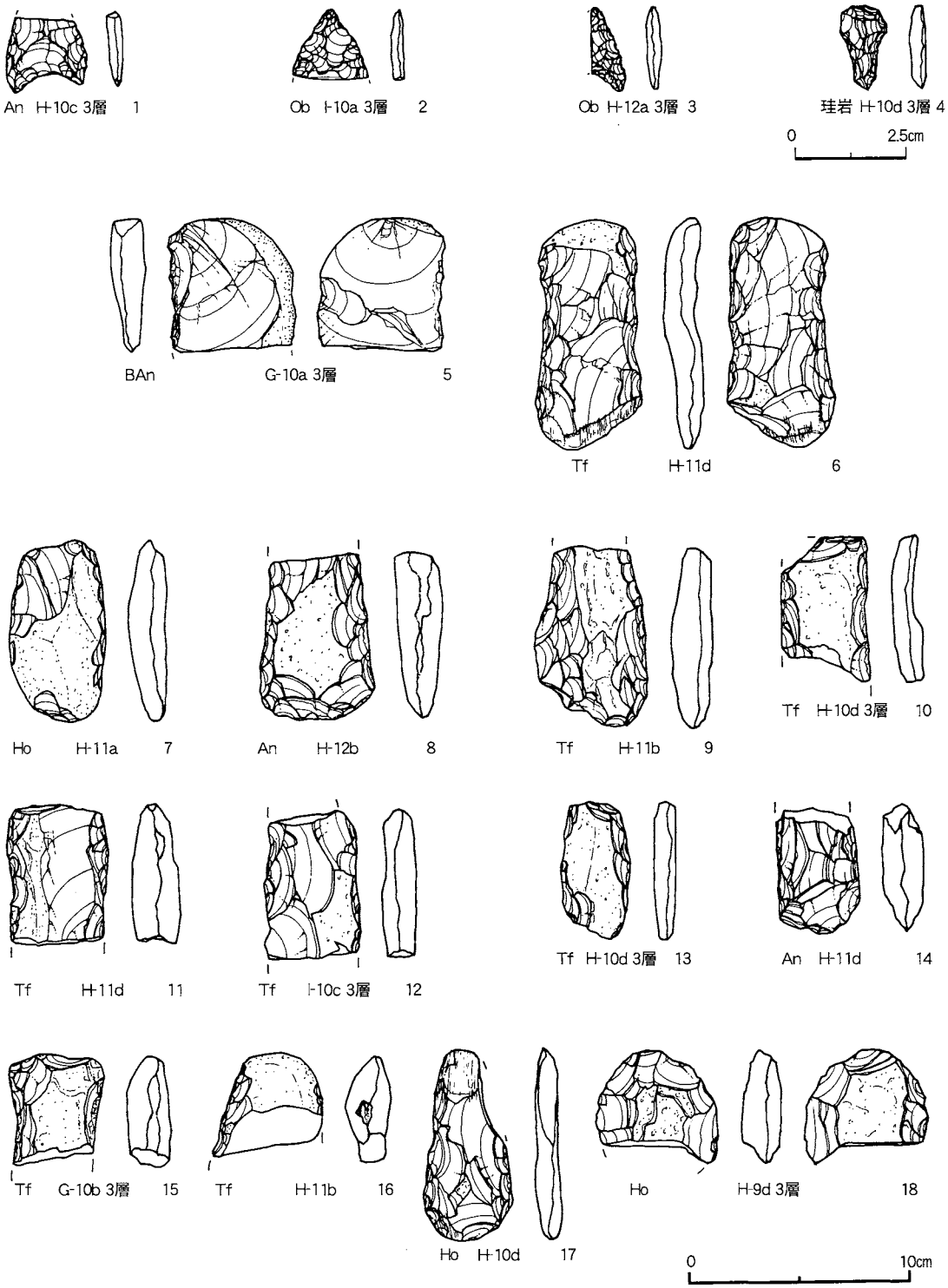




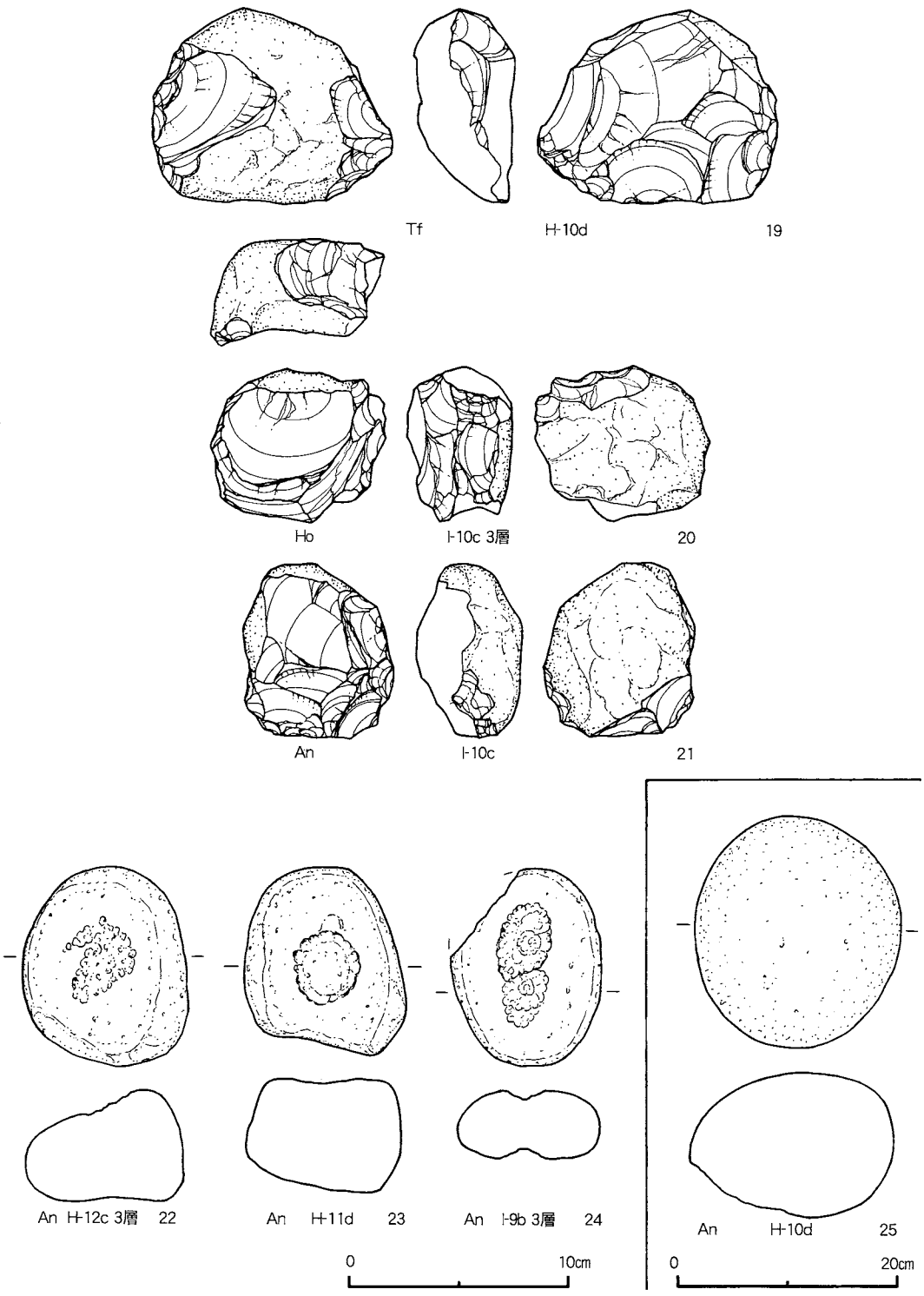
第415図　J—14号住石器実測図



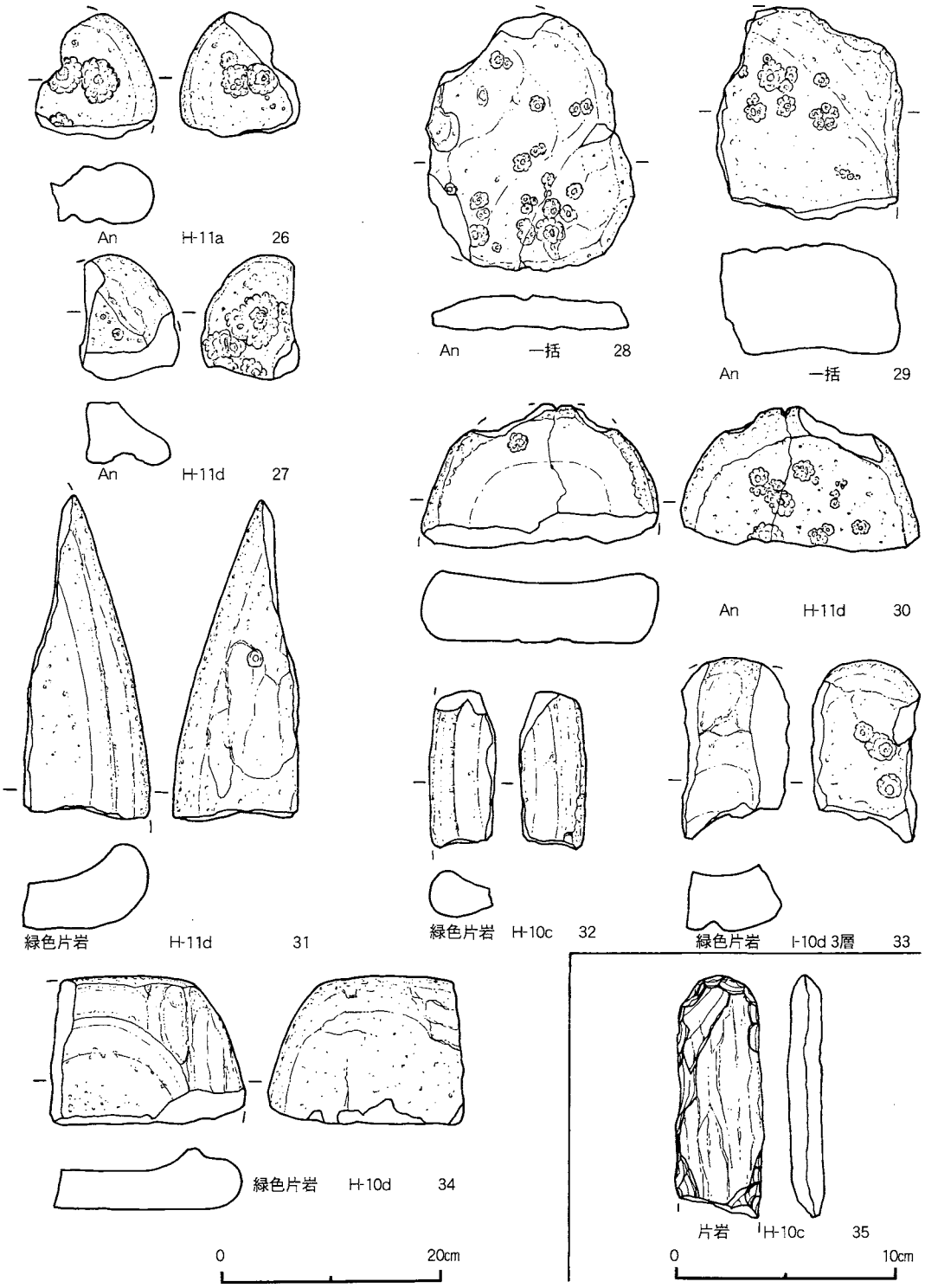
第416図　J—15号住石器実測図



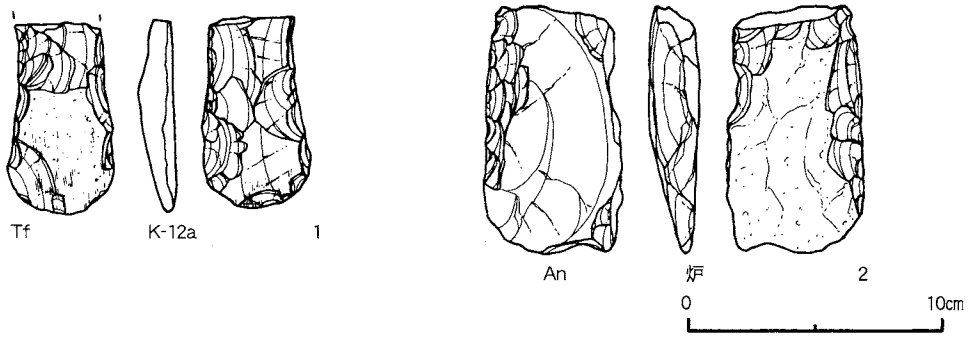
第417図　J—18号住石器実測図(1)



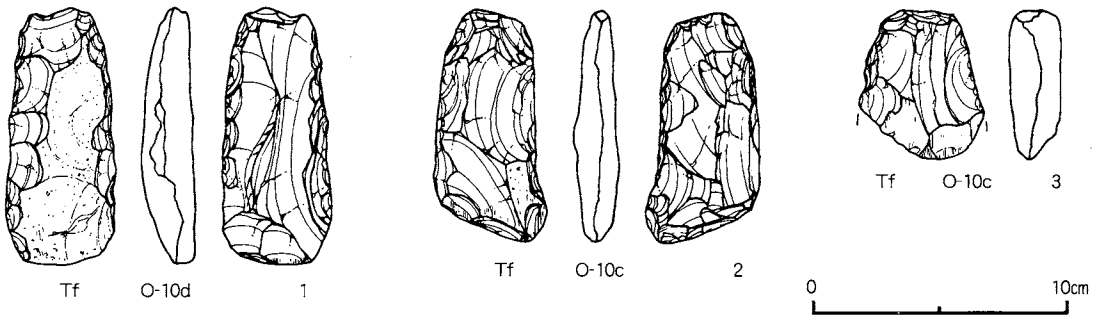
第418図　J－18号住石器実測図(2)

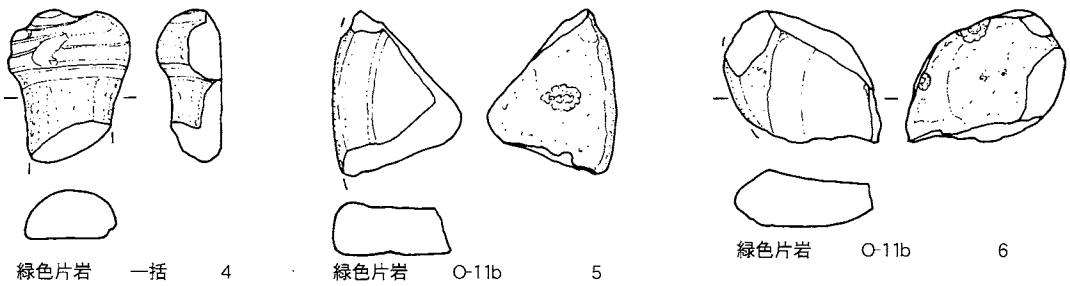


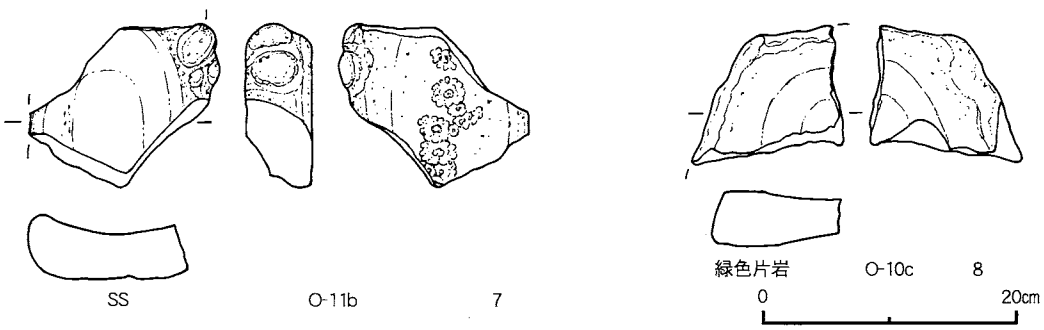
第419図　J－18号住石器実測図(3)



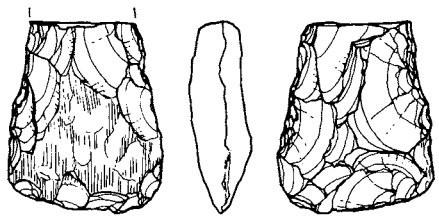
第420図　J—19号住石器実測図



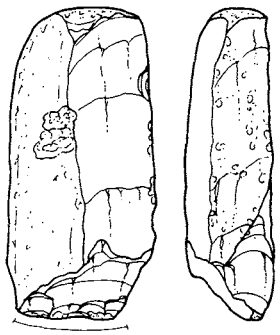




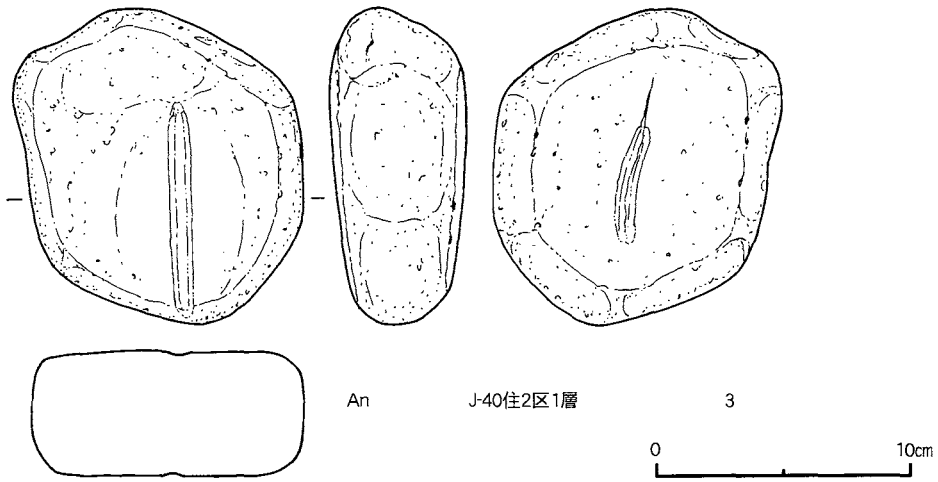
第421図　J—21号住石器実測図



Tf　　J-40住P-19　　1

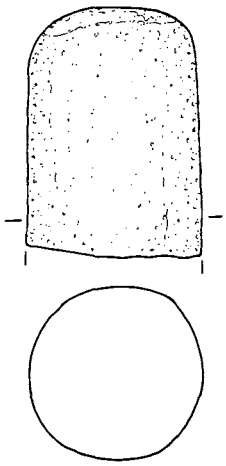


緑色片岩　　J-40住2区1層　　2

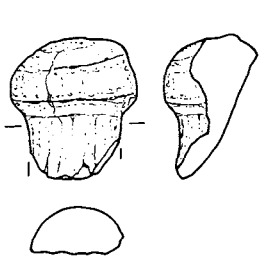


An　　J-40住2区1層　　3

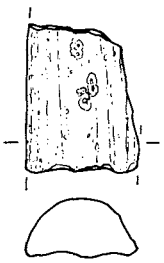
0　　10cm



ひん岩　　Q-10b　　4



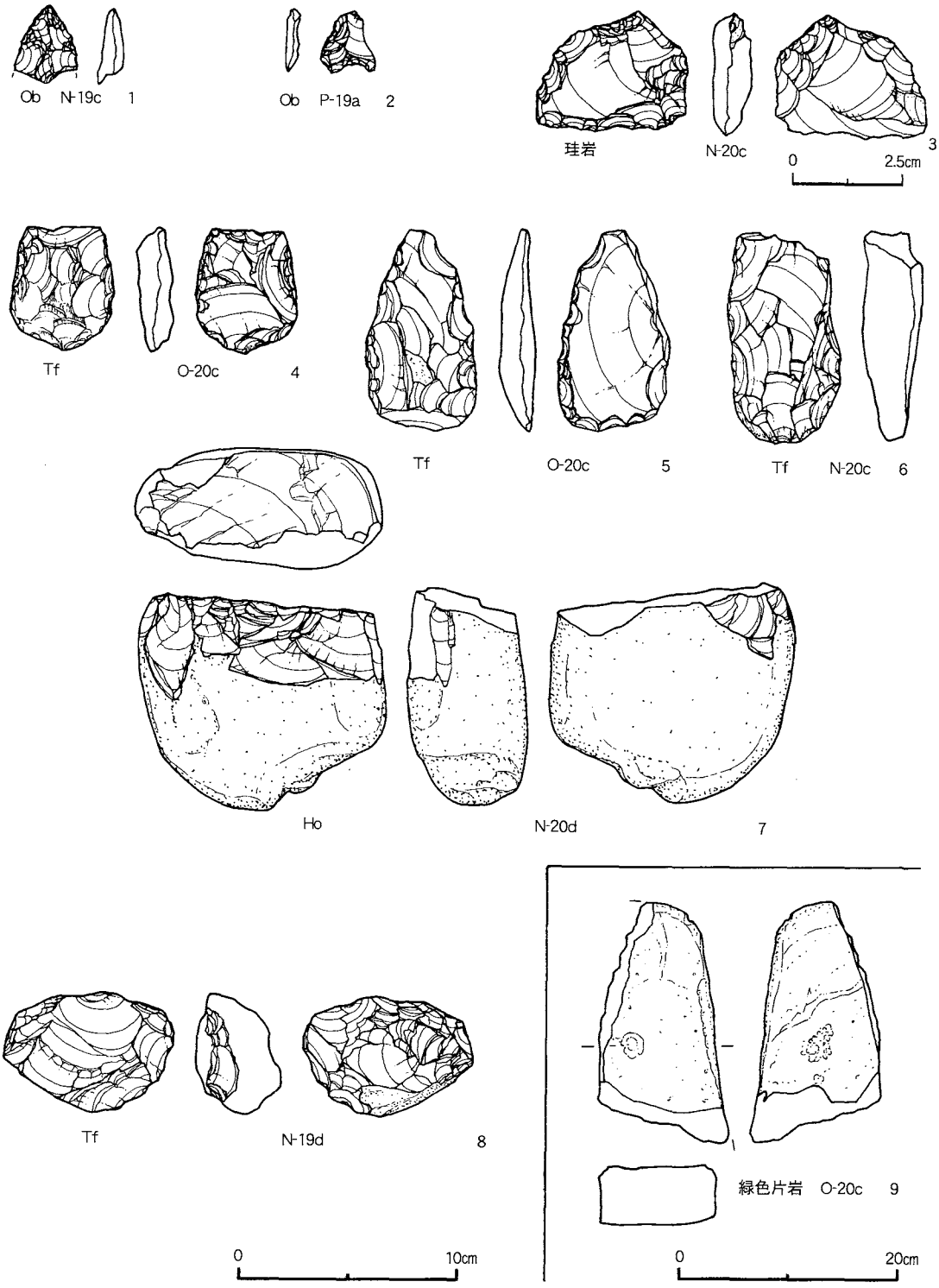
緑色片岩　　Q-11d　　5



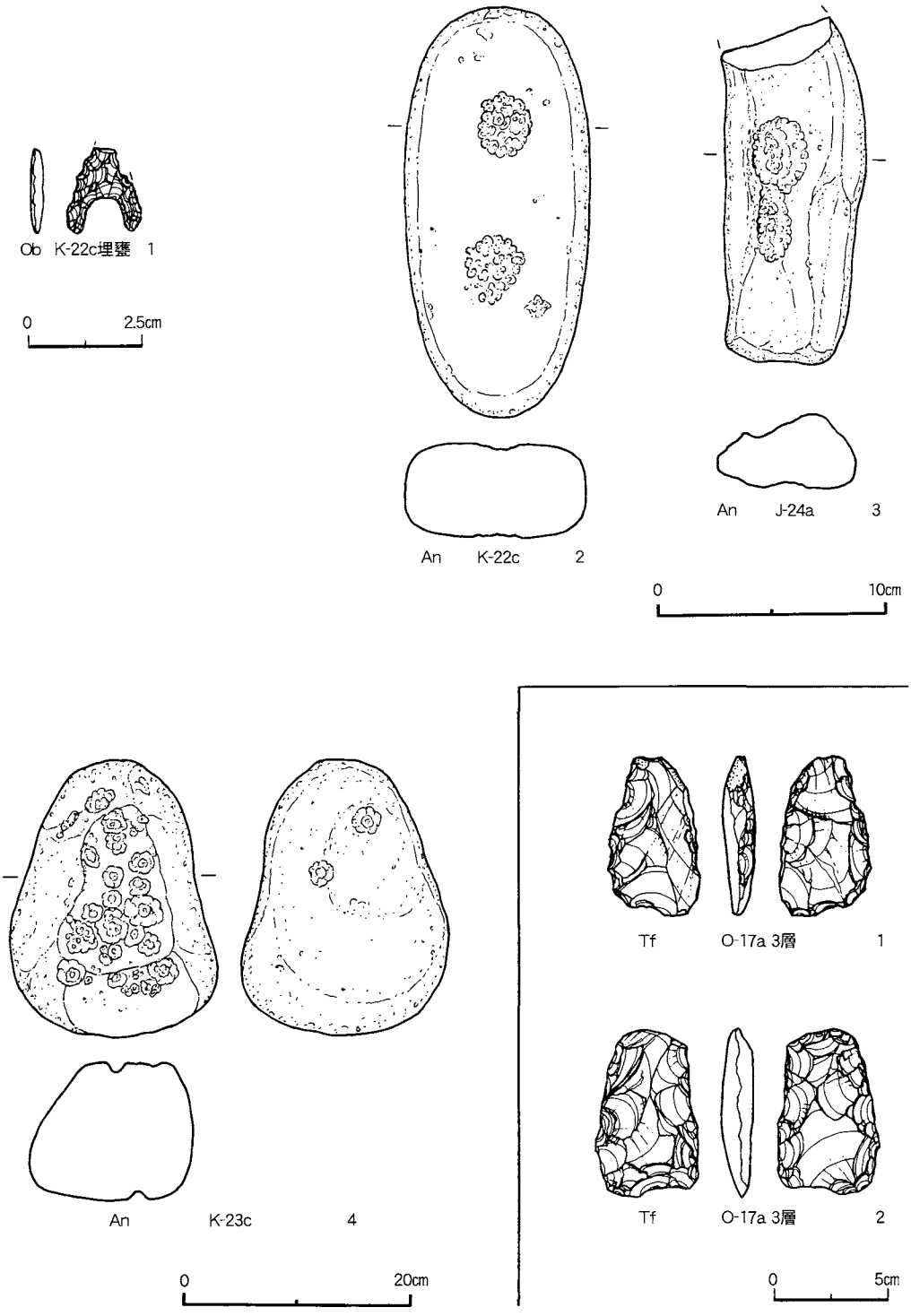
緑色片岩　Q-11d　6

0　　20cm

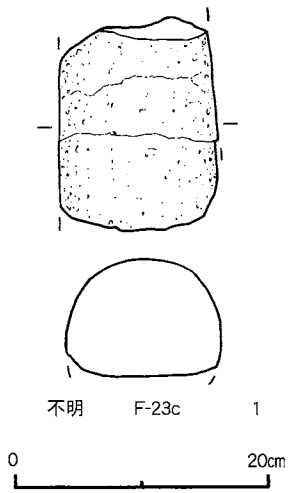
第422図　Ｊ―22号住石器実測図



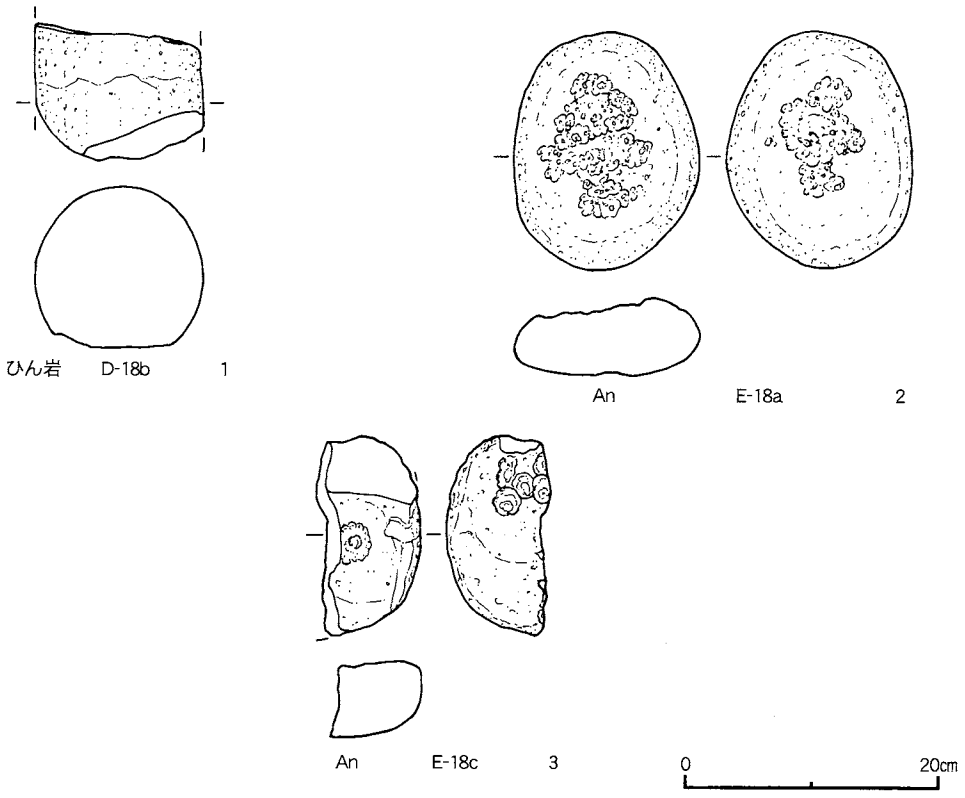
第423図　炉８・炉９（住居の残痕）石器実測図



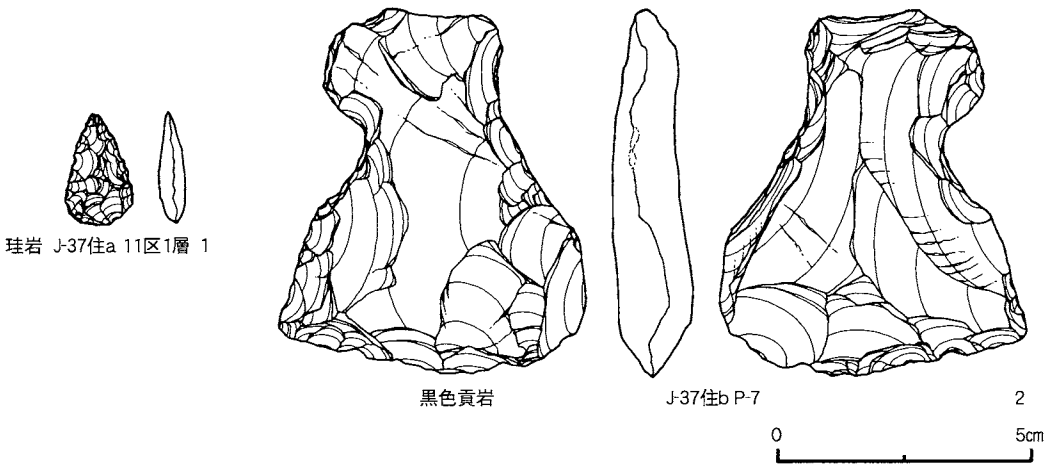
第424図　J—28号住・炉7（住居の残痕）石器実測図



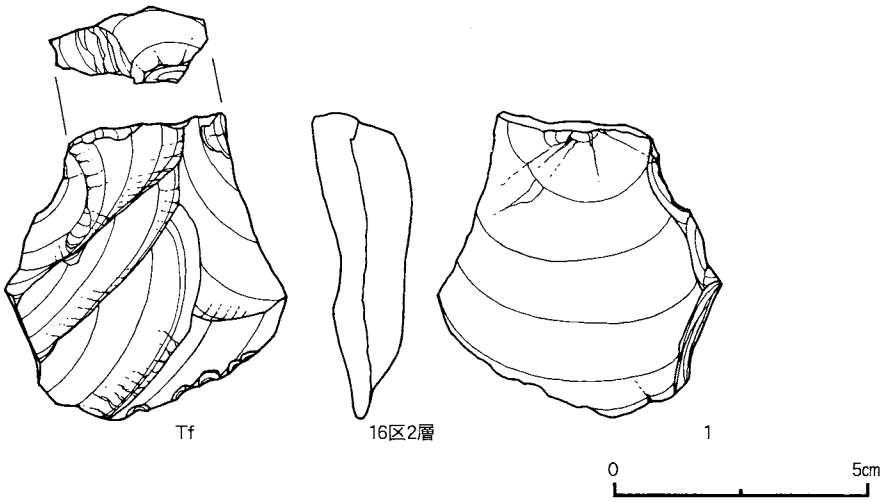
第425図　炉４（住居の残痕）石器実測図

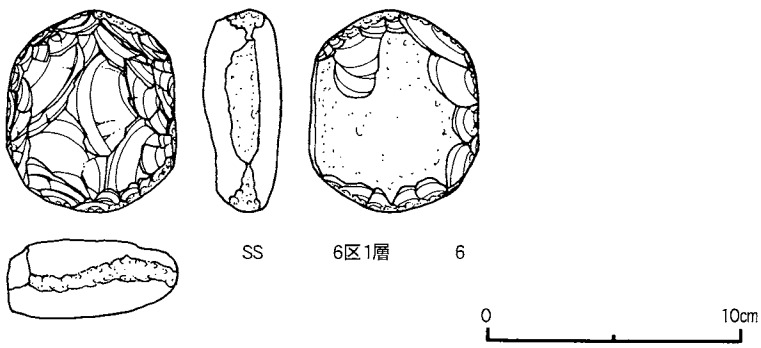


第426図　Ｊ－34号住石器実測図



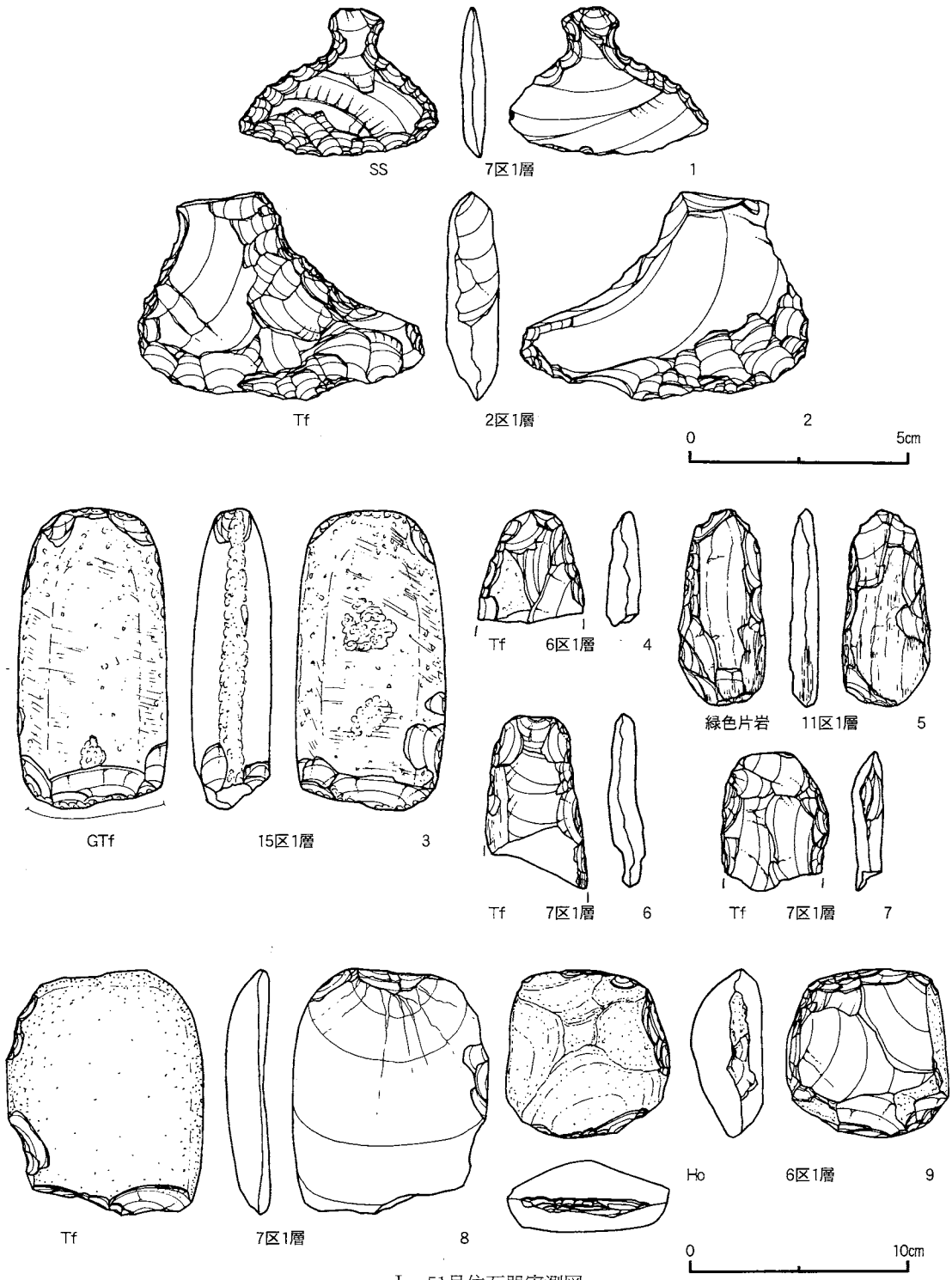
J―37号住石器実測図





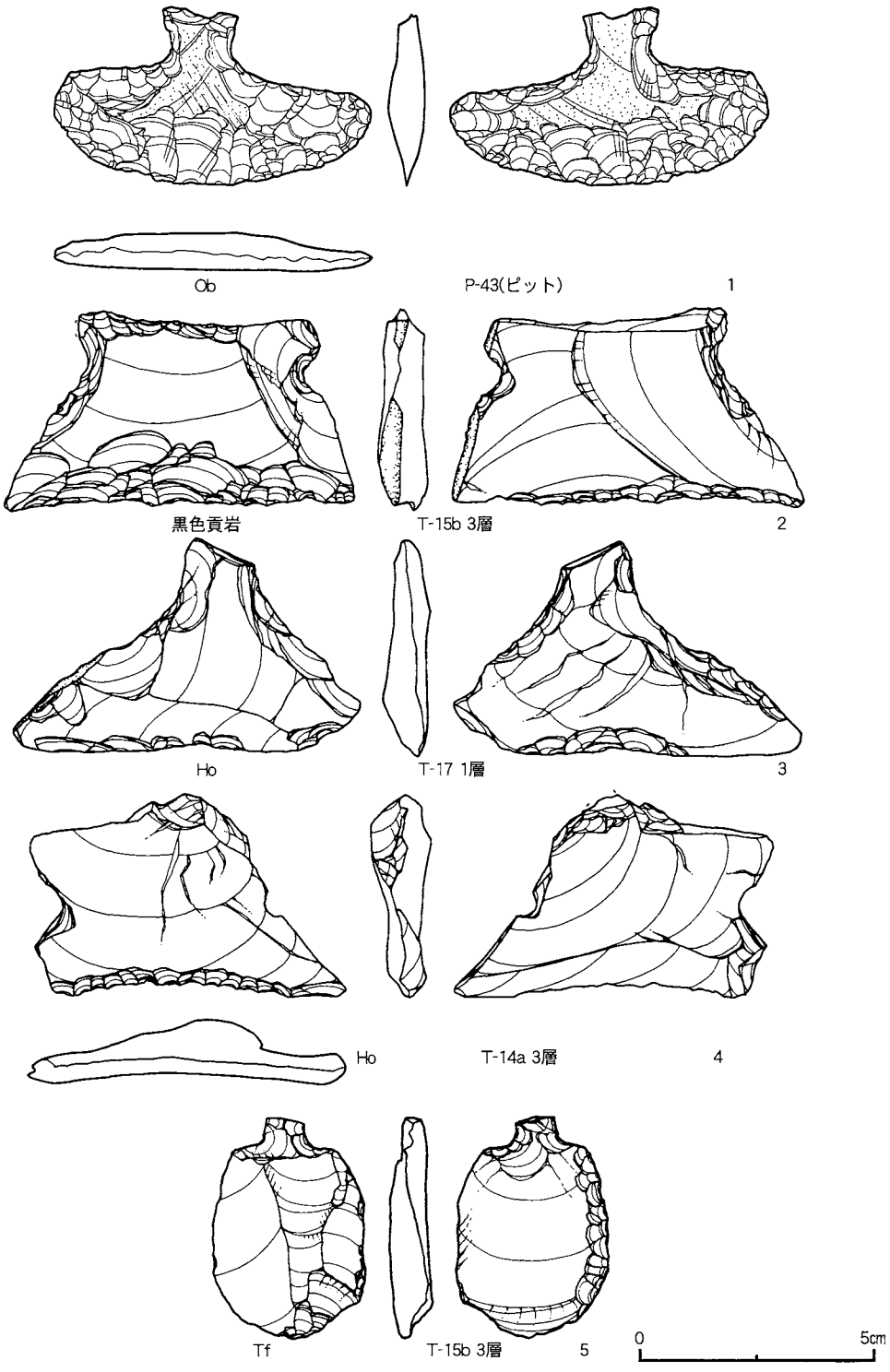
J―44号住石器実測図

第427図　時期不明住居出土の石器実測図(1)

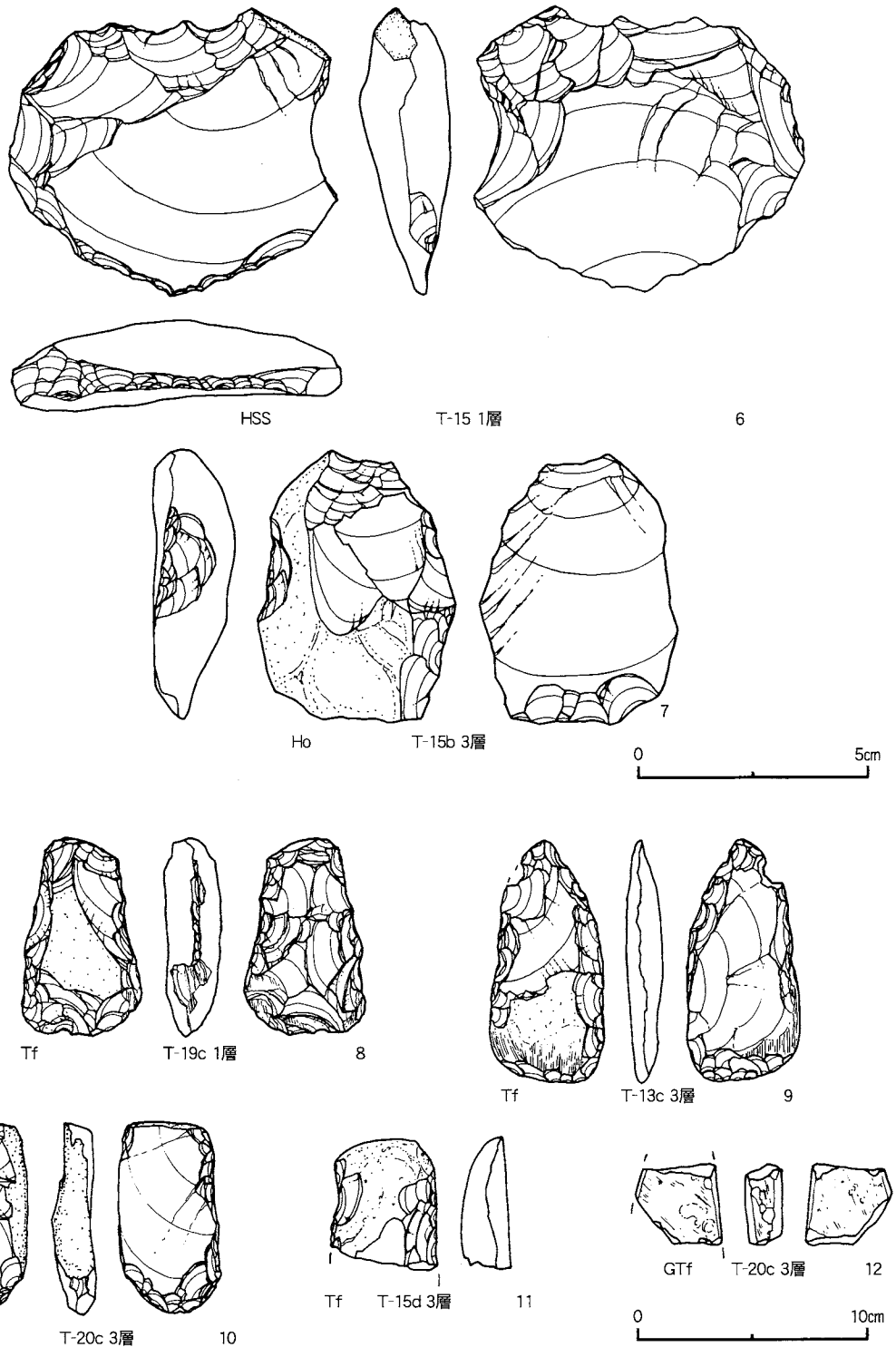


J—51号住石器実測図

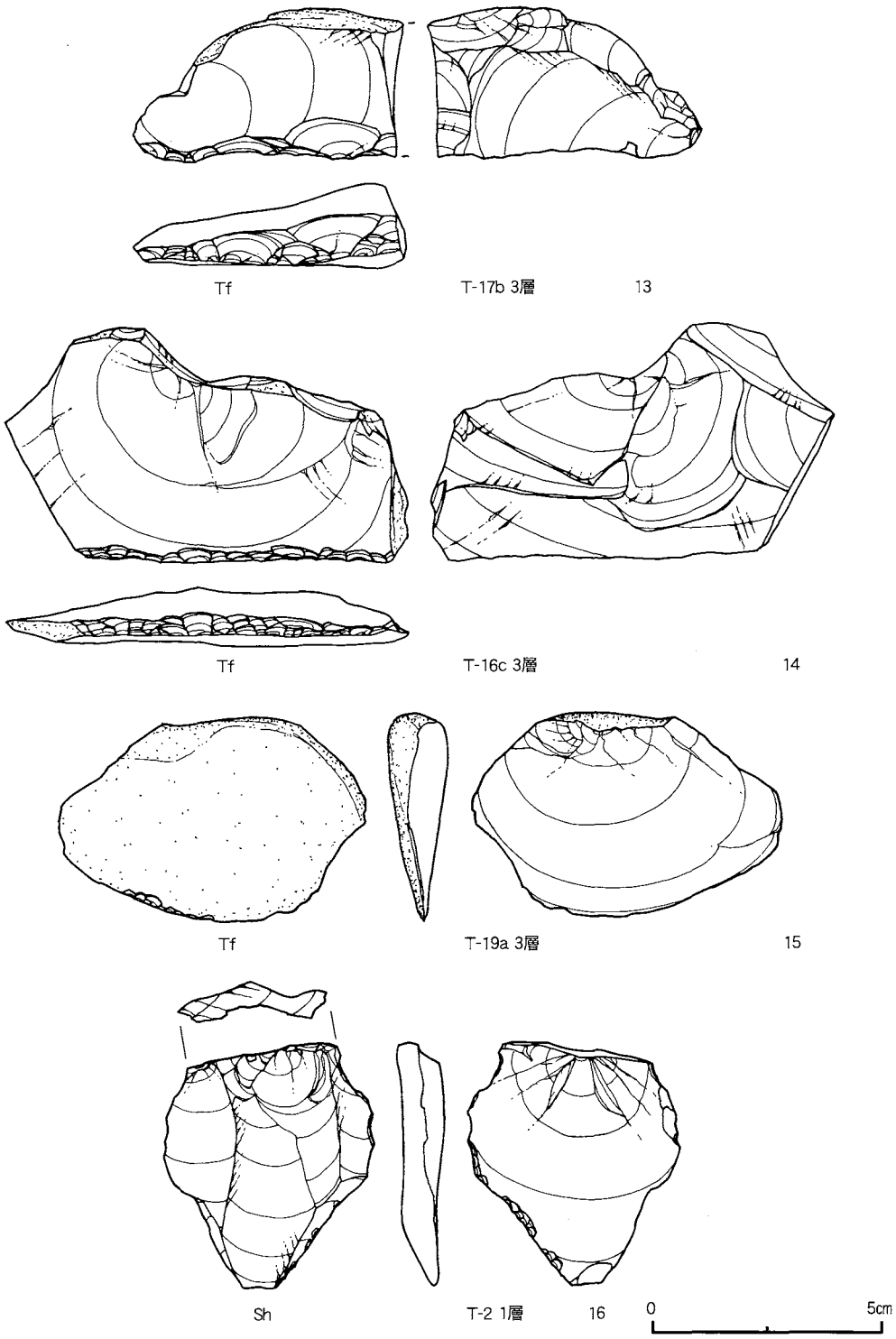
第428図　時期不明住居出土の石器実測図(2)



第429図　遺構外出土の石器実測図(1)



第430図　遺構外出土の石器実測図(2)



第431図　遺構外出土の石器実測図(3)

付編　野村遺跡の石器(2)

1．旧石器時代の石器（第439図１）

槍先形尖頭器１点が検出された。黒曜石製である。木葉形を呈し、基部の先端がごく一部欠損している。左右は対称であり、押圧剝離によって両面加工がされている。最大厚はほぼ中央にあり、先端部は薄く調整され、側縁部は細かい鋸歯状である。また、側縁部中央付近にやや強い力が垂直に加わったと思われる痕跡が認められ、裏面に一部自然面を残すことから、初期段階に剝離された横長剝片が使用されたと推測される。

2．前期の礫石器

ここでは前期礫石器について考察していくが、株式会社アルカの分析結果に伴い、中期の住居址と重複し、被熱が認められる資料は中期の遺物と考え、前期資料としては扱っていない。

器種、石器及び石材分類については凡例の通りであり、『大下原遺跡・吉田原遺跡』（大工原豊他1993）を基本的に踏襲している。また、環状列石を構成する石材に「秋間石」「輝石安山岩」が示されているが、これは安山岩質の溶結凝灰岩（磯貝基一「東上秋間遺跡群周辺の地質と石材」『北原・上久保遺跡』1996）であるので、ここでは一括して安山岩としている。

出土点数が少ないので、以下に様相のみ記述する。

3．前期関山期・諸磯期における礫石器

［C１類石器］

関山期の磨石（第432図１～６）　磨石と凹石は用途において相関関係が認められ、敲打痕の存在する資料もあるが、基本的に扁平面に凹が顕著な物は含まない事とした。

全部で19点検出された。詳細は、Ⅰ形態（円形：１）３点、II形態（楕円形：２・３）10点、Ⅴ形態（不定形：４～６）６点である。III（棒状）・IV（四角形）形態は認められなかった。一番多かったのはII形態であり、この結果は他の市内遺跡と同様であった。石材においては安山岩が17点であった。その他は緑色岩類、砂岩が１点ずつである。

第432図２は欠損しており、表面に敲打痕があった可能性もあるが、表裏共に磨り痕が顕著であり、側面においても敲打後の磨りがあり、磨石と分類した。

諸磯期の磨石（第437図１・２）　全部で３点検出された。Ⅰ形態（１）・II形態・III形態（３）共に一点ずつである。

関山期の凹石（第432図７～12・第433図・第434図１～６）　全部で120点検出された。この器種は形状の他に磨る・敲くの切り合い関係を加味して分類を行っている。詳細はＩａ形態(円形　磨→凹：第432図７）１点、Ｉｂ形態（円形　凹→磨：８）２点、Ｉｃ形態（円形　凹のみ）２点、IIａ形態（楕円形　磨→凹：９～12）13点、IIｂ形態（楕円形　凹→磨：第433図１～６）39点、IIｃ形態（楕円形　凹のみ：７～９）28点、IIIｂ形態（棒状　凹→磨：10・11）５点、IIIｃ形態（棒状　凹のみ：12）７点、IVａ形態(四角形　磨→凹：第434図３）１点、IVｂ形態(四角形　凹→磨：１・２）２点、IVｃ形態（四角形　凹のみ）１点、Ｖａ形態（不定形　磨→凹）１点、Ｖｂ形態（不定形　凹→磨：４）２点、Ｖｃ形態（不定形　凹のみ：５・６）16点である。ここでも格段に多いのはII形態である。石材においても磨石と同様に安山岩が多く、117点であった。第432図９は側面に穿孔がされており、通常の凹石のような敲打痕ではない。何かしらの用途があった可能性があるが、このような例は一点のみであり詳細は不明である。第433図６は、石の形状を変えるほどの敲打痕が側面に見られるが、このような凹石は数点確認された。「敲く」行為そのものによる事以外に、手に持ちやすくするなど使用効率をあげる為の要素もあるのかもしれない。凹石は、表裏面以外にも敲打痕の残るものが多く認められた。

凹石で一番数量の多い形態はII形態（楕円形）である。関山期凹石は120点であり、うちII形態は80点である。凹石で使用されている石材は１点を除いて安山岩であった。角の取れた石材が多い事は河原から搬入されたことが想像できるが、この石材は近くの九十九川や碓氷川等で容易に手に入れることが出来る。形態や石材に大きな偏りが認められるということは、搬入・使用時にかたち、材質を選んでいることを表していると考えられる。まず第一に、手に持つ道具であるから持ちやすい方が良く、消耗品なので手に入れやすい事が望まれる。そして、大きすぎず小さすぎないものが好ましい。そこでII形態の石の大きさ（欠損の無いもの：57点を対象）についてみてみる。長さ8.1～15.8cm、幅5.2～10.9cm、厚さ1.5～8.7cmまであるが、それぞれ長さ12～14cm、幅７、８cm、厚さ４、５cmのものが多く、手に持つにはちょうど良い位の大きさと思われ、また、V形態（不定形）においては表裏面以外での使用痕が認められたのは８％にすぎず、19点中16点が凹のみの使用であった。これにより使用する道具や使用方法は選ばれていたことが考えられ、II形態（楕円形）は使いやすいかたちであったことがわかる。

諸磯期の凹石（第437図３～10）　全部で27点検出された。Ｉａ形態１点、Ｉｂ形態（３）４点、IIａ形態（４）３点、IIｂ形態（５～８）７点、IIｃ形態（９）６点、IVｂ形態（10）１点、IVｃ形態１点、Ｖｃ形態４点である。４は端部がかなり敲打されており、敲石としての機能も共有していたと思われる。６もまた側面をかなり敲打されており、一方を平らに形成し磨っている。８は両側面に抉りを作るように敲打痕が確認された。関山期に見られた、石材の形状を大きく変化させたものの初期段階のものであろうか。諸磯期においてもII形態が多い。IV形態が他の形態

に比べ少ないのは、石材が主に河原で採取されることによるからであろう。上流より流され角が取れたもの、もしくは上流より採取した不定形のものが多かったことに起因すると思われる。

関山期の石皿（第434図７～９・第435図１～４）　全部で13点検出された。Ⅰａ形態（円形　凹面：１）１点、Ⅱａ形態（楕円形　凹面：２～４）４点、Ⅱｂ形態（楕円形　平坦）１点、Ⅲａ形態（不定形　凹面：８・９）３点、Ⅳａ形態（四角形　凹面：７）１点、欠損しており形態が不明なものが３点である。なお、形態が不明であっても、表面を磨っている痕跡が認められる事や(作業面が凹)、破片であっても大きく、磨石や凹石とは明らかに様相が相違する点から石皿と分類した。７は小型で、磨り面以外の面を敲打により成形していると思われる。また、安山岩製であるが器面全体が比較的なめらかであり、磨る行程もなされているようである。類似したものが中野谷松原遺跡の住居址（諸磯ｂ式３・４段階を主体）より出土している。８は作業面が凹であり、磨り痕らしきものが認められたことにより石皿（ミニチュア）としたが、砥石として使用された可能性もある。２～４は結晶片岩製であるが、その石質からであろう、板状の薄いものが多い。形態としては楕円形タイプが多く作業面外周に比較的深い凹が幾つか存在する。これは敲き潰す行為と磨り潰す行為が、連動した一つの行程であることを示しているのであろう。また、３は磨り面中央に意図的に穿孔がなされている。磨り面より打撃が加えられているようである。石皿の穿孔や破壊行為は祭祀的性格を有しているとされている(平出1978、安達1983、大工原1998)が、本遺跡における欠損も13点中12点と高率である。石皿は一部を除き大型のものが多くその石材は安山岩や結晶片岩が多数を占めている。そしてその機能は前述でも述べたが敲打、磨り潰しをするものと考えられている。そうなると必然的に、使用するときは平らな場所に置く事が予想されると共に、重いので遠くへ持ち歩く事はできる限り避けたいと思われる。また、石皿と共に使用する石材等は、当然石皿よりも小さく、磨石や凹石など手に持ち動かしうる範囲のものと思われる。植物等を敲き、磨る行為ではこのように高い欠損率になるとは考え難い。そこから導くと、やはり意図的に破壊していると考えられるだろう。しかしながら、本遺跡における安山岩製の石皿は４点であり厚さのあるものであるが、全て欠損しており、７を除く３点が割れた面を磨っている。また、後に敲打を加えているものもあり実用的な再利用が認められた。結晶片岩製の石皿は８点あり、うち７点が欠損品であるが欠損した箇所に新たに使用痕が認められるものはなかった。石質状、または厚さ等もその要因にあるかもしれない。中野谷松原遺跡においても、穿孔のある石皿は結晶片岩製である。穿孔されている石材が本遺跡周辺で採取可能ではない事や、その色が緑色である点、石棒の素材としても利用されている点にも留意したい。穿孔する・破壊するという行為が石材等にも影響があるのか、大工原氏により指摘された埋葬施設への転用等、今後の資料の増加、さらなる研究に期待したい。

［C 2類石器］

関山期の敲石（第435図５～７） 全部で７点検出された。安山岩が殆どを占め、一点のみ頁岩製である。Ⅰ形態（円形：５）２点、Ⅱ形態（楕円形：６）３点、Ⅲ形態（棒状：７）１点、Ⅴ形態（不定形）１点である。表面にやや敲打した痕跡が認められるものもあり、転用も考えられるが端部における敲打痕が顕著であるのでそちらを重視し敲石と分類した。６は側面も敲打されており磨り痕も認められた。意図的に磨ったのか、敲いている段階で一部磨れたのか不明であるが、特殊磨石のような形態を有している。７点のうち３点が６号住より出土している。６号住は関山期の中でも最も大きな住居址であり、多種の剝片石器が認められている。

諸磯期の敲石（第437図11） 全部で２点検出された。Ⅱ形態（11）とⅢ形態が一点ずつ、安山岩、頁岩製である。

関山期の砥石（第436図１～３） 全部で３点検出された。Ⅰ形態（荒砥：１・２）２点、Ⅱ形態（中砥：３）１点である。１と２は４号住の同じ区・層より出土しており、なおかつ１は３個体で形成されている。ここで砥石としたものは、牛伏砂岩と言われるもので本遺跡周辺で採取可能なものではない。その特徴はボロボロと崩れるような軟質なものであり、１と２は同一個体であった可能性がある。

諸磯期の土器磨き石 図示していないが、一点検出された。

［D類石器］

関山期の棒状礫（第436図４～８） 全部で７点検出された。うち６点が結晶片岩製であり、一点は安山岩製である。５点が欠損している。結晶片岩については石皿の項においても述べたが、容易に採取できるものではない。また、石棒にも使用される石材である。本遺跡における棒状礫は端部に欠損の認められるもの、途中で割れているものが多い。石材からみて、なにかしらの意味を持って遺跡内に持ち込まれたものと思われるが、祭祀的な意味を有するのか、石器製作上の道具であるのか、またはそれ以外の意味を持つのか、今後の資料の増加に期待したい。さらに、諸磯期の住居址より出土していない点も興味深い。

関山期の丸石（第436図９～11） 全部で３点検出された。全て安山岩製である。９は表面が渦巻き状になっており研磨され形成された可能性がある。

関山期の多孔石（第436図13･14） 全部で２点検出された。安山岩製であり、欠損している。13は表裏共に平らな面であり据え置く事が可能であるが、14は円礫状を呈しており、地面に置くには支えを使用する、もしくは地面に穴を掘り据えたのだろうか。今後の資料の増加が期待される。

諸磯期の多孔石（第437図12） 全部で４点検出された。全て安山岩製であり、うち３点が欠損している。

4．中期・時期不明の石器（第438図）

ここでは、中期の住居址と重複し、前期住居址より取り上げられていても、被熱が認められた為に中期の遺物とした石器、また、前期関山期と諸磯期の重複により時期が明確でないものについて扱う。

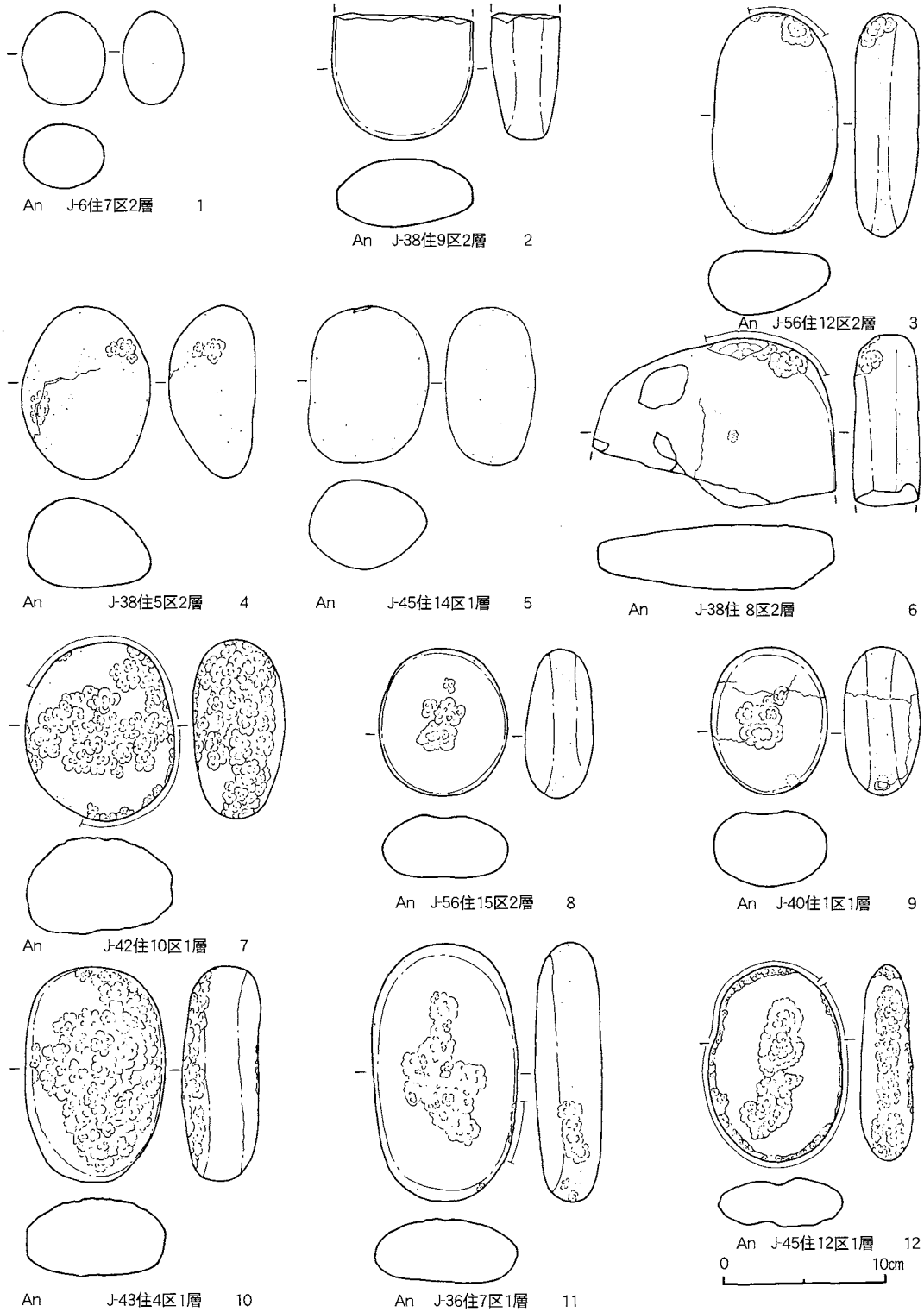
1・2は磨石でありII形態である。3～6は凹石である。6は他の凹石に比べ大きいが、敲打痕が比較的広範囲に広がり、中央部に深い凹が認められたので凹石と分類した。被熱が顕著であり崩れてしまう程である。7は多孔石であり、欠損した2個体が接合したものである。8は石皿である。9は石棒であるが、底部は敲打と研磨が確認された。欠損後の再利用なのかは明確ではない。

5．ピット・列石・グリッド出土の石器（第439図）

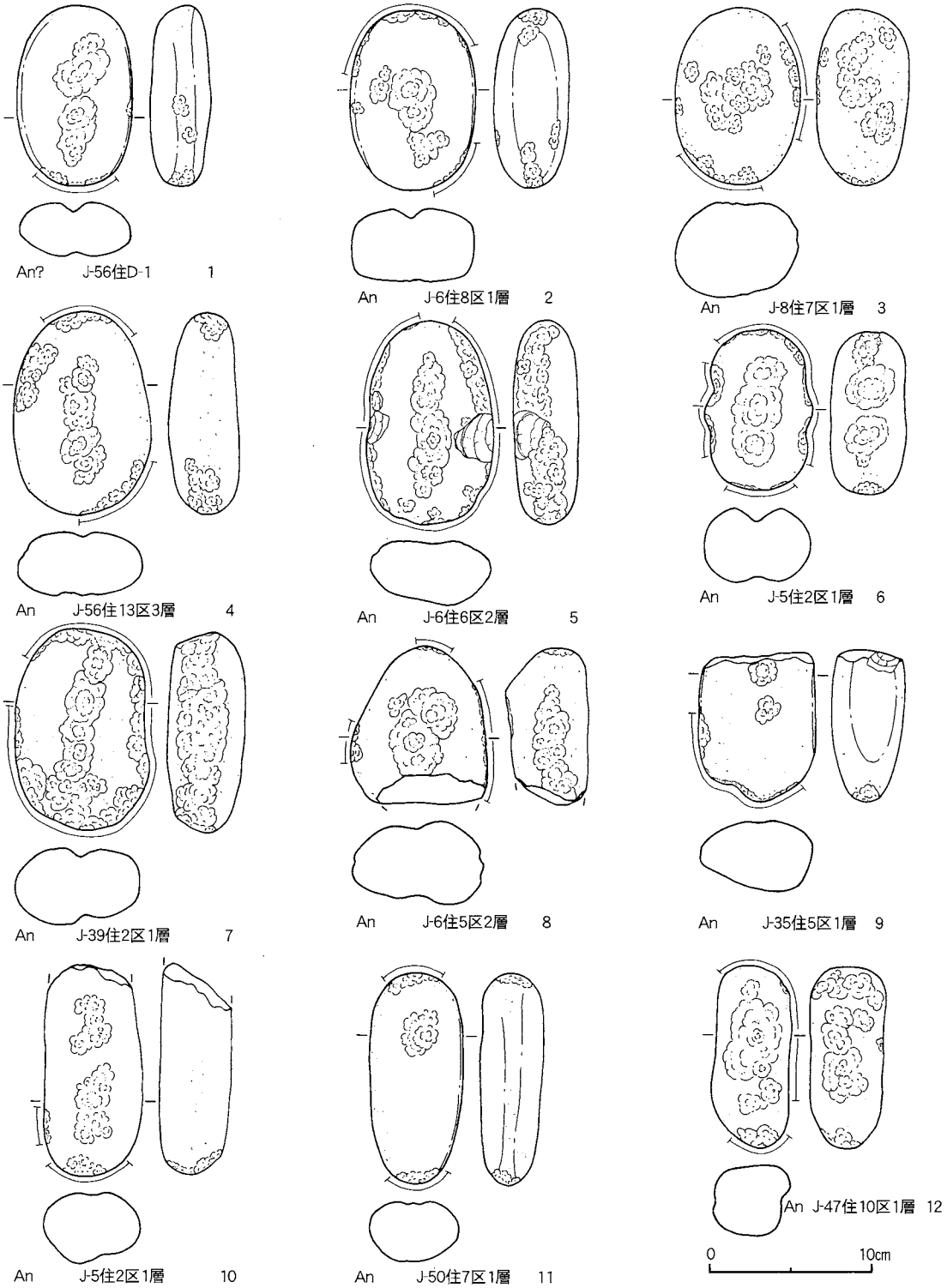
1は旧石器の遺物であり、本稿最初の旧石器遺物の項に記述してある。2は石槍であり頁岩製である。3はオレンジ色をしたメノウであり、両極技法により剝離されている。4は石製品（耳飾り）であり、半分が欠損している。5・6は石製品（玦状耳飾り）である。5は補修孔があり、蛇紋岩製である。6もまた欠損している。緑がかったメノウである。7は垂飾である。石材は牛伏砂岩であり、加工が加えやすい石材が選ばれたものと思われる。8は石棒である。石材は緑色岩類であり、先端部が研磨されている。9は石刀であり緑色岩類製である。10は石皿であり、小型の特殊なものと位置づけた。すり鉢状になっており、底部にも凹があり全体を研磨し形成していると思われる。11は列石中より検出された石棒である。結晶片岩製であり全体を敲打により形成し、後に研磨したと推定されるが、先端部の研磨痕は特に顕著である。

6．A類原石（第436図12）

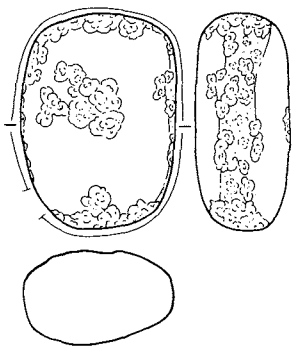
メノウの原石である。（伊藤）



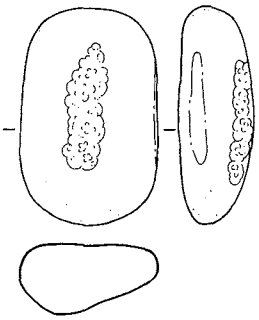
第432図　関山期住居出土の礫石器(1)



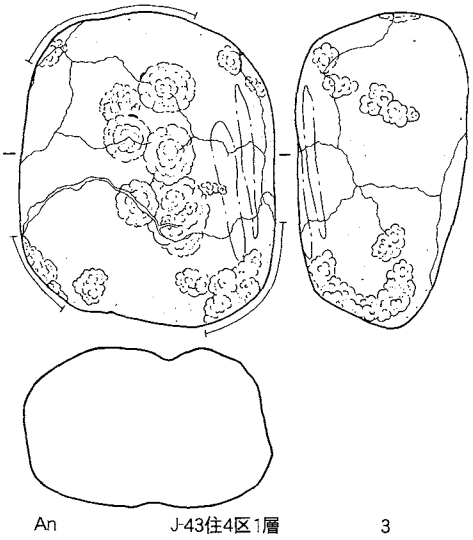
第433図　関山期住居出土の礫石器(2)



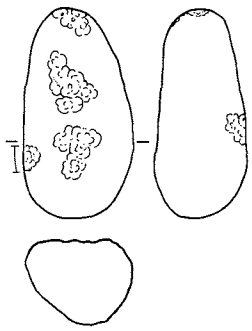
An　J-9住3区1層　1



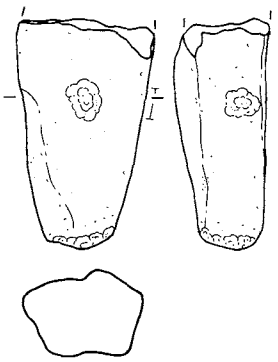
An　J-38住8区2層　2



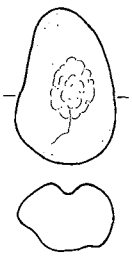
An　J-43住4区1層　3



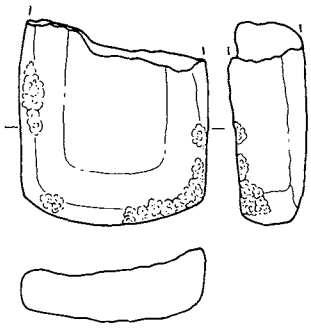
An　J-45住11区1層　4



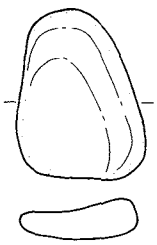
An　J-5住7区1層　5



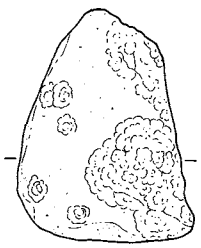
An　J-9住7区1層　6



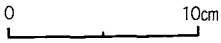
An　J-40住12区2層　7

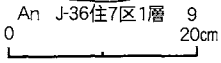


SS　J-5住6区1層　8

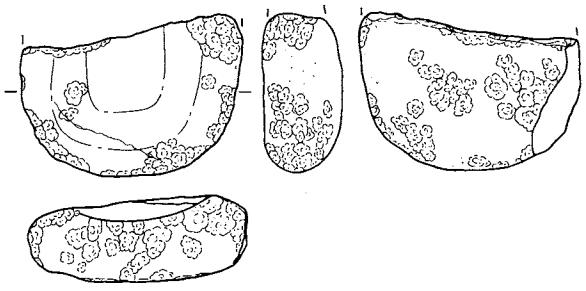


An　J-36住7区1層　9

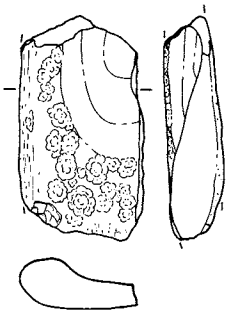




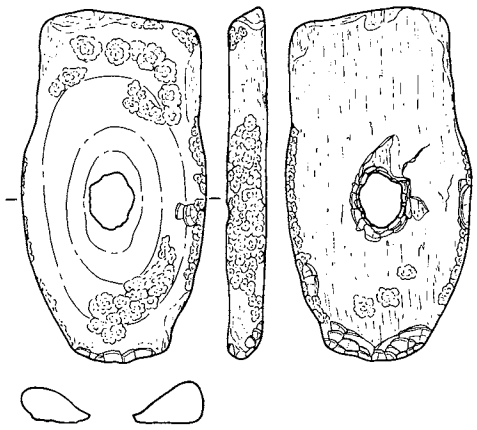
第434図　関山期住居出土の礫石器(3)



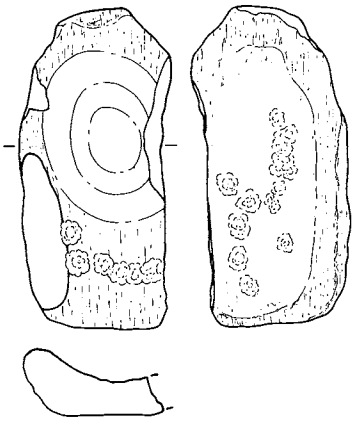
An　J-6住P-3　1



Sc　J-36住15区1層　2

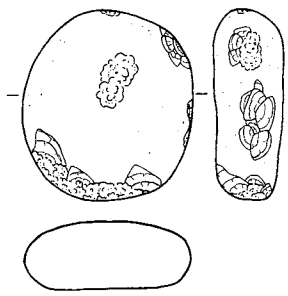


Sc　J-36住7区1層　3

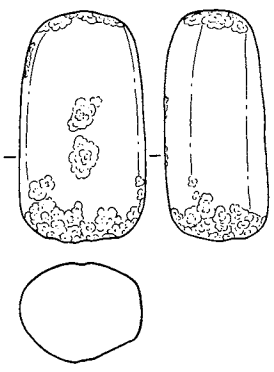


Sc　J-6住一括　4

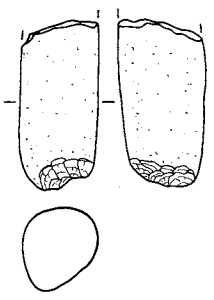
0　20cm



An　J-45住15区1層　5



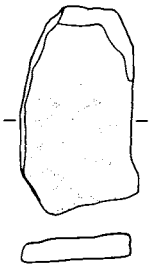
An　J-6住15区1層　6



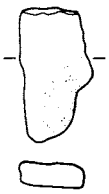
An　J-6住10区1層　7

0　10cm

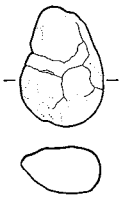
第435図　関山期住居出土の礫石器(4)



SS　J-4住8区1層　1

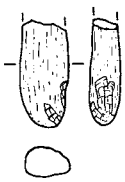


SS　J-4住8区1層　2

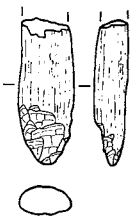


SS　J-9住12区2層　3

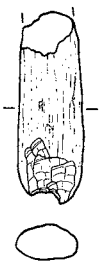
An　J-35住7区1層　4



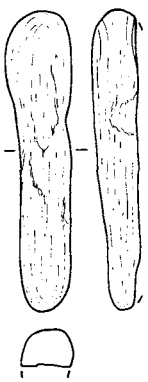
Sc　J-50住10区1層　5



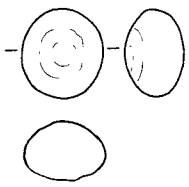
Sc　J-48住11区1層　6



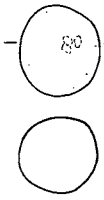
Sc　J-35住10区2層　7



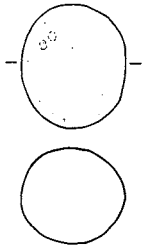
Sc　J-48住14区1層　8



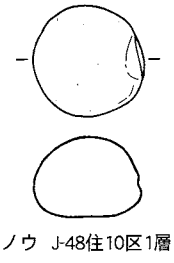
An　J-35住4区2層　9



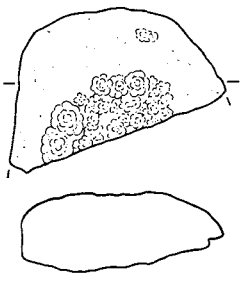
An　J-43住6区1層　10



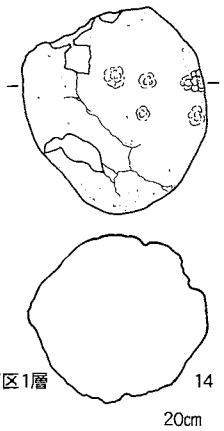
An　J-45住6区1層　11



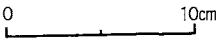
メノウ　J-48住10区1層　12

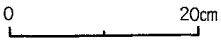


An　J-45住11区1層　13

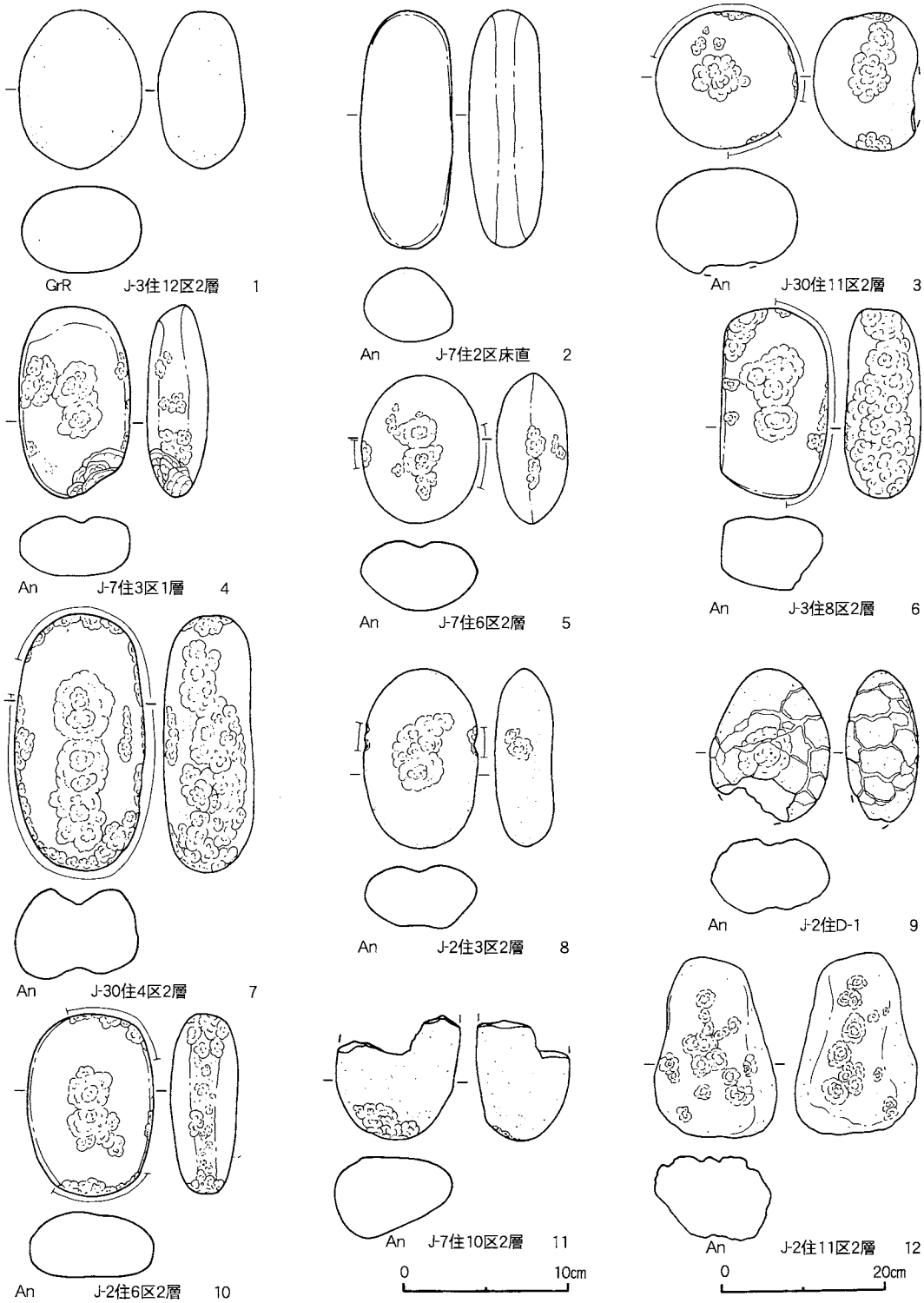


An　J-9住7区1層　14

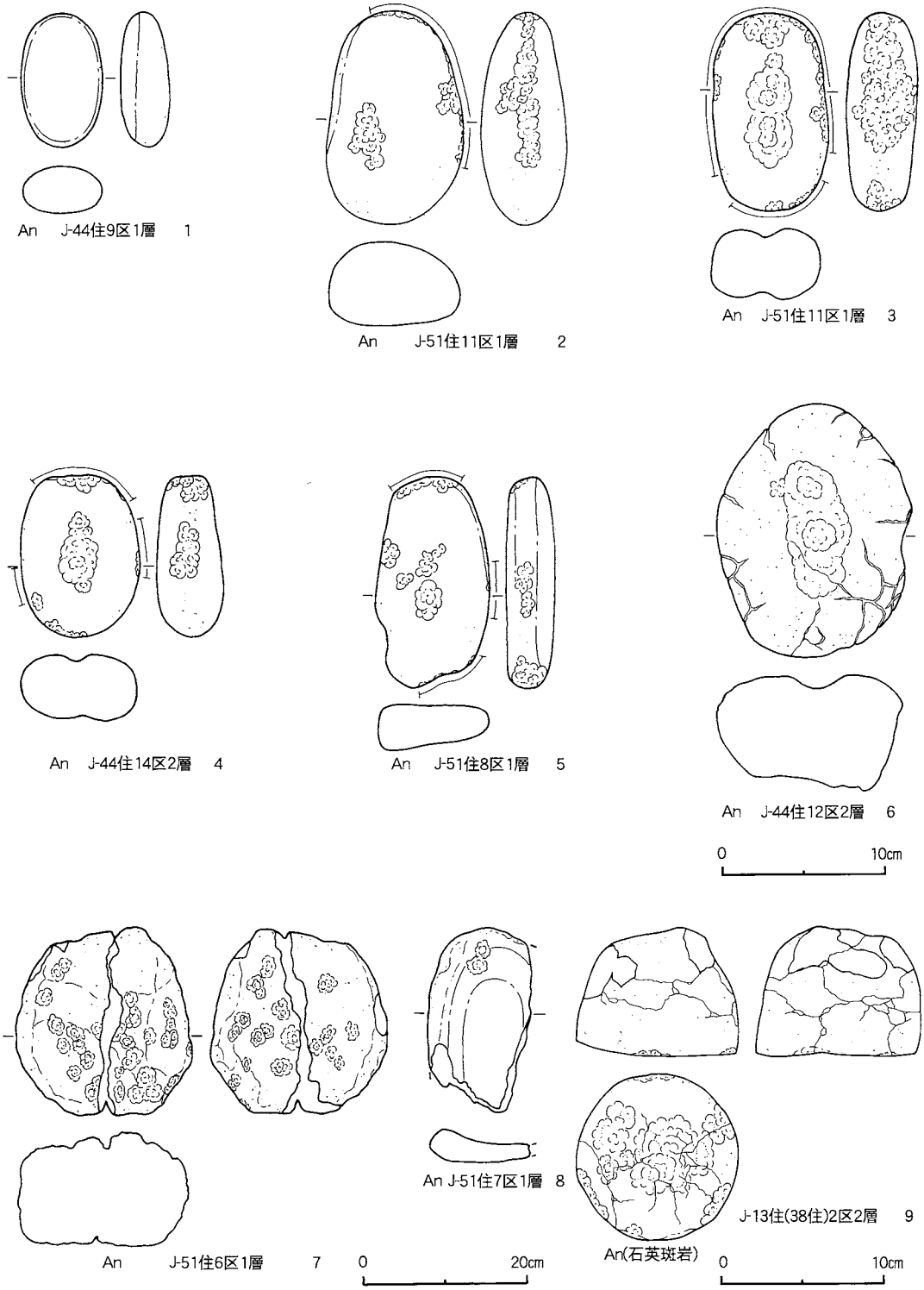




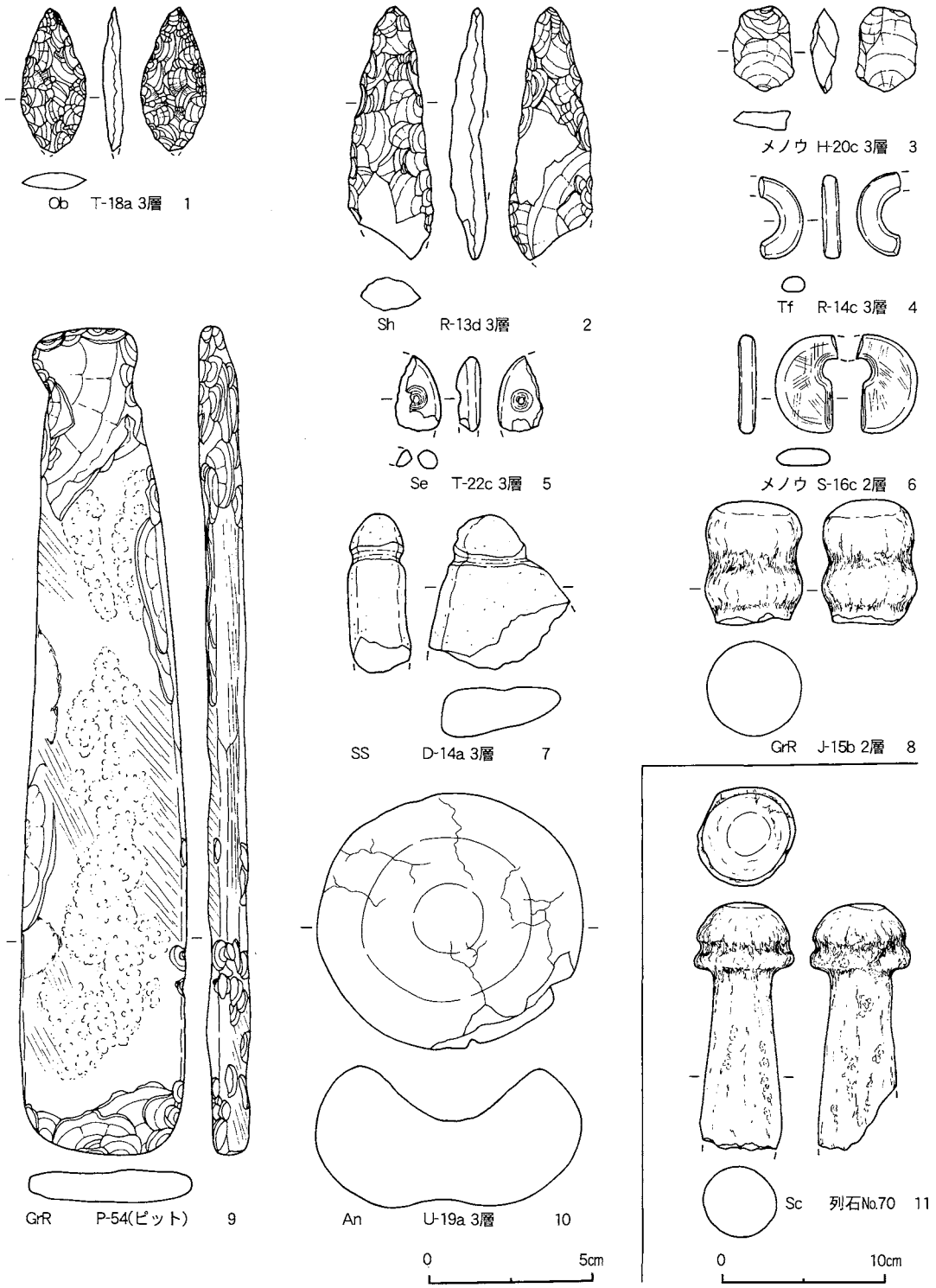
第436図　関山期住居出土の礫石器(5)



第437図　諸磯期住居出土の礫石器



第438図　時期不明・中期住居出土の礫石器



第439図　ピット・列石・グリッド出土の石器

参考文献

渡瀬荘三郎　1886　「北海道後志國に存する環状石籬の遺跡」『人類学会報告』第1巻第2号

長谷部言人　1919　「陸前國細浦上の山貝塚の環状列石」『人類学雑誌』35巻4号

宮坂光次　1925　『北海道の環状石籬」『考古学雑誌』第15巻第1号㈠

赤堀英三　1929　「石器研究の一方法―石鏃に關する二三の試み一」『人類學雑誌』第44巻第3號

赤堀英三　1931　「打製石鏃の地域的差異」『人類學雑誌』第46巻第5號

赤堀英三　1931　「磨製石斧の形態と石質との關係に就て」『人類學雑誌』第46巻第3號

山内清男　1939　『日本先史土器図譜』

大山　柏　1941　「史前巨石建造物」『史前学雑誌』第13巻第1・2号

大場磐雄　1946　「磐座・磐境等の考古学的考察」『考古学雑誌』第32巻第8号

駒井和愛　1950　「日本における巨石記念物」『考古学雑誌』第36巻第2号

駒井和愛　1951　『我が国に於ける巨石記念物　続」『考古学雑誌』第37巻第1号

武藤鐵城　1951　「八津の環状石籬墳群」『考古学雑誌』第37巻第4号

河野廣道・護　雅夫　1952　「カムイコタンのストーン・サークル」『考古学雑誌』第38巻第5・6号

駒井和愛　1952　「日本に於ける巨石記念物　続々」『考古学雑誌』第38巻第1号

駒井和愛　1952　「日本における巨石記念物　続々々」『考古学雑誌』第38巻第5・6号

江坂輝彌　1953　「岩手県岩手郡釜石遺跡」『日本考古学年報　6』

文化財保護委員会　1953　『大湯環状列石』

文化庁　1953　『大湯町環状列石』

奥山　潤　1954　「縄文晩期の組石棺」『考古学雑誌』第40巻第2号

駒井和愛　1955　「北海道音江の環状列石」『考古学雑誌』第41巻第1号

川口重一　1956　「大湯町環状列石の配置」『郷土文化』第11巻第1号

駒井和愛　1959　『音江』

弘前市教育委員会　1960　「大森勝山遺跡」『岩木山麓古代遺跡』

駒井和愛　1961　「岩手県沢内村のストーン・サークル」『考古学雑誌』第47巻第2号

藤森栄一　1963　「縄文中期における石匙の機能的変化について」『考古学雑誌』第49巻第3号

尾崎喜左雄　1964　「安中市旧秋間村の古墳」『信濃』16巻1号

小出義治　1967　「縄文後期の石造遺構群」『考古学ジャーナル』№10

阿部義平　1968　「配石墓の成立」『考古学雑誌』第54巻第1号

軽井沢町教育委員会　1968　『軽井沢町茂沢南石堂遺跡』

水野正好　1968　「環状組石墓群の意味するもの」『信濃』第20巻第4号

TOWNSEND・William　1969　「Stone and steel tool use in a New Guinea society, Ethnolohy, Vol.Ⅷ」

岩木山刊行会　1969　「大森勝山遺跡」『岩木山』

小坂町教育委員会　1969　『小坂環状列石墳墓』

木村剛朗　1970　「縄文時代石器における機能上の実験」『考古学ジャーナル』№43

渡辺　誠　1970　「縄文時代における埋甕風習」『考古学ジャーナル』№40

大林太良　1971　「縄文時代の社会組織」『季刊人類学』2巻2号

勝田　茂　1972　『新体育学講座　第60巻　登山生理学』逍遙書院

木村剛朗　1972　「実験よりみた敲石とその用途(1)」『考古学ジャーナル』№74

木村剛朗　1972　「実験よりみた敲石とその用途(2)」『考古学ジャーナル』№75

日下部善巳　1972　「縄文時代の東日本における生産用具の時間的空間的様相」『福島考古』第13号　福島県考

古学会
千居遺跡発掘調査団　1972 『千居遺跡』
江坂輝彌　1973 「配石墓と敷石遺跡」『古代史発掘　②　縄文土器と貝塚』
原田道雄　1973 「関東地方の初期横穴式石室墳」『駿台史学』30号
松沢亜生　1973 「石器を造る(1)」『考古学ジャーナル』No.88
小林康男　1974 「縄文時代生産活動の在り方(1)―特に中部地方における縄文時代前期・中期の石器組成を中心として―」『信濃』第26巻第12号
斎藤　忠　1974 「配石遺構とは何か　何のためにつくられたのか」『日本考古学の視点［上］』
松沢亜生　1974 「石器を造る(2)」『考古学ジャーナル』No.95
小林康男　1975 「縄文時代生産活動の在り方(2)―特に中部地方における縄文時代前期・中期の石器組成を中心として―」『信濃』第27巻第２号
小林康男　1975 「縄文時代生産活動の在り方(3)―特に中部地方における縄文時代前期・中期の石器組成を中心として―」『信濃』第27巻第４号
小林康男　1975 「縄文時代生産活動の在り方(4)―特に中部地方における縄文時代前期・中期の石器組成を中心として―」『信濃』第27巻第５号
岡村道雄　1976 「ピエス・エスキーユについて」『東北考古学の諸問題』東北考古学会編
小田静夫　1976 「縄文中期の打製石斧」『どるめん』10
杉山博久　1976 「縄文時代の配石遺構」『考古学ジャーナル』No.119
長崎元広　1976 「石棒祭祀と集団構成」『どるめん』８
林　謙作　1976 「縄文期の葬制　第Ⅰ部　研究史」『考古学雑誌』第62巻第４号
山本暉久　1976 「敷石住居出現のもつ意味」『古代文化』第28巻２号・３号
岩佐今朝人　1977 「烏帽子岳南麓台地における縄文・中期末の打製石器に関する一考察」『長野県考古学会誌』28　長野県考古学会
大矢昌彦　1977 「石棒の基礎的研究」『長野県考古学会誌』28　長野県考古学会
神奈川県教育委員会　1977 『下北原遺跡』
木村英明　1977 「北海道恵庭市　柏木Ｂ遺跡発見の「環状土籬」」『どるめん』No.15
林　謙作　1977 「縄文期の葬制　第Ⅱ部　遺体の配列特に頭位方向」『考古学雑誌』第63巻第３号
大谷敏三　1978 「環状土籬について」『考古学ジャーナル』No.156
能登　健　1978 「縄文時代の凹穴に関する覚書」『信濃』第30巻第４号
平出一治　1978 「縄文時代の石皿について」『信濃』第30巻第４号
飯島町教育委員会　1979 『堂前』
坂詰秀一　1979 「縄文時代配石遺構管見」『考古学ジャーナル』No.170
戸田哲也・大矢昌彦　1979 「神之木式・有尾式土器の研究（前）」『長野県考古学会誌』34
山内清男　1979 「日本先史土器の縄文」『先史考古学会』
江藤　昭　1980 「神奈川県下溝稲荷林遺跡発見の方形配石遺構」『考古学ジャーナル』No.175
加藤晋平・鶴丸俊明　1980 『石器の基礎知識』Ⅰ柏書房
加藤晋平・鶴丸俊明　1980 『石器の基礎知識』Ⅱ柏書房
小泉袈裟勝　1980 「古代社会の計量技術」『歴史公論』No.54
斜里町教育委員会　1980 『オクシベツ川遺跡発掘調査報告書』
鈴木敏昭　1980 「諸磯ｂ式土器の構造とその変遷（再考）」『土曜考古』第２号　土曜考古学研究会
鈴木保彦　1980 「関東・中部地方を中心とする配石墓の研究」『神奈川考古』第９号

安田善憲　1980 『環境考古学事始』ＮＨＫブックス
渡瀬拓郎　1980 「環状土籬の成立と解体」『考古学研究』第27巻第３号
小林公明　1981 「山梨県牛石遺跡」『探訪　縄文の遺跡　東日本編』
笹森健一　1981 「縄文時代前期の住居と集落（Ⅰ）」『土曜考古』３　土曜考古学研究会
笹森健一　1981 「縄文時代前期の住居と集落（II）」『土曜考古』４　土曜考古学研究会
辰巳四郎　1981 「佐貫環状列石」『栃木県史　資料編・考古１』
永峯光一　1981 「縄文時代の信仰と葬制」『長野県史　考古資料編全一巻(四)』
新津　健　1981 「山梨県金生遺跡」『探訪　縄文の遺跡　東日本編』
新津　健・八巻与志夫・山下孝司・奈良泰史　1981 「山梨県北巨摩郡大泉村　八ヶ岳南麓・金生遺跡と縄文晩期の地域的諸問題」『どるめん』№29
山崎　丈　1981 「秋田県大湯環状列石」『探訪　縄文の遺跡　東日本編』
山本暉久　1981 「縄文時代中期後半期における屋外祭祀の展開」『信濃』第33巻第４号
今村啓爾　1982 「諸磯式土器」『縄文文化の研究』３雄山閣
江坂輝彌　1982 「特集　「縄文時代の墓制」に依せて」『考古学ジャーナル』№208
笹森健一　1982 「縄文時代前期の住居と集落（III）」『土曜考古』５　土曜考古学研究会
鈴木保彦　1982 「縄文時代の土壙墓・石棺墓」『考古学ジャーナル』№208
鈴木義昌　1982 「縄文時代の墓制」『考古学ジャーナル』№208
千代　肇　1982 「縄文時代の墓制としての環状列石」『考古学ジャーナル』№208
渡辺　誠　1982 「縄文時代の甕棺」『考古学ジャーナル』№208
阿部義平　1983 「配石」『縄文文化の研究　９』
大谷敏三　1983 「環状土籬」『縄文文化の研究　９』
千葉市立加曽利貝塚博物館　1983 『縄文時代の石器』
中束耕志・飯島静男　1983 「群馬県における旧石器・縄文時代の石器石材」『群馬県立歴史博物館年報』第５号
羽生淳子　1983 「稲荷丸北遺跡出土の縄文時代前期土器について」『稲荷丸北遺跡』稲荷丸北遺跡調査団
樋口昇一　1983 『長野県史　考古資料編　全一巻(三)　主要遺跡（中信）』長野県史刊行会
藤本　強　1983 「墓制成立の背景」『縄文文化の研究　９』
丸山公夫　1983 「久森遺跡」『群馬県史　資料編１』
右島和夫　1983 「群馬県における初期横穴式石室」『古文化談叢』
綿貫綾子　1983 「出土土器の分類と編年」『有馬条里遺跡』渋川市教育委員会
北海道埋蔵文化財センター　1983～84 『湯の里遺跡群』
上野佳也　1984 「配石遺構についての一考察」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第３号
関根慎二・谷藤保彦・新井悦子　1984 「群馬県における縄文時代前期の土器研究(1)」
能登　健　1984 「山棲み集落の探求」『熊倉遺跡』六合村教育委員会
水野正好　1984 「ストーンサークルの意義」『季刊考古学』第９号
石坂　茂・藤巻幸男　1985 「加曽利Ｅ式土器について」『荒砥前原遺跡　赤石城址』群馬県埋蔵文化財調査事業団
石坂　茂　1985 『荒砥二之堰遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
上野佳也　1985 「縄文時代配石遺構の研究」『日本先史時代の精神文化』
江坂輝彌　1985 「配石遺構とは」『考古学ジャーナル』№254
黒岩文夫・富澤敏弘　1985 『中棚遺跡』昭和村教育委員会

斎藤　忠　1985「配石遺構―特に環状列石について―」『考古学ジャーナル」No.254
斎藤幸恵　1985「黒曜石の利用と流通」『季刊考古学』第12号
鈴木次郎　1985「石斧の大量生産」『季刊考古学』第12号
鈴木正男　1985「黒曜石研究の現状と課題―関東・中部地方の事例を中心に―」『考古学ジャーナル』No.244
鳥羽政之　1985『見立溜井・見立大久保遺跡』赤城村教育委員会
中之条町教育委員会　1985「久森環状列石遺跡」『上沢渡遺跡群』
新津　健　1985「中部地方の配石遺構」『考古学ジャーナル』No.254
能登　健・洞口正史・小島敦子　1985「山棲み集落の出現とその背景」『信濃』37-4
野村　崇　1985「東北北部と北海道の配石遺構―近年の発掘調査を中心として―」『考古学ジャーナル』No.254
柳澤清一　1985「加曾利Ｅ式土器の細別と呼称(前篇)」『古代　第80号　西村正衛先生古稀記念　石器時代論集』早稲田大学考古学会
山本暉久　1985「縄文時代の廃屋葬」『古代　第80号西村正衛先生古稀記念　石器時代論集』早稲田大学考古学会
新井和之　1986「文様系統論―関山式土器―」『季刊考古学』17　雄山閣
岩崎泰一　1986『下触牛伏遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
上河内町教育委員会　1986『古宿遺跡』
小薬一夫・小島正裕　1986「分銅形」打製石斧の系譜（覚書)」『東京考古』4
坂口　一　1986「古墳時代後期の土器の編年」『群馬文化』28
坂口　一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究』24
下村克彦　1986「施文原体の変遷―羽状縄文系土器―」『季刊考古学』17　雄山閣
鈴木保彦　1986「続配石墓の研究」『神奈川考古』第22号
関根慎二・谷藤保彦　1986『糸井宮前遺跡II』群馬県埋蔵文化財調査事業団
奈良泰史　1986「牛石遺跡」『都留市史　資料編　地史・考古』
柳澤清一　1986「加曾利Ｅ式土器の細別と呼称（中篇)」『古代　第82号直良信夫先生追悼号』早稲田大学考古学会
綿貫邦男　1986「成果と課題」『鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ・区』群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団
飯田市教育委員会　1987『殿原遺跡』
子持村教育委員会　1987『押出遺跡発掘調査概報』
桜岡正信　1987「古墳時代中期～奈良・平安時代の遺物」『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)』群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団
桜岡正信　1987「古墳時代（中期）～平安時代の遺構」『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)』群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団
渋川市教育委員会・群馬県企業局・日本道路公団　1987「出土石器」『行幸田山遺跡　本文編　Ｉ』
白石典之　1987「縄文中期的石器」に関する一試論」『行幸田山遺跡　本文編II』渋川市教育委員会・群馬県企業局・日本道路公団
谷藤保彦　1987「北関東地方における「有尾式土器」の変遷」『考古学叢考　下巻』
谷藤保彦・関根慎二・鈴木徳雄　1987『第１回　縄文セミナー　縄文前期の諸問題』群馬県考古学研究所
塚原正典　1987『考古学ライブラリー　49　配石遺構』ニュー・サイエンス社
羽生淳子　1987「諸磯ｂ式土器」『季刊考古学』21　雄山閣
羽生淳子　1987「諸磯ｂ式土器」『季刊考古学』21
益富壽之助　1987『原色岩石図鑑』保育社

村越　潔　1987「北東北の葬制」『よねしろ考古』第３号
山本暉久　1987「敷石住居終焉のもつ意味」『古代文化』第39巻１号・２号・３号・４号
依田治雄・菊池　実・飯塚　聡　1987「縄文時代中期末の環状列石・配石遺構群の調査」『考古学ジャーナル』No.285
石坂　茂　1988『勝保沢中ノ山遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
石坂　茂・藤巻幸男・桜岡正信　1988「加曽利Ｅ式土器に関する一考察」『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団
鬼形芳夫　1988「遺跡の動態と集団関係」『研究紀要』５群馬県埋蔵文化財調査事業団
唐澤保之・前原照子　1988「古代集落の検討」『芳賀東部団地遺跡II』前橋市教育委員会
唐澤保之・前原照子　1988「土器の分類」『芳賀東部団地遺跡II』前橋市教育委員会
小林敏夫　1988「群馬県出土の腰帯具について」『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団
杉山秀宏　1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』８　橿原考古学研究所
鈴木敏昭　1988「諸磯ｂ式からｃ式への土器変遷」『埼玉県立博物館紀要』15
谷藤保彦　1988「北関東における有尾式土器の変遷」『考古学叢考』下巻
埋蔵文化財調査委員会　1988『ヘラソ遺跡発掘調査報告　II』
矢吹俊男　1988「配石遺構」『北海道考古学　６』
山本暉久　1988「中部山地における柄鏡形（敷石）住居の成立をめぐって」『長野県考古学会誌』長野県考古学会
青森山田高等学校考古学研究会　1989『小牧野遺跡発掘調査報告書』
奥野麦生　1989「黒浜式土器の系統性とその変遷」『土曜考古』第13号　土曜考古学研究会
小林達雄・小川忠博編　1989『縄文土器大観』１　小学館
佐々木彰　1989「縄文中期末～後期初頭の配石遺構“遺跡”の成立について」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第７号
鈴木徳雄　1989「諸磯ａ式土器研究史(1)―型式論的研究の基本的問題を探る―」『土曜考古』第13号土曜考古学研究会
大工原豊　1989「縄文時代の石器研究について―石器群研究史を中心として―」『群馬文化』220　群馬県地域文化研究協議会
竹岡俊樹　1989『石器研究法』言叢社
谷口康浩　1989「諸磯式土器様式」『縄文土器大観』１　小学館
長野市立博物館分館　茶臼山自然史館　1989『第４回特別展　いろいろな岩石』
西田正規　1989『ＵＰ考古学選書　13　縄文の生態史観』東京大学出版会
羽生淳子　1989「住居址数からみた遺跡の規模」『考古学の世界』新人物往来社
三春町教育委員会　1989『シンポジウム　縄文の配石と集落』
山梨県教育委員会　1989『金生遺跡　II（縄文時代編）』
井野誠一　1990『芳賀東部団地遺跡III』前橋市教育委員会
葛西　励・高橋　潤　1990『青森市小牧野遺跡調査報告』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990『田篠中原遺跡』
駒ヶ根町教育委員会　1990「小林遺跡」『反目・遊光・殿村・小林遺跡』
埼玉考古学会　1990「シンポジウム　大木・有尾・そして黒浜」『埼玉考古』別冊３埼玉考古学会
千田茂雄・大工原豊　1990『榎木畑遺跡』安中市教育委員会
大工原豊　1990『中野谷地区遺跡群発掘調査概報』２　安中市教育委員会

大工原豊・千田茂雄　1990 『三本木遺跡・落合遺跡』安中市教育委員会
田口　修　1990 『松井田工業団地遺跡群』松井田町教育委員会・群馬県企業局
前原　豊他　1990 『芳賀東部団地遺跡』III　前橋市教育委員会
山崎雅浩　1990 「縄文時代の領域に関する小考―円から不整へ―」『神奈川考古』第26号
山梨県考古学協会　1990 『シンポジウム「縄文時代屋外配石の変遷―地域的特色とその画期―」』
石川克博　1991 「律令体制と上野国」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
石川克博　1991 「奈良時代の上野国司」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
石川克博　1991 「上野国府と郡衙」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
一戸町教育委員会　1991 『御所野遺跡』
井上唯雄　1991 「上野国の手工業」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
井上唯雄　1991 「製鉄業」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
井上唯雄　1991 「集落の構成と生活」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
井上唯雄　1991 「集落の構成」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
井上唯雄　1991 「集落の出土遺物」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
大江正行　1991 「窯業」『群馬県史』通史編２・原始古代２　群馬県
加藤晋平・鶴丸俊明　1991 『石器入門辞典「先土器」』柏書房
金井京子　1991 「新寺地区遺跡群における古墳時代～奈良・平安時代の土器群の変遷について」『新寺地区遺跡群』安中市教育委員会
鈴木道之助　1991 『石器入門辞典「縄文」』柏書房
鈴木保彦　1991 「第二の道具としての石皿」『縄文時代』５　縄文時代文化研究会
千田茂雄　1991 『嶺・下原遺跡』安中市教育委員会
大工原豊　1991 『新寺地区遺跡群』安中市教育委員会
滝沢村教育委員会　1991 『湯舟沢II遺跡』
津金澤吉茂　1991 「古代の墓制」『群馬県史』通史編２　群馬県
鳥羽政之　1991 「縄文時代前期中葉土器群の編年と地域性」『埼玉考古』28
林　謙作　1991 「大湯環状列石の配石墓(1)」『よねしろ考古』第７号
原　雅信　1991 「群馬県における縄文時代前期の住居形態について」『研究紀要』８　群馬県埋蔵文化財調査事業団
McArdle, W.D.・Katch, F.I. and Katch, V.L.・田口貞善・矢部京之助・宮村実春・福永哲夫監訳　1992 『運動生理学　エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス』
安中市教育委員会　1992 『安中市の遺跡―市内詳細分布調査報告書―』
市毛美津子　1992 「凸多面体磨き石」について」『古代』第94号　早稲田大学考古学会
木村　收　1992 「群馬県における縄文前期後半の居住形態」『研究紀要』10　群馬県埋蔵文化財調査事業団
小杉　康　1992 「縄文時代・道具の組合わせ・前期」『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会
滝沢村教育委員会　1992　第19集 『湯舟沢II遺跡』（第２分冊）
橋本恵美子　1992 「「埋甕」にみる動態について―縄文時代中期後半の遺跡の検討から―」『古代』第94号　早稲田大学考古学会
柳澤清一　1992 「加曾利Ｅ（新）式編年研究の現在」『古代』第94号　早稲田大学考古学会
山内　昶　1992 『経済人類学の体位法』世界書院
山本孝司　1992 「加曾利Ｅ３－４式と曾利Ｖ式について―神奈川県新戸遺跡出土資料を再検討して―」『古代』第94号　早稲田大学考古学会

青森市教育委員会　1993　第20集　『小牧野遺跡発掘調査概報』
一戸町教育委員会　1993　『御所野遺跡　Ⅰ』
金山喜昭　1993　「縄文時代前期における黒曜石交易の出現」『法政考古学』第20集　法政考古学会
可児通宏　1993　「縄文時代のセトルメント・システム」『季刊考古学』44　雄山閣
千田茂雄　1993　『九十九川沿岸遺跡群』3　安中市教育委員会
大工原豊・関根慎二・金井京子他　1993　『大下原遺跡・吉田原遺跡』安中市教育委員会
大工原豊・関根慎二・麻生敏隆・中島　誠　1993　『大下原遺跡・吉田原遺跡』安中市教育委員会
谷口康浩　1993　「セトルメント・システム論」『季刊考古学』44　雄山閣
谷藤保彦・関根慎二　1993　『縄文前期終末の諸様相』縄文セミナーの会
栃木県立博物館　1993　『選ぶ・割る・磨く』
林　謙作　1993　「大湯環状列石の配石墓(2)」『よねしろ考古』第8号
羽生淳子　1993ｂ　「集落の大きさと居住形態」『季刊考古学』44　雄山閣
安中市教育委員会　1994　『中野谷地区遺跡群―本文編―』
石井　寛　1994　「縄文後期集落の構成に関する一試論―関東地方西部域を中心に―」『縄文時代』5　縄文時代文化研究会
キーリ C.T・武藤康弘　1994　「縄文時代の年代」『縄文文化の研究』1
小林達雄　1994　『縄文土器の研究』小学館
佐原　真　1994　『ＵＰ考古学選書　6　斧の文化史』東京大学出版会
鈴木徳雄　1994　「諸磯ａ式の文様帯と施文域」『縄文時代』5　縄文時代文化研究会
山内　昶　1994　『経済人類学への招待』ちくま新書
大工原豊　1994ａ　『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会
大工原豊　1994ｂ　「石器石材からみた縄文人の活動領域」『安中教育』35　安中市教育委員会
青森市教育委員会　1995　『小牧野遺跡』
安藤文一　1995　「翡翠」『縄文文化の研究』8　雄山閣
上野佳也　1995　「縄文時代の環状遺跡について」『大正大学大学院研究論集　第19号』
小田静夫　1995　「黒曜石」『縄文文化の研究』8　雄山閣
桐原　健　　1995　「縄文人の聖地・聖域」『東アジアの古代文化』第85号
小杉　康　1995　「縄文時代後半期における大規模配石記念物の成立」
小林達雄編　1995　『季刊考古学・別冊　6　縄文時代における自然の社会化』雄山閣
佐藤正彦・熊谷　賢　1995　「海辺の配石遺構」『季刊考古学』第50号
関根慎二　1995　「諸磯ｃ式土器以前」『研究紀要』群馬県埋蔵文化財調査事業団
千田茂雄　1995　『荒神平・吹上遺跡』安中市教育委員会
大工原豊　1995　「群馬県天神原遺跡」『縄文時代における自然の社会化』小林達夫編　季刊考古学・別冊6
大工原豊　1995　「配石墓と環状列石」『信濃』第47巻第4号
大工原豊・林　克彦　1995　「配石墓と環状列石」『信濃』47-4　信濃史学会
大工原豊　1995　「群馬県天神原遺跡」『縄文時代における自然の社会化』小林達雄編　季刊考古学別冊6　雄山閣
大工原豊・林　克彦　1995　「配石墓と環状列石」『信濃』47-4　信濃史学会
谷井　彪・細田　勝　1995　「関東の大木式・東北の加曽利Ｅ式土器」『日本考古学』2　日本考古学協会
富樫泰時　1995　「縄文時代の天体観測予測」『東アジアの古代文化』第82号
函館市教育委員会　1995　『石倉貝塚　Ⅰ』

武藤康弘　1995「民族誌からみた縄文時代の竪穴住居」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』6　帝京大学山梨文化財研究所
青森市教育委員会　1996　第30集『小牧野遺跡発掘調査報告書』
安藤文一　1996「西丹沢山麓の縄文集落と柄鏡形（敷石）住居址」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』資料集』神奈川県立埋蔵文化財センター・財団法人　かながわ考古学財団
石井　寛　1996「縄文中期最終末期以降の集落と住居址ー横浜市港北ニュータウン地域を例にー」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』資料集』神奈川県立埋蔵文化財センター・財団法人　かながわ考古学財団
小林謙一　1996「竪穴住居跡ライフサイクルからみた住居廃絶時の状況ー南関東の第10回縄文セミナー縄文中期集落での遺物出土状態を中心にー」『すまいの考古学』山梨県考古学協会
鈴木徳雄　1996「諸磯ｂ式の変化と型式間交渉ー文様変化の継起的累積性と型式間関係の諸相ー」『縄文時代』7　縄文時代文化研究会
千田茂雄　1996『北原遺跡・上久保遺跡』安中市教育委員会
大工原豊　1996「縄文時代　石器」『考古学雑誌』82-2
大工原豊　1996「石器」『考古学雑誌』第82巻第2号
地学団体研究会　1996『新版　地学事典』平凡社
千葉とき子・斎藤靖二　1996『かわらの小石の図鑑』東海大学出版会
中野昭一・竹宮　隆編　1996『運動生理学シリーズ　運動とエネルギーの科学』杏林書院
函館市教育委員会　1996『石倉貝塚　II』
古屋敷則雄　1996「環状土壙群・列石の方位と配置の規則制について」『動物考古学』第六号
町田勝則　1996「石器の研究法」『長野県の考古学』㈶長野県埋蔵文化財センター
諸戸靖史　1996「土木工学より見た環状列石に関する所見」『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市教育委員会
山口逸弘他　1996『黒熊八幡遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
山本暉久　1996「柄鏡形（敷石）住居と石棒祭祀」『縄文時代』7　縄文時代文化研究会
山本暉久　1996「敷石住居址研究の現状と課題」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』資料集』神奈川県立埋蔵文化財センター・財団法人　かながわ考古学財団
青森市教育委員会　1997　第35集『小牧野遺跡発掘調査報告書　II』
秋田県埋蔵文化財センター　1997『伊勢堂岱遺跡現地説明会資料』
麻生敏隆　1997「石器石材の流通とその背景」『石器石材II－北関東の原石とその流通を中心として－予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
安藤文一　1997「西丹沢山麓の縄文集落と柄鏡形（敷石）住居址」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』記録集』神奈川県立埋蔵文化財センター・㈶かながわ考古学財団
石井　寛　1997「縄文中期最終末期以降の集落と住居址ー横浜市港北ニュータウン地域を例にー」『パネルディスカッション敷石住居の謎に迫る』記録集』神奈川県立埋蔵文化財センター・㈶かながわ考古学財団
井上慎也　1997「北関東の石器石材とその流通」『石器石材II－北関東の原石とその流通を中心として－予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
遠藤正夫　1997「青森県小牧野遺跡ーその掘削・整地・配石作業ー」『考古学ジャーナル』412
小野一之他　1997『南蛇井増光寺遺跡』V　群馬県埋蔵文化財調査事業団
香川　綾監修　1997『四訂　食品成分表』女子栄養学部出版
軽部達也・中島　誠　1997「群馬県下における石器石材の流通」『石器石材II－北関東の原石とその流通を中心として－予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会

菊地　真　1997「遺跡立地の環境考古学的研究とその展望」『史学研究集録』第22号
菅原明子　1997『食品成分表ハンドブック』池田書店
鈴木徳雄　1997「縄紋前期の石製研磨具」『群馬考古学手帳』7　群馬土器観会
須田良平・山田晃弘・曾田容弘　1997「珪質頁岩を中心とした東北地方の石器石材の様相」『石器石材II―北関東の原石とその流通を中心として―予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
須藤隆司　1997「八風山黒色安山岩原産地遺跡のあり方と鏑川流域遺跡群の原石消費」『石器石材II―北関東の原石とその流通を中心として―予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
大工原　豊　1997「縄文時代の石器研究の方法」『遺跡・遺物から何を読みとるか(1)資料集』
谷藤保彦他　1997『前期中葉の諸様相』第10回縄文セミナーの会
富樫泰時　1997「配石の遺構」『季刊考古学』第59号
長岡文紀　1997「㈶かながわ考古学財団の最近の調査例から」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』記録集』神奈川県立埋蔵文化財センター・㈶かながわ考古学財団
日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会　1997『縄文時代の集落と環状列石―シンポジウム　I・資料集―』
右島和夫・小野和之・大工原豊・若狭　徹　1997「碓氷川流域における横穴式石室の受容」『日本考古学協会第63回総会研究　発表要旨』
村越　潔　1997「三内丸山遺跡と縄文集落」『考古学ジャーナル』419
山本暉久　1997「敷石住居址研究の現状と課題」『パネルディスカッション『敷石住居の謎に迫る』記録集』神奈川県立埋蔵文化財センター・㈶かながわ考古学財団
山本暉久　1997「関東地方の縄文時代墓地」『考古学ジャーナル』422
早稲田大学文学部考古学研究室　1997『館石野I遺跡発掘調査報告書』
渡辺清志　1997「東北地方北半における配石墓の成立と展開（上）」『古代文化』第49巻第2号
渡辺清志　1997「東北地方北半における配石墓の成立と展開（下）」『古代文化』第49巻第3号
大工原豊　1997a「縄文時代の石器研究の方法」『遺跡・遺物から何を読みとるか（I）』帝京大学山梨文化財研究所
M.-L.Inizan・H.Roche・J.Tixier　1998『石器研究入門』クバプロ
青森市教育委員会　1998　第40集『小牧野遺跡発掘調査報告書　III』
安中市教育委員会　1998『中野谷松原遺跡』
石井　寛　1998「柄鏡形住居址・敷石住居址の成立と展開に関する一考察」『縄文時代』9　縄文時代文化研究会
梅澤重昭他　1998「石材の流通と考古学」『上州路』
金山喜昭　1998「集落間の交流と交易」『季刊考古学』64　雄山閣
鈴木俊成　1998「新潟県の縄文時代石器組成―新潟県の縄文時代早期から晩期について―」『新潟考古学談話会会報』第18号新潟考古学談話会
大工原豊・千田茂雄　1998「安中市における発掘調査」『群馬歴史散歩』150　群馬歴史散歩の会
角田真也　1998「細形石棒の研究」『國學院大學考古学資料館紀要』第14輯
松田光太郎　1998「東関東における縄文前期後半の浅鉢形土器に関する考察　―浮島・興津式土器に属する浅鉢形土器を対象として―」『神奈川考古』34
山梨県　1998『山梨県史　資料編1　原始・古代1』
青森市教育委員会　1999　第45集『小牧野遺跡発掘調査報告書　IV』
青森市教育委員会　1999　第50集『小牧野遺跡発掘調査報告書　V』

秋池　武　1999「関東地方点紋緑泥岩の分布と利用について―縄文時代石棒等石材産地の検討--」『群馬県立歴史博物館紀要』第20号
関根慎二　1999「群馬県における諸磯ｂ式土器の細分」『第一二回縄文セミナー　前期後半の再検討―記録集―』縄文セミナーの会
千田茂雄　1999『嶺・下原II遺跡』安中市教育委員会
山梨県　1999『山梨県史　資料編２　原始・古代２』
児玉大成　1999ａ「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』11　青森県考古学会
池谷勝典　2000「打製石斧研究序論」『東京考古』18
角張淳一　2000「続・石器研究についての感想」『東京考古』18
外山和夫　2000「群馬県立歴史博物館所蔵・管理の土版・岩版類」『群馬県立歴史博物館紀要』第21号
松村和男　2000「結晶片岩製扁平棒状石器」について」『土曜考古』第24号
山本暉久　2000「外縁部の柄鏡形（敷石）住居」『縄文時代』11　縄文時代文化研究会
安中市　2001『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』
石坂　茂・大工原豊　2001「群馬県における縄文時代集落の諸様相」『縄文時代文化研究会　第１回研究集会基礎資料集』
大工原豊　2001「縄文時代前期における黒曜石流通の転換―群馬から山梨へ―」『山梨県考古学協会誌』第12号　山梨県考古学協会
大沼克彦　2002『文化としての石器づくり』学生社
大工原豊　2002「南関東における縄文前期後半期の黒曜石石器群の流通」『國學院大學考古学資料館紀要』第18輯
鹿角市教育委員会　1985～96『特別史跡　大湯環状列石発掘調査報告書(1)～(12)』
池田知幸『登山の運動量」『岳人』No.53　1952
笹沢　浩「阿久遺跡」『長野県史　考古資料編　全一巻(三)』
瀬川裕一郎「史跡　上白岩遺跡」『静岡県史　資料編１　考古１』
森嶋　稔「幅田遺跡」『長野県史　考古資料編全一巻(二)』

発掘調査抄録

ふりがな	ひがしかみあきまいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	東上秋間遺跡群発掘調査報告書
副書名	ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社安中榛名駅周辺住宅開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄　井上慎也　津金沢吉茂　関根慎二　角張淳一　高沢周示　鬼形敦子　伊藤佳奈子
編集機関	安中市教育委員会
編集期間所在地	379―0192　群馬県安中市安中一丁目23―13
発行年	西暦2003年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
野村遺跡	安中市東上秋間字野村	102113	Ｂ―５	36°21′14″	138°51′27″	19960401 ～ 19980330	28,000 （２面調査）	ＪＲ東日本安中榛名駅周辺住宅開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
野村Ⅱ遺跡	安中市東上秋間字野村		Ｂ―11	36°21′14″	138°51′27″	19990701 ～ 20000330	5,000	
北原古墳	安中市東上秋間字北原		Ｂ―９	36°21′15″	138°51′07″	19960401 ～ 19970330		
北川古墳	安中市東上秋間字北川		Ｂ―６	36°21′19″	138°51′14″	19960401 ～ 19970330		
北原Ⅱ遺跡	安中市東上秋間字北原		Ｂ―７	36°21′15″	138°51′07″	19960401 ～ 19970330	6,000	
内出城址	安中市東上秋間字上馬場		Ｂ―８	36°21′08″	138°51′09″	19960401 ～ 19970330	85,000	
馬舟さま	安中市東上秋間字野村		Ｂ―５	36°21′17″	138°51′27″	19960401 ～ 19970330		

東上秋間遺跡群発掘調査報告書

―― ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社安中榛名駅周辺住宅
開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

発　行　日　平成15年２月28日

編集・発行　安中市教育委員会
群馬県安中市安中一丁目23―13

印　　刷　朝日印刷工業株式会社